

科目名	スポーツ科学実習Ⅰ	科目名（英文）	Practicum in Sports ScienceⅠ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	瀬川 智広,小寺 亮太,關 修人,竹澤 健介,渡部 将之
ディプロマポリシー（DP）	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH1330a1		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 SDGs-3、4、5																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップ、リーダーを支援する能力を培うことができるようになることが期待される。（DP1）																																																																		
授業方法と留意点	実技形式で行う。 開講種目は、以下のとおりである。 ・屋内種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※1 各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。 ※2 第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。 ※3 悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。																																																																		
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。																																																																		
授業計画	<table> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> <tr> <td>1</td><td>・ガイダンス</td><td>・履修上の注意やコース種目分け</td><td>事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>・体力測定①</td><td>・屋外種目</td><td>事前：運動を行い体力測定に備える（30分） 事後：自身の体力についての振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>・体力測定②</td><td>・屋内種目</td><td>事前：運動を行い体力測定に備える（30分） 事後：自身の体力についての振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>・種目の概要 ・基礎知識について</td><td>・種目の概要、基礎知識の説明</td><td>事前：基礎知識を学習しておく（30分） 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る（30分）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム</td><td>・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：ルールについて学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>・基本技術（基礎編1） ・簡易ゲーム</td><td>・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：基礎技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>・基本技術（基礎編2） ・簡易ゲーム</td><td>・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：基礎技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>・基本技術（応用編1） ・簡易ゲーム</td><td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>・基本技術（応用編2） ・簡易ゲーム</td><td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：全授業の総括（30分）</td></tr> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	・ガイダンス	・履修上の注意やコース種目分け	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）	2	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える（30分） 事後：自身の体力についての振り返り（30分）	3	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える（30分） 事後：自身の体力についての振り返り（30分）	4	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく（30分） 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る（30分）	5	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	6	・基本技術（基礎編1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	7	・基本技術（基礎編2） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	8	・基本技術（応用編1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	9	・基本技術（応用編2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：全授業の総括（30分）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	・ガイダンス	・履修上の注意やコース種目分け	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）																																																																
2	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える（30分） 事後：自身の体力についての振り返り（30分）																																																																
3	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える（30分） 事後：自身の体力についての振り返り（30分）																																																																
4	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく（30分） 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る（30分）																																																																
5	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
6	・基本技術（基礎編1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
7	・基本技術（基礎編2） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
8	・基本技術（応用編1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
9	・基本技術（応用編2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：全授業の総括（30分）																																																																
関連科目	生涯スポーツ実習、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際																																																																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	対面授業：活動点50％、技能点25％、態度点25％ ※ なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。																																																																		
学生へのメッセージ	授業1回目（ガイダンス）は、総合体育館2階アリーナに集合してください。（更衣不要） 実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。（コピー不可）																																																																		

担当者の 研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）を準備する

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名（英文）	Practicum in Sports Science II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	瀬川 智広、鈴木 雄太、關 修人、竹澤 健介、渡部 将之
ディプロマポリシー（DP）	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH1331a1		

授業概要・目的	本科目では、スポーツ科学実習Ⅰaで培った基礎的な技術に応用し、高度なスポーツ技術の獲得を目指す。またスポーツを通じてさらなる人間力の向上を目指し、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップ、リーダーを支援する能力を培うことができるようになることが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	実技形式で行う。 開講種目は、以下のとおりである。 ・屋内種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※1 各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。 ※2 第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。 ※3 悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。																																																																		
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。																																																																		
授業計画	<table> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> <tr> <td>1</td><td>・ガイダンス</td><td>・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）</td><td>事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>・種目の概要 ・基礎知識について</td><td>・種目の概要、基礎知識の説明</td><td>事前：基礎知識を学習しておく（30分） 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る（30分）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム</td><td>・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：ルールについて学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>・基本技術（基礎編1） ・簡易ゲーム</td><td>・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：基礎技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>・基本技術（基礎編2） ・簡易ゲーム</td><td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術に応用した運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：基礎技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>・基本技術（応用編1） ・簡易ゲーム</td><td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術に応用した運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>・基本技術（応用編2） ・簡易ゲーム</td><td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術に応用した運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>・ゲーム ・2年次ガイダンス等</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・2年次ガイダンス等を行う</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：全授業の総括（30分）</td></tr> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	・ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）	2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく（30分） 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る（30分）	3	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	4	・基本技術（基礎編1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	5	・基本技術（基礎編2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術に応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	6	・基本技術（応用編1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術に応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	7	・基本技術（応用編2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術に応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	15	・ゲーム ・2年次ガイダンス等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・2年次ガイダンス等を行う	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：全授業の総括（30分）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	・ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）																																																																
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく（30分） 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る（30分）																																																																
3	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
4	・基本技術（基礎編1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
5	・基本技術（基礎編2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術に応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
6	・基本技術（応用編1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術に応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
7	・基本技術（応用編2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術に応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
15	・ゲーム ・2年次ガイダンス等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・2年次ガイダンス等を行う	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：全授業の総括（30分）																																																																
関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際																																																																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	対面授業：活動点50％、技能点25％、態度点25％ ※ なお、活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。																																																																		
学生への	授業1回目（ガイダンス）は、総合体育館2階アリーナに集合してください。（更衣不要）																																																																		

メッセージ	実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。（コピー不可）
担当者の 研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）を準備する

科目名	法学概論	科目名（英文）	Jurisprudence
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1001a0		

授業概要・目的	・法は、多様な人々が共同生活を営むための相互尊重のルールであり、我々の生活を豊かにするための制度である。 ・このような法の特色と目的を踏まえつつ、現代社会の中で生じている紛争に対して、法がどのような役割を果たし、かつ、いかに争いごとを解決しているかについて、個別の法領域ごとに具体的な事件を参照しながら理解することを主な目標とする。
到達目標	この講義を通じて学生には、 ・「法」と「道徳＝倫理」の違いや法令の種類について説明できる ・婚約、婚姻、内縁、離婚、相続をめぐる論点について説明できる ・民法の財産法や刑事法の諸原理について説明ができる ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICT ツールとして Microsoft 社の teams を用いる。 ・課題提示や資料配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。
科目学習の効果（資格）	・公務員試験や各種資格試験に必要とされる法学の基礎的知識を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 法とは何か	・講義内容と文献の紹介 ・法と道徳の違い ・法の強制力 ・法の分類	・教科書の入手 - 配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	2	憲法と法律（法令の種類）	・法治国家と法の支配 ・国際社会と法	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	3	民法法①（不法行為法①）	学校における「いじめ」問題と法の役割	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	4	労働法①	・ブラック企業問題と労働者保護	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	5	刑事法①	・裁判員裁判の仕組みとその問題点 ・悪質動画貼り付けと器物損壊および偽計業務妨害罪 ・闇バイトを通じた犯罪関与	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	6	刑事法②	・犯罪の成立要件 ・・ ストーカー行為規制法の最前線	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	7	労働法②	・採用内定と法的規制 ・正規雇用と非正規雇用	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	8	民法法②（家族法①）	・家族の範囲	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	9	民法法③（家族法②）	・家族法の基本原理 ・婚約の法的効果ほか ・婚姻（結婚）の法的要件・効果 ・夫婦の財産関係	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	10	民法法④（家族法③）	・離婚の法的効果	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	11	民法法⑤（家族法④）	・離婚の手続き・親子関係と親権	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	12	民法法⑥（不法行為法②）	・各種ハラスメントと法 ・不法行為と損害賠償	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	13	民法法⑦（財産法①）	・賃貸住宅をめぐるトラブルー敷金と敷引特約	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	14	民法法⑧（財産法②）	・被災と住宅ローン減免の可否	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	15	刑事法③＋行政法＋民法法⑨	・ドメスティック・バイオレンス（DV）とデート DV	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）

関連科目	日本国憲法、行政法、刑法、民法、国際法ほか
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新入生のためのリーガル・トピック 50	阿部昌樹・ 和田仁孝	法律文化社
	2			
	3			

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	法学入門（第6版補訂版）（有斐閣双書）	末川 博/編著	有斐閣
	2	現代法学入門（第4版）（有斐閣双書）	伊藤 正己＝加藤一郎/編著	有斐閣
	3	判例法学（第5版）	西村 健一郎＝西井 正弘＝初宿 正典/編著	有斐閣
評価方法 （基準）	・形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft forms から課題を配信する。各回の課題の得点を合算して評価対象とする（講義の理解度 5%＋課題の得点 95%）。定期試験は実施しない。			
学生への メッセージ	・法律系の番組が好きな方、あるいは、公務員試験受験や法学系資格取得を念頭に置いている方は、ぜひ受講してみてください。			
担当者の 研究室等	11 号館 10 階 小野教授室			
備考	この科目は再履修クラスです。新入生は履修できません。 本講義は、オンデマンド動画配信による授業を数回程度行うことがあります。 オンデマンド動画配信による授業の際には、事前に teams の授業チャネルで告知するとともに、teams アプリより通知をします。			

科目名	法哲学総論	科目名（英文）	Philosophy of Law (General Theories)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松島 裕一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3002a0		

授業概要・目的	法哲学とは、その名の通り、法を哲学的に考察する学問分野です。「哲学」という言葉の響きに嫌悪感や苦手意識を持っている学生がいるかもしれませんが、「哲学的に考察する」とは、言い方を換えれば、「物事を批判的に考えてみる」ことにほかなりません。 したがってこの講義では、法や正義にまつわるさまざまな問題を、条文や判例にとらわれずに——そして可能なかぎり哲学の難しい専門用語を使わずに——批判的に考えてみたいと思います。
到達目標	この授業を通じて学生には、現代社会のさまざまな問題点を正確に理解し、さらにそれらの問題に対して自分の見解を論理的に組み立てられるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	毎回配布するレジュメ（パワポ）に従って、講義を行う。オンデマンド授業とは異なり、対面の授業では可能なかぎりグループワークやディスカッションの機会を設けるつもりである。
科目学習の効果（資格）	法学検定試験や公務員試験などの教養問題に一部対応しています。また、法哲学で扱われるテーマは法科大学院入学試験の小論文（未修者コース）の素材となることが多いので、法科大学院の受験を検討している学生には受講を強く推奨します。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	法哲学とは？	授業の進め方や成績評価の方法などを説明したあと、これから学習していく「法哲学」がどのような科目なのか、なぜ法学部で法哲学を学ぶ必要があるのかを簡単に解説します。	授業開始前にレジュメで予習に取り組んでください。授業終了後に、レジュメを見直してください。また、憲法や民法などの実定法学との違いを意識しながら、「法哲学」という科目の特徴を説明できるようになること(事前・事後とも各 120 分)。
	2	人工生殖とその法規制	科学技術の進展とともに人工生殖技術も劇的に発展しています。近年代理母やクローンが社会問題になっていますが、これらは全面的に禁止されるべきでしょうか？	授業開始前にレジュメで予習に取り組んでください。授業終了後に、レジュメを見直してください。また、J・S・ミルの「他者危害原理」という考え方を理解したうえで、代理母の是非について自分の見解を述べられるようになること(事前・事後とも各 120 分)。
	3	死をめぐる自己決定	自分の所有物は自分の意思で自由に処分できるのが原則です。しかし、自分の命を自由に処分することは許されるでしょうか？ 例えば、人間には自殺する自由があるのでしょうか？	授業開始前にレジュメで予習に取り組んでください。授業終了後に、レジュメを見直してください。また、リバタリアンの自己所有権という考え方を理解したうえで、臓器売買の是非について自分の見解を述べられるようになること(事前・事後とも各 120 分)。
	4	パターナリズム	他人に迷惑を掛けなければ自分の身体を自由に使用してもよいのでしょうか？ 例えば、当事者の自由意思に基づく売春や麻薬使用は禁止されるべきことなのでしょうか？	授業開始前にレジュメで予習に取り組んでください。授業終了後に、レジュメを見直してください。また、パターリズムという考え方を理解したうえで、シートベルト着用義務の是非について自分の見解を述べられるようになること(事前・事後とも各 120 分)。
	5	表現の自由	近年ヘイトスピーチが日本でも問題になっており、その法規制をめぐる賛否両論があります。はたして日本でもヘイトスピーチ規正法は必要でしょうか？ またそれは本当に有効なのでしょうか？	授業開始前にレジュメで予習に取り組んでください。授業終了後に、レジュメを見直してください。また、「表現の自由の優越的地位」という考え方を理解したうえで、ヘイトスピーチ規正法の必要性について自分の見解が述べられるようになること(事前・事後とも各 120 分)。
	6	死刑制度	日本では死刑制度が存置されていますが、世界的に見れば死刑廃止国が増加しています。死刑制度は本当に必要でしょうか？ 必要だとすればそれはなぜでしょうか？	授業開始前にレジュメで予習に取り組んでください。授業終了後に、レジュメを見直してください。また、死刑に対するベッカリーアやカントらの考え方を理解したうえで、ヘイトスピーチ規正法の必要性について自分の見解を述べられるようになること(事前・事後とも各 120 分)。
	7	動物の権利	動物はペットとして人間によって保護されていますが、他方で、医学の実験などにおいてはその命を利用されています。そもそも人間にとって動物はいかなる存在なのでしょうか？	授業開始前にレジュメで予習に取り組んでください。授業終了後に、レジュメを見直してください。また、苦痛に対するシンガーの考え方を理解したうえで、医学のための動物実験の是非について自分の見解を述べられるようになること(事前・事後とも各 120 分)。
	8	格差社会における平等	近年日本では貧富の差が拡大しており、格差社会という語がキーワードになっています。はたして、国家はこうした格差を是正する必要があるでしょうか、それとも各人の努力にゆだねるべきでしょうか？	授業開始前にレジュメで予習に取り組んでください。授業終了後に、レジュメを見直してください。また、積極的差別是正措置の問題点を理解したうえで、日本への導入の可否について自分の見解を述べられるようになること(事前・事後とも各 120 分)。
	9	国境を超える正義	日本は世界でも有数の豊かな国ですが、貧困に苦しむ国も世界には数多くあります。日本は貧困国を援助する義務があるでしょうか？ 義務があるとすれば、それはなぜでしょうか？	授業開始前にレジュメで予習に取り組んでください。授業終了後に、レジュメを見直してください。また、国際援助に対するロールズやポグゲラの考え方を理解したうえで、日本の ODA の在り方について自分の見解を述べられるようになること(事前・事後とも各 120 分)。
	10	文化の相違を超えて	世界の国々には他国の人々にはなかなか理解しがたいさまざまな風習があります。例えば、アフリカには女子割礼の風習がありますが、その風習を他国の人々が批判することは許されるのでしょうか？	授業開始前にレジュメで予習に取り組んでください。授業終了後に、レジュメを見直してください。また、人権の基礎づけをめぐるさまざまな言説を理解したうえで、多文化への批判の在り方について自分の見解を述べられるようになること(事前・事後とも各 120 分)。
	11	正義の戦争	世界中を見渡せば、戦争や紛争がいたる	授業開始前にレジュメで予習に取り組んでくださ

			ところで勃発しています。そもそも正しい目的を達するためであれば、戦争という手段も許されるのでしょうか？ 許されるとすれば、それはなぜでしょうか？	い。授業終了後に、レジュメを見直してください。また、「正義の戦争」に対するロールズやウォルツァーの考え方を理解したうえで、いわゆるテロ戦争の是非について自分の見解を述べられるようになること(事前・事後とも各 120 分)。																
	12	戦争責任を問う	日本やドイツは第二次世界大戦で敗戦し、周辺国に多くの被害をもたらしました。しかし、なぜ戦争当事者ではない現世代のひとつとが前世代の犯した戦争責任を償わなければならないのでしょうか？	授業開始前にレジュメで予習に取り組んでください。授業終了後に、レジュメを見直してください。また、アイヒマン裁判の争点を理解したうえで、アイヒマンの責任の有無について自分の見解を述べられるようになること(事前・事後とも各 120 分)。																
	13	監視社会	いたるところに張りめぐらされた防犯カメラに象徴されるように、現代社会は監視社会とも言われます。私たちのプライバシーを侵害するかもしれない防犯カメラの設置は正当化されるのでしょうか？	授業開始前にレジュメで予習に取り組んでください。授業終了後に、レジュメを見直してください。また、フーコーの「規律訓練型権力」という考え方を理解したうえで、街頭の監視カメラ設置の是非について自分の見解を述べられるようになること(事前・事後とも各 120 分)。																
	14	リスク社会	原発問題で明らかになったように、私たちの生活を便利にするものが、他方で私たちの生活を脅かすものに転化する可能性があります。私たちはこうしたリスクにどのように対処すべきでしょうか？	授業開始前にレジュメで予習に取り組んでください。授業終了後に、レジュメを見直してください。また、リスク社会論における「リスク」の考え方を理解したうえで、地球温暖化対策について自分の見解を述べられるようになること(事前・事後とも各 120 分)。																
	15	授業全体のまとめ	これまでの講義で論じてきた事柄を簡単に復習し、法の果たすべき役割について考えてみます(可能であれば、これまでの講義で論じることができなかったトピックを補足説明する予定です)。	これまで講義で取り上げた個々の概念や人物を正確に理解しなおすこと。講義で分かりにくかった箇所を事前にピックアップしておいてください。授業終了後にこれまでのレジュメを見返して復習に努めてください(事前・事後とも各 120 分)。																
関連科目	直接的には法哲学各論、法思想史（西洋法思想史）と関連しますが、それ以外にも広く実定法学（憲法・民法・刑法など）の学習の一助になると思います。																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>問いかける法哲学</td><td>瀧川裕英編</td><td>法律文化社</td></tr><tr><td>2</td><td>あぶない法哲学</td><td>住吉雅美</td><td>講談社現代新書</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	問いかける法哲学	瀧川裕英編	法律文化社	2	あぶない法哲学	住吉雅美	講談社現代新書	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	問いかける法哲学	瀧川裕英編	法律文化社																	
2	あぶない法哲学	住吉雅美	講談社現代新書																	
3																				
評価方法（基準）	期末試験は実施せず、毎回の課題（授業内での課題・発表や授業後の小テスト）100%で評価します。毎回真面目に授業に取り組めば単位取得はそれほど困難ではないかと思いますが、毎回課題を出しますので、履修予定の学生はそのつもりで授業に臨んでください。																			
学生へのメッセージ	この法哲学総論では具体的な問題を取り上げますが、それらに唯一の正解は存在しません。重要なのは答えではなく、それを支える論理です。「法律で決まっているから」や「最高裁判所が判決で言っているから」という回答は法哲学という科目では通用しませんので、そのつもりで受講してください。																			
担当者の研究室等	11 号館 9 階 松島准教授室																			
備考	対面授業ですので、可能なかぎりグループワークやディスカッションを取り入れたいと思いますが、コロナの感染状況によっては、濃厚接触を避けるために、いわゆる通常の講義になるかもしれません。 また、授業の進捗状況および受講生の興味関心によっては、シラバスの内容に変更が生じるかもしれないので（例えば、いくつかのテーマを割愛して、全体でのディスカッションの時間に当てることもありうる）、その点はあらかじめご了承ください。																			

科目名	法哲学各論	科目名 (英文)	Philosophy of Law (Particular Issues)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松島 裕一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3003a0		

授業概要・目的	法哲学とは、その名の通り、法を哲学的に考察する学問分野ですが、より具体的には、「法とは何か」、「法はいかに解釈すべきか」、「何が正義にかなっているか」といった法律学全般にかかわる基礎的な問題を扱う科目です。 この講義では、法哲学の主要部門と見なされている伝統的なテーマ——「法の一般理論」、「法学方法論」、「正義論（法価値論）」——にそくして法哲学の基本的事項を学習するとともに、普段の実定法の学習ではあまり意識されることのない「法（法律学）のあるべき姿」について考えてみたいと思います。
到達目標	この講義を通じて学生には、法哲学の基本事項を理解するとともに、そうした法哲学上の知識を手がかりにして自分の意見を論理的に組み立てられるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	対面授業で行います。授業で使用するレジュメや課題は Microsoft Teams を通じて配布しますので、この授業を受講する学生は必ずチームに加入すること。
科目学習の効果（資格）	法学検定試験や公務員試験などの教養問題に一部対応しています。また、法哲学で扱われるテーマは法科大学院入学試験の小論文（未修者コース）の素材となることが多いので、法科大学院の受験を検討している学生には受講を強く推奨します。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	法哲学とは？	授業の進め方や成績評価の方法などを説明したあと、これから学習していく「法哲学」がどのような科目であるかを簡単に解説します。その際、法哲学の基本的な参考文献を紹介します。	毎回、事前に教科書の該当箇所を読んでください。また、講義終了後に参考文献およびレジュメを見直してください。各回のキーワードを掲げておきますので、事前・事後学習の参考にしてください（各回とも事前学習と事後学習に各 120 分）。
	2	法哲学の来歴	法哲学は、別名、法理学とも呼ばれます。そこで、この二つの名称のちがいに着目して、英米と大陸（ドイツ）における同科目の基本的な相違点と、それが日本に導入された経緯について説明します。	【キーワード】 基礎法学、レヒト（Recht）、正義論（法価値論）、法学方法論、法の一般理論（法概念論）、法哲学（Rechtsphilosophie）、法理学（Jurisprudence）、穂積陳重、尾高朝雄
	3	正義論① 西洋における正義観念	西洋法思想において「正義」（dikaiosyne, iustitia, justice）がどのように理解されていたかを、古代ギリシア・ローマや中世の法思想にさかのぼって概観し、現代正義論の思想史的背景を確認します。	【キーワード】 ニコマコス倫理学、分配的正義、匡正的正義、比例的平等、算術的平等、ウルピアヌス、ユスティティア
	4	正義論② ロールズ『正義論』	現代正義論に多大なインパクトを与えたロールズ『正義論』を学習します。まず彼の基本的なアイデア（原初状態・正と善の区別など）を確認し、そのあとで彼の主張する「正義の二原理」を検討してみます。	【キーワード】 価値相対主義、功利主義、善に対する正義の優先性、無知のヴェール、マクシミンルール、反照的均衡、格差原理、富の再配分
	5	正義論③ リバタリアニズム	ロールズへの批判的主張として、リバタリアニズム（自由至上主義）を取り上げます。この講義では、おもにノージックの主張を検討しながら、課税や刑罰権といった国家の役割について考えてみる予定です。	【キーワード】 無政府資本主義、最小国家論、古典的自由主義、自己所有権テーゼ、労働価値説、超最小国家、最小国家、自生的秩序
	6	正義論④ 共同体主義	ロールズへのもうひとつの批判的主張として、共同体主義を取り上げます。共同体主義の代表的論者の基本的立場や哲学的背景を学習するとともに、それらの学習を通じてロールズ『正義論』のより深い理解を目指します。	【キーワード】 『リベラリズムと正義の境界』、『負荷なき自我』と『位置ある自我』、共通善、美德なき時代、ウォルツァー、テイラー、アリストテレス『政治学』
	7	正義論⑤ 現代正義論への視座	現代正義論を補完する議論として、ハーバーマスの討議倫理、キムリッカの多文化主義、バトラーらのフェミニズムを紹介합니다。これらの議論を知ることによって、現代社会に求められている多様な「正義」について考えてみます。	【キーワード】 コミュニケーション的行為の理論、語用論、手続的正義、フェミニズム（の諸派）、多文化主義と文化相対主義
	8	法学方法論① ハートの司法裁量論	まず、現代の法学方法論の前史として、19 世紀までの法律学の状況を簡単に説明します。そのあとで、H・L・A・ハートが『法の内容』で展開した司法裁量論の概要を説明し、その問題点を検討します。	【キーワード】 概念法学、自由法運動、法的三段論法、分析法理学、司法裁量論、疑わしい半影部分、法の開かれた構造
	9	法学方法論② ドゥウオーキンの法理論	この回ではドゥウオーキンの法解釈にかんする理論を、前回のハートとの対比を通じて学習します。はたして難事件（hard case）においても、唯一の正しい法解釈は存在するのでしょうか？考えてみましょう。	【キーワード】 権利論（Taking Rights Seriously）、ルールと原理、法の帝国（Law's Empire）、内的視点、統合性としての法、原意主義
	10	法学方法論③ ドイツにおける議論の理論	ドイツでは法学方法論をめぐって、さまざまな理論が提唱されています。この講義では、エッサー、クリーレらの法学的ヘルメノイティク、フィーヴェクのトピック論、アレクシーの法的議論の理論を学習します。	【キーワード】 理解の循環構造、実践哲学の復権、体系思考と問題思考、レトリック、発見の過程と正当化の過程、特殊事例テーゼ
	11	法学方法論④ 日本の法解	これまで学習した英米とドイツの解釈	【キーワード】

		釈論争	理論と照らし合わせながら、戦後日本の法学解釈論争を学習します。法解釈とはいかなる作業であるかを検討し、あわせて法律学における「客観性」についても考えてみます。	来栖三郎「わくの理論」、川島武宜「科学としての法律学」、星野英一「利益衡量論」、平井宜雄「法政策学」																
	12	法の一般理論① 自然法論	20 世紀にいたるまでの自然法論の思想的系譜を簡単に振り返ったあとで、ラートブルフの再生自然法論、フラーの「法の内面道徳」、フィンスの新しい自然法論を学習し、自然法論の可能性とその限界を考察します。	【キーワード】 「制定法を超える法」と「制定法の形をした不法」、手続的自然法論、ハート＝フラー論争、トマス・アキナス																
	13	法の一般理論② 法実証主義	代表的な現代の法実証主義者として、ケルゼン、ハート、ラズの三人を取り上げます。彼らの主張と自然法論者の主張とを比較検討することを通じて、「法と道徳」のあり方について考えてみます。	【キーワード】 方法二元論、純粋法学、根本規範、法＝主権者命令説、ルールとしての法、承認のルール、自然法の最小限の内容																
	14	法の一般理論③ 法の三類型モデル	日本を代表する法哲学者である田中成明の「法の三類型モデル」を手がかりにしながら、現代社会における法の変容や、日本社会における「法の支配」の問題などを考察します。	【キーワード】 法の規範的機能と社会的機能、自立型法（普遍主義型法）・管理型法・自治型法、法の支配、司法制度改革																
	15	授業全体のまとめ	これまでの講義で論じてきた事柄を簡単に復習し、「法のあるべき姿」というものについて考えてみます（可能であれば、これまでの講義で論じることができなかったトピックを補足説明する予定です）。	これまで講義で論じてきた個々の概念や人物を正確に理解しなおすとともに、法哲学全体の中でそれらの概念相互の関係性をしっかり把握すること（講義で理解が難しかった箇所を事前にピックアップしておくこと）。																
関連科目	直接的には「法哲学総論」、「法思想史（西洋法思想史）」と関連しますが、それ以外にも広く実定法学（憲法・民法・刑法など）の学習の一助になると思います。																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>法思想史（有斐閣アルマ）</td><td>中山・浅野・松島・近藤</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	法思想史（有斐閣アルマ）	中山・浅野・松島・近藤	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	法思想史（有斐閣アルマ）	中山・浅野・松島・近藤	有斐閣																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>法哲学</td><td>瀧川裕英ほか</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>2</td><td>法哲学（有斐閣アルマ）</td><td>平野仁彦ほか</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>3</td><td>20 世紀の法思想</td><td>中山竜一</td><td>岩波書店</td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	法哲学	瀧川裕英ほか	有斐閣	2	法哲学（有斐閣アルマ）	平野仁彦ほか	有斐閣	3	20 世紀の法思想	中山竜一	岩波書店
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	法哲学	瀧川裕英ほか	有斐閣																	
2	法哲学（有斐閣アルマ）	平野仁彦ほか	有斐閣																	
3	20 世紀の法思想	中山竜一	岩波書店																	
評価方法（基準）	期末試験は実施せず、毎回の課題（小テスト）100％で評価します。毎回真面目に授業に取り組めば単位取得はそれほど困難ではないかと思いますが、毎回課題を出しますので、履修予定の学生はそのつもりで授業に臨んでください。																			
学生へのメッセージ	この「法哲学各論」の講義では「法哲学総論と比べてかなり難解で抽象的なテーマを扱う予定なので、法哲学に興味のない学生には、率直に言って、退屈な授業内容になるかもしれません。具体例を用いてできるだけ分かりやすく説明するように心がけますので、皆さんも理解できない点が出てきたら遠慮なく質問してください。																			
担当者の研究室等	11 号館 9 階 松島准教授室																			
備考	受講者が極端に少ない場合（おおむね 10 名以下）には、ゼミ方式で授業を行う可能性があります。また、授業の進捗状況によっては、多少シラバスの内容に変更が生じるかもしれないので、その点はあらかじめご了承ください。 教科書は必須なので、必ず毎回持参するようにしてください。ちなみに、教科書は「法思想史（西洋法思想史）」（2 回生配当）と共通です。法思想史（西洋法思想史）では教科書の前半部分を、法哲学各論では後半部分を扱います。																			

科目名	法思想史	科目名（英文）	History of Legal Thought
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松島 裕一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2004a0		

授業概要・目的	法思想史とは、過去の思想家たちが法や正義をどのように理解してきたかを考察する学問分野です。この講義では、西洋世界に地域を限定したうえで、古典古代から 19 世紀末までに登場したさまざまな法思想を駆け足で見えていきます（20 世紀以降の新しい法思想は法哲学各論で扱います）。 個々の思想家にかんする知識をたんに丸暗記するのではなく、各法思想に含まれる普遍性と特殊性——いつの時代においても通用する普遍的なアイデアとその時代にしか通用しない特殊なアイデア——を的確に見極めつつ、現代の法思想の礎を確認することが、この講義の目的です。
到達目標	この講義を通じて学生には、法思想史（西洋）の基本事項を理解することに加え、過去の思想家たちの知識を手掛かりにして自分の意見を論理的に組み立てられるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	対面授業で行います。授業で使用するレジュメや課題は Microsoft Teams を通じて配布しますので、この授業を受講する学生は必ずチームに加入すること。
科目学習の効果（資格）	法学検定試験や公務員試験などの教養問題に一部対応しています。また、法科大学院入学試験の小論文（未修者コース）のヒントになる前提知識が獲得できると思います。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	法思想史とは？	授業の進め方や成績評価の方法などを説明したあと、これから学習していく「法思想史」がどのような科目なのか、なぜ法学部で西洋法思想の歴史を学ぶ必要があるのかを簡単に解説します。	毎回、教科書の該当箇所を読んでください。また、講義終了後に配布したプリントおよびレジュメを見直してください。各回の講義のキーワードを掲げておきますので、事前・事後学習の参考にしてください(各回とも事前学習と事後学習に各 120 分)。
	2	古代ギリシアの法思想①	「哲学」という独特の思考様式がなぜ古代ギリシアで誕生したのか、そして、それが後代の西洋世界にどのような影響を及ぼしたのかを学習します。哲学以前のホメロス・ヘシオドスの叙事詩も簡単に紹介します。	【キーワード】 『イリアス』と『オデュッセイア』、『神統記』と『労働と日』、神話学的思考と哲学的思考テミス、ノモス、ディケー、ソロン、ソフィスト
	3	古代ギリシアの法思想②	プラトンの前期著作を通じてソクラテスが追究した正しい生き方を概観するとともに、中後期著作でプラトン自身が構想した独創的な正義論・国家論の概要をを学習します。	【キーワード】 ソクラテス裁判、クセノポン、クリトン、アカデメイア、対話篇の時代区分、善のアイデア、哲人王、『国家』と『法律』
	4	古代ギリシアの法思想③	万学の祖アリストテレスの著作集はいずれも重要ですが、この回の講義では論理学関連の著作からは論理的思考の芽生え、『ニコマコス倫理学』からは正義論、『政治学』からは国制論をそれぞれ学習します。	【キーワード】 リュケイオン、オルガノン、シュロギスモス、一般的正義と特殊の正義、分配的正義と匡正的正義、衡平、「国制」
	5	古代ローマの法思想	現代の法律学の基礎をなすローマ法がどのような経緯で誕生し、またそれにはどのような事柄が規定されているのかを学習します。また、当時のローマで栄えたストア派の法思想についても簡単に説明します。	【キーワード】 12 表法、市民法と万民法、解答権、自然法と万民法、ウルピアヌスとパウルス、キケロ、ユスティニアヌス法典
	6	古代から中世へ	西洋の法思想に今なお強い影響力を及ぼし続けているキリスト教の成立とその教義をごく簡単に説明したうえで、最大の教父哲学者アウグスティヌスの法思想を『神の国』を中心に解説します。	【キーワード】 ナザレのイエス、ペテロとパウロ、旧約聖書と新約聖書、コイネー、三位一体説、『告白』、永久法・自然法・世俗法
	7	中世の法思想	ローマ帝国の衰退からいわゆる 12 世紀ルネサンスにおけるローマ法の復活にいたるまでの歴史的経緯を説明し、あわせて中世最大の哲学者トマス・アキナスの法思想を解説します。	【キーワード】 12 世紀ルネサンス、ボローニャ大学、註釈学派 (glossatores)、註解学派 (commentatores)、学説彙纂、標準注釈、ドミニコ会、神学大全
	8	中世から近代へ	中学高校の世界史でも必ず取り上げられる「ルネサンス」と「宗教改革」ですが、これらの出来事がそれ以降の法思想にどのような影響を与えたのかを、中世の法思想との対比を通じて学習します。	【キーワード】 ルネサンス（再生）、ルター、カルヴァン、マキアヴェッリ、ボダン、グロティウス、サラマンカ学派（ビトリアとスアレス）
	9	近代イギリスの法思想①	第 9 回から第 11 回までは社会契約説を学習します。まずこの回の講義ではホッブズ『リヴァイアサン』を取り上げ、彼の法思想を当時のイングランドの社会背景とあわせて学習します。	【キーワード】 ビュリタン革命と名誉革命、自己保存権、自然状態の悲惨さ、ホッブズの自然法（特に第 1～第 3 の自然法の内容）
	10	近代イギリスの法思想②	社会契約論を代表する第二の思想家としてジョン・ロックを取り上げ、『統治論』で示されている法思想を学習します。ロックからやや時代が下りますが、ヒュームやベンサムも法思想も簡単に紹介します。	【キーワード】 ロックの自然法、固有権（プロパティ）、抵抗権、スコットランド啓蒙、ヒュームの社会契約批判、ベンサム「功利主義」、J・S・ミル「他者危害原理」
	11	近代フランスの法思想	社会契約論の最後の論者としてルソーを取り上げ、『社会契約論』で展開されている「一般意志」という考え方を学習します。あわせてモンテスキュー『法の精神』における権力分立の思想も解説します。	【キーワード】 『不平等起源論』、一般意志（特にその問題点）、法律の一般性、人民主権、フランス革命へのルソーの影響力、モンテスキューの権力分立論

	12	近代ドイツの法思想①	ドイツ観念論の系譜を簡単に説明したうえで、カント『人倫の形而上学』とヘーゲル『法の哲学』を中心的に取り上げ、彼らの法思想のエッセンスを解説します。	【キーワード】 ドイツ啓蒙期自然法論（プーフェンドルフ・トマジウス・ヴォルフ）、カントの三批判、定言命法、合法性と道徳性、根源契約、ヘーゲルの社会契約批判																
	13	近代ドイツの法思想②	19 世紀のドイツで展開された法思想を学習します。具体的にはサヴィニーに代表される歴史法学に始まり、ヴィントシャイトの概念法学を経て、イェーリングらに至る道のりを学習します。	【キーワード】 法典論争、サヴィニーにおける歴史的方法と体系的方法、概念法学、イェーリングの概念法学批判、自由法運動、利益法学																
	14	近代ドイツの法思想③	20 世紀ドイツを代表する法哲学者であるラートブルフ、ケルゼン、シュミットの三人を取り上げ、ワイマール期からナチズム期の「危機の時代」に彼らがどのような法理論を展開したのかを学習します。	【キーワード】 価値相対主義、再生自然法論、純粋法学、『民主主義の本質と価値』、決断主義、友と敵、政治神学、具体的秩序思想																
	15	授業全体のまとめ	これまでの講義で論じてきた事柄を簡単に復習し、各法思想の普遍性と特殊性について考えてみます（可能であれば、これまでの講義で論じることができなかったトピックを補足説明する予定です）。	個々の概念や人物の正確な理解に努めるとともに、西洋史の大きな流れのなかで各法思想の特徴を述べられるようになること（講義で理解が難しかった箇所を事前にピックアップしておくこと）。																
関連科目	直接的には法哲学総論、法哲学各論、日本法思想史、西洋の裁判の歴史などと関連しますが、それ以外にも広く実定法学（憲法・民法・刑法など）の学習の一助になると思います。																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>法思想史（有斐閣アルマ）</td><td>中山・浅野・松島・近藤</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	法思想史（有斐閣アルマ）	中山・浅野・松島・近藤	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	法思想史（有斐閣アルマ）	中山・浅野・松島・近藤	有斐閣																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>増補新版 法とは何か 法思想史入門</td><td>長谷部恭男</td><td>河出書房新社</td></tr><tr><td>2</td><td>法思想史入門</td><td>西村清貴</td><td>成文堂</td></tr><tr><td>3</td><td>法思想史を読み解く</td><td>戒能通弘ほか</td><td>法律文化社</td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	増補新版 法とは何か 法思想史入門	長谷部恭男	河出書房新社	2	法思想史入門	西村清貴	成文堂	3	法思想史を読み解く	戒能通弘ほか	法律文化社
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	増補新版 法とは何か 法思想史入門	長谷部恭男	河出書房新社																	
2	法思想史入門	西村清貴	成文堂																	
3	法思想史を読み解く	戒能通弘ほか	法律文化社																	
評価方法（基準）	期末試験は実施せず、毎回の課題（小テスト）100％で評価します。毎回真面目に授業に取り組めば単位取得はそれほど困難ではないかと思いますが、毎回課題を出しますので、履修予定の学生はそのつもりで授業に臨んでください。																			
学生へのメッセージ	この西洋法思想史の講義では、西洋における法思想の「古典」と呼ばれる著作を毎時間取り上げます。授業では各法思想の要点しか説明できませんので、興味のある古典作品が出てきたらぜひ積極的に読書をしてほしいと思います。時代を超えて読み継がれてきた古典作品と向き合うことは、学生の皆さんにとってきっと有意義な読書体験になるはずです。 *2023 年度以降、科目名を「法思想史」から「西洋法思想史」に改めました。併せて、2023 年度より「日本法思想史」の授業も新設しましたので、日本の法思想に興味を持った学生はそちらも受講してみてください。																			
担当者の研究室等	11 号館 9 階 松島准教授室																			
備考	教科書は必須なので、必ず毎回持参するようにしてください。また、授業の進捗状況によっては、多少シラバスの内容に変更が生じるかもしれないので、その点はあらかじめご了承ください。																			

科目名	法社会学	科目名（英文）	Sociology of Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	萩原 守
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3005a0		

授業概要・目的	法学は元々社会との接点があつてこそ、価値が生じる学問分野である。そこで受講者にはこの授業で、過去における現実の社会と法との密接な関わり具合を深く学んでほしい。具体的には、担当教員の専門分野を生かして、18 世紀のモンゴル遊牧民社会で起こった現実の刑事事件とその裁判を細かく分析し、清代モンゴルの遊牧民社会と法のあり方を理解できるような授業にするので、法と社会との深いつながりを是非とも学んでいただきたい。				
到達目標	この講義を通じて受講者には、法と社会との関わり方を理解できるようになり、かつ具体例を示しつつその理論的な側面を自ら説明できるだけの知識を身につけることが期待される。それがこの授業の到達目標である。				
授業方法と留意点	この授業は、通常の講義形式の授業である。可能な限り毎回出席して、しっかりとノートを取る必要がある。そのために、毎回、筆記用具とノート類を持参する必要がある。				
科目学習の効果（資格）	歴史上における社会と法との密接な関わりを学び取ることができるため、社会科学系の教職を目指す学生には、特に大きな効果が期待できる。				
授業計画		回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
		1	社会史、女性史と法学	法学、法制史、社会史、女性史などの研究分野について、その研究手法や注意点等を学ぶ	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
		2	遊牧民社会の日常	世界各地に居住している遊牧民の日常生活の具体像を学ぶ	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
		3	清朝支配下における民族別の法	清王朝が支配下の諸民族集団に対して制定した種々の法について詳しく学ぶ	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
		4	清朝支配下の各地域における裁判制度	現在までに明らかになっている清代の各地域での裁判制度を学ぶ	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく
		5	清朝治下における「蒙古例」	清王朝が一般的なモンゴル人を対象にして制定したモンゴル人専用法の全体像を学ぶ	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
		6	清代モンゴルの身分制度と行政制度	清代モンゴルの複雑な身分制度とそれに応じた複雑な法体系とを学ぶ	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
		7	18 世紀末の外モンゴル地域で発生した「ダシジドの事件」①	ダシジドの身分や、幼年期以来の生き様を学び取る	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
		8	「ダシジドの事件」②	シングルマザーとなった平民ダシジドが巻き込まれた冤罪、人身売買に伴って起こしてしまった事件等を詳しく学ぶ	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
		9	「ダシジドの事件」③	ダシジドの起こした事件に関する各段階での裁判とその判決文を詳細に検討し、理解する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
		10	「ダシジドの事件」④	「ダシジドの事件」の最終判決とその判決が有する歴史学的・政治史的・法制史的な意義を検討し、理解する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
		11	「ダシジドの事件」⑤	「ダシジドの事件」における人身売買と婚姻の問題を法的に検討し、その相違を学び取る	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
		12	18 世紀末の外モンゴル地域で発生した「オンボフの事件」①	オンボフとその両親の身分、オンボフの父と伯父が起こした馬泥棒の事件やその後のオンボフの運命を学び取る	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
		13	「オンボフの事件」②	不法裁判によって身分を落とされたオンボフが起こしてしまった事件の詳細を検討して学ぶ	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
		14	「オンボフの事件」③	「オンボフの事件」が裁かれていく過程で下された各級の裁判での判決文を細かく検討し、学び取る	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
		15	「オンボフの事件」④	「オンボフの事件」から理解できる当時のモンゴル人社会と、法制の変遷問題を学ぶ	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
関連科目	東洋法制史、日本法制史、比較法史				
教科書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1			
		2			
		3			
参考書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1	清代モンゴルの裁判と裁判文書	萩原守	創文社
		2	大清律 刑律 1、2	谷井俊仁・谷井陽子	平凡社東洋文庫
		3	中国法制史 基本資料の研究	滋賀秀三	東京大学出版会
評価方法（基準）	学期末に試験を行う。成績評価は、主としてこの期末試験から判断する。				
学生への	なるべく具体的な講義を実施するので、恐れずに参加してほしい。いつでも質問できるような柔らかな雰囲気の授業にしたい。毎回、筆記用具				

メッセージ	とノート類を持参すること。配布したプリント類も、なくすことなく、授業時や試験時に持ってくること。
担当者の 研究室等	11 号館の 10 階にある萩原研究室
備考	

科目名	近世日本の法文化	科目名（英文）	Law and Culture in Tokugawa Japan
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	萩原 守
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1006a0		

授業概要・目的	日本の法制は、古代から明治初期までは中国・朝鮮からの強い影響を受け、それ以降は西洋からの強い影響を受けてきた。しかしながら、そこにはやはり古代から近現代まで続く日本法制史ならではの特徴が見られ、それらを総合的に把握しておくことが現代日本の社会と法制を理解するための必須条件となる。そこで、この授業で受講者は、古代から近現代に至るまでの各時期における日本の法制を年代順に学びとり、日本法制史の持つ特徴を詳しく理解することになる。 この授業の目的は現代日本の社会や社会規範が形成されてきた過去の経緯を深く理解することである。																																																																		
到達目標	古代日本の法制史においては、遣隋使や遣唐使によってもたらされた中国法が日本に与えた影響を即座に指摘した上で日本法制史の持つ特徴を検討できるようになることが目標である。中世においては、日本法制史が持つ強い特徴を、中国や西洋諸国と比較しつつ明瞭に述べるができるようになること。近世（江戸時代）においては、中国法（明律、清律）からの強い影響を再び受けるようになった事情やドイツ、イタリアなどと若干類似する「地方分権」状態が日本に独特の近代化をもたらした点などを詳細に指摘できるようになることが目標である。近代法制史においては、英米型の法制を採用せずにドイツ型の法制を採用したことがもたらした功罪をすぐに指摘できるようになることが目標である。																																																																		
授業方法と留意点	この授業は通常の講義科目である。できるだけ毎回出席して、詳細にノートを取ることが必要となる。また聞き逃した点や理解できなかった点は、そのつど細かく質問して聞き直すことが必要となる。とりわけ、ノートを取ることが絶対の条件となる。																																																																		
科目学習の効果（資格）	教職課程履修者にとっては重要科目。間接的には公務員試験や諸資格試験にも繋がっている。																																																																		
授業計画	<table> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> <tr> <td>1</td><td>法学における「法制史」の位置づけ</td><td>法学という学問体系の中で「法制史」が占める位置、また過去の法の存在形態等、法制史の最も基礎的な部分を学ぶ</td><td>自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>律令以前の法と社会</td><td>中国・朝鮮から律令が導入される以前における日本の国家、法、社会のあり方を学ぶ</td><td>自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>中国の隋唐時代における律令の編纂</td><td>7回に渡って編纂された隋唐時代の中国の律令と東アジアへの影響とを学ぶ</td><td>自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>律令法体制下の行政・支配機構と社会</td><td>律令導入後の日本の行政機構や日本社会の有り様を学ぶ</td><td>自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>平安時代の法と社会</td><td>導入された律令体制から徐々に日本独自の体制へと社会と法が変化していく様子を学ぶ</td><td>自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>鎌倉期の法と社会</td><td>鎌倉幕府による法とその下での裁判の有り様を学ぶ</td><td>自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>室町期の法と社会</td><td>室町期における幕府や寺社勢力による法制を学ぶ</td><td>自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>戦国大名の支配と法</td><td>戦国期から織田・豊臣政権期にかけての法と社会を学ぶ</td><td>自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>幕藩体制下の法と裁判</td><td>江戸時代における法のあり方と裁判制度を学ぶ</td><td>自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>幕藩体制下の社会</td><td>江戸時代における社会、身分、世帯等の実情を学ぶ</td><td>自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>幕藩体制から明治維新期への変革</td><td>江戸期から明治期に移行する際の政治上、法制上における大きな変革の有り様を、アジア、ヨーロッパの諸外国と比較しつつ、詳しく学びとる</td><td>自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>世界史的な見地から見た明治維新への評価</td><td>日本の近代化の始まりとしての明治維新を、世界史的にどう評価すべきなのかを詳しく学ぶ</td><td>自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>日本への西洋法の導入問題</td><td>中国法の強い影響下にあった日本の法制が欧米の法の影響下に入っていく際の諸問題を学ぶ</td><td>自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>大日本帝国憲法と統帥権問題</td><td>英米法とドイツ法のどちらを導入するかという問題が決着した明治 14 年の政変、また第二次世界大戦の泥沼へと日本が陥っていった法制上の問題を詳しく学ぶ</td><td>自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>日本国憲法と戦後の日本社会</td><td>戦後、新たに導入された日本国憲法と戦後の日本社会の問題を学ぶ</td><td>自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）</td></tr> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	法学における「法制史」の位置づけ	法学という学問体系の中で「法制史」が占める位置、また過去の法の存在形態等、法制史の最も基礎的な部分を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）	2	律令以前の法と社会	中国・朝鮮から律令が導入される以前における日本の国家、法、社会のあり方を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）	3	中国の隋唐時代における律令の編纂	7回に渡って編纂された隋唐時代の中国の律令と東アジアへの影響とを学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）	4	律令法体制下の行政・支配機構と社会	律令導入後の日本の行政機構や日本社会の有り様を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）	5	平安時代の法と社会	導入された律令体制から徐々に日本独自の体制へと社会と法が変化していく様子を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）	6	鎌倉期の法と社会	鎌倉幕府による法とその下での裁判の有り様を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）	7	室町期の法と社会	室町期における幕府や寺社勢力による法制を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）	8	戦国大名の支配と法	戦国期から織田・豊臣政権期にかけての法と社会を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）	9	幕藩体制下の法と裁判	江戸時代における法のあり方と裁判制度を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）	10	幕藩体制下の社会	江戸時代における社会、身分、世帯等の実情を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）	11	幕藩体制から明治維新期への変革	江戸期から明治期に移行する際の政治上、法制上における大きな変革の有り様を、アジア、ヨーロッパの諸外国と比較しつつ、詳しく学びとる	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）	12	世界史的な見地から見た明治維新への評価	日本の近代化の始まりとしての明治維新を、世界史的にどう評価すべきなのかを詳しく学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）	13	日本への西洋法の導入問題	中国法の強い影響下にあった日本の法制が欧米の法の影響下に入っていく際の諸問題を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）	14	大日本帝国憲法と統帥権問題	英米法とドイツ法のどちらを導入するかという問題が決着した明治 14 年の政変、また第二次世界大戦の泥沼へと日本が陥っていった法制上の問題を詳しく学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）	15	日本国憲法と戦後の日本社会	戦後、新たに導入された日本国憲法と戦後の日本社会の問題を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	法学における「法制史」の位置づけ	法学という学問体系の中で「法制史」が占める位置、また過去の法の存在形態等、法制史の最も基礎的な部分を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）																																																																
2	律令以前の法と社会	中国・朝鮮から律令が導入される以前における日本の国家、法、社会のあり方を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）																																																																
3	中国の隋唐時代における律令の編纂	7回に渡って編纂された隋唐時代の中国の律令と東アジアへの影響とを学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）																																																																
4	律令法体制下の行政・支配機構と社会	律令導入後の日本の行政機構や日本社会の有り様を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）																																																																
5	平安時代の法と社会	導入された律令体制から徐々に日本独自の体制へと社会と法が変化していく様子を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）																																																																
6	鎌倉期の法と社会	鎌倉幕府による法とその下での裁判の有り様を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）																																																																
7	室町期の法と社会	室町期における幕府や寺社勢力による法制を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）																																																																
8	戦国大名の支配と法	戦国期から織田・豊臣政権期にかけての法と社会を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）																																																																
9	幕藩体制下の法と裁判	江戸時代における法のあり方と裁判制度を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）																																																																
10	幕藩体制下の社会	江戸時代における社会、身分、世帯等の実情を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）																																																																
11	幕藩体制から明治維新期への変革	江戸期から明治期に移行する際の政治上、法制上における大きな変革の有り様を、アジア、ヨーロッパの諸外国と比較しつつ、詳しく学びとる	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）																																																																
12	世界史的な見地から見た明治維新への評価	日本の近代化の始まりとしての明治維新を、世界史的にどう評価すべきなのかを詳しく学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）																																																																
13	日本への西洋法の導入問題	中国法の強い影響下にあった日本の法制が欧米の法の影響下に入っていく際の諸問題を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）																																																																
14	大日本帝国憲法と統帥権問題	英米法とドイツ法のどちらを導入するかという問題が決着した明治 14 年の政変、また第二次世界大戦の泥沼へと日本が陥っていった法制上の問題を詳しく学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）																																																																
15	日本国憲法と戦後の日本社会	戦後、新たに導入された日本国憲法と戦後の日本社会の問題を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）																																																																
関連科目	東洋法制史、法と社会、比較法史																																																																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td>概説 日本法制史</td><td>出口雄一他</td><td>弘文堂</td></tr> <tr> <td>2</td><td>日本法制史</td><td>湯浅弘他</td><td>青林書院</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	概説 日本法制史	出口雄一他	弘文堂	2	日本法制史	湯浅弘他	青林書院	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	概説 日本法制史	出口雄一他	弘文堂																																																																
2	日本法制史	湯浅弘他	青林書院																																																																
3																																																																			
評価方法（基準）	主として定期試験の結果から評価するが、良い答案を書くためには、当然、毎回の出席とノート筆記、また予習復習が絶対条件となる。																																																																		

学生への メッセージ	あまり難しく考えないで気軽に受講してほしい。法制史は、基礎法学の一つであると同時に、歴史学の一つでもあるため、歴史の好きな人は特に歓迎するが、日本史を学んだことのない人でも理解できるように、わかりやすい授業を心がけたい。授業中にノートを取ることは必須であるため、毎回、必ず筆記用具とノート類とを持ってくること。ただ聞き流すだけの受講態度であれば、単位の取得は難しいかもしれない。また試験対策用にも、疑問点があれば、すぐに質問して解決しておくことが必要。
担当者の 研究室等	11 号館の 10 階にある萩原守研究室
備考	

科目名	西洋の裁判の歴史	科目名（英文）	History of Trial in Western Society
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小宮山 直子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1012a0		

授業概要・目的	この授業では、ヨーロッパにおける中世から近代にいたる法の歴史を概説します。ヨーロッパ法が日本近代法の形成に大きな影響を与えたことを念頭におきつつ、フランス・ドイツを中心に、法の歴史的展開および法文化の特徴を、当時の社会とのかかわりを含めて考察します。授業全体の後半は、近代法の展開に焦点をあてます。また、各時代の裁判の特徴と著名な裁判例もとりあげます。
到達目標	ヨーロッパ法の歴史について基礎的な知識を身につけ、さらに歴史的視点を踏まえて現代法を考察していく力を養うことを目標とします。
授業方法と留意点	各授業の最後に小テストなどの課題に取り組んでもらいます。 授業内容を自分のノートにもまとめるようにしましょう。 授業の進行にあわせて、2回分のテーマを1回にまとめることもあります。
科目学習の効果（資格）	教職科目（中学社会科・高校公民・高校地歴）に必要です。公務員試験や就職試験の一般教養（SPI 対策）としても有益です。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業内容の概説、近代日本における西洋文化の受容	。事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（1時間程度）
	2	中世ヨーロッパの社会と法（1）	ユスティニアヌス法典とサリカ法典、ゲルマンの伝統的裁判	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく（30分）。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する（1時間）。
	3	中世ヨーロッパの社会と法（2）	ローマ法、教会法、大学における法学教育	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく（30分）。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する（1時間）。
	4	中世ヨーロッパの社会と法（3）	封建制の構造、身分制	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく（30分）。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する（1時間）。
	5	近世ヨーロッパの社会と法（1）	絶対王政、法統一の試み	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく（30分）。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する（1時間）。
	6	近世ヨーロッパの社会と法（2）	啓蒙期と法典編纂	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく（30分）。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する（1時間）。
	7	英米法の歴史の概要	陪審制の成立・発展	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく（30分）。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する（1時間）。
	8	フランス革命（1）	フランス革命の概要、フランス人権宣言	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく（30分）。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する（1時間）。
	9	フランス革命（2）	革命期の裁判制度改革（陪審制の導入）	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく（30分）。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する（1時間）。
	10	ナポレオンと近代市民法—フランス民法典（1804年）	フランス民法典の特徴	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく（30分）。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する（1時間）。
	11	法典論争と歴史法学派	サヴィニーとティボーの法典論争、歴史法学派	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく（30分）。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する（1時間）。
	12	19世紀フランスの社会と法	都市の衛生・貧困問題 労働者問題と法	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく（30分）。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する（1時間）。
	13	19世紀ドイツの社会と法	ドイツ民法典の成立過程、その特徴	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく（30分）。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する（1時間）。
	14	20世紀の社会と法	20世紀前半・女性参政権の動向	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく（30分）。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する（1時間）。
	15	全体のまとめ	全体のまとめ（復習）	これまでのレジュメ及び資料を見直して、授業の全体像を再確認・整理する。重要キーワードについては、自分の言葉で説明できるよう整理する（3時間）。
関連科目	法制史および法思想史に関連する科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	概説西洋法制史	勝田有恒 他	ミネルヴァ書房
	2	法制史入門	三成賢次、他	ナカニシヤ出版
	3	ローマ法とヨーロッパ	ピーター・スタイン	ミネルヴァ書房
評価方法 (基準)	授業内課題（小テスト、小レポートなど）20%と、定期試験（筆記試験）80%によって、総合的に評価します。 授業内課題の詳細は、第1回授業において説明します。			
学生への メッセージ	高校の世界史の教科書(特にヨーロッパ史の箇所)を復習しておきましょう。			
担当者の 研究室等	11号館5階 法学部資料室（法学部非常勤講師室）			
備考	参考文献は、授業の中で随時紹介します。			

科目名	西洋女性史	科目名 (英文)	History of Women in Western Society
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小宮山 直子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2013a0		

授業概要・目的	西洋女性史（ジェンダー法）では、歴史的視点を含めてジェンダー法学の基礎を学びます。 前半は、西洋法史・ジェンダー史の視点から、女性の地位をめぐる歴史について概説します。具体的には、西洋法史における注目すべき女性たちの生涯を、当時の権力との関連から考察していきます。また授業後半は、前半の西洋女性史からの学びを踏まえて、現代日本の家族・労働（雇用）などにかかわる諸問題をジェンダー法学の視点から検討します。
到達目標	この授業では、西洋の中世から現代までの各時代・各社会における女性の地位と法の関わりについて、歴史の大きな流れを踏まえて説明できるようなることを目標とします。さらに、ジェンダー法学について基礎的知識を習得し、現代法に潜むジェンダーに関わる諸問題を考察する基礎力を身につけることも期待されます。
授業方法と留意点	各授業の最後に小テストなどの課題に取り組んでももらいます。授業の進行にあわせて、2 回分のテーマを1 回にまとめることもあります。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や企業採用試験の一般教養科目対策として有益である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	はじめに ジェンダー法学とは	授業全体の目的 ジェンダー法学について	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献など）を読んでおく。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2 時間）
	2	西洋中世～近世の女性（1）	中世封建社会における女性	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2 時間）
	3	中世～近世の女性（2）	主権国家確立期と女性 啓蒙期と女性	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2 時間）
	4	フランス革命と女性	フランス革命における女性たち	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2 時間）
	5	フランス民法典の女性	フランス民法典のなかの女性、近代的家父長制の特徴	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2 時間）
	6	19 世紀の社会と女性	19 世紀のブルジョア女性の活動・労働者をめぐる問題（フランスを中心に）	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2 時間）
	7	20 世紀の社会と女性（1）	女性の法的地位向上をめざして－女性参政権をめぐる運動	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2 時間）
	8	20 世紀の社会と女性（2）	家族をめぐる諸改革	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2 時間）
	9	家族をめぐる問題（1）	日本の戦前の家族法の特徴、戦後における家族法改革	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2 時間）
	10	家族をめぐる問題（2）	婚姻・離婚をめぐる諸問題	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2 時間）
	11	家族をめぐる問題（3）	これからの家族とジェンダー	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2 時間）
	12	労働をめぐる問題（1）	戦後の労働改革から男女雇用機会均等法まで	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2 時間）
	13	労働をめぐる問題（1）	男女雇用機会均等法以降	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2 時間）
	14	身体をめぐる問題（1）	人権・ジェンダー法学の視点から、戦後日本の身体をめぐる諸政策・問題を考察する	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2 時間）
	15	身体をめぐる問題（2） 全体のまとめ	前回の続き、 全体のまとめ（復習）	これまでのレジュメ及び資料を見直して、授業の全体像を再確認・整理する。重要キーワードについては、自分の言葉で説明できるよう整理する。（3 時間）

関連科目	西洋法制史（西洋の裁判の歴史）			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	概説西洋法制史	勝田有恒他	ミネルヴァ書房
	2	ジェンダーの比較法史学	三成美保編	大阪大学出版会
	3	ジェンダー法学入門（最新版）	三成美保・他著	法律文化社
評価方法 （基準）	授業内課題（小テスト、小レポートなど）３０％と、定期試験（筆記試験）７０％によって、総合的に評価します。 詳細は、第１回授業において説明します。			
学生への メッセージ	法史をジェンダー法学の視点から楽しく深めるのに役立つ授業です。			
担当者の 研究室等	11 号館 5 階 法学部資料室（法学部非常勤講師室）			
備考	参考文献は、授業の中でも随時紹介します。			

科目名	英米法	科目名 (英文)	Anglo-American Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	家本 真実
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3014a0		

授業概要・目的	日本で生活していくうえで、他国の法制度の知識が役に立つことはあまり多くないかもしれませんが、しかし、他国の法制度を学ぶことは、日本の法制度に対する理解を深め、さまざまな法的問題の解決法を探ることにもつながります。そこでこの講義では、日本の法制度にも大きな影響を与えている英米法の基礎概念とアメリカの法制度を学んでいただきたいと思います。講義では、英語の文献をいくらか参照することもありますし、映像資料も多用します。
到達目標	この授業を通じて、学生の皆さんには、アメリカ法の特徴を理解し、憲法および民事法、陪審制度といったアメリカの法制度および社会の全体像を把握できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	要点を記したレジュメを配布し、それに沿って解説をおこなうといったかたちで講義をおこないます。「英語なんて見たくもない」という方にはお勧めできない授業ですが、アメリカという国や英語に興味がある方には、法という視点からアプローチする楽しさを感じていただけるかと思います。単位取得のためには毎回の講義内容を理解することが必須だと考えてください。講義内容については、受講生の皆さんの理解度によっては多少変更することがあります。
科目学習の効果 (資格)	英米法の基本的な考え方、アメリカの歴史や社会、法制度についての知識を得ることができます。

授業計画				
		回数	授業テーマ	内容・方法 等
				事前・事後学習課題
	1		はじめに 訴訟社会アメリカ	この講義の内容や目的、講義の進め方について 訴訟社会といわれるアメリカの裁判について
	2		英米法とは	英米法の歴史と、アメリカ合衆国の生い立ち、その法体系
	3		判例法とは (1)	アメリカ法の特徴である判例法主義について、具体的な事例を基に学ぶ
	4		判例法とは (2)	アメリカ法の特徴である判例法主義について、具体的な事例を基に学ぶ
	5		アメリカの憲法 (1)	アメリカにおける連邦と州の関係とそれぞれの権限について学ぶ
	6		アメリカの憲法 (2)	アメリカ大統領の権限および大統領選挙について学ぶ
	7		アメリカの憲法 (3)	アメリカの憲法 (権利章典) に関する判例を読む
	8		差別とアメリカ	アメリカにおける人種や性別による差別について学ぶ
	9		銃社会アメリカ (1)	映画『ボウリング・フォー・コロンバイン』を通してアメリカの銃問題について学ぶ
	10		銃社会アメリカ (2)	映画『ボウリング・フォー・コロンバイン』を通してアメリカの銃を持つ権利と銃規制について学ぶ
	11		アメリカの民事訴訟 (1)	アメリカの民事訴訟手続に特有のディスカバリー (証拠開示手続き)、クラスアクション (集団代表訴訟) について
	12		アメリカの民事訴訟 (2)	映画 "Hot Coffee" を題材に、アメリカの民事裁判と懲罰的損害賠償について学ぶ
	13		アメリカの民事訴訟 (3)	映画 "Hot Coffee" を題材に、アメリカの民事裁判と懲罰的損害賠償について学ぶ
	14		アメリカにおける市民の司法への参加 (1)	映画 "Hot Coffee" からわかるアメリカの陪審制度
	15		アメリカにおける市民の司法への参加 (2)	アメリカの民事・刑事陪審制度、アメリカの陪審制度と日本の裁判員制度の比

		おわりに	較	講義終了後、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(3 時間)
関連科目	国際関係の科目、英語系の科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代アメリカ法入門	丸田隆	日本評論社
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義内で課す課題（ペーパーなど）への取り組みを 30%程度、学期末試験の成績を 70%程度の割合で、最終的な評価をおこないます。			
学生への メッセージ	アメリカや英語に興味があり、積極的に学ぼうという姿勢を持つ学生（他学部の学生を含む）を歓迎します。講義中は私語を慎んでください。講義内容は、進行具合や受講生の様子によっては変更する場合があります。			
担当者の 研究室等	11 号館 9 階 家本准教授室			
備考	2023 年度 42 名登録 合格率 70.2% (37 名) (不受験率 11% (5 名)) 合格者のうち A5.4% B8.1% C18.9% D37.8%、平均 71 点			

科目名	憲法概論	科目名 (英文)	Introduction to Constitutional Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	浮田 徹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1015a0		

授業概要・目的	憲法の基本原理、基本的人権部分の総論的な領域をとりあつかいます。憲法を全体として習得したい人はこの講義をまずしっかりと勉強する必要があります。
到達目標	この授業を通じて学生には、基本的人権・統治機構、その他数多ある人権や権利に関連する法律を理解するために不可欠の土台を形成することになることが期待される。憲法は、各項目の理解のしやすさに関し、基本原理の理解が重要になります。
授業方法と留意点	講義形式で行います。講義に必要なものはレジュメ、ノート、教科書、六法です。 レジュメは事前に moodle から入手、印刷して持参してください。 ※moodle の利用方法につき (1)moodle とは 摂南大学の採用する ICT ツールです。大学のポータルサイトなどにリンクがあります。 (2)moodle の登録方法につき 講義には自分で登録する必要があります。 ログインし、「ナビゲーション」のところにある「コース」をクリック、「コースを検索する」から「24 憲法 1」と入力して検索し「2024 憲」
科目学習の効果 (資格)	様々な資格試験および公務員試験の基礎となります。 また、公務員の場合は就職後に警察学校などで科目となる場合があります。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・憲法総論	ガイダンス・憲法の位置づけ	予習：教科書の目次を一通り読んでおく (10 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う (20 分)
	2	憲法の基本原理	近代憲法に不可欠の要素につき学ぶ	予習：教科書の 1、2 を読んでおく (20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)
	3	憲法の歴史	近代憲法の形成の歴史、日本国憲法史について学ぶ	予習：教科書の 1、2 を読んでおく (20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)
	4	人権の到達範囲	人権保障の及ぶ範囲について学ぶ	予習：教科書の 6 を読んでおく (20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)
	5	人権の享有主体	外国人の人権保障について学ぶ	予習：教科書の 4、5 を読んでおく (20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)
	6	人権保障の限界	人権保障の限界の問題について学ぶ	予習：教科書の 3 を読んでおく (20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)
	7	憲法 13 条の内容	13 条の二つの側面について学ぶ	予習：教科書の 8、9 を読んでおく (20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)
	8	包括的基本権としての 1 3 条	幸福追求権としての 13 条のしくみについて学ぶ	予習：教科書の 8、9 を読んでおく (20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)
	9	新しい人権 (1)	プライバシー権・名誉の権利について学ぶ	予習：教科書の 9 を読んでおく (20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)
	10	新しい人権 (2)	肖像権・環境権などその他新しい権利について学ぶ	予習：教科書の 9 を読んでおく (20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)
	11	法の下の平等 (1)	法の下の平等について、歴史的経緯から学ぶ	予習：教科書の 10 を読んでおく (20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)
	12	法の下の平等 (2)	法の下の平等について、特に日本国憲法 14 条の内容について学ぶ	予習：教科書の 11 を読んでおく (20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)
	13	法の下の平等 (3)	法の下の平等についての裁判例を学ぶ (1)	予習：教科書の 11 を読んでおく (20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)
	14	法の下の平等 (4)	法の下の平等についての裁判例を学ぶ (2)	予習：教科書の 12 を読んでおく (20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)
	15	精神的自由総論	精神的自由とはいかなるものか、内心の自由までを学ぶ	予習：教科書の 1 を読んでおく (20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)

関連科目	憲法 II、憲法 III と深く関連します。後期配当の憲法 II (人権各論) を理解するためにはこの講義の受講・習得が重要になります。																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td>憲法の時間〔第 2 版〕</td><td>井上典之編</td><td>有斐閣</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	憲法の時間〔第 2 版〕	井上典之編	有斐閣	2				3					
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	憲法の時間〔第 2 版〕	井上典之編	有斐閣																
2																			
3																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名														
番号	書籍名	著者名	出版社名																

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	(1)講義ごとに課す課題及び中間試験など 30%、(2)期末試験 70%で採点します。			
学生への メッセージ	講義の進め方、評価について詳細な説明をしますので初回の講義には必ず出席すること。			
担当者の 研究室等	11 号館 9 階 浮田准教授室			
備考	講義情報を twitter にて発信していきます。それほど頻繁ではありません(@toruukita)。 教科書は後期開講の憲法 II(人権各論)と共通です。 (参考)2023 年度の成績の結果は以下のとおりです 登録者 369 名 採点対象者 324 名(期末試験受験者) 合格率 73.2% A 評価 16 名(4.9%) B 評価 26 名(8.0%) C 評価 97 名(29.9%) D 評価 98 名(30.2%) EF 評価(不合格)87 名(26.8%)			

科目名	憲法Ⅰ（基本的人権）	科目名（英文）	Constitutional LawⅠ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浮田 徹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2016a0		

授業概要・目的	基本的人権領域における重要な部分としての具体的な人権規定を学んでもらいます。 個別の人権規定についての理解が深まる。 「憲法Ⅰ」を履修していることを前提にして講義を行っていきます。本科目を受講する学生は前期憲法Ⅰも登録しておくことが望ましいです。
到達目標	この授業を通じて学生には、「憲法Ⅰ」で学んだ人権の総論的な考え方を、個別の人権条項についての各論に反映させて理解できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	講義形式で行います。講義に必要なものはレジュメ、ノート、教科書、六法です。 レジュメは事前に moodle から入手、印刷して持参してください。 ※moodle の利用方法につき (1)moodle とは 摂南大学の採用する ICT ツールです。大学のトップページにリンクがあります。 (2)moodle の登録方法につき 講義には自分で登録する必要があります。 ログインし、「ナビゲーション」のところにある「コース」をクリック、「コースを検索する」から「24 憲法 2」と入力して検索し「2024 憲法Ⅱ(人
科目学習の効果（資格）	憲法はあらゆる公務員試験および公務員として働き始めてからも科目として設定されることが多いです。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・人権学習の前提の確認	講義概要の説明と導入ための事項の確認を行う	予習：教科書の目次を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
	2	表現の自由(1)	表現の自由の価値について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
	3	表現の自由(2)	報道の自由について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
	4	表現の自由(3)	インターネットにおける表現の問題について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
	5	表現の自由(4)	集会・結社の自由について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
	6	経済的自由(1)	経済活動における権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
	7	経済的自由(2)	具体的な経済的自由の保障と規制について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
	8	経済的自由(3)	具体的な経済的自由の保障と規制について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
	9	財産権	所有と財産に関する権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
	10	生存権	社会権としての生存権について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
	11	生存権 2	社会権としての生存権について学ぶ 2	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
	12	教育を受ける権利	公教育における国民の権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
	13	労働基本権	労働者の権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
	14	法定手続の保障	憲法 31 条の保障する内容について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
	15	刑事手続に関する権利	32 条以下の具体的権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。

関連科目	憲法Ⅰ、憲法Ⅲ その他あらゆる法律科目と関連します。憲法Ⅰとは内容的な連続性もあります。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	憲法の時間〔第 2 版〕	井上典之編	有斐閣
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
-----	----	-----	-----	------

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義中の課題および中間試験(30%)、期末試験(70%)により評価します。			
学生への メッセージ	憲法Ⅰも履修しておいてください。			
担当者の 研究室等	11 号館 9 階 浮田准教授室			
備考	「憲法Ⅰ」を履修していることを前提にして講義を行う部分もありますので本科目を受講する学生は前期憲法Ⅰも登録しておいてください。 2023 年度の合格率等について(暫定値です) 受講人数 300 人 期末試験受験者数 271 人 合格率 70.1% A 評価 15 人 B 評価 40 人 C 評価 72 人 D 評価 63 人 EF 評価 81 人			

科目名	憲法Ⅱ（統治機構）	科目名（英文）	Constitutional Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	浮田 徹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2017a0		

授業概要・目的	本講義では、憲法Ⅰ、Ⅱで習得した知識を土台として、基本的人権と並ぶ憲法の重要な構成要素である統治機構について学習してもらいます。憲法の統治機構の基本的な部分、応用への足がかりまでを学習することを目的としています。
到達目標	この授業を通じて学生には、日本国憲法の採用する様々な制度を理解し、全体としての統治システムの構造と作用を把握するところにあります。その上で、統治に関する憲法の規定が、単に国家の構成について定めたというだけでなく、憲法で掲げられる基本的人権などの重要な価値を保障するための組織を作り上げるものであるということを理解できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	講義形式で行います。講義に必要なものはレジュメ、ノート、教科書、六法です。 レジュメは事前にmoodleから入手、印刷して持参してください。 ※moodleの利用方法につき (1)moodleとは 摂南大学の採用するICTツールです。ポータルサイトなどにリンクはあります。 (2)moodleの登録方法につき 講義には自分で登録する必要があります。 ログインし、「ナビゲーション」のところにある「コース」をクリック、「コースを検索する」から「24 憲法3」と入力して検索し「2024 憲法ⅢⅠ(
科目学習の効果（資格）	司法試験、公務員試験などの試験科目です。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	・講義の概要説明	予習：指定教科書の目次に目を通しておく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
	2	統治機構総論	・権力分立概論 ・民主主義概論	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
	3	立法と行政(1)	・議院内閣制	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
	4	立法と行政(2)	・国会の性格、地位	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
	5	立法と行政(3)	・内閣を頂点とする行政権の仕組み	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
	6	司法権(1)	・裁判所の役割	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
	7	司法権(2)	・違憲審査	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
	8	司法権(3)	・憲法裁判	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
	9	平和主義(1)	・憲法9条の解釈について	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
	10	平和主義(2)	・自衛隊の憲法適合性、日本の安全保障	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
	11	憲法改正	・現代における憲法改正論議	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
	12	憲法保障	・憲法保障のシステムについて	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
	13	天皇制	・日本国憲法における象徴天皇制	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
	14	地方自治	・憲法上の地方自治	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
	15	まとめ	・まとめ	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)

関連科目	行政法や国際法といった実定法領域のほか、政治学、行政学などひろく政治学の領域へと学習を展開する基礎となります。
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	エッセンス憲法 新版	中村英樹・井上亜紀・相澤直子 編	法律文化社
	2			
	3			

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義ごとに課される課題 30%、期末試験 70%で評価します。			
学生への メッセージ	基本的人権だけでなく、統治機構も理解することで憲法の勉強を完成させましょう。			
担当者の 研究室等	11 号館 9 階 浮田准教授室			
備考	講義情報を twitter にて発信していきます。それほど頻繁ではありません(@toruukita)。 毎回 moodl において出席者に対してフィードバックを課しますがここでの質問等については、次回の講義にて解説を行います。 (参考)2022 年度の成績の結果は以下のとおりです(およその数) 登録者 129 名 受験者 102 名 A 評価 13 名 (13%) B 評価 13 名 (13%) C 評価 33 名 (32%) D 評価 30 名 (29%) EF 評価 (不合格)13 名 (13%)			

科目名	行政法総論	科目名（英文）	Administrative Law (General)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	笛木 淳
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2018a0		

授業概要・目的	私たちの生活にはさまざまな行政の活動が関わっています。行政法とは、そのような行政の活動やサービスの根拠や仕組みに関する法規範です。この授業では、行政プロセスを規律する法的な仕組み、ルールとしてどのようなものがあるか、具体例に即して学んでもらいます。
到達目標	この授業を通じて学生には、次の3点を達成できることが期待されます。 （１）具体例に即して、行政法の基本原則・原則を理解し、定義等を分かりやすく説明できる。 （２）具体例に即して、行政法の基本的な制度・仕組みを指摘できる。 （３）具体的問題について、行政法の原則、制度をもとに思考し、解決を提示できる。
授業方法と留意点	以下のような反転方式により授業を行います。 （１）事前学習：事前に配信・配布される動画・資料により知識の習得を図る。 この授業では予習が欠かせません。 （２）授業： (i) 知識の確認や事例演習等の〈個人ワーク〉 (ii) 教員による〈解説〉、 (iii) 学生個人による〈振り返り〉。 （３）授業資料等 ・教科書『スタンダード行政法』と解説用資料（PPT スライド）と演習レジュメ（Word ファイル）を用います。 ・授業資料等は事前に Teams 上にアップしますので、あらかじめダウンロード
科目学習の効果（資格）	以下の資格レベルにおける行政法基礎学力の習得。 ・国家公務員試験，地方上級試験 ・行政書士など ・法学検定「スタンダード」レベル（行政法）の習得

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	ガイダンス（授業方法、学習方法、成績評価），行政（法）の意義	（ア）事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書の序章，第1章第1節Ⅰ～ⅢⅢ（pp. 1-16）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 （イ）事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2時間）。
	2	行政法の法源，一般原則	行政法の法源，比例原則，信頼保護原則，平等原則	（ア）事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書の第1章第2節（pp. 17-24）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 （イ）事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2時間）。
	3	法律による行政の原理	法律の法規創造力，法律の優位，法律の留保	（ア）事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書の第1章第3節Ⅰ（pp. 25-29）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 （イ）事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2時間）。
	4	行政組織法	行政組織法の基本原理，行政主体，行政機関	（ア）事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書の第2章（pp. 59-74）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 （イ）事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2時間）。
	5	行政裁量・ 習熟度確認（小テスト）	行政裁量の意義，裁判所による司法審査との関係， 熟度確認のための演習（小テスト）	（ア）事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第1章第4節（pp. 30-41）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 （イ）事後学習：授業資料・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2時間）。
	6	行政立法	行政による基準定立，法規命令・行政規則	（ア）事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第3章第1節（pp. 78-88）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 （イ）事後学習：授業資料・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2時間）。
	7	行政行為（1）	行政行為の意義，種類，効力	（ア）事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第3章第2節Ⅰ～ⅢⅢ（pp. 89-102）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 （イ）事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2時間）。
	8	行政行為（2）	行政行為の瑕疵，職権取消し／撤回，附款	（ア）事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第3章第2節Ⅳ～Ⅵ（pp. 103-115）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 （イ）事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2時間）。
	9	行政手続	行政行為の手続を中心とした行政手続法。	（ア）事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第1章第5節（pp. 42-54），第3章第2節ⅧⅢⅢ（pp. 116-125）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 （イ）事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2時間）。

		10	行政計画・ 習熟度確認（小テスト）	行政計画の意義， 熟度確認のための演習（小テスト）	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し， 教科書第3章第5節（pp. 137-140）をあらかじめ 読んでおくこと（1時間）。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直 し，整理，要約する（2時間）。																
		11	行政指導	行政指導の意義，手続	事前配布資料に目を通し，教科書第3章第4節 （pp. 131-136）をあらかじめ読んでおくこと（1時 間）。																
		12	行政上の義務履行確保	行政上の強制執行，即時強制，制裁	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し， 教科書第4章（pp. 145-163）をあらかじめ読んでお くこと（1時間）。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直 し，整理，要約する（2時間）。																
		13	行政と情報（1）	行政調査，公文書管理制度，情報公開制 度	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し， 教科書第5章第1節～第3節（pp. 165-177）をあ らかじめ読んでおくこと（1時間）。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直 し，整理，要約する（2時間）。																
		14	行政と情報（2）	個人情報保護制度の仕組み	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し， 教科書第5章第4節（pp. 178-185）をあらかじめ 読んでおくこと（1時間）。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直 し，整理，要約する（2時間）。																
		15	授業総括・ 習熟度確認（小テスト）	習熟度確認テストと授業の全体総括	(ア) 事前学習：事前配布資料，これまでの 授業範囲を復習すること。 (イ) 事後学習：授業内の演習内容を見直 し，整理，要約する（2時間）。																
関連科目	憲法，民法																				
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>スタンダード行政法</td><td>村上裕章</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>					番号	書籍名	著者名	出版社名	1	スタンダード行政法	村上裕章	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																		
1	スタンダード行政法	村上裕章	有斐閣																		
2																					
3																					
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>行政法Ⅰ 現代行政過程論〔第4版〕</td><td>大橋洋一</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>2</td><td>社会とつながる行政法入門〔第2版〕</td><td>大橋洋一</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>3</td><td>行政法判例50！</td><td>大橋真由美ほか</td><td>有斐閣</td></tr></table>					番号	書籍名	著者名	出版社名	1	行政法Ⅰ 現代行政過程論〔第4版〕	大橋洋一	有斐閣	2	社会とつながる行政法入門〔第2版〕	大橋洋一	有斐閣	3	行政法判例50！	大橋真由美ほか	有斐閣
番号	書籍名	著者名	出版社名																		
1	行政法Ⅰ 現代行政過程論〔第4版〕	大橋洋一	有斐閣																		
2	社会とつながる行政法入門〔第2版〕	大橋洋一	有斐閣																		
3	行政法判例50！	大橋真由美ほか	有斐閣																		
評価方法 （基準）	*前年度と成績評価方法が異なります。 ・成績評価対象：第5回，第10回，第15回の習熟度確認小テストのみ。 ・成績内訳： 第5回：30％ 第10回：35％ 第15回：35％ ・テスト実施方法： 毎回出される復習課題から80％，新規問題20％ ・論述式の問題を出題する場合は，事前に問題を提示する。 ・持ち込みは原則不可。																				
学生への メッセージ	意欲的な学習が望まれます。																				
担当者の 研究室等	笛木講師室（11号館9階）																				
備考	復習課題は次回の授業で解説する。																				

科目名	行政法各論	科目名 (英文)	Administrative Law (Specific)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	笛木 淳
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2019a0		

授業概要・目的	国家の活動により損害・損失を被った市民には、さまざまな救済の手段・仕組みが準備されており、法治国原理の実現が企図されています。この授業では、そのような仕組み・ルールである行政救済法の基本について学んでもらいます。 この講義を通じて、学生には以下の3点を身につけることが期待されます。		
到達目標	(1) 行政救済法にはどのような仕組みがあるか理解し、それぞれの特徴を説明する能力。 (2) 行政訴訟上の具体的問題として典型的にどのようなものがあるかを理解し、これを解決するための考え方。 (3) 国家賠償・損失補償の具体的問題として典型的にどのようなものがあるかを理解し、これを解決するための考え方。		
授業方法と留意点	以下のような反転方式により授業を行います。 (1) 事前学習：事前に配信・配布される動画・資料により知識の習得を図る。 この授業では予習が欠かせません。 (2) 授業： (i) 知識の確認や事例演習等の〈個人ワーク〉 (ii) 教員による〈解説〉、 (iii) 学生個人による〈振り返り〉。 (3) 授業資料等 ・教科書『スタンダード行政法』と配布資料 (PPT スライド)、演習レジュメ (Word ファイル) を用います。 ・スライド資料等は事前に Teams 上にアップしますので、あらかじめダウンロード		
科目学習の効果 (資格)	以下の資格レベルにおける行政法基礎学力の習得。 ・国家公務員試験、地方上級試験等で問われる行政法の基礎学力の習得。 ・法学検定「スタンダード」レベル (行政法) の習得		
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等 事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	ガイダンス (授業方法、学習方法、成績評価)、行政救済法の全体像 (ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書の序章、第6章第1節 (pp. 187-200) をあらかじめ読んでおくこと (1 時間)。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直し、整理、要約する (2 時間)。
	2	取消訴訟の訴訟要件 (1)	抗告訴訟、訴訟要件、処分性 (ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書の第6章第2節 I (pp. 201-214) をあらかじめ読んでおくこと (1 時間)。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直し、整理、要約する (2 時間)。
	3	取消訴訟の訴訟要件 (2)	原告適格、法律上の利益、第三者 (ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書の第6章第2節 II (pp. 214-226) をあらかじめ読んでおくこと (1 時間)。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直し、整理、要約する (2 時間)。
	4	取消訴訟の訴訟要件 (3)	訴えの利益、提訴期間、被告適格など (ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書の第6章第2節 III-VIII (pp. 226-238) をあらかじめ読んでおくこと (1 時間)。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直し、整理、要約する (2 時間)。
	5	取消訴訟の判決 習熟度確認 (小テスト)	既判力・形成力・拘束力 熟度確認のための演習 (小テスト) (ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書第6章第4節 (pp. 249-252) をあらかじめ読んでおくこと (1 時間)。 (イ) 事後学習：授業資料・教科書の内容を見直し、整理、要約する (2 時間)。
	6	取消訴訟の審理	本案審理における基本的な仕組み (ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書第6章第3節 (pp. 239-246) をあらかじめ読んでおくこと (1 時間)。 (イ) 事後学習：授業資料・教科書の内容を見直し、整理、要約する (2 時間)。
	7	無効等確認訴訟	無効等確認訴訟の意義・公定力、重大な違法、補充性 (ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書第6章第5節 I (pp. 253-258) をあらかじめ読んでおくこと (1 時間)。 (イ) 事後学習：授業資料・教科書の内容を見直し、整理、要約する (2 時間)。
	8	義務付け訴訟・不作為の違法確認訴訟	義務付け・不作為違法確認の訴えの意義と機能 (ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書第6章第5節 II~III (pp. 258-272) をあらかじめ読んでおくこと (1 時間)。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直し、整理、要約する (2 時間)。

	9	公法上の当事者訴訟	公法上の当事者訴訟の意義と機能	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第6章第5節Ⅴ (pp. 272-276) をあらかじめ読んでおくこと (1時間)。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する (2時間)。																
	10	客観訴訟・ 習熟度確認 (小テスト)	司法権，法律上の争訟，客観訴訟 習熟度確認の演習 (小テスト)	(ア) 事前学習：事前配布資料をあらかじめ読んでおくこと (1時間)。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する (2時間)。																
	11	行政の不服申立てについて	行政不服申立ての意義，基本的仕組み	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第6章第7節 (pp. 282-295) をあらかじめ読んでおくこと (1時間)。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する (2時間)。																
	12	国家賠償訴訟 (1)	公権力責任，過失，違法性	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第7章第1節Ⅰ～Ⅱ (pp. 301-326) をあらかじめ読んでおくこと (1時間)。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する (2時間)。																
	13	国家賠償訴訟 (2)	営造物責任，瑕疵概念，判例	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第7章第1節Ⅲ～Ⅳ (pp. 327-339) をあらかじめ読んでおくこと (1時間)。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する (2時間)。																
	14	損失補償	財産権，公用収用，特別の犠牲	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第7章第2節 (pp. 340-353) をあらかじめ読んでおくこと (1時間)。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する (2時間)。																
	15	授業総括 習熟度確認 (小テスト)	習熟度確認テストと授業の全体総括	(ア) 事前学習：事前配布資料，これまでの授業範囲を復習すること。 (イ) 事後学習：授業内の演習内容を見直し，整理，要約する (2時間)。																
関連科目	憲法，民事訴訟法 (履修済みか並行して履修することが望ましい)																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>スタンダード行政法</td><td>村上裕章</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	スタンダード行政法	村上裕章	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	スタンダード行政法	村上裕章	有斐閣																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>行政法判例50！</td><td>大橋真由美ほか</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>2</td><td>行政法Ⅱ 現代行政救済論 [第4版]</td><td>大橋洋一</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>3</td><td>行政法Ⅱ 行政救済法 [第6版]</td><td>塩野宏</td><td>有斐閣</td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	行政法判例50！	大橋真由美ほか	有斐閣	2	行政法Ⅱ 現代行政救済論 [第4版]	大橋洋一	有斐閣	3	行政法Ⅱ 行政救済法 [第6版]	塩野宏	有斐閣
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	行政法判例50！	大橋真由美ほか	有斐閣																	
2	行政法Ⅱ 現代行政救済論 [第4版]	大橋洋一	有斐閣																	
3	行政法Ⅱ 行政救済法 [第6版]	塩野宏	有斐閣																	
評価方法 (基準)	*前年度と成績評価方法が異なります。 ・成績評価対象：第5回，第10回，第15回の習熟度確認小テストのみ。 ・成績内訳： 第5回：30％ 第10回：35％ 第15回：35％ ・テスト実施方法： 毎回出される復習課題から80％，新規問題20％ ・論述式の問題を出題する場合は，事前に問題を提示する。 ・持ち込みは原則不可。																			
学生への メッセージ	公務員志望者，社会問題に関心のある方の受講を歓迎します。																			
担当者の 研究室等	笛木講師室 (11号館9階)																			
備考	演習課題は次回の授業で解説する。																			

科目名	地方自治法	科目名（英文）	Local Autonomy Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	笛木 淳
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3020a0		

授業概要・目的	我々の生活を支える行政活動・サービスは地方自治体の存在なくして語ることはできません。この講義では、そのような地方自治体が活動するための最も基本的な原理である「地方自治」とは何かを、地方自治法を中心に理解してもらうことを目的としています。 この講義を通じて、学生には次のスキルを身につけることが期待されます。
到達目標	（１）地方自治の基本的な法的ルール・仕組みを理解し、分かりやすく説明できる。 （２）地方における具体的な課題について、地方自治法に即して問題を理解し、解決できる。
授業方法と留意点	・反転授業 予め事前資料に目を通し、基礎知識を身に着けた上で授業に臨んでください。授業ではこれらの基礎知識を問う問題と、発展的な課題を扱います。 ・授業資料 レジュメは事前にパワーポイントをアップしますので、そちらをあらかじめダウンロードした上で受講してください（授業中の配布はありません）。 ・その他 授業中は、質疑応答を通じて受講生との双方向型のコミュニケーションを図り、皆さんの理解を助けるようにします。間違いをおそれずに積極的に発言することが望まれます。
科目学習の効果（資格）	公務員試験および資格試験各種に必要な地方自治法の基礎学力の習得。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、地方自治とは何か	講義の進め方、期末試験、成績評価など。「地方自治の本旨」、地方自治の歴史	事前：教科書第1章、第2章をあらかじめ読む（特に第1章を中心に）（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し、整理・要約する（2時間）。
	2	地方公共団体って何？	普通地方公共団体、特別地方公共団体	事前：教科書第3章をあらかじめ読む（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し、整理・要約する（2時間）。
	3	住民って何？	住民の法的地位、住民参加の仕組み、住民投票制度について	事前：教科書第4章をあらかじめ読む（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し、整理・要約する（2時間）。
	4	地方公共団体の仕事にはどのようなものがあるか	地方公共団体の処理する事務の性質（自治事務、法定受託事務）	事前：教科書第5章をあらかじめ読む（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し、整理・要約する（2時間）。
	5	国と地方の関係	関与の基本類型、関与の仕組み	事前：教科書第6章をあらかじめ読む（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し、整理・要約する（2時間）。
	6	自主行政権（１）	自治体の行政活動と街づくりの手法	事前：教科書第7章をあらかじめ読む（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し、整理・要約する（2時間）。
	7	自主行政権（２）	情報公開・個人情報保護	事前：教科書第8章をあらかじめ読む（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し、整理・要約する（2時間）。
	8	自主財政権	地方財政法 地方の財政調整・財源保障（地方交付税、国庫支出金，地方債）	事前：教科書第9章をあらかじめ読む（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し、整理・要約する（2時間）。
	9	自主立法権	条例制定権の意義と限界	事前：教科書第10章をあらかじめ読む（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し、整理・要約する（2時間）。
	10	自治体の組織（１）	議会、長の法的地位、権限	事前：教科書第11章をあらかじめ読む（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し、整理・要約する（2時間）。
	11	自治体の組織（２）	委員会と委員、附属機関、監査	事前：教科書第12章をあらかじめ読む（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し、整理・要約する（2時間）。
	12	住民による自治体のチェック	住民監査請求，住民訴訟	事前：教科書第13章をあらかじめ読む（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し、整理・要約する（2時間）。
	13	公の施設の管理	公の施設の設置，管理の仕組み	事前：教科書第14章をあらかじめ読む（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し、整理・要約する（2時間）。
	14	地方公務員法	地方公務員の勤務関係，義務・責任	事前：教科書第15章をあらかじめ読む（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し、整理・要約する（2時間）。
	15	総括	これまでの講義の復習	事前：これまでの整理・要約ノートを講義前までにあらかじめ読み返す（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し、整理・要約する。演習課題に取り組む（2時間）。

関連科目	憲法、行政法			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	自治体職員のためのようこそ地方自治法【第3版】	板垣勝彦	第一法規

	2			
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	*必要に応じて授業で指示します。		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	この授業では、予習課題または復習課題を課し、その提出内容（事前の取り組みと授業理解度）により評価します（100％）。			
学生への メッセージ	地方公務員志望者，地方行政について関心のある学生の受講を歓迎します。			
担当者の 研究室等	笛木講師室（11 号館 9 階）			
備考	復習課題は次回の授業で解説する。			

科目名	租税法Ⅰ	科目名（英文）	Tax LawⅠ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	團野 正浩
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3021a0		

授業概要・目的	税は皆さんにとって非常に身近なものです。租税法Ⅰ・Ⅱを通じて、社会人として最低限知っておくべき税の基礎知識（仕組みやルール）から、ビジネスに関わる税の様々な論点まで幅広く学習していきます。 この租税法Ⅰでは、租税法の基本事項と所得税を中心に学びます。
到達目標	この授業を通じて、次の目標を達成することが期待されます。 ・ 租税法に共通する基礎的な知識を理解できるようになること ・ 最も身近な税である所得税について基本的な仕組みを理解できるようになること
授業方法と留意点	原則として、対面方式による講義を行います。決まった教科書は使用しませんので、出席者は、基本的にノートを取るようにしてください。授業の中でレジュメを配付する場合がありますが、これはノートを整理する助けとするために配付するものです。 理解度を確保するために、授業の中で小テストを行います。タイミング等については授業の中でお知らせします。
科目学習の効果（資格）	租税法の知識は、社会に出てビジネスに関わる際には必須の知識です。これを身に着けることで、ビジネスの世界をより深く理解できるようになります。 また、公務員試験（国家公務員（特に国税専門官）、地方公務員など）、資格試験（税理士、ファイナンシャルプランナーなど）を目指す人々にとっては、入門的な講座になると考えられます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	私たちの生活と税	租税の意義、租税の根拠と配分、財政の中の租税、税に関わる職業	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
	2	租税法序論（Ⅰ）	租税の術後、租税の分類、租税の原則、国民の租税負担、租税の体系	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
	3	租税法序論（Ⅱ）	税法の基本原則、税法の法源、税法の改正	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
	4	税法の解釈と適用	税法の読み方、税法を読む際に注意すべき表現、税法の解釈と適用	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
	5	税務手続	納税義務の成立、納付すべき税額の確定、申告納税制度と所得税	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
	6	税務行政	税制の企画・立案と税務行政の組織と権限、税理士制度	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
	7	納税者の権利救済	納税者の権利救済制度の概要、不服申立て、訴訟	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
	8	所得課税概論	「所得」とは何か、所得税と法人税の違い	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
	9	所得税法（Ⅰ）	所得税の概要、所得税法における所得、所得税の課税範囲、納税義務者と納税地、所得の帰属ルール、所得の種類	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
	10	所得税法（Ⅱ）	利子所得、配当所得、給与所得、退職所得	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
	11	所得税法（Ⅲ）	不動産所得、事業所得、山林所得	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
	12	所得税法（Ⅳ）	譲渡所得、一時所得、雑所得	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
	13	所得税法（Ⅴ）	所得金額計算の通則、所得税の課税標準、損益通算及び損失の繰越控除、所得税の課税の特例、所得税の税額計算	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
	14	所得税法（Ⅵ）	源泉徴収制度の概要、源泉徴収の対象、納税義務、源泉徴収の法律関係、居住者の源泉徴収と確定申告の関係など	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
	15	所得税法を巡る主な論点／まとめ	所得税法を巡る主な論点／まとめ	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間）

				事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
関連科目	憲法、民法、行政法、商法など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	租税法	金子宏	弘文堂
	2	スタンダード所得税法	佐藤英明	弘文堂
	3	税法概論	図子善信	大蔵財務協会
評価方法 （基準）	期末試験の点数（60％）と小テストの点数（40％）の合計で評価します。			
学生への メッセージ	各回の授業内容は密接につながっていますので、租税法を理解するためには、授業の復習を欠かさずに、継続的な学習をお勧めします。			
担当者の 研究室等	11号館10階 團野研究室			
備考	税に関わる用語は日常生活の中にあふれています。また、税に関わる議論を耳にすることも多いと思います。 事前学習としては、シラバスに書かれているテーマから、皆さんが身近に感じている税務の問題点を考えてきてください（約1時間）。 事後学習としては、レジュメを読み直して、ノートを整理してください。その際には、事前学習で検討してきた問題点をどのように捉えることができたのかを確認願います。			

科目名	租税法Ⅱ	科目名（英文）	Tax Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	團野 正浩
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3022a0		

授業概要・目的	ビジネス活動においては、その活動が法人税や消費税の負担にどのような影響があるのかについて検討しておくことは非常に重要です。 また、相続は人生の中で何度も経験することではありませんが、相続税法は、相続時に課される相続税だけでなく、世代間の財産の移転に対する課税全般について規定されており、最低限の知識は持つおくべきです。 租税法Ⅱでは、法人税法、消費税法及び相続税法の基本事項を中心に学びます。
到達目標	この授業を通じて、次の目標を達成することが期待されます。 ・ ビジネス活動に関係する法人税及び消費税の基本的な仕組みを理解できるようになること ・ 国際的な取引における課税問題についての知識を持つようになること ・ 相続税及び贈与税の知識を持ち、相続にかかる様々な課税上の論点について理解できるようになること
授業方法と留意点	原則として、対面方式による講義を行います。決まった教科書は使用しませんので、出席者は、基本的にノートを取るようになしてください。授業の中でレジュメを配付する場合がありますが、これはノートを整理する助けとするために配付するものです。 理解度を確保するために、授業の中で小テストを行います。タイミング等については授業の中でお知らせします。
科目学習の効果（資格）	租税法の知識は、社会に出てビジネスに関わる際に必須の知識です。これを身に着けることで、ビジネスの世界をより深く理解できるようになります。 また、公務員試験（国家公務員（特に国税専門官）、地方公務員など）、資格試験（税理士、ファイナンシャルプランナーなど）を目指す人々にとっては、入門的な講座になると考えられます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	法人の経済活動と法人税	企業会計と法人税の関係、法人税の特徴、個人と法人の違いなど	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約 1 時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約 3 時間）
	2	法人税法（Ⅰ）	法人税の意義、納税義務者	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約 1 時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約 3 時間）
	3	法人税法（Ⅱ）	法人税法 22 条と別段の定め	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約 1 時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約 3 時間）
	4	法人税法（Ⅲ）	法人税の計算、同族会社、グループ法人の課税	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約 1 時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約 3 時間）
	5	法人税を巡る主な論点	法人税を巡る主要な裁判例等	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約 1 時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約 3 時間）
	6	国際課税（Ⅰ）	企業活動の国際化と課税、租税条約	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約 1 時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約 3 時間）
	7	国際課税（Ⅱ）	国際的租税回避、移転価格税制、タックスヘイブン税制など	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約 1 時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約 3 時間）
	8	消費税と個別間接税（Ⅰ）	消費課税の意義、消費税と個別間接税の違い	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約 1 時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約 3 時間）
	9	消費税と個別間接税（Ⅱ）	消費税の仕組み、課税取引・非課税取引・免税取引、仕入税額控除など	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約 1 時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約 3 時間）
	10	消費税と個別間接税（Ⅲ）	申告・納税、記帳とインボイスなど	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約 1 時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約 3 時間）
	11	相続税法（Ⅰ）	民法（相続編）の基本事項、民法と相続税法の関係	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約 1 時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約 3 時間）
	12	相続税法（Ⅱ）	相続税の意義、相続税の課税方式、納税義務者等	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約 1 時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約 3 時間）
	13	相続税法（Ⅲ）	贈与税の意義、相続時精算課税、課税標準と税額計算等	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約 1 時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約 3 時間）
	14	相続税法を巡る主な論点	相続税・贈与税を巡る主要な裁判例等	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約 1 時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約 3 時間）

	15	全体のまとめ	タックス・コンプライアンス、最近の税制改正、租税回避への対策など	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
関連科目	憲法、民法、商法、行政法など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	租税法	金子宏	弘文堂
	2	スタンダード法人税法	渡辺徹也	弘文堂
	3	税法概論	関子善信	大蔵財務協会
評価方法 (基準)	期末試験の点数（60%）と小テストの点数（40%）の合計で評価します。			
学生への メッセージ	各回の授業内容は密接につながっていますので、租税法を理解するためには、授業の復習を欠かさずに、継続的な学習をお勧めします。			
担当者の 研究室等	11号館10階 團野研究室			
備考	税に関わる用語は日常生活の中にあふれています。また、税に関わる議論を耳にすることも多いと思います。 事前学習としては、シラバスに書かれているテーマから、皆さんが身近に感じている税務の問題点を考えてきてください（約1時間）。 事後学習としては、レジュメを読み直して、ノートを整理してください。その際には、事前学習で検討してきた問題点をどのように捉えることができたのかを確認願います。			

科目名	刑法総論	科目名（英文）	Criminal Law (General)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2024a0		

授業概要・目的	・刑法総論は、全ての犯罪に共通する犯罪成立要件論と刑罰論に関する一般原則を探究する学問である。 ・刑法ⅠA（総論①）では、刑法の機能、刑法の解釈と罪刑法定主義、主として単独正犯を念頭に置いた犯罪成立要件論として、構成要件論、違法性論、責任論をめぐる諸問題について概説する。なお、刑法総論で取り扱う事項のうち、「修正された構成要件論（未遂犯論と共犯論）」、および、「罪数論」ほかについては刑法ⅡB（総論②）で取り扱うので注意されたい。 ・刑法総論は、個別の犯罪を離れた犯罪一般を考察対象とするため、抽象的な犯罪論体系に関する議論が多い。そのため、初学者にはやや難しく感じられるかもしれないが、なるべく身近な具体例を用いて分かりやすく解説する。																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、 ・刑法の謙抑性、罪刑法定主義およびその派生原則を説明できる ・刑法総論をテーマとした事例における論点（問題の争点）を抽出し、それに対する判例や通説的見解の内容を説明できる ・各種公務員試験や国家試験で必要とされる刑法総論に関する知識を修得できる ようになることが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICT ツールとして Microsoft 社の teams を用いる。 ・課題提示や資料配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 ・近時、刑事法の改正が相次いでいるので、最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を																																																																		
科目学習の効果（資格）	・「刑法総論」および「刑法各論」をしっかり受講すれば、法学検定、地方公務員上級職採用試験、労働基準監督官採用試験（大卒）、裁判所事務官採用試験、および、司法書士試験で出題される「刑法総論」の問題を確実に処理することができるようになる。																																																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr><tr><td>1</td><td>ガイダンスと文献紹介 刑法と刑法学</td><td> ・授業の進め方と文献紹介 ・刑法の意義 ・刑法の機能 ・刑法学とは何か </td><td>事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）</td></tr><tr><td>2</td><td>刑法の基礎</td><td> ・古典学派と近代学派 ・わが国の刑法思想と刑法学 ・刑法の法源 ・刑法の解釈 ・罪刑法定主義 </td><td>事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）</td></tr><tr><td>3</td><td>刑法の法源と解釈</td><td> ・罪刑法定主義 ・刑罰の正当化根拠 ・刑法の適用範囲 </td><td>事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）</td></tr><tr><td>4</td><td>犯罪の基本概念</td><td> ・犯罪の概念 ・犯罪論の体系 ・刑法上の行為 </td><td>事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）</td></tr><tr><td>5</td><td>構成要件</td><td> ・構成要件の概念 ・構成要件要素 </td><td>事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）</td></tr><tr><td>6</td><td>構成要件該当性 1</td><td> ・実行行為とは何か ・実行行為の客観面 </td><td>事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）</td></tr><tr><td>7</td><td>構成要件該当性 2</td><td> ・実行行為の主観面 （構成要件の故意と構成要件の錯誤） </td><td>事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）</td></tr><tr><td>8</td><td>構成要件該当性 3</td><td> ・刑法上の因果関係論 </td><td>事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）</td></tr><tr><td>9</td><td>構成要件該当性のまとめ</td><td> ・構成要件該当性に関する重要論点の総復習 </td><td>事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）</td></tr><tr><td>10</td><td>違法性阻却事由 1</td><td> ・違法性とは何か ・正当行為と正当業務行為 </td><td>事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）</td></tr><tr><td>11</td><td>違法性阻却事由 2</td><td> ・正当防衛 ・過剰防衛 </td><td>事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）</td></tr><tr><td>12</td><td>違法性阻却事由 3</td><td> ・緊急避難 ・過剰避難 ・超法規的違法性阻却事由 </td><td>事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）</td></tr><tr><td>13</td><td>責任阻却事由 1</td><td> ・責任とは何か ・責任能力 </td><td>事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）</td></tr><tr><td>14</td><td>責任阻却事由 2</td><td> ・違法性の意識とその可能性 ・誤想（過剰）防衛 ・誤想（過剰）避難 ・期待可能性 </td><td>事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）</td></tr><tr><td>15</td><td>違法性および責任阻却事由のまとめ</td><td> ・違法性および責任阻却事由に関する重要論点の総復習 </td><td>事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）</td></tr></table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンスと文献紹介 刑法と刑法学	・授業の進め方と文献紹介 ・刑法の意義 ・刑法の機能 ・刑法学とは何か	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	2	刑法の基礎	・古典学派と近代学派 ・わが国の刑法思想と刑法学 ・刑法の法源 ・刑法の解釈 ・罪刑法定主義	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	3	刑法の法源と解釈	・罪刑法定主義 ・刑罰の正当化根拠 ・刑法の適用範囲	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	4	犯罪の基本概念	・犯罪の概念 ・犯罪論の体系 ・刑法上の行為	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	5	構成要件	・構成要件の概念 ・構成要件要素	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	6	構成要件該当性 1	・実行行為とは何か ・実行行為の客観面	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	7	構成要件該当性 2	・実行行為の主観面 （構成要件の故意と構成要件の錯誤）	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	8	構成要件該当性 3	・刑法上の因果関係論	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	9	構成要件該当性のまとめ	・構成要件該当性に関する重要論点の総復習	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	10	違法性阻却事由 1	・違法性とは何か ・正当行為と正当業務行為	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	11	違法性阻却事由 2	・正当防衛 ・過剰防衛	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	12	違法性阻却事由 3	・緊急避難 ・過剰避難 ・超法規的違法性阻却事由	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	13	責任阻却事由 1	・責任とは何か ・責任能力	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	14	責任阻却事由 2	・違法性の意識とその可能性 ・誤想（過剰）防衛 ・誤想（過剰）避難 ・期待可能性	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	15	違法性および責任阻却事由のまとめ	・違法性および責任阻却事由に関する重要論点の総復習	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンスと文献紹介 刑法と刑法学	・授業の進め方と文献紹介 ・刑法の意義 ・刑法の機能 ・刑法学とは何か	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
2	刑法の基礎	・古典学派と近代学派 ・わが国の刑法思想と刑法学 ・刑法の法源 ・刑法の解釈 ・罪刑法定主義	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
3	刑法の法源と解釈	・罪刑法定主義 ・刑罰の正当化根拠 ・刑法の適用範囲	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
4	犯罪の基本概念	・犯罪の概念 ・犯罪論の体系 ・刑法上の行為	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
5	構成要件	・構成要件の概念 ・構成要件要素	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
6	構成要件該当性 1	・実行行為とは何か ・実行行為の客観面	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
7	構成要件該当性 2	・実行行為の主観面 （構成要件の故意と構成要件の錯誤）	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
8	構成要件該当性 3	・刑法上の因果関係論	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
9	構成要件該当性のまとめ	・構成要件該当性に関する重要論点の総復習	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
10	違法性阻却事由 1	・違法性とは何か ・正当行為と正当業務行為	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
11	違法性阻却事由 2	・正当防衛 ・過剰防衛	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
12	違法性阻却事由 3	・緊急避難 ・過剰避難 ・超法規的違法性阻却事由	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
13	責任阻却事由 1	・責任とは何か ・責任能力	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
14	責任阻却事由 2	・違法性の意識とその可能性 ・誤想（過剰）防衛 ・誤想（過剰）避難 ・期待可能性	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
15	違法性および責任阻却事由のまとめ	・違法性および責任阻却事由に関する重要論点の総復習	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
関連科目	刑事法概論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策																																																																		

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	刑法総論の基礎と応用	佐久間修	成文堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	開講時に各種判例・補助教材を紹介する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	・形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft forms から課題を配信する。各回の課題の得点を合算して評価対象とする（講義の理解度 5%+課題の得点 95%）。定期試験は実施しない。			
学生への メッセージ	・法律学の学習は予習よりも問題演習を中心とした復習が効果的です。 ・問題演習の素材としては、公務員試験や司法書士試験で出題される刑法の問題がさしあたり有効です。 ・問題集は開講時に紹介します。 ・公務員（地方行政職、国家行政職、警察、消防、刑務、裁判所事務官、検察事務官）試験やロースクールをはじめとする大学院の受験を意識している学生はなるべく受講するようにしてください。 ・総論上の争点とそれに対する判例ないし通説を正確に理解すれば、公務員試験はむしろ易しい類です。決して臆することなく果敢にチャレンジしてください。 ・新聞、テレビ、ラジオ、ネットなど媒体は問いませんが、刑法に関する面白いネタがたくさん落ちていきますので、なるべくニュースに接するようにしましょう。			
担当者の 研究室等	11 号館 10 階 小野教授室			
備考	本講義は、オンデマンド動画配信による授業を数回程度行うことがあります。 オンデマンド動画配信による授業の際には、事前に teams の授業チャネルで告知するとともに、teams アプリより通知をします。			

科目名	刑法各論	科目名（英文）	Criminal Law (Specific)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2025a0		

授業概要・目的	・刑法各論は、各種犯罪の個別成立要件とその適用の限界について考察する学問である。 ・刑法各論は刑法総論よりも具体的でわかりやすいが、個別犯罪の適用範囲や限界について細かな議論をする必要があり、適用する条文の検討に注意を要する。 ・刑法各論は、個別の犯罪を考察対象とするため、具体的な議論が多い。 そのため、初学者にはやや学問としての体系性がつかみづらく感じられるかもしれないが、なるべく身近な具体例を用いて体系的に解説する。 ・なお、個人的法益に対する罪にうち、財産犯（財産犯総論、窃盗、強盗、詐欺、恐喝、横領、背任、盗品等関与、器物損壊などの罪）については刑法ⅡB（各論②）で取り扱うので注意されたい。
到達目標	この講義を通じて学生には、 ・個別犯罪における保護法益を説明できる ・個別の犯罪の成立要件の範囲について正確に理解できる ・刑法各論をテーマとした事例における論点（問題の争点）を抽出し、それに対する判例や通説的見解の内容を説明できる ・各種公務員試験や国家試験で必要とされる刑法総論に関する知識を修得できる」 ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICT ツールとして Microsoft 社の teams を用いる。 ・課題提示や資料配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 ・近時、刑事法の改正が相次いでいるので、最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を
科目学習の効果（資格）	・「刑法総論」および「刑法各論」をしっかり受講すれば、法学検定、地方公務員上級職採用試験、労働基準監督官採用試験（大卒）、裁判所事務官採用試験、および、司法書士試験で出題される「刑法総論」の問題を確実に処理することができるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンスと文献紹介 刑法各論と刑法学	・授業の進め方と文献紹介 ・刑法各論の意義 ・犯罪の処罰根拠と保護法益	・教科書の入手 事前：序章をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：犯罪の処罰根拠と保護法益の関係性を見直し、ノートにまとめること（2 時間）
	2	生命・身体に対する罪 1	・人の始期と終期 ・殺人の罪	事前：「殺人の罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「殺人の罪」を見直し、関連する問題を解くこと（2 時間）
	3	生命・身体に対する罪 2	・傷害の罪 ・過失傷害の罪	事前：「傷害の罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「傷害の罪」を見直し、関連する問題を解くこと（2 時間）
	4	生命・身体に対する罪 3	・堕胎の罪	事前：「堕胎の罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「堕胎の罪」を見直し、関連する問題を解くこと（2 時間）
	5	生命・身体に対する罪 4	・遺棄の罪	事前：「遺棄の罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「遺棄の罪」を見直し、関連する問題を解くこと（2 時間）
	6	自由・私生活の平穏に対する罪 1	・逮捕、監禁の罪 ・脅迫の罪	事前：「逮捕・監禁・脅迫の罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「逮捕・監禁・脅迫の罪」を見直し、関連する問題を解くこと（2 時間）
	7	自由・私生活の平穏に対する罪 2	・略取、誘拐および人身売買の罪	事前：「略取、誘拐および人身売買の罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「略取、誘拐および人身売買の罪」を見直し、関連する問題を解くこと（2 時間）
	8	自由・私生活の平穏に対する罪 3	・性的自由に対する罪	事前：第 1 部第 2 章「性的自由に対する罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「性的自由に対する罪」を見直し、関連する問題を解くこと（2 時間）
	9	自由・私生活の平穏に対する罪 4 名誉と信用に対する罪	・住居を侵す罪 ・業務に対する罪 ・秘密を侵す罪 ・名誉と信用に対する罪	事前：第 1 部第 2 章「住居を侵す罪」および第 3 章「名誉に対する罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「住居を侵す罪」および「名誉に対する罪」を見直し、関連する問題を解くこと（2 時間）
	10	個人的法益に対する罪（財産犯を除く）のまとめ	第 1 回から第 9 回までの重要論点を総復習	事前：これまでまでの内容をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：これまでの関連問題を見直すこと（2 時間）
	11	公共の安全に対する罪	・放火、失火の罪	事前：「放火の罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第 2 部第 1 章「放火の罪」を見直し、関連する問題を解くこと（2 時間）
	12	風俗に対する罪	・死体損壊等の罪 ・賭博に関する罪	事前：「風俗に対する罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「風俗に対する罪」を見直し、関連する問題を解くこと（2 時間）
	13	国家作用に対する罪 1	・公務の執行を妨害する罪 ・犯人蔵匿の罪 ・証拠隠滅の罪 ・虚偽告訴の罪	事前：「公務の執行を妨害する罪」、「犯人蔵匿の罪」、「証拠隠滅の罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「公務の執行を妨害する罪」、「犯人蔵匿の罪」、「証拠隠滅の罪」を見直し、関連する問題を解くこと（2 時間）
	14	国家作用に対する罪 2	・汚職の罪	事前：「汚職の罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「汚職の罪」を見直し、関連する問題を解くこと（2 時間）

	15	社会的法益および国家的法益に対する罪（財産犯を除く）のまとめ	第10回から第14回までの重要論点を総復習	事前：これまでの内容をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：これまでの内容を見直し、関連問題を見直すこと（2時間）
関連科目	刑事法概論、刑法総論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	刑法基本講義 総論・各論（第3版補訂版）	佐久間修＝橋本正博＝上嶋一高	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	開講時に説明する		
	2			
	3			
評価方法（基準）	・形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft forms から課題を配信し、その回答内容を合算して評価対象とする（講義の理解度 5%＋課題の得点 95%）。			
学生へのメッセージ	・法律学の学習は予習よりも問題演習を中心とした復習が効果的です。 ・問題演習の素材としては、公務員試験や司法書士試験で出題される刑法の問題がさしあたり有効です。 ・問題集は開講時に紹介します。 ・公務員（地方行政職、国家行政職、警察、消防、刑務、裁判所事務官、検察事務官）試験やロースクールをはじめとする大学院の受験を意識している学生はなるべく受講するようにしてください。 ・総論上の争点とそれに対する判例ないし通説を正確に理解すれば、公務員試験はむしろ易しい類です。決して臆することなく果敢にチャレンジしてください。 ・新聞、テレビ、ラジオ、ネットなど媒体は問いませんが、刑法に関する面白いネタがたくさん落ちていきますので、なるべくニュースに接するようにしましょう。			
担当者の研究室等	11 号館 10 階 小野教授室			
備考	本講義は、オンデマンド動画配信による授業を数回程度行うことがあります。 オンデマンド動画配信による授業の際には、事前に teams の授業チャネルで告知するとともに、teams アプリより通知をします。			

科目名	経済刑法	科目名（英文）	Economic Criminal Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3026a0		

授業概要・目的	・経済刑法では、経済活動を規制する刑罰法規につき、刑事実体法、刑事手続法、および、刑事学などの観点から、経済犯罪をめぐる諸問題について総合的に検討する。
到達目標	この講義を通じて学生には、 ・経済犯罪とは何かを説明できる ・論点（問題の争点）を抽出し、それに対する判例や通説的見解を説明できる ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICT ツールとして Microsoft 社の teams を用いる。 ・課題提示や資料配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。
科目学習の効果（資格）	・ビジネス科目ともいべき本科目を学習することで、卒業後の進路に応じ、企業法務、行政実務及び警察実務においてすぐにでも役立つ経済刑法上の基本知識が身につく。 ・公務員試験に出題される刑法の問題を素早く解けるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 刑法の基礎理論（復習） 経済刑法の概念	・文献紹介 ・刑法の機能と解釈 ・罪刑法定主義 ・経済刑法とは何か ・刑法各論と経済刑法の関係	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	2	企業の刑事責任	企業活動と刑事法	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	3	営業秘密の保護	秘密保護と刑事法	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	4	不正アクセス	不正アクセスと刑事法	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	5	悪質商法	悪質商法と刑事法	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	6	破産犯罪	倒産と刑事法	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	7	不正な経営判断	経営判断と刑事法	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	8	汚職	汚職犯罪	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	9	粉飾決算	会社犯罪と刑事法	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	10	インサイダー取引	金融商品と刑事法	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	11	カルテル	独占禁止法と刑事法	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	12	知的財産権の保護	知的財産権と刑事法	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	13	製品事故	製造物責任と刑事法	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	14	脱税	租税犯罪と刑事法	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	15	まとめ	これまでの講義の総まとめ	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）

関連科目	刑事法概論、刑法総論、刑法各論、刑事訴訟法、刑事学、会社法、独占禁止法、知的財産法ほか
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基本学習・企業犯罪と経済刑法	松澤伸ほか	商事法務
	2	2024 年度から新しい教科書に変更します		
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	体系経済刑法：経済活動における罪と罰	佐久間 修	中央経済社

	2			
	3			
評価方法 (基準)	・ 形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft forms から課題を配信する。各回の課題の得点を合算して評価対象とする（講義の理解度 5%＋課題の得点 95%）。定期試験は実施しない。			
学生への メッセージ	・ 企業をめぐる犯罪を多く取り扱うので、民間企業志望者を大歓迎する。 ・ 公務員の職務に関するテーマが多いので、公務員志望者はできるだけ受講すること。			
担当者の 研究室等	11 号館 10 階 小野教授室			
備考	本講義は、オンデマンド動画配信による授業を数回程度行うことがあります。 オンデマンド動画配信による授業の際には、事前に teams の授業チャンネルで告知するとともに、teams アプリより通知をします。			

科目名	刑事政策	科目名（英文）	Criminal Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	島田 良一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3027a0		

授業概要・目的	本授業では、犯罪者処遇に関する法制度や刑罰の意義・機能などについて、学説、実務の動向などを踏まえながら解説する。
到達目標	本授業を通じて学生には、刑事政策のうち、犯罪者処遇に関する法制度や刑罰の意義・機能などに関する基本的な知識を修得することが期待される。
授業方法と留意点	授業担当者作成にかかるレジュメに基づいて授業を進めていくが、各回の授業テーマに応じて、視聴覚教材等も使用する予定である。 なお、授業期間中に、社会の注目を集めるような事件・裁判があった場合、授業の内容を一部変更することもあるので、その点だけ留意されたい。
科目学習の効果（資格）	資格試験等には直接役には立たないが、将来、法曹三者や検察事務官、裁判所事務官、家庭裁判所調査官、刑務官、法務教官保護観察官、警察官などを目指している学生には有益な内容であると考えられる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業の内容および進め方に関する説明、文献・参考書の紹介	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）
	2	司法的処遇について①	捜査段階（警察）における犯罪者処遇について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）
	3	司法的処遇について②	捜査段階（検察）における犯罪者処遇について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）
	4	司法的処遇について③	裁判段階における犯罪者処遇について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）
	5	刑罰について①	総論・自由刑について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）
	6	刑罰について②	財産刑について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）
	7	刑罰について③	死刑について①	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）
	8	刑罰について④	死刑について②	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）
	9	施設内処遇について①	刑務所における処遇について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）
	10	施設内処遇について②	刑務所における就労支援の取組みについて・総論	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）
	11	施設内処遇について③	刑務所における就労支援の取組みについて・各論	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）
	12	社会内処遇について①	保護観察、更生緊急保護などについて	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）
	13	社会内処遇について②	社会内における就労支援の取組みについて	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）
	14	犯罪被害者について	犯罪被害者法制や犯罪被害者に対する支援制度について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）
	15	まとめ	重要論点の再解説	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）

関連科目	刑事法に関連するすべての科目
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	刑事政策（第 3 版）	川出敏裕・金光旭	成文堂
	2	ビギナーズ刑事政策（第 3 版補訂第 2 版）	守山正・安部哲夫	成文堂
	3	犯罪白書（各年度版）	法務総合研究所編	法務省

評価方法（基準）	定期試験（80%）、小テスト（20%）
----------	---------------------

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	11 号館 9 階 島田准教授室
----------	------------------

備考	
----	--

科目名	現代社会と刑事法	科目名（英文）	Modern Society and the Criminal Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	島田 良一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3028a0		

授業概要・目的	本授業では、社会学や人類学、生物学、心理学といった様々な学問領域に基づく犯罪学理論や各種犯罪の発生原因について、学説、実務の動向などを踏まえながら解説する。
到達目標	本授業を通じて学生には、刑事政策のうち、犯罪学理論及び各種犯罪の発生原因に関する基本的な知識を修得することが期待される。
授業方法と留意点	授業担当者作成にかかるレジュメに基づいて授業を進めていくが、各回の授業テーマに応じて、視聴覚教材等も積極的に使用していく予定である。 なお、授業期間中に社会の注目を集めるような事件・裁判があった場合、授業の内容を一部変更することもあるので、その点だけ留意されたい。
科目学習の効果（資格）	資格試験等には直接役には立たないが、将来、法曹三者や検察事務官、裁判所事務官、家庭裁判所調査官、刑務官、法務教官保護観察官、警察官などを目指している学生には有益な内容であると考えられる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業の内容および進め方に関する説明、文献・参考書の紹介	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）
	2	古典派犯罪学と実証主義について	犯罪学が誕生した経緯について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）
	3	犯罪生物学の展開	初期の犯罪学理論のうち、人類学や生物学を基調としたものについて	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）
	4	犯罪社会学の展開①	初期の犯罪社会学のうち、文化伝達の理論に基づくものについて	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）
	5	犯罪社会学の展開②	初期の犯罪社会学のうち、社会構造論に基づくものについて	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）
	6	犯罪学の新しい動向①	ラベリング理論について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）
	7	犯罪学の新しい動向②	コントロール理論、環境犯罪学について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）
	8	各種犯罪の分析①	交通犯罪について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）
	9	各種犯罪の分析②	薬物犯罪について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）
	10	各種犯罪の分析③	精神障害者による犯罪について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）
	11	各種犯罪の分析④	高齢者による犯罪について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）
	12	各種犯罪の分析⑤	性犯罪について①	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）
	13	各種犯罪の分析⑥	性犯罪について②	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）
	14	各種犯罪の分析⑦	ストーカー犯罪について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）
	15	まとめ	重要論点の再解説	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）

関連科目	刑事法に関連するすべての科目
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	刑事政策（第3版）	川出敏裕・金光旭	成文堂
	2	ビギナーズ刑事政策（第3版補訂第2版）	守山正・安部哲夫	成文堂
	3	犯罪白書（各年度版）	法務総合研究所編	法務省

評価方法（基準）	定期試験（80%）、小テスト（20%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等備考	11 号館 9 階 島田准教授室

科目名	刑事訴訟法	科目名 (英文)	Criminal Procedure
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	島田 良一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3029a0		

授業概要・目的	本授業では、我が国の刑事手続のうち捜査・公訴に関する部分について、学説・判例の動向を踏まえながら解説する。一般的に、新聞やテレビ、インターネットのウェブサイト等が刑事事件・刑事裁判について報じる際、捜査機関あるいは犯罪被害者の視点で報じられることが多いと思われるが、本授業においては、刑事訴訟法が「公共の福祉の維持と個人の基本的人権の保障とを全うしつつ、事案の真相を明らかにし、刑罰法令を適正且つ迅速に適用実現する」ことをその目的としていることにも鑑み、捜査機関のみならず被疑者・被告人あるいは裁判所・裁判官、さらには裁判員の視点にも立った解説を行う予定である。				
到達目標	この授業を通じて学生には、我が国の刑事手続（捜査・公訴）に関する専門的知識を修得することが期待される。				
授業方法及留意点	教科書及び配布レジュメに基づいて授業を進めていく。				
科目学習の効果（資格）	司法試験、法科大学院入学試験、裁判所事務官採用試験、法学検定など。				
授業計画		回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
		1	ガイダンス	授業の進め方、刑事訴訟法・刑事手続の概要などについて	配布レジュメを見直すこと（約 1 時間）
		2	捜査概説	捜査を規律する一般原則などについて	配布レジュメおよび教科書の該当部分（9～20 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約 1 時間）
		3	捜査の端緒・行政警察活動	捜査活動のきっかけ、職務質問などについて	配布レジュメおよび教科書の該当部分（21～26 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約 1 時間）
		4	任意捜査	任意処分を用いた捜査とその限界について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（27～42 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約 1 時間）
		5	逮捕・勾留①	被疑者の身柄拘束について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（43～55 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約 1 時間）
		6	逮捕・勾留②	被疑者の身柄拘束について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（56～74 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約 1 時間）
		7	令状による捜索・差押え	捜索・押収（差押え・領置）について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（75～85 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約 1 時間）
		8	令状によらない捜索・差押え	逮捕に伴う捜索・差押えについて	配布レジュメおよび教科書の該当部分（86～93 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約 1 時間）
		9	その他の強制処分	検証、実況見分、鑑定などについて	配布レジュメおよび教科書の該当部分（94～103 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約 1 時間）
		10	被疑者の防御	黙秘権、弁護人依頼権、接見交通権などについて	配布レジュメおよび教科書の該当部分（104～114 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約 1 時間）
		11	捜査の終結	検察官による起訴・不起訴の判断について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（115～118, 120～124 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約 1 時間）
		12	公訴提起	公訴提起の手続・効果について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（119～120, 125～133 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約 1 時間）
		13	訴因①	訴因の機能について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（136～145 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約 1 時間）
		14	訴因②	訴因変更について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（145～155 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約 1 時間）
		15	まとめ	重要論点の確認	配布レジュメおよび教科書の該当部分を事前・事後に通読しておくこと（約 1 時間）
関連科目	刑事訴訟法Ⅱ、刑法総論、刑法各論など				
教科書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1	刑事訴訟法	池田公博・笹倉宏紀	有斐閣
		2			
		3			
参考書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1	入門刑事手続法（第 9 版）	三井誠・酒巻匡	有斐閣
		2	リーガルクエスト刑事訴訟法（第 2 版）	宇藤崇・松田岳士・堀江慎司	有斐閣
		3	刑事訴訟法判例集	松田岳士・宮木康博	有斐閣
評価方法（基準）	期末試験（80%）、小テスト（20%）				
学生へのメッセージ	刑事訴訟法では、捜査・公判における現実の「場面」が問題となることから、そうした「場面」において、もし自分が警察官・検察官だったら、裁判官だったら、あるいは被疑者・被告人・弁護人だったらどう考えるか、それぞれの視点に立って考えてみることをお勧めする。				
担当者の研究室等	11 号館 9 階 島田准教授室				
備考	六法は必携（ただし、パソコン、スマホ等によって e-gov による法令検索が利用できるのであればそれでも可）。				

科目名	民法法概論	科目名 (英文)	Introduction to Civil Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	A B C D E F G H I
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	城内 明
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1030a0		

授業概要・目的	民法総則は、民法（特に財産法）を学ぶ上での基本です。 本講義は、民法総則を学ぶことにより、民法の思考を体得することを目的とします。
到達目標	この授業を通じて学生には、民法総則の基本を正確に理解することが期待されます。
授業方法と留意点	この授業では、Teams 上にアップしたレジュメを用いて、授業を進めます。レジュメを印刷して、授業に参加してください。授業では、講義とあわせ、レジュメの穴埋めや、問題演習等も行います。六法も授業内で利用しますので、必ず、冊子体の六法(ポケット六法等)を持ってきてください。
科目学習の効果（資格）	公務員試験(地方上級・国家公務員一般職等)のほか、宅建・行政書士・司法書士・司法試験等の各種資格試験、法科大学院(ロースクール)入試等に必須。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・民法の勉強の仕方・民法総論(1)	ガイダンス・民法の勉強の仕方・民法典の構造を学ぶ	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	2	民法総論(2)	契約とは何か・意思自治の原則・契約は守られなければならない・契約自由の原則とその限界	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	3	民法総論(3)	契約の成立・意思表示の構造・意思表示の効力発生時期	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	4	意思表示の瑕疵(1)、無効と取消し	意思表示の瑕疵総説・無効と取消し	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	5	意思表示の瑕疵(2)	心裡留保・虚偽表示(1)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	6	意思表示の瑕疵(3)	虚偽表示(2) (94 条 2 項の類推適用)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	7	意思表示の瑕疵(4)	錯誤	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	8	意思表示の瑕疵(5)	詐欺・強迫・消費者取消権	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	9	中間試験	中間試験	第 1 回～第 8 回の内容を復習し、中間試験に臨むこと。
	10	法律行為の有効要件(1)	確定可能性、強行法規、公序良俗①	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	11	法律行為の有効要件(2)	公序良俗②、事例問題対策①	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	12	法律行為の有効要件(3)	公序良俗③、事例問題対策②	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	13	私権行使の自由とその限界(1)	公共の福祉、信義則	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	14	私権行使の自由とその限界(2)、時効制度(1)	権利濫用の禁止、時効総論、消滅時効①	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	15	時効制度(2)	消滅時効②、事例問題対策③	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
関連科目	法学概論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民法 1 総則（有斐閣ストゥディア）	山本敬三	有斐閣

	2	法学講義民法：総則（第3版）	奥田昌道	勁草書房
	3	民法判例百選Ⅰ 総則・物権〔第9版〕	潮見佳男	有斐閣
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民法講義1(第7版)	近江幸治	成文堂
	2	民法概論1 民法総則〔第2版〕	山野目章夫	有斐閣
	3			
評価方法 （基準）	中間試験（授業内試験（50点））・期末試験（定期試験（50点））を実施し、その合計点で成績評価します（100％）。			
学生への メッセージ	民法総則は、民法（特に財産法）を学ぶ上での基本です。 2年次以降に債権法・物権法（・および相続法）を学ぶ予定のある人、公務員試験・資格試験・法科大学院入試等、民法が受験科目となっている試験を受験予定の人（受験する可能性のある人）は、必ず受講して下さい。なお、2年次以降に開講される法律学特修特別講義に参加を希望する学生は、本講義の履修が必要です。			
担当者の 研究室等	11号館10階 城内教授室			
備考	中間試験は、採点后、法学部事務室にて返却します。必ず受け取ってください。 教科書は、指定の①「民法1 総則（有斐閣ストゥディア）」あるいは②「法学講義民法総則〔第三版〕」のいずれかと、「判例百選」の2冊の購入をお勧めします。①②共に初学者向けのテキストですが、①の方がより易しく、②の方がより詳しいです。なお、①②の代わりに、参考書に掲げたテキストを購入しても構いません。			

科目名	民法法概論	科目名（英文）	Introduction to Civil Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	K
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1030a0		

授業概要・目的	法律とは、社会において生じる問題を解決するために使われるものです。そのような法律も、いくつかの形で分類がなされます。そのような分類の中で、私人といわれる、一般の人たちの間の問題等を規律するものの総称が民法と呼ばれるものであり、その中心となる法律が民法です。民法では特に財産と家族の問題が規定されています。 本講義では、上記のような民法の全体像を総則と呼ばれる部分を中心として把握する予定である。
到達目標	この講義を通じて、学生には民法と呼ばれる私人間に問題について適用される法律の概観を確認し、今後の民事に関する法律科目を勉強するための概要を把握できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義に関連する、レジュメまたは資料を配布する予定である。 講義は対面方式の教室で行う。 法律科目であるので、六法（書籍の一種）が必要となる。 ※二つのクラスに分かれているため、自分がどちらのクラスに属するかは必ず事前に確認すること。
科目学習の効果（資格）	社会生活の基本法である民法の学習方法を知ることができ、民法法（民法、民事訴訟法、破産法等）が出題科目となっている各種資格試験の基礎となる知識を習得できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	はじめに	法学部がどのようなものであり、法律関係の講義がどのような問題を扱うのかなどの、概要部分を扱う予定です。	新聞などから、目次も含め、教科書から興味を持てる部分を是非見つけてください。予復習 90 分が目安です。
	2	民法法とは	民法法の内容および手続法との関係などを扱う予定です。	自分の周辺でどのような「法的問題」があるのかを検討してみてください。予復習 90 分が目安です。
	3	法律内容と民法	民法法と民法との関係、民法の構造を把握する予定です。	1 回目の内容から、自分の周りに存在する財産に関連する問題を自分なりに検討して下さい。予復習 90 分が目安です。
	4	民法と契約という制度	契約という制度を通して、社会における法律関係を確認していく予定です。	現実の生活の中で、どのような契約をしているのかなどを確認して下さい。予復習 90 分が目安です。
	5	人という存在	契約をすることができるのは誰なのか、また単独では契約ができない人がいるのかなどを確認する予定です。	これまでの経験から、法的に自分が置かれている立場を理解し、親の同意が必要となった契約を確認して下さい。予復習 90 分が目安です。
	6	所有権を通しての物権①	人が物を所持すること、すなわち支配することを、法律はどのように考えているのかを見ていく予定です。	他人が自分の物を返さないという経験がこれまでありましたか？この法的意味を確認して下さい。予復習 90 分が目安です。
	7	所有権を通しての物権②	物権がどのような問題について規律されるのかを確認する予定です。	物を所有する以外に、人と物との関係にどのようなものがあるのかを検討すること。予復習 90 分が目安です。
	8	金融担保一般	民法典に存在する担保について確認をする予定です。	お金の貸し借りの構造を法的に分析すること。予復習 90 分が目安です。
	9	不法行為	他人に損害を与えてしまい、賠償をしなければならないことを、法的に見ていきます。	交通事故や約束違反によって生じた損害は、賠償により回復することができるのかについて、検討すること。予復習 90 分が目安です。
	10	親族法	家族関係などを確認する。	自分の周りの人たちの家族関係を、法的視点で整理すること。予復習 90 分が目安です。
	11	民事手続①	実体法との違いを確認する。	実体法と訴訟法の条文を比べ、その役割の違いを見つけること。講義中の課題を再確認のこと。予復習 90 分が目安です。
	12	民事手続②	権利実現の手順などを確認する。	裁判がどのような流れで実施されているのかを確認すること。教科書の該当部分を確認すること。予復習 90 分が目安です。
	13	民事手続③	手続にも様々なものがあることを確認する。	勝訴したのちに、実際に権利がどのように実現されるのかを、裁判所 HP ページおよび、教科書の該当部分を確認すること。講義中の課題を再確認のこと。予復習 90 分が目安です。
	14	相続法	人の死後の財産関係を簡単に扱う予定です。	人の死後に起こりうる問題等を確認すること。予復習 90 分が目安です。
	15	全体の復習	民法法の構造の再確認	全体の内容を確認すること。予復習 90 分が目安です。

関連科目	憲法、商法、会社法など、法律に関連する科目。
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	Teams を使った小テストを行う（70%～80%：講義状況により変化する）。 講義内での小テスト（20～30%：講義状況により変化する）。 自宅で teams 上のテストを回答することは可能であるが、あくまで出席者が採点対象である。また、いかなる理由があれ講義に来ていない者は「欠席者」として扱うことから、その旨を理解のうえ、受講すること。
----------	---

	具体的には、初回等で確認すること。
学生への メッセージ	民事法は日常生活に関する規範である。したがって、民事法を学習することは、日常生活を法的観点から検討することでもある。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階 大川准教授室
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の3つから成り立っています。それぞれにつき、90 分を確保して学習をする必要があります。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。事前・事後学習内容について、講義で出された課題、指摘部分及び確認テスト内容については、各対応時の講義で確認・解説を行います。 近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。

科目名	民法総則	科目名 (英文)	Civil Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	城内 明
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2031a0		

授業概要・目的	民法総則は、民法（特に財産法）を学ぶ上での基本です。 本講義は、民法総則を学ぶことにより、民法の思考を体得することを目的とします。
到達目標	この授業を通じて学生には、民法総則の基本を正確に理解することが期待されます。
授業方法と留意点	この授業では、Teams 上にアップしたレジュメを用いて、授業を進めます。レジュメを印刷して、授業に参加してください。授業では、講義とあわせ、レジュメの穴埋めや、問題演習等も行います。六法も授業内で利用しますので、必ず、冊子体の六法(ポケット六法等)を持ってきてください。本授業は、民法Ⅰa(総則①)を受講していることを前提とします。民法Ⅰa(総則①)を受講していない学生は、該当範囲を独習しておいてください。
科目学習の効果（資格）	公務員試験(地方上級・国家公務員一般職等)のほか、宅建・行政書士・司法書士・司法試験等の各種資格試験、法科大学院(ロースクール)入試等に必須。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・人(1)	ガイダンス、権利能力の始期・条件	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	2	人(2)	権利能力の終期	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	3	人(3)	意思能力・制限行為能力①(総説)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	4	人(4)	制限行為能力②(制限行為能力者制度総説・制限行為能力者の相手方の保護)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	5	人(5)	制限行為能力③(未成年者)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	6	人(6)	制限行為能力④(成年後見制度①)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	7	人(7)	制限行為能力⑤(成年後見制度②)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	8	中間試験	中間試験	第 1 回～第 8 回の内容を復習し、中間試験に臨むこと。
	9	代理(1)	代理総説・代理権①	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	10	代理(2)	代理権②／代理行為	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	11	代理(3)	無権代理総説、無権代理の相手方の保護	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	12	代理(4)	無権代理と相続、事例問題対策①	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	13	代理(5)	表見代理①、事例問題対策②	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	14	代理(6)	表見代理② 事例問題対策③	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	15	人(8)、物	法人、物	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
関連科目	法学概論、民法Ⅰa(総則①)			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	<table><tr><td>1</td><td>民法1 総則（有斐閣ストゥディア）</td><td>山本敬三</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>2</td><td>法学講義民法：総則（第3版）</td><td>奥田昌道</td><td>勁草書房</td></tr><tr><td>3</td><td>民法判例百選Ⅰ 総則・物権〔第9版〕</td><td>潮見佳男</td><td>有斐閣</td></tr></table>				1	民法1 総則（有斐閣ストゥディア）	山本敬三	有斐閣	2	法学講義民法：総則（第3版）	奥田昌道	勁草書房	3	民法判例百選Ⅰ 総則・物権〔第9版〕	潮見佳男	有斐閣				
1	民法1 総則（有斐閣ストゥディア）	山本敬三	有斐閣																	
2	法学講義民法：総則（第3版）	奥田昌道	勁草書房																	
3	民法判例百選Ⅰ 総則・物権〔第9版〕	潮見佳男	有斐閣																	
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>民法講義1(第7版)</td><td>近江幸治</td><td>成文堂</td></tr><tr><td>2</td><td>民法概論1 民法総則〔第2版〕</td><td>山野目章夫</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	民法講義1(第7版)	近江幸治	成文堂	2	民法概論1 民法総則〔第2版〕	山野目章夫	有斐閣	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	民法講義1(第7版)	近江幸治	成文堂																	
2	民法概論1 民法総則〔第2版〕	山野目章夫	有斐閣																	
3																				
評価方法 （基準）	中間試験(授業内試験(50点))・期末試験(定期試験(50点))を実施し、その合計点で成績評価します(100%)。																			
学生への メッセージ	民法総則は、民法（特に財産法）を学ぶ上での基本です。 2年次以降に債権法・物権法（・および相続法）を学ぶ予定のある人、公務員試験・資格試験・法科大学院入試等、民法が受験科目となっている試験を受験予定の人(受験する可能性のある人)は、必ず受講して下さい。なお、2年次以降に開講される法律学特修特別講義に参加を希望する学生は、本講義の履修が必要です。																			
担当者の 研究室等	11号館10階 城内教授室																			
備考	中間試験は、採点后、法学部事務室にて返却します。必ず受け取ってください。 教科書は、指定の①「民法1 総則（有斐閣ストゥディア）」あるいは②「法学講義民法総則〔第三版〕」のいずれかと、「判例百選」の2冊の購入をお勧めします。①②共に初学者向けのテキストですが、①の方がより易しく、②の方がより詳しいです。なお、①②の代わりに、参考書に掲げたテキストを購入しても構いません。																			

科目名	物権法	科目名（英文）	Property Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	家本 真実
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2033a0		

授業概要・目的	物権は、物を支配する権利です。たとえば、土地を所有していれば、その土地に対して所有権という物権を持っていることになり、その土地を自由に使用したり、処分したりすることができます。物権法は、民法の中でも、こうした物権に関するルールを定めた法律です。 本講義では、担保物権を除く物権法の全体像を理解することを目的とします。より理解を深めていただくために、できる限り身近な事例を挙げるとともに、条文に対する解釈や、学説、判例について紹介していきたいと考えています。
到達目標	この講義を通じて、学生の皆さんには、担保物権を除く物権法の基礎をしっかりと理解し、民法における物に対する権利の考え方について全体像を把握できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	要点を記したレジュメを配布し、それに沿って解説をおこなうといったかたちで講義をおこないます。 積極的にノートを取って講義内容を理解しようという姿勢で講義に臨んでいただかなければ、単位の取得は難しいとお考えください。 六法を参照していただくことも多いので、書籍またはオンラインで参照できるものを必ずご用意ください。教科書は入手していただくことをお勧めします。
科目学習の効果（資格）	各種資格試験においては、物権法を含む民法の理解が必須となることがあります。ただし、本講義では各種資格試験の対策まではおこないません。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	はじめに 物権法概説	講義のガイダンス 物権法の全体像（物権とは何か、民法における物権法の位置づけ）	講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。（2 時間）
	2	物権変動（1）	物権変動の基本的理論	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。（1.5 時間） 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。（2.5 時間）
	3	物権変動（2）	不動産の物権変動における公示と登記制度	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。（1.5 時間） 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。（2.5 時間）
	4	物権変動（3）	不動産の物権変動における「第三者」	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。（1.5 時間） 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。（2.5 時間）
	5	物権変動（4）	不動産の物権変動における「取消しと登記」	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。（1.5 時間） 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。（2.5 時間）
	6	物権変動（5）	不動産の物権変動における「取得時効と登記」	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。（1.5 時間） 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。（2.5 時間）
	7	物権変動（6）	登記の効力	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。（1.5 時間） 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。（2.5 時間）
	8	物権変動（7）	動産の物権変動における公示と即時取得	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。（1.5 時間） 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。（2.5 時間）
	9	占有権（1）	占有の取得、移転、消滅	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。（1.5 時間） 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。（2.5 時間）
	10	占有権（2）	占有の効力	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。（1.5 時間） 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。（2.5 時間）
	11	所有権（1）	所有権の基本的理論、所有権の取得	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。（1.5 時間） 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。（2.5 時間）
	12	所有権（2）	所有権に基づく物権的請求権	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。（1.5 時間） 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。（2.5 時間）
	13	所有権（3）	共同所有	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。（1.5 時間） 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。（2.5 時間）
	14	所有権（4）	建物の区分所有	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。（1.5 時間） 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。（2.5 時間）
	15	用益物権 おわりに	地上権、永小作権、地役権、入会権 講義のまとめと補足	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。全講義を通して疑問や不明点がないか確認したうえで講義に臨むこと。（3 時間）

				講義終了後、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(3 時間)
関連科目	民法総則、債権法、契約法、担保物権法など民法系科目全般。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民法の基礎 2－物権 (第 3 版)	佐久間 毅	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	六法		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義内で課す課題(確認テスト、ペーパーなど)への取り組みを 30%程度、学期末試験の成績を 70%程度の割合で、最終的な評価をおこないます。			
学生への メッセージ	講義中は私語を慎んでください。講義内容は、講義の進行具合に応じて変更する場合があります。			
担当者の 研究室等	11 号館 9 階 家本准教授室			
備考	2023 年度 88 名登録 期末試験受験者合格率 58.1% (74 名中 43 名) (不受験率 15.9% (14 名)) A12.2% B14.9% C9.5% D21.6%、合格者の平均 76.7 点			

科目名	不動産取引法	科目名 (英文)	Real Estate Exchange Act
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 敦
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2034a0		

授業概要・目的	担保物権に関する知識の習得とその果たす役割についての理解を深めることを目的とする。まず、前提として、登記簿の見方、對抗要件とは何か、民事執行の基本などにつき一通りの理解が得られるようにする。また、担保とは、債権、特に金銭債権の回収を確実にする方策のことであり、債権が確実に弁済されることは、債権者にとって重要なことである。さらに、市場原理による経済社会にあつては、企業は新たな事業展開を迫られ、常に、資金の確保を必要とする。金融を得るには担保の提供が必須であるので、担保に関する知識は極めて重要である。
到達目標	この授業を通じて、学生には、担保物権を中心とする担保につき一通りの知識を習得し、担保が、現実の取引において、どのような場面でどのような役割を果たしているのか、注意すべき事柄は何かについて簡単な説明ができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	- 各回の講義に関する詳細並びに関連するレジュメ又は資料は、Teams を使って該当講義分の各チャネルに掲示するので、各講義前に必ず見るようにすること。 - 授業には、プリントアウトした上記レジュメ等（授業では適宜メモを取る）と六法（ポケット六法等、最新の令和 6 年版を推奨する）を必ず持参すること。講義はレジュメに基づいて行うが、十分な理解のためには、レジュメ及び教科書による事前学習並びに授業を踏まえた事後学習が不可欠である。それぞれ 2 時間を充ててほしい。事前学習及び事後学習に当たっても六法を適宜参照すること。
科目学習の効果（資格）	理解が進めば担保物権のみならず、財産法全体にも興味を持て、ひいては、民法全般に関する応用力が養われ、民法を試験科目とする各種資格試験に対応できる。併せて、金融についての知識も得られるので、不動産関係あるいは金融関係の仕事に就くことを望む者にとっては、必須の領域であるといえよう。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス、不動産についての基礎知識	- 授業の進め方、受講上の注意 - 不動産について	【事前学習】 レジュメを読む。 【事後学習】 授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各 2 時間)
	2	不動産登記	不動産登記に関する基礎知識	【事前学習】 レジュメを読む。 【事後学習】 授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各 2 時間)
	3	對抗要件等	- 物権総論 - 對抗要件	【事前授業】 レジュメを読む。 【事後学習】 授業を踏まえ、重要事項を確認し、授業 1 ～ 3 回に関する小テストに回答する。 (各 2 時間)
	4	民事執行の基本	- 民事執行とは - 強制競売と担保権実行	【事前学習】 レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】 授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各 2 時間)
	5	金銭債権の実行、担保とは	- 金銭債権について - 物的担保と人的担保	【事前学習】 レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】 授業を踏まえ、重要事項を確認し、授業 4、5 回に関する小テストに回答する。 (各 2 時間)
	6	担保法概論	- 債権者平等の原則と物的担保、担保物権 - 担保物権の種類 - 担保物権の効力・性質	【事前学習】 レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】 授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各 2 時間)
	7	抵当権総論、抵当権の設定（抵当権 1）	- 抵当権とは - 抵当権の設定	【事前学習】 レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】 授業を踏まえ、重要事項を確認し、授業 6、7 回に関する小テストに回答する。 (各 2 時間)
	8	抵当権の効力、物上代位（抵当権 2）	- 抵当権の効力 - 抵当権の物上代位	【事前学習】 レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】 授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各 2 時間)
	9	抵当目的物の利用権、法定地上権（抵当権 3）	- 抵当権設定者の使用収益権 - 法定地上権	【事前学習】 レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】 授業を踏まえ、重要事項を確認し、授業 8、9 回に関する小テストに回答する。 (各 2 時間)
	10	抵当権の残りの部分（抵当権 4）	- 抵当権者と第三取得者の利害調整 - 抵当権に関するその他の事項	【事前学習】 レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】 授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各 2 時間)
	11	根抵当権（抵当権 5）	根抵当権	【事前学習】 レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】 授業を踏まえ、重要事項を確認し、授業 10、11 回に関する小テストに回答する。 (各 2 時間)
	12	質権	質権の意義、効力など	【事前学習】 レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】 授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各 2 時間)
	13	留置権・先取特権	- 留置権 - 先取特権	【事前学習】 レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】 授業を踏まえ、重要事項を確認し、授業 15 回の授業内容に関して回答する（小テスト扱い）。 (各 2 時間)
	14	非典型担保	- 非典型担保（民法の条文にない担保物権）の意義・必要性 - 仮登記担保、譲渡担保、所有権留保	【事前学習】 レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】 授業を踏まえ、重要事項を確認し、授業 12 ～ 14 回に関する小テストに回答する。 (各 2 時間)
	15	これまでの授業の振り返り	アンケートの希望が多かった項目を中心に授業全般を振り返る	【事前学習】 レジュメを読む。 【事後学習】 授業内容を確認し、これまでの授業の感想などに関する小テストに回答する。 (各 2 時間)
関連科目	民法ⅠA、B（総則）、Ⅱ（物権）、ⅢA（債権総論）、民事執行・保全法			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民法3 担保物権 第3版	平野裕之ほか	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義後における Teams 上での課題(小テスト 80%)及び授業を聞いて関心を持った論点ないし判例に関する解説や感想等(題材自由選択のコメント 20%)により評価する。提出に関する詳細は、別途 Teams で伝えることもあるので、注意すること。			
学生への メッセージ	取引社会で重要な意義を有している担保や担保物権の概略を学ぶことは、仕事の上で役に立つだけでなく、自宅を購入したりする際等、社会生活を営む上で必須です。法律の学習は講義内容を理解することが第一です。担保物権は、条文が多く、判例も多いため、難しい面もありますが、本講義は、あくまでもレジュメによって基本を押さえていくことを中心に考えています。したがって、授業では、必ずプリントアウトしたレジュメを持参し、適宜メモをしてください。教科書すべてについて言及するものではありませんが、興味を持つ分野を探し、自分から問題意識を持って参加してください。			
担当者の 研究室等	11号館10階 田中教授室			
備考	民法ⅠA、B(総則)、ⅡA(物権)を学習しておくことが望ましい。学生の受講態度、理解度等によっては、授業の方法、順序、内容を変更することがある。			

科目名	債権総論	科目名 (英文)	Law of Obligation: General Provisions
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2035a0		

授業概要・目的	民法典における財産法には、総則・物権・債権の三つ編があります。 その中で、物権とは人と物との関係を扱う部分であり、債権とは人と人との関係を扱う部分です。 さらに、債権法の部分は大きく分けて、総論部分と各論部分に分かれます。本講義ではその総論部分を扱います。
到達目標	この授業を通じて学生には、債権法の内容を全体的に把握し日常的な取引で生じる法的問題等を考察できる知識を涵養することを目的とします。 具体的には、取引で生じる債権とはいかなる内容のもので、いかなる性質を有しているのか、合意（契約）により生じた債権が約束通りに履行されない場合にはどのような問題が生じるのか、これらの債権を確保する行為は許されるのか、それらの債権を売却するなどして有効活用することはできないのか、という点を見ていく予定です。 これにより、本講義では、社会における取引の意義を把握できるようにし、かつ、自分の判断で問題を処理するための基本的知識の獲得をすることが期待されます。
授業方法と留意点	講義で使用するレジュメは Teams でデータ配信するため、個人での印刷が必要である。情報処理室または自宅で印刷をすること。ただし、PC 等を講義で使用することは可能であることから、データ上で書き込み等をする場合は印刷は不要である（第 1 回目のみ配布）。 講義は対面方式の教室で行う。出席する予定のない者は採点対象とならないことに注意すること。 なお、Teams に動画を後日アップロードする予定であるが、これはあくまで復習や欠席者用であり、録画の品質等は担保できない。講義で内容を確認すること。 法律科目であるの
科目学習の効果（資格）	各種資格試験においては、債権法を含む民法の理解が必須となります。公務員試験等、民法科目が出題される場合や、銀行取引などにおいても重要となる知識を債権法は含んでいます。

授業計画		回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
		1	債権法概論	講義のガイダンス 前・後期 30 回で使う内容の確認 債権各論との住み分け状況の確認	総則および債権各論部分を見直すこと。 債権総論の教科書で全体確認をすること それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること 意思表示部分の予習を行っておくこと。
		2	債権総論と各論	債権の全体像および契約法との関係で重要となる制度の確認	総務契約において生じうる問題状況の整理を行うこと それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
		3	債権の目的	様々な債権の性質と法制度	各契約により生み出される債権債務の内容を確認しておくこと。 各債権の特徴を押さえたうえで、そこから生じうる問題点と法制度を整理すること それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
		4	債権の基本的効力	債権があることで認められる各効力 履行の強制	手続法の概要を確認しておくこと。 履行を強制的に実現させる形、およびそれらがどのような場面で用いられるかを整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
		5	債務不履行責任 1	債務不履行による損害賠償請求の要件	不法行為制度と債務不履行制度の違いを整理しておくこと。 債務不履行による損害賠償請求が認められるための要件を不法行為制度と対比しながら整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
		6	債務不履行責任 2	損害の意義	不法行為制度と債務不履行制度における損害概念の相違を整理しておくこと。 判例における損害概念を整理すること それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
		7	債務不履行責任 3	受領遅滞	履行遅滞の意義を整理しておくこと。 債務不履行制度と受領遅滞制度との違いを整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
		8	債務不履行責任 4	賠償を調整する制度の確認	債権各論で問題となる危険負担制度を整理しておくこと。 過失相殺の意義を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
		9	責任財産保全制度 1	債権者代位権	担保法の概要を復習しておくこと。 責任財産の意義および債権の効力の部分を復習すること それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
		10	責任財産保全制度 2	債権者代位権の行使	代位権の要件を整理しておくこと。 相殺の意義を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
		11	責任財産保全制度 3	債権者代位権の転用	登記制度および賃貸借契約の内容を整理しておくこと。 転用が問題となる判例の内容を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
		12	責任財産保全制度 4	詐害行為取消権	債権者代位権の内容を復習しておくこと。 責任財産の意義および債権の効力の部分を復習すること それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
		13	責任財産保全制度 5	詐害行為取消権の行使	詐害行為取消権の要件を整理しておくこと。 相殺の意義を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること

	14	責任財産保全制度 6	詐害行為取消権の意義	詐害行為取消権の法的性質を整理しておくこと。 詐害行為取消権の問題点を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること																
	15	全体復習	前期の講義内容の総括	全体内容を復習すること。 90 分を確保して学習をすること																
関連科目	契約法、不法行為法、民法総則など、民法系科目全般																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>民法4 債権総論</td><td>山本敬三監修</td><td>有斐閣ストゥディア</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	民法4 債権総論	山本敬三監修	有斐閣ストゥディア	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	民法4 債権総論	山本敬三監修	有斐閣ストゥディア																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	Teams を使った小テストを行う（70%～80%：講義状況により変化する）。 講義内での小テスト（20～30%：講義状況により変化する）。 自宅で teams 上のテストを回答することは可能であるが、あくまで出席者が採点対象である。また、いかなる理由があれ講義に来ていない者は「欠席者」として扱うことから、その旨を理解のうえ、受講すること。 具体的には、初回等で確認すること。																			
学生への メッセージ	法律学にもかなり慣れたことだと思いますが、不十分だと思われる方も、復習をしつつ取り組んでいけば十分に理解ができますし、興味も持っていけるはずです。 講義の動画はアップロード（講義終了時まで掲載）を行います。欠席時に、オンライン上での小テスト等には各自で対応してください。 小テストの解答期間は、日曜日の 23 時 59 分までを予定し、講義後 5 日間ほどの猶予期間を設定しています。なお、大学は対面講義が原則であることから、それ以外の欠席事由は成績評価にあたっては何らの正当性をもたないということを理解しておいてください。																			
担当者の 研究室等	11 号館 9 階 大川准教授室																			
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の 3 つから成り立っています。それぞれにつき、90 分を確保して学習をする必要があります。 予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。事前・事後学習内容について、講義で出された課題及び指摘部分の内容については、各対応時の講義で確認・解説を行います。 受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。																			

科目名	債権各論	科目名 (英文)	Law of Obligation: Special Provisions
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2036a0		

授業概要・目的	民法典における財産法には、総則・物権・債権の三つがあります。 その中で、物権とは人と物との関係を扱う部分であり、債権とは人と人との関係を扱う部分です。 債権法の部分は大きく分けて、総論部分と各論部分に分かれます。本講義では各論部分を扱います。特に、契約を中心に確認する予定です。
到達目標	この授業を通じて学生には、債権法の内容を全体的に把握し日常的な取引で生じる法的問題等を考察できる知識を涵養する事を目的としています。 具体的には、日常的にどのような取引がなされているのか、それらの契約にはどのようなものがあるのか、それらの契約がどのような性質を含んでいるのかを確認します。 これにより、本講義では、社会における取引の意義を把握できるようにし、かつ、自分の判断で問題を処理するための基本的知識の獲得することが期待されます。
授業方法と留意点	講義で使用することは可能であることから、データ上で書き込み等をする場合は印刷は不要である（第1回目のみ配布）。 講義は対面方式の教室で行う。出席する予定のない者は採点対象とならないことに注意すること。 なお、Teams に動画を後日アップロードする予定であるが、これはあくまで復習や欠席者用であり、録画の品質等は担保できない。講義で内容を確認すること。 法律科目であるので、六法（書籍の一種）が必要となる。予復習状況は備考欄も確認すること。 予復習については、備考欄も確認すること。
科目学習の効果（資格）	各種資格試験においては、債権法を含む民法の理解が必須となります。公務員試験等、民法科目が出題される場合や、銀行取引などにおいても重要となる知識を債権法は含んでいます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	債権各論の全体像 予復習については、備考欄も確認すること。	民法総則の内容を確認しておくこと。 教科書の目次から債権各論の全体像を確認・整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	2	契約の意義	契約の意義 債権の意義 契約の成立	民法総則における意思表示制度を確認しておくこと。 契約が成立した場合の効力を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	3	債権の発生原因	契約 事務管理 不当利得 不法行為	債権の意義を確認しておくこと。 各制度の要件を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	4	契約の種類性質・法的性質	各契約の特徴とその性質	売買契約の内容を確認しておくこと。 契約の性質を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	5	特殊な契約の成立	定型約款	契約が成立する形および契約自由の原則を確認しておくこと。 約款が組み入れられる形を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	6	契約の効力 1	総務契約における牽連性 原始的不能 同時履行の抗弁	無効と取消し制度の内容を確認しておくこと。 債務不履行制度の概要を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	7	契約の効力 2	危険負担 第三者のためにする契約	債務不履行制度の概要を確認しておくこと。 債務不履行制度との違いから危険負担の制度を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	8	解除 1	解除制度	総務契約の意義を確認しておくこと。 債務不履行制度と解除との関係を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	9	解除 2	解除の効果と第三者	解除制度を確認しておくこと。 取り消しと第三者との関係と違いを整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	10	贈与契約	贈与の制度	債権の発生原因を確認しておくこと。 無償契約の特徴を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	11	売買契約 1	売買の意義 売買の一方の予約 手付	契約の成立の内容を確認しておくこと。 解除制度と手付との関係を整理すること それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	12	売買契約 2	売買と契約不適合責任	債務不履行制度を確認しておくこと。 契約不適合とされる事象とそれに対応する制度との関係を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	13	売買契約 3 交換契約	担保責任としての売主の責任 交換契約の概要	契約不適合責任の内容を確認しておくこと。 財産移転型契約の全体を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	14	消費貸借契約	消費貸借契約の意義	金銭の貸し借りの状況および利息債権について確認しておくこと。 消費貸借契約の特徴を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	15	全体のまとめ	全体の復習	前期の全体を復習し、契約法の特徴を確認・整理すること。 90 分を確保して学習をすること
関連科目	債権総論、不法行為法、民法総則など、民法系科目全般			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Teams を使った小テストを行う（70%～80%：講義状況により変化する）。 講義内での小テスト（20～30%：講義状況により変化する）。 自宅で teams 上のテストを回答することは可能であるが、あくまで出席者が採点対象である。また、いかなる理由があれ講義に来ていない者は「欠席者」として扱うことから、その旨を理解のうえ、受講すること。 具体的には、初回等で確認すること。			
学生への メッセージ	法学にもかなり慣れたことだと思いますが、不十分だと思われる方も、復習をしつつ取り組んでいけば十分に理解ができますし、興味も持っていけるはずです。 講義の動画はアップロード（講義終了時まで掲載）を行います。欠席時に、オンライン上での小テスト等には各自で対応してください。 小テストの解答期間は、日曜日の 23 時 59 分までを予定し、講義後 5 日間ほどの猶予期間を設定しています。なお、大学は対面講義が原則であることから、それ以外の欠席事由は成績評価にあたっては何らの正当性をもたないということを理解しておいてください。			
担当者の 研究室等	11 号館 9 階 大川准教授室			
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の 3 つから成り立っています。それぞれにつき、90 分を確保して学習をする必要があります。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。事前・事後学習内容について、講義で出された課題及び指摘部分の内容については、各対応時の講義で確認・解説を行います。 近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。 小テストや課題テス			

科目名	不法行為法	科目名 (英文)	Tort Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	城内 明
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3037a0		

授業概要・目的	不法行為法は、709 条というたった 1 条の条文で、交通事故、公害、医療過誤、被害事件といった様々な現代的諸問題を解決してきました。その面白さをわかってもらえるような講義にしたいと思っています。
到達目標	この授業を通じて学生には、現代社会における不法行為法の意義について理解できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	授業は、Teams 上にアップしたレジュメを用いて行います。各自印刷して、授業に臨んでください。
科目学習の効果 (資格)	各種資格試験、および今後の市民生活において不可欠です。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・不法行為法総説	ガイダンス、不法行為とは、不法行為の判断場面、不法行為法の基本原理 (過失責任主義の意義とその限界)、過失責任主義以外の帰責原理、無過失責任・中間責任	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと (最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容は次回質問すること (最低 10 分)。
	2	故意・過失 (1)	不法行為法の目的と機能、故意/過失要件の意義、過失の概念・故意の概念、過失の判断構造①	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと (最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容は次回質問すること (最低 10 分)。
	3	故意・過失 (2)	過失の判断構造②、前提とされる行為者の能力、責任能力、責任無能力者の監督義務者の責任	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと (最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容は次回質問すること (最低 10 分)。
	4	権利侵害・違法性 (1)	桃中軒雲衛門事件、大学湯事件、権利侵害から違法性へ、権利侵害要件の再生	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと (最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容は次回質問すること (最低 10 分)。
	5	権利侵害・違法性 (2)	権利の目録 (人格権と財産権) ①	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと (最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容は次回質問すること (最低 10 分)。
	6	権利侵害・違法性 (3)	権利の目録 (人格権と財産権) ②、違法性阻却事由	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと (最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容は次回質問すること (最低 10 分)。
	7	因果関係 (1)	相当因果関係説とその批判、事実的因果関係の判断枠組、事実的因果関係の立証 (高度の蓋然性、立証困難の緩和)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと (最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容は次回質問すること (最低 10 分)。
	8	因果関係 (2)、共同不法行為	賠償範囲の因果関係、719 条 1 項前段・後段の共同不法行為の成立要件・共同不法行為の効果	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと (最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容は次回質問すること (最低 10 分)。
	9	不法行為被害者の救済方法、損害の把握	金銭賠償の原則、一時金賠償・定期金賠償、損害の種類、差額説・個別積み上げ方式による損害把握、差額説の修正	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと (最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容は次回質問すること (最低 10 分)。
	10	損害額の算定方法 (1)	慰謝料の算定に係る問題・積極損害に係る問題・逸失利益算定方法 (総論)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと (最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容は次回質問すること (最低 10 分)。
	11	損害額の算定方法 (2)	逸失利益算定方法に係る諸問題	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと (最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容は次回質問すること (最低 10 分)。
	12	賠償額の調整 (1)	損益相殺・過失相殺・被害者側の過失	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと (最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容は次回質問すること (最低 10 分)。
	13	賠償額の調整 (2)・期間制限	過失相殺規定の類推適用 (素因減額)・消滅時効	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと (最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容は次回質問すること (最低 10 分)。
	14	特殊の不法行為 (1)	物の危険の実現に基づく責任	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと (最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容は次回質問すること (最低 10 分)。
	15	特殊の不法行為 (2)	他人の不法行為に基づく責任	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと (最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容はチャット等で質問すること (最低 10 分)。
関連科目	民法総則、債権総論、債権各論等、民法科目全般。			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	不法行為法 第6版	吉村良一	有斐閣
	2	不法行為法 -- 民法を学ぶ 第2版	窪田充見	有斐閣
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	期末試験を実施。基礎的内容の理解(60%)、発展的内容の理解(40%)を総合評価します。			
学生への メッセージ	不法行為法は、判例・学説により大きく発展し、現在も、なお発展を続けている現在進行形の法領域です。この面白さを理解したい学生の参加を期待します。			
担当者の 研究室等	11号館10階 城内教授室			
備考	レジュメは事前に Teams 上で配布します。自分でプリントアウトして持参して下さい。教室では配布しませんので、ご注意ください。 教科書は、指定テキストのいずれかを購入することをお勧めします。			

科目名	親族法	科目名 (英文)	Family Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 敦
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2038a0		

授業概要・目的	・民法典の第4編「親族」を中心に講義を行う。具体的には、夫婦、親子関係などの身分関係について、その権利と義務の視点から、基本的な検討を行う。親族関係は、社会生活を送るうえで避けては通れない、人との関係であり、日常で感じる家族などの人間関係が法的にどのようなものであるのかの把握も行う。 ・親族法については、令和4年12月に重要な法改正があり、令和6年4月から施行される。授業では、この点についても紹介を行っていきたい。 ・授業担当者は、大阪高裁・地裁、東京地裁などの裁判官として39年間勤務し、また、広島家庭裁判所長を経験するなど、財産法や家族法に関する民事訴訟、家事手続等に数多く携わってきた。この授業では、法理論のみならず、判例や実務経験を踏まえ、実践的な講義を行いたい。																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、法律の中でも最も身近な分野であるといえる家族法に関する基礎的な法的知識を自分のものにするとともに、親子、夫婦関係等、家族の在り方を自らが考える契機とすることが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	各回の講義に関する詳細並びに関連するレジュメ又は資料は、Teamsを使って該当講義分の各チャンネルに掲示するので、各講義前に必ず見るようにすること。 授業に当たっては、プリントアウトした上記レジュメ等と六法（ポケット六法等、最新の親族法改正が盛り込まれた令和6年版を推奨する）を持参し、指示があった際には参照すること。レジュメには適宜メモをすることを勧める。講義はレジュメに基づいて行うが、十分な理解のためには、レジュメ及び教科書による事前学習並びに授業を踏まえた事後学習が不可欠である。それぞれ2時間を充てて																																																																		
科目学習の効果（資格）	日常生活において生じる、身分関係に関する問題の理解に止まらず、資格試験などにおける民法科目の理解にも役立つ。																																																																		
授業計画	<table> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> <tr> <td>1</td><td>ガイダンス、家族法概論</td><td>・ガイダンス ・家族法の概略、意義、身分行為など</td><td>【事前学習】教科書及びレジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>家族紛争の解決方法等</td><td>・氏名、戸籍 ・家族紛争の解決手続</td><td>【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>婚姻の成立と不成立</td><td>・婚姻の成立 ・婚姻の無効、取消し</td><td>【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、1～3回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>婚姻の効力</td><td>・婚姻の効力 ・婚姻の身分的効果</td><td>【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>夫婦間の財産関係</td><td>・夫婦財産制 ・日常家事債務</td><td>【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、4、5回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>離婚とは、離婚手続①</td><td>・離婚制度 ・協議離婚 ・調停離婚</td><td>【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>離婚手続②、DV防止法</td><td>・裁判離婚 ・有責配偶者の離婚請求 ・DV防止法</td><td>【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、6、7回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>離婚に伴う財産関係</td><td>・離婚給付 ・財産分与</td><td>【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>離婚と子の福祉</td><td>親権、面会交流</td><td>【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、8、9回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>親子関係①</td><td>・親子関係 ・嫡出制度</td><td>【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>親子関係②</td><td>・認知制度 ・準正</td><td>【事前学習】教科書及びレジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>親子関係③</td><td>養子制度</td><td>【事前学習】教科書及びレジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、10～12回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>法定後見</td><td>・後見 ・保佐 ・補助</td><td>【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、15回授業で取り上げる項目に関するアンケート（小テスト扱い）に回答する。 (各2時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>任意後見、扶養</td><td>・任意後見 ・扶養</td><td>【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、13、14回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>これまでの授業の振り返り</td><td>アンケートで希望の多かった項目を中心に授業全般を振り返る</td><td>【事前学習】これまでの授業全体の内容を確認する。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、これまでの授業に関する感想等（小テスト扱い）を回答する。</td></tr> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス、家族法概論	・ガイダンス ・家族法の概略、意義、身分行為など	【事前学習】教科書及びレジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)	2	家族紛争の解決方法等	・氏名、戸籍 ・家族紛争の解決手続	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)	3	婚姻の成立と不成立	・婚姻の成立 ・婚姻の無効、取消し	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、1～3回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)	4	婚姻の効力	・婚姻の効力 ・婚姻の身分的効果	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)	5	夫婦間の財産関係	・夫婦財産制 ・日常家事債務	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、4、5回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)	6	離婚とは、離婚手続①	・離婚制度 ・協議離婚 ・調停離婚	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)	7	離婚手続②、DV防止法	・裁判離婚 ・有責配偶者の離婚請求 ・DV防止法	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、6、7回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)	8	離婚に伴う財産関係	・離婚給付 ・財産分与	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)	9	離婚と子の福祉	親権、面会交流	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、8、9回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)	10	親子関係①	・親子関係 ・嫡出制度	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)	11	親子関係②	・認知制度 ・準正	【事前学習】教科書及びレジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)	12	親子関係③	養子制度	【事前学習】教科書及びレジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、10～12回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)	13	法定後見	・後見 ・保佐 ・補助	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、15回授業で取り上げる項目に関するアンケート（小テスト扱い）に回答する。 (各2時間)	14	任意後見、扶養	・任意後見 ・扶養	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、13、14回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)	15	これまでの授業の振り返り	アンケートで希望の多かった項目を中心に授業全般を振り返る	【事前学習】これまでの授業全体の内容を確認する。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、これまでの授業に関する感想等（小テスト扱い）を回答する。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス、家族法概論	・ガイダンス ・家族法の概略、意義、身分行為など	【事前学習】教科書及びレジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)																																																																
2	家族紛争の解決方法等	・氏名、戸籍 ・家族紛争の解決手続	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)																																																																
3	婚姻の成立と不成立	・婚姻の成立 ・婚姻の無効、取消し	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、1～3回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)																																																																
4	婚姻の効力	・婚姻の効力 ・婚姻の身分的効果	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)																																																																
5	夫婦間の財産関係	・夫婦財産制 ・日常家事債務	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、4、5回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)																																																																
6	離婚とは、離婚手続①	・離婚制度 ・協議離婚 ・調停離婚	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)																																																																
7	離婚手続②、DV防止法	・裁判離婚 ・有責配偶者の離婚請求 ・DV防止法	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、6、7回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)																																																																
8	離婚に伴う財産関係	・離婚給付 ・財産分与	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)																																																																
9	離婚と子の福祉	親権、面会交流	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、8、9回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)																																																																
10	親子関係①	・親子関係 ・嫡出制度	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)																																																																
11	親子関係②	・認知制度 ・準正	【事前学習】教科書及びレジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)																																																																
12	親子関係③	養子制度	【事前学習】教科書及びレジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、10～12回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)																																																																
13	法定後見	・後見 ・保佐 ・補助	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、15回授業で取り上げる項目に関するアンケート（小テスト扱い）に回答する。 (各2時間)																																																																
14	任意後見、扶養	・任意後見 ・扶養	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、13、14回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)																																																																
15	これまでの授業の振り返り	アンケートで希望の多かった項目を中心に授業全般を振り返る	【事前学習】これまでの授業全体の内容を確認する。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、これまでの授業に関する感想等（小テスト扱い）を回答する。																																																																

				(各 2 時間)
関連科目	民法に関連する講義全般。 特に、民法ⅤＢ（相続）、ⅠＡ、Ｂ（総則）。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民法 7 親族・相続 第 7 版	高橋朋子ほか	有斐閣アルマ
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義後における Teams 上での課題(小テスト 80%)及び授業を聞いて関心を持った論点ないし判例に関する解説や感想等(題材自由選択のコメント 20%)により評価する。提出に関する詳細は、別途 Teams で伝えることもあるので、注意すること。			
学生への メッセージ	親族法は、身近な法律であるだけに、まずは、判例・通説の立場について正確な知識を持つておくことが重要です。また、最近も重要な法改正もあるなど、家族の在り方にも対応しています。日頃から関心と興味を持って授業に臨んで下さい。授業には、必ずプリントアウトとしたレジュメを持参し、適宜メモをとって下さい。			
担当者の 研究室等	11 号館 10 階 田中教授室			
備考	学生の理解度、受講態度等によっては、授業の方法、順序、内容を変更することがある。			

科目名	相続法	科目名 (英文)	Succession Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中 敦
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3039a0		

授業概要・目的	・民法第5編の「相続」を講義する。具体的には、法定相続の仕組みと遺言について、その内容を明らかにする。親族関係を前提として、一定の相続人が被相続人の財産上の権利義務を承継する相続制度を検討することを通して、身分関係法上の財産権移転の構造を理解することが目標となる。相続法は、近年重要な改正が行われたが、この改正法の内容についても学修する。 ・授業担当者は、大阪高裁、大阪地裁、東京地裁などの裁判官として39年間勤務し、また、広島家庭裁判所長を経験するなど、財産法や家族法に関する民事訴訟等の判決や家事調停・審判に数多く携わってきた。この授業では、法理論のみならず、実務経験を踏まえた講義を行ってきたい。
到達目標	この授業を通じて、学生には、日常生活で起こることがある相続に関し、民法はどのような規定を置いているのか、相続に関する手続はどうなっているのか、有効な遺言を作るにはどのような点に留意しなければならないかなどの点につき、正確かつ実践的な知識を習得するとともに、具体的な法定相続分や遺産分割の計算方法について説明できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	・各回の講義に関するレジュメ又は資料は、Teams で授業時間前に掲示するので、各講義前に必ず見るようにすること。 ・講義には、プリントアウトした上記レジュメ等と六法（ポケット六法等、最新の令和6年版を推奨する）を必ず持参し、参照すること。講義はレジュメに基づいて行うが、十分な理解のためには、レジュメ及び教科書による事前学習並びに授業を踏まえた事後学習が不可欠である。それぞれ2時間を充ててほしい。事前学習及び事後学習に当たっても六法を適宜参照すること。 ・相続法は、親族法の知識が前提となっている場面が少
科目学習の効果（資格）	日常生活において生じる相続制度の理解に止まらず、資格試験などにおける民法科目の理解にも役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス、相続法概論	- 授業の進め方、受講上の注意 - 相続法の基本	【事前学習】教科書第7章を読む。 【事後学習】授業内容を確認する。（各2時間）
	2	相続人と相続分①	相続人の範囲と順位	【事前学習】教科書第8章1を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、1、2回授業に関する小テストに回答する。（各2時間）
	3	相続人と相続分②	- 代襲相続 - 相続分	【事前学習】教科書第8章2及び3を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。（各2時間）
	4	相続人と相続分③	- 相続欠格 - 相続廃除 - 相続回復請求権	【事前学習】教科書第8章4～6を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、3、4回授業に関する小テストに回答する。（各2時間）
	5	相続の効力①	相続の一般的效果	【事前学習】教科書第9章1を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。（各2時間）
	6	相続の効力②	- 相続と登記 - 祭祀財産等の承継	【事前学習】教科書第9章2～4を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、5、6回授業に関する小テストに回答する。（各2時間）
	7	相続の効力③	- 遺産共有 - 遺産の管理 - 相続分の譲渡、取戻し	【事前学習】教科書第9章5～7を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。（各2時間）
	8	相続の効力④	遺産分割	【事前学習】教科書第9章8を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、7、8回授業に関する小テストに回答する。（各2時間）
	9	相続の承認・放棄	- 単純承認、限定承認 - 相続放棄	【事前学習】教科書第10章を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。（各2時間）
	10	財産分離、相続人の不存在	- 財産分離 - 相続人の不存在 - 特別縁故者	【事前学習】教科書第11章・第12章を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認するとともに、9、10回授業に関する小テストに回答する。（各2時間）
	11	遺言①	- 遺言の意義 - 遺言の方式	【事前学習】教科書第13章1、2を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。（各2時間）
	12	遺言②	遺言の効力	【事前学習】教科書第13章3を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、11、12回授業に関する小テストに回答する。（各2時間）
	13	遺言③	- 遺言による財産処分 - 遺言の執行	【事前学習】教科書第13章4、5を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、15回授業で取り上げる項目に関する小テスト（アンケート）に回答する。（各2時間間）
	14	遺留分	- 遺留分とは - 遺留分の確定 - 遺留分侵害額の請求	【事前学習】教科書第14章を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、13、14回授業に関する小テストに回答する。（各2時間）
	15	これまでの授業の振り返り	アンケートで希望の多かった項目を中心に相続法全般を振り返る	【事前学習】これまでの授業内容を振り返る。 【事後学習】授業内容を踏まえ、これまでの授業の

				感想等に関する小テストに回答する。 (各2時間)
関連科目	民法に関連する講義全般。 特に、民法ⅤA（親族）、民法ⅠA、B（総則）			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民法7 親族・相続 第7版	高橋朋子ほか	有斐閣アルマ
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義後における Teams 上での小テスト（課題等）の点数で評価する（100%）。詳細は、別途 Teams で伝えるので、注意すること。			
学生への メッセージ	相続法に対する理解を通して、相続が持つ意義を再確認してください。また、相続法は、難しい問題点も多い科目ですから、まずは条文、レジュメを参照しつつ、判例・通説の立場に立って、基本を押さえてください。			
担当者の 研究室等	11号館10階 田中教授室			
備考	学生の理解度、受講態度等によっては、授業の方法、順序、内容を変更することがある。			

科目名	消費者と法	科目名 (英文)	Consumer and Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	城内 明
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3040a0		

授業概要・目的	本講義は、消費者問題の本質について理解を深めること、被害の発生を防ぎ、被害者の救済を図るかについての実践的な知識を身につけることを目的とします。
到達目標	この授業を通じて学生には、消費者問題の本質について理解を深め、被害の発生を防ぎ、被害者の救済を図るかについての実践的な知識を身につけることが期待されます。
授業方法と留意点	本講義は、Teams 上にアップしたレジュメを利用して実施します。レジュメは配布しませんので、各自プリントアウトしてご持参ください。
科目学習の効果 (資格)	消費生活専門相談員、消費生活アドバイザー、消費生活コンサルタント、その他、今後、市民生活を送る上で不可欠。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・消費者法概説	消費者法とは何か	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
	2	消費者契約法(1)	消費者契約法概説	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
	3	消費者契約法(2)	誤認・困惑類型における取消し(1)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
	4	消費者契約法(3)	誤認・困惑類型における取消し(2)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
	5	消費者契約法(4)	誤認・困惑類型における取消し(3)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
	6	消費者契約法(5)	不当約款規制(1)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
	7	消費者契約法(6)	不当約款規制(2)・消費者団体訴訟	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
	8	特定商取引に関する法律(1)	訪問販売(1)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
	9	特定商取引に関する法律(2)	訪問販売(2)・電話勧誘販売・訪問購入	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
	10	特定商取引に関する法律(3)	連鎖販売取引	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
	11	特定商取引に関する法律(4)	通信販売・ネガティブオプション	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
	12	特定商取引に関する法律(5)	特定継続的役務提供・業務提供誘引販売取引	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
	13	消費者信用取引	販売信用取引・消費者金融取引	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
	14	商品安全と法(1)	商品安全に係る法制度概説	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
	15	商品安全と法(2)	製造物責任法	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
関連科目	民事法関連科目全般			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基本講義 消費者法（第5版）	中田邦博ほか	日本評論社
	2	消費者法	大澤彩	商事法務
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	消費者法(有斐閣ストゥディア)	宮下修一ほか	有斐閣
	2			
	3			
評価方法 (基準)	期末試験を実施します。基礎的内容の理解(60%)、基礎知識を応用する能力(40%)を総合評価します。			
学生への メッセージ	悪徳業者は、いつ何時、あなたに襲いかかってくるかわかりません。降りかかった火の粉を払いのける術を身につけ、自分自身、家族・友人、そして社会を守ってください。			
担当者の 研究室等	11 号館 10 階 城内教授室			
備考	教科書は、指定教科書のいずれかを購入してください。指定教科書が難しすぎる場合は、参考書指定のテキストをお使いください。			

科目名	国際私法総論	科目名 (英文)	Private International Law (General Theories)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	片岡 雅世
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3041a0		

授業概要・目的	この講義では、国際結婚や国際契約などのように複数の国と関連を有する私人（個人や企業等）間の法律関係について、いずれの国の法が適用されるか（狭義の国際私法）、またいずれの国（特に、日本）の裁判所で争うことができるか（国際民事手続法）といった問題（広義の国際私法）を検討するにあたって基礎となる国際私法の総論部分を中心に扱います。本講義を通じて、国際私法に関する基本的な知識を習得してもらいます。
到達目標	（１）国際私法の基本的な考え方について理解することができる。 （２）国際私法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。 （３）身近な国際私法問題について多角的な視野から分析することができる。
授業方法と留意点	原則として、講義形式で実施します。事前に Moodle または Teams を通じてレジュメ（穴埋め形式）および資料を配布しますので、授業時にはこれら資料類および教科書ならびに六法を忘れずに持参してください。また、複数回課題を出題します。課題は ICT ツールを利用した出題・提出の予定ですが、授業時に出題・提出の可能性もあります。
科目学習の効果（資格）	将来、行政書士や公務員等になりたい人、その他外国人と関わる仕事に就きたい人は、本授業で学ぶ内容や考え方の一部を活かすことができるでしょう。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンスー国際私法って何？	この授業の進め方や受講に当たっての注意点など、国際私法の意義・必要性	事前に配布資料に目を通し、教科書（1～14 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	2	国際私法とは何か（１）ー適用すべき法ってどうやって決まる？	準拠法、準拠法決定・適用の 4 つのプロセス	事前に配布資料に目を通し、教科書（18～29 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	3	国際私法とは何か（２）ー「国際私法」という名の法律は見当たりませんか？	国際私法の法源・特徴	事前に配布資料に目を通し、教科書（14～17 頁、29～34 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	4	法律関係の性質決定ーどの規定が使われる？	法性決定、単位法律関係	事前に配布資料に目を通し、教科書（35～62 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	5	連結点の確定（１）ー連結点って何？	連結点、連結方法、連結政策	事前に配布資料に目を通し、教科書（63～90 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	6	連結点の確定（２）ー国籍ってどうやって決まるの？	本国法、国籍、住所、常居所	事前に配布資料に目を通し、教科書（91～116 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	7	準拠法の特定（１）ーアメリカ法を適用するって？	地域的不統一法、人的不統一法	事前に配布資料に目を通し、教科書（117～126 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	8	準拠法の特定（２）ー結局、日本法になるの？	反致、判決の国際的調和	事前に配布資料に目を通し、教科書（126～140 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	9	準拠法の適用（１）ー「暗闇への跳躍」っていったもねえ？	国際私法上の公序、「緊急脱出装置」	事前に配布資料に目を通し、教科書（150～164 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	10	準拠法の適用（２）ーいくら調べてもわからない場合は？	外国法の性質、外国法不明	事前に配布資料に目を通し、参考書等を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	11	国際民事手続法（１）ー日本	国際裁判管轄、国内土地管轄との相違、	事前に配布資料に目を通し、教科書（169～193 頁）

		で裁判できる？	国際民事手続法の法源	を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約2時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約2時間が目安）。	
	12	国際民事手続法（2）－どんな場合に日本で裁判できるの？	国際裁判管轄、民事訴訟法、管轄原因、特別の事情	事前に配布資料に目を通し、教科書（194～218 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約2時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約2時間が目安）。	
	13	まとめ－準拠法選択と国際裁判管轄ってどういう関係？	これまでの講義のまとめ、国際裁判管轄と準拠法選択の相違	事前に配布資料に目を通し、教科書（169～183 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約2時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約2時間が目安）。	
	14	具体例（1）－国際結婚って大変？	これまでの講義のまとめ、国際家族法	事前に配布資料に目を通し、教科書（249～274 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約2時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約2時間が目安）。	
	15	具体例（2）－インターネットで外国製品を買ったけど？	これまでの講義のまとめ、国際財産法	事前に配布資料に目を通し、教科書（275～298 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約2時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約2時間が目安）。	
関連科目	国際家族法、国際財産法、国際取引法のほか、民事法分野の各科目（民法や消費者法など）。				
教科書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	ブレップ国際私法		神前 禎	弘文堂
	2				
	3				
参考書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	国際私法		多田望ほか	有斐閣
	2	国際私法〔第3版〕		中西康ほか	有斐閣
	3	国際関係私法入門〔第4版補訂〕		松岡博編	有斐閣
評価方法（基準）	定期試験（60%）、課題（40%）				
学生へのメッセージ					
担当者の研究室等					
備考	第1回目の講義で授業の進め方や成績評価の方法などについて詳しい説明を行うので、受講を考えている人は可能な限り出席してください。				

				事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約2時間が目安）。																
	11	遺言－録音・録画による遺言 ってできますか？	遺言の成立・効力、遺言の方式の準拠法 に関する法律	事前に配布資料に目を通し、教科書（249～254 頁） を読んで分からない用語等を確認してから授業を 受けること（約2時間が目安）。授業終了後は、改 めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の 事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約2時 間が目安）。																
	12	国際家事事件（1）－何が問 題？	国際裁判管轄、外国判決の承認・執行、 財産事件との相違	事前に配布資料に目を通し、教科書（255～326 頁） を読んで分からない用語等を確認してから授業を 受けること（約2時間が目安）。授業終了後は、改 めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の 事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約2時 間が目安）。																
	13	国際家事事件（2）－日本で 離婚の訴えはできる？	人事訴訟事件、国際裁判管轄、人事訴訟 法	事前に配布資料に目を通し、教科書（326～337 頁） を読んで分からない用語等を確認してから授業を 受けること（約2時間が目安）。授業終了後は、改 めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の 事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約2時 間が目安）。																
	14	国際家事事件（3）－日本で 養子縁組の判断はできます か？	家事審判事件、国際裁判管轄、家事事件 手続法	事前に配布資料に目を通し、教科書（337～348 頁） を読んで分からない用語等を確認してから授業を 受けること（約2時間が目安）。授業終了後は、改 めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の 事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約2時 間が目安）。																
	15	国際家事事件（4）－子の奪 い合いは許しません？	子奪取条約、実施法、子の返還	事前に配布資料に目を通し、教科書（348～355 頁） を読んで分からない用語等を確認してから授業を 受けること（約2時間が目安）。授業終了後は、改 めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の 事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約2時 間が目安）。																
関連科目	国際私法、国際財産法、国際取引法のほか、民事法分野の各科目（特に、民法）。																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>国際関係私法入門〔第4版補訂〕</td><td>松岡博編</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	国際関係私法入門〔第4版補訂〕	松岡博編	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	国際関係私法入門〔第4版補訂〕	松岡博編	有斐閣																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>国際私法</td><td>多田望ほか</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>2</td><td>国際私法〔第3版〕</td><td>中西康ほか</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>3</td><td>国際私法判例百選〔第3版〕</td><td>道垣内正人ほか編</td><td>有斐閣</td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	国際私法	多田望ほか	有斐閣	2	国際私法〔第3版〕	中西康ほか	有斐閣	3	国際私法判例百選〔第3版〕	道垣内正人ほか編	有斐閣
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	国際私法	多田望ほか	有斐閣																	
2	国際私法〔第3版〕	中西康ほか	有斐閣																	
3	国際私法判例百選〔第3版〕	道垣内正人ほか編	有斐閣																	
評価方法 （基準）	定期試験（60%）、課題（40%）																			
学生への メッセージ																				
担当者の 研究室等																				
備考	・第1回目の講義で授業の進め方や成績評価の方法などについて詳しい説明を行うので、受講を考えている人は可能な限り出席してください。 ・本講義は、「国際私法」の講義を受講済みであることを前提に進めます（単位取得は要件ではない）。未履修者は、教科書や参考書等で関連部分 を読んだ上で、本講義を受講するようにしてください。																			

科目名	民事訴訟法	科目名 (英文)	Civil Procedure Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	萩原 佐織
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3043a0		

授業概要・目的	民法等により認められた権利が害され、私人間に紛争が生じた場合、その紛争解決手段として用いられるのが民事訴訟手続である。紛争の対象として取り扱うのが民法上の権利であるため、民法全般の復習・発展に役立つ。また、「実体法である民法」と「手続法である民事訴訟法を」含めた『民事法』としての総合的理解を図り、それらの知識を深めることを、目標とする。多様な紛争関係者を前提として適正・迅速といった対立する目的を実現しなければならないため、多面的な思考を養うことにも資する。
到達目標	この講義を通じ学生が、民事法において、実体法である民法、そして手続法である民事訴訟法、民事保全・執行法、倒産法が、それぞれどのような役割を担っているかを正確に理解し、民事法の全体像やそれぞれの機能の仕方を理解することが期待される。 そのうえで、裁判所の種類や各裁判所の役割・機能をはじめ、民事裁判全体の流れを掴み、民事裁判の仕組みや果たす役割について理解することも期待される。
授業方法と留意点	【事前準備・事前学習】 ①毎回 Teams の講義日付チャンネルに各回の講義内容・参照資料や動画等が記載されているので、それを参照して各自で予習すること ②講義は、事前に Teams 上にアップされているレジュメ (約 10 頁：より具体的に理解するため「判例教室」としての判例を含む) をプリントアウトして持参し、六法を用いて行う。分かり易いようにレジュメはカラーにしてあるが、白黒で印刷しても構わない。毎回、レジュメでは、主要箇所が括弧弧にされているので、事前学習としてレジュメ・教科書等の該当箇所や関連判例を読み、そ
科目学習の効果 (資格)	・紛争解決手段である民事訴訟手続のしくみが理解できるようになる。 ・大学院ならびに法科大学院等への進学、裁判所職員 (事務官・書記官)、司法書士、法検スタンダードコースなどの受験に対応できる知識・応用力を養われる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	・ガイダンス ・民事訴訟法の概要 ・民事訴訟法と他の法律 (憲法、民法、民事保全・執行法、倒産法) との関係	・授業の進め方、受講上の注意、評価方法等について ・裁判を受ける権利 ・訴訟と非訟	【事前学習】①毎回 Teams の講義日付チャンネルに各回の講義内容・参照資料や動画等が記載されているので、それを参照して各自で予習すること (以下同様)、②Teams からレジュメをダウンロード・プリントアウトして読む。予めプリントアウトしたレジュメを講義に持参すること (以下同様)、③教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配付資料・クイズ等の復習 (事前事後学習に要する時間 各2時間、以下同様)
	2	・裁判	・訴訟に勝てばどうなるのか ・訴訟には、どれだけの時間と費用がかかるか ・裁判にあたる人たち (裁判官、弁護士) ・紛争処理の方策 (ADR、調停、仲裁)	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Teams の講義日付チャンネルにある Forms クイズに回答し送信すること (以下同様)、④判例：レジュメ末尾にある「判例教室」の事案を読み争点・相関関係等を理解すること (以下同様)、⑤教科書 第1編 第2章、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題を行い提出 (以下同様)、③講義で学んだ判例解説を判例百選等で読み込む (以下同様) (各2時間)
	3	・裁判所 I	・裁判所の種類 ・最高裁判所 ・高等裁判所	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、⑥裁判所の種類・構造・所在地、各裁判所の役割について調べる、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③講義内等でなされた前回小テスト・課題のフィードバックに基づく復習 (以下同様)、④判例解説、 (各2時間)
	4	・裁判所 II	・地方裁判所 ・家庭裁判所 ・簡易裁判所	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 (各2時間)
	5	・上訴	・特別の不服申立て ・控訴 ・上告 ・抗告	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 (各2時間)
	6	・管轄 (審理・判決はどの裁判所ですか?)	・事物管轄と土地管轄 ・合意管轄と応訴管轄 ・移送	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、

				(各2時間)																
	7	・ 訴えの種類	・ 給付の訴え、確認の訴え、形成の訴え ・ 訴えの併合、訴えの変更、反訴	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)																
	8	・ 当事者（訴える人、訴えられる人とは？）	・ 誰が当事者になれるか？（権利能力、当事者能力） ・ 誰が当事者になるのが正しいか？（当事者適格、選定当事者）	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)																
	9	・ 訴訟代理	・ 訴訟代理とは？ ・ 代理権の範囲	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)																
	10	・ 民事訴訟の基本原則 ・ 事実認定	・ 処分権主義 ・ 弁論主義 ・ 自由心証主義	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)																
	11	・ 訴訟審理の進め方	・ 訴えの提起から判決まで ・ 口頭弁論はどのように実地されるか？ ・ 争点および証拠の整理	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)																
	12	・ 事実認定と証拠	・ 証拠はなぜ必要なのか？ ・ 自由心証主義 ・ 証拠の種類	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)																
	13	・ 判決の成立と効力	・ 既判力 ・ 執行力 ・ 形成力	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)																
	14	・ 再審	・ 再審の訴え～確定判決を動かす方法～ ・ 再審訴訟の手続	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)																
	15	・ まとめ&復習	・ 講義全体のまとめと復習	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)																
関連科目	民法全般、民事保全・執行法、民事訴訟法、倒産法																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>有斐閣ストゥディア 民事訴訟法 [第3版]</td><td>安西・安達・村上・畑</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	有斐閣ストゥディア 民事訴訟法 [第3版]	安西・安達・村上・畑	有斐閣	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																
	1	有斐閣ストゥディア 民事訴訟法 [第3版]	安西・安達・村上・畑	有斐閣																
	2																			
3																				
参考書																				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民事訴訟法 判例百選〔第5版〕	高橋・高田・畑編	有斐閣
	2			
	3			
評価方法 (基準)	1回につき約10点(慣れるまでは前半・後半で約5点ずつ)のForms小テストを約10回、講義後にTeams上にて課す。 期末試験は行わない。 講義内容(グループワーク)に基づき、小テストに代え、記述式課題等を課す場合がある。 また、講義への積極的な姿勢による加点や、講義中の態度による減点を考慮する。 なお事前学習を目的とするFormsクイズ等への回答に成績評価の対象となる課題点がつくことがありますので、全員必ず回答するようにしてください。詳細は講義にて。			
学生への メッセージ	講義中における私語・携帯等の使用については、他の学生の迷惑になるので、厳しく対処します。六法は講義で常に使用するので、必ず持参すること。民事訴訟法を学ぶことで、既に学んだ民事法全般の知識をリフレッシュかつ深めてください。			
担当者の 研究室等	11号館9階 萩原准教授室			
備考				

科目名	倒産法	科目名（英文）	Insolvency Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	萩原 佐織
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3044a0		

授業概要・目的	個人もしくは企業が経済的に破綻した場合、適切な対応は、関係者にとっても、経済全体にとっても重要なことである。倒産処理に関する法的処理は、激しく対立する債務者と債権者間の利害を公平かつ適切に調整する極めて動的で且つ実体法と訴訟法が複雑に交錯する实际的で、興味深い分野である。当該講義は、倒産処理法の中心である破産法について検討した上、民事再生の基本的な指導理念や枠組みについて説明する。これらの学習によって民事法全体についての理解にも資する。
到達目標	倒産法という自分には全く関係のない問題のように考える人も多いかと思いますが、教育ローン・マイホームローン・マイカーローンの返済の滞り、クレジットカード等による浪費等は誰にでも考えられることであり、自分が倒産しなくても、バイト先や勤務先の会社の業績不振による給料の未払い、就職した会社の取引会社が倒産して債権の回収に駆り出されたりと、倒産手続に巻き込まれる可能性はある。 このため、この授業を通じて学生には、転ばぬ先の杖ではないが、倒産手続の仕組みを理解し、経済的に自立した大人となるための基礎知識を得られることが期待される。
授業方法と留意点	【事前準備・事前学習】 ①毎回 Teams の講義日付チャンネルに各回の講義内容・参照資料や動画等が記載されているので、それを参照して各自で予習すること ②講義は、事前に Teams 上にアップされているレジュメ（約 10 頁：より具体的に理解するため「判例教室」としての判例を含む）をプリントアウトして持参し、六法を用いて行う。分かり易いようにレジュメはカラーにしてあるが、白黒で印刷しても構わない。毎回、レジュメでは、主要箇所が括弧空けにされているので、事前学習としてレジュメ・教科書等の該当箇所や関連判例を読み、そ
科目学習の効果（資格）	法科大学院への進学、裁判所職員、司法書士の試験等に有益である。金融についての理解が進むので、金融機関で働くことを望む者や、ファイナンシャルプランナー（FP）の資格取得希望者にとっても極めて有益である。また、それらを目指す者であっても、経済的に困難な状況に陥った場合のリスク回避・倒産手続の理解・対処方法の習得として、全ての者にとって必要な知識を得ることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	・ガイダンス ・倒産法の概要 ・倒産法と、他の法律（民法、民事訴訟法、民事保全・執行法）との関係 ・平常時と倒産時の比較の観点 ・倒産手続の種類（再建型と清算型）	・授業の進め方・受講上の注意及び評価方法等について ・個別執行（民事保全執行法）と包括執行（倒産法）との違い ・再建型（民事再生・会社更生）と清算型（破産・特別清算）	【事前学習】①毎回 Teams の講義日付チャンネルに各回の講義内容・参照資料や動画等が記載されているので、それを参照して各自で予習すること（以下同様）、②Teams からレジュメをダウンロード・プリントアウトして読む。予めプリントアウトしたレジュメを講義に持参すること（以下同様）、③教科書 第 1 編 第 1 章 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配付資料・クイズ等の復習 （事前事後学習に要する時間 各2時間、以下同様）
	2	・倒産の世界へようこそ	・倒産法がなかったら？ ・倒産法の必要性和存在意義	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Teams の講義日付チャンネルにある Forms クイズに回答し送信すること（以下同様）、④判例：レジュメ末尾にある「判例教室」の事案を読み争点・相関関係等を理解すること（以下同様）、⑤教科書 第 1 編 第 1 章、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題を行い提出（以下同様）、③講義内等でなされた前回小テスト・課題のフィードバックに基づく復習（以下同様）、④講義で学んだ判例解説を判例百選等で読み込
	3	・倒産手続とは？ ・破産手続とは？	・倒産手続の種類 ・裁判所で行われる倒産手続 ・私的整理・倒産 ADR	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 第 2 編 第 2・3 章 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、（各 2 時間）
	4	・破産手続の開始	・破産手続開始要件 ・破産手続開始の申立て ・保全処分 ・破産手続開始に対する不服申立て ・手続開始決定の効果	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 第 2 編 第 1 章 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、（各 2 時間）
	5	・破産管財人と破産財団	・破産財団の管理/換価等および破産管財人の善管注意義務 ・破産財団の意義と範囲および係属中の訴訟手続の取扱い ・破産管財人の第三者性と手続開始後の登記等の効力 ・再生債務者財産の管理等、再生債務者の第三者性等 ・財産評定	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 第 2 編 第 2 章 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、（各 2 時間）
	6	・破産債権	・債権者平等の原則 ・債権の優先順位 ・財団債権と破産債権（破産手続）	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 第 2 編 第 3 章 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、

				③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 (各2時間)
	7	・契約関係の処理	・双務契約の一方未履行の場合 ・双務契約の双方未履行の場合 ・取戻権 ・賃貸借契約 ・請負契約	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 第2編 第4章 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 (各2時間)
	8	・倒産手続における担保権の取扱い	・担保権とは何か ・別除権とは何か ・別除権の行使 ・別除権となる担保権(典型担保の場合)	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 第2編 第5章、⑥民法上における担保制度の予習・復習 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 (各2時間)
	9	・相殺権と相殺禁止	・相殺権の意義(民法における相殺との比較) ・相殺権の拡張 ・相殺権の制限	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 第2編 第6章 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 (各2時間)
	10	・否認権	・否認権の種類 ・詐害行為否認 ・偏頗行為否認	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 第2編 第7章 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 (各2時間)
	11	・配当と破産手続の終了 ・個人破産と免責	・破産財団の管理・換価・配当 ・破産手続の終了とその効果 ・免責許可決定 ・免責の効果	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 第2編 第8・9章 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 (各2時間)
	12	・民事再生手続とは？	・民事再生手続の概要 ・再生手続開始決定 ・機関 ・再生債権	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 第3編 第1・2・3・4章 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 (各2時間)
	13	・再生計画の作成と履行	・再生計画とは？ ・再生計画の提出・成立 ・再生計画の履行・手続の終結	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 第3編 第5章 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 (各2時間)
	14	・個人再生 ・民事再生と会社更生	・小規模個人再生 ・給与所得者等再生 ・住宅資金貸付債権に関する特別	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 第3編 第6章 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 (各2時間)
	15	・倒産法における諸問題 ・まとめ&復習	・講義全体のまとめと復習	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 (各2時間)
関連科目	民法全般、民事保全・執行法、民事訴訟法、民事訴訟応用講義、知的財産法、商法			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	有斐閣ストゥディア 倒産法	倉部・高田・上江洲	有斐閣
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	倒産法 判例百選〔第6版〕	伊藤眞・松下淳一編	有斐閣
	2			
	3			
評価方法 (基準)	1回につき約10点(慣れるまでは前半・後半で約5点ずつ)のForms小テストを約10回、講義後にTeams上にて課す。 期末試験は行わない。 講義内容(グループワーク)に基づき、小テストに代え、記述式課題等を課す場合がある。 また、講義への積極的な姿勢による加点や、講義中の態度による減点を考慮する。 なお事前学習を目的とするFormsクイズ等への回答に成績評価の対象となる課題点がつくことがありますので、全員必ず回答するようにしてください。詳細は講義にて。			
学生への メッセージ	講義中における私語・携帯等の使用については、他の学生の迷惑になるので、厳しく対処します。六法は講義で常に使用するので、必ず持参すること。倒産法を学ぶことで、既に学んだ民事法全般の知識をリフレッシュかつ深めてください。			
担当者の 研究室等	11号館9階 萩原准教授室			
備考				

科目名	民事保全・執行法	科目名（英文）	Enforcement of Judgments; Provisional Remedies
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	萩原 佐織
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3045a0		

授業概要・目的	民法等により認められた権利が害され、私人間に紛争が生じた場合、その紛争解決手段として用いられるのが民事訴訟手続、いわゆる民事裁判である。ただ、訴訟で勝訴しても、相手が応じない等の理由で、紛争が解決しない場合がある。その際の、究極の紛争解決手段が、民事保全執行手続である。当該講義では、民事保全執行手続の基礎を学ぶとともに、民法や民事訴訟法等で学んだ知識を発展・応用する能力を培うことを目的とする。紛争の対象として取り扱うのが民法上の権利であるため、民法全般の復習や応用ができ、また「実体法である民法」と「手続法である民事訴訟法・民事保全執行法」を含めた『民事法』としての総合的理解を図ることができる。
到達目標	民法と比べると、民事執行法・民事保全法には、それほど馴染みがないかもしれない。でも、民法の知識だけで、お金を貸した相手が返してくれない場合や、約束したはずの養育費が支払われない場合など、債務者が任意に支払ってくれない場合にどうやってその支払いを促すことができるのか、理解するのは難しい。 この授業を通じて学生には、将来、自分が債権者として債務者から金銭を回収したい場合はもちろん、逆に自分が債務者として金銭の支払いを促される場合においても、どのような仕組みで、どのような過程や手続を経て、その執行が強制的になされるのかを理解できるようになることが期待される。それらの知識は、転ばぬ先の杖として、経済的に自立した大人になるために必要な知識であると考えられる。
授業方法と留意点	【事前準備・事前学習】 ①毎回 Teams の講義日付チャネルに各回の講義内容・参照資料や動画等が記載されているので、それを参照して各自で予習すること ②講義は、事前に Teams 上にアップされているレジュメ（約 10 頁：より具体的に理解するため「判例教室」としての判例を含む）をプリントアウトして持参し、六法を用いて行う。分かり易いようにレジュメはカラーにしてあるが、白黒で印刷しても構わない。毎回、レジュメでは、主要箇所が括弧空けにされているので、事前学習としてレジュメ・教科書等の該当箇所や関連判例を読み、そ
科目学習の効果（資格）	・民事保全執行手続のしくみを理解し、民事紛争解決手段の一端を知ることができる。 ・大学院ならびに法科大学院等への進学、裁判所職員（事務官・書記官）、司法書士などの受験に対応できる知識・応用力を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	① ガイダンス ② 民事執行法の概観	① 授業方法・評価方法等の説明 ② 他の法分野との関係 ③ 判決手続と執行手続 ④ 民事執行の沿革等	【事前学習】①毎回 Teams の講義日付チャネルに各回の講義内容・参照資料や動画等が記載されているので、それを参照して各自で予習すること（以下同様）、②Teams からレジュメをダウンロード・プリントアウトして読む。予めプリントアウトしたレジュメを講義に持参すること（以下同様）、③教科書 第 1 章 1, 2、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配付資料・クイズ等の復習 （事前事後学習に要する時間 各 2 時間、以下同様）
	2	① 執行手続の種類・態様 ② 執行手続の主体	① 強制執行の意義と種類 ② 執行当事者 ③ 執行機関	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Teams の講義日付チャネルにある Forms クイズに回答し送信すること（以下同様）、④判例：レジュメ末尾にある「判例教室」の事案を読み争点・相関関係等を理解すること（以下同様）、⑤教科書 第 1 章 3、第 2 章 1 節、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題を行い提出（以下同様）、③講義内等でなされた前回小テスト・課題のフィードバックに基づき復習（以下同様）、④講義で学んだ判例解説を判例百選等
	3	民事保全法 I	① 民事保全法の概説 ② 民事保全命令手続	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 6 章 1、2 節、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、（各 2 時間）
	4	民事保全法 II	① 不服申立手続 ② 保全執行	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 第 6 章 3、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、（各 2 時間）
	5	強制執行手続の開始	① 強制執行手続の要件 ② 債務名義とその種類	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 第 2 章 2 節、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、（各 2 時間）
	6	強制執行手続の進行	① 執行の対象 ② 財産開示手続 ③ 執行手続の終了	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 第 2 章 2 節 2、第 5 章、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、

				(各2時間)
	7	執行関係訴訟	① 請求異議の訴え ② 執行文付与に関する訴訟 ③ 第三者異議の訴え	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 第2章3節、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)
	8	非金銭執行の実現	① 物の引渡し・明渡しの強制執行 ② 作為・不作為の強制執行 ③ 意思 j 表示の強制執行	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 第3章2節、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)
	9	非金銭執行の実例	① 子の引渡しと執行 ② 面会交流権と執行	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤民法上の面会交流権の予習・復習、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)
	10	動産執行	① 動産執行の意義 ② 差押え・換価・満足	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 第3章1節4項、⑥民法上の動産の概念の復習、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)
	11	不動産執行 I	① 強制競売の開始 ② 売却の準備・条件・効果	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 第3章1節2項、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)
	12	不動産執行 II	① 債権者の満足 ② 強制管理	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 第3章1節2項、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)
	13	債権およびその他の財産権に対する強制執行	① 金銭債権に対する強制執行 ② 少額訴訟債権執行 ③ 船舶・動産等の引渡請求権に対する強制執行	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 第3章1節5項、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)
	14	担保権の実行としての競売等	① 担保権実行制度の意義 ② 担保不動産競売 ③ 担保不動産収益執行 ④ 動産競売	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 第4章、②レジュメ、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)
	15	まとめ&復習	① 全てのまとめ&復習	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 第4章、②レジュメ、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)
関連科目	民法全般、民事訴訟法、民事訴訟法応用講義、倒産法			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎から分かる民事執行法・民事保全法〔第3版〕	和田吉弘	弘文堂
	2			
	3			
参考書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民事執行・保全 判例百選〔第3版〕	上原・長谷部・山本編	有斐閣
	2	実践 民事執行法 民事保全法〔第3版〕	平野哲朗	日本評論社
	3			
評価方法 (基準)	1回につき約10点(慣れるまでは前半・後半で約5点ずつ)のForms小テストを約10回、講義後にTeams上にて課す。 期末試験は行わない。 講義内容(グループワーク)に基づき、小テストに代え、記述式課題等を課す場合がある。 また、講義への積極的な姿勢による加点や、講義中の態度による減点を考慮する。 なお事前学習を目的とするFormsクイズ等への回答に成績評価の対象となる課題点がつくことがありますので、全員必ず回答するようにしてください。詳細は講義にて。			
学生への メッセージ	講義中における私語・携帯等の使用については、他の学生の迷惑になるので、厳しく対処します。六法は講義で常に使用するので、必ず持参すること。民事保全執行手続を学ぶことで、既に学んだ民事法全般の知識をリフレッシュさせてください。			
担当者の 研究室等	11号館9階 萩原准教授室			
備考				

科目名	商法総論	科目名（英文）	Commercial Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	仲宗根 京子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2046a0		

授業概要・目的	この講義では、広く商法に関する法制度・法規制について学習することを目的としています。具体的に扱う内容は、商法総則および商行為となります。																																																																			
到達目標	この講義の目標は、法律で定められた制度を理解できるようにすることに加え、個別の法的問題点に対して論理的に検討できるようになることです。																																																																			
授業方法と留意点	講義内容に合わせてレジュメを Teams で配布するので、レジュメをもとに重要事項などをメモしながら内容を理解してください。毎回の講義後にグループで練習問題を解いてもらい、答え合わせをします。事後学習として間違えた部分はしっかりと復習してください。質問等は練習問題にある質問欄に記入してください。次回の講義で質問にはお答えします。																																																																			
科目学習の効果（資格）	様々な営業に関わる法律の 1 つである「商法」について基礎知識および法的問題点を知ることができます。																																																																			
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr><tr><td>1</td><td>イントロダクション</td><td>講義の進め方、商法の概要</td><td>六法で商法に何が書かれているか見ておく（1 時間）</td></tr><tr><td>2</td><td>商法の法源</td><td>商事制定法、商慣習法、約款、法適用の順序</td><td>商慣習法や約款とは何か調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）</td></tr><tr><td>3</td><td>商人</td><td>商人の意義、擬制商人、商人資格の得喪</td><td>商人に関する条文を見ておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）</td></tr><tr><td>4</td><td>営業の譲渡</td><td>営業譲渡に関するルール</td><td>営業譲渡に関する条文を見ておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）</td></tr><tr><td>5</td><td>商号①</td><td>商号の意義、選定、商号権</td><td>商号に関する条文を見ておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）</td></tr><tr><td>6</td><td>商号②</td><td>名板貸し</td><td>名板貸しに関する条文を見ておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）</td></tr><tr><td>7</td><td>商業登記</td><td>登記事項、手続、公示、法的効力</td><td>登記について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）</td></tr><tr><td>8</td><td>確認試験（中間）</td><td>第 2 回～第 7 回の講義の復習として試験を実施する。</td><td>第 2 回～第 7 回の講義内容を復習する（2 時間）</td></tr><tr><td>9</td><td>商行為の意義・種類</td><td>絶対的商行為、営業的商行為、附属的商行為</td><td>501 条～503 条について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）</td></tr><tr><td>10</td><td>商行為の通則</td><td>商行為一般に関する特則</td><td>504 条～516 条について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）</td></tr><tr><td>11</td><td>商事売買・交互計算</td><td>商事売買に関する特則、交互計算契約</td><td>524 条～528 条、交互計算契約について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）</td></tr><tr><td>12</td><td>運送営業</td><td>運送営業に関するルール</td><td>570 条～594 条について見ておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）</td></tr><tr><td>13</td><td>場屋営業</td><td>場屋営業に関するルール</td><td>場屋営業とは何か調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）</td></tr><tr><td>14</td><td>支配人</td><td>支配人に関するルール</td><td>支配人とは何か調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）</td></tr><tr><td>15</td><td>確認試験（期末）</td><td>第 9 回～第 14 回の講義の復習として試験を実施する。</td><td>第 9 回～第 14 回の講義内容を復習する（2 時間）</td></tr></table>				回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	講義の進め方、商法の概要	六法で商法に何が書かれているか見ておく（1 時間）	2	商法の法源	商事制定法、商慣習法、約款、法適用の順序	商慣習法や約款とは何か調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）	3	商人	商人の意義、擬制商人、商人資格の得喪	商人に関する条文を見ておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）	4	営業の譲渡	営業譲渡に関するルール	営業譲渡に関する条文を見ておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）	5	商号①	商号の意義、選定、商号権	商号に関する条文を見ておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）	6	商号②	名板貸し	名板貸しに関する条文を見ておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）	7	商業登記	登記事項、手続、公示、法的効力	登記について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）	8	確認試験（中間）	第 2 回～第 7 回の講義の復習として試験を実施する。	第 2 回～第 7 回の講義内容を復習する（2 時間）	9	商行為の意義・種類	絶対的商行為、営業的商行為、附属的商行為	501 条～503 条について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）	10	商行為の通則	商行為一般に関する特則	504 条～516 条について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）	11	商事売買・交互計算	商事売買に関する特則、交互計算契約	524 条～528 条、交互計算契約について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）	12	運送営業	運送営業に関するルール	570 条～594 条について見ておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）	13	場屋営業	場屋営業に関するルール	場屋営業とは何か調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）	14	支配人	支配人に関するルール	支配人とは何か調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）	15	確認試験（期末）	第 9 回～第 14 回の講義の復習として試験を実施する。	第 9 回～第 14 回の講義内容を復習する（2 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																	
1	イントロダクション	講義の進め方、商法の概要	六法で商法に何が書かれているか見ておく（1 時間）																																																																	
2	商法の法源	商事制定法、商慣習法、約款、法適用の順序	商慣習法や約款とは何か調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）																																																																	
3	商人	商人の意義、擬制商人、商人資格の得喪	商人に関する条文を見ておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）																																																																	
4	営業の譲渡	営業譲渡に関するルール	営業譲渡に関する条文を見ておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）																																																																	
5	商号①	商号の意義、選定、商号権	商号に関する条文を見ておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）																																																																	
6	商号②	名板貸し	名板貸しに関する条文を見ておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）																																																																	
7	商業登記	登記事項、手続、公示、法的効力	登記について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）																																																																	
8	確認試験（中間）	第 2 回～第 7 回の講義の復習として試験を実施する。	第 2 回～第 7 回の講義内容を復習する（2 時間）																																																																	
9	商行為の意義・種類	絶対的商行為、営業的商行為、附属的商行為	501 条～503 条について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）																																																																	
10	商行為の通則	商行為一般に関する特則	504 条～516 条について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）																																																																	
11	商事売買・交互計算	商事売買に関する特則、交互計算契約	524 条～528 条、交互計算契約について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）																																																																	
12	運送営業	運送営業に関するルール	570 条～594 条について見ておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）																																																																	
13	場屋営業	場屋営業に関するルール	場屋営業とは何か調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）																																																																	
14	支配人	支配人に関するルール	支配人とは何か調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）																																																																	
15	確認試験（期末）	第 9 回～第 14 回の講義の復習として試験を実施する。	第 9 回～第 14 回の講義内容を復習する（2 時間）																																																																	
関連科目	民法、会社法																																																																			
教科書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																	
1																																																																				
2																																																																				
3																																																																				
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>商法総則・商行為法 基礎と展開（第 3 版）</td><td>末永敏和</td><td>中央経済社</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	商法総則・商行為法 基礎と展開（第 3 版）	末永敏和	中央経済社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																	
1	商法総則・商行為法 基礎と展開（第 3 版）	末永敏和	中央経済社																																																																	
2																																																																				
3																																																																				
評価方法（基準）	確認試験 2 回分（中間 50％、期末 50％）で評価します。																																																																			
学生へのメッセージ	第 1 回で講義の進め方を説明するので、説明を聴いた上で受講してください。																																																																			
担当者の研究室等	11 号館 9 階																																																																			
備考	練習問題および質問は講義終了後に回収をして、次回に返却します。 確認試験を実施後、解答は Teams に掲載するので、自己採点を行って復習してください。																																																																			

科目名	会社法	科目名（英文）	Corporate Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	仲宗根 京子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2047a0		

授業概要・目的	この講義では、「会社法」で定められている法制度・法規制について学習することを目的としています。経済社会において会社という存在が活動するなかで、どのようにして組織されていて、またどのようにして活動しているのか、法的な観点から学びます。会社経営の要にもなるコーポレートガバナンスに対する法規定を中心に、経営者である取締役の法的責任についても言及します。
到達目標	この講義の目標は、会社法で定められた制度を理解できるようにすることに加え、会社法に関する法的問題点を理解して検討できるようになることです。
授業方法と留意点	講義内容に合わせてレジュメを配布するので、レジュメをもとに重要事項などをメモしながら内容を理解してください。毎回の講義終了後にグループで練習問題を解いて答え合わせをしてもらい、事後学習として特に間違えた部分についてはしっかり復習をしておきましょう。質問等は練習問題にある質問欄に記入してもらえれば、次の講義でお答えします。
科目学習の効果（資格）	企業法務や会社経営に関する法律知識を身に着けることができます。関連する資格として、ビジネス実務法務検定、法学検定（中級）、行政書士、司法書士などがあります。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	講義の進め方、会社法の概要	六法などで会社法に何が書かれているのか見ておく（1 時間）
	2	会社のしくみ・法人格	会社の種類、社員の責任、法人格否認の法理	会社の種類を調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	3	株主①	株主の権利	株主にはどのような権利があるのか考えてみる（1 時間） 練習問題トの復習を行う（1 時間）
	4	株主②	株主平等の原則、株主名簿	株主平等の原則について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	5	株式制度	株式の内容、種類株式	種類株式について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	6	機関設計①	機関の設置強制に関するルール	会社法 327 条、328 条、402 条を学習しておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	7	機関設計②	指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社、社外取締役	指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社、社外取締役について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	8	確認試験（中間）	第2回～第7回の内容について復習としての確認試験を実施する。	第2回～第7回の講義内容を復習する（2 時間）
	9	株主総会①	招集権者、招集手続、決議権の代理行使	株主総会の開催方法を調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	10	株主総会②	決議要件、説明責任、決議の瑕疵に関する訴訟、利益供与	決議要件に関する条文を見ておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	11	取締役	取締役の選任・資格・終任、表見代表取締役	取締役に関する条文をすべて見ておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	12	取締役の義務	善管注意義務、忠実義務、競業禁止義務、利益相反取引規制	取締役の義務に関する条文を見ておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	13	役員等の会社に対する責任	任務懈怠責任、責任免除・軽減制度	任務懈怠責任、責任免除・軽減制度について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	14	第三者に対する責任、株主代表訴訟	第三者に対する責任の概要と要件、株主代表訴訟に関するルール	株主代表訴訟について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	15	確認試験（期末）	第9回～第14回の内容について復習としての確認試験を実施する。	第9回～第14回の講義内容を復習する（2 時間）

関連科目	民法、金融商品取引法
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎から学べる会社法（第5版）	近藤光男ほか	弘文堂
	2			
	3			

評価方法（基準）	確認試験 2 回分（中間 50%、期末 50%）で評価します。
----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	1 回目に講義の進め方を説明しますので、それを聴いた上で受講してください。
-----------	---------------------------------------

担当者の研究室等	11 号館 10 階
----------	------------

備考	練習問題は評価に含まれませんが、毎回の授業で回収して次回に返却するかたちとします。 確認試験の解答は実施後に Teams に掲載しますので、自己採点をしてください。
----	---

科目名	有価証券法	科目名 (英文)	Law of Negotiable Instruments
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	仲宗根 京子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2048a0		

授業概要・目的	この講義では、「手形法」および「小切手法」で定められている法制度・法規制について学習することを目的としている。企業や商人の決済手段の一つとして手形や小切手を利用されており、実際の利用方法や法規制に関する基礎知識を学ぶとともに、手形や小切手に関するトラブル事例などを検討していく。																																																																		
到達目標	この講義を通じて学生には、手形法・小切手法で定められた制度を理解できるようにすることに加え、手形・小切手に関する法的問題点に対して論理的に対処できるようになることを期待しています。																																																																		
授業方法と留意点	講義内容に合わせてレジュメを配布するので、レジュメをもとに重要事項などをメモしながら内容を理解してほしい。事後学習として小テストで間違えたところを中心に復習をしておくこと。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	企業法務、特に金融の分野や一般的なビジネス上の決済方法として必要な基礎知識を身にけることができます。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション</td><td>講義の進め方、手形・小切手の役割</td><td>手形・小切手がどこで使われているのか調べる (予習: 1 時間、復習 2 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>手形・小切手の種類・しくみ・譲渡</td><td>手形・小切手の利害関係者と基本構造</td><td>約束手形・為替小切手・小切手の違いを調べる (予習: 1 時間、復習 2 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>手形・小切手の支払義務・担保責任</td><td>手形・小切手に関する義務の発生、担保責任、遡求</td><td>手形・小切手の遡求について調べる (予習: 1 時間、復習 2 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>手形・小切手の支払実務・法的性質</td><td>手形・小切手の決済実務、法的性質</td><td>手形交換所や当座勘定契約について調べる (予習: 1 時間、復習 2 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>手形要件・小切手要件</td><td>手形・小切手の記載事項</td><td>手形・小切手に何を書くべきか調べる (予習: 1 時間、復習 2 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>白地手形・白地小切手</td><td>白地手形・白地小切手の意義、法的問題</td><td>手形・小切手の白地について調べる (予習: 1 時間、復習 2 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>無権代理・偽造</td><td>手形や小切手における無権代理や偽造の問題</td><td>無権代理と偽造について調べる (予習: 1 時間、復習 2 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>確認試験①</td><td>第 2 回～第 7 回の内容で復習としての確認試験を実施</td><td>第 2 回～第 7 回の講義内容を復習する (2 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>裏書①</td><td>裏書の方式・法的効力</td><td>裏書について調べる (予習: 1 時間、復習 2 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>裏書②</td><td>裏書の連続、特殊な裏書</td><td>裏書の連続について調べる (予習: 1 時間、復習 2 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>手形抗弁①</td><td>物的抗弁、人的抗弁</td><td>手形抗弁について調べる (予習: 1 時間、復習 2 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>手形抗弁②</td><td>融通手形、書合手形、戻裏書、後者の抗弁</td><td>融通手形や書合手形について調べる (予習: 1 時間、復習 2 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>手形抗弁③・善意取得</td><td>二重無権の抗弁、無権利の抗弁、善意取得</td><td>善意取得について復習する (予習: 1 時間、復習 2 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>手形行為論</td><td>交付欠缺について事例検討</td><td>交付欠缺を調べる (予習: 1 時間、復習 2 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>確認試験②</td><td>第 9 回～第 14 回の内容で復習としての確認試験を実施</td><td>第 9 回～第 14 回の講義内容を復習する (2 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	講義の進め方、手形・小切手の役割	手形・小切手がどこで使われているのか調べる (予習: 1 時間、復習 2 時間)	2	手形・小切手の種類・しくみ・譲渡	手形・小切手の利害関係者と基本構造	約束手形・為替小切手・小切手の違いを調べる (予習: 1 時間、復習 2 時間)	3	手形・小切手の支払義務・担保責任	手形・小切手に関する義務の発生、担保責任、遡求	手形・小切手の遡求について調べる (予習: 1 時間、復習 2 時間)	4	手形・小切手の支払実務・法的性質	手形・小切手の決済実務、法的性質	手形交換所や当座勘定契約について調べる (予習: 1 時間、復習 2 時間)	5	手形要件・小切手要件	手形・小切手の記載事項	手形・小切手に何を書くべきか調べる (予習: 1 時間、復習 2 時間)	6	白地手形・白地小切手	白地手形・白地小切手の意義、法的問題	手形・小切手の白地について調べる (予習: 1 時間、復習 2 時間)	7	無権代理・偽造	手形や小切手における無権代理や偽造の問題	無権代理と偽造について調べる (予習: 1 時間、復習 2 時間)	8	確認試験①	第 2 回～第 7 回の内容で復習としての確認試験を実施	第 2 回～第 7 回の講義内容を復習する (2 時間)	9	裏書①	裏書の方式・法的効力	裏書について調べる (予習: 1 時間、復習 2 時間)	10	裏書②	裏書の連続、特殊な裏書	裏書の連続について調べる (予習: 1 時間、復習 2 時間)	11	手形抗弁①	物的抗弁、人的抗弁	手形抗弁について調べる (予習: 1 時間、復習 2 時間)	12	手形抗弁②	融通手形、書合手形、戻裏書、後者の抗弁	融通手形や書合手形について調べる (予習: 1 時間、復習 2 時間)	13	手形抗弁③・善意取得	二重無権の抗弁、無権利の抗弁、善意取得	善意取得について復習する (予習: 1 時間、復習 2 時間)	14	手形行為論	交付欠缺について事例検討	交付欠缺を調べる (予習: 1 時間、復習 2 時間)	15	確認試験②	第 9 回～第 14 回の内容で復習としての確認試験を実施	第 9 回～第 14 回の講義内容を復習する (2 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	講義の進め方、手形・小切手の役割	手形・小切手がどこで使われているのか調べる (予習: 1 時間、復習 2 時間)																																																																
2	手形・小切手の種類・しくみ・譲渡	手形・小切手の利害関係者と基本構造	約束手形・為替小切手・小切手の違いを調べる (予習: 1 時間、復習 2 時間)																																																																
3	手形・小切手の支払義務・担保責任	手形・小切手に関する義務の発生、担保責任、遡求	手形・小切手の遡求について調べる (予習: 1 時間、復習 2 時間)																																																																
4	手形・小切手の支払実務・法的性質	手形・小切手の決済実務、法的性質	手形交換所や当座勘定契約について調べる (予習: 1 時間、復習 2 時間)																																																																
5	手形要件・小切手要件	手形・小切手の記載事項	手形・小切手に何を書くべきか調べる (予習: 1 時間、復習 2 時間)																																																																
6	白地手形・白地小切手	白地手形・白地小切手の意義、法的問題	手形・小切手の白地について調べる (予習: 1 時間、復習 2 時間)																																																																
7	無権代理・偽造	手形や小切手における無権代理や偽造の問題	無権代理と偽造について調べる (予習: 1 時間、復習 2 時間)																																																																
8	確認試験①	第 2 回～第 7 回の内容で復習としての確認試験を実施	第 2 回～第 7 回の講義内容を復習する (2 時間)																																																																
9	裏書①	裏書の方式・法的効力	裏書について調べる (予習: 1 時間、復習 2 時間)																																																																
10	裏書②	裏書の連続、特殊な裏書	裏書の連続について調べる (予習: 1 時間、復習 2 時間)																																																																
11	手形抗弁①	物的抗弁、人的抗弁	手形抗弁について調べる (予習: 1 時間、復習 2 時間)																																																																
12	手形抗弁②	融通手形、書合手形、戻裏書、後者の抗弁	融通手形や書合手形について調べる (予習: 1 時間、復習 2 時間)																																																																
13	手形抗弁③・善意取得	二重無権の抗弁、無権利の抗弁、善意取得	善意取得について復習する (予習: 1 時間、復習 2 時間)																																																																
14	手形行為論	交付欠缺について事例検討	交付欠缺を調べる (予習: 1 時間、復習 2 時間)																																																																
15	確認試験②	第 9 回～第 14 回の内容で復習としての確認試験を実施	第 9 回～第 14 回の講義内容を復習する (2 時間)																																																																
関連科目	民法、会社法																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>商法Ⅲ－手形・小切手</td><td>大塚龍児・林靖・福瀧博之</td><td>有斐閣</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	商法Ⅲ－手形・小切手	大塚龍児・林靖・福瀧博之	有斐閣	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	商法Ⅲ－手形・小切手	大塚龍児・林靖・福瀧博之	有斐閣																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	中間テスト (50%) 期末テスト (50%) で評価いたします。																																																																		
学生へのメッセージ	第 1 回目に講義の進め方を説明するので必ず聴いた上で受講すること。																																																																		
担当者の研究室等	11 号館 9 階																																																																		
備考																																																																			

科目名	独占禁止法	科目名（英文）	Anti-Trust Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	本多 康作
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3049a0		

授業概要・目的	独占禁止法は、企業活動を規制することにより、公正かつ自由な競争を促進し、一般消費者の利益を確保するとともに、国民経済の民主的で健全な発達を促進することを目的とするものである。独占禁止法の理解には、法律の条文を直接、読み、また判決および審決における具体的な事例の検討が不可欠である。
到達目標	この授業を通じて学生は、独占禁止法の基本的知識と応用力を取得することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICT ツールとして Microsoft 社の teams を用いる。 ・課題提示や資料配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 ・最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を必ず持参すること。
科目学習の効果（資格）	企業に就職する者にとっては、独占禁止法の知識は有用な知識であり、また公務員にとっても、談合という不当な取引制限に対する知識の修得は職務上、重要である。独占禁止法の知識と応用力の修得により、会社や社会に対して大きく貢献できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業ルールと、競争政策の見取り図と競争の目的	本授業の授業ルールを説明したうえで、競争政策の見取り図と競争の目的について学ぶ。	事前に教科書 pp. 1. ～22. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp 1. ～22 を読むこと（2 時間）。
	2	独禁法の規制内容	独禁法の規制内容について学ぶ。	事前に教科書 pp. 22. ～35. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 22～35. を読むこと（2 時間）。
	3	企業結合（1）	企業結合の概要と、合併と株式保有等の規制（1）、特に市場効果要件について学ぶ。	事前に教科書 pp. 37～50. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 37. ～50. を読むこと（2 時間）。
	4	企業結合（2）	合併と株式保有等の規制（2）、特に市場効果の判定について学ぶ。	事前に教科書 pp. 50～83. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 50～83. を読むこと（2 時間）。
	5	企業結合（3）	手続とエンフォースメント等について学ぶ。	事前に教科書 pp. 84 ～90. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. . 84～90. を読むこと（2 時間）。
	6	不当な取引制限（1）	不当な取引制限の概要と、カルテルと関連規定等について学ぶ。	事前に教科書 pp. 91 ～96. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 91～96. を読むこと（2 時間）。
	7	不当な取引制限（2）	不当な取引制限の禁止について学ぶ。	事前に教科書 pp. 97～133. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 97～133. を読むこと（2 時間）。
	8	不当な取引制限（3）	違反行為に対する制裁について学ぶ。	事前に教科書 pp134. ～143. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 134～143. を読むこと（2 時間）。
	9	私的独占（1）	私的独占の概要と、行為の要件について学ぶ。	事前に教科書 pp. 145～160. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 145～160. を読むこと（2 時間）。
	10	私的独占（2）	効果の要件と、違反行為に対する制裁について学ぶ。	事前に教科書 pp. 160～173. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 160～173. を読むこと（2 時間）。
	11	不公正な取引方法（1）	不公正な取引方法の概要と、取引拒絶・差別的取扱いについて学ぶ。	事前に教科書 pp. 175～193. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 1 75～193. を読むこと（2 時間）。
	12	不公正な取引方法（2）	不当対価と、不当な顧客誘引・取引の強制について学ぶ。	事前に教科書 pp. 193～232. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 193～232. を読むこと（2 時間）。
	13	不公正な取引方法（3）	抱き合わせ販売等、事業活動の不当拘束（1）、特に排他条件付取引、そして事業活動の不当拘束（2）、特に再販売価格の拘束について学ぶ。	事前に教科書 pp. 232～268. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 232～268. を読むこと（2 時間）。
	14	不公正な取引方法（4）	事業活動の不当拘束（3）、特に拘束条件付取引と、取引上の地位の不当利用、そして競争者の事業活動の不当妨害について学ぶ。	事前に教科書 pp. 269～293. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 269～293. を読むこと（2 時間）。
	15	事業者団体の活動	事業者団体規制の目的と意義、事業者団体の概念、事業者団体の禁止行為、事業者団体の自主規制、そして違反行為への制裁について学ぶ。	事前に教科書 pp. 295～312. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 295～312. を読むこと（2 時間）。

関連科目	会社法、行政法
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ベーシック経済法（最新版）	川濱昇その他 3 名	有斐閣
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	経済法判例・審決百選（最新版）	厚谷襄児・稗貫俊文編	有斐閣
	2			
	3			

評価方法（基準）	形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft forms から課題を配信し、その回答内容を合算して評価対象とする（課題の得点 100%）。
学生へのメッセージ	私語は認めない。私語をはじめ、授業態度が悪い場合は、単位を認定しない。このような本授業を履修する際の注意事項を含む授業ルールは、初回の授業で説明する。
担当者の研究室等	本多研究室（11 号館 9 階）

備考	
----	--

科目名	金融商品取引法	科目名（英文）	Financial Instrument and Exchange Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	仲宗根 京子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3050a0		

授業概要・目的	この講義では、「金融商品取引法」で定められている法制度・法規制について学習することを目的とします。法律科目の中でも金融商品取引法は専門性が高く、法律の条文を読み解くのは少し難しいものになっています。講義内容としては、経済社会において必要不可欠となっている証券市場に関する情報開示ルールや禁止されている不正行為を中心に見ていきます。最終的に、この講義では金融商品取引法にどのような規制が何のために存在するかを明らかにしていくことを目的としています。																																																																		
到達目標	この講義を通じて学生には、金融商品取引法で定められた法規制を理解できるようにすることに加え、証券市場を取り巻く法的問題点に対して論理的に検討できるようになることが期待されます。																																																																		
授業方法と留意点	講義内容に合わせてレジュメはTeamsを利用して配布します。講義の最後にその日の復習としてグループで問題を解いてもらいます。答え合わせをして間違えた部分を中心に毎回の復習をするようにしてください。																																																																		
科目学習の効果（資格）	金融の中でも証券取引に関する専門性の高い法律知識を習得し、難解な法律を読み解くことができるようにします。																																																																		
授業計画	<table> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション</td><td>講義の進め方</td><td>シラバスの確認（予習 30 分）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>金融商品市場の基本的な仕組み</td><td>社会基盤としての市場および投資活動</td><td>証券市場について大まかに調べる（予習：1 時間、復習 1 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>金融商品取引法の適用範囲</td><td>金融商品取引法の目的と適用範囲</td><td>金融商品取引法について調べる（予習：1 時間、復習 1 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>有価証券の上場と取引所</td><td>有価証券の上場</td><td>上場や証券市場について調べる（予習：1 時間、復習 1 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>企業内容の開示規制①</td><td>開示規制の概要と発行開示制度</td><td>発行開示について調べる（予習：1 時間、復習 1 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>企業内容の開示規制②</td><td>目論見書制度、発行登録制度</td><td>目論見書について調べる（予習：1 時間、復習 1 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>企業内容の開示規制③ 情報開示の公平性確保</td><td>継続開示制度、FD ルール</td><td>継続開示について調べる（予習：1 時間、復習 1 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>確認試験（中間）</td><td>第 2 回～第 7 回の総括および確認試験</td><td>第 2 回～第 7 回の授業で扱った内容すべてについて復習する（2 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>情報開示の正確性確保、課徴金制度</td><td>監査制度、行政審査、課徴金制度の概要</td><td>監査および課徴金について調べる（予習 1 時間、復習 1 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>虚偽の情報開示と法的責任</td><td>発行市場・流通市場における書類の虚偽記載等の民事責任</td><td>損害賠償請求に関する損害賠償額の立証と消滅時効について調べる（予習 1 時間、復習 1 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>インサイダー取引の規制</td><td>インサイダー取引の意義と法規制</td><td>インサイダー取引とは何か調べる（予習 1 時間、復習 1 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>相場操縦の規制</td><td>相場操縦の意義と法規制</td><td>相場操縦とは何か調べる（予習 1 時間、復習 1 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>風説の流布・偽計取引等の規制、不公正な行為の法的責任、詐欺的行為の禁止</td><td>金商法 157 条および 158 条、不公正の行為に関する民事責任と刑事責任</td><td>金商法 157 条および 158 条について調べる（予習 1 時間、復習 1 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>公開買付け制度（TOB）</td><td>公開買付けの意義と法規制</td><td>公開買付とは何か調べる（予習 1 時間、復習 1 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>確認試験（期末）</td><td>第 9 回～第 14 回の総括および確認試験</td><td>第 9 回～第 14 回の授業で扱った内容すべてについて復習する（2 時間）</td></tr> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	講義の進め方	シラバスの確認（予習 30 分）	2	金融商品市場の基本的な仕組み	社会基盤としての市場および投資活動	証券市場について大まかに調べる（予習：1 時間、復習 1 時間）	3	金融商品取引法の適用範囲	金融商品取引法の目的と適用範囲	金融商品取引法について調べる（予習：1 時間、復習 1 時間）	4	有価証券の上場と取引所	有価証券の上場	上場や証券市場について調べる（予習：1 時間、復習 1 時間）	5	企業内容の開示規制①	開示規制の概要と発行開示制度	発行開示について調べる（予習：1 時間、復習 1 時間）	6	企業内容の開示規制②	目論見書制度、発行登録制度	目論見書について調べる（予習：1 時間、復習 1 時間）	7	企業内容の開示規制③ 情報開示の公平性確保	継続開示制度、FD ルール	継続開示について調べる（予習：1 時間、復習 1 時間）	8	確認試験（中間）	第 2 回～第 7 回の総括および確認試験	第 2 回～第 7 回の授業で扱った内容すべてについて復習する（2 時間）	9	情報開示の正確性確保、課徴金制度	監査制度、行政審査、課徴金制度の概要	監査および課徴金について調べる（予習 1 時間、復習 1 時間）	10	虚偽の情報開示と法的責任	発行市場・流通市場における書類の虚偽記載等の民事責任	損害賠償請求に関する損害賠償額の立証と消滅時効について調べる（予習 1 時間、復習 1 時間）	11	インサイダー取引の規制	インサイダー取引の意義と法規制	インサイダー取引とは何か調べる（予習 1 時間、復習 1 時間）	12	相場操縦の規制	相場操縦の意義と法規制	相場操縦とは何か調べる（予習 1 時間、復習 1 時間）	13	風説の流布・偽計取引等の規制、不公正な行為の法的責任、詐欺的行為の禁止	金商法 157 条および 158 条、不公正の行為に関する民事責任と刑事責任	金商法 157 条および 158 条について調べる（予習 1 時間、復習 1 時間）	14	公開買付け制度（TOB）	公開買付けの意義と法規制	公開買付とは何か調べる（予習 1 時間、復習 1 時間）	15	確認試験（期末）	第 9 回～第 14 回の総括および確認試験	第 9 回～第 14 回の授業で扱った内容すべてについて復習する（2 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	講義の進め方	シラバスの確認（予習 30 分）																																																																
2	金融商品市場の基本的な仕組み	社会基盤としての市場および投資活動	証券市場について大まかに調べる（予習：1 時間、復習 1 時間）																																																																
3	金融商品取引法の適用範囲	金融商品取引法の目的と適用範囲	金融商品取引法について調べる（予習：1 時間、復習 1 時間）																																																																
4	有価証券の上場と取引所	有価証券の上場	上場や証券市場について調べる（予習：1 時間、復習 1 時間）																																																																
5	企業内容の開示規制①	開示規制の概要と発行開示制度	発行開示について調べる（予習：1 時間、復習 1 時間）																																																																
6	企業内容の開示規制②	目論見書制度、発行登録制度	目論見書について調べる（予習：1 時間、復習 1 時間）																																																																
7	企業内容の開示規制③ 情報開示の公平性確保	継続開示制度、FD ルール	継続開示について調べる（予習：1 時間、復習 1 時間）																																																																
8	確認試験（中間）	第 2 回～第 7 回の総括および確認試験	第 2 回～第 7 回の授業で扱った内容すべてについて復習する（2 時間）																																																																
9	情報開示の正確性確保、課徴金制度	監査制度、行政審査、課徴金制度の概要	監査および課徴金について調べる（予習 1 時間、復習 1 時間）																																																																
10	虚偽の情報開示と法的責任	発行市場・流通市場における書類の虚偽記載等の民事責任	損害賠償請求に関する損害賠償額の立証と消滅時効について調べる（予習 1 時間、復習 1 時間）																																																																
11	インサイダー取引の規制	インサイダー取引の意義と法規制	インサイダー取引とは何か調べる（予習 1 時間、復習 1 時間）																																																																
12	相場操縦の規制	相場操縦の意義と法規制	相場操縦とは何か調べる（予習 1 時間、復習 1 時間）																																																																
13	風説の流布・偽計取引等の規制、不公正な行為の法的責任、詐欺的行為の禁止	金商法 157 条および 158 条、不公正の行為に関する民事責任と刑事責任	金商法 157 条および 158 条について調べる（予習 1 時間、復習 1 時間）																																																																
14	公開買付け制度（TOB）	公開買付けの意義と法規制	公開買付とは何か調べる（予習 1 時間、復習 1 時間）																																																																
15	確認試験（期末）	第 9 回～第 14 回の総括および確認試験	第 9 回～第 14 回の授業で扱った内容すべてについて復習する（2 時間）																																																																
関連科目	民法、会社法																																																																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td>基礎から学べる金融商品取引法（第 4 版）</td><td>近藤光男・志谷匡史・石田眞得・金田薫子</td><td>弘文堂</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	基礎から学べる金融商品取引法（第 4 版）	近藤光男・志谷匡史・石田眞得・金田薫子	弘文堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	基礎から学べる金融商品取引法（第 4 版）	近藤光男・志谷匡史・石田眞得・金田薫子	弘文堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	確認試験を 2 回実施し、中間（50％）および期末（50％）として評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	金融や株式取引などに興味のある学生は新たな法的視点を得ることができると思います。ただし、専門的で特別な法律であることから内容的が難しいものとなりますので、そのつもりで受講してください。安易な気持ちで受講することがないようにしてください。																																																																		
担当者の研究室等	11 号館 9 階																																																																		
備考																																																																			

科目名	保険法	科目名 (英文)	Insurance Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	本多 康作
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3051a0		

授業概要・目的	保険制度とは、同種の危険にさらされた多数の経済主体を1つの団体とみて、それに属する経済主体がそれぞれ金銭を拠出することにより共同の備蓄を形成し、現実が必要が発生した主体がそこから保険金の支払いを受ける方法で需要を満たす制度である。具体的には、損害保険契約、生命保険契約および傷害疾病保険契約についての法制度を講義する。
到達目標	この授業を通じて学生は、保険法の全体構造を理解し、かつ基礎的知識を修得することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICT ツールとして Microsoft 社の teams を用いる。 ・課題提示や資料配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 ・最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を必ず持参すること。
科目学習の効果（資格）	保険会社就職する者にとっては、必須の講義である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業ルールの説明と、保険システム	最初に、本授業の受講ルールについて理解する。そのうえで、保険システムの目的と機能、保険法について学ぶ。	事前に教科書2ページ～28ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書2ページ～28ページを読むこと（2時間）。
	2	保険監督法	総説、保険業規制の内容、保険募集規制について学ぶ。	事前に教科書29ページ～48ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書29ページ～48ページを読むこと（2時間）。
	3	損害保険契約総論（1）	損害保険契約総説、損害保険契約の意義・特徴、損害保険契約の種類、片面強行規定の特徴について学ぶ。	事前に教科書50ページ～58ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書50ページ～58ページを読むこと（2時間）。
	4	損害保険契約総論（2）	保険契約の成立、告知義務について学ぶ。	事前に教科書59ページ～69ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書59ページ～69ページを読むこと（2時間）。
	5	損害保険契約総論（3）	損害保険契約における保険事故、保険期間、保険料について学ぶ。	事前に教科書70ページ～75ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書70ページ～75ページを読むこと（2時間）。
	6	損害保険契約総論（4）	損害保険契約の構造、保険金額と保険価額、重複保険について学ぶ。	事前に教科書76ページ～100ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書76ページ～100ページを読むこと（2時間）。
	7	損害保険契約総論（5）	損害保険契約の成立の効果について学ぶ。	事前に教科書101ページ～119ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書101ページ～119ページを読むこと（2時間）。
	8	損害保険契約総論（6）	損害保険の給付について学ぶ。	事前に教科書120ページ～145ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書120ページ～145ページを読むこと（2時間）。
	9	損害保険契約総論（7）	損害保険契約の終了について学ぶ。	事前に教科書146ページ～156ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書146ページ～156ページを読むこと（2時間）。
	10	損害保険契約総論（8）	損害保険契約の処分について学ぶ。	事前に教科書157ページ～161ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書157ページ～161ページを読むこと（2時間）。
	11	損害保険契約総論（9）	保険担保について学ぶ。	事前に教科書162ページ～171ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書162ページ～171ページを読むこと（2時間）。
	12	損害保険契約各論	火災保険、責任保険、自動車保険、運送保険、海上保険、再保険について学ぶ。	事前に教科書174ページ～221ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書174ページ～221ページを読むこと（2時間）。
	13	生命保険契約（1）	総説、生命保険契約の成立について学ぶ。	事前に教科書224ページ～242ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書224ページ～242ページを読むこと（2時間）。
	14	生命保険契約（2）	生命保険契約の効力、生命保険契約に基づく給付・終了、生命保険債権の処分と差押えについて学ぶ。	事前に教科書243ページ～266ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書224ページ～242ページを読むこと（2時間）。
	15	傷害疾病保険契約	総説、保険給付の要件、傷害疾病定額保険をめぐる問題について学ぶ。	事前に教科書268ページ～283ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書268ページ～283ページを読むこと（2時間）。

				こと（2時間）。
関連科目	民法、商法総論、会社法、経済法など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	レクチャー新保険法(最新版)	今井薫・岡田豊基・梅津昭彦	法律文化社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft forms から課題を配信し、その回答内容を合算して評価対象とする（課題の得点 100%）。			
学生への メッセージ	私語は認めない。私語をはじめ、授業態度が悪い場合は、単位を認定しない。このような本授業を履修する際の注意事項を含む授業ルールは、初回の授業で説明する。			
担当者の 研究室等	本多研究室（11 号館 9 階）			
備考				

科目名	知的財産法	科目名 (英文)	Intellectual Property Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	吉田 悦子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3052a0		

授業概要・目的	社会において重要性を増している知的財産（デザイン、ブランド、エンターテインメント、テクノロジーなど）についての基礎知識を学びます。身近な話題や裁判例をもとに、特許・実用新案法、意匠法、商標法、著作権法をはじめとする、知的財産制度について解説します。知的財産法を初めて勉強する学生のために、同法領域に属するそれぞれの法制度の概念・意義や具体的内容、法律要件や法律効果等をできる限り平易に解説し、ケーススタディを用いて、条文に対する解釈や、学説、判例について理解を深めます。
到達目標	知的財産法の全体像を理解するとともに、知的財産法の各法律の目的や基本的な内容を理解した上で、身近な問題においても知的財産はどのように扱われており、そこに知的財産権がどのように利用されているのかということを分析できる能力を習得することを目標とします。この講義を通じて、学生の皆さんには、知的財産法の基礎を理解し、日常生活において知的財産を正しく利用することができるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	要点を記したレジュメを配布し、それに沿って解説をおこないます。 教科書は毎回の講義中で必ず参照するわけではありませんが、予習として教科書の該当 UNIT を読み、復習を行なってください。 新聞やテレビの知的財産権を巡る事件や報道について興味を持つこと。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	UNIT1 知的財産法の全体像	講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(180 分)
	2	特許法 (1)	UNIT2 特許制度の仕組み・発明とは？	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分 (前回講義終了時に指示) を読んでおくこと。(90 分) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(90 分)
	3	特許法 (2)	UNIT3 発明が特許を受けるための要件とは？	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分 (前回講義終了時に指示) を読んでおくこと。(90 分) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(90 分)
	4	特許法 (3)	UNIT4 特許を受ける権利・発明者とは？	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分 (前回講義終了時に指示) を読んでおくこと。(90 分) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(90 分)
	5	特許法 (4)	UNIT5 特許権取得までの流れ、外国における権利取得	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分 (前回講義終了時に指示) を読んでおくこと。(90 分) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(90 分)
	6	特許法 (5)	UNIT6 どのような方法で知的財産権を利用すればよいのか？	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分 (前回講義終了時に指示) を読んでおくこと。(90 分) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(90 分)
	7	特許法 (6) 小テスト	UNIT7 知的財産権の侵害に対してどのように対処すればよいのか？	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分 (前回講義終了時に指示) を読んでおくこと。(90 分) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(90 分)
	8	意匠法	UNIT13 デザインはどのような権利によって保護されるか？	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分 (前回講義終了時に指示) を読んでおくこと。(90 分) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(90 分)
	9	商標法	UNIT14 ブランドはどのような権利によって保護されるか？	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分 (前回講義終了時に指示) を読んでおくこと。(90 分) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(90 分)
	10	不正競争防止法	UNIT15 不正競争防止法とは？	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分 (前回講義終了時に指示) を読んでおくこと。(90 分) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(90 分)
	11	著作権法 (1)	UNIT8	講義前に、今回の講義内容に関する

			どのようなものが保護されるのか?	る教科書部分 (前回講義終了時に指示) を読んでおくこと。(90 分) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(90 分)
	12	著作権法 (2)	UNIT9 誰が保護されるのか?	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分 (前回講義終了時に指示) を読んでおくこと。(90 分) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(90 分)
	13	著作権法 (3)	UNIT10 どのような行為を行うと著作権の問題が生じるのか?	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分 (前回講義終了時に指示) を読んでおくこと。(90 分) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(90 分)
	14	著作権法 (4)	UNIT11 他人の作品を自由に利用できるのはどのような場合か?	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分 (前回講義終了時に指示) を読んでおくこと。(90 分) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(90 分)
	15	著作権法 (5) 小テスト	UNIT12 作品に対する作者のこだわり・思い・名誉はどのように保護されるのか?	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分 (前回講義終了時に指示) を読んでおくこと。全講義を通して疑問や不明点がないか確認したうえで講義に臨むこと。(180 分)
関連科目	民法 (物権法、不法行為法)、民事訴訟法、経済法、行政法			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	知的財産法入門 第3版	茶園 成樹	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	図録 知的財産法	前田健・金子敏哉・青木大也編	弘文堂
	2	『知的財産権制度入門テキスト』 (https://www.jpo.go.jp/news/shinchaku/event/seminer/text/2023_nyumon.html)	特許庁編	特許庁
	3	『著作権テキスト 初めて学ぶ人のために』 (https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/93726501.html)	文化庁長官官房著作権課編	文化庁
評価方法 (基準)	講義内で課す課題 (確認問題、ペーパーなど) への取り組みを 40%、小テストの成績を 60% の割合で、最終的な評価をおこないます。			
学生へのメッセージ	講義内容は、講義の進行具合に応じて変更する場合があります。			
担当者の研究室等備考				

科目名	国際取引法	科目名 (英文)	International Trade Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	片岡 雅世
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3053a0		

授業概要・目的	グローバル時代を迎えた今日、国際取引の重要性はますます高まっています。例えば、皆さんの身の回りにある物を想像してみてください。外国で作られた物はもちろん、日本で作られた物でもその中（部品など）には外国の物が含まれていることが少なくありません。この授業で扱う国際取引法とは、これら国際取引、すなわち国境を越える物品や資金、技術等の取引を規律する法をいい、その対象は極めて広いです。一方で、現在のところ「国際取引法」という名前の法律はありません。そこで、この講義では、多岐にわたる国際取引のうち、最も基礎をなす国際物品売買契約とそれに付随する諸問題および国際取引紛争の解決方法を中心に検討します。これらを通じて、国際取引法に関する基本的な知識を習得してもらいます。
到達目標	(1) 国際取引の基本的な仕組みを知り、そのスムーズな実施を支える法制度がどのようなになっているか理解することができる。 (2) 国際取引に関するさまざまな法について体系的に把握し、解決策または予防策を考えることができる。 (3) 国際取引に関するさまざまな問題について法的に捉え、論理的に説明することができる。
授業方法と留意点	原則として、講義形式で実施します。事前に Moodle または Teams を通じてレジュメ（穴埋め形式）および資料を配布しますので、授業時はこれら資料類および教科書ならびに六法を忘れずに持参してください。また、複数回課題を出題します。課題は ICT ツールを利用した出題・提出の予定ですが、授業時に課題・提出の可能性もあります。
科目学習の効果（資格）	本講義の内容の一部は、ビジネス実務法務検定試験や貿易実務検定を受ける際に活用することができます。また、卒業後、金融業界や商社・流通業界への就職を考えている人は、本講義で学ぶ内容の一部を活かすことができるでしょう。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンスー国内取引（法）とどこが違う？	この授業の進め方や受講に当たっての注意点など、国際取引（法）の特徴	事前に配布資料に目を通し、教科書（1～12 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	2	国際取引法とは何かー国際取引に適用される法って？	民間統一規則、統一私法条約、国内法（国際私法を含む）	事前に配布資料に目を通し、教科書（13～17 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	3	国際物品売買契約（1）ーインコタームズって何だろう？	貿易条件、インコタームズ	事前に配布資料に目を通し、教科書（18～33 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	4	国際物品売買契約（2）ー一条約が適用されないこともあるの？	CISG（ウィーン売買条約）、契約の成立、売主・買主の義務	事前に配布資料に目を通し、教科書（34～57 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	5	国際物品売買契約（3）ー全然関係ない国の法が適用されることもあるの？	国際私法、準拠法、消費者契約	事前に配布資料に目を通し、教科書（58～75 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	6	国際物品売買契約（4）ー結局、国際物品売買契約に適用される法って？	第 1 回から第 5 回までのまとめ	事前に配布資料に目を通し、教科書（1～75 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	7	国際物品売買契約に付随する問題（1）ー船で運ぶのってリスクが大きいよね？	国際物品運送、運送契約、船荷証券、国際海上物品運送法	事前に配布資料に目を通し、教科書（76～86 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	8	国際物品売買契約に付随する問題（2）ー運送リスクに備えて何ができる？	国際貨物保険、保険契約	事前に配布資料に目を通し、教科書（87～101 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	9	国際物品売買契約に付随する問題（3）ー相手は本当に支払ってくれるかな？	国際支払、外国送金、荷為替手形、信用状	事前に配布資料に目を通し、教科書（102～114 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	10	国際物品売買契約に付随する問題（4）ー取引するのは物品だけ？	プラント輸出、国際技術移転	事前に配布資料に目を通し、教科書（115～129 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改

				めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約2時間が目安）。
	11	国際取引紛争の解決方法（1）－外国国家を相手に裁判できる？	裁判権、裁判権免除	事前に配布資料に目を通し、教科書（147～151頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約2時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約2時間が目安）。
	12	国際取引紛争の解決方法（2）－日本で裁判できるのはどんな場合？	国際裁判管轄、管轄原因、特別の事情	事前に配布資料に目を通し、教科書（147～160頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約2時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約2時間が目安）。
	13	国際取引紛争の解決方法（3）－先に外国の裁判で勝ちましたが？	外国判決の承認・執行、懲罰的損害賠償	事前に配布資料に目を通し、教科書（160～164頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約2時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約2時間が目安）。
	14	国際取引紛争の解決方法（4）－秘密を公開せずに紛争解決できない？	裁判外紛争解決手続、国際商事仲裁	事前に配布資料に目を通し、教科書（130～146頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約2時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約2時間が目安）。
	15	国際取引紛争の解決方法（5）－交渉をうまく進めるには？	交渉戦術、ハーバード流交渉術、BATNA	事前に配布資料に目を通し、参考書等を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約2時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約2時間が目安）。
関連科目	国際私法や国際財産法のほか、民事法分野の各科目（民法や消費者法など）および商事法分野の各科目（商法や知的財産法など）。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ベーシック国際取引法	多田望・北坂尚洋編	法律文化社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際取引法〔第5版〕	佐野寛	有斐閣
	2	レクチャー国際取引法〔第3版〕	松岡博編	法律文化社
	3	国際関係私法入門〔第4版補訂〕	松岡博編	有斐閣
評価方法（基準）	定期試験（60%）、課題（40%）			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等				
備考	第1回目の講義で授業の進め方や成績評価の方法などについて詳しい説明を行うので、受講を考えている人は可能な限り出席してください。			

科目名	労働保護法	科目名（英文）	Labor Standards Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	寺山 洋一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2054a0		

授業概要・目的	雇用・労働関係の法律については、大別して、 ① 労働者の保護を主眼とする個別的な労働関係の法律 ② 労働組合が主体となる集団的な労使関係の法律 ③ 労働市場に関する法律 に分けることができます。 本講義では、上記①を取り扱います。 法学の基礎知識を土台として、労働契約法（解雇、雇止め等）、労働基準法（賃金、労働時間等）などの雇用・労働関係の法律について、代表的な最高裁判決を紹介しつつ、立法政策的な観点も含め、説明を行います。
到達目標	個別的な労働関係の法律に関する基本的な知見や知識、実務の在り方を理解した上で、就職に向けて、また、就職（起業）後において、実際に起きている雇用・労働関係をめぐる諸問題について、法的視点から考察できる能力を身につけることを目標とします。
授業方法と留意点	初回（第1回）のガイダンスでは授業の進め方を説明します。履修を希望される方は、必ず出席してください。 ガイダンスの内容に従って、基本的に、出席した授業ごとに持ち点が積み上がる方式となります。 毎回の授業中において、リアクションペーパー（RP、記述式）やブチテスト（PT、レベルチェック）が行われます。 履修者自ら主体的に習得すべき情報が多い授業ですので、日頃から着実にたゆまず取り組んでください。 座席指定や私語の禁止、無断欠席による単位不認定などの決まり事があります。履修に際して、特にご注
科目学習の効果（資格）	労働基準監督官試験などの公務員試験や、社会保険労務士の資格取得のためにも、有益な内容となります。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	雇用・労働関係の法律の座標 ～ガイダンス～	- 憲法との関連 - 雇用契約の当事者 - 法的責任の在り方	番号1の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	2	多様な働き方に応じた法制	- 雇用契約 - 請負契約 - 委任契約 - 業務委託契約	番号1の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	3	非正規雇用労働者	- 契約社員 - パート社員 - 派遣労働者等	番号1の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	4	募集・採用	- 募集・採用 - インターンシップ - 内定	番号1の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	5	就労の開始	- 雇用契約書 - 労働条件通知書 - 試用期間	番号1の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	6	解雇	- 整理解雇・解雇 - 退職勧奨・希望退職	番号1の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	7	その他の離職	- 雇止め - 定年退職・自主退職 - 倒産	番号1の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	8	コンプライアンス	- 就業規則・服務規律 - 労働条件の不利益変更 - 懲戒処分	番号1の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	9	賃金	- 賃金の構成 - 賃金の支払いの5原則 - 賞与・休業手当	番号1の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	10	割増賃金	- 割増率 - 算定基礎から除外される手当 - 最低賃金	番号1の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	11	労働時間	- 法定労働時間 - フレックスタイム制 - みなし労働時間	番号1の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	12	時間外労働	- 残業 3 6 協定 - 上限規制	番号1の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	13	休憩・休日・年次有給休暇	- 休憩 - 休日・休息 - 年次有給休暇	番号1の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	14	現場の労働安全衛生	- 安全衛生管理体制 - 労働災害	番号1の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	15	締めくくり考查と総括	既習した知識や知見が定着しているかを評定するために実施	講義内容の振り返り、教科書や例題等の総ざらいを行う。（2時間）

関連科目	日本国憲法			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	【電子】 人事労務関係法 令和6年度版	テラボ	齊家書房
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	【電子】 振り返り例題 労働法 令和6年度版	テラボ	齊家書房

	2	【電子】 移りゆく雇用・労働六法 令和6年度版	テラポ	斉家書房
	3			
評価方法 (基準)	原則として、授業への取組姿勢（RPやPTを含む。）〔80%〕により、成績を判断します。 併せて、終盤に、締めくくり考査〔20%〕を実施し、授業への取組姿勢を総合的に考慮して評価します。 コロナウイルス感染症対策等の特別な事情により、上記内容の割合を変更することがあります。 なお、講義の内容が、その当日のRPやPTに必ずしも出題されるわけではありません。			
学生への メッセージ	初回のガイダンス及びTeamsを通じて、授業に必要な情報をお伝えします。ガイダンス時に、教科書等の購入方法を説明します。 毎回の講義では、レジュメを使用せず、各自が購入した教科書を使用します。 基本的に、講義で重要な基礎的事項を説明し、その後、自ら進んで教科書や参考書を通じて関係条文や裁判例などを学んでいただき、PTで、自主的に習得した法的知識のレベルチェックを行うという流れとなります。 RPやPTの内容は、おおむね教科書や参考書から出題され、事前・事後の学修として2時間程度を要します。 終盤に行われる締めくくり考査は、公務員試験や資格試験の水準に合わせるようにしています。			
担当者の 研究室等	11号館9階 寺山教授室			
備考	第1回の講義時、教科書及び参考書の購入・利用について説明します。 講義中、電子書籍の教科書や参考書を参照することがありますので、各自、PC・スマートフォン等の電子機器を持ち込んでも差し支えありません。 なお、必要に応じて、ゲストスピーカーを招聘する場合があります。 講義では、民法（債権法）の特別法である労働契約法、強行法規としての労働基準法その他の雇用・労働関係の法律という幅広い範囲を扱うとともに、関連条項も多岐にわたります。 履修に当たって、法律の条項や裁判例の読み方をひと通り学習して			

科目名	労働組合法	科目名（英文）	Labor Union Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	寺山 洋一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3055a0		

授業概要・目的	雇用・労働関係の法律については、大別して、 ① 労働者の保護を主眼とする個別的な労働関係の法律 ② 労働組合が主体となる集団的な労使関係の法律 ③ 労働市場に関する法律 に分けることができます。 本講義では、上記②を取り扱います。 法学の基礎知識を土台として、労働組合法（労働組合、労働協約、不当労働行為等）などの雇用・労働関係の法律について、代表的な最高裁判決を紹介しつつ、立法政策的な観点も含め、説明を行います。
到達目標	労使関係法に関する基本的な知識や実務の在り方を理解した上で、就職に向けて、また、就職（起業）後において、実際に起きている労使関係をめぐる諸問題について、法的視点から考察できる能力を身につけることを目標とします。
授業方法と留意点	初回（第1回）のガイダンスでは授業の進め方を説明します。履修を希望される方は、必ず出席してください。 ガイダンスの内容に従って、基本的に、出席した授業ごとに持ち点が積み上がる方式となります。 毎回の授業中において、リアクションペーパー（RP、記述式）やブチテスト（PT、レベルチェック）が行われます。 履修者自ら主体的に習得すべき情報が多い授業ですので、日頃から着実にたゆまず取り組んでください。 座席指定や私語の禁止、無断欠席による単位不認定などの決まり事があります。履修に際して、特にご注
科目学習の効果（資格）	労働基準監督官試験などの公務員試験や、社会保険労務士の資格取得のためにも、役立つ内容となります。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	労使関係法入門	・ 憲法と労使関係法 ・ 労使関係法の範疇	教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	2	労働組合の世界	・ 労働組合の現状 ・ 労働組合の要件	教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	3	労働三権	・ 労働組合法の構造 ・ 団結権・団体交渉権・団体行動権	教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	4	労働委員会	・ 労働委員会の役割と構成 ・ 労働委員会の現状と課題	教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	5	労働協約の締結・期間・効力	・ 労働協約の締結 ・ 労働協約の期間 ・ 労働協約の効力	教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	6	労働協約と就業規則等	・ 労働協約の効力の及ぶ範囲 ・ 労働協約と就業規則等との関係	教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	7	ユニオン・ショップ	・ ユニオン・ショップの法的位置づけ ・ 尻抜けユニオン	教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	8	チェック・オフ	・ チェック・オフの法的位置づけ ・ 賃金の支払いの原則との関係	教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	9	不当労働行為救済制度	・ 不当労働行為の類型	教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	10	団体交渉の拒否	・ 団体交渉の拒否 ・ 不誠実な団体交渉 ・ 正当な理由	教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	11	不利益取扱い	・ 不利益取扱いの例 ・ 「～の故をもって」 ・ 黄犬契約	教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	12	支配・介入	・ 包括条項 ・ 支配・介入 ・ 便宜供与	教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	13	審査手続き・救済	・ 不当労働行為の審査手続き ・ 救済命令 ・ 取消訴訟	教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	14	使用者・労働者	・ 使用者性をめぐる判断 ・ 労働者性をめぐる判断	教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	15	締めくくり考査と総括	・ 既習した知識や知見が定着しているかを評定するために実施	講義内容の振り返り、教科書や例題等の総ざらいを行う。（2時間）

関連科目	日本国憲法、労働保護法
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	【電子】 小規模企業のための労使関係法 令和6年度版	テラボ	斉家書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	【電子】 振り返り例題 労使関係法 令和6年度版	テラボ	斉家書房
	2	【電子】 移りゆく雇用・労働六法 令和6年度版	テラボ	斉家書房
	3			

評価方法（基準）	原則として、授業への取組姿勢（RPやPTを含む。）〔80％〕により、成績を判断します。 併せて、終盤に、締めくくり考査〔20％〕を実施し、授業への取組姿勢を総合的に考慮して評価します。 コロナウイルス感染症対策等の特別な事情により、上記内容の割合を変更することがあります。
----------	--

	なお、講義の内容が、その当日の RP や PT に必ずしも出題されるわけではありません。
学生へのメッセージ	初回のガイダンス及び Teams を通じて、授業に必要な情報をお伝えします。ガイダンス時に、教科書等の購入方法を説明します。 毎回の講義では、レジュメを使用せず、各自が購入した教科書を使用します。 基本的に、講義で重要な基礎的事項を説明し、その後、自ら進んで教科書や参考書を通じて関係条文や裁判例などを学んでいただき、PT で、主体的に習得した法的知識のレベルチェックを行うという流れとなります。 RP や PT の内容は、おおむね教科書や参考書から出題され、事前・事後の学修として 2 時間程度を要します。 終盤に行われる締めくくり考査は、公務員試験や資格試験の水準に合わせるようにしています。
担当者の研究室等	11 号館 9 階 寺山教授室
備考	受講に当たっては、労働協約の効力や、労働協約と労働契約・就業規則・労使協定との差異、チェック・オフと賃金の支払い 5 原則との関係など、「労働保護法」に関する基礎的な知識や知見を土台とします。 「労働保護法」の内容をひと通り習得しておくことにより、効果的かつ効率的に学びが深まります。 なお、必要に応じて、ゲストスピーカーを招聘する場合があります。

科目名	社会保障法	科目名（英文）	Social Security Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	寺山 洋一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3056a0		

授業概要・目的	社会保障法(Social Security Law)は、憲法 2 5 条に基づき、個人ではそのリスクを負いきれない事柄に備えて、私たち国民が安心して暮らすための助け船 (Safety Net) となるものです。 その領域は、年金 (Pension)、医療 (Health and Medical Care)、介護 (Long-Term Care, Elderly Care)、福祉 (Welfare)、次世代支援 (Children and Child-rearing)、雇用 (Employment) という手広い範囲に及び、関連する法律も極めて多岐にわたります。 社会保障法の内容を従来の大枠でとらえると、 ・ 社会保険 (Social Insurance 年金、医療、介護、雇用、労災) ・ 社会福祉 (Social Welfare 児童福祉、高齢者福祉、障害者福祉) ・ 公的扶助 (Public Assistance 生活保護) ・ 公衆衛生 (Public Health 医療、保健衛生) という 4 つの分野に分けることができます。 本講義では、社会保障法の全体像や現代的な課題、各分野ごとの種々の法律や諸制度などについて縦覧します。																																																																		
到達目標	社会保障法に関する知識や知見を踏まえ、就職に向けて、また、就職（起業）後において、社会保障をめぐる諸問題について、法的視点から考察できる能力を養うことを目標としています。																																																																		
授業方法と留意点	初回（第 1 回）のガイダンスでは授業の進め方を説明します。履修を希望される方は、必ず出席してください。 ガイダンスの内容に従って、基本的に、出席した授業ごとに持ち点が積み上がる方式となります。 毎回の授業中において、リアクションペーパー（RP、記述式）やブチテスト（PT、レベルチェック）が行われます。 履修者自ら主体的に習得すべき情報が多い授業ですので、日頃から着実にたゆまず取り組んでください。 席席指定や私語の禁止、無断欠席による単位不認定などの決まり事があります。履修に際して、特にご注																																																																		
科目学習の効果（資格）	国家・地方公務員試験や、社会保険労務士などの資格取得のためにも、役立つ内容となります。																																																																		
授業計画	<table> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> <tr> <td>1</td><td>憲法と社会保障法</td><td> ・ 憲法と社会保障法 ・ 社会保障法と関連制度 ・ 社会保障法の全体像 </td><td>授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計 2 時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>社会保障のあらまし</td><td> ・ 少子高齢社会 ・ 費用と財源 ・ 現代的な課題 </td><td>授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計 2 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>社会保障の現状</td><td> ・ 主な統計調査 ・ 指標 </td><td>授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計 2 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>年金</td><td> ・ 国民年金法 ・ 厚生年金保険法 </td><td>授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計 2 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>医療保険</td><td> ・ 健康保険法 ・ 国民健康保険法 </td><td>授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計 2 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>介護保険</td><td> ・ 介護保険法 </td><td>授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計 2 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>労働保険</td><td> ・ 雇用保険法 ・ 労働者災害補償保険法 </td><td>授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計 2 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>児童をめぐる福祉</td><td> ・ 児童福祉法 ・ 児童手当法等 </td><td>授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計 2 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>障害者をめぐる福祉</td><td> ・ 障害者基本法 ・ 障害者総合支援法等 </td><td>授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計 2 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>その他の福祉</td><td> ・ 老人福祉法 ・ 被災者生活再建支援法等 </td><td>授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計 2 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>公的扶助</td><td> ・ 生活保護法 ・ ホームレス自立支援法等 </td><td>授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計 2 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>医療・疾病</td><td> ・ 医療法 ・ 薬機法 ・ 感染症法等 </td><td>授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計 2 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>保健衛生</td><td> ・ 健康増進法 ・ 母子保健法 ・ 食品衛生法等 </td><td>授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計 2 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>社会保障に係る職種</td><td> ・ 社会保険に係る職種 ・ 社会福祉に係る職種 ・ 医療に係る職種 </td><td>授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計 2 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>締めくくり 考査と総括</td><td> ・ 既習した知識や知見が定着しているかを評定するために実施 </td><td>講義内容の振り返り、教科書や例題等の総ざらいを行う。（2 時間）</td></tr> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	憲法と社会保障法	・ 憲法と社会保障法 ・ 社会保障法と関連制度 ・ 社会保障法の全体像	授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計 2 時間）	2	社会保障のあらまし	・ 少子高齢社会 ・ 費用と財源 ・ 現代的な課題	授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計 2 時間）	3	社会保障の現状	・ 主な統計調査 ・ 指標	授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計 2 時間）	4	年金	・ 国民年金法 ・ 厚生年金保険法	授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計 2 時間）	5	医療保険	・ 健康保険法 ・ 国民健康保険法	授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計 2 時間）	6	介護保険	・ 介護保険法	授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計 2 時間）	7	労働保険	・ 雇用保険法 ・ 労働者災害補償保険法	授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計 2 時間）	8	児童をめぐる福祉	・ 児童福祉法 ・ 児童手当法等	授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計 2 時間）	9	障害者をめぐる福祉	・ 障害者基本法 ・ 障害者総合支援法等	授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計 2 時間）	10	その他の福祉	・ 老人福祉法 ・ 被災者生活再建支援法等	授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計 2 時間）	11	公的扶助	・ 生活保護法 ・ ホームレス自立支援法等	授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計 2 時間）	12	医療・疾病	・ 医療法 ・ 薬機法 ・ 感染症法等	授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計 2 時間）	13	保健衛生	・ 健康増進法 ・ 母子保健法 ・ 食品衛生法等	授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計 2 時間）	14	社会保障に係る職種	・ 社会保険に係る職種 ・ 社会福祉に係る職種 ・ 医療に係る職種	授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計 2 時間）	15	締めくくり 考査と総括	・ 既習した知識や知見が定着しているかを評定するために実施	講義内容の振り返り、教科書や例題等の総ざらいを行う。（2 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	憲法と社会保障法	・ 憲法と社会保障法 ・ 社会保障法と関連制度 ・ 社会保障法の全体像	授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計 2 時間）																																																																
2	社会保障のあらまし	・ 少子高齢社会 ・ 費用と財源 ・ 現代的な課題	授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計 2 時間）																																																																
3	社会保障の現状	・ 主な統計調査 ・ 指標	授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計 2 時間）																																																																
4	年金	・ 国民年金法 ・ 厚生年金保険法	授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計 2 時間）																																																																
5	医療保険	・ 健康保険法 ・ 国民健康保険法	授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計 2 時間）																																																																
6	介護保険	・ 介護保険法	授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計 2 時間）																																																																
7	労働保険	・ 雇用保険法 ・ 労働者災害補償保険法	授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計 2 時間）																																																																
8	児童をめぐる福祉	・ 児童福祉法 ・ 児童手当法等	授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計 2 時間）																																																																
9	障害者をめぐる福祉	・ 障害者基本法 ・ 障害者総合支援法等	授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計 2 時間）																																																																
10	その他の福祉	・ 老人福祉法 ・ 被災者生活再建支援法等	授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計 2 時間）																																																																
11	公的扶助	・ 生活保護法 ・ ホームレス自立支援法等	授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計 2 時間）																																																																
12	医療・疾病	・ 医療法 ・ 薬機法 ・ 感染症法等	授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計 2 時間）																																																																
13	保健衛生	・ 健康増進法 ・ 母子保健法 ・ 食品衛生法等	授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計 2 時間）																																																																
14	社会保障に係る職種	・ 社会保険に係る職種 ・ 社会福祉に係る職種 ・ 医療に係る職種	授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計 2 時間）																																																																
15	締めくくり 考査と総括	・ 既習した知識や知見が定着しているかを評定するために実施	講義内容の振り返り、教科書や例題等の総ざらいを行う。（2 時間）																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td>【電子】 法律としての社会保障 令和 6 年度版</td><td>テラボ</td><td>斉家書房</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	【電子】 法律としての社会保障 令和 6 年度版	テラボ	斉家書房	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	【電子】 法律としての社会保障 令和 6 年度版	テラボ	斉家書房																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td>【電子】 移りゆく社会保険六法 令和 6 年度版</td><td>テラボ</td><td>斉家書房</td></tr> <tr> <td>2</td><td>【電子】 移りゆく福祉六法 令和 6 年度版</td><td>テラボ</td><td>斉家書房</td></tr> <tr> <td>3</td><td>【電子】 移りゆく医療・保健衛生六法 令和 6 年度</td><td>テラボ</td><td>斉家書房</td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	【電子】 移りゆく社会保険六法 令和 6 年度版	テラボ	斉家書房	2	【電子】 移りゆく福祉六法 令和 6 年度版	テラボ	斉家書房	3	【電子】 移りゆく医療・保健衛生六法 令和 6 年度	テラボ	斉家書房																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	【電子】 移りゆく社会保険六法 令和 6 年度版	テラボ	斉家書房																																																																
2	【電子】 移りゆく福祉六法 令和 6 年度版	テラボ	斉家書房																																																																
3	【電子】 移りゆく医療・保健衛生六法 令和 6 年度	テラボ	斉家書房																																																																

		版		
評価方法 (基準)	原則として、授業への取組姿勢（リアクションペーパーやプチテストを含む。）〔８０％〕により、成績を判断します。 併せて、終盤に、締めくくり考査〔２０％〕を実施し、授業への取組姿勢を総合的に考慮して評価します。 講義の内容が、その当日のリアクションペーパーやプチテストに出題されるわけではありません。 コロナウイルス感染症対策等の特別な事情により、上記内容の割合を変更することがあります。			
学生への メッセージ	初回のガイダンス及び Teams を通じて、授業に必要な情報をお伝えします。ガイダンス時に、教科書等の購入方法を説明します。 毎回の講義では、レジュメを使用せず、各自が購入した教科書を使用します。 基本的に、講義で重要な基礎的事項を説明し、その後、自ら進んで教科書や参考書を通じて関係条文や裁判例などを学んでいただき、PT で、主体的に習得した法的知識のレベルチェックを行うという流れとなります。 RP や PT の内容は、おおむね教科書や参考書から出題され、事前・事後の学修として２時間程度を要します。 終盤に行われる締めくくり考査は、公務員試験や資格試験の水準に合わせるようにしています。			
担当者の 研究室等	11 号館 9 階 寺山教授室			
備考	必要に応じて、ゲストスピーカーを招聘する場合があります。			

科目名	環境法	科目名 (英文)	Environmental Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浮田 徹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3057a0		

授業概要・目的	環境にまつわる法と制度を周辺の事情なども含めて学習してもらいます。 国家と環境の関係について、法律学的な検討だけでなくその他環境法の総合的理解に必要な観点から考察を加えます。																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、環境という広い領域の中の、法律・行政に関わる部分を学び整え、憲法、民法、行政法などを踏まえた上での環境に対する法の思考を形成できるようになることが期待されます。																																																																		
授業方法と留意点	講義形式で行います。講義に必要なものはレジュメ、ノート、教科書、六法です。 レジュメは事前に moodle から入手、印刷して持参してください。 ※moodle の利用方法につき (1)moodle とは 摂南大学の採用する ICT ツールです。大学のトップページにリンクがあります。 (2)moodle の登録方法につき 講義には自分で登録する必要があります。 ログインし、「ナビゲーション」のところにある「コース」をクリック、「コースを検索する」から「24 環境法」と入力して検索し「2024 環境法」をク																																																																		
科目学習の効果（資格）	新司法試験の選択科目です。																																																																		
授業計画	<table> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> <tr> <td>1</td><td>ガイダンス</td><td>・講義の進め方、環境法を学ぶにあたっての前提事項の確認など</td><td>予習：教科書の目次を読んでくる（5 分） 復習・学習：講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んでみて内容をチェックする（20 分）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>環境法概説</td><td>・法哲学的にみた「環境」とは</td><td>予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく（20 分） 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする（20 分）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>環境法と権利</td><td>・環境法における実定法的「権利」とは</td><td>予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく（20 分） 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする（20 分）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>環境法と環境行政①</td><td>・環境法、環境行政の歴史①</td><td>予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく（20 分） 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする（20 分）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>環境法と環境行政②</td><td>・環境法、環境行政の歴史②</td><td>予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく（20 分） 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする（20 分）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>環境と訴訟①</td><td>・四大公害裁判と民事訴訟理論の展開①</td><td>予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく（20 分） 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする（20 分）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>環境と訴訟②</td><td>・四大公害裁判と民事訴訟理論の展開②</td><td>予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく（20 分） 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする（20 分）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>環境と訴訟③</td><td>・新しい形態をとる環境訴訟</td><td>予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく（20 分） 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする（20 分）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>環境政策と基本法①</td><td>・環境基本法の制定とその内容①</td><td>予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく（20 分） 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする（20 分）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>環境政策と基本法②</td><td>・環境基本法の制定とその内容②</td><td>予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく（20 分） 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする（20 分）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>環境に対する事前の措置①</td><td>・環境影響評価法の導入とその仕組み①</td><td>予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく（20 分） 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする（20 分）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>環境に対する事前の措置②</td><td>・環境影響評価法の導入とその仕組み②</td><td>予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく（20 分） 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする（20 分）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>環境に対する事前の措置③</td><td>・環境影響評価法の導入とその仕組み③</td><td>予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく（20 分） 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする（20 分）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>領域を越えた環境問題①</td><td>・環境問題のグローバル化</td><td>予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく（20 分） 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする（20 分）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>領域を越える環境問題②</td><td>・領域を越えた環境問題の解決</td><td>予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく（20</td></tr> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	・講義の進め方、環境法を学ぶにあたっての前提事項の確認など	予習：教科書の目次を読んでくる（5 分） 復習・学習：講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んでみて内容をチェックする（20 分）	2	環境法概説	・法哲学的にみた「環境」とは	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく（20 分） 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする（20 分）	3	環境法と権利	・環境法における実定法的「権利」とは	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく（20 分） 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする（20 分）	4	環境法と環境行政①	・環境法、環境行政の歴史①	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく（20 分） 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする（20 分）	5	環境法と環境行政②	・環境法、環境行政の歴史②	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく（20 分） 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする（20 分）	6	環境と訴訟①	・四大公害裁判と民事訴訟理論の展開①	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく（20 分） 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする（20 分）	7	環境と訴訟②	・四大公害裁判と民事訴訟理論の展開②	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく（20 分） 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする（20 分）	8	環境と訴訟③	・新しい形態をとる環境訴訟	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく（20 分） 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする（20 分）	9	環境政策と基本法①	・環境基本法の制定とその内容①	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく（20 分） 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする（20 分）	10	環境政策と基本法②	・環境基本法の制定とその内容②	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく（20 分） 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする（20 分）	11	環境に対する事前の措置①	・環境影響評価法の導入とその仕組み①	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく（20 分） 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする（20 分）	12	環境に対する事前の措置②	・環境影響評価法の導入とその仕組み②	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく（20 分） 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする（20 分）	13	環境に対する事前の措置③	・環境影響評価法の導入とその仕組み③	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく（20 分） 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする（20 分）	14	領域を越えた環境問題①	・環境問題のグローバル化	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく（20 分） 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする（20 分）	15	領域を越える環境問題②	・領域を越えた環境問題の解決	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく（20
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	・講義の進め方、環境法を学ぶにあたっての前提事項の確認など	予習：教科書の目次を読んでくる（5 分） 復習・学習：講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んでみて内容をチェックする（20 分）																																																																
2	環境法概説	・法哲学的にみた「環境」とは	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく（20 分） 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする（20 分）																																																																
3	環境法と権利	・環境法における実定法的「権利」とは	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく（20 分） 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする（20 分）																																																																
4	環境法と環境行政①	・環境法、環境行政の歴史①	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく（20 分） 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする（20 分）																																																																
5	環境法と環境行政②	・環境法、環境行政の歴史②	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく（20 分） 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする（20 分）																																																																
6	環境と訴訟①	・四大公害裁判と民事訴訟理論の展開①	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく（20 分） 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする（20 分）																																																																
7	環境と訴訟②	・四大公害裁判と民事訴訟理論の展開②	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく（20 分） 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする（20 分）																																																																
8	環境と訴訟③	・新しい形態をとる環境訴訟	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく（20 分） 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする（20 分）																																																																
9	環境政策と基本法①	・環境基本法の制定とその内容①	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく（20 分） 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする（20 分）																																																																
10	環境政策と基本法②	・環境基本法の制定とその内容②	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく（20 分） 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする（20 分）																																																																
11	環境に対する事前の措置①	・環境影響評価法の導入とその仕組み①	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく（20 分） 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする（20 分）																																																																
12	環境に対する事前の措置②	・環境影響評価法の導入とその仕組み②	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく（20 分） 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする（20 分）																																																																
13	環境に対する事前の措置③	・環境影響評価法の導入とその仕組み③	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく（20 分） 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする（20 分）																																																																
14	領域を越えた環境問題①	・環境問題のグローバル化	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく（20 分） 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする（20 分）																																																																
15	領域を越える環境問題②	・領域を越えた環境問題の解決	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく（20																																																																

				分) 講義ノートふり返り、該当部分の教科書を読んで内 容をチェックする(20 分)																
関連科目	憲法Ⅰ、憲法Ⅱ、行政法などの公法科目と関連します。法哲学、行政学や、民法(不法行為など)、民事訴訟法などとも関連します。																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>考えながら学ぶ環境法</td><td>畠山武道</td><td>三省堂</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	考えながら学ぶ環境法	畠山武道	三省堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	考えながら学ぶ環境法	畠山武道	三省堂																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	毎回の小課題など(30%)、期末試験(70%)で評価します。																			
学生への メッセージ	資料等は適宜 moodle 経由で配布します。その他詳細については初回にアップするプリントを参照すること。																			
担当者の 研究室等	11 号館 9 階 浮田准教授室																			
備考	小課題については授業で解説します。 2023 年度は受講者 7 名、単位取得者 6 名です(定期試験欠席者 1)。																			

科目名	国際社会と法	科目名 (英文)	International Community and Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥谷部 瑛
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1058a0		

授業概要・目的	この科目は、グローバル時代において益々その重要性を増している国際法について、総論的知識を体系的に整理して身につけることを目的とします。国際法は、国内法とは相当に異なる基本構造をもっているため、新たな気持ちで授業に臨んでもらえればと思います。																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、 (1) 国際法の性質や特徴について、第三者に分かりやすく説明できる、 (2) 国際法に関連する、教職関係の試験問題や、各種資格試験で出題される問題に解答する手がかりを得ることができる、 (3) 国際法に関するニュースに触れたときに、その内容を専門的な視点から理解し、第三者に分かりやすく説明できる、 ようになることが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	この授業は、毎回、レジュメを配布して実施します。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	国際機関やNGOなど国際性豊かな職種を希望する学生はもちろんのこと、国家公務員をはじめとする各種公務員の教養試験や教員資格取得および大学院・法科大学院進学にも役立つ。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>・イントロダクション ・国際法の基本構造</td><td>・授業計画の説明、参考文献紹介 ・国際社会と国内社会の構造上の違い、 国際法の歴史的展開、現代国際法の特徴</td><td>シラバスの講義概要に目を通しておくこと。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>国際法の基礎</td><td>国際法の実在形式、国家責任とその解除方法</td><td>事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間</td></tr> <tr> <td>3</td><td>国際法の法源</td><td>慣習国際法とは？ 慣習法の成立要件</td><td>事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間</td></tr> <tr> <td>4</td><td>条約の締結手続と条約の無効・終了</td><td>条約とは？ 条約の定義、分類、条約の締結手続、条約の無効・終了</td><td>事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間</td></tr> <tr> <td>5</td><td>条約の留保</td><td>留保についての論争。条約法条約、留保の効果</td><td>事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間</td></tr> <tr> <td>6</td><td>国際法主体（1）—国</td><td>国際法主体の構成要素、国家平等</td><td>事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間</td></tr> <tr> <td>7</td><td>国際法主体（2）—国際組織</td><td>国際組織の発展、国連とそのファミリー、国連の表決手続</td><td>事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間</td></tr> <tr> <td>8</td><td>国際法主体（3）—国際連合</td><td>国連の国際法上の機能、国連の法人格と権限、</td><td>事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間</td></tr> <tr> <td>9</td><td>国際法主体（4）—人</td><td>国際人権法の歴史、人権の法典化、さまざまな人権条約、人権条約の国際的実施</td><td>事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間</td></tr> <tr> <td>10</td><td>国際法主体（5）—外国人</td><td>国籍、外国人の出入国、外交的保護</td><td>事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各1時間</td></tr> <tr> <td>11</td><td>国際環境法</td><td>国際環境法の歴史、国際環境規制の特徴、環境に関する国際法の諸原則</td><td>事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各1時間</td></tr> <tr> <td>12</td><td>地球温暖化と国際法</td><td>地球温暖化防止への国際社会の取組み、気候変動枠組条約、京都議定書、パリ協定</td><td>事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各1時間</td></tr> <tr> <td>13</td><td>ロシアのウクライナ軍事侵攻と国際法（1）</td><td>武力不行使原則とその例外、自衛権</td><td>事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各1時間</td></tr> <tr> <td>14</td><td>ロシアのウクライナ軍事侵攻と国際法（2）</td><td>国連の集団安全保障、国際連盟との比較、国連のロシアに対する対応</td><td>事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各1時間</td></tr> <tr> <td>15</td><td>学期のまとめ</td><td>全体の総括</td><td>事前：これまでのレジュメの総点検を行っておく。 2時間</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	・イントロダクション ・国際法の基本構造	・授業計画の説明、参考文献紹介 ・国際社会と国内社会の構造上の違い、 国際法の歴史的展開、現代国際法の特徴	シラバスの講義概要に目を通しておくこと。	2	国際法の基礎	国際法の実在形式、国家責任とその解除方法	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間	3	国際法の法源	慣習国際法とは？ 慣習法の成立要件	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間	4	条約の締結手続と条約の無効・終了	条約とは？ 条約の定義、分類、条約の締結手続、条約の無効・終了	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間	5	条約の留保	留保についての論争。条約法条約、留保の効果	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間	6	国際法主体（1）—国	国際法主体の構成要素、国家平等	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間	7	国際法主体（2）—国際組織	国際組織の発展、国連とそのファミリー、国連の表決手続	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間	8	国際法主体（3）—国際連合	国連の国際法上の機能、国連の法人格と権限、	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間	9	国際法主体（4）—人	国際人権法の歴史、人権の法典化、さまざまな人権条約、人権条約の国際的実施	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間	10	国際法主体（5）—外国人	国籍、外国人の出入国、外交的保護	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各1時間	11	国際環境法	国際環境法の歴史、国際環境規制の特徴、環境に関する国際法の諸原則	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各1時間	12	地球温暖化と国際法	地球温暖化防止への国際社会の取組み、気候変動枠組条約、京都議定書、パリ協定	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各1時間	13	ロシアのウクライナ軍事侵攻と国際法（1）	武力不行使原則とその例外、自衛権	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各1時間	14	ロシアのウクライナ軍事侵攻と国際法（2）	国連の集団安全保障、国際連盟との比較、国連のロシアに対する対応	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各1時間	15	学期のまとめ	全体の総括	事前：これまでのレジュメの総点検を行っておく。 2時間
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	・イントロダクション ・国際法の基本構造	・授業計画の説明、参考文献紹介 ・国際社会と国内社会の構造上の違い、 国際法の歴史的展開、現代国際法の特徴	シラバスの講義概要に目を通しておくこと。																																																																
2	国際法の基礎	国際法の実在形式、国家責任とその解除方法	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間																																																																
3	国際法の法源	慣習国際法とは？ 慣習法の成立要件	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間																																																																
4	条約の締結手続と条約の無効・終了	条約とは？ 条約の定義、分類、条約の締結手続、条約の無効・終了	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間																																																																
5	条約の留保	留保についての論争。条約法条約、留保の効果	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間																																																																
6	国際法主体（1）—国	国際法主体の構成要素、国家平等	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間																																																																
7	国際法主体（2）—国際組織	国際組織の発展、国連とそのファミリー、国連の表決手続	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間																																																																
8	国際法主体（3）—国際連合	国連の国際法上の機能、国連の法人格と権限、	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間																																																																
9	国際法主体（4）—人	国際人権法の歴史、人権の法典化、さまざまな人権条約、人権条約の国際的実施	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間																																																																
10	国際法主体（5）—外国人	国籍、外国人の出入国、外交的保護	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各1時間																																																																
11	国際環境法	国際環境法の歴史、国際環境規制の特徴、環境に関する国際法の諸原則	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各1時間																																																																
12	地球温暖化と国際法	地球温暖化防止への国際社会の取組み、気候変動枠組条約、京都議定書、パリ協定	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各1時間																																																																
13	ロシアのウクライナ軍事侵攻と国際法（1）	武力不行使原則とその例外、自衛権	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各1時間																																																																
14	ロシアのウクライナ軍事侵攻と国際法（2）	国連の集団安全保障、国際連盟との比較、国連のロシアに対する対応	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各1時間																																																																
15	学期のまとめ	全体の総括	事前：これまでのレジュメの総点検を行っておく。 2時間																																																																
関連科目	国際組織法、国際人権法																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ビジュアルテキスト国際法〔第2版〕</td><td>加藤信行ほか編</td><td>有斐閣</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ビジュアルテキスト国際法〔第2版〕	加藤信行ほか編	有斐閣	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	ビジュアルテキスト国際法〔第2版〕	加藤信行ほか編	有斐閣																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法	中間レポート（50％）及び期末試験（50％）の合計により評価する。																																																																		

(基準)	
学生への メッセージ	国際法は国内法とはその構造を相当に異にするので、戸惑うことも多いかと思いますが、毎回の授業を理解しようと努力すれば、きっと皆さんも国際法の面白さに気が付くはずです。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階 鳥谷部研究室
備考	

科目名	国際法の基礎理論	科目名（英文）	Introduction to International Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥谷部 瑛
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2059a0		

授業概要・目的	この科目は、グローバル時代において益々その重要性を増している国際法について、各論の知識を体系的に整理して身につけることを目的とします。国際法は、国内法とは相当に異なる基本構造をもっているため、新たな気持ちで授業に臨んでもらえればと思います。				
到達目標	この授業を通じて学生には、 (1) 国際法の各論分野の性質や特徴について、第三者に分かりやすく説明できる、 (2) 国際法に関連する、教職関係の試験問題や、各種資格試験で出題される問題に解答する手がかりを得ることができる、 (3) 国際法に関するニュースに触れたときに、その内容を専門的な視点から理解し、第三者に分かりやすく説明できる、 ようになることが期待される。				
授業方法と留意点	この授業は、毎回、レジュメを配布して実施する。				
科目学習の効果（資格）	国際機関やNGOなど国際性豊かな職種を希望する学生はもちろんのこと、国家公務員をはじめとする各種公務員の教養試験や教員資格取得および大学院・法科大学院進学にも役立つ。				
授業計画		回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1		イントロダクション 国際法の基本構造	・ 授業計画の説明、参考文献紹介 ・ 国際社会と国内社会の構造上の違い、 国際法の歴史的展開、現代国際法の特徴	シラバスの講義概要に目を通しておくこと。
	2		国際社会で守るルール	国際法の法的拘束力、国際法の存在形式、 国際法の効力、国際法上の責任	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を復習。 各 1 時間
	3		国家の誕生と消滅 国家管轄権	国とは何か、国の始まりと終わり、国家 管轄権、国家免除	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を復習。 各 1 時間
	4		外交・領事関係法	外交関係と領事関係、外交特権免除と領 事特権免除、その他の国家機関の特権免 除	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を復習。 各 1 時間
	5		領土問題	国の領域と領域主権、領域権原と領土紛 争、日本の領土問題	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を復習。 各 1 時間
	6		・ 特殊地域 ・ 宇宙	・ 国際河川と国際運河、南極と北極 ・ 宇宙条約と宇宙関連 4 条約	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を復習。 各 1 時間
	7		海洋法（1）	海洋法の歴史と海洋の区分、内水・領海 と接続水域、国際海峡と群島水域、排他 的経済水域と大陸棚	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を復習。 各 1 時間
	8		海洋法（2）	公海の秩序と公海漁業、海域の境界画 定、深海底とその資源	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を復習。 各 1 時間
	9		国際犯罪	国際犯罪の概念、国による処罰、国際的 な刑事裁判所、犯罪人の引渡し	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を復習。 各 1 時間
	10		紛争の平和的解決（1）	国際裁判、国際裁判以外の紛争解決	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を確認。 各 1 時間
	11		紛争の平和的解決（2）	国際司法裁判所の制度と手続、国連海洋 法条約上の紛争解決制度	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を確認。 各 1 時間
	12		安全保障（1）	戦争・武力行使の違法化、武力不行使原 則とその例外、自衛権、集団安全保障	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を確認。 各 1 時間
	13		安全保障（2）	国連平和維持活動 PKO	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を確認。 各 1 時間
	14		武力紛争法・軍縮法	敵対行為の規制と犠牲者の保護、大量破 壊兵器、通常兵器	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を確認。 各 1 時間
	15		学期のまとめ	全体の総括	事前：これまでのレジュメの総点検を行っておく。 2 時間
関連科目	国際法Ⅰ（総論）、国際組織法、国際人権法				
教科書		番号	書籍名	著者名	出版社名
	1				
	2				
	3				
参考書		番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		『ビジュアルテキスト国際法〔第2版〕』	加藤信行ほか編	有斐閣
	2				
	3				
評価方法	中間レポート（50％）と、期末試験（50％）の合計により評価する。				

(基準)	
学生への メッセージ	国際法は国内法とはその構造を相当に異にするので、戸惑うことも多いかと思いますが、毎回の授業を理解しようと努力すれば、きっと皆さんも国際法の面白さに気が付くはずです。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階 鳥谷部研究室
備考	

科目名	国際人権法	科目名 (英文)	International Human Rights Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鳥谷部 瑛
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2060a0		

授業概要・目的	この科目は、人権を国際的に保護するための国際法の制度について、人権諸条約を中心に学ぶ授業になります。本科目では、人権問題に国際社会がいかに対処しているのかについて、国際法の視点から基本的な知識を身につけることを目的とします。				
到達目標	この授業を通じて学生には、 (1) 国際人権諸条約の分類や特徴について、第三者に分かりやすく説明できる、 (2) 国際人権法に関連する、教職関係の試験問題や、各種資格試験で出題される問題に解答する手がかりを得ることができる、 (3) 国際人権法の観点から、日本の人権問題を指摘することができる、 ようになることが期待される。				
授業方法と留意点	この授業では毎回レジュメを配布して行います。				
科目学習の効果（資格）	国際機関やNGOなど国際性豊かな職種を希望する学生はもちろんのこと、国家公務員をはじめとする各種公務員の教養試験や教員資格取得および大学院・法科大学院進学にも役立つ。				
授業計画		回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
		1	・イントロダクション ・人権の国際的保障の展開	・授業計画、成績評価、参考図書等についての説明 ・国際人権保障の歴史、国際連合憲章の成立、国際人権章典	シラバスの講義概要に目を通しておくこと。
		2	国際人権の中心理念	人間の尊厳と生命の尊重、平等・無差別原則と弱者の保護	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間
		3	国際人権規約	国際人権章典、国際人権規約の内容および実施措置	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間
		4	自由権規約	自由権規約の規定内容と実施措置、日本政府に対する総括所見	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間
		5	社会権規約	社会権規約の規定内容と実施措置、日本政府に対する総括所見	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間
		6	国連の人権活動	国連の人権活動の歴史、人権委員会の任務、人権理事会の創設と審査手続	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間
		7	難民条約体制	難民の定義、日本の難民認定制度とその問題点	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間
		8	女性差別撤廃条約	ジェンダー・ギャップ指数、女性差別撤廃条約の規定内容とその実施制度	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間
		9	ヨーロッパの人権保障制度	ヨーロッパ人権条約の規定内容、ヨーロッパ人権裁判所	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間
		10	南北アメリカの人権保障制度	米州地域における人権保障の歴史、米州人権委員会の任務と役割、米州人権裁判所	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各1時間
		11	アフリカの人権保障制度	・アフリカの人権保障の歩み、バンジュール憲章の内容、アフリカ人権裁判所	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各1時間
		12	国際的な刑事裁判所	個人責任論の歴史的展開、個人の刑事責任対象犯罪、国際刑事裁判所	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各1時間
		13	人種差別の禁止	人種差別撤廃条約の規定内容と実施措置	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各1時間
		14	人権条約の国内裁判所における適用	人権条約の直接適用・間接適用	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各1時間
		15	全体のまとめ	総復習	事前：これまでのレジュメの総点検を行っておく。 2時間
関連科目	国際社会と法、国際法の基礎理論、国際組織法、日本国憲法				
教科書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1			
		2			
		3			
参考書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1	ブリッジブック国際人権法〔第2版〕	芹田健太郎ほか編	信山社
		2			
		3			

評価方法 (基準)	中間レポート (50%) と、期末テスト (50%) の合計により評価する。
学生への メッセージ	国際人権法は、国内の人権保障の現状を、グローバル・スタンダードに照らして再点検することにより、人権状況の改善を目指す学問です。グローバルな視点から捉えると、日本の人権状況はどのように映し出されるのでしょうか。一緒に考えてみましょう。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階 鳥谷部研究室
備考	

科目名	国際組織法	科目名 (英文)	Law of International Organizations
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥谷部 瑛
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3061a0		

授業概要・目的	現代国際社会において、国際連合をはじめとする国際組織は、国家と並ぶ重要な地位を占めるようになっていきます。この科目では、そうした国際組織の設立および活動内容について、国際法の基礎知識を修得することを目的とします。
到達目標	この授業を通じて学生には、 (1) 国際組織の活動を、国際法の理論や実践と結び付けて理解することができる、 (2) 国際組織に関する時事ニュースについて、国際法の基礎知識を手がかりに読み解く素養を身につける、 (3) 公務員試験や教職の試験に出題される国際組織に関する問題が解ける、 ようになることが期待されます。
授業方法と留意点	本科目は、基本的に毎回配布するレジュメに沿って授業を行います。
科目学習の効果 (資格)	国際法の基礎知識の修得だけでなく、各種資格試験対策にも役立ちます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業計画の説明、参考文献紹介	
	2	国際組織の歴史	国際組織の意義、国際組織の誕生の背景、現代の国際組織	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間
	3	国際組織の概念	国際組織の分類、国際組織の組織化と国際組織の発展	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間
	4	国際組織の機関と権限	主要機関と補助機関、司法機関	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間
	5	国際組織の地位	国際組織の法主体性（法人格）	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間
	6	国際組織の権限と責任	条約締結権、特権免除、施政権、国際請求の提起、国際裁判所における当事者能力	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間
	7	国際組織と加盟国	加盟・代表権、国家・政府承認、権利停止・除名・脱退	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間
	8	国際組織と NGO（民間団体）	・ NGO の定義とその役割、国連経済社会理事会と NGO の協力関係、NGO の活動 ・ 中間テストの実施	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間
	9	国際組織の意思決定	全会一致制、多数決制、加重表決制、拒否権、コンセンサス	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間
	10	紛争処理	国家間紛争の処理、国際組織内の法的問題の処理、国際犯罪処罰のための司法機関	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間
	11	国連と安全保障	集団安全保障	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間
	12	平和維持活動（PKO）	伝統的 PKO、新しい形の PKO、PKO の活動形態	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間
	13	軍備縮小および軍備管理に関する国際組織	軍縮の意義、軍縮条約、軍備管理条約	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間
	14	国際連合と日本	戦後の日本と国連、国連加盟後の日本外交	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間
	15	学期のまとめ	全体の総括	これまでのすべてのレジメの復習と質問を準備しておくこと。 2 時間

関連科目	国際社会と法、国際法の基礎理論、国際人権法		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	中間レポート（50％）と、期末試験（50％）の合計により評価する。		

学生への メッセージ	皆さんが生活する上で、国家という存在を身近に感じる機会は少ないと思われます。まして、国際組織という存在はなおさら縁遠く感じることでしょう。しかし、新聞やニュースの国際面を見てみてください。頻繁に国際組織が登場しています。現代社会はグローバル化の時代です。世界には100を超える国際組織が活動しています。日本も多くの国際組織に加盟しています。国際組織の活動が私たちの生活に間接的に影響を及ぼす場合が少なくありません。国際組織の活動を通して、国際法のダイナミズムに触れてみましょう。
担当者の 研究室等	11号館10階 鳥谷部研究室
備考	

科目名	政治学概論	科目名 (英文)	Introduction to Politics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1062a0		

授業概要・目的	政治学の応用科目としては、行政学、政治思想、地方自治、国際関係などがあります。そうした応用科目を理解する前提として、政治学の基本的な知識・教養を修得している必要があります。また私たちが一市民・一有権者として正しい政治的選択を行うためには、政治の仕組みや歴史について基本的な知識・教養をあらかじめ知っておくことが必要不可欠です。 したがって政治学原論（Principles of Political Science）であるこの授業では、政治学の基本的な諸原理（Principles）にあたる内容を授業します。授業は、ABD（アクティブ・ブック・ダイアログ）、グループワーク、プレゼンテーションなど反転授業で行いますので、事前学習が必要不可欠です。
到達目標	この授業を通じて学生の皆さんは、政治・政治学の基本的な知識・教養を獲得することができます。そうした知識・教養に基づいて、皆さんは行政学や政治思想、地方自治、国際関係といった応用的な政治学をより正確に学ぶことができます。 また ABD で知的能力を、グループワークで社会・対人関係力を、PBL のプレゼンテーションで自己制御能力・実践的能力を向上させることができます。
授業方法と留意点	反転授業で行います。教科書を買う余裕がない人、事前学習を行う余裕がない人は、受講を避けてください。 教科書を買わない人、授業の進め方に不満がある人は、受講を取り消していただきます。 また反転授業というこの授業の特徴に鑑みて、学生の受講人数を制限する場合があります。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や法学基礎検定、就職活動において政治の知識・教養が一般常識として問われる場合がありますので、そうした点で役立つでしょう。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクションー政治とは何か？	イントロダクションとして、本講義の内容と政治ー国家の必要性について授業します。	事前学習：教科書を購入し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する（30 分）。
	2	民主政治の起源①	教科書の第一章に基づき、民主制や自由主義について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第一章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	3	民主政治の起源②	教科書の第一章に基づき、民主制や自由主義について授業します。	事前学習：授業中に配布した課題を読み、インターネットや図書館などから知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	4	民主政治の変容①	教科書の第二章に基づき、現代の大規模デモクラシーや全体主義について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第二章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	5	民主政治の変容②	教科書の第二章に基づき、現代の大規模デモクラシーや全体主義について授業します。	事前学習：授業中に配布した課題を読み、インターネットや図書館などから知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	6	福祉と政治①	教科書の第三章に基づき、福祉国家や新自由主義について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第三章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	7	福祉と政治②	教科書の第三章に基づき、福祉国家や新自由主義について授業します。	事前学習：授業中に配布した課題を読み、インターネットや図書館などから知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	8	民主政治のさまざまな仕組み、議会と政党①	教科書の第四章と第六章に基づき、議院内閣制や国会、政党について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第四章・第六章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	9	民主政治のさまざまな仕組み、議会と政党②	教科書の第四章と第六章に基づき、議院内閣制や国会、政党について授業します。	事前学習：授業中に配布した課題を読み、インターネットや図書館などから知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	10	選挙①	教科書の第五章に基づき、選挙制度や投票行動について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第五章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	11	選挙②	教科書の第五章に基づき、選挙制度や投票行動について授業します。	事前学習：授業中に配布した課題を読み、インターネットや図書館などから知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	12	世論とマスメディア①	教科書の第八章に基づき、世論やマスメディアについて授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第八章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知

				識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。																
	13	世論とマスメディア②	教科書の第八章に基づき、世論やマスメディアについて授業します。	事前学習：授業中に配布した課題を読み、インターネットや図書館などから知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。																
	14	民主政治の現在①	教科書の第十一章に基づき、政治参加やジェンダーについて授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第十一章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。																
	15	民主政治の現在②	教科書の第十一章に基づき、政治参加やジェンダーについて授業します。	事前学習：授業中に配布した課題を読み、インターネットや図書館などから知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。																
関連科目	中学・高校の公民、日本史など。大学の日本の政治など。																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>政治学（第2版）</td><td>川出良枝・谷口将紀編</td><td>東京大学出版会</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	政治学（第2版）	川出良枝・谷口将紀編	東京大学出版会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	政治学（第2版）	川出良枝・谷口将紀編	東京大学出版会																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 （基準）	授業中に行う小テスト（50%）、授業でのプレゼンテーション（50%）で評価します。																			
学生への メッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、政治・政治学についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。																			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館 10 階 和田研究室																			
備考																				

科目名	世界の政治と社会	科目名 (英文)	Politics and Society of the World
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森 康一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1063a0		

授業概要・目的	この講義では、第二次世界大戦後から現在までの国際関係についてとりあげる。前半では米ソを中心とする冷戦時代の国際政治を説明し、後半では冷戦後の国際関係と個別的な時事問題を考える。歴史をふまえた上で、現在の国際政治を理解する土台を作ることを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、第二次世界大戦後の国際政治の流れを理解し、現在の国際関係を考える基礎となる知識を身につけることが期待される。
授業方法と留意点	プリントと板書により講義形式で授業を進めます。自分のまとめノートを作るつもりで、よく講義を聞いて下さい。 また、小テストはMoodle より行うので、受講する学生はMoodle の当授業コース「【後期水曜 2 限・法学部】世界の政治・世界の政治と社会（担当：森康一）」を検索の上、登録しておいて下さい。他学部開講の同名講義と間違えないように登録すること。 自己登録キー：1206
科目学習の効果（資格）	公務員試験や就職時に、日本と世界の関わりという点で国際情勢について問われる場面は多い。この授業によって、現在の国際情勢を理解するうえで必要な知識を習得することができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	講義の目的と内容・成績評価について	講義の内容全体について	高校世界史の教科書などで、冷戦期の国際政治の流れについて一通り読んでおく（約 2 時間）
	2	冷戦時代の国際関係（1）	ヤルタ体制および冷戦初期の国際政治について	冷戦初期の国際情勢について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 2 回）を見直しておく（約 1 時間）
	3	冷戦時代の国際関係（2）	第三世界の台頭、ヨーロッパ統合の理想と現実について	「アジア・アフリカ会議」、「非同盟諸国首脳会議」について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 3 回）を見直しておく（約 1 時間）
	4	冷戦時代の国際関係（3）	多極化とデタントについて	「キューバ危機」について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 4 回）を見直しておく（約 1 時間）
	5	冷戦時代の国際関係（4）	「新冷戦」と冷戦の終焉について	ゴルバチョフについて調べておく（約 30 分） レジュメ（第 5 回）を見直しておく（約 1 時間）
	6	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ（1）	冷戦終結後の国際政治全般について	「文明の衝突」について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 6 回）を見直しておく（約 1 時間）
	7	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ（2）	ヨーロッパを中心とした冷戦終結後の国際政治について	ユーゴスラヴィアの成り立ちについて調べておく（約 30 分） レジュメ（第 7 回）を見直しておく（約 1 時間）
	8	グローバルな問題群	核・食料・環境問題について	「核抑止」について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 8 回）を見直しておく（約 1 時間）
	9	同時テロと「イラク戦争」後の世界秩序	「9. 11」以後の国際政治について	「9. 11 テロ」について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 9 回）を見直しておく（約 1 時間）
	10	米ロの核軍縮	核問題をめぐる米ロ関係について	オバマ大統領の「ブラハ演説（2009）」について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 10 回）を見直しておく（約 1 時間）
	11	米中関係のゆくえ	アメリカと中国の外交関係について	「ヴェトナム戦争」について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 11 回）を見直しておく（約 1 時間）
	12	中東問題のゆくえ	中東問題の経緯と「中東和平」の展望について	イスラエルの成り立ちについて調べておく（約 30 分） レジュメ（第 12 回）を見直しておく（約 1 時間）
	13	緊迫する朝鮮半島情勢	韓国・北朝鮮をめぐる国際関係について	「朝鮮戦争」について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 13 回）を見直しておく（約 1 時間）
	14	日本の安全保障	現在の日本がかかえる国際問題について	日本の領土問題について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 14 回）を見直しておく（約 1 時間）
	15	まとめ	講義のまとめと試験について	講義全体を振り返り、期末試験の準備をする

関連科目	国際関係論、国際関係史
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際政治	藤原帰一	日本放送出版協会
	2	国際政治学をつかむ	村田晃嗣・君塚直隆他	有斐閣
	3	国際紛争	ジョゼフ・S・ナイ・ジュニア（田中明彦訳）	有斐閣

評価方法（基準）	・原則として、「欠欠を除く欠席が 5 回以内」の学生のみを成績評価の対象とします。 ・成績評価は ○平常点 20％：小テスト×2 回（第 6 回・第 11 回の授業日に Moodle から実施。当該日の任意の時間に受験可能。各回 10 点満点） ○期末試験 80％：論述式。5 問出題し、そのうち 2 問を選択してもらいます。各問 40 点満点。 の合計点によって評価を行います。 ・期末試験において持ち込みは認めません。
学生へのメッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、世界で起っていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようにしてください。

担当者の 研究室等	11 号館 5 階 法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	

科目名	近代日本政治史	科目名 (英文)	Modern History of Japanese Politics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1064a0		

授業概要・目的	現代の日本の政治に参加するさい、今までの日本の政治の歴史や政策、また日本の政治が扱ってきた問題などを知っておくことは非常に有益です。なぜなら、それらに基づいて皆さんは自分をとりまく政治問題や政治情勢、望ましい政策や選択肢について考え、意思決定することができるからです。 この授業では、有権者である学生の皆さんに日本の政治の歴史についての基本的な知識を与えることが目的です。近代日本政治史ということで明治以降の日本の政治史が対象になりますが、より皆さんの生活に関係が深い戦後の日本政治史を中心に授業していきます。
到達目標	この授業を通じて学生の皆さんは、日本の政治の仕組み・歴史について基本的な知識・教養を獲得することが期待されます。またそうした知識・教養に基づき、実際の政治活動において①正しい政治的配分や法とは何かを思考することができ、②支持すべきより正しい政治的アクターや政策・法を判断することができ、③投票など政治活動を通じて自分の政治的意見を正しく表現することができることが期待されます。
授業方法と留意点	レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーにある政治問題について自問自答・議論した上で自分の意見を論理的に書いてもらったり、小テストに答えてもらったりすることもあります。
科目学習の効果 (資格)	公務員試験や就職活動において、日本政治史の知識・教養が一般常識として問われる場合があります。また一主権者として実際に政治活動するときには、そうした知識・教養について知っておく必要があります。そうした状況に上手に対応するために、日本の政治史について正しい知識・教養を獲得し、個々の具体的な政策・法のメリット・デメリットを正しく判断し、最終的に自分の意見を政治活動を通じて正しく表現することができます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション～「近代」とは何か？	イントロダクションとして、講義の内容と「近代(modern)」とは何を意味するのかについて授業します。	事前学習：今まで勉強してきた歴史の教科書などを再読し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める (30 分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30 分)。
	2	戦前日本の政治史①～明治・大正の政党の活動と大日本帝国憲法	政党史を中心に大正デモクラシーまでの政治史を概観し、大日本帝国憲法の政治的な重要箇所について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第二回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30 分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30 分)。
	3	戦前日本の政治史②～軍部の台頭	映像資料を見ながら、日本が日中戦争・太平洋戦争へと向かっていった原因の一つである軍部を考えます。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第三回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30 分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30 分)。
	4	戦前日本の政治史③～満州国の設立	映像資料を見ながら、なぜ日本がワシントン体制から脱して満州国設立へと向かって行ってしまったのかを考えます。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第四回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30 分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30 分)。
	5	戦後日本の政治史①～GHQ による日本の初期占領政策	GHQ の日本占領政策と連立政権について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第五回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30 分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30 分)。
	6	戦後日本の政治史②～インフレ対策と逆コース	冷戦の激化にともない、GHQ の日本占領政策が転換していった過程について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第六回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30 分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30 分)。
	7	戦後日本の政治史③～日本の独立と吉田茂の退場	サンフランシスコ平和条約締結周辺の経過と吉田保守本流の外交方針について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第七回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30 分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30 分)。
	8	戦後日本の政治史④～新日米安保条約と安保闘争	岸内閣を中心に、新日米安保条約の改定が望まれた理由や安保闘争の経過について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第八回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30 分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30 分)。
	9	戦後日本の政治史⑤～沖縄返還問題と非核三原則	佐藤内閣を中心に、当時の沖縄返還をめぐる諸問題について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第九回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30 分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30 分)。
	10	戦後日本の政治史⑥～派閥の強化と田中派の隆盛	自民党の派閥政治の特徴と田中派が勢力を拡大していく過程について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第十回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30 分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30 分)。
	11	戦後日本の政治史⑦～田中派から竹下派への禅譲	田中派から竹下派へと自民党の権力が移行していった 80 年代の自民党政治について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第十一回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30 分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30 分)。
	12	戦後日本の政治史⑧～政治	55 年体制が崩壊し、細川連立内閣が成	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第十

		改革と 55 年体制の崩壊	立した 90 年代の政治史を授業します。	二回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30 分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30 分)。																
	13	戦後日本の政治史⑨～小泉内閣から民主党内閣へ	小泉内閣の外交や郵政民営化法案を中心に授業します。	事前学習: 事前配布したレジュメの該当箇所 (第十三回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30 分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30 分)。																
	14	戦後日本の政治史⑩～安倍内閣の諸政策	国家の自衛権とは何かを解説しながら、安倍内閣における集団的自衛権の行使の閣議決定の内容について授業します。	事前学習: 事前配布したレジュメの該当箇所 (第十四回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30 分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30 分)。																
	15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	事前学習: 来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく (30 分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30 分)。試験に向けて教科書やノート、レジュメを読み直す (時間の許す限り)。																
関連科目	中学・高校の日本史、世界史など。大学の日本の政治、政治学原論など。																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>近代日本政治史</td><td>坂野潤治</td><td>岩波書店</td></tr><tr><td>2</td><td>現代日本政治史</td><td>廣澤孝之</td><td>晃洋書房</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	近代日本政治史	坂野潤治	岩波書店	2	現代日本政治史	廣澤孝之	晃洋書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	近代日本政治史	坂野潤治	岩波書店																	
2	現代日本政治史	廣澤孝之	晃洋書房																	
3																				
評価方法 (基準)	レポート (50%) と授業中ないし授業後に行う小テスト (50%) で評価します。																			
学生への メッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、現代の日本の政治についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。																			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館 10 階 和田研究室																			
備考																				

科目名	西洋政治思想史	科目名（英文）	History of Western Political Thought
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2066a0		

授業概要・目的	皆さんが憲法や法律、政治家の演説を見聞するとき、自由・平等・正義といったさまざまな政治的概念が現れると思います。それらは空虚で意味のない言葉ではなく、古代ギリシアにおいてプラトン・アリストテレスといった政治思想家たちが発明し、それが意味する内容がさまざまに変化しつつ、ようやく現在のかたちにまで固まった言葉です。 この授業は、政治思想家たちの著作や思想を紹介しつつ、「普段なにげなく使われている基本的な政治的概念にこんな意味があったのか」、と知ってもらうべく解説するのが大きな目的です。政治的概念の深い意味に気づいてもらうことによって、皆さんが政治参加するさいに必要な不可欠な論理的思考力・判断力・表現力が育成されることになります。
到達目標	この授業を通じて学生の皆さんは、西洋政治思想の概念・歴史について基本的な知識・教養を獲得することが期待されます。またそうした知識・教養に基づき、実際の政治活動において①正しい政治的配分や法とは何かを思考することができ、②支持すべきより正しい政治的アクターや政策・法を判断することができ、③投票など政治活動を通じて自分の政治的意見を正しく表現することができることが期待されます。
授業方法と留意点	レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーにある政治問題について自問自答・議論した上で自分の意見を論理的に書いてもらったり、小テストに答えてもらったりすることもあります。また文章の読解能力・作成能力を高めるため、政治思想に関する文献を読み、レポートを提出してもらうこともあります。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や就職活動において、西洋政治思想史の知識・教養が一般常識として問われる場合があります。また一主権者として実際に政治活動するときには、そうした知識・教養について知っておく必要があります。そうした状況に上手く対応するために、日本の政治について正しい知識・教養を獲得し、個々の具体的な政策・法のメリット・デメリットを正しく判断し、最終的に自分の意見を政治活動を通じて正しく表現することができます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション～古代から近代の政治思想家たち	イントロダクションとして、講義の内容と古代と近代の政治思想家たちの概略について授業します。	事前学習：政治思想について文献を収集し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する（30分）。
	2	プラトン	『国家』を中心に、正義の概念について考えます。	事前学習：プラトンについて文献を収集し、調べておく（60分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
	3	アリストテレス	『ニコマコス倫理学』『政治学』を中心に、幸福や正義の概念について、またポリスの階層秩序について考えます。	事前学習：アリストテレスについて文献を収集し、調べておく（60分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
	4	キケロー	『義務について』を中心に、古代ローマの共和主義について考えます。	事前学習：キケローと古代ローマの歴史について文献を収集し、調べておく（60分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
	5	マキャベリ	『君主論』を中心に、古代政治学との対立や国家理性について考えます。	事前学習：参考書の該当箇所（第一章）を読む（60分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
	6	ホッブズ	『リヴァイアサン』を中心に、社会契約や主権者について考えます。	事前学習：参考書の該当箇所（第二章）を読む（60分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
	7	ロック	『統治二論』を中心に、社会契約や所有権、立法権について考えます。	事前学習：参考書の該当箇所（第三章）を読む（60分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
	8	ルソー	『社会契約論』を中心に、社会契約や自由、平等について考えます。	事前学習：参考書の該当箇所（第四章）を読む（60分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
	9	カント	『啓蒙とは何か』『道徳形而上学原論』を中心に、啓蒙や意志について考えます。	事前学習：参考書の該当箇所（第六章）を読む（60分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
	10	J・S・ミル	『自由論』を中心に、個性や自由について考えます。	事前学習：参考書の該当箇所（第八章）を読む（60分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
	11	バーリン	『二つの自由概念』を中心に、積極的自由や消極的自由について考えます。	事前学習：参考書の該当箇所（第十章）を読む（60分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
	12	ロールズ	『正義論』を中心に、自由や正義について考えます。	事前学習：参考書の該当箇所（第十一章）を読む（60分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
	13	アーレント	『人間の条件』を中心に、全体主義や公的領域、活動について考えます。	事前学習：参考書の該当箇所（第九章）を読む（60分）。 事後学習授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
	14	バトラー	『ジェンダー・トラブル』を中心に、フェミニズムの歴史や性差について考えます。	事前学習：バトラーについて文献を収集し、調べておく（60分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう

				一度熟読し、小テストを解く（30分）。																
	15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度授業します。	事前学習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。試験に向けて教科書やノート、レジュメを読み直す（時間の許す限り）。																
関連科目	中学・高校の公民、世界史など。大学の倫理学、哲学など。																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>政治思想と啓蒙</td><td>和田泰一・高山裕二編</td><td>ナカニシヤ出版</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	政治思想と啓蒙	和田泰一・高山裕二編	ナカニシヤ出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	政治思想と啓蒙	和田泰一・高山裕二編	ナカニシヤ出版																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>政治思想の知恵―マキャベリからサンデルまで―</td><td>仲正昌樹編</td><td>法律文化社</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	政治思想の知恵―マキャベリからサンデルまで―	仲正昌樹編	法律文化社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	政治思想の知恵―マキャベリからサンデルまで―	仲正昌樹編	法律文化社																	
2																				
3																				
評価方法 （基準）	レポート（50%）、授業中ないし授業後に行う小テスト（50%）で評価します。																			
学生への メッセージ	授業中に紹介した著作を読むようにして、政治思想についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。																			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館 10 階 和田研究室																			
備考																				

科目名	国際関係史	科目名（英文）	International History
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	河原 匡見
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2067a0		

授業概要・目的	本講義では、国際関係の歴史について、特に第2次世界大戦後“冷戦”と呼ばれた時代に焦点を当てて、それがどのように発生し、展開し、そして終結したのか、米ソ間の対立の経緯を中心に解説していく。そうして、ロシアによるウクライナ侵攻に象徴される激動する今日の世界の動きを把握するための歴史的背景を理解できるように、また現代の国際関係に対する関心と問題意識をより高められるような材料を提供したい。
到達目標	この授業を通じて学生には、現代世界の構造の歴史的な要因を、第2次世界大戦後の米ソ冷戦の展開から学び、現代世界の動きをより深く理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業は、対面式で実施する。毎回授業で、レジュメや資料などを配布するので、それを参考にしながら授業を聴講して理解を深めてもらう。また、必要に応じて板書を行うので、レジュメの余白などにメモ書きやノートをつけることをすすめる。
科目学習の効果（資格）	歴史（特に現代史）を見る眼と戦後の国際関係の展開に関する基礎知識の習得。また、最近の国際情勢の歴史的背景を知ること、今後どのような展開が予想されるか、主体的に考える力を養う。

授業計画			
	回数	授業テーマ	内容・方法 等
	1	ガイダンス、イントロダクション	講義内容の説明（進め方、評価方法など）、講義開始前の認識度確認レポートの作成と提出
	2	“冷戦”の概念	定義、起源や原因に関する諸説について解説する。
	3	戦後世界の起点	第2次世界大戦終盤の協力および戦後構想をめぐる動きについて解説する。
	4	米ソ対立の契機	東欧の共産化について解説する。
	5	米ソ対立の深化と拡大（1） ／ 政治レベルの対立	米ソ間の対立が顕在化していく過程を、有力国の指導者の声明をたどりつつ解説する。
	6	米ソ対立の深化と拡大（2） ／ 経済レベルの対立	マーシャル・プランからドイツの東西分裂にいたる過程およびアメリカの封じ込め理論の内容を解説する。
	7	米ソ対立の深化と拡大（3） ／ 軍事レベルの対立	経済的対立が軍事的対立へと深化し、東西対立が固定化される過程を解説する。
	8	米ソ対立の深化と拡大（4） ／ アジアの“熱戦”〈前編〉	朝鮮戦争について解説する。
	9	米ソ対立の深化と拡大（5） ／ アジアの“熱戦”〈後編〉	前回到引き続き、朝鮮戦争について解説する。
	10	“雪解け”とその影響	ソ連の指導者の死去とそれが与えた国際的影響を解説する。
	11	ソ連の対西側積極攻勢とその影響	第2次ベルリン危機およびキューバ危機を中心に解説する。
	12	（第1次）冷戦の特徴および緊張緩和の時代	第1次冷戦の構造的特質の説明、および緊張緩和が到来した原因とその影響について解説する。
	13	新（第2次）冷戦	ソ連の核戦略の積極化とアメリカの対抗措置、それらに対する世界的な反核運動の展開、そしてソ連の指導者の交代と方針転換について解説する。
	14	冷戦構造の崩壊	ソ連の変革と東欧の民主化、そして東側陣営の崩壊について解説する。
	15	総括	講義のまとめ・講義終了時の認識度確認レポートの作成と提出・期末試験の説明

関連科目	政治学および国際関係に関連する科目
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	講義内で提出を求めるレポートなどの課題に対する評価（40%）および期末試験に対する評価（60%）の合計点によってこの科目全体の評価とする。
学生へのメッセージ	現在の国際社会の状況を理解する上で、必要不可欠の内容です。国際関係論の講義と合わせて受講するとより理解が深まると思います。
担当者の研究室等	11 号館 10 階 河原教授室
備考	課題については、講義の中で解説を行う。また、質問者に対しては、メールおよびSHの時間に対応する。 19 年度 合格率 78% （不受験率 4%） A0% B8% C20% D50% 平均 65 点 74 人登録

科目名	国際関係論	科目名 (英文)	International Relations
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	河原 匡見
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2068a0		

授業概要・目的	『国際関係論』という学問について、その基本的な考え方を習得し、激動する現代の国際関係（世界の動き）に対する理解力の向上を、本講の目的とする。講義内容は、国際関係の基礎概念の説明から始め、アクターがどのように行動するのか、現実主義的アプローチに基づいてその行動態様を中心に解説していく。そして、現実の国際関係がどのような構造で、何がどのような目的で活動しているのか、把握し理解できるよう『国際関係を見る眼』を養うような講義にしたい。																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、国際関係がどのように展開していくのか、その基本的なポイントについて理解できるようになるとともに、それらを踏まえて国際社会で生起しているさまざまな動きを観察できるようになることが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	授業は、対面式で実施する。毎回授業で、レジュメや資料などを配布するので、それを参考にしながら授業を聴講して理解を深めてもらう。また、必要に応じて板書を行うので、レジュメの余白などにメモ書きやノートをつけることをすすめる。																																																																		
科目学習の効果（資格）	国際関係を規定する要因などを学ぶことで、国際社会の動きを表面的だけでなくその本質を見抜く「眼」を養う。																																																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr><tr><td>1</td><td>ガイダンス、イントロダクション</td><td>講義内容の説明（進め方、評価方法など）、講義開始前の認識度確認レポートの作成と提出。</td><td>時事問題、特に国際関係の報道に目を向ける習慣をつけよう。（事後学習 1 時間）</td></tr><tr><td>2</td><td>国際関係論とはどのような学問か</td><td>定義、研究方法などについての解説</td><td>配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 2 時間）</td></tr><tr><td>3</td><td>国際関係における主要な行動主体〈アクター〉（1）</td><td>行動主体〈アクター〉とは？ 国際関係の行動主体としての“国家”についての説明</td><td>配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 1 時間）</td></tr><tr><td>4</td><td>国際関係における主要な行動主体〈アクター〉（2）</td><td>国家以外の主要な行動主体〈アクター〉についての説明（1）</td><td>配布したレジュメと資料で復習してください。（事後学習 1 時間）</td></tr><tr><td>5</td><td>国際関係における主要な行動主体〈アクター〉（3）</td><td>国家以外の主要な行動主体〈アクター〉についての説明（2）</td><td>配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 1 時間）</td></tr><tr><td>6</td><td>行動主体の行動原理</td><td>“国益”と行動目標についての説明</td><td>配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 1 時間）</td></tr><tr><td>7</td><td>行動主体の力の行使に関する概説（1）</td><td>国力とは何か？その内容についての説明</td><td>配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 1 時間）</td></tr><tr><td>8</td><td>行動主体の力の行使に関する概説（2）</td><td>力の行使の一般論および軍事的手段についての説明</td><td>配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 1 時間）</td></tr><tr><td>9</td><td>行動主体の力の行使に関する概説（3）</td><td>経済的手段についての説明</td><td>配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 1 時間）</td></tr><tr><td>10</td><td>行動主体の力の行使に関する概説（4）</td><td>宣伝的手段および文化的手段についての説明</td><td>配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 1 時間）</td></tr><tr><td>11</td><td>行動主体の力の行使に関する詳説（1） 経済制裁（前編）</td><td>経済制裁の種類、歴史的発展プロセスについての説明</td><td>配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 1 時間）</td></tr><tr><td>12</td><td>行動主体の力の行使に関する詳説（2） 経済制裁（後編）</td><td>経済制裁の効果を左右する要因についての説明</td><td>配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 2 時間）</td></tr><tr><td>13</td><td>行動主体の力の行使に関する詳説（3） 外交・外交交渉（前編）</td><td>外交の語義や形態の歴史についての説明</td><td>配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 1 時間）</td></tr><tr><td>14</td><td>行動主体の力の行使に関する詳説（4） 外交・外交交渉（後編）</td><td>外交交渉についての説明</td><td>配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 1 時間）</td></tr><tr><td>15</td><td>総括</td><td>講義のまとめ・講義終了時の認識度確認レポートの作成と提出・期末試験の説明</td><td>全 15 回の講義で配布したレジュメと資料を読み直してください。（事後学習 8 時間）</td></tr></table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス、イントロダクション	講義内容の説明（進め方、評価方法など）、講義開始前の認識度確認レポートの作成と提出。	時事問題、特に国際関係の報道に目を向ける習慣をつけよう。（事後学習 1 時間）	2	国際関係論とはどのような学問か	定義、研究方法などについての解説	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 2 時間）	3	国際関係における主要な行動主体〈アクター〉（1）	行動主体〈アクター〉とは？ 国際関係の行動主体としての“国家”についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 1 時間）	4	国際関係における主要な行動主体〈アクター〉（2）	国家以外の主要な行動主体〈アクター〉についての説明（1）	配布したレジュメと資料で復習してください。（事後学習 1 時間）	5	国際関係における主要な行動主体〈アクター〉（3）	国家以外の主要な行動主体〈アクター〉についての説明（2）	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 1 時間）	6	行動主体の行動原理	“国益”と行動目標についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 1 時間）	7	行動主体の力の行使に関する概説（1）	国力とは何か？その内容についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 1 時間）	8	行動主体の力の行使に関する概説（2）	力の行使の一般論および軍事的手段についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 1 時間）	9	行動主体の力の行使に関する概説（3）	経済的手段についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 1 時間）	10	行動主体の力の行使に関する概説（4）	宣伝的手段および文化的手段についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 1 時間）	11	行動主体の力の行使に関する詳説（1） 経済制裁（前編）	経済制裁の種類、歴史的発展プロセスについての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 1 時間）	12	行動主体の力の行使に関する詳説（2） 経済制裁（後編）	経済制裁の効果を左右する要因についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 2 時間）	13	行動主体の力の行使に関する詳説（3） 外交・外交交渉（前編）	外交の語義や形態の歴史についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 1 時間）	14	行動主体の力の行使に関する詳説（4） 外交・外交交渉（後編）	外交交渉についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 1 時間）	15	総括	講義のまとめ・講義終了時の認識度確認レポートの作成と提出・期末試験の説明	全 15 回の講義で配布したレジュメと資料を読み直してください。（事後学習 8 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス、イントロダクション	講義内容の説明（進め方、評価方法など）、講義開始前の認識度確認レポートの作成と提出。	時事問題、特に国際関係の報道に目を向ける習慣をつけよう。（事後学習 1 時間）																																																																
2	国際関係論とはどのような学問か	定義、研究方法などについての解説	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 2 時間）																																																																
3	国際関係における主要な行動主体〈アクター〉（1）	行動主体〈アクター〉とは？ 国際関係の行動主体としての“国家”についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 1 時間）																																																																
4	国際関係における主要な行動主体〈アクター〉（2）	国家以外の主要な行動主体〈アクター〉についての説明（1）	配布したレジュメと資料で復習してください。（事後学習 1 時間）																																																																
5	国際関係における主要な行動主体〈アクター〉（3）	国家以外の主要な行動主体〈アクター〉についての説明（2）	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 1 時間）																																																																
6	行動主体の行動原理	“国益”と行動目標についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 1 時間）																																																																
7	行動主体の力の行使に関する概説（1）	国力とは何か？その内容についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 1 時間）																																																																
8	行動主体の力の行使に関する概説（2）	力の行使の一般論および軍事的手段についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 1 時間）																																																																
9	行動主体の力の行使に関する概説（3）	経済的手段についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 1 時間）																																																																
10	行動主体の力の行使に関する概説（4）	宣伝的手段および文化的手段についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 1 時間）																																																																
11	行動主体の力の行使に関する詳説（1） 経済制裁（前編）	経済制裁の種類、歴史的発展プロセスについての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 1 時間）																																																																
12	行動主体の力の行使に関する詳説（2） 経済制裁（後編）	経済制裁の効果を左右する要因についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 2 時間）																																																																
13	行動主体の力の行使に関する詳説（3） 外交・外交交渉（前編）	外交の語義や形態の歴史についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 1 時間）																																																																
14	行動主体の力の行使に関する詳説（4） 外交・外交交渉（後編）	外交交渉についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 1 時間）																																																																
15	総括	講義のまとめ・講義終了時の認識度確認レポートの作成と提出・期末試験の説明	全 15 回の講義で配布したレジュメと資料を読み直してください。（事後学習 8 時間）																																																																
関連科目	政治・国際関係に関連する科目																																																																		
教科書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	講義内で提出を求めるレポートなどの課題に対する評価（40%）および期末試験に対する評価（60%）の合計点によってこの科目全体の評価とする。																																																																		
学生へのメッセージ	現代において、国際関係の動向が私たちの日常生活と密接に関連しています。それゆえ、複雑な国際情勢を的確に把握し読み解く能力が求められ、この科目の履修の必要性が高まっています。国際社会では、事前に予測困難なことが相次いで起きていますが、だからこそ、国際関係を見る眼をしっかりと養いましょう。																																																																		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 河原教授室																																																																		
備考	19 年度 合格率 97%（不受験率 5%） A0% B0% C17% D80% 平均 63 点 60 人登録																																																																		

科目名	グローバル社会論	科目名 (英文)	Global Society
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	河原 匡見
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3069a0		

授業概要・目的	いま国際社会において“グローバル化”が急速に進んでいる。その結果、さまざまな領域における世界的規模での相互依存の深化と競争の激化という現象が同時に進行している。そして、経済や文化などの領域での画一化が進む一方で地球規模の問題が起きており、「世界の一体化」を進展させているようにもみえるし、より「対立の深刻化」を引き起こしているようにもみえる。本講義では、現代の国際社会の変容を読み解く上で重要な“グローバル化”という現象の内容やそれがもたらす問題をさまざまな視点から解説していく。
到達目標	この授業を通じて学生には、グローバル化を迎えた現代世界の構造の政治経済的な要因を、欧米列強の植民地活動の歴史や南北問題の経緯から学ぶとともに、近年特に問題視されている人の移動の激化や、そのほかのグローバル化の具体的な現状を統計資料などによって学び、現代世界をより一層深く理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業は、対面式で実施する。毎回授業で、レジュメや資料などを配布するので、それを参考にしながら授業を聴講して理解を深めてもらう。また、必要に応じて板書を行うので、レジュメの余白などにメモ書きやノートをつけることをすすめる。
科目学習の効果（資格）	国際社会の現況およびその背景的要因を知ること、世界の動きをみる“眼”を養うとともに、問題解決への意識を育む。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス、イントロダクション	講義内容の説明（進め方、評価方法など）、講義開始前の認識度確認レポートの作成と提出	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。（事後学習 1 時間）
	2	“グローバル化”とは	基礎的な概念の説明	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 1 時間）
	3	グローバル化の経緯（1）	グローバル化を進めた“基層”の形成過程の説明（1）	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 1 時間）
	4	グローバル化の経緯（2）	グローバル化を進めた“基層”の形成過程の説明（2）	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 1 時間）
	5	グローバル化の経緯（3）	列強による植民地政策の展開とグローバル化の推進（1）	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料で復習してください。（事後学習 1 時間）
	6	グローバル化の経緯（4）	列強による植民地政策の展開とグローバル化の推進（2）	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 1 時間）
	7	戦後のグローバル化の展開（1）	国際分業の拡大・相互依存の浸透	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 1 時間）
	8	戦後のグローバル化の展開（2）	南北問題の顕在化と深刻化	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 1 時間）
	9	戦後のグローバル化の展開（3）	新自由主義の浸透とそれへの反発	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 1 時間）
	10	人のグローバル化（1）	第二次世界大戦までの人の移動の歴史を概観する	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 2 時間）
	11	人のグローバル化（2）	第 2 次世界大戦後の人の移動の歴史を概説する	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料で復習してください。（事後学習 2 時間）
	12	人のグローバル化（3）	深刻化する現代の移民・難民問題を概観する	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 2 時間）
	13	データでみるグローバル化の現状（1）	各種データによる解説	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 1 時間）
	14	データでみるグローバル化の現状（2）	各種データによる解説	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習 1 時間）
	15	総括	講義のまとめ・講義終了時の認識度確認レポートの作成と提出・期末試験の説明	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、全 1 5 回にわたって配布したレジュメと資料を読み直してください。（事後学習 8 時間）

関連科目	政治・国際関係に関連する科目
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	講義内で提出を求めるレポートなどの課題に対する評価 (40%) および期末試験に対する評価 (60%) の合計点によってこの科目全体の評価とする。
学生への メッセージ	ニュース報道を見る、新聞を読むなどを心がけて、私たちの住む世界の重要な動きに、ぜひ関心をもってほしいと思います。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階 河原教授室
備考	20 年度 合格率 97.1% (不受験率 2.9%) A47.1% B38.2% C8.8% D2.9% 平均 86 点 34 人登録

科目名	日本政治論	科目名 (英文)	The Lectures on Japanese Politics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1070a0		

授業概要・目的	この講義では、いまの政治・政策の大きな課題を取り上げ、テレビのニュース番組に関心を持って見られるようになることを目的とする。選挙で投票するにあたって、政治家や政党の訴えに対して自分の意見が持てるようになってほしいと考える。
到達目標	この講義を通じて学生には、週 1～2 回でもテレビのニュース番組を見て、「この問題、いまそうなっているのか」と思えるよう、前提となる知識を身につけることが期待される。そして、その問題について自分の意見を持てるようにする。
授業方法と留意点	ひとつの時事のテーマを講義 2 回で扱う。時事を扱うため、夏までの情勢を見たあとに授業計画を確定する。講義では、簡単なレジュメを配布し、ニュース映像や新聞記事を多用する。毎回、知識の確認や自分の意見を書く課題（オンラインフォーム）を課す。受講者とのやりとりを心がける。
科目学習の効果（資格）	公務員試験では、教養科目でも社会科学や政治の時事の知識が問われる。民間企業の採用試験でも、一般常識として、政治の仕組みの基礎や時事が問われる。職業社会人と会話をするうえで、政治や政策の話題についていく最低限の知識は不可欠である。この講義では、こういった知識や常識を身につける出発点を提供したい。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	いまの政治・政策の大きな課題に目をとおしてみる。	講義で扱う時事について、学生とやりとりをしながら、いまの政治・政策の大きな課題の概要を確認する。	講義で勧めるニュース番組を通して見てみる（約 1 時間）。
	2	日本の内閣はなぜ長続きしなかった？（1）	第二次安倍内閣以前、内閣が約 1 年しかもたなかった理由を探る。衆議院と参議院の「ねじれ」現象、内閣支持率の動き、無党派層の性格を解説する。	配布した新聞記事を読む。なぜ短命内閣となっていたのか自分の意見を整理して書く（約 1 時間）。
	3	日本の内閣はなぜ長続きしなかった？（2）	第二次安倍内閣以前、内閣が約 1 年しかもたなかった理由を探る。衆議院と参議院の「ねじれ」現象、内閣支持率の動き、無党派層の性格を解説する。	配布した新聞記事を読む。なぜ短命内閣となっていたのか自分の意見を整理して書く（約 1 時間）。
	4	安保法制、どう考える？（1）	2015 年、議論が紛糾した安保法制に考えるにあたって、自衛隊の創設から冷戦以降の自衛隊の役割の拡大の歴史を説明し、国際政治の文脈を意識してもらう。	配布した新聞記事を読む。自衛隊の役割の拡大に関する自分の意見を整理して書く（約 1 時間）。
	5	安保法制、どう考える？（2）	2015 年、議論が紛糾した安保法制に考えるにあたって、自衛隊の創設から冷戦以降の自衛隊の役割の拡大の歴史を説明し、国際政治の文脈を意識してもらう。	配布した新聞記事を読む。自衛隊の役割の拡大に関する自分の意見を整理して書く（約 1 時間）。
	6	消費税を上げるのに賛成？（1）	2019 年 10 月に 10%へ増税された消費税を扱う。日本の借金残高や、借金が増えてきた経緯を説明し、消費税導入と増税の背景を理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。消費税増税に賛成するか、反対するか、自分の意見を整理して書く（約 1 時間）。
	7	消費税を上げるのに賛成？（2）	2019 年 10 月に 10%へ増税された消費税を扱う。日本の借金残高や、借金が増えてきた経緯を説明し、消費税導入と増税の背景を理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。消費税増税に賛成するか、反対するか、自分の意見を整理して書く（約 1 時間）。
	8	尖閣諸島・竹島にこだわる？（1）	近年、日中間、日韓間で争いの種となっている領土問題を取り上げる。歴史の経緯を簡単に整理したうえで、国有化、大統領の上陸などをめぐって、どのような言い争いの構図になっているか説明する。	配布した新聞記事を読む。尖閣諸島・竹島問題に関する自分の意見を整理して書く（約 1 時間）。
	9	尖閣諸島・竹島にこだわる？（2）	近年、日中間、日韓間で争いの種となっている領土問題を取り上げる。歴史の経緯を簡単に整理したうえで、国有化、大統領の上陸などをめぐって、どのような言い争いの構図になっているか説明する。	配布した新聞記事を読む。尖閣諸島・竹島問題に関する自分の意見を整理して書く（約 1 時間）。
	10	日本は TPP のなかでいかに経済を持続的に発展させていくべきかと思う？（1）	原則、関税を撤廃する TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）をめぐる動向や議論を説明する。輸出国である日本にとってのメリット、食品の安全や小規模農業への影響の懸念など、TPP と生活の結びつきを理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。日本が TPP に参加すべきかどうか、自分の意見を整理して書く（約 1 時間）。
	11	日本は TPP のなかでいかに経済を持続的に発展させていくべきかと思う？（2）	原則、関税を撤廃する TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）をめぐる動向や議論を説明する。輸出国である日本にとってのメリット、食品の安全や小規模農業への影響の懸念など、TPP と生活の結びつきを理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。日本が TPP に参加すべきかどうか、自分の意見を整理して書く（約 1 時間）。
	12	原発存続に賛成する？反対する？（1）	特に東日本大震災後、存続・廃止をめぐる議論が行われている原発の問題を扱う。原発の仕組みやリスクを説明したうえで、日本における原発開発の背景と、原発をめぐる資金の流れの意味を考えてもらう。	配布した新聞記事を読む。原発を維持すべきか、廃止すべきか、自分の意見を整理して書く（約 1 時間）。
	13	原発存続に賛成する？反対する？（2）	特に東日本大震災後、存続・廃止をめぐる議論が行われている原発の問題を扱う。原発の仕組みやリスクを説明した	配布した新聞記事を読む。原発を維持すべきか、廃止すべきか、自分の意見を整理して書く（約 1 時間）。

			うえて、日本における原発開発の背景と、原発をめぐる資金の流れの意味を考えてもらう。	
	14	大阪都構想をどう見る？ (1)	地元大阪の政治動向を説明する。特に、既得権益の打破、有権者が決める政治を訴えて勢力を得た維新と、その主張の核となった大阪都構想について解説する。	配布した新聞記事を読む。大阪都構想に対する自分の意見を整理して書く（約1時間）。
	15	大阪都構想をどう見る？ (2)	地元大阪の政治動向を説明する。特に、既得権益の打破、有権者が決める政治を訴えて勢力を得た維新と、その主張の核となった大阪都構想について解説する。	配布した新聞記事を読む。大阪都構想に対する自分の意見を整理して書く（約1時間）。
関連科目	「政治」「政策」「行政」「地方自治」と名のつく講義につながる基礎科目である。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	期末課題(70%)、講義毎回の課題(30%)の合計によって評価する。			
学生への メッセージ	どんな仕事に就いても、政治や政策の問題は避けられません。領土をめぐる中国や韓国との争いが厳しくなったり、国の借金が増え円高になり輸出に不利になったりすれば、よい製品も売れなくなります。加えて、電力の安定的な確保は、生活と仕事の最も基礎にある問題です。自分と家族を守るために、毎日の政治・政策のニュースに関心が持てるようになってほしいと考えて、講義をしていきます。			
担当者の 研究室等	11号館9階 中沼教授室			
備考	講義毎回の課題正解の提示などはTeamsを通じて行う。 23年度 期末課題提出者中合格率94%（登録者では84%） A8% B25% C36% D25% 平均75点 327人登録			

科目名	政治過程論	科目名 (英文)	Political Process
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2072a0		

授業概要・目的	人間が集団で生活している限り、法や条例、公共事業の影響を避けて生きることはできません。それらを決定するのが政治であり、18 歳になって選挙権を与えられた学生の皆さんはそうした政策決定過程のなかに組み込まれ、またその影響を受けながら日々の生活を送っています。この授業では、有権者である学生の皆さんに、権力行使・選挙・政党・マスメディア・議会などさまざまな政策決定過程についての基本的な知識を与えることを大きな目的にしています。それによって皆さんは、政治参加するさいに必要な不可欠な論理的思考力・判断力・表現力を身につけることができます。また時間があれば、学生の皆さんが最近のニュースを理解できるように、政治・社会に関わる時事問題についても紹介、解説することもあります。
到達目標	この授業を通じて学生の皆さんは、政治過程のアクターやシステムについて基本的な知識・教養を獲得することが期待されます。またそうした知識・教養に基づき、実際の政治活動において①正しい政治的配分や法とは何かを思考することができ、②支持すべきより正しい政治的アクターや政策・法を判断することができ、③投票など政治活動を通じて自分の政治的意見を正しく表現することができることが期待されます。
授業方法と留意点	レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーにある政治問題について自問自答・議論した上で自分の意見を論理的に書いてもらったり、小テストに答えてもらったりすることもあります。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や就職活動において、政治過程論の知識・教養が一般常識として問われる場合があります。また一主権者として実際に政治活動するときには、そうした知識・教養について知っておく必要があります。そうした状況に上手く対応するために、世界の政治について正しい知識・教養を獲得し、個々の具体的な政策・法のメリット・デメリットを正しく判断し、最終的に自分の意見を政治活動を通じて正しく表現することができます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション～政治過程とは何か？	イントロダクションとして、講義の内容と政治過程の現代的意義について授業します。	事前学習：政治・政治参加について文献を収集し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）
	2	権力の行使①～権力とは何か？	政策が決定されるプロセスで行使される権力について、身近な例を挙げて考えます。	事前学習：教科書の該当箇所（第一章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	3	権力の行使②～正当な権力とは何か？	マックス・ウェーバーの権力観を中心に、現代の国家で行使される権力の特徴について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第一章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	4	世論と政治文化	リップマンやガセットらの大衆社会論を参照しつつ、世論やポピュリズム、政治文化について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第四章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	5	投票行動	世論を形成する有権者の投票行動がどのように研究されてきたのかについて授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第五章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	6	現代のマスメディア	マスメディアの役割とさまざまな効果について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第五章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	7	政党と政党制	政党の機能と政党制の分類について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第八章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	8	選挙	衆議院と参議院の選挙制度、一票の格差、中選挙区制から小選挙区比例代表並立制への移行などについて授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第六章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	9	国会	国会の機能と役割について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第九章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	10	議院内閣制と大統領制	日本とアメリカの政治システムの違いについて授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第十二章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	11	内閣①～内閣のしくみ	日本の内閣制度について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第十二章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。

	12	内閣②～今世紀の行政改革	今世紀の内閣の権限強化について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第十二章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。																
	13	リーダーシップ	リーダーシップの特徴とその機能、効果について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第十二章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。																
	14	官僚制	日本の官僚制の特徴について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第十章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。																
	15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	事前学習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。テストに向けて教科書やノート、レジュメを読み直す（時間の許す限り）。																
関連科目	中学・高校の公民など。大学の政治学原論、日本の政治など。																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>政治過程論</td><td>伊藤光利・田中愛治・真淵勝</td><td>有斐閣アルマ</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	政治過程論	伊藤光利・田中愛治・真淵勝	有斐閣アルマ	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	政治過程論	伊藤光利・田中愛治・真淵勝	有斐閣アルマ																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>政治学</td><td>川出良枝・谷口将紀編</td><td>東京大学出版会</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	政治学	川出良枝・谷口将紀編	東京大学出版会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	政治学	川出良枝・谷口将紀編	東京大学出版会																	
2																				
3																				
評価方法 （基準）	レポート（50％）と授業中ないし授業後に行う小テスト（50％）で評価します。																			
学生への メッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、現代の政治についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。																			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館 10 階 和田研究室																			
備考																				

科目名	公共政策の基礎	科目名（英文）	Public Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	増田 知也
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2073a0		

授業概要・目的	公共政策とは、公共的な問題を解決するための方策と具体的手段の体系を意味する。社会の中には多種多様な問題が存在するが、その中でも社会が取り組むべきと考えられる公共的な問題に対応するのが公共政策である。この授業では、公共政策がなぜ必要とされるか、公共政策はどのようなプロセスで作られ、決定され、実施され、評価されるか、社会の中の様々な主体が公共政策においてどのような役割を果たしているか、公共政策をめぐる論点にはどのようなものがあるか、などの点について学ぶ。
到達目標	この授業を通じて学生には、公共政策に関する重要な概念や理論について説明することができ、社会における問題を発見・分析することができ、公共政策をめぐる主要な課題について自分の意見を述べるができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	毎回冒頭に、前回の小テストの解説と質問への応答を行う。 その後、穴埋め式のレジュメを配布し、スライドを提示しながら解説を行う。 授業後、オンラインで小テストを実施してもらう。

科目学習の 効果（資格）	
-----------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	公共政策とは何か	公共政策という言葉の意味と、公共政策学の特徴について学ぶ。	事前：参考書による予習（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）
	2	市場の失敗と政府の失敗	公共政策の必要性と、公共財について学ぶ。	事前：参考書による予習（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）
	3	政策過程	問題発見から政策実施、政策評価に至るプロセスについて学ぶ。	事前：参考書による予習（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）
	4	アジェンダ設定	アジェンダ（課題）設定の理論について学ぶ。	事前：参考書による予習（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）
	5	政策問題の構造化	問題構造化の手法について学ぶ。	事前：参考書による予習（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）
	6	公共政策の手段	政策手段の種類や考え方について学ぶ。	事前：参考書による予習（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）
	7	規範的判断	公共政策における価値観の問題について学ぶ。	事前：参考書による予習（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）
	8	政策決定と合理性	合理的意思決定の試みと限界について学ぶ。	事前：参考書による予習（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）
	9	政策決定と利益	政策決定過程における利益の調整について学ぶ。	事前：参考書による予習（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）
	10	政策決定と制度	政策決定過程に制度が及ぼす影響について学ぶ。	事前：参考書による予習（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）
	11	政策決定とアイデア	政策決定においてアイデア（理念）が果たす役割について学ぶ。	事前：参考書による予習（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）
	12	公共政策の実施	政策実施の位置づけと実態について学ぶ。	事前：参考書による予習（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）
	13	公共政策の評価	政策評価の方法と評価方法をめぐる議論について学ぶ。	事前：参考書による予習（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）
	14	公共政策管理のシステム	ガバナンスの考え方について学ぶ。	事前：参考書による予習（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）
	15	公共政策の展望	授業全体を振り返り、公共政策の今後のあり方を展望する。	事前：参考書による予習（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門・公共政策学	秋吉貴雄	中央公論新社
	2	公共政策学の基礎	秋吉 貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉	有斐閣
	3			

評価方法（基準）	小テスト 50%、期末レポート 50%
----------	---------------------

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等備考	11 号館 10 階 増田講師室
------------	------------------

科目名	行政学	科目名 (英文)	Public Administration
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2074a0		

授業概要・目的	民主主義の国家の憲法は、議会が法律をつくると定めている。しかし現代においては、法律に反映されるべき政策は行政なくしては立案も決定もできない。しかも、行政府の官僚が大きな影響力を持っている。そこでこの講義では、まず議会と行政、政治家と官僚の関係を明らかにしたうえで、日本の行政組織のあり方を確認し、国の秩序の柱となる産業政策について日本の戦後政策の特徴を理解する。
到達目標	この授業を通じて学生には、民主主義の現代社会において、国民による選挙で選ばれた存在ではない官僚がどれくらい大きな力を持っているのか、逆に国民の世論が官僚の行動にどのように影響を与えているのか説明できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義の目的は具体的な事例を解釈することにある。それには(1)理論と知識を学び、(2)事例を理解し、(3)理論や知識で事例の意味を考えるという3段階が必要になる。
科目学習の効果 (資格)	講義は大学にふさわしいものとするが、公務員試験で問われる知識に関しては注意を促すので、志望者は積極的に受講してほしい。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	映画『13 デイズ』に見る政治と行政(1)	キューバ危機をめぐるアメリカ政府の動きを見て、政策決定における政治家と官僚の関係を考える。	レジュメ p.1 を見直す 『13 デイズ』の視聴 (約 1.5 時間)
	2	映画『13 デイズ』に見る政治と行政(2)	第 1 回の続き。	レジュメ p.2 を見直す 『13 デイズ』の視聴 (約 1.5 時間)
	3	1930 年代アメリカの映像に見る政治と行政	アメリカのニューディール政策の光景を見て、政策決定における行政の役割が拡大・深化した理由を探る。	レジュメ p.3 を見直す (約 1 時間)
	4	行政国家と政治行政融合論	現代国家が「行政国家」と呼ばれる理由と、行政国家の現実を説明する政治行政融合論を学ぶ。	レジュメ p.4-5 を見直す (約 1 時間)
	5	ふたりの米大統領の言葉から考える政治と行政	ふたりの米大統領の対照的な言葉を読み、行政が素人仕事から政策の専門職になった背景を知る。	レジュメ p.6 を見直す (約 1 時間)
	6	メリットシステムと政治行政二分論	専門家としての官僚を採用するメリットシステムと、その理論的根拠となった政治行政二分論を学ぶ。	レジュメ p.7 を見直す (約 1 時間)
	7	行政組織を見る視点	行政組織を見る上で基本となる「ラインとスタッフ」「独任制と合議制」の区別をできるようにする。	レジュメ p.8 のを見直す (約 1 時間)
	8	日本の中央行政機構(1)	内閣を中心とする日本の行政機構全体の組織を把握する。	レジュメ p.9-10 を見直す 行政組織法の整理 (約 1.5 時間)
	9	日本の中央行政機構(2)	政治家たる大臣をトップとし、官僚がほとんどの職を占める各省の組織を把握する。	レジュメ p.11 を見直す 行政組織法の整理 (約 1.5 時間)
	10	産業政策としての護送船団方式	産業育成を目的とした日本の省庁による「護送船団方式」と呼ばれる戦後の産業政策の構造を知る。	レジュメ p.12-13 を見直す (約 1 時間)
	11	護送船団方式の実際と批判	医薬品販売や携帯電話メーカーの業界における護送船団方式の実際とそれへの批判を把握する。	レジュメ p.12-13 を見直す 新聞記事資料の確認 (約 1.5 時間)
	12	護送船団方式以後の産業政策	英会話教室の業界を例に挙げて、近年の産業政策が消費者重視に移行しつつある背景を探る。	レジュメ p.13-14 を見直す 新聞記事資料の確認 (約 1.5 時間)
	13	トラック運送業界に見る護送船団方式とその崩壊	「宅急便」が風穴をあけたトラック運送業界のケースを見てみる。	レジュメ p.14-15 を見直す 読物資料の確認 (約 1.5 時間)
	14	業界との関係と行政組織の変化	業界との関係の基本方針によって行政組織のあり方がどう変化するのか知る。	レジュメ p.16 を見直す (約 1 時間)
	15	金融庁設立に見る業界監督官庁の変化	金融業界を所管する省庁が大蔵省から金融監督庁を経て金融庁となった背景を見てみる。	レジュメ p.17 を見直す 新聞記事資料の確認 期末試験の対策 (約 3 時間)

関連科目	「公共政策の基礎」の発展科目である。
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点（毎回の課題の点数の累積、30％）と期末課題の点数（70％）の合計によって評価する。
-----------	---

学生への メッセージ	中身の濃い授業をコンパクトに進めます。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階 中沼教授室
備考	講義毎回の課題正解の提示は Teams を通じて行う。 22 年度 期末課題提出者中合格率 92%（登録者では 88%） A19% B40% C23% D10% 平均 80 点 214 人登録 *23 年度の数値は集計中につき初回に示す。

科目名	地方自治論	科目名 (英文)	Local Self-Government
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	増田 知也
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3076a0		

授業概要・目的	授業の前半では、市町村合併を題材に地方自治の理念と制度の変遷を学ぶ。授業の後半では、自治体広報を題材に住民自治の実現に必要な要素を探る。「地方自治は民主主義の学校」と言われるように、地方自治は国全体の民主主義を支える基盤となるものである。この講義を通じて、単に知識を身につけるだけでなく、地方の政治や行政に関心を持ち、積極的に関わっていくきっかけとなることを期待する。
到達目標	この授業を通じて学生には、地方自治についての重要概念や理論について説明することができ、地方自治の主要な課題について住民自治の視点から分析することができ、地方自治の主要な課題について自分の意見を述べるができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	毎回冒頭に、前回の小テストの解説と質問への応答を行う。 その後、穴埋め式のレジュメを配布し、スライドを提示しながら解説を行う。 授業後、オンラインで小テストを実施する。
科目学習の効果 (資格)	地方公務員を目指す受講生にとって、身につけておくべき知識を学ぶことができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	地方自治の理念と制度	憲法における地方自治、地方自治法、補完性の原理について学ぶ。	事前：教科書第1章第1節を読む (2時間) 事後：小テストの内容について復習する (2時間)
	2	行政区画再編の歴史	現代に至るまでの行政区画再編の歴史を概観する。	事前：教科書第1章第2節を読む (2時間) 事後：小テストの内容について復習する (2時間)
	3	顧客主義か住民自治か	住民について「人口」、「行政サービスの受け手」、「自治を担う地域の主体」の3つの捉え方を比較する。	事前：教科書第1章第3節を読む (2時間) 事後：小テストの内容について復習する (2時間)
	4	適正規模の理論	適正規模の捉え方や決定要因について検討する。	事前：教科書第2章を読む (2時間) 事後：小テストの内容について復習する (2時間)
	5	スケールメリット論の検証	財政効率を主眼においた適正規模論の概要と問題点を考える。	事前：教科書第3章を読む (2時間) 事後：小テストの内容について復習する (2時間)
	6	適正規模論への新視点	人口と歳出額の関係から、市町村合併による財政面での効果について検討する。	事前：教科書第4～6章を予習 (2時間) 事後：小テストの内容について復習する (2時間)
	7	迷惑施設問題と自治	迷惑施設問題を分析するための概念について学ぶ。	事前：事前に配布した文献を読む (2時間) 事後：小テストの内容について復習する (2時間)
	8	住民運動と公共性	住民運動の意義と、対立が生じる原因について学ぶ。	事前：事前に配布した文献を読む (2時間) 事後：小テストの内容について復習する (2時間)
	9	お知らせ広報と政策広報	お知らせ広報としての自治体広報の問題点と、改革の方向性について考える。	事前：事前に配布した文献を読む (2時間) 事後：小テストの内容について復習する (2時間)
	10	住民自治の広報理論	住民自治の視点からの広報理論について学ぶ。	事前：事前に配布した文献を読む (2時間) 事後：小テストの内容について復習する (2時間)
	11	広報・広聴と政治性	パブリック・リレーションズ概念を手がかりに、広報の類型化を行う。	事前：事前に配布した文献を読む (2時間) 事後：小テストの内容について復習する (2時間)
	12	問題提起型広報の意義	問題提起型広報の事例を取り上げ、その特徴と実現への課題について学ぶ。	事前：事前に配布した文献を読む (2時間) 事後：小テストの内容について復習する (2時間)
	13	問題提起型広報の効果	問題提起型広報が住民自治を促す効果について検討する。	事前：事前に配布した文献を読む (2時間) 事後：小テストの内容について復習する (2時間)
	14	住民参加と協働	住民参加と協働の意義について学ぶ。	事前：事前に配布した文献を読む (2時間) 事後：小テストの内容について復習する (2時間)
	15	住民自治の意義	全体を振り返りつつ、住民を主体とした地方自治について考察する。	事前：これまでのレジュメと小テストを復習する (4時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	平成の大合併と財政効率	増田知也	金壽堂出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テスト 50%、期末レポート 50%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 10 階 増田准教授室
備考	

科目名	住民協働論	科目名 (英文)	Residents Cooperative Theory
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	増田 知也
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3078a0		

授業概要・目的	協働とは、行政・企業・NPO などが、共通の目的に向かって対等の立場で協力して活動することを意味する。行政だけが公共を担うという従来の考え方から、さまざまな主体がネットワーク化されることで公共を担っていくという考え方への変化が起こっている。この授業では、協働の担い手となる人（地域公共人材）に着目しながら、どのようにして協働型社会を形成すれば良いかを様々な面から検討する。
到達目標	この授業を通じて学生には、協働概念を理解するのに必要な概念について説明することができ、文献の要点をまとめ、分かりやすく発表することができ、地域の問題を自分の問題として考え、意見を持つことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	ABD（Active Book Dialogue）の手法を用いて、グループごとに分担して文献を要約し、発表し合う。 その後、穴埋め式のレジュメを配布し、解説を行う。 授業後に小テストを実施し、次の回の冒頭に解説と質問への回答を行う。
科目学習の効果（資格）	住民としての行政との向き合い方、自治体職員としての住民との向き合い方を学ぶことができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	地域における人の力	協働における人材の重要性について、基本となる考え方を学ぶ。	事前:『地域公共人材をつくる』序章を読む（2 時間） 事後:小テストの内容について復習する（2 時間）
	2	協働型社会の理論	協働型社会についての理論を学ぶ。	事前:『地域公共人材をつくる』第 1 章を読む（2 時間） 事後:小テストの内容について復習する（2 時間）
	3	地域公共人材の意味	京都府における地域公共人材育成の事例から、協働のための人材育成の意味を考察する。	事前:『地域公共人材をつくる』第 2 章を読む（2 時間） 事後:小テストの内容について復習する（2 時間）
	4	協働と地域公共人材	協働のための人材育成において、大学が果たす役割を考察する。	事前:『地域公共人材をつくる』第 3 章を読む（2 時間） 事後:小テストの内容について復習する（2 時間）
	5	もやい直しと協働	熊本県水俣市を事例に、行政と市民が担うべき役割について考察する。	事前:『地域公共人材をつくる』第 4 章と第 7 章を読む（2 時間） 事後:小テストの内容について復習する（2 時間）
	6	協働の担い手としての子どもたち	滋賀県米原市を事例に、子どもの権利と社会参加について学ぶ。熊本県水川町宮原を事例に、子どもたちや大学生が地域活動を担うことの意味を考察する。	事前:『地域公共人材をつくる』第 5 章と第 6 章を読む（2 時間） 事後:小テストの内容について復習する（2 時間）
	7	NPO と協働	兵庫県芦屋市と愛知県田原市を事例に、NPO が人材育成に果たす役割について考察する。	事前:『地域公共人材をつくる』第 8 章と第 9 章を読む（2 時間） 事後:小テストの内容について復習する（2 時間）
	8	市民と企業、市民と議会の協働	京都府京都市を事例に、ソーシャルビジネスの可能性について考察する。北海道登別市を事例に、市民と議会の協働の可能性について考察する。	事前:『地域公共人材をつくる』第 10 章と第 13 章を読む（2 時間） 事後:小テストの内容について復習する（2 時間）
	9	住民運動と市民活動	奈良県葛城市を事例に、住民と行政の対立を協働へと発展させる方法について考察する。広島県福山市鞆町を事例に、市民活動が果たす役割について考察する。	事前:『地域公共人材をつくる』第 11 章と第 12 章を読む（2 時間） 事後:小テストの内容について復習する（2 時間）
	10	協働と地域公共人材の展望	京都府丹波・丹後地域を事例に、協働の担い手となる地域リーダーの育成方法について考察する。授業全体を振り返りつつ、今後の協働と人材育成のあり方を展望する。	事前:『地域公共人材をつくる』第 14 章と終章を読む（2 時間） 事後:小テストの内容について復習する（2 時間）
	11	住民の権利と責任	憲法や地方自治法における住民の位置づけについて学ぶ。	事前:『地方自治と民主主義』第 6 章を読む（2 時間） 事後:小テストの内容について復習する（2 時間）
	12	住民意識の変化と自治行政	住民の受益者化について学ぶ。	事前:『地方自治と民主主義』第 7 章を読む（2 時間） 事後:小テストの内容について復習する（2 時間）
	13	住民運動の衝撃	住民運動の特色について学ぶ。	事前:『地方自治と民主主義』第 8 章を読む（2 時間） 事後:小テストの内容について復習する（2 時間）
	14	住民参加への取り組み	住民参加の意義と課題について学ぶ。	事前:『地方自治と民主主義』第 9 章を読む（2 時間） 事後:小テストの内容について復習する（2 時間）
	15	対立から協働へ	行政と住民の対立関係を協働関係に変えるための方法について考察する。	事前:論文「行政広報は『お知らせ』以上のものになれるか?」を読む（2 時間） 事後:小テストの内容について復習する（2 時間）

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地域公共人材をつくる	今川晃・梅原豊	法律文化社
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テスト 50%、期末レポート 50%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	11 号館 10 階 増田准教授室
備考	

科目名	地方財政論	科目名（英文）	Local Public Finance
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3083a0		

授業概要・目的	「地方でできることは地方へ」という分権化時代において、権限を委ねられる地方自治体には、法務能力と政策立案能力の双方の強化が必要になってきている。この講義では、地方自治体の財政状況から地域政策の問題点を探り、問題を生み出した構造とその改革策を理解する。
到達目標	この授業を通じて学生には次のことが期待される。①地方自治体の決算カードを見て、財務指標を計算する。②その指標から、どれくらいの政策の自由度が地方自治体に現実にあるのか判断する。③自由度の小ささは、どのような経緯によるものか理解する。④今後、自由度を広げていくには、地方と国にどのような努力が必要か考える。
授業方法と留意点	公共政策に関する基礎知識を前提に、地方財政の知識を身につけながら地域政策の現状を明らかにする。大学らしい発展科目にする考えなので、受講者には高い意識が求められる。
科目学習の効果（資格）	公務員試験で出題される行政学の一部をカバーする。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ドラマ『再生の町』に見る地方行政の危機	大阪の市役所をモデルにして作られたドラマを見て、自治体の財政危機の様子をイメージする。	ドラマ『再生の町』の視聴（約 1 時間）
	2	自治体の財政危機と地域政策 (1)	自治体財政の基本的な仕組みを理解し、財政状況から地域政策の現状を知る意義を確認する。	レジュメ p. 1-2 を見直す（約 1 時間）
	3	自治体の財政危機と地域政策 (2)	大阪府の市町村の実データを使って、財政状況をはかる指標の数値を算出できるようにする。	レジュメ p. 3 を見直す 決算カードの確認 （約 1.5 時間）
	4	自治体の財政危機と地域政策 (3)	大阪府の市町村の実データを使って、借金の累積と財政への影響を把握できるようにする。	レジュメ p. 4 を見直す 決算カードの確認 （約 1.5 時間）
	5	地方債の増加と建設政策 (1)	地方債制度の基本を理解し、自治体が借金をして建設政策を展開する意味を知る。	レジュメ p. 5-6 を見直す（約 1 時間）
	6	地方債の増加と建設政策 (2)	昭和 40 年代後半から昭和 50 年代前半まで公共事業を拡大させた補助金交付の実態を確認する。	レジュメ p. 6-7 を見直す 行政投資関連資料の確認 （約 1.5 時間）
	7	地方債の増加と建設政策 (3)	地方交付税について、自治体間で一般財源の均衡を図る機能と、国が自治体の政策を誘導する機能を確認する。	レジュメ p. 7-8 を見直す（約 1 時間）
	8	地方債の増加と建設政策 (4)	昭和 61 年頃から平成 7 年頃にかけて公共事業を拡大させた地方交付税措置という仕組みを理解する。	レジュメ p. 8 を見直す 地方交付税・公債関連資料の確認 （約 1.5 時間）
	9	地方財政健全化比率 (1)	地方財政健全化法によって導入された、自治体の「本体」以外の会計の現状を明らかにする指標を知る。	レジュメ p. 9 を見直す 新聞記事資料の確認 （約 1.5 時間）
	10	地方財政健全化比率 (2)	近畿の市町村の実データを使って、健全化比率で自治体の財政状況を把握できるようにする。	レジュメ p. 10 を見直す 健全化比率関連資料の確認 （約 1.5 時間）
	11	土地開発公社	公共事業拡大の前提にあった公有地の取得について、土地開発公社が果たした役割と抱えた負債の問題の重さを考える。	レジュメ p. 11-12 を見直す 新聞記事資料の確認 （約 1.5 時間）
	12	第三セクター	ビルやリゾートの開発のために自治体が第三セクターを設立した背景と、多くの第三セクターが破綻に至った経緯を知る。	レジュメ p. 13-14 を見直す 新聞記事資料の確認 （約 1.5 時間）
	13	公営企業	下水道・交通・病院事業などを行う自治体の公営企業について、赤字につながる問題と改革の限界を理解する。	レジュメ p. 15-16 を見直す 新聞記事資料の確認 （約 1.5 時間）
	14	「事業仕分け」の改革	事業の必要性を問い直す「事業仕分け」の改革について、その方法と結果を確認する。	レジュメ p. 17-18 を見直す 新聞記事資料の確認 （約 1.5 時間）
	15	「協働」の改革	市民の行政依存、行政の自己完結を問い直す「協働」の改革について、その背景と動向を知る。	レジュメ p. 19-20 を見直す 新聞記事資料の確認 （約 1.5 時間）

関連科目	「公共政策の基礎」「行政学」「地方自治論」
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点（毎回の課題ペーパーの点数の累積、30％）と期末課題の点数（70％）の合計によって評価する。
学生への メッセージ	政策系の最後の科目として高いレベルで講義を展開します。特に地方公務員として地域政策をリードすることになる人が真剣に勉強する場にした いと思います。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階 中沼教授室
備考	講義毎回の課題正解は、Teams で公開します。 22 年度 期末課題提出者中合格率 84%（登録者では 71%） A6% B36% C24% D18% 平均 74 点 64 人登録 *23 年度（までは後期開講）の 数値は集計中につき初回に示す。

科目名	法情報学	科目名 (英文)	Law and Computer
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	家本 真実
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2084a0		

授業概要・目的	法学部生として学ぶにあたって、上級生になればなるほど、判例や法令といった、法律・政治関係の資料を参照する機会が増えてきます。そこでこの講義では、法律・政治関係の資料として有用なものはどういったものか、またそれらをどこで入手することができるのかを、資料の実物を見たり、実際に作業をしてもらいながら皆さんに学んでいただきたいと思います。同時に、法情報を利用してレポートなどを作成するにあたって必要な知識とスキルを得ていただけるようにします。
到達目標	この授業を通じて、学生の皆さんには、法学部で学ぶにあたって必要となる法情報を、信頼できる情報源から得て活用するスキルを習得することが期待されます。
授業方法と留意点	毎回、こちらから配布するレジュメに沿って講義をおこなう部分と、それらの説明に基づいて受講生の皆さんが実際に作業をしていただく部分とが混在します。毎回の授業で得る知識や習得する作業が、次の授業につながっていくこととなりますので、遅刻や欠席されないことを強くお勧めします。
科目学習の効果 (資格)	法学部で学ぶにあたって必要な法情報を検索し、活用することのできるスキルを身につけることができます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	はじめに 法情報とはどのようなものか	法情報はどこにどのようなかたちで存在しているのかを学ぶ。	授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2 時間)
	2	法令の調べ方 (1)	法令とはどのようなものか、またどこに掲載されているのかを学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5 時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
	3	法令の調べ方 (2)	法律案や地自治体の法令とはどのようなものか、またどこに掲載されているのかを学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5 時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
	4	判例の調べ方 (1)	判例とはどのようなものか、過去の判決文を見ながら学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5 時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
	5	判例の調べ方 (2)	判例を収録している印刷物やデータベースの使用法、また判例批判とはどのようなものかについて学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5 時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
	6	二次資料の調べ方 (1)	二次資料とはどのようなものか、またどこに掲載されているのかを学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5 時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
	7	二次資料の調べ方 (2)	二次資料を収録している印刷物やデータベースについて、またそれらの使用法について学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5 時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
	8	資料の引用の仕方	正しく引用する方法と、文書作成ソフト (アプリ) の関連機能について学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5 時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
	9	外国の法情報の調べ方	外国の法情報とはどのようなものかについて学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5 時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
	10	登記簿の見方 (1)	不動産登記とはどのようなものか、また登記簿はどこで閲覧できるのかを学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5 時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
	11	登記簿の見方 (2)	商業登記など不動産以外の登記とはどのようなものかについて学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5 時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
	12	戸籍の見方	戸籍とはどのようなものか、またその見方について学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5 時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
	13	法学に役立つ様々な情報源	法学に役立つ情報としてどのようなものがあるか、またどこから収集すべきかについて学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5 時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
	14	具体的事例におけるリーガル・リサーチ (1)	具体的事例において、どのようにリーガル・リサーチをおこなうべきかについて学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5 時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
	15	具体的事例におけるリーガル・リサーチ (2) おわりに	仮のミニレポートを、これまでに学んだ技術を使用して作成することで、リーガル・リサーチの方法を学ぶ。	全講義を通して疑問や不明点がないか確認したうえで講義に臨むこと。(3 時間) 講義終了後、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(3 時間)

関連科目	法学部開講の法律・政治系の専門科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義内で課す課題（確認テスト、ペーパーなど）への取り組みを 50%程度、学期末試験の成績を 50%程度の割合で、最終的な評価をおこないます。 遅刻および欠席は、1 度でも、単位の取得から遠のくこととなりますので、ご注意ください。			
学生への メッセージ	授業中は不要な私語を慎んでください。講義内容は、講義の進行具合に応じて変更する場合があります。			
担当者の 研究室等	11 号館 9 階 家本准教授室			
備考				

科目名	裁判制度特別講義	科目名 (英文)	Special Lecture on Judicial System
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	家本 真実
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3085a0		

授業概要・目的	法学部で学んでいるとしても、司法というのは遠くにあるもの、というイメージをもつ学生の皆さんも多いと思います。一方で 2009 年に、日本でも司法制度に一般の市民が参加する裁判員制度が導入されました。現在では 18 歳以上の日本国籍を持つ人であれば、裁判員として刑事裁判に、つまり司法制度に積極的に参加する可能性があることになります。 そこで、この授業では、裁判員制度そのものについてはもちろん、関連する刑事裁判の手続きや、外国でおこなわれている市民の司法への参加制度をあわせて学んでいただくことで、広く司法制度のあり方やそこに市民が参加する意義について考えていただきたいと思います。
到達目標	この授業を通じて、学生の皆さんには、裁判員制度について理解していただくとともに、市民の司法参加のあり方や司法制度について考えることができる知識を得ていただくことが期待されます。
授業方法と留意点	この授業では、日本の裁判員制度について理解していただくにあたって、様々な視点からアプローチします。そのなかでは、単に教員から講義をおこなうだけでなく、受講生の皆さんが作業をしたり、意見を出したり、グループで議論したりと、自ら考えて発信する時間を設けます。したがって、ただ出席していれば良いという授業ではないことにご注意ください。 授業内容は、授業の進行具合に応じて多少変更する場合があります。
科目学習の効果 (資格)	裁判員制度、日本や外国の市民の司法参加制度、また広く司法制度について知識を深めることができます。

授業計画				
	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	はじめに 司法への市民の参加	この授業の概要、講義予定 裁判員が裁判を担当する事件の例	講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2 時間)
	2	裁判員制度とは (1)	裁判員制度の概要	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5 時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
	3	裁判員制度とは (2)	裁判員制度導入の経緯	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5 時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
	4	裁判員制度とは (3)	裁判員の任務と経験者の考える裁判員制度の意義	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5 時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
	5	刑事裁判手続 (1)	刑事事件の捜査、手続きとその問題点	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5 時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
	6	刑事裁判手続 (2)	公判手続の流れと刑事裁判の原則	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5 時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
	7	外国の市民の司法参加制度 (1)	ヨーロッパ諸国などで採用されている参審制度について	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5 時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
	8	外国の市民の司法参加制度 (2)	おもに英米でおこなわれている陪審制度について	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5 時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
	9	外国の市民の司法参加制度 (3)	映画にみる陪審制度—無罪の推定と証拠の証明力	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5 時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
	10	外国の市民の司法参加制度 (4)	映画にみる陪審制度—陪審制度の意義	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5 時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
	11	戦前の日本の陪審制度	日本で戦前におこなわれていた陪審制度について	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5 時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
	12	裁判員制度が抱える問題点	現在の裁判員制度において指摘されている問題について考える	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5 時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
	13	ある刑事事件について考えてみよう	裁判員になったつもりで、ある刑事事件について有罪か無罪かを考える	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5 時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
	14	今後の裁判員制度のあり方	市民の司法参加を最大限に活かすために、今後、裁判員制度はどうあるべきかを考える	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5 時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
	15	市民が司法に参加する意義 おわりに	なぜ市民が司法に参加するべきなのか 講義のまとめ	全講義を通して疑問や不明点がないか確認したうえで講義に臨むこと。(3 時間) 講義終了後、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(3 時間)

関連科目	刑法総論・各論、刑事政策などの刑事法、刑事訴訟法、英米法			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義内で課す議論や課題（確認テスト、ペーパーなど）への取り組みを 40%程度、学期末試験の成績を 60%程度の割合で、最終的な評価をおこないます。 遅刻および欠席は、1 度でも、単位の取得から遠のくこととなりますので、ご注意ください。			
学生への メッセージ	日本の裁判員制度やアメリカの陪審制度に興味のある方はぜひ履修していただければと思います。履修者が少数の場合は、授業において学生の皆さんが主体的に考える時間（履修者間で議論をおこなっていただくなど）をより多くとるようにします。			
担当者の 研究室等	11 号館 9 階 家本准教授室			
備考				

科目名	スポーツと法律	科目名（英文）	Sports and Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2089a0		

授業概要・目的	スポーツに関する法令を学ぶとともに、関連する判例や諸問題を検討することを通して、スポーツ法学についての理解を深める。また、法学に関する体系的な理解の一助とする。																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、法とスポーツ活動との様々な接点を理解できるようになることが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	教科書『スポーツ法へのファーストステップ』を用いて授業を行います。授業中に提示した課題を解決するため、および事前・事後の学習のために ICT ツールを活用していただく場合もあります。対面による授業を原則とします。																																																																		
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者資格取得のための科目でもある。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>スポーツと法（１）</td><td>スポーツの概念、特性</td><td>スポーツの概念や特徴についてまとめる。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>スポーツと法（２）</td><td>スポーツ基本法の制定（スポーツの自治とガバナンス・コンプライアンス）</td><td>関連資料に目を通すこと</td></tr> <tr> <td>3</td><td>スポーツと法（３）</td><td>スポーツ活動と関連法令</td><td>関連資料に目を通すこと。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>スポーツに親しむ権利（１）</td><td>スポーツへのアクセス</td><td>関連資料に目を通すこと。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>スポーツに親しむ権利（２）</td><td>スポーツ権論・習熟度の確認</td><td>前回の講義と関連づけてまとめる。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>スポーツと教育</td><td>学校スポーツ、社会スポーツ（生涯スポーツ）の展開と関連法令</td><td>関連資料に目を通すこと。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>スポーツに関する紛争</td><td>スポーツ仲裁制度</td><td>関連資料に目を通すこと。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>スポーツ振興と法、これまでの講義のまとめ</td><td>スポーツの振興に関する法令、および習熟度確認</td><td>これまでの講義を体系的にまとめること。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>スポーツと国籍</td><td>スポーツへの参加と国籍</td><td>配布資料に目を通すこと。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>スポーツと社会的平等</td><td>スポーツとジェンダー・習熟度の確認</td><td>関連資料に目を通すこと。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>スポーツ事故と責任（１）</td><td>スポーツ活動中（学校での活動を含む）の事故と法（民法、刑法、国家賠償法）</td><td>民法、刑法および国家賠償法の関連条項の整理。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>スポーツ事故と責任（２）</td><td>スポーツ活動中の事故と当事者・指導者の法的責任①</td><td>配布資料に目を通すこと。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>スポーツ事故と責任（３）</td><td>スポーツ活動中の事故と指導者・当事者の法的責任②</td><td>前回の講義と関連づけてまとめる。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>スポーツ事故と責任（４）</td><td>フランスにけるスポーツ事故と法的責任</td><td>スポーツ事故の発生と法的責任の発生に関してまとめる</td></tr> <tr> <td>15</td><td>講義の総括と習熟度検査</td><td>講義の総括と習熟度確認試験</td><td>講義全体を体系的に整理する。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	スポーツと法（１）	スポーツの概念、特性	スポーツの概念や特徴についてまとめる。	2	スポーツと法（２）	スポーツ基本法の制定（スポーツの自治とガバナンス・コンプライアンス）	関連資料に目を通すこと	3	スポーツと法（３）	スポーツ活動と関連法令	関連資料に目を通すこと。	4	スポーツに親しむ権利（１）	スポーツへのアクセス	関連資料に目を通すこと。	5	スポーツに親しむ権利（２）	スポーツ権論・習熟度の確認	前回の講義と関連づけてまとめる。	6	スポーツと教育	学校スポーツ、社会スポーツ（生涯スポーツ）の展開と関連法令	関連資料に目を通すこと。	7	スポーツに関する紛争	スポーツ仲裁制度	関連資料に目を通すこと。	8	スポーツ振興と法、これまでの講義のまとめ	スポーツの振興に関する法令、および習熟度確認	これまでの講義を体系的にまとめること。	9	スポーツと国籍	スポーツへの参加と国籍	配布資料に目を通すこと。	10	スポーツと社会的平等	スポーツとジェンダー・習熟度の確認	関連資料に目を通すこと。	11	スポーツ事故と責任（１）	スポーツ活動中（学校での活動を含む）の事故と法（民法、刑法、国家賠償法）	民法、刑法および国家賠償法の関連条項の整理。	12	スポーツ事故と責任（２）	スポーツ活動中の事故と当事者・指導者の法的責任①	配布資料に目を通すこと。	13	スポーツ事故と責任（３）	スポーツ活動中の事故と指導者・当事者の法的責任②	前回の講義と関連づけてまとめる。	14	スポーツ事故と責任（４）	フランスにけるスポーツ事故と法的責任	スポーツ事故の発生と法的責任の発生に関してまとめる	15	講義の総括と習熟度検査	講義の総括と習熟度確認試験	講義全体を体系的に整理する。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	スポーツと法（１）	スポーツの概念、特性	スポーツの概念や特徴についてまとめる。																																																																
2	スポーツと法（２）	スポーツ基本法の制定（スポーツの自治とガバナンス・コンプライアンス）	関連資料に目を通すこと																																																																
3	スポーツと法（３）	スポーツ活動と関連法令	関連資料に目を通すこと。																																																																
4	スポーツに親しむ権利（１）	スポーツへのアクセス	関連資料に目を通すこと。																																																																
5	スポーツに親しむ権利（２）	スポーツ権論・習熟度の確認	前回の講義と関連づけてまとめる。																																																																
6	スポーツと教育	学校スポーツ、社会スポーツ（生涯スポーツ）の展開と関連法令	関連資料に目を通すこと。																																																																
7	スポーツに関する紛争	スポーツ仲裁制度	関連資料に目を通すこと。																																																																
8	スポーツ振興と法、これまでの講義のまとめ	スポーツの振興に関する法令、および習熟度確認	これまでの講義を体系的にまとめること。																																																																
9	スポーツと国籍	スポーツへの参加と国籍	配布資料に目を通すこと。																																																																
10	スポーツと社会的平等	スポーツとジェンダー・習熟度の確認	関連資料に目を通すこと。																																																																
11	スポーツ事故と責任（１）	スポーツ活動中（学校での活動を含む）の事故と法（民法、刑法、国家賠償法）	民法、刑法および国家賠償法の関連条項の整理。																																																																
12	スポーツ事故と責任（２）	スポーツ活動中の事故と当事者・指導者の法的責任①	配布資料に目を通すこと。																																																																
13	スポーツ事故と責任（３）	スポーツ活動中の事故と指導者・当事者の法的責任②	前回の講義と関連づけてまとめる。																																																																
14	スポーツ事故と責任（４）	フランスにけるスポーツ事故と法的責任	スポーツ事故の発生と法的責任の発生に関してまとめる																																																																
15	講義の総括と習熟度検査	講義の総括と習熟度確認試験	講義全体を体系的に整理する。																																																																
関連科目	スポーツ政策論等																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>スポーツ法へのファーストステップ</td><td>石堂典秀</td><td>法律文化社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	スポーツ法へのファーストステップ	石堂典秀	法律文化社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	スポーツ法へのファーストステップ	石堂典秀	法律文化社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>リファレンスブック</td><td></td><td>日本スポーツ協会</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	リファレンスブック		日本スポーツ協会	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	リファレンスブック		日本スポーツ協会																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	授業に参加する姿勢（３０％）、授業中に出される課題への回答・試験の結果（７０％）をもって評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	意欲的に講義に参加してください。																																																																		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 石井教授室																																																																		
備考	各回に 1 時間程度、すなわち半期 15 時間程度を目安に、講義の内容について事前・事後の学習を行ってください。課題や習熟度試験については次の回の授業で解説する。 20 年度 合格率 93.2% （不受験率 0%） A29.5% B31.8% C20.5% D11.4% 平均 77 点 44 人登録																																																																		

科目名	スポーツ文化論	科目名 (英文)	Cultural Aspects of Sports
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	瀬川 智広
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2090a0		

授業概要・目的	スポーツは体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、楽しみ、喜び、達成感、他者との連帯感など心身の健康保持増進に大きな効果をもたらします。またスポーツのもつ影響力は政治、経済、国際関係など現代社会のさまざまな課題を解決するために有効とされています。本講義は、スポーツがわれわれの暮らしに密接に関わる文化的意義をもつことを理解し、スポーツの効果や影響力を活用することで人生を豊かにしたり、現代社会の課題を解決するための基礎知識を身につけることを目指します。 SDGs-3, 5, 10, 11, 16, 17
到達目標	(1) スポーツの文化的意義を理解することができる。 (2) 持続可能な社会を実現するために、スポーツの効果や影響力を活用するための知識を得ることができる。 (3) 自分の考えを相手に伝えたり、他者の考えを理解、尊重するためのコミュニケーションスキルを身につけることができる。 (4) 自主的に学ぶ習慣を身につけることができる。
授業方法と留意点	パワーポイントや資料を用いた講義形式で行う。また、テーマに沿った議題についてグループワークやプレゼンテーションを行う機会を取り入れる。小レポートを課す。
科目学習の効果 (資格)	スポーツのもつ様々な効果や影響力を日常生活や社会活動で活用するための基礎知識を習得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	スポーツ文化論について	オリエンテーション スポーツ文化論とは 講義全体の概要、到達目標および成績評価について説明する	事後：授業で指示する課題に取り組み、学習内容を復習する (2 時間以上)
	2	スポーツの歴史	スポーツの始まりと変遷について学習する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：授業で指示する課題に取り組み、学習内容を復習する (1 時間以上)
	3	武道の歴史と精神	日本の武士道に由来する武道の歴史と精神について学習する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：授業で指示する課題に取り組み、学習内容を復習する (1 時間以上)
	4	スポーツと教育	スポーツを通じた教育の変遷と今後の展望について学習する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：授業で指示する課題に取り組み、学習内容を復習する (1 時間以上)
	5	スポーツと政治・権力	スポーツと政治の関係について過去の事例を題材に学習する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：授業で指示する課題に取り組み、学習内容を復習する (1 時間以上)
	6	スポーツとメディア	スポーツとメディアの関係について学習する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：授業で指示する課題に取り組み、学習内容を復習する (1 時間以上)
	7	スポーツと産業	スポーツに関わる産業の変遷と今後の展望について学習する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：授業で指示する課題に取り組み、学習内容を復習する (1 時間以上)
	8	スポーツとテクノロジー	テクノロジーがスポーツに及ぼす影響と今後の展望について学習する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：授業で指示する課題に取り組み、学習内容を復習する (1 時間以上)
	9	スポーツをめぐる社会問題	ドーピング、差別などスポーツをめぐる社会問題について学習する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：授業で指示する課題に取り組み、学習内容を復習する (1 時間以上)
	10	スポーツの意義と社会的役割 (1)	パラリンピックやアダプテッドスポーツを題材にスポーツを通じた共生社会の実現について学習する (講義・グループディスカッション)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：授業で指示する課題に取り組み、学習内容を復習する (1 時間以上)
	11	スポーツの意義と社会的役割 (2)	パラスポーツを実際に体験し、スポーツを通じた共生社会の実現について学習する (実技)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：体験で得た知識や情報について振り返る (1 時間以上)
	12	スポーツの意義と社会的役割 (3)	オリンピック、ワールドカップなどの国際大会を題材にスポーツの意義と社会的役割について自ら調べ発表する (発表)	事前：発表の準備をする (1 時間以上) 事後：他者の発表の要点をまとめる (1 時間以上)
	13	スポーツと SDGs (1)	SDGs に関する基礎知識を学習し、SDGs におけるスポーツの効果や影響力について調べる (講義・グループまたは個人ワーク)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：授業で指示する課題に取り組み、学習内容を復習する (1 時間以上)
	14	スポーツと SDGs (2)	SDGs におけるスポーツの効果や影響力の活用方法について発表する (発表)	事前：発表の準備をする (1 時間以上) 事後：他者の発表の要点をまとめる (1 時間以上)
	15	スポーツ文化論まとめ	授業のまとめ スポーツの効果や影響力について振り返り、持続可能な社会の	事前：指定されたテーマについて予習する (2 時間以上)

			実現に向けた各自の取り組みについて考える (レポート)	事後：本講義で得た知識を活用し、スポーツを通じて SDGs への取り組みに積極的に関与する
関連科目	スポーツと健康			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スポーツの歴史と文化	新井博	道和書院
	2	体育・スポーツ史概論	木村吉次	市村出版
	3			
評価方法 (基準)	小レポート（５０％）、グループワーク・発表（２０％） 最終授業終了後のレポート課題（３０％）			
学生への メッセージ	持続可能な社会の実現に向けて、スポーツがもたらす様々な効果や期待される可能性について共に考えましょう。			
担当者の 研究室等	総合体育館 1 階研究室			
備考	学習の効果を高めることを目的とし、授業の進捗状況や理解度、時事問題と関連して授業テーマの順序を変更する場合があります。			

科目名	地域とスポーツ	科目名（英文）	Community and Sports
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2091a0		

授業概要・目的	現代社会におけるスポーツ活動が担う地域振興という役割を踏まえ、地域社会とスポーツとの関係の理解を深める。また、法・政策について体系的に理解することへの一助とする。																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、地域社会の発展や連帯を促進という視点から、スポーツの果たす役割に関する知見を修得することが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	教科書は特に用いないが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するため、および事前・事後の学習のために ICT ツールを活用していただく場合もあります。対面による授業を原則とします。																																																																		
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者養成に関する科目である。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ガイダンス</td><td>地域社会とスポーツ</td><td>地域とスポーツとの関係性について整理する。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>地域におけるスポーツの振興（1）</td><td>地域にけるスポーツ振興方策と行政とのかわり</td><td>関連資料に目を通す。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>地域におけるスポーツの振興（2）</td><td>地域におけるスポーツ振興の主要課題</td><td>配布資料を理解する。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>地域におけるスポーツの振興（3）</td><td>地域におけるスポーツ振興と民間団体の役割・習熟度の確認、これまでの到達度を評価するための試験の実施</td><td>前2回と今回の講義を関連づけて整理する。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>地域スポーツの振興拠点（1）</td><td>学校スポーツ、企業スポーツ、（総合型）地域スポーツクラブ、スポーツ少年団</td><td>関連資料に目を通す。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>地域スポーツの振興拠点（2）</td><td>諸外国における地域スポーツの振興拠点</td><td>配布資料を理解する。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>地域スポーツの振興拠点（3）</td><td>（総合型）地域スポーツクラブ・スポーツ少年団の役割と両者の連携・統合</td><td>わが国と諸外国との相違点・類似点という視点からまとめる。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>地域スポーツの振興拠点（4）、およびこれまでの講義のまとめ</td><td>地域スポーツクラブの役割</td><td>前3回の講義と今回の講義とを関連づけて整理する。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>地域スポーツの振興と関連法令</td><td>地域スポーツ振興と関連法令</td><td>配布資料の理解。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>地域社会の活性化とスポーツ（1）</td><td>わが国におけるスポーツ活動による地域社会活性化へ向けた取り組み</td><td>関連資料に目を通す。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>地域社会の活性化とスポーツ（2）</td><td>諸外国におけるスポーツ活動による地域社会活性化へ向けた取り組み、これまでの到達度を評価するための試験の実施</td><td>配布資料の理解。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>地域社会の連帯促進とスポーツ（1）</td><td>わが国におけるスポーツ活動による地域連帯促進への取り組み</td><td>関連資料に目を通す。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>地域社会の連帯促進とスポーツ（2）</td><td>諸外国におけるスポーツ活動による地域連帯促進への取り組み</td><td>配布資料の理解。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>地域社会の連帯促進とスポーツ（3）</td><td>わが国における取り組みと諸外国における取り組みとの比較検討</td><td>前2回と今回の講義とを関連づけて整理する。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>講義の総括</td><td>講義の総括と習熟度確認のための試験の実施</td><td>これまでの講義を体系的に整理・理解する。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	地域社会とスポーツ	地域とスポーツとの関係性について整理する。	2	地域におけるスポーツの振興（1）	地域にけるスポーツ振興方策と行政とのかわり	関連資料に目を通す。	3	地域におけるスポーツの振興（2）	地域におけるスポーツ振興の主要課題	配布資料を理解する。	4	地域におけるスポーツの振興（3）	地域におけるスポーツ振興と民間団体の役割・習熟度の確認、これまでの到達度を評価するための試験の実施	前2回と今回の講義を関連づけて整理する。	5	地域スポーツの振興拠点（1）	学校スポーツ、企業スポーツ、（総合型）地域スポーツクラブ、スポーツ少年団	関連資料に目を通す。	6	地域スポーツの振興拠点（2）	諸外国における地域スポーツの振興拠点	配布資料を理解する。	7	地域スポーツの振興拠点（3）	（総合型）地域スポーツクラブ・スポーツ少年団の役割と両者の連携・統合	わが国と諸外国との相違点・類似点という視点からまとめる。	8	地域スポーツの振興拠点（4）、およびこれまでの講義のまとめ	地域スポーツクラブの役割	前3回の講義と今回の講義とを関連づけて整理する。	9	地域スポーツの振興と関連法令	地域スポーツ振興と関連法令	配布資料の理解。	10	地域社会の活性化とスポーツ（1）	わが国におけるスポーツ活動による地域社会活性化へ向けた取り組み	関連資料に目を通す。	11	地域社会の活性化とスポーツ（2）	諸外国におけるスポーツ活動による地域社会活性化へ向けた取り組み、これまでの到達度を評価するための試験の実施	配布資料の理解。	12	地域社会の連帯促進とスポーツ（1）	わが国におけるスポーツ活動による地域連帯促進への取り組み	関連資料に目を通す。	13	地域社会の連帯促進とスポーツ（2）	諸外国におけるスポーツ活動による地域連帯促進への取り組み	配布資料の理解。	14	地域社会の連帯促進とスポーツ（3）	わが国における取り組みと諸外国における取り組みとの比較検討	前2回と今回の講義とを関連づけて整理する。	15	講義の総括	講義の総括と習熟度確認のための試験の実施	これまでの講義を体系的に整理・理解する。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	地域社会とスポーツ	地域とスポーツとの関係性について整理する。																																																																
2	地域におけるスポーツの振興（1）	地域にけるスポーツ振興方策と行政とのかわり	関連資料に目を通す。																																																																
3	地域におけるスポーツの振興（2）	地域におけるスポーツ振興の主要課題	配布資料を理解する。																																																																
4	地域におけるスポーツの振興（3）	地域におけるスポーツ振興と民間団体の役割・習熟度の確認、これまでの到達度を評価するための試験の実施	前2回と今回の講義を関連づけて整理する。																																																																
5	地域スポーツの振興拠点（1）	学校スポーツ、企業スポーツ、（総合型）地域スポーツクラブ、スポーツ少年団	関連資料に目を通す。																																																																
6	地域スポーツの振興拠点（2）	諸外国における地域スポーツの振興拠点	配布資料を理解する。																																																																
7	地域スポーツの振興拠点（3）	（総合型）地域スポーツクラブ・スポーツ少年団の役割と両者の連携・統合	わが国と諸外国との相違点・類似点という視点からまとめる。																																																																
8	地域スポーツの振興拠点（4）、およびこれまでの講義のまとめ	地域スポーツクラブの役割	前3回の講義と今回の講義とを関連づけて整理する。																																																																
9	地域スポーツの振興と関連法令	地域スポーツ振興と関連法令	配布資料の理解。																																																																
10	地域社会の活性化とスポーツ（1）	わが国におけるスポーツ活動による地域社会活性化へ向けた取り組み	関連資料に目を通す。																																																																
11	地域社会の活性化とスポーツ（2）	諸外国におけるスポーツ活動による地域社会活性化へ向けた取り組み、これまでの到達度を評価するための試験の実施	配布資料の理解。																																																																
12	地域社会の連帯促進とスポーツ（1）	わが国におけるスポーツ活動による地域連帯促進への取り組み	関連資料に目を通す。																																																																
13	地域社会の連帯促進とスポーツ（2）	諸外国におけるスポーツ活動による地域連帯促進への取り組み	配布資料の理解。																																																																
14	地域社会の連帯促進とスポーツ（3）	わが国における取り組みと諸外国における取り組みとの比較検討	前2回と今回の講義とを関連づけて整理する。																																																																
15	講義の総括	講義の総括と習熟度確認のための試験の実施	これまでの講義を体系的に整理・理解する。																																																																
関連科目	スポーツ政策論等																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>リファレンスブック</td><td></td><td>日本スポーツ協会</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	リファレンスブック		日本スポーツ協会	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	リファレンスブック		日本スポーツ協会																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	授業に参加する姿勢（30%）、授業中に出される課題への回答・試験の結果（70%）をもって評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでください。																																																																		
担当者の研究室等	11号館10階 石井教授室																																																																		
備考	各回に1時間程度、すなわち半期15時間程度を目安に、講義の内容について事前・事後の学習を行ってください。課題や習熟度試験の解説は次の回の授業で行う。 20年度 合格率93.5%（不受験率0%） A22.6% B40.3% C11.3% D19.4% 平均75点 62人登録																																																																		

科目名	スポーツマネジメント	科目名（英文）	Sports Management
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2092a0		

授業概要・目的	スポーツを効率よくマネジメントする上で、検討すべき課題について理解を深めるとともに、スポーツマネジメントを実践するための基本的な知識を学習する。																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、スポーツを効率よくマネジメントする上での基本的な知識を獲得することが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	教科書は特に用いないが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するため、および事前・事後の学習のために ICT ツールを活用していただく場合もあります。対面による授業を原則とします。																																																																		
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者資格取得対応科目																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ガイダンス</td><td>ガイダンス、スポーツマネジメントとは</td><td>スポーツマネジメントという言葉の整理。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>マネジメントの本質（1）</td><td>マネジメントの定義、マネジメントにおける目標設定、目的・補完のマネジメント</td><td>関連資料に目を通す。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>マネジメントの本質（2）</td><td>マネージャーの役割、心構え</td><td>マネジメントという概念をまとめる。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>スポーツマネジメントの特徴</td><td>スポーツマネジメントの特徴、スポーツ産業が持つ特質</td><td>前 2 回の講義と今回とを関連づけてまとめる。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>スポーツ施設の建設、運営および事業展開</td><td>スポーツ施設の建設と運営</td><td>配布資料の理解。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>全体戦略の設定</td><td>ミッション・ビジョン・ドメイン・習熟度の確認</td><td>関連資料に目を通す。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>スポーツとマネジメント（1）</td><td>人事マネジメント、GM の役割</td><td>これまでの講義を体系的にまとめ、理解する。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>スポーツとマネジメント（2）</td><td>リスクマネジメント</td><td>リスクとマネジメントという意味について整理。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>スポーツとマネジメント（3）、これまでの講義のまとめ</td><td>顧客管理および習熟度確認</td><td>これまでの講義を体系的にまとめ、理解する。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>スポーツ事業の展開（1）</td><td>スポーツ事業の計画・運営・評価（総論、スポーツ教室の実施・運営）</td><td>関連資料に目を通す。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>スポーツ事業の展開（2）</td><td>スポーツマーケティング</td><td>配布資料を理解する。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>スポーツ事業の展開（3）</td><td>必要な法務の知識、必要な財務・経理・会計・税務の知識</td><td>前 2 回の講義を関連づけてまとめる。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>スポーツ組織の機能・役割とその運営（1）</td><td>スポーツ組織の機能・役割</td><td>配布資料に目を通すこと。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>スポーツ組織の機能・役割とその運営（2）</td><td>スポーツ組織の運営</td><td>前回の講義と関連づける。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>講義のまとめ</td><td>講義の総括と習熟度の確認試験</td><td>講義全体の体系化とその理解。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	ガイダンス、スポーツマネジメントとは	スポーツマネジメントという言葉の整理。	2	マネジメントの本質（1）	マネジメントの定義、マネジメントにおける目標設定、目的・補完のマネジメント	関連資料に目を通す。	3	マネジメントの本質（2）	マネージャーの役割、心構え	マネジメントという概念をまとめる。	4	スポーツマネジメントの特徴	スポーツマネジメントの特徴、スポーツ産業が持つ特質	前 2 回の講義と今回とを関連づけてまとめる。	5	スポーツ施設の建設、運営および事業展開	スポーツ施設の建設と運営	配布資料の理解。	6	全体戦略の設定	ミッション・ビジョン・ドメイン・習熟度の確認	関連資料に目を通す。	7	スポーツとマネジメント（1）	人事マネジメント、GM の役割	これまでの講義を体系的にまとめ、理解する。	8	スポーツとマネジメント（2）	リスクマネジメント	リスクとマネジメントという意味について整理。	9	スポーツとマネジメント（3）、これまでの講義のまとめ	顧客管理および習熟度確認	これまでの講義を体系的にまとめ、理解する。	10	スポーツ事業の展開（1）	スポーツ事業の計画・運営・評価（総論、スポーツ教室の実施・運営）	関連資料に目を通す。	11	スポーツ事業の展開（2）	スポーツマーケティング	配布資料を理解する。	12	スポーツ事業の展開（3）	必要な法務の知識、必要な財務・経理・会計・税務の知識	前 2 回の講義を関連づけてまとめる。	13	スポーツ組織の機能・役割とその運営（1）	スポーツ組織の機能・役割	配布資料に目を通すこと。	14	スポーツ組織の機能・役割とその運営（2）	スポーツ組織の運営	前回の講義と関連づける。	15	講義のまとめ	講義の総括と習熟度の確認試験	講義全体の体系化とその理解。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	ガイダンス、スポーツマネジメントとは	スポーツマネジメントという言葉の整理。																																																																
2	マネジメントの本質（1）	マネジメントの定義、マネジメントにおける目標設定、目的・補完のマネジメント	関連資料に目を通す。																																																																
3	マネジメントの本質（2）	マネージャーの役割、心構え	マネジメントという概念をまとめる。																																																																
4	スポーツマネジメントの特徴	スポーツマネジメントの特徴、スポーツ産業が持つ特質	前 2 回の講義と今回とを関連づけてまとめる。																																																																
5	スポーツ施設の建設、運営および事業展開	スポーツ施設の建設と運営	配布資料の理解。																																																																
6	全体戦略の設定	ミッション・ビジョン・ドメイン・習熟度の確認	関連資料に目を通す。																																																																
7	スポーツとマネジメント（1）	人事マネジメント、GM の役割	これまでの講義を体系的にまとめ、理解する。																																																																
8	スポーツとマネジメント（2）	リスクマネジメント	リスクとマネジメントという意味について整理。																																																																
9	スポーツとマネジメント（3）、これまでの講義のまとめ	顧客管理および習熟度確認	これまでの講義を体系的にまとめ、理解する。																																																																
10	スポーツ事業の展開（1）	スポーツ事業の計画・運営・評価（総論、スポーツ教室の実施・運営）	関連資料に目を通す。																																																																
11	スポーツ事業の展開（2）	スポーツマーケティング	配布資料を理解する。																																																																
12	スポーツ事業の展開（3）	必要な法務の知識、必要な財務・経理・会計・税務の知識	前 2 回の講義を関連づけてまとめる。																																																																
13	スポーツ組織の機能・役割とその運営（1）	スポーツ組織の機能・役割	配布資料に目を通すこと。																																																																
14	スポーツ組織の機能・役割とその運営（2）	スポーツ組織の運営	前回の講義と関連づける。																																																																
15	講義のまとめ	講義の総括と習熟度の確認試験	講義全体の体系化とその理解。																																																																
関連科目	スポーツと法律等																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>リファレンスブック</td><td>日本スポーツ協会</td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	リファレンスブック	日本スポーツ協会		2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	リファレンスブック	日本スポーツ協会																																																																	
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	授業に参加する姿勢（30%）、授業中に出される課題への回答・試験の結果（70%）をもって評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	意欲を持って参加してください。																																																																		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 石井教授室																																																																		
備考	各回到 1 時間程度、すなわち半期で 15 時間程度を目安に、講義の内容について事前・事後の学習を行ってください。課題や習熟度試験についての解説は、次の回の授業で行う。 20 年度 合格率 97.8% （不受験率 0%） A15.7% B28.1% C34.8% D19.1% 平均 75 点 89 人登録																																																																		

科目名	グローバル社会とスポーツ	科目名（英文）	Global Society and Sports
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3093a0		

授業概要・目的	スポーツに関する諸問題を社会的な視点からグローバルに検討することによって、社会とスポーツとのかかわりに対する理解を深める。また、主に法政策学の体系的な理解の一助とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、スポーツを取り巻く社会的な諸相をグローバルな観点からの確に捉え、理論的に理解するための基本的な能力を養うことが期待される。
授業方法と留意点	教科書は特に用いないが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するため、および事前・事後の学習のために ICT ツールを活用していただく場合もあります。対面による授業を原則とします。
科目学習の効果（資格）	スポーツに関する社会的な知識を身につけることが可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	ガイダンス、スポーツ社会学とは	スポーツ社会学という概念の整理。
	2	グローバル社会とスポーツ	グローバル社会におけるスポーツの意義	関連資料に目を通すこと。
	3	スポーツ人口の構造（1）	スポーツ人口構造の類型化	配布資料の理解。
	4	スポーツ人口の構造（2）	年齢別、性別スポーツ参加状況・習熟度の確認	前回の講義と関連づけて今回の講義を整理する。
	5	少子・高齢化とスポーツ（1）	少子化とスポーツ	配布資料の理解。
	6	少子・高齢化とスポーツ（2）	高齢化とスポーツ	少子・高齢化とスポーツとの関係についてまとめる。
	7	女性とスポーツ	女性のスポーツ参加	関連資料に目を通すこと。
	8	日本と諸外国におけるスポーツ事情、これまでの講義のまとめ	日本と諸外国のスポーツ参加	これまでの講義を体系的に整理・理解する。
	9	スポーツの社会的基盤（1） - 諸外国とわが国との比較検討 -	学校・地域のスポーツクラブ	関連資料に目を通すこと。
	10	スポーツの社会的基盤（2） - 諸外国とわが国との比較検討 -	企業および民間クラブ、および習熟度を 確認	前回の講義と今回の講義とを関連づけて整理する。
	11	スポーツと社会化（1）	スポーツによる社会化	配布資料の理解。
	12	スポーツと社会化（2）	スポーツへの社会化	前回の講義と今回の講義とを関連づけて整理する。
	13	商業主義とスポーツ	商業主義のスポーツへの影響	関連資料に目を通すこと。
	14	スポーツとマスメディア	マスメディアのスポーツへの影響	マスメディアという言葉の意味を検索。
	15	講義のまとめ	講義の総括と到達度の確認試験	これまでの講義を体系立てて整理し理解する。

関連科目	地域とスポーツ等
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	授業に参加する姿勢（30%）、授業中に出される課題への回答・試験の結果（70%）をもって評価する。
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでほしい。
担当者の研究室等	11 号館 10 階 石井教授室
備考	各回に 1 時間程度、すなわち半期で 15 時間程度を目安に、講義の内容について事前・事後の学習を行ってください。 課題や習熟度確認のための試験の解説は、次の回の授業で行う。 19 年度 合格率 100%（不受験率 2%） A8% B40% C17% D35% 平均 75 点 65 人登録

科目名	実定法特別講義 I	科目名 (英文)	Special Lecture on Positive Law I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 敦・城内 明・笛木 淳
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ2094a0		

授業概要・目的	本気で公務員試験（国家公務員一般職、地方上級）や法科大学院（ロースクール）入試、司法試験予備試験等をを目指す学生を対象に、目的達成のために不可欠な真の実力を養うことを目的として、問題演習等を行う。
到達目標	この授業を通じて学生には、公務員試験（国家公務員一般職、地方上級）や法科大学院（ロースクール）入試、司法試験予備試験等に合格するための、正しい学習方法を習得することが期待される。
授業方法と留意点	授業は、3 人の専任教員（田中・笛木・城内）及びゲスト講師（北口先生）によるオムニバス方式で実施。授業範囲は、憲法・民法の既修範囲とし、具体的には、憲法（基本的人権）、憲法（統治機構）、民法総則、物権法を扱う。
科目学習の効果（資格）	公務員試験（国家公務員一般職、地方上級）や法科大学院（ロースクール）入試、司法試験予備試験等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	資格試験 合格への道（1）	摂南大学法学部の卒業生である講師が法科大学院、司法試験に合格するまでのプロセスなどの経験、計画や戦略の立て方を話し、資格試験合格への道を具体的に意識できるようにする。	授業を進めながら検討する。
	2	資格試験 合格への道（2）	摂南大学法学部の卒業生である講師が法科大学院、司法試験に合格するまでのプロセスなどの経験、計画や戦略の立て方を話し、資格試験合格への道を具体的に意識できるようにする。	授業を進めながら検討する。
	3	民法 1（授業開始に当たって、行為能力）	ガイダンス・行為能力	事前学習：手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、事前配布する「今週の問題」を解く（2 時間）。 事後学習：授業内容を復習の上、確認小テストを受験する（2 時間）。
	4	民法 2（意思表示の瑕疵（1））	意思表示の瑕疵（1）	事前学習：手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、事前配布する「今週の問題」を解く（2 時間）。 事後学習：授業内容を復習の上、確認小テストを受験する（2 時間）。
	5	民法 3（意思表示の瑕疵（2））	意思表示の瑕疵（2）	事前学習：手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、事前配布する「今週の問題」を解く（2 時間）。 事後学習：授業内容を復習の上、確認小テストを受験する（2 時間）。
	6	民法 4（代理その 1）	代理（表見代理を除く）	事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジюмеにより、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（2 時間）。 事後学習：レジюмеを再読して知識を確認した上で、課題を解く（2 時間）。
	7	民法 5（代理その 2）	表見代理	事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジюмеにより、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（2 時間）。 事後学習：レジюмеを再読して知識を確認した上で、課題を解く（2 時間）。
	8	民法 6（物権総論）	物権とは、物権と債権との違い、物上請求権とは	事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジюмеにより、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（2 時間）。 事後学習：レジюмеを再読して知識を確認した上で、課題を解く（2 時間）。
	9	民法 7（不動産物権変動）	民法 176 条、177 条に関する諸問題	事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジюмеにより、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（2 時間）。 事後学習：レジюмеを再読して知識を確認した上で、課題を解く（2 時間）。
	10	民法 8（動産物権変動）	即時取得、占有に関する諸問題	事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジюмеにより、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（2 時間）。 事後学習：レジюмеを再読して知識を確認した上で、課題を解く（2 時間）。
	11	憲法の論述式答案の書き方入門（0）（総論）	論述式答案の書き方、勉強方法、予習方法の説明	（ア） 事前学習：法学学習に関する事前配布資料に目を通す（2 時間） （イ） 事後学習：配布課題（4 時間）
	12	憲法論述式答案の書き方入門（1）（職業選択の自由の事例）	薬局距離制限判決をモデルにした事例演習	（ア） 事前学習：職業の自由に関する資料に目を通し、課題に取り組む（2 時間） （イ） 事後学習：授業中に取り組んだ演習課題の復習・答案の再作成（4 時間）
	13	論述式討案の書き方入門（2）（プライバシー権の事例）	写真撮影等の可否が問題となる裁判例をモデルとした事例演習	（ア） 事前学習：プライバシー権に関する資料に目を通し、課題に取り組む（2 時間） （イ） 事後学習：授業中に取り組んだ演習課題の復習・答案の再作成（4 時間）
	14	論述式討案の書き方入門（3）（集会の自由の事例）	泉佐野市民会館事件判決／上尾市福祉会館事件判決をモデルとした事例演習	（ア） 事前学習：集会の自由に関する資料に目を通し、課題に取り組む（2 時間）

				(イ) 事後学習: 授業中に取り組んだ演習課題の復習・答案の再作成 (4 時間)
	15	論述式討案の書き方入門 (4) (思想良心の自由の事例)	日の丸・君が代事件判決をモデルにした事例演習	(ア) 事前学習: 思想・良心の自由に関する資料に目を通し、課題に取り組む (2 時間) (イ) 事後学習: 授業中に取り組んだ演習課題の復習・答案の再作成 (4 時間)
関連科目	憲法Ⅰ (人権総論)、憲法Ⅱ (人権各論)、憲法Ⅲ (統治機構)、民法ⅠA (総則)、民法ⅠB (総則)、民法ⅡA (物権法)			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	具体的な評価方法は、各担当教員により異なるため、各教員の初回授業時に確認すること。			
学生への メッセージ	本講義は、高い目標を本気で目指す学生のための特別講義です。目標が高い分、学生に対する要求も厳しくなりますが、司法試験に合格した経験を有する3名の選任教員が、実務家・研究者としての経験を踏まえて行う質の高い講義は、予備校の授業とは一線を画するものと確信しています。本気の学生の受講を期待します。			
担当者の 研究室等	1 1 号館 1 0 階 田中教授室 1 1 号館 1 0 階 城内教授室 1 1 号館 9 階 笛木講師室			
備考	本講義は、選抜制であり、30名を上限とする。選抜テスト(試験範囲は、憲法(基本的人権)、憲法(統治機構)、民法総則)で基準点に満たない者の受講は認めない。また、憲法・民法の該当年次までの基本科目(憲法(基本的人権)、憲法(統治機構)、民法ⅠA(総則①)、民法ⅠB(総則②))については、履修が必要であり、以上の科目について、単位取得ないし履修登録をしていない者の受講は認めない。選抜テストの日程は T e a m s 上で告知するので、受講を希望する者は、必ず受験すること(やむを得ない理由で受験できない場合は、担当教員ま			

科目名	実定法特別講義Ⅱ	科目名（英文）	Special Lecture on Positive Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	城内 明・笛木 淳
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ2095a0		

授業概要・目的	この授業では、本気で公務員試験（国家公務員一般職、地方上級）や法科大学院（ロースクール）入試、司法試験予備試験等を目指す学生を対象に、目的達成のために不可欠な真の実力を養うことを目的として、問題演習等を行う。
到達目標	この授業を通じて学生には、公務員試験（国家公務員一般職、地方上級）や法科大学院（ロースクール）入試、司法試験予備試験等に合格するための、正しい学習方法を習得することが期待される。
授業方法と留意点	授業は、2 人の専任教員（笛木講師・城内教授）によるオムニバス方式で実施。授業範囲は、憲法・民法の既修範囲とし、具体的には、憲法（基本的人権）、憲法（統治機構）、債権各論、債権総論を扱う。学生には、公務員試験（国家公務員一般職、地方上級）や法科大学院（ロースクール）入試、司法試験予備試験等に合格するための、正しい学習方法を習得することが期待される。
科目学習の効果（資格）	公務員試験（国家公務員一般職、地方上級）や法科大学院（ロースクール）入試、司法試験予備試験等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	憲法論述式討案の書き方入門（５）（政教分離原則の事例）	津地鎮祭事件判決をモデルにした事例演習	（ア） 事前学習：信教の自由／政教分離原則に関する資料に目を通し、課題に取り組む（２時間） （イ） 事後学習：授業中に取り組んだ演習課題の復習・答案の再作成（４時間）
	2	憲法論述式討案の書き方入門（６）（公務員の政治活動の事例）	堀越事件判決／世田谷事件判決をモデルにした事例演習	（ア） 事前学習：公務員の政治活動に関する資料に目を通し、課題に取り組む（２時間） （イ） 事後学習：授業中に取り組んだ演習課題の復習・答案の再作成（４時間）
	3	憲法論述式討案の書き方入門（７）（財産権と損失補償の事例）	損失補償の要否が問題となった裁判例をモデルにした事例演習	（ア） 事前学習：財産権と損失補償に関する資料に目を通し、課題に取り組む（２時間） （イ） 事後学習：授業中に取り組んだ演習課題の復習・答案の再作成（４時間）
	4	憲法論述式討案の書き方入門（８）（「法律上の争訟」性）	「法律上の争訟」性が問題となった判例をモデルにした事例演習	（ア） 事前学習：司法権に関する資料に目を通し、課題に取り組む（２時間） （イ） 事後学習：授業中に取り組んだ演習課題の復習・答案の再作成（４時間）
	5	憲法論述式討案の書き方入門（９）（議院内閣制）	議院内閣制の問題に関する論述演習	（ア） 事前学習：議院内閣制に関する資料に目を通し、課題に取り組む（２時間） （イ） 事後学習：授業中に取り組んだ演習課題の復習・答案の再作成（４時間）
	6	民法１ 契約の成立・契約の効力	契約の成立、同時履行の抗弁権、危険負担、第三者のためにする契約	（ア） 事前学習：手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、事前配布する「今週の問題」を解く（２時間）。 （イ） 事後学習：授業内容を復習の上、確認小テストを受験する（２時間）。
	7	民法２ 契約の解除	解除権の発生と消滅、契約解除の効果	（ア） 事前学習：手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、事前配布する「今週の問題」を解く（２時間）。 （イ） 事後学習：授業内容を復習の上、確認小テストを受験する（２時間）。
	8	民法３ 売買、贈与、交換	売買、売主の責任（契約不適合責任）	（ア） 事前学習：手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、事前配布する「今週の問題」を解く（２時間）。 （イ） 事後学習：授業内容を復習の上、確認小テストを受験する（２時間）。
	9	民法４ 賃貸借、使用貸借、消費貸借	賃貸借、使用貸借、消費貸借	（ア） 事前学習：手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、事前配布する「今週の問題」を解く（２時間）。 （イ） 事後学習：授業内容を復習の上、確認小テストを受験する（２時間）。
	10	民法５ 請負・委任	請負、委任	（ア） 事前学習：手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、事前配布する「今週の問題」を解く（２時間）。 （イ） 事後学習：授業内容を復習の上、確認小テストを受験する（２時間）。
	11	民法６ 債務者の責任財産の保全	債務者の責任財産保全制度総論、債権者代位権、詐害行為取消権	（ア） 事前学習：手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、事前配布する「今週の問題」を解く（２時間）。 （イ） 事後学習：授業内容を復習の上、確認小テストを受験する（２時間）。
	12	民法７ 多数当事者の債権関係(1)	多数当事者の債権関係総論、連帯債務を中心に	（ア） 事前学習：手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、事前配布する「今週の問題」を解く（２時間）。 （イ） 事後学習：授業内容を復習の上、確認小テストを受験する（２時間）。
	13	民法８ 多数当事者の債権関係(2)	保証債務を中心に	（ア） 事前学習：手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、事前配布する「今週の問題」を解く（２時間）。 （イ） 事後学習：授業内容を復習の上、確認小テストを受験する（２時間）。
	14	民法９ 債権譲渡(1)	債権譲渡総論、譲渡制限付債権の譲渡	（ア） 事前学習：手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、事前配布する「今週の問題」

				を解く (2 時間)。 (イ) 事後学習 : 授業内容を復習の上、確認小テストを受験する (2 時間)。																
	15	民法 1 0 債権譲渡 (2) ・ 債務引受	債権譲渡の対抗要件、債務引受	(ア) 事前学習 : 手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、事前配布する「今週の問題」を解く (2 時間)。 (イ) 事後学習 : 授業内容を復習の上、確認小テストを受験する (2 時間)。																
関連科目	憲法Ⅰ (人権総論)、憲法Ⅱ (人権各論)、憲法Ⅲ (統治機構)、民法ⅠA (総則①)、民法ⅠB (総則②)、民法ⅡA (物権)、民法ⅢA (債権総論①)、民法ⅢB (債権総論②)、民法ⅣA (債権各論①)、民法ⅣB (債権各論②)																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	事前課題又は小テスト 6 0 %、授業に取り組む姿勢 4 0 %とする。なお、具体的な評価方法は、各担当教員により異なるため、各教員の初回授業時に確認すること。																			
学生へのメッセージ	本講義は、高い目標を本気で目指す学生のための特別講義です。目標が高い分、学生に対する要求も厳しくなりますが、3 名の専任教員が、実務家・研究者としての経験を踏まえて行う質の高い講義は、予備校の授業とは一線を画するものと確信しています。本気の学生の受講を期待します。																			
担当者の研究室等	1 1 号館 1 0 階 城内教授室 1 1 号館 9 階 笛木講師室																			
備考	本講義は、選抜制であり、3 0 名を上限とする。後期から参加する学生については、選抜テスト (試験範囲は、憲法Ⅰ (人権総論)、憲法Ⅱ (人権各論)、憲法Ⅲ (統治機構)、民法ⅠA (総則)、民法ⅠB (総則)、民法ⅡA (物権)、民法ⅢA (債権総論①)、民法ⅣA (債権総論①)) を実施し、基準点に満たない者の受講は認めない。また、憲法・民法の該当年次までの基本科目については、履修が必要である。選抜テストの日程は Teams 上で告知するので、受講を希望する者は、必ず受験すること (やむを得ない理由で受験できない場合は、担当教員主																			

科目名	実定法上級講義	科目名（英文）	Comprehensive Lecture on Positive Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松島 裕一・前田 剛志
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ4096a0		

授業概要・目的	この実定法上級講義の講義では、法政キャリア特別講義と同様に公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入試などに向けた実践的な知識の習得を目的にしています。直前期にあたることとなりますので、短期間で集中的に知識の獲得を目指します。受講生の要望を随時受け入れます。
到達目標	この授業を通じて学生には、公務員試験や法科大学院入学試験などの問題演習を通じて、各種試験合格に必要な高度に専門的な法的知識を習得できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義は、受講生の目標に応じた形で進めます。詳細は第1回の授業時に確認させていただきます。いずれにせよ、自分で予習復習することが必要になります。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入試の合格を目指す学習の一助になればと考えています。また、行政書士や法学検定試験、宅地建物取引士などに役立つ知識の獲得にも対応できるよう考えています。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	講義の全体像：ガイダンス	授業の進め方や全体像、試験対策に向けての一般的心構えなどの概説を行います。	各自の受験する試験の内容を具体的に確認しておくこと（約30分）。
	2	憲法①	精神的自由 思想良心の自由、表現の自由、信教の自由、集会・結社の自由など 特に、違憲審査基準の理解	精神的自由に関する違憲審査基準、関連する判例を確認し、見直しておくこと（約1時間）。
	3	憲法②	その他の人権 経済的自由、幸福追求権、平等権、社会権など 特に、違憲審査基準の理解（精神的自由との比較）	経済的自由で用いられる審査基準と精神的自由で用いられる審査基準の違いを確認し、見直しておくこと（約1時間）。
	4	憲法③	統治機構 国会、内閣、裁判所、財政・地方自治、憲法保障など	国会・内閣・裁判所の権能を確認し、見直しておくこと（約1時間）。
	5	民法①	民法総則 意思表示、代理、時効など 特に、心裡留保・虚偽表示・錯誤、表見代理	心裡留保・虚偽表示・錯誤、表見代理の内容及び関連する判例を確認し、見直しておくこと（約1時間）。
	6	民法②	物権 占有権、所有権、用益物権、担保物権など 特に民法177条、抵当権	物権変動の基本原則、抵当権の内容及び関連する判例を確認し、見直しておくこと（約1時間）。
	7	民法③	債権総論 債務不履行、責任財産の保全、多数当事者の債権・債務関係、債権譲渡、債権の消滅など 特に、415条・416条、債権者代位権・詐害行為取消権	債務不履行の一般原則について、見直しておくこと（約1時間）。
	8	民法④	債権各論① 契約の成立、契約の効力、契約各論①など 特に、解除、売買	契約の解除、売買、賃貸借、請負の内容及び関連する判例を確認し、見直しておくこと（約1時間）。
	9	民法⑤	債権各論② 契約各論②、事務管理・不当利得・不法行為など 特に、賃貸借、不法行為	事務管理、不当利得、不法行為の内容及び関連する判例を確認し、見直しておくこと（約1時間）。
	10	民法⑥	親族・相続 婚姻、親子、相続など	婚姻、養子、相続の内容及び関連する判例を確認し、見直しておくこと（約1時間）。
	11	行政法①	行政法総論、行政組織法など 法律による行政の原理、行政主体、地方自治など	法律による行政の原理の内容を確認し、見直しておくこと（約1時間）。
	12	行政法②	行政作用法 行政行為、行政上の強制手段、行政指導、行政手続など 特に、行政行為の種類	行政行為の種類、内容を見直しておくこと（約1時間）。
	13	行政法③	行政救済法 行政不服申立て、行政事件訴訟、国家賠償、損失補償など 特に、取消訴訟	行政事件訴訟法に規定されている訴訟類型の要件を確認し、見直しておくこと（約1時間）。
	14	その他の実定法 刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法など	憲法、民法、行政法以外で試験に関連する科目	刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法などの基本概念を見直しておくこと（約1時間）。
	15	授業全体のまとめ	これまでの講義で学習してきた問題を復習したり、あまり触れられなかった問題を補足したいと考えています。	今まで学んだ部分で自分自身がわからなかった部分を見直しておくこと（約30分）。

関連科目	直接的には、各種実定法特別講義講義と関連しますが、憲法、民法、行政法など実定法の科目とも関連しています。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の課題などの提出で評価し（100%）。期末試験は実施しません。 ただ、毎回の課題提出が前提ですので、合理的理由のない課題の未提出が一定回数を超えた場合、単位取得を認めないことがあります。			
学生への メッセージ	この講義では、各種の実定法特別講義と連続した形で、公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入学試験の対策を行いたいと考えています。 また、行政書士、宅地建物取引士など資格試験の対策も考えております。直前期にあたるため、受講生の皆さんの具体的な要望にできる限り応じられるようにしたいと考えています。			
担当者の 研究室等	11 号館 9 階 松島講師室			
備考	この講義は「法律学特修コース」の学生の履修を想定しているため、かなりの量の予習・復習が必要となります。また、定員の上限を定める場合があります。「法律学特修コース」以外の学生で履修を希望する者は、履修期間内にあらかじめ担当者に相談してください。確認テストの解説については、授業内で行います。			

科目名	行政法応用講義	科目名（英文）	Advanced Administrative Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	笛木 淳
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3098a0		

授業概要・目的	法学をより深く研究するためには、外国語の能力が不可欠です。この授業では、行政法ないし憲法を専攻し、修士課程や博士課程に進学する者に向けて、基礎的な外国語文献の読解能力を身に着けるために、ドイツ語の文献を輪読します。具体的な文献は以下の通り。 Eberhard Schmidt-Assmann, § 26 Der Rechtsstaat, in : Isensee/Kirchhof(Hrsg.), Handbuch des Staatsrechts der Bundesrepublik Deutschland, Bd. II, 3. Aufl., 2004, S. 541 ff. なお、この授業は、研究者になるために大学院進学を目指す者にレベルをあわせているため、最低限のドイツ語文法の素養が読めなければ履修すら困難です。履修を希望する場合は、春休み中に最低限のドイツ語文法を学習すること。第1回のときに、簡単なドイツ語を読ませ、基本的な文法すら身につけていないと判断した場合は履修を拒否することがあります。																																																																		
到達目標	本授業を通じて学生には次のスキルの獲得が期待されます。 (1) 専門書においてドイツ語の文法を正確に把握する力。 (2) ドイツにおける Rechtsstaat（法治国）原理について、正確な議論を理解する。 (3) 以上の2点を、正確・適切な日本語訳に反映する。																																																																		
授業方法と留意点	授業方法：毎回2～3頁のドイツ語を翻訳し、その正確性と内容の理解に関してディスカッションを行う。 留意点：最低限のドイツ語文法知識が不可欠である。																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ドイツ公法学における Rechtsstaat 概念の基本的な知識と、ドイツ語の基礎的な能力の獲得。</td><td>毎回、2～3ページのドイツ語を学生が翻訳し、それを読み上げさせ、教員が修正する。文法と議論の内容の確認のために質問を行う。</td><td>事前学習： ドイツ語の日本語訳作成（5時間） 事後学習： 教員とのディスカッションやフィードバックにより明らかになった日本語訳・文献理解の問題点を踏まて修正。（2時間程度）。</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ドイツ公法学における Rechtsstaat 概念の基本的な知識と、ドイツ語の基礎的な能力の獲得。	毎回、2～3ページのドイツ語を学生が翻訳し、それを読み上げさせ、教員が修正する。文法と議論の内容の確認のために質問を行う。	事前学習： ドイツ語の日本語訳作成（5時間） 事後学習： 教員とのディスカッションやフィードバックにより明らかになった日本語訳・文献理解の問題点を踏まて修正。（2時間程度）。	2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ドイツ公法学における Rechtsstaat 概念の基本的な知識と、ドイツ語の基礎的な能力の獲得。	毎回、2～3ページのドイツ語を学生が翻訳し、それを読み上げさせ、教員が修正する。文法と議論の内容の確認のために質問を行う。	事前学習： ドイツ語の日本語訳作成（5時間） 事後学習： 教員とのディスカッションやフィードバックにより明らかになった日本語訳・文献理解の問題点を踏まて修正。（2時間程度）。																																																																
2																																																																			
3																																																																			
4																																																																			
5																																																																			
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	行政法，地方自治法，憲法																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	・日本語訳の内容：60％ ・ディスカッション（議論への貢献度）：40％																																																																		
学生へのメッセージ	この授業は、研究者になるために大学院進学を目指す者にレベルをあわせているため、ドイツ語が読めなければ履修すら困難です。履修を希望する場合は、春休み中に最低限のドイツ語文法を学習すること。																																																																		
担当者の研究室等	笛木講師室（11号館9階）																																																																		
備考																																																																			

科目名	民法応用講義Ⅰ	科目名（英文）	Advanced Civil LawⅠ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3099a0		

授業概要・目的	民法典における財産法には、総則・物権・債権の三つ編があります。 その中で、物権とは人と物との関係を扱う部分であり、債権とは人と人との関係を扱う部分です。 さらに、債権法の部分は大きく分けて、総論部分と各論部分に分かれます。本講義ではその総論部分を扱います。
到達目標	この授業を通じて学生には、債権法の内容を全体的に把握し日常的な取引で生じる法的問題等を考察できる知識を涵養することを目的とします。 具体的には、取引で生じる債権とはいかなる内容のもので、いかなる性質を有しているのか、合意（契約）により生じた債権が約束通りに履行されない場合にはどのような問題が生じるのか、これらの債権を確保する行為は許されるのか、それらの債権を売却するなどして有効活用することはできないのか、という点を見ていく予定です。 これにより、本講義では、社会における取引の意義を把握できるようにし、かつ、自分の判断で問題を処理するための基本的知識の獲得をすることが期待されます。
授業方法と留意点	講義で使用することは可能であることから、データ上で書き込み等をする場合は印刷は不要である（第1回目のみ配布）。 講義は対面方式の教室で行う。出席する予定のない者は採点対象とならないことに注意すること。 なお、Teams に動画を後日アップロードする予定であるが、これはあくまで復習や欠席者用であり、録画の品質等は担保できない。講義で内容を確認すること。 法律科目であるので、六法（書籍の一種）が必要となる。予復習状況は備考欄も確認すること。予復習については、備考欄も確認すること。
科目学習の効果（資格）	各種資格試験においては、債権法を含む民法の理解が必須となります。公務員試験等、民法科目が出題される場合や、銀行取引などにおいても重要となる知識を債権法は含んでいます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	債権総論前期の整理	講義のガイダンス 前期の復習 予復習については、備考欄も確認すること。	前期内容の全体を確認しておくこと。 法学概論における講義内容と対比して債権各論との関係で不明確な部分を確認すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	2	多数当事者の債権債務関係 1	当事者が多数となる場面の確認 分割債権債務	売買契約の内容を確認しておくこと。 法人制度との違いを理解し、多数者関係との違いを整理しておくこと。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	3	多数当事者の債権債務関係 2	連帯債務 1	教科書の債権の消滅原因部分を確認しておくこと。 絶対的・相対的効力事由の意義とそれらの違いを制度と共に整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	4	多数当事者の債権債務関係 3	連帯債務 2	教科書の債権の消滅原因部分を確認しておくこと。 相殺との関係で生じる事象および不真正連帯債務の制度との違いを整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	5	多数当事者の債権債務関係 4	不可分債権債務 連帯債権	連帯債務の全体像を確認しておくこと。 不可分債務と連帯債務の違いを整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	6	保証債務 1	保証契約の意義	担保法の概要を確認しておくこと。 連帯債務と保証債務との違いを整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	7	保証債務 2	連帯保証 複数の保証人	通常保証制度の内容を確認しておくこと。 分別の利益制度を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	8	債権譲渡 1	債権譲渡の意義	物権における対抗要件制度を復習しておくこと。 譲渡の制限の全体像を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	9	債権譲渡 2	債権譲渡の対抗要件	債権譲渡の制度を確認しておくこと。 債権譲渡の対抗要件制度における各用語と制度の意義を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	10	債務引受	免責的債務引受 併存的債務引受 履行引受	債権譲渡の意義を確認しておくこと。 債権譲渡と債務引受の意義の違いと要件の違いを整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	11	債権の消滅 1	弁済 1	債権の発生原因を確認しておくこと。 弁済において問題となる事象を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	12	債権の消滅 2	弁済 2 相殺 1	弁済の意義を連帯債務の部分を含め確認しておくこと。 相殺の意義および行使方法を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	13	債権の消滅 3	相殺 2	相殺の要件（相殺適状）を確認しておくこと。 相殺と他の制度との関連状況を整理しておくこと。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	14	債権の消滅 4	相殺 3 その他の制度	相殺の全体像を確認しておくこと。 債権の消滅原因となる各制度の特徴を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	15	全体の復習	前・後期の全体復習	前期の内容を含め整理しておくこと。 講義で取り上げた要点をまとめること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること

関連科目	契約法、不法行為法、民法総則など、民法系科目全般			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Teams を使った小テストを行う（70%～80%：講義状況により変化する）。 講義内での小テスト（20～30%：講義状況により変化する）。 自宅で teams 上のテストを回答することは可能であるが、あくまで出席者が採点対象である。また、いかなる理由があれ講義に来ていない者は「欠席者」として扱うことから、その旨を理解のうえ、受講すること。 具体的には、初回等で確認すること。			
学生への メッセージ	法学にもかなり慣れたことだと思いますが、不十分だと思われる方も、復習をしつつ取り組んでいけば十分に理解ができますし、興味も持っていけるはずです。 講義の動画はアップロード（講義終了時まで掲載）を行います。欠席時に、オンライン上での小テスト等には各自で対応してください。 小テストの解答期間は、日曜日の 23 時 59 分までを予定し、講義後 5 日間ほどの猶予期間を設定しています。なお、大学は対面講義が原則であることから、それ以外の欠席事由は成績評価にあたっては何らの正当性をもたないということを理解しておいてください。			
担当者の 研究室等	11 号館 9 階 大川准教授室			
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の 3 つから成り立っています。それぞれにつき、90 分を確保して学習をする必要があります。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。事前・事後学習内容について、講義で出された課題及び指摘部分の内容については、各対応時の講義で確認・解説を行います。 近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。 小テストや課題テスト			

科目名	民法応用講義Ⅱ	科目名（英文）	Advanced Civil Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3100a0		

授業概要・目的	民法典における財産法には、総則・物権・債権の三つがあります。 その中で、物権とは人と物との関係を扱う部分であり、債権とは人と人との関係を扱う部分です。 債権法の部分は大きく分けて、総論部分と各論部分に分かれます。本講義では各論部分を扱います。特に、契約を中心に確認する予定です。			
到達目標	この授業を通じて学生には、債権法の内容を全体的に把握し日常的な取引で生じる法的問題等を考察できる知識を涵養する事を目的としています。 具体的には、日常的にどのような取引がなされているのか、それらの契約にはどのようなものがあるのか、それらの契約がどのような性質を含んでいるのかを確認します。 これにより、本講義では、社会における取引の意義を把握できるようにし、かつ、自分の判断で問題を処理するための基本的知識の獲得することが期待されます。			
授業方法と留意点	講義で使用することは可能であることから、データ上で書き込み等をする場合は印刷は不要である（第1回目のみ配布）。 講義は対面方式の教室で行う。出席する予定のない者は採点対象とならないことに注意すること。 なお、Teamsに動画を後日アップロードする予定であるが、これはあくまで復習や欠席者用であり、録画の品質等は担保できない。講義で内容を確認すること。 法律科目であるので、六法（書籍の一種）が必要となる。予復習状況は備考欄も確認すること。			
科目学習の効果（資格）	各種資格試験においては、債権法を含む民法の理解が必須となります。公務員試験等、民法科目が出題される場合や、銀行取引などにおいても重要な知識を債権法は含んでいます。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	前期の内容の確認および契約法の全体像を整理 予復習については、備考欄も確認すること。	前期の全体を確認しておくこと。 契約の法的性質を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	2	使用貸借契約	使用貸借の内容	消費貸借の意義を確認しておくこと。 使用貸借の特徴を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	3	賃貸借契約 1	賃貸借契約の内容	双務契約の意義および使用貸借契約の内容を確認しておくこと。 賃貸借契約における権利義務内容を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	4	賃貸借契約 2	賃借権の無断譲渡・転貸 賃貸人の地位の留保 賃貸借契約の終了	継続的契約の事情を確認しておくこと。 賃貸借契約関係が移転する状況を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	5	賃貸借契約 3	借地借家法 1 借地関係	民法上の賃貸借契約の内容を確認しておくこと。 民法と借地借家法での内容の違いを整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	6	賃貸借契約 2	借地借家法 2 借家関係	借地借家法の内容を確認しておくこと。 借地借家法の特別法としての意義と民法との違いを整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	7	雇用契約	雇用契約の内容	役務提供契約の内容を確認しておくこと。 民法と労働法の内容の違いを整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	8	請負契約 1	請負契約の内容	雇用契約の内容を確認しておくこと。 売買との違いを整理し、制作物供給契約の形も整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	9	請負契約 2	請負における契約不適合問題・危険負担問題	売買契約における契約不適合責任を確認しておくこと。 請負と売買で不適合責任として異なる点を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	10	委任契約 1	委任における権利義務	役務提供契約の全体像を確認しておくこと。 委任における特殊性を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	11	委任契約 2	医療問題	債務不履行制度、不法行為制度を確認しておくこと。 医療過誤問題を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	12	寄託契約	寄託契約の内容	賃貸借契約の内容を確認しておくこと。 賃貸借契約との違いを整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	13	その他の契約	組合契約 終身定期金契約	法人制度を確認しておくこと。 契約全体を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	14	事務管理・不当利得	事務管理の概要 不当利得の概要	債権の発生原因を確認しておくこと。 不法行為制度との違いを整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	15	全体のまとめ	前後期のすべての内容を確認する。	全体の復習を行うこと。 90 分を確保して学習をすること
関連科目	債権総論、不法行為法、民法総則など、民法系科目全般			
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1																			
	2																			
	3																			
参考書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3						
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	Teams を使った小テストを行う（70%～80%：講義状況により変化する）。 講義内での小テスト（20～30%：講義状況により変化する）。 自宅で teams 上のテストを回答することは可能であるが、あくまで出席者が採点対象である。また、いかなる理由があれ講義に来ていない者は「欠席者」として扱うことから、その旨を理解のうえ、受講すること。 具体的には、初回等で確認すること。																			
学生への メッセージ	法学部にもかなり慣れたことだと思いますが、不十分だと思われる方も、復習をしつつ取り組んでいけば十分に理解ができますし、興味も持っていけるはずです。 講義の動画はアップロード（講義終了時まで掲載）を行います。欠席時に、オンライン上での小テスト等には各自で対応してください。 小テストの解答期間は、日曜日の 23 時 59 分までを予定し、講義後 5 日間ほどの猶予期間を設定しています。なお、大学は対面講義が原則であることから、それ以外の欠席事由は成績評価にあたっては何らの正当性をもたないということを理解しておいてください。																			
担当者の 研究室等	11 号館 9 階 大川准教授室																			
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の 3 つから成り立っています。それぞれにつき、90 分を確保して学習をする必要があります。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。事前・事後学習内容について、講義で出された課題及び指摘部分の内容については、各対応時の講義で確認・解説を行います。 近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。 小テストや課題テスト																			

科目名	民事訴訟法応用講義	科目名 (英文)	Advanced Civil Procedure
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	萩原 佐織
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3102a0		

授業概要・目的	民法等により認められた権利が害され、私人間に紛争が生じた場合、その紛争解決手段として用いられるのが民事訴訟手続である。当該講義は、紛争解決手段としての民事訴訟手続につき、前期の民事訴訟法で学んだ知識をもとに、それらを発展・応用する能力を培うことを目的とする。 紛争の対象として取り扱うのが民法上の権利であるため、民法全般の復習・発展に役立つ。 また、「実体法である民法」と「手続法である民事訴訟法」を含めた『民事法』としての総合的理解を図り、それらの知識を深めることを、目的とする。			
到達目標	前期の民事訴訟法では、民事法の中における民事訴訟法が果たす役割や民事裁判の全体的な流れについて学んだ。そこでは、当事者（原告・被告）がともに単数（1 人）であることを前提としていたが、本講義を通じて学生には、当事者の一方または双方が複数人である多数当事者訴訟についても学び、例えば新聞等でもよく耳にする団体訴訟等についてその仕組みと機能について理解を深めることが期待される。 また、判決の効力、証明責任や証拠提出命令、家庭紛争（家事審判・調停・人事訴訟）など、前期の民事訴訟法では触れられなかったテーマについても掘り下げ、それぞれの手続が、どのような機能と役割を担っているのか、実際の事案に即して考察し、民事訴訟手続に関する理解を深めることが記載される。			
授業方法と留意点	【事前準備・事前学習】 ①毎回 Teams の講義日付チャネルに各回の講義内容・参照資料や動画等が記載されているので、それを参照して各自で予習すること ②講義は、事前に Teams 上にアップされているレジュメ（約 10 頁：より具体的に理解するため「判例教室」としての判例を含む）をプリントアウトし、六法を用いて行う。 分かり易いようにレジュメはカラーにしてあるが、白黒で印刷しても構わない。 毎回、レジュメでは、主要箇所が括弧空けにされているので、事前学習としてレジュメ・教科書等の該当箇所や関連判例を読み			
科目学習の効果（資格）	・紛争解決手段である民事訴訟手続のしくみが理解できるようになる。 ・大学院ならびに法科大学院等への進学、裁判所職員（事務官・書記官）、司法書士、法検スタンダードコースなどの受験に対応できる知識・応用力を養う。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	・ガイダンス ・現在の裁判	・授業の進め方、受講上の注意、評価方法等について ・現在の裁判における状況 ・時事問題	【事前学習】①毎回 Teams の講義日付チャネルに各回の講義内容・参照資料や動画等が記載されているので、それを参照して各自で予習すること（以下同様）、②Teams からレジュメをダウンロード・プリントアウトして読む。予めプリントアウトしたレジュメを講義に持参すること（以下同様）、③教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配付資料・クイズ等の復習 （事前事後学習に要する時間 各2時間、以下同様）
	2	・民事訴訟の基本原則 ・訴訟の終了	・当事者の処分権主義 ・弁論主義 ・訴えの取下げ ・請求の放棄/認諾 ・訴訟上の和解	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Teams の講義日付チャネルにある Forms クイズに回答し送信すること（以下同様）、④判例：レジュメ末尾にある「判例教室」の事案を読み争点・相関関係等を理解すること（以下同様）、⑤教科書 第1編 第2章、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題を行い提出（以下同様）、③講義内等でなされるフィードバックに基づく前回小テスト・課題の復習（以下同様）、④講義で学んだ判例解説を判例百選等で読み込
	3	証拠 I ・自由心証主義 ・文書提出命令	・自由心証主義とは？ ・文書提出命令	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、（各2時間）
	4	証拠 II ・立証困難の克服 ・証明がつかないときはどうなるのか？	・相当な損害額の認定 ・証明責任とは何か？ ・証明責任の分配 ・証明責任の転換	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、（各2時間）
	5	判決 I ・判決の効力とは？	・既判力とは？ ・既判力の作用	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、（各2時間）

	6	判決Ⅱ ・どの時点を基準にするか？	・基準時 ・既判力の時的限界	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)
	7	判決Ⅲ ・判決の効力は何に対して及ぶか？	・訴訟物による限界 ・既判力の客観的範囲 ・相殺の抗弁 ・争点効	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)
	8	判決Ⅳ ・判決の効力は誰に対して及ぶか？	・既判力の及ぶ人の範囲 ・既判力の主観的範囲 ・口頭弁論終了後の承継人 ・反射効	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)
	9	判決Ⅴ ・一部請求 ・一部判決	・全部請求と一部請求 ・一部請求判決と残部請求 ・全部判決と一部判決 ・後遺症との関係(標準事後の事情変更)	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)
	10	複数請求訴訟 ・訴訟物論と請求権競合	・単純併合 ・予備的/選択的併合 ・訴えの変更 ・反訴 ・中間確認の訴え	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)
	11	複数当事者訴訟Ⅰ ・当事者の交替 ・訴訟承継	・当然承継 ・参加承継/引受承継 ・任意的当事者変更	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)
	12	複数当事者訴訟Ⅱ ・当事者が多数となる訴訟	・通常共同訴訟 ・必要的共同訴訟 ・主観的追加的/予備的併合 ・同時審判申出訴訟	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)
	13	複数当事者訴訟Ⅲ ・当事者以外が関与する訴訟	・補助参加 ・訴訟告知	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)
	14	複数当事者訴訟Ⅳ ・第三者による当事者としての訴訟参加	・独立当事者参加	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)
	15	まとめ	・復習 ・時事問題 ・最新のテーマ/判例	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)
関連科目	民法全般、民事訴訟法、民事保全・執行法、倒産法、国際私法、国際取引法			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	有斐閣ストゥディア 民事訴訟法〔第3版〕	安西・安達・村上・畑	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民事訴訟法 判例百選〔第5版〕	高橋・高田・畑編	有斐閣
	2			
	3			
評価方法 (基準)	1回につき約10点(慣れるまでは前半・後半で約5点ずつ)のForms小テストを約10回、講義後にTeams上にて課す。 期末試験は行わない。 講義内容に基づき、小テストに代え、記述式課題等を課す場合がある。			
学生への メッセージ	紛争解決手段である民事訴訟手続を学ぶことで、既に学んだ民法全般の知識をリフレッシュさせてください。			
担当者の 研究室等	11号館9階 萩原准教授室			
備考				

科目名	刑法応用講義Ⅰ	科目名（英文）	Advanced Criminal LawⅠ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎、DP3◎、DP4◎、DP5◎、DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3103a0		

授業概要・目的	本科目は２回生前期配当の刑法ⅠＡ（総論①）の続編である。 刑法ⅠＡ（総論①）で取り扱うことができなかった応用的論点（修正された構成要件論）について、最新の判例と学説動向を踏まえながら解説を行う。また、こうした問題をテーマにした公務員試験（裁判所事務官・労働基準監督官・地方公務員）、司法書士および司法試験等の客観式問題を確実に正解できる力を身につけてもらうことを目的とする。
到達目標	この講義を通じて学生には、 「・未遂犯および共犯の処罰根拠を説明できる ・刑法総論をテーマとした事例における論点（問題の争点）を抽出し、それに対する判例や通説的見解の内容を説明できる ・各種公務員試験や国家試験で必要とされる刑法総論に関する知識を修得できる」 ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICT ツールとして Microsoft 社の teams を用いる。 ・課題提示や資料配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 留意点：毎回出席することで、問題を解く際の頭の働
科目学習の効果（資格）	司法試験や法科大学院入学試験の準備、裁判所事務官・労働基準監督官・地方公務員採用試験など。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	講義の進め方の説明	教科書の入手 事前：教科書の単独正犯に関する構成要件論をあらかじめ読むこと（２時間） 事後：教科書の単独正犯に関する章末問題を解くこと（２時間）
	2	未遂犯	予備犯と未遂犯 未遂犯の処罰根拠 実行の着手	事前：障害未遂をあらかじめ読むこと（２時間） 事後：障害未遂を見直し、章末問題を解くこと（２時間）
	3	不能犯	不能犯をめぐる近時の判例・学説動向	事前：不能犯をあらかじめ読むこと（２時間） 事後：不能犯を見直し、章末問題を解くこと（２時間）
	4	中止未遂	中止未遂をめぐる近時の判例・学説動向	事前：中止未遂をあらかじめ読むこと（２時間） 事後：中止未遂を見直し、章末問題を解くこと（２時間）
	5	共犯の基礎	狭義の共犯と広義の共犯 共犯の処罰根拠 共犯の従属性	事前：共犯の処罰根拠論をあらかじめ読むこと（２時間） 事後：共犯の処罰根拠論を見直し、章末問題を解くこと（２時間）
	6	共同正犯 1	実行共同正犯	事前：実行共同正犯をあらかじめ読むこと（２時間） 事後：実行共同正犯を見直し、章末問題を解くこと（２時間）
	7	共同正犯 2	共謀共同正犯	事前：共謀共同正犯をあらかじめ読むこと（２時間） 事後：共謀共同正犯を見直し、章末問題を解くこと（２時間）
	8	共同正犯 3	過失の共同正犯	事前：過失の共同正犯をあらかじめ読むこと（２時間） 事後：過失の共同正犯を見直し、章末問題を解くこと（２時間）
	9	教唆犯と幫助犯	狭義の共犯をめぐる近時の学説・判例動向	事前：教唆犯と幫助犯をあらかじめ読むこと（２時間） 事後：教唆犯と幫助犯を見直し、章末問題を解くこと（２時間）
	10	共犯をめぐる諸問題 1	片面的共犯と承継的共犯をめぐる近時の学説・判例動向	事前：片面的共犯と承継的共犯をあらかじめ読むこと（２時間） 事後：片面的共犯と承継的共犯を見直し、章末問題を解くこと（２時間）
	11	共犯をめぐる諸問題 2	共犯関係からの離脱・共犯の中止犯をめぐる近時の学説・判例動向	事前：共犯からの離脱と共犯の中止をあらかじめ読むこと（２時間） 事後：共犯からの離脱と共犯の中止を見直し、章末問題を解くこと（２時間）
	12	共犯をめぐる諸問題 3	共犯の錯誤、共犯と緊急行為をめぐる近時の学説・判例動向	事前：共犯の錯誤をあらかじめ読むこと（２時間） 事後：共犯の錯誤を見直し、章末問題を解くこと（２時間）
	13	共犯と身分	共犯と身分をめぐる近時の学説・判例動向	事前：共犯と身分をあらかじめ読むこと（２時間） 事後：共犯と身分を見直し、章末問題を解くこと（２時間）
	14	罪数	一罪と数罪 法条競合 包括一罪 科刑上一罪 併合罪	事前：罪数論をあらかじめ読むこと（２時間） 事後：罪数論を見直し、章末問題を解くこと（２時間）
	15	講義のまとめ	重要事項の総復習	事前：未遂犯論と共犯論をあらかじめ読むこと（２時間） 事後：未遂犯論と共犯論を見直し、章末問題を解く

	こと（2 時間）																			
関連科目	刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策、現代社会と刑事法など																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>刑法総論の基礎と応用</td><td>佐久間修</td><td>成文堂</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	刑法総論の基礎と応用	佐久間修	成文堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	刑法総論の基礎と応用	佐久間修	成文堂																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td>判例集および補助教材について開講時に指示する</td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2	判例集および補助教材について開講時に指示する			3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2	判例集および補助教材について開講時に指示する																			
3																				
評価方法 （基準）	・形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft forms から課題を配信する。各回の課題の得点を合算して評価対象とする（講義の理解度 5%＋課題の得点 95%）。定期試験は実施しない。																			
学生への メッセージ	・刑法が好きな学生や上記各種試験等の準備を要する学生の履修を歓迎する。ただし、少なくとも刑法総論については単位取得または同時履修しておくことが望ましい。																			
担当者の 研究室等	11 号館 10 階 小野教授室																			
備考	本講義は、オンデマンド動画配信による授業を数回程度行うことがあります。 オンデマンド動画配信による授業の際には、事前に teams の授業チャンネルで告知するとともに、teams アプリより通知をします。																			

科目名	刑法応用講義Ⅱ	科目名（英文）	Advanced Criminal Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3104a0		

授業概要・目的	2 回生後期配当の刑法各論において十分に時間を割いて取り扱うことができなかった応用的論点（財産犯論）について、最新の判例と学説動向を踏まえながら解説を行うとともに、こうした問題をテーマにした公務員試験（裁判所事務官・労働基準監督官・地方公務員）、司法書士および司法試験等の客観式問題を確実に正解できる力を身につけてもらうことを目的とする。
到達目標	この講義を通じて学生には、 「・各種の財産犯について、その共通点と相違点を説明できる ・財産犯をテーマとした事例における論点（問題の争点）を抽出し、それに対する判例や通説的見解の内容を説明できる ・各種公務員試験や国家試験で必要とされる財産犯に関する知識を修得できる」 ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICT ツールとして Microsoft 社の teams を用いる。 ・課題提示や資料配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 ・近時、刑事法の改正が相次いでいるので、最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を
科目学習の効果（資格）	司法試験や法科大学院入学試験の準備、裁判所事務官・労働基準監督官・地方公務員採用試験など。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	講義の進め方の説明	初回までに教科書を入手しておくこと。 事前：刑法各論の概要と保護法益論をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：刑法各論の概要と保護法益論を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
	2	財産犯総論	財産犯の分類 財物の意義 財産上の利益	事前：財産犯総論をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：財産犯総論を見直し、関連問題を解くこと（2 時間）
	3	窃盗罪 1	窃取の意義	事前：窃取の意義をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：窃取の意義を見直し、関連問題を解くこと（2 時間）
	4	窃盗罪 2	不法領得の意思 窃盗罪をめぐる近時の判例・学説動向	事前：不法領得の意思をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：不法領得の意思を見直し、関連問題を解くこと（2 時間）
	5	強盗罪 1	強盗の要件	事前：強盗の要件論をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：強盗の要件論を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
	6	強盗罪 2	事後強盗をめぐる近時の学説・判例動向	事前：事後強盗をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：事後強盗を見直し、関連問題を解くこと（2 時間）
	7	強盗罪 3	強盗殺人・強盗致死罪ほか	事前：強盗殺人をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：強盗殺人を見直し、関連問題を解くこと（2 時間）
	8	詐欺罪 1	詐欺罪の要件	事前：詐欺罪の要件論をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：詐欺罪の要件論を見直し、関連問題を解くこと（2 時間）
	9	詐欺罪 2	詐欺罪をめぐる近時の学説・判例動向	事前：詐欺罪の学説動向をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：詐欺罪の学説動向を見直し、関連問題を解くこと（2 時間）
	10	恐喝罪	恐喝罪をめぐる近時の学説・判例動向	事前：恐喝罪の要件をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：恐喝罪の要件を見直し、関連問題を解くこと（2 時間）
	11	横領罪	横領罪をめぐる近時の学説・判例動向	事前：横領罪の要件をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：横領罪の要件を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
	12	背任罪	背任罪をめぐる近時の学説・判例動向	事前：背任罪の要件をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：背任罪の要件を見直し、関連問題を解くこと（2 時間）
	13	横領と背任の区別	背任罪をめぐる近時の学説・判例動向 横領と背任の区別	事前：横領と背任の区別をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：横領と背任区別を見直し、関連問題を解くこと（2 時間）
	14	盗品等関与罪 器物損壊罪ほか	盗品等関与罪をめぐる近時の学説・判例動向	事前：盗品等関与罪をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：盗品等関与罪を見直し、関連問題を解くこと（2 時間）
	15	まとめ	重要事項の総復習	事前：財産犯論全体をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：財産犯論全体を見直し、関連問題を解くこと（2 時間）
関連科目	・刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策、現代社会と刑事法など ・財産犯の理解には、民法の知識が必要である。 とくに、典型担保、非典型担保、債権総論、契約法、不当利得については本学で開講されている民法諸科目を履修していることが望ましい。			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	刑法基本講義 総論・各論（第3版補訂版）	佐久間修＝橋本正博＝上寫一高	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	開講時に説明する		
	2			
	3			
評価方法 （基準）	・形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft forms から課題を配信する。各回の課題の得点を合算して評価対象とする（講義の理解度 5%＋課題の得点 95%）。定期試験は実施しない。			
学生への メッセージ	・刑法が好きな学生や上記各種試験等の準備を要する学生の履修を歓迎する。ただし、少なくとも刑法各論については単位取得または同時履修しておくことが望ましい。			
担当者の 研究室等	11 号館 10 階 小野教授室			
備考	本講義は、オンデマンド動画配信による授業を数回程度行うことがあります。 オンデマンド動画配信による授業の際には、事前に teams の授業チャンネルで告知するとともに、teams アプリより通知をします。			

科目名	刑事訴訟法応用講義	科目名（英文）	Advanced Criminal Procedure
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	島田 良一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3105a0		

授業概要・目的	本授業では、我が国の刑事手続のうち公判・証拠法に関する部分について、学説・判例の動向を踏まえながら解説する。一般的に、新聞やテレビ、インターネットのウェブサイト等が刑事事件・刑事裁判について報じる際、捜査機関あるいは犯罪被害者の視点で報じられることが多いと思われるが、本授業においては、刑事訴訟法が「公共の福祉の維持と個人の基本的人権の保障とを全うしつつ、事案の真相を明らかにし、刑罰法令を適正且つ迅速に適用実現する」ことをその目的としていることにも鑑み、捜査機関のみならず被疑者・被告人あるいは裁判所・裁判官、さらには裁判員の視点にも立った解説を行う予定である。																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、我が国の刑事手続（公判・証拠法）に関する専門的知識を修得することが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	教科書及び配布レジュメに基づいて授業を進めていく。																																																																		
科目学習の効果（資格）	司法試験、法科大学院入学試験、裁判所事務官採用試験、法学検定など。																																																																		
授業計画	<table> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> <tr> <td>1</td><td>ガイダンス</td><td>授業の進め方、刑事訴訟法・刑事手続の概要などについて</td><td>配布レジュメを見直すこと（約1時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>公判手続①</td><td>公判手続の概要について</td><td>配布レジュメおよび教科書の該当部分（156～184頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>公判手続②</td><td>公判準備について</td><td>配布レジュメおよび教科書の該当部分（156～184頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>証拠法総論</td><td>証拠法の概要、関連性について</td><td>配布レジュメおよび教科書の該当部分（185～197頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>自白法則①</td><td>自白の証拠能力について</td><td>配布レジュメおよび教科書の該当部分（197～217頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>自白法則②</td><td>前回の続き</td><td>配布レジュメおよび教科書の該当部分（197～217頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>伝聞法則①</td><td>伝聞証拠の証拠能力について</td><td>配布レジュメおよび教科書の該当部分（217～228頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>伝聞法則②</td><td>伝聞例外について</td><td>配布レジュメおよび教科書の該当部分（228～249頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>伝聞法則③</td><td>前回の続き</td><td>配布レジュメおよび教科書の該当部分（228～249頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>違法収集証拠排除法則①</td><td>違法収集証拠の証拠能力について</td><td>配布レジュメおよび教科書の該当部分（249～254頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>違法収集証拠排除法則②</td><td>前回の続き</td><td>配布レジュメおよび教科書の該当部分（249～254頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>裁判①</td><td>裁判の種類、事実認定について</td><td>配布レジュメおよび教科書の該当部分（255～262頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>裁判②</td><td>上訴、非常救済について</td><td>配布レジュメおよび教科書の該当部分（262～273頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>裁判③</td><td>簡易な手続、裁判員制度について</td><td>配布レジュメおよび教科書の該当部分（273～279頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ</td><td>重要論点の確認</td><td>配布レジュメおよび教科書の該当部分を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）</td></tr> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の進め方、刑事訴訟法・刑事手続の概要などについて	配布レジュメを見直すこと（約1時間）	2	公判手続①	公判手続の概要について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（156～184頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）	3	公判手続②	公判準備について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（156～184頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）	4	証拠法総論	証拠法の概要、関連性について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（185～197頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）	5	自白法則①	自白の証拠能力について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（197～217頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）	6	自白法則②	前回の続き	配布レジュメおよび教科書の該当部分（197～217頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）	7	伝聞法則①	伝聞証拠の証拠能力について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（217～228頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）	8	伝聞法則②	伝聞例外について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（228～249頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）	9	伝聞法則③	前回の続き	配布レジュメおよび教科書の該当部分（228～249頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）	10	違法収集証拠排除法則①	違法収集証拠の証拠能力について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（249～254頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）	11	違法収集証拠排除法則②	前回の続き	配布レジュメおよび教科書の該当部分（249～254頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）	12	裁判①	裁判の種類、事実認定について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（255～262頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）	13	裁判②	上訴、非常救済について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（262～273頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）	14	裁判③	簡易な手続、裁判員制度について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（273～279頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）	15	まとめ	重要論点の確認	配布レジュメおよび教科書の該当部分を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の進め方、刑事訴訟法・刑事手続の概要などについて	配布レジュメを見直すこと（約1時間）																																																																
2	公判手続①	公判手続の概要について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（156～184頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）																																																																
3	公判手続②	公判準備について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（156～184頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）																																																																
4	証拠法総論	証拠法の概要、関連性について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（185～197頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）																																																																
5	自白法則①	自白の証拠能力について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（197～217頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）																																																																
6	自白法則②	前回の続き	配布レジュメおよび教科書の該当部分（197～217頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）																																																																
7	伝聞法則①	伝聞証拠の証拠能力について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（217～228頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）																																																																
8	伝聞法則②	伝聞例外について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（228～249頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）																																																																
9	伝聞法則③	前回の続き	配布レジュメおよび教科書の該当部分（228～249頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）																																																																
10	違法収集証拠排除法則①	違法収集証拠の証拠能力について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（249～254頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）																																																																
11	違法収集証拠排除法則②	前回の続き	配布レジュメおよび教科書の該当部分（249～254頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）																																																																
12	裁判①	裁判の種類、事実認定について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（255～262頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）																																																																
13	裁判②	上訴、非常救済について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（262～273頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）																																																																
14	裁判③	簡易な手続、裁判員制度について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（273～279頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）																																																																
15	まとめ	重要論点の確認	配布レジュメおよび教科書の該当部分を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）																																																																
関連科目	刑事訴訟法Ⅰ、刑法総論、刑法各論、法律学特修特別講義Ⅳ など																																																																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td>刑事訴訟法</td><td>池田公博・笹倉宏紀</td><td>有斐閣</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	刑事訴訟法	池田公博・笹倉宏紀	有斐閣	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	刑事訴訟法	池田公博・笹倉宏紀	有斐閣																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td>入門刑事手続法（第9版）</td><td>三井誠・酒巻匡</td><td>有斐閣</td></tr> <tr> <td>2</td><td>リーガルクエスト刑事訴訟法（第2版）</td><td>宇藤崇・松田岳士・堀江慎司</td><td>有斐閣</td></tr> <tr> <td>3</td><td>刑事訴訟法判例集</td><td>松田岳士・宮木康博</td><td>有斐閣</td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	入門刑事手続法（第9版）	三井誠・酒巻匡	有斐閣	2	リーガルクエスト刑事訴訟法（第2版）	宇藤崇・松田岳士・堀江慎司	有斐閣	3	刑事訴訟法判例集	松田岳士・宮木康博	有斐閣																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	入門刑事手続法（第9版）	三井誠・酒巻匡	有斐閣																																																																
2	リーガルクエスト刑事訴訟法（第2版）	宇藤崇・松田岳士・堀江慎司	有斐閣																																																																
3	刑事訴訟法判例集	松田岳士・宮木康博	有斐閣																																																																
評価方法（基準）	期末試験（80％）、小テスト（20％）																																																																		
学生へのメッセージ	刑事訴訟法では、捜査・公判における現実の「場面」が問題となることから、そうした「場面」において、もし自分が警察官・検察官だったら、裁判官だったら、あるいは被疑者・被告人・弁護人だったらどう考えるか、それぞれの視点に立って考えてみることをお勧めする。																																																																		
担当者の研究室等	11 号館 9 階 島田准教授室																																																																		
備考	六法は必携（ただし、パソコン、スマホ等によって e-gov による法令検索が利用できるのであればそれでも可）。																																																																		

科目名	地域政策応用講義Ⅱ（地方政策論）	科目名（英文）	Regional Policy Application Lecture II (Local Policy Theory)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	増田 知也
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3111a0		

授業概要・目的	この授業は、「住民自治」をキーワードに、地域政策を実践的に学ぶための科目です。地方自治の現場における様々な事例を取り上げ、関連する知識と共に、常に住民を主体に考えるという視点を身につけてもらいたいと思います。
到達目標	この授業を通じて学生には、地域政策における重要用語の意味を説明することができ、住民自治の視点から地域政策を分析することができ、地域政策についての自分の意見を持ち、他者と討議することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	ABD（Active Book Dialogue）の手法を用いて、グループごとに分担して文献を要約し、発表し合う。 その後、穴埋め式のレジュメを配布し、解説を行う。 授業後に小テストを実施し、次の回の冒頭に解説と質問への回答を行う。
科目学習の効果（資格）	将来公務員を目指す学生が地域政策の課題や重要概念について学ぶことができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	地方自治に未来はあるか	内容: 民主主義国家における地方自治の役割を学ぶ 方法: 「授業方法と留意点」を参照	事前: 『地方自治と民主主義』第 1 章を読む (2 時間) 事後: 確認テストの内容について復習する (2 時間)
	2	日本国憲法と地方自治	内容: 日本国憲法における地方自治の位置づけを学ぶ 方法: 「授業方法と留意点」を参照	事前: 『地方自治と民主主義』第 2 章を読む (2 時間) 事後: 確認テストの内容について復習する (2 時間)
	3	望まれる地方公務員像	内容: 地方公務員制度の課題について学ぶ 方法: 「授業方法と留意点」を参照	事前: 『地方自治と民主主義』第 23 章を読む (2 時間) 事後: 確認テストの内容について復習する (2 時間)
	4	地方自治に未来をあらしめるために	内容: 地方自治の課題について学ぶ 方法: 「授業方法と留意点」を参照	事前: 『地方自治と民主主義』第 24 章を読む (2 時間) 事後: 確認テストの内容について復習する (2 時間)
	5	私たちと地方自治	内容: 地方自治の分析視点を学ぶ 方法: 「授業方法と留意点」を参照	事前: 『地方自治を問いなおす』序章を読む (2 時間) 事後: 確認テストの内容について復習する (2 時間)
	6	地方自治とコミュニティ・ソリューション	内容: コミュニティによる問題解決の手法を学ぶ 方法: 「授業方法と留意点」を参照	事前: 『地方自治を問いなおす』第 1 章を読む (2 時間) 事後: 確認テストの内容について復習する (2 時間)
	7	迷惑施設問題と手続き的公正	内容: 迷惑施設問題について学ぶ 方法: 「授業方法と留意点」を参照	事前: 『地方自治を問いなおす』第 2 章を読む (2 時間) 事後: 確認テストの内容について復習する (2 時間)
	8	グローバル化社会における地方自治	内容: グローバル化の地方自治への影響について学ぶ 方法: 「授業方法と留意点」を参照	事前: 『地方自治を問いなおす』第 3 章を読む (2 時間) 事後: 確認テストの内容について復習する (2 時間)
	9	行政現場における政策形成過程と施策形成過程	内容: 政策形成過程について学ぶ 方法: 「授業方法と留意点」を参照	事前: 『地方自治を問いなおす』第 4 章を読む (2 時間) 事後: 確認テストの内容について復習する (2 時間)
	10	自治体行政と協働	内容: 自治体組織における協働の課題について学ぶ 方法: 「授業方法と留意点」を参照	事前: 『地方自治を問いなおす』第 5 章を読む (2 時間) 事後: 確認テストの内容について復習する (2 時間)
	11	地域住民協議会の運営と展望	内容: 地域自治組織の運営上の課題について学ぶ 方法: 「授業方法と留意点」を参照	事前: 『地方自治を問いなおす』第 6 章を読む (2 時間) 事後: 確認テストの内容について復習する (2 時間)
	12	住民自治と地域活動	内容: 地域活動の課題について学ぶ 方法: 「授業方法と留意点」を参照	事前: 『地方自治を問いなおす』第 7 章を読む (2 時間) 事後: 確認テストの内容について復習する (2 時間)
	13	住民自治を支える公民館運営	内容: 地方自治における公民館の役割について学ぶ 方法: 「授業方法と留意点」を参照	事前: 『地方自治を問いなおす』第 8 章を読む (2 時間) 事後: 確認テストの内容について復習する (2 時間)
	14	住民自治と行政相談委員	内容: 行政相談委員が地方自治に与える影響について学ぶ 方法: 「授業方法と留意点」を参照	事前: 『地方自治を問いなおす』第 9 章を読む (2 時間) 事後: 確認テストの内容について復習する (2 時間)
	15	地方自治を問いなおす	内容: これからの地方自治を展望する方法: 「授業方法と留意点」を参照	事前: 『地方自治を問いなおす』終章を読む (2 時間) 事後: 確認テストの内容について復習する (2 時間)

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地方自治を問いなおす：住民自治の実践がひらく新地平	今川晃	法律文化社
	2	地方自治と民主主義	佐藤竺	大蔵省印刷局
	3			
評価方法（基準）	小テスト 50%、期末レポート 50%			

学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	11 号館 10 階 増田准教授室
備考	

科目名	スポーツ政策論	科目名 (英文)	Sports Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3113a0		

授業概要・目的	現代社会におけるスポーツの意義やスポーツ（振興）政策の立案過程を踏まえたうえで、スポーツと政策との関係について理解を深める。同時に、法・政策に対する体系的な理解の一助とする。																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、スポーツ（振興）政策が担う社会的役割に関する知見を獲得することが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	教科書は特に用いないが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するため、および事前・事後の学習のために ICT ツールを活用していただく場合もあります。対面による授業を原則とします。																																																																		
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者養成に関する科目である。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ガイダンス</td><td>スポーツ政策とは</td><td>スポーツ政策という概念を整理する。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>スポーツ政策の概念</td><td>スポーツ政策の目的、意義</td><td>関連資料に目を通す。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>スポーツ政策の体系</td><td>スポーツ政策の体系</td><td>配布資料の理解。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>スポーツ政策の立案者</td><td>スポーツ政策を立案する組織・団体、習熟度の確認</td><td>スポーツ組織を立案する組織・団体を抜粋し整理する。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>スポーツ活動の意義、その促進とスポーツ政策（1）</td><td>社会の中のスポーツ、スポーツの社会的意義（健康の維持増進、地域振興など）、歴史的変遷（オリンピック、フェアプレー精神、スポーツフォーオール）</td><td>スポーツの社会的意義を整理する。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>スポーツ活動の意義、その促進とスポーツ政策（2）</td><td>わが国におけるスポーツ振興施策、学校でのスポーツ活動の発展を促すスポーツ政策</td><td>関連資料に目を通す。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>スポーツ活動の意義、その促進とスポーツ政策（3）</td><td>わが国におけるスポーツ振興施策、文化としてのスポーツ・健康の維持増進とスポーツ政策</td><td>配布資料を理解する。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>スポーツ活動の意義、その促進とスポーツ政策（4）</td><td>わが国におけるスポーツ振興施策、生活の質向上とスポーツ政策</td><td>わが国におけるスポーツ政策の特徴を体系づける。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>スポーツ活動の意義、その促進とスポーツ政策（5）</td><td>世界のスポーツ振興政策</td><td>わが国と諸外国のスポーツ政策上の特徴の理解を深める</td></tr> <tr> <td>10</td><td>スポーツ活動の意義、その促進とスポーツ政策（6）、これまでの講義のまとめ</td><td>世界のスポーツ事情と日本のスポーツ振興施策、およびこれまでの習熟度確認</td><td>前 5 回の講義と今回とを関連づけて整理する。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>競技力の向上とスポーツ政策（1）</td><td>国威発揚としての国際競技力の向上政策</td><td>関連資料に目を通す。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>競技力の向上とスポーツ政策（2）</td><td>国内の連帯促進と国際競技力の向上政策</td><td>前回の講義と関連づけて整理する。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>社会化促進のためのスポーツ政策</td><td>社会への組み入れを促すためのスポーツ政策</td><td>配布資料の理解。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>社会的平等とスポーツ政策</td><td>社会的平等を促進するためのスポーツ政策</td><td>関連資料に目を通す。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>講義の総括と習熟度の検査</td><td>講義全体の総括と習熟度確認試験</td><td>これまでの講義を体系立てて復習する</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	スポーツ政策とは	スポーツ政策という概念を整理する。	2	スポーツ政策の概念	スポーツ政策の目的、意義	関連資料に目を通す。	3	スポーツ政策の体系	スポーツ政策の体系	配布資料の理解。	4	スポーツ政策の立案者	スポーツ政策を立案する組織・団体、習熟度の確認	スポーツ組織を立案する組織・団体を抜粋し整理する。	5	スポーツ活動の意義、その促進とスポーツ政策（1）	社会の中のスポーツ、スポーツの社会的意義（健康の維持増進、地域振興など）、歴史的変遷（オリンピック、フェアプレー精神、スポーツフォーオール）	スポーツの社会的意義を整理する。	6	スポーツ活動の意義、その促進とスポーツ政策（2）	わが国におけるスポーツ振興施策、学校でのスポーツ活動の発展を促すスポーツ政策	関連資料に目を通す。	7	スポーツ活動の意義、その促進とスポーツ政策（3）	わが国におけるスポーツ振興施策、文化としてのスポーツ・健康の維持増進とスポーツ政策	配布資料を理解する。	8	スポーツ活動の意義、その促進とスポーツ政策（4）	わが国におけるスポーツ振興施策、生活の質向上とスポーツ政策	わが国におけるスポーツ政策の特徴を体系づける。	9	スポーツ活動の意義、その促進とスポーツ政策（5）	世界のスポーツ振興政策	わが国と諸外国のスポーツ政策上の特徴の理解を深める	10	スポーツ活動の意義、その促進とスポーツ政策（6）、これまでの講義のまとめ	世界のスポーツ事情と日本のスポーツ振興施策、およびこれまでの習熟度確認	前 5 回の講義と今回とを関連づけて整理する。	11	競技力の向上とスポーツ政策（1）	国威発揚としての国際競技力の向上政策	関連資料に目を通す。	12	競技力の向上とスポーツ政策（2）	国内の連帯促進と国際競技力の向上政策	前回の講義と関連づけて整理する。	13	社会化促進のためのスポーツ政策	社会への組み入れを促すためのスポーツ政策	配布資料の理解。	14	社会的平等とスポーツ政策	社会的平等を促進するためのスポーツ政策	関連資料に目を通す。	15	講義の総括と習熟度の検査	講義全体の総括と習熟度確認試験	これまでの講義を体系立てて復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	スポーツ政策とは	スポーツ政策という概念を整理する。																																																																
2	スポーツ政策の概念	スポーツ政策の目的、意義	関連資料に目を通す。																																																																
3	スポーツ政策の体系	スポーツ政策の体系	配布資料の理解。																																																																
4	スポーツ政策の立案者	スポーツ政策を立案する組織・団体、習熟度の確認	スポーツ組織を立案する組織・団体を抜粋し整理する。																																																																
5	スポーツ活動の意義、その促進とスポーツ政策（1）	社会の中のスポーツ、スポーツの社会的意義（健康の維持増進、地域振興など）、歴史的変遷（オリンピック、フェアプレー精神、スポーツフォーオール）	スポーツの社会的意義を整理する。																																																																
6	スポーツ活動の意義、その促進とスポーツ政策（2）	わが国におけるスポーツ振興施策、学校でのスポーツ活動の発展を促すスポーツ政策	関連資料に目を通す。																																																																
7	スポーツ活動の意義、その促進とスポーツ政策（3）	わが国におけるスポーツ振興施策、文化としてのスポーツ・健康の維持増進とスポーツ政策	配布資料を理解する。																																																																
8	スポーツ活動の意義、その促進とスポーツ政策（4）	わが国におけるスポーツ振興施策、生活の質向上とスポーツ政策	わが国におけるスポーツ政策の特徴を体系づける。																																																																
9	スポーツ活動の意義、その促進とスポーツ政策（5）	世界のスポーツ振興政策	わが国と諸外国のスポーツ政策上の特徴の理解を深める																																																																
10	スポーツ活動の意義、その促進とスポーツ政策（6）、これまでの講義のまとめ	世界のスポーツ事情と日本のスポーツ振興施策、およびこれまでの習熟度確認	前 5 回の講義と今回とを関連づけて整理する。																																																																
11	競技力の向上とスポーツ政策（1）	国威発揚としての国際競技力の向上政策	関連資料に目を通す。																																																																
12	競技力の向上とスポーツ政策（2）	国内の連帯促進と国際競技力の向上政策	前回の講義と関連づけて整理する。																																																																
13	社会化促進のためのスポーツ政策	社会への組み入れを促すためのスポーツ政策	配布資料の理解。																																																																
14	社会的平等とスポーツ政策	社会的平等を促進するためのスポーツ政策	関連資料に目を通す。																																																																
15	講義の総括と習熟度の検査	講義全体の総括と習熟度確認試験	これまでの講義を体系立てて復習する																																																																
関連科目	スポーツと法律等																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>リファレンスブック</td><td>日本スポーツ協会</td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	リファレンスブック	日本スポーツ協会		2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	リファレンスブック	日本スポーツ協会																																																																	
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	授業に参加する姿勢（30%）、授業中に出される課題への回答・試験の結果（70%）をもって評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでほしい																																																																		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 石井教授室																																																																		
備考	各回に 1 時間程度、すなわち半期で 15 時間程度を目安に、講義の内容について事前・事後の学習を行ってください。 課題や習熟度確認のための試験の解説は、次の回の授業で行う。 19 年度 合格率 99%（不受験率 2%） A13% B43% C22% D22% 平均 78 点 115 人登録																																																																		

科目名	スポーツビジネスと法	科目名 (英文)	Sports Business and Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3114a0		

授業概要・目的	スポーツはビジネスとも深くかかわっていることから、そこでは法律問題も当然に生じる。 この講義では、そのようなスポーツビジネスに関する法的問題を検討するために、スポーツの意義、各種契約、スポーツを取り巻く環境に関して、民法の視点を中心として確認する予定である。 なお、講義の流れは、民法の流れに沿い、民法総則・契約法・不法行為法などの視点から行う予定であるが、ビジネスの概要を扱うこととなる。
到達目標	この授業を通じて、学生にはスポーツビジネス一般について知識を得て、そこで生じる法律問題を理解し、法的にどのような解決方法があるのかなどを検討できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義で使用するレジュメは Teams でデータ配信するため、個人での印刷が必要である。情報処理室または自宅で印刷すること。 ただし、PC 等を講義で使用することは可能であることから、データ上で書き込み等をする場合は印刷は不要である。 講義は対面方式の教室で行う。出席する予定のない者は採点対象とならないことに注意すること。 なお、Teams に動画を後日アップロードする予定であるが、これはあくまで復習や欠席者用であり、録画の品質等は担保できない。講義で内容を確認すること。
科目学習の効果 (資格)	スポーツ・インストラクター、スポーツ・エージェントなど

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	スポーツビジネスと法律の概要	これまで学んできた法律知識の確認 事前・事後学習は、該当欄および備考欄を確認すること。	これまで学んできた法律科目の内容を確認すること。特に民法に関連する法律を事前に確認し、事後に各種スポーツの種類を講義内容に基づいて整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
	2	自然人とスポーツ①	e スポーツのスポーツ性 性別とスポーツとの関係	事前：民法における人の概念を見直すこと。 事後：性別とスポーツとの関係について、各種競技に基づいて整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
	3	自然人とスポーツ②	障害とスポーツとの関係。	事前：障害を持つ者に対する民法上の制度である制限行為能力者制度の概要を復習すること。 事後：障害者スポーツの競技状況について講義内容に基づいて整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
	4	法人与スポーツ①	スポーツ団体と各種競技の状況	事前：法人および会社制度を、一般法人法と会社法の観点から見直すこと。 事後：各競技団体におけるマネジメントの違いと特徴を、それぞれ対比してその問題点を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
	5	法人与スポーツ②	スポーツ団体の構成とスポンサー	事前：各種団体の組織と会社制度との違いを確認すること。 事後：オリンピックとパラリンピックの組織、ならびに各種スポーツ団体の関係性を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
	6	代理とスポーツ①	プロ野球におけるエージェント制度	事前：民法における代理制度の意義を確認すること。 事後：プロ野球における選手会と球団側の認識の違いを整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
	7	代理とスポーツ②	サッカーにおける仲介人制度	事前：プロ野球におけるエージェント制度の整理をすること。 事後：仲介人がプロ野球の制度とどのように違っているのかを整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
	8	契約とスポーツ①	スポーツにおけるビジネスの形態	事前：契約の成立のかたち、および債務不履行制度一般を確認しておくこと。 事後：伝統的なビジネスの形態と、新たな形態との違いを整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
	9	契約とスポーツ②	スポーツにおける紛争の解決方法	事前：法律上の各種紛争解決手段の違いを整理すること。 事後：CAS および日本の制度について、裁判とどのように異なるのかを整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
	10	契約とスポーツ③	スポーツ競技に関連する物品と規制品	事前：刑事法における各種規制品の状況を確認すること。 事後：規制品と国際的な取引状況の違いを整理すること。

				予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
	11	ビジネスとスポーツ①	スポーツとオリンピックの関係	事前：法人制度とオリンピックの実施団体の内容を確認しておくこと。 事後：オリンピックの発展の歴史とその経営問題を整理しておくこと。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
	12	ビジネスとスポーツ②	スポーツと選手の関係	事前：著作権制度の意義および人格権の内容を確認しておくこと。 事後：選手自身の肖像が、ビジネスの現場でどのように処理されているのかを整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
	13	ビジネスとスポーツ③	選手の有する各種権利とビジネスの関係	事前：民法における不法行為制度一般を確認しておくこと。 事後：パブリシティ県の問題点を、人と物との関係に分けて整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
	14	不法行為とスポーツ	スポーツにおける事故の問題	事前：安全配慮義務と不法行為との関係を整理しておくこと。 事後：学校で発生した事故についてどのように対応されるのかを整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
	15	講義の全体的な復習	これまでの内容を全体的に確認する。	事前：これまでの全体を確認すること。 事後：各種テストの内容を全体的に確認すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。
関連科目	経済学、経営学、憲法、民法、商法、労働法など。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Teamsを使った小テストを行う（70%～80%：講義状況により変化する）。 講義内での小テスト（20～30%：講義状況により変化する）。 自宅で teams 上のテストを回答することは可能であるが、あくまで出席者が採点対象である。また、いかなる理由があれ講義に来ていない者は「欠席者」として扱うことから、その旨を理解のうえ、受講すること。 具体的には、初回等で確認すること。			
学生への メッセージ	スポーツは、自由な人格形成、健康で文化的な生活、余暇のため、重要な役割を演じるものである。 そのようなスポーツを法律との関係を把握し、スポーツの意義を確認すること。 講義の動画はアップロード（講義終了時まで掲載）を行うため、病気等の場合にオンライン上での小テスト等に対応してください。 小テストの解答期間は、日曜日の 23 時 59 分までを予定し、講義後 5 日間ほどの猶予期間を設定しています。 大学は対面講義が原則であることから、各種欠席事由は成績評価にあたっては何らの正当性をもたないということを理解しておいてください。			
担当者の 研究室等	11 号館 9 階 大川准教授室			
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の 3 つから成り立っています。それぞれにつき、90 分を確保して学習をする必要があります。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。 事前・事後学習内容について、講義で出された課題及び指摘部分の内容については、各対応時の講義で確認・解説を行います。 近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。			

科目名	フィットネストレーニングの理論と実際	科目名（英文）	Theory and Practice of Fitness Training
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	伊賀野 大
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ2115a0		

授業概要・目的	スポーツを実践するにあたり年齢や健康状態など様々な条件を有する対象者に対して安全かつ効果的な運動プログラムを提供することが必要とされる。本講義では、運動やスポーツとトレーニング効果を理解し、対象者に合わせた運動処方の理論と実際について学習する。																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には対象者に合わせたスポーツ実践のためのプログラムの作成及び実践指導を習得できるようになることが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	PPTを用いた講義及びトレーニング室などでの実習を行う。 講義資料 teams にて配信をする。必要がある場合、各自で印刷をすること。 講義内容は各自ノートに記入した後、復習をすること。																																																																		
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者資格取得対応科目																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>・講義の評価方法などについて</td><td>シラバスの参照</td></tr> <tr> <td>2</td><td>トレーニングの基礎知識</td><td>・講義の内容を理解する上で必要な知識の確認</td><td>講義ノートを見直す（1 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>トレーニング計画の立案（総論）</td><td>・トレーニングとは ・トレーニングの原理原則</td><td>講義ノートを見直す（1 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>筋力トレーニング</td><td>・筋力トレーニングの効果</td><td>講義ノートを見直す（1 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>筋力トレーニング実習</td><td>・筋力トレーニングを行う</td><td>講義ノートを見直す（1 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>パワー向上トレーニングの理論</td><td>・パワーについて</td><td>講義ノートを見直す（1 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>パワー向上トレーニングの実際</td><td>・パワー向上トレーニングを行う</td><td>講義ノートを見直す（1 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>持久力向上トレーニングの理論</td><td>・持久力について</td><td>講義ノートを見直す（1 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>持久力向上トレーニングの実際</td><td>・持久力向上トレーニングを行う</td><td>講義ノートを見直す（1 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>スピード向上トレーニングの理論</td><td>・スピード向上について</td><td>講義ノートの確認（1 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>スピード向上トレーニングの実際</td><td>・スピード向上トレーニングを行う</td><td>講義ノートを見直す（1 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>柔軟性向上トレーニング及びウォームアップ、クールダウンの理論、</td><td>・柔軟性向上トレーニング及びウォームアップ、クールダウン</td><td>講義ノートを見直す（1 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>特別な対象のためのトレーニング</td><td>・特別な対象のためのトレーニングについて</td><td>講義ノートを見直す（1 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>復習</td><td>・講義内容を復習する</td><td>講義ノートを見直す（1 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>テスト</td><td>・講義内で解答確認をする</td><td>講義ノートを見直す（1 時間）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	・講義の評価方法などについて	シラバスの参照	2	トレーニングの基礎知識	・講義の内容を理解する上で必要な知識の確認	講義ノートを見直す（1 時間）	3	トレーニング計画の立案（総論）	・トレーニングとは ・トレーニングの原理原則	講義ノートを見直す（1 時間）	4	筋力トレーニング	・筋力トレーニングの効果	講義ノートを見直す（1 時間）	5	筋力トレーニング実習	・筋力トレーニングを行う	講義ノートを見直す（1 時間）	6	パワー向上トレーニングの理論	・パワーについて	講義ノートを見直す（1 時間）	7	パワー向上トレーニングの実際	・パワー向上トレーニングを行う	講義ノートを見直す（1 時間）	8	持久力向上トレーニングの理論	・持久力について	講義ノートを見直す（1 時間）	9	持久力向上トレーニングの実際	・持久力向上トレーニングを行う	講義ノートを見直す（1 時間）	10	スピード向上トレーニングの理論	・スピード向上について	講義ノートの確認（1 時間）	11	スピード向上トレーニングの実際	・スピード向上トレーニングを行う	講義ノートを見直す（1 時間）	12	柔軟性向上トレーニング及びウォームアップ、クールダウンの理論、	・柔軟性向上トレーニング及びウォームアップ、クールダウン	講義ノートを見直す（1 時間）	13	特別な対象のためのトレーニング	・特別な対象のためのトレーニングについて	講義ノートを見直す（1 時間）	14	復習	・講義内容を復習する	講義ノートを見直す（1 時間）	15	テスト	・講義内で解答確認をする	講義ノートを見直す（1 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	・講義の評価方法などについて	シラバスの参照																																																																
2	トレーニングの基礎知識	・講義の内容を理解する上で必要な知識の確認	講義ノートを見直す（1 時間）																																																																
3	トレーニング計画の立案（総論）	・トレーニングとは ・トレーニングの原理原則	講義ノートを見直す（1 時間）																																																																
4	筋力トレーニング	・筋力トレーニングの効果	講義ノートを見直す（1 時間）																																																																
5	筋力トレーニング実習	・筋力トレーニングを行う	講義ノートを見直す（1 時間）																																																																
6	パワー向上トレーニングの理論	・パワーについて	講義ノートを見直す（1 時間）																																																																
7	パワー向上トレーニングの実際	・パワー向上トレーニングを行う	講義ノートを見直す（1 時間）																																																																
8	持久力向上トレーニングの理論	・持久力について	講義ノートを見直す（1 時間）																																																																
9	持久力向上トレーニングの実際	・持久力向上トレーニングを行う	講義ノートを見直す（1 時間）																																																																
10	スピード向上トレーニングの理論	・スピード向上について	講義ノートの確認（1 時間）																																																																
11	スピード向上トレーニングの実際	・スピード向上トレーニングを行う	講義ノートを見直す（1 時間）																																																																
12	柔軟性向上トレーニング及びウォームアップ、クールダウンの理論、	・柔軟性向上トレーニング及びウォームアップ、クールダウン	講義ノートを見直す（1 時間）																																																																
13	特別な対象のためのトレーニング	・特別な対象のためのトレーニングについて	講義ノートを見直す（1 時間）																																																																
14	復習	・講義内容を復習する	講義ノートを見直す（1 時間）																																																																
15	テスト	・講義内で解答確認をする	講義ノートを見直す（1 時間）																																																																
関連科目	発育発達論 スポーツプログラミング スポーツ医学の理論と実際 スポーツトレーニングの基礎 体力測定とスポーツ相談 など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>担当で作成の資料</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当で作成の資料			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	担当で作成の資料																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>公認スポーツプログラマー専門科目テキスト</td><td>日本体育施設協会</td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	公認スポーツプログラマー専門科目テキスト	日本体育施設協会		2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	公認スポーツプログラマー専門科目テキスト	日本体育施設協会																																																																	
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	講義内テスト：40% 講義内提出物及び受講態度：60% 合計点数にて判定を行う。																																																																		
学生へのメッセージ	受講学生各位の積極的な学びを期待する。																																																																		
担当者の研究室等	総合体育館 1 階 非常勤講師室																																																																		
備考	教室及びトレーニング室で講義を行う予定です。 屋外での活動も可能性はあります。 実習のみ、講義のみの参加は不可。 各自運動ができる服装、靴、飲料を持参すること。																																																																		

科目名	ヘルスエクササイズの理論と実際	科目名 (英文)	Theory and Practice of Health Exercise
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	瀧 千波
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ2116a0		

授業概要・目的	健康と運動との関わりについて、運動対象者に合わせたエクササイズの理論を理解し、実践を通して学んでいく。 ウォーミングアップの意義や効果を含め、有酸素運動を中心に行い、スポーツ指導の実際に活かす。 また、レクリエーション・スポーツを実践しながらルールを知り、楽しさを実感する。 SDGs-3, 4, 5																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、ヘルスエクササイズの理論と実技を身につけ、プログラム作成と実践指導ができるようになることが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	実技を中心に行い、実践を通して理論について学ぶ。 実技に際しては、運動に適した服装とシューズを着用すること。 水着・水泳帽・ゴーグル等を準備すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	公認スポーツ指導者資格取得対応科目																																																																		
授業計画	<table> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> <tr> <td>1</td><td>授業ガイダンス</td><td>授業の進め方の説明</td><td>特になし</td></tr> <tr> <td>2</td><td>体操・ストレッチング①</td><td>筋コンディショニング、バランストレーニング、動的・静的ストレッチング</td><td>理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業までに提出。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>体操・ストレッチング②</td><td>体幹トレーニング、ヨガ</td><td>理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業までに提出。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>ウォーキング・ジョギング①</td><td>歩行・走行測定・走り方</td><td>理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業までに提出。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>ウォーキング・ジョギング②</td><td>ウォーキングエクササイズ、効率の良い歩き方</td><td>理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業までに提出。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>水泳・水中運動①</td><td>スイムフォームの指導</td><td>理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業までに提出。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>水泳・水中運動②</td><td>ウオーターエクササイズ</td><td>理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業までに提出。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>エアロビックダンス①</td><td>エアロビックダンスについての知識を学ぶ</td><td>実技指導の中で学んだことや反省点についてまとめ、次回授業までに提出。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>エアロビックダンス②</td><td>エアロビックダンス</td><td>実技指導の中で学んだことや反省点についてまとめ、次回授業までに提出。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>レクリエーションスポーツ①</td><td>レクリエーションゲームについての知識を学ぶ</td><td>ルール、実践方法、および実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>レクリエーションスポーツ②</td><td>レクリエーションゲームについての知識を学ぶ</td><td>ルール、実践方法、および実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>レクリエーションスポーツ③</td><td>レクリエーションゲームについての知識を学ぶ</td><td>ルール、実践方法、および実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>レクリエーションスポーツ④</td><td>レクリエーションゲームについての知識を学ぶ</td><td>ルール、実践方法、および実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>レクリエーションスポーツ⑤</td><td>レクリエーションゲームについての知識を学ぶ</td><td>ルール、実践方法、および実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総まとめ</td><td>これまでの内容のまとめテスト</td><td>これまでの内容について総復習</td></tr> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業ガイダンス	授業の進め方の説明	特になし	2	体操・ストレッチング①	筋コンディショニング、バランストレーニング、動的・静的ストレッチング	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業までに提出。	3	体操・ストレッチング②	体幹トレーニング、ヨガ	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業までに提出。	4	ウォーキング・ジョギング①	歩行・走行測定・走り方	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業までに提出。	5	ウォーキング・ジョギング②	ウォーキングエクササイズ、効率の良い歩き方	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業までに提出。	6	水泳・水中運動①	スイムフォームの指導	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業までに提出。	7	水泳・水中運動②	ウオーターエクササイズ	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業までに提出。	8	エアロビックダンス①	エアロビックダンスについての知識を学ぶ	実技指導の中で学んだことや反省点についてまとめ、次回授業までに提出。	9	エアロビックダンス②	エアロビックダンス	実技指導の中で学んだことや反省点についてまとめ、次回授業までに提出。	10	レクリエーションスポーツ①	レクリエーションゲームについての知識を学ぶ	ルール、実践方法、および実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。	11	レクリエーションスポーツ②	レクリエーションゲームについての知識を学ぶ	ルール、実践方法、および実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。	12	レクリエーションスポーツ③	レクリエーションゲームについての知識を学ぶ	ルール、実践方法、および実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。	13	レクリエーションスポーツ④	レクリエーションゲームについての知識を学ぶ	ルール、実践方法、および実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。	14	レクリエーションスポーツ⑤	レクリエーションゲームについての知識を学ぶ	ルール、実践方法、および実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。	15	総まとめ	これまでの内容のまとめテスト	これまでの内容について総復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業ガイダンス	授業の進め方の説明	特になし																																																																
2	体操・ストレッチング①	筋コンディショニング、バランストレーニング、動的・静的ストレッチング	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業までに提出。																																																																
3	体操・ストレッチング②	体幹トレーニング、ヨガ	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業までに提出。																																																																
4	ウォーキング・ジョギング①	歩行・走行測定・走り方	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業までに提出。																																																																
5	ウォーキング・ジョギング②	ウォーキングエクササイズ、効率の良い歩き方	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業までに提出。																																																																
6	水泳・水中運動①	スイムフォームの指導	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業までに提出。																																																																
7	水泳・水中運動②	ウオーターエクササイズ	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業までに提出。																																																																
8	エアロビックダンス①	エアロビックダンスについての知識を学ぶ	実技指導の中で学んだことや反省点についてまとめ、次回授業までに提出。																																																																
9	エアロビックダンス②	エアロビックダンス	実技指導の中で学んだことや反省点についてまとめ、次回授業までに提出。																																																																
10	レクリエーションスポーツ①	レクリエーションゲームについての知識を学ぶ	ルール、実践方法、および実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。																																																																
11	レクリエーションスポーツ②	レクリエーションゲームについての知識を学ぶ	ルール、実践方法、および実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。																																																																
12	レクリエーションスポーツ③	レクリエーションゲームについての知識を学ぶ	ルール、実践方法、および実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。																																																																
13	レクリエーションスポーツ④	レクリエーションゲームについての知識を学ぶ	ルール、実践方法、および実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。																																																																
14	レクリエーションスポーツ⑤	レクリエーションゲームについての知識を学ぶ	ルール、実践方法、および実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。																																																																
15	総まとめ	これまでの内容のまとめテスト	これまでの内容について総復習																																																																
関連科目	スポーツプログラミング、スポーツトレーニングの基礎、発育発達論、フィットネストレーニングの理論と実際、体力測定とスポーツ相談、スポーツ医学の基礎、スポーツ医学の理論と実際																																																																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td>公認スポーツプログラマー専門科目テキスト</td><td></td><td>日本体育施設協会</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	公認スポーツプログラマー専門科目テキスト		日本体育施設協会	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	公認スポーツプログラマー専門科目テキスト		日本体育施設協会																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	単位取得条件は、技能及び平常態度、知的理解度などを総合して判断する。 知識 30%、技能 40%、テスト 30%																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	総合体育館1階																																																																		
備考	事前・事後学習に必要な時間については、60 時間を目安とする。																																																																		

科目名	スポーツ医学の理論と実際	科目名 (英文)	Theory and Practice of Sports Medicine
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	伊賀野 大
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3117a0		

授業概要・目的	運動やスポーツの実施による身体の変化と適応について、医学・運動生理学的アプローチからその基礎を学ぶ。健康管理に必要な理論と実際について理解することを目的とする。
到達目標	運動やスポーツの実践によって健康の維持・増進をはかり、心身共に充実した体力を養いながら、自らの理想とする健康を獲得するための指導・支援・助言ができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	11 回までは講義、それ以降は実習になります。 講義 PPT は適宜 Teams にて配信しますので、必要がある場合は各自印刷をしてください。 ノートに講義内容を書き取る学習方法でも構いません。
科目学習の効果 (資格)	スポーツプログラマーに必要な医学・運動生理学の理解

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	・評価方法について	・授業ノートを見直すこと (1 時間)
	2	体力と身体運動	・体力の分類と各要素の発育・発達 ・筋の分類 ・筋収縮の様式	・授業ノートを見直すこと (1 時間)
	3	筋肉と骨について	・全身の筋肉と骨について	・授業ノートを見直すこと (1 時間)
	4	女性アスリートについて 神経について スポーツ相談について	・女性アスリート特有の問題について ・神経について	・授業ノートを見直すこと (1 時間)
	5	トレーニング方法について ①	・筋力トレーニングについて ・筋持久力トレーニングについて ・全身持久力トレーニングについて ・パワートレーニングについて	・授業ノートを見直すこと (1 時間)
	6	トレーニング方法について ②	・筋力トレーニングについて ・筋持久力トレーニングについて ・全身持久力トレーニングについて ・パワートレーニングについて	・授業ノートを見直すこと (1 時間)
	7	スポーツ医学について①	・怪我の種類について ・応急処置について	・授業ノートを見直すこと (1 時間)
	8	スポーツ医学について②	・リハビリについて	・授業ノートを見直すこと (1 時間)
	9	スポーツ医学について③	・スポーツ医学関連の仕事について	・授業ノートを見直すこと (1 時間)
	10	復習	・講義内容を復習する	・授業ノートを見直すこと (1 時間)
	11	テスト	・10 回までの内容のテストを行う ・授業時間内で解答の確認を行う	・授業ノートを見直すこと (1 時間)
	12	スポーツマッサージ実習①	・簡易的なスポーツマッサージを習得する。 ※受講人数によって内容に変更あり。	・授業ノートを見直すこと (1 時間)
	13	スポーツマッサージ実習②	・簡易的なスポーツマッサージを習得する。 ※受講人数によって内容に変更あり。	・授業ノートを見直すこと (1 時間)
	14	テーピング実習①	・簡易的なテーピング方法を習得する。 ※受講人数によって内容に変更あり。	・授業ノートを見直すこと (1 時間)
	15	テーピング実習②	・簡易的なテーピング方法を習得する。 ※受講人数によって内容に変更あり。	・授業ノートを見直すこと (1 時間)

関連科目	スポーツ医学の基礎 発育発達論 スポーツプログラミング スポーツ医学の理論と実際 スポーツトレーニングの基礎 体力測定とスポーツ相談 フィットネストレーニングの理論と実際 など
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公認スポーツプログラマー 専門科目 テキスト	編集・発行 公益財団法人 日本体育施設協会	印刷・製本 佐藤印刷株式会社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	講義内テスト：30% レポート：50% 授業態度など：20% 合計点で単位判定を行う。
-----------	--

学生へのメッセージ	参加型、双方向性の授業を心がけています。積極的に参加し、体の仕組みと身体運動の科学的理解を深めて下さい。
-----------	--

担当者の 研究室等	総合体育館 1 階 非常勤講師室
備考	

科目名	体力測定とスポーツ相談	科目名（英文）	Physical Fitness Test and Sports Counseling
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	伊賀野 大
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3118a0		

授業概要・目的	社会的な健康志向の高まりにより日常的に運動を行う人が増えているなか、個人の身体能力向上やスポーツ参加時に生まれる悩みや疑問に対して幅広くかつ適切に対応できるようにするための知識を身につける。 運動初心者からアスリートまで多岐にわたり対応できる知識を身につけていく。																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、体力測定の方法と評価の原理を知り、個人の身体サイズや行動体力を把握する能力を身につけられるようになること、またスポーツにかかわる相談事に対応し得る知識と技術を理解し実践できるようになることが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	フィールドワークと座学にて講義を行う。 講義資料は Teams にて配信する。 必要がある場合、各自で印刷すること。 各自講義内容をノートに記入し、学習をすること。																																																																		
科目学習の効果（資格）	日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格取得対応科目																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>・授業概要説明</td><td>・授業ノートを見直すこと（1 時間）</td></tr> <tr><td>2</td><td>体力測定①</td><td>・体力測定の意義と方法について</td><td>・授業ノートを見直すこと（1 時間）</td></tr> <tr><td>3</td><td>体力測定②</td><td>・体力測定を行う</td><td>・授業ノートを見直すこと（1 時間）</td></tr> <tr><td>4</td><td>体力測定③</td><td>・体力測定を行う</td><td>・授業ノートを見直すこと（1 時間）</td></tr> <tr><td>5</td><td>体力測定④</td><td>・体力測定を行う</td><td>・授業ノートを見直すこと（1 時間）</td></tr> <tr><td>6</td><td>体力測定⑤</td><td>・体力測定を行う</td><td>・授業ノートを見直すこと（1 時間）</td></tr> <tr><td>7</td><td>体力測定⑥</td><td>・測定結果の公表 ・データの分析</td><td>・授業ノートを見直すこと（1 時間）</td></tr> <tr><td>8</td><td>スポーツ相談①</td><td>・運動のメカニズム ・運動学習の原理</td><td>・授業ノートを見直すこと（1 時間）</td></tr> <tr><td>9</td><td>スポーツ相談②</td><td>・運動の制御 ・動機づけ ・目標設定</td><td>・授業ノートを見直すこと（1 時間）</td></tr> <tr><td>10</td><td>スポーツ相談③</td><td>・スポーツにおける集団 ・運動とパーソナリティー</td><td>・授業ノートを見直すこと（1 時間）</td></tr> <tr><td>11</td><td>スポーツ相談④</td><td>・スポーツ選手と心理サポート ・スポーツメンタルトレーニング</td><td>・授業ノートを見直すこと（1 時間）</td></tr> <tr><td>12</td><td>スポーツ相談⑤</td><td>・スポーツ障害の心理学 ・バーンアウト</td><td>・授業ノートを見直すこと（1 時間）</td></tr> <tr><td>13</td><td>スポーツ相談⑥</td><td>・スポーツ相談の事例について</td><td>・授業ノートを見直すこと（1 時間）</td></tr> <tr><td>14</td><td>まとめ</td><td>・講義の総括を行う</td><td>・授業ノートを見直すこと（1 時間）</td></tr> <tr><td>15</td><td>テスト</td><td>・講義内にて解答を確認する</td><td>・授業ノートを見直すこと（1 時間）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	・授業概要説明	・授業ノートを見直すこと（1 時間）	2	体力測定①	・体力測定の意義と方法について	・授業ノートを見直すこと（1 時間）	3	体力測定②	・体力測定を行う	・授業ノートを見直すこと（1 時間）	4	体力測定③	・体力測定を行う	・授業ノートを見直すこと（1 時間）	5	体力測定④	・体力測定を行う	・授業ノートを見直すこと（1 時間）	6	体力測定⑤	・体力測定を行う	・授業ノートを見直すこと（1 時間）	7	体力測定⑥	・測定結果の公表 ・データの分析	・授業ノートを見直すこと（1 時間）	8	スポーツ相談①	・運動のメカニズム ・運動学習の原理	・授業ノートを見直すこと（1 時間）	9	スポーツ相談②	・運動の制御 ・動機づけ ・目標設定	・授業ノートを見直すこと（1 時間）	10	スポーツ相談③	・スポーツにおける集団 ・運動とパーソナリティー	・授業ノートを見直すこと（1 時間）	11	スポーツ相談④	・スポーツ選手と心理サポート ・スポーツメンタルトレーニング	・授業ノートを見直すこと（1 時間）	12	スポーツ相談⑤	・スポーツ障害の心理学 ・バーンアウト	・授業ノートを見直すこと（1 時間）	13	スポーツ相談⑥	・スポーツ相談の事例について	・授業ノートを見直すこと（1 時間）	14	まとめ	・講義の総括を行う	・授業ノートを見直すこと（1 時間）	15	テスト	・講義内にて解答を確認する	・授業ノートを見直すこと（1 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	・授業概要説明	・授業ノートを見直すこと（1 時間）																																																																
2	体力測定①	・体力測定の意義と方法について	・授業ノートを見直すこと（1 時間）																																																																
3	体力測定②	・体力測定を行う	・授業ノートを見直すこと（1 時間）																																																																
4	体力測定③	・体力測定を行う	・授業ノートを見直すこと（1 時間）																																																																
5	体力測定④	・体力測定を行う	・授業ノートを見直すこと（1 時間）																																																																
6	体力測定⑤	・体力測定を行う	・授業ノートを見直すこと（1 時間）																																																																
7	体力測定⑥	・測定結果の公表 ・データの分析	・授業ノートを見直すこと（1 時間）																																																																
8	スポーツ相談①	・運動のメカニズム ・運動学習の原理	・授業ノートを見直すこと（1 時間）																																																																
9	スポーツ相談②	・運動の制御 ・動機づけ ・目標設定	・授業ノートを見直すこと（1 時間）																																																																
10	スポーツ相談③	・スポーツにおける集団 ・運動とパーソナリティー	・授業ノートを見直すこと（1 時間）																																																																
11	スポーツ相談④	・スポーツ選手と心理サポート ・スポーツメンタルトレーニング	・授業ノートを見直すこと（1 時間）																																																																
12	スポーツ相談⑤	・スポーツ障害の心理学 ・バーンアウト	・授業ノートを見直すこと（1 時間）																																																																
13	スポーツ相談⑥	・スポーツ相談の事例について	・授業ノートを見直すこと（1 時間）																																																																
14	まとめ	・講義の総括を行う	・授業ノートを見直すこと（1 時間）																																																																
15	テスト	・講義内にて解答を確認する	・授業ノートを見直すこと（1 時間）																																																																
関連科目	スポーツ科学概論 ヘルスエクササイズの理論と実際 発育発達論 スポーツプログラミング スポーツ医学の理論と実際 スポーツトレーニングの基礎 体力測定とスポーツ相談 フィットネストレーニングの理論と実際 など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>担当者作成資料</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当者作成資料			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	担当者作成資料																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>公認スポーツプログラマー専門科目テキスト</td><td>編集・発行 公益財団法人 日本体育施設協会</td><td>日本体育施設協会</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	公認スポーツプログラマー専門科目テキスト	編集・発行 公益財団法人 日本体育施設協会	日本体育施設協会	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	公認スポーツプログラマー専門科目テキスト	編集・発行 公益財団法人 日本体育施設協会	日本体育施設協会																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	体力測定に関する項目：5 0 % テスト：5 0 % 合計点数にて単位判定を行う。 体力測定の数値は評価に反映しない。																																																																		
学生へのメッセージ	前半は主に屋内、屋外での体力測定がメインとなります。 後半は講義形式が主で、最後にテストがあります。がんばりましょう。																																																																		
担当者の研究室等	総合体育館 1 階 体育館事務室																																																																		
備考	事前・事後学習に必要な時間については、30 時間を目安とします。																																																																		

科目名	法政キャリア特別講義Ⅱ	科目名（英文）	Special Classes for Law and Politics II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	仲宗根 京子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ2126a0		

授業概要・目的	この講義では、「会社法」で定められている法制度・法規制について学習することを目的としています。経済社会において会社という存在が活動するなかで、どのようにして組織されていて、またどのようにして活動しているのか、法的な観点から学びます。前期科目である商法ⅡA（会社①）及び会社法とセットになる科目です。内容としては、会社の設立やファイナンスが中心となります。
到達目標	この講義の目標は、会社法で定められた制度を理解できるようにすることに加え、会社法に関する法的問題点を理解して検討できるようになることです。
授業方法と留意点	講義内容に合わせてレジュメを配布するので、レジュメをもとに重要事項などをメモしながら内容を理解してください。毎回の講義終了後にグループで練習問題を解いて答え合わせをしてもらい、事後学習として特に間違えた部分についてはしっかり復習をしておきましょう。質問等は質問票に記入してもらえれば、次回の講義でお答えします。
科目学習の効果（資格）	企業法務や会社経営に関する法律知識を身に着けることができます。関連する資格として、ビジネス実務法務検定、法学検定（中級）、行政書士、司法書士などがあります。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	講義の進め方、会社法の概要	六法などで会社法に何が書かれているのか見ておく（1 時間）
	2	株式①	株式の譲渡	株式について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	3	株式②	株式の併合・分割・無償割当て、単元株式制度	株式の大きさを変更する方法について調べておく（1 時間） 練習問題トの復習を行う（1 時間）
	4	株式③	自己株式の取得	自己株式について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	5	計算	企業会計の意義、資本制度、剰余金の配当	資本について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	6	資金調達①	新株発行	募集株式の発行に関する条文を調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	7	資金調達②	新株予約権、社債	新株予約権と社債について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	8	確認試験（中間）	第2回～第7回の内容について復習としての確認試験を実施する。	第2回～第7回の講義内容を復習する（2 時間）
	9	設立①	設立手続、定款の作成	設立に関する条文を調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	10	設立②	出資の履行、設立時の機関	設立時の機関について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	11	設立③	設立登記、設立の瑕疵、設立関与者の責任	会社に登記について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	12	組織再編①	総論、事業譲渡	事業譲渡に関する条文を見ておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	13	組織再編②	合併、会社分割	合併と会社分割について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	14	組織再編③	株式交換、株式移転、株式交付	株式交換、株式移転、株式交付について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	15	確認試験（期末）	第9回～第14回の内容について復習としての確認試験を実施する。	第9回～第14回の講義内容を復習する（2 時間）

関連科目	商法ⅡA（会社①）、会社法、民法、金融商品取引法
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎から学べる会社法（第5版）	近藤光男ほか	弘文堂
	2			
	3			

評価方法（基準）	確認試験を2回実施し、中間（50％）および期末（50％）で評価します。
学生へのメッセージ	1 回目に講義の進め方を説明しますので、その説明を聴いた上で受講してください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階
備考	練習問題は評価に含まれませんが、グループで管理して試験前に復習をしておきましょう。

科目名	法政キャリア特別講義Ⅵ	科目名（英文）	Special Classes for Law and Politics Ⅵ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	島田 良一・田中 敦・仲宗根 京子・笛木 淳
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎、DP3◎、DP4◎、DP5◎、DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3130a0		

授業概要・目的	本気で公務員試験（国家公務員一般職、地方上級）や法科大学院（ロースクール）入試、司法試験予備試験等をを目指す学生を対象に、目的達成のために不可欠な真の実力を養うことを目的として、問題演習等を行う。
到達目標	この授業を通じて学生には、公務員試験（国家公務員一般職、地方上級）や法科大学院（ロースクール）入試、司法試験予備試験等に合格するための、正しい学習方法を習得することが期待される。
授業方法と留意点	授業は、4 人の専任教員（島田・田中・仲宗根・笛木）によるオムニバス方式で実施。授業範囲は、刑事法，民法，商法・会社法，行政法の既修範囲とする。 月曜と火曜で授業担当者が以下のように異なるので注意。 月曜：第 1 回～第 9 回笛木担当，第 10 回～第 16 回島田担当。 火曜：第 1 回～第 9 回田中担当，第 10 回～第 15 回仲宗根担当。
科目学習の効果（資格）	公務員試験（国家公務員一般職、地方上級）や法科大学院（ロースクール）入試、司法試験予備試験等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	【月曜 5 限】第 1 回 行政法論述式答案の書き方入門 取消訴訟の処分性 観念の通知・行政行為の附款	リーディングケースをモデルとした短文事例演習。	・事前学習：事前配布資料に目を通しワークシートを解く（2 時間） ・事後学習：課題の取組み（4 時間）
	2	【月曜 5 限】第 2 回 行政法論述式答案の書き方入門 取消訴訟の原告適格	リーディングケースをモデルとした短文事例演習。	・事前学習：事前配布資料に目を通しワークシートを解く（2 時間） ・事後学習：課題の取組み（4 時間）
	3	【月曜 5 限】第 3 回 行政法論述式答案の書き方入門 法律による行政の原理	リーディングケースをモデルとした短文事例演習。	・事前学習：事前配布資料に目を通しワークシートを解く（2 時間） ・事後学習：課題の取組み（4 時間）
	4	【月曜 5 限】第 4 回 行政法論述式答案の書き方入門 行政立法	リーディングケースをモデルとした短文事例演習。	・事前学習：事前配布資料に目を通しワークシートを解く（2 時間） ・事後学習：課題の取組み（4 時間）
	5	【月曜 5 限】第 5 回 行政法論述式答案の書き方入門 行政処分と行政裁量	リーディングケースをモデルとした短文事例演習。	・事前学習：事前配布資料に目を通しワークシートを解く（2 時間） ・事後学習：課題の取組み（4 時間）
	6	【月曜 5 限】第 6 回 行政法論述式答案の書き方入門 行政処分と撤回	リーディングケースをモデルとした短文事例演習。	・事前学習：事前配布資料に目を通しワークシートを解く（2 時間） ・事後学習：課題の取組み（4 時間）
	7	【月曜 5 限】第 7 回 行政法論述式答案の書き方入門 行政手続（1）：告知聴聞	リーディングケースをモデルとした短文事例演習。	・事前学習：事前配布資料に目を通しワークシートを解く（2 時間） ・事後学習：課題の取組み（4 時間）
	8	【月曜 5 限】第 8 回 行政法論述式答案の書き方入門 行政手続（2）：理由提示	リーディングケースをモデルとした短文事例演習。	・事前学習：事前配布資料に目を通しワークシートを解く（2 時間） ・事後学習：課題の取組み（4 時間）
	9	【月曜 5 限】第 9 回 行政法論述式答案の書き方入門 行政指導	リーディングケースをモデルとした短文事例演習。	・事前学習：事前配布資料に目を通しワークシートを解く（2 時間） ・事後学習：課題の取組み（4 時間）
	10	【月曜 5 限】第 1 0 回 ガイダンス・刑事手続の概要	授業の進め方、受講上の注意、文献の紹介等について	事前学習：手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、授業に臨む（2 時間）。 事後学習：課題の取組み（2 時間）。
	11	【月曜 5 限】第 1 1 回 刑事訴訟法の重要論点①	強制処分・任意処分に関する諸問題	事前学習：手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、授業に臨む（2 時間）。 事後学習：課題の取組み（2 時間）。
	12	【月曜 5 限】第 1 2 回 刑事訴訟法の重要論点②	被疑者取調べに関する諸問題	事前学習：手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、授業に臨む（2 時間）。 事後学習：課題の取組み（2 時間）。
	13	【月曜 5 限】第 1 3 回 刑事訴訟法の重要論点③	被疑者の身柄拘束に関する諸問題	事前学習：手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、授業に臨む（2 時間）。 事後学習：課題の取組み（2 時間）。
	14	【月曜 5 限】第 1 4 回 刑事訴訟法の重要論点④	訴因・訴因変更に関する諸問題	事前学習：手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、授業に臨む（2 時間）。 事後学習：課題の取組み（2 時間）。
	15	【月曜 5 限】第 1 5 回 刑事訴訟法の重要論点⑤	証拠法に関する諸問題	事前学習：手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、授業に臨む（2 時間）。 事後学習：課題の取組み（2 時間）。

関連科目	行政法Ⅰ・行政法Ⅱ、民事訴訟法、民事保全・執行法、会社法			
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	<table><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				2				3											
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	具体的な評価方法は、各担当教員により異なるため、各教員の初回授業時に確認すること。																			
学生への メッセージ	本講義は、高い目標を本気で目指す学生のための特別講義です。目標が高い分、学生に対する要求も厳しくなりますが、司法試験に合格した経験を有する教員を含む専任教員が、実務家・研究者としての経験を踏まえて行う質の高い講義は、予備校の授業とは一線を画するものと確信しています。本気の学生の受講を期待します。																			
担当者の 研究室等	1 1 号館 1 0 階 田中教授室 1 1 号館 9 階 島田准教授室 1 1 号館 9 階 仲宗根教授室 1 1 号館 9 階 笛木講師室																			
備考	本講義は選抜制であり、3 0 名を上限とし、原則として法律学特修特別講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅲないし実定法特別講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修していることが前提である。これらを履修していないものには、選抜テストを行う。試験範囲は、行政法、刑事訴訟法、民事訴訟法、会社法である。基準点に満たない者の受講は認めない。また、憲法・民法・刑法の該当年次までの関連科目について、単位取得ないし履修登録をしていない者の受講は認めない。選抜テストの日程はT e a m s 上で告知するので、受講を希望する者は、必ず受験すること（やむを得ない理由で受験できない場																			

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary SeminarⅠ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥谷部 瑋
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として3つあります。(1)法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2)法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、(3)有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 (1)ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要な事項について学びます。																																																																		
到達目標	この演習を通じて学生には、学生生活に慣れ、勉学がスムーズに進められるよう、法学部の学生にふさわしい基礎能力を習得することが期待されます。																																																																		
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>法学部生として大学生活を始めるに当たり、学習の基本的なスキルを身につけることを目標とします。</td><td>図書館の利用方法、情報処理講習、就職セミナー、スマートSPI講習、など法学部全体で実施される回もありますが、それ以外は基本的に、『First Year Study Guide 2021』に沿って実施します。</td><td>初回の授業で指示します。</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	法学部生として大学生活を始めるに当たり、学習の基本的なスキルを身につけることを目標とします。	図書館の利用方法、情報処理講習、就職セミナー、スマートSPI講習、など法学部全体で実施される回もありますが、それ以外は基本的に、『First Year Study Guide 2021』に沿って実施します。	初回の授業で指示します。	2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	法学部生として大学生活を始めるに当たり、学習の基本的なスキルを身につけることを目標とします。	図書館の利用方法、情報処理講習、就職セミナー、スマートSPI講習、など法学部全体で実施される回もありますが、それ以外は基本的に、『First Year Study Guide 2021』に沿って実施します。	初回の授業で指示します。																																																																
2																																																																			
3																																																																			
4																																																																			
5																																																																			
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	法学部の専門科目のすべてにかかわります。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	参加態度（40%）およびゼミのなかで指示する課題（レポートなど）の達成状況（60%）をもとに評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	with コロナ時代のなか、大変な生活を強いられることもあることと推測しますが、できることからやってみましょう。																																																																		
担当者の研究室等	11号館10階 鳥谷部研究室																																																																		
備考	事前学習として、『First Year Study Guide 2021』の指示された箇所を読んでおいてください（毎回30分程度）。事後学習として、できれば法律と関係のある一般教養のジャンルの本を1冊選択し、各自で読み進めていってください（毎回30分～1時間程度）。																																																																		

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary SeminarⅠ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	笛木 淳
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	法学基礎演習（Ⅰ・Ⅱ）は、皆さんが学生生活に慣れ、大学における学習をスムーズに始められるように、次の3つを目的としています。 （１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、 （２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、 （３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 そして、（１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要なノウハウを学びます。																																																																		
到達目標	この授業では、法学部における勉学をスムーズに開始できるよう、法学の基礎的な能力（いわば法学学習の「型」）を身につけることが期待されます。																																																																		
授業方法と留意点	方法：演習（ゼミ）形式。プレゼンテーションとディスカッションを行ってもらいます。 留意点：（１）出席が重視されます。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。 （２）法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>法学学習の「型」（作法）を身につけよう。</td><td>まず図書館利用や情報処理講習で学習のための基本的な情報収集の方法を学んでもらいます。その上で、社会でどのようなことが問題になっているか、そこにおいて法律がどのようにかかわっているかを調べてもらい、全員で検討していく予定です。本演習で具体的に何をするかについては、初回の授業で皆さんと相談して決めます。</td><td>事前学習：初回の授業で指示しますが、新聞記事や様々な文献をあらかじめ読んできてもらうことが中心となります。 事後学習：復習課題やリポートに取り組む。</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	法学学習の「型」（作法）を身につけよう。	まず図書館利用や情報処理講習で学習のための基本的な情報収集の方法を学んでもらいます。その上で、社会でどのようなことが問題になっているか、そこにおいて法律がどのようにかかわっているかを調べてもらい、全員で検討していく予定です。本演習で具体的に何をするかについては、初回の授業で皆さんと相談して決めます。	事前学習：初回の授業で指示しますが、新聞記事や様々な文献をあらかじめ読んできてもらうことが中心となります。 事後学習：復習課題やリポートに取り組む。	2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	法学学習の「型」（作法）を身につけよう。	まず図書館利用や情報処理講習で学習のための基本的な情報収集の方法を学んでもらいます。その上で、社会でどのようなことが問題になっているか、そこにおいて法律がどのようにかかわっているかを調べてもらい、全員で検討していく予定です。本演習で具体的に何をするかについては、初回の授業で皆さんと相談して決めます。	事前学習：初回の授業で指示しますが、新聞記事や様々な文献をあらかじめ読んできてもらうことが中心となります。 事後学習：復習課題やリポートに取り組む。																																																																
2																																																																			
3																																																																			
4																																																																			
5																																																																			
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>*授業初回に指示します。</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	*授業初回に指示します。			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	*授業初回に指示します。																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>*授業初回に指示します。</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	*授業初回に指示します。			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	*授業初回に指示します。																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	発表の内容：30% 議論への参加・貢献：30% 課題：40%																																																																		
学生へのメッセージ	大学での勉強の仕方は、高校までのものとは異なり、とりわけ初年度はどうしたらいいかわからず戸惑いや不安があるかと思います。この授業はそうした学生のために開講されるものですから、意欲的に参加し、またわからないことや悩みがあれば教員に積極的に相談してください。																																																																		
担当者の研究室等	笛木講師室（11号館9階）																																																																		
備考	・事前および事後学習として、演習で扱った内容についてノートにまとめるなど、毎回2時間以上の予習および復習に取り組むこと。 ・レポート課題に対するフィードバックは翌週の授業内にて行う。																																																																		

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	萩原 守
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	この授業は、法学に関する基礎的な知識や学習方法を養うための演習である。まずは、教員と受講者全員が短く自己紹介をして、相互の持つ問題関心等を確認しておく。続いて、摂南大学法学部への入学に際しての注意点等をよく理解してもらう。その後、演習として、各自の持つ問題関心に応じて自ら選んだテーマに関して調べてきたことを、全員の前で発表してもらう。自分でテーマを考えるまでにはまだ至らないような受講者には、教員がいくつかの選びやすいテーマを用意しておくので、そこから選ぶことも可能とする。授業の最終的な目的は、法学の学習範囲を特定のテーマのみに限定して考えることなく、より幅広い知識や問題関心を養うことである。
到達目標	この演習を通じて学生には、法学の各分野が持つ特徴を深く広く理解できるようになることが期待される。また、法や裁判のみに限らず、社会と法との関わりについても幅広い問題関心を持てるようになることが到達目標である。
授業方法と留意点	最初の数回を除いて、演習形式で授業を進める。最低一人一回の口頭発表が義務である。一年生全員を対象とするような講演等が途中で入る可能性が高いため、各自の担当回数は臨機応変でいきたい。
科目学習の効果（資格）	法学部分野の広い範囲について、深い理解と関心を持てるようになることが期待される。特に、社会科の教職に関心を持っている人には、大きな効果が期待できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	全員の自己紹介と授業の進め方	担当教員と参加学生たちの問題関心を相互に紹介し合う	自分の問題関心に基づいて、発表するテーマを考え始める。
	2	スタディガイド:摂南大学法学部での単位取得方法、コース案内、等の解説	摂南大学法学部での学習方法やゼミの選択方法等を詳しく学ぶ	自分の発表するテーマを考え始める。
	3	アンケート、新入生調査等の実施と基礎演習の進め方の解説	入学に際してのアンケートを行い、今後の基礎演習の実施方法を学ぶ	自分の発表するテーマを選び始める。
	4	就職活動、卒業論文等に関する解説	摂南大学の就職部や図書館等への訪問	自分の担当する発表に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
	5	選んだテーマに関する口頭発表	各自の選んだテーマに関して書籍等を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する発表に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
	6	選んだテーマに関する口頭発表	各自の選んだテーマに関して書籍等を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する発表に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
	7	選んだテーマに関する口頭発表	各自の選んだテーマに関して書籍等を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する発表に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
	8	選んだテーマに関する口頭発表	各自の選んだテーマに関して書籍等を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する発表に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
	9	選んだテーマに関する口頭発表	各自の選んだテーマに関して書籍等を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する発表に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
	10	選んだテーマに関する口頭発表	各自の選んだテーマに関して書籍等を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する発表に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
	11	選んだテーマに関する口頭発表	各自の選んだテーマに関して書籍等を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する発表に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
	12	選んだテーマに関する口頭発表	各自の選んだテーマに関して書籍等を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する発表に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
	13	選んだテーマに関する口頭発表	各自の選んだテーマに関して書籍等を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する発表に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
	14	選んだテーマに関する口頭発表	各自の選んだテーマに関して書籍等を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する発表に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
	15	選んだテーマに関する口頭発表	各自の選んだテーマに関して書籍等を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する発表に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。

関連科目	日本法制史、東洋法制史、法と社会、比較法史		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		出版社名

	2			
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国女性史入門	関西中国女性史研究会	人文書院
	2	紅の党 完全版	朝日新聞中国総局	朝日文庫
	3	サンダカン八番娼館	山崎朋子	文春文庫
評価方法 (基準)	口頭発表を 60%、質疑応答への参加度を 40%として判断するが、演習科目なので、当然出席がその全ての前提条件となる。			
学生への メッセージ	あまり難しく考えすぎることなく、幅広く法学への入門にチャレンジしてほしい。			
担当者の 研究室等	11 号館の 10 階にある萩原研究室			
備考				

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥谷部 瑳
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として3つあります。（1）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（2）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（3）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。
到達目標	この演習を通じて学生には、学生生活に慣れ、勉学がスムーズに進められるよう、法学部の学生にふさわしい基礎能力を習得することが期待されます。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
科目学習の効果（資格）	法学部の開講科目の学習にスムーズに入っていけるようになるでしょう。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	ゼミ計画の説明、教科書の紹介、発表制の作成	
	2	所有と公共性	落としものはだれのもの？	事前：教科書の該当部分を読む＆発表があたりっている人はその準備
	3	動物の法的地位、自由と責任	人と動物って法律上はどんな関係？	事前：教科書の該当部分を読む＆発表があたりっている人はその準備
	4	自己決定、リパタリアニズム	服装の自由と制服の校則、どちらが優先？	事前：教科書の該当部分を読む＆発表があたりっている人はその準備
	5	法的三段論法、解釈	スマホ禁止の校則について考える	事前：教科書の該当部分を読む＆発表があたりっている人はその準備
	6	犯罪と刑罰、適正手続	ルールを破ってしまったらどうなるのか？	事前：教科書の該当部分を読む＆発表があたりっている人はその準備
	7	表現の自由、名誉、プライバシー、肖像	インスタにウソの投稿をしたらどうなるか？	事前：教科書の該当部分を読む＆発表があたりっている人はその準備
	8	思想良心の自由、信教の自由、消費者保護	何かを信じる自由、考える自由	事前：教科書の該当部分を読む＆発表があたりっている人はその準備
	9	間接民主制、選挙	代表を「選んで決める」しくみって？	事前：教科書の該当部分を読む＆発表があたりっている人はその準備
	10	法律と条例、成文法と不文法	異なる2つのルールがあるとき、どちらを守ればいい？	事前：教科書の該当部分を読む＆発表があたりっている人はその準備
	11	民事裁判	こじれたもめごと、どう解決する？	事前：教科書の該当部分を読む＆発表があたりっている人はその準備
	12	労働と法	バイト中の悪ふざけをネットにアップしたらどうなる？	事前：教科書の該当部分を読む＆発表があたりっている人はその準備
	13	競争と形式的平等・実質的平等	フェアな競争をするにはどうしたらいい？	事前：教科書の該当部分を読む＆発表があたりっている人はその準備
	14	法の行為規範性、多数決原理	ルールは、だれがどんなふうにつくる？	事前：教科書の該当部分を読む＆発表があたりっている人はその準備
	15	振り返り	全体の総括	

関連科目	法学部で開講されているすべての科目にかかわります。
------	---------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	僕らが生きているよのなかのしくみは「法」でわかる	遠藤研一郎	大和書房
	2			
	3			

評価方法（基準）	授業態度（40％）および授業中に指示する課題（レポートなど）の達成状況（60％）をもとに評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で会える仲間は、みなさんの学生生活にとって大切な友人となるでしょう。良好な友人関係を築いて、学生生活が実り多きものとなることを願っています。
-----------	---

担当者の研究室等備考	11 号館 10 階 鳥谷部研究室
------------	-------------------

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	笛木 淳
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	法学基礎演習（Ⅰ・Ⅱ）は、皆さんが学生生活に慣れ、大学における学習をスムーズに始められるように、次の3つを目的としています。 （１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、 （２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、 （３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 そして、（１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要なノウハウを学びます。																																																																		
到達目標	この授業で学生には、法学部における勉学をスムーズに開始できるよう、法学の基礎的な能力（いわば法学学習の「型」）を身につけることが期待されます。																																																																		
授業方法と留意点	方法：演習（ゼミ）形式。プレゼンテーションとディスカッションを行ってもらいます。 留意点：（１）出席が重視されます。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。 （２）法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>法学学習の「型」（作法）を身につけよう。</td><td>まず図書館利用や情報処理講習で学習のための基本的な情報収集の方法を学んでもらいます。その上で、社会でどのようなことが問題になっているか、そこにおいて法律がどのようにかかわっているかを調べてもらい、全員で検討していく予定です。本演習で具体的に何をするかについては、初回の授業で皆さんと相談して決めます。</td><td>事前学習：初回の授業で指示しますが、新聞記事や様々な文献をあらかじめ読んできてもらうことが中心となります。 事後学習：復習課題やリポートに取り組む。</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	法学学習の「型」（作法）を身につけよう。	まず図書館利用や情報処理講習で学習のための基本的な情報収集の方法を学んでもらいます。その上で、社会でどのようなことが問題になっているか、そこにおいて法律がどのようにかかわっているかを調べてもらい、全員で検討していく予定です。本演習で具体的に何をするかについては、初回の授業で皆さんと相談して決めます。	事前学習：初回の授業で指示しますが、新聞記事や様々な文献をあらかじめ読んできてもらうことが中心となります。 事後学習：復習課題やリポートに取り組む。	2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	法学学習の「型」（作法）を身につけよう。	まず図書館利用や情報処理講習で学習のための基本的な情報収集の方法を学んでもらいます。その上で、社会でどのようなことが問題になっているか、そこにおいて法律がどのようにかかわっているかを調べてもらい、全員で検討していく予定です。本演習で具体的に何をするかについては、初回の授業で皆さんと相談して決めます。	事前学習：初回の授業で指示しますが、新聞記事や様々な文献をあらかじめ読んできてもらうことが中心となります。 事後学習：復習課題やリポートに取り組む。																																																																
2																																																																			
3																																																																			
4																																																																			
5																																																																			
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>*授業初回に指示します。</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	*授業初回に指示します。			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	*授業初回に指示します。																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>*授業初回に指示します。</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	*授業初回に指示します。			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	*授業初回に指示します。																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	発表の内容：30% 議論への参加・貢献：30% 課題：40%																																																																		
学生へのメッセージ	大学での勉強の仕方は、高校までのものとは異なり、とりわけ初年度はどうしたらいいかわからず戸惑いや不安があるかと思います。この授業はそうした学生のために開講されるものですから、意欲的に参加し、またわからないことや悩みがあれば教員に積極的に相談してください。																																																																		
担当者の研究室等	笛木講師室（11号館9階）																																																																		
備考	・事前および事後学習として、演習で扱った内容についてノートにまとめるなど、毎回2時間以上の予習および復習に取り組むこと。 ・レポート課題に対するフィードバックは翌週の授業内にて行う。																																																																		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	萩原 守
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	この授業は、法学に関する基礎的な知識を養うための演習である。参加学生各自が、自分の問題関心に応じて、論文・書籍・判例・ウェブページ等を読んできて、全員の前で最低一回は口頭発表する。テーマが決められない学生がおれば、前期の続きのような形で、アジアや日本の法制史等に関して日本語でわかりやすく書かれた概説書を自分で選んで読み、それを要約・発表するという形で学んでもらう。授業の最終的な目的は、法学の学習範囲を特定のテーマのみに限定して考えることなく、より幅広い知識や問題関心を養うことである。
到達目標	この演習を通じて学生には、法学や法制史を幅広く理解できるようになることが期待される。すなわち、社会と法との関わりについて、幅広い問題関心を持てるようになることが到達目標である。
授業方法と留意点	最初を除いて、演習形式で授業を進める。参加者各自が論文・書籍・判例・ウェブページ等を選んで読解・要約・発表し、全員で議論を行う。後期も一年生全員を対象とするような講演等が途中で入る可能性が高いため、各自の担当回数は臨機応変でいきたい。
科目学習の効果（資格）	法学という研究分野の広がりについて、幅広い理解を持てるようになることが期待される。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業の進め方の解説	担当教員と参加学生たちの問題関心を相互に話し合う。また、ゼミやコースの選択方法や卒業論文の形式等についても学ぶ	自分の問題関心に基づいて、希望する書籍類を考え始める。
	2	現代のアジア法、中国の法制史、中国女性史、日本女性史、社会史等々の候補論文・書籍の紹介	自分でテーマを決められなかった場合の候補論文・書籍を知っておく	選択するテーマが決まった人から順々に準備を進めていく。
	3	選んだ論文・書籍等の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍、ウェブページ等を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習しておく。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
	4	選んだ論文・書籍等の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍、ウェブページ等を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習しておく。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
	5	選んだ論文・書籍等の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍、ウェブページ等を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習しておく。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
	6	選んだ論文・書籍等の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍、ウェブページ等を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習しておく。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
	7	選んだ論文・書籍等の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍、ウェブページ等を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習しておく。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
	8	選んだ論文・書籍等の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍、ウェブページ等を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習しておく。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
	9	選んだ論文・書籍等の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍、ウェブページ等を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習しておく。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
	10	選んだ論文・書籍等の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍、ウェブページ等を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習しておく。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
	11	選んだ論文・書籍等の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍、ウェブページ等を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習しておく。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
	12	選んだ論文・書籍等の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍、ウェブページ等を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習しておく。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
	13	選んだ論文・書籍等の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍、ウェブページ等を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習しておく。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
	14	選んだ論文・書籍等の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍、ウェブページ等を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習しておく。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
	15	選んだ論文・書籍等の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍、ウェブページ等を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習しておく。回答できなかった部分は、後から調べ直す。

関連科目	日本法制史、東洋法制史、法と社会、比較法史			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	鹿洲公案	藍鼎元	平凡社
	2	紅の党 完全版	朝日新聞中国総局	朝日文庫
	3	サンダカン八番娼館	山崎朋子	文春文庫
評価方法 (基準)	口頭発表を 60%、質疑応答への参加度を 40%として判断するが、演習科目なので、当然出席がその全ての前提条件となる。			
学生への メッセージ	あまり難しく考えすぎることなく、幅広く法学や法と社会の理解にチャレンジしてほしい。			
担当者の 研究室等	11 号館の 10 階にある萩原研究室			
備考				

科目名	ブレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥谷部 瑳
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	みなさんのなかには、日常生活で国際法を身近に感じる機会が存分にあるという方は決して多くはないでしょう。いきなり分厚い国際法の教科書に書いてある論点を取り上げることに抵抗を感じる学生も少なくないと思います。そこで本ゼミの内容は、主に次の3点とします。第1に、本ゼミでは、最近の時事国際問題を複数検索しその内容を調べることで、広く社会で何が起きているか、何が問題となっているか、という現状を認識することから始めます。第2に、各自が本格的に調べることを選択した時事問題について、国際法との接点を見出していきます。第3に、以上を踏まえて、条約・判例といった生の素材や、それらに分析を加えた文献を読解し、ゼミ生間で情報共有し議論し発表することを通して、国際法の視点から時事問題を分析する素養を磨きます。																																																																		
到達目標	この演習を通じて、①受動的ではなく、主体的・能動的な学習態度を身に着けること、②国際法の基礎的な知識を身につけること、③2年次後期の専門演習に余裕をもってついていけるようになること、が期待されます。																																																																		
授業方法と留意点	国際法は非常に広い領域を取り扱います。国際法全体について基礎知識を備えることは並大抵のことではありません。でも、そうした基礎知識をみなさんに身に着けてもらうために様々な工夫を凝らし最大限努力します。ですので皆さんもそれに応えて下さい。																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> <tr> <td>1</td><td>国際法への理解を深める</td><td>国際社会に生起するさまざまな事例への理解を深めるためには、判例や過去の実行を詳しく調べることが重要です。</td><td>自分が選択した事例について、十分に調べ考える姿勢を保つことが大事です。</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	国際法への理解を深める	国際社会に生起するさまざまな事例への理解を深めるためには、判例や過去の実行を詳しく調べることが重要です。	自分が選択した事例について、十分に調べ考える姿勢を保つことが大事です。	2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	国際法への理解を深める	国際社会に生起するさまざまな事例への理解を深めるためには、判例や過去の実行を詳しく調べることが重要です。	自分が選択した事例について、十分に調べ考える姿勢を保つことが大事です。																																																																
2																																																																			
3																																																																			
4																																																																			
5																																																																			
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	国際社会と法、国際法の基礎理論、国際組織法、国際人権法																																																																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	参加態度（40%）およびゼミのなかで指示する課題（レポートなど）の達成状況（60%）をもとに評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	国際法という分野は国内法とは相当に異なった性質をもっています。初めは取っ付きにくいと感じる方も多いでしょう。しかしながら今や、新聞やメディア等の情報媒体において、国際法に関連する出来事を目にしない日はありません。実は、みなさんの身近にも国際法は存在しているのだということを、本ゼミを通して感じてもらえればと思います。																																																																		
担当者の研究室等備考	11 号館 10 階 鳥谷部研究室																																																																		

科目名	ブレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	笛木 淳
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	法学では事例研究・判例学習が非常に重要になってきます。この授業では、2 年次後期の「専門演習 I」、3 年次の「専門演習 II」、4 年次の「卒業研究」に向けて、そういった事例研究を通じた公法（行政法、憲法、地方自治法）の基礎知識の習得を目指します。具体的には、判例や事例問題などの素材を通じて、具体的な問題点の把握、関連判例と学説の整理をした上で、そのプレゼンテーション及びディスカッションを行ってまいります。																																																																		
到達目標	本演習を通じて学生には各段階において次のスキルの獲得が期待されます。 ・資料の収集段階 (1) 公法における重要判例の事案・判旨を正確に読み解く力 (2) ある問題について異なる見解が提示されているとき、その対立点を把握して整理する力 (3) 自ら主体的に課題を発見する力 ・プレゼンテーションとディスカッションの段階 (4) 自分の考えを整理・要約し、他者に伝える力 (5) 他人の意見に傾聴する力																																																																		
授業方法と留意点	授業方法：学生によるプレゼンテーションとディスカッション。 留意点：報告準備段階では主体的な調査・学習が、ディスカッションでは積極的な発言や学生自らによる議論の整理が求められます。並行して行政法総論、地方自治法を履修することが望ましいです。																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>事例（判例）研究を通じた公法の基礎知識の獲得</td><td>報告担当者（グループ）を決め、判例（事案・判旨）についてのプレゼンテーションを行ってまいります。報告の内容は判例の事案・判旨の読解、関連判例と学説の調査・整理が中心です。報告をもとに、参加者全員でディスカッションをします。判例の調べ方、当てるべき文献、データベースの活用法などを初回に説明します。また、初回だけでなく、プレゼンテーションに対するコメントでも必要に応じて指摘します。</td><td> 事前学習： 報告担当者は事案と判旨の整理、関連判例と学説の調査等報告準備を行ってまいります。報告準備は 10 時間程度かかると考えます。報告者以外は指定文献をあらかじめ読んで疑問点等をまとめておくこと（2 時間程度） 事後学習： プレゼンテーションへのフィードバックとディスカッションにより明らかになった報告の問題点を踏まえ、再調査または再検討してまいります（2 時間程度）。 </td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	事例（判例）研究を通じた公法の基礎知識の獲得	報告担当者（グループ）を決め、判例（事案・判旨）についてのプレゼンテーションを行ってまいります。報告の内容は判例の事案・判旨の読解、関連判例と学説の調査・整理が中心です。報告をもとに、参加者全員でディスカッションをします。判例の調べ方、当てるべき文献、データベースの活用法などを初回に説明します。また、初回だけでなく、プレゼンテーションに対するコメントでも必要に応じて指摘します。	事前学習： 報告担当者は事案と判旨の整理、関連判例と学説の調査等報告準備を行ってまいります。報告準備は 10 時間程度かかると考えます。報告者以外は指定文献をあらかじめ読んで疑問点等をまとめておくこと（2 時間程度） 事後学習： プレゼンテーションへのフィードバックとディスカッションにより明らかになった報告の問題点を踏まえ、再調査または再検討してまいります（2 時間程度）。	2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	事例（判例）研究を通じた公法の基礎知識の獲得	報告担当者（グループ）を決め、判例（事案・判旨）についてのプレゼンテーションを行ってまいります。報告の内容は判例の事案・判旨の読解、関連判例と学説の調査・整理が中心です。報告をもとに、参加者全員でディスカッションをします。判例の調べ方、当てるべき文献、データベースの活用法などを初回に説明します。また、初回だけでなく、プレゼンテーションに対するコメントでも必要に応じて指摘します。	事前学習： 報告担当者は事案と判旨の整理、関連判例と学説の調査等報告準備を行ってまいります。報告準備は 10 時間程度かかると考えます。報告者以外は指定文献をあらかじめ読んで疑問点等をまとめておくこと（2 時間程度） 事後学習： プレゼンテーションへのフィードバックとディスカッションにより明らかになった報告の問題点を踏まえ、再調査または再検討してまいります（2 時間程度）。																																																																
2																																																																			
3																																																																			
4																																																																			
5																																																																			
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	行政法、地方自治法、憲法 （また、民法や刑法、民事訴訟の基礎知識があると望ましいですが、必要に応じて適宜フォローに努めます。）																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>初回講義で指定。学生の意見も取り入れて決定します。</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初回講義で指定。学生の意見も取り入れて決定します。			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	初回講義で指定。学生の意見も取り入れて決定します。																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	・プレゼンテーション（配布資料・報告の内容）：60% ・ディスカッション（議論への貢献度）：40%																																																																		
学生へのメッセージ	このブレ専門演習を通じて、試験のためではなく、自分なりの課題をもって主体的に学習すること、そして他者との議論を通じて自分の考えを明確化・修正することの楽しさ、重要性を知ってほしいと思います。また、演習は学生の積極的な参加・協力が不可欠ですので、誠実な態度で授業に臨んでください。																																																																		
担当者の研究室等備考	笛木講師室（11 号館 9 階）																																																																		

科目名	ブレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	萩原 守
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	この授業は、将来の卒業論文のテーマを幅広く探っていくための演習である。そのため、参加学生各自が、自分の問題関心に応じて、論文・書籍・判例・ウェブページ等を読んできて、全員の前で口頭発表を行う。テーマが決められない学生がおれば、参考用に教員が提示したアジアや日本の法制史等に関する日本語の概説書の中から自分で選んで読み、それを要約・発表するという形で学んでもらう。授業の最終的な目的は、法学の学習範囲を特定の狭いテーマのみに限定して考えることなく、より幅広い知識や問題関心を養うことである。
到達目標	この演習を通じて学生には、法学を幅広く理解できるようになることが期待される。すなわち、社会と法との関わり等について、より幅広い問題関心を持てるようになることが到達目標である。
授業方法と留意点	最初の数回を除いて、演習形式で授業を進める。参加者各自が論文・書籍・判例・ウェブページ等を選んで読解・要約・発表し、全員で議論を行う。各自の担当回数は臨機応変でいきたい。
科目学習の効果 (資格)	法と社会との関わりについて、幅広い理解を持てるようになることが期待される。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業の進め方の解説	担当教員と参加学生たちの問題関心を相互に話し合う。	自分の問題関心に基づいて、希望する書籍類を考え始める。
	2	現代のアジア法、中国の法制史、中国女性史、日本女性史、社会史等々の候補論文・書籍の紹介	自分でテーマを決められなかった場合の候補論文・書籍を知っておく。	選択するテーマが決まった人から順々に準備を進めていく。
	3	現代のアジア法、中国の法制史、中国女性史、日本女性史、社会史等々の候補論文・書籍の紹介	自分でテーマを決められなかった場合の候補論文・書籍を知っておく。	選択するテーマが決まった人から順々に準備を進めていく。
	4	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
	5	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
	6	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
	7	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
	8	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
	9	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
	10	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
	11	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
	12	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
	13	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
	14	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
	15	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
関連科目	日本法制史、東洋法制史、法と社会、比較法史			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	鹿洲公案	藍鼎元	平凡社
	2	東アジアの憲法制度	大村泰樹	アジア経済研究所
	3	アジア諸国の司法改革	小林昌之	アジア経済研究所
評価方法 (基準)	口頭発表を 60%、質疑応答への参加度を 40%として判断するが、演習科目なので、当然出席がその全ての前提条件となる。			
学生への メッセージ	あまり難しく考えすぎることなく、幅広く法や社会の理解にチャレンジしてほしい。			
担当者の 研究室等	11 号館の 10 階にある萩原研究室			
備考				

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥谷部 瑳
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	みなさんのなかには、日常生活で国際法を身近に感じる機会が存分にあるという方は決して多くはないでしょう。いきなり分厚い国際法の教科書に書いてある論点を取り上げることに抵抗を感じる学生も少なくないと思います。そこで本ゼミの内容は、主に次の3点とします。第1に、本ゼミでは、最近の時事国際問題を複数検索しその内容を調べることで、広く社会で何が起きているか、何が問題となっているか、という現状を認識することから始めます。第2に、各自が本格的に調べることを選択した時事問題について、国際法との接点を見出していきます。第3に、以上を踏まえて、条約・判例といった生の素材や、それらに分析を加えた文献を読解し、ゼミ生間で情報共有し議論し発表することを通して、国際法の視点から時事問題を分析する素養を磨きます。																																																																		
到達目標	この演習を通じて、①受動的ではなく、主体的・能動的な学習態度を身に着けること、②国際法の基礎的な知識を身につけること、③3年次の専門演習に余裕をもってついていけるようになること、が期待されます。																																																																		
授業方法と留意点	国際法は非常に広い領域を取り扱います。国際法全体について基礎知識を備えることは並大抵のことではありません。でも、そうした基礎知識をみなさんに身に着けてもらうために様々な工夫を凝らし最大限努力します。ですので皆さんもそれに応えて下さい。																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> <tr> <td>1</td><td>国際法への理解を深める</td><td>国際社会に生起するさまざまな事例への理解を深めるためには、判例や過去の実行を詳しく調べることが重要です。</td><td>自分が選択した事例について、十分に調べ考える姿勢を保つことが大事です。</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	国際法への理解を深める	国際社会に生起するさまざまな事例への理解を深めるためには、判例や過去の実行を詳しく調べることが重要です。	自分が選択した事例について、十分に調べ考える姿勢を保つことが大事です。	2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	国際法への理解を深める	国際社会に生起するさまざまな事例への理解を深めるためには、判例や過去の実行を詳しく調べることが重要です。	自分が選択した事例について、十分に調べ考える姿勢を保つことが大事です。																																																																
2																																																																			
3																																																																			
4																																																																			
5																																																																			
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	国際社会と法、国際法の基礎理論、国際組織法、国際人権法																																																																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	参加態度（40％）およびゼミのなかで指示する課題（レポートなど）の達成状況（60％）をもとに評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	国際法という分野は国内法とは相当に異なった性質をもっています。初めは取っ付きにくいと感じる方も多いでしょう。しかしながら今や、新聞やメディア等の情報媒体において、国際法に関連する出来事を目にしない日はありません。実は、みなさんの身近にも国際法は存在しているのだということを、本ゼミを通して感じてもらえればと思います。																																																																		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 鳥谷部研究室																																																																		
備考	◎事前の学習として、自身が選択したテーマに関するニュース記事や資料を読み進め、パワーポイントでスライドを作成するなど、プレゼンテーションの準備に時間を充ててください。（毎回 1 時間程度） ◎事後の学習として、自身が選択したテーマに最も近い国際判例を探し出し、当該判例の意義や問題点を把握することに努めてください。（毎回 1 時間程度）																																																																		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	笛木 淳
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	この授業は、3 年次の「専門演習 II」、4 年次の「卒業研究」に向けて、公法（行政法、地方自治法、憲法）の主要な判例や学説、法令についての学習を皆さんが主体的に深化させることを目的としています。この講義では、ブレ専門演習での判例学習を通じて自分なりに発見した課題をさらに深く掘り下げるために、他の関連判例や専門文献に取り組み、プレゼンテーションとディスカッションをしていただきます。																																																																		
到達目標	本演習を通じて学生には各段階で次のスキルの獲得が期待されます。 - 資料の収集段階 (1) 事例研究を通じて自ら主体的に課題を発見する力 (2) 発見した課題必要な資料を自ら探索・収集する力 - プレゼンテーションとディスカッションの段階について (3) 自分の考えを整理・要約し、他者に伝える力 (4) 他人の意見に傾聴し、問題点を指摘する力																																																																		
授業方法と留意点	授業方法：学生によるプレゼンテーションとディスカッション。 留意点：報告準備段階では主体的な調査・学習が、ディスカッションでは積極的な発言や学生自らによる議論の整理が求められます。特に行政訴訟に関する分野を研究したい方は、行政法各論を並行して受講することが望ましいです。																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>事例（判例）・文献研究を通じた問題意識の掘り下げ</td><td>報告担当者（グループ）を決め、各自設定した課題（判例研究、その他の論点研究）についてのプレゼンテーションを行ってもらいます。報告の内容は判例の事案・判旨の読解、関連判例と学説の調査・整理が中心です。報告をもとに、参加者全員でディスカッションをします。</td><td> 事前学習： 報告担当者は報告準備に 10 時間程度かかると思います。報告者以外は指定文献をあらかじめ読んで疑問点等をまとめておくこと（2 時間程度） 事後学習： プレゼンテーションへのフィードバックとディスカッションにより明らかになった報告の問題点を踏まえ、再調査または再検討してもらいます（2～4 時間程度）。 </td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	事例（判例）・文献研究を通じた問題意識の掘り下げ	報告担当者（グループ）を決め、各自設定した課題（判例研究、その他の論点研究）についてのプレゼンテーションを行ってもらいます。報告の内容は判例の事案・判旨の読解、関連判例と学説の調査・整理が中心です。報告をもとに、参加者全員でディスカッションをします。	事前学習： 報告担当者は報告準備に 10 時間程度かかると思います。報告者以外は指定文献をあらかじめ読んで疑問点等をまとめておくこと（2 時間程度） 事後学習： プレゼンテーションへのフィードバックとディスカッションにより明らかになった報告の問題点を踏まえ、再調査または再検討してもらいます（2～4 時間程度）。	2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	事例（判例）・文献研究を通じた問題意識の掘り下げ	報告担当者（グループ）を決め、各自設定した課題（判例研究、その他の論点研究）についてのプレゼンテーションを行ってもらいます。報告の内容は判例の事案・判旨の読解、関連判例と学説の調査・整理が中心です。報告をもとに、参加者全員でディスカッションをします。	事前学習： 報告担当者は報告準備に 10 時間程度かかると思います。報告者以外は指定文献をあらかじめ読んで疑問点等をまとめておくこと（2 時間程度） 事後学習： プレゼンテーションへのフィードバックとディスカッションにより明らかになった報告の問題点を踏まえ、再調査または再検討してもらいます（2～4 時間程度）。																																																																
2																																																																			
3																																																																			
4																																																																			
5																																																																			
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	行政法、地方自治法、憲法。 (また、民法や刑法の基礎知識があると望ましいですが、学習が不十分な場合にはこちらで適宜フォローに努めます。)																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>初回講義で指定。学生の意見も取り入れて決定します。</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初回講義で指定。学生の意見も取り入れて決定します。			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	初回講義で指定。学生の意見も取り入れて決定します。																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	- プレゼンテーション（配布資料・報告の内容）：60% - ディスカッション（議論への貢献度）：40%																																																																		
学生へのメッセージ	3 年次からはいよいよ卒業論文に関連する学習が本格化することでしょう。この授業ではそうした作業にスムーズに移行できるためにできる限りの支援を提供します。とはいえ演習の主体はあくまでも学生です。意欲的で誠実な参加を期待します。																																																																		
担当者の研究室等	笛木講師室（1 1 号館 9 階）																																																																		
備考																																																																			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	仲宗根 京子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	世の中にある法律問題に興味を持ち、より深く自分の力で調査・検討することを目的とします。最終的に卒業論文のテーマにもできそうな問題を探することで、自分が法律を研究することを意識するための授業となります。
到達目標	この授業を通して学生には、各自のテーマに関する専門的な参考文献を自分で検索することができ、参考文献を読んで内容を他者へ伝えるといった基本的なプレゼンテーション能力を身につけることが期待される。
授業方法と留意点	各自で興味のある法律問題について報告資料を作成し、プレゼンテーションを行ってもらいます。報告後に質疑応答を行い、理解を深めます。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	自己紹介・今後の予定の確認	事前：なし 事後：テーマ探し (1 時間)
	2	基礎学力調査	就職活動や公務員試験などに対応する基礎学力をテストする	事前：なし 事後：振り返り (1 時間)
	3	法律問題の調査①	図書館などを利用して参考文献を探して読む	事前：報告資料の調査 (2 時間) 事後：追加調査 (1 時間)
	4	資料の作成①	参考文献をもとにして報告資料を作成する	事前：報告資料の作成 (2 時間) 事後：追加調査 (1 時間)
	5	プレゼンテーション①	資料に基づいて報告を行う	事前：報告資料の作成 (2 時間) 事後：追加調査 (1 時間)
	6	法律問題の調査②	別の参考文献を探して読む	事前：報告資料の調査 (2 時間) 事後：追加調査 (1 時間)
	7	資料の作成②	参考文献をもとにして報告資料を作成する	事前：報告資料の調査 (2 時間) 事後：追加調査 (1 時間)
	8	中間報告	資料に基づいて報告を行う	事前：報告のまとめ (2 時間) 事後：報告の振り返り (1 時間)
	9	法律問題の調査③	別の参考文献を探して読む	事前：報告資料の調査 (2 時間) 事後：追加調査 (1 時間)
	10	資料の作成③	参考文献をもとにして報告資料を作成する	事前：報告資料の作成 (2 時間) 事後：追加調査 (1 時間)
	11	プレゼンテーション②	資料に基づいて報告を行う	事前：報告資料の作成 (2 時間) 事後：追加調査 (1 時間)
	12	法律問題の調査④	別の参考文献を探して読む	事前：報告資料の調査 (2 時間) 事後：追加調査 (1 時間)
	13	資料の作成④	参考文献をもとにして報告資料を作成する	事前：報告資料の作成 (2 時間) 事後：追加調査 (1 時間)
	14	プレゼンテーション③	資料に基づいて報告を行う	事前：報告資料の作成 (2 時間) 事後：追加調査 (1 時間)
	15	総括	半年間の振り返りと専門演習 II について	事前：報告のまとめ (2 時間) 事後：報告を振り返り (1 時間)

関連科目	ブレ専門演習、法律科目全般
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	報告資料の適切な作成 (30%)、プレゼンテーションの精度 (30%)、質疑応答 (20%)、積極的な受講態度 (20%) によって評価していきます。
学生へのメッセージ	自分で法律学に関するテーマを見つけるところからスタートしましょう。
担当者の研究室等備考	11 号館 10 階

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	萩原 守
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	この授業は、将来の卒業論文のテーマを幅広く探っていくための演習である。そのため、参加学生各自が、自分の問題関心に応じて、論文・書籍・判例・ウェブページ等を読んできて、全員の前で口頭発表を行う。テーマが決められない学生がおれば、参考用に教員が提示したアジアや日本の法制史等に関する日本語の概説書の中から自分で選んで読み、それを要約・発表するという形で学んでもらう。授業の最終的な目的は、法学の学習範囲を特定の狭いテーマのみに限定して考えることなく、より幅広い知識や問題関心を養うことである。
到達目標	この演習を通じて学生には、法学を幅広く理解できるようになることが期待される。すなわち、社会と法との関わり等について、より幅広い問題関心を持てるようになることが到達目標である。
授業方法と留意点	最初の数回を除いて、演習形式で授業を進める。参加者各自が論文・書籍・判例・ウェブページ等を選んで読解・要約・発表し、全員で議論を行う。各自の担当回数は臨機応変でいきたい。
科目学習の効果 (資格)	法と社会との関わりについて、幅広い理解を持てるようになることが期待される。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業の進め方の解説	担当教員と参加学生たちの問題関心を相互に話し合う。	自分の問題関心に基づいて、希望する書籍類を考え始める。
	2	現代のアジア法、中国の法制史、中国女性史、日本女性史、社会史等々の候補論文・書籍の紹介	自分でテーマを決められなかった場合の候補論文・書籍を知っておく。	選択するテーマが決まった人から順々に準備を進めていく。必要時間は、個人差もあるが、最低でも数時間はかけてほしい。
	3	現代のアジア法、中国の法制史、中国女性史、日本女性史、社会史等々の候補論文・書籍の紹介	自分でテーマを決められなかった場合の候補論文・書籍を知っておく。	選択するテーマが決まった人から順々に準備を進めていく。必要時間は、個人差もあるが、最低でも数時間はかけてほしい。
	4	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。必要時間は、個人差もあるが、最低でも数時間はかけてほしい。
	5	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。必要時間は、個人差もあるが、最低でも数時間はかけてほしい。
	6	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。必要時間は、個人差もあるが、最低でも数時間はかけてほしい。
	7	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。必要時間は、個人差もあるが、最低でも数時間はかけてほしい。
	8	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。必要時間は、個人差もあるが、最低でも数時間はかけてほしい。
	9	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。必要時間は、個人差もあるが、最低でも数時間はかけてほしい。
	10	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。必要時間は、個人差もあるが、最低でも数時間はかけてほしい。
	11	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。必要時間は、個人差もあるが、最低でも数時間はかけてほしい。
	12	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。必要時間は、個人差もあるが、最低でも数時間はかけてほしい。
	13	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。必要時間は、個人差もあるが、最低でも数時間はかけてほしい。
	14	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。必要時間は、個人差もあるが、最低でも数時間はかけてほしい。
	15	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。必要時間は、個人差もあるが、最低でも数時間はかけてほしい。
関連科目	日本法制史、東洋法制史、法と社会、比較法史			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国環境ハンドブック 2005-2006 年版	中国環境問題研究会	蒼々社
	2	台湾女性史入門	台湾女性史入門編纂委員会	人文書院
	3	体感するモンゴル現代史	萩原守	南船北馬舎
評価方法 (基準)	口頭発表を 60%、質疑応答への参加度を 40%として判断するが、演習科目なので、当然出席がその全ての前提条件となる。			
学生への メッセージ	あまり難しく考えすぎることなく、幅広く法と社会の理解にチャレンジしてほしい。			
担当者の 研究室等	11 号館の 10 階にある萩原研究室			
備考				

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	SeminarⅡ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	鳥谷部 瑋
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	本ゼミは、専門演習Ⅰを受講していることを前提として展開されます。本ゼミは、専門演習Ⅰで修得した国際法の基礎知識を浸透させ定着化を図るとともに、国際法の応用的なアプローチについても学んでいきます。			
到達目標	この演習を通じて、①受動的ではなく、主体的・能動的な学習態度を身に着けること、②国際法の主要な論点について、筋道の立った説明をすることができるようになること、③卒業研究のテーマの候補を見つけること、が期待されます。			
授業方法と留意点	国際法は非常に広い領域を取り扱います。国際法全体について基礎知識を備えることは並大抵のことではありません。でも、そうした基礎知識をみなさんに身に着けてもらうために様々な工夫を凝らし最大限努力します。ですので皆さんもそれに応えて下さい。			
科目学習の効果（資格）				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	国際法への理解を深める	国際社会で日々生じている時事問題への理解を深めるためには、判例や過去の実例を詳しく調べることが重要となります。	自分が選択した事例について、十分に調べ考える姿勢を保つことが大事です。
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
関連科目	国際社会と法、国際法の基礎理論、国際組織法、国際人権法			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法（基準）	参加態度（40％）およびゼミのなかで指示する課題（レポートなど）の達成状況（60％）をもとに評価します。			
学生へのメッセージ	本ゼミは、みなさんの学習能力やニーズに鑑みて柔軟に対応します。みなさんの良き理解者であり味方でありたいと思っています。			
担当者の研究室等備考	11 号館 10 階 鳥谷部研究室			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	SeminarⅡ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	笛木 淳
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	この授業は、4年次の「卒業研究」に向けて、公法（行政法、地方自治法、憲法）の主要判例や学説、法令についての学習を皆さんが主体的に深化させ、卒論のテーマ設定を行うことを目的としています。この講義では、「専門演習Ⅰ」での判例学習を通じて自分なりに発見した課題をさらに深く掘り下げるために、他の関連判例や専門文献に取り組み、プレゼンテーションとディスカッションをしていただきます。																																																																		
到達目標	本演習を通じて学生には各段階で次のスキルの獲得が期待されます。 - 資料の収集段階 (1) 事例研究を通じて自ら主体的に課題を発見する力 (2) 発見した課題に必要な資料を自ら探索・収集する力 - プレゼンテーションとディスカッションの段階について (3) 自分の考えを整理・要約し、他者に伝える力 (4) 他人の意見に傾聴し、問題点を指摘する力																																																																		
授業方法と留意点	- 授業方法：学生によるプレゼンテーションとディスカッション。 - 留意点：報告準備段階では主体的な調査・学習が、ディスカッションでは積極的な発言や学生自らによる議論の整理が求められます。特に行政訴訟に関する分野を研究したい方は、行政法各論を並行して受講することが望ましいです。																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>事例（判例）・文献研究を通じた問題意識の掘り下げ</td><td>報告担当者（グループ）を決め、各自設定した課題（判例研究、その他の論点研究）についてのプレゼンテーションを行ってもらいます。報告の内容は判例の事案・判旨の読解、関連判例と学説の調査・整理が中心です。報告をもとに、参加者全員でディスカッションをします。</td><td> 事前学習： 報告担当者は報告準備に10時間程度かかると思います。報告者以外は指定文献をあらかじめ読んで疑問点等をまとめておくこと（2時間程度） 事後学習： プレゼンテーションへのフィードバックとディスカッションにより明らかになった報告の問題点を踏まえ、再調査または再検討してもらいます（2～4時間程度）。 </td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	事例（判例）・文献研究を通じた問題意識の掘り下げ	報告担当者（グループ）を決め、各自設定した課題（判例研究、その他の論点研究）についてのプレゼンテーションを行ってもらいます。報告の内容は判例の事案・判旨の読解、関連判例と学説の調査・整理が中心です。報告をもとに、参加者全員でディスカッションをします。	事前学習： 報告担当者は報告準備に10時間程度かかると思います。報告者以外は指定文献をあらかじめ読んで疑問点等をまとめておくこと（2時間程度） 事後学習： プレゼンテーションへのフィードバックとディスカッションにより明らかになった報告の問題点を踏まえ、再調査または再検討してもらいます（2～4時間程度）。	2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	事例（判例）・文献研究を通じた問題意識の掘り下げ	報告担当者（グループ）を決め、各自設定した課題（判例研究、その他の論点研究）についてのプレゼンテーションを行ってもらいます。報告の内容は判例の事案・判旨の読解、関連判例と学説の調査・整理が中心です。報告をもとに、参加者全員でディスカッションをします。	事前学習： 報告担当者は報告準備に10時間程度かかると思います。報告者以外は指定文献をあらかじめ読んで疑問点等をまとめておくこと（2時間程度） 事後学習： プレゼンテーションへのフィードバックとディスカッションにより明らかになった報告の問題点を踏まえ、再調査または再検討してもらいます（2～4時間程度）。																																																																
2																																																																			
3																																																																			
4																																																																			
5																																																																			
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	行政法、地方自治法、憲法。 （また、民法や刑法の基礎知識があると望ましいですが、学習が不十分な場合にはこちらで適宜フォローに努めます。）																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>初回講義で指定。学生の意見も取り入れて決定します。</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初回講義で指定。学生の意見も取り入れて決定します。			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	初回講義で指定。学生の意見も取り入れて決定します。																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	- プレゼンテーション（配布資料・報告の内容）：60% - ディスカッション（議論への貢献度）：40%																																																																		
学生へのメッセージ	いよいよ卒業論文に関連する学習が本格化します。意欲的で誠実な参加を期待します。																																																																		
担当者の研究室等	笛木講師室（11号館9階）																																																																		
備考	・事前および事後学習として、演習で扱った内容についてノートにまとめるなど、毎回2時間以上の予習および復習に取り組むこと。 ・レポート課題に対するフィードバックは翌週の授業内で行う。																																																																		

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	SeminarⅡ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	仲宗根 京子
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	世の中にある法律問題に興味を持ち、より深く自分の力で調査・検討することを目的とします。最終的に卒業論文のテーマにもできそうな問題を探することで、自分が法律を研究することを意識するための授業となります。
到達目標	この授業を通して学生には、各自のテーマに関する専門的な参考文献を自分で検索することができ、参考文献を読んで内容を他者へ伝えるといった基本的なプレゼンテーション能力を身につけることが期待される。
授業方法と留意点	専門演習Ⅰから引き続き、各自で興味のある法律問題について報告資料を作成し、プレゼンテーションを行ってもらいます。報告後に質疑応答を行い、理解を深めます。
科目学習の効果（資格）	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	自己紹介・今後の予定の確認	事前：なし 事後：テーマ探し（1時間）
	2	基礎学力調査	就職活動や公務員試験などに対応する基礎学力をテストする	事前：なし 事後：振り返り（1時間）
	3	法律問題の調査①	図書館などを利用して参考文献を探して読む	事前：報告資料の調査（2時間） 事後：追加調査（1時間）
	4	資料の作成①	参考文献をもとにして報告資料を作成する	事前：報告資料の作成（2時間） 事後：追加調査（1時間）
	5	プレゼンテーション①	資料に基づいて報告を行う	事前：報告資料の作成（2時間） 事後：追加調査（1時間）
	6	法律問題の調査②	別の参考文献を探して読む	事前：報告資料の調査（2時間） 事後：追加調査（1時間）
	7	資料の作成②	参考文献をもとにして報告資料を作成する	事前：報告資料の調査（2時間） 事後：追加調査（1時間）
	8	中間報告	資料に基づいて報告を行う	事前：報告のまとめ（2時間） 事後：報告の振り返り（1時間）
	9	法律問題の調査③	別の参考文献を探して読む	事前：報告資料の調査（2時間） 事後：追加調査（1時間）
	10	資料の作成③	参考文献をもとにして報告資料を作成する	事前：報告資料の作成（2時間） 事後：追加調査（1時間）
	11	プレゼンテーション②	資料に基づいて報告を行う	事前：報告資料の作成（2時間） 事後：追加調査（1時間）
	12	法律問題の調査④	別の参考文献を探して読む	事前：報告資料の調査（2時間） 事後：追加調査（1時間）
	13	資料の作成④	参考文献をもとにして報告資料を作成する	事前：報告資料の作成（2時間） 事後：追加調査（1時間）
	14	プレゼンテーション③	資料に基づいて報告を行う	事前：報告資料の作成（2時間） 事後：追加調査（1時間）
	15	総括	半年間の振り返りと専門演習Ⅱについて	事前：報告のまとめ（2時間） 事後：報告を振り返り（1時間）

関連科目	専門演習Ⅰ、法律科目全般
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	報告資料の適切な作成（30%）、プレゼンテーションの精度（30%）、質疑応答（20%）、積極的な受講態度（20%）によって評価していきます。
学生へのメッセージ	自分で設定したテーマについて深く追求しましょう。
担当者の研究室等備考	11号館10階

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	萩原 守
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	この授業は、卒業論文を作成するための演習である。本人の問題関心に基づいて、各自、テーマを設定し、少しずつ自分の卒業論文を書いていくことが目的である。			
到達目標	より良い卒業論文を作成し、法学部の卒業生にふさわしい学識を身につけることが到達目標となる。			
授業方法と留意点	参加者各自の問題関心に基づいて、テーマを設定し、具体的な執筆活動を始める。また定期的にこの授業で中間報告をしてもらい、参加者全員で議論を行う。			
科目学習の効果（資格）	法学の中の特定の分野に関して、専門的な知識を獲得し、自分独自の見解をはっきりと打ち出せるようになる。言い換えると、法学部卒業生にふさわしい学識と能力とを備える人物となることができる。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	各自のテーマと方法論の紹介	参加者全員が自分のテーマと方法論を提示する。。特に、各自が持っている問題関心を述べ合い、その問題に関する研究の方法論を全員で検討する。	あらかじめ、自分の持っている問題関心や、希望を明瞭にまとめておく。
	2	参加者各自による見通しの発表①	各自が持っている卒業論文への見通しを発表し、全員で議論する。	あらかじめ、自分の持っている問題関心や、希望を明瞭にまとめておく。
	3	参加者各自による見通しの発表②	各自が持っている卒業論文への見通しを発表し、全員で議論する。	あらかじめ、自分の持っている問題関心や、希望を明瞭にまとめておく。
	4	参加者各自による見通しの発表③	各自が持っている卒業論文への見通しを発表し、全員で議論する。	あらかじめ、自分の持っている問題関心や、希望を明瞭にまとめておく。
	5	参加者各自による見通しの発表④	各自が持っている卒業論文への見通しを発表し、全員で議論する。	あらかじめ、自分の持っている問題関心や、希望を明瞭にまとめておく。
	6	参加者各自による見通しの発表⑤	各自が持っている卒業論文への見通しを発表し、全員で議論する。	あらかじめ、自分の持っている問題関心や、希望を明瞭にまとめておく。
	7	参加者各自による中間報告会①	各自の卒業論文の中間報告を行う。	問題関心と方法論とに基づいて、卒業論文に着手し、レジュメにまとめる。
	8	参加者各自による中間報告会②	各自の卒業論文の中間報告を行う。	問題関心と方法論とに基づいて、卒業論文に着手し、レジュメにまとめる。
	9	参加者各自による中間報告会③	各自の卒業論文の中間報告を行う。	問題関心と方法論とに基づいて、卒業論文に着手し、レジュメにまとめる。
	10	参加者各自による中間報告会④	各自の卒業論文の中間報告を行う。	問題関心と方法論とに基づいて、卒業論文に着手し、レジュメにまとめる。
	11	参加者各自による中間報告会⑤	各自の卒業論文の中間報告を行う。	問題関心と方法論とに基づいて、卒業論文に着手し、レジュメにまとめる。
	12	参加者各自による中間報告会⑥	各自の卒業論文の中間報告を行う。	問題関心と方法論とに基づいて、卒業論文に着手し、レジュメにまとめる。
	13	参加者各自による中間報告会⑦	各自の卒業論文の中間報告を行う。	問題関心と方法論とに基づいて、卒業論文に着手し、レジュメにまとめる。
	14	参加者各自による中間報告会⑧	各自の卒業論文の中間報告を行う。	問題関心と方法論とに基づいて、卒業論文に着手し、レジュメにまとめる。
	15	参加者各自による中間報告会⑨	各自の卒業論文の中間報告を行う。	問題関心と方法論とに基づいて、卒業論文に着手し、レジュメにまとめる。
関連科目	東洋法制史、日本法制史、法と社会、比較法史			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国近世の罪と罰	太田出	名古屋大学出版会
	2	シャリーアとロシア帝国	堀川徹他	臨川書店
	3	中国法入門	小口彦太他	三省堂
評価方法（基準）	卒業研究の評価はゼミで策定したルーブリック表に基づいて行う。			
学生へのメッセージ	がんばってより良い卒業論文を書きましょう。早めに着手することが肝要です。			
担当者の研究室等	11 号館の 10 階にある萩原研究室			
備考				

科目名	英語 Ia	科目名 (英文)	English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松吉 翔也
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	教科書の指定箇所 (語彙・文法・読解など) を事前事後学習する。(1 時間)
	2	Unit 1: My Life	・異文化紹介 ・教科書を用いて動画視聴、読解、リスニングなど 4 技能を中心に英語を学習する。	教科書の指定箇所 (語彙・文法・読解など) を事前事後学習する。(1 時間)
	3	Unit 1: My Life (外国文化紹介/身近な英語表現 ①)	・異文化紹介 ・教科書を用いて動画視聴、読解、リスニングなど 4 技能を中心に英語を学習する。	教科書の指定箇所 (語彙・文法・読解など) を事前事後学習する。(1 時間)
	4	Unit 2: Let's Eat!	・異文化紹介 ・教科書を用いて動画視聴、読解、リスニングなど 4 技能を中心に英語を学習する。	教科書の指定箇所 (語彙・文法・読解など) を事前事後学習する。(1 時間)
	5	Unit 2: Let's Eat! (外国文化紹介/身近な英語表現 ②)	・異文化紹介 ・教科書を用いて動画視聴、読解、リスニングなど 4 技能を中心に英語を学習する。	教科書の指定箇所 (語彙・文法・読解など) を事前学習する。(1 時間)
	6	映画視聴 ①	・映画を視聴し、その中で描かれる異文化や英語表現について理解を深める。 ・ワークシートを用いて日本文化/社会との比較を行う。	教科書の指定箇所 (語彙・文法・読解など) を事前学習する。(1 時間)
	7	映画視聴 ①	・映画を視聴し、その中で描かれる異文化や英語表現について理解を深める。 ・ワークシートを用いて日本文化/社会との比較を行う。	教科書の指定箇所 (語彙・文法・読解など) を事前学習する。(1 時間)
	8	Unit 3: Mysteries	・異文化紹介 ・教科書を用いて動画視聴、読解、リスニングなど 4 技能を中心に英語を学習する。	教科書の指定箇所 (語彙・文法・読解など) を事前学習する。(1 時間)
	9	Unit 4: Trends	・異文化紹介 ・教科書を用いて動画視聴、読解、リスニングなど 4 技能を中心に英語を学習する。	教科書の指定箇所 (語彙・文法・読解など) を事前学習する。(1 時間)
	10	Unit 4: Trends (外国文化紹介/身近な英語表現 ③)	・異文化紹介 ・教科書を用いて動画視聴、読解、リスニングなど 4 技能を中心に英語を学習する。	教科書の指定箇所 (語彙・文法・読解など) を事前学習する。(1 時間)
	11	Unit 5: My Neighborhood	・異文化紹介 ・教科書を用いて動画視聴、読解、リスニングなど 4 技能を中心に英語を学習する。	教科書の指定箇所 (語彙・文法・読解など) を事前学習する。(1 時間)
	12	Unit 6: Goals (外国文化紹介/身近な英語表現 ④)	・異文化紹介 ・教科書を用いて動画視聴、読解、リスニングなど 4 技能を中心に英語を学習する。	教科書の指定箇所 (語彙・文法・読解など) を事前学習する。(1 時間)
	13	映画視聴 ②	・映画を視聴し、その中で描かれる異文化や英語表現について理解を深める。 ・ワークシートを用いて日本文化/社会との比較を行う。	教科書の指定箇所 (語彙・文法・読解など) を事前学習する。(1 時間)
	14	映画視聴 ②	・映画を視聴し、その中で描かれる異文化や英語表現について理解を深める。 ・ワークシートを用いて日本文化/社会との比較を行う。	教科書の指定箇所 (語彙・文法・読解など) を事前学習する。(1 時間)
	15	プレゼンテーション	最終課題プレゼンテーション	教科書の指定箇所 (語彙・文法・読解など) を事前学習する。(1 時間)
関連科目	英語実践			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	World Link (4th Edition) Level 2	Nancy Douglas 他	センゲージラーニング
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	①小テスト, ②課題・提出物, ③出席, ④発表: 100% (詳しくは初回授業時に説明します)			
学生への メッセージ	映像メディアや映画などを通して英語や異文化に触れる機会を増やします。 英語が苦手でも楽しみながら学習できるようにしますので一緒に頑張りましょう！			
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)			
備考				

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松吉 翔也
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前事後学習する。（1 時間）
	2	Unit 7 : Celebrations	・異文化紹介 ・教科書を用いて動画視聴、読解、リスニングなど 4 技能を中心に英語を学習する。	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前事後学習する。（1 時間）
	3	Unit 7 : Celebrations (外国文化紹介/身近な英語表現 ①)	・異文化紹介 ・教科書を用いて動画視聴、読解、リスニングなど 4 技能を中心に英語を学習する。	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前事後学習する。（1 時間）
	4	Unit 8 : Once Upon A Time	・異文化紹介 ・教科書を用いて動画視聴、読解、リスニングなど 4 技能を中心に英語を学習する。	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前事後学習する。（1 時間）
	5	Unit 9 : Work (外国文化紹介/身近な英語表現 ②)	・異文化紹介 ・教科書を用いて動画視聴、読解、リスニングなど 4 技能を中心に英語を学習する。	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前学習する。（1 時間）
	6	映画視聴 ①	・映画を視聴し、その中で描かれる異文化や英語表現について理解を深める。 ・ワークシートを用いて日本文化/社会との比較を行う。	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前学習する。（1 時間）
	7	映画視聴 ①	・映画を視聴し、その中で描かれる異文化や英語表現について理解を深める。 ・ワークシートを用いて日本文化/社会との比較を行う。	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前学習する。（1 時間）
	8	Unit 10 : Stay In Touch	・異文化紹介 ・教科書を用いて動画視聴、読解、リスニングなど 4 技能を中心に英語を学習する。	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前学習する。（1 時間）
	9	Unit 10 : Stay In Touch (外国文化紹介/身近な英語表現 ③)	・異文化紹介 ・教科書を用いて動画視聴、読解、リスニングなど 4 技能を中心に英語を学習する。	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前学習する。（1 時間）
	10	Unit 11 : Technology	・異文化紹介 ・教科書を用いて動画視聴、読解、リスニングなど 4 技能を中心に英語を学習する。	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前学習する。（1 時間）
	11	Unit 12 : Travel	・異文化紹介 ・教科書を用いて動画視聴、読解、リスニングなど 4 技能を中心に英語を学習する。	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前学習する。（1 時間）
	12	Unit 12 : Travel (外国文化紹介/身近な英語表現 ④)	・異文化紹介 ・教科書を用いて動画視聴、読解、リスニングなど 4 技能を中心に英語を学習する。	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前学習する。（1 時間）
	13	映画視聴 ②	・映画を視聴し、その中で描かれる異文化や英語表現について理解を深める。 ・ワークシートを用いて日本文化/社会との比較を行う。	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前学習する。（1 時間）
	14	映画視聴 ②	・映画を視聴し、その中で描かれる異文化や英語表現について理解を深める。 ・ワークシートを用いて日本文化/社会との比較を行う。	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前学習する。（1 時間）
	15	プレゼンテーション	最終課題プレゼンテーション	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前学習する。（1 時間）
関連科目	英語実践			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	World Link (4th Edition) Level 2	Nancy Douglas 他	センゲージラーニング
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	①小テスト, ②課題・提出物, ③出席, ④発表 : 100% (詳しくは初回授業時に説明します)			
学生への メッセージ	映像メディアや映画などを通して英語や異文化に触れる機会を増やします。 英語が苦手でも楽しみながら学習できるようにしますので一緒に頑張りましょう！			
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)			
備考				

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 真弓
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1303c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Chapter 1 Heads Up	効率的なリーディング	事前：単語調べ (30 分) 事後：文法、単語復習 (45 分)
	2	Chapter 1 Heads Up	効率的なリーディング	事前：単語調べ (30 分) 事後：文法、単語復習 (45 分)
	3	Chapter 2 Burping Cows	フレーズリーディングを理解する	事前：単語調べ (30 分) 事後：文法、単語復習 (45 分)
	4	Chapter 2 Burping Cows	フレーズリーディングを理解する	事前：単語調べ (30 分) 事後：文法、単語復習 (45 分)
	5	Chapter 3 Going Vegetarian	フレーズリーディングを理解する	事前：単語調べ (30 分) 事後：文法、単語復習 (45 分)
	6	Chapter 3 Going Vegetarian	フレーズリーディングを理解する	事前：単語調べ (30 分) 事後：文法、単語復習 (45 分)
	7	確認テスト		
	8	Chapter 4 Coffee Shop Secrets	スキヤニングで情報を検索する	事前：単語調べ (30 分) 事後：文法、単語復習 (45 分)
	9	Chapter 4 Coffee Shop Secrets	スキヤニングで情報を検索する	事前：単語調べ (30 分) 事後：文法、単語復習 (45 分)
	10	Chapter 5 Unusual Jobs	スキミングで概要を把握する	事前：単語調べ (30 分) 事後：文法、単語復習 (45 分)
	11	Chapter 5 Unusual Jobs	スキミングで概要を把握する	事前：単語調べ (30 分) 事後：文法、単語復習 (45 分)
	12	Chapter 6 Underwater Monsters	背景知識を活性化させる	事前：単語調べ (30 分) 事後：文法、単語復習 (45 分)
	13	Chapter 6 Underwater Monsters	背景知識を活性化させる	事前：単語調べ (30 分) 事後：文法、単語復習 (45 分)
	14	Chapter 7 Flash Fiction	背景知識を活用する	事前：単語調べ (30 分) 事後：文法、単語復習 (45 分)
	15	確認テスト 2		

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	READING PALETTE Green	Katsuhiko Muto Timothy Kiggell	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加、テスト (小テスト、まとめテスト等も含む)・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生へのメッセージ	単語力、文法力を学びながら、英語のスキルも同時に学習し、自学習ができるようになります。クラスレベルに応じた授業で、無理なく学習ができる授業構成を目指しています。積極的なクラス参加を期待しています。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	課題、レポートおよび小テストに対するフィードバックの方法 確認テストの正解は次回の授業で解説する。

科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山本 真弓
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1304c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Chapter 8 What 3 Words	内容語と機能語を区別する	事前：単語調べ (30 分) 事後：文法、単語復習 (45 分)
	2	Chapter 8 What 3 Words	内容語と機能語を区別する	事前：単語調べ (30 分) 事後：文法、単語復習 (45 分)
	3	Chapter 9 Sounds of the Sea	単語を分解して意味を考える	事前：単語調べ (30 分) 事後：文法、単語復習 (45 分)
	4	Chapter 9 Sounds of the Sea	単語を分解して意味を考える	事前：単語調べ (30 分) 事後：文法、単語復習 (45 分)
	5	Chapter 10 Rowing across the Atlantic	未知語の意味を推測する	事前：単語調べ (30 分) 事後：文法、単語復習 (45 分)
	6	Chapter 10 Rowing across the Atlantic	未知語の意味を推測する	事前：単語調べ (30 分) 事後：文法、単語復習 (45 分)
	7	確認テスト		
	8	Chapter 11 Rollercops	代名詞についていく	事前：単語調べ (30 分) 事後：文法、単語復習 (45 分)
	9	Chapter 11 Rollercops	代名詞についていく	事前：単語調べ (30 分) 事後：文法、単語復習 (45 分)
	10	Chapter 12 Plant Milk	ディスコースマーカーに着目する	事前：単語調べ (30 分) 事後：文法、単語復習 (45 分)
	11	Chapter 12 Plant Milk	ディスコースマーカーに着目する	事前：単語調べ (30 分) 事後：文法、単語復習 (45 分)
	12	Chapter 13 Alien Life	エッセイ構造を理解する	事前：単語調べ (30 分) 事後：文法、単語復習 (45 分)
	13	Chapter 13 Alien Life	エッセイ構造を理解する	事前：単語調べ (30 分) 事後：文法、単語復習 (45 分)
	14	Chapter 14 Treasure Hunt	パラグラフ構造を理解する	事前：単語調べ (30 分) 事後：文法、単語復習 (45 分)
	15	確認テスト 2		

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	READING PALETTE Green	Katsuhiko Muto Timothy Kiggell	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 100%
学生へのメッセージ	単語力、文法力を学びながら、英語のスキルも同時に学習し、自学習ができるようになります。様々な話題を基に、クラスディスカッション等を通して互いに意見を言い合い、切磋琢磨しながら頑張ってください☆
担当者の研究室等備考	7 号館 2 階 非常勤講師室

科目名	英語Ⅱa	科目名（英文）	EnglishⅡa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー ペル
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN2305c1		

授業概要・目的	この授業では、TOEIC300－400点レベルの基礎的な英語力を養うことを目標に、テキストに沿って練習問題をこなしていく。TOEIC関連の基本的な語彙や表現を覚え、E-mail、ビジネス文書などを取り上げた簡単な読解問題に親しんでもらう。また、各ユニットで説明されている英語表現を習得する。テキストに沿って聞き取りを行い、リスニング力も養成する。練習問題をたくさんこなしてTOEICの点数アップを狙う。
到達目標	受講者が、TOEICの出題形式に慣れ、授業のみならず、自主的にTOEICの受験勉強をすすめ、最終的には50～100点程度スコアを上げることが目標である。
授業方法と留意点	テキストに沿って、TOEICのリスニング、リーディング対策を行っていく。
科目学習の効果（資格）	語彙力の強化及びTOEICのスコアアップ。リスニング、リーディング力の向上。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Course Introduction	Getting to Know Your Classmates	Purchase textbook, think about course goals
	2	Unit 1: Where Are You From?	Subject-Verb Agreement	Review the Lesson
	3	Unit 2: How Are You Doing?	Be Verbs & Do Verbs	Review the Lesson
	4	Unit 3: How Many Classes Do You Have?	Countable Nouns	Review Units 1- 3
	5	Short Quiz Unit 4: How Much Food Do You Need For Your Party?	Uncountable Nouns	Review the Lesson
	6	Unit 5: How Many People Are There In Your Family?	There Is / There Are / It Is / They Are	Review the Lesson
	7	Unit 6: When Is Your Report Due?	Cardinal & Ordinal Numbers	Review Units 4 - 6
	8	Short Quiz Unit 7: How Was Your Weekend?	Past Tense	Review the Lesson
	9	Unit 7: continued	Past Tense	Review the Lesson
	10	Unit 8: What Time Is Your First Class?	Time	Review the Lesson
	11	Unit 9: Have You Ever Been To Kyoto?	Present Perfect	Review Units 7 - 9
	12	Review Game Short Quiz Unit 10: Can I Ask You A Favor?	Auxiliary Verbs	Review the Lesson
	13	Unit 11: I'm Going To Visit My Grandparents	Future Tense	Review the Lesson
	14	Unit 12: I'm On The Train	Prepositions	Review Units 10 - 12
	15	Review Game Short Quiz	Test Review and Corrections	

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Project English	Vivian Morooka	NAN'Un-DO
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 100%
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず出席し、授業内容を復習すること。 英語力を増強するためe-learningに積極的に取り組むこと。 さらに、TOEICを受験することを勧める。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストを読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱb	科目名（英文）	English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	D E G H I K
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN2306c1		

授業概要・目的	英語を実用的に使用するために特に必要な基礎文法項目を反復練習し、4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。構文研究に加え、それらが実際に使用されうる様々な話題、場面、状況を想定し、必要な表現等も含めて、統合的に学習する。さらに、学生の自発的かつ計画的な語彙学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	この科目は、英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標及びテーマとする。
授業方法と留意点	文法事項を学習し、例文を反復練習する。また定着を図るために授業時に小テスト等を行う。 必ず辞書を持参してください。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
	2	Introductions and talking about yourselves.	Vocabulary, grammar, pair and group work.	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
	3	Fashion. Describing and understanding descriptions of what people are wearing.	Vocabulary, grammar, pair and group work.	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
	4	Fashion. How to use adjectives.	Vocabulary, grammar, pair and group work.	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
	5	Health. Giving and receiving advice on staying healthy.	Vocabulary, grammar, pair and group work.	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
	6	Health. Giving and receiving advice on being happy.	Vocabulary, grammar, pair and group work.	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
	7	事象を客観的に表現する：非人称の it	Vocabulary, grammar, pair and group work.	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
	8	Small test. Review.	Vocabulary, grammar, pair and group work.	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
	9	Giving and following instructions and directions.	Vocabulary, grammar, pair and group work.	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
	10	Describing where a place is.	Vocabulary, grammar, pair and group work.	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
	11	Holidays and festivals.	Vocabulary, grammar, pair and group work.	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
	12	Describing objects and materials. Giving and understanding descriptions of objects.	Vocabulary, grammar, pair and group work.	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
	13	The future. Discussing hopes, plans and goals.	Vocabulary, grammar, pair and group work.	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
	14	Discussing your plans for the Winter break.	Vocabulary, grammar, pair and group work.	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
	15	Small test. Summary and review.	Small test, review, and feedback.	総復習（1 時間）

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English firsthand Success, 5th Edition	Marc Helgesen	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	Small tests 20%. 授業態度 Attitude in the lecture: Positiveness to the lecture, understanding instructions in English and following them. Understanding oral questions and clearly and quickly answering. 40% Successfully completing class and homework tasks. P
学生へのメッセージ	英語力は日々の学習の積み重ねです。近道はありませんので、一日一日を大切に頑張ってください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。
----	--

科目名	英会話 I	科目名 (英文)	English Conversation I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	A B
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大江 麻里子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN2329c1		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。 ※詳しい内容は初回授業で説明します。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期は CEFR-J [A1. 2]、後期は CEFR-J [A1. 3] に英語力が到達することを目標とする。 ※詳しい内容は初回授業で説明します。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	テキストや授業の進め方について説明する	テキストに目を通しておくこと。
	2	Chapter 1 College Life	リスニングとスピーキングの演習	テキストにでてくる新しい単語や英語表現を予習しておくこと。
	3	Chapter 1 College Life	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
	4	Chapter 2 Future Plans / Jobs	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
	5	Chapter 2 Future Plans / Jobs	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
	6	Chapter 3 Part-Time Jobs and Otakatsu	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
	7	Chapter 3 Part-Time Jobs and Otakatsu	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
	8	Chapter 4 Movies	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
	9	Chapter 4 Movies	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
	10	Chapter 5 Parties and Festivals	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
	11	Chapter 5 Parties and Festivals	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
	12	Chapter 6 Friends	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
	13	Chapter 6 Friends	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
	14	前期の総まとめ	授業内で難しかったところなどを解説し、英語表現などを定着させる	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。
	15	まとめのテスト	テスト	総復習

関連科目				
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Activator Next	塩澤 正	金星堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業参加度 (出欠状況を含む) 50 % まとめのテスト 50 %
学生へのメッセージ	それぞれの学生のレベルに合わせて、授業内容を調整する予定です。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 ※詳しい内容は初回授業で説明します。

科目名	英会話 I	科目名 (英文)	English Conversation I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	C D
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	上野 利江
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN2329c1		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期は CEFR-J [A1. 2]、後期は CEFR-J [A1. 3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法等についての説明	テキストに目を通しておくこと。
	2	Unit 1 Nice to Meet You	リスニングとスピーキングの演習	予習：テキストに目を通し、新しい単語の意味を調べる。(1 時間) 復習：授業で習った英語表現を暗記する。(1 時間)
	3	Unit 1 Nice to Meet You	リスニングとスピーキングの演習	予習：テキストに目を通し、新しい単語の意味を調べる。(1 時間) 復習：授業で習った英語表現を暗記する。(1 時間)
	4	Unit 2 This Is My Friend	リスニングとスピーキングの演習	予習：テキストに目を通し、新しい単語の意味を調べる。(1 時間) 復習：授業で習った英語表現を暗記する。(1 時間)
	5	Unit 2 This Is My Friend	リスニングとスピーキングの演習	予習：テキストに目を通し、新しい単語の意味を調べる。(1 時間) 復習：授業で習った英語表現を暗記する。(1 時間)
	6	Unit 3 Where Do People Hang Out?	リスニングとスピーキングの演習	予習：テキストに目を通し、新しい単語の意味を調べる。(1 時間) 復習：授業で習った英語表現を暗記する。(1 時間)
	7	Unit 3 Where Do People Hang Out?	リスニングとスピーキングの演習	予習：テキストに目を通し、新しい単語の意味を調べる。(1 時間) 復習：授業で習った英語表現を暗記する。(1 時間)
	8	Unit 4 I Went to That Place	リスニングとスピーキングの演習	予習：テキストに目を通し、新しい単語の意味を調べる。(1 時間) 復習：授業で習った英語表現を暗記する。(1 時間)
	9	Unit 4 I Went to That Place	リスニングとスピーキングの演習	予習：テキストに目を通し、新しい単語の意味を調べる。(1 時間) 復習：授業で習った英語表現を暗記する。(1 時間)
	10	Unit 5 I Have a Question	リスニングとスピーキングの演習	予習：テキストに目を通し、新しい単語の意味を調べる。(1 時間) 復習：授業で習った英語表現を暗記する。(1 時間)
	11	Unit 5 I Have a Question	リスニングとスピーキングの演習	予習：テキストに目を通し、新しい単語の意味を調べる。(1 時間) 復習：授業で習った英語表現を暗記する。(1 時間)
	12	Unit 6 Would It Be Possible to Study This?	リスニングとスピーキングの演習	予習：テキストに目を通し、新しい単語の意味を調べる。(1 時間) 復習：授業で習った英語表現を暗記する。(1 時間)
	13	Unit 6 Would It Be Possible to Study This?	リスニングとスピーキングの演習	予習：テキストに目を通し、新しい単語の意味を調べる。(1 時間) 復習：授業で習った英語表現を暗記する。(1 時間)
	14	Unit 1-6 のまとめ	Unit 1-6 の復習	予習：テキストに目を通し、これまでに出てきた新出単語を再確認する。(1 時間) まとめのテストに向けた準備。(1 時間)
	15	まとめのテスト	テスト	Unit 1- 6 の復習。

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Encounters on Campus	Michael P. Critchley	南雲堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	授業態度（スピーキング練習への参加、投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性など） 60% まとめのテスト 40%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7号館2階）			

備考	
----	--

科目名	英会話 I	科目名 (英文)	English Conversation I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦 茂寿
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN2329c1		

授業概要・目的	自分が思った事ややりたい事を英語で表現、発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期は CEFR-J [A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	授業方法、提出物、評価方法についての説明	シラバスを読んでおこう。教科書を揃えておこう。
	2	Unit 1 Meeting People	新出単語及び表現、教科書の会話の意味把握	事前学習：教科書 p. 7-10 を読んで練習問題を解いておく (1 時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
	3	Unit 1 Meeting People	新出単語及び表現、教科書の会話の意味に意識しながら会話の練習、問題演習	事前学習：教科書 p. 7-10 を読んで練習問題を解いておく (1 時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
	4	Unit 2 Getting to know Your Classmates	新出単語及び表現、教科書の会話の意味把握	事前学習：教科書 p. 11-14 を読んで練習問題を解いておく (1 時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
	5	Unit 2 Getting to know Your Classmates	新出単語及び表現、教科書の会話の意味に意識しながら会話の練習、問題演習	事前学習：教科書 p. 11-14 を読んで練習問題を解いておく (1 時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
	6	Unit 3 Talking about Classes	新出単語及び表現、教科書の会話の意味把握	事前学習：教科書 p. 15-18 を読んで練習問題を解いておく (1 時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
	7	Unit 3 Talking about Classes	新出単語及び表現、教科書の会話の意味に意識しながら会話の練習、問題演習	事前学習：教科書 p. 15-18 を読んで練習問題を解いておく (1 時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
	8	Unit 4 Talking about your Daily Life	新出単語及び表現、教科書の会話の意味把握	事前学習：教科書 p. 19-23 を読んで練習問題を解いておく (1 時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
	9	Unit 4 Talking about your Daily Life	新出単語及び表現、教科書の会話の意味に意識しながら会話の練習、問題演習	事前学習：教科書 p. 19-23 を読んで練習問題を解いておく (1 時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
	10	Unit 5 Talking about People - Personality	新出単語及び表現、教科書の会話の意味把握	事前学習：教科書 p. 24-28 を読んで練習問題を解いておく (1 時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
	11	Unit 5 Talking about People - Personality	新出単語及び表現、教科書の会話の意味に意識しながら会話の練習、問題演習	事前学習：教科書 p. 24-28 を読んで練習問題を解いておく (1 時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
	12	Unit 6 Talking about People - Appearance	新出単語及び表現、教科書の会話の意味把握	事前学習：教科書 p. 29-33 を読んで練習問題を解いておく (1 時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
	13	Unit 6 Talking about People - Appearance	新出単語及び表現、教科書の会話の意味に意識しながら会話の練習、問題演習	事前学習：教科書 p. 29-33 を読んで練習問題を解いておく (1 時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
	14	Unit 7 Talking about Last Weekend	新出単語及び表現、教科書の会話の意味把握	事前学習：教科書 p. 34-38 を読んで練習問題を解いておく (1 時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
	15	Unit 7 Talking about Last Weekend	新出単語及び表現、教科書の会話の意味に意識しながら会話の練習、問題演習	事前学習：教科書 p. 34-38 を読んで練習問題を解いておく (1 時間)。事後学習：間違ったところを中心に復習する。

関連科目	—
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	New Time to Communicate	Eric Bray	南雲堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験はありませんが、授業最初などで以下に記す単語テスト又は授業で行ったところの復習テストを行います。授業中に行う単語テスト (小テスト)・学期末などに行う復習テスト (大テスト)・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100% 進捗によりシラバス記載の授業内容は変わることがあります。
学生への	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力しても

メッセージ	らいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英会話Ⅱ	科目名（英文）	English Conversation II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	A B
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大江 麻里子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN2330c1		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期は CEFR-J [A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	テキストや授業の進め方について説明する	テキストに目を通しておくこと。
	2	Chapter 7 Celebrations	リスニングとスピーキングの演習	テキストにでてくる新しい単語や英語表現を予習しておくこと。
	3	Chapter 7 Celebrations	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
	4	Chapter 8 Travel	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
	5	Chapter 8 Travel	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
	6	Chapter 9 Food	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
	7	Chapter 9 Food	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
	8	Chapter 10 The Environment	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
	9	Chapter 10 The Environment	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
	10	Chapter 11 Business	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
	11	Chapter 11 Business	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
	12	Chapter 12 The Internet and Social Media	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
	13	Chapter 12 The Internet and Social Media	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
	14	後期の総まとめ	授業内で難しかったところなどを解説し、英語表現などを定着させる	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。
	15	まとめのテスト	テスト	総復習

関連科目				
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Activator Next	塩澤 正	金星堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	授業参加度（出欠状況を含む） 50% まとめのテスト 50%
学生へのメッセージ	それぞれの学生のレベルに合わせて、授業内容を調整する予定です。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 ※詳しい内容は初回授業で説明します。

科目名	英会話Ⅱ	科目名（英文）	English Conversation II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	C D
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	上野 利江
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN2330c1		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期は CEFR-J [A1. 2]、後期は CEFR-J [A1. 3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法等についての説明	テキストに目を通しておくこと。
	2	Unit 7 I Have to Miss Next Class	リスニングとスピーキングの演習	予習：テキストに目を通し、新しい単語の意味を調べる。(1 時間) 復習：授業で習った英語表現を暗記する。(1 時間)
	3	Unit 7 I Have to Miss Next Class	リスニングとスピーキングの演習	予習：テキストに目を通し、新しい単語の意味を調べる。(1 時間) 復習：授業で習った英語表現を暗記する。(1 時間)
	4	Unit 8 What Are You Doing on Sunday?	リスニングとスピーキングの演習	予習：テキストに目を通し、新しい単語の意味を調べる。(1 時間) 復習：授業で習った英語表現を暗記する。(1 時間)
	5	Unit 8 What Are You Doing on Sunday?	リスニングとスピーキングの演習	予習：テキストに目を通し、新しい単語の意味を調べる。(1 時間) 復習：授業で習った英語表現を暗記する。(1 時間)
	6	Unit 9 What Should We Get?	リスニングとスピーキングの演習	予習：テキストに目を通し、新しい単語の意味を調べる。(1 時間) 復習：授業で習った英語表現を暗記する。(1 時間)
	7	Unit 9 What Should We Get?	リスニングとスピーキングの演習	予習：テキストに目を通し、新しい単語の意味を調べる。(1 時間) 復習：授業で習った英語表現を暗記する。(1 時間)
	8	Unit 10 Yeah, I'll Give You That	リスニングとスピーキングの演習	予習：テキストに目を通し、新しい単語の意味を調べる。(1 時間) 復習：授業で習った英語表現を暗記する。(1 時間)
	9	Unit 10 Yeah, I'll Give You That	リスニングとスピーキングの演習	予習：テキストに目を通し、新しい単語の意味を調べる。(1 時間) 復習：授業で習った英語表現を暗記する。(1 時間)
	10	Unit 11 Come On! I'll Help You	リスニングとスピーキングの演習	予習：テキストに目を通し、新しい単語の意味を調べる。(1 時間) 復習：授業で習った英語表現を暗記する。(1 時間)
	11	Unit 11 Come On! I'll Help You	リスニングとスピーキングの演習	予習：テキストに目を通し、新しい単語の意味を調べる。(1 時間) 復習：授業で習った英語表現を暗記する。(1 時間)
	12	Unit 12 What Should We Do?	リスニングとスピーキングの演習	予習：テキストに目を通し、新しい単語の意味を調べる。(1 時間) 復習：授業で習った英語表現を暗記する。(1 時間)
	13	Unit 12 What Should We Do?	リスニングとスピーキングの演習	予習：テキストに目を通し、新しい単語の意味を調べる。(1 時間) 復習：授業で習った英語表現を暗記する。(1 時間)
	14	Unit 7-12 のまとめ	Unit 7-12 の復習	予習：テキストに目を通し、これまでに出てきた新出単語を再確認する。(1 時間) まとめのテストに向けた準備。(1 時間)
	15	まとめのテスト	テスト	Unit 7- 12 の復習。

関連科目				
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Encounters on Campus	Michael P. Critchley	南雲堂
	2			
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	授業態度（スピーキング練習への参加、投げかける質問に対する発言、呼应状態、積極性など） 60% まとめのテスト 40%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7号館2階）			

備考	
----	--

科目名	英会話Ⅱ	科目名（英文）	English Conversation II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦 茂寿
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN2330c1		

授業概要・目的	自分が思った事ややりたい事を英語で表現、発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期は CEFR-J [A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	授業方法、提出物、評価方法についての説明	シラバスを読んでおこう。教科書を揃えておこう。
	2	Unit 8 Talking about the Vacation	新出単語及び表現、教科書の会話の意味把握	事前学習：教科書 p. 39-42 を読んで練習問題を解いておく（1 時間）。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
	3	Unit 8 Talking about the Vacation	新出単語及び表現、教科書の会話の意味に意識しながら会話の練習、問題演習	事前学習：教科書 p. 39-42 を読んで練習問題を解いておく（1 時間）。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
	4	Unit 9 Talking about Going Out on the Town	新出単語及び表現、教科書の会話の意味把握	事前学習：教科書 p. 43-48 を読んで練習問題を解いておく（1 時間）。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
	5	Unit 9 Talking about Going Out on the Town	新出単語及び表現、教科書の会話の意味に意識しながら会話の練習、問題演習	事前学習：教科書 p. 43-48 を読んで練習問題を解いておく（1 時間）。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
	6	Unit 10 Talking About Foods and Recipes	新出単語及び表現、教科書の会話の意味把握	事前学習：教科書 p. 49-52 を読んで練習問題を解いておく（1 時間）。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
	7	Unit 10 Talking About Foods and Recipes	新出単語及び表現、教科書の会話の意味に意識しながら会話の練習、問題演習	事前学習：教科書 p. 49-52 を読んで練習問題を解いておく（1 時間）。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
	8	Unit 11 Talking about Travel	新出単語及び表現、教科書の会話の意味把握	事前学習：教科書 p. 53-56 を読んで練習問題を解いておく（1 時間）。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
	9	Unit 11 Talking about Travel	新出単語及び表現、教科書の会話の意味に意識しながら会話の練習、問題演習	事前学習：教科書 p. 53-56 を読んで練習問題を解いておく（1 時間）。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
	10	Unit 12 Talking about Hometowns	新出単語及び表現、教科書の会話の意味把握	事前学習：教科書 p. 57-60 を読んで練習問題を解いておく（1 時間）。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
	11	Unit 12 Talking about Hometowns	新出単語及び表現、教科書の会話の意味に意識しながら会話の練習、問題演習	事前学習：教科書 p. 57-60 を読んで練習問題を解いておく（1 時間）。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
	12	Unit 13 Talking about Your Opinions	新出単語及び表現、教科書の会話の意味把握	事前学習：教科書 p. 61-64 を読んで練習問題を解いておく（1 時間）。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
	13	Unit 13 Talking about Your Opinions	新出単語及び表現、教科書の会話の意味に意識しながら会話の練習、問題演習	事前学習：教科書 p. 61-64 を読んで練習問題を解いておく（1 時間）。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
	14	Unit 14 Talking about Your Opinions	新出単語及び表現、教科書の会話の意味把握	事前学習：教科書 p. 65-69 を読んで練習問題を解いておく（1 時間）。事後学習：間違ったところを中心に復習する。
	15	Unit 14 Talking about Your Opinions	新出単語及び表現、教科書の会話の意味に意識しながら会話の練習、問題演習	事前学習：教科書 p. 65-69 を読んで練習問題を解いておく（1 時間）。事後学習：間違ったところを中心に復習する。

関連科目	—
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	New Time to Communicate	Eric Bray	南雲堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	定期試験はありませんが、授業最初などで以下に記す単語テスト又は授業で行ったところの復習テストを行います。授業中に行う単語テスト（小テスト）・学期末などに行う復習テスト（大テスト）・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100% 進捗によりシラバス記載の授業内容は変わることがあります。
学生への	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力しても

メッセージ	らいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	情報処理 I	科目名 (英文)	Information Processing I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	坂口 紫
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JIL1309a1		

授業概要・目的	大学生活で要求される情報リテラシー能力（文書作成、表計算、プレゼンテーション）の修得、社会人としての情報モラルの修得および自分と自分が所属する組織を守る情報セキュリティに関する理解を目的とする。				
到達目標	現代社会における情報モラルと情報セキュリティの必要性を認識し、対応力を身につける。 Word で見栄えの良い文書を作成できる、データ活用のしやすい表計算シートを作成できる、ターゲットとなる聴衆を意識したスライドを作成できる、課題に対してオフィスアプリケーションを利用するシーンを想定できるようになること。				
授業方法と留意点	「情報のモラルとセキュリティ」について具体的な事例を用いた学習により知識を獲得する。 情報処理演習室にて演習形式で授業を行う。 なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。				
科目学習の効果（資格）	MOS(Microsoft Office Specialist)資格（民間資格）や情報処理関連資格の基礎的技能や知識が得られる。				
授業計画		回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1		【オリエンテーション】 大学生としての情報倫理 摂南大学の ICT 環境 インターネットの利用	モラルとセキュリティに関する質問 OneDrive の使い方 Moodle への登録 出欠管理システム ポータルサイト メールシステム インターネット検索 タイピング練習	事前：情報モラルとセキュリティのテキストに目を通す(30 分) 事後：事後課題の完成(30 分)
	2		Windows 基本操作 【Word】 Word の初歩	個人情報の適切な取り扱い 用語解説 IME の使い方 文書を作成する 文書内を移動する	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	3		【Word】 文書の作成と管理 表の作成、文書の編集	デジタル時代の著作権(1) 文書の書式を設定する 文書のオプションとカスタマイズ 文字列や段落の挿入と書式設定 文字列や段落の並び替えとグループ化	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	4		【Word】 グラフィック要素の挿入と編集	デジタル時代の著作権(2) グラフィック要素を挿入する グラフィック要素を書式設定する 図形・数式の挿入・編集	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	5		【Word】 アウトラインと長文作成	ネット社会に潜む危険と対策(1) アウトラインの設定・編集 長文作成のための機能	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	6		【Word】 レイアウトの変更とセクション設定 段組みを使った文書作成	ネット社会に潜む危険と対策(2) 文書のレイアウトとセクション 段組みを使った文書	事前：文書作成機能の復習(1 時間)
	7		【PowerPoint】 スライドの作成	メールによるコミュニケーション スライドの作成 グラフィック要素の挿入と書式設定 アニメーションの設定 スライドの切り替え	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	8		【PowerPoint】 プレゼンテーション演習	発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前：発表練習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	9		【Excel】 Excel の概要 基礎スキル	Web によるコミュニケーション(1) セルへの入力、シートの編集、計算とセル参照、基本関数	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	10		【Excel】 グラフの作成と設定	Web によるコミュニケーション(2) グラフの種類とパーツ グラフを作成する グラフを書式設定する	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	11		【Excel】 表の視覚化と詳細設定	Web によるコミュニケーション(3) 条件付き書式の設定と修正 スパークラインの設定 表の詳細設定	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	12		【Excel】 関数の利用	モバイル機器の活用と管理 さまざまな関数を利用する	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	13		【Excel】 データ集計とピボットテーブル	情報モラルとセキュリティ ピボットテーブルの利用	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	14		【Excel】 データベースとしての使い方 Excel の表・グラフの利用	データベースとしての表の操作 Excel の表やグラフを Word で利用する	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	15		【Excel】 マクロ：操作の自動化	情報モラルとセキュリティのまとめ マクロの記録と編集、再利用	事前：今までの諸機能の復習(1 時間)
関連科目	応用情報処理				

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	30 時間アカデミック Office2019	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版
	2	〈改訂 4 版〉情報モラル & 情報セキュリティ	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	演習課題 (60%)、プレゼンやタイピング等の操作スキル(40%) を総合して評価します。 詳細は初回授業時に説明しますので、欠席しないようにしましょう。			
学生への メッセージ	PC の基本操作を学習します。多人数の一斉授業であり個別対応は難しいため、PC 操作に自信がない方は必ず事前に予習を行ってください。 個別の連絡や質問対応は、主に Teams のチャット機能を利用できます。積極的に利用してください。 (スマートフォンに Teams アプリをインストールしておきましょう)			
担当者の 研究室等	非常勤講師のため、研究室はありません。 連絡・質問は、Teams のチャットを利用してください。			
備考	大学の PC 教室をはじめ、教科書の解説はすべて Windows (OS) 対応となります。Mac (OS) には対応していませんので、自宅学習用の PC が Mac の方は、教科書通りの操作ではうまくいかないことがあります。その場合は自己責任で対処方法を調べてください。(講師は Mac 環境への個別対応は行いません)			

科目名	情報処理Ⅱ	科目名（英文）	Information Processing II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺内 睦博, 新居 英志
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JIL1310a1		

授業概要・目的	「数理・データサイエンス・AI」は現代の「読み・書き・そろばん」であり、デジタル社会において学ぶべき教養である。本講義ではその基礎として、データ分析の歴史、背景や現状について知り、データの種類・解析方法や AI に必要な技術、その応用例などを様々な事例を通して学び理解する。また、エクセルを用いて実際にデータを処理し、その活用方法を身に付けることを目的とする。
到達目標	データの種類や処理の目的を理解できると共に、データサイエンス・AI の基本的な使い方、およびその際に注意すべきことを理解できるようになること。
授業方法と留意点	本講義はオンデマンド形式の講義です。毎週、動画の視聴とレポート提出、演習課題提出、確認テストが必須ですので、計画的にこなしてください。
科目学習の効果（資格）	「データサイエンティスト検定 リテラシーレベル」や「基本情報処理技術者」の資格取得に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス データサイエンスとは	・大学のシステム（moodle, Teams, メール, OneDrive）の利用方法について ・本講義の受講方法、注意点など ・データサイエンス, AI とは	事後：動画視聴, 課題レポート・演習課題の提出, 確認テスト
	2	社会で起きている変化(1)	・日本企業の国際競争力低下 ・情報通信メディアの普及 ・DX（デジタル・トランスフォーメーション） ・演習「Excel の基本的な操作(1)」	事前： 動画視聴, 演習課題 事後： 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	3	社会で起きている変化(2)	・デジタル社会の提言 ・Society5.0 ・演習「Excel の基本的な操作(2)」	事前： 動画視聴, 演習課題 事後： 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	4	社会で活用されているデータ(1)	・データの種類 ・1 次データ, 2 次データ, メタデータ ・オープンデータ ・演習「時系列データの可視化(1)」	事前： 動画視聴, 演習課題 事後： 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	5	社会で活用されているデータ(2)	・構造化データ, 非構造化データ ・テキストデータ, 画像・音声データ ・アノテーション ・演習「時系列データの可視化(2)」	事前： 動画視聴, 演習課題 事後： 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	6	データ・AI の活用領域	・データサイエンスの活用事例 ・研究開発, マーケティング, 品質管理におけるデータ分析 ・演習「平均の算出とその可視化」	事前： 動画視聴, 演習課題 事後： 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	7	データ・AI 利活用のための技術(1)	・データの一次分析と可視化 ・言語処理, 画像処理, 音声処理技術について ・演習「標準偏差の算出とその可視化」	事前： 動画視聴, 演習課題 事後： 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	8	データ・AI 利活用のための技術(2)	・データ解析（予測, グルーピングパターン発見, 最適化） ・特化型 AI と汎用 AI ・自動機械学習 ・演習「大量のデータを扱う方法(1)」	事前： 動画視聴, 演習課題 事後： 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	9	データ・AI 利活用の現場(1)	・データサイエンスのサイクル ・製造業のデータ・AI 活用 ・演習「大量のデータを扱う方法(2)」	事前： 動画視聴, 演習課題 事後： 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	10	データ・AI 利活用の現場(2)	・小売業のデータ・AI 活用 ・サービス業のデータ・AI 活用 ・公共・インフラのデータ・AI 活用 ・演習「基本統計量の算出と箱ひげ図(1)」	事前： 動画視聴, 演習課題 事後： 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	11	データ・AI 利活用の現場(3)	・データ・AI 活用による新しいビジネス領域 ・演習「基本統計量の算出と箱ひげ図(2)」	事前： 動画視聴, 演習課題 事後： 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	12	データ・AI 利活用の最新動向	・AI などを活用した新しいビジネス ・AI 最新技術の活用例 ・演習「度数分布表とヒストグラムの作成」	事前： 動画視聴, 演習課題 事後： 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	13	データ・AI を扱う上での留意事項(1)	・ELSI とは何か ・データの倫理 ・個人情報とプライバシー ・演習「散布図の作成と相関係数の算出」	事前： 動画視聴, 演習課題 事後： 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	14	データ・AI を扱う上での留意事項(2)	・バイアス ・社会的合意の形成に向けて ・演習「定性データの扱い方とクロス集計」	事前： 動画視聴, 演習課題 事後： 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	15	データを守る上での留意事項	・情報セキュリティとは ・情報セキュリティ脅威に関する事例 ・データの守り方 ・演習「総合演習」	事前： 動画視聴, 演習課題 事後： 課題レポートの提出, 確認テストの実施

関連科目	情報リテラシー			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	AI データサイエンスリテラシー入門	吉岡剛志他	技術評論社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	オンデマンド視聴の達成率：40% 課題レポート：20% 演習課題：20% 確認テスト：20%			
学生への メッセージ	昨今のデジタル社会において必須であるデータの扱い方について学ぶことができます。オンデマンド講義のため、計画的な動画視聴が必要です。 疑問点は放置せず積極的に質問することで速やかに解消してください。			
担当者の 研究室等	新居研究室（7号館5階）、寺内（11号館10階）			
備考				

科目名	スポーツ科学概論	科目名 (英文)	Introduction to Sports Science
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	瀧 千波
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH1349a1		

授業概要・目的	スポーツと運動は、日常生活の中で欠かせないものである。本授業では、スポーツや運動、身体運動に関する基礎的な知識について、最新の科学的知見をもとに学習する。ヒトの基本的な身体構造（骨格や筋腱、神経）、及びしくみについて学ぶとともに、自分自身やスポーツ競技現場のアスリートのみならず、成長期の子どもから高齢者に至るまでの身体の変化についても理解する。その上で、それぞれの目的に合った効果的なトレーニングやエクササイズについて理解し、競技パフォーマンスの向上や生活習慣病の予防など、生涯を通じてスポーツや運動、身体運動を実践する能力や、提供できる能力を養うことを目指す。 SDGs-3, 4, 5																																																																		
到達目標	身体形態・機能およびスポーツによる身体の変化について、正しく理解することができる。 ヒトの身体構造や機能のしくみを理解する。 目的（パフォーマンス向上や健康増進）に応じたトレーニングやエクササイズについて理解する。																																																																		
授業方法と留意点	講義を受け、課題を課す。																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> <tr> <td>1</td><td>ガイダンス</td><td>本講義の目的と意義、授業方法について説明する。</td><td>・ 授業ノートで復習すること。 ・ 講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事後学習時間 30 分)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>身体づくり</td><td>中学・高校で既知の身体づくりについて復習する。身体づくりについて正しく理解することができる。</td><td>・ レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・ 講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60 分)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>身体を動かすしくみー筋・骨格系ー</td><td>身体が活動する際、骨や筋肉はどのようなしくみにより、どのように協調して動いているのか、正しく理解することができる。</td><td>・ レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・ 講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60 分)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>身体を動かすしくみー呼吸循環器系ー</td><td>身体活動の強度が増すとき、心臓および血管系、呼吸器系がどのように応答しているのか理解することができる。</td><td>・ レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・ 講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60 分)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>身体の生理機能</td><td>安静時および身体活動時における生体内部の働きと、恒常性について理解することができる。</td><td>・ レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・ 講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60 分)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>スポーツ栄養</td><td>様々な運動種目のパフォーマンスを最大限に向上させるための望ましい栄養摂取について、その内容と方法を理解することができる。</td><td>・ レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・ 講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60 分)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>筋力トレーニングの科学</td><td>運動種目や運動目的の違いに即した運動方法について理解することができる。</td><td>・ レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・ 講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60 分)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>有酸素性トレーニングの科学</td><td>持久力を向上させるために必要な運動方法について理解することができる。</td><td>・ レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・ 講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60 分)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>青少年におけるトレーニング</td><td>発育期における身体的特徴と運動との関わりについて理解することができる。</td><td>・ レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・ 講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60 分)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>加齢と運動</td><td>老年期における個人差を含む身体的・脳機能の特徴、さらに老化を遅延させるための運動の役割について理解することができる。</td><td>・ レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・ 講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60 分)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>運動と疲労</td><td>運動による疲労はなぜ惹起されるのか、またその回復について、理論と方法を理解することができる。</td><td>・ レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・ 講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60 分)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>スポーツと環境</td><td>環境が身体に与える影響について理解することができる。</td><td>・ レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・ 講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60 分)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>スポーツと遺伝</td><td>遺伝がスポーツに与える影響について理解することができる。</td><td>・ レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・ 講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60 分)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>運動障害と予防</td><td>運動による内科的・外科的疾患の概要と予防方法について理解することができる。</td><td>・ レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・ 講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60 分)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>リカバリーの科学</td><td>スポーツパフォーマンスを最大限に発揮するため、心身の調整について理論と方法を理解することができる。</td><td>・ レジュメ、授業ノートで復習すること。 (事前・事後学習時間 60 分)</td></tr> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	本講義の目的と意義、授業方法について説明する。	・ 授業ノートで復習すること。 ・ 講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事後学習時間 30 分)	2	身体づくり	中学・高校で既知の身体づくりについて復習する。身体づくりについて正しく理解することができる。	・ レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・ 講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60 分)	3	身体を動かすしくみー筋・骨格系ー	身体が活動する際、骨や筋肉はどのようなしくみにより、どのように協調して動いているのか、正しく理解することができる。	・ レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・ 講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60 分)	4	身体を動かすしくみー呼吸循環器系ー	身体活動の強度が増すとき、心臓および血管系、呼吸器系がどのように応答しているのか理解することができる。	・ レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・ 講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60 分)	5	身体の生理機能	安静時および身体活動時における生体内部の働きと、恒常性について理解することができる。	・ レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・ 講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60 分)	6	スポーツ栄養	様々な運動種目のパフォーマンスを最大限に向上させるための望ましい栄養摂取について、その内容と方法を理解することができる。	・ レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・ 講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60 分)	7	筋力トレーニングの科学	運動種目や運動目的の違いに即した運動方法について理解することができる。	・ レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・ 講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60 分)	8	有酸素性トレーニングの科学	持久力を向上させるために必要な運動方法について理解することができる。	・ レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・ 講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60 分)	9	青少年におけるトレーニング	発育期における身体的特徴と運動との関わりについて理解することができる。	・ レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・ 講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60 分)	10	加齢と運動	老年期における個人差を含む身体的・脳機能の特徴、さらに老化を遅延させるための運動の役割について理解することができる。	・ レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・ 講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60 分)	11	運動と疲労	運動による疲労はなぜ惹起されるのか、またその回復について、理論と方法を理解することができる。	・ レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・ 講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60 分)	12	スポーツと環境	環境が身体に与える影響について理解することができる。	・ レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・ 講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60 分)	13	スポーツと遺伝	遺伝がスポーツに与える影響について理解することができる。	・ レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・ 講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60 分)	14	運動障害と予防	運動による内科的・外科的疾患の概要と予防方法について理解することができる。	・ レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・ 講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60 分)	15	リカバリーの科学	スポーツパフォーマンスを最大限に発揮するため、心身の調整について理論と方法を理解することができる。	・ レジュメ、授業ノートで復習すること。 (事前・事後学習時間 60 分)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	本講義の目的と意義、授業方法について説明する。	・ 授業ノートで復習すること。 ・ 講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事後学習時間 30 分)																																																																
2	身体づくり	中学・高校で既知の身体づくりについて復習する。身体づくりについて正しく理解することができる。	・ レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・ 講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60 分)																																																																
3	身体を動かすしくみー筋・骨格系ー	身体が活動する際、骨や筋肉はどのようなしくみにより、どのように協調して動いているのか、正しく理解することができる。	・ レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・ 講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60 分)																																																																
4	身体を動かすしくみー呼吸循環器系ー	身体活動の強度が増すとき、心臓および血管系、呼吸器系がどのように応答しているのか理解することができる。	・ レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・ 講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60 分)																																																																
5	身体の生理機能	安静時および身体活動時における生体内部の働きと、恒常性について理解することができる。	・ レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・ 講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60 分)																																																																
6	スポーツ栄養	様々な運動種目のパフォーマンスを最大限に向上させるための望ましい栄養摂取について、その内容と方法を理解することができる。	・ レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・ 講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60 分)																																																																
7	筋力トレーニングの科学	運動種目や運動目的の違いに即した運動方法について理解することができる。	・ レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・ 講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60 分)																																																																
8	有酸素性トレーニングの科学	持久力を向上させるために必要な運動方法について理解することができる。	・ レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・ 講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60 分)																																																																
9	青少年におけるトレーニング	発育期における身体的特徴と運動との関わりについて理解することができる。	・ レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・ 講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60 分)																																																																
10	加齢と運動	老年期における個人差を含む身体的・脳機能の特徴、さらに老化を遅延させるための運動の役割について理解することができる。	・ レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・ 講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60 分)																																																																
11	運動と疲労	運動による疲労はなぜ惹起されるのか、またその回復について、理論と方法を理解することができる。	・ レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・ 講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60 分)																																																																
12	スポーツと環境	環境が身体に与える影響について理解することができる。	・ レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・ 講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60 分)																																																																
13	スポーツと遺伝	遺伝がスポーツに与える影響について理解することができる。	・ レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・ 講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60 分)																																																																
14	運動障害と予防	運動による内科的・外科的疾患の概要と予防方法について理解することができる。	・ レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・ 講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60 分)																																																																
15	リカバリーの科学	スポーツパフォーマンスを最大限に発揮するため、心身の調整について理論と方法を理解することができる。	・ レジュメ、授業ノートで復習すること。 (事前・事後学習時間 60 分)																																																																
関連科目	スポーツ科学実習Ⅰa、Ⅰb、Ⅱa、Ⅱb、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際																																																																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題 (30%)、出席 (40%)、最終レポート (30%) により評価する。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	総合体育館 1 階			
備考				

科目名	スポーツ科学実習 Ia	科目名 (英文)	Practicum in Sports Science Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	瀬川 智広、小寺 亮太、關 修人、竹澤 健介、渡部 将之
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH1350a1		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 SDGs-3、4、5																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップ、リーダーを支援する能力を培うことができるようになることが期待される。(DP1)																																																																		
授業方法と留意点	実技形式で行う。 開講種目は、以下のとおりである。 ・屋内種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※1 各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。 ※2 第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。 ※3 悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。																																																																		
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。																																																																		
授業計画	<table> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> <tr> <td>1</td><td>・ガイダンス</td><td>・履修上の注意やコース種目分け</td><td>事前：授業概要・目的などを学習する（30 分） 事後：本実習の理解を深める（30 分）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>・体力測定①</td><td>・屋外種目</td><td>事前：運動を行い体力測定に備える（30 分） 事後：自身の体力についての振り返り（30 分）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>・体力測定②</td><td>・屋内種目</td><td>事前：運動を行い体力測定に備える（30 分） 事後：自身の体力についての振り返り（30 分）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>・種目の概要 ・基礎知識について</td><td>・種目の概要、基礎知識の説明</td><td>事前：基礎知識を学習しておく（30 分） 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る（30 分）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム</td><td>・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：ルールについて学習しておく（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム</td><td>・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：基礎技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム</td><td>・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：基礎技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム</td><td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム</td><td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：全授業の総括（30 分）</td></tr> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	・ガイダンス	・履修上の注意やコース種目分け	事前：授業概要・目的などを学習する（30 分） 事後：本実習の理解を深める（30 分）	2	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える（30 分） 事後：自身の体力についての振り返り（30 分）	3	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える（30 分） 事後：自身の体力についての振り返り（30 分）	4	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく（30 分） 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る（30 分）	5	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）	6	・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）	7	・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）	8	・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）	9	・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）	10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）	11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）	12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）	13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）	14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）	15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：全授業の総括（30 分）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	・ガイダンス	・履修上の注意やコース種目分け	事前：授業概要・目的などを学習する（30 分） 事後：本実習の理解を深める（30 分）																																																																
2	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える（30 分） 事後：自身の体力についての振り返り（30 分）																																																																
3	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える（30 分） 事後：自身の体力についての振り返り（30 分）																																																																
4	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく（30 分） 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る（30 分）																																																																
5	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）																																																																
6	・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）																																																																
7	・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）																																																																
8	・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）																																																																
9	・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）																																																																
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）																																																																
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）																																																																
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）																																																																
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）																																																																
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）																																																																
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：全授業の総括（30 分）																																																																
関連科目	生涯スポーツ実習、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際																																																																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	対面授業：活動点50％、技能点25％、態度点25％ ※ なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。																																																																		
学生へのメッセージ	授業1回目（ガイダンス）は、総合体育館2階アリーナに集合してください。（更衣不要） 実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。（コピー不可）																																																																		

担当者の 研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）を準備する

科目名	スポーツ科学実習 I b	科目名 (英文)	Practicum in Sports Science Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	瀬川 智広、鈴木 雄太、關 修人、竹澤 健介、渡部 将之
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH1351a1		

授業概要・目的	本科目では、スポーツ科学実習 I a で培った基礎的な技術に応用し、高度なスポーツ技術の獲得を目指す。またスポーツを通じてさらなる人間力の向上を目指し、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップ、リーダーを支援する能力を培うことができるようになることが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	実技形式で行う。 開講種目は、以下のとおりである。 ・屋内種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※1 各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。 ※2 第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。 ※3 悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。																																																																		
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。																																																																		
授業計画	<table> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> <tr> <td>1</td><td>・ガイダンス</td><td>・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）</td><td>事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>・種目の概要 ・基礎知識について</td><td>・種目の概要、基礎知識の説明</td><td>事前：基礎知識を学習しておく（30分） 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る（30分）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム</td><td>・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：ルールについて学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>・基本技術（基礎編1） ・簡易ゲーム</td><td>・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：基礎技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>・基本技術（基礎編2） ・簡易ゲーム</td><td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術に応用した運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：基礎技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>・基本技術（応用編1） ・簡易ゲーム</td><td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術に応用した運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>・基本技術（応用編2） ・簡易ゲーム</td><td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術に応用した運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>・ゲーム ・2年次ガイダンス等</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・2年次ガイダンス等を行う</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：全授業の総括（30分）</td></tr> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	・ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）	2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく（30分） 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る（30分）	3	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	4	・基本技術（基礎編1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	5	・基本技術（基礎編2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術に応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	6	・基本技術（応用編1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術に応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	7	・基本技術（応用編2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術に応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	15	・ゲーム ・2年次ガイダンス等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・2年次ガイダンス等を行う	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：全授業の総括（30分）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	・ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）																																																																
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく（30分） 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る（30分）																																																																
3	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
4	・基本技術（基礎編1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
5	・基本技術（基礎編2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術に応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
6	・基本技術（応用編1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術に応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
7	・基本技術（応用編2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術に応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
15	・ゲーム ・2年次ガイダンス等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・2年次ガイダンス等を行う	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：全授業の総括（30分）																																																																
関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際																																																																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	対面授業：活動点50％、技能点25％、態度点25％ ※ なお、活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。																																																																		
学生への	授業1回目（ガイダンス）は、総合体育館2階アリーナに集合してください。（更衣不要）																																																																		

メッセージ	実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。（コピー不可）
担当者の 研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）を準備する

科目名	スポーツ科学実習Ⅱa	科目名（英文）	Practicum in Sports Science IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	河瀬 泰治、関 修人
ディプロマポリシー（DP）	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH1352a1		

授業概要・目的	スポーツの基礎知識をベースに、より応用的な内容に発展させ、スポーツライフ形成の大切さを学ぶ。スポーツ活動の楽しさや身体活動の重要性を自覚するとともに、生涯スポーツ参加への意識向上と自信を深めることを目的とする。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 SDGs-3、4、5																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップ、リーダーを支援する能力を培うことができるようになることが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	実技形式で行う。 開講種目は、以下のとおりである。 ・屋内種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※1 各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。 ※2 第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。 ※3 悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。																																																																		
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。																																																																		
授業計画	<table> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> <tr> <td>1</td><td>・ガイダンス</td><td>・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）</td><td>事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める</td></tr> <tr> <td>2</td><td>・種目の概要 ・基礎知識について</td><td>・種目の概要、基礎知識の説明</td><td>事前：基礎知識を学習しておく 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る</td></tr> <tr> <td>3</td><td>・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム</td><td>・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：ルールについて学習しておく 事後：内容の振り返り</td></tr> <tr> <td>4</td><td>・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム</td><td>・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り</td></tr> <tr> <td>5</td><td>・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム</td><td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り</td></tr> <tr> <td>6</td><td>・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム</td><td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り</td></tr> <tr> <td>7</td><td>・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム</td><td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り</td></tr> <tr> <td>8</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り</td></tr> <tr> <td>9</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り</td></tr> <tr> <td>10</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り</td></tr> <tr> <td>11</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り</td></tr> <tr> <td>12</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り</td></tr> <tr> <td>13</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り</td></tr> <tr> <td>14</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り</td></tr> <tr> <td>15</td><td>・ゲーム ・授業アンケート等</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・授業の振り返りのためにアンケートを行う</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：全授業の総括</td></tr> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	・ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める	2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る	3	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく 事後：内容の振り返り	4	・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り	5	・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り	6	・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り	7	・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り	8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り	9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り	10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り	11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り	12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り	13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り	14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り	15	・ゲーム ・授業アンケート等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・授業の振り返りのためにアンケートを行う	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：全授業の総括
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	・ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める																																																																
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る																																																																
3	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく 事後：内容の振り返り																																																																
4	・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り																																																																
5	・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り																																																																
6	・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り																																																																
7	・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り																																																																
8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り																																																																
9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り																																																																
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り																																																																
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り																																																																
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り																																																																
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り																																																																
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り																																																																
15	・ゲーム ・授業アンケート等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・授業の振り返りのためにアンケートを行う	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：全授業の総括																																																																
関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際																																																																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	対面授業：活動点50％、技能点25％、態度点25％ ※ なお、活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。																																																																		

学生への メッセージ	授業1回目（ガイダンス）は、総合体育館2階アリーナに集合してください。（更衣不要） 実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。（コピー不可）
担当者の 研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）

科目名	スポーツ科学実習Ⅱb	科目名（英文）	Practicum in Sports Science IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	河瀬 泰治、関 修人
ディプロマポリシー（DP）	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH1353a1		

授業概要・目的	スポーツの基礎知識をベースに、より応用的な内容に発展させ、スポーツライフ形成の大切さを学ぶ。スポーツ活動の楽しさや身体活動の重要性を自覚するとともに、生涯スポーツ参加への意識向上と自信を深めることを目的とする。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 SDGs-3、4、5																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップ、リーダーを支援する能力を培うことができるようになることが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	実技形式で行う。 開講種目は、以下のとおりである。 ・屋内種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※1 各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。 ※2 第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。 ※3 悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。																																																																		
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。																																																																		
授業計画	<table> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> <tr> <td>1</td><td>・ガイダンス</td><td>・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）</td><td>事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める</td></tr> <tr> <td>2</td><td>・種目の概要 ・基礎知識について</td><td>・種目の概要、基礎知識の説明</td><td>事前：基礎知識を学習しておく 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る</td></tr> <tr> <td>3</td><td>・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム</td><td>・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：ルールについて学習しておく 事後：内容の振り返り</td></tr> <tr> <td>4</td><td>・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム</td><td>・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り</td></tr> <tr> <td>5</td><td>・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム</td><td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り</td></tr> <tr> <td>6</td><td>・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム</td><td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り</td></tr> <tr> <td>7</td><td>・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム</td><td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り</td></tr> <tr> <td>8</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り</td></tr> <tr> <td>9</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り</td></tr> <tr> <td>10</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り</td></tr> <tr> <td>11</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り</td></tr> <tr> <td>12</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り</td></tr> <tr> <td>13</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り</td></tr> <tr> <td>14</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り</td></tr> <tr> <td>15</td><td>・ゲーム ・授業アンケート等</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・授業の振り返りのためにアンケートを行う</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：全授業の総括</td></tr> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	・ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める	2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る	3	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく 事後：内容の振り返り	4	・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り	5	・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り	6	・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り	7	・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り	8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り	9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り	10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り	11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り	12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り	13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り	14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り	15	・ゲーム ・授業アンケート等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・授業の振り返りのためにアンケートを行う	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：全授業の総括
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	・ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める																																																																
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る																																																																
3	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく 事後：内容の振り返り																																																																
4	・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り																																																																
5	・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り																																																																
6	・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り																																																																
7	・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り																																																																
8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り																																																																
9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り																																																																
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り																																																																
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り																																																																
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り																																																																
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り																																																																
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り																																																																
15	・ゲーム ・授業アンケート等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・授業の振り返りのためにアンケートを行う	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：全授業の総括																																																																
関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際																																																																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	対面授業：活動点50％、技能点25％、態度点25％ ※ なお、活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。																																																																		

学生への メッセージ	授業1回目（ガイダンス）は、総合体育館2階アリーナに集合してください。（更衣不要） 実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。（コピー不可）
担当者の 研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）

科目名	哲学 I	科目名 (英文)	Philosophy I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	貫井 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1304a1		

授業概要・目的	この授業では、西洋哲学史上の代表的な哲学者の思想を概観する。その際に、歴史上の著名な哲学者が、どのような倫理的・道徳的主張を行ったかということ、彼らが世界をどのようなものとして捉えたかということと合わせて考える。これら二つのことは、西田幾多郎が『善の研究』の冒頭で述べるように、以下のように連関しているからである。「世界はこのようなもの、人生はこのようなものという哲学的世界観および人生観と、人間はかくせねばならぬ、かかるところに安心せねばならぬという道德宗教の実践的要求とは密接の關係を持っている」。「われわれは何をなすべきか、どこに安心すべきかの問題を論じる前に、まず天地人生の真相はいかなるものであるか、真の实在とはいかなるものなるかを明らかにせねばならぬ」。 哲学が自分自身で森に分け入って探索することであるとすれば、哲学史はそのような探索の先人の記録である。哲学史を学ぶことは、自分自身で探索することとは異なるかもしれない。しかし、それらの知は自分自身で探索する際の豊かな道標となるはずである。																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、授業で扱う西洋哲学史上の人物の思想について、 ① 時代背景 ② 考えの要点 ③ 与えた影響 の3点を理解できるようになることが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	Teams を使用して、該当テキストを読み進めます（毎回、ある程度の読書量があります）。定期的に Google Form 等を利用して、授業内容に関する小テストに答えてもらいます。																																																																		
科目学習の効果（資格）	西洋哲学史における代表的な議論の幾つかを学ぶことによって、ものごとに対する多義的な見方を身に着け、複雑な現実を単純化せずに捉えられるようになる。																																																																		
授業計画	<table> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>授業全体の概要</td><td> 予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：読書課題（哲学、倫理学の古典からの抜粋であることが多い）を読むこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています） </td></tr> <tr> <td>2</td><td>古代ギリシアの哲学（1）</td><td>ソクラテス以前の哲学者</td><td>1 に同じ</td></tr> <tr> <td>3</td><td>古代ギリシアの哲学（2）</td><td>ソクラテス、プラトン</td><td>1 に同じ</td></tr> <tr> <td>4</td><td>古代ギリシアの哲学（3）</td><td>アリストテレス</td><td>1 に同じ</td></tr> <tr> <td>5</td><td>キリスト教と哲学（1）</td><td>パウロ、アウグスティヌス</td><td>1 に同じ</td></tr> <tr> <td>6</td><td>キリスト教と哲学（2）</td><td>トマス・アキナス</td><td>1 に同じ</td></tr> <tr> <td>7</td><td>近代の哲学（1）</td><td>デカルト</td><td>1 に同じ</td></tr> <tr> <td>8</td><td>近代の哲学（2）</td><td>ヒューム</td><td>1 に同じ</td></tr> <tr> <td>9</td><td>ドイツ観念論の哲学（1）</td><td>カント</td><td>1 に同じ</td></tr> <tr> <td>10</td><td>ドイツ観念論の哲学（2）</td><td>ヘーゲル</td><td>1 に同じ</td></tr> <tr> <td>11</td><td>現代の哲学（1）</td><td>ニーチェ</td><td>1 に同じ</td></tr> <tr> <td>12</td><td>現代の哲学（2）</td><td>ウィットゲンシュタイン</td><td>1 に同じ</td></tr> <tr> <td>13</td><td>現代の哲学（3）</td><td>フッサール、ハイデガー</td><td>1 に同じ</td></tr> <tr> <td>14</td><td>現代の哲学（4）</td><td>デリダ、ドゥルーズ</td><td>1 に同じ</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ</td><td>授業全体の振り返り</td><td>1 に同じ</td></tr> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業全体の概要	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：読書課題（哲学、倫理学の古典からの抜粋であることが多い）を読むこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）	2	古代ギリシアの哲学（1）	ソクラテス以前の哲学者	1 に同じ	3	古代ギリシアの哲学（2）	ソクラテス、プラトン	1 に同じ	4	古代ギリシアの哲学（3）	アリストテレス	1 に同じ	5	キリスト教と哲学（1）	パウロ、アウグスティヌス	1 に同じ	6	キリスト教と哲学（2）	トマス・アキナス	1 に同じ	7	近代の哲学（1）	デカルト	1 に同じ	8	近代の哲学（2）	ヒューム	1 に同じ	9	ドイツ観念論の哲学（1）	カント	1 に同じ	10	ドイツ観念論の哲学（2）	ヘーゲル	1 に同じ	11	現代の哲学（1）	ニーチェ	1 に同じ	12	現代の哲学（2）	ウィットゲンシュタイン	1 に同じ	13	現代の哲学（3）	フッサール、ハイデガー	1 に同じ	14	現代の哲学（4）	デリダ、ドゥルーズ	1 に同じ	15	まとめ	授業全体の振り返り	1 に同じ
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業全体の概要	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：読書課題（哲学、倫理学の古典からの抜粋であることが多い）を読むこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）																																																																
2	古代ギリシアの哲学（1）	ソクラテス以前の哲学者	1 に同じ																																																																
3	古代ギリシアの哲学（2）	ソクラテス、プラトン	1 に同じ																																																																
4	古代ギリシアの哲学（3）	アリストテレス	1 に同じ																																																																
5	キリスト教と哲学（1）	パウロ、アウグスティヌス	1 に同じ																																																																
6	キリスト教と哲学（2）	トマス・アキナス	1 に同じ																																																																
7	近代の哲学（1）	デカルト	1 に同じ																																																																
8	近代の哲学（2）	ヒューム	1 に同じ																																																																
9	ドイツ観念論の哲学（1）	カント	1 に同じ																																																																
10	ドイツ観念論の哲学（2）	ヘーゲル	1 に同じ																																																																
11	現代の哲学（1）	ニーチェ	1 に同じ																																																																
12	現代の哲学（2）	ウィットゲンシュタイン	1 に同じ																																																																
13	現代の哲学（3）	フッサール、ハイデガー	1 に同じ																																																																
14	現代の哲学（4）	デリダ、ドゥルーズ	1 に同じ																																																																
15	まとめ	授業全体の振り返り	1 に同じ																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td>物語 哲学の歴史 自分と世界を考えるために</td><td>伊藤邦武</td><td>中公新書</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	物語 哲学の歴史 自分と世界を考えるために	伊藤邦武	中公新書	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	物語 哲学の歴史 自分と世界を考えるために	伊藤邦武	中公新書																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td>A New History of Western Philosophy</td><td>Anthony Kenny</td><td>Oxford University Press</td></tr> <tr> <td>2</td><td>哲学 原典資料集</td><td>山本巍ほか</td><td>東京大学出版会</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	A New History of Western Philosophy	Anthony Kenny	Oxford University Press	2	哲学 原典資料集	山本巍ほか	東京大学出版会	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	A New History of Western Philosophy	Anthony Kenny	Oxford University Press																																																																
2	哲学 原典資料集	山本巍ほか	東京大学出版会																																																																
3																																																																			
評価方法（基準）	小テスト（100%）																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	課題の正答はメールを通じて返却する。 授業では以上のテーマを順次扱う予定ですが、進行状況によっては、内容や順番が変更される可能性があります。																																																																		

科目名	哲学Ⅱ	科目名（英文）	Philosophy II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	貫井 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1305a1		

授業概要・目的	本授業は、近現代の西洋哲学史の主要な流れを概観することを目的とする。その際に、20 世紀ドイツの哲学者マルティン・ハイデガー (1889-1987) の思想を視座とする。 哲学が自分自身で森に分け入って探索することであるとすれば、哲学史はそのような探索の先人の記録である。哲学史を学ぶことは、自分自身で探索することとは異なるかもしれない。しかし、それらの知は自分自身で探索する際の豊かな道標となるはずである。																																																																		
到達目標	授業で扱う西洋哲学史上の人物について、 ①時代背景 ②考えの要点 ③後の時代に与えた影響 の 3 点を理解すること。																																																																		
授業方法と留意点	Teams を使用して、配布したテキストを読み進めます（毎回、ある程度の読書量があります）。定期的に Google Form 等を利用して、授業内容に関する小テストに答えてもらいます。																																																																		
科目学習の効果（資格）	西洋哲学史における代表的な議論の幾つかを学ぶことによって、ものごとに対する多義的な見方を身に着け、複雑な現実を単純化せずに捉えられるようになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>授業全体の概要</td><td>予習：特になし 復習：読書課題を読むこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>ハイデガーの前期思想（1）</td><td>『存在と時間』を中心に（1）</td><td>予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：読書課題を読むこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>ハイデガーの前期思想（2）</td><td>『存在と時間』を中心に（2）</td><td>2 に同じ</td></tr> <tr> <td>4</td><td>ハイデガーの前期思想（3）</td><td>『存在と時間』を中心に（3）</td><td>2 に同じ</td></tr> <tr> <td>5</td><td>ハイデガーの前期思想（4）</td><td>『存在と時間』を中心に（4）</td><td>2 に同じ</td></tr> <tr> <td>6</td><td>ハイデガーの中期思想（1）</td><td>「芸術作品の根源」を中心に（1）</td><td>2 に同じ</td></tr> <tr> <td>7</td><td>ハイデガーの中期思想（2）</td><td>「芸術作品の根源」を中心に（2）</td><td>2 に同じ</td></tr> <tr> <td>8</td><td>ハイデガーの後期思想（1）</td><td>「物」講演を中心に（1）</td><td>2 に同じ</td></tr> <tr> <td>9</td><td>ハイデガーの後期思想（2）</td><td>「物」講演を中心に（2）</td><td>2 に同じ</td></tr> <tr> <td>10</td><td>フランス現代思想（1）</td><td>デリダ、ドゥルーズ、レヴィナス（1）</td><td>2 に同じ</td></tr> <tr> <td>11</td><td>フランス現代思想（2）</td><td>デリダ、ドゥルーズ、レヴィナス（2）</td><td>2 に同じ</td></tr> <tr> <td>12</td><td>フランス現代思想（3）</td><td>デリダ、ドゥルーズ、レヴィナス（3）</td><td>2 に同じ</td></tr> <tr> <td>13</td><td>フランス現代思想（4）</td><td>デリダ、ドゥルーズ、レヴィナス（4）</td><td>2 に同じ</td></tr> <tr> <td>14</td><td>フランス現代思想（5）</td><td>デリダ、ドゥルーズ、レヴィナス（5）</td><td>2 に同じ</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ</td><td>授業全体の内容の復習</td><td>2 に同じ</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業全体の概要	予習：特になし 復習：読書課題を読むこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）	2	ハイデガーの前期思想（1）	『存在と時間』を中心に（1）	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：読書課題を読むこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）	3	ハイデガーの前期思想（2）	『存在と時間』を中心に（2）	2 に同じ	4	ハイデガーの前期思想（3）	『存在と時間』を中心に（3）	2 に同じ	5	ハイデガーの前期思想（4）	『存在と時間』を中心に（4）	2 に同じ	6	ハイデガーの中期思想（1）	「芸術作品の根源」を中心に（1）	2 に同じ	7	ハイデガーの中期思想（2）	「芸術作品の根源」を中心に（2）	2 に同じ	8	ハイデガーの後期思想（1）	「物」講演を中心に（1）	2 に同じ	9	ハイデガーの後期思想（2）	「物」講演を中心に（2）	2 に同じ	10	フランス現代思想（1）	デリダ、ドゥルーズ、レヴィナス（1）	2 に同じ	11	フランス現代思想（2）	デリダ、ドゥルーズ、レヴィナス（2）	2 に同じ	12	フランス現代思想（3）	デリダ、ドゥルーズ、レヴィナス（3）	2 に同じ	13	フランス現代思想（4）	デリダ、ドゥルーズ、レヴィナス（4）	2 に同じ	14	フランス現代思想（5）	デリダ、ドゥルーズ、レヴィナス（5）	2 に同じ	15	まとめ	授業全体の内容の復習	2 に同じ
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業全体の概要	予習：特になし 復習：読書課題を読むこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）																																																																
2	ハイデガーの前期思想（1）	『存在と時間』を中心に（1）	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：読書課題を読むこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）																																																																
3	ハイデガーの前期思想（2）	『存在と時間』を中心に（2）	2 に同じ																																																																
4	ハイデガーの前期思想（3）	『存在と時間』を中心に（3）	2 に同じ																																																																
5	ハイデガーの前期思想（4）	『存在と時間』を中心に（4）	2 に同じ																																																																
6	ハイデガーの中期思想（1）	「芸術作品の根源」を中心に（1）	2 に同じ																																																																
7	ハイデガーの中期思想（2）	「芸術作品の根源」を中心に（2）	2 に同じ																																																																
8	ハイデガーの後期思想（1）	「物」講演を中心に（1）	2 に同じ																																																																
9	ハイデガーの後期思想（2）	「物」講演を中心に（2）	2 に同じ																																																																
10	フランス現代思想（1）	デリダ、ドゥルーズ、レヴィナス（1）	2 に同じ																																																																
11	フランス現代思想（2）	デリダ、ドゥルーズ、レヴィナス（2）	2 に同じ																																																																
12	フランス現代思想（3）	デリダ、ドゥルーズ、レヴィナス（3）	2 に同じ																																																																
13	フランス現代思想（4）	デリダ、ドゥルーズ、レヴィナス（4）	2 に同じ																																																																
14	フランス現代思想（5）	デリダ、ドゥルーズ、レヴィナス（5）	2 に同じ																																																																
15	まとめ	授業全体の内容の復習	2 に同じ																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>現代思想入門</td><td>千葉雅也</td><td>講談社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	現代思想入門	千葉雅也	講談社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	現代思想入門	千葉雅也	講談社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>A New History of Western Philosophy</td><td>Anthony Kenny</td><td>Oxford University Press</td></tr> <tr> <td>2</td><td>ハイデガー事典</td><td>ハイデガー・フォーラム</td><td>昭和堂</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	A New History of Western Philosophy	Anthony Kenny	Oxford University Press	2	ハイデガー事典	ハイデガー・フォーラム	昭和堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	A New History of Western Philosophy	Anthony Kenny	Oxford University Press																																																																
2	ハイデガー事典	ハイデガー・フォーラム	昭和堂																																																																
3																																																																			
評価方法（基準）	Google Form 等によって提出する課題で評価する（100%）																																																																		
学生へのメッセージ	毎回の授業ごとに、一定量の読書課題と授業後の課題があります。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	授業では以上のテーマを順次扱う予定ですが、進行状況によっては、内容や順番が変更される可能性があります。																																																																		

科目名	文学	科目名 (英文)	Literature
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松尾 佳津子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1403a2		

授業概要・目的	「最近余り本を読んでいないなあ」と思っているあなた、でも、本当に読むことがずっとキライでしたか？ 若い人たちの活字離れがあれこれ取り沙汰されている昨今ですが、視覚や聴覚に訴える作品とは異なり、文字を通じてしか伝えられない様々な表現や思いがあることを、ぜひ感じてほしいと願っています。現代の流行作品はきっとあなたが一人でも楽しむでしょうから、私はあなたが一人では決して開くことのないような扉を開いて、作品世界を提示しようと思っています。この講座では、俳句・和歌・短歌・詩・歌詞などの韻文作品を中心に扱います。文字作品の新たな魅力の一つでも発見して、あなた自身の言語生活の豊かな糧として下さい。																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、 ・表面的読解にとどまらず、作者の表現内容を読み解く力を身につけること、 ・そしてそれを基にして考え、感じる経験を積むこと、 ・さらにその考えや思いを文章化する経験値を高めること、 ・読んで「面白かった」で終わるのではなくその思いを言語化する力を身につけること これらを経験及び獲得することが期待されます。																																																																		
授業方法と留意点	毎回授業中に問を提示し、それに対する回答を小レポートに記入して提出していただく形式で授業を進めます。																																																																		
科目学習の効果（資格）	「日本語文章能力検定」などの公的資格もありますが、表現やことばに自覚的である感性を養うことが何よりの学習効果でしょう。																																																																		
授業計画	<table> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> <tr> <td>1</td><td>はじめに</td><td>短詩型文学の広がり概観する。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>短詩型文学（１）</td><td>散文学との違いを考察する。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>短詩型文学（２）</td><td>歴史的な流れを考察する。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>現代詩（１）</td><td>表現の特徴を考える。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>現代詩（２）</td><td>「歌詞」を素材として考える。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>童謡（１）</td><td>子供のころに聞き覚えた歌詞を振り返る。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>童謡（２）</td><td>文学作品として歌詞を考察する。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>短歌（１）</td><td>表現技法の特徴を考察する。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。 ※この回から対面に変更。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>短歌（２）</td><td>創作の過程を追体験する。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>短歌（３）</td><td>現代の作品と古典作品の感性の差を比較する。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>俳句（１）</td><td>表現技法の特徴を考察する。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>俳句（２）</td><td>象徴表現の広がり考察する。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>俳句（３）</td><td>「俳句」から「ハイク」への広がり考察する。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>韻文の翻訳（１）</td><td>翻訳を通じて伝わるものと伝わらないものを考える。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>韻文の翻訳（２）</td><td>「現代口語表現訳」から見えてくるものを考える。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。</td></tr> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	はじめに	短詩型文学の広がり概観する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。	2	短詩型文学（１）	散文学との違いを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。	3	短詩型文学（２）	歴史的な流れを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。	4	現代詩（１）	表現の特徴を考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。	5	現代詩（２）	「歌詞」を素材として考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。	6	童謡（１）	子供のころに聞き覚えた歌詞を振り返る。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。	7	童謡（２）	文学作品として歌詞を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。	8	短歌（１）	表現技法の特徴を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。 ※この回から対面に変更。	9	短歌（２）	創作の過程を追体験する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。	10	短歌（３）	現代の作品と古典作品の感性の差を比較する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。	11	俳句（１）	表現技法の特徴を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。	12	俳句（２）	象徴表現の広がり考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。	13	俳句（３）	「俳句」から「ハイク」への広がり考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。	14	韻文の翻訳（１）	翻訳を通じて伝わるものと伝わらないものを考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。	15	韻文の翻訳（２）	「現代口語表現訳」から見えてくるものを考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	はじめに	短詩型文学の広がり概観する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。																																																																
2	短詩型文学（１）	散文学との違いを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。																																																																
3	短詩型文学（２）	歴史的な流れを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。																																																																
4	現代詩（１）	表現の特徴を考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。																																																																
5	現代詩（２）	「歌詞」を素材として考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。																																																																
6	童謡（１）	子供のころに聞き覚えた歌詞を振り返る。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。																																																																
7	童謡（２）	文学作品として歌詞を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。																																																																
8	短歌（１）	表現技法の特徴を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。 ※この回から対面に変更。																																																																
9	短歌（２）	創作の過程を追体験する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。																																																																
10	短歌（３）	現代の作品と古典作品の感性の差を比較する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。																																																																
11	俳句（１）	表現技法の特徴を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。																																																																
12	俳句（２）	象徴表現の広がり考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。																																																																
13	俳句（３）	「俳句」から「ハイク」への広がり考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。																																																																
14	韻文の翻訳（１）	翻訳を通じて伝わるものと伝わらないものを考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。																																																																
15	韻文の翻訳（２）	「現代口語表現訳」から見えてくるものを考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。																																																																
関連科目	こういった方面に興味のある人は、他に「日本語読解」などを学ぶことで、より理解を深めることができるでしょう。																																																																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名																																																												
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	◇毎回提出する小レポートが出席確認を兼ねます。 ◇最終成績は、毎回の小レポートの回答状況 6 割と、最終課題の結果 4 割で判断します。 ◇原則として小レポート提出が半分以下の場合は、最終の成績評価を行いません。			
学生への メッセージ	遠いところに自分と同じ考えの人を発見する喜び。近いところに自分の思いも寄らないような発想の人に会おう楽しみ。・・・文学に触れる意味は、この二点に尽きるのではないかと、私は思っています。どうかあなたが「よい出会い」を経験できますように。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	提出された小レポートは、抄出して次回の講義で共有し、更なる学習の素材として活用します。			

科目名	日本史概論	科目名 (英文)	Japanese History Introduction
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本 康司
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1405a2		

授業概要・目的	歴史学とは、過去の諸事象を研究する学問である。物事を長期的な視野からみるという姿勢を持つことや、現在とは異なる政治・社会・文化等を知ることは、現代社会を見つめ直す際に重要な手段となる。 そのなかで、本授業では、日本の歴史の基本的な流れを理解することを目的とする。 古代から近現代まで、毎回テーマを設定し、講義を行う。 随時、最新の研究成果を紹介するとともに、歴史学の手法や考え方についても紹介する。		
到達目標	本授業を通じて日本の歴史に関する正しい知識を得るとともに、歴史学的な考え方について理解できるようになることを目標とする（DP1）。		
授業方法と留意点	授業ごとにプリントを配付する。		
科目学習の効果（資格）			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等 事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	本授業の進め方や評価方法、歴史学を学ぶ意義について説明します。 シラバスを一読しておくこと（所要時間 20 分）。
	2	古代 1：古代国家の形成	農耕社会の成立から、ヤマト政権の誕生、律令国家の形成までを学びます。 予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
	3	古代 2：摂関政治から院政へ	摂関政治や院政について学びます。また、仏教や新たな文化の発達についても説明します。 予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
	4	古代 3：武士の登場	武士の誕生と貴族社会の関係について学びます。 予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
	5	中世 1：武家政権の成立と展開	武家政権である平氏政権や鎌倉幕府について学びます。特に、鎌倉幕府の成立過程について説明を加えます。 予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
	6	中世 2：元寇から南北朝内乱へ	鎌倉幕府の制度や承久の乱、元寇について学び、鎌倉幕府滅亡の要因について考えます。 予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
	7	中世 3：室町幕府の成立と展開	室町幕府の成立や、南北朝の動乱について学びます。 予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
	8	中世 4：戦国時代へ	戦国大名の登場から天下統一までの動向を学びます。 予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
	9	近世 1：江戸幕府の成立と展開	江戸幕府の成立過程や制度、对外政策について学びます。 予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
	10	近世 2：江戸幕府の動揺	幕藩体制や江戸幕府の諸政策・改革について学びます。また、江戸時代の村についても説明をします。 予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
	11	近世 3：江戸幕府の終焉	倒幕運動の広まりや、江戸幕府の对外政策・開港について学びます。 予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
	12	近現代 1：明治政府の成立と近代国家への歩み	明治政府の諸政策を学び、近代国家への歩みについて考えます。 予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
	13	近現代 2：日清・日露戦争と日本	日清・日露戦争や国際関係、当時の日本政治について学びます。 予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
	14	近現代 3：第二次世界大戦	第二次世界大戦と日本の関わりについて学びます。 予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
	15	近現代 4：戦後日本と現代社会	敗戦後の復興と現代社会への繋がりについて学びます。 予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
関連科目			
教科書			

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業ごとのコメントペーパー 30% 期末試験 70% コメントペーパーでは、授業の内容を理解しているかを評価する。 期末試験では、授業全体を通じて日本の歴史の流れを理解したかを評価する。			
学生への メッセージ	積極的に学ぶ意欲を持つ学生の受講を希望します。 わからないことがあれば、放置せず、自分で調べたり、質問をする癖をつけましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	世界史概論	科目名（英文）	World History Introduction
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加来 奈奈
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1406a2		

授業概要・目的	本講義では、ヨーロッパの歴史を通じて、過去と現在の変化や諸地域における差異を検討し、現代世界の成り立ちを知るとともに、歴史を通じて現代社会の諸問題に対する批判的なまなざしを涵養することを目指す。そのために、ヨーロッパ史の基礎的な知識を習得し、時代や地域の特徴と、現代社会の形成の過程を理解することを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、ヨーロッパの歴史の重要な特徴を理解し、説明できるようになり、それを活かして現代社会の問題について能動的に考えることができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	毎回パワーポイントにもとづいて授業を進め、適宜、資料を配布する。また、授業中の配布資料やレジュメは授業前に Teams から各自ダウンロードする（Teams のコードなどの詳細は、初回の授業の際に伝える）
科目学習の効果（資格）	歴史学に関する基本的な知識を獲得するとともに、現代社会を歴史的視点から読み解く力を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	学問としての歴史学について	（事前）西洋の古代、中世、近世、近代、現代という時代がいつかを調べてくる。
	2	中世ヨーロッパ	中世ヨーロッパの社会	（事前）中世ヨーロッパのイメージを書きだす。 （事後）中世の身分と宗教について整理する。
	3	中世ヨーロッパ	中世ヨーロッパの王権	（事前）15 世紀までのフランス王とイングランド王について調べてくる。 （事後）中世英仏の年表を作って、これまでのことを整理する。
	4	近世とは	・近世の特徴 ・ハプスブルク家 ・地域の反応	（事前）ハプスブルク家について調べてくる。 （事後）近世の特徴を整理する。
	5	宗教改革	・ルターの登場 ・プロテスタントの広がり ・対抗宗教改革	（事前）カトリックとプロテスタントの違いを調べる。 （事後）二つの違いを整理する。
	6	宗派対立	・ネーデルラントを事例とした宗派対立の様相	（事前）ルーベンスについて調べてくる。 （事後）ヨーロッパの宗派対立と地域の特徴を整理する。
	7	イングランドの宗教改革	・テューダー朝の成立 ・ヘンリ 8 世の改革	（事前）ヘンリ 8 世について調べてくる。 （事後）イングランドの国教会について整理する。
	8	エリザベス 1 世と国際関係	・エリザベス 1 世の統治	（事前）エリザベス 1 世について調べてくる。 （事後）17 世紀ごろのヨーロッパの各国の勢力範囲について整理する。
	9	啓蒙時代	・啓蒙思想 ・啓蒙専制君主	（事前）啓蒙という言葉調べてくる。
	10	啓蒙改革（1）	マリア・テレジアの改革	（事前）マリア・テレジアについて調べる。 （事後）啓蒙改革の特徴をまとめる。
	11	啓蒙改革（2）	ヨーゼフ 2 世の改革	（事前）ヨーゼフ 2 世について調べてくる。 （事後）啓蒙改革の結果について考察する。
	12	1 9 世紀のヨーロッパ	・フランス革命と共和政 ・国民国家 ・1 8 4 8 年革命	（事前）ライシテという言葉調べてくる。（事後）スカーフ問題について考える。
	13	ナショナリズムとハプスブルク	・アウスグライヒ ・民族	（事前）この時代の民族とは何かを考えてくる。（事後）東欧諸国の現在の国境を確認する。
	14	第一次世界大戦	・戦争の展開 ・戦争と女性 ・戦争と民族	（事前）第一次世界大戦の流れについて確認する。 （事後）第一次世界大戦を通して起きたヨーロッパ社会の変化について考える。
	15	総括	・講義全体のまとめ ・現在のヨーロッパの諸問題	（事前）全授業内容を復習しておく。 （事後）歴史を通して、現在の社会を検討する。

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学で学ぶ西洋史 [古代・中世]	服部良久ほか	ミネルヴァ書房
	2	大学で学ぶ西洋史 [近現代]	小山哲ほか	ミネルヴァ書房
	3	ハプスブルク史研究入門	大津留厚ほか	昭和堂

評価方法（基準）	授業中の課題（コメントシートもしくは forms でのコメント）、期末テスト（70％）で評価する。
学生へのメッセージ	高校までの「歴史」は、過去の出来事・事件の年号や偉人の名前を暗記する科目だと思われがちです。しかし、大学で研究する「歴史学」は、歴史の史料や事象を通じて、その背景や理由を多角的に考えることが重要です。ヨーロッパの様々な時代や地域の特徴を学び、その違いや類似性を考察することを通して、現代社会の多様性を理解するための視点を提供できればと思います。
担当者の研究室等	7 号館 4 階加来研究室
備考	事前、事後学習に要する総時間は約 60 時間である。

科目名	スポーツの歴史	科目名 (英文)	History of Sports
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	伊賀野 大
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH2360a1		

授業概要・目的	スポーツの起源や変遷などスポーツの歴史について学ぶ。さらにオリンピック及びパラリンピックの歴史と現状を知ることにより理解を深めスポーツの歴史に対する基礎的知識について学習する。			
到達目標	本講義を通じて受講学生にはスポーツの歴史を理解することでスポーツと歴史の基礎的知識を習得できるようになることが期待される。			
授業方法と留意点	PPTを用いた講義を行なう。 受講人数によるが、グループワークを計画している。 授業資料はTeamsにて配信する。必要がある場合は各自印刷すること。 授業内容は各自ノート等に記入すること。 グループワークではスマートフォンやタブレット端末を使用を認める。			
科目学習の効果（資格）	スポーツの歴史を理解をすることでスポーツ活動に参加するために必要な教養を身につけることができる。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・本講義を受講する上での諸注意と講義展開 ・本講義の意図、目的、価値	・シラバスの参照
	2	人類の進化とスポーツ 古代の体育・スポーツ	・人類の誕生 ・古代四大文明以前の人類の生活とスポーツ ・ギリシア、ローマ体育・スポーツ ・中国、日本の古代のスポーツ	・講義ノートの確認（1時間）
	3	中世の体育・スポーツ ルネサンスと体育・スポーツ	・西洋中世の体育・スポーツ ・日本中世の体育・スポーツ ・古代ギリシア体育思想	・講義ノートの確認（1時間）
	4	日本近世の体育・スポーツ	・武士の体育、武芸 ・庶民のスポーツ	・講義ノートの確認（1時間）
	5	国民国家の形成と近代体育の成立	・近代思想と体育 ・国民国家と学校体育	・講義ノートの確認（1時間）
	6	近代スポーツの発達と近代オリンピックの創始	・パブリックスクールのスポーツ ・近代オリンピック ・軍事的近代化	・講義ノートの確認（1時間）
	7	近代体育・スポーツの展開	・アマチュアとプロ	・講義ノートの確認（1時間）
	8	現代体育・スポーツの動向	・体錬化から体育科へ ・高度経済成長期 ・グローバル化	・講義ノートの確認（1時間）
	9	スポーツの今後	・eスポーツ ・スポーツベッティング ・部活動地域移行	・講義ノートの確認（1時間）
	10	まとめ①	・ここまでの講義の総括	・講義ノートの確認（1時間）
	11	まとめ②	・ここまでの講義の総括	・講義ノートの確認（1時間）
	12	テスト	・講義中にテスト解答を確認すること ・テストを受けられない者は事前に申請すること ・テスト代替レポートあり（採点基準は担当教員に一存）	・講義ノートの確認（1時間）
	13	メジャーなスポーツの歴史について	・スポーツの成り立ち、主なルールの変更の歴史、使用されていた用具などについて調べる。 ・発表する。	・講義ノートの確認（1時間）
	14	スポーツ企業の歴史について	・スポーツ企業の歴史について調べる。 ・発表する。	・講義ノートの確認（1時間）
	15	世界の身体活動を用いた祭典について	・身体活動が含まれる祭典について調べる。 ・発表する。	・講義ノートの確認（1時間）
関連科目	スポーツ科学実習Ⅰa、Ⅰb、Ⅱa、Ⅱb、スポーツ科学概論、スポーツ文化論、スポーツ指導者入門、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツトレーニングの基礎、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ医学の理論と実際			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	体育・スポーツ史概論	木村吉次	市村出版
	2			
	3			
評価方法（基準）	テスト：25% 講義内レポート：75%（25%×3） 合計点数にて判断する			
学生への	受講学生各位の積極的な学びを期待する。			

メッセージ	
担当者の 研究室等	総合体育館 1 階 非常勤講師室
備考	

科目名	地誌学	科目名 (英文)	Regional Geography
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	三好 志尚
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1309a1		

授業概要・目的	地域とは、固有の地理環境において様々な社会の要素が関わりながら形成された個性のあるものです。地誌学は、地理学の一分野であり、地域の個性を多角的に考察する分野です。本授業では具体例を示しながら、地誌学の視点のもとで地域を理解し、記述する方法を紹介します。			
到達目標	地図を用いて地域の個性を考察する視点を身につけ、諸地域の個性を相対的に理解できるようになる。			
授業方法と留意点	授業は講義形式で、PowerPoint のスライドを中心に進め、適宜プリントなども配布します。授業では地図をよく使うため、中学や高校の授業で使った地図帳や、地図が見られる端末（スマートフォン等）を持参してください。			
科目学習の効果（資格）				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業の概要	授業の進め方と地誌学・地理学の視座について概説する。	これまでに学習した「地理」や「地理学」に関する事柄について振り返る（事前学習 1 時間） 授業内で提示した参考文献を読む（事後学習 3 時間）。
	2	データと地図	地図を通した地域把握の方法を紹介する。	色々な種類の地図を見て、その表現や内容の特徴について考える（事前学習 1 時間） 授業内で提示した参考文献を読む（事後学習 3 時間）。
	3	平地農村(1)	デルタにおける農村の集落形態・生業について紹介する。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域や類似する地域を実際に訪れたり、調べたりする。(事後学習 4 時間)
	4	平地農村(2)	扇状地における農村の集落形態・生業について紹介する。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域や類似する地域を実際に訪れたり、調べたりする。(事後学習 4 時間)
	5	山村	山村の集落形態・生業について紹介する。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域や類似する地域を実際に訪れたり、調べたりする。(事後学習 4 時間)
	6	漁村	漁村の集落形態・生業について紹介する。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域や類似する地域を実際に訪れたり、調べたりする。(事後学習 4 時間)
	7	都市発展とその構造	大都市における都市構造の展開について紹介する。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域や類似する地域を実際に訪れたり、調べたりする。(事後学習 4 時間)
	8	郊外	大都市における郊外の開発・発展について紹介する。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域や類似する地域を実際に訪れたり、調べたりする。(事後学習 4 時間)
	9	地方都市(1)	県庁所在都市の在り方について紹介する。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域や類似する地域を実際に訪れたり、調べたりする。(事後学習 4 時間)
	10	地方都市(2)	工場集積地の都市発展について紹介する。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域や類似する地域を実際に訪れたり、調べたりする。(事後学習 4 時間)
	11	現代における都市文化	歴史的に成立してきた都市文化と現代におけるその維持について取り扱う。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域や類似する地域を実際に訪れたり、調べたりする。(事後学習 4 時間)
	12	観光地	観光地の形成やそのイメージについて取り扱う。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域や類似する地域を実際に訪れたり、調べたりする。(事後学習 4 時間)
	13	伝統産業と地域	地域の地理環境と関わりながら成立してきた伝統産業について取り扱う。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域や類似する地域を実際に訪れたり、調べたりする。(事後学習 4 時間)
	14	火山とくらし	火山の災害・恩恵を受けながら形成されてきた地域について取り扱う。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域や類似する地域を実際に訪れたり、調べたりする。(事後学習 4 時間)
	15	まとめ	本授業の総括を行う。	これまでの授業の内容を振り返る。授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域や類似する地域を実際に訪れたり、調べたりする。(事後学習 4 時間)
関連科目	人文地理学、自然地理学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地理学基礎シリーズ 3 地誌学概論 [第 2 版]	矢ヶ崎典隆 ・加賀美雅弘 ・牛垣雄矢 編著	朝倉書店
	2	地理学基礎シリーズ 1 地理学概論 [第 2 版]	上野和彦 ・椿真智子 ・中村康子 編	朝倉書店
	3			

評価方法 (基準)	各回の小課題：50%、期末レポート課題：50% 小課題は、毎回授業後に各回の内容に合わせた簡単な課題を出します。
学生への メッセージ	高校までの「地理」の科目の知識は必ずしも必要としません。地図を読むのが苦手な学生の受講も歓迎します。
担当者の 研究室等	非常勤講師室
備考	参考書の購入は必須ではありません。

科目名	人文地理学	科目名 (英文)	Human Geography
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	谷口 晴彦
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1308a1		

授業概要・目的	地理学の1分野である人文地理学は、都市・農村・経済・文化・歴史など人間社会における様々な事象について、空間・地域・地図を切り口に考える学問です。この授業では、人文地理学の基本的な考え方について、多様なテーマを取り上げて学習していきます。				
到達目標	この授業を通じて学生には、 (1)人文地理学が対象とする多様な事象について考察することを通して、人文地理学の考え方・モノの見方を理解できるようになること、 (2)地図や地理情報の種類や役割について理解し、地図を読んで地域について考えることができるようになることが期待される。				
授業方法と留意点	資料を配布し、スライド(PPT)を用いて説明する講義です。 授業にはネット接続可能な端末(スマホ等)を持参してください。受講する皆さんには毎回、授業内容についての確認問題、質問や感想、小課題(短文回答)に回答してもらいます。これらを踏まえて次回授業時に質問への回答や補足説明をします。				
科目学習の効果 (資格)	日常の生活や旅行の中で出会う様々な事象について、空間・地域・地図の視点から自由に考えることができるようになります。				
授業計画		回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
		1	授業ガイダンス・人文地理学とは何か	この授業のガイダンスとして、授業の概要や学問分野としての人文地理学について説明します。	配布資料・メモを読み、授業内容を復習する (2 時間)。
		2	都市 (1)	日本・世界の様々な都市の形 (景観)・特徴を見ていき、都市の定義・特徴・内部の構造について考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく (2 時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する (2 時間)。
		3	都市 (2)	都市への人口集中や都市の拡大・問題について考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく (2 時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する (2 時間)。
		4	農村	様々な農村の形 (景観) を見ていき、農村の定義・特徴・変化・現代日本の農村の状況や多面的機能について考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく (2 時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する (2 時間)。
		5	地図と地理情報 (1)	身の回りの地図をはじめ様々な地図をとりあげ、その種類や特徴を見ていき、地図の定義について考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく (2 時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する (2 時間)。
		6	地図と地理情報 (2)	地形図の特徴や凡例を確認した上で、実際に地形図を読んで地域を読み解きます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく (2 時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する (2 時間)。
		7	地図と地理情報 (3)	細かく地形図を読んで地域を読み解きます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく (2 時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する (2 時間)。
		8	歴史地理	様々な歴史資料から身近な地域の過去の空間を読み解きます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく (2 時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する (2 時間)。
		9	地域文化・観光	様々な地域文化や観光の特徴や意味を考え、さらに観光によって引き起こされる問題や対立について考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく (2 時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する (2 時間)。
		10	経済地理 (工業) (1)	様々な工業の種類・分類について見ていきます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく (2 時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する (2 時間)。
		11	経済地理 (工業) (2)	工業の立地や集積、分業について考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく (2 時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する (2 時間)。
		12	経済地理 (農業・流通)	農業の特徴・広がり・変化や新しい農業について考えます。また、流通とそれを支える交通について考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく (2 時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する (2 時間)。
		13	政治地理・行政地理	政治や行政について、地理学の視点から考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく (2 時間)。

				配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
	14	環境問題と水問題	環境問題や水問題について、地理学の視点から考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
	15	授業の総括	授業内容の総括を行います。	配布資料・メモを読んで授業全体の内容を復習し、レポートを作成する（6時間）。
関連科目	自然地理学・地誌学・環境関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	みわたす・つなげる 人文地理学	上杉和央・香川雄一・近藤章夫編	古今書院
	2	地理学基礎シリーズ1 地理学概論 [第2版]	上野和彦・椿真智子・中村康子編著	朝倉書店
	3	図説 京阪神の地理—地図から学ぶ—	山口寛・水田憲志・金子直樹・吉田雄介・中窪啓介・矢嶋巖	ミネルヴァ書房
評価方法（基準）	毎回の確認テスト：60%、期末レポート：40%			
学生へのメッセージ	高校で「地理」を履修していなくとも理解できる内容で構成します。 地理学的な考え方・ものの見方を学修していき、身近な地域の様々な事象について自らで考えようとする姿勢を心がけていきましょう。			
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	授業に関する質問や相談は、メールで対応します。メールアドレスは授業時にお知らせします。			

科目名	経済学入門	科目名 (英文)	Introduction to Economics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村瀬 憲昭
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JS01311a1		

授業概要・目的	本授業では、教養として身につけておくべき経済活動の仕組みの基礎について学び、身近な生活や国・地域で生じている様々な経済問題を理解する基礎的能力を身につけることを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、国・地域で生じている様々な経済問題に関心を持ち、身近な生活と経済の関係について理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業中に配布した資料に基づき、経済学の基礎や時事経済問題を解説する。 また、授業中に理解度を確認するための小テスト（5回程度）を行う。
科目学習の効果（資格）	社会人として身につけておくべき基礎的な経済学の知識を得ることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション 需要と供給	経済学を学ぶ目的や経済学の概要、ミクロ経済学の基本である需要・供給分析について解説する。	授業の復習（1時間）
	2	需要曲線と消費者行動 費用の構造と供給行動	需要曲線と消費者の行動について解説する。 供給曲線と、供給行動について解説する。	参考資料を用いた事前学習（1時間） 授業の復習（1時間）
	3	市場取引と資源配分	市場と価格メカニズム、資源配分のゆがみ、市場競争と経済発展について解説する。	参考資料を用いた事前学習（1時間） 授業の復習（1時間）
	4	独占と競争の理論	独占の理論、完全競争と独占的競争について解説する。	参考資料を用いた事前学習（1時間） 授業の復習（1時間）
	5	市場の失敗	市場の失敗の例として、外部効果、公共財、費用逓減産業について解説する。	参考資料を用いた事前学習（1時間） 授業の復習（1時間）
	6	不確実性と不完全情報の世界	不確実性と経済現象、情報の不完全性とその対応について解説する。	参考資料を用いた事前学習（1時間） 授業の復習（1時間）
	7	ゲームの理論入門	ゲームの理論について解説する。	参考資料を用いた事前学習（1時間） 授業の復習（1時間）
	8	経済をマクロからとらえる	マクロ経済学と国内総生産、マクロ経済における需要と供給について解説する。	参考資料を用いた事前学習（1時間） 授業の復習（1時間）
	9	有効需要と乗数メカニズム	マクロで見た需要、需要の決定とマクロ経済の均衡について解説する。	参考資料を用いた事前学習（1時間） 授業の復習（1時間）
	10	貨幣の機能	貨幣の定義と機能、マネーストックのメカニズム、貨幣供給と物価について解説する。	参考資料を用いた事前学習（1時間） 授業の復習（1時間）
	11	マクロ経済政策	財政政策と金融政策について解説する。	参考資料を用いた事前学習（1時間） 授業の復習（1時間）
	12	インフレ・デフレと失業	インフレーション、デフレーション、失業が発生する要因について解説する。	参考資料を用いた事前学習（1時間） 授業の復習（1時間）
	13	高齢社会の財政運営	高齢化のもとでの財政運営について解説する。	参考資料を用いた事前学習（1時間） 授業の復習（1時間）
	14	経済成長と経済発展	経済成長のメカニズム、資本蓄積と経済成長について解説する。	参考資料を用いた事前学習（1時間） 授業の復習（1時間）
	15	国際経済学	為替レートと貿易、投資との関係など、国際経済学の基礎について解説する。	参考資料を用いた事前学習（1時間） 授業の復習（1時間）

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門経済学（第4版）	伊藤 元重	日本評論社
	2	教養としての経済学	一橋大学経済学部 編	有斐閣
	3			

評価方法（基準）	期末試験 70%、小テスト 30%の割合で評価する。
----------	----------------------------

学生へのメッセージ	新聞記事を読み、身近な経済に関する話題に関心を持つようにしてください。
-----------	-------------------------------------

担当者の研究室等	1号館7階 村瀬研究室（経済学部）
----------	-------------------

備考	
----	--

科目名	経営学入門	科目名 (英文)	Introduction to Management
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	洪 性泰
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JS01313a1		

授業概要・目的	この授業は、経営学を初めて学ぶ学生を対象に、経営戦略論、多国籍企業論、異文化経営、国際マーケティングなど、主なトピックスを取り上げ、その基礎知識の習得とともに、現代企業経営の課題を発見し、解決方法を模索する力を身につけることを目指す。さらに、受講生の国際性の涵養および実社会への応用を期待する。 受講生は、単なる基礎理論の習得だけではなく、疑問を持つことが非常に大切であることを認識し「あなたならどう考えるか」「あなたが経営者となったらどうアクションをとるか」などの実践的な経営感覚と課題解決能力が身につける。																																																																		
到達目標	・企業経営における諸理論の知識が身につく（DP2）。 ・経営者の視点から企業や業界の競争環境が正しく理解できる。 ・受講生は経営学に興味を持ち、自ら発見した問題又はその解決へのプロセス、基本フレームワークが有効に活用できる（DP3）。																																																																		
授業方法と留意点	・講義資料（レジュメ、ワークシート）は教室で配布する。各講義資料はMoodle から事前入手可能。 ・講義の後にはワークシートを作成・提出し、次回にフィードバックを行う。 ・本授業は、講義中心であるが、質疑応答など学生同士のグループディスカッションが多いため受講生の積極的な授業参加を重視する。																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>講義の進め方、成績評価、注意点などについて説明する。</td><td>事前：シラバスと講義資料を事前に読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>企業の本質</td><td>企業が存在する理由としてローナルド・コースの企業の本質と取引コストについて学ぶ。</td><td>事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>企業を取り巻く外部環境</td><td>PEST および PESTEL モデルを使いマクロ環境分析について理解する。</td><td>事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>バリューチェーンの分析と再構築</td><td>企業の事業活動における価値連鎖を正しく理解し、近年、さまざまなビジネスモデルとバリューチェーンについて学ぶ。</td><td>事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>業界が儲かるかを分析する</td><td>業界の収益性に影響を与える要因を探し、その業界の収益性を分析するフレームワークについて、事例を使い演習を行う。</td><td>事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>自動車メーカーが共存できる理由</td><td>状況に応じて、自社が取るべき戦略の方向性を定めるフレームワークについて、M・E. ポーターの 3 つの基本戦略を使い考察する。</td><td>事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>ブルーオーシャン戦略とフレームワーク</td><td>事業の差別化と低コスト化は両立できるかについて、ブルーオーシャン戦略のアクションマトリックスを使い実践的考察を目指す。</td><td>事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>商業が生産を規定するシステム</td><td>大量仕入れ（生産）・大量販売など、国際分業の生産体制について、事例を使い考察する。</td><td>事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>下請け企業の新たな道</td><td>世界的ファウンドリー企業 TSMC を事例に半導体産業について考察する。</td><td>事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>国際ビジネスにおける半導体産業</td><td>半 導 体 産 業 に お け る フ ァ ブ レ ス（fabless）、ファウンドリー（foundry）について理解する。</td><td>事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>まわり道の方が効率が良い</td><td>ロジスティクス（調達や物流）業界におけるさまざまな競争戦略について考察する。</td><td>事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>身近なグローバル化</td><td>国際ビジネスと競争、市場のグローバル化、生産のグローバル化について理解する。</td><td>事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>多国籍企業の参入形態</td><td>多国籍企業の参入形態と市場参入決定プロセスに影響を与える要因について考察する。</td><td>事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>シリコンバレー企業と成長戦略</td><td>近年、シリコンバレーの新たな事業形態および成長戦略について事例を取り上げ考察する。</td><td>事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>講義のまとめ</td><td>学習内容のまとめと補足。</td><td>事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）</td></tr> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	講義の進め方、成績評価、注意点などについて説明する。	事前：シラバスと講義資料を事前に読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）	2	企業の本質	企業が存在する理由としてローナルド・コースの企業の本質と取引コストについて学ぶ。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）	3	企業を取り巻く外部環境	PEST および PESTEL モデルを使いマクロ環境分析について理解する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）	4	バリューチェーンの分析と再構築	企業の事業活動における価値連鎖を正しく理解し、近年、さまざまなビジネスモデルとバリューチェーンについて学ぶ。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）	5	業界が儲かるかを分析する	業界の収益性に影響を与える要因を探し、その業界の収益性を分析するフレームワークについて、事例を使い演習を行う。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）	6	自動車メーカーが共存できる理由	状況に応じて、自社が取るべき戦略の方向性を定めるフレームワークについて、M・E. ポーターの 3 つの基本戦略を使い考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）	7	ブルーオーシャン戦略とフレームワーク	事業の差別化と低コスト化は両立できるかについて、ブルーオーシャン戦略のアクションマトリックスを使い実践的考察を目指す。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）	8	商業が生産を規定するシステム	大量仕入れ（生産）・大量販売など、国際分業の生産体制について、事例を使い考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）	9	下請け企業の新たな道	世界的ファウンドリー企業 TSMC を事例に半導体産業について考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）	10	国際ビジネスにおける半導体産業	半 導 体 産 業 に お け る フ ァ ブ レ ス（fabless）、ファウンドリー（foundry）について理解する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）	11	まわり道の方が効率が良い	ロジスティクス（調達や物流）業界におけるさまざまな競争戦略について考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）	12	身近なグローバル化	国際ビジネスと競争、市場のグローバル化、生産のグローバル化について理解する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）	13	多国籍企業の参入形態	多国籍企業の参入形態と市場参入決定プロセスに影響を与える要因について考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）	14	シリコンバレー企業と成長戦略	近年、シリコンバレーの新たな事業形態および成長戦略について事例を取り上げ考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）	15	講義のまとめ	学習内容のまとめと補足。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	講義の進め方、成績評価、注意点などについて説明する。	事前：シラバスと講義資料を事前に読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）																																																																
2	企業の本質	企業が存在する理由としてローナルド・コースの企業の本質と取引コストについて学ぶ。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）																																																																
3	企業を取り巻く外部環境	PEST および PESTEL モデルを使いマクロ環境分析について理解する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）																																																																
4	バリューチェーンの分析と再構築	企業の事業活動における価値連鎖を正しく理解し、近年、さまざまなビジネスモデルとバリューチェーンについて学ぶ。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）																																																																
5	業界が儲かるかを分析する	業界の収益性に影響を与える要因を探し、その業界の収益性を分析するフレームワークについて、事例を使い演習を行う。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）																																																																
6	自動車メーカーが共存できる理由	状況に応じて、自社が取るべき戦略の方向性を定めるフレームワークについて、M・E. ポーターの 3 つの基本戦略を使い考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）																																																																
7	ブルーオーシャン戦略とフレームワーク	事業の差別化と低コスト化は両立できるかについて、ブルーオーシャン戦略のアクションマトリックスを使い実践的考察を目指す。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）																																																																
8	商業が生産を規定するシステム	大量仕入れ（生産）・大量販売など、国際分業の生産体制について、事例を使い考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）																																																																
9	下請け企業の新たな道	世界的ファウンドリー企業 TSMC を事例に半導体産業について考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）																																																																
10	国際ビジネスにおける半導体産業	半 導 体 産 業 に お け る フ ァ ブ レ ス（fabless）、ファウンドリー（foundry）について理解する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）																																																																
11	まわり道の方が効率が良い	ロジスティクス（調達や物流）業界におけるさまざまな競争戦略について考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）																																																																
12	身近なグローバル化	国際ビジネスと競争、市場のグローバル化、生産のグローバル化について理解する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）																																																																
13	多国籍企業の参入形態	多国籍企業の参入形態と市場参入決定プロセスに影響を与える要因について考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）																																																																
14	シリコンバレー企業と成長戦略	近年、シリコンバレーの新たな事業形態および成長戦略について事例を取り上げ考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）																																																																
15	講義のまとめ	学習内容のまとめと補足。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）																																																																
関連科目	競争戦略論、経営戦略論、グローバル経営論																																																																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書																																																																			

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	戦略経営論—競争力とグローバリゼーション	マイケル A. ヒット、ロバート E. ホスキソン、R. デュエーン・アイ ルランド	センゲージラーニング
	2	競争の戦略	マイケル・E. ポーター	ダイヤモンド社
	3	国際ビジネス 1—グローバル化と国による違い—	チャールズ・W・L・ヒル	楽工社
評価方法 (基準)	・成績評価の方法：中間レポート 30%、期末レポート 40%、ワークシート 30%で評価する。 ・評価基準：授業で設定した課題への到達度を総合的に評価する。 ・中間レポートと期末レポートは授業内容への理解度ををはかる。執筆要領に従うこと。詳細は、受講生の理解度に応じて授業中に提示する。 ・その他、ワークシートの提出および積極的な発表やクラスへの貢献度を重視する。			
学生への メッセージ	・授業の進行状況および受講生の理解度に応じて内容が変更する場合がある。 ・授業に関する質問は、授業の後やメールで対応する。メールアドレスは講義資料に記載する。			
担当者の 研究室等	洪 研究室（相談時は事前に連絡ください）			
備考				

科目名	会計学	科目名 (英文)	Accounting
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石川 徹
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JS02314a1		

授業概要・目的	会計とは、特定の組織による経済活動を貨幣額で記録して計算し、その結果を報告するシステムである。このシステムを通じて作成された会計情報が、社会にとってどのような役割を果たすのかを意識して、財務諸表の基本的な作成ルールとその背景にある考え方を学習する。																																																																		
到達目標	①企業の開示する情報を理解できる。 ②社会における会計情報の役割を理解できる。 ③財務諸表の背後にある考え方を理解することによって、体系的に物事を捉える能力を培うことができる。																																																																		
授業方法と留意点	講義資料等はMoodle上に用意する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	日本商工会議所簿記検定、公認会計士試験、税理士試験を受験する際の基礎となる科目である。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション</td><td>講義概要の説明</td><td>事前：シラバスの確認 (30 分) 事後：講義資料の復習 (30 分)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>企業活動の会計 1</td><td>資金調達活動の会計についての説明</td><td>事前：講義資料の予習 (30 分) 事後：練習問題の復習 (30 分)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>企業活動の会計 2</td><td>資金投下活動の会計、営業活動の会計についての説明</td><td>事前：講義資料の予習 (30 分) 事後：練習問題の復習 (30 分)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>会計公準</td><td>会計公準についての説明</td><td>事前：講義資料の予習 (30 分) 事後：練習問題の復習 (30 分)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>企業会計原則</td><td>企業会計原則についての説明</td><td>事前：講義資料の予習 (30 分) 事後：練習問題の復習 (30 分)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>現金主義会計と発生主義会計</td><td>認識と測定についての説明</td><td>事前：講義資料の予習 (30 分) 事後：練習問題の復習 (30 分)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>ディスクロージャー制度</td><td>企業に対する開示規制についての説明</td><td>事前：講義資料の予習 (30 分) 事後：練習問題の復習 (30 分)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>中間試験</td><td>中間試験の実施と解説</td><td>事前：試験の準備 (90 分) 事後：試験の復習 (30 分)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>会計基準</td><td>会計基準についての説明</td><td>事前：講義資料の予習 (30 分) 事後：練習問題の復習 (30 分)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>収益認識会計</td><td>収益認識の会計基準についての説明</td><td>事前：講義資料の予習 (30 分) 事後：練習問題の復習 (30 分)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>財務諸表の内容 1</td><td>損益計算書、貸借対照表についての説明</td><td>事前：講義資料の予習 (30 分) 事後：練習問題の復習 (30 分)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>財務諸表の内容 2</td><td>株主資本等変動計算書についての説明</td><td>事前：講義資料の予習 (30 分) 事後：練習問題の復習 (30 分)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>財務諸表の内容 3</td><td>キャッシュフロー計算書についての説明</td><td>事前：講義資料の予習 (30 分) 事後：練習問題の復習 (30 分)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>財務諸表分析入門</td><td>収益性の説明</td><td>事前：講義資料の予習 (30 分) 事後：練習問題の復習 (30 分)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>講義の振り返りとまとめテスト</td><td>講義の振り返りとまとめテスト</td><td>事前：テストの準備 (90 分) 事後：テストの復習 (30 分)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	講義概要の説明	事前：シラバスの確認 (30 分) 事後：講義資料の復習 (30 分)	2	企業活動の会計 1	資金調達活動の会計についての説明	事前：講義資料の予習 (30 分) 事後：練習問題の復習 (30 分)	3	企業活動の会計 2	資金投下活動の会計、営業活動の会計についての説明	事前：講義資料の予習 (30 分) 事後：練習問題の復習 (30 分)	4	会計公準	会計公準についての説明	事前：講義資料の予習 (30 分) 事後：練習問題の復習 (30 分)	5	企業会計原則	企業会計原則についての説明	事前：講義資料の予習 (30 分) 事後：練習問題の復習 (30 分)	6	現金主義会計と発生主義会計	認識と測定についての説明	事前：講義資料の予習 (30 分) 事後：練習問題の復習 (30 分)	7	ディスクロージャー制度	企業に対する開示規制についての説明	事前：講義資料の予習 (30 分) 事後：練習問題の復習 (30 分)	8	中間試験	中間試験の実施と解説	事前：試験の準備 (90 分) 事後：試験の復習 (30 分)	9	会計基準	会計基準についての説明	事前：講義資料の予習 (30 分) 事後：練習問題の復習 (30 分)	10	収益認識会計	収益認識の会計基準についての説明	事前：講義資料の予習 (30 分) 事後：練習問題の復習 (30 分)	11	財務諸表の内容 1	損益計算書、貸借対照表についての説明	事前：講義資料の予習 (30 分) 事後：練習問題の復習 (30 分)	12	財務諸表の内容 2	株主資本等変動計算書についての説明	事前：講義資料の予習 (30 分) 事後：練習問題の復習 (30 分)	13	財務諸表の内容 3	キャッシュフロー計算書についての説明	事前：講義資料の予習 (30 分) 事後：練習問題の復習 (30 分)	14	財務諸表分析入門	収益性の説明	事前：講義資料の予習 (30 分) 事後：練習問題の復習 (30 分)	15	講義の振り返りとまとめテスト	講義の振り返りとまとめテスト	事前：テストの準備 (90 分) 事後：テストの復習 (30 分)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	講義概要の説明	事前：シラバスの確認 (30 分) 事後：講義資料の復習 (30 分)																																																																
2	企業活動の会計 1	資金調達活動の会計についての説明	事前：講義資料の予習 (30 分) 事後：練習問題の復習 (30 分)																																																																
3	企業活動の会計 2	資金投下活動の会計、営業活動の会計についての説明	事前：講義資料の予習 (30 分) 事後：練習問題の復習 (30 分)																																																																
4	会計公準	会計公準についての説明	事前：講義資料の予習 (30 分) 事後：練習問題の復習 (30 分)																																																																
5	企業会計原則	企業会計原則についての説明	事前：講義資料の予習 (30 分) 事後：練習問題の復習 (30 分)																																																																
6	現金主義会計と発生主義会計	認識と測定についての説明	事前：講義資料の予習 (30 分) 事後：練習問題の復習 (30 分)																																																																
7	ディスクロージャー制度	企業に対する開示規制についての説明	事前：講義資料の予習 (30 分) 事後：練習問題の復習 (30 分)																																																																
8	中間試験	中間試験の実施と解説	事前：試験の準備 (90 分) 事後：試験の復習 (30 分)																																																																
9	会計基準	会計基準についての説明	事前：講義資料の予習 (30 分) 事後：練習問題の復習 (30 分)																																																																
10	収益認識会計	収益認識の会計基準についての説明	事前：講義資料の予習 (30 分) 事後：練習問題の復習 (30 分)																																																																
11	財務諸表の内容 1	損益計算書、貸借対照表についての説明	事前：講義資料の予習 (30 分) 事後：練習問題の復習 (30 分)																																																																
12	財務諸表の内容 2	株主資本等変動計算書についての説明	事前：講義資料の予習 (30 分) 事後：練習問題の復習 (30 分)																																																																
13	財務諸表の内容 3	キャッシュフロー計算書についての説明	事前：講義資料の予習 (30 分) 事後：練習問題の復習 (30 分)																																																																
14	財務諸表分析入門	収益性の説明	事前：講義資料の予習 (30 分) 事後：練習問題の復習 (30 分)																																																																
15	講義の振り返りとまとめテスト	講義の振り返りとまとめテスト	事前：テストの準備 (90 分) 事後：テストの復習 (30 分)																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>財務会計・入門[第 14 版]</td><td>桜井久勝・須田一幸</td><td>有斐閣アルマ</td></tr> <tr> <td>2</td><td>財務会計論</td><td>梅原秀継</td><td>白桃書房</td></tr> <tr> <td>3</td><td>実証会計・ファイナンス R による財務・株式データ分析</td><td>笠原晃恭・村宮克彦</td><td>新生社</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	財務会計・入門[第 14 版]	桜井久勝・須田一幸	有斐閣アルマ	2	財務会計論	梅原秀継	白桃書房	3	実証会計・ファイナンス R による財務・株式データ分析	笠原晃恭・村宮克彦	新生社																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	財務会計・入門[第 14 版]	桜井久勝・須田一幸	有斐閣アルマ																																																																
2	財務会計論	梅原秀継	白桃書房																																																																
3	実証会計・ファイナンス R による財務・株式データ分析	笠原晃恭・村宮克彦	新生社																																																																
評価方法 (基準)	確認テスト (20%), 中間試験 (40%), まとめテスト (40%) で評価する。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等備考																																																																			

科目名	心理学 I	科目名 (英文)	Psychology I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	越川 陽介
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1302a1		

授業概要・目的	心理学という言葉を知ると、雑誌やインターネット上でできる自分の性格がわかる心理テストや、人の心を読めるマインドリーディングなどを想像する人も多いと思います。しかしながら、実際これは心理学の全てではありません。学問としての心理学は、知覚や記憶のメカニズム、学習理論やコミュニケーション法など、多岐にわたっています。本講義では、娯楽としての「楽しい」心理学はほとんど登場しませんが、授業を通して、私たちがどのように物事をとらえて感じているのかを理解し、他者を理解する上で役立つ考え方やコミュニケーション法を身につけ、自己理解や他者理解、良好な人間関係の形成に活かす知識を身につけることを目的としています。一般教養として学ぶことで、一人の人間としてより深みの持った人への成長の機会となると考えられます。																																																																		
到達目標	この講義を通じて学生には自分自身がどのように物事をとらえているのかを知ることに加えて、他者がどのように物事をとらえているのかを推察しようとする意識を身につけること、さらには自分と他者との物事の捉え方の違いを受け入れ、他者に共感的に寄り添える力を高めて、よりよい人間関係を形成できる力を身につけることが期待されます。																																																																		
授業方法と留意点	本授業は講義形式の授業を行う。各授業においてテーマを設定しており、そのテーマについてパワーポイントによる講義資料を用いて授業を行います。また、授業の最後にはその日の授業内容の定着度を測る小テストを行います。授業時には事前配布した授業スライドを印刷、持参し、いつでも内容を確認することが望ましいです。毎回授業の感想や質問を受け付け、その回答を次の授業の冒頭で共有し、学習内容の定着を図ります。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	自己理解と他者理解、現在と今後の人間関係の形成に活かすことができる。																																																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr><tr><td>1</td><td>心理学とは？ 講義内容と定期試験の説明</td><td>本講義では、心理学とはどのようなものなのかを概観し、日常生活でどのように活かされているのかについて学ぶ。</td><td>心理学で、興味の持った分野を見つけて、調べて整理しておくことが望ましい(1 時間)。</td></tr><tr><td>2</td><td>感覚と知覚について</td><td>本講義では、知覚の種類や機能について解説し、私たちが日常生活でどのように物事を捉えているのかについて学ぶ。</td><td>五感とは何かを調べて、自分と他人でどのように感じ方が異なるのかを考えておくことが望ましい(2 時間)。</td></tr><tr><td>3</td><td>記憶について</td><td>本講義では、記憶の仕組みや記憶に関する疾患について学ぶ。</td><td>記憶について調べ、整理しておくことが望ましい(1 時間)。</td></tr><tr><td>4</td><td>わたしたちと発達について：総論編</td><td>本講義では、生涯における発達について発達理論を中心に概観を学ぶ。</td><td>発達理論について調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。</td></tr><tr><td>5</td><td>わたしたちと発達について：認知編</td><td>本講義では、認知的な発達について学ぶ。</td><td>認知的な発達について調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。</td></tr><tr><td>6</td><td>わたしたちと発達について：対人関係編</td><td>本講義では、対人関係の形成に関する発達について学ぶ。</td><td>対人関係の構築の仕方について調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。</td></tr><tr><td>7</td><td>わたしたちと発達について：自己理解編</td><td>本講義では、自己を理解していく発達の過程について学ぶ。</td><td>アイデンティティについて調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。</td></tr><tr><td>8</td><td>学習理論、子育て、人の伸ばし方について</td><td>本講義では、人や動物がどのように学習し行動を形成するのか、子どもや他人をどのように伸ばせばいいのかを学ぶ。</td><td>学習理論について調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。</td></tr><tr><td>9</td><td>自尊心 (自信) について</td><td>本講義では、生きていくうえで重要な自尊心 (自信) について学ぶ。</td><td>自尊心について調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。</td></tr><tr><td>10</td><td>性格について</td><td>本講義では、人の性格がどのように形成されるのかについて学ぶ。</td><td>性格について調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。</td></tr><tr><td>11</td><td>社会的認知、集団の心理について</td><td>本講義では、社会的認知や集団における心理や行動について学ぶ。</td><td>集団の心理について調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。</td></tr><tr><td>12</td><td>感情と欲求、ストレスマネジメントについて</td><td>本講義では、感情の種類や機能、人間の欲求、ストレスマネジメントについて学ぶ。</td><td>ストレスマネジメントについて調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。</td></tr><tr><td>13</td><td>コミュニケーション、傾聴、共感について</td><td>本講義では、コミュニケーションで大切な傾聴 (話の聴き方) や共感について学ぶ。</td><td>傾聴や共感について調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。</td></tr><tr><td>14</td><td>コミュニケーション、日常生活に役立つ心理学について</td><td>本講義では、よりよい頼み方や断り方、謝り方などについて学ぶ。</td><td>アサーション、という言葉について調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。</td></tr><tr><td>15</td><td>講義全体のまとめ</td><td>本講義では、これまでの全講義のまとめを行い、要点を振り返り、講義内容の定着を図る。</td><td>全講義のプリントを復習しておくことが望ましい(3 時間)。</td></tr></table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	心理学とは？ 講義内容と定期試験の説明	本講義では、心理学とはどのようなものなのかを概観し、日常生活でどのように活かされているのかについて学ぶ。	心理学で、興味の持った分野を見つけて、調べて整理しておくことが望ましい(1 時間)。	2	感覚と知覚について	本講義では、知覚の種類や機能について解説し、私たちが日常生活でどのように物事を捉えているのかについて学ぶ。	五感とは何かを調べて、自分と他人でどのように感じ方が異なるのかを考えておくことが望ましい(2 時間)。	3	記憶について	本講義では、記憶の仕組みや記憶に関する疾患について学ぶ。	記憶について調べ、整理しておくことが望ましい(1 時間)。	4	わたしたちと発達について：総論編	本講義では、生涯における発達について発達理論を中心に概観を学ぶ。	発達理論について調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。	5	わたしたちと発達について：認知編	本講義では、認知的な発達について学ぶ。	認知的な発達について調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。	6	わたしたちと発達について：対人関係編	本講義では、対人関係の形成に関する発達について学ぶ。	対人関係の構築の仕方について調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。	7	わたしたちと発達について：自己理解編	本講義では、自己を理解していく発達の過程について学ぶ。	アイデンティティについて調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。	8	学習理論、子育て、人の伸ばし方について	本講義では、人や動物がどのように学習し行動を形成するのか、子どもや他人をどのように伸ばせばいいのかを学ぶ。	学習理論について調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。	9	自尊心 (自信) について	本講義では、生きていくうえで重要な自尊心 (自信) について学ぶ。	自尊心について調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。	10	性格について	本講義では、人の性格がどのように形成されるのかについて学ぶ。	性格について調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。	11	社会的認知、集団の心理について	本講義では、社会的認知や集団における心理や行動について学ぶ。	集団の心理について調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。	12	感情と欲求、ストレスマネジメントについて	本講義では、感情の種類や機能、人間の欲求、ストレスマネジメントについて学ぶ。	ストレスマネジメントについて調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。	13	コミュニケーション、傾聴、共感について	本講義では、コミュニケーションで大切な傾聴 (話の聴き方) や共感について学ぶ。	傾聴や共感について調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。	14	コミュニケーション、日常生活に役立つ心理学について	本講義では、よりよい頼み方や断り方、謝り方などについて学ぶ。	アサーション、という言葉について調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。	15	講義全体のまとめ	本講義では、これまでの全講義のまとめを行い、要点を振り返り、講義内容の定着を図る。	全講義のプリントを復習しておくことが望ましい(3 時間)。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	心理学とは？ 講義内容と定期試験の説明	本講義では、心理学とはどのようなものなのかを概観し、日常生活でどのように活かされているのかについて学ぶ。	心理学で、興味の持った分野を見つけて、調べて整理しておくことが望ましい(1 時間)。																																																																
2	感覚と知覚について	本講義では、知覚の種類や機能について解説し、私たちが日常生活でどのように物事を捉えているのかについて学ぶ。	五感とは何かを調べて、自分と他人でどのように感じ方が異なるのかを考えておくことが望ましい(2 時間)。																																																																
3	記憶について	本講義では、記憶の仕組みや記憶に関する疾患について学ぶ。	記憶について調べ、整理しておくことが望ましい(1 時間)。																																																																
4	わたしたちと発達について：総論編	本講義では、生涯における発達について発達理論を中心に概観を学ぶ。	発達理論について調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。																																																																
5	わたしたちと発達について：認知編	本講義では、認知的な発達について学ぶ。	認知的な発達について調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。																																																																
6	わたしたちと発達について：対人関係編	本講義では、対人関係の形成に関する発達について学ぶ。	対人関係の構築の仕方について調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。																																																																
7	わたしたちと発達について：自己理解編	本講義では、自己を理解していく発達の過程について学ぶ。	アイデンティティについて調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。																																																																
8	学習理論、子育て、人の伸ばし方について	本講義では、人や動物がどのように学習し行動を形成するのか、子どもや他人をどのように伸ばせばいいのかを学ぶ。	学習理論について調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。																																																																
9	自尊心 (自信) について	本講義では、生きていくうえで重要な自尊心 (自信) について学ぶ。	自尊心について調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。																																																																
10	性格について	本講義では、人の性格がどのように形成されるのかについて学ぶ。	性格について調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。																																																																
11	社会的認知、集団の心理について	本講義では、社会的認知や集団における心理や行動について学ぶ。	集団の心理について調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。																																																																
12	感情と欲求、ストレスマネジメントについて	本講義では、感情の種類や機能、人間の欲求、ストレスマネジメントについて学ぶ。	ストレスマネジメントについて調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。																																																																
13	コミュニケーション、傾聴、共感について	本講義では、コミュニケーションで大切な傾聴 (話の聴き方) や共感について学ぶ。	傾聴や共感について調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。																																																																
14	コミュニケーション、日常生活に役立つ心理学について	本講義では、よりよい頼み方や断り方、謝り方などについて学ぶ。	アサーション、という言葉について調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。																																																																
15	講義全体のまとめ	本講義では、これまでの全講義のまとめを行い、要点を振り返り、講義内容の定着を図る。	全講義のプリントを復習しておくことが望ましい(3 時間)。																																																																
関連科目	臨床心理学、発達心理学、コミュニケーション学																																																																		
教科書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	まとめテスト (第 15 回時実施) 40%、毎回の小テスト 30%、授業態度としての授業への呼応状況 30%の配分で総合的に評価を行う。出席が 11 回以上の者が成績評価の対象となります。																																																																		
学生へのメッセージ	心理学は、自己理解や他者理解を中心として、日常生活を営む上においても役立つ学問で、知れば知るほど自分の世界が広がるものです。本講義を通して、今後生きていく上で、一つでも役立つ知識や経験を得られることができればよいと思います。																																																																		
担当者の研究室等	11 号館 6 階 経営学部非常勤講師室																																																																		

備考	・講義時間外における質問は、講義前後の非常勤講師室、講義後の教室で時間の許す限りとします（メールでも可）。 ・事前事後学習に、毎回 30 分以上かけると、定期試験の点数も取りやすくなります。 ・小テストは全ての問題が満点になるまで回答できる様に設定する予定です。満点を目指す中でその回の授業を復習できる様にしています。
----	---

科目名	心理学Ⅱ	科目名（英文）	Psychology II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	越川 陽介
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1303a1		

授業概要・目的	本講義では、社会的変化を心理学的な視点で把握した上で、それらが個人や集団にどのような影響を及ぼすのかについて学びます。 さらに、そのような社会的変化に対して、私たちがどのように生きていけばいいのかといった視点から、自分で考えられる力、他人との関係の中でうまく生きていく力を高めることを目的とします。																																																																		
到達目標	この講義を通じて学生には、社会的変化を自分とは関係の無いことと思わずに、自分にも関係のあることとして捉えられるようになること、さらに、本講義で学ぶ内容を、ただ“知る”だけではなく、自分で“考える”ことで、複雑・多様化する社会の中で生きていく力を高めることが身につくことが期待されます。																																																																		
授業方法と留意点	本授業は講義形式の授業を行います。各授業においてテーマを設定しており、そのテーマについてパワーポイントによる講義資料を用いて授業を行います。また、授業の最後にはその日の授業内容の定着度を測る小テストを行います。授業時に紹介する参考文献を参照し知識の定着を目指すことが望ましいです。																																																																		
科目学習の効果（資格）	自分自身で考える力を高め、複雑・多様化する社会の中で生きられる力を高めることができる。																																																																		
授業計画	<table> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> <tr> <td>1</td><td>心理学とは？ 講義内容と定期試験の説明</td><td>本講義では、最近の社会的変化を考える前に、心理学とはどのようなものなのかを概観し、日常生活でどのように活かされているのかについて学ぶ。</td><td>心理学とは、どのようなものなのかを事前に調べ、自分なりの考えを持つておくことが望ましい(1 時間)。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>新型コロナウイルス感染症とメンタルヘルス</td><td>本講義では、危機的状況下で生じる人間の反応について学ぶ。</td><td>災害時などに生じる心の反応の特徴について調べてくることが望ましい(2 時間)。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>未病とメンタルヘルス</td><td>本講義では、メンタルヘルスにおける健康と病気の間の未病について学ぶ。</td><td>未病とメンタルヘルスについて調べることが望ましい(2 時間)。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>メンタルヘルスの未病のための不安との付き合い方</td><td>本講義では、見通しの立たない社会を過ごすための方法について学ぶ。</td><td>授業内で紹介するワークを実際に行い、体験したことをまとめておくことが望ましい(2 時間)。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>睡眠とメンタルヘルス 1</td><td>本講義では、睡眠に関する知識について学ぶ。</td><td>1 週間の睡眠状況についてメモしておくことが望ましい(2 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>睡眠とメンタルヘルス 2</td><td>本講義では、睡眠障害と、薬物を使わない睡眠の改善方法について学ぶ。</td><td>授業内で紹介するワークを実際に行い、体験したことをまとめておくことが望ましい(2 時間)。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>組織と個人の心 1</td><td>本講義では、組織に生じる問題について精神分析的な側面からの解釈の方法について学ぶ。</td><td>自分が所属する組織で困ったことなどを確認することが望ましい(2 時間)。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>組織と個人の心 2</td><td>本講義では、アセスメントツールを用いて組織のアセスメント方法について学ぶ。</td><td>自分が所属する組織で生じた問題について整理しておくことが望ましい(2 時間)。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>モンスターペアレントやクレーマーについて</td><td>本講義では、モンスターペアレントやクレーマーの心理や社会的背景について学ぶ。</td><td>モンスターペアレントやクレーマーの心理について事前に考えておくことが望ましい(2 時間)。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>セクシャル・マイノリティについて</td><td>本講義では、セクシャルマイノリティの歴史や背景、今後について学ぶ。</td><td>自分がセクシャルマイノリティであるとしたら、自分の周りにセクシャルマイノリティの人がいるとしたら、という視点で考えておくことが望ましい(2 時間)。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>高齢者の発達と介護について</td><td>本講義では、高齢者の発達と介護について学ぶ。</td><td>介護に関する問題について事前に調べておくことが望ましい(2 時間)。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>SNS（ソーシャルネットワークサービス）について</td><td>本講義では、近年発展が続いている SNS について学ぶ。</td><td>SNS のメリットとデメリット、自分が SNS についてどのように感じているかを事前に考えておくことが望ましい(2 時間)。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>ロボット（AI）の増加や機械化について</td><td>本講義では、人とロボットの関係、今後の働き方について学ぶ。</td><td>ロボット（AI）の増加や機械化によるメリットとデメリットを事前に考えておくことが望ましい(2 時間)。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>オンラインコミュニケーションについて</td><td>本講義では、テレワークなどのオンラインで行われるコミュニケーションについて学ぶ。</td><td>オンラインコミュニケーションのメリットとデメリットを考えておくことが望ましい(2 時間)。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>講義全体のまとめ</td><td>本講義では、これまでの全講義のまとめを目的としたテストを行う</td><td>全講義のプリントを復習しておくことが望ましい(2 時間)。</td></tr> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	心理学とは？ 講義内容と定期試験の説明	本講義では、最近の社会的変化を考える前に、心理学とはどのようなものなのかを概観し、日常生活でどのように活かされているのかについて学ぶ。	心理学とは、どのようなものなのかを事前に調べ、自分なりの考えを持つておくことが望ましい(1 時間)。	2	新型コロナウイルス感染症とメンタルヘルス	本講義では、危機的状況下で生じる人間の反応について学ぶ。	災害時などに生じる心の反応の特徴について調べてくることが望ましい(2 時間)。	3	未病とメンタルヘルス	本講義では、メンタルヘルスにおける健康と病気の間の未病について学ぶ。	未病とメンタルヘルスについて調べることが望ましい(2 時間)。	4	メンタルヘルスの未病のための不安との付き合い方	本講義では、見通しの立たない社会を過ごすための方法について学ぶ。	授業内で紹介するワークを実際に行い、体験したことをまとめておくことが望ましい(2 時間)。	5	睡眠とメンタルヘルス 1	本講義では、睡眠に関する知識について学ぶ。	1 週間の睡眠状況についてメモしておくことが望ましい(2 時間)	6	睡眠とメンタルヘルス 2	本講義では、睡眠障害と、薬物を使わない睡眠の改善方法について学ぶ。	授業内で紹介するワークを実際に行い、体験したことをまとめておくことが望ましい(2 時間)。	7	組織と個人の心 1	本講義では、組織に生じる問題について精神分析的な側面からの解釈の方法について学ぶ。	自分が所属する組織で困ったことなどを確認することが望ましい(2 時間)。	8	組織と個人の心 2	本講義では、アセスメントツールを用いて組織のアセスメント方法について学ぶ。	自分が所属する組織で生じた問題について整理しておくことが望ましい(2 時間)。	9	モンスターペアレントやクレーマーについて	本講義では、モンスターペアレントやクレーマーの心理や社会的背景について学ぶ。	モンスターペアレントやクレーマーの心理について事前に考えておくことが望ましい(2 時間)。	10	セクシャル・マイノリティについて	本講義では、セクシャルマイノリティの歴史や背景、今後について学ぶ。	自分がセクシャルマイノリティであるとしたら、自分の周りにセクシャルマイノリティの人がいるとしたら、という視点で考えておくことが望ましい(2 時間)。	11	高齢者の発達と介護について	本講義では、高齢者の発達と介護について学ぶ。	介護に関する問題について事前に調べておくことが望ましい(2 時間)。	12	SNS（ソーシャルネットワークサービス）について	本講義では、近年発展が続いている SNS について学ぶ。	SNS のメリットとデメリット、自分が SNS についてどのように感じているかを事前に考えておくことが望ましい(2 時間)。	13	ロボット（AI）の増加や機械化について	本講義では、人とロボットの関係、今後の働き方について学ぶ。	ロボット（AI）の増加や機械化によるメリットとデメリットを事前に考えておくことが望ましい(2 時間)。	14	オンラインコミュニケーションについて	本講義では、テレワークなどのオンラインで行われるコミュニケーションについて学ぶ。	オンラインコミュニケーションのメリットとデメリットを考えておくことが望ましい(2 時間)。	15	講義全体のまとめ	本講義では、これまでの全講義のまとめを目的としたテストを行う	全講義のプリントを復習しておくことが望ましい(2 時間)。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	心理学とは？ 講義内容と定期試験の説明	本講義では、最近の社会的変化を考える前に、心理学とはどのようなものなのかを概観し、日常生活でどのように活かされているのかについて学ぶ。	心理学とは、どのようなものなのかを事前に調べ、自分なりの考えを持つておくことが望ましい(1 時間)。																																																																
2	新型コロナウイルス感染症とメンタルヘルス	本講義では、危機的状況下で生じる人間の反応について学ぶ。	災害時などに生じる心の反応の特徴について調べてくることが望ましい(2 時間)。																																																																
3	未病とメンタルヘルス	本講義では、メンタルヘルスにおける健康と病気の間の未病について学ぶ。	未病とメンタルヘルスについて調べることが望ましい(2 時間)。																																																																
4	メンタルヘルスの未病のための不安との付き合い方	本講義では、見通しの立たない社会を過ごすための方法について学ぶ。	授業内で紹介するワークを実際に行い、体験したことをまとめておくことが望ましい(2 時間)。																																																																
5	睡眠とメンタルヘルス 1	本講義では、睡眠に関する知識について学ぶ。	1 週間の睡眠状況についてメモしておくことが望ましい(2 時間)																																																																
6	睡眠とメンタルヘルス 2	本講義では、睡眠障害と、薬物を使わない睡眠の改善方法について学ぶ。	授業内で紹介するワークを実際に行い、体験したことをまとめておくことが望ましい(2 時間)。																																																																
7	組織と個人の心 1	本講義では、組織に生じる問題について精神分析的な側面からの解釈の方法について学ぶ。	自分が所属する組織で困ったことなどを確認することが望ましい(2 時間)。																																																																
8	組織と個人の心 2	本講義では、アセスメントツールを用いて組織のアセスメント方法について学ぶ。	自分が所属する組織で生じた問題について整理しておくことが望ましい(2 時間)。																																																																
9	モンスターペアレントやクレーマーについて	本講義では、モンスターペアレントやクレーマーの心理や社会的背景について学ぶ。	モンスターペアレントやクレーマーの心理について事前に考えておくことが望ましい(2 時間)。																																																																
10	セクシャル・マイノリティについて	本講義では、セクシャルマイノリティの歴史や背景、今後について学ぶ。	自分がセクシャルマイノリティであるとしたら、自分の周りにセクシャルマイノリティの人がいるとしたら、という視点で考えておくことが望ましい(2 時間)。																																																																
11	高齢者の発達と介護について	本講義では、高齢者の発達と介護について学ぶ。	介護に関する問題について事前に調べておくことが望ましい(2 時間)。																																																																
12	SNS（ソーシャルネットワークサービス）について	本講義では、近年発展が続いている SNS について学ぶ。	SNS のメリットとデメリット、自分が SNS についてどのように感じているかを事前に考えておくことが望ましい(2 時間)。																																																																
13	ロボット（AI）の増加や機械化について	本講義では、人とロボットの関係、今後の働き方について学ぶ。	ロボット（AI）の増加や機械化によるメリットとデメリットを事前に考えておくことが望ましい(2 時間)。																																																																
14	オンラインコミュニケーションについて	本講義では、テレワークなどのオンラインで行われるコミュニケーションについて学ぶ。	オンラインコミュニケーションのメリットとデメリットを考えておくことが望ましい(2 時間)。																																																																
15	講義全体のまとめ	本講義では、これまでの全講義のまとめを目的としたテストを行う	全講義のプリントを復習しておくことが望ましい(2 時間)。																																																																
関連科目	臨床心理学、社会心理学、コミュニケーション学																																																																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	出席回数が 11 回以上の者を評価の対象とする。 その上で、定期試験 40%、毎回の小テスト 30%、授業態度としての授業への呼応状況 30%の配分で総合的に評価を行う。																																																																		
学生へのメッセージ	心理学は、自己理解や他者理解を中心として、日常生活を営む上においても役立つ学問で、知れば知るほど自分の世界が広がるものです。本講義を通して、今後生きていく上で、一つでも役立つ知識や経験を得られることができればよいと思います。																																																																		
担当者の	11 号館 6 階 経営学部非常勤講師室																																																																		

研究室等	
備考	・質問は、メールにてお願いします。 ・小テストは全ての問題が満点になるまで回答できる様に設定する予定です。満点を目指す中でその回の授業を復習できる様にしています。

科目名	社会学Ⅰ	科目名（英文）	SociologyⅠ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	野々村 元希
ディプロマポリシー（DP）	DP1◎		
科目ナンバリング	JS01315a1		

授業概要・目的	われわれの生きる社会は、どのようなしくみによって成り立っているのか。そこにはどのような問題があり、それはなぜ生じているのか。本授業では、社会学の立場からこうした問いに取り組んでいく。 まず、社会学の研究の対象、ならびにそれを取り扱うためのデータ収集・解析の手法について解説する。その上で、家族、労働、教育、階層、医療、福祉といった諸テーマに関する社会学の理論的・実証的知見を紹介し、現代社会の動向を多角的にとらえることを試みる。																																																																		
到達目標	受講生は社会的な発想とデータの解釈にもとづき、現代社会のさまざまな社会現象・社会問題について、一歩深い水準から考察できるようになることが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	講義形式の授業を行う。授業は教員の作成した配布資料にもとづいて進められる。																																																																		
科目学習の効果（資格）	日々の個人的な経験を、社会構造やその歴史的変化との関連において把握する能力を身につけることができる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション</td><td>講義への導入</td><td>授業の流れについて理解する。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>社会学とは何か</td><td>社会学の研究の枠組みと関心</td><td>レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1時間）。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>社会学と社会調査</td><td>計量分析の手法</td><td>レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1時間）。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>自己の社会学(1)</td><td>社会化</td><td>レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1時間）。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>自己の社会学(2)</td><td>意識と無意識</td><td>レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1時間）。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>家族・労働の社会学(1)</td><td>近代家族</td><td>レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1時間）。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>家族・労働の社会学(2)</td><td>結婚、少子化</td><td>レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1時間）。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>家族・労働の社会学(3)</td><td>共働き家族</td><td>レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1時間）。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>教育・階層の社会学(1)</td><td>コンピテンシー教育</td><td>レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1時間）。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>教育・階層の社会学(2)</td><td>学歴</td><td>レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1時間）。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>医療・福祉の社会学(1)</td><td>医療化</td><td>レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1時間）。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>医療・福祉の社会学(2)</td><td>健康と権力</td><td>レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1時間）。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>医療・福祉の社会学(3)</td><td>福祉国家</td><td>レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1時間）。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>政治・経済の社会学</td><td>新自由主義</td><td>レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1時間）。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括</td><td>講義のまとめ</td><td>授業全体を振り返る。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	講義への導入	授業の流れについて理解する。	2	社会学とは何か	社会学の研究の枠組みと関心	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1時間）。	3	社会学と社会調査	計量分析の手法	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1時間）。	4	自己の社会学(1)	社会化	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1時間）。	5	自己の社会学(2)	意識と無意識	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1時間）。	6	家族・労働の社会学(1)	近代家族	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1時間）。	7	家族・労働の社会学(2)	結婚、少子化	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1時間）。	8	家族・労働の社会学(3)	共働き家族	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1時間）。	9	教育・階層の社会学(1)	コンピテンシー教育	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1時間）。	10	教育・階層の社会学(2)	学歴	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1時間）。	11	医療・福祉の社会学(1)	医療化	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1時間）。	12	医療・福祉の社会学(2)	健康と権力	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1時間）。	13	医療・福祉の社会学(3)	福祉国家	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1時間）。	14	政治・経済の社会学	新自由主義	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1時間）。	15	総括	講義のまとめ	授業全体を振り返る。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	講義への導入	授業の流れについて理解する。																																																																
2	社会学とは何か	社会学の研究の枠組みと関心	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1時間）。																																																																
3	社会学と社会調査	計量分析の手法	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1時間）。																																																																
4	自己の社会学(1)	社会化	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1時間）。																																																																
5	自己の社会学(2)	意識と無意識	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1時間）。																																																																
6	家族・労働の社会学(1)	近代家族	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1時間）。																																																																
7	家族・労働の社会学(2)	結婚、少子化	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1時間）。																																																																
8	家族・労働の社会学(3)	共働き家族	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1時間）。																																																																
9	教育・階層の社会学(1)	コンピテンシー教育	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1時間）。																																																																
10	教育・階層の社会学(2)	学歴	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1時間）。																																																																
11	医療・福祉の社会学(1)	医療化	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1時間）。																																																																
12	医療・福祉の社会学(2)	健康と権力	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1時間）。																																																																
13	医療・福祉の社会学(3)	福祉国家	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1時間）。																																																																
14	政治・経済の社会学	新自由主義	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1時間）。																																																																
15	総括	講義のまとめ	授業全体を振り返る。																																																																
関連科目	社会学Ⅱ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>基礎社会学講義―社会的分析の基本枠組</td><td>小林久高</td><td>学文社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	基礎社会学講義―社会的分析の基本枠組	小林久高	学文社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	基礎社会学講義―社会的分析の基本枠組	小林久高	学文社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	コメント（10%）：授業内容に関するコメントを授業後に求める。 期末試験（90%）：授業内容に関する筆記試験を行う。																																																																		
学生へのメッセージ	授業内容に興味があり、「これは楽しめそうだ」という人はぜひ参加してください。 なお各テーマについて、意識調査にもとづく計量データの分析にもとづいた解説を行います。統計学に関する知識の習得に積極的であることが望ましいです。																																																																		
担当者の研究室等																																																																			
備考	教員のメールアドレスは下記の通り。 motoki.nonomura@edu.setsunan.ac.jp																																																																		

科目名	社会学Ⅱ	科目名（英文）	Sociology II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	野々村 元希
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JS01316a1		

授業概要・目的	社会学という営みは、いかなる問題意識をもち、何をやっているのか。また、その営みによって何が明らかになってきたのか。この授業では、こうした問いに迫るために、社会学の基本的なものの見方について解説する。 授業の前半では、社会学の成立の過程を思想的にたどりつつ、他の学問とは異なる社会学に固有の関心や着眼点を考えていく。授業の後半では、社会学の巨匠たちの古典的業績を参照しつつ、現代にも通じる近代社会の諸問題について考えていく。																																																																		
到達目標	この講義を通じて、受講生は社会学の基本的な知識と考え方を身につけ、近代の社会制度・社会問題について、そこにただ埋没せず、その自明性を問い直すような視座を獲得できるようになることが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	講義形式の授業を行う。授業は教員の作成した配布資料にもとづいて進められる。																																																																		
科目学習の効果（資格）	日々の個人的な経験を、社会構造やその変化をおさえながら把握する能力を身につけることができる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>イントロダクション</td><td>講義への導入</td><td>授業の流れについて理解する。</td></tr> <tr><td>2</td><td>社会学とは何か</td><td>社会学の関心と着眼点</td><td>レジュメや紹介した文献を読む（1 時間）。</td></tr> <tr><td>3</td><td>社会学前史（1）</td><td>17 世紀と社会契約論</td><td>レジュメや紹介した文献を読む（1 時間）。</td></tr> <tr><td>4</td><td>社会学前史（2）</td><td>18 世紀とスコットランド啓蒙</td><td>レジュメや紹介した文献を読む（1 時間）。</td></tr> <tr><td>5</td><td>社会学前史（3）</td><td>ルソーと 2 つの革命</td><td>レジュメや紹介した文献を読む（1 時間）。</td></tr> <tr><td>6</td><td>社会学の成立とモダニズム</td><td>コントの問題意識、秩序再建、反省と懐疑</td><td>レジュメや紹介した文献を読む（1 時間）。</td></tr> <tr><td>7</td><td>フロイトの精神分析</td><td>無意識、抑圧、抵抗</td><td>レジュメや紹介した文献を読む（1 時間）。</td></tr> <tr><td>8</td><td>マルクスの資本主義批判</td><td>商品、剰余価値、本源的蓄積</td><td>レジュメや紹介した文献を読む（1 時間）。</td></tr> <tr><td>9</td><td>デュルケムの社会学（1）</td><td>『自殺論』（1）を読む</td><td>レジュメや紹介した文献を読む（1 時間）。</td></tr> <tr><td>10</td><td>デュルケムの社会学（2）</td><td>『自殺論』（2）を読む</td><td>レジュメや紹介した文献を読む（1 時間）。</td></tr> <tr><td>11</td><td>デュルケムの社会学（3）</td><td>『社会分業論』、『個人主義と知識人』論文、『宗教生活の基本形態』を読む</td><td>レジュメや紹介した文献を読む（1 時間）。</td></tr> <tr><td>12</td><td>ウェーバーの社会学（1）</td><td>『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』（1）を読む</td><td>レジュメや紹介した文献を読む（1 時間）。</td></tr> <tr><td>13</td><td>ウェーバーの社会学（2）</td><td>『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』（2）を読む</td><td>レジュメや紹介した文献を読む（1 時間）。</td></tr> <tr><td>14</td><td>ウェーバーの社会学（3）</td><td>「社会学の基礎概念」、「客観性」論文、『職業としての学問』を読む</td><td>レジュメや紹介した文献を読む（1 時間）。</td></tr> <tr><td>15</td><td>社会学のその後の展開、講義のまとめ</td><td>総括</td><td>授業全体を振り返る。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	講義への導入	授業の流れについて理解する。	2	社会学とは何か	社会学の関心と着眼点	レジュメや紹介した文献を読む（1 時間）。	3	社会学前史（1）	17 世紀と社会契約論	レジュメや紹介した文献を読む（1 時間）。	4	社会学前史（2）	18 世紀とスコットランド啓蒙	レジュメや紹介した文献を読む（1 時間）。	5	社会学前史（3）	ルソーと 2 つの革命	レジュメや紹介した文献を読む（1 時間）。	6	社会学の成立とモダニズム	コントの問題意識、秩序再建、反省と懐疑	レジュメや紹介した文献を読む（1 時間）。	7	フロイトの精神分析	無意識、抑圧、抵抗	レジュメや紹介した文献を読む（1 時間）。	8	マルクスの資本主義批判	商品、剰余価値、本源的蓄積	レジュメや紹介した文献を読む（1 時間）。	9	デュルケムの社会学（1）	『自殺論』（1）を読む	レジュメや紹介した文献を読む（1 時間）。	10	デュルケムの社会学（2）	『自殺論』（2）を読む	レジュメや紹介した文献を読む（1 時間）。	11	デュルケムの社会学（3）	『社会分業論』、『個人主義と知識人』論文、『宗教生活の基本形態』を読む	レジュメや紹介した文献を読む（1 時間）。	12	ウェーバーの社会学（1）	『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』（1）を読む	レジュメや紹介した文献を読む（1 時間）。	13	ウェーバーの社会学（2）	『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』（2）を読む	レジュメや紹介した文献を読む（1 時間）。	14	ウェーバーの社会学（3）	「社会学の基礎概念」、「客観性」論文、『職業としての学問』を読む	レジュメや紹介した文献を読む（1 時間）。	15	社会学のその後の展開、講義のまとめ	総括	授業全体を振り返る。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	講義への導入	授業の流れについて理解する。																																																																
2	社会学とは何か	社会学の関心と着眼点	レジュメや紹介した文献を読む（1 時間）。																																																																
3	社会学前史（1）	17 世紀と社会契約論	レジュメや紹介した文献を読む（1 時間）。																																																																
4	社会学前史（2）	18 世紀とスコットランド啓蒙	レジュメや紹介した文献を読む（1 時間）。																																																																
5	社会学前史（3）	ルソーと 2 つの革命	レジュメや紹介した文献を読む（1 時間）。																																																																
6	社会学の成立とモダニズム	コントの問題意識、秩序再建、反省と懐疑	レジュメや紹介した文献を読む（1 時間）。																																																																
7	フロイトの精神分析	無意識、抑圧、抵抗	レジュメや紹介した文献を読む（1 時間）。																																																																
8	マルクスの資本主義批判	商品、剰余価値、本源的蓄積	レジュメや紹介した文献を読む（1 時間）。																																																																
9	デュルケムの社会学（1）	『自殺論』（1）を読む	レジュメや紹介した文献を読む（1 時間）。																																																																
10	デュルケムの社会学（2）	『自殺論』（2）を読む	レジュメや紹介した文献を読む（1 時間）。																																																																
11	デュルケムの社会学（3）	『社会分業論』、『個人主義と知識人』論文、『宗教生活の基本形態』を読む	レジュメや紹介した文献を読む（1 時間）。																																																																
12	ウェーバーの社会学（1）	『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』（1）を読む	レジュメや紹介した文献を読む（1 時間）。																																																																
13	ウェーバーの社会学（2）	『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』（2）を読む	レジュメや紹介した文献を読む（1 時間）。																																																																
14	ウェーバーの社会学（3）	「社会学の基礎概念」、「客観性」論文、『職業としての学問』を読む	レジュメや紹介した文献を読む（1 時間）。																																																																
15	社会学のその後の展開、講義のまとめ	総括	授業全体を振り返る。																																																																
関連科目	社会学（社会学Ⅰ）																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	コメント（10%）：授業内容に関するコメントを授業後に求める。 期末試験（90%）：授業内容に関する筆記試験を行う。																																																																		
学生へのメッセージ	授業内容に興味があり、「これは楽しめそうだ」という人が参加してください。 社会学に限らず、哲学や思想史など、少し難しい本を読むのが好きだという学生の参加を歓迎します。																																																																		
担当者の研究室等																																																																			
備考	教員のメールアドレスは下記の通り。 motoki.nonomura@edu.setsunan.ac.jp																																																																		

科目名	スポーツ心理学	科目名 (英文)	Sports Psychology
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH2357a1		

授業概要・目的	スポーツ活動を心理学的な観点から分析・検討するための基本理論や応用のための方法を学ぶ。																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、スポーツ活動の基礎となる運動や人について、心理学的な側面から理解を深めることができるようになることが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	教科書は特に用いないが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するため、および事前・事後の学習のために ICT ツールを活用していただく場合があります。対面による授業を原則とします。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	スポーツ活動だけではなく、日常生活にも応用できる心理学的な知見の獲得。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>スポーツ心理学の意義</td><td>スポーツ心理学の意義と学問体系を理解する。</td><td>スポーツ心理学という学問領域について整理する。(1 時間程度、以下 1～15 回目も同様)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>スポーツ心理学の研究法</td><td>実験、調査法、観察</td><td>配布資料に目を通す。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>スポーツと知覚</td><td>スポーツと視覚、スポーツヴィジョン</td><td>関連資料に目を通す。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>スポーツ指導と動機づけ</td><td>動機づけの意味と、その方法論</td><td>動機付けの方法を抜粋し整理する。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>パフォーマンス修得の意味とその段階</td><td>パフォーマンス曲線、プラトウとスランプ・習熟度の確認</td><td>スランプとプラトウの違いを整理する。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>リーダーシップとスポーツ (1)</td><td>リーダーシップの概念</td><td>関連資料に目を通す。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>リーダーシップとスポーツ (2)</td><td>リーダーシップの形式</td><td>配布資料の理解。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>リーダーシップとスポーツ (3)、これまでの講義のまとめ</td><td>リーダーの役割と PM 理論</td><td>これまでの講義の整理とその理解。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>フィードバック</td><td>フィードバックの種類と効果</td><td>フィードバックという概念の検索。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>メンタルプラクティス</td><td>メンタルプラクティスの効果と実践方法、習熟度の確認</td><td>関連資料に目を通す。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>スポーツとパーソナリティー</td><td>スポーツとパーソナリティーの関係</td><td>パーソナリティーという言葉の検索。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>スポーツの経験と態度変容</td><td>態度の概念、態度変容理論、スポーツ経験と態度変容</td><td>配布資料の理解。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>心理的技能とパフォーマンス (1)</td><td>心理的技能がパフォーマンスに与える影響</td><td>関連資料に目を通す。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>心理的技能とパフォーマンス (2)</td><td>心理的技能とパフォーマンスとの関係</td><td>前回と講義と今回とを関連づけて整理する。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>講義のまとめ</td><td>講義の総括と到達度の確認試験</td><td>これまでの講義を体系づけて整理する。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	スポーツ心理学の意義	スポーツ心理学の意義と学問体系を理解する。	スポーツ心理学という学問領域について整理する。(1 時間程度、以下 1～15 回目も同様)	2	スポーツ心理学の研究法	実験、調査法、観察	配布資料に目を通す。	3	スポーツと知覚	スポーツと視覚、スポーツヴィジョン	関連資料に目を通す。	4	スポーツ指導と動機づけ	動機づけの意味と、その方法論	動機付けの方法を抜粋し整理する。	5	パフォーマンス修得の意味とその段階	パフォーマンス曲線、プラトウとスランプ・習熟度の確認	スランプとプラトウの違いを整理する。	6	リーダーシップとスポーツ (1)	リーダーシップの概念	関連資料に目を通す。	7	リーダーシップとスポーツ (2)	リーダーシップの形式	配布資料の理解。	8	リーダーシップとスポーツ (3)、これまでの講義のまとめ	リーダーの役割と PM 理論	これまでの講義の整理とその理解。	9	フィードバック	フィードバックの種類と効果	フィードバックという概念の検索。	10	メンタルプラクティス	メンタルプラクティスの効果と実践方法、習熟度の確認	関連資料に目を通す。	11	スポーツとパーソナリティー	スポーツとパーソナリティーの関係	パーソナリティーという言葉の検索。	12	スポーツの経験と態度変容	態度の概念、態度変容理論、スポーツ経験と態度変容	配布資料の理解。	13	心理的技能とパフォーマンス (1)	心理的技能がパフォーマンスに与える影響	関連資料に目を通す。	14	心理的技能とパフォーマンス (2)	心理的技能とパフォーマンスとの関係	前回と講義と今回とを関連づけて整理する。	15	講義のまとめ	講義の総括と到達度の確認試験	これまでの講義を体系づけて整理する。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	スポーツ心理学の意義	スポーツ心理学の意義と学問体系を理解する。	スポーツ心理学という学問領域について整理する。(1 時間程度、以下 1～15 回目も同様)																																																																
2	スポーツ心理学の研究法	実験、調査法、観察	配布資料に目を通す。																																																																
3	スポーツと知覚	スポーツと視覚、スポーツヴィジョン	関連資料に目を通す。																																																																
4	スポーツ指導と動機づけ	動機づけの意味と、その方法論	動機付けの方法を抜粋し整理する。																																																																
5	パフォーマンス修得の意味とその段階	パフォーマンス曲線、プラトウとスランプ・習熟度の確認	スランプとプラトウの違いを整理する。																																																																
6	リーダーシップとスポーツ (1)	リーダーシップの概念	関連資料に目を通す。																																																																
7	リーダーシップとスポーツ (2)	リーダーシップの形式	配布資料の理解。																																																																
8	リーダーシップとスポーツ (3)、これまでの講義のまとめ	リーダーの役割と PM 理論	これまでの講義の整理とその理解。																																																																
9	フィードバック	フィードバックの種類と効果	フィードバックという概念の検索。																																																																
10	メンタルプラクティス	メンタルプラクティスの効果と実践方法、習熟度の確認	関連資料に目を通す。																																																																
11	スポーツとパーソナリティー	スポーツとパーソナリティーの関係	パーソナリティーという言葉の検索。																																																																
12	スポーツの経験と態度変容	態度の概念、態度変容理論、スポーツ経験と態度変容	配布資料の理解。																																																																
13	心理的技能とパフォーマンス (1)	心理的技能がパフォーマンスに与える影響	関連資料に目を通す。																																																																
14	心理的技能とパフォーマンス (2)	心理的技能とパフォーマンスとの関係	前回と講義と今回とを関連づけて整理する。																																																																
15	講義のまとめ	講義の総括と到達度の確認試験	これまでの講義を体系づけて整理する。																																																																
関連科目	スポーツに関係する科目全般																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業に参加する姿勢 (30%)、授業中に出される課題への回答・試験の結果 (70%) をもって評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでください。																																																																		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 石井教授室																																																																		
備考	各回に 1 時間程度、すなわち半期 15 時間程度を目安に、講義の内容について事前・事後の学習を行ってください。課題や習熟度確認試験の解説は、次の回の授業で行う。 19 年度 合格率 96% (不受験率 4%) A7% B29% C46% D14% 平均 75 点 72 人登録																																																																		

科目名	社会調査の方法	科目名（英文）	Social Research Method
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	野々村 元希
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JS02317a1		

授業概要・目的	この授業では、社会調査の概要を述べた上で、特に計量的な社会調査（量的調査）に関して、問題設定から報告書作成までのプロセスを解説する。すなわち、さまざまな社会現象に対して、問いを立て、データを集め、分析し、それによって得られた結果を解釈し、問いに対する答えを報告書にまとめるという一連の流れについて、守るべきルールや方法をおさえながら解説していく。
到達目標	この授業を通じて学生には、量的調査のデータベースを用いた情報検索の方法、ならびに量的調査を設計する方法を学ぶことを通して、データの収集、分析に関する知識と実践力を習得することが期待される。
授業方法と留意点	講義形式の授業を行う。授業は教員の作成した配布資料にもとづいて進められる。情報処理教室を使い、さまざまな演習を取り入れる。
科目学習の効果（資格）	社会調査はゼミ活動や卒業研究だけでなく、たとえば市場調査など、就職後にもさまざまな場面で実施することになりうるものである。受講生はそのための知識や技術を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講義のねらいと概要	レジュメを読んで復習する（1時間）。配布した調査票を見てその構造をつかむ。
	2	社会調査の概要	質的調査と量的調査、社会調査の現状	レジュメを読んで復習する（1時間）。
	3	調査を企画する前に（1）	既存の文献・調査データの検索	レジュメを読んで復習する（1時間）。 ■課題あり（予定）
	4	調査を企画する前に（2）	問い（リサーチ・クエスチョン）の立て方と変数、質的変数と量的変数	レジュメを読んで復習する（1時間）。
	5	調査を企画する前に（3）	仮説構成、相関関係と因果関係、独立変数と従属変数	レジュメを読んで復習する（1時間）。 ■課題あり（予定）
	6	調査票の作成（1）	質問文の作成、ワーディング	レジュメを読んで復習する（1時間）。
	7	調査票の作成（2）	質問文への回答形式の設定、尺度構成	レジュメを読んで復習する（1時間）。 ■課題あり（予定）
	8	サンプリング（1）	全数調査と標本調査、サンプリングの諸技法	レジュメを読んで復習する（1時間）。
	9	サンプリング（2）	母集団と標本、ランダム・サンプリング	レジュメを読んで復習する（1時間）。 ■課題あり（予定）
	10	実査の方法	他記式調査と自記式調査	レジュメを読んで復習する（1時間）。
	11	実査	実査の手順、調査倫理	レジュメを読んで復習する（1時間）。
	12	データファイルの作成	エディティング、コーディング、データクリーニング	レジュメを読んで復習する（1時間）。 ■課題あり（予定）
	13	調査データの集計・分析（1）	1変数の分布と傾向：度数分布と記述統計	レジュメを読んで復習する（1時間）。
	14	調査データの集計・分析（2）	2変数の関連：クロス表、平均値の差、相関係数	レジュメを読んで復習する（1時間）。 ■課題あり（予定）
	15	調査結果の提示、総括	報告書の作成、論文・レポートの書き方、講義の振り返りとまとめ	授業全体を復習する（1時間）。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門・社会調査法（第2版）	轟亮・杉野勇編	法律文化社
	2	新・社会調査へのアプローチ―理論と方法	大谷信介ほか	ミネルヴァ書房
	3			

評価方法（基準）	課題への取り組み（20％）。 期末テスト（50％）。 期末レポート（30％）。
学生へのメッセージ	技法の習得・理解はもちろんですが、何を明らかにしたいのか、何のために調査するのかといった「問いの内容」がいっそう重要です。日ごろから新聞や雑誌に目を通すなどして、社会に対する関心を持つようにしてください。
担当者の研究室等	
備考	教員のメールアドレスは下記の通り。 motoki.nonomura@edu.setsunan.ac.jp

科目名	教養化学	科目名（英文）	Chemistry
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	竹内 健治
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1320a1		

授業概要・目的	化学はこの世界に存在するさまざまな物質を理解する科学です。はじめて化学を学ぶ人に対して、それぞれの物質がどのようにしてつくられ、どのような性質を示すのかなど、基本的な原理をできるだけ理論的にやさしく解説する。																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、身の回りの物質を新しい視点でとらえ、化学の考え方の本質を知ることができるようになることが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	授業日に確認小テストを開示します。授業日の 2 3 時 5 9 分までに解答し送信してください。新型コロナウイルス感染状況により遠隔授業 Teams/Moodle（教材・課題提供型授業）にて実施する場合がある。																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> <tr> <td>1</td><td>原子</td><td>この世界をかたちづくっている材料は原子です。</td><td>教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>元素と周期表</td><td>元素を整理して理解する。</td><td>教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>原子と原子のつながり</td><td>原子と原子のつながり方は、いくつかある。</td><td>教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>モルと化学反応式</td><td>化学反応を正しい化学反応式で記述する。</td><td>教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>濃度の表しかた</td><td>粉末試薬を水に溶かして目的濃度の水溶液を調整する。</td><td>教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>酸化と還元</td><td>酸化と還元を定義する。</td><td>教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>物質の性質と状態</td><td>気体、液体、個体における分子の状態の違い。</td><td>教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>気体の性質</td><td>気体における温度、圧力、体積の関係。</td><td>教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>化学反応と熱エネルギー</td><td>熱化学方程式を用いた化学反応と反応熱の関係。</td><td>教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>化学反応と化学平衡</td><td>化学反応はどのようなしくみで進むのか。</td><td>教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>水と溶液</td><td>「溶ける」とはどのような現象なのか。</td><td>教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>透析と浸透圧</td><td>浸透、透析、浸透圧について。</td><td>教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>放射線と放射能</td><td>放射線、放射能、ラジオアイソトープとは何か。</td><td>教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>酸および塩基と pH①</td><td>酸と塩基を定義する。</td><td>教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>酸および塩基と pH②</td><td>中和、中和滴定、緩衝作用につて。</td><td>教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）</td></tr> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	原子	この世界をかたちづくっている材料は原子です。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）	2	元素と周期表	元素を整理して理解する。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）	3	原子と原子のつながり	原子と原子のつながり方は、いくつかある。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）	4	モルと化学反応式	化学反応を正しい化学反応式で記述する。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）	5	濃度の表しかた	粉末試薬を水に溶かして目的濃度の水溶液を調整する。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）	6	酸化と還元	酸化と還元を定義する。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）	7	物質の性質と状態	気体、液体、個体における分子の状態の違い。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）	8	気体の性質	気体における温度、圧力、体積の関係。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）	9	化学反応と熱エネルギー	熱化学方程式を用いた化学反応と反応熱の関係。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）	10	化学反応と化学平衡	化学反応はどのようなしくみで進むのか。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）	11	水と溶液	「溶ける」とはどのような現象なのか。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）	12	透析と浸透圧	浸透、透析、浸透圧について。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）	13	放射線と放射能	放射線、放射能、ラジオアイソトープとは何か。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）	14	酸および塩基と pH①	酸と塩基を定義する。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）	15	酸および塩基と pH②	中和、中和滴定、緩衝作用につて。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	原子	この世界をかたちづくっている材料は原子です。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）																																																																
2	元素と周期表	元素を整理して理解する。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）																																																																
3	原子と原子のつながり	原子と原子のつながり方は、いくつかある。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）																																																																
4	モルと化学反応式	化学反応を正しい化学反応式で記述する。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）																																																																
5	濃度の表しかた	粉末試薬を水に溶かして目的濃度の水溶液を調整する。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）																																																																
6	酸化と還元	酸化と還元を定義する。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）																																																																
7	物質の性質と状態	気体、液体、個体における分子の状態の違い。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）																																																																
8	気体の性質	気体における温度、圧力、体積の関係。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）																																																																
9	化学反応と熱エネルギー	熱化学方程式を用いた化学反応と反応熱の関係。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）																																																																
10	化学反応と化学平衡	化学反応はどのようなしくみで進むのか。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）																																																																
11	水と溶液	「溶ける」とはどのような現象なのか。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）																																																																
12	透析と浸透圧	浸透、透析、浸透圧について。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）																																																																
13	放射線と放射能	放射線、放射能、ラジオアイソトープとは何か。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）																																																																
14	酸および塩基と pH①	酸と塩基を定義する。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）																																																																
15	酸および塩基と pH②	中和、中和滴定、緩衝作用につて。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（2 時間）																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td>はじめて学ぶ化学</td><td>野島高彦</td><td>化学同人</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	はじめて学ぶ化学	野島高彦	化学同人	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	はじめて学ぶ化学	野島高彦	化学同人																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	小テストおよび課題（4 0 %）、定期試験（6 0 %）により評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	質問は適宜受け付ける。Teams の質問用チャンネルを利用してください。																																																																		
担当者の研究室等	枚方学舎 1 号館 5 階生物系薬学分野生化学																																																																		
備考																																																																			

科目名	教養生物	科目名（英文）	Biology
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大塚 正人
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1321a1		

授業概要・目的	基礎となる生物そのものの理解を目指す。高校で生物を学んで来なかった学生も含めて、細胞、代謝、進化、系統、生態系等に関する基本的な知識を習得し、公務員試験の生物の範囲に対し、対応可能な生物学に関する基礎知識を得る。 国連の持続可能な開発目標 SDGs の 6 に対応する。
到達目標	この授業を通じて学生には、以下の目標を達成することが期待される。 1. 現代生物学における各分野の対象と目的に至るアプローチの方法を理解する。 2. 生物とは何か、生きているということはどういうことなのかについて科学的に説明できる。 3. 主体的に自ら学ぶ態度と手法を身につける。
授業方法と留意点	講義の主役は受講者である。教員は、受講者の学びを補助するファシリテーター役に徹する（質問には答えます）。 反転授業の形式で行うので、事前課題（60 分程度）をやってくることが前提である。 とにかく Moodle を多用する。スマホもしくはタブレットが必須の講義である。スマホを充電してから講義に臨むこと。スマホの通信制限や充電不足による講義への不参加は本人に原因があるものとして処理する。
科目学習の効果（資格）	公務員試験の生物の範囲に対し、対応可能な基礎知識を得る。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	はじめに 食べることと生きることとは？	授業ガイダンス・生物学の勉強の仕方、事前課題の進め方。生物の階層性・食べることと生きること・必要な栄養素・食べ物の運命とエネルギーの関係について。	講義前に教科書 12 ページからの「はじめに」の節を最期まで読んでおくこと。予習時間 0.5 時間。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
	2	ヒトのカラダとエネルギーの関係 ヒトはなぜ 1 日 3 度の食事をするのか？	3 度の食事とエネルギーの関係や、エネルギー通貨である ATP について。	講義前に教科書 16 ページからの第 1 章を最期まで読んでおくこと。 事前課題；：予め決められた教科書の範囲を B5 用紙 5 枚にまとめておくこと。予習時間 1 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた 講義アンケートを記入すること。事後課題んもふりかえりシートと、講義内容に関する課題をその日のうちに作成し、写メを撮り Moodle にて提出すること。 また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
	3	糖の種類と性質 甘いのに太らない？人工甘味料と砂糖の違い	身近な糖分・糖質・炭水化物、糖の種類、構造と性質、エネルギーになる単糖類などについて。	講義前に教科書 28 ページからの第 2 章を最期まで読んでおくこと。 事前課題；：予め決められた教科書の範囲を B5 用紙 5 枚にまとめておくこと。予習時間 1 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた 講義アンケートを記入すること。事後課題んもふりかえりシートと、講義内容に関する課題をその日のうちに作成し、写メを撮り Moodle にて提出すること。 また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
	4	糖からエネルギーを得るしくみ 持久系とパワー系はこれほど違う	運動の種類とエネルギーの消費、解糖系の概要、T C A 回路、電子伝達系、ATP の生成などについて。	講義前に教科書 40 ページからの第 3 章を最期まで読んでおくこと。 事前課題；：予め決められた教科書の範囲を B5 用紙 5 枚にまとめておくこと。予習時間 1 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた 講義アンケートを記入すること。事後課題んもふりかえりシートと、講義内容に関する課題をその日のうちに作成し、写メを撮り Moodle にて提出すること。 また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
	5	脂質の構造と性質 身体に良い「あぶら」と悪い「あぶら」は何が違うの？	脂質とは、脂肪酸の種類と性質、からだの中での脂肪酸の働き、トリグリセリド以外の脂質、コレステロールの合成と体内での働きなどについて。	講義前に教科書 56 ページからの第 4 章を最期まで読んでおくこと。 事前課題；：予め決められた教科書の範囲を B5 用紙 5 枚にまとめておくこと。予習時間 1 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた 講義アンケートを記入すること。事後課題んもふりかえりシートと、講義内容に関する課題をその日のうちに作成し、写メを撮り Moodle にて提出すること。 また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
	6	脂質の輸送と代謝 甘いものを食べるとなぜ太	体内をめぐる脂質、脂質の輸送、脂肪酸からエネルギーを取り出す、脂肪酸の合	講義前に教科書 70 ページからの第 5 章を最期まで読んでおくこと。

		る？	成などについて。	事前課題；；予め決められた教科書の範囲を B5 用紙 5 枚にまとめてくること。予習時間 1 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた 講義アンケートを記入すること。事後課題もふりかえりシートと、講義内容に関する課題をその日のうちに作成し、写メを撮り Moodle にて提出すること。 また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
	7	ビタミンとミネラルの働き サプリメントは体にいいの？	ビタミン発見の歴史、脂溶性ビタミンと水溶性ビタミン、体内でのビタミンの働き、ミネラルの働きなどについて。	講義前に教科書 84 ページからの第 6 章を最期まで読んでおくこと。事前課題；；予め決められた教科書の範囲を B5 用紙 5 枚にまとめてくること。予習時間 1 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた 講義アンケートを記入すること。事後課題もふりかえりシートと、講義内容に関する課題をその日のうちに作成し、写メを撮り Moodle にて提出すること。 また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
	8	第Ⅱ部 生命体をつくる情報と構造 細胞の構造と機能 昆布のダシは海の中で出ないの？	細胞の発見、構造、細胞内小器官、原核細胞と真核細胞、細胞周期などについて。	講義前に教科書 98 ページからのはじめにと教科書 100 ページからの第 7 章を最期まで読んでおくこと。 事前課題；；予め決められた教科書の範囲を B5 用紙 5 枚にまとめてくること。予習時間 1 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた 講義アンケートを記入すること。事後課題もふりかえりシートと、講義内容に関する課題をその日のうちに作成し、写メを撮り Moodle にて提出すること。 また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解
	9	DNA の構造と働き DNA、遺伝子、染色体はどう違うの？	遺伝物質の正体、DNA の二重らせん構造、DNA の複製と維持、DNA の塩基配列からアミノ酸配列へなどについて。	講義前に教科書 112 ページからの第 8 章を最期まで読んでおくこと。 事前課題；；予め決められた教科書の範囲を B5 用紙 5 枚にまとめてくること。予習時間 1 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた 講義アンケートを記入すること。事後課題もふりかえりシートと、講義内容に関する課題をその日のうちに作成し、写メを撮り Moodle にて提出すること。 また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
	10	DNA からタンパク質へ DNA は細胞の設計図ってどういう意味？	遺伝子のスイッチを制御する仕組み、RNA ポリメラーゼ、RNA の修飾、リボゾームによるタンパク質の合成などについて。	講義前に教科書 125 ページからの第 9 章を最期まで読んでおくこと。事前課題；；予め決められた教科書の範囲を B5 用紙 5 枚にまとめてくること。予習時間 1 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた 講義アンケートを記入すること。事後課題もふりかえりシートと、講義内容に関する課題をその日のうちに作成し、写メを撮り Moodle にて提出すること。 また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
	11	タンパク質のはたらき プロテインを飲むと筋肉が増える？	タンパク質は生まれた後目的の場所まで運ばれる、タンパク質は化学反応を触媒する、細胞内外のシグナルや物質を輸送するタンパク質たちなどについて。	講義前に教科書 138 ページからの事前課題；；予め決められた教科書の範囲を B5 用紙 5 枚にまとめてくること。予習時間 1 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた 講義アンケートを記入すること。事後課題もふりかえりシートと、講義内容に関する課題をその日のうちに作成し、写メを撮り Moodle にて提出すること。 また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。 予習し
	12	細胞内外の情報伝達 細胞はどうやってコミュニケーションしている？	細胞同士のコミュニケーション、細胞外の情報細胞内に伝える仕組み、タンパク質のリン酸化が伝える細胞内のシグナル、細胞膜の電位変化によるシグナル伝達などについて。	講義前に教科書 150 ページからの第 11 章を最期まで読んでおくこと。 事前課題；；予め決められた教科書の範囲を B5 用紙 5 枚にまとめてくること。予習時間 1 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた 講義アンケートを記入すること。事後課題もふりかえりシートと、講義内容に関する課題をその日のうちに作成し、写メを撮り Moodle にて提出すること。 また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。

	13	細胞分裂の仕組みと制御 私たちの体の細胞は分裂し 続けているの？	体細胞分裂と減数分裂、染色体の数と 形、体細胞分裂における染色体の構造変 化と分配機構、配偶子形成における減数 分裂などについて。	講義前に教科書 163 ページからの第 12 章を最期ま で読んでおくこと。 事前課題；：予め決められた教科書の範囲を B5 用 紙 5 枚にまとめてくること。予習時間 1 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小 テストを行う。講義後は Moodle を用いた 講義アン ケートを記入すること。事後課題もふりかえりシ ートと、講義内容に関する課題をその日のうちに作 成し、写メを撮り Moodle にて提出すること。 また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴するこ とにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。	
	14	発生と分化 1つの細胞から体ができあが る仕組み	受精卵から体ができあがる過程、細胞の 運命はいつ決まるのか、発生後期におけ る分化と器官形成、遺伝子による細胞の 運命決定などについて。	講義前に教科書 176 ページからのはじめにと教科書 178 ページからの第 13 章を最期まで読んでおくこ と。 事前課題；：予め決められた教科書の範囲を B5 用 紙 5 枚にまとめてくること。予習時間 1 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小 テストを行う。講義後は Moodle を用いた 講義アン ケートを記入すること。事後課題もふりかえりシ ートと、講義内容に関する課題をその日のうちに作 成し、写メを撮り Moodle にて提出すること。 また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴するこ とにより、さらに深い	
	15	細胞のストレス応答機構 細胞もストレスを感じる？	細胞にとってストレスとは、DNA の損傷 はがんを引き起こす、活性酸素による損 傷、DNA のキズを修復する仕組みなどに ついて。	講義前に教科書 191 ページからの第 14 章を最期ま で読んでおくこと。 事前課題；：予め決められた教科書の範囲を B5 用 紙 5 枚にまとめてくること。予習時間 1 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小 テストを行う。講義後は Moodle を用いた 講義アン ケートを記入すること。事後課題もふりかえりシ ートと、講義内容に関する課題をその日のうちに作 成し、写メを撮り Moodle にて提出すること。 また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴するこ とにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。	
関連科目					
教科書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	大学で学ぶ身近な生物学		吉村成弘	羊土社
	2				
	3				
参考書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	やさしい基礎生物学		南雲 保	羊土社
	2				
	3				
評価方法 (基準)	毎回の小テスト (30%) および、レポート、小論文、などの課題と講義態度 (30%)、定期試験 (40%) の総合点で評価する。 毎回の提出物も形成的評価として採用します。 Moodle を多用します。スマホもしくはタブレット必須の講義です。スマホを充電してから講義に臨んで下さい。				
学生への メッセージ	講義前の予習・講義課題と講義後の復習は不可欠です。講義課題をしてこない、授業が成り立たないようになっています。 必ず教科書を読んで、講義課題をしてから、講義に参加してください。 本講義では、生物がどのようなしくみで動いているのか、最新のトピックスなども織り交ぜ、その謎を分子レベルで共同学習します。 予習・復習を忘れずに、興味を持ってしっかりと理解するように努めて下さい。				
担当者の 研究室等	枚方学舎・薬学部 1 号館 5 階生命融合化学研究室 otsuka@pharm.setsunan.ac.jp				
備考	不明な点は質問してください。Teams で受け付けます。 提出された課題に対しては、Moodle でフィードバックします。				

科目名	自然地理学	科目名 (英文)	Physical Geography
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	谷口 晴彦
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1322a1		

授業概要・目的	地理学の1分野である自然地理学は、地形・気候・水・生物などの自然環境と人々の生活・人間社会がどのようなかかわりをもっているのか、その自然環境はどのように存在しているのかについて考える学問です。この授業では、自然地理学の基本的な考え方について、多様なテーマを取り上げて学習していきます。
到達目標	この授業を通じて学生には、自然環境と人間社会のかかわりについて考察することを通して、自然地理学の考え方・モノの見方を理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	資料を配布し、スライド(PPT)を用いて説明する講義です。 授業にはネット接続可能な端末(スマホ等)を持参してください。受講する皆さんには毎回、授業内容についての確認問題、質問や感想、小課題(短文回答)に回答してもらいます。これらを踏まえて次回授業時に質問への回答や補足説明をします。
科目学習の効果 (資格)	日常生活で見られる地形や自分の体験・ニュースで知る様々な気候・自然災害について、自然環境と私たち人間の関係から考えることができるようになります。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業ガイダンス・自然地理学とは何か	この授業のガイダンスとして、授業の概要や学問分野としての自然地理学について説明します。	配布資料・メモを読んで授業内容を復習する (2 時間)。
	2	地球の大地形と地質時代	地球のプレートや火山などの大地形、地質時代について学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく (2 時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する (2 時間)。
	3	地震・津波と自然災害	地震と津波の仕組みや、自然災害とは何か、自然災害と人の関係について考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく (2 時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する (2 時間)。
	4	地表の変化(1) 中地形・小地形	岩石の変化から始まる地表の変化、身近な地域の地形について学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく (2 時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する (2 時間)。
	5	地表の変化(2) 段丘・丘陵	段丘や丘陵の形成と人々の利用について考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく (2 時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する (2 時間)。
	6	地表の変化(3) 平野・海岸	平野と海岸の種類・形成・変化と人々のかかわりについて学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく (2 時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する (2 時間)。
	7	地図と地理情報(1)	様々な地図の種類と特徴、地図の定義を学び、自然環境と関係が深い地図を見ます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく (2 時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する (2 時間)。
	8	地図と地理情報(2)	地形図の特徴と凡例を学び、実際に新旧の地形図を読んで自然環境を読み取ります。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく (2 時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する (2 時間)。
	9	地球の水・水循環	地球の水の存在と水循環、水の分布、水資源について学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく (2 時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する (2 時間)。
	10	水利用と治水・水害と水不足	人はどのように水を利用・統制してきたか、水害や水不足について学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく (2 時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する (2 時間)。
	11	身近な水利と水不足	身近な地域で見られる水利と水不足を考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく (2 時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する (2 時間)。
	12	大気循環と世界の気候	地球規模の大気の循環や世界の気候について学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく (2 時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する (2 時間)。
	13	気候と文化・植生・生物群系	世界の気候と人間の生活文化の関係、世界の植生や生物群系 (バイオーム) について学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく (2 時間)。

				配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
	14	日本の気候・地域の気候	日本の気候、都市や地域で見られる様々な気候について学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
	15	気候変動と地球温暖化・授業の総括	地球の歴史の中で気候がどのように変わってきたのか、そして地球温暖化について学びます。最後に授業内容の総括を行います。	配布資料・メモを読んで授業全体の内容を復習し、レポートを作成する（6時間）。
関連科目	人文地理学・地誌学・環境関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	みわたす・つなげる 自然地理学	小野映介・吉田圭一郎編	古今書院
	2	地理学基礎シリーズ2 自然地理学概論	高橋日出男・小泉武栄編著	朝倉書店
	3	地形でとらえる環境と暮らし	西城潔・藤本潔・黒木貴一・小岩直人・楳原京子	古今書院
評価方法 （基準）	毎回の確認テスト：60%、期末レポート：40%			
学生への メッセージ	高校で「地理」を履修していなくとも理解できる内容で構成します。 自然地理学的な考え方・ものの見方を学修していき、身近にある様々な自然環境について自らで考えようとする姿勢を心がけていきましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	授業に関する質問や相談は、メールで対応します。メールアドレスは授業時にお知らせします。			

科目名	自然地理学	科目名 (英文)	Physical Geography
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	谷口 晴彦
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1322a1		

授業概要・目的	地理学の1分野である自然地理学は、地形・気候・水・生物などの自然環境と人々の生活・人間社会がどのようなかかわりをもっているのか、その自然環境はどのように存在しているのかについて考える学問です。この授業では、自然地理学の基本的な考え方について、多様なテーマを取り上げて学習していきます。
到達目標	この授業を通じて学生には、自然環境と人間社会のかかわりについて考察することを通して、自然地理学の考え方・モノの見方を理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	資料を配布し、スライド(PPT)を用いて説明する講義です。 授業にはネット接続可能な端末(スマホ等)を持参してください。受講する皆さんには毎回、授業内容についての確認問題、質問や感想、小課題(短文回答)に回答してもらいます。これらを踏まえて次回授業時に質問への回答や補足説明をします。
科目学習の効果 (資格)	日常生活で見られる地形や自分の体験・ニュースで知る様々な気候・自然災害について、自然環境と私たち人間の関係から考えることができるようになります。

授業計画				
	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業ガイダンス・自然地理学とは何か	この授業のガイダンスとして、授業の概要や学問分野としての自然地理学について説明します。	配布資料・メモを読んで授業内容を復習する (2 時間)。
	2	地球の大地形と地質時代	地球のプレートや火山などの大地形、地質時代について学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく (2 時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する (2 時間)。
	3	地震・津波と自然災害	地震と津波の仕組みや、自然災害とは何か、自然災害と人の関係について考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく (2 時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する (2 時間)。
	4	地表の変化(1) 中地形・小地形	岩石の変化から始まる地表の変化、身近な地域の地形について学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく (2 時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する (2 時間)。
	5	地表の変化(2) 段丘・丘陵	段丘や丘陵の形成と人々の利用について考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく (2 時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する (2 時間)。
	6	地表の変化(3) 平野・海岸	平野と海岸の種類・形成・変化と人々のかかわりについて学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく (2 時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する (2 時間)。
	7	地図と地理情報(1)	様々な地図の種類と特徴、地図の定義を学び、自然環境と関係が深い地図を見ます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく (2 時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する (2 時間)。
	8	地図と地理情報(2)	地形図の特徴と凡例を学び、実際に新旧の地形図を読んで自然環境を読み取ります。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく (2 時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する (2 時間)。
	9	地球の水・水循環	地球の水の存在と水循環、水の分布、水資源について学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく (2 時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する (2 時間)。
	10	水利用と治水・水害と水不足	人はどのように水を利用・統制してきたか、水害や水不足について学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく (2 時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する (2 時間)。
	11	身近な水利と水不足	身近な地域で見られる水利と水不足を考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく (2 時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する (2 時間)。
	12	大気循環と世界の気候	地球規模の大気の循環や世界の気候について学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく (2 時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する (2 時間)。
	13	気候と文化・植生・生物群系	世界の気候と人間の生活文化の関係、世界の植生や生物群系 (バイオーム) について学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく (2 時間)。

				配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
	14	日本の気候・地域の気候	日本の気候、都市や地域で見られる様々な気候について学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
	15	気候変動と地球温暖化・授業の総括	地球の歴史の中で気候がどのように変わってきたのか、そして地球温暖化について学びます。最後に授業内容の総括を行います。	配布資料・メモを読んで授業全体の内容を復習し、レポートを作成する（6時間）。
関連科目	人文地理学・地誌学・環境関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	みわたす・つなげる 自然地理学	小野映介・吉田圭一郎編	古今書院
	2	地理学基礎シリーズ2 自然地理学概論	高橋日出男・小泉武栄編著	朝倉書店
	3	地形でとらえる環境と暮らし	西城潔・藤本潔・黒木貴一・小岩直人・楮原京子	古今書院
評価方法 （基準）	毎回の確認テスト：60%、期末レポート：40%			
学生への メッセージ	高校で「地理」を履修していなくても理解できる内容で構成します。 自然地理学的な考え方・ものの見方を学修していき、身近にある様々な自然環境について自らで考えようとする姿勢を心がけていきましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	授業に関する質問や相談は、メールで対応します。メールアドレスは授業時にお知らせします。			

科目名	スポーツプログラミング	科目名 (英文)	Sports Programming
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊賀野 大
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH3362a1		

授業概要・目的	スポーツを実践するにあたり年齢や健康状態など様々な条件を有する対象者に対して安全かつ効果的な運動プログラムを提供することが必要とされる。本講義では、運動やスポーツとトレーニング効果を理解し、対象者に合わせた運動処方の理論と実際について学習する。																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には対象者に合わせたスポーツ実践のためのプログラムの作成及び実践指導を習得できるようになることが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	PPTを用いた講義及び対象者に合わせたプログラムを作成する。 プログラム作成時には講義資料が確認できるもの（ノートやスマートフォンなど）を各自忘れずに持参すること。																																																																		
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者資格取得対応科目																																																																		
授業計画	<table> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>・講義の評価方法などについて</td><td>シラバスの参照</td></tr> <tr> <td>2</td><td>トレーニングの基礎知識</td><td>・講義の内容を理解する上で必要な知識の確認</td><td>講義ノートを見直す（1 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>トレーニング指導者の役割</td><td>・トレーニング指導者とは ・国内のトレーニング指導者に対するニーズ ・トレーニング指導者の資質、能力</td><td>講義ノートを見直す（1 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>トレーニング計画の立案（総論）</td><td>・トレーニングとは ・トレーニングの原理原則</td><td>講義ノートを見直す（1 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>筋力トレーニングのプログラム作成①</td><td>・筋力トレーニングの効果 ・筋力トレーニングのプログラムの条件設定</td><td>講義ノートを見直す（1 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>筋力トレーニングのプログラム作成②</td><td>・筋力トレーニングのプログラム作成、提出、発表</td><td>講義ノートを見直す（1 時間） ※プログラム提出ができない人は後日提出可。減点の可能性あり。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>パワー向上トレーニングの理論とプログラム作成①</td><td>・パワーについて</td><td>講義ノートを見直す（1 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>パワー向上トレーニングの理論とプログラム作成②</td><td>・パワー向上トレーニングのプログラム作成、提出、発表</td><td>講義ノートを見直す（1 時間） ※プログラム提出ができない人は後日提出可。減点の可能性あり。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>持久力向上トレーニングの理論とプログラム作成①</td><td>・持久力について</td><td>講義ノートを見直す（1 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>持久力向上トレーニングの理論とプログラム作成②</td><td>・持久力向上トレーニングのプログラム作成、提出、発表</td><td>講義ノートの確認（1 時間） ※プログラム提出ができない人は後日提出可。減点の可能性あり。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>スピード向上トレーニングの理論とプログラム作成①</td><td>・スピードについて</td><td>講義ノートを見直す（1 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>スピード向上トレーニングの理論とプログラム作成②</td><td>・スピード向上トレーニングのプログラム作成、提出、発表</td><td>講義ノートを見直す（1 時間） ※プログラム提出ができない人は後日提出可。減点の可能性あり。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>柔軟性向上トレーニング及びウォームアップ、クールダウンの理論、プログラム作成</td><td>・柔軟性向上トレーニング及びウォームアップ、クールダウンの理論、プログラム作成、提出</td><td>講義ノートを見直す（1 時間） ※プログラム提出ができない人は後日提出可。減点の可能性あり。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>特別な対象のためのプログラム作成</td><td>・特別な対象のためのプログラム作成、提出</td><td>講義ノートを見直す（1 時間） ※プログラム提出ができない人は後日提出可。減点の可能性あり。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>傷害の受傷から復帰までのトレーニング</td><td>・プログラム作成、提出</td><td>講義ノートを見直す（1 時間） ※プログラム提出ができない人は後日提出可。減点の可能性あり。</td></tr> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	・講義の評価方法などについて	シラバスの参照	2	トレーニングの基礎知識	・講義の内容を理解する上で必要な知識の確認	講義ノートを見直す（1 時間）	3	トレーニング指導者の役割	・トレーニング指導者とは ・国内のトレーニング指導者に対するニーズ ・トレーニング指導者の資質、能力	講義ノートを見直す（1 時間）	4	トレーニング計画の立案（総論）	・トレーニングとは ・トレーニングの原理原則	講義ノートを見直す（1 時間）	5	筋力トレーニングのプログラム作成①	・筋力トレーニングの効果 ・筋力トレーニングのプログラムの条件設定	講義ノートを見直す（1 時間）	6	筋力トレーニングのプログラム作成②	・筋力トレーニングのプログラム作成、提出、発表	講義ノートを見直す（1 時間） ※プログラム提出ができない人は後日提出可。減点の可能性あり。	7	パワー向上トレーニングの理論とプログラム作成①	・パワーについて	講義ノートを見直す（1 時間）	8	パワー向上トレーニングの理論とプログラム作成②	・パワー向上トレーニングのプログラム作成、提出、発表	講義ノートを見直す（1 時間） ※プログラム提出ができない人は後日提出可。減点の可能性あり。	9	持久力向上トレーニングの理論とプログラム作成①	・持久力について	講義ノートを見直す（1 時間）	10	持久力向上トレーニングの理論とプログラム作成②	・持久力向上トレーニングのプログラム作成、提出、発表	講義ノートの確認（1 時間） ※プログラム提出ができない人は後日提出可。減点の可能性あり。	11	スピード向上トレーニングの理論とプログラム作成①	・スピードについて	講義ノートを見直す（1 時間）	12	スピード向上トレーニングの理論とプログラム作成②	・スピード向上トレーニングのプログラム作成、提出、発表	講義ノートを見直す（1 時間） ※プログラム提出ができない人は後日提出可。減点の可能性あり。	13	柔軟性向上トレーニング及びウォームアップ、クールダウンの理論、プログラム作成	・柔軟性向上トレーニング及びウォームアップ、クールダウンの理論、プログラム作成、提出	講義ノートを見直す（1 時間） ※プログラム提出ができない人は後日提出可。減点の可能性あり。	14	特別な対象のためのプログラム作成	・特別な対象のためのプログラム作成、提出	講義ノートを見直す（1 時間） ※プログラム提出ができない人は後日提出可。減点の可能性あり。	15	傷害の受傷から復帰までのトレーニング	・プログラム作成、提出	講義ノートを見直す（1 時間） ※プログラム提出ができない人は後日提出可。減点の可能性あり。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	・講義の評価方法などについて	シラバスの参照																																																																
2	トレーニングの基礎知識	・講義の内容を理解する上で必要な知識の確認	講義ノートを見直す（1 時間）																																																																
3	トレーニング指導者の役割	・トレーニング指導者とは ・国内のトレーニング指導者に対するニーズ ・トレーニング指導者の資質、能力	講義ノートを見直す（1 時間）																																																																
4	トレーニング計画の立案（総論）	・トレーニングとは ・トレーニングの原理原則	講義ノートを見直す（1 時間）																																																																
5	筋力トレーニングのプログラム作成①	・筋力トレーニングの効果 ・筋力トレーニングのプログラムの条件設定	講義ノートを見直す（1 時間）																																																																
6	筋力トレーニングのプログラム作成②	・筋力トレーニングのプログラム作成、提出、発表	講義ノートを見直す（1 時間） ※プログラム提出ができない人は後日提出可。減点の可能性あり。																																																																
7	パワー向上トレーニングの理論とプログラム作成①	・パワーについて	講義ノートを見直す（1 時間）																																																																
8	パワー向上トレーニングの理論とプログラム作成②	・パワー向上トレーニングのプログラム作成、提出、発表	講義ノートを見直す（1 時間） ※プログラム提出ができない人は後日提出可。減点の可能性あり。																																																																
9	持久力向上トレーニングの理論とプログラム作成①	・持久力について	講義ノートを見直す（1 時間）																																																																
10	持久力向上トレーニングの理論とプログラム作成②	・持久力向上トレーニングのプログラム作成、提出、発表	講義ノートの確認（1 時間） ※プログラム提出ができない人は後日提出可。減点の可能性あり。																																																																
11	スピード向上トレーニングの理論とプログラム作成①	・スピードについて	講義ノートを見直す（1 時間）																																																																
12	スピード向上トレーニングの理論とプログラム作成②	・スピード向上トレーニングのプログラム作成、提出、発表	講義ノートを見直す（1 時間） ※プログラム提出ができない人は後日提出可。減点の可能性あり。																																																																
13	柔軟性向上トレーニング及びウォームアップ、クールダウンの理論、プログラム作成	・柔軟性向上トレーニング及びウォームアップ、クールダウンの理論、プログラム作成、提出	講義ノートを見直す（1 時間） ※プログラム提出ができない人は後日提出可。減点の可能性あり。																																																																
14	特別な対象のためのプログラム作成	・特別な対象のためのプログラム作成、提出	講義ノートを見直す（1 時間） ※プログラム提出ができない人は後日提出可。減点の可能性あり。																																																																
15	傷害の受傷から復帰までのトレーニング	・プログラム作成、提出	講義ノートを見直す（1 時間） ※プログラム提出ができない人は後日提出可。減点の可能性あり。																																																																
関連科目	発育発達論 スポーツ医学の理論と実際 スポーツトレーニングの基礎 体力測定とスポーツ相談 フィットネストレーニングの理論と実際 など																																																																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td>担当者作成の資料</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当者作成の資料			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	担当者作成の資料																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td>公認スポーツプログラマー専門科目テキスト</td><td>日本体育施設協会</td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td>トレーニング指導者テキスト [理論編]</td><td>日本トレーニング協会</td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	公認スポーツプログラマー専門科目テキスト	日本体育施設協会		2	トレーニング指導者テキスト [理論編]	日本トレーニング協会		3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	公認スポーツプログラマー専門科目テキスト	日本体育施設協会																																																																	
2	トレーニング指導者テキスト [理論編]	日本トレーニング協会																																																																	
3																																																																			
評価方法（基準）	授業内提出物：70% 受講態度等：30% 合計点にて判断する																																																																		
学生へのメッセージ	受講学生各位の積極的な学びを期待する。																																																																		

担当者の 研究室等	総合体育館 1 階 非常勤講師室
備考	講義以外での課題は設定していませんが、授業内での課題はあります。

科目名	スポーツ栄養学	科目名（英文）	Sports Nutrition
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古野 幸子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH2358a1		

授業概要・目的	スポーツ栄養学とはスポーツや運動によって身体活動量が多い人に対して必要な栄養学的理論・知識・スキルを体系化したものである。スポーツ栄養を活用する対象者は、アスリートに限らず、健康増進を目的としたスポーツ愛好者や、スポーツや運動をすることによって活動量が多い人全般に広がる。正しい知識を科学的根拠に基づき理解し、自らの食事を評価し実践しながら、食生活を自己管理するための能力と実践力を身につけることを目的とする。 担当教員は管理栄養士・健康運動指導士の資格を有し実際の栄養指導業務に従事、高校・大学の運動部向けにアスリート食を開発、食環境づくりに携わってきた経験を活かし、実践的な栄養教育を行う。																																																																		
到達目標	スポーツ栄養学を正しく理解し、コンディショニングと競技力向上を目指した食事の実践方法を習得することができる。																																																																		
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。教科書は用いず適宜資料を配布する。 課題、小テストを課す。解答は授業内で行う。																																																																		
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者資格取得対応科目																																																																		
授業計画	<table> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> <tr> <td>1</td><td>ガイダンス</td><td>ガイダンス スポーツ栄養の意義と栄養摂取の基本的な考え方について説明する</td><td>事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと</td></tr> <tr> <td>2</td><td>基本の食事</td><td>スポーツにおける栄養の役割とバランスの良い食事構成について学ぶ</td><td>事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと</td></tr> <tr> <td>3</td><td>エネルギー</td><td>活動時のエネルギー必要量について学ぶ</td><td>事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと</td></tr> <tr> <td>4</td><td>五大栄養素（１）：糖質</td><td>糖質の役割と摂取量について学ぶ</td><td>事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと</td></tr> <tr> <td>5</td><td>五大栄養素（２）：脂質</td><td>脂質の役割と摂取量について学ぶ</td><td>事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと</td></tr> <tr> <td>6</td><td>五大栄養素（３）：たんぱく質</td><td>たんぱく質の役割と摂取量について学ぶ</td><td>事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと</td></tr> <tr> <td>7</td><td>五大栄養素（４）：ミネラル</td><td>ミネラルの役割と摂取量について学ぶ</td><td>事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと</td></tr> <tr> <td>8</td><td>五大栄養素（５）：ビタミン</td><td>ビタミンの役割と摂取量について学ぶ</td><td>事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと</td></tr> <tr> <td>9</td><td>水分補給</td><td>水分補給の重要性と補給方法について学ぶ</td><td>事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと</td></tr> <tr> <td>10</td><td>サプリメント</td><td>サプリメントについて学び摂取と注意点を理解する</td><td>事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと</td></tr> <tr> <td>11</td><td>ウエイトコントロール</td><td>ウエイトコントロールと食事について学ぶ</td><td>事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと</td></tr> <tr> <td>12</td><td>トレーニング期の栄養管理</td><td>トレーニング期の食生活について学ぶ</td><td>事前：授業の下調べをしておくこと（1 時間） 事後：授業内容を振り返り（1 時間）、課題に取り組むこと（2 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>試合期の栄養管理</td><td>試合期・遠征時の食生活について学ぶ</td><td>事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと</td></tr> <tr> <td>14</td><td>スポーツ時の栄養障害</td><td>障害別の予防と改善について学ぶ</td><td>事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ</td><td>全体のまとめを行う</td><td>事前：これまでの内容を振り返る 事後：学んだことを実践に移す</td></tr> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	ガイダンス スポーツ栄養の意義と栄養摂取の基本的な考え方について説明する	事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと	2	基本の食事	スポーツにおける栄養の役割とバランスの良い食事構成について学ぶ	事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと	3	エネルギー	活動時のエネルギー必要量について学ぶ	事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと	4	五大栄養素（１）：糖質	糖質の役割と摂取量について学ぶ	事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと	5	五大栄養素（２）：脂質	脂質の役割と摂取量について学ぶ	事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと	6	五大栄養素（３）：たんぱく質	たんぱく質の役割と摂取量について学ぶ	事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと	7	五大栄養素（４）：ミネラル	ミネラルの役割と摂取量について学ぶ	事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと	8	五大栄養素（５）：ビタミン	ビタミンの役割と摂取量について学ぶ	事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと	9	水分補給	水分補給の重要性と補給方法について学ぶ	事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと	10	サプリメント	サプリメントについて学び摂取と注意点を理解する	事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと	11	ウエイトコントロール	ウエイトコントロールと食事について学ぶ	事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと	12	トレーニング期の栄養管理	トレーニング期の食生活について学ぶ	事前：授業の下調べをしておくこと（1 時間） 事後：授業内容を振り返り（1 時間）、課題に取り組むこと（2 時間）	13	試合期の栄養管理	試合期・遠征時の食生活について学ぶ	事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと	14	スポーツ時の栄養障害	障害別の予防と改善について学ぶ	事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと	15	まとめ	全体のまとめを行う	事前：これまでの内容を振り返る 事後：学んだことを実践に移す
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	ガイダンス スポーツ栄養の意義と栄養摂取の基本的な考え方について説明する	事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと																																																																
2	基本の食事	スポーツにおける栄養の役割とバランスの良い食事構成について学ぶ	事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと																																																																
3	エネルギー	活動時のエネルギー必要量について学ぶ	事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと																																																																
4	五大栄養素（１）：糖質	糖質の役割と摂取量について学ぶ	事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと																																																																
5	五大栄養素（２）：脂質	脂質の役割と摂取量について学ぶ	事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと																																																																
6	五大栄養素（３）：たんぱく質	たんぱく質の役割と摂取量について学ぶ	事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと																																																																
7	五大栄養素（４）：ミネラル	ミネラルの役割と摂取量について学ぶ	事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと																																																																
8	五大栄養素（５）：ビタミン	ビタミンの役割と摂取量について学ぶ	事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと																																																																
9	水分補給	水分補給の重要性と補給方法について学ぶ	事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと																																																																
10	サプリメント	サプリメントについて学び摂取と注意点を理解する	事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと																																																																
11	ウエイトコントロール	ウエイトコントロールと食事について学ぶ	事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと																																																																
12	トレーニング期の栄養管理	トレーニング期の食生活について学ぶ	事前：授業の下調べをしておくこと（1 時間） 事後：授業内容を振り返り（1 時間）、課題に取り組むこと（2 時間）																																																																
13	試合期の栄養管理	試合期・遠征時の食生活について学ぶ	事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと																																																																
14	スポーツ時の栄養障害	障害別の予防と改善について学ぶ	事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと																																																																
15	まとめ	全体のまとめを行う	事前：これまでの内容を振り返る 事後：学んだことを実践に移す																																																																
関連科目	スポーツ医学の理論と実際、スポーツ医学の基礎、スポーツ科学概論																																																																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td>リファレンスブック</td><td></td><td>日本スポーツ協会</td></tr> <tr> <td>2</td><td>新版 コンディショニングのスポーツ栄養学</td><td>樋口 満</td><td>市村出版</td></tr> <tr> <td>3</td><td>理論と実践 スポーツ栄養学</td><td>鈴木 志保子</td><td>日本文芸社</td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	リファレンスブック		日本スポーツ協会	2	新版 コンディショニングのスポーツ栄養学	樋口 満	市村出版	3	理論と実践 スポーツ栄養学	鈴木 志保子	日本文芸社																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	リファレンスブック		日本スポーツ協会																																																																
2	新版 コンディショニングのスポーツ栄養学	樋口 満	市村出版																																																																
3	理論と実践 スポーツ栄養学	鈴木 志保子	日本文芸社																																																																
評価方法（基準）	毎回の提出物 70%、小テスト 30%																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等																																																																			
備考																																																																			

科目名	応用情報処理	科目名 (英文)	Advanced Information Processing
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	寺内 睦博
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JMA2341a1		

授業概要・目的	1 年次に習ったスプレッドシートを中心に、データ処理や統計処理などの実用的な応用課題に取り組み、データ分析のレベルアップを図る。
到達目標	この演習を通じて学生には、1 年次の情報処理の演習で培った技能や知識に加えて、ビジネス実務におけるデータ分析および統計処理の応用的活用手法を習得することが期待される。
授業方法と留意点	大学のパソコンを利用して課題を作成します。なお進捗度合いに応じて、講義内容は適宜変更する場合があります。
科目学習の効果 (資格)	Microsoft Office Expert (Excel) の基礎を学ぶことにより当該資格の取得をめざしましょう。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション：データ分析と統計処理 Excel によるデータ処理(0)	授業の進め方、評価方法、ミニ講義、基礎演習	予習：Excel 関数の確認 (30 分) 復習：課題の完成・提出 (60 分)
	2	Excel によるデータ処理(1)	データの集計処理とピボットテーブル	予習：ピボットテーブルの確認 (30 分) 復習：課題の完成・提出 (60 分)
	3	Excel によるデータ処理(2)	ピボットテーブルの利用 1 データの絞り込み 2 ダイス分析 3 スライス分析 4 グループ化分析 5 ドリルダウン・ドリルアップ	予習：ピボットテーブルを利用した分析手法の確認 (30 分) 復習：課題の完成・提出 (60 分)
	4	Excel によるデータ処理(3)	階層化による分析 構成比と ABC 分析 関数を使ったデータ処理	予習：ABC 分析の確認 (30 分) 復習：課題の完成・提出 (60 分)
	5	Excel によるデータ処理(4)	線形計画法の基本	予習：線形計画法の確認 (30 分) 復習：課題の完成・提出 (60 分)
	6	Excel によるデータ処理(5)	線形計画法の応用	予習：線形計画法の応用方法の確認 (30 分) 復習：課題の完成・提出 (60 分)
	7	Excel による統計処理(1)	度数分布とヒストグラム	予習：ヒストグラムの確認 (30 分) 復習：課題の完成・提出 (60 分)
	8	Excel による統計処理(2)	記述統計と Excel 関数	予習：記述統計 1 関数の確認 (30 分) 復習：課題の完成・提出 (60 分)
	9	Excel による統計処理(3)	2 変数の関係：散布図・相関係数	予習：相関の確認 (30 分) 復習：課題の完成・提出 (60 分)
	10	Excel による統計処理(4)	回帰分析	予習：回帰分析の確認 (30 分) 復習：課題の完成・提出 (60 分)
	11	Excel による統計処理(5)	ヒストグラムと確率分布 正規分布と累積確率	予習：正規分布の確認 (30 分) 復習：課題の完成・提出 (60 分)
	12	Excel による統計処理(6)	検定(1)： 平均値・分散の差の検定 (t 検定)	予習：t 検定の確認 (30 分) 復習：課題の完成・提出 (60 分)
	13	Excel による統計処理(7)	検定(2)： 独立性・適合度の検定 (カイ二乗検定)	予習：カイ 2 乗検定の確認 (30 分) 復習：課題の完成・提出 (60 分)
	14	Excel による統計処理(8)	分散分析： 3 つ以上の分布の比較	予習：分散分析の確認 (30 分) 復習：課題の完成・提出 (60 分)
	15	振り返りとまとめ	各自の到達レベルを確認するとともに授業の総括を行う	予習：各種の分析方法の確認 (30 分) 復習：課題の完成・提出 (60 分)

関連科目	情報リテラシーI, 情報リテラシーII
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	できる やさしく学ぶ Excel 統計入門	羽山博	インプレス
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	毎回の課題 (60%)、振り返りテスト (40%) を総合して評価する。この授業は演習中心であるため、課題提出が単位取得の必要条件である。
学生へのメッセージ	毎回の授業が前回までの授業内容の理解を前提として進められるので、毎回、課題を完了・提出が必要となることに留意すること。
担当者の研究室等	寺内准教授室 (1 1 号館 1 0 階)
備考	予習と復習を合わせて全期間で 60 時間の自習を必要とする。

科目名	スポーツ指導者入門	科目名 (英文)	Sports Theory for Instructor
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横山 喬之
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH1354a1		

授業概要・目的	スポーツ指導者とは、アスリートにとって多大な影響を与える存在である。指導者としての役割は、競技のコーチングだけにとどまらず、教育、人間形成など多岐にわたる能力を必要とする。また、昨今のスポーツ界で問題となっている体罰は、絶対に根絶すべき課題である。本科目では、スポーツ指導者として必要なスキルを身につけていくことと合わせて、指導者の倫理観とは何かを議論し、将来スポーツに関わるであろう履修学生が、良きスポーツ指導者になるための基礎を学習・理解できることを目標とする。 本科目担当者は、保健体育（高校）、柔道実技（大学）、柔道指導（国内外）の実務経験を有する。高校における実技・保健授業や課外活動などのスポーツ現場での指導経験を生かし、スポーツ指導者として必要な知識や指導法を提供する。																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、 ①：スポーツ指導者としての基礎を学び、指導者としての心得を理解すること ②：講義内での議論を通じ指導者目線の知識を深めること ③：コミュニケーション能力を高めること 上記のようになることが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	授業は「対面方式」で行う。																																																																		
科目学習の効果（資格）	スポーツ指導者の基礎的知識と指導法を学ぶ（公認スポーツ指導者資格取得対応科目）																																																																		
授業計画	<table> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> <tr> <td>1</td><td>ガイダンス</td><td>ガイダンス</td><td>事前：授業概要・目的を確認する（30分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30分）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>スポーツとは コーチングとは</td><td>スポーツとは何かを学ぶ コーチングとは何かを学ぶ コーチングとティーチングの違いについて理解する</td><td>事前：スポーツ、コーチングについて予習しておく（30分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30分）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>コーチに求められる役割 (1)</td><td>スポーツ指導者について学ぶ スポーツ指導者としての心構えについて学ぶ</td><td>事前：スポーツ指導者とはどのようなものを予習しておく（30分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30分）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>コーチに求められる役割 (2)</td><td>スポーツ指導者の果たすべき役割について学ぶ スポーツ現場の安全管理について学ぶ</td><td>事前：スポーツ指導者として行う内容とは何かを予習しておく（30分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30分）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>コーチに求められる知識とスキル (1)</td><td>生理・体力学的基礎知識を学ぶ</td><td>事前：運動と筋肉の発達、体力について予習しておく（30分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30分）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>コーチに求められる知識とスキル (2)</td><td>心理学的基礎知識を学ぶ</td><td>事前：パフォーマンスとメンタルの関係について予習しておく（30分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30分）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>対他者力を磨こう</td><td>コミュニケーションスキルとは何かを学ぶ 議論を行いコミュニケーションスキルを高める</td><td>事前：コミュニケーションスキルについて予習しておく（30分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30分）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>対自己力を磨こう</td><td>自分自身について理解する 自信とは何かを学ぶ</td><td>事前：自分自身はどのような人間かまとめておく（30分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30分）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>スポーツ倫理について (1)</td><td>倫理観について学ぶ スポーツ倫理について学ぶ</td><td>事前：倫理とは何か予習しておく（30分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30分）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>スポーツ倫理について (2)</td><td>体罰、暴力、ハラスメントとは何かについて学ぶ 実際の体罰などの社会問題について議論する</td><td>事前：過去の体罰問題について予習しておく（30分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30分）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>スポーツ倫理について (3)</td><td>スポーツに内在するインテグリティについて学ぶ</td><td>事前：スポーツから得られるものとは何か予習しておく（30分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30分）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>時代をリードするコーチング (1)</td><td>女性コーチについて学ぶ</td><td>事前：著名な女性コーチの種目と使命について予習しておく（30分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30分）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>時代をリードするコーチング (2)</td><td>活躍しているコーチについて学ぶ</td><td>事前：日本で活躍しているコーチについて予習しておく（30分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30分）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>ハイパフォーマンススポーツにおける今日のコーチング</td><td>日本におけるハイパフォーマンススポーツについて学ぶ</td><td>事前：NTC という施設について予習しておく（30分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30分）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>スポーツ指導者入門総括</td><td>全体のまとめを行う</td><td>事前：これまでの内容を振り返る（30分） 事後：総括を行う（30分）</td></tr> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	ガイダンス	事前：授業概要・目的を確認する（30分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30分）	2	スポーツとは コーチングとは	スポーツとは何かを学ぶ コーチングとは何かを学ぶ コーチングとティーチングの違いについて理解する	事前：スポーツ、コーチングについて予習しておく（30分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30分）	3	コーチに求められる役割 (1)	スポーツ指導者について学ぶ スポーツ指導者としての心構えについて学ぶ	事前：スポーツ指導者とはどのようなものを予習しておく（30分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30分）	4	コーチに求められる役割 (2)	スポーツ指導者の果たすべき役割について学ぶ スポーツ現場の安全管理について学ぶ	事前：スポーツ指導者として行う内容とは何かを予習しておく（30分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30分）	5	コーチに求められる知識とスキル (1)	生理・体力学的基礎知識を学ぶ	事前：運動と筋肉の発達、体力について予習しておく（30分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30分）	6	コーチに求められる知識とスキル (2)	心理学的基礎知識を学ぶ	事前：パフォーマンスとメンタルの関係について予習しておく（30分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30分）	7	対他者力を磨こう	コミュニケーションスキルとは何かを学ぶ 議論を行いコミュニケーションスキルを高める	事前：コミュニケーションスキルについて予習しておく（30分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30分）	8	対自己力を磨こう	自分自身について理解する 自信とは何かを学ぶ	事前：自分自身はどのような人間かまとめておく（30分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30分）	9	スポーツ倫理について (1)	倫理観について学ぶ スポーツ倫理について学ぶ	事前：倫理とは何か予習しておく（30分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30分）	10	スポーツ倫理について (2)	体罰、暴力、ハラスメントとは何かについて学ぶ 実際の体罰などの社会問題について議論する	事前：過去の体罰問題について予習しておく（30分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30分）	11	スポーツ倫理について (3)	スポーツに内在するインテグリティについて学ぶ	事前：スポーツから得られるものとは何か予習しておく（30分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30分）	12	時代をリードするコーチング (1)	女性コーチについて学ぶ	事前：著名な女性コーチの種目と使命について予習しておく（30分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30分）	13	時代をリードするコーチング (2)	活躍しているコーチについて学ぶ	事前：日本で活躍しているコーチについて予習しておく（30分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30分）	14	ハイパフォーマンススポーツにおける今日のコーチング	日本におけるハイパフォーマンススポーツについて学ぶ	事前：NTC という施設について予習しておく（30分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30分）	15	スポーツ指導者入門総括	全体のまとめを行う	事前：これまでの内容を振り返る（30分） 事後：総括を行う（30分）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	ガイダンス	事前：授業概要・目的を確認する（30分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30分）																																																																
2	スポーツとは コーチングとは	スポーツとは何かを学ぶ コーチングとは何かを学ぶ コーチングとティーチングの違いについて理解する	事前：スポーツ、コーチングについて予習しておく（30分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30分）																																																																
3	コーチに求められる役割 (1)	スポーツ指導者について学ぶ スポーツ指導者としての心構えについて学ぶ	事前：スポーツ指導者とはどのようなものを予習しておく（30分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30分）																																																																
4	コーチに求められる役割 (2)	スポーツ指導者の果たすべき役割について学ぶ スポーツ現場の安全管理について学ぶ	事前：スポーツ指導者として行う内容とは何かを予習しておく（30分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30分）																																																																
5	コーチに求められる知識とスキル (1)	生理・体力学的基礎知識を学ぶ	事前：運動と筋肉の発達、体力について予習しておく（30分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30分）																																																																
6	コーチに求められる知識とスキル (2)	心理学的基礎知識を学ぶ	事前：パフォーマンスとメンタルの関係について予習しておく（30分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30分）																																																																
7	対他者力を磨こう	コミュニケーションスキルとは何かを学ぶ 議論を行いコミュニケーションスキルを高める	事前：コミュニケーションスキルについて予習しておく（30分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30分）																																																																
8	対自己力を磨こう	自分自身について理解する 自信とは何かを学ぶ	事前：自分自身はどのような人間かまとめておく（30分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30分）																																																																
9	スポーツ倫理について (1)	倫理観について学ぶ スポーツ倫理について学ぶ	事前：倫理とは何か予習しておく（30分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30分）																																																																
10	スポーツ倫理について (2)	体罰、暴力、ハラスメントとは何かについて学ぶ 実際の体罰などの社会問題について議論する	事前：過去の体罰問題について予習しておく（30分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30分）																																																																
11	スポーツ倫理について (3)	スポーツに内在するインテグリティについて学ぶ	事前：スポーツから得られるものとは何か予習しておく（30分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30分）																																																																
12	時代をリードするコーチング (1)	女性コーチについて学ぶ	事前：著名な女性コーチの種目と使命について予習しておく（30分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30分）																																																																
13	時代をリードするコーチング (2)	活躍しているコーチについて学ぶ	事前：日本で活躍しているコーチについて予習しておく（30分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30分）																																																																
14	ハイパフォーマンススポーツにおける今日のコーチング	日本におけるハイパフォーマンススポーツについて学ぶ	事前：NTC という施設について予習しておく（30分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30分）																																																																
15	スポーツ指導者入門総括	全体のまとめを行う	事前：これまでの内容を振り返る（30分） 事後：総括を行う（30分）																																																																
関連科目	スポーツ科学実習Ⅰa、Ⅰb・Ⅱa、Ⅱb、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際																																																																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td>リファレンスブック</td><td></td><td>日本スポーツ協会</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	リファレンスブック		日本スポーツ協会	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	リファレンスブック		日本スポーツ協会																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書																																																																			

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	①：出席率８０％を超えている受講者を単位認定の対象者とする。 ②：以下の課題に対して、各割合の通り評価する。 ・スポーツ指導者の基礎・オリンピズムに関する知識：１５％ ・ドーピング・違法薬物に関する知識：１０％ ・生理学・体力学・栄養学に関する知識：３５％ ・トレーニングの原理原則に関する知識：２０％ ・応急処置の知識：２０％ ①を充した上で、②の合計１００％のうち、６０％以上を取得できた受講生が単位認定となる。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	総合体育館１階			
備考				

科目名	スポーツトレーニングの基礎	科目名 (英文)	Sports Training Theory
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	伊賀野 大
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH1355a1		

授業概要・目的	スポーツトレーニングの原理・原則に基づいた指導法及び、トレーニングメニューの作成について学ぶ。 また、コーチングにおける心理的作用を理解し、スポーツトレーニング指導を実践する上での基礎を習得する。
到達目標	この授業を通じて学生には、スポーツ指導に役立つトレーニングの基礎的知識についての身体的、心理的理解を深めることが期待される。
授業方法と留意点	講義を中心に授業を行い、レジュメ、参考資料等は適宜配布します。 適宜授業中に簡単な小テストを行います。
科目学習の効果 (資格)	公認スポーツ指導者資格取得対応科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・評価方法の確認など	・授業ノートを確認すること
	2	体力とは トレーニングの原理・原則	・運動と健康、防衛体力と行動体力 ・スポーツトレーニングの3原理、5原則	・授業ノートを確認すること
	3	筋機能	・筋肉の種類と収縮様式 ・エネルギー系について	・授業ノートを確認すること
	4	トレーニングの種類と方法 ①	・筋力トレーニング ・筋持久力トレーニング ・全身持久力トレーニング ・パワートレーニング ・スピードトレーニング	・授業ノートを確認すること
	5	トレーニングの種類と方法 ②	・筋力トレーニング ・筋持久力トレーニング ・全身持久力トレーニング ・パワートレーニング ・スピードトレーニング	・授業ノートを確認すること
	6	心理とコーチングについて	・内発的動機づけと外発的動機づけについて ・目標設定について ・コーチング方法について	・授業ノートを確認すること
	7	女性アスリートについて	・女性アスリートが抱える問題について	・授業ノートを確認すること
	8	発育発達について 高齢者運動指導について	・成長過程におけるトレーニングについて ・高齢者運動指導に必要なことについて	・授業ノートを確認すること
	9	救急処置について ウォーミングアップとクールダウンについて	・救急処置の方法の確認 ・ウォーミングアップとクールダウンの必要性について	・授業ノートを確認すること
	10	運動と栄養について	・五大栄養素の確認 ・競技力向上と栄養 ・女性選手に対する配慮	・授業ノートを確認すること
	11	運動指導の事例について①	・運動指導の事例を分析する	・授業ノートを確認すること
	12	運動指導の事例について②	・運動指導の事例を分析する	・授業ノートを確認すること
	13	運動指導の事例について③	・運動指導の事例を分析する	・授業ノートを確認すること
	14	まとめ①	・講義内容を振り返る	・授業ノートを確認すること
	15	まとめ②	・講義内容を振り返る	・授業ノートを確認すること

関連科目	スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ医学の理論と実際
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	リファレンスブック		公益財団法人日本スポーツ協会
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	期末試験：50% 受講態度等：50% 合計点にて単位判定を行う。
-----------	--

学生へのメッセージ	科学的に運動を考えていきましょう。さまざまな運動や競技についての理解を深め、広い視野で運動を楽しむように学んでいきましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	総合体育館1階 非常勤講師室
----------	----------------

備考	事前・事後学習に必要な時間については、30時間を目安とします。
----	---------------------------------

科目名	発育発達論	科目名 (英文)	Growth and Development Theory
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊賀野 大
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH2356a1		

授業概要・目的	身体 の 発 育 と 機 能 の 発 達 を 理 解 し 年 齢 や 性 別 な ど 対 象 に 合 わ せ た 指 導 を 行 う こ と は 大 切 で あ る 。 具 体 的 に は 発 育 発 達 期 の 身 体 的 ・ 心 理 的 特 徴 を 理 解 し、 それ ぞ れ の ラ イ フ ス テ ー ジ に 応 じ た 発 育 発 達 に 及 ぼ す 運 動 の 影 響 や 心 理 的 特 性 に つ い て 学 習 す る。
到達目標	この授業を通じて学生には発育発達期のスポーツ指導に役立つ基礎的知識の習得が期待される。
授業方法と留意点	集中講義です。講義は1～3限で ①4月27日 ②6月8日 ③6月22日 ④7月6日 ⑤7月20日 を予定しております。 出席による単位判定は規定に則って行います。 事情があって休む場合はTeams で事前にお知らせください。
科目学習の 効果 (資格)	公認スポーツ指導者資格取得対応科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション		シラバスの参照
	2	総論①	・ 発達の段階と発育急速期 ・ 身長 の 発 育 ・ スキャモンの発育曲線 ・ 身体各部位の発育の比較 ・ 性差 ・ 老化	
	3	総論②	・ レポート作成	講義ノートを見直す (1 時間)
	4	発育史の作成①	・ 発育史の作成	
	5	発育史の作成②	・ 発育史の作成	
	6	発育史の作成③	・ 発育史の発表	講義ノートを見直す (1 時間)
	7	個体の発生及び形態発育の経過①	・ 精子と卵子の形成 ・ 胎生期間 ・ 胎児の循環 ・ 形態発育	
	8	個体の発生及び形態発育の経過②	・ 精子と卵子の形成 ・ 胎生期間 ・ 胎児の循環 ・ 形態発育	
	9	個体の発生及び形態発育の経過③	・ レポート作成	講義ノートを見直す (1 時間)
	10	機能発達の経過①	・ 筋肉の構造と機能 ・ 筋肉の発達 ・ 神経の発達 ・ 感覚の発達 ・ 呼吸循環器系の発達 ・ 内分泌系の発達	
	11	機能発達の経過②	・ 筋肉の構造と機能 ・ 筋肉の発達 ・ 神経の発達 ・ 感覚の発達 ・ 呼吸循環器系の発達 ・ 内分泌系の発達	
	12	機能発達の経過③	・ レポート作成	講義ノートを見直す (1 時間)
	13	運動能力の発達の経過①	・ 移動運動 ・ 歩行 ・ 走投跳 ・ 運動の至適年齢 ・ 女性の運動能力	
	14	運動能力の発達の経過②	・ 移動運動 ・ 歩行 ・ 走投跳 ・ 運動の至適年齢 ・ 女性の運動能力	
	15	運動能力の発達の経過③	・ レポート作成	講義ノートを見直す (1 時間)

関連科目	スポーツ科学概論 スポーツ指導者入門 ヘルスエクササイズ の 理 論 と 実 際 発育発達論 スポーツプログラミング スポーツ医学の理論と実際 スポーツトレーニングの基礎 体力測定とスポーツ相談 フィットネストレーニングの理論と実際 など
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	リファレンスブック		日本スポーツ協会
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	レポート：70% 受講態度等：30% 合計点にて判断する			
学生への メッセージ	受講学生各位の積極的な学びを期待する。 欠席時は早めに連絡すること。			
担当者の 研究室等	総合体育館1階 非常勤講師室			
備考				

科目名	スポーツ医学の基礎	科目名（英文）	Fundamental Knowledge of Sports Medicine
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鈴木 雄太
ディプロマポリシー（DP）	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH2359a1		

授業概要・目的	スポーツ・運動と健康の関わり、および、スポーツ・運動による身体の変化と疾病への影響について、さらに、スポーツ外傷・障害の概要とその対応について述べ、予防医学としてのスポーツ医学の意義についても言及する。
到達目標	スポーツ・運動と健康の関わり、および、スポーツ・運動による身体の変化と疾病への影響について説明できること、さらに、スポーツ外傷・障害の概要とその対応について説明できることを目標とする。また、自身とその周りの人々について、運動を通じた健康づくりが実践できるようにする。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。なお、資料配布やV T Rなどを用い、教育効果を上げる。
科目学習の効果（資格）	スポーツ医学の基礎的知識とスポーツ傷害（内科的・外科的）についての理解と対処法について学ぶ。（公認スポーツ指導者資格取得対応科目）

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	スポーツと健康（1）	スポーツ活動と健康の関わり	テキスト P. 54-63 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと（約 1.5 時間）
	2	スポーツと健康（2）	身体活動（スポーツ活動や運動）の必要性	テキスト P. 64-75 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと（約 1.5 時間）
	3	スポーツ傷害（1）	スポーツ外傷・障害	テキスト P. 76-82 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと（約 1.5 時間）
	4	スポーツ傷害（2）	スポーツ外傷・障害の要因	テキスト P. 83-87 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと（約 1.5 時間）
	5	救急処置（1）	手当ての基本（観察）	テキスト P. 88-88 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと（約 1.5 時間）
	6	救急処置（2）	救命手当て（心肺蘇生法）	テキスト P. 89-95 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと（約 1.5 時間）
	7	救急処置（3）	A E Dを用いた心肺蘇生法	テキスト P. 96-97 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと（約 1.5 時間）
	8	救急処置（4）	応急手当（きずと止血、包帯法、骨折固定）	テキスト P. 102 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと（約 1.5 時間）
	9	救急処置（5）	R I C E 処置	テキスト P. 98-101 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと（約 1.5 時間）
	10	スポーツと水分補給	水分補給と熱中症	テキスト P. 111-112 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと（約 1.5 時間）
	11	スポーツと水分補給	水分補給と熱中症	テキスト P. 112 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと（約 1.5 時間）
	12	スポーツと栄養（1）	五大栄養素の役割	テキスト P. 104-108 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと（約 1.5 時間）
	13	スポーツと栄養（2）	栄養とトレーニング、コンディショニング	テキスト P. 109-112 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと（約 1.5 時間）
	14	ドーピング	ドーピングの定義、概要	資料 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと（約 1.5 時間）
	15	まとめ	授業の全体のまとめ	資料 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと（約 1.5 時間）

関連科目	スポーツ医学の理論と実際
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	リファレンスブック		日本スポーツ協会
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	期末試験（60％）、授業中に実施する課題の提出状況およびその内容（40％）によって評価する。
----------	--

学生への メッセージ	運動・スポーツと健康に関する身近な話題から、競技力向上のための最新スポーツ科学に関する授業です。毎回、簡単な実習、測定、調査などを行いながら、主体的な学習を通して理解を深めていきます。
担当者の 研究室等	総合体育館 1 階 非常勤講師室
備考	

科目名	スポーツ教育学	科目名 (英文)	Sports Education
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	近藤 潤
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH3361a1		

授業概要・目的	スポーツはさまざまな教育効果をもたらすが、その反面、体罰の問題など社会問題も多数発生している。またスポーツプレーヤーの言動や行動がインターネットやメディアに大きく取り上げられることも多い。本講義では、スポーツがもたらす様々な教育効果や情報が社会に与える功罪について考え、社会人として必要な基礎知識を学習することを目的とする。																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、①スポーツに関わる道徳問題を理解し、②スポーツがもたらす教育効果を理解できるようになることを期待する。																																																																		
授業方法と留意点	授業は講義形式で行います。 資料配布は Microsoft Teams を利用してオンラインで行います。チームコードは授業時に連絡します。 授業時はプレゼンテーション、ディスカッションを取り入れ、テーマについてより深い考察を行います。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	スポーツの社会における功罪を知り、社会人としての基礎知識を習得できる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>基礎教育 (1)</td><td>スポーツ教育学とは何か考える。 スポーツに期待される人間形成について学ぶ。</td><td>新聞記事の社会欄、スポーツ欄を読む。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>基礎教育 (2)</td><td>プロフィール・自己アピールのプレゼンテーション</td><td>自己紹介文を作成する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>スポーツと人格 (1)</td><td>スポーツ選手に求められる人格</td><td>配布プリントの読み返し (1 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>スポーツと人格 (2)</td><td>スポーツ選手と犯罪について考える。</td><td>配布プリントの読み返し (1 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>スポーツと教育 (3)</td><td>スポーツ選手のセカンドキャリアについて学ぶ。</td><td>配布プリントの読み返し (1 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>スポーツと教育 (4)</td><td>プロスポーツとアマチュアリズム</td><td>配布プリントの読み返し (1 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>スポーツと教育 (5)</td><td>薬物問題とドーピング ディスカッション</td><td>配布プリントの読み返し (1 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>スポーツと学校教育 (1)</td><td>体罰問題①</td><td>配布プリントの読み返し (1 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>スポーツと学校教育 (2)</td><td>体罰問題② ディスカッション</td><td>配布プリントの読み返し (1 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>スポーツと学校教育 (3)</td><td>スポーツ特待生について</td><td>配布プリントの読み返し (1 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>スポーツの功罪 (1)</td><td>ジュニア期のスポーツ</td><td>配布プリントの読み返し (1 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>スポーツの功罪 (2)</td><td>燃え尽き症候群について考える。 ディスカッション</td><td>配布プリントの読み返し (1 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>障がい者とスポーツ (1)</td><td>パラリンピック</td><td>配布プリントの読み返し (1 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>障がい者とスポーツ (2)</td><td>レクリエーションからチャンピオンスポーツへ</td><td>配布プリントの読み返し (1 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>障がい者とスポーツ (3)</td><td>障がい者スポーツの問題点</td><td>配布プリントの読み返し (1 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	基礎教育 (1)	スポーツ教育学とは何か考える。 スポーツに期待される人間形成について学ぶ。	新聞記事の社会欄、スポーツ欄を読む。(1 時間)	2	基礎教育 (2)	プロフィール・自己アピールのプレゼンテーション	自己紹介文を作成する。(1 時間)	3	スポーツと人格 (1)	スポーツ選手に求められる人格	配布プリントの読み返し (1 時間)	4	スポーツと人格 (2)	スポーツ選手と犯罪について考える。	配布プリントの読み返し (1 時間)	5	スポーツと教育 (3)	スポーツ選手のセカンドキャリアについて学ぶ。	配布プリントの読み返し (1 時間)	6	スポーツと教育 (4)	プロスポーツとアマチュアリズム	配布プリントの読み返し (1 時間)	7	スポーツと教育 (5)	薬物問題とドーピング ディスカッション	配布プリントの読み返し (1 時間)	8	スポーツと学校教育 (1)	体罰問題①	配布プリントの読み返し (1 時間)	9	スポーツと学校教育 (2)	体罰問題② ディスカッション	配布プリントの読み返し (1 時間)	10	スポーツと学校教育 (3)	スポーツ特待生について	配布プリントの読み返し (1 時間)	11	スポーツの功罪 (1)	ジュニア期のスポーツ	配布プリントの読み返し (1 時間)	12	スポーツの功罪 (2)	燃え尽き症候群について考える。 ディスカッション	配布プリントの読み返し (1 時間)	13	障がい者とスポーツ (1)	パラリンピック	配布プリントの読み返し (1 時間)	14	障がい者とスポーツ (2)	レクリエーションからチャンピオンスポーツへ	配布プリントの読み返し (1 時間)	15	障がい者とスポーツ (3)	障がい者スポーツの問題点	配布プリントの読み返し (1 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	基礎教育 (1)	スポーツ教育学とは何か考える。 スポーツに期待される人間形成について学ぶ。	新聞記事の社会欄、スポーツ欄を読む。(1 時間)																																																																
2	基礎教育 (2)	プロフィール・自己アピールのプレゼンテーション	自己紹介文を作成する。(1 時間)																																																																
3	スポーツと人格 (1)	スポーツ選手に求められる人格	配布プリントの読み返し (1 時間)																																																																
4	スポーツと人格 (2)	スポーツ選手と犯罪について考える。	配布プリントの読み返し (1 時間)																																																																
5	スポーツと教育 (3)	スポーツ選手のセカンドキャリアについて学ぶ。	配布プリントの読み返し (1 時間)																																																																
6	スポーツと教育 (4)	プロスポーツとアマチュアリズム	配布プリントの読み返し (1 時間)																																																																
7	スポーツと教育 (5)	薬物問題とドーピング ディスカッション	配布プリントの読み返し (1 時間)																																																																
8	スポーツと学校教育 (1)	体罰問題①	配布プリントの読み返し (1 時間)																																																																
9	スポーツと学校教育 (2)	体罰問題② ディスカッション	配布プリントの読み返し (1 時間)																																																																
10	スポーツと学校教育 (3)	スポーツ特待生について	配布プリントの読み返し (1 時間)																																																																
11	スポーツの功罪 (1)	ジュニア期のスポーツ	配布プリントの読み返し (1 時間)																																																																
12	スポーツの功罪 (2)	燃え尽き症候群について考える。 ディスカッション	配布プリントの読み返し (1 時間)																																																																
13	障がい者とスポーツ (1)	パラリンピック	配布プリントの読み返し (1 時間)																																																																
14	障がい者とスポーツ (2)	レクリエーションからチャンピオンスポーツへ	配布プリントの読み返し (1 時間)																																																																
15	障がい者とスポーツ (3)	障がい者スポーツの問題点	配布プリントの読み返し (1 時間)																																																																
関連科目	スポーツ科学実習Ⅰa、Ⅰb、Ⅱa、Ⅱb、スポーツ科学概論、スポーツ文化論、スポーツ指導者入門、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツトレーニングの基礎、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ医学の理論と実際																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	平常点と課題レポート、プレゼンを総合して評価する。 平常点 60%、課題レポート 20%、プレゼン 20% 課題レポートは評価の上返却する。 グループによるディスカッションの後、内容をプレゼンし評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	学生諸君はこちらが与える教材だけでなくさまざまな資料を集め、より深い内容にしてください。																																																																		
担当者の研究室等	総合体育館 1 階																																																																		
備考																																																																			

科目名	時事英語 I	科目名 (英文)	Journal English I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	村田 幸一
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	JEN2331c1		

授業概要・目的	この講義では最新ニュースを編集したものを取り扱う。それにより、英語でニュースを理解し、テーマに対し様々な意見や問いを立てることを目的とする。また思考法についても取り扱いたい。英語でのコミュニケーション、特に話すことは、様々なテーマに対してアイデアを出し、問いを提起し、その内容を深めることにつながるからである。また、最近の生成 AI の普及により、これらの活動がより容易になった。講義でもそれら使用したペアやグループワークを行う。
到達目標	(1) ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。 (2) 前期は CEFR-J [A1. 3]、後期は CEFR-J [B1. 1] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	新聞の記事を読み、内容確認問題に取り組んでもらう。その後 テーマを 1 つ取り上げ、それについて思考法を通じアイデア出し、調べ学習、ペアワーク や グループワークをしてもらう。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業方法、内容評価方法についての説明	
	2	英文記事 思考法 (マインドマップ・KJ 法)	①記事の読解 ②内容に関する問題 ③解説 ④課題についての調べ学習	課題の残り
	3	英文記事 思考法 (マインドマップ・KJ 法)	①記事の読解 ②内容に関する問題 ③解説 ④課題についての調べ学習	課題の残り
	4	英文記事 思考法 (ロジックツリー・MECE・要素分解)	①記事の読解 ②内容に関する問題 ③解説 ④課題についての調べ学習	課題の残り
	5	英文記事 思考法 (ロジックツリー・MECE・要素分解)	①記事の読解 ②内容に関する問題 ③解説 ④課題についての調べ学習	課題の残り
	6	英文記事 思考法 (これまでの復習)	①記事の読解 ②内容に関する問題 ③解説 ④課題についての調べ学習	課題の残り
	7	臨時試験①	2～6 回目の講義内容について	
	8	英文記事 思考法 (why, so what 思考・セルフディベート)	①記事の読解 ②内容に関する問題 ③解説 ④課題についての調べ学習	課題の残り
	9	英文記事 思考法 (why, so what 思考・セルフディベート)	①記事の読解 ②内容に関する問題 ③解説 ④課題についての調べ学習	課題の残り
	10	英文記事 思考法 (マンダラート)	①記事の読解 ②内容に関する問題 ③解説 ④課題についての調べ学習	課題の残り
	11	英文記事 思考法 (オズボーンのチェックリスト)	①記事の読解 ②内容に関する問題 ③解説 ④課題についての調べ学習	課題の残り
	12	英文記事 思考法 (オズボーンのチェックリスト)	①記事の読解 ②内容に関する問題 ③解説 ④課題についての調べ学習	課題の残り
	13	英文記事 思考法 (マトリックス、形態分析法)	①記事の読解 ②内容に関する問題 ③解説 ④課題についての調べ学習	課題の残り
	14	英文記事 思考法 (これまでの復習)	①記事の読解 ②内容に関する問題 ③解説 ④課題についての調べ学習	課題の残り
	15	臨時試験②	8～14 回目の講義内容について	課題の残り

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

		1			
		2			
		3			
評価方法 (基準)	平常点（課題・授業参加等）40% 臨時試験（7 回目及び 15 回目）各 30%				
学生への メッセージ	得意なこと・苦手なこと各自ありますが、自分達のできる範囲で講義に積極的に参加してもらえればと思います。				
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室				
備考					

科目名	時事英語Ⅱ	科目名（英文）	Journal English II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	村田 幸一
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	JEN2332c1		

授業概要・目的	この講義では最新ニュースを編集したものを取り扱う。それにより、英語でニュースを理解し、テーマに対し様々な意見や問いを立てることを目的とする。また思考法についても取り扱いたい。英語でのコミュニケーション、特に話すことは、様々なテーマに対してアイデアを出し、問いを提起し、その内容を深めることにつながるからである。また、最近の生成 AI の普及により、これらの活動がより容易になった。講義でもそれら使用したペアやグループワークを行う。
到達目標	(1) ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。 (2) 前期は CEFR-J [A1. 3]、後期は CEFR-J [B1. 1] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	新聞の記事を読み、内容確認問題に取り組んでもらう。その後 テーマを 1 つ取り上げ、それについて思考法を通じアイデア出し、調べ学習、ペアワーク や グループワーク をしてもらう。時事英語 I 未履修の学生のため前半は思考法の復習という形をとることとする。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業方法、内容評価方法についての説明	
	2	英文記事 思考法（マインドマップ・KJ 法）	①記事の読解 ②内容に関する問題 ③解説 ④課題についての調べ学習	課題の残り
	3	英文記事 思考法（ロジックツリー・MECE・要素分解）	①記事の読解 ②内容に関する問題 ③解説 ④課題についての調べ学習	課題の残り
	4	英文記事 思考法（why, so what 思考・セルフディベート）	①記事の読解 ②内容に関する問題 ③解説 ④課題についての調べ学習	課題の残り
	5	英文記事 思考法（ロジックツリー・MECE・要素分解）	①記事の読解 ②内容に関する問題 ③解説 ④課題についての調べ学習	課題の残り
	6	英文記事 思考法（マンダラート）	①記事の読解 ②内容に関する問題 ③解説 ④課題についての調べ学習	課題の残り
	7	英文記事 思考法（オズボーンのチェックリスト）	①記事の読解 ②内容に関する問題 ③解説 ④課題についての調べ学習	課題の残り
	8	英文記事 思考法（マトリックス、形態分析法）	①記事の読解 ②内容に関する問題 ③解説 ④課題についての調べ学習	課題の残り
	9	臨時試験①	2～8 回目の講義内容について	
	10	英文記事 思考法（水平思考、シナリオグラフ）	①記事の読解 ②内容に関する問題 ③解説 ④課題についての調べ学習	課題の残り
	11	英文記事 思考法（水平思考、シナリオグラフ）	①記事の読解 ②内容に関する問題 ③解説 ④課題についての調べ学習	課題の残り
	12	英文記事 思考法（トレードオフ、2 軸思考、プロコン表）	①記事の読解 ②内容に関する問題 ③解説 ④課題についての調べ学習	課題の残り
	13	英文記事 思考法（トレードオフ、2 軸思考、プロコン表）	①記事の読解 ②内容に関する問題 ③解説 ④課題についての調べ学習	課題の残り
	14	英文記事 思考法（これまでの復習）	①記事の読解 ②内容に関する問題 ③解説 ④課題についての調べ学習	課題の残り
	15	臨時試験②	10～14 回目の講義内容について	

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

		1			
		2			
		3			
評価方法 (基準)	平常点（課題・授業参加等）40% 臨時試験（7 回目及び 15 回目）各 30%				
学生への メッセージ	得意なこと・苦手なこと各自ありますが、自分達のできる範囲で講義に積極的に参加してもらえればと思います。				
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室				
備考					

科目名	教養中国語 I	科目名 (英文)	Chinese I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	段 飛虹
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	JCH2334e1		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。一年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	発音篇	発音 ①中国語の音節, ピンイン、声調 ②単母音	事前にテキストを目を通す、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
	2	発音篇	発音 ③複母音 ④鼻母音	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
	3	発音篇	発音 ⑤子音 ⑥音節のつづり ⑦声調記号について	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
	4	発音復習・練習 発音テスト	発音復習・練習 発音テスト	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。練習問題も解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	5	第 1 課 お名前は何ですか？	文法 ① 人称代名詞 ② 名前の聞き方を答え方 ③ 「是」の述語文の使い方 ④ 「？」の疑問文 本文と練習問題	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。練習問題も解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	6	第 2 課 これは私のパソコンです。	文法 ① 指示代名詞 ② 疑問詞疑問文 ③ 「的」の使い方 ④ 副詞「也」 本文と練習問題	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。練習問題も解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	7	第 3 課 こちらの冬は寒いです。	文法 ① 場所代名詞 ② 形容詞述語文 ③ 疑問文 本文と練習問題	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。練習問題も解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	8	第 4 課 私は毎日七時に起きます。	文法 ① 動詞述語文 ② 時間詞の置く場所 ③ 省略疑問文 本文と練習問題	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。練習問題も解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	9	☆ テスト①	☆ 第 1～4 課単元復習 単元テスト①	事前に、単元テスト 1 の準備をする。練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	10	第 5 課 私の家は学校から遠いです。	文法 ① 動詞「在」 ② 介詞「離」 ③ 反復疑問文 ④ 方位詞の使い方 本文と練習問題	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	11	第 6 課 あなたは週に何コマの授業がありますか？	文法 ① 量詞 ② 「所有」を表現する「有」の文 ③ 疑問詞「几」と「多少」 本文と練習問題	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	12	第 7 課 あなたは今年いくつですか？	文法 ① 「存在」を表現する「有」の文 ② 年齢の聞き方 ③ 親族の名称 本文と練習問題	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	13	第 8 課 私たちは図書館で勉強しています。	文法 ① 介詞「在」 ② 連動文 ③ 疑問詞 本文と練習問題	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	14	第 9 課 あなたは昨日どこに行きましたか？	文法 ① 「完了」を表現する「了」の文 ② 原因	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して

			③「A 跟 B 一樣」 本文と練習問題	読むこと。
	15	おさらい ★単元テスト②	★第 5～9 課復習 ★単元テスト②	事前に、第 6～9 課復習すること、単元テスト②の準備をする。
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい中国語（基礎編）	張慧娟 王武雲 朱藝	郁文堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中辞典		
	2	中日辞典		
	3			
評価方法 （基準）	出席と課題の提出 40% テスト 60%で評価する。			
学生への メッセージ	教科書は必ず購入してください。購入していない者には単位が認定できません。 授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。 事前・事後学習に 1 時間すること。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考				

科目名	教養中国語Ⅱ	科目名（英文）	Chinese II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	段 飛虹
ディプロマポリシー（DP）	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	JCH2335e1		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。一年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第 10 課 私はパンを食べたいです。	文法 助動詞「想」 選択疑問文 提案の表現 本文、練習問題	事前にテキストを目を通す、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
	2	第 11 課 母は私より背が高い。	文法 ① 比較の表現 ② 「喜歡」の表現 ③ 「越 A 越 B」 本文、練習問題	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
	3	第 12 課 彼女は中国に行ったことがある。	文法 ① 過去の経験を表現する「過」の文 ② 助動詞「打算」 ③ 変化を現す「了」 本文、練習問題	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
	4	第 13 課 私は手紙を書いている。	文法 ① 動作の進行を表現する ② 連動文 ③ 推量・確認の表現 本文、練習問題	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	5	第 14 課 私は英語を話せます。	文法 ① 助動詞「会」「能」「可以」 ② 動詞の重ね型 ③ 要請の表現 本文、練習問題	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	6	第 15 課 あなたはいつ来たのですか？	文法 ① 「是～的」の構文 ② 人民元の数え方 本文、練習問題	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	7	読む・書く復習①	第 10 課～第 15 課の読む・書く復習の練習	事前に、第 15～18 課の読む・書く復習、準備をすること。
	8	☆ テスト①	テスト①（第 10 課～第 15 課）	事前に、第 15～18 課の読む・書く復習、準備をすること。
	9	第 16 課 十五課を習い終わりました。	文法 ① 兼語文「請」 ② 結果補語 ③ 介詞「用」 本文、練習問題	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	10	第 17 課 母が私に生活用品を送ってくれました。	文法 ① 方向補語「来」「去」 ② 介詞「給」 ③ 「从 A 到 B」の使い方 本文、練習問題	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	11	第 18 課 私は中国語を聞いて分かります。	文法 ① 可能補語 ② 動詞＋「得/不+了」 ③ 「先 A, 然后 B」の使い方 本文、練習問題	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	12	第 19 課 兄が走るの早い。	文法 ① 状態補語 ② 時量の表現 ③ 数量表現 本文、練習問題	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	13	第 20 課 鈴木先生は私たちにフランス語を教えます。	文法 ① 二重目的語の構文 ② 助動詞「得」 本文、練習問題	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	14	読む・書く復習②	第 16 課～第 20 課の読む・書く復習の練習	事前に、第 16～20 課の読む・書く復習、準備をすること。
	15	☆ テスト②	☆テスト②（第 16 課～第 20 課）	事前に、第 16～20 課の読む・書く復習、準備をすること。
関連科目				
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい中国語（基礎編）	張慧娟 王武雲 朱藝	郁文堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中辞典		
	2	中日辞典		
	3			
評価方法 （基準）	出席と課題の提出 40% テスト 60%で評価する。			
学生への メッセージ	教科書は必ず購入してください。購入していない者には単位が認定できません。 授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。 事前・事後学習に 1 時間すること。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考				

科目名	キャリアデザインⅠ	科目名（英文）	Career Planning I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1342a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 ようになることが期待される。 SDGs. 4-4 SDGs. 8-6																																																																		
到達目標	1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。																																																																		
授業方法と留意点	講義には積極的な態度で受講すること。																																																																		
科目学習の効果（資格）	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ようこそ、摂南大学へ</td><td>・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か、何故必要なのかを理解する ・公と私について考える</td><td>・事前学修：自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること (0.5 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>さあ始めよう！大学生活を</td><td>・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・学ぶためのスキルを身につける</td><td>・事前学修：大学で学ぶ意味について考えること (0.5 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>摂南大学</td><td>・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・学生生活において目標を考える</td><td>・事前学修：摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること (0.5 時間) ・事後学修：大学の中にある「機会」の活用の仕方考えること (0.5 時間)/講義で課された課題に取り組むこと (0.5 時間/継続)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>自己効力感を高めよう</td><td>・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション</td><td>・事後学修：設定された個人ワークに取り組むこと (2 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>SDGs について考えよう グループ課題の設定</td><td>・SDGs に対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える</td><td>・事前学修：SDGs とは何かについて予習をしておくこと (0.5 時間) ・事後学修：グループで課題に取り組むこと (2 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>社会は君を待っている</td><td>・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える</td><td>・事後学修：社会で求められる人材について考えること (0.5 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>社会の仕組み①</td><td>・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える</td><td>・事後学修：経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること (0.5 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>社会の仕組み②</td><td>・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション</td><td>・事後学修：配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること (0.5 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>自分づくり①</td><td>・自分の良いところを 20 個挙げる ・ペアワーク</td><td>・事前学修：自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと (0.5 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>自分づくり②</td><td>・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学 4 年間の目標設定</td><td>・事後学修：大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること (0.5 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>スケジュールリング術</td><td>・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる</td><td>・事後学修：社会人基礎力を実践する方法を考えること (0.5 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>ビブリオバトル</td><td>・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する</td><td>・事前学修：他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと (1 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>グループ課題の発表会</td><td>グループ課題の発表会</td><td>・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること (0.5 時間) ・事後学修：他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること (0.5 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>グループ課題の発表会</td><td>・グループごとのプレゼンテーション</td><td>・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること (0.5 時間) ・事後学修：他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること (0.5 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>講義のおさらい</td><td>・講義 4 で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り</td><td>・事前学修：夏休み以降の大学生活の目標を考えること (0.5 時間) ・事後学修：期末レポートを作成すること (1.5 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か、何故必要なのかを理解する ・公と私について考える	・事前学修：自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること (0.5 時間)	2	さあ始めよう！大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・学ぶためのスキルを身につける	・事前学修：大学で学ぶ意味について考えること (0.5 時間)	3	摂南大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・学生生活において目標を考える	・事前学修：摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること (0.5 時間) ・事後学修：大学の中にある「機会」の活用の仕方考えること (0.5 時間)/講義で課された課題に取り組むこと (0.5 時間/継続)	4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・事後学修：設定された個人ワークに取り組むこと (2 時間)	5	SDGs について考えよう グループ課題の設定	・SDGs に対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える	・事前学修：SDGs とは何かについて予習をしておくこと (0.5 時間) ・事後学修：グループで課題に取り組むこと (2 時間)	6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・事後学修：社会で求められる人材について考えること (0.5 時間)	7	社会の仕組み①	・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・事後学修：経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること (0.5 時間)	8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・事後学修：配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること (0.5 時間)	9	自分づくり①	・自分の良いところを 20 個挙げる ・ペアワーク	・事前学修：自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと (0.5 時間)	10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学 4 年間の目標設定	・事後学修：大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること (0.5 時間)	11	スケジュールリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・事後学修：社会人基礎力を実践する方法を考えること (0.5 時間)	12	ビブリオバトル	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・事前学修：他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと (1 時間)	13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること (0.5 時間) ・事後学修：他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること (0.5 時間)	14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること (0.5 時間) ・事後学修：他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること (0.5 時間)	15	講義のおさらい	・講義 4 で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り	・事前学修：夏休み以降の大学生活の目標を考えること (0.5 時間) ・事後学修：期末レポートを作成すること (1.5 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か、何故必要なのかを理解する ・公と私について考える	・事前学修：自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること (0.5 時間)																																																																
2	さあ始めよう！大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・学ぶためのスキルを身につける	・事前学修：大学で学ぶ意味について考えること (0.5 時間)																																																																
3	摂南大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・学生生活において目標を考える	・事前学修：摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること (0.5 時間) ・事後学修：大学の中にある「機会」の活用の仕方考えること (0.5 時間)/講義で課された課題に取り組むこと (0.5 時間/継続)																																																																
4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・事後学修：設定された個人ワークに取り組むこと (2 時間)																																																																
5	SDGs について考えよう グループ課題の設定	・SDGs に対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える	・事前学修：SDGs とは何かについて予習をしておくこと (0.5 時間) ・事後学修：グループで課題に取り組むこと (2 時間)																																																																
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・事後学修：社会で求められる人材について考えること (0.5 時間)																																																																
7	社会の仕組み①	・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・事後学修：経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること (0.5 時間)																																																																
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・事後学修：配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること (0.5 時間)																																																																
9	自分づくり①	・自分の良いところを 20 個挙げる ・ペアワーク	・事前学修：自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと (0.5 時間)																																																																
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学 4 年間の目標設定	・事後学修：大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること (0.5 時間)																																																																
11	スケジュールリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・事後学修：社会人基礎力を実践する方法を考えること (0.5 時間)																																																																
12	ビブリオバトル	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・事前学修：他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと (1 時間)																																																																
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること (0.5 時間) ・事後学修：他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること (0.5 時間)																																																																
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること (0.5 時間) ・事後学修：他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること (0.5 時間)																																																																
15	講義のおさらい	・講義 4 で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り	・事前学修：夏休み以降の大学生活の目標を考えること (0.5 時間) ・事後学修：期末レポートを作成すること (1.5 時間)																																																																
関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ																																																																		

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点 (30%)、グループ課題(20%)、最終レポート (50%) で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	石井 三恵 (7号館5階)			
備考	必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。 学生のワークの進捗状況により、内容が前後することもある。			

科目名	キャリアデザインⅡ	科目名（英文）	Career Planning II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1343a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 SDGs. 4-4 SDGs. 8-6
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。 講義内で行われるグループディスカッションを通じて、他者理解及びコミュニケーションの必要性を理解する。(DP1)
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果（資格）	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・大学生生活 1 年目で経験したことを思い出しておくこと(事前：1 時間) ・配布したレジュメを見直すこと(事後：0.5 時間)
	2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・人はなぜ働くのかについて仕事をしている一にインタビューしてまとめ、グループ討議の準備をしておくこと(事後：2 時間)
	3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・グループ討議の内容を振り返ること(0.5 時間)
	4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い事例を知る ・業種・職種の概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布資料を読み返し、どのような業種・業界があるか調べること(事後：0.5 時間)
	5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布資料を見直し、どのような職種・会社があるのか調べること(0.5 時間)
	6	自分を知る①	・特性と心がけ、自己 PR の組み立て方を学ぶ	・自身の特性について考えること(事前：0.5 時間) ・配布資料を見直し、自らの強みについて考えること(事後 1 時間)
	7	自分を知る②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・自身の学生生活を振り返ること(事前：0.5 時間) ・配布資料を見直し、今後の学生生活の過ごし方を考えること(0.5 時間)
	8	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の習慣について振り返ること(事後：0.5 時間)
	9	自分を高める②	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の取り組むべきことについて考えること(事後：0.5 時間)
	10	自分を高める③	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・講義の内容を日常生活で実践すること(1.5 時間)
	11	自分を知る③	・モチベーションについて理解する ・自身のやる気の源泉を理解する	・自身の「やる気が出る時と出ない時」の差について考える(事前：0.5 時間) ・自身の「やる気の源泉」を言語化すること(0.5 時間)
	12	社会を知る⑤	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配付資料を見直し、自らの将来について考えること(0.5 時間)
	13	自分を高める④	・講義⑨⑩⑪の実践報告の共有と発表	・発表及びグループ討議の準備をしておくこと(事前：1 時間)
	14	社会を知る⑥	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・日本を取り巻く課題につて調べること(事前：0.5 時間)
	15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(0.5 時間)

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップ
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	グループワーク（20%）、授業参加度（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。
-----------	---

担当者の 研究室等	坂口有芸（7 号館 5 階）
備考	2022 年度以前入学の再履修の者はこの教室で実施する。 必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 なお、課題の提出方法（Moodle、Teams、Web フォルダー等）は教員の指示に従うこと。

科目名	キャリアデザインⅢ	科目名（英文）	Career Planning III
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1344a1		

授業概要・目的	本講義は就職活動に関する知識と実践技法も学ぶための講義である。 この科目を通じて、学生は、学生生活での学びを活かし、社会で求められ、活躍できる人材（人財）になるために何をすべきかを考えられるようになることが期待される。 なお、授業担当者の人材業界での業務経験・起業経験を講義に活かす講義の内容となる。																																																																		
到達目標	自分を振り返り、社会をよく知り、選択肢を発見し、自分の特性や強みについて、他者に伝えられることができる。 その結果、満足のいく就職活動、進路選択ができるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	講義では教員と学生、学生同士で対話をしながら進行をするので、能動的な姿勢が求められる。																																																																		
科目学習の効果（資格）	授業を通して自分の成長に気づき、他者に自分の意志が伝えられるようになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>・講義の目標、進め方、評価方法の解説 ・就職活動のスケジュールを知る</td><td>事後学習：配付資料を熟読すること（1 時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>ビジネス研究①</td><td>・業界・会社・職種を知る</td><td>事後学習：配付資料を熟読し、どんな業界があるのかを調べること（1 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>ビジネス研究②</td><td>・成長企業のキーワード ・会社研究について</td><td>事後学習：配付資料を熟読し、どんな会社があるのかを調べること（1 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>ビジネス研究④</td><td>・会社の経営理念について考える ・ブラック企業問題について考える ・いい会社とは何かについて考える</td><td>事後学習：配付資料を熟読し、自分のワークスタイルを考えること（1 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>ビジネス研究⑤</td><td>・事業立案のフレームを学ぶ ・グループでビジネスプランを立てる</td><td>事後学習：配付資料を熟読し、グループワークに取り組むこと（2 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>営業思考を身につける</td><td>・どのような仕事に従事するでも役に立つ営業思考の基本を身につける</td><td>事前学習：プレゼンテーションの準備をしておくこと（1 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>ビジネス研究⑦</td><td>・グループでプレゼンテーションを行う</td><td>事前学習：プレゼンテーションの準備をしておくこと（1 時間） 事後学習：他グループのプレゼンテーションを振り返ること（0.5 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>自分を知る①</td><td>・自分の将来を描いてみる</td><td>事後学習：配付資料を熟読し、自分の未来について考えること（1 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>自分を知る②</td><td>・自分の強み、学生生活を振り返る</td><td>事後学習：配付資料を熟読し、自分について振り返ること（0.5 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>自分を知る③</td><td>・ワークシートを使って自分の特性を確認する</td><td>事後学習：配付資料を熟読し、自分の特性について考えること（0.5 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>自分のことを伝える</td><td>・エントリーシートとは何かを知る ・読み手の着眼点を理解する</td><td>事後学習：エントリーシートを作成する準備をしておくこと（1 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>グループでのコミュニケーション①</td><td>・グループディスカッションの種類を知る ・グループディスカッションを実際に体験してみる</td><td>事後学習：配付資料を熟読し、自身のグループへの貢献の仕方を考えること（1 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>グループでのコミュニケーション②</td><td>・議論を進めるためのファシリテーション術を学ぶ</td><td>事後学習：配付資料を熟読し、グループへの貢献の仕方を考えること（1 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>面接における対人コミュニケーション</td><td>・面接における対人コミュニケーションについて考える ・面接のメカニズムを知る</td><td>事後学習：配付資料を熟読し、対面での対人コミュニケーションについて考えること（1 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>講義のまとめ</td><td>・成果を上げるための行動計画立案 ・講義のまとめ</td><td>・提出物など、出し忘れが無いか確認すること（1 時間）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	・講義の目標、進め方、評価方法の解説 ・就職活動のスケジュールを知る	事後学習：配付資料を熟読すること（1 時間）	2	ビジネス研究①	・業界・会社・職種を知る	事後学習：配付資料を熟読し、どんな業界があるのかを調べること（1 時間）	3	ビジネス研究②	・成長企業のキーワード ・会社研究について	事後学習：配付資料を熟読し、どんな会社があるのかを調べること（1 時間）	4	ビジネス研究④	・会社の経営理念について考える ・ブラック企業問題について考える ・いい会社とは何かについて考える	事後学習：配付資料を熟読し、自分のワークスタイルを考えること（1 時間）	5	ビジネス研究⑤	・事業立案のフレームを学ぶ ・グループでビジネスプランを立てる	事後学習：配付資料を熟読し、グループワークに取り組むこと（2 時間）	6	営業思考を身につける	・どのような仕事に従事するでも役に立つ営業思考の基本を身につける	事前学習：プレゼンテーションの準備をしておくこと（1 時間）	7	ビジネス研究⑦	・グループでプレゼンテーションを行う	事前学習：プレゼンテーションの準備をしておくこと（1 時間） 事後学習：他グループのプレゼンテーションを振り返ること（0.5 時間）	8	自分を知る①	・自分の将来を描いてみる	事後学習：配付資料を熟読し、自分の未来について考えること（1 時間）	9	自分を知る②	・自分の強み、学生生活を振り返る	事後学習：配付資料を熟読し、自分について振り返ること（0.5 時間）	10	自分を知る③	・ワークシートを使って自分の特性を確認する	事後学習：配付資料を熟読し、自分の特性について考えること（0.5 時間）	11	自分のことを伝える	・エントリーシートとは何かを知る ・読み手の着眼点を理解する	事後学習：エントリーシートを作成する準備をしておくこと（1 時間）	12	グループでのコミュニケーション①	・グループディスカッションの種類を知る ・グループディスカッションを実際に体験してみる	事後学習：配付資料を熟読し、自身のグループへの貢献の仕方を考えること（1 時間）	13	グループでのコミュニケーション②	・議論を進めるためのファシリテーション術を学ぶ	事後学習：配付資料を熟読し、グループへの貢献の仕方を考えること（1 時間）	14	面接における対人コミュニケーション	・面接における対人コミュニケーションについて考える ・面接のメカニズムを知る	事後学習：配付資料を熟読し、対面での対人コミュニケーションについて考えること（1 時間）	15	講義のまとめ	・成果を上げるための行動計画立案 ・講義のまとめ	・提出物など、出し忘れが無いか確認すること（1 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	・講義の目標、進め方、評価方法の解説 ・就職活動のスケジュールを知る	事後学習：配付資料を熟読すること（1 時間）																																																																
2	ビジネス研究①	・業界・会社・職種を知る	事後学習：配付資料を熟読し、どんな業界があるのかを調べること（1 時間）																																																																
3	ビジネス研究②	・成長企業のキーワード ・会社研究について	事後学習：配付資料を熟読し、どんな会社があるのかを調べること（1 時間）																																																																
4	ビジネス研究④	・会社の経営理念について考える ・ブラック企業問題について考える ・いい会社とは何かについて考える	事後学習：配付資料を熟読し、自分のワークスタイルを考えること（1 時間）																																																																
5	ビジネス研究⑤	・事業立案のフレームを学ぶ ・グループでビジネスプランを立てる	事後学習：配付資料を熟読し、グループワークに取り組むこと（2 時間）																																																																
6	営業思考を身につける	・どのような仕事に従事するでも役に立つ営業思考の基本を身につける	事前学習：プレゼンテーションの準備をしておくこと（1 時間）																																																																
7	ビジネス研究⑦	・グループでプレゼンテーションを行う	事前学習：プレゼンテーションの準備をしておくこと（1 時間） 事後学習：他グループのプレゼンテーションを振り返ること（0.5 時間）																																																																
8	自分を知る①	・自分の将来を描いてみる	事後学習：配付資料を熟読し、自分の未来について考えること（1 時間）																																																																
9	自分を知る②	・自分の強み、学生生活を振り返る	事後学習：配付資料を熟読し、自分について振り返ること（0.5 時間）																																																																
10	自分を知る③	・ワークシートを使って自分の特性を確認する	事後学習：配付資料を熟読し、自分の特性について考えること（0.5 時間）																																																																
11	自分のことを伝える	・エントリーシートとは何かを知る ・読み手の着眼点を理解する	事後学習：エントリーシートを作成する準備をしておくこと（1 時間）																																																																
12	グループでのコミュニケーション①	・グループディスカッションの種類を知る ・グループディスカッションを実際に体験してみる	事後学習：配付資料を熟読し、自身のグループへの貢献の仕方を考えること（1 時間）																																																																
13	グループでのコミュニケーション②	・議論を進めるためのファシリテーション術を学ぶ	事後学習：配付資料を熟読し、グループへの貢献の仕方を考えること（1 時間）																																																																
14	面接における対人コミュニケーション	・面接における対人コミュニケーションについて考える ・面接のメカニズムを知る	事後学習：配付資料を熟読し、対面での対人コミュニケーションについて考えること（1 時間）																																																																
15	講義のまとめ	・成果を上げるための行動計画立案 ・講義のまとめ	・提出物など、出し忘れが無いか確認すること（1 時間）																																																																
関連科目	・キャリアデザイン、インターンシップ基礎、ビジネスマナーⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ、数的能力開発、コミュニケーション能力開発、エンプロイメントデザインⅠ・Ⅱ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	講義での提出物（30%）、グループ課題（20%）、期末レポート（50%）を総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	みなさんの将来のことを一緒に考えましょう。なお、履修人数の増減に伴うグループワーク時のグループ数により講義内容の一部に変更が生ずる可能性があるので注意すること。																																																																		
担当者の研究室等	水野講師室（7 号館 3 階）																																																																		
備考	参考文献・書籍は必要に応じて適宜提示する。 なお、各回の課題および小レポートへのフィードバックは全体に対して行う。																																																																		

科目名	エンプロイメントデザインⅡ	科目名 (英文)	Employment Design II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	水野 武, 石井 三恵, 加野 佑弥
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1346a1		

授業概要・目的	外部講師（本学卒業生を含む）をお招きし、仕事・職業観・人生経験やキャリア・パス等についてのお話を聴く。質疑応答の時間を設けているので、勇気を持って講師に質問をするだけでなく、質問時の態度や表現の仕方を学ぶ。
到達目標	この科目を通じて、学生はさまざまな職業について理解し、多様な仕事術についての知識を得ること、さらには仕事観や人生観の涵養に役立てることが期待される。
授業方法と留意点	さまざまな職業についての知識を得て、多様な仕事術を理解できるようになることを講義の目標とする。（DP1）
科目学習の効果（資格）	話を聴くことが主となるため、社会人としての真摯な態度での話の聴き方、メモの取り方、積極的に質問すること等の習慣を身に付けること。
	人や社会に関わること、仕事力の伸ばし方について考えるきっかけとなる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション (教育イノベーションセンター)	・講義のオリエンテーション ・ゲスト講義の際の注意点（特に聴く態度）について	・事前学修：シラバスを熟読すること（1 時間） ・事後学修：講義の内容を振り返ること（0.5 時間）
	2	警察官として、生きていく。 大阪府警察は、この街を、人を、そしてキミの人生を、全力で守り続ける。 （警察官）	・採用担当者が大阪府警察の仕事、働く上でのやりがいなどを紹介いたします。	・事後学修：講義の内容を振り返ること（0.5 時間）
	3	ホームレス状態を生み出さない日本を目指して (NPO 法人事務局長)	・大阪市で活動をする NPO 法人 Homedoor の実践を通じて、ホームレス問題や NPO の運営の方法を学ぶ。 年間 1000 名以上の生活相談に対応するなかで見えてきたホームレス問題の課題や今後の展望についても触れる。	・事後学修：講義の内容を振り返ること（0.5 時間）
	4	お坊さんから後輩のみなさんへ (摂大 OB/住職)	・一人の学生が僧侶として歩みだすまでの過程を自身の学生生活の経験談を交えながらお話します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること（0.5 時間）
	5	「公務員がハブになり市民・企業と協力して子どもを救う。」 ～公務員に向けていない人間が公務員になった結果～	・門真市の現状、降雨員としてのキャリアについて自らの体験を踏まえてお話します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること（0.5 時間）
	6	プログラマを目指して摂南大学に入学してから NPO 代表になるまで (摂大 OB/NPO 法人代表)	・理系学部でプログラマーを目指しながらもスタープログラマーになれなかった男が、“公共性”を武器に NPO 法人を設立するまでのキャリア構築の過程をお話します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること（0.5 時間）
	7	しあわせのまちづくり ～主役は地域住民！『こどもからおとしよりまで笑顔あふれる地域づくり』の支え方～ （社会福祉協議会職員）	・地域住民にもっとも近い社会福祉法人である社会福祉協議会の仕事と理念についてお話します	・事後学修：講義の内容を振り返ること（0.5 時間）
	8	講義の中間まとめと就職活動の現状について	・講義の中間まとめ ・就職活動について (就職部)	・事後学修：講義の内容を振り返ること（0.5 時間）
	9	「ビジネス創造に必要な力」を実例から学ぶ (IT/役員)	・現役のビジネスパーソンが日々実践している「ビジネスに必要な力」を事例を通じて解説します。	・事前学修：講義全体を振り返り、ノートにまとめること（2 時間） ・事後学修：中間レポートを作成すること（2 時間）
	10	働くことってどんなこと？ 日本で働くことと SDGs、みんなで持続可能な働き方を探していこう！（デジタルサービス）	・日本を取り巻く環境、仕事に必要なスキル、SDGs との繋がり、キャリアを自分ごととして考えるという内容をお話します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること（0.5 時間）
	11	信用金庫の仕事と期待される人財 （金融/人材開発）	・仕事のやりがいとキャリアを学生の皆さんにイメージしていただけるよう、講義します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること（0.5 時間）
	12	ともに強いまちを創る～公務員という選択～ （摂南大学 OB / 市役所職員）	・仕事を通して社会や地域に貢献ができる、自らが成長できる、公務員のやりがいについて熱くお話します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること（0.5 時間）
	13	先人（企業家）に学ぶ仕事への心構え （商工会議所/職員）	・企業家から学ぶ、仕事の心構えについてお話します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること（0.5 時間）
	14	社会人になって学んだことと、企業経営で大切にしているモノ （摂南大学 OB/経営者）	・社会人となる学生へ、体験談を通じて企業の中で誠実に生き抜くことを伝えます。	・事後学修：講義の内容を振り返ること（0.5 時間）
	15	講義のおさらい	・講義全体のおさらい	・事前学修：講義の全体を振り返ること（0.5 時間） ・事後学修：最終課題を作成すること（1.5 時間）

関連科目	キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、エンプロイメントデザインⅠ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の感想レポート (30%)、中間レポート1回 (30%)、期末レポート1回(40%)を総合的に判断する。			
学生への メッセージ	講師の多様な仕事に対する意識や成果の上げ方等を聴くことで、職業観の形成に役立ててほしい。また、摂大生として誠実な態度で質疑応答に臨んでほしい。			
担当者の 研究室等	石井三恵 (7号館5F) 水野武 (7号館3F) 加野 佑弥 (7号館5階)			
備考	講師・内容は事情により変更することもある。 教科書：各回の講師が必要に応じ、プリント配布する。 参考書：各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。			

科目名	インターンシップ I	科目名 (英文)	Internship I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵, 加野 佑弥
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA2506a3		

授業概要・目的	主に就職活動を中心とした進路選択行動を視野に入れた講義である。 この科目を通じて、学生は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に 1) 仕事の社会における役割 2) 仕事の成果とは 3) 仕事の責任と充実感 を直接肌で感じるこゝが期待される。 前期の講義では事前学修として、ビジネス組織のあり方、ビジネス研究、マナーや常識を習得するなどの内容となるので講義を通じてインターンシップに参加する学生はもちろん、夏季休暇中に自身で 1day 仕事体験等に参加する学生にとっても意義のある科目である。 なお、講義では担当者の実務経験に基づいて議論を進めることもある。 SDG s 4-4 SDG s 8-6
到達目標	就職活動の流れとインターンシップの位置づけ、意義について説明することができる。 インターンシップへ意欲的に自信を持って参加するためのマナーと心がまえを身につける。 インターンシップ先出の実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択しや可能性について主体的に考えることができる。 講義や実習を通じて、職業観を形成し、それを他者に伝えることができる。
授業方法と留意点	インターンシップの現場につながる講義（演習を含む）であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。
科目学習の効果（資格）	インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。 企業等、実務の現場で実習を行うことで、自らの職業観の形成ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	インターンシップとは	・授業オリエンテーション ・講義委でのインターンシップと民間企業が行う 1day 仕事体験の違いを理解する ・学生と社会人の違いを理解する ・インターンシップの目的を考える	・事前学修：インターンシップとは何かについて考えること (0.5 時間) ・事後学修：配付した資料を見直して講義を振り返ること (0.5 時間)
	2	企業組織・ビジネスの理解	・組織の形態を知る ・ビジネスへの理解を深める	・事前学修：自らの興味のあるビジネスについて調べておくこと (0.5 時間) ・事後学修：配付した資料を見直して講義を振り返ること (0.5 時間)
	3	実習参加企業について	・産業の分類を知る ・業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る	・事前学修：興味のある会社や自治体などの組織について調べること (0.5 時間) ・事後学修：インターン受入企業等の組織のリストに目を通し、希望する実習先を吟味すること (0.5 時間)
	4	企業研究を志望動機に結び付ける	・志望動機を組み立て方について考える ・企業研究を志望動機に結び付ける	・事前学修：自身の興味のある企業について調べること (0.5 時間) ・事後学修：配付された資料を見直し講義を振り返ること (0.5 時間)
	5	社会人のマナー①	・社会人としての心構えを知る ・身だしなみ	・事前学修：マナーがなぜ大切なのかを考えること (0.5 時間) ・事後学修：配付されたテキストを精読すること (0.5 時間)
	6	社会人のマナー②	・文書でのコミュニケーション	・事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること (0.5 時間) ・事後学修：授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みること (0.5 時間)
	7	社会人のマナー③	・口頭でのコミュニケーション	・事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること (0.5 時間) ・事後学修：マナーの大切さを再度考えること (0.5 時間)
	8	履歴書・エントリーシートについて考える①	・エントリーシートとは何かを知る ・エントリーシートを書くための前準備を行う	・事前学修：エントリーシートを書く準備をしておくこと (0.5 時間) ・事後学修：講義を振り返り、エントリーシートを下書きすること (0.5 時間)
	9	履歴書・エントリーシートについて考える②	・インターンシップ用の履歴書を記入する	・事前学修：履歴書を書く準備をしておくこと (0.5 時間) ・事後学修：講義を振り返り、履歴書を下書きすること (0.5 時間)
	10	グループディスカッション①	・企業はなぜグループディスカッションを行うのかについて考える ・実際にグループディスカッションに取り組む	・事前学修：グループ内の自分の役割を考えること (0.5 時間) ・事後学修：グループディスカッション時の自身の行動を振り返る (0.5 時間)
	11	グループディスカッション②	・議論を前に進めるためのファシリテーション術を学ぶ	・事前学修：グループ内の自分の役割を考えること (0.5 時間) ・事後学修：自グループ及び他グループの発表を振り返ること (0.5 時間)
	12	事前訪問について	・事前訪問のマナーと準備について	・事前学修：インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べる (0.5 時間) ・事後学修：訪問時のマナーについておさらいをすること (0.5 時間)
	13	課題のプレゼンテーション	・インターン先を調べて、インターンシ	・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること

		②	ップで何を学びたいかをプレゼンテーション	(0.5 時間) ・事後学修：プレゼンテーションの内容を内省すること(0.5 時間)	
	14	課題のプレゼンテーション ③	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること(0.5 時間) ・事後学修：プレゼンテーションの内容を内省すること(0.5 時間)	
	15	振り返りとまとめ	・授業を振り返る ・インターンシップの目的を再考する	・事前学修：インターンシップⅠで学んだことをまとめること (0.5 時間) ・事後学修：インターンシップで何を身につけたいかをもう一度考えること(0.5 時間)	
関連科目	キャリアデザインⅠ・キャリアデザインⅡ・キャリアデザインⅢ				
教科書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1				
	2				
	3				
参考書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1				
	2				
	3				
評価方法 (基準)	平常点(ミニッツペーパーおよび授業態度)30%、提出物・プレゼンテーション等 60%、企業からの評価表等 10%の合計点で評価する。 ※授業態度とは授業中の質問に対する回答状況、授業への集中度を示す。				
学生への メッセージ	インターンシップの流れは以下のとおりである。 ※4月下旬にリスト公開→5月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→5月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→6月末頃に事前訪問→8月上旬からインターンシップ開始(予定) なお、インターンシップ先の都合により、日程等スケジュールが変更する場合もある。 COVID-19などのパンデミックの影響や天候の問題により、先方都合で実習が中止になることもある。				
担当者の 研究室等	石井研究室(7号館5階) 加野研究室(7号館5階)				
備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示 服 装・・・立ち居振る舞いを学ぶために、原則、スーツ着用が好ましい。 予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。グループワーク、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。 ※インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。				

科目名	インターンシップⅡ	科目名 (英文)	Internship II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 三恵, 加野 佑弥
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA3507a3		

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に社会における仕事の役割、仕事の成果、仕事に対する責任と充実感を肌で感じることである。
到達目標	インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性について主体的に考えることができる。講義での学び、経験を通じて、職業観を涵養し、それを他者に伝えることができる。
授業方法と留意点	「事前学修→インターンシップ実習→事後学修」という流れで実施するので、必ず日程を確認しておくこと。 実習中は、大学の代表、そして実習先の一員としての意識を持って参加すること。 事前学修・事後学修はすべてスーツ着用のこと。 受講態度や規則等を著しく逸脱し、注意しても改善が見られない場合は、実習参加を許可しない場合もあることを理解しておく。 Covid-19の影響により、実習が中止になることもある。
科目学習の効果 (資格)	就職活動や将来を考えるうえでの貴重な出会いや気づきを得ることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	直前学修① 6月22日(土) 3限目(予定)	・インターンシップの心構え ・今後のスケジュールの確認 *スーツ着用のこと	・事前学習: 社会人を意識したスーツ着用し、身だしなみを自分なりに整えてくること(1時間)
	2	直前学修② 6月22日(土) 4限目(予定)	・報告書の書き方、注意点/マナー ・身だしなみの最終確認 ・グループワークとプレゼンテーション	・事前学習: マナーについて考えること(0.5時間) ・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
	3	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
	4	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
	5	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
	6	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
	7	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
	8	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
	9	体験報告書の作成・提出・指導	・報告書提出/ゼミ教員 ・インターンシップ担当教員における報告書のチェックと指導 (担当教員への提出と教務課へ電子データを提出)	・事後学修: 事前学修②の通りに報告書を作成するが、提出前に必ず推敲を行い、提出期限を厳守すること(2時間)
	10	事後学修① 9月14日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修: 個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5時間)
	11	事後学修② 9月14日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修: 個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5時間)
	12	事後学修③ 9月28日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習: 代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修: 聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間)
	13	事後学修④ 9月28日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習: 代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修: 聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間)
	14	事後学修⑤ 10月5日(土) 3限目(予定)	・インターンシップを振り返る (実習記録簿の提出)	・事前学習: 実習記録簿を見直してくること(1時間)
	15	事後学修⑥ 10月5日(土) 4限目(予定)	・インターンシップを振り返る	・事後学修: インターンシップの講義の全体を振り返ること(1時間)
関連科目	インターンシップⅠ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1																		
	2																		
	3																		
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3					
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	企業による報告書(20%)、体験報告書など提出物(40%)、発表を含む授業態度(投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、グループワークの参加姿勢など)(40%)を総合的に評価する。																		
学生への メッセージ	「インターンシップⅠ」を必ず履修すること。																		
担当者の 研究室等	石井研究室(7号館5階) 加野研究室(7号館5階)																		
備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布する。 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示する。 なお、振り返りの課題(体験報告書、報告プレゼンテーションのためのスライド作成など)は3時間以上かけて仕上げること。 事前事後学修に出席する際は、必ずスーツを着用すること。																		

科目名	日本語能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Japanese Language Ability I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	南谷 静香
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1508a3		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。 課題およびレポートについて、未提出のものがある場合は単位の取得を認めない。課題日に欠席した場合は、後日必ず欠席届を提出すること。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文書作成に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 授業の内容、進め方について メールの書き方について 「はじめに」 文章で伝えるということについて	講義	教科書 p. 1～6 を復習する（一時間程度）
	2	「文章の書き方」 レポート・論文の基本事項 わかりやすい文章の書き方	講義	教科書 p. 7～12 を復習する（一時間程度）
	3	「事実と意見」 事実と意見の書き分け 説明文とは何か	講義	教科書 p. 13～17 および配布プリントを復習する（一時間程度）
	4	【課題①】 ある事物について、論理的に説明する	課題の作成・提出	教科書 p. 1～18 を復習する（一時間程度）
	5	「構成」 レポートなどの文章の構成を学ぶ	講義	教科書 p. 19～22 を復習する（一時間程度）
	6	「要約」 要旨の要約の作成方法を知る	講義	教科書 p. 23～26 および配布プリントを復習する（一時間程度）
	7	フィードバック 課題①の返却と反省 「要約」 要約文の作成	フィードバックと実践（要約文の作成）	教科書 p. 1～26 および配布プリントを復習する。返却された課題を見直す。（一時間程度）
	8	「文章を引用する」 文章を引用する意方法を学ぶ	講義	教科書 p. 27～31 および配布プリントを復習する（一時間程度）
	9	「図表を引用する」 図表を引用する方法を学ぶ	講義	教科書 p. 32～37 および配布プリントを復習する（一時間程度）
	10	「意見を述べる」 引用をふまえた考察に基づいて意見を述べる	講義	教科書 p. 38～39 および配布プリントを復習する（一時間程度）
	11	【課題②】 資料を引用して意見を述べる	課題の作成・提出	教科書 p. 32～39 を復習する（一時間程度）
	12	資料検索の方法について 小テストの復習テスト	復習テスト	返却した小テストの内容を復習してテストに臨む（一時間程度）
	13	フィードバック 課題②の返却と反省	フィードバック	教科書 p. 32～39 を復習する。返却された課題を見直す。（一時間程度）
	14	【レポート】 これまでの講義の内容を踏まえて論説文を書く	レポートの作成・提出	教科書 p. 1～39 を復習する（一時間程度）
	15	フィードバック レポートの反省点	フィードバック	教科書 p. 1～39 を復習する（一時間程度）

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	課題 2 回（20％×2）、レポート（30％）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30％）により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
----------	--

学生への メッセージ	口語表現と文章表現の違いを理解し、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルを身につけてください。 論理的な文章を書く能力は、学生生活でのレポートや論文はもちろんのこと、社会人になってからも必要なものです。積極的に課題に取り組み、実践的な能力を身につけるよう努めましょう。
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	前もって教科書の該当箇所をしっかりと読んでから講義にのぞむこと。 返却された小テストはしっかりと復習すること。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。遠隔授業になった場合は、学内メールもしくは Teams にて対応。

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	南谷 静香
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1509a3		

授業概要・目的	文章表現の基礎を取得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活で必要な表現力を身につける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人が理解し納得できる文章をどう書くか、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワークや文章作成等の課題に取り組む。 課題未提出、プレゼンテーション不参加の場合は単位の取得を認めない。課題日やプレゼンテーション担当日に欠席する場合は必ず欠席届を提出すること。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 この授業について メールの書き方 レポートの書き方（1）要点確認	授業の目的、進め方の説明 レポートの書き方のポイントを確認する	教科書を全文読んでおく。 1時間の事前事後学習を目安とする。
	2	レポートの書き方（2）	レポートの基本的ルールを確認する	教科書「はじめに」～「第6回 要約」までをしっかりと読む。 1時間の事前事後学習を目安とする。
	3	レポートの書き方（3）	資料の引用の仕方について学ぶ	教科書「第7回 文章を引用する」「第8回 図表を引用する」をしっかりと読む。 1時間の事前事後学習を目安とする。
	4	【課題1】レポート	資料を引用して意見を述べる文章を書く	教科書全文を読み返す。 1時間の事前事後学習を目安とする。
	5	ディスカッション・プレゼンテーションについて	ディスカッションの方法やプレゼンテーションについて学ぶ	配布したレジュメを精読すること。 1時間の事前事後学習を目安とする。
	6	【課題1】フィードバック	課題1のフィードバック	返却されたレポートを読み返し、復習する。 1時間の事前事後学習を目安とする。
	7	【ディスカッション1】	グループごとにテーマを設定し、ディスカッションを行う。	ディスカッションの準備。資料集め。 1時間の事前事後学習を目安とする。
	8	【ディスカッション2】 【プレゼンテーション準備1】	グループごとにディスカッションを行い、それに基づきプレゼンテーションの準備を進める。	ディスカッションの準備。資料集め。 1時間の事前事後学習を目安とする。
	9	【課題2】ディスカッションの報告	ディスカッションの経過を箇条書きや文章でまとめる。	レポートの書き方を復習する。 1時間の事前事後学習を目安とする。
	10	【プレゼンテーション準備2】	プレゼンテーションに向けてレジュメやスライドの準備をおこなう	プレゼンテーションに向けてレジュメ等を仕上げ、準備を整える。 1時間の事前事後学習を目安とする。
	11	【プレゼンテーション1】	グループごとにプレゼンテーションを行う	他のグループの発表資料を分析する。 1時間の事前事後学習を目安とする。
	12	【プレゼンテーション2】	グループごとにプレゼンテーションを行う	他のグループの発表資料を分析する。 1時間の事前事後学習を目安とする。
	13	【プレゼンテーション3】	グループごとにプレゼンテーションを行う	他のグループの発表資料を分析する。 1時間の事前事後学習を目安とする。
	14	【課題3】レポート	プレゼンテーションの内容をもとにレポートを書く	レポートの書き方の復習。 1時間の事前事後学習を目安とする。
	15	課題3のフィードバック 【復習テスト】	課題3のフィードバック 小テストの復習テスト	レポートの書き方の復習 小テストの復習

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	課題3回（20%、20%、30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により評価する。課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
----------	---

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語（話し言葉）と、レポートなどで書く日本語（書き言葉）は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語（話し言葉、書き言葉）と向き合ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	数的能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Arithmetic AbilityⅠ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	黒木 和雄
ディプロマポリシー（DP）	DP1◎、DP6◎、DP7◎		
科目ナンバリング	JKY2371a1		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よって、この授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に、受講生の数的能力を高めていくことを目指します。 前期は、数的分野の基礎を中心に学習します。算数・数学の基礎知識、公式など、使わないと忘れがちな内容にも取り組みます。中学や高校の授業で数学が嫌い・苦手だったという人の学び直しにも適しています。
到達目標	この授業を通じて、授業で扱った数的分野の問題が概ね解けるようになる。一つの目安として、各種採用試験（総合適性検査 SPI・公務員試験等）の数的分野の問題に十分対応できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	①「まずは問題を自力で解く（取り組む）」→②「講師による解説」→③「類題を解く」という流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。 授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 後期に開講される「数的能力開発Ⅱ」では、応用力が必要となる実践的な内容を扱います。「数的能力開発Ⅰ」と「数的能力開発Ⅱ」の両科目の履修を推奨します。 なお、履修者
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学的素養を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	・実力テストの復習（1 時間）
	2	計数問題①	割合と比	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分） ・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	3	計数問題②	割合の応用問題	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分） ・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	4	計数問題③	損益算	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分） ・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	5	計数問題④	速度算①	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分） ・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	6	計数問題⑤	速度算②	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分） ・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	7	総復習①	計数問題復習	・第 6 回までの講義で学習した問題すべてを事前に復習しておくこと（2 時間）
	8	中間テスト	中間テスト	・第 7 回までの講義で学習した問題すべてを事前に復習しておくこと（2 時間）
	9	論理問題①	集合	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分） ・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	10	論理問題②	場合の数	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分） ・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	11	論理問題③	確率	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分） ・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	12	論理問題④	表の読み取り	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分） ・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	13	論理問題⑤	推論①	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分） ・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	14	論理問題⑥	推論②	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分） ・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	15	総復習②	論理問題復習	・これまでの講義で学習した問題すべてを事前に復習しておくこと（2 時間）

関連科目	数的能力開発Ⅱ、キャリアデザインⅡ		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部 PS 出版事業部
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎 ダイヤモンド社
	2		
	3		
評価方法（基準）	「平常点（授業内課題）： 40%」+「中間テスト・最終テスト：50%」+「Smart SPI：10%」 ※第 1 回の平常点は、実力テスト（点数は成績に影響しない）を実施するため 8 点（成績の 8 %）とする		
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週 1 時間程度の予習復習を必ず行ってください。		
担当者の研究室等	ラーニングセンター（2 号館 2 階）		
備考	『厳選！数学的リテラシー問題集』をメインテキストに、オリジナル教材を必要に応じて配布します。「Smart SPI」も利用します。講義内で実施する「小テスト・中間テスト」のフィードバック（解答・解説）は Moodle に提示、あるいは次回講義内で実施する予定です。		

科目名	数的能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Arithmetic AbilityⅠ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	津村 忠
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JKY2371a1		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。 前期は、数的能力の基礎を中心に学習します。算数・数学の基礎知識、公式など、使わないと忘れがちな内容にも取り組みます。中学や高校の授業で数学が嫌い・苦手だったという人の学び直しにも適しています。
到達目標	この授業を通して、授業で取り組んだ数的問題を概ね解けるようになっていることが求められる。
授業方法と留意点	まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 後期に開講される数的能力開発Ⅱでは、応用力が必要となる実践的な内容を扱います。Ⅰ・Ⅱの両科目の履修を推奨します。 なお、履修者数によっては、2 回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テスト
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
	2	計数問題①	割合と比	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	3	計数問題②	割合の応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	4	計数問題③	損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	5	計数問題④	速度算①	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	6	計数問題⑤	速度算②	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	7	総復習①	計数問題復習	今まで学習した問題全てを事前に復習（2 時間）
	8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習（2 時間）
	9	論理問題①	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	10	論理問題②	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	11	論理問題③	確率	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	12	論理問題④	表の読み取り	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	13	論理問題⑤	推論①	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	14	論理問題⑥	推論②	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	15	総復習②	論理問題復習	全ての問題を事前に復習（2 時間）

関連科目	数的能力開発Ⅱ、キャリアデザインⅡ
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週 1 時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階 教育イノベーションセンター
備考	Teams コードは、コピー＆ペーストでの入力をオススメします。 実施した小テスト、中間テストのフィードバック（解答・解説）は moodle に掲示、あるいは次回授業内で実施する予定です。 テキストのほか、一冊ノートを作ることを奨励します。

科目名	数的能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Arithmetic AbilityⅠ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JKY2371a1		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。 前期は、数的能力の基礎を中心に学習します。算数・数学の基礎知識、公式など、使わないと忘れがちな内容にも取り組みます。中学や高校の授業で数学が嫌い・苦手だったという人の学び直しにも適しています。
到達目標	この授業を通して、授業で取り組んだ数的問題を概ね解けるようになっていくことが求められる。
授業方法と留意点	まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 後期に開講される数的能力開発Ⅱでは、応用力が必要となる実践的な内容を扱います。Ⅰ・Ⅱの両科目の履修を推奨します。 なお、履修者数によっては、2 回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テスト
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
	2	計数問題①	割合と比	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	3	計数問題②	割合の応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	4	計数問題③	損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	5	計数問題④	速度算①	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	6	計数問題⑤	速度算②	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	7	総復習①	計数問題復習	今まで学習した問題全てを事前に復習（2 時間）
	8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習（2 時間）
	9	論理問題①	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	10	論理問題②	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	11	論理問題③	確率	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	12	論理問題④	表の読み取り	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	13	論理問題⑤	推論①	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	14	論理問題⑥	推論②	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	15	総復習②	論理問題復習	全ての問題を事前に復習（2 時間）

関連科目	数的能力開発Ⅱ、キャリアデザインⅡ
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業内課題および態度）：40%、中間テスト・最終テスト：50%、SmartSPI：10% ※第 1 回の平常点は、実力テスト（点数は成績に影響しない）を実施するため 8 点（成績の 8％）とする
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週 1 時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	ラーニングセンター（2 号館 2 階） 7 号館 3 階 全学教育機構
備考	実施した小テスト、中間テストのフィードバック（解答・解説）はポータルサイトに掲示、あるいは次回授業内で実施する予定です。テキストのほか、一冊ノートを作ることを奨励します。

科目名	数的能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Arithmetic AbilityⅠ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本 朗子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JKY2371a1		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。 前期は、数的能力の基礎を中心に学習します。算数・数学の基礎知識、公式など、使わないと忘れがちな内容にも取り組みます。中学や高校の授業で数学が嫌い・苦手だったという人の学び直しにも適しています。																																																																		
到達目標	この授業を通して、授業で取り組んだ数的問題を概ね解けるようになっていることが求められる。																																																																		
授業方法と留意点	まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 後期に開講される数的能力開発Ⅱでは、応用力が必要となる実践的な内容を扱います。Ⅰ・Ⅱの両科目の履修を推奨します。 なお、履修者数によっては、2 回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テスト																																																																		
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。																																																																		
授業計画	<table> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション 実力テスト</td><td>講義概要説明、実力テストの実施</td><td>実力テストの復習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>計数問題①</td><td>割合と比</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>計数問題②</td><td>割合の応用問題</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>計数問題③</td><td>損益算</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>計数問題④</td><td>速度算①</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>計数問題⑤</td><td>速度算②</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>総復習①</td><td>計数問題復習</td><td>今まで学習した問題全てを事前に復習（2 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>中間テスト</td><td>中間テスト</td><td>今まで学習した問題全てを事前に復習（2 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>論理問題①</td><td>集合</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>論理問題②</td><td>場合の数</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>論理問題③</td><td>確率</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>論理問題④</td><td>表の読み取り</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>論理問題⑤</td><td>推論①</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>論理問題⑥</td><td>推論②</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総復習②</td><td>論理問題復習</td><td>全ての問題を事前に復習（2 時間）</td></tr> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習	2	計数問題①	割合と比	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）	3	計数問題②	割合の応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）	4	計数問題③	損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）	5	計数問題④	速度算①	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）	6	計数問題⑤	速度算②	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）	7	総復習①	計数問題復習	今まで学習した問題全てを事前に復習（2 時間）	8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習（2 時間）	9	論理問題①	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）	10	論理問題②	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）	11	論理問題③	確率	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）	12	論理問題④	表の読み取り	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）	13	論理問題⑤	推論①	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）	14	論理問題⑥	推論②	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）	15	総復習②	論理問題復習	全ての問題を事前に復習（2 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習																																																																
2	計数問題①	割合と比	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）																																																																
3	計数問題②	割合の応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）																																																																
4	計数問題③	損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）																																																																
5	計数問題④	速度算①	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）																																																																
6	計数問題⑤	速度算②	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）																																																																
7	総復習①	計数問題復習	今まで学習した問題全てを事前に復習（2 時間）																																																																
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習（2 時間）																																																																
9	論理問題①	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）																																																																
10	論理問題②	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）																																																																
11	論理問題③	確率	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）																																																																
12	論理問題④	表の読み取り	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）																																																																
13	論理問題⑤	推論①	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）																																																																
14	論理問題⑥	推論②	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）																																																																
15	総復習②	論理問題復習	全ての問題を事前に復習（2 時間）																																																																
関連科目	数的能力開発Ⅱ、キャリアデザインⅡ																																																																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td>厳選！数学的リテラシー問題集</td><td>PS 出版事業部</td><td>PS 出版事業部</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	平常点（授業内課題および態度）：40%、中間テスト・最終テスト：50%、SmartSPI：10% ※第 1 回の平常点は、実力テスト（点数は成績に影響しない）を実施するため 8 点（成績の 8％）となる																																																																		
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週 1 時間程度の予習復習を必ず行ってください。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階 全学教育機構 ラーニングセンター（2 号館 2 階）																																																																		
備考	実施した小テスト、中間テストのフィードバック（解答・解説）はポータルサイトに掲示、あるいは次回授業内で実施する予定です。テキストのほか、一冊ノートを作ることを奨励します。																																																																		

科目名	数的能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	黒木 和雄
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JKY2372a1		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よって、この授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。 後期は、より実践的な内容で数的能力を高めます。また、実践的な内容に取り組むことで、思考力が高まることも期待されます。
到達目標	この授業を通して、学生には「授業で取り組んだ数的問題を概ね解けるようになること」が求められる。一つの目安として、各種採用試験（総合適性検査 SPI・公務員試験等）の数的分野の問題に十分対応できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	①まずは問題を自力で解（取り組む）→②講師による解説→③類題を解く という流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 後期に開講される「数的能力開発Ⅱ」では、応用力が必要となる実践的な内容を扱います。「数的能力開発Ⅰ」と「数的能力開発Ⅱ」の両科目の履修を推奨します。 なお、2回目以降の授業を
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	・実力テストの復習（1 時間）
	2	計数問題①	割合と比	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分） ・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	3	計数問題②	割合の応用問題	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分） ・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	4	計数問題③	損益算	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分） ・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	5	計数問題④	速度算①	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分） ・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	6	計数問題⑤	速度算②	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分） ・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	7	総復習①	計数問題復習	・第 6 回までの講義で学習した問題すべてを事前に復習しておくこと(2 時間)
	8	中間テスト	中間テスト	・第 7 回までの講義で学習した問題すべてを事前に復習しておくこと(2 時間)
	9	論理問題①	集合	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分） ・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	10	論理問題②	場合の数	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分） ・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	11	論理問題③	確率	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分） ・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	12	論理問題④	表の読み取り	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分） ・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	13	論理問題⑤	推論①	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分） ・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	14	論理問題⑥	推論②	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分） ・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	15	総復習②	論理問題復習	・これまでの講義で学習した問題すべてを事前に復習しておくこと(2 時間)

関連科目	数的能力開発Ⅰ、キャリアデザインⅡ、就職実践基礎
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
	2			
	3			

評価方法（基準）	「平常点（授業内課題）： 40%」+「中間テスト・最終テスト：50%」+「Smart SPI：10%」 ※第 1 回の平常点は、実力テスト（点数は成績に影響しない）を実施するため 8 点（成績の 8％）とする
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週 1 時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	ラーニングセンター（2 号館 2 階）
備考	『厳選！数学的リテラシー問題集』をメインテキストに、オリジナル教材を必要に応じて配布します。Smart SPI も利用します。 講義内で実施する「小テスト・中間テスト」のフィードバック（解答・解説）は Moodle に提示、あるいは次回講義内で実施する予定です。

科目名	数的能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JKY2372a1		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。 後期は、より実践的な内容で数的能力を高めます。また、実践的な内容に取り組むことで、思考力が高まることも期待されます。
到達目標	この授業を通し、学生にはで取り組んだ数的問題を概ね解けるようになることが求められる。
授業方法と留意点	まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 後期に開講される数的能力開発Ⅱでは、応用力が必要となる実践的な内容を扱います。Ⅰ・Ⅱの両科目の履修を推奨します。 なお、履修者数によっては、2 回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テスト
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習（1 時間）
	2	計数問題①	割合と比	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	3	計数問題②	割合の応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	4	計数問題③	損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	5	計数問題④	速度算①	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	6	計数問題⑤	速度算②	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	7	総復習①	計数問題復習	今まで学習した問題全てを事前に復習（2 時間）
	8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習（2 時間）
	9	論理問題①	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	10	論理問題②	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	11	論理問題③	確率	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	12	論理問題④	表の読み取り	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	13	論理問題⑤	推論①	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	14	論理問題⑥	推論②	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	15	総復習②	論理問題復習	全ての問題を事前に復習（2 時間）

関連科目	数的能力開発Ⅰ、キャリアデザインⅡ		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部
	2		
	3		

参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		

評価方法（基準）	平常点（授業内課題および態度）：40%、中間テスト・最終テスト：50%、SmartSPI：10% ※第1 回の平常点は、実力テスト（点数は成績に影響しない）を実施するため8 点（成績の8 %）とする
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。 毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週1 時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	ラーニングセンター（2 号館 2 階） 7 号館 3 階 全学教育機構
備考	授業で実施する小テストや中間テストの解答・解説はmoodle に掲示、あるいは次回授業内などで実施する予定です。 テキストのほか、一冊ノートを作ることを奨励します。

科目名	数的能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	津村 忠
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JKY2372a1		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。 後期は、より実践的な内容で数的能力を高めます。また、実践的な内容に取り組むことで、思考力が高まることも期待されます。
到達目標	この授業を通し、学生にはで取り組んだ数的問題を概ね解けるようになることが求められる。
授業方法と留意点	まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 後期に開講される数的能力開発Ⅱでは、応用力が必要となる実践的な内容を扱います。Ⅰ・Ⅱの両科目の履修を推奨します。 なお、履修者数によっては、2 回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テスト
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習（1 時間）
	2	計数問題①	割合と比	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	3	計数問題②	割合の応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	4	計数問題③	損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	5	計数問題④	速度算①	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	6	計数問題⑤	速度算②	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	7	総復習①	計数問題復習	今まで学習した問題全てを事前に復習（2 時間）
	8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習（2 時間）
	9	論理問題①	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	10	論理問題②	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	11	論理問題③	確率	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	12	論理問題④	表の読み取り	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	13	論理問題⑤	推論①	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	14	論理問題⑥	推論②	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	15	総復習②	論理問題復習	全ての問題を事前に復習（2 時間）

関連科目	数的能力開発Ⅰ、就職実践基礎、数学基礎、コミュニケーション能力開発
------	-----------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週 1 時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階 教育イノベーションセンター
備考	Teams コードは、コピー＆ペーストでの入力を推奨します。 授業で実施する小テストや中間テストの解答・解説はポータルサイトに掲示する、あるいは次回授業内などで実施する予定です。 テキストのほか、一冊ノートを作ることを奨励します。

科目名	数的能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本 朗子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JKY2372a1		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。 後期は、より実践的な内容で数的能力を高めます。また、実践的な内容に取り組むことで、思考力が高まることも期待されます。
到達目標	この授業を通し、学生にはで取り組んだ数的問題を概ね解けるようになることが求められる。
授業方法と留意点	まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 後期に開講される数的能力開発Ⅱでは、応用力が必要となる実践的な内容を扱います。Ⅰ・Ⅱの両科目の履修を推奨します。 なお、履修者数によっては、2 回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テスト
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習（1 時間）
	2	計数問題①	割合と比	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	3	計数問題②	割合の応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	4	計数問題③	損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	5	計数問題④	速度算①	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	6	計数問題⑤	速度算②	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	7	総復習①	計数問題復習	今まで学習した問題全てを事前に復習（2 時間）
	8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習（2 時間）
	9	論理問題①	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	10	論理問題②	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	11	論理問題③	確率	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	12	論理問題④	表の読み取り	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	13	論理問題⑤	推論①	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	14	論理問題⑥	推論②	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・ 講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
	15	総復習②	論理問題復習	全ての問題を事前に復習（2 時間）

関連科目	数的能力開発Ⅰ、キャリアデザインⅡ
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業内課題および態度）：40%、中間テスト・最終テスト：50%、SmartSPI：10% ※第1 回の平常点は、実力テスト（点数は成績に影響しない）を実施するため8 点（成績の8 %）とする
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。 毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週1 時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	ラーニングセンター（2 号館 2 階） 7 号館 3 階 全学教育機構
備考	授業で実施する小テストや中間テストの解答・解説はmoodle に掲示、あるいは次回授業内などで実施する予定です。 テキストのほか、一冊ノートを作ることを奨励します。

科目名	コミュニケーション能力開発	科目名 (英文)	Development of Communication Ability
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	津村 忠、橋本 朗子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1512a3		

授業概要・目的	社会に必要なコミュニケーションスキルを習得するための授業です。読む・書く・話す・聴く の 4 技能は常に求められるスキルですが、それらは「技術」として認識し、訓練することによってより実践的なものに高めることが可能です。この授業では毎回「こちらの意図を的確に伝える」技術や「相手の意図を十分に理解する」技術、すなわち「話す」「聴く」技術を高める練習をします。普段、ディスカッションをしたり、プレゼンテーションを練習する機会はあまりありません。講義を通じてこれら社会で求められる力を身につけたい人は受講をお勧めします。講師陣はそれぞれが、人材採用・社会人教育の frontline で長年実務を経験したり、航空業界で多種多様な価値観に触れた経験や、様々な業界で実務経験を持ち、「話す」「聴く」技術を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使えるコミュニケーション能力の獲得を目指します。
到達目標	この授業を通じて学生には、高度なコミュニケーションスキルにより社会活動において自らが望む相応の結果を出せるようになることが期待される。 SDGs4 SDGs10
授業方法と留意点	授業は理論と実践で構成されています。コミュニケーション能力は理論を知ったうえで、アウトプットする訓練が必要です。実践については授業の性質上、ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーションになることもあります。対面時は必ずマスク着用、適度な距離を保つことに留意してください。 社会状況によってはオンラインになることもあります。情報は Microsoft Teams にて発信しますので、必ず確認するようにしてください。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	コミュニケーションとは	コミュニケーションの本質を考える。	事前にシラバスを熟読しておくこと。 講義内容を復習し、理解しておくこと。 (目安: 30 分)
	2	傾聴力、質問力を高める	聴くための技術の基本的な方法と聞いた内容を深めるための質問方法について学ぶ。	事前にコミュニケーションの本質を理解しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安: 30 分)
	3	ロジカルコミュニケーション	論理的に会話するための基礎を学ぶ。	事前に論理的思考方法の概略を理解しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安: 1 時間)
	4	コミュニケーションの技法	相手により伝わるための非言語コミュニケーションについて学ぶ。	事前に非言語コミュニケーションの概略を調査・確認しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安: 1 時間)
	5	プレゼンテーション①	プレゼンテーションの基礎について学ぶ。	事前にプレゼンテーションの概略を調査・確認しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安: 1 時間)
	6	プレゼンテーション②	プレゼンテーション (個人プレゼンの準備)	事前に前回講義に基づく実践成果を整理しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安: 1 時間)
	7	プレゼンテーション③	プレゼンテーション (個人プレゼン完成) ※評定あり	事前に前回講義に基づく実践成果を整理しておくこと。 講義内容を復習し、各自プレゼンテーションの準備とシナリオ作成を行うこと。 (目安: 2 時間)
	8	言語理解①	社会で必要とされる言語理解の基礎について学ぶ。	事前に各種言語問題に目を通しておくこと。 学習範囲を復習しておくこと。 (目安: 1 時間)
	9	言語理解②	社会で必要とされる言語理解の応用について学ぶ。	事前に各種言語問題に目を通しておくこと。 学習範囲を復習しておくこと。 (目安: 1 時間)
	10	言語理解③	社会で必要とされる言語理解の基礎と応用の演習問題を解く。 ※評定あり	事前に各種言語問題に目を通しておくこと。 学習範囲を復習しておくこと。 (目安: 1 時間)
	11	グループディスカッション①	グループディスカッションの基礎について学ぶ。	事前にディスカッションの概略を調査・確認しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安: 1 時間)
	12	グループディスカッション②	グループディスカッションの演習 (基本編) で学ぶ。	事前に前回講義に基づく実践成果を整理しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安: 1 時間)
	13	グループディスカッション③	グループディスカッション実践演習 (模擬選考) ※評定あり	事前に前回講義に基づく実践成果を整理しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安: 1 時間)
	14	ダイバーシティ・コミュニケーション	多様性社会の中、望まれるコミュニケーションスキルを学ぶ。	事前にダイバーシティの概略を調査・確認しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安: 2 時間)
	15	総合演習	これまで実施した授業の内容を踏まえ、自分を的確に且つ効果的に表現すること学び、実践する。	事前に全ての範囲を復習しておくこと。 (目安: 2 時間)

			※評定あり	
関連科目	キャリアデザインⅡ、数的能力開発、就職実践基礎			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の小レポート 30 点、プレゼンテーション 15 点、言語理解 20 点、グループディスカッション 10 点、総合演習レポート 25 点			
学生への メッセージ	人間は「社会的動物」です。他者との関係の中で生きていかねばなりません。他者との関係性を良好に保つことは、豊かな人生を送るための重要な条件になります。そのために求められるものが「コミュニケーション能力」と言われており、これはビジネスシーンにおいても同様です。コミュニケーションを楽しみながら、適切に行えるようになっていきましょう。			
担当者の 研究室等	7 号館 3 階 全学教育機構			
備考				

科目名	ビジネスマナー I	科目名 (英文)	Business Manner I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本 朗子・山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1513a3		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。 組織人およびフリーランスとしての自身の経験と、人材育成・組織開発コンサルティングを行ってきたビジネス現場での経験を交えて実践的な“ビジネスマナー”をお伝えします。
到達目標	この授業を通じて学生には、クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」を実践できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	テキストは Web 上にアップロードするので、各自で事前に必ず準備すること。※プリントアウトが望ましい 授業は講義中心で進めるが、ペアワークやグループワークも実施する。毎回、学修課題の提出があるのできちんと取り組むことが求められる。
科目学習の効果（資格）	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーションーあいさつの重要性 (理論と実践)	- 授業のオリエンテーション - 授業のルール - あいさつの真の意味とは - 正しい基本姿勢を学ぶ	- 事前学修: ビジネスマナーとは何かを考えること (30 分) - 事後学修: ビジネスマナーとは何か、400 字でまとめること (60 分)
	2	仕事の進め方と組織活動	- 定型業務と非定型業務 - コスト意識とエコ活動 - 仕事の基本の 8 つの意識 - 話し方と聞き方	- 事前学修: 企業のエコ活動について調べる こと (30 分) - 事後学修: 仕事とは何か、まとめること (60 分)
	3	目標設定と PDCA サイクル	- 目標設定 (MBO) - PDCA とは - チームと個人の役割	- 事前学修: PDCA について調べる こと (30 分) - 事後学修: あなたの日常生活における MBO と PDCA を考え、まとめること (60 分)
	4	スケジュールと出張業務	- スケジュールの作り方 - 業務としての出張-YTT 方式-	- 事前学修: あなたの 1 週間予定表を作成すること (30 分) - 事後学修: あなたの予定表作成について振り返り、まとめること (60 分)
	5	ビジネスの場での敬語表現	- 基本的な敬語表現の復習 - ビジネスの場での使用方法-TP0 をもとに-	- 事前学修: 敬語プリント①をすること (30 分) - 事後学修: ケーススタディプリントをすること (60 分)
	6	電話応対	- ビジネスフォンの扱い方 5W2H から 6W3H へ - 簡潔メモの作り方 - 不在処理と伝言	- 事前学修: 電話応対プリントをすること (30 分) - 事後学修: ロールプレイングを繰り返すこと (60 分)
	7	来客応対	- 組織図と対応 - 簡単な応対から不在処理や重複処理まで - 名刺交換 ※対面授業に切り替え	- 事前学修: 来客応対プリント①をすること (30 分) - 事後学修: 来客対応プリント②をすること (60 分)
	8	ハウ・レン・ソウ	- ビジネスにおける「報連相」 - 指示の受け方 - 業務の優先順位	- 事前学修: 報告・連絡・相談の重要性について調べる こと (30 分) - 事後学修: ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をすること (60 分)
	9	ビジネス文書の基本①	- 社外文書が基本 - 商取引文書と社外文書の相違 - 社内文書と社外文書の種類 - ファイリング	- 事前学修: ビジネス文書始める前にをすること (30 分) - 事後学修: ビジネス文書②をすること (60 分)
	10	ビジネス文書の基本②	実践	- 事前学修: ビジネス文書③をすること (30 分) - 事後学修: ビジネス文書④をすること (60 分)
	11	ビジネス通信の基本	- 通信手段 (電子メール、ファックス等) の選択 - 作成上の注意点 - 郵便・宅配便の知識	- 事前学修: 郵便の知識プリント①をすること (30 分) - 事後学修: メール文書を作成すること (60 分)
	12	法的業務	- 押印と印鑑の意味 - 内容証明 - 個人情報保護 (P マーク) - コンプライアンス	- 事前学習: コンプライアンスについて調べる こと (30 分) - 事後学修: 個人情報保護法についてレポートを作成すること (60 分)
	13	設営の基本	- YTT 方式からの業務遂行 - 確認の必要性 - 他部署とのコミュニケーションの必要性	- 事前学修: 同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめること (30 分) - 事後学修: 設営事例をまとめること (60 分)
	14	慶弔と贈答	- 慶弔時の基本的マナー 「式」について - 業務としての贈答	- 事前学修: 慶弔・贈答プリント①をすること (30 分) - 事後学修: 弔・贈答プリント②をすること (60 分)
	15	協働とコミュニケーション	- 外国人同僚・異文化への対応 - 働き方とキャリア開発 - 公共の場でのマナー	- 事前学修: グローバル社会へ対応するためには何が必要かについて考える こと (30 分) - 事後学修: 共生関係について自らの考えをまとめる こと (60 分)
関連科目	キャリアデザイン I・II、インターンシップ I・II			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

		1			
		2			
		3			
参考書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1			
		2			
		3			
評価方法 (基準)	定期試験 40%、ワーク・授業内課題等 30%、複数回のレポート課題 30%を総合的に判断する。 ただし、出席不良者（欠席6回以上）は評価できないことがある。				
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなってきました。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われています。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質です。みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の重要性を理解し、社会人としての第一歩を築きましょう。				
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室（石井）				
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むことを前提とする。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とすること。質問等は、メールにて受け付ける。課題の解答例の配布や解説は、講義内で適宜行う。				

科目名	文学から学ぶ	科目名（英文）	Literature
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松尾 佳津子
ディプロマポリシー（DP）	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1301a1		

授業概要・目的	「最近余り本を読んでいないなあ」と思っているあなた、でも、本当に読むことがずっとキライでしたか？ 若い人たちの活字離れがあれこれ取り沙汰されている昨今ですが、視覚や聴覚に訴える作品とは異なり、文字を通じてしか伝えられない様々な表現や思いがあることを、ぜひ感じてほしいと願っています。現代の流行作品はきっとあなたが一人でも楽しむでしょうから、私はあなたが一人では決して開くことのないような扉を開いて、作品世界を提示しようと思っています。この講座では、俳句・和歌・短歌・詩・歌詞などの韻文作品を中心に扱います。文字作品の新たな魅力の一つでも発見して、あなた自身の言語生活の豊かな糧として下さい。																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、 ・表面的読解にとどまらず、作者の表現内容を読み解く力を身につけること、 ・そしてそれを基にして考え、感じる経験を積むこと、 ・さらにその考えや思いを文章化する経験値を高めること、 ・読んで「面白かった」で終わるのではなくその思いを言語化する力を身につけること これらを経験及び獲得することが期待されます。																																																																		
授業方法と留意点	毎回授業中に問を提示し、それに対する回答を小レポートに記入して提出していただく形式で授業を進めます。																																																																		
科目学習の効果（資格）	「日本語文章能力検定」などの公的資格もありますが、表現やことばに自覚的である感性を養うことが何よりの学習効果でしょう。																																																																		
授業計画	<table> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> <tr> <td>1</td><td>はじめに</td><td>短詩型文学の広がり概観する。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>短詩型文学（１）</td><td>散文学との違いを考察する。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>短詩型文学（２）</td><td>歴史的な流れを考察する。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>現代詩（１）</td><td>表現の特徴を考える。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>現代詩（２）</td><td>「歌詞」を素材として考える。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>童謡（１）</td><td>子供のころに聞き覚えた歌詞を振り返る。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>童謡（２）</td><td>文学作品として歌詞を考察する。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>短歌（１）</td><td>表現技法の特徴を考察する。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。 ※この回から対面に変更。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>短歌（２）</td><td>創作の過程を追体験する。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>短歌（３）</td><td>現代の作品と古典作品の感性の差を比較する。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>俳句（１）</td><td>表現技法の特徴を考察する。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>俳句（２）</td><td>象徴表現の広がり考察する。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>俳句（３）</td><td>「俳句」から「ハイク」への広がり考察する。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>韻文の翻訳（１）</td><td>翻訳を通じて伝わるものと伝わらないものを考える。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>韻文の翻訳（２）</td><td>「現代口語表現訳」から見えてくるものを考える。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。</td></tr> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	はじめに	短詩型文学の広がり概観する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。	2	短詩型文学（１）	散文学との違いを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。	3	短詩型文学（２）	歴史的な流れを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。	4	現代詩（１）	表現の特徴を考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。	5	現代詩（２）	「歌詞」を素材として考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。	6	童謡（１）	子供のころに聞き覚えた歌詞を振り返る。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。	7	童謡（２）	文学作品として歌詞を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。	8	短歌（１）	表現技法の特徴を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。 ※この回から対面に変更。	9	短歌（２）	創作の過程を追体験する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。	10	短歌（３）	現代の作品と古典作品の感性の差を比較する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。	11	俳句（１）	表現技法の特徴を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。	12	俳句（２）	象徴表現の広がり考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。	13	俳句（３）	「俳句」から「ハイク」への広がり考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。	14	韻文の翻訳（１）	翻訳を通じて伝わるものと伝わらないものを考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。	15	韻文の翻訳（２）	「現代口語表現訳」から見えてくるものを考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	はじめに	短詩型文学の広がり概観する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。																																																																
2	短詩型文学（１）	散文学との違いを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。																																																																
3	短詩型文学（２）	歴史的な流れを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。																																																																
4	現代詩（１）	表現の特徴を考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。																																																																
5	現代詩（２）	「歌詞」を素材として考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。																																																																
6	童謡（１）	子供のころに聞き覚えた歌詞を振り返る。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。																																																																
7	童謡（２）	文学作品として歌詞を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。																																																																
8	短歌（１）	表現技法の特徴を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。 ※この回から対面に変更。																																																																
9	短歌（２）	創作の過程を追体験する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。																																																																
10	短歌（３）	現代の作品と古典作品の感性の差を比較する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。																																																																
11	俳句（１）	表現技法の特徴を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。																																																																
12	俳句（２）	象徴表現の広がり考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。																																																																
13	俳句（３）	「俳句」から「ハイク」への広がり考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。																																																																
14	韻文の翻訳（１）	翻訳を通じて伝わるものと伝わらないものを考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。																																																																
15	韻文の翻訳（２）	「現代口語表現訳」から見えてくるものを考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。																																																																
関連科目	こういった方面に興味のある人は、他に「日本語読解」などを学ぶことで、より理解を深めることができるでしょう。																																																																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名																																																												
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	◇毎回提出する小レポートが出席確認を兼ねます。 ◇最終成績は、毎回の小レポートの回答状況6割と、最終課題の結果4割で判断します。 ◇原則として小レポート提出が半分以下の場合は、最終の成績評価を行いません。			
学生への メッセージ	遠いところに自分と同じ考えの人を発見する喜び。近いところに自分の思いも寄らないような発想の人に会おう楽しみ。・・・文学に触れる意味は、この二点に尽きるのではないかと、私は思っています。どうかあなたが「よい出会い」を経験できますように。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	提出された小レポートは、抄出して次回の講義で共有し、更なる学習の素材として活用します。			

科目名	日本の歴史	科目名 (英文)	History of Japan
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本 康司
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1306a1		

授業概要・目的	歴史学とは、過去の諸事象を研究する学問である。物事を長期的な視野からみるという姿勢を持つことや、現在とは異なる政治・社会・文化等を知ることは、現代社会を見つめ直す際に重要な手段となる。 そのなかで、本授業では、日本の歴史の基本的な流れを理解することを目的とする。 古代から近現代まで、毎回テーマを設定し、講義を行う。 随時、最新の研究成果を紹介するとともに、歴史学の手法や考え方についても紹介する。		
到達目標	本授業を通じて日本の歴史に関する正しい知識を得るとともに、歴史学的な考え方について理解できるようになることを目標とする (DP1)。		
授業方法と留意点	授業ごとにプリントを配付する。		
科目学習の効果 (資格)			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等 事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	本授業の進め方や評価方法、歴史学を学ぶ意義について説明します。 シラバスを一読しておくこと (所要時間 20 分)。
	2	古代 1 : 古代国家の形成	農耕社会の成立から、ヤマト政権の誕生、律令国家の形成までを学びます。 予習 : 高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習 : レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。
	3	古代 2 : 摂関政治から院政へ	摂関政治や院政について学びます。また、仏教や新たな文化の発達についても説明します。 予習 : 高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習 : レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。
	4	古代 3 : 武士の登場	武士の誕生と貴族社会の関係について学びます。 予習 : 高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習 : レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。
	5	中世 1 : 武家政権の成立と展開	武家政権である平氏政権や鎌倉幕府について学びます。特に、鎌倉幕府の成立過程について説明を加えます。 予習 : 高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習 : レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。
	6	中世 2 : 元寇から南北朝内乱へ	鎌倉幕府の制度や承久の乱、元寇について学び、鎌倉幕府滅亡の要因について考えます。 予習 : 高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習 : レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。
	7	中世 3 : 室町幕府の成立と展開	室町幕府の成立や、南北朝の動乱について学びます。 予習 : 高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習 : レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。
	8	中世 4 : 戦国時代へ	戦国大名の登場から天下統一までの動向を学びます。 予習 : 高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習 : レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。
	9	近世 1 : 江戸幕府の成立と展開	江戸幕府の成立過程や制度、对外政策について学びます。 予習 : 高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習 : レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。
	10	近世 2 : 江戸幕府の動揺	幕藩体制や江戸幕府の諸政策・改革について学びます。また、江戸時代の村についても説明をします。 予習 : 高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習 : レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。
	11	近世 3 : 江戸幕府の終焉	倒幕運動の広まりや、江戸幕府の对外政策・開港について学びます。 予習 : 高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習 : レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。
	12	近現代 1 : 明治政府の成立と近代国家への歩み	明治政府の諸政策を学び、近代国家への歩みについて考えます。 予習 : 高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習 : レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。
	13	近現代 2 : 日清・日露戦争と日本	日清・日露戦争や国際関係、当時の日本政治について学びます。 予習 : 高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習 : レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。
	14	近現代 3 : 第二次世界大戦	第二次世界大戦と日本の関わりについて学びます。 予習 : 高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習 : レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。
	15	近現代 4 : 戦後日本と現代社会	敗戦後の復興と現代社会への繋がりについて学びます。 予習 : 高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習 : レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。
関連科目			
教科書			

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業ごとのコメントペーパー 30% 期末試験 70% コメントペーパーでは、授業の内容を理解しているかを評価する。 期末試験では、授業全体を通じて日本の歴史の流れを理解したかを評価する。			
学生への メッセージ	積極的に学ぶ意欲を持つ学生の受講を希望します。 わからないことがあれば、放置せず、自分で調べたり、質問をする癖をつけましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	世界の歴史	科目名（英文）	History of the World
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加来 奈奈
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1307a1		

授業概要・目的	本講義では、ヨーロッパの歴史を通じて、過去と現在の変化や諸地域における差異を検討し、現代世界の成り立ちを知るとともに、歴史を通じて現代社会の諸問題に対する批判的なまなざしを涵養することを目指す。そのために、ヨーロッパ史の基礎的な知識を習得し、時代や地域の特徴と、現代社会の形成の過程を理解することを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、ヨーロッパの歴史の重要な特徴を理解し、説明できるようになり、それを活かして現代社会の問題について能動的に考えることができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	毎回パワーポイントにもとづいて授業を進め、適宜、資料を配布する。また、授業中の配布資料やレジュメは授業前に Teams から各自ダウンロードする（Teams のコードなどの詳細は、初回の授業の際に伝える）
科目学習の効果（資格）	歴史学に関する基本的な知識を獲得するとともに、現代社会を歴史的視点から読み解く力を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	学問としての歴史学について	（事前）西洋の古代、中世、近世、近代、現代という時代がいつかを調べてくる。
	2	中世ヨーロッパ	中世ヨーロッパの社会	（事前）中世ヨーロッパのイメージを書きだす。 （事後）中世の身分と宗教について整理する。
	3	中世ヨーロッパ	中世ヨーロッパの王権	（事前）15 世紀までのフランス王とイングランド王について調べてくる。 （事後）中世英仏の年表を作って、これまでのことを整理する。
	4	近世とは	・近世の特徴 ・ハプスブルク家 ・地域の反応	（事前）ハプスブルク家について調べてくる。 （事後）近世の特徴を整理する。
	5	宗教改革	・ルターの登場 ・プロテスタントの広がり ・対抗宗教改革	（事前）カトリックとプロテスタントの違いを調べる。 （事後）二つの違いを整理する。
	6	宗派対立	・ネーデルラントを事例とした宗派対立の様相	（事前）ルーベンスについて調べてくる。 （事後）ヨーロッパの宗派対立と地域の特徴を整理する。
	7	イングランドの宗教改革	・テューダー朝の成立 ・ヘンリ 8 世の改革	（事前）ヘンリ 8 世について調べてくる。 （事後）イングランドの国教会について整理する。
	8	エリザベス 1 世と国際関係	・エリザベス 1 世の統治	（事前）エリザベス 1 世について調べてくる。 （事後）17 世紀ごろのヨーロッパの各国の勢力範囲について整理する。
	9	啓蒙時代	・啓蒙思想 ・啓蒙専制君主	（事前）啓蒙という言葉調べてくる。
	10	啓蒙改革（1）	マリア・テレジアの改革	（事前）マリア・テレジアについて調べる。 （事後）啓蒙改革の特徴をまとめる。
	11	啓蒙改革（2）	ヨーゼフ 2 世の改革	（事前）ヨーゼフ 2 世について調べてくる。 （事後）啓蒙改革の結果について考察する。
	12	1 9 世紀のヨーロッパ	・フランス革命と共和政 ・国民国家 ・1 8 4 8 年革命	（事前）ライシテという言葉調べてくる。（事後）スカーフ問題について考える。
	13	ナショナリズムとハプスブルク	・アウスグライヒ ・民族	（事前）この時代の民族とは何かを考えてくる。（事後）東欧諸国の現在の国境を確認する。
	14	第一次世界大戦	・戦争の展開 ・戦争と女性 ・戦争と民族	（事前）第一次世界大戦の流れについて確認する。 （事後）第一次世界大戦を通して起きたヨーロッパ社会の変化について考える。
	15	総括	・講義全体のまとめ ・現在のヨーロッパの諸問題	（事前）全授業内容を復習しておく。 （事後）歴史を通して、現在の社会を検討する。

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学で学ぶ西洋史 [古代・中世]	服部良久ほか	ミネルヴァ書房
	2	大学で学ぶ西洋史 [近現代]	小山哲ほか	ミネルヴァ書房
	3	ハプスブルク史研究入門	大津留厚ほか	昭和堂

評価方法（基準）	授業中の課題（コメントシートもしくは forms でのコメント）、期末テスト（70％）で評価する。
学生へのメッセージ	高校までの「歴史」は、過去の出来事・事件の年号や偉人の名前を暗記する科目だと思われがちです。しかし、大学で研究する「歴史学」は、歴史の史料や事象を通じて、その背景や理由を多角的に考えることが重要です。ヨーロッパの様々な時代や地域の特徴を学び、その違いや類似性を考察することを通して、現代社会の多様性を理解するための視点を提供できればと思います。
担当者の研究室等	7 号館 4 階加来研究室
備考	事前、事後学習に要する総時間は約 60 時間である。

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松吉 翔也
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前事後学習する。(1 時間)
	2	Unit 1 : My Life	・異文化紹介 ・教科書を用いて動画視聴、読解、リスニングなど 4 技能を中心に英語を学習する。	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前事後学習する。(1 時間)
	3	Unit 1 : My Life (外国文化紹介/身近な英語表現 ①)	・異文化紹介 ・教科書を用いて動画視聴、読解、リスニングなど 4 技能を中心に英語を学習する。	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前事後学習する。(1 時間)
	4	Unit 2 : Let's Eat!	・異文化紹介 ・教科書を用いて動画視聴、読解、リスニングなど 4 技能を中心に英語を学習する。	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前事後学習する。(1 時間)
	5	Unit 2 : Let's Eat! (外国文化紹介/身近な英語表現 ②)	・異文化紹介 ・教科書を用いて動画視聴、読解、リスニングなど 4 技能を中心に英語を学習する。	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前学習する。(1 時間)
	6	映画視聴 ①	・映画を視聴し、その中で描かれる異文化や英語表現について理解を深める。 ・ワークシートを用いて日本文化/社会との比較を行う。	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前学習する。(1 時間)
	7	映画視聴 ①	・映画を視聴し、その中で描かれる異文化や英語表現について理解を深める。 ・ワークシートを用いて日本文化/社会との比較を行う。	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前学習する。(1 時間)
	8	Unit 3 : Mysteries	・異文化紹介 ・教科書を用いて動画視聴、読解、リスニングなど 4 技能を中心に英語を学習する。	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前学習する。(1 時間)
	9	Unit 4 : Trends	・異文化紹介 ・教科書を用いて動画視聴、読解、リスニングなど 4 技能を中心に英語を学習する。	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前学習する。(1 時間)
	10	Unit 4 : Trends (外国文化紹介/身近な英語表現 ③)	・異文化紹介 ・教科書を用いて動画視聴、読解、リスニングなど 4 技能を中心に英語を学習する。	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前学習する。(1 時間)
	11	Unit 5 : My Neighborhood	・異文化紹介 ・教科書を用いて動画視聴、読解、リスニングなど 4 技能を中心に英語を学習する。	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前学習する。(1 時間)
	12	Unit 6 : Goals (外国文化紹介/身近な英語表現 ④)	・異文化紹介 ・教科書を用いて動画視聴、読解、リスニングなど 4 技能を中心に英語を学習する。	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前学習する。(1 時間)
	13	映画視聴 ②	・映画を視聴し、その中で描かれる異文化や英語表現について理解を深める。 ・ワークシートを用いて日本文化/社会との比較を行う。	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前学習する。(1 時間)
	14	映画視聴 ②	・映画を視聴し、その中で描かれる異文化や英語表現について理解を深める。 ・ワークシートを用いて日本文化/社会との比較を行う。	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前学習する。(1 時間)
	15	プレゼンテーション	最終課題プレゼンテーション	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前学習する。(1 時間)
関連科目	英語実践			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	World Link (4th Edition) Level 2	Nancy Douglas 他	センゲージラーニング
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	①小テスト, ②課題・提出物, ③出席, ④発表: 100% (詳しくは初回授業時に説明します)			
学生への メッセージ	映像メディアや映画などを通して英語や異文化に触れる機会を増やします。 英語が苦手でも楽しみながら学習できるようにしますので一緒に頑張りましょう！			
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)			
備考				

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 真弓
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Chapter 1 Heads Up	効率的なリーディング	事前：単語調べ (30 分) 事後：文法、単語復習 (45 分)
	2	Chapter 1 Heads Up	効率的なリーディング	事前：単語調べ (30 分) 事後：文法、単語復習 (45 分)
	3	Chapter 2 Burping Cows	フレーズリーディングを理解する	事前：単語調べ (30 分) 事後：文法、単語復習 (45 分)
	4	Chapter 2 Burping Cows	フレーズリーディングを理解する	事前：単語調べ (30 分) 事後：文法、単語復習 (45 分)
	5	Chapter 3 Going Vegetarian	フレーズリーディングを理解する	事前：単語調べ (30 分) 事後：文法、単語復習 (45 分)
	6	Chapter 3 Going Vegetarian	フレーズリーディングを理解する	事前：単語調べ (30 分) 事後：文法、単語復習 (45 分)
	7	確認テスト		
	8	Chapter 4 Coffee Shop Secrets	スキニングで情報を検索する	事前：単語調べ (30 分) 事後：文法、単語復習 (45 分)
	9	Chapter 4 Coffee Shop Secrets	スキニングで情報を検索する	事前：単語調べ (30 分) 事後：文法、単語復習 (45 分)
	10	Chapter 5 Unusual Jobs	スキミングで概要を把握する	事前：単語調べ (30 分) 事後：文法、単語復習 (45 分)
	11	Chapter 5 Unusual Jobs	スキミングで概要を把握する	事前：単語調べ (30 分) 事後：文法、単語復習 (45 分)
	12	Chapter 6 Underwater Monsters	背景知識を活性化させる	事前：単語調べ (30 分) 事後：文法、単語復習 (45 分)
	13	Chapter 6 Underwater Monsters	背景知識を活性化させる	事前：単語調べ (30 分) 事後：文法、単語復習 (45 分)
	14	Chapter 7 Flash Fiction	背景知識を活用する	事前：単語調べ (30 分) 事後：文法、単語復習 (45 分)
	15	確認テスト 2		

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	READING PALETTE Green	Katsuhiko Muto Timothy Kiggell	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加、テスト (小テスト、まとめテスト等も含む)・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生へのメッセージ	単語力、文法力を学びながら、英語のスキルも同時に学習し、自学習ができるようになります。クラスレベルに応じた授業で、無理なく学習ができる授業構成を目指しています。積極的なクラス参加を期待しています。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	課題、レポートおよび小テストに対するフィードバックの方法 確認テストの正解は次回の授業で解説する。

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松吉 翔也
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前事後学習する。（1 時間）
	2	Unit 7 : Celebrations	・異文化紹介 ・教科書を用いて動画視聴、読解、リスニングなど 4 技能を中心に英語を学習する。	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前事後学習する。（1 時間）
	3	Unit 7 : Celebrations (外国文化紹介/身近な英語表現 ①)	・異文化紹介 ・教科書を用いて動画視聴、読解、リスニングなど 4 技能を中心に英語を学習する。	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前事後学習する。（1 時間）
	4	Unit 8 : Once Upon A Time	・異文化紹介 ・教科書を用いて動画視聴、読解、リスニングなど 4 技能を中心に英語を学習する。	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前事後学習する。（1 時間）
	5	Unit 9 : Work (外国文化紹介/身近な英語表現 ②)	・異文化紹介 ・教科書を用いて動画視聴、読解、リスニングなど 4 技能を中心に英語を学習する。	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前学習する。（1 時間）
	6	映画視聴 ①	・映画を視聴し、その中で描かれる異文化や英語表現について理解を深める。 ・ワークシートを用いて日本文化/社会との比較を行う。	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前学習する。（1 時間）
	7	映画視聴 ①	・映画を視聴し、その中で描かれる異文化や英語表現について理解を深める。 ・ワークシートを用いて日本文化/社会との比較を行う。	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前学習する。（1 時間）
	8	Unit 10 : Stay In Touch	・異文化紹介 ・教科書を用いて動画視聴、読解、リスニングなど 4 技能を中心に英語を学習する。	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前学習する。（1 時間）
	9	Unit 10 : Stay In Touch (外国文化紹介/身近な英語表現 ③)	・異文化紹介 ・教科書を用いて動画視聴、読解、リスニングなど 4 技能を中心に英語を学習する。	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前学習する。（1 時間）
	10	Unit 11 : Technology	・異文化紹介 ・教科書を用いて動画視聴、読解、リスニングなど 4 技能を中心に英語を学習する。	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前学習する。（1 時間）
	11	Unit 12 : Travel	・異文化紹介 ・教科書を用いて動画視聴、読解、リスニングなど 4 技能を中心に英語を学習する。	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前学習する。（1 時間）
	12	Unit 12 : Travel (外国文化紹介/身近な英語表現 ④)	・異文化紹介 ・教科書を用いて動画視聴、読解、リスニングなど 4 技能を中心に英語を学習する。	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前学習する。（1 時間）
	13	映画視聴 ②	・映画を視聴し、その中で描かれる異文化や英語表現について理解を深める。 ・ワークシートを用いて日本文化/社会との比較を行う。	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前学習する。（1 時間）
	14	映画視聴 ②	・映画を視聴し、その中で描かれる異文化や英語表現について理解を深める。 ・ワークシートを用いて日本文化/社会との比較を行う。	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前学習する。（1 時間）
	15	プレゼンテーション	最終課題プレゼンテーション	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前学習する。（1 時間）
関連科目	英語実践			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	World Link (4th Edition) Level 2	Nancy Douglas 他	センゲージラーニング
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	①小テスト, ②課題・提出物, ③出席, ④発表 : 100% (詳しくは初回授業時に説明します)			
学生への メッセージ	映像メディアや映画などを通して英語や異文化に触れる機会を増やします。 英語が苦手でも楽しみながら学習できるようにしますので一緒に頑張りましょう！			
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)			
備考				

科目名	基礎英語Ⅱb	科目名（英文）	Basic English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山本 真弓
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1326c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Chapter 8 What 3 Words	内容語と機能語を区別する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
	2	Chapter 8 What 3 Words	内容語と機能語を区別する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
	3	Chapter 9 Sounds of the Sea	単語を分解して意味を考える	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
	4	Chapter 9 Sounds of the Sea	単語を分解して意味を考える	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
	5	Chapter 10 Rowing across the Atlantic	未知語の意味を推測する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
	6	Chapter 10 Rowing across the Atlantic	未知語の意味を推測する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
	7	確認テスト		
	8	Chapter 11 Rollercops	代名詞についていく	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
	9	Chapter 11 Rollercops	代名詞についていく	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
	10	Chapter 12 Plant Milk	ディスコースマーカーに着目する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
	11	Chapter 12 Plant Milk	ディスコースマーカーに着目する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
	12	Chapter 13 Alien Life	エッセイ構造を理解する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
	13	Chapter 13 Alien Life	エッセイ構造を理解する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
	14	Chapter 14 Treasure Hunt	パラグラフ構造を理解する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
	15	確認テスト 2		

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	READING PALETTE Green	Katsuhiko Muto Timothy Kiggell	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 100%
----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	単語力、文法力を学びながら、英語のスキルも同時に学習し、自学習ができるようになります。様々な話題を基に、クラスディスカッション等を通して互いに意見を言い合い、切磋琢磨しながら頑張ってください☆
-----------	--

担当者の研究室等備考	7 号館 2 階 非常勤講師室
------------	-----------------

科目名	実践英語 I b	科目名 (英文)	Practical English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	A B C
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田村 康子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN2327c1		

授業概要・目的	この授業では、TOEIC300ー400 点レベルの基礎的な英語力を養うことを目標に、テキストに沿って練習問題をこなしていく。TOEIC 関連の基本的な語彙や表現を覚え、E-mail、ビジネス文書などを取り上げた簡単な読解問題に親しんでもらう。また、各ユニットで説明されている英語表現を習得する。テキストに沿って聞き取りを行い、リスニング力も養成する。練習問題をたくさんこなして TOEIC の点数アップを狙う。
到達目標	受講者が、TOEIC の出題形式に慣れ、授業のみならず、自主的に TOEIC の受験勉強をすすめ、最終的には 50～100 点程度スコアを上げることが目標である。
授業方法と留意点	テキストに沿って、TOEIC のリスニング、リーディング対策を行っていく。
科目学習の効果（資格）	語彙力の強化及び TOEIC のスコアアップ。リスニング、リーディング力の向上。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 1: 旅行①	リスニング・リーディング	事前学習:テキスト p. 1-6 練習問題を行う (1j 時間) 事後学習: 授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1 時間)
	2	Unit 2: オフィス①	リスニング・リーディング	事前学習:テキスト p. 7-12 練習問題を行う (1 時間) 事後学習: 授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1 時間)
	3	Unit 3: レストラン	リスニング・リーディング	事前学習: テキスト p. 13-18 練習問題を行う (1 時間) 事後学習: 授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1 時間)
	4	Unit 4: 季節・天気	リスニング・リーディング	事前学習:テキスト p19-24 練習問題を行う (1 時間) 事後学習: 授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1 時間)
	5	Unit 5: 健康	リスニング・リーディング	事前学習: テキスト p. 25-30 練習問題を行う (1 時間) 事後学習: 授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1 時間)
	6	いろいろな英語の発音に慣れよう① Unit 6: 旅行②	リスニング・リーディング	事前学習: テキスト p. 31-38 練習問題を行う (1 時間) 事後学習: 授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1 時間)
	7	Unit 7: 休暇	リスニング・リーディング	事前学習: テキスト p. 39-44 練習問題を行う (1 時間) 事後学習: 授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1 時間)
	8	復習、臨時テスト	復習と臨時テスト	テスト勉強: p. 1-44 まで復習 (2 時間)
	9	Unit 8: オフィス②	リスニング・リーディング	事前学習: テキスト p. 45-50 練習問題を行う (1 時間) 事後学習: 授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1 時間)
	10	Unit 9: ショッピング	リスニング・リーディング	事前学習: テキスト p. 51-56 練習問題を行う (1 時間) 事後学習: 授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1 時間)
	11	Unit 10:就職活動	リスニング・リーディング	事前学習: テキスト p. 57-62 練習問題を行う (1 時間) 事後学習: 授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1 時間)
	12	いろいろな英語の発音に慣れよう② Unit 11: 娯楽	リスニング・リーディング	事前学習: テキスト p. 63-70 練習問題を行う (1 時間) 事後学習: 授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1 時間)
	13	Unit 12: 旅行③	リスニング・リーディング	事前学習: テキスト p. 71-76 練習問題を行う (1 時間) 事後学習: 授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1 時間)
	14	復習、臨時テスト	復習と臨時テスト	テスト勉強: p. 45-76 まで復習 (2 時間)
	15	Unit 13: オフィス③	リスニング・リーディング	事前学習: テキスト p. 77-82 練習問題を行う (1 時間) 事後学習: 授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1 時間)テキスト

関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加、貢献（小テスト、臨時テスト等を含む） 100%			
学生への メッセージ	毎回の授業に必ず出席し、授業内容を復習すること。 単語力を増強するため e-learning に積極的に取り組むこと。 さらに、TOEIC を受験することを勧める。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストを読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	実践英語 I b	科目名 (英文)	Practical English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	D E G H I K
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN2327c1		

授業概要・目的	この授業では、TOEIC300－400 点レベルの基礎的な英語力を養うことを目標に、テキストに沿って練習問題をこなしていく。TOEIC 関連の基本的な語彙や表現を覚え、E-mail、ビジネス文書などを取り上げた簡単な読解問題に親しんでもらう。また、各ユニットで説明されている英語表現を習得する。テキストに沿って聞き取りを行い、リスニング力も養成する。練習問題をたくさんこなして TOEIC の点数アップを狙う。
到達目標	受講者が、TOEIC の出題形式に慣れ、授業のみならず、自主的に TOEIC の受験勉強をすすめ、最終的には 50～100 点程度スコアを上げることが目標である。
授業方法と留意点	テキストに沿って、TOEIC のリスニング、リーディング対策を行っていく。
科目学習の効果（資格）	語彙力の強化及び TOEIC のスコアアップ。リスニング、リーディング力の向上。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Course Introduction	Getting to Know Your Classmates	Purchase textbook, think about course goals
	2	Unit 1: Where Are You From?	Subject-Verb Agreement	Review the Lesson
	3	Unit 2: How Are You Doing?	Be Verbs & Do Verbs	Review the Lesson
	4	Unit 3: How Many Classes Do You Have?	Countable Nouns	Review Units 1- 3
	5	Short Quiz Unit 4: How Much Food Do You Need For Your Party?	Uncountable Nouns	Review the Lesson
	6	Unit 5: How Many People Are There In Your Family?	There Is / There Are / It Is / They Are	Review the Lesson
	7	Unit 6: When Is Your Report Due?	Cardinal & Ordinal Numbers	Review Units 4 - 6
	8	Short Quiz Unit 7: How Was Your Weekend?	Past Tense	Review the Lesson
	9	Unit 7: continued	Past Tense	Review the Lesson
	10	Unit 8: What Time Is Your First Class?	Time	Review the Lesson
	11	Unit 9: Have You Ever Been To Kyoto?	Present Perfect	Review Units 7 - 9
	12	Review Game Short Quiz Unit 10: Can I Ask You A Favor?	Auxiliary Verbs	Review the Lesson
	13	Unit 11: I'm Going To Visit My Grandparents	Future Tense	Review the Lesson
	14	Unit 12: I'm On The Train	Prepositions	Review Units 10 - 12
	15	Review Game Short Quiz	Test Review and Corrections	

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	P r o j e c t E n g l i s h	Vivian Morooka	NAN'Un-DO
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 100%
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず出席し、授業内容を復習すること。 英語力を増強するため e-learning に積極的に取り組むこと。 さらに、TOEIC を受験することを勧める。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストを読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語Ⅱb	科目名（英文）	Practical English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	A B C
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN2328c1		

授業概要・目的	英語を実用的に使用するために特に必要な読解力を育成し、4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。構文研究に加え、それらが実際に使用されうる様々な話題、場面、状況を想定し、必要な表現等も含めて、統合的に学習する。さらに、学生の自発的かつ計画的な語彙学習への取り組みを促し、毎回の小テスト等で習熟度を測る。
到達目標	この科目は語彙の習得を軸としながら、英語を読む・聞く・書くという言語活動をスムーズに行うことができるようになることを目標及びテーマとする。
授業方法と留意点	文法事項を学習し、英文の読解練習を行う。また定着を図るために授業時に小テスト等を行う。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	英文の読解と、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
	2	考えを文にして伝える：	例文・語彙とともに学ぶ。	英文の読解と、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
	3	自分の立場を表明する：	例文・語彙とともに学ぶ。	英文の読解と、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
	4	相手に質問する：	例文・語彙とともに学ぶ。	英文の読解と、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
	5	知りたい内容を求める：	例文・語彙とともに学ぶ。	英文の読解と、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
	6	存在を知らせる：	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
	7	事象を客観的に表現する：	例文・語彙とともに学ぶ。	英文の読解と、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
	8	基本動詞を活用する：	例文・語彙とともに学ぶ。	英文の読解と、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
	9	視点を変える：	例文・語彙とともに学ぶ。	英文の読解と、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
	10	時系列に即して述べる：時制	例文・語彙とともに学ぶ。	英文の読解と、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
	11	文の内容を評価・判断する：	例文・語彙とともに学ぶ。	英文の読解と、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
	12	文のつながりを意識する：	例文・語彙とともに学ぶ。	英文の読解と、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
	13	時間や空間を指定する：	例文・語彙とともに学ぶ。	英文の読解と、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
	14	語彙力テスト	語彙力テストを実施する。終了後、同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイスをを行う。	英文の読解と、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
	15	総括	これまでに学んだ内容を総括する。	総復習（1 時間）

関連科目				
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	語彙テスト（30%） 授業中のテスト・発言・討論、宿題・提出物等（70%）
学生へのメッセージ	英語力は日々の学習の積み重ねです。近道はありませんので、一日一日を大切に頑張ってください。
担当者の研究室等	7 号館 5 階 後藤研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	実践英語Ⅱb	科目名（英文）	Practical English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	D E G H I K
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN2328c1		

授業概要・目的	英語を実用的に使用するために特に必要な基礎文法項目を反復練習し、4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。構文研究に加え、それらが実際に使用されうる様々な話題、場面、状況を想定し、必要な表現等も含めて、統合的に学習する。さらに、学生の自発的かつ計画的な語彙学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	この科目は、英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標及びテーマとする。
授業方法と留意点	文法事項を学習し、例文を反復練習する。また定着を図るために授業時に小テスト等を行う。 必ず辞書を持参してください。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
	2	Introductions and talking about yourselves.	Vocabulary, grammar, pair and group work.	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
	3	Fashion. Describing and understanding descriptions of what people are wearing.	Vocabulary, grammar, pair and group work.	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
	4	Fashion. How to use adjectives.	Vocabulary, grammar, pair and group work.	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
	5	Health. Giving and receiving advice on staying healthy.	Vocabulary, grammar, pair and group work.	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
	6	Health. Giving and receiving advice on being happy.	Vocabulary, grammar, pair and group work.	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
	7	事象を客観的に表現する：非人称の it	Vocabulary, grammar, pair and group work.	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
	8	Small test. Review.	Vocabulary, grammar, pair and group work.	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
	9	Giving and following instructions and directions.	Vocabulary, grammar, pair and group work.	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
	10	Describing where a place is.	Vocabulary, grammar, pair and group work.	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
	11	Holidays and festivals.	Vocabulary, grammar, pair and group work.	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
	12	Describing objects and materials. Giving and understanding descriptions of objects.	Vocabulary, grammar, pair and group work.	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
	13	The future. Discussing hopes, plans and goals.	Vocabulary, grammar, pair and group work.	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
	14	Discussing your plans for the Winter break.	Vocabulary, grammar, pair and group work.	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1 時間）
	15	Small test. Summary and review.	Small test, review, and feedback.	総復習（1 時間）

関連科目				
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English firsthand Success, 5th Edition	Marc Helgesen	Pearson
	2			
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Small tests 20%. 授業態度 Attitude in the lecture: Positiveness to the lecture, understanding instructions in English and following them. Understanding oral questions and clearly and quickly answering. 40% Successfully completing class and homework tasks. P			
学生への メッセージ	英語力は日々の学習の積み重ねです。近道はありませんので、一日一日を大切に頑張ってください。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。
----	--

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	南谷 静香
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JJA1336a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。 課題およびレポートについて、未提出のものがある場合は単位の取得を認めない。課題日に欠席した場合は、後日必ず欠席届を提出すること。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文書作成に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 授業の内容、進め方について メールの書き方について 「はじめに」 文章で伝えるということについて	講義	教科書 p. 1～6 を復習する (一時間程度)
	2	「文章の書き方」 レポート・論文の基本事項 わかりやすい文章の書き方	講義	教科書 p. 7～12 を復習する (一時間程度)
	3	「事実と意見」 事実と意見の書き分け 説明文とは何か	講義	教科書 p. 13～17 および配布プリントを復習する (一時間程度)
	4	【課題①】 ある事物について、論理的に説明する	課題の作成・提出	教科書 p. 1～18 を復習する (一時間程度)
	5	「構成」 レポートなどの文章の構成を学ぶ	講義	教科書 p. 19～22 を復習する (一時間程度)
	6	「要約」 要旨の要約の作成方法を知る	講義	教科書 p. 23～26 および配布プリントを復習する (一時間程度)
	7	フィードバック 課題①の返却と反省 「要約」 要約文の作成	フィードバックと実践 (要約文の作成)	教科書 p. 1～26 および配布プリントを復習する。返却された課題を見直す。(一時間程度)
	8	「文章を引用する」 文章を引用する意方法を学ぶ	講義	教科書 p. 27～31 および配布プリントを復習する (一時間程度)
	9	「図表を引用する」 図表を引用する方法を学ぶ	講義	教科書 p. 32～37 および配布プリントを復習する (一時間程度)
	10	「意見を述べる」 引用をふまえた考察に基づいて意見を述べる	講義	教科書 p. 38～39 および配布プリントを復習する (一時間程度)
	11	【課題②】 資料を引用して意見を述べる	課題の作成・提出	教科書 p. 32～39 を復習する (一時間程度)
	12	資料検索の方法について 小テストの復習テスト	復習テスト	返却した小テストの内容を復習してテストに臨む (一時間程度)
	13	フィードバック 課題②の返却と反省	フィードバック	教科書 p. 32～39 を復習する。返却された課題を見直す。(一時間程度)
	14	【レポート】 これまでの講義の内容を踏まえて論説文を書く	レポートの作成・提出	教科書 p. 1～39 を復習する (一時間程度)
	15	フィードバック レポートの反省点	フィードバック	教科書 p. 1～39 を復習する (一時間程度)

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
-----------	--

学生への メッセージ	口語表現と文章表現の違いを理解し、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルを身につけてください。 論理的な文章を書く能力は、学生生活でのレポートや論文はもちろんのこと、社会人になってからも必要なものです。積極的に課題に取り組み、実践的な能力を身につけるよう努めましょう。
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	前もって教科書の該当箇所をしっかりと読んでから講義にのぞむこと。 返却された小テストはしっかりと復習すること。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。遠隔授業になった場合は、学内メールもしくは Teams にて対応。

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Expression II																																																																
学部	法学部	学科	法律学科																																																																
配当年次	1 年	クラス																																																																	
単位数	1	履修区分	選択必修科目																																																																
学期	後期	授業担当者	南谷 静香																																																																
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎																																																																		
科目ナンバリング	JJA1337a1																																																																		
授業概要・目的	文章表現の基礎を取得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活で必要な表現力を身につける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人が理解し納得できる文章をどう書くか、などについて実践的に取り組む。																																																																		
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。																																																																		
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワークや文章作成等の課題に取り組む。 課題未提出、プレゼンテーション不参加の場合は単位の取得を認めない。課題日やプレゼンテーション担当日に欠席する場合は必ず欠席届を提出すること。																																																																		
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。																																																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr><tr><td>1</td><td>導入 この授業について メールの書き方 レポートの書き方（1）要点確認</td><td>授業の目的、進め方の説明 レポートの書き方のポイントを確認する</td><td>教科書を全文読んでおく。 1時間の事前事後学習を目安とする。</td></tr><tr><td>2</td><td>レポートの書き方（2）</td><td>レポートの基本的ルールを確認する</td><td>教科書「はじめに」～「第6回 要約」までをしっかりと読む。 1時間の事前事後学習を目安とする。</td></tr><tr><td>3</td><td>レポートの書き方（3）</td><td>資料の引用の仕方について学ぶ</td><td>教科書「第7回 文章を引用する」「第8回 図表を引用する」をしっかりと読む。 1時間の事前事後学習を目安とする。</td></tr><tr><td>4</td><td>【課題1】レポート</td><td>資料を引用して意見を述べる文章を書く</td><td>教科書全文を読み返す。 1時間の事前事後学習を目安とする。</td></tr><tr><td>5</td><td>ディスカッション・プレゼンテーションについて</td><td>ディスカッションの方法やプレゼンテーションについて学ぶ</td><td>配布したレジュメを精読すること。 1時間の事前事後学習を目安とする。</td></tr><tr><td>6</td><td>【課題1】フィードバック</td><td>課題1のフィードバック</td><td>返却されたレポートを読み返し、復習する。 1時間の事前事後学習を目安とする。</td></tr><tr><td>7</td><td>【ディスカッション1】</td><td>グループごとにテーマを設定し、ディスカッションを行う。</td><td>ディスカッションの準備。資料集め。 1時間の事前事後学習を目安とする。</td></tr><tr><td>8</td><td>【ディスカッション2】 【プレゼンテーション準備1】</td><td>グループごとにディスカッションを行い、それに基づきプレゼンテーションの準備を進める。</td><td>ディスカッションの準備。資料集め。 1時間の事前事後学習を目安とする。</td></tr><tr><td>9</td><td>【課題2】ディスカッションの報告</td><td>ディスカッションの経過を箇条書きや文章でまとめる。</td><td>レポートの書き方を復習する。 1時間の事前事後学習を目安とする。</td></tr><tr><td>10</td><td>【プレゼンテーション準備2】</td><td>プレゼンテーションに向けてレジュメやスライドの準備をおこなう</td><td>プレゼンテーションに向けてレジュメ等を仕上げ、準備を整える。 1時間の事前事後学習を目安とする。</td></tr><tr><td>11</td><td>【プレゼンテーション1】</td><td>グループごとにプレゼンテーションを行う</td><td>他のグループの発表資料を分析する。 1時間の事前事後学習を目安とする。</td></tr><tr><td>12</td><td>【プレゼンテーション2】</td><td>グループごとにプレゼンテーションを行う</td><td>他のグループの発表資料を分析する。 1時間の事前事後学習を目安とする。</td></tr><tr><td>13</td><td>【プレゼンテーション3】</td><td>グループごとにプレゼンテーションを行う</td><td>他のグループの発表資料を分析する。 1時間の事前事後学習を目安とする。</td></tr><tr><td>14</td><td>【課題3】レポート</td><td>プレゼンテーションの内容をもとにレポートを書く</td><td>レポートの書き方の復習。 1時間の事前事後学習を目安とする。</td></tr><tr><td>15</td><td>課題3のフィードバック 【復習テスト】</td><td>課題3のフィードバック 小テストの復習テスト</td><td>レポートの書き方の復習 小テストの復習</td></tr></table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入 この授業について メールの書き方 レポートの書き方（1）要点確認	授業の目的、進め方の説明 レポートの書き方のポイントを確認する	教科書を全文読んでおく。 1時間の事前事後学習を目安とする。	2	レポートの書き方（2）	レポートの基本的ルールを確認する	教科書「はじめに」～「第6回 要約」までをしっかりと読む。 1時間の事前事後学習を目安とする。	3	レポートの書き方（3）	資料の引用の仕方について学ぶ	教科書「第7回 文章を引用する」「第8回 図表を引用する」をしっかりと読む。 1時間の事前事後学習を目安とする。	4	【課題1】レポート	資料を引用して意見を述べる文章を書く	教科書全文を読み返す。 1時間の事前事後学習を目安とする。	5	ディスカッション・プレゼンテーションについて	ディスカッションの方法やプレゼンテーションについて学ぶ	配布したレジュメを精読すること。 1時間の事前事後学習を目安とする。	6	【課題1】フィードバック	課題1のフィードバック	返却されたレポートを読み返し、復習する。 1時間の事前事後学習を目安とする。	7	【ディスカッション1】	グループごとにテーマを設定し、ディスカッションを行う。	ディスカッションの準備。資料集め。 1時間の事前事後学習を目安とする。	8	【ディスカッション2】 【プレゼンテーション準備1】	グループごとにディスカッションを行い、それに基づきプレゼンテーションの準備を進める。	ディスカッションの準備。資料集め。 1時間の事前事後学習を目安とする。	9	【課題2】ディスカッションの報告	ディスカッションの経過を箇条書きや文章でまとめる。	レポートの書き方を復習する。 1時間の事前事後学習を目安とする。	10	【プレゼンテーション準備2】	プレゼンテーションに向けてレジュメやスライドの準備をおこなう	プレゼンテーションに向けてレジュメ等を仕上げ、準備を整える。 1時間の事前事後学習を目安とする。	11	【プレゼンテーション1】	グループごとにプレゼンテーションを行う	他のグループの発表資料を分析する。 1時間の事前事後学習を目安とする。	12	【プレゼンテーション2】	グループごとにプレゼンテーションを行う	他のグループの発表資料を分析する。 1時間の事前事後学習を目安とする。	13	【プレゼンテーション3】	グループごとにプレゼンテーションを行う	他のグループの発表資料を分析する。 1時間の事前事後学習を目安とする。	14	【課題3】レポート	プレゼンテーションの内容をもとにレポートを書く	レポートの書き方の復習。 1時間の事前事後学習を目安とする。	15	課題3のフィードバック 【復習テスト】	課題3のフィードバック 小テストの復習テスト	レポートの書き方の復習 小テストの復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入 この授業について メールの書き方 レポートの書き方（1）要点確認	授業の目的、進め方の説明 レポートの書き方のポイントを確認する	教科書を全文読んでおく。 1時間の事前事後学習を目安とする。																																																																
2	レポートの書き方（2）	レポートの基本的ルールを確認する	教科書「はじめに」～「第6回 要約」までをしっかりと読む。 1時間の事前事後学習を目安とする。																																																																
3	レポートの書き方（3）	資料の引用の仕方について学ぶ	教科書「第7回 文章を引用する」「第8回 図表を引用する」をしっかりと読む。 1時間の事前事後学習を目安とする。																																																																
4	【課題1】レポート	資料を引用して意見を述べる文章を書く	教科書全文を読み返す。 1時間の事前事後学習を目安とする。																																																																
5	ディスカッション・プレゼンテーションについて	ディスカッションの方法やプレゼンテーションについて学ぶ	配布したレジュメを精読すること。 1時間の事前事後学習を目安とする。																																																																
6	【課題1】フィードバック	課題1のフィードバック	返却されたレポートを読み返し、復習する。 1時間の事前事後学習を目安とする。																																																																
7	【ディスカッション1】	グループごとにテーマを設定し、ディスカッションを行う。	ディスカッションの準備。資料集め。 1時間の事前事後学習を目安とする。																																																																
8	【ディスカッション2】 【プレゼンテーション準備1】	グループごとにディスカッションを行い、それに基づきプレゼンテーションの準備を進める。	ディスカッションの準備。資料集め。 1時間の事前事後学習を目安とする。																																																																
9	【課題2】ディスカッションの報告	ディスカッションの経過を箇条書きや文章でまとめる。	レポートの書き方を復習する。 1時間の事前事後学習を目安とする。																																																																
10	【プレゼンテーション準備2】	プレゼンテーションに向けてレジュメやスライドの準備をおこなう	プレゼンテーションに向けてレジュメ等を仕上げ、準備を整える。 1時間の事前事後学習を目安とする。																																																																
11	【プレゼンテーション1】	グループごとにプレゼンテーションを行う	他のグループの発表資料を分析する。 1時間の事前事後学習を目安とする。																																																																
12	【プレゼンテーション2】	グループごとにプレゼンテーションを行う	他のグループの発表資料を分析する。 1時間の事前事後学習を目安とする。																																																																
13	【プレゼンテーション3】	グループごとにプレゼンテーションを行う	他のグループの発表資料を分析する。 1時間の事前事後学習を目安とする。																																																																
14	【課題3】レポート	プレゼンテーションの内容をもとにレポートを書く	レポートの書き方の復習。 1時間の事前事後学習を目安とする。																																																																
15	課題3のフィードバック 【復習テスト】	課題3のフィードバック 小テストの復習テスト	レポートの書き方の復習 小テストの復習																																																																
関連科目	すべての授業の日本語による課題作成																																																																		
教科書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>大学生の日本語文章表現</td><td>摂南大学編</td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学編		2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学編																																																																	
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	課題3回（20%、20%、30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により評価する。課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。																																																																		
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語（話し言葉）と、レポートなどで書く日本語（書き言葉）は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語（話し言葉、書き言葉）と向き合ってください。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考																																																																			

科目名	コミュニケーション I	科目名 (英文)	Communication I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	津村 忠、橋本 朗子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JJA2338a1		

授業概要・目的	社会に必要なコミュニケーションスキルを習得するための授業です。読む・書く・話す・聴くの4技能は常に求められるスキルですが、それらは「技術」として認識し、訓練することによってより実践的なものに高めることが可能です。この授業では毎回「こちらの意図を的確に伝える」技術や「相手の意図を十分に理解する」技術、すなわち「話す」「聴く」技術を高める練習をします。普段、ディスカッションをしたり、プレゼンテーションを練習する機会はありません。講義を通じてこれら社会で求められる力を身につけたい人は受講をお勧めします。講師陣はそれぞれが、人材採用・社会人教育の前線で長年実務を経験したり、航空業界で多種多様な価値観に触れた経験や、様々な業界で実務経験を持ち、「話す」「聴く」技術を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使えるコミュニケーション能力の獲得を目指します。			
到達目標	この授業を通じて学生には、高度なコミュニケーションスキルにより社会活動において自らが望む相応の結果を出せるようになることが期待される。 SDGs4 SDGs10			
授業方法と留意点	授業は理論と実践で構成されています。コミュニケーション能力は理論を知ったうえで、アウトプットする訓練が必要です。実践については授業の性質上、ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーションになることもあります。対面時は必ずマスク着用、適度な距離を保つことに留意してください。 社会状況によってはオンラインになることもあります。情報はMicrosoft Teamsにて発信しますので、必ず確認するようにしてください。			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	コミュニケーションとは	コミュニケーションの本質を考える。	事前にシラバスを熟読しておくこと。 講義内容を復習し、理解しておくこと。 (目安: 30 分)
	2	傾聴力、質問力を高める	聴くための技術の基本的な方法と聞いた内容を深めるための質問方法について学ぶ。	事前にコミュニケーションの本質を理解しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安: 30 分)
	3	ロジカルコミュニケーション	論理的に会話するための基礎を学ぶ。	事前に論理的思考方法の概略を理解しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安: 1 時間)
	4	コミュニケーションの技法	相手により伝わるための非言語コミュニケーションについて学ぶ。	事前に非言語コミュニケーションの概略を調査・確認しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安: 1 時間)
	5	プレゼンテーション①	プレゼンテーションの基礎について学ぶ。	事前にプレゼンテーションの概略を調査・確認しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安: 1 時間)
	6	プレゼンテーション②	プレゼンテーション (個人プレゼンの準備)	事前に前回講義に基づく実践成果を整理しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安: 1 時間)
	7	プレゼンテーション③	プレゼンテーション (個人プレゼン完成) ※評定あり	事前に前回講義に基づく実践成果を整理しておくこと。 講義内容を復習し、各自プレゼンテーションの準備とシナリオ作成を行うこと。 (目安: 2 時間)
	8	言語理解①	社会で必要とされる言語理解の基礎について学ぶ。	事前に各種言語問題に目を通しておくこと。 学習範囲を復習しておくこと。 (目安: 1 時間)
	9	言語理解②	社会で必要とされる言語理解の応用について学ぶ。	事前に各種言語問題に目を通しておくこと。 学習範囲を復習しておくこと。 (目安: 1 時間)
	10	言語理解③	社会で必要とされる言語理解の基礎と応用の演習問題を解く。 ※評定あり	事前に各種言語問題に目を通しておくこと。 学習範囲を復習しておくこと。 (目安: 1 時間)
	11	グループディスカッション①	グループディスカッションの基礎について学ぶ。	事前にディスカッションの概略を調査・確認しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安: 1 時間)
	12	グループディスカッション②	グループディスカッションの演習 (基本編) で学ぶ。	事前に前回講義に基づく実践成果を整理しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安: 1 時間)
	13	グループディスカッション③	グループディスカッション実践演習 (模擬選考) ※評定あり	事前に前回講義に基づく実践成果を整理しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安: 1 時間)
	14	ダイバーシティ・コミュニケーション	多様性社会の中、望まれるコミュニケーションスキルを学ぶ。	事前にダイバーシティの概略を調査・確認しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安: 2 時間)
	15	総合演習	これまで実施した授業の内容を踏まえ、自分を的確に且つ効果的に表現すること学び、実践する。	事前に全ての範囲を復習しておくこと。 (目安: 2 時間)

			※評定あり	
関連科目	キャリアデザインⅡ、数的能力開発、就職実践基礎			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の小レポート 30 点、プレゼンテーション 15 点、言語理解 20 点、グループディスカッション 10 点、総合演習レポート 25 点			
学生への メッセージ	人間は「社会的動物」です。他者との関係の中で生きていかねばなりません。他者との関係性を良好に保つことは、豊かな人生を送るための重要な条件になります。そのために求められるものが「コミュニケーション能力」と言われており、これはビジネスシーンにおいても同様です。コミュニケーションを楽しみながら、適切に行えるようになっていきましょう。			
担当者の 研究室等	7 号館 3 階 全学教育機構			
備考				

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	坂口 紫
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JMA1339a1		

授業概要・目的	大学生活で要求される情報リテラシー能力（文書作成、表計算、プレゼンテーション）の修得、社会人としての情報モラルの修得および自分と自分が所属する組織を守る情報セキュリティに関する理解を目的とする。				
到達目標	現代社会における情報モラルと情報セキュリティの必要性を認識し、対応力を身につける。 Word で見栄えの良い文書を作成できる、データ活用のしやすい表計算シートを作成できる、ターゲットとなる聴衆を意識したスライドを作成できる、課題に対してオフィスアプリケーションを利用するシーンを想定できるようになること。				
授業方法と留意点	「情報のモラルとセキュリティ」について具体的な事例を用いた学習により知識を獲得する。 情報処理演習室にて演習形式で授業を行う。 なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。				
科目学習の効果（資格）	MOS(Microsoft Office Specialist)資格（民間資格）や情報処理関連資格の基礎的技能や知識が得られる。				
授業計画		回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1		【オリエンテーション】 大学生としての情報倫理 摂南大学の ICT 環境 インターネットの利用	モラルとセキュリティに関する質問 OneDrive の使い方 Moodle への登録 出欠管理システム ポータルサイト メールシステム インターネット検索 タイピング練習	事前：情報モラルとセキュリティのテキストに目を通す(30 分) 事後：事後課題の完成(30 分)
	2		Windows 基本操作 【Word】 Word の初歩	個人情報の適切な取り扱い 用語解説 IME の使い方 文書を作成する 文書内を移動する	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	3		【Word】 文書の作成と管理 表の作成、文書の編集	デジタル時代の著作権(1) 文書の書式を設定する 文書のオプションとカスタマイズ 文字列や段落の挿入と書式設定 文字列や段落の並び替えとグループ化	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	4		【Word】 グラフィック要素の挿入と編集	デジタル時代の著作権(2) グラフィック要素を挿入する グラフィック要素を書式設定する 図形・数式の挿入・編集	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	5		【Word】 アウトラインと長文作成	ネット社会に潜む危険と対策(1) アウトラインの設定・編集 長文作成のための機能	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	6		【Word】 レイアウトの変更とセクション設定 段組みを使った文書作成	ネット社会に潜む危険と対策(2) 文書のレイアウトとセクション 段組みを使った文書	事前：文書作成機能の復習(1 時間)
	7		【PowerPoint】 スライドの作成	メールによるコミュニケーション スライドの作成 グラフィック要素の挿入と書式設定 アニメーションの設定 スライドの切り替え	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	8		【PowerPoint】 プレゼンテーション演習	発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前：発表練習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	9		【Excel】 Excel の概要 基礎スキル	Web によるコミュニケーション(1) セルへの入力、シートの編集、計算とセル参照、基本関数	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	10		【Excel】 グラフの作成と設定	Web によるコミュニケーション(2) グラフの種類とパーツ グラフを作成する グラフを書式設定する	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	11		【Excel】 表の視覚化と詳細設定	Web によるコミュニケーション(3) 条件付き書式の設定と修正 スパークラインの設定 表の詳細設定	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	12		【Excel】 関数の利用	モバイル機器の活用と管理 さまざまな関数を利用する	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	13		【Excel】 データ集計とピボットテーブル	情報モラルとセキュリティ ピボットテーブルの利用	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	14		【Excel】 データベースとしての使い方 Excel の表・グラフの利用	データベースとしての表の操作 Excel の表やグラフを Word で利用する	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	15		【Excel】 マクロ：操作の自動化	情報モラルとセキュリティのまとめ マクロの記録と編集、再利用	事前：今までの諸機能の復習(1 時間)
関連科目	応用情報処理				

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	30 時間アカデミック Office2019	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版
	2	〈改訂 4 版〉情報モラル & 情報セキュリティ	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	演習課題 (60%)、プレゼンやタイピング等の操作スキル(40%) を総合して評価します。 詳細は初回授業時に説明しますので、欠席しないようにしましょう。			
学生への メッセージ	PC の基本操作を学習します。多人数の一斉授業であり個別対応は難しいため、PC 操作に自信がない方は必ず事前に予習を行ってください。 個別の連絡や質問対応は、主に Teams のチャット機能を利用できます。積極的に利用してください。 (スマートフォンに Teams アプリをインストールしておきましょう)			
担当者の 研究室等	非常勤講師のため、研究室はありません。 連絡・質問は、Teams のチャットを利用してください。			
備考	大学の PC 教室をはじめ、教科書の解説はすべて Windows (OS) 対応となります。Mac (OS) には対応していませんので、自宅学習用の PC が Mac の方は、教科書通りの操作ではうまくいかないことがあります。その場合は自己責任で対処方法を調べてください。(講師は Mac 環境への個別対応は行いません)			

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名（英文）	Information Literacy II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	寺内 睦博, 新居 英志
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JMA1340a1		

授業概要・目的	「数理・データサイエンス・AI」は現代の「読み・書き・そろばん」であり、デジタル社会において学ぶべき教養である。本講義ではその基礎として、データ分析の歴史、背景や現状について知り、データの種類・解析方法や AI に必要な技術、その応用例などを様々な事例を通して学び理解する。また、エクセルを用いて実際にデータを処理し、その活用方法を身に付けることを目的とする。
到達目標	データの種類や処理の目的を理解できると共に、データサイエンス・AI の基本的な使い方、およびその際に注意すべきことを理解できるようになること。
授業方法と留意点	本講義はオンデマンド形式の講義です。毎週、動画の視聴とレポート提出、演習課題提出、確認テストが必須ですので、計画的にこなしてください。
科目学習の効果（資格）	「データサイエンティスト検定 リテラシーレベル」や「基本情報処理技術者」の資格取得に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス データサイエンスとは	・大学のシステム（moodle, Teams, メール, OneDrive）の利用方法について ・本講義の受講方法、注意点など ・データサイエンス, AI とは	事後：動画視聴, 課題レポート・演習課題の提出, 確認テスト
	2	社会で起きている変化(1)	・日本企業の国際競争力低下 ・情報通信メディアの普及 ・DX（デジタル・トランスフォーメーション） ・演習「Excel の基本的な操作(1)」	事前： 動画視聴, 演習課題 事後： 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	3	社会で起きている変化(2)	・デジタル社会の提言 ・Society5.0 ・演習「Excel の基本的な操作(2)」	事前： 動画視聴, 演習課題 事後： 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	4	社会で活用されているデータ(1)	・データの種類 ・1次データ, 2次データ, メタデータ ・オープンデータ ・演習「時系列データの可視化(1)」	事前： 動画視聴, 演習課題 事後： 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	5	社会で活用されているデータ(2)	・構造化データ, 非構造化データ ・テキストデータ, 画像・音声データ ・アノテーション ・演習「時系列データの可視化(2)」	事前： 動画視聴, 演習課題 事後： 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	6	データ・AI の活用領域	・データサイエンスの活用事例 ・研究開発, マーケティング, 品質管理におけるデータ分析 ・演習「平均の算出とその可視化」	事前： 動画視聴, 演習課題 事後： 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	7	データ・AI 利活用のための技術(1)	・データの一次分析と可視化 ・言語処理, 画像処理, 音声処理技術について ・演習「標準偏差の算出とその可視化」	事前： 動画視聴, 演習課題 事後： 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	8	データ・AI 利活用のための技術(2)	・データ解析（予測, グルーピングパターン発見, 最適化） ・特化型 AI と汎用 AI ・自動機械学習 ・演習「大量のデータを扱う方法(1)」	事前： 動画視聴, 演習課題 事後： 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	9	データ・AI 利活用の現場(1)	・データサイエンスのサイクル ・製造業のデータ・AI 活用 ・演習「大量のデータを扱う方法(2)」	事前： 動画視聴, 演習課題 事後： 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	10	データ・AI 利活用の現場(2)	・小売業のデータ・AI 活用 ・サービス業のデータ・AI 活用 ・公共・インフラのデータ・AI 活用 ・演習「基本統計量の算出と箱ひげ図(1)」	事前： 動画視聴, 演習課題 事後： 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	11	データ・AI 利活用の現場(3)	・データ・AI 活用による新しいビジネス領域 ・演習「基本統計量の算出と箱ひげ図(2)」	事前： 動画視聴, 演習課題 事後： 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	12	データ・AI 利活用の最新動向	・AI などを活用した新しいビジネス ・AI 最新技術の活用例 ・演習「度数分布表とヒストグラムの作成」	事前： 動画視聴, 演習課題 事後： 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	13	データ・AI を扱う上での留意事項(1)	・ELSI とは何か ・データの倫理 ・個人情報とプライバシー ・演習「散布図の作成と相関係数の算出」	事前： 動画視聴, 演習課題 事後： 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	14	データ・AI を扱う上での留意事項(2)	・バイアス ・社会的合意の形成に向けて ・演習「定性データの扱い方とクロス集計」	事前： 動画視聴, 演習課題 事後： 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	15	データを守る上での留意事項	・情報セキュリティとは ・情報セキュリティ脅威に関する事例 ・データの守り方 ・演習「総合演習」	事前： 動画視聴, 演習課題 事後： 課題レポートの提出, 確認テストの実施

関連科目	情報リテラシー			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	AI データサイエンスリテラシー入門	吉岡剛志他	技術評論社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	オンデマンド視聴の達成率：40% 課題レポート：20% 演習課題：20% 確認テスト：20%			
学生への メッセージ	昨今のデジタル社会において必須であるデータの扱い方について学ぶことができます。オンデマンド講義のため、計画的な動画視聴が必要です。 疑問点は放置せず積極的に質問することで速やかに解消してください。			
担当者の 研究室等	新居研究室（7号館5階）、寺内（11号館10階）			
備考				

科目名	ビジネス実務	科目名 (英文)	Practical Business Studies
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本 朗子・山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA3348a1		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。 組織人およびフリーランスとしての自身の経験と、人材育成・組織開発コンサルティングを行ってきたビジネス現場での経験を交えて実践的な“ビジネスマナー”をお伝えします。
到達目標	この授業を通じて学生には、クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」を実践できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	テキストは Web 上にアップロードするので、各自で事前に必ず準備すること。※プリントアウトが望ましい 授業は講義中心で進めるが、ペアワークやグループワークも実施する。毎回、学修課題の提出があるのできちんと取り組むことが求められる。
科目学習の効果 (資格)	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーションーあいさつの重要性 (理論と実践)	・授業のオリエンテーション ・授業のルール ・あいさつの真の意味とは ・正しい基本姿勢を学ぶ	・事前学修: ビジネスマナーとは何かを考えること (30 分) ・事後学修: ビジネスマナーとは何か、400 字でまとめること (60 分)
	2	仕事の進め方と組織活動	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の 8 つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修: 企業のエコ活動について調べる (30 分) ・事後学修: 仕事とは何か、まとめること (60 分)
	3	目標設定と PDCA サイクル	・目標設定 (MBO) ・PDCA とは ・チームと個人の役割	・事前学修: PDCA について調べる (30 分) ・事後学修: あなたの日常生活における MBO と PDCA を考え、まとめること (60 分)
	4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT 方式-	・事前学修: あなたの 1 週間予定表を作成すること (30 分) ・事後学修: あなたの予定表作成について振り返り、まとめること (60 分)
	5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TP0 をもとに-	・事前学修: 敬語プリント①をすること (30 分) ・事後学修: ケーススタディプリントをすること (60 分)
	6	電話応対	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2H から 6W3H へ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修: 電話応対プリントをすること (30 分) ・事後学修: ロールプレイングを繰り返すこと (60 分)
	7	来客応対	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換 ※対面授業に切り替え	・事前学修: 来客応対プリント①をすること (30 分) ・事後学修: 来客応対プリント②をすること (60 分)
	8	ハウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修: 報告・連絡・相談の重要性について調べる (30 分) ・事後学修: ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をすること (60 分)
	9	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社外文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修: ビジネス文書始める前にをすること (30 分) ・事後学修: ビジネス文書②をすること (60 分)
	10	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修: ビジネス文書③をすること (30 分) ・事後学修: ビジネス文書④をすること (60 分)
	11	ビジネス通信の基本	・通信手段 (電子メール、ファックス等) の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修: 郵便の知識プリント①をすること (30 分) ・事後学修: メール文書を作成すること (60 分)
	12	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護 (P マーク) ・コンプライアンス	・事前学習: コンプライアンスについて調べる (30 分) ・事後学修: 個人情報保護法についてレポートを作成すること (60 分)
	13	設営の基本	・YTT 方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修: 同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめること (30 分) ・事後学修: 設営事例をまとめること (60 分)
	14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修: 慶弔・贈答プリント①をすること (30 分) ・事後学修: 弔・贈答プリント②をすること (60 分)
	15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修: グローバル社会へ対応するためには何が必要かについて考える (30 分) ・事後学修: 共生関係について自らの考えをまとめること (60 分)
関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

		1			
		2			
		3			
参考書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1			
		2			
		3			
評価方法 (基準)	定期試験 40%、ワーク・授業内課題等 30%、複数回のレポート課題 30%を総合的に判断する。 ただし、出席不良者（欠席6回以上）は評価できないことがある。				
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなってきました。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われています。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質です。みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の重要性を理解し、社会人としての第一歩を築きましょう。				
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室（石井）				
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むことを前提とする。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とすること。質問等は、メールにて受け付ける。課題の解答例の配布や解説は、講義内で適宜行う。				

科目名	法学概論 I	科目名 (英文)	Jurisprudence I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	城内 明, 笛木 淳, 松島 裕一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1001a0		

授業概要・目的	本授業は、3 名の専任教員(松島・笛木・城内(講義順))によるオムニバス方式で実施する。 本授業では、(1)法学を学ぶにあたり、初めに学んでおくべき基礎的な知識、(2)法学部生として最低限学んでおくべき基礎的な教養を身に付けると同時に、(3)これから 4 年間で学ぶ法分野の見取り図を示すことを目的とする。
到達目標	この講義を通じて、学生には、法学を学ぶにあたり、初めに学んでおくべき基礎的な知識、法学部生として最低限学んでおくべき基礎的な教養を身に付けると同時に、これから 4 年間で学ぶ法分野の概要を理解することが期待される。
授業方法と留意点	本講義は、5 回毎に担当教員が交代する。成績は、各教員が小テストや課題の評価により判定するので、例えば、1 人の教員の授業はがんばって受講し、課題で満点をとったとしても、他の教員の担当箇所で 0 点なら、単位不授与となるので注意されたい。
科目学習の 効果 (資格)	法学を学ぶにあたり、初めに学んでおくべき基礎的な知識、法学部生として最低限学んでおくべき基礎的な教養を修得することができる。これから 4 年間で学ぶ法分野の全体像を理解し、専門科目に取り組むことができる。法学検定や公務員試験などで必要な法の基礎知識に関して、その土台となる考え方を理解することができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	法の分類 (担当：松島 裕一)	これから皆さんが 4 年間をかけて学習していく「法」には、さまざまな種類の法があります。この初回の授業では法律学の基本的な用語を解説しながら、法の分類方法について学習します。	授業開始までに、事前に配布済みの資料に目を通しておくこと (30 分)。授業終了後に、Forms で課題 (小テスト) を提示するので、期日までに提出すること。
	2	法の解釈 (担当：松島 裕一)	授業前半では「六法」の使い方や条文の読み方について説明します。法律学の学習では「法の解釈」が重要となりますので、授業後半では、解釈の基本的な仕組みについて学習します。	授業開始までに、事前に配布済みの資料に目を通しておくこと (30 分)。授業終了後に、Forms で課題 (小テスト) を提示するので、期日までに提出すること。
	3	法と判例 (担当：松島 裕一)	法律学の学習では、判例というものが欠かせません。授業前半では裁判所の仕組みや判例の調べ方について説明し、授業後半では裁判官以外の法専門職 (検察官・弁護士など) について解説します。	授業開始までに、事前に配布済みの資料に目を通しておくこと (30 分)。授業終了後に、Forms で課題 (小テスト) を提示するので、期日までに提出すること。
	4	法と道徳 (担当：松島 裕一)	社会には、法以外にも守るべき規範 (ルール) があります。例えば、道徳がそれです。法と道徳の違いを学習することを通じて、法学部で学習する「法」というものの特色について考えてみます。	授業開始までに、事前に配布済みの資料に目を通しておくこと (30 分)。授業終了後に、Forms で課題 (小テスト) を提示するので、期日までに提出すること。
	5	法の歴史 (担当：松島 裕一)	憲法・民法・刑法などの現代の日本法は、明治以降、西洋法の影響を大きく受けています。日本法の来歴を学習することを通じて、法学部生として必須の歴史的知識を身に着けます。	授業開始までに、事前に配布済みの資料に目を通しておくこと (30 分)。授業終了後に、Forms で課題 (小テスト) を提示するので、期日までに提出すること。
	6	憲法入門 (1) ー立憲主義ー (担当：笛木 淳)	憲法を学習する上で欠かせない立憲主義の内容を学習します。 キーワード：国民主権、権力分立、法の支配／法治国原理	授業開始までに、事前に配布済みの資料に目を通しておくこと (30 分)。授業終了後に、Forms で課題 (小テスト) を提示するので、期日までに提出すること。
	7	憲法入門 (2) ー民主政原理ー (担当：笛木 淳)	憲法のもう一つの原理である民主政原理の内容を学習します。 キーワード：民主的正統化、自己決定、自由	授業開始までに、事前に配布済みの資料に目を通しておくこと (30 分)。授業終了後に、Forms で課題 (小テスト) を提示するので、期日までに提出すること。
	8	憲法入門 (3) ー基本的人権ー (担当：笛木 淳)	憲法で基本的人権が保障されるとはどういうことが学習します。 キーワード：基本的人権、公共の福祉、国家	授業開始までに、事前に配布済みの資料に目を通しておくこと (30 分)。授業終了後に、Forms で課題 (小テスト) を提示するので、期日までに提出すること。
	9	行政法入門 (1) ー規制行政と法ー (担当：笛木 淳)	規制行政という類型をもとに、行政法の基本を学習します キーワード：法律による行政の原理、行政裁量、行政救済	授業開始までに、事前に配布済みの資料に目を通しておくこと (30 分)。授業終了後に、Forms で課題 (小テスト) を提示するので、期日までに提出すること。
	10	行政法入門 (2) ー給付行政と法ー (担当：笛木 淳)	給付行政という類型をもとに、行政法の基本を学習します キーワード：規制と給付、社会保障給付、金銭の賦課	授業開始までに、事前に配布済みの資料に目を通しておくこと (30 分)。授業終了後に、Forms で課題 (小テスト) を提示するので、期日までに提出すること。
	11	民法入門 (1) ー民法総則・物権法への招待ー (担当：城内 明)	民法総則や物権法には、何が規定されているのか、私たちの生活にどのように関わっているのかを概観します。	授業開始までに、事前に配布済みの資料に目を通しておくこと (30 分)。授業終了後に、Forms で課題 (小テスト) を提示するので、期日までに提出すること。
	12	民法入門 (2) ー債権法への招待ー (担当：城内 明)	債権法には、何が規定されているのか、私たちの生活にどのように関わっているのかを概観します。	授業開始までに、事前に配布済みの資料に目を通しておくこと (30 分)。授業終了後に、Forms で課題 (小テスト) を提示するので、期日までに提出すること。
	13	民法入門 (3) ー家族法への招待ー (担当：城内 明)	物権法には、何が規定されているのか、私たちの生活にどのように関わっているのかを概観します。	授業開始までに、事前に配布済みの資料に目を通しておくこと (30 分)。授業終了後に、Forms で課題 (小テスト) を提示するので、期日までに提出すること。
	14	消費者法入門 (1) (担当：城内 明)	身を守るための武器としての消費者法講座。典型的な消費者被害を例に、今日から役立つサバイバル術を伝授します。	授業開始までに、自分の身近な消費者被害の具体例を考えておくこと (30 分)。授業終了後に、Forms で課題 (小テスト) を提示するので、期日までに提出すること。
	15	消費者法入門 (2) (担当：城内 明)	身を守るための武器としての消費者法講座。典型的な消費者被害を例に、今日	授業開始までに、自分の身近な消費者被害の具体例を考えておくこと (30 分)。授業終了後に、Forms で

			から役立つサバイバル術を伝授します。	課題（小テスト）を提示するので、期日までに提出すること。																
関連科目	法に関するすべての科目。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 （基準）	各学生につき、3人の講義担当者がそれぞれ、担当した複数回の講義における受講態度及びレポート、小テストを30点ないし35点満点で総合評価し、これらを最終的に合わせた点数を最終成績とする。各担当者の成績評価の具体的基準は講義中で説明する。																			
学生への メッセージ	新入生は法について未だ具体的なイメージを持っていないと思います。 この講義を受講することにより、これから学ぶ「法」が、どのような特徴を持ち、どのような役割を果たしているのかを知ると共に、その「学び方」を理解して下さい。																			
担当者の 研究室等	11号館9階 松島准教授室 11号館10階 城内教授室 笛木講師室																			
備考	【重要】法学概論1は必修科目です。入学年度によっては、2年次までに本科目の単位を修得しない限り、3年次への進級ができなくなるので、学生においては十分注意して下さい。 なお、講義中の疑問点については、講義の最後に質問を受け付ける時間を設けることで対応します。																			

科目名	法学概論 I	科目名 (英文)	Jurisprudence I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1001a0		

授業概要・目的	・法は、多様な人々が共同生活を営むための相互尊重のルールであり、我々の生活を豊かにするための制度である。 ・このような法の特色と目的を踏まえつつ、現代社会の中で生じている紛争に対して、法がどのような役割を果たし、かつ、いかに争いごとを解決しているかについて、個別の法領域ごとに具体的な事件を参照しながら理解することを主な目標とする。
到達目標	この講義を通じて学生には、 ・「法」と「道徳＝倫理」の違いや法令の種類について説明できる ・婚約、婚姻、内縁、離婚、相続をめぐる論点について説明できる ・民法の財産法や刑事法の諸原理について説明ができる ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICT ツールとして Microsoft 社の teams を用いる。 ・課題提示や資料配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。
科目学習の効果（資格）	・公務員試験や各種資格試験に必要とされる法学の基礎的知識を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 法とは何か	・講義内容と文献の紹介 ・法と道徳の違い ・法の強制力 ・法の分類	・教科書の入手 配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	2	憲法と法律（法令の種類）	・法治国家と法の支配 ・国際社会と法	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	3	民法法①（不法行為法①）	学校における「いじめ」問題と法の役割	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	4	労働法①	・ブラック企業問題と労働者保護	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	5	刑事法①	・裁判員裁判の仕組みとその問題点 ・悪質動画貼り付けと器物損壊および偽計業務妨害罪 ・闇バイトを通じた犯罪関与	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	6	刑事法②	・犯罪の成立要件 ・スーカーク行為規制法の最前線	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	7	労働法②	・採用内定と法的規制 ・正規雇用と非正規雇用	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	8	民法法②（家族法①）	・家族の範囲	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	9	民法法③（家族法②）	・家族法の基本原理 ・婚約の法的効果ほか ・婚姻（結婚）の法的要件・効果 ・夫婦の財産関係	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	10	民法法④（家族法③）	・離婚の法的効果	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	11	民法法⑤（家族法④）	・離婚の手続き・親子関係と親権	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	12	民法法⑥（不法行為法②）	・各種ハラスメントと法 ・不法行為と損害賠償	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	13	民法法⑦（財産法①）	・賃貸住宅をめぐるトラブルー敷金と敷引特約	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	14	民法法⑧（財産法②）	・被災と住宅ローン減免の可否	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	15	刑事法③＋行政法＋民法法⑨	・ドメスティック・バイオレンス（DV）とデート DV	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）

関連科目	日本国憲法、行政法、刑法、民法、国際法ほか
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	・ 形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft forms から課題を配信する。各回の課題の得点を合算して評価対象とする（講義の理解度 5%＋課題の得点 95%）。定期試験は実施しない。			
学生への メッセージ	・ 法律系の番組が好きな方、あるいは、公務員試験受験や法学系資格取得を念頭に置いている方は、ぜひ受講してみてください。			
担当者の 研究室等	11 号館 10 階 小野教授室			
備考	この科目は新入生のうち指定されたクラスの方しか履修できません。 本講義は、オンデマンド動画配信による授業を数回程度行うことがあります。 オンデマンド動画配信による授業の際には、事前に teams の授業チャネルで告知するとともに、teams アプリより通知をします。			

科目名	法学概論 I	科目名 (英文)	Jurisprudence I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1001a0		

授業概要・目的	・法は、多様な人々が共同生活を営むための相互尊重のルールであり、我々の生活を豊かにするための制度である。 ・このような法の特色と目的を踏まえつつ、現代社会の中で生じている紛争に対して、法がどのような役割を果たし、かつ、いかに争いごとを解決しているかについて、個別の法領域ごとに具体的な事件を参照しながら理解することを主な目標とする。
到達目標	この講義を通じて学生には、 ・「法」と「道徳＝倫理」の違いや法令の種類について説明できる ・婚約、婚姻、内縁、離婚、相続をめぐる論点について説明できる ・民法の財産法や刑事法の諸原理について説明ができる ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICT ツールとして Microsoft 社の teams を用いる。 ・課題提示や資料配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。
科目学習の効果（資格）	・公務員試験や各種資格試験に必要とされる法学の基礎的知識を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 法とは何か	・講義内容と文献の紹介 ・法と道徳の違い ・法の強制力 ・法の分類	・教科書の入手 配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	2	憲法と法律（法令の種類）	・法治国家と法の支配 ・国際社会と法	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	3	民法法①（不法行為法①）	学校における「いじめ」問題と法の役割	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	4	労働法①	・ブラック企業問題と労働者保護	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	5	刑事法①	・裁判員裁判の仕組みとその問題点 ・悪質動画貼り付けと器物損壊および偽計業務妨害罪 ・闇バイトを通じた犯罪関与	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	6	刑事法②	・犯罪の成立要件 ・・ ストーカー行為規制法の最前線	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	7	労働法②	・採用内定と法的規制 ・正規雇用と非正規雇用	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	8	民法法②（家族法①）	・家族の範囲	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	9	民法法③（家族法②）	・家族法の基本原理 ・婚約の法的効果ほか ・婚姻（結婚）の法的要件・効果 ・夫婦の財産関係	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	10	民法法④（家族法③）	・離婚の法的効果	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	11	民法法⑤（家族法④）	・離婚の手続き・親子関係と親権	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	12	民法法⑥（不法行為法②）	・各種ハラスメントと法 ・不法行為と損害賠償	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	13	民法法⑦（財産法①）	・賃貸住宅をめぐるトラブルー敷金と敷引特約	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	14	民法法⑧（財産法②）	・被災と住宅ローン減免の可否	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
	15	刑事法③＋行政法＋民法法⑨	・ドメスティック・バイオレンス（DV）とデート DV	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）

関連科目	日本国憲法、行政法、刑法、民法、国際法ほか
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新入生のためのリーガル・トピック 50	阿部昌樹・和田仁孝	法律文化社
	2			
	3			

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	法学入門（第6版補訂版）（有斐閣双書）	末川 博/編著	有斐閣
	2	現代法学入門（第4版）（有斐閣双書）	伊藤 正己＝加藤一郎/編著	有斐閣
	3	判例法学（第5版）	西村 健一郎＝西井 正弘＝初宿 正典/編著	有斐閣
評価方法 （基準）	・形式的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft forms から課題を配信する。各回の課題の得点を合算して評価対象とする（講義の理解度 5%＋課題の得点 95%）。定期試験は実施しない。			
学生への メッセージ	・法律系の番組が好きな方、あるいは、公務員試験受験や法学系資格取得を念頭に置いている方は、ぜひ受講してみてください。			
担当者の 研究室等	11 号館 10 階 小野教授室			
備考	この科目は再履修クラスです。新入生は履修できません。 本講義は、オンデマンド動画配信による授業を数回程度行うことがあります。 オンデマンド動画配信による授業の際には、事前に teams の授業チャンネルで告知するとともに、teams アプリより通知をします。			

科目名	法学概論Ⅱ	科目名（英文）	Jurisprudence II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正, 島田 良一, 仲宗根 京子, 萩原 佐織
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1002a0		

授業概要・目的	・法は、多様な人々が共同生活を営むための相互尊重のルールであり、我々の生活を豊かにするための制度である。 ・このような法の特色と目的を踏まえつつ、現代社会の中で生じている様々な紛争に対して、法がどのような役割を果たし、かつ、いかに争いごとを解決しているかについて、個別の法領域ごとに具体的な事件を参照しながら理解することを主な目標とする。 ・前期開講の「法学概論Ⅰ」を受け、本講義では、2 回生前期以降に順次開講される刑法（担当：小野）、刑事訴訟法・刑事政策・少年法（担当：島田）、商事法（担当：仲宗根）、民事手続法（担当：萩原）の入門事項ないし概要を取り扱う。																																																																		
到達目標	この講義を通じて学生には、 刑法、刑事訴訟法・刑事政策・少年法、商事法、および、民事手続法の基本構造および基本原理について説明できるようになることが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICT ツールとして Microsoft 社の teams を用いる。 ・課題提示や資料配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。																																																																		
科目学習の効果（資格）	・2 回生以降の専門科目の理解促進、および、法学検定（ペーシック）、公務員試験および各種資格試験に必要とされる法学の基礎知識を身につけることができる。																																																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr><tr><td>1</td><td>刑法①（刑法の意義と罪刑法定主義）</td><td>刑法とは何か 罪刑法定主義とその派生原則</td><td>配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）</td></tr><tr><td>2</td><td>刑法②（刑罰の正当化根拠）</td><td>国家による刑罰権（生命はく奪や自由はく奪など）行使はなぜ正当化できるのか</td><td>配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）</td></tr><tr><td>3</td><td>刑法③（刑法の場所的・時間的適用範囲）</td><td>日本刑法を適用する場合の場所や時間に関する規制</td><td>配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）</td></tr><tr><td>4</td><td>刑法④（刑法総論の概要）</td><td>全ての犯罪に共通する「犯罪成立要件」</td><td>配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）</td></tr><tr><td>5</td><td>刑法⑤（刑法各論の概要）</td><td>個別の犯罪ごとの「犯罪成立要件」</td><td>配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）</td></tr><tr><td>6</td><td>刑事訴訟法概説</td><td>刑事訴訟法の目的や役割について</td><td>配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）</td></tr><tr><td>7</td><td>捜査について</td><td>刑事手続のうち、犯罪捜査に関する基本的事項について</td><td>配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）</td></tr><tr><td>8</td><td>公訴提起・公判について①</td><td>刑事手続のうち、公訴提起・公判に関する基本的事項について</td><td>配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）</td></tr><tr><td>9</td><td>公訴提起・公判について②</td><td>刑事手続のうち、公訴提起・公判に関する基本的事項について</td><td>配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）</td></tr><tr><td>10</td><td>刑事政策・少年法について</td><td>刑事政策の概要および少年法の目的や役割について</td><td>配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）</td></tr><tr><td>11</td><td>商法について</td><td>代理商の概要、代理商に関するルール</td><td>代理商について調べておく（60 分）。事後学習として小テストを実施する。</td></tr><tr><td>12</td><td>会社法について</td><td>会社法の概要、機関の設置義務</td><td>会社法の機関について調べておく（60 分）。事後学習として小テストを実施する。</td></tr><tr><td>13</td><td>金融商品取引法について</td><td>金融商品取引法の概要、インサイダー取引などの不正行為</td><td>株式投資に関する不正行為について調べておく（60 分）。事後学習として小テストを実施する。</td></tr><tr><td>14</td><td>民事手続法Ⅰ（民事訴訟法）</td><td>【内容】 ・民事手続法とは？ ・実体法（民法）と手続法（民事手続法）との違いとは？ 【方法】 ・予め Teams でレジュメをプリントアウトして講義に持参し、括弧部分を埋める ・予習としてなされた Forms クイズの回答・正誤を示しつつ講義を進行</td><td>【事前学習】 ① Teams でレジュメをプリントアウトして読む ② Forms クイズに回答・送信 【事後学習】 ① レジュメの事案・括弧部分を中心に復習 ② Forms による小テスト又は課題（約 1 時間）</td></tr><tr><td>15</td><td>民事手続法Ⅱ（倒産法・執行法）</td><td>【内容】 ・倒産法とは？：身を守る術としての倒産法 ・執行法とは？：生活の中での執行法 【方法】 ・予め Teams でレジュメをプリントアウトして講義に持参し、括弧部分を埋める ・予習としてなされた Forms クイズの回答・正誤等を示しつつ講義を進行</td><td>【事前学習】 ① Teams でレジュメをプリントアウトして読む ② Forms クイズに回答・送信 【事後学習】 ① レジュメの事案・括弧部分を中心に復習 ② Forms による小テスト又は課題（約 1 時間）</td></tr></table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	刑法①（刑法の意義と罪刑法定主義）	刑法とは何か 罪刑法定主義とその派生原則	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）	2	刑法②（刑罰の正当化根拠）	国家による刑罰権（生命はく奪や自由はく奪など）行使はなぜ正当化できるのか	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）	3	刑法③（刑法の場所的・時間的適用範囲）	日本刑法を適用する場合の場所や時間に関する規制	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）	4	刑法④（刑法総論の概要）	全ての犯罪に共通する「犯罪成立要件」	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）	5	刑法⑤（刑法各論の概要）	個別の犯罪ごとの「犯罪成立要件」	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）	6	刑事訴訟法概説	刑事訴訟法の目的や役割について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）	7	捜査について	刑事手続のうち、犯罪捜査に関する基本的事項について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）	8	公訴提起・公判について①	刑事手続のうち、公訴提起・公判に関する基本的事項について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）	9	公訴提起・公判について②	刑事手続のうち、公訴提起・公判に関する基本的事項について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）	10	刑事政策・少年法について	刑事政策の概要および少年法の目的や役割について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）	11	商法について	代理商の概要、代理商に関するルール	代理商について調べておく（60 分）。事後学習として小テストを実施する。	12	会社法について	会社法の概要、機関の設置義務	会社法の機関について調べておく（60 分）。事後学習として小テストを実施する。	13	金融商品取引法について	金融商品取引法の概要、インサイダー取引などの不正行為	株式投資に関する不正行為について調べておく（60 分）。事後学習として小テストを実施する。	14	民事手続法Ⅰ（民事訴訟法）	【内容】 ・民事手続法とは？ ・実体法（民法）と手続法（民事手続法）との違いとは？ 【方法】 ・予め Teams でレジュメをプリントアウトして講義に持参し、括弧部分を埋める ・予習としてなされた Forms クイズの回答・正誤を示しつつ講義を進行	【事前学習】 ① Teams でレジュメをプリントアウトして読む ② Forms クイズに回答・送信 【事後学習】 ① レジュメの事案・括弧部分を中心に復習 ② Forms による小テスト又は課題（約 1 時間）	15	民事手続法Ⅱ（倒産法・執行法）	【内容】 ・倒産法とは？：身を守る術としての倒産法 ・執行法とは？：生活の中での執行法 【方法】 ・予め Teams でレジュメをプリントアウトして講義に持参し、括弧部分を埋める ・予習としてなされた Forms クイズの回答・正誤等を示しつつ講義を進行	【事前学習】 ① Teams でレジュメをプリントアウトして読む ② Forms クイズに回答・送信 【事後学習】 ① レジュメの事案・括弧部分を中心に復習 ② Forms による小テスト又は課題（約 1 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	刑法①（刑法の意義と罪刑法定主義）	刑法とは何か 罪刑法定主義とその派生原則	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）																																																																
2	刑法②（刑罰の正当化根拠）	国家による刑罰権（生命はく奪や自由はく奪など）行使はなぜ正当化できるのか	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）																																																																
3	刑法③（刑法の場所的・時間的適用範囲）	日本刑法を適用する場合の場所や時間に関する規制	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）																																																																
4	刑法④（刑法総論の概要）	全ての犯罪に共通する「犯罪成立要件」	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）																																																																
5	刑法⑤（刑法各論の概要）	個別の犯罪ごとの「犯罪成立要件」	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）																																																																
6	刑事訴訟法概説	刑事訴訟法の目的や役割について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）																																																																
7	捜査について	刑事手続のうち、犯罪捜査に関する基本的事項について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）																																																																
8	公訴提起・公判について①	刑事手続のうち、公訴提起・公判に関する基本的事項について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）																																																																
9	公訴提起・公判について②	刑事手続のうち、公訴提起・公判に関する基本的事項について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）																																																																
10	刑事政策・少年法について	刑事政策の概要および少年法の目的や役割について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 1 時間）																																																																
11	商法について	代理商の概要、代理商に関するルール	代理商について調べておく（60 分）。事後学習として小テストを実施する。																																																																
12	会社法について	会社法の概要、機関の設置義務	会社法の機関について調べておく（60 分）。事後学習として小テストを実施する。																																																																
13	金融商品取引法について	金融商品取引法の概要、インサイダー取引などの不正行為	株式投資に関する不正行為について調べておく（60 分）。事後学習として小テストを実施する。																																																																
14	民事手続法Ⅰ（民事訴訟法）	【内容】 ・民事手続法とは？ ・実体法（民法）と手続法（民事手続法）との違いとは？ 【方法】 ・予め Teams でレジュメをプリントアウトして講義に持参し、括弧部分を埋める ・予習としてなされた Forms クイズの回答・正誤を示しつつ講義を進行	【事前学習】 ① Teams でレジュメをプリントアウトして読む ② Forms クイズに回答・送信 【事後学習】 ① レジュメの事案・括弧部分を中心に復習 ② Forms による小テスト又は課題（約 1 時間）																																																																
15	民事手続法Ⅱ（倒産法・執行法）	【内容】 ・倒産法とは？：身を守る術としての倒産法 ・執行法とは？：生活の中での執行法 【方法】 ・予め Teams でレジュメをプリントアウトして講義に持参し、括弧部分を埋める ・予習としてなされた Forms クイズの回答・正誤等を示しつつ講義を進行	【事前学習】 ① Teams でレジュメをプリントアウトして読む ② Forms クイズに回答・送信 【事後学習】 ① レジュメの事案・括弧部分を中心に復習 ② Forms による小テスト又は課題（約 1 時間）																																																																
関連科目	刑法総論ⅠA、刑法総論ⅡB、刑法各論ⅠA、刑法各論ⅡB、経済刑法、刑事訴訟法Ⅰ、刑事訴訟法Ⅱ、刑事政策Ⅰ、刑事政策Ⅱ、少年法、商法Ⅰ、商法ⅡA、商法ⅡB、有価証券法、金融商品取引法、民事訴訟法Ⅰ、民事訴訟法Ⅱ、民事執行・保全法、倒産法など。																																																																		
教科書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>入門刑事法（第 8 版）</td><td>三井誠ほか</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>2</td><td>入門刑事手続法（第 9 版）</td><td>三井誠ほか</td><td>有斐閣</td></tr></table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	入門刑事法（第 8 版）	三井誠ほか	有斐閣	2	入門刑事手続法（第 9 版）	三井誠ほか	有斐閣																																																				
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	入門刑事法（第 8 版）	三井誠ほか	有斐閣																																																																
2	入門刑事手続法（第 9 版）	三井誠ほか	有斐閣																																																																

	3			
評価方法 (基準)	講義の理解度を判断するため、各回で出題される課題の得点を合算して成績の評価をする(形成的評価)。分野ごとの配点割合は、講義回数を按分して刑法(30%)、刑事訴訟法・刑事政策(30%)、商法(20%)、民事手続法(20%)とする。定期試験は実施しない。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	小野研究室(11号館10階)、島田研究室(11号館9階)、萩原研究室(11号館9階)、仲宗根研究室(11号館10階)			
備考				

科目名	法学概論Ⅱ	科目名（英文）	Jurisprudence II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	萩原 守
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1002a0		

授業概要・目的	この授業は、法学に関する基礎的な知識を身につけ、法学分野でのさらなる学習につなげていくための講義科目である。担当教員の専門分野に基づいて、モンゴル民族の法制史とその研究状況とを学ぶ。授業の目的は、モンゴル法制史に関連して、中国やロシアの法制史、また日本や欧米での最新の研究史・研究状況などをしっかりと理解することである。																																																																		
到達目標	この講義を通じて受講者には、モンゴル・中国・ロシア等の法制史・政治史、また日本や欧米での最新の研究史・研究状況などをしっかりと理解し、それらを明瞭に説明できるようになることが期待される。これが到達目標である。																																																																		
授業方法と留意点	履修に際して、高校時代に世界史を学んだ経験があればやや有利となるが、世界史を選択しなかった学生にもよくわかるような平易な授業を心がけたい。受講に際しては、毎回、ノート類と筆記用具を持参すること。出席していても、ただ聞き流すだけであれば、単位の取得は難しいと思われる。また、前回の授業時に学んだ内容を口頭試問の形式によって、毎回細かく質問していくこととする。最終試験に加えて、これら毎回の口頭試問とによって、得点を積み重ねていくことができるようにしたい。																																																																		
科目学習の効果（資格）	モンゴル法制史を学ぶことによって、ロシアや中国の法制史・政治史を立体的・同時並行的に学び取ることができる。また、欧米各国や日本での研究状況が有する帝国主義時代からの歴史的背景をも学ぶことができる。特に社会科の教職を目指している学生には大きな効果が期待できる。																																																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr><tr><td>1</td><td>基礎法学の中の法制史と社会史</td><td>基礎法学、法制史、社会史等の持つ相互関係を学ぶ</td><td>書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、次の授業で質問する。</td></tr><tr><td>2</td><td>モンゴル法制史の時代区分</td><td>モンゴル法制史の時代区分を政治史的な観点から学び取る</td><td>書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、次の授業で質問する。</td></tr><tr><td>3</td><td>モンゴル法制史の通史的な研究</td><td>モンゴル法制史の通史的な研究を行ったリャザノフスキー氏と島田正郎氏の功績と誤りを学び取る</td><td>書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、次の授業で質問する。</td></tr><tr><td>4</td><td>モンゴル帝国期の法と裁判</td><td>モンゴル人向けの『大ヤサ』と漢人向けの『大元聖政国朝典章』とを学ぶ</td><td>書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、次の授業で質問する。</td></tr><tr><td>5</td><td>北元時代の『アルタンハーンの法典』</td><td>マイゼツァール氏によって発見・研究された『アルタンハーンの法典』とその研究について学ぶ</td><td>書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、次の授業で質問する。</td></tr><tr><td>6</td><td>北元時代の『モンゴル・オイラト法典』</td><td>『モンゴル・オイラト法典』とその研究について学ぶ</td><td>書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、次の授業で質問する。</td></tr><tr><td>7</td><td>北元時代の『白樺法典』と『ハルハジロム』</td><td>『白樺法典』と『ハルハジロム』について学ぶ</td><td>書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、次の授業で質問する。</td></tr><tr><td>8</td><td>清朝治下の諸民族と諸法典</td><td>『大清律例』、『蒙古律例』、『理藩院則例』、『回疆則例』、『西藏通制』等の民族集団別の法のあり方を学ぶ</td><td>書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、次の授業で質問する。</td></tr><tr><td>9</td><td>清代モンゴルの法典、裁判制度、身分の相関関係</td><td>清代モンゴルに存在した多種類の法典、裁判制度、複雑な身分制度の相関関係を学ぶ</td><td>書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、次の授業で質問する。</td></tr><tr><td>10</td><td>モンゴル・チベット・ウイグルの独立運動</td><td>清朝末期の民族紛争から各民族における独立運動の実態を学び取る</td><td>書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、次の授業で質問する。</td></tr><tr><td>11</td><td>モンゴル民族の一度目の独立と当時の法</td><td>1911 年のモンゴル独立までの具体的な過程と当時の法典の形態を学ぶ</td><td>書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、次の授業で質問する。</td></tr><tr><td>12</td><td>ボグドハーン政権による外交交渉</td><td>1911 年に独立宣言を発したボグドハーン政権の外務大臣や内務大臣等による外交交渉の努力を学ぶ</td><td>書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、次の授業で質問する。</td></tr><tr><td>13</td><td>独立の喪失</td><td>ロシア革命とシベリアでの内戦、ソ連共産党の政治史、中華民国治下での軍閥抗争時代等の政治史を学ぶ</td><td>書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、次の授業で質問する。</td></tr><tr><td>14</td><td>二度目の独立：社会主義化後のモンゴルとコミンテルン・ソ連による干渉</td><td>モンゴル人民共和国時代の政治史を学ぶ</td><td>書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、次の授業で質問する。</td></tr><tr><td>15</td><td>社会主義憲法の制定と資本主義化後のモンゴル</td><td>二度目の独立後のモンゴルにおける憲法、資本主義化に際しての大混乱の歴史を学ぶ</td><td>書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、すぐに質問する。</td></tr></table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	基礎法学の中の法制史と社会史	基礎法学、法制史、社会史等の持つ相互関係を学ぶ	書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、次の授業で質問する。	2	モンゴル法制史の時代区分	モンゴル法制史の時代区分を政治史的な観点から学び取る	書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、次の授業で質問する。	3	モンゴル法制史の通史的な研究	モンゴル法制史の通史的な研究を行ったリャザノフスキー氏と島田正郎氏の功績と誤りを学び取る	書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、次の授業で質問する。	4	モンゴル帝国期の法と裁判	モンゴル人向けの『大ヤサ』と漢人向けの『大元聖政国朝典章』とを学ぶ	書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、次の授業で質問する。	5	北元時代の『アルタンハーンの法典』	マイゼツァール氏によって発見・研究された『アルタンハーンの法典』とその研究について学ぶ	書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、次の授業で質問する。	6	北元時代の『モンゴル・オイラト法典』	『モンゴル・オイラト法典』とその研究について学ぶ	書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、次の授業で質問する。	7	北元時代の『白樺法典』と『ハルハジロム』	『白樺法典』と『ハルハジロム』について学ぶ	書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、次の授業で質問する。	8	清朝治下の諸民族と諸法典	『大清律例』、『蒙古律例』、『理藩院則例』、『回疆則例』、『西藏通制』等の民族集団別の法のあり方を学ぶ	書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、次の授業で質問する。	9	清代モンゴルの法典、裁判制度、身分の相関関係	清代モンゴルに存在した多種類の法典、裁判制度、複雑な身分制度の相関関係を学ぶ	書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、次の授業で質問する。	10	モンゴル・チベット・ウイグルの独立運動	清朝末期の民族紛争から各民族における独立運動の実態を学び取る	書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、次の授業で質問する。	11	モンゴル民族の一度目の独立と当時の法	1911 年のモンゴル独立までの具体的な過程と当時の法典の形態を学ぶ	書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、次の授業で質問する。	12	ボグドハーン政権による外交交渉	1911 年に独立宣言を発したボグドハーン政権の外務大臣や内務大臣等による外交交渉の努力を学ぶ	書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、次の授業で質問する。	13	独立の喪失	ロシア革命とシベリアでの内戦、ソ連共産党の政治史、中華民国治下での軍閥抗争時代等の政治史を学ぶ	書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、次の授業で質問する。	14	二度目の独立：社会主義化後のモンゴルとコミンテルン・ソ連による干渉	モンゴル人民共和国時代の政治史を学ぶ	書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、次の授業で質問する。	15	社会主義憲法の制定と資本主義化後のモンゴル	二度目の独立後のモンゴルにおける憲法、資本主義化に際しての大混乱の歴史を学ぶ	書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、すぐに質問する。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	基礎法学の中の法制史と社会史	基礎法学、法制史、社会史等の持つ相互関係を学ぶ	書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、次の授業で質問する。																																																																
2	モンゴル法制史の時代区分	モンゴル法制史の時代区分を政治史的な観点から学び取る	書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、次の授業で質問する。																																																																
3	モンゴル法制史の通史的な研究	モンゴル法制史の通史的な研究を行ったリャザノフスキー氏と島田正郎氏の功績と誤りを学び取る	書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、次の授業で質問する。																																																																
4	モンゴル帝国期の法と裁判	モンゴル人向けの『大ヤサ』と漢人向けの『大元聖政国朝典章』とを学ぶ	書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、次の授業で質問する。																																																																
5	北元時代の『アルタンハーンの法典』	マイゼツァール氏によって発見・研究された『アルタンハーンの法典』とその研究について学ぶ	書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、次の授業で質問する。																																																																
6	北元時代の『モンゴル・オイラト法典』	『モンゴル・オイラト法典』とその研究について学ぶ	書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、次の授業で質問する。																																																																
7	北元時代の『白樺法典』と『ハルハジロム』	『白樺法典』と『ハルハジロム』について学ぶ	書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、次の授業で質問する。																																																																
8	清朝治下の諸民族と諸法典	『大清律例』、『蒙古律例』、『理藩院則例』、『回疆則例』、『西藏通制』等の民族集団別の法のあり方を学ぶ	書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、次の授業で質問する。																																																																
9	清代モンゴルの法典、裁判制度、身分の相関関係	清代モンゴルに存在した多種類の法典、裁判制度、複雑な身分制度の相関関係を学ぶ	書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、次の授業で質問する。																																																																
10	モンゴル・チベット・ウイグルの独立運動	清朝末期の民族紛争から各民族における独立運動の実態を学び取る	書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、次の授業で質問する。																																																																
11	モンゴル民族の一度目の独立と当時の法	1911 年のモンゴル独立までの具体的な過程と当時の法典の形態を学ぶ	書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、次の授業で質問する。																																																																
12	ボグドハーン政権による外交交渉	1911 年に独立宣言を発したボグドハーン政権の外務大臣や内務大臣等による外交交渉の努力を学ぶ	書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、次の授業で質問する。																																																																
13	独立の喪失	ロシア革命とシベリアでの内戦、ソ連共産党の政治史、中華民国治下での軍閥抗争時代等の政治史を学ぶ	書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、次の授業で質問する。																																																																
14	二度目の独立：社会主義化後のモンゴルとコミンテルン・ソ連による干渉	モンゴル人民共和国時代の政治史を学ぶ	書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、次の授業で質問する。																																																																
15	社会主義憲法の制定と資本主義化後のモンゴル	二度目の独立後のモンゴルにおける憲法、資本主義化に際しての大混乱の歴史を学ぶ	書き取ったノートを見てよく復習する（2時間）。理解できなかった部分は、すぐに質問する。																																																																
関連科目	東洋法制史、日本法制史、法と社会、比較法史																																																																		
教科書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>草原の革命家たち（増補改訂版）</td><td>田中克彦</td><td>中公新書</td></tr><tr><td>2</td><td>モンゴル民族の近現代史</td><td>生駒雅則</td><td>東洋書店</td></tr><tr><td>3</td><td>モンゴル現代史</td><td>バトバヤル</td><td>明石書店</td></tr></table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	草原の革命家たち（増補改訂版）	田中克彦	中公新書	2	モンゴル民族の近現代史	生駒雅則	東洋書店	3	モンゴル現代史	バトバヤル	明石書店																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	草原の革命家たち（増補改訂版）	田中克彦	中公新書																																																																
2	モンゴル民族の近現代史	生駒雅則	東洋書店																																																																
3	モンゴル現代史	バトバヤル	明石書店																																																																
評価方法（基準）	成績の評価は、主として期末試験の結果から評価する。またそれに加えて、毎回の授業にて、前回の授業で学んだ内容を各受講者に質問し、正確な回答をできた受講者に、少しずつ加点していく。																																																																		
学生へのメッセージ	なるべくわかりやすく話したいので、気軽に参加してほしい。わからない点は、何でも遠慮なくどんどん質問することが肝要。わからないままにしておくと、そこが試験に出る。毎回、筆記用具とノート類を持ってくること。																																																																		
担当者の研究室等	11 号館の 10 階にある萩原研究室																																																																		
備考																																																																			

科目名	法学概論Ⅱ	科目名（英文）	Jurisprudence II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	本多 康作
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1002a0		

授業概要・目的	法は、多様な人々が共同生活を営むための相互尊重のルールであり、我々の生活を豊かにするための制度である。このような法の特徴と目的を踏まえつつ、現代社会の中で生じている様々な紛争に対して、法がどのような役割を果たし、かつ、いかに争いを解決しているかについて、できるだけ具体的な事件や設例を参照しながら理解することを目標とする。なお、前期開講の「法学概論Ⅰ」を受け、本講義では、法学の入門事項ないし概要、すなわち法学の基礎、憲法、民法、会社法、刑法などの基礎事項を取り扱う。				
到達目標	この講義を通じて学生には、法学の基礎、憲法、民法、会社法、刑法の基本構造および基本原理について説明できるようになることが期待される。				
授業方法と留意点	・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICT ツールとして Microsoft 社の teams を用いる。 ・課題提示や資料配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。				
科目学習の効果（資格）	2 回生以降の専門科目の理解促進、および、法学検定（ベーシック）、公務員試験および各種資格試験に必要とされる法学の基礎知識を身につけることができる。				
授業計画		回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
		1	j 法学の基礎① (近代法の特徴、法の段階構造)	近代法の特徴、法の段階構造	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
		2	法学の基礎②（法とは何か、憲法とは何か）	法とは何か、憲法とは何か	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
		3	法学の基礎③（日本の法制度）	日本の法制度	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
		4	法学の基礎④ (法的思考の特徴)	法的思考の特徴	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
		5	法学の基礎⑤ (私法と公法という区分)	私法と公法という区分	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
		6	日本国憲法①（基本原理）	日本国憲法の基本原理	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
		7	日本国憲法②（人権）	日本国憲法における人権	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
		8	日本国憲法③（統治機構）	日本国憲法の統治機構	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
		9	民法①（基本原理）	民法の基本原則	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
		10	民法②（契約と不法行為）	契約と不法行為	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
		11	民法③（家族法）	家族法	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
		12	会社法①（会社とは何か）	会社とは何か	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
		13	会社法②（株式会社とは何か）	株式会社とは何か	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
		14	刑法（基本原理）	刑法の基本原則	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
		15	これまでの授業のまとめと、これからの学習	これまでの授業内容のまとめと、これからの学習	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
関連科目	刑法総論ⅠA、刑法総論ⅡB、刑法各論ⅠA、刑法各論ⅡB、経済刑法、刑事訴訟法Ⅰ、刑事訴訟法Ⅱ、刑事政策Ⅰ、刑事政策Ⅱ、少年法、法哲学Ⅰ、法哲学Ⅱ、西洋法制史、法社会学、商法Ⅰ、商法ⅡA、商法ⅡB、有価証券法、金融商品取引法、民事訴訟法Ⅰ、民事訴訟法Ⅱ、民事執行・保全法、倒産法など。				
教科書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1			
		2			
		3			
参考書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1			
		2			

	3			
評価方法 (基準)	講義の理解度を判断するため、各回で出題される課題の得点を合算して成績の評価をする（形成的評価）。配点割合は、課題の累積点（100％）とする。定期試験は実施しない。			
学生への メッセージ	私語は認めない。私語をはじめ、授業態度が悪い場合は、単位を認定しない。このような本授業を履修する際の注意事項を含む授業ルールは、初回の授業で説明する。			
担当者の 研究室等	本多研究室（11 号館 9 階）			
備考	本シラバスは2023年度に入学した再履修生専用のものであることに注意すること。			

科目名	西洋法思想史	科目名 (英文)	History of Western Legal Thought
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松島 裕一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	JDJ2005a0		

授業概要・目的	法思想史とは、過去の思想家たちが法や正義をどのように理解してきたかを考察する学問分野です。この講義では、西洋世界に地域を限定したうえで、古典古代から 19 世紀末までに登場したさまざまな法思想を駆け足で見えていきます (20 世紀以降の新しい法思想は法哲学各論で扱います)。 個々の思想家にかんする知識をたんに丸暗記するのではなく、各法思想に含まれる普遍性と特殊性——いつの時代においても通用する普遍的なアイデアとその時代にしか通用しない特殊なアイデア——を的確に見極めつつ、現代の法思想の礎を確認することが、この講義の目的です。
到達目標	この講義を通じて学生には、法思想史 (西洋) の基本事項を理解することに加え、過去の思想家たちの知識を手掛かりにして自分の意見を論理的に組み立てられるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	対面授業で行います。授業で使用するレジュメや課題は Microsoft Teams を通じて配布しますので、この授業を受講する学生は必ずチームに加入すること。
科目学習の効果 (資格)	法学検定試験や公務員試験などの教養問題に一部対応しています。また、法科大学院入学試験の小論文 (未修者コース) のヒントになる前提知識が獲得できると思います。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	法思想史とは？	授業の進め方や成績評価の方法などを説明したあと、これから学習していく「法思想史」がどのような科目なのか、なぜ法学部で西洋法思想の歴史を学ぶ必要があるのかを簡単に解説します。	毎回、教科書の該当箇所を読んでください。また、講義終了後に配布したプリントおよびレジュメを見直してください。各回の講義のキーワードを掲げておきますので、事前・事後学習の参考にしてください (各回とも事前学習と事後学習に各 120 分)。
	2	古代ギリシアの法思想①	「哲学」という独特の思考様式がなぜ古代ギリシアで誕生したのか、そして、それが後代の西洋世界にどのような影響を及ぼしたのかを学習します。哲学以前のホメロス・ヘシオドスの叙事詩も簡単に紹介します。	【キーワード】 『イリアス』と『オデュッセイア』、『神統記』と『労働と日』、神話学的思考と哲学的思考テミス、ノモス、ディケー、ソロン、ソフィスト
	3	古代ギリシアの法思想②	プラトンの前期著作を通じてソクラテスが追究した正しい生き方を概観するとともに、中後期著作でプラトン自身が構想した独創的な正義論・国家論の概要を学習します。	【キーワード】 ソクラテス裁判、クセノポン、クリトン、アカデメイア、対話篇の時代区分、善のアイデア、哲人王、『国家』と『法律』
	4	古代ギリシアの法思想③	万学の祖アリストテレスの著作集はいずれも重要ですが、この回の講義では論理学関連の著作からは論理的思考の芽生え、『ニコマコス倫理学』からは正義論、『政治学』からは国制論をそれぞれ学習します。	【キーワード】 リュケイオン、オルガノン、シュロギスモス、一般的正義と特殊の正義、分配的正義と匡正的正義、衡平、「国制」
	5	古代ローマの法思想	現代の法律学の基礎をなすローマ法がどのような経緯で誕生し、またそれにはどのような事柄が規定されているのかを学習します。また、当時のローマで栄えたストア派の法思想についても簡単に説明します。	【キーワード】 12 表法、市民法と万民法、解答権、自然法と万民法、ウルピアヌスとパウルス、キケロ、ユスティニアヌス法典
	6	古代から中世へ	西洋の法思想に今なお強い影響力を及ぼし続けているキリスト教の成立とその教義をごく簡単に説明したうえで、最大の教父哲学者アウグスティヌスの法思想を『神の国』を中心に解説します。	【キーワード】 ナザレのイエス、ペテロとパウロ、旧約聖書と新約聖書、コイネー、三位一体説、『告白』、永久法・自然法・世俗法
	7	中世の法思想	ローマ帝国の衰退からいわゆる 12 世紀ルネサンスにおけるローマ法の復活にいたるまでの歴史的経緯を説明し、あわせて中世最大の哲学者トマス・アキナスの法思想を解説します。	【キーワード】 12 世紀ルネサンス、ボローニャ大学、註釈学派 (glossatores)、註解学派 (commentatores)、学説彙纂、標準注釈、ドミニコ会、神学大全
	8	中世から近代へ	中学高校の世界史でも必ず取り上げられる「ルネサンス」と「宗教改革」ですが、これらの出来事がそれ以降の法思想にどのような影響を与えたのかを、中世の法思想との対比を通じて学習します。	【キーワード】 ルネサンス (再生)、ルター、カルヴァン、マキアヴェッリ、ボダン、グロティウス、サラマンカ学派 (ビトリアとスアレス)
	9	近代イギリスの法思想①	第 9 回から第 11 回までは社会契約説を学習します。まずこの回の講義ではホッブズ『リヴァイアサン』を取り上げ、彼の法思想を当時のイングランドの社会背景とあわせて学習します。	【キーワード】 ビュリタン革命と名誉革命、自己保存権、自然状態の悲惨さ、ホッブズの自然法 (特に第 1～第 3 の自然法の内容)
	10	近代イギリスの法思想②	社会契約論を代表する第二の思想家としてジョン・ロックを取り上げ、『統治論』で示されている法思想を学習します。ロックからやや時代が下りますが、ヒュームやベンサムも簡単に紹介します。	【キーワード】 ロックの自然法、固有権 (プロパティ)、抵抗権、スコットランド啓蒙、ヒュームの社会契約批判、ベンサム「功利主義」、J・S・ミル「他者危害原理」
	11	近代フランスの法思想	社会契約論の最後の論者としてルソーを取り上げ、『社会契約論』で展開されている「一般意志」という考え方を学習します。あわせてモンテスキュー『法の精神』における権力分立の思想も解説します。	【キーワード】 『不平等起源論』、一般意志 (特にその問題点)、法律の一般性、人民主権、フランス革命へのルソーの影響力、モンテスキューの権力分立論

	12	近代ドイツの法思想①	ドイツ観念論の系譜を簡単に説明したうえで、カント『人倫の形而上学』とヘーゲル『法の哲学』を中心的に取り上げ、彼らの法思想のエッセンスを解説します。	【キーワード】 ドイツ啓蒙期自然法論（プーフェンドルフ・トマジウス・ヴォルフ）、カントの三批判、定言命法、合法性と道徳性、根源契約、ヘーゲルの社会契約批判																
	13	近代ドイツの法思想②	19 世紀のドイツで展開された法思想を学習します。具体的にはサヴィニーに代表される歴史法学に始まり、ヴィントシャイトの概念法学を経て、イェーリングらに至る道のりを学習します。	【キーワード】 法典論争、サヴィニーにおける歴史的方法と体系的方法、概念法学、イェーリングの概念法学批判、自由法運動、利益法学																
	14	近代ドイツの法思想③	20 世紀ドイツを代表する法哲学者であるラートブルフ、ケルゼン、シュミットの三人を取り上げ、ワイマール期からナチズム期の「危機の時代」に彼らがどのような法理論を展開したのかを学習します。	【キーワード】 価値相対主義、再生自然法論、純粋法学、『民主主義の本質と価値』、決断主義、友と敵、政治神学、具体的秩序思想																
	15	授業全体のまとめ	これまでの講義で論じてきた事柄を簡単に復習し、各法思想の普遍性と特殊性について考えてみます（可能であれば、これまでの講義で論じることができなかったトピックを補足説明する予定です）。	個々の概念や人物の正確な理解に努めるとともに、西洋史の大きな流れのなかで各法思想の特徴を述べられるようになること（講義で理解が難しかった箇所を事前にピックアップしておくこと）。																
関連科目	直接的には法哲学総論、法哲学各論、日本法思想史、西洋の裁判の歴史などと関連しますが、それ以外にも広く実定法学（憲法・民法・刑法など）の学習の一助になると思います。																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>法思想史（有斐閣アルマ）</td><td>中山・浅野・松島・近藤</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	法思想史（有斐閣アルマ）	中山・浅野・松島・近藤	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	法思想史（有斐閣アルマ）	中山・浅野・松島・近藤	有斐閣																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>増補新版 法とは何か 法思想史入門</td><td>長谷部恭男</td><td>河出書房新社</td></tr><tr><td>2</td><td>法思想史入門</td><td>西村清貴</td><td>成文堂</td></tr><tr><td>3</td><td>法思想史を読み解く</td><td>戒能通弘ほか</td><td>法律文化社</td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	増補新版 法とは何か 法思想史入門	長谷部恭男	河出書房新社	2	法思想史入門	西村清貴	成文堂	3	法思想史を読み解く	戒能通弘ほか	法律文化社
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	増補新版 法とは何か 法思想史入門	長谷部恭男	河出書房新社																	
2	法思想史入門	西村清貴	成文堂																	
3	法思想史を読み解く	戒能通弘ほか	法律文化社																	
評価方法（基準）	期末試験は実施せず、毎回の課題（小テスト）100%で評価します。毎回真面目に授業に取り組めば単位取得はそれほど困難ではないかと思いますが、毎回課題を出しますので、履修予定の学生はそのつもりで授業に臨んでください。																			
学生へのメッセージ	この西洋法思想史の講義では、西洋における法思想の「古典」と呼ばれる著作を毎時間取り上げます。授業では各法思想の要点しか説明できませんので、興味のある古典作品が出てきたらぜひ積極的に読書をしてほしいと思います。時代を超えて読み継がれてきた古典作品と向き合うことは、学生の皆さんにとってきっと有意義な読書体験になるはずです。 *2023 年度以降、科目名を「法思想史」から「西洋法思想史」に改めました。併せて、2023 年度より「日本法思想史」の授業も新設しましたので、日本の法思想に興味を持った学生はそちらも受講してみてください。																			
担当者の研究室等	11 号館 9 階 松島准教授室																			
備考	教科書は必須なので、必ず毎回持参するようにしてください。また、授業の進捗状況によっては、多少シラバスの内容に変更が生じるかもしれないので、その点はあらかじめご了承ください。																			

科目名	日本法思想史	科目名（英文）	History of Japanese Legal Thought
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松島 裕一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	JDJ2006a0		

授業概要・目的	法思想史とは、過去の思想家たちが法や正義をどのように理解してきたかを考察する学問分野です。この講義では、日本に地域を限定したうえで、おもに明治時代以降に登場したさまざまな法思想を駆け足で見えていきます。 個々の思想家にかんする知識をたんに丸暗記するのではなく、各法思想に含まれる普遍性と特殊性——いつの時代においても通用する普遍的なアイデアとその時代にしか通用しない特殊なアイデア——を的確に見極めつつ、現代の法思想の礎を確認することが、この講義の目的です。
到達目標	この講義を通じて学生には、法思想史（日本）の基本事項を理解することに加え、過去の思想家たちの知識を手掛かりにして自分の意見を論理的に組み立てられるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	対面授業で行います。授業で使用するレジュメや課題はMicrosoft Teams を通じて配布しますので、この授業を受講する学生は必ずチームに加入すること。
科目学習の効果（資格）	法学検定試験や公務員試験などの教養問題に一部対応しています。また、法科大学院入学試験の小論文（未修者コース）のヒントになる前提知識が獲得できると思います。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業の進め方や成績評価の方法などを説明したあと、これから学習していく「日本法思想史」がどのような科目なのか、なぜ法思想の歴史を学ぶ必要があるのかを簡単に解説します。	事前学習として、事前に配布した資料に基づきレジュメの空欄を可能なかぎり埋めてきてください。事後学習として、授業終了後に、レジュメなどを見直しながら、課題に解答してください。（事前学習と事後学習は各 120 分）
	2	西洋法との出会い	明治維新前夜の日本の法制度がどのようなものであったのかを概観し、翻訳の問題に焦点を当てて、西洋法との出会いを解説する。	事前学習として、事前に配布した資料に基づきレジュメの空欄を可能なかぎり埋めてきてください。事後学習として、授業終了後に、レジュメなどを見直しながら、課題に解答してください。（事前学習と事後学習は各 120 分）
	3	民法典編纂への道	明治維新直後から西洋法の継受へと至る、日本の法律学の歩みを学習する。いわゆるお雇い外国人であるボアソナードに詳しく触れる予定である。	事前学習として、事前に配布した資料に基づきレジュメの空欄を可能なかぎり埋めてきてください。事後学習として、授業終了後に、レジュメなどを見直しながら、課題に解答してください。（事前学習と事後学習は各 120 分）
	4	ふたつの法典論争	日本とドイツの法典論争を取り上げ、両者の異同に言及しつつ、法典編纂の背後にある基本的な法思想を学習する。	事前学習として、事前に配布した資料に基づきレジュメの空欄を可能なかぎり埋めてきてください。事後学習として、授業終了後に、レジュメなどを見直しながら、課題に解答してください。（事前学習と事後学習は各 120 分）
	5	日独の民法典編纂	穂積・梅・富井の起草委員の活躍を中心にして、旧民法典の施行延期から明治民法典成立までの法思想を学習する。	事前学習として、事前に配布した資料に基づきレジュメの空欄を可能なかぎり埋めてきてください。事後学習として、授業終了後に、レジュメなどを見直しながら、課題に解答してください。（事前学習と事後学習は各 120 分）
	6	明治民法典の成立	家制度を中心にして明治民法典の基本的な特徴を学習する。また、自然法論から法実証主義への転換についても解説する。	事前学習として、事前に配布した資料に基づきレジュメの空欄を可能なかぎり埋めてきてください。事後学習として、授業終了後に、レジュメなどを見直しながら、課題に解答してください。（事前学習と事後学習は各 120 分）
	7	明治憲法成立前夜	明治維新から明治 14 年の政変に至るまでの流れを学習し、その間に受容された天賦人権説や社会契約論などを解説する。	事前学習として、事前に配布した資料に基づきレジュメの空欄を可能なかぎり埋めてきてください。事後学習として、授業終了後に、レジュメなどを見直しながら、課題に解答してください。（事前学習と事後学習は各 120 分）
	8	明治憲法典の成立	大日本帝国憲法（明治憲法）の成立過程を学習し、伊藤博文らの法思想を取り上げる。また、それに必要なかぎりで、ドイツの公法学にも言及する。	事前学習として、事前に配布した資料に基づきレジュメの空欄を可能なかぎり埋めてきてください。事後学習として、授業終了後に、レジュメなどを見直しながら、課題に解答してください。（事前学習と事後学習は各 120 分）
	9	憲法解釈学の展開	いわゆる大正デモクラシーを背景にして、大正時代に発展を遂げた憲法学と民法学の基本的な特色を学習する。可能なかぎりで、それ以外の法分野も取り上げる。	事前学習として、事前に配布した資料に基づきレジュメの空欄を可能なかぎり埋めてきてください。事後学習として、授業終了後に、レジュメなどを見直しながら、課題に解答してください。（事前学習と事後学習は各 120 分）
	10	刑法典と刑法理論	憲法学と民法学以外の法分野、特に刑法学の成立とその後の発展を取り上げる。日本の刑法学に大きな影響を及ぼしたドイツの刑法学の特徴についても詳しく学習する。	事前学習として、事前に配布した資料に基づきレジュメの空欄を可能なかぎり埋めてきてください。事後学習として、授業終了後に、レジュメなどを見直しながら、課題に解答してください。（事前学習と事後学習は各 120 分）
	11	戦前民法学の進展	いわゆる学説継受時代の民法学を扱うとともに、当時の民法学者に影響を与えた法社会学の台頭についても併せて説明する。	事前学習として、事前に配布した資料に基づきレジュメの空欄を可能なかぎり埋めてきてください。事後学習として、授業終了後に、レジュメなどを見直しながら、課題に解答してください。（事前学習と事後学習は各 120 分）
	12	戦時下の憲法理論	戦前の法思想の大きな潮流として、いわゆる国粋主義的な憲法思想とその問題点を取り上げる。併せて、有名な天皇機関説事件について詳述する。	事前学習として、事前に配布した資料に基づきレジュメの空欄を可能なかぎり埋めてきてください。事後学習として、授業終了後に、レジュメなどを見直しながら、課題に解答してください。（事前学習と事後学習は各 120 分）

	13	戦後昭和の法律学	昭和時代の民法学・刑法学の発展とその特色を学習する。また、労働法などの六法以外の法分野の発展についても取り上げる。	事前学習として、事前に配布した資料に基づきレジユメの空欄を可能なかぎり埋めてください。事後学習として、授業終了後に、レジユメなどを見直しながら、課題に解答してください。（事前学習と事後学習は各 120 分）																
	14	平成時代の法改正	司法制度改革を中心にして、平成時代の法律学・法思想の特色を学習する。併せて、「法の支配」の観念についても西洋との比較を交えて考察する。	事前学習として、事前に配布した資料に基づきレジユメの空欄を可能なかぎり埋めてください。事後学習として、授業終了後に、レジユメなどを見直しながら、課題に解答してください。（事前学習と事後学習は各 120 分）																
	15	授業全体のまとめ	これまでの講義で論じてきた事柄を簡単に復習し、各法思想の普遍性と特殊性について考えてみます（可能であれば、これまでの講義で論じることができなかったトピックを補足説明する予定です）。	個々の概念や人物の正確な理解に努めるとともに、日本史の大きな流れのなかで各法思想の特徴を述べられるようになること（講義で理解が難しかった箇所を事前にピックアップしておくこと）。																
関連科目	直接的には法哲学総論、法哲学各論、西洋法思想史、西洋の裁判の歴史などと関連しますが、それ以外にも広く実定法学（憲法・民法・刑法など）の学習の一助になると思います。																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>近代法思想史入門：日本と西洋の交わりから読む</td><td>大野・森元・吉永</td><td>法律文化社</td></tr><tr><td>2</td><td>法思想史（有斐閣アルマ）</td><td>中山竜一ほか</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	近代法思想史入門：日本と西洋の交わりから読む	大野・森元・吉永	法律文化社	2	法思想史（有斐閣アルマ）	中山竜一ほか	有斐閣	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	近代法思想史入門：日本と西洋の交わりから読む	大野・森元・吉永	法律文化社																	
2	法思想史（有斐閣アルマ）	中山竜一ほか	有斐閣																	
3																				
評価方法（基準）	期末試験は実施せず、毎回の課題（授業内での課題・発表や授業後の小テスト）100%で評価します。毎回真面目に授業に取り組めば単位取得はそれほど困難ではないかと思いますが、毎回課題を出しますので、履修予定の学生はそのつもりで授業に臨んでください。																			
学生へのメッセージ	この日本法思想史の講義では、明治以降の日本における法思想の「古典」と呼ばれる著作を毎時間取り上げます。授業では各法思想の要点しか説明できませんので、興味のある古典作品が出てきたらぜひ積極的に読書をしてほしいと思います。時代を超えて読み継がれてきた古典作品と向き合うことは、学生の皆さんにとってきっと有意義な読書体験になるはずです。 ＊この「日本法思想史」という科目は、昨年度（2023 年度）からの開講になります。実際の授業の進行次第ではシラバスの内容に変更がありえますので、その点を理解したうえで授業に臨んでください。現時点では講義形式を予定していますが、場合によっては、皆さんの興味関心に即して、発表を求めるかもしれません。																			
担当者の研究室等	11 号館 9 階 松島准教授室																			
備考	教科書は特に使用しませんが、『法思想史（有斐閣アルマ）』を持っている学生はぜひ持参してください。また、授業の進捗状況によっては、多少シラバスの内容に変更が生じるかもしれないので、その点はあらかじめご了承ください。																			

科目名	日本法制史	科目名（英文）	Japanese Legal History
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	萩原 守
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1007a0		

授業概要・目的	日本の法制は、古代から明治初期までは中国・朝鮮からの強い影響を受け、それ以降は西洋からの強い影響を受けてきた。しかしながら、そこにはやはり古代から近現代まで続く日本法制史ならではの特徴が見られ、それらを総合的に把握しておくことが現代日本の社会と法制を理解するための必須条件となる。そこで、この授業で受講者は、古代から近現代に至るまでの各時期における日本の法制を年代順に学びとり、日本法制史の持つ特徴を詳しく理解することになる。 この授業の目的は現代日本の社会や社会規範が形成されてきた過去の経緯を深く理解することである。																																																																		
到達目標	古代日本の法制史においては、遣隋使や遣唐使によってもたらされた中国法が日本に与えた影響を即座に指摘した上で日本法制史の持つ特徴を検討できるようになることが目標である。中世においては、日本法制史が持つ強い特徴を、中国や西洋諸国と比較しつつ明瞭に述べることができるようになること。近世（江戸時代）においては、中国法（明律、清律）からの強い影響を再び受けるようになった事情やドイツ、イタリアなどと若干類似する「地方分権」状態が日本に独特の近代化をもたらした点などを詳細に指摘できるようになることが目標である。近代法制史においては、英米型の法制を採用せずにドイツ型の法制を採用したことがもたらした功罪をすぐに指摘できるようになることが目標である。																																																																		
授業方法と留意点	この授業は通常の講義科目である。できるだけ毎回出席して、詳細にノートを取ることが必要となる。また聞き逃した点や理解できなかった点は、そのつど細かく質問して聞き直すことが必要となる。とりわけ、ノートを取ることが絶対の条件となる。																																																																		
科目学習の効果（資格）	教職課程履修者にとっては重要科目。間接的には公務員試験や諸資格試験にも繋がっている。																																																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr><tr><td>1</td><td>法学における「法制史」の位置づけ</td><td>法学という学問体系の中で「法制史」が占める位置、また過去の法の存在形態等、法制史の最も基礎的な部分を学ぶ</td><td>自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）</td></tr><tr><td>2</td><td>律令以前の法と社会</td><td>中国・朝鮮から律令が導入される以前における日本の国家、法、社会のあり方を学ぶ</td><td>自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）</td></tr><tr><td>3</td><td>中国の隋唐時代における律令の編纂</td><td>7回に渡って編纂された隋唐時代の中国の律令と東アジアへの影響とを学ぶ</td><td>自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）</td></tr><tr><td>4</td><td>律令法体制下の行政・支配機構と社会</td><td>律令導入後の日本の行政機構や日本社会の有り様を学ぶ</td><td>自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）</td></tr><tr><td>5</td><td>平安時代の法と社会</td><td>導入された律令体制から徐々に日本独自の体制へと社会と法が変化していく様子を学ぶ</td><td>自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）</td></tr><tr><td>6</td><td>鎌倉期の法と社会</td><td>鎌倉幕府による法とその下での裁判の有り様を学ぶ</td><td>自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）</td></tr><tr><td>7</td><td>室町期の法と社会</td><td>室町期における幕府や寺社勢力による法制を学ぶ</td><td>自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）</td></tr><tr><td>8</td><td>戦国大名の支配と法</td><td>戦国期から織田・豊臣政権期にかけての法と社会を学ぶ</td><td>自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）</td></tr><tr><td>9</td><td>幕藩体制下の法と裁判</td><td>江戸時代における法のあり方と裁判制度を学ぶ</td><td>自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）</td></tr><tr><td>10</td><td>幕藩体制下の社会</td><td>江戸時代における社会、身分、世帯等の実情を学ぶ</td><td>自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）</td></tr><tr><td>11</td><td>幕藩体制から明治維新期への変革</td><td>江戸期から明治期に移行する際の政治上、法制上における大きな変革の有り様を、アジア、ヨーロッパの諸外国と比較しつつ、詳しく学びとる</td><td>自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）</td></tr><tr><td>12</td><td>世界史的な見地から見た明治維新への評価</td><td>日本の近代化の始まりとしての明治維新を、世界史的にどう評価すべきなのかを詳しく学ぶ</td><td>自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）</td></tr><tr><td>13</td><td>日本への西洋法の導入問題</td><td>中国法の強い影響下にあった日本の法制が欧米の法の影響下に入っていく際の諸問題を学ぶ</td><td>自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）</td></tr><tr><td>14</td><td>大日本帝国憲法と統帥権問題</td><td>英米法とドイツ法のどちらを導入するかという問題が決着した明治 14 年の政変、また第二次世界大戦の泥沼へと日本が陥っていった法制上の問題を詳しく学ぶ</td><td>自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）</td></tr><tr><td>15</td><td>日本国憲法と戦後の日本社会</td><td>戦後、新たに導入された日本国憲法と戦後の日本社会の問題を学ぶ</td><td>自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）</td></tr></table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	法学における「法制史」の位置づけ	法学という学問体系の中で「法制史」が占める位置、また過去の法の存在形態等、法制史の最も基礎的な部分を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）	2	律令以前の法と社会	中国・朝鮮から律令が導入される以前における日本の国家、法、社会のあり方を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）	3	中国の隋唐時代における律令の編纂	7回に渡って編纂された隋唐時代の中国の律令と東アジアへの影響とを学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）	4	律令法体制下の行政・支配機構と社会	律令導入後の日本の行政機構や日本社会の有り様を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）	5	平安時代の法と社会	導入された律令体制から徐々に日本独自の体制へと社会と法が変化していく様子を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）	6	鎌倉期の法と社会	鎌倉幕府による法とその下での裁判の有り様を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）	7	室町期の法と社会	室町期における幕府や寺社勢力による法制を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）	8	戦国大名の支配と法	戦国期から織田・豊臣政権期にかけての法と社会を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）	9	幕藩体制下の法と裁判	江戸時代における法のあり方と裁判制度を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）	10	幕藩体制下の社会	江戸時代における社会、身分、世帯等の実情を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）	11	幕藩体制から明治維新期への変革	江戸期から明治期に移行する際の政治上、法制上における大きな変革の有り様を、アジア、ヨーロッパの諸外国と比較しつつ、詳しく学びとる	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）	12	世界史的な見地から見た明治維新への評価	日本の近代化の始まりとしての明治維新を、世界史的にどう評価すべきなのかを詳しく学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）	13	日本への西洋法の導入問題	中国法の強い影響下にあった日本の法制が欧米の法の影響下に入っていく際の諸問題を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）	14	大日本帝国憲法と統帥権問題	英米法とドイツ法のどちらを導入するかという問題が決着した明治 14 年の政変、また第二次世界大戦の泥沼へと日本が陥っていった法制上の問題を詳しく学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）	15	日本国憲法と戦後の日本社会	戦後、新たに導入された日本国憲法と戦後の日本社会の問題を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	法学における「法制史」の位置づけ	法学という学問体系の中で「法制史」が占める位置、また過去の法の存在形態等、法制史の最も基礎的な部分を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）																																																																
2	律令以前の法と社会	中国・朝鮮から律令が導入される以前における日本の国家、法、社会のあり方を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）																																																																
3	中国の隋唐時代における律令の編纂	7回に渡って編纂された隋唐時代の中国の律令と東アジアへの影響とを学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）																																																																
4	律令法体制下の行政・支配機構と社会	律令導入後の日本の行政機構や日本社会の有り様を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）																																																																
5	平安時代の法と社会	導入された律令体制から徐々に日本独自の体制へと社会と法が変化していく様子を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）																																																																
6	鎌倉期の法と社会	鎌倉幕府による法とその下での裁判の有り様を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）																																																																
7	室町期の法と社会	室町期における幕府や寺社勢力による法制を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）																																																																
8	戦国大名の支配と法	戦国期から織田・豊臣政権期にかけての法と社会を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）																																																																
9	幕藩体制下の法と裁判	江戸時代における法のあり方と裁判制度を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）																																																																
10	幕藩体制下の社会	江戸時代における社会、身分、世帯等の実情を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）																																																																
11	幕藩体制から明治維新期への変革	江戸期から明治期に移行する際の政治上、法制上における大きな変革の有り様を、アジア、ヨーロッパの諸外国と比較しつつ、詳しく学びとる	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）																																																																
12	世界史的な見地から見た明治維新への評価	日本の近代化の始まりとしての明治維新を、世界史的にどう評価すべきなのかを詳しく学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）																																																																
13	日本への西洋法の導入問題	中国法の強い影響下にあった日本の法制が欧米の法の影響下に入っていく際の諸問題を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）																																																																
14	大日本帝国憲法と統帥権問題	英米法とドイツ法のどちらを導入するかという問題が決着した明治 14 年の政変、また第二次世界大戦の泥沼へと日本が陥っていった法制上の問題を詳しく学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）																																																																
15	日本国憲法と戦後の日本社会	戦後、新たに導入された日本国憲法と戦後の日本社会の問題を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（2時間）																																																																
関連科目	東洋法制史、法と社会、比較法史																																																																		
教科書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>概説 日本法制史</td><td>出口雄一他</td><td>弘文堂</td></tr><tr><td>2</td><td>日本法制史</td><td>湯浅弘他</td><td>青林書院</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	概説 日本法制史	出口雄一他	弘文堂	2	日本法制史	湯浅弘他	青林書院	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	概説 日本法制史	出口雄一他	弘文堂																																																																
2	日本法制史	湯浅弘他	青林書院																																																																
3																																																																			
評価方法（基準）	主として定期試験の結果から評価するが、良い答案を書くためには、当然、毎回の出席とノート筆記、また予習復習が絶対条件となる。																																																																		

学生への メッセージ	あまり難しく考えないで気軽に受講してほしい。法制史は、基礎法学の一つであると同時に、歴史学の一つでもあるため、歴史の好きな人は特に歓迎するが、日本史を学んだことのない人でも理解できるように、わかりやすい授業を心がけたい。授業中にノートを取ることは必須であるため、毎回、必ず筆記用具とノート類とを持ってくること。ただ聞き流すだけの受講態度であれば、単位の取得は難しいかもしれない。また試験対策用にも、疑問点があれば、すぐに質問して解決しておくことが必要。
担当者の 研究室等	11 号館の 10 階にある萩原守研究室
備考	

科目名	東洋法制史	科目名 (英文)	Oriental Legal History
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	萩原 守
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1008a0		

授業概要・目的	基礎法学の一つである「法制史」の中でも、「東洋法制史」はアジア地域の法制史を取り上げて詳しく学ぶ科目である。アジアは広く多様であり、全ての地域の法制史を学ぶことは不可能なので、この授業では、東洋法制史の中でも最も代表的な存在である中国の法制史を学ぶことにする。中国法制史は日本法制史や東アジア全体の法制史とも関わりが深く、授業に際して西洋法制史や日本法制史にもしばしば言及するため、中国法制史が有する人類史的な意義を学び取ることも、この授業の目的となる。																																																																			
到達目標	この講義を通じて受講者には、古代以来近代に至るまでの中国諸王朝における法典や裁判制度の実情を詳しく学び取り、西洋法制史との対比や日本法制史への具体的な影響をすぐに指摘できるようになることが期待される。また、その学びの過程を通じて、近現代に至るまでの東アジア地域において存在していた社会規範の有り方や東アジア社会・文化の形成過程を学び取ることも期待される。これらが、この授業の到達目標である。																																																																			
授業方法と留意点	この授業は、通常の講義科目である。なるべく毎回出席して、しっかりとノートを取ることが必要となる。そのために、毎回、ノートと筆記用具を持参することが絶対条件となる。																																																																			
科目学習の効果（資格）	中国法制史を学ぶことによって、日本法制史への強い影響や、西洋法制史の持つ特異性（法と裁判に対する宗教の強い影響など）が、より明瞭に理解できるようになるであろう。また、社会科の教職をめざす学生には、大きな利点が得られると思われる。																																																																			
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr><tr><td>1</td><td>法学分野における「東洋法制史」の位置づけ</td><td>基礎法学の一つとしての「法制史」と、その中に含まれる「東洋法制史」の位置づけ、さらには歴史上における法の存在形態などを学ぶ</td><td>「法制史」という学問分野の持つ存在意義を予習復習しておいてほしい。</td></tr><tr><td>2</td><td>中国法制史の持つ特徴</td><td>成文法と判例法、神判の有無等の多角的な側面から、中国法制史の持つ特徴を学ぶ</td><td>西洋法制史、特に英米法や大陸法との対比、魔女裁判の発生等の事柄を予習復習してほしい。</td></tr><tr><td>3</td><td>日本法制史や西洋法制史に見られる「神判」の事例</td><td>日本の「盟神探湯」、西洋の「異端審問」、「魔女裁判」等について、短く学ぶ</td><td>日本法制史や西洋法制史との対比を予習復習してほしい。</td></tr><tr><td>4</td><td>古代中国の法</td><td>古代中国の春秋時代、戦国時代における成文法の出現状況から始まり、1970年代以降次々に発見され始めた『秦律』、『漢律』までを学ぶ</td><td>予習復習してほしい。</td></tr><tr><td>5</td><td>古代中国の刑罰体系</td><td>周代、秦漢代における刑罰の体系を学ぶ</td><td>予習復習してほしい。</td></tr><tr><td>6</td><td>隋唐時代の律令</td><td>隋唐時代に7回制定された『律令』、またそこから影響を受けた日本の律令について学ぶ</td><td>遣隋使・遣唐使たちが持ち帰った中国の律令を元にして制定された日本の律令をも予習復習してほしい。</td></tr><tr><td>7</td><td>隋唐時代の刑罰体系</td><td>隋唐時代の刑罰の体系を学ぶ</td><td>予習復習してほしい。</td></tr><tr><td>8</td><td>唐宋変革</td><td>唐代から宋代にかけての中国社会の一大変革と、その後の中国社会への強い影響とを学ぶ</td><td>中国史についての書籍を読んで予習復習してほしい。</td></tr><tr><td>9</td><td>宋・元時代の法典</td><td>中国史上でも例外的に律が制定されなかった時代である宋代と元代の法典、裁判制度を学ぶ</td><td>予習復習してほしい</td></tr><tr><td>10</td><td>明清時代の律</td><td>『明律』と『大清律例』の持つ重要な特徴を詳しく学ぶ</td><td>江戸時代から明治初期にかけての日本法制史に大きな影響を与えた明清の律を、日本法制史側からも学び取って予習復習してほしい。</td></tr><tr><td>11</td><td>中華民国期・中華人民共和国期の法</td><td>近代中国の政治史と、新たに導入された西洋風の法制や社会主義法とを学ぶ</td><td>予習復習してほしい</td></tr><tr><td>12</td><td>清王朝の固有法</td><td>清王朝治下で民族集団別に制定された各種の法典について、その研究状況も含めて詳しく学ぶ</td><td>中国本土、モンゴル、チベット、ウイグルなど、清王朝治下にあった各地域での司法支配の状況を調べて予習復習してほしいほしい。</td></tr><tr><td>13</td><td>清朝の行政機構</td><td>清王朝において、徴税・司法等を担っていた複雑な行政機構について、その所在地や権限等を詳しく学ぶ</td><td>予習復習してほしい。</td></tr><tr><td>14</td><td>清朝の科举制度</td><td>清王朝の官僚機構を動かしていた旗人官僚と科举官僚の内、後者の官僚を選抜していた科举試験について学ぶ</td><td>世界で最初に実施され始めた「官僚選抜試験」の最終段階における実態をよく調べてみてほしい。</td></tr><tr><td>15</td><td>清朝の裁判制度と刑罰体系との関わり</td><td>清王朝における基本的な裁判制度と刑罰体系との有機的な関連を詳しく学ぶ</td><td>予習復習してほしい。</td></tr></table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	法学分野における「東洋法制史」の位置づけ	基礎法学の一つとしての「法制史」と、その中に含まれる「東洋法制史」の位置づけ、さらには歴史上における法の存在形態などを学ぶ	「法制史」という学問分野の持つ存在意義を予習復習しておいてほしい。	2	中国法制史の持つ特徴	成文法と判例法、神判の有無等の多角的な側面から、中国法制史の持つ特徴を学ぶ	西洋法制史、特に英米法や大陸法との対比、魔女裁判の発生等の事柄を予習復習してほしい。	3	日本法制史や西洋法制史に見られる「神判」の事例	日本の「盟神探湯」、西洋の「異端審問」、「魔女裁判」等について、短く学ぶ	日本法制史や西洋法制史との対比を予習復習してほしい。	4	古代中国の法	古代中国の春秋時代、戦国時代における成文法の出現状況から始まり、1970年代以降次々に発見され始めた『秦律』、『漢律』までを学ぶ	予習復習してほしい。	5	古代中国の刑罰体系	周代、秦漢代における刑罰の体系を学ぶ	予習復習してほしい。	6	隋唐時代の律令	隋唐時代に7回制定された『律令』、またそこから影響を受けた日本の律令について学ぶ	遣隋使・遣唐使たちが持ち帰った中国の律令を元にして制定された日本の律令をも予習復習してほしい。	7	隋唐時代の刑罰体系	隋唐時代の刑罰の体系を学ぶ	予習復習してほしい。	8	唐宋変革	唐代から宋代にかけての中国社会の一大変革と、その後の中国社会への強い影響とを学ぶ	中国史についての書籍を読んで予習復習してほしい。	9	宋・元時代の法典	中国史上でも例外的に律が制定されなかった時代である宋代と元代の法典、裁判制度を学ぶ	予習復習してほしい	10	明清時代の律	『明律』と『大清律例』の持つ重要な特徴を詳しく学ぶ	江戸時代から明治初期にかけての日本法制史に大きな影響を与えた明清の律を、日本法制史側からも学び取って予習復習してほしい。	11	中華民国期・中華人民共和国期の法	近代中国の政治史と、新たに導入された西洋風の法制や社会主義法とを学ぶ	予習復習してほしい	12	清王朝の固有法	清王朝治下で民族集団別に制定された各種の法典について、その研究状況も含めて詳しく学ぶ	中国本土、モンゴル、チベット、ウイグルなど、清王朝治下にあった各地域での司法支配の状況を調べて予習復習してほしいほしい。	13	清朝の行政機構	清王朝において、徴税・司法等を担っていた複雑な行政機構について、その所在地や権限等を詳しく学ぶ	予習復習してほしい。	14	清朝の科举制度	清王朝の官僚機構を動かしていた旗人官僚と科举官僚の内、後者の官僚を選抜していた科举試験について学ぶ	世界で最初に実施され始めた「官僚選抜試験」の最終段階における実態をよく調べてみてほしい。	15	清朝の裁判制度と刑罰体系との関わり	清王朝における基本的な裁判制度と刑罰体系との有機的な関連を詳しく学ぶ	予習復習してほしい。			
	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
	1	法学分野における「東洋法制史」の位置づけ	基礎法学の一つとしての「法制史」と、その中に含まれる「東洋法制史」の位置づけ、さらには歴史上における法の存在形態などを学ぶ	「法制史」という学問分野の持つ存在意義を予習復習しておいてほしい。																																																																
	2	中国法制史の持つ特徴	成文法と判例法、神判の有無等の多角的な側面から、中国法制史の持つ特徴を学ぶ	西洋法制史、特に英米法や大陸法との対比、魔女裁判の発生等の事柄を予習復習してほしい。																																																																
	3	日本法制史や西洋法制史に見られる「神判」の事例	日本の「盟神探湯」、西洋の「異端審問」、「魔女裁判」等について、短く学ぶ	日本法制史や西洋法制史との対比を予習復習してほしい。																																																																
	4	古代中国の法	古代中国の春秋時代、戦国時代における成文法の出現状況から始まり、1970年代以降次々に発見され始めた『秦律』、『漢律』までを学ぶ	予習復習してほしい。																																																																
	5	古代中国の刑罰体系	周代、秦漢代における刑罰の体系を学ぶ	予習復習してほしい。																																																																
	6	隋唐時代の律令	隋唐時代に7回制定された『律令』、またそこから影響を受けた日本の律令について学ぶ	遣隋使・遣唐使たちが持ち帰った中国の律令を元にして制定された日本の律令をも予習復習してほしい。																																																																
	7	隋唐時代の刑罰体系	隋唐時代の刑罰の体系を学ぶ	予習復習してほしい。																																																																
	8	唐宋変革	唐代から宋代にかけての中国社会の一大変革と、その後の中国社会への強い影響とを学ぶ	中国史についての書籍を読んで予習復習してほしい。																																																																
	9	宋・元時代の法典	中国史上でも例外的に律が制定されなかった時代である宋代と元代の法典、裁判制度を学ぶ	予習復習してほしい																																																																
	10	明清時代の律	『明律』と『大清律例』の持つ重要な特徴を詳しく学ぶ	江戸時代から明治初期にかけての日本法制史に大きな影響を与えた明清の律を、日本法制史側からも学び取って予習復習してほしい。																																																																
	11	中華民国期・中華人民共和国期の法	近代中国の政治史と、新たに導入された西洋風の法制や社会主義法とを学ぶ	予習復習してほしい																																																																
	12	清王朝の固有法	清王朝治下で民族集団別に制定された各種の法典について、その研究状況も含めて詳しく学ぶ	中国本土、モンゴル、チベット、ウイグルなど、清王朝治下にあった各地域での司法支配の状況を調べて予習復習してほしいほしい。																																																																
	13	清朝の行政機構	清王朝において、徴税・司法等を担っていた複雑な行政機構について、その所在地や権限等を詳しく学ぶ	予習復習してほしい。																																																																
	14	清朝の科举制度	清王朝の官僚機構を動かしていた旗人官僚と科举官僚の内、後者の官僚を選抜していた科举試験について学ぶ	世界で最初に実施され始めた「官僚選抜試験」の最終段階における実態をよく調べてみてほしい。																																																																
15	清朝の裁判制度と刑罰体系との関わり	清王朝における基本的な裁判制度と刑罰体系との有機的な関連を詳しく学ぶ	予習復習してほしい。																																																																	
関連科目	法と社会、日本法制史、比較法史																																																																			
教科書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																						
	番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
	1																																																																			
	2																																																																			
3																																																																				
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>史料からみる中国法史</td><td>石岡浩・川村康他</td><td>法律文化社</td></tr><tr><td>2</td><td>鹿洲公案</td><td>藍鼎元・宮崎市定</td><td>平凡社</td></tr><tr><td>3</td><td>科举 中国の試験地獄</td><td>宮崎市定</td><td>中公文庫</td></tr></table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	史料からみる中国法史	石岡浩・川村康他	法律文化社	2	鹿洲公案	藍鼎元・宮崎市定	平凡社	3	科举 中国の試験地獄	宮崎市定	中公文庫																																																			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
	1	史料からみる中国法史	石岡浩・川村康他	法律文化社																																																																
	2	鹿洲公案	藍鼎元・宮崎市定	平凡社																																																																
3	科举 中国の試験地獄	宮崎市定	中公文庫																																																																	
評価方法（基準）	主として定期試験の結果から評価する。良い答案を書くためには、毎回出席して、しっかりとノートを取ることが絶対条件となる。																																																																			
学生へのメッセージ	難しそうだと思うが、気軽に出席してほしい。歴史が好きな人には特に勧めたいが、世界史を学んだことのない人にもわかりやすい授業にしたい。単位を取るために、毎回筆記用具とノート類を持参する必要がある。また授業中の質問は大歓迎である。																																																																			

担当者の 研究室等	11 号館の 10 階にある萩原研究室
備考	

科目名	西洋法制史	科目名（英文）	Western Legal History
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小宮山 直子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1009a0		

授業概要・目的	この授業では、ヨーロッパにおける中世から近代にいたる法の歴史を概説します。ヨーロッパ法が日本近代法の形成に大きな影響を与えたことを念頭におきつつ、フランス・ドイツを中心に、法の歴史的展開および法文化の特徴を、当時の社会とのかかわりを含めて考察します。授業全体の後半は、近代法の展開に焦点をあてます。また、各時代の裁判の特徴と著名な裁判例もとりあげます。
到達目標	ヨーロッパ法の歴史について基礎的な知識を身につけ、さらに歴史的視点を踏まえて現代法を考察していく力を養うことを目標とします。
授業方法と留意点	各授業の最後に小テストなどの課題に取り組んでもらいます。 授業内容を自分のノートにもまとめるようにしましょう。 授業の進行にあわせて、2 回分のテーマを1 回にまとめることもあります。
科目学習の効果（資格）	教職科目（中学社会科・高校公民・高校地歴）に必要です。公務員試験や就職試験の一般教養（SPI 対策）としても有益です。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業内容の概説、近代日本における西洋文化の受容	。事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（1 時間程度）
	2	中世ヨーロッパの社会と法（1）	ユスティニアヌス法典とサリカ法典、ゲルマンの伝統的裁判	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく（30 分）。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する（1 時間）。
	3	中世ヨーロッパの社会と法（2）	ローマ法、教会法、大学における法学教育	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく（30 分）。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する（1 時間）。
	4	中世ヨーロッパの社会と法（3）	封建制の構造、身分制	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく（30 分）。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する（1 時間）。
	5	近世ヨーロッパの社会と法（1）	絶対王政、法統一の試み	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく（30 分）。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する（1 時間）。
	6	近世ヨーロッパの社会と法（2）	啓蒙期と法典編纂	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく（30 分）。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する（1 時間）。
	7	英米法の歴史の概要	陪審制の成立・発展	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく（30 分）。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する（1 時間）。
	8	フランス革命（1）	フランス革命の概要、フランス人権宣言	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく（30 分）。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する（1 時間）。
	9	フランス革命（2）	革命期の裁判制度改革（陪審制の導入）	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく（30 分）。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する（1 時間）。
	10	ナポレオンと近代市民法―フランス民法典（1804 年）	フランス民法典の特徴	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく（30 分）。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する（1 時間）。
	11	法典論争と歴史法学派	サヴィニーとティボーの法典論争、歴史法学派	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく（30 分）。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する（1 時間）。
	12	19 世紀フランスの社会と法	都市の衛生・貧困問題 労働者問題と法	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく（30 分）。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する（1 時間）。
	13	1 9 世紀ドイツの社会と法	ドイツ民法典の成立過程、その特徴	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく（30 分）。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する（1 時間）。
	14	2 0 世紀の社会と法	20 世紀前半・女性参政権の動向	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく（30 分）。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する（1 時間）。
	15	全体のまとめ	全体のまとめ（復習）	これまでのレジュメ及び資料を見直して、授業の全体像を再確認・整理する。重要キーワードについては、自分の言葉で説明できるよう整理する（3 時間）。
関連科目	法制史および法思想史に関連する科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	概説西洋法制史	勝田有恒 他	ミネルヴァ書房
	2	法制史入門	三成賢次、他	ナカニシヤ出版
	3	ローマ法とヨーロッパ	ピーター・スタイン	ミネルヴァ書房
評価方法 (基準)	授業内課題（小テスト、小レポートなど）20%と、定期試験（筆記試験）80%によって、総合的に評価します。 授業内課題の詳細は、第1回授業において説明します。			
学生への メッセージ	高校の世界史の教科書(特にヨーロッパ史の箇所)を復習しておきましょう。			
担当者の 研究室等	11号館5階 法学部資料室（法学部非常勤講師室）			
備考	参考文献は、授業の中で随時紹介します。			

科目名	比較法史	科目名 (英文)	Comparative Legal History
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	萩原 守
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2010a0		

授業概要・目的	法の比較は、当該社会やその伝統文化の比較にもつながる重要な研究分野である。さらに、法学は元々社会と法との関わりを念頭に置いた学問体系を有している。そこで受講者にはこの授業で、現実の社会実態と伝統法や外来法との関わり具合とを両方学んでいただく。具体的には、担当教員の専門分野である 19 世紀のモンゴル遊牧民社会で起こった現実の刑事事件と、その裁判で適用された中国法起源の法とを細かく分析することによって、受講者は、清代モンゴルの遊牧民社会のあり方をより立体的に理解していくこととなる。すなわちこの授業の目標は、伝統的なモンゴル社会とそこに外部から新たに導入された中国法の存在とをより深く理解することである。
到達目標	この講義を通じて受講者には、中国法が周辺諸地域へと広がっていく現実の事例を、具体例を示しつつ理解し、かつその理論的な側面を自ら説明できるだけの知識を身につけることが期待される。
授業方法と留意点	この授業は、通常の講義形式の授業である。可能な限り毎回出席して、しっかりとノートを取ることが必要である。そのために、当然毎回、筆記用具とノート類を持参することが必要となる。また、ほぼ毎回、大量のプリント資料類を配付するので、なくすことなく毎回忘れずに持参する必要がある。特に、試験時には、絶対に忘れてこないように注意が必要。
科目学習の効果 (資格)	日本法制史に普遍的に見られるような「中国法の周辺地域への播種」の問題を扱うため、特に社会科学系の教職を目指す学生には、大きな効果が期待できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	法の比較と社会史、女性史	比較法学、法制史、社会史などの研究分野について、その位置づけや研究手法等を学ぶ	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)
	2	清朝支配下におけるモンゴルの法	清王朝が支配下の諸民族集団に対して制定した種々の法の内、モンゴル人専用法である「蒙古例」について詳しく学ぶ	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)
	3	清朝支配下におけるモンゴルの裁判制度	現在までに明らかになっている清代モンゴルの裁判制度を、中国本土の制度と比較しつつ、学ぶ	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)
	4	「犯罪者捕獲期限」に関する伝統的な中国法	『明律』と『大清律例』の中に収録されている「犯罪者捕獲期限」に関する法の条文を詳しく検討して学ぶ	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく
	5	「犯罪者捕獲期限」に関する法の起源	「犯罪者捕獲期限」に関する条文が『唐律』にまでさかのぼることができるという問題、また同時に日本の『養老律令』にも入った可能性を深く学ぶ	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)
	6	「犯罪者捕獲期限」法のモンゴルへの導入	「犯罪者捕獲期限」に関する法のモンゴルへの導入時期を細かく学び、同定していく	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)
	7	「オドセルとナワーンの事件」における首犯と従犯の出自	19 世紀末の外モンゴル地域で発生したこの事件の加害者オドセルが所属していたチベット仏教の活仏の旗と、同じく加害者ナワーンが所属していた大活仏の領民について詳しく学ぶ	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)
	8	「オドセルとナワーンの事件」における従犯・被害者の出自と目的地	加害者ナワーンと被害者ダグバとが所属していたフレー (現在のウランバートル市) における僧坊、巡礼先となった五台山などを学ぶ	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)
	9	事件の経緯	巡礼の途中で起こったこの事件について学ぶ	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)
	10	被害者が受け取っていたお布施	事件に関する裁判の判決文の途中経過と巡礼時に被害者が受け取っていたお布施の問題とを学び取る	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)
	11	首犯が収容されていた監獄	首犯オドセルが収容されたフレー (現ウランバートル市) の監獄の位置を、ロシア軍が作成した当時のロシア語地図から読み解いていく	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)
	12	監獄の管理運営状況	首犯オドセルが収容されたフレー監獄の管理・運営状況を当時の記録から細かく再現していき、それを学び取る	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)
	13	脱獄犯に対する指名手配	加害者オドセルの脱獄にともなって緊急に発令された指名手配の状況を検討し、学び取る	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)
	14	脱獄犯を再捕獲する際の捕獲期限	オドセルの脱獄に対してその後適用された「犯罪者捕獲期限」法による期限付指名手配の実態を学ぶ	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)
	15	再捕獲の状況	オドセルが再捕獲されたとみられる記録と、予想される刑罰の問題を検討し、学び取る	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)

関連科目	東洋法制史、日本法制史、法と社会
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中央アジアの歴史と現在 草原の叡智	松原正毅他	勉誠出版
	2	ユーラシア草原からのメッセージ	松原正毅他	平凡社
	3	清代モンゴルの裁判と裁判文書	萩原守	創文社
評価方法 (基準)	学期末に試験を行う。成績評価は、主としてこの期末試験から判断する。			
学生への メッセージ	具体的で詳しい講義を実施するので、恐れずに参加してほしい。いつでも質問できるような柔らかい雰囲気の授業にしたい。ノートと筆記用具を毎回持ってくること。			
担当者の 研究室等	11 号館の 10 階にある萩原研究室			
備考				

科目名	法と社会	科目名 (英文)	Law and Society
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	萩原 守
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2011a0		

授業概要・目的	法学は元々社会との接点があつてこそ、価値が生じる学問分野である。そこで受講者にはこの授業で、過去における現実の社会と法との密接な関わり具合を深く学んでほしい。具体的には、担当教員の専門分野を生かして、18 世紀のモンゴル遊牧民社会で起こった現実の刑事事件とその裁判を細かく分析し、清代モンゴルの遊牧民社会と法のあり方を理解できるような授業にするので、法と社会との深いつながりを是非とも学んでいただきたい。																																																																		
到達目標	この講義を通じて受講者には、法と社会との関わり方を理解できるようになり、かつ具体例を示しつつその理論的な側面を自ら説明できるだけの知識を身につけることが期待される。それがこの授業の到達目標である。																																																																		
授業方法と留意点	この授業は、通常の講義形式の授業である。可能な限り毎回出席して、しっかりとノートを取るが必要である。そのために、毎回、筆記用具とノート類を持参する必要がある。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	歴史上における社会と法との密接な関わりを学び取ることができるため、社会科学系の教職を目指す学生には、特に大きな効果が期待できる。																																																																		
授業計画	<table> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> <tr> <td>1</td><td>社会史、女性史と法学</td><td>法学、法制史、社会史、女性史などの研究分野について、その研究手法や注意点等を学ぶ</td><td>講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>遊牧民社会の日常</td><td>世界各地に居住している遊牧民の日常生活の具体像を学ぶ</td><td>講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>清朝支配下における民族別の法</td><td>清王朝が支配下の諸民族集団に対して制定した種々の法について詳しく学ぶ</td><td>講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>清朝支配下の各地域における裁判制度</td><td>現在までに明らかになっている清代の各地域での裁判制度を学ぶ</td><td>講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく</td></tr> <tr> <td>5</td><td>清朝治下における「蒙古例」</td><td>清王朝が一般的なモンゴル人を対象にして制定したモンゴル人専用法の全体像を学ぶ</td><td>講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>清代モンゴルの身分制度と行政制度</td><td>清代モンゴルの複雑な身分制度とそれに応じた複雑な法体系とを学ぶ</td><td>講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>18 世紀末の外モンゴル地域で発生した「ダシジドの事件」①</td><td>ダシジドの身分や、幼年期以来の生き様を学び取る</td><td>講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>「ダシジドの事件」②</td><td>シングルマザーとなった平民ダシジドが巻き込まれた冤罪、人身売買に伴って起こしてしまった事件等を詳しく学ぶ</td><td>講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>「ダシジドの事件」③</td><td>ダシジドの起こした事件に関する各段階での裁判とその判決文を詳細に検討し、理解する</td><td>講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>「ダシジドの事件」④</td><td>「ダシジドの事件」の最終判決とその判決が有する歴史学的・政治史的・法制史的な意義を検討し、理解する</td><td>講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>「ダシジドの事件」⑤</td><td>「ダシジドの事件」における人身売買と婚姻の問題を法的に検討し、その相違を学び取る</td><td>講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>18 世紀末の外モンゴル地域で発生した「オンボフの事件」①</td><td>オンボフとその両親の身分、オンボフの父と伯父が起こした馬泥棒の事件やその後のオンボフの運命を学び取る</td><td>講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>「オンボフの事件」②</td><td>不法裁判によって身分を落とされたオンボフが起こしてしまった事件の詳細を検討して学ぶ</td><td>講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>「オンボフの事件」③</td><td>「オンボフの事件」が裁かれていく過程で下された各級の裁判での判決文を細かく検討し、学び取る</td><td>講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>「オンボフの事件」④</td><td>「オンボフの事件」から理解できる当時のモンゴル人社会と、法制の変遷問題を学ぶ</td><td>講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)</td></tr> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	社会史、女性史と法学	法学、法制史、社会史、女性史などの研究分野について、その研究手法や注意点等を学ぶ	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)	2	遊牧民社会の日常	世界各地に居住している遊牧民の日常生活の具体像を学ぶ	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)	3	清朝支配下における民族別の法	清王朝が支配下の諸民族集団に対して制定した種々の法について詳しく学ぶ	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)	4	清朝支配下の各地域における裁判制度	現在までに明らかになっている清代の各地域での裁判制度を学ぶ	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく	5	清朝治下における「蒙古例」	清王朝が一般的なモンゴル人を対象にして制定したモンゴル人専用法の全体像を学ぶ	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)	6	清代モンゴルの身分制度と行政制度	清代モンゴルの複雑な身分制度とそれに応じた複雑な法体系とを学ぶ	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)	7	18 世紀末の外モンゴル地域で発生した「ダシジドの事件」①	ダシジドの身分や、幼年期以来の生き様を学び取る	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)	8	「ダシジドの事件」②	シングルマザーとなった平民ダシジドが巻き込まれた冤罪、人身売買に伴って起こしてしまった事件等を詳しく学ぶ	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)	9	「ダシジドの事件」③	ダシジドの起こした事件に関する各段階での裁判とその判決文を詳細に検討し、理解する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)	10	「ダシジドの事件」④	「ダシジドの事件」の最終判決とその判決が有する歴史学的・政治史的・法制史的な意義を検討し、理解する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)	11	「ダシジドの事件」⑤	「ダシジドの事件」における人身売買と婚姻の問題を法的に検討し、その相違を学び取る	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)	12	18 世紀末の外モンゴル地域で発生した「オンボフの事件」①	オンボフとその両親の身分、オンボフの父と伯父が起こした馬泥棒の事件やその後のオンボフの運命を学び取る	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)	13	「オンボフの事件」②	不法裁判によって身分を落とされたオンボフが起こしてしまった事件の詳細を検討して学ぶ	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)	14	「オンボフの事件」③	「オンボフの事件」が裁かれていく過程で下された各級の裁判での判決文を細かく検討し、学び取る	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)	15	「オンボフの事件」④	「オンボフの事件」から理解できる当時のモンゴル人社会と、法制の変遷問題を学ぶ	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	社会史、女性史と法学	法学、法制史、社会史、女性史などの研究分野について、その研究手法や注意点等を学ぶ	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)																																																																
2	遊牧民社会の日常	世界各地に居住している遊牧民の日常生活の具体像を学ぶ	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)																																																																
3	清朝支配下における民族別の法	清王朝が支配下の諸民族集団に対して制定した種々の法について詳しく学ぶ	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)																																																																
4	清朝支配下の各地域における裁判制度	現在までに明らかになっている清代の各地域での裁判制度を学ぶ	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく																																																																
5	清朝治下における「蒙古例」	清王朝が一般的なモンゴル人を対象にして制定したモンゴル人専用法の全体像を学ぶ	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)																																																																
6	清代モンゴルの身分制度と行政制度	清代モンゴルの複雑な身分制度とそれに応じた複雑な法体系とを学ぶ	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)																																																																
7	18 世紀末の外モンゴル地域で発生した「ダシジドの事件」①	ダシジドの身分や、幼年期以来の生き様を学び取る	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)																																																																
8	「ダシジドの事件」②	シングルマザーとなった平民ダシジドが巻き込まれた冤罪、人身売買に伴って起こしてしまった事件等を詳しく学ぶ	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)																																																																
9	「ダシジドの事件」③	ダシジドの起こした事件に関する各段階での裁判とその判決文を詳細に検討し、理解する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)																																																																
10	「ダシジドの事件」④	「ダシジドの事件」の最終判決とその判決が有する歴史学的・政治史的・法制史的な意義を検討し、理解する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)																																																																
11	「ダシジドの事件」⑤	「ダシジドの事件」における人身売買と婚姻の問題を法的に検討し、その相違を学び取る	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)																																																																
12	18 世紀末の外モンゴル地域で発生した「オンボフの事件」①	オンボフとその両親の身分、オンボフの父と伯父が起こした馬泥棒の事件やその後のオンボフの運命を学び取る	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)																																																																
13	「オンボフの事件」②	不法裁判によって身分を落とされたオンボフが起こしてしまった事件の詳細を検討して学ぶ	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)																																																																
14	「オンボフの事件」③	「オンボフの事件」が裁かれていく過程で下された各級の裁判での判決文を細かく検討し、学び取る	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)																																																																
15	「オンボフの事件」④	「オンボフの事件」から理解できる当時のモンゴル人社会と、法制の変遷問題を学ぶ	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく (2 時間)																																																																
関連科目	東洋法制史、日本法制史、比較法史																																																																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td>清代モンゴルの裁判と裁判文書</td><td>萩原守</td><td>創文社</td></tr> <tr> <td>2</td><td>大清律 刑律 1、2</td><td>谷井俊仁・谷井陽子</td><td>平凡社東洋文庫</td></tr> <tr> <td>3</td><td>中国法制史 基本資料の研究</td><td>滋賀秀三</td><td>東京大学出版会</td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	清代モンゴルの裁判と裁判文書	萩原守	創文社	2	大清律 刑律 1、2	谷井俊仁・谷井陽子	平凡社東洋文庫	3	中国法制史 基本資料の研究	滋賀秀三	東京大学出版会																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	清代モンゴルの裁判と裁判文書	萩原守	創文社																																																																
2	大清律 刑律 1、2	谷井俊仁・谷井陽子	平凡社東洋文庫																																																																
3	中国法制史 基本資料の研究	滋賀秀三	東京大学出版会																																																																
評価方法 (基準)	学期末に試験を行う。成績評価は、主としてこの期末試験から判断する。																																																																		
学生への	なるべく具体的な講義を実施するので、恐れずに参加してほしい。いつでも質問できるような柔らかな雰囲気授業にしたい。毎回、筆記用具																																																																		

メッセージ	とノート類を持参すること。配布したプリント類も、なくすことなく、授業時や試験時に持ってくること。
担当者の 研究室等	11 号館の 10 階にある萩原研究室
備考	

科目名	ジェンダー法	科目名 (英文)	Law and Gender
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小宮山 直子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2012a0		

授業概要・目的	西洋女性史（ジェンダー法）では、歴史的視点を含めてジェンダー法学の基礎を学びます。 前半は、西洋法史・ジェンダー史の視点から、女性の地位をめぐる歴史について概説します。具体的には、西洋法史における注目すべき女性たちの生涯を、当時の権力との関連から考察していきます。また授業後半は、前半の西洋女性史からの学びを踏まえて、現代日本の家族・労働（雇用）などにかかわる諸問題をジェンダー法学の視点から検討します。
到達目標	この授業では、西洋の中世から現代までの各時代・各社会における女性の地位と法の関わりについて、歴史の大きな流れを踏まえて説明できるようなることを目標とします。さらに、ジェンダー法学について基礎的知識を習得し、現代法に潜むジェンダーに関わる諸問題を考察する基礎力を身につけることも期待されます。
授業方法と留意点	各授業の最後に小テストなどの課題に取り組んでももらいます。授業の進行にあわせて、2 回分のテーマを1 回にまとめることもあります。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や企業採用試験の一般教養科目対策として有益である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	はじめに ジェンダー法学とは	授業全体の目的 ジェンダー法学について	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献など）を読んでおく。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2 時間）
	2	西洋中世～近世の女性（1）	中世封建社会における女性	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2 時間）
	3	中世～近世の女性（2）	主権国家確立期と女性 啓蒙期と女性	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2 時間）
	4	フランス革命と女性	フランス革命における女性たち	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2 時間）
	5	フランス民法典の女性	フランス民法典のなかの女性、近代的家父長制の特徴	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2 時間）
	6	19 世紀の社会と女性	19 世紀のブルジョア女性の活動・労働者をめぐる問題（フランスを中心に）	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2 時間）
	7	20 世紀の社会と女性（1）	女性の法的地位向上をめざして—女性参政権をめぐる運動	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2 時間）
	8	20 世紀の社会と女性（2）	家族をめぐる諸改革	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2 時間）
	9	家族をめぐる問題（1）	日本の戦前の家族法の特徴、戦後における家族法改革	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2 時間）
	10	家族をめぐる問題（2）	婚姻・離婚をめぐる諸問題	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2 時間）
	11	家族をめぐる問題（3）	これからの家族とジェンダー	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2 時間）
	12	労働をめぐる問題（1）	戦後の労働改革から男女雇用機会均等法まで	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2 時間）
	13	労働をめぐる問題（1）	男女雇用機会均等法以降	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2 時間）
	14	身体をめぐる問題（1）	人権・ジェンダー法学の視点から、戦後日本の身体をめぐる諸政策・問題を考察する	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2 時間）
	15	身体をめぐる問題（2） 全体のまとめ	前回の続き、 全体のまとめ（復習）	これまでのレジュメ及び資料を見直して、授業の全体像を再確認・整理する。重要キーワードについては、自分の言葉で説明できるよう整理する。（3 時間）

関連科目	西洋法制史（西洋の裁判の歴史）			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	概説西洋法制史	勝田有恒他	ミネルヴァ書房
	2	ジェンダーの比較法史学	三成美保編	大阪大学出版会
	3	ジェンダー法学入門（最新版）	三成美保・他著	法律文化社
評価方法 （基準）	授業内課題（小テスト、小レポートなど）３０％と、定期試験（筆記試験）７０％によって、総合的に評価します。 詳細は、第１回授業において説明します。			
学生への メッセージ	法史をジェンダー法学の視点から楽しく深めるのに役立つ授業です。			
担当者の 研究室等	11 号館 5 階 法学部資料室（法学部非常勤講師室）			
備考	参考文献は、授業の中でも随時紹介します。			

科目名	リーガル・リサーチ	科目名（英文）	Legal Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	家本 真実
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1014a0		

授業概要・目的	法学部生として学ぶにあたって、上級生になればなるほど、判例や法令といった、法律・政治関係の資料を参照する機会が増えてきます。そこでこの講義では、法律・政治関係の資料として有用なものはどういったものか、またそれらをどこで入手することができるのかを、資料の実物を見たり、実際に作業をしてもらいながら皆さんに学んでいただきたいと思います。同時に、法情報を利用してレポートなどを作成するにあたって必要な知識とスキルを得ていただけるようにします。
到達目標	この授業を通じて、学生の皆さんには、法学部で学ぶにあたって必要となる法情報を、信頼できる情報源から得て活用するスキルを習得することが期待されます。
授業方法と留意点	毎回、こちらから配布するレジュメに沿って講義をおこなう部分と、それらの説明に基づいて受講生の皆さんが実際に作業をしていただく部分とが混在します。毎回の授業で得る知識や習得する作業が、次の授業につながっていくこととなりますので、遅刻や欠席されないことを強くお勧めします。
科目学習の効果（資格）	法学部で学ぶにあたって必要な法情報を検索し、活用することのできるスキルを身につけることができます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	はじめに 法情報とはどのようなものか	法情報はどこにどのようなかたちで存在しているのかを学ぶ。	授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2 時間)
	2	法令の調べ方 (1)	法令とはどのようなものか、またどこに掲載されているのかを学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5 時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
	3	法令の調べ方 (2)	法律案や地自治体の法令とはどのようなものか、またどこに掲載されているのかを学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5 時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
	4	判例の調べ方 (1)	判例とはどのようなものか、過去の判決文を見ながら学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5 時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
	5	判例の調べ方 (2)	判例を収録している印刷物やデータベースの使用法、また判例批判とはどのようなものかについて学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5 時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
	6	二次資料の調べ方 (1)	二次資料とはどのようなものか、またどこに掲載されているのかを学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5 時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
	7	二次資料の調べ方 (2)	二次資料を収録している印刷物やデータベースについて、またそれらの使用法について学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5 時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
	8	資料の引用の仕方	正しく引用する方法と、文書作成ソフト（アプリ）の関連機能について学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5 時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
	9	外国の法情報の調べ方	外国の法情報とはどのようなものかについて学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5 時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
	10	登記簿の見方 (1)	不動産登記とはどのようなものか、また登記簿はどこで閲覧できるのかを学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5 時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
	11	登記簿の見方 (2)	商業登記など不動産以外の登記とはどのようなものかについて学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5 時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
	12	戸籍の見方	戸籍とはどのようなものか、またその見方について学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5 時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
	13	法学に役立つ様々な情報源	法学に役立つ情報としてどのようなものがあるか、またどこから収集すべきかについて学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5 時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
	14	具体的事例におけるリーガル・リサーチ (1)	具体的事例において、どのようにリーガル・リサーチをおこなうべきかについて学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5 時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5 時間)
	15	具体的事例におけるリーガル・リサーチ (2) おわりに	仮のミニレポートを、これまでに学んだ技術を使用して作成することで、リーガル・リサーチの方法を学ぶ。	全講義を通して疑問や不明点がないか確認したうえで講義に臨むこと。(3 時間) 講義終了後、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(3 時間)

関連科目	法学部開講の法律・政治系の専門科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義内で課す課題（確認テスト、ペーパーなど）への取り組みを 50%程度、学期末試験の成績を 50%程度の割合で、最終的な評価をおこないます。 遅刻および欠席は、1 度でも、単位の取得から遠のくこととなりますので、ご注意ください。			
学生への メッセージ	授業中は不要な私語を慎んでください。講義内容は、講義の進行具合に応じて変更する場合があります。			
担当者の 研究室等	11 号館 9 階 家本准教授室			
備考				

科目名	司法制度論	科目名 (英文)	Judicial System
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	家本 真実
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3015a1		

授業概要・目的	法学部で学んでいるとしても、司法というのは遠くにあるもの、というイメージをもつ学生の皆さんも多いと思います。一方で 2009 年に、日本でも司法制度に一般の市民が参加する裁判員制度が導入されました。現在では 18 歳以上の日本国籍を持つ人であれば、裁判員として刑事裁判に、つまり司法制度に積極的に参加する可能性があることになります。 そこで、この授業では、裁判員制度そのものについてはもちろん、関連する刑事裁判の手続きや、外国でおこなわれている市民の司法への参加制度をあわせて学んでいただくことで、広く司法制度のあり方やそこに市民が参加する意義について考えていただきたいと思います。
到達目標	この授業を通じて、学生の皆さんには、裁判員制度について理解していただくとともに、市民の司法参加のあり方や司法制度について考えることができる知識を得ていただくことが期待されます。
授業方法と留意点	この授業では、日本の裁判員制度について理解していただくにあたって、様々な視点からアプローチします。そのなかでは、単に教員から講義をおこなうだけでなく、受講生の皆さんが作業をしたり、意見を出したり、グループで議論したりと、自ら考えて発信する時間を設けます。したがって、ただ出席していれば良いという授業ではないことにご注意ください。 授業内容は、授業の進行具合に応じて多少変更する場合があります。
科目学習の効果 (資格)	裁判員制度、日本や外国の市民の司法参加制度、また広く司法制度について知識を深めることができます。

授業計画			
	回数	授業テーマ	内容・方法 等
	1	はじめに 司法への市民の参加	この授業の概要、講義予定 裁判員が裁判を担当する事件の例
	2	裁判員制度とは (1)	裁判員制度の概要
	3	裁判員制度とは (2)	裁判員制度導入の経緯
	4	裁判員制度とは (3)	裁判員の任務と経験者の考える裁判員 制度の意義
	5	刑事裁判手続 (1)	刑事事件の捜査、手続きとその問題点
	6	刑事裁判手続 (2)	公判手続の流れと刑事裁判の原則
	7	外国の市民の司法参加制度 (1)	ヨーロッパ諸国などで採用されている 参審制度について
	8	外国の市民の司法参加制度 (2)	おもに英米でおこなわれている陪審制 度について
	9	外国の市民の司法参加制度 (3)	映画にみる陪審制度—無罪の推定と証 拠の証明力
	10	外国の市民の司法参加制度 (4)	映画にみる陪審制度—陪審制度の意義
	11	戦前の日本の陪審制度	日本で戦前におこなわれていた陪審制 度について
	12	裁判員制度が抱える問題点	現在の裁判員制度において指摘されて いる問題について考える
	13	ある刑事事件について考え てみよう	裁判員になったつもりで、ある刑事事件 について有罪か無罪かを考える
	14	今後の裁判員制度のあり方	市民の司法参加を最大限に活かすため に、今後、裁判員制度はどうあるべきか を考える
	15	市民が司法に参加する意義 おわりに	なぜ市民が司法に参加するべきなのか 講義のまとめ

関連科目	刑法総論・各論、刑事政策などの刑事法、刑事訴訟法、英米法			
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義内で課す議論や課題（確認テスト、ペーパーなど）への取り組みを 40%程度、学期末試験の成績を 60%程度の割合で、最終的な評価をおこないます。 遅刻および欠席は、1 度でも、単位の取得から遠のくこととなりますので、ご注意ください。			
学生への メッセージ	日本の裁判員制度やアメリカの陪審制度に興味のある方はぜひ履修していただければと思います。履修者が少数の場合は、授業において学生の皆さんが主体的に考える時間（履修者間で議論をおこなっていただくなど）をより多くとるようにします。			
担当者の 研究室等	11 号館 9 階 家本准教授室			
備考				

科目名	憲法 I（人権総論）	科目名（英文）	Constitutional Law I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	浮田 徹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1016a0		

授業概要・目的	憲法の基本原理、基本的人権部分の総論的な領域をとりあつかいます。憲法を全体として習得したい人はこの講義をまずしっかりと勉強する必要があります。
到達目標	この授業を通じて学生には、基本的人権・統治機構、その他数多ある人権や権利に関連する法律を理解するために不可欠の土台を形成することになることが期待される。憲法は、各項目の理解のしやすさに関し、基本原理の理解が重要になります。
授業方法と留意点	講義形式で行います。講義に必要なものはレジュメ、ノート、教科書、六法です。 レジュメは事前に moodle から入手、印刷して持参してください。 ※moodle の利用方法につき (1)moodle とは 摂南大学の採用する ICT ツールです。大学のポータルサイトなどにリンクがあります。 (2)moodle の登録方法につき 講義には自分で登録する必要があります。 ログインし、「ナビゲーション」のところにある「コース」をクリック、「コースを検索する」から「24 憲法 1」と入力して検索し「2024 憲」
科目学習の効果（資格）	様々な資格試験および公務員試験の基礎となります。 また、公務員の場合は就職後に警察学校などで科目となる場合があります。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・憲法総論	ガイダンス・憲法の位置づけ	予習：教科書の目次を一通り読んでおく（10 分）。 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う（20 分）
	2	憲法の基本原理	近代憲法に不可欠の要素につき学ぶ	予習：教科書の 1、2 を読んでおく（20 分） 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う（60 分）
	3	憲法の歴史	近代憲法の形成の歴史、日本国憲法史について学ぶ	予習：教科書の 1、2 を読んでおく（20 分） 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う（60 分）
	4	人権の到達範囲	人権保障の及ぶ範囲について学ぶ	予習：教科書の 6 を読んでおく（20 分） 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う（60 分）
	5	人権の享有主体	外国人の人権保障について学ぶ	予習：教科書の 4、5 を読んでおく（20 分） 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う（60 分）
	6	人権保障の限界	人権保障の限界の問題について学ぶ	予習：教科書の 3 を読んでおく（20 分） 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う（60 分）
	7	憲法 13 条の内容	13 条の二つの側面について学ぶ	予習：教科書の 8、9 を読んでおく（20 分） 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う（60 分）
	8	包括的基本権としての 1 3 条	幸福追求権としての 13 条のしくみについて学ぶ	予習：教科書の 8、9 を読んでおく（20 分） 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う（60 分）
	9	新しい人権(1)	プライバシー権・名誉の権利について学ぶ	予習：教科書の 9 を読んでおく（20 分） 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う（60 分）
	10	新しい人権(2)	肖像権・環境権などその他新しい権利について学ぶ	予習：教科書の 9 を読んでおく（20 分） 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う（60 分）
	11	法の下の平等(1)	法の下の平等について、歴史的経緯から学ぶ	予習：教科書の 10 を読んでおく（20 分） 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う（60 分）
	12	法の下の平等(2)	法の下の平等について、特に日本国憲法 14 条の内容について学ぶ	予習：教科書の 11 を読んでおく（20 分） 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う（60 分）
	13	法の下の平等(3)	法の下の平等についての裁判例を学ぶ(1)	予習：教科書の 11 を読んでおく（20 分） 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う（60 分）
	14	法の下の平等(4)	法の下の平等についての裁判例を学ぶ(2)	予習：教科書の 12 を読んでおく（20 分） 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う（60 分）
	15	精神的自由総論	精神的自由とはいかなるものか、内心の自由までを学ぶ	予習：教科書の 1 を読んでおく（20 分） 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う（60 分）

関連科目	憲法 II、憲法 III と深く関連します。後期配当の憲法 II(人権各論)を理解するためにはこの講義の受講・習得が重要になります。																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td>憲法の時間〔第 2 版〕</td><td>井上典之編</td><td>有斐閣</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	憲法の時間〔第 2 版〕	井上典之編	有斐閣	2				3					
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	憲法の時間〔第 2 版〕	井上典之編	有斐閣																
2																			
3																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名														
番号	書籍名	著者名	出版社名																

		1			
		2			
		3			
評価方法 (基準)	(1)講義ごとに課す課題及び中間試験など 30%、(2)期末試験 70%で採点します。				
学生への メッセージ	講義の進め方、評価について詳細な説明をしますので初回の講義には必ず出席すること。				
担当者の 研究室等	11 号館 9 階 浮田准教授室				
備考	講義情報を twitter にて発信していきます。それほど頻繁ではありません(@toruukita)。 教科書は後期開講の憲法 II(人権各論)と共通です。 (参考)2023 年度の成績の結果は以下のとおりです 登録者 369 名 採点対象者 324 名(期末試験受験者) 合格率 73.2% A 評価 16 名(4.9%) B 評価 26 名(8.0%) C 評価 97 名(29.9%) D 評価 98 名(30.2%) EF 評価(不合格)87 名(26.8%)				

科目名	憲法Ⅱ（人権各論）	科目名（英文）	Constitutional Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	浮田 徹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1017a0		

授業概要・目的	基本的人権領域における重要な部分としての具体的な人権規定を学んでもらいます。 個別の人権規定についての理解が深まる。 「憲法Ⅰ」を履修していることを前提にして講義を行っていきます。本科目を受講する学生は前期憲法Ⅰも登録しておくことが望ましいです。
到達目標	この授業を通じて学生には、「憲法Ⅰ」で学んだ人権の総論的な考え方を、個別の人権条項についての各論に反映させて理解できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	講義形式で行います。講義に必要なものはレジュメ、ノート、教科書、六法です。 レジュメは事前に moodle から入手、印刷して持参してください。 ※moodle の利用方法につき (1)moodle とは 摂南大学の採用する ICT ツールです。大学のトップページにリンクがあります。 (2)moodle の登録方法につき 講義には自分で登録する必要があります。 ログインし、「ナビゲーション」のところにある「コース」をクリック、「コースを検索する」から「24 憲法 2」と入力して検索し「2024 憲法Ⅱ(人
科目学習の効果（資格）	憲法はあらゆる公務員試験および公務員として働き始めてからも科目として設定されることが多いです。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・人権学習の前提の確認	講義概要の説明と導入ための事項の確認を行う	予習：教科書の目次を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
	2	表現の自由(1)	表現の自由の価値について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
	3	表現の自由(2)	報道の自由について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
	4	表現の自由(3)	インターネットにおける表現の問題について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
	5	表現の自由(4)	集会・結社の自由について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
	6	経済的自由(1)	経済活動における権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
	7	経済的自由(2)	具体的な経済的自由の保障と規制について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
	8	経済的自由(3)	具体的な経済的自由の保障と規制について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
	9	財産権	所有と財産に関する権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
	10	生存権	社会権としての生存権について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
	11	生存権 2	社会権としての生存権について学ぶ 2	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
	12	教育を受ける権利	公教育における国民の権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
	13	労働基本権	労働者の権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
	14	法定手続の保障	憲法 31 条の保障する内容について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
	15	刑事手続に関する権利	32 条以下の具体的権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。

関連科目	憲法Ⅰ、憲法Ⅲ その他あらゆる法律科目と関連します。憲法Ⅰとは内容的な連続性もあります。
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	憲法の時間〔第 2 版〕	井上典之編	有斐閣
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
-----	----	-----	-----	------

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義中の課題および中間試験(30%)、期末試験(70%)により評価します。			
学生への メッセージ	憲法Ⅰも履修しておいてください。			
担当者の 研究室等	11号館9階 浮田准教授室			
備考	「憲法Ⅰ」を履修していることを前提にして講義を行う部分もありますので本科目を受講する学生は前期憲法Ⅰも登録しておいてください。 2023年度の合格率等について(暫定値です) 受講人数300人 期末試験受験者数271人 合格率70.1% A評価15人 B評価40人 C評価72人 D評価63人 EF評価81人			

科目名	憲法Ⅲ（統治機構）	科目名（英文）	Constitutional Law III
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	浮田 徹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2018a0		

授業概要・目的	本講義では、憲法Ⅰ、Ⅱで習得した知識を土台として、基本的人権と並ぶ憲法の重要な構成要素である統治機構について学習してもらいます。憲法の統治機構の基本的な部分、応用への足がかりまでを学習することを目的としています。
到達目標	この授業を通じて学生には、日本国憲法の採用する様々な制度を理解し、全体としての統治システムの構造と作用を把握するところにあります。その上で、統治に関する憲法の規定が、単に国家の構成について定めたというだけでなく、憲法で掲げられる基本的人権などの重要な価値を保障するための組織を作り上げるものであるということを理解できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	講義形式で行います。講義に必要なものはレジュメ、ノート、教科書、六法です。 レジュメは事前にmoodleから入手、印刷して持参してください。 ※moodleの利用方法につき (1)moodleとは 摂南大学の採用するICTツールです。ポータルサイトなどにリンクはあります。 (2)moodleの登録方法につき 講義には自分で登録する必要があります。 ログインし、「ナビゲーション」のところにある「コース」をクリック、「コースを検索する」から「24 憲法 3」と入力して検索し「2024 憲法Ⅲ」(
科目学習の効果（資格）	司法試験、公務員試験などの試験科目です。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	・講義の概要説明	予習：指定教科書の目次に目を通しておく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
	2	統治機構総論	・権力分立概論 ・民主主義概論	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
	3	立法と行政(1)	・議院内閣制	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
	4	立法と行政(2)	・国会の性格、地位	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
	5	立法と行政(3)	・内閣を頂点とする行政権の仕組み	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
	6	司法権(1)	・裁判所の役割	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
	7	司法権(2)	・違憲審査	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
	8	司法権(3)	・憲法裁判	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
	9	平和主義(1)	・憲法9条の解釈について	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
	10	平和主義(2)	・自衛隊の憲法適合性、日本の安全保障	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
	11	憲法改正	・現代における憲法改正論議	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
	12	憲法保障	・憲法保障のシステムについて	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
	13	天皇制	・日本国憲法における象徴天皇制	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
	14	地方自治	・憲法上の地方自治	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
	15	まとめ	・まとめ	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)

関連科目	行政法や国際法といった実定法領域のほか、政治学、行政学などひろく政治学の領域へと学習を展開する基礎となります。
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	エッセンス憲法 新版	中村英樹・井上亜紀・相澤直子 編	法律文化社
	2			
	3			

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義ごとに課される課題 30%、期末試験 70%で評価します。			
学生への メッセージ	基本的人権だけでなく、統治機構も理解することで憲法の勉強を完成させましょう。			
担当者の 研究室等	11 号館 9 階 浮田准教授室			
備考	講義情報を twitter にて発信していきます。それほど頻繁ではありません(@toruukita)。 毎回 moodl において出席者に対してフィードバックを課しますがここでの質問等については、次回の講義にて解説を行います。 (参考)2022 年度の成績の結果は以下のとおりです(およその数) 登録者 129 名 受験者 102 名 A 評価 13 名 (13%) B 評価 13 名 (13%) C 評価 33 名 (32%) D 評価 30 名 (29%) EF 評価 (不合格)13 名 (13%)			

科目名	行政法Ⅰ（行政過程）	科目名（英文）	Administrative LawⅠ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	笛木 淳
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2019a0		

授業概要・目的	私たちの生活にはさまざまな行政の活動が関わっています。行政法とは、そのような行政の活動やサービスの根拠や仕組みに関する法規範です。この授業では、行政プロセスを規律する法的な仕組み、ルールとしてどのようなものがあるか、具体例に即して学んでもらいます。																																										
到達目標	この授業を通じて学生には、次の3点を達成できることが期待されます。 （１）具体例に即して、行政法の基本原則・原則を理解し、定義等を分かりやすく説明できる。 （２）具体例に即して、行政法の基本的な制度・仕組みを指摘できる。 （３）具体的問題について、行政法の原則、制度をもとに思考し、解決を提示できる。																																										
授業方法と留意点	以下のような反転方式により授業を行います。 （１）事前学習：事前に配信・配布される動画・資料により知識の習得を図る。 この授業では予習が欠かせません。 （２）授業： （i）知識の確認や事例演習等の〈個人ワーク〉 （ii）教員による〈解説〉、 （iii）学生個人による〈振り返り〉。 （３）授業資料等 ・教科書『スタンダード行政法』と解説用資料（PPTスライド）と演習レジュメ（Wordファイル）を用います。 ・授業資料等は事前に Teams 上にアップしますので、あらかじめダウンロード																																										
科目学習の効果（資格）	以下の資格レベルにおける行政法基礎学力の習得。 ・国家公務員試験，地方上級試験 ・行政書士など ・法学検定「スタンダード」レベル（行政法）の習得																																										
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr><tr><td>1</td><td>イントロダクション</td><td>ガイダンス（授業方法、学習方法、成績評価），行政（法）の意義</td><td>（ア）事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書の序章，第1章第1節Ⅰ～Ⅲ（pp. 1-16）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 （イ）事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2時間）。</td></tr><tr><td>2</td><td>行政法の法源，一般原則</td><td>行政法の法源，比例原則，信頼保護原則，平等原則</td><td>（ア）事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書の第1章第2節（pp. 17-24）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 （イ）事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2時間）。</td></tr><tr><td>3</td><td>法律による行政の原理</td><td>法律の法規創造力，法律の優位，法律の留保</td><td>（ア）事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書の第1章第3節Ⅰ（pp. 25-29）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 （イ）事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2時間）。</td></tr><tr><td>4</td><td>行政組織法</td><td>行政組織法の基本原理，行政主体，行政機関</td><td>（ア）事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書の第2章（pp. 59-74）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 （イ）事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2時間）。</td></tr><tr><td>5</td><td>行政裁量・ 習熟度確認（小テスト）</td><td>行政裁量の意義，裁判所による司法審査との関係， 熟度確認のための演習（小テスト）</td><td>（ア）事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第1章第4節（pp. 30-41）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 （イ）事後学習：授業資料・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2時間）。</td></tr><tr><td>6</td><td>行政立法</td><td>行政による基準定立，法規命令・行政規則</td><td>（ア）事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第3章第1節（pp. 78-88）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 （イ）事後学習：授業資料・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2時間）。</td></tr><tr><td>7</td><td>行政行為（１）</td><td>行政行為の意義，種類，効力</td><td>（ア）事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第3章第2節Ⅰ～Ⅲ（pp. 89-102）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 （イ）事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2時間）。</td></tr><tr><td>8</td><td>行政行為（２）</td><td>行政行為の瑕疵，職権取消し／撤回，附款</td><td>（ア）事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第3章第2節Ⅳ～Ⅵ（pp. 103-115）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 （イ）事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2時間）。</td></tr><tr><td>9</td><td>行政手続</td><td>行政行為の手続を中心とした行政手続法。</td><td>（ア）事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第1章第5節（pp. 42-54），第3章第2節Ⅷ（pp. 116-125）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 （イ）事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2時間）。</td></tr></table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	ガイダンス（授業方法、学習方法、成績評価），行政（法）の意義	（ア）事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書の序章，第1章第1節Ⅰ～Ⅲ（pp. 1-16）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 （イ）事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2時間）。	2	行政法の法源，一般原則	行政法の法源，比例原則，信頼保護原則，平等原則	（ア）事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書の第1章第2節（pp. 17-24）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 （イ）事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2時間）。	3	法律による行政の原理	法律の法規創造力，法律の優位，法律の留保	（ア）事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書の第1章第3節Ⅰ（pp. 25-29）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 （イ）事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2時間）。	4	行政組織法	行政組織法の基本原理，行政主体，行政機関	（ア）事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書の第2章（pp. 59-74）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 （イ）事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2時間）。	5	行政裁量・ 習熟度確認（小テスト）	行政裁量の意義，裁判所による司法審査との関係， 熟度確認のための演習（小テスト）	（ア）事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第1章第4節（pp. 30-41）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 （イ）事後学習：授業資料・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2時間）。	6	行政立法	行政による基準定立，法規命令・行政規則	（ア）事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第3章第1節（pp. 78-88）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 （イ）事後学習：授業資料・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2時間）。	7	行政行為（１）	行政行為の意義，種類，効力	（ア）事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第3章第2節Ⅰ～Ⅲ（pp. 89-102）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 （イ）事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2時間）。	8	行政行為（２）	行政行為の瑕疵，職権取消し／撤回，附款	（ア）事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第3章第2節Ⅳ～Ⅵ（pp. 103-115）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 （イ）事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2時間）。	9	行政手続	行政行為の手続を中心とした行政手続法。	（ア）事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第1章第5節（pp. 42-54），第3章第2節Ⅷ（pp. 116-125）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 （イ）事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2時間）。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																								
1	イントロダクション	ガイダンス（授業方法、学習方法、成績評価），行政（法）の意義	（ア）事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書の序章，第1章第1節Ⅰ～Ⅲ（pp. 1-16）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 （イ）事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2時間）。																																								
2	行政法の法源，一般原則	行政法の法源，比例原則，信頼保護原則，平等原則	（ア）事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書の第1章第2節（pp. 17-24）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 （イ）事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2時間）。																																								
3	法律による行政の原理	法律の法規創造力，法律の優位，法律の留保	（ア）事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書の第1章第3節Ⅰ（pp. 25-29）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 （イ）事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2時間）。																																								
4	行政組織法	行政組織法の基本原理，行政主体，行政機関	（ア）事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書の第2章（pp. 59-74）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 （イ）事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2時間）。																																								
5	行政裁量・ 習熟度確認（小テスト）	行政裁量の意義，裁判所による司法審査との関係， 熟度確認のための演習（小テスト）	（ア）事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第1章第4節（pp. 30-41）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 （イ）事後学習：授業資料・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2時間）。																																								
6	行政立法	行政による基準定立，法規命令・行政規則	（ア）事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第3章第1節（pp. 78-88）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 （イ）事後学習：授業資料・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2時間）。																																								
7	行政行為（１）	行政行為の意義，種類，効力	（ア）事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第3章第2節Ⅰ～Ⅲ（pp. 89-102）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 （イ）事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2時間）。																																								
8	行政行為（２）	行政行為の瑕疵，職権取消し／撤回，附款	（ア）事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第3章第2節Ⅳ～Ⅵ（pp. 103-115）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 （イ）事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2時間）。																																								
9	行政手続	行政行為の手続を中心とした行政手続法。	（ア）事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第1章第5節（pp. 42-54），第3章第2節Ⅷ（pp. 116-125）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 （イ）事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2時間）。																																								

	<table><tr><td>10</td><td>行政計画・ 習熟度確認（小テスト）</td><td>行政計画の意義， 熟度確認のための演習（小テスト）</td><td>(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し， 教科書第 3 章第 5 節（pp. 137-140）をあらかじめ 読んでおくこと（1 時間）。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直 し，整理，要約する（2 時間）。</td></tr><tr><td>11</td><td>行政指導</td><td>行政指導の意義，手続</td><td>事前配布資料に目を通し，教科書第 3 章第 4 節 （pp.131-136）をあらかじめ読んでおくこと（1 時 間）。</td></tr><tr><td>12</td><td>行政上の義務履行確保</td><td>行政上の強制執行，即時強制，制裁</td><td>(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し， 教科書第 4 章（pp.145-163）をあらかじめ読んでお くこと（1 時間）。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直 し，整理，要約する（2 時間）。</td></tr><tr><td>13</td><td>行政と情報（１）</td><td>行政調査，公文書管理制度，情報公開制 度</td><td>(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し， 教科書第 5 章第 1 節～第 3 節（pp. 165-177）をあ らかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直 し，整理，要約する（2 時間）。</td></tr><tr><td>14</td><td>行政と情報（２）</td><td>個人情報保護制度の仕組み</td><td>(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し， 教科書第 5 章第 4 節（pp. 178-185）をあらかじめ 読んでおくこと（1 時間）。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直 し，整理，要約する（2 時間）。</td></tr><tr><td>15</td><td>授業総括・ 習熟度確認（小テスト）</td><td>習熟度確認テストと授業の全体総括</td><td>(ア) 事前学習：事前配布資料，これまでの 授業範囲を復習すること。 (イ) 事後学習：授業内の演習内容を見直 し，整理，要約する（2 時間）。</td></tr></table>	10	行政計画・ 習熟度確認（小テスト）	行政計画の意義， 熟度確認のための演習（小テスト）	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し， 教科書第 3 章第 5 節（pp. 137-140）をあらかじめ 読んでおくこと（1 時間）。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直 し，整理，要約する（2 時間）。	11	行政指導	行政指導の意義，手続	事前配布資料に目を通し，教科書第 3 章第 4 節 （pp.131-136）をあらかじめ読んでおくこと（1 時 間）。	12	行政上の義務履行確保	行政上の強制執行，即時強制，制裁	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し， 教科書第 4 章（pp.145-163）をあらかじめ読んでお くこと（1 時間）。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直 し，整理，要約する（2 時間）。	13	行政と情報（１）	行政調査，公文書管理制度，情報公開制 度	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し， 教科書第 5 章第 1 節～第 3 節（pp. 165-177）をあ らかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直 し，整理，要約する（2 時間）。	14	行政と情報（２）	個人情報保護制度の仕組み	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し， 教科書第 5 章第 4 節（pp. 178-185）をあらかじめ 読んでおくこと（1 時間）。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直 し，整理，要約する（2 時間）。	15	授業総括・ 習熟度確認（小テスト）	習熟度確認テストと授業の全体総括	(ア) 事前学習：事前配布資料，これまでの 授業範囲を復習すること。 (イ) 事後学習：授業内の演習内容を見直 し，整理，要約する（2 時間）。
10	行政計画・ 習熟度確認（小テスト）	行政計画の意義， 熟度確認のための演習（小テスト）	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し， 教科書第 3 章第 5 節（pp. 137-140）をあらかじめ 読んでおくこと（1 時間）。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直 し，整理，要約する（2 時間）。																						
11	行政指導	行政指導の意義，手続	事前配布資料に目を通し，教科書第 3 章第 4 節 （pp.131-136）をあらかじめ読んでおくこと（1 時 間）。																						
12	行政上の義務履行確保	行政上の強制執行，即時強制，制裁	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し， 教科書第 4 章（pp.145-163）をあらかじめ読んでお くこと（1 時間）。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直 し，整理，要約する（2 時間）。																						
13	行政と情報（１）	行政調査，公文書管理制度，情報公開制 度	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し， 教科書第 5 章第 1 節～第 3 節（pp. 165-177）をあ らかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直 し，整理，要約する（2 時間）。																						
14	行政と情報（２）	個人情報保護制度の仕組み	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し， 教科書第 5 章第 4 節（pp. 178-185）をあらかじめ 読んでおくこと（1 時間）。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直 し，整理，要約する（2 時間）。																						
15	授業総括・ 習熟度確認（小テスト）	習熟度確認テストと授業の全体総括	(ア) 事前学習：事前配布資料，これまでの 授業範囲を復習すること。 (イ) 事後学習：授業内の演習内容を見直 し，整理，要約する（2 時間）。																						
関連科目	憲法，民法																								
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>スタンダード行政法</td><td>村上裕章</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	スタンダード行政法	村上裕章	有斐閣	2				3									
番号	書籍名	著者名	出版社名																						
1	スタンダード行政法	村上裕章	有斐閣																						
2																									
3																									
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>行政法Ⅰ 現代行政過程論〔第4版〕</td><td>大橋洋一</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>2</td><td>社会とつながる行政法入門〔第2版〕</td><td>大橋洋一</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>3</td><td>行政法判例 50！</td><td>大橋真由美ほか</td><td>有斐閣</td></tr></table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	行政法Ⅰ 現代行政過程論〔第4版〕	大橋洋一	有斐閣	2	社会とつながる行政法入門〔第2版〕	大橋洋一	有斐閣	3	行政法判例 50！	大橋真由美ほか	有斐閣						
番号	書籍名	著者名	出版社名																						
1	行政法Ⅰ 現代行政過程論〔第4版〕	大橋洋一	有斐閣																						
2	社会とつながる行政法入門〔第2版〕	大橋洋一	有斐閣																						
3	行政法判例 50！	大橋真由美ほか	有斐閣																						
評価方法 （基準）	*前年度と成績評価方法が異なります。 ・成績評価対象：第 5 回，第 10 回，第 15 回の習熟度確認小テストのみ。 ・成績内訳： 第 5 回：3 0 % 第 10 回：3 5 % 第 15 回：3 5 % ・テスト実施方法： 毎回出される復習課題から 80%，新規問題 20％ ・論述式の問題を出題する場合は，事前に問題を提示する。 ・持ち込みは原則不可。																								
学生への メッセージ	意欲的な学習が望まれます。																								
担当者の 研究室等	笛木講師室（11 号館 9 階）																								
備考	復習課題は次回の授業で解説する。																								

科目名	行政法Ⅱ（行政救済）	科目名（英文）	Administrative Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	笛木 淳
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2020a0		

授業概要・目的	国家の活動により損害・損失を被った市民には、さまざまな救済の手段・仕組みが準備されており、法治国原理の実現が企図されています。この授業では、そのような仕組み・ルールである行政救済法の基本について学んでもらいます。																																						
到達目標	この講義を通じて、学生には以下の3点を身につけることが期待されます。 (1) 行政救済法にはどのような仕組みがあるか理解し、それぞれの特徴を説明する能力。 (2) 行政訴訟上の具体的問題として典型的にどのようなものがあるかを理解し、これを解決するための考え方。 (3) 国家賠償・損失補償の具体的問題として典型的にどのようなものがあるかを理解し、これを解決するための考え方。																																						
授業方法と留意点	以下のような反転方式により授業を行います。 (1) 事前学習：事前に配信・配布される動画・資料により知識の習得を図る。 この授業では予習が欠かせません。 (2) 授業： (i) 知識の確認や事例演習等の〈個人ワーク〉 (ii) 教員による〈解説〉, (iii) 学生個人による〈振り返り〉。 (3) 授業資料等 ・教科書『スタンダード行政法』と配布資料（PPT スライド）、演習レジュメ（Word ファイル）を用います。 ・スライド資料等は事前に Teams 上にアップしますので、あらかじめダウンロード																																						
科目学習の効果（資格）	以下の資格レベルにおける行政法基礎学力の習得。 ・国家公務員試験，地方上級試験等で問われる行政法の基礎学力の習得。 ・法学検定「スタンダード」レベル（行政法）の習得																																						
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr><tr><td>1</td><td>イントロダクション</td><td>ガイダンス（授業方法、学習方法、成績評価）、行政救済法の全体像</td><td>(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書の序章、第6章第1節（pp. 187-200）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直し、整理、要約する（2時間）。</td></tr><tr><td>2</td><td>取消訴訟の訴訟要件（1）</td><td>抗告訴訟，訴訟要件，処分性</td><td>(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書の第6章第2節Ⅰ（pp. 201-214）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直し、整理、要約する（2時間）。</td></tr><tr><td>3</td><td>取消訴訟の訴訟要件（2）</td><td>原告適格，法律上の利益，第三者</td><td>(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書の第6章第2節Ⅱ（pp. 214-226）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直し、整理、要約する（2時間）。</td></tr><tr><td>4</td><td>取消訴訟の訴訟要件（3）</td><td>訴えの利益，提訴期間，被告適格など</td><td>(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書の第6章第2節Ⅲ-Ⅷ（pp. 226-238）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直し、整理、要約する（2時間）。</td></tr><tr><td>5</td><td>取消訴訟の判決 習熟度確認（小テスト）</td><td>既判力・形成力・拘束力 熟度確認のための演習（小テスト）</td><td>(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書第6章第4節（pp. 249-252）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 (イ) 事後学習：授業資料・教科書の内容を見直し、整理、要約する（2時間）。</td></tr><tr><td>6</td><td>取消訴訟の審理</td><td>本案審理における基本的な仕組み</td><td>(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書第6章第3節（pp. 239-246）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 (イ) 事後学習：授業資料・教科書の内容を見直し、整理、要約する（2時間）。</td></tr><tr><td>7</td><td>無効等確認訴訟</td><td>無効等確認訴訟の意義・公定力，重大な違法，補充性</td><td>(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書第6章第5節Ⅰ（pp. 253-258）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 (イ) 事後学習：授業資料・教科書の内容を見直し、整理、要約する（2時間）。</td></tr><tr><td>8</td><td>義務付け訴訟・不作為の違法確認訴訟</td><td>義務付け・不作為違法確認の訴えの意義と機能</td><td>(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書第6章第5節Ⅱ・Ⅲ（pp. 258-272）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直し、整理、要約する（2時間）。</td></tr></table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	ガイダンス（授業方法、学習方法、成績評価）、行政救済法の全体像	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書の序章、第6章第1節（pp. 187-200）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直し、整理、要約する（2時間）。	2	取消訴訟の訴訟要件（1）	抗告訴訟，訴訟要件，処分性	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書の第6章第2節Ⅰ（pp. 201-214）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直し、整理、要約する（2時間）。	3	取消訴訟の訴訟要件（2）	原告適格，法律上の利益，第三者	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書の第6章第2節Ⅱ（pp. 214-226）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直し、整理、要約する（2時間）。	4	取消訴訟の訴訟要件（3）	訴えの利益，提訴期間，被告適格など	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書の第6章第2節Ⅲ-Ⅷ（pp. 226-238）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直し、整理、要約する（2時間）。	5	取消訴訟の判決 習熟度確認（小テスト）	既判力・形成力・拘束力 熟度確認のための演習（小テスト）	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書第6章第4節（pp. 249-252）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 (イ) 事後学習：授業資料・教科書の内容を見直し、整理、要約する（2時間）。	6	取消訴訟の審理	本案審理における基本的な仕組み	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書第6章第3節（pp. 239-246）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 (イ) 事後学習：授業資料・教科書の内容を見直し、整理、要約する（2時間）。	7	無効等確認訴訟	無効等確認訴訟の意義・公定力，重大な違法，補充性	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書第6章第5節Ⅰ（pp. 253-258）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 (イ) 事後学習：授業資料・教科書の内容を見直し、整理、要約する（2時間）。	8	義務付け訴訟・不作為の違法確認訴訟	義務付け・不作為違法確認の訴えの意義と機能	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書第6章第5節Ⅱ・Ⅲ（pp. 258-272）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直し、整理、要約する（2時間）。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																				
1	イントロダクション	ガイダンス（授業方法、学習方法、成績評価）、行政救済法の全体像	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書の序章、第6章第1節（pp. 187-200）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直し、整理、要約する（2時間）。																																				
2	取消訴訟の訴訟要件（1）	抗告訴訟，訴訟要件，処分性	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書の第6章第2節Ⅰ（pp. 201-214）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直し、整理、要約する（2時間）。																																				
3	取消訴訟の訴訟要件（2）	原告適格，法律上の利益，第三者	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書の第6章第2節Ⅱ（pp. 214-226）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直し、整理、要約する（2時間）。																																				
4	取消訴訟の訴訟要件（3）	訴えの利益，提訴期間，被告適格など	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書の第6章第2節Ⅲ-Ⅷ（pp. 226-238）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直し、整理、要約する（2時間）。																																				
5	取消訴訟の判決 習熟度確認（小テスト）	既判力・形成力・拘束力 熟度確認のための演習（小テスト）	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書第6章第4節（pp. 249-252）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 (イ) 事後学習：授業資料・教科書の内容を見直し、整理、要約する（2時間）。																																				
6	取消訴訟の審理	本案審理における基本的な仕組み	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書第6章第3節（pp. 239-246）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 (イ) 事後学習：授業資料・教科書の内容を見直し、整理、要約する（2時間）。																																				
7	無効等確認訴訟	無効等確認訴訟の意義・公定力，重大な違法，補充性	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書第6章第5節Ⅰ（pp. 253-258）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 (イ) 事後学習：授業資料・教科書の内容を見直し、整理、要約する（2時間）。																																				
8	義務付け訴訟・不作為の違法確認訴訟	義務付け・不作為違法確認の訴えの意義と機能	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し、教科書第6章第5節Ⅱ・Ⅲ（pp. 258-272）をあらかじめ読んでおくこと（1時間）。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直し、整理、要約する（2時間）。																																				

	9	公法上の当事者訴訟	公法上の当事者訴訟の意義と機能	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第6章第5節Ⅴ (pp. 272-276) をあらかじめ読んでおくこと (1時間)。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する (2時間)。																
	10	客観訴訟・ 習熟度確認 (小テスト)	司法権，法律上の争訟，客観訴訟 習熟度確認の演習 (小テスト)	(ア) 事前学習：事前配布資料をあらかじめ読んでおくこと (1時間)。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する (2時間)。																
	11	行政の不服申立てについて	行政不服申立ての意義，基本的仕組み	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第6章第7節 (pp. 282-295) をあらかじめ読んでおくこと (1時間)。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する (2時間)。																
	12	国家賠償訴訟 (1)	公権力責任，過失，違法性	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第7章第1節Ⅰ～Ⅱ (pp. 301-326) をあらかじめ読んでおくこと (1時間)。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する (2時間)。																
	13	国家賠償訴訟 (2)	営造物責任，瑕疵概念，判例	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第7章第1節Ⅲ～Ⅳ (pp. 327-339) をあらかじめ読んでおくこと (1時間)。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する (2時間)。																
	14	損失補償	財産権，公用収用，特別の犠牲	(ア) 事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第7章第2節 (pp. 340-353) をあらかじめ読んでおくこと (1時間)。 (イ) 事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する (2時間)。																
	15	授業総括 習熟度確認 (小テスト)	習熟度確認テストと授業の全体総括	(ア) 事前学習：事前配布資料，これまでの授業範囲を復習すること。 (イ) 事後学習：授業内の演習内容を見直し，整理，要約する (2時間)。																
関連科目	憲法，民事訴訟法 (履修済みか並行して履修することが望ましい)																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>スタンダード行政法</td><td>村上裕章</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	スタンダード行政法	村上裕章	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	スタンダード行政法	村上裕章	有斐閣																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>行政法判例50！</td><td>大橋真由美ほか</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>2</td><td>行政法Ⅱ 現代行政救済論 [第4版]</td><td>大橋洋一</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>3</td><td>行政法Ⅱ 行政救済法 [第6版]</td><td>塩野宏</td><td>有斐閣</td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	行政法判例50！	大橋真由美ほか	有斐閣	2	行政法Ⅱ 現代行政救済論 [第4版]	大橋洋一	有斐閣	3	行政法Ⅱ 行政救済法 [第6版]	塩野宏	有斐閣
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	行政法判例50！	大橋真由美ほか	有斐閣																	
2	行政法Ⅱ 現代行政救済論 [第4版]	大橋洋一	有斐閣																	
3	行政法Ⅱ 行政救済法 [第6版]	塩野宏	有斐閣																	
評価方法 (基準)	*前年度と成績評価方法が異なります。 ・成績評価対象：第5回，第10回，第15回の習熟度確認小テストのみ。 ・成績内訳： 第5回：30％ 第10回：35％ 第15回：35％ ・テスト実施方法： 毎回出される復習課題から80％，新規問題20％ ・論述式の問題を出題する場合は，事前に問題を提示する。 ・持ち込みは原則不可。																			
学生への メッセージ	公務員志望者，社会問題に関心のある方の受講を歓迎します。																			
担当者の 研究室等	笛木講師室 (11号館9階)																			
備考	演習課題は次回の授業で解説する。																			

科目名	租税法Ⅰ（総論）	科目名（英文）	Tax LawⅠ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	團野 正浩
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3023a1		

授業概要・目的	税は皆さんにとって非常に身近なものです。租税法Ⅰ・Ⅱを通じて、社会人として最低限知っておくべき税の基礎知識（仕組みやルール）から、ビジネスに関わる税の様々な論点まで幅広く学習していきます。 この租税法Ⅰでは、租税法の基本事項と所得税を中心に学びます。
到達目標	この授業を通じて、次の目標を達成することが期待されます。 ・ 租税法に共通する基礎的な知識を理解できるようになること ・ 最も身近な税である所得税について基本的な仕組みを理解できるようになること
授業方法と留意点	原則として、対面方式による講義を行います。決まった教科書は使用しませんので、出席者は、基本的にノートを取るようにしてください。授業の中でレジュメを配付する場合がありますが、これはノートを整理する助けとするために配付するものです。 理解度を確保するために、授業の中で小テストを行います。タイミング等については授業の中でお知らせします。
科目学習の効果（資格）	租税法の知識は、社会に出てビジネスに関わる際には必須の知識です。これを身に着けることで、ビジネスの世界をより深く理解できるようになります。 また、公務員試験（国家公務員（特に国税専門官）、地方公務員など）、資格試験（税理士、ファイナンシャルプランナーなど）を目指す人たちにとっては、入門的な講座になると考えられます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	私たちの生活と税	租税の意義、租税の根拠と配分、財政の中の租税、税に関わる職業	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
	2	租税法序論（Ⅰ）	租税の術後、租税の分類、租税の原則、国民の租税負担、租税の体系	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
	3	租税法序論（Ⅱ）	税法の基本原則、税法の法源、税法の改正	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
	4	税法の解釈と適用	税法の読み方、税法を読む際に注意すべき表現、税法の解釈と適用	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
	5	税務手続	納税義務の成立、納付すべき税額の確定、申告納税制度と所得税	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
	6	税務行政	税制の企画・立案と税務行政の組織と権限、税理士制度	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
	7	納税者の権利救済	納税者の権利救済制度の概要、不服申立て、訴訟	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
	8	所得課税概論	「所得」とは何か、所得税と法人税の違い	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
	9	所得税法（Ⅰ）	所得税の概要、所得税法における所得、所得税の課税範囲、納税義務者と納税地、所得の帰属ルール、所得の種類	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
	10	所得税法（Ⅱ）	利子所得、配当所得、給与所得、退職所得	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
	11	所得税法（Ⅲ）	不動産所得、事業所得、山林所得	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
	12	所得税法（Ⅳ）	譲渡所得、一時所得、雑所得	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
	13	所得税法（Ⅴ）	所得金額計算の通則、所得税の課税標準、損益通算及び損失の繰越控除、所得税の課税の特例、所得税の税額計算	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
	14	所得税法（Ⅵ）	源泉徴収制度の概要、源泉徴収の対象、納税義務、源泉徴収の法律関係、居住者の源泉徴収と確定申告の関係など	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
	15	所得税法を巡る主な論点／まとめ	所得税法を巡る主な論点／まとめ	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間）

				事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
関連科目	憲法、民法、行政法、商法など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	租税法	金子宏	弘文堂
	2	スタンダード所得税法	佐藤英明	弘文堂
	3	税法概論	図子善信	大蔵財務協会
評価方法 (基準)	期末試験の点数（60％）と小テストの点数（40％）の合計で評価します。			
学生への メッセージ	各回の授業内容は密接につながっていますので、租税法を理解するためには、授業の復習を欠かさずに、継続的な学習をお勧めします。			
担当者の 研究室等	11号館10階 團野研究室			
備考	税に関わる用語は日常生活の中にあふれています。また、税に関わる議論を耳にすることも多いと思います。 事前学習としては、シラバスに書かれているテーマから、皆さんが身近に感じている税務の問題点を考えてきてください（約1時間）。 事後学習としては、レジュメを読み直して、ノートを整理してください。その際には、事前学習で検討してきた問題点をどのように捉えることができたのかを確認願います。			

科目名	租税法Ⅱ（各論）	科目名（英文）	Tax Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	團野 正浩
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3024a1		

授業概要・目的	ビジネス活動においては、その活動が法人税や消費税の負担にどのような影響があるのかについて検討しておくことは非常に重要です。 また、相続は人生の中で何度も経験することではありませんが、相続税法は、相続時に課される相続税だけでなく、世代間の財産の移転に対する課税全般について規定されており、最低限の知識は持つおくべきです。 租税法Ⅱでは、法人税法、消費税法及び相続税法の基本事項を中心に学びます。
到達目標	この授業を通じて、次の目標を達成することが期待されます。 ・ ビジネス活動に関係する法人税及び消費税の基本的な仕組みを理解できるようになること ・ 国際的な取引における課税問題についての知識を持つようになること ・ 相続税及び贈与税の知識を持ち、相続にかかる様々な課税上の論点について理解できるようになること
授業方法と留意点	原則として、対面方式による講義を行います。決まった教科書は使用しませんので、出席者は、基本的にノートを取るようになしてください。授業の中でレジュメを配付する場合がありますが、これはノートを整理する助けとするために配付するものです。 理解度を確認するために、授業の中で小テストを行います。タイミング等については授業の中でお知らせします。
科目学習の効果（資格）	租税法の知識は、社会に出てビジネスに関わる際に必須の知識です。これを身に着けることで、ビジネスの世界をより深く理解できるようになります。 また、公務員試験（国家公務員（特に国税専門官）、地方公務員など）、資格試験（税理士、ファイナンシャルプランナーなど）を目指す人々にとっては、入門的な講座になると考えられます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	法人の経済活動と法人税	企業会計と法人税の関係、法人税の特徴、個人と法人の違いなど	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
	2	法人税法（Ⅰ）	法人税の意義、納税義務者	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
	3	法人税法（Ⅱ）	法人税法 22 条と別段の定め	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
	4	法人税法（Ⅲ）	法人税の計算、同族会社、グループ法人の課税	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
	5	法人税を巡る主な論点	法人税を巡る主要な裁判例等	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
	6	国際課税（Ⅰ）	企業活動の国際化と課税、租税条約	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
	7	国際課税（Ⅱ）	国際的租税回避、移転価格税制、タックスヘイブン税制など	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
	8	消費税と個別間接税（Ⅰ）	消費課税の意義、消費税と個別間接税の違い	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
	9	消費税と個別間接税（Ⅱ）	消費税の仕組み、課税取引・非課税取引・免税取引、仕入税額控除など	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
	10	消費税と個別間接税（Ⅲ）	申告・納税、記帳とインボイスなど	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
	11	相続税法（Ⅰ）	民法（相続編）の基本事項、民法と相続税法の関係	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
	12	相続税法（Ⅱ）	相続税の意義、相続税の課税方式、納税義務者等	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
	13	相続税法（Ⅲ）	贈与税の意義、相続時精算課税、課税標準と税額計算等	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
	14	相続税法を巡る主な論点	相続税・贈与税を巡る主要な裁判例等	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）

	15	全体のまとめ	タックス・コンプライアンス、最近の税制改正、租税回避への対策など	事前学習として、授業テーマに関して身近な問題点を検討しておくこと（約1時間） 事後学習として、配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約3時間）
関連科目	憲法、民法、商法、行政法など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	租税法	金子宏	弘文堂
	2	スタンダード法人税法	渡辺徹也	弘文堂
	3	税法概論	関子善信	大蔵財務協会
評価方法 (基準)	期末試験の点数（60%）と小テストの点数（40%）の合計で評価します。			
学生への メッセージ	各回の授業内容は密接につながっていますので、租税法を理解するためには、授業の復習を欠かさずに、継続的な学習をお勧めします。			
担当者の 研究室等	11号館10階 團野研究室			
備考	税に関わる用語は日常生活の中にあふれています。また、税に関わる議論を耳にすることも多いと思います。 事前学習としては、シラバスに書かれているテーマから、皆さんが身近に感じている税務の問題点を考えてきてください（約1時間）。 事後学習としては、レジュメを読み直して、ノートを整理してください。その際には、事前学習で検討してきた問題点をどのように捉えることができたのかを確認願います。			

科目名	刑法ⅠA（総論①）	科目名（英文）	Criminal LawⅠA
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎、DP3◎、DP4◎、DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2025a0		

授業概要・目的	・刑法総論は、全ての犯罪に共通する犯罪成立要件論と刑罰論に関する一般原則を探究する学問である。 ・刑法ⅠA（総論①）では、刑法の機能、刑法の解釈と罪刑法定主義、主として単独正犯を念頭に置いた犯罪成立要件論として、構成要件論、違法性論、責任論をめぐる諸問題について概説する。なお、刑法総論で取り扱う事項のうち、「修正された構成要件論（未遂犯論と共犯論）」、および、「罪数論」ほかについては刑法ⅡB（総論②）で取り扱うので注意されたい。 ・刑法総論は、個別の犯罪を離れた犯罪一般を考察対象とするため、抽象的な犯罪論体系に関する議論が多い。そのため、初学者にはやや難しく感じられるかもしれないが、なるべく身近な具体例を用いて分かりやすく解説する。																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、 ・刑法の謙抑性、罪刑法定主義およびその派生原則を説明できる ・刑法総論をテーマとした事例における論点（問題の争点）を抽出し、それに対する判例や通説的見解の内容を説明できる ・各種公務員試験や国家試験で必要とされる刑法総論に関する知識を修得できる ようになることが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICTツールとしてMicrosoft社のteamsを用いる。 ・課題提示や資料配布などはMicrosoft社teamsを通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 ・近時、刑事法の改正が相次いでいるので、最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を用いる。																																																																		
科目学習の効果（資格）	・「刑法総論」および「刑法各論」をしっかり受講すれば、法学検定、地方公務員上級職採用試験、労働基準監督官採用試験（大卒）、裁判所事務官採用試験、および、司法書士試験で出題される「刑法総論」の問題を確実に処理することができるようになる。																																																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr><tr><td>1</td><td>ガイダンスと文献紹介 刑法と刑法学</td><td> ・授業の進め方と文献紹介 ・刑法の意義 ・刑法の機能 ・刑法学とは何か </td><td>事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</td></tr><tr><td>2</td><td>刑法の基礎</td><td> ・古典学派と近代学派 ・わが国の刑法思想と刑法学 ・刑法の法源 ・刑法の解釈 ・罪刑法定主義 </td><td>事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</td></tr><tr><td>3</td><td>刑法の法源と解釈</td><td> ・罪刑法定主義 ・刑罰の正当化根拠 ・刑法の適用範囲 </td><td>事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</td></tr><tr><td>4</td><td>犯罪の基本概念</td><td> ・犯罪の概念 ・犯罪論の体系 ・刑法上の行為 </td><td>事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</td></tr><tr><td>5</td><td>構成要件</td><td> ・構成要件の概念 ・構成要件要素 </td><td>事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</td></tr><tr><td>6</td><td>構成要件該当性1</td><td> ・実行行為とは何か ・実行行為の客観面 </td><td>事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</td></tr><tr><td>7</td><td>構成要件該当性2</td><td> ・実行行為の主観面 （構成要件の故意と構成要件の錯誤） </td><td>事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</td></tr><tr><td>8</td><td>構成要件該当性3</td><td> ・刑法上の因果関係論 </td><td>事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</td></tr><tr><td>9</td><td>構成要件該当性のまとめ</td><td> ・構成要件該当性に関する重要論点の総復習 </td><td>事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</td></tr><tr><td>10</td><td>違法性阻却事由1</td><td> ・違法性とは何か ・正当行為と正当業務行為 </td><td>事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</td></tr><tr><td>11</td><td>違法性阻却事由2</td><td> ・正当防衛 ・過剰防衛 </td><td>事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</td></tr><tr><td>12</td><td>違法性阻却事由3</td><td> ・緊急避難 ・過剰避難 ・超法規的違法性阻却事由 </td><td>事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</td></tr><tr><td>13</td><td>責任阻却事由1</td><td> ・責任とは何か ・責任能力 </td><td>事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</td></tr><tr><td>14</td><td>責任阻却事由2</td><td> ・違法性の意識とその可能性 ・誤想（過剰）防衛 ・誤想（過剰）避難 ・期待可能性 </td><td>事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</td></tr><tr><td>15</td><td>違法性および責任阻却事由のまとめ</td><td> ・違法性および責任阻却事由に関する重要論点の総復習 </td><td>事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</td></tr></table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンスと文献紹介 刑法と刑法学	・授業の進め方と文献紹介 ・刑法の意義 ・刑法の機能 ・刑法学とは何か	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）	2	刑法の基礎	・古典学派と近代学派 ・わが国の刑法思想と刑法学 ・刑法の法源 ・刑法の解釈 ・罪刑法定主義	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）	3	刑法の法源と解釈	・罪刑法定主義 ・刑罰の正当化根拠 ・刑法の適用範囲	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）	4	犯罪の基本概念	・犯罪の概念 ・犯罪論の体系 ・刑法上の行為	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）	5	構成要件	・構成要件の概念 ・構成要件要素	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）	6	構成要件該当性1	・実行行為とは何か ・実行行為の客観面	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）	7	構成要件該当性2	・実行行為の主観面 （構成要件の故意と構成要件の錯誤）	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）	8	構成要件該当性3	・刑法上の因果関係論	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）	9	構成要件該当性のまとめ	・構成要件該当性に関する重要論点の総復習	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）	10	違法性阻却事由1	・違法性とは何か ・正当行為と正当業務行為	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）	11	違法性阻却事由2	・正当防衛 ・過剰防衛	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）	12	違法性阻却事由3	・緊急避難 ・過剰避難 ・超法規的違法性阻却事由	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）	13	責任阻却事由1	・責任とは何か ・責任能力	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）	14	責任阻却事由2	・違法性の意識とその可能性 ・誤想（過剰）防衛 ・誤想（過剰）避難 ・期待可能性	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）	15	違法性および責任阻却事由のまとめ	・違法性および責任阻却事由に関する重要論点の総復習	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンスと文献紹介 刑法と刑法学	・授業の進め方と文献紹介 ・刑法の意義 ・刑法の機能 ・刑法学とは何か	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）																																																																
2	刑法の基礎	・古典学派と近代学派 ・わが国の刑法思想と刑法学 ・刑法の法源 ・刑法の解釈 ・罪刑法定主義	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）																																																																
3	刑法の法源と解釈	・罪刑法定主義 ・刑罰の正当化根拠 ・刑法の適用範囲	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）																																																																
4	犯罪の基本概念	・犯罪の概念 ・犯罪論の体系 ・刑法上の行為	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）																																																																
5	構成要件	・構成要件の概念 ・構成要件要素	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）																																																																
6	構成要件該当性1	・実行行為とは何か ・実行行為の客観面	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）																																																																
7	構成要件該当性2	・実行行為の主観面 （構成要件の故意と構成要件の錯誤）	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）																																																																
8	構成要件該当性3	・刑法上の因果関係論	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）																																																																
9	構成要件該当性のまとめ	・構成要件該当性に関する重要論点の総復習	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）																																																																
10	違法性阻却事由1	・違法性とは何か ・正当行為と正当業務行為	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）																																																																
11	違法性阻却事由2	・正当防衛 ・過剰防衛	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）																																																																
12	違法性阻却事由3	・緊急避難 ・過剰避難 ・超法規的違法性阻却事由	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）																																																																
13	責任阻却事由1	・責任とは何か ・責任能力	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）																																																																
14	責任阻却事由2	・違法性の意識とその可能性 ・誤想（過剰）防衛 ・誤想（過剰）避難 ・期待可能性	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）																																																																
15	違法性および責任阻却事由のまとめ	・違法性および責任阻却事由に関する重要論点の総復習	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）																																																																
関連科目	刑事法概論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策																																																																		

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	刑法総論の基礎と応用	佐久間修	成文堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	開講時に各種判例・補助教材を紹介する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	・形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft forms から課題を配信する。各回の課題の得点を合算して評価対象とする（講義の理解度 5%+課題の得点 95%）。定期試験は実施しない。			
学生への メッセージ	・法律学の学習は予習よりも問題演習を中心とした復習が効果的です。 ・問題演習の素材としては、公務員試験や司法書士試験で出題される刑法の問題がさしあたり有効です。 ・問題集は開講時に紹介します。 ・公務員（地方行政職、国家行政職、警察、消防、刑務、裁判所事務官、検察事務官）試験やロースクールをはじめとする大学院の受験を意識している学生はなるべく受講するようにしてください。 ・総論上の争点とそれに対する判例ないし通説を正確に理解すれば、公務員試験はむしろ易しい類です。決して臆することなく果敢にチャレンジしてください。 ・新聞、テレビ、ラジオ、ネットなど媒体は問いませんが、刑法に関する面白いネタがたくさん落ちていきますので、なるべくニュースに接するようにしましょう。			
担当者の 研究室等	11 号館 10 階 小野教授室			
備考	本講義は、オンデマンド動画配信による授業を数回程度行うことがあります。 オンデマンド動画配信による授業の際には、事前に teams の授業チャネルで告知するとともに、teams アプリより通知をします。			

科目名	刑法ⅠB（総論②）	科目名（英文）	Criminal LawⅠB
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎、DP3◎、DP4◎、DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2026a0		

授業概要・目的	本科目は2回生前期配当の刑法ⅠA（総論①）の続編である。 刑法ⅠA（総論①）で取り扱うことができなかった応用的論点（修正された構成要件論）について、最新の判例と学説動向を踏まえながら解説を行う。また、こうした問題をテーマにした公務員試験（裁判所事務官・労働基準監督官・地方公務員）、司法書士および司法試験等の客観式問題を確実に正解できる力を身につけてもらうことを目的とする。
到達目標	この講義を通じて学生には、 「・未遂犯および共犯の処罰根拠を説明できる ・刑法総論をテーマとした事例における論点（問題の争点）を抽出し、それに対する判例や通説的見解の内容を説明できる ・各種公務員試験や国家試験で必要とされる刑法総論に関する知識を修得できる」 ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICTツールとしてMicrosoft社のteamsを用いる。 ・課題提示や資料配布などはMicrosoft社teamsを通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 留意点：毎回出席することで、問題を解く際の頭の働
科目学習の効果（資格）	司法試験や法科大学院入学試験の準備、裁判所事務官・労働基準監督官・地方公務員採用試験など。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	講義の進め方の説明	教科書の入手 事前：教科書の単独正犯に関する構成要件論をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：教科書の単独正犯に関する章末問題を解くこと（2時間）
	2	未遂犯	予備犯と未遂犯 未遂犯の処罰根拠 実行の着手	事前：障害未遂をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：障害未遂を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
	3	不能犯	不能犯をめぐる近時の判例・学説動向	事前：不能犯をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：不能犯を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
	4	中止未遂	中止未遂をめぐる近時の判例・学説動向	事前：中止未遂をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：中止未遂を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
	5	共犯の基礎	狭義の共犯と広義の共犯 共犯の処罰根拠 共犯の従属性	事前：共犯の処罰根拠論をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：共犯の処罰根拠論を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
	6	共同正犯1	実行共同正犯	事前：実行共同正犯をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：実行共同正犯を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
	7	共同正犯2	共謀共同正犯	事前：共謀共同正犯をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：共謀共同正犯を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
	8	共同正犯3	過失の共同正犯	事前：過失の共同正犯をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：過失の共同正犯を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
	9	教唆犯と幫助犯	狭義の共犯をめぐる近時の学説・判例動向	事前：教唆犯と幫助犯をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：教唆犯と幫助犯を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
	10	共犯をめぐる諸問題1	片面的共犯と承継的共犯をめぐる近時の学説・判例動向	事前：片面的共犯と承継的共犯をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：片面的共犯と承継的共犯を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
	11	共犯をめぐる諸問題2	共犯関係からの離脱・共犯の中止犯をめぐる近時の学説・判例動向	事前：共犯からの離脱と共犯の中止をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：共犯からの離脱と共犯の中止を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
	12	共犯をめぐる諸問題3	共犯の錯誤、共犯と緊急行為をめぐる近時の学説・判例動向	事前：共犯の錯誤をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：共犯の錯誤を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
	13	共犯と身分	共犯と身分をめぐる近時の学説・判例動向	事前：共犯と身分をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：共犯と身分を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
	14	罪数	一罪と数罪 法条競合 包括一罪 科刑上一罪 併合罪	事前：罪数論をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：罪数論を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
	15	講義のまとめ	重要事項の総復習	事前：未遂犯論と共犯論をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：未遂犯論と共犯論を見直し、章末問題を解く

	こと（2 時間）																			
関連科目	刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策、現代社会と刑事法など																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>刑法総論の基礎と応用</td><td>佐久間修</td><td>成文堂</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	刑法総論の基礎と応用	佐久間修	成文堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	刑法総論の基礎と応用	佐久間修	成文堂																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td>判例集および補助教材について開講時に指示する</td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2	判例集および補助教材について開講時に指示する			3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2	判例集および補助教材について開講時に指示する																			
3																				
評価方法 （基準）	・形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft forms から課題を配信する。各回の課題の得点を合算して評価対象とする（講義の理解度 5%＋課題の得点 95%）。定期試験は実施しない。																			
学生への メッセージ	・刑法が好きな学生や上記各種試験等の準備を要する学生の履修を歓迎する。ただし、少なくとも刑法総論については単位取得または同時履修しておくことが望ましい。																			
担当者の 研究室等	11 号館 10 階 小野教授室																			
備考	本講義は、オンデマンド動画配信による授業を数回程度行うことがあります。 オンデマンド動画配信による授業の際には、事前に teams の授業チャンネルで告知するとともに、teams アプリより通知をします。																			

科目名	刑法ⅡA（各論①）	科目名（英文）	Criminal Law II A
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2027a0		

授業概要・目的	・刑法各論は、各種犯罪の個別成立要件とその適用の限界について考察する学問である。 ・刑法各論は刑法総論よりも具体的でわかりやすいが、個別犯罪の適用範囲や限界について細かな議論をする必要があり、適用する条文の検討に注意を要する。 ・刑法各論は、個別の犯罪を考察対象とするため、具体的な議論が多い。 そのため、初学者にはやや学問としての体系性がつかみづらく感じられるかもしれないが、なるべく身近な具体例を用いて体系的に解説する。 ・なお、個人的法益に対する罪のうち、財産犯（財産犯総論、窃盗、強盗、詐欺、恐喝、横領、背任、盗品等関与、器物損壊などの罪）については刑法ⅡB（各論②）で取り扱うので注意されたい。
到達目標	この講義を通じて学生には、 ・個別犯罪における保護法益を説明できる ・個別の犯罪の成立要件の範囲について正確に理解できる ・刑法各論をテーマとした事例における論点（問題の争点）を抽出し、それに対する判例や通説的見解の内容を説明できる ・各種公務員試験や国家試験で必要とされる刑法総論に関する知識を修得できる ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICT ツールとして Microsoft 社の teams を用いる。 ・課題提示や資料配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 ・近時、刑事法の改正が相次いでいるので、最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を
科目学習の効果（資格）	・「刑法総論」および「刑法各論」をしっかり受講すれば、法学検定、地方公務員上級職採用試験、労働基準監督官採用試験（大卒）、裁判所事務官採用試験、および、司法書士試験で出題される「刑法総論」の問題を確実に処理することができるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンスと文献紹介 刑法各論と刑法学	・授業の進め方と文献紹介 ・刑法各論の意義 ・犯罪の処罰根拠と保護法益	・教科書の入手 事前：序章をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：犯罪の処罰根拠と保護法益の関係性を見直し、ノートにまとめること（2 時間）
	2	生命・身体に対する罪 1	・人の始期と終期 ・殺人の罪	事前：「殺人の罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「殺人の罪」を見直し、関連する問題を解くこと（2 時間）
	3	生命・身体に対する罪 2	・傷害の罪 ・過失傷害の罪	事前：「傷害の罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「傷害の罪」を見直し、関連する問題を解くこと（2 時間）
	4	生命・身体に対する罪 3	・堕胎の罪	事前：「堕胎の罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「堕胎の罪」を見直し、関連する問題を解くこと（2 時間）
	5	生命・身体に対する罪 4	・遺棄の罪	事前：「遺棄の罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「遺棄の罪」を見直し、関連する問題を解くこと（2 時間）
	6	自由・私生活の平穏に対する罪 1	・逮捕、監禁の罪 ・脅迫の罪	事前：「逮捕・監禁・脅迫の罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「逮捕・監禁・脅迫の罪」を見直し、関連する問題を解くこと（2 時間）
	7	自由・私生活の平穏に対する罪 2	・略取、誘拐および人身売買の罪	事前：「略取、誘拐および人身売買の罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「略取、誘拐および人身売買の罪」を見直し、関連する問題を解くこと（2 時間）
	8	自由・私生活の平穏に対する罪 3	・性的自由に対する罪	事前：第 1 部第 2 章「性的自由に対する罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「性的自由に対する罪」を見直し、関連する問題を解くこと（2 時間）
	9	自由・私生活の平穏に対する罪 4 名誉と信用に対する罪	・住居を侵す罪 ・業務に対する罪 ・秘密を侵す罪 ・名誉と信用に対する罪	事前：第 1 部第 2 章「住居を侵す罪」および第 3 章「名誉に対する罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「住居を侵す罪」および「名誉に対する罪」を見直し、関連する問題を解くこと（2 時間）
	10	個人的法益に対する罪（財産犯を除く）のまとめ	第 1 回から第 9 回までの重要論点を総復習	事前：これまでまでの内容をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：これまでの関連問題を見直すこと（2 時間）
	11	公共の安全に対する罪	・放火、失火の罪	事前：「放火の罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第 2 部第 1 章「放火の罪」を見直し、関連する問題を解くこと（2 時間）
	12	風俗に対する罪	・死体損壊等の罪 ・賭博に関する罪	事前：「風俗に対する罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「風俗に対する罪」を見直し、関連する問題を解くこと（2 時間）
	13	国家作用に対する罪 1	・公務の執行を妨害する罪 ・犯人蔵匿の罪 ・証拠隠滅の罪 ・虚偽告訴の罪	事前：「公務の執行を妨害する罪」、「犯人蔵匿の罪」、「証拠隠滅の罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「公務の執行を妨害する罪」、「犯人蔵匿の罪」、「証拠隠滅の罪」を見直し、関連する問題を解くこと（2 時間）
	14	国家作用に対する罪 2	・汚職の罪	事前：「汚職の罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「汚職の罪」を見直し、関連する問題を解くこと（2 時間）

	15	社会的法益および国家的法益に対する罪（財産犯を除く）のまとめ	第10回から第14回までの重要論点を総復習	事前：これまでの内容をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：これまでの内容を見直し、関連問題を見直すこと（2時間）
関連科目	刑事法概論、刑法総論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	刑法基本講義 総論・各論（第3版補訂版）	佐久間修＝橋本正博＝上嶋一高	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	開講時に説明する		
	2			
	3			
評価方法（基準）	・形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft forms から課題を配信し、その回答内容を合算して評価対象とする（講義の理解度 5%＋課題の得点 95%）。			
学生へのメッセージ	・法律学の学習は予習よりも問題演習を中心とした復習が効果的です。 ・問題演習の素材としては、公務員試験や司法書士試験で出題される刑法の問題がさしあたり有効です。 ・問題集は開講時に紹介します。 ・公務員（地方行政職、国家行政職、警察、消防、刑務、裁判所事務官、検察事務官）試験やロースクールをはじめとする大学院の受験を意識している学生はなるべく受講するようにしてください。 ・総論上の争点とそれに対する判例ないし通説を正確に理解すれば、公務員試験はむしろ易しい類です。決して臆することなく果敢にチャレンジしてください。 ・新聞、テレビ、ラジオ、ネットなど媒体は問いませんが、刑法に関する面白いネタがたくさん落ちていきますので、なるべくニュースに接するようにしましょう。			
担当者の研究室等	11 号館 10 階 小野教授室			
備考	本講義は、オンデマンド動画配信による授業を数回程度行うことがあります。 オンデマンド動画配信による授業の際には、事前に teams の授業チャネルで告知するとともに、teams アプリより通知をします。			

科目名	刑法ⅡB（各論②）	科目名（英文）	Criminal Law II B
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ2028a0		

授業概要・目的	2 回生後期配当の刑法各論において十分に時間を割いて取り扱うことができなかった応用的論点（財産犯論）について、最新の判例と学説動向を踏まえながら解説を行うとともに、こうした問題をテーマにした公務員試験（裁判所事務官・労働基準監督官・地方公務員）、司法書士および司法試験等の客観式問題を確実に正解できる力を身につけてもらうことを目的とする。
到達目標	この講義を通じて学生には、 「・各種の財産犯について、その共通点と相違点を説明できる ・財産犯をテーマとした事例における論点（問題の争点）を抽出し、それに対する判例や通説的見解の内容を説明できる ・各種公務員試験や国家試験で必要とされる財産犯に関する知識を修得できる」 ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICT ツールとして Microsoft 社の teams を用いる。 ・課題提示や資料配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 ・近時、刑事法の改正が相次いでいるので、最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を
科目学習の効果（資格）	司法試験や法科大学院入学試験の準備、裁判所事務官・労働基準監督官・地方公務員採用試験など。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	講義の進め方の説明	初回までに教科書を入手しておくこと。 事前：刑法各論の概要と保護法益論をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：刑法各論の概要と保護法益論を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
	2	財産犯総論	財産犯の分類 財物の意義 財産上の利益	事前：財産犯総論をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：財産犯総論を見直し、関連問題を解くこと（2 時間）
	3	窃盗罪 1	窃取の意義	事前：窃取の意義をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：窃取の意義を見直し、関連問題を解くこと（2 時間）
	4	窃盗罪 2	不法領得の意思 窃盗罪をめぐる近時の判例・学説動向	事前：不法領得の意思をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：不法領得の意思を見直し、関連問題を解くこと（2 時間）
	5	強盗罪 1	強盗の要件	事前：強盗の要件論をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：強盗の要件論を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
	6	強盗罪 2	事後強盗をめぐる近時の学説・判例動向	事前：事後強盗をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：事後強盗を見直し、関連問題を解くこと（2 時間）
	7	強盗罪 3	強盗殺人・強盗致死罪ほか	事前：強盗殺人をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：強盗殺人を見直し、関連問題を解くこと（2 時間）
	8	詐欺罪 1	詐欺罪の要件	事前：詐欺罪の要件論をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：詐欺罪の要件論を見直し、関連問題を解くこと（2 時間）
	9	詐欺罪 2	詐欺罪をめぐる近時の学説・判例動向	事前：詐欺罪の学説動向をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：詐欺罪の学説動向を見直し、関連問題を解くこと（2 時間）
	10	恐喝罪	恐喝罪をめぐる近時の学説・判例動向	事前：恐喝罪の要件をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：恐喝罪の要件を見直し、関連問題を解くこと（2 時間）
	11	横領罪	横領罪をめぐる近時の学説・判例動向	事前：横領罪の要件をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：横領罪の要件を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
	12	背任罪	背任罪をめぐる近時の学説・判例動向	事前：背任罪の要件をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：背任罪の要件を見直し、関連問題を解くこと（2 時間）
	13	横領と背任の区別	背任罪をめぐる近時の学説・判例動向 横領と背任の区別	事前：横領と背任の区別をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：横領と背任区別を見直し、関連問題を解くこと（2 時間）
	14	盗品等関与罪 器物損壊罪ほか	盗品等関与罪をめぐる近時の学説・判例動向	事前：盗品等関与罪をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：盗品等関与罪を見直し、関連問題を解くこと（2 時間）
	15	まとめ	重要事項の総復習	事前：財産犯論全体をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：財産犯論全体を見直し、関連問題を解くこと（2 時間）
関連科目	・刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策、現代社会と刑事法など ・財産犯の理解には、民法の知識が必要である。 とくに、典型担保、非典型担保、債権総論、契約法、不当利得については本学で開講されている民法諸科目を履修していることが望ましい。			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	刑法基本講義 総論・各論（第3版補訂版）	佐久間修＝橋本正博＝上寫一高	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	開講時に説明する		
	2			
	3			
評価方法 （基準）	・形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft forms から課題を配信する。各回の課題の得点を合算して評価対象とする（講義の理解度 5%＋課題の得点 95%）。定期試験は実施しない。			
学生への メッセージ	・刑法が好きな学生や上記各種試験等の準備を要する学生の履修を歓迎する。ただし、少なくとも刑法各論については単位取得または同時履修しておくことが望ましい。			
担当者の 研究室等	11 号館 10 階 小野教授室			
備考	本講義は、オンデマンド動画配信による授業を数回程度行うことがあります。 オンデマンド動画配信による授業の際には、事前に teams の授業チャンネルで告知するとともに、teams アプリより通知をします。			

科目名	刑事訴訟法Ⅰ（捜査・公訴）	科目名（英文）	Criminal ProcedureⅠ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	島田 良一
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2030a0		

授業概要・目的	本授業では、我が国の刑事手続のうち捜査・公訴に関する部分について、学説・判例の動向を踏まえながら解説する。一般的に、新聞やテレビ、インターネットのウェブサイト等が刑事事件・刑事裁判について報じる際、捜査機関あるいは犯罪被害者の視点で報じられることが多いと思われるが、本授業においては、刑事訴訟法が「公共の福祉の維持と個人の基本的人権の保障とを全うしつつ、事案の真相を明らかにし、刑罰法令を適正且つ迅速に適用実現する」ことをその目的としていることにも鑑み、捜査機関のみならず被疑者・被告人あるいは裁判所・裁判官、さらには裁判員の視点にも立った解説を行う予定である。																																																																				
到達目標	この授業を通じて学生には、我が国の刑事手続（捜査・公訴）に関する専門的知識を修得することが期待される。																																																																				
授業方法及留意点	教科書及び配布レジュメに基づいて授業を進めていく。																																																																				
科目学習の効果（資格）	司法試験、法科大学院入学試験、裁判所事務官採用試験、法学検定など。																																																																				
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr><tr><td>1</td><td>ガイダンス</td><td>授業の進め方、刑事訴訟法・刑事手続の概要などについて</td><td>配布レジュメを見直すこと（約1時間）</td></tr><tr><td>2</td><td>捜査概説</td><td>捜査を規律する一般原則などについて</td><td>配布レジュメおよび教科書の該当部分（9～20 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）</td></tr><tr><td>3</td><td>捜査の端緒・行政警察活動</td><td>捜査活動のきっかけ、職務質問などについて</td><td>配布レジュメおよび教科書の該当部分（21～26 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）</td></tr><tr><td>4</td><td>任意捜査</td><td>任意処分を用いた捜査とその限界について</td><td>配布レジュメおよび教科書の該当部分（27～42 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）</td></tr><tr><td>5</td><td>逮捕・勾留①</td><td>被疑者の身柄拘束について</td><td>配布レジュメおよび教科書の該当部分（43～55 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）</td></tr><tr><td>6</td><td>逮捕・勾留②</td><td>被疑者の身柄拘束について</td><td>配布レジュメおよび教科書の該当部分（56～74 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）</td></tr><tr><td>7</td><td>令状による捜索・差押え</td><td>捜索・押収（差押え・領置）について</td><td>配布レジュメおよび教科書の該当部分（75～85 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）</td></tr><tr><td>8</td><td>令状によらない捜索・差押え</td><td>逮捕に伴う捜索・差押えについて</td><td>配布レジュメおよび教科書の該当部分（86～93 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）</td></tr><tr><td>9</td><td>その他の強制処分</td><td>検証、実況見分、鑑定などについて</td><td>配布レジュメおよび教科書の該当部分（94～103 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）</td></tr><tr><td>10</td><td>被疑者の防御</td><td>黙秘権、弁護人依頼権、接見交通権などについて</td><td>配布レジュメおよび教科書の該当部分（104～114 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）</td></tr><tr><td>11</td><td>捜査の終結</td><td>検察官による起訴・不起訴の判断について</td><td>配布レジュメおよび教科書の該当部分（115～118, 120～124 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）</td></tr><tr><td>12</td><td>公訴提起</td><td>公訴提起の手続・効果について</td><td>配布レジュメおよび教科書の該当部分（119～120, 125～133 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）</td></tr><tr><td>13</td><td>訴因①</td><td>訴因の機能について</td><td>配布レジュメおよび教科書の該当部分（136～145 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）</td></tr><tr><td>14</td><td>訴因②</td><td>訴因変更について</td><td>配布レジュメおよび教科書の該当部分（145～155 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）</td></tr><tr><td>15</td><td>まとめ</td><td>重要論点の確認</td><td>配布レジュメおよび教科書の該当部分を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）</td></tr></table>					回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の進め方、刑事訴訟法・刑事手続の概要などについて	配布レジュメを見直すこと（約1時間）	2	捜査概説	捜査を規律する一般原則などについて	配布レジュメおよび教科書の該当部分（9～20 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）	3	捜査の端緒・行政警察活動	捜査活動のきっかけ、職務質問などについて	配布レジュメおよび教科書の該当部分（21～26 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）	4	任意捜査	任意処分を用いた捜査とその限界について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（27～42 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）	5	逮捕・勾留①	被疑者の身柄拘束について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（43～55 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）	6	逮捕・勾留②	被疑者の身柄拘束について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（56～74 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）	7	令状による捜索・差押え	捜索・押収（差押え・領置）について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（75～85 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）	8	令状によらない捜索・差押え	逮捕に伴う捜索・差押えについて	配布レジュメおよび教科書の該当部分（86～93 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）	9	その他の強制処分	検証、実況見分、鑑定などについて	配布レジュメおよび教科書の該当部分（94～103 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）	10	被疑者の防御	黙秘権、弁護人依頼権、接見交通権などについて	配布レジュメおよび教科書の該当部分（104～114 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）	11	捜査の終結	検察官による起訴・不起訴の判断について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（115～118, 120～124 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）	12	公訴提起	公訴提起の手続・効果について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（119～120, 125～133 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）	13	訴因①	訴因の機能について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（136～145 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）	14	訴因②	訴因変更について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（145～155 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）	15	まとめ	重要論点の確認	配布レジュメおよび教科書の該当部分を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																		
1	ガイダンス	授業の進め方、刑事訴訟法・刑事手続の概要などについて	配布レジュメを見直すこと（約1時間）																																																																		
2	捜査概説	捜査を規律する一般原則などについて	配布レジュメおよび教科書の該当部分（9～20 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）																																																																		
3	捜査の端緒・行政警察活動	捜査活動のきっかけ、職務質問などについて	配布レジュメおよび教科書の該当部分（21～26 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）																																																																		
4	任意捜査	任意処分を用いた捜査とその限界について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（27～42 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）																																																																		
5	逮捕・勾留①	被疑者の身柄拘束について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（43～55 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）																																																																		
6	逮捕・勾留②	被疑者の身柄拘束について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（56～74 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）																																																																		
7	令状による捜索・差押え	捜索・押収（差押え・領置）について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（75～85 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）																																																																		
8	令状によらない捜索・差押え	逮捕に伴う捜索・差押えについて	配布レジュメおよび教科書の該当部分（86～93 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）																																																																		
9	その他の強制処分	検証、実況見分、鑑定などについて	配布レジュメおよび教科書の該当部分（94～103 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）																																																																		
10	被疑者の防御	黙秘権、弁護人依頼権、接見交通権などについて	配布レジュメおよび教科書の該当部分（104～114 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）																																																																		
11	捜査の終結	検察官による起訴・不起訴の判断について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（115～118, 120～124 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）																																																																		
12	公訴提起	公訴提起の手続・効果について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（119～120, 125～133 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）																																																																		
13	訴因①	訴因の機能について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（136～145 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）																																																																		
14	訴因②	訴因変更について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（145～155 頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）																																																																		
15	まとめ	重要論点の確認	配布レジュメおよび教科書の該当部分を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）																																																																		
関連科目	刑事訴訟法Ⅱ、刑法総論、刑法各論など																																																																				
教科書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>刑事訴訟法</td><td>池田公博・笹倉宏紀</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>					番号	書籍名	著者名	出版社名	1	刑事訴訟法	池田公博・笹倉宏紀	有斐閣	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																		
1	刑事訴訟法	池田公博・笹倉宏紀	有斐閣																																																																		
2																																																																					
3																																																																					
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>入門刑事手続法（第9版）</td><td>三井誠・酒巻匡</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>2</td><td>リーガルクエスト刑事訴訟法（第2版）</td><td>宇藤崇・松田岳士・堀江慎司</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>3</td><td>刑事訴訟法判例集</td><td>松田岳士・宮木康博</td><td>有斐閣</td></tr></table>					番号	書籍名	著者名	出版社名	1	入門刑事手続法（第9版）	三井誠・酒巻匡	有斐閣	2	リーガルクエスト刑事訴訟法（第2版）	宇藤崇・松田岳士・堀江慎司	有斐閣	3	刑事訴訟法判例集	松田岳士・宮木康博	有斐閣																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																		
1	入門刑事手続法（第9版）	三井誠・酒巻匡	有斐閣																																																																		
2	リーガルクエスト刑事訴訟法（第2版）	宇藤崇・松田岳士・堀江慎司	有斐閣																																																																		
3	刑事訴訟法判例集	松田岳士・宮木康博	有斐閣																																																																		
評価方法（基準）	期末試験（80%）、小テスト（20%）																																																																				
学生へのメッセージ	刑事訴訟法では、捜査・公判における現実の「場面」が問題となることから、そうした「場面」において、もし自分が警察官・検察官だったら、裁判官だったら、あるいは被疑者・被告人・弁護人だったらどう考えるか、それぞれの視点に立って考えてみることをお勧めする。																																																																				
担当者の研究室等	11 号館 9 階 島田准教授室																																																																				
備考	六法は必携（ただし、パソコン、スマホ等によって e-gov による法令検索が利用できるのであればそれでも可）。																																																																				

科目名	刑事訴訟法Ⅱ（公判・証拠法）	科目名（英文）	Criminal Procedure II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	島田 良一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ2031a0		

授業概要・目的	本授業では、我が国の刑事手続のうち公判・証拠法に関する部分について、学説・判例の動向を踏まえながら解説する。一般的に、新聞やテレビ、インターネットのウェブサイト等が刑事事件・刑事裁判について報じる際、捜査機関あるいは犯罪被害者の視点で報じられることが多いと思われるが、本授業においては、刑事訴訟法が「公共の福祉の維持と個人の基本的人権の保障とを全うしつつ、事案の真相を明らかにし、刑罰法令を適正且つ迅速に適用実現する」ことをその目的としていることにも鑑み、捜査機関のみならず被疑者・被告人あるいは裁判所・裁判官、さらには裁判員の視点にも立った解説を行う予定である。				
到達目標	この授業を通じて学生には、我が国の刑事手続（公判・証拠法）に関する専門的知識を修得することが期待される。				
授業方法と留意点	教科書及び配布レジュメに基づいて授業を進めていく。				
科目学習の効果（資格）	司法試験、法科大学院入学試験、裁判所事務官採用試験、法学検定など。				
授業計画		回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
		1	ガイダンス	授業の進め方、刑事訴訟法・刑事手続の概要などについて	配布レジュメを見直すこと（約1時間）
		2	公判手続①	公判手続の概要について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（156～184頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）
		3	公判手続②	公判準備について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（156～184頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）
		4	証拠法総論	証拠法の概要、関連性について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（185～197頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）
		5	自白法則①	自白の証拠能力について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（197～217頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）
		6	自白法則②	前回の続き	配布レジュメおよび教科書の該当部分（197～217頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）
		7	伝聞法則①	伝聞証拠の証拠能力について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（217～228頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）
		8	伝聞法則②	伝聞例外について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（228～249頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）
		9	伝聞法則③	前回の続き	配布レジュメおよび教科書の該当部分（228～249頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）
		10	違法収集証拠排除法則①	違法収集証拠の証拠能力について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（249～254頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）
		11	違法収集証拠排除法則②	前回の続き	配布レジュメおよび教科書の該当部分（249～254頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）
		12	裁判①	裁判の種類、事実認定について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（255～262頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）
		13	裁判②	上訴、非常救済について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（262～273頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）
		14	裁判③	簡易な手続、裁判員制度について	配布レジュメおよび教科書の該当部分（273～279頁）を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）
		15	まとめ	重要論点の確認	配布レジュメおよび教科書の該当部分を事前・事後に通読しておくこと（約1時間）
関連科目	刑事訴訟法Ⅰ、刑法総論、刑法各論、法律学特修特別講義Ⅳ など				
教科書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1	刑事訴訟法	池田公博・笹倉宏紀	有斐閣
		2			
		3			
参考書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1	入門刑事手続法（第9版）	三井誠・酒巻匡	有斐閣
		2	リーガルクエスト刑事訴訟法（第2版）	宇藤崇・松田岳士・堀江慎司	有斐閣
		3	刑事訴訟法判例集	松田岳士・宮木康博	有斐閣
評価方法（基準）	期末試験（80%）、小テスト（20%）				
学生へのメッセージ	刑事訴訟法では、捜査・公判における現実の「場面」が問題となることから、そうした「場面」において、もし自分が警察官・検察官だったら、裁判官だったら、あるいは被疑者・被告人・弁護人だったらどう考えるか、それぞれの視点に立って考えてみることをお勧めする。				
担当者の研究室等	11号館9階 島田准教授室				
備考	六法は必携（ただし、パソコン、スマホ等によってe-govによる法令検索が利用できるのであればそれでも可）。				

科目名	少年法	科目名（英文）	Juvenile Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	島田 良一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2032a0		

授業概要・目的	少年法とは、犯罪（構成要件に該当する）行為をした少年（20 歳未満の者）に対する特別の取扱いについて規定した法律であり、刑法・刑事訴訟法の特別法に位置づけられる。成人（20 歳以上の者）が犯罪行為を行った場合、通常、刑事手続を通してその責任が追及され、その責任に応じた制裁として刑罰が科せられるのに対して、少年の場合、成人と比べて未成熟であり、また可塑性に富むため、成人とは異なる手続、すなわち少年保護手続を通して、その改善更生が図られることになる。本授業では、こうした成人の刑事手続と少年保護手続との差異を意識しながら、少年法の意義や目的、その機能などについて解説を行う予定である。
到達目標	この授業を通じて学生には、我が国の少年法及び少年保護手続に関する専門的知識を修得することが期待される。
授業方法と留意点	配布レジュメに基づいて授業を進めていく。 なお、各回のテーマにより、視聴覚教材なども積極的に使用していく予定である。
科目学習の効果（資格）	資格試験等には直接役には立たないが、将来、法曹三者や検察事務官、裁判所事務官、家庭裁判所調査官、法務教官、保護観察官、警察官等を目指している学生には有益な内容であると考ええる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業の進め方、少年法の基本理念などについて	配布レジュメの該当部分を事前・事後に通読しておくこと（約 1 時間）
	2	少年法概観	現行少年法成立の全体像について	配布レジュメの該当部分を事前・事後に通読しておくこと（約 1 時間）
	3	少年事件の捜査	非行少年に対する捜査について	配布レジュメの該当部分を事前・事後に通読しておくこと（約 1 時間）
	4	非行少年に対する警察の対応	少年育成指導官の業務内容について	配布レジュメの該当部分を事前・事後に通読しておくこと（約 1 時間）
	5	少年事件の調査①	法的調査・社会調査について	配布レジュメの該当部分を事前・事後に通読しておくこと（約 1 時間）
	6	少年事件の調査②	少年非行の原因について	配布レジュメの該当部分を事前・事後に通読しておくこと（約 1 時間）
	7	少年審判手続	少年審判手続の流れ、保護処分の種類などについて	配布レジュメの該当部分を事前・事後に通読しておくこと（約 1 時間）
	8	保護処分①	社会内処遇（保護観察）について	配布レジュメの該当部分を事前・事後に通読しておくこと（約 1 時間）
	9	保護処分②	非行少年の社会内処遇を支える人たちについて	配布レジュメの該当部分を事前・事後に通読しておくこと（約 1 時間）
	10	保護処分③	施設内処遇（少年院・児童自立支援施設）について	配布レジュメの該当部分を事前・事後に通読しておくこと（約 1 時間）
	11	少年に対する刑事処分	検察官送致（逆送）手続、少年に対する刑事処分における特則について	配布レジュメの該当部分を事前・事後に通読しておくこと（約 1 時間）
	12	少年事件報道について①	少年事件の実名報道禁止をめぐる議論について	配布レジュメの該当部分を事前・事後に通読しておくこと（約 1 時間）
	13	少年事件報道について②	少年事件の実名報道禁止をめぐる議論について	配布レジュメの該当部分を事前・事後に通読しておくこと（約 1 時間）
	14	比較少年法制	諸外国における少年法制について	配布レジュメの該当部分を事前・事後に通読しておくこと（約 1 時間）
	15	まとめ	重要論点の再解説など	配布レジュメの該当部分を事前・事後に通読しておくこと（約 1 時間）

関連科目	刑事法に関するすべての科目
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	少年法（第 2 版）	川出敏裕	有斐閣
	2	少年法（第 4 版）	河村博	東京法令出版
	3	少年法入門	廣瀬健二	岩波新書

評価方法（基準）	期末試験（80％）、小テスト（20％）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階 島田准教授室
備考	六法は必携（ただし、パソコン、スマホ等によって e-gov による法令検索が利用できるのであればそれでも可）。

科目名	刑事政策Ⅰ（犯罪原因論）	科目名（英文）	Criminal PolicyⅠ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	島田 良一
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2033a0		

授業概要・目的	本授業では、社会学や人類学、生物学、心理学といった様々な学問領域に基づく犯罪学理論や各種犯罪の発生原因について、学説、実務の動向などを踏まえながら解説する。
到達目標	本授業を通じて学生には、刑事政策のうち、犯罪学理論及び各種犯罪の発生原因に関する基本的な知識を修得することが期待される。
授業方法と留意点	授業担当者作成にかかるレジュメに基づいて授業を進めていくが、各回の授業テーマに応じて、視聴覚教材等も積極的に使用していく予定である。 なお、授業期間中に社会の注目を集めるような事件・裁判があった場合、授業の内容を一部変更することもあるので、その点だけ留意されたい。
科目学習の効果（資格）	資格試験等には直接役には立たないが、将来、法曹三者や検察事務官、裁判所事務官、家庭裁判所調査官、刑務官、法務教官保護観察官、警察官などを目指している学生には有益な内容であると考える。

授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr><tr><td>1</td><td>ガイダンス</td><td>授業の内容および進め方に関する説明、文献・参考書の紹介</td><td>配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）</td></tr><tr><td>2</td><td>古典派犯罪学と実証主義について</td><td>犯罪学が誕生した経緯について</td><td>配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）</td></tr><tr><td>3</td><td>犯罪生物学の展開</td><td>初期の犯罪学理論のうち、人類学や生物学を基調としたものについて</td><td>配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）</td></tr><tr><td>4</td><td>犯罪社会学の展開①</td><td>初期の犯罪社会学のうち、文化伝達の理論に基づくものについて</td><td>配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）</td></tr><tr><td>5</td><td>犯罪社会学の展開②</td><td>初期の犯罪社会学のうち、社会構造論に基づくものについて</td><td>配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）</td></tr><tr><td>6</td><td>犯罪学の新しい動向①</td><td>ラベリング理論について</td><td>配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）</td></tr><tr><td>7</td><td>犯罪学の新しい動向②</td><td>コントロール理論、環境犯罪学について</td><td>配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）</td></tr><tr><td>8</td><td>各種犯罪の分析①</td><td>交通犯罪について</td><td>配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）</td></tr><tr><td>9</td><td>各種犯罪の分析②</td><td>薬物犯罪について</td><td>配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）</td></tr><tr><td>10</td><td>各種犯罪の分析③</td><td>精神障害者による犯罪について</td><td>配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）</td></tr><tr><td>11</td><td>各種犯罪の分析④</td><td>高齢者による犯罪について</td><td>配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）</td></tr><tr><td>12</td><td>各種犯罪の分析⑤</td><td>性犯罪について①</td><td>配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）</td></tr><tr><td>13</td><td>各種犯罪の分析⑥</td><td>性犯罪について②</td><td>配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）</td></tr><tr><td>14</td><td>各種犯罪の分析⑦</td><td>ストーカー犯罪について</td><td>配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）</td></tr><tr><td>15</td><td>まとめ</td><td>重要論点の再解説</td><td>配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）</td></tr></table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の内容および進め方に関する説明、文献・参考書の紹介	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）	2	古典派犯罪学と実証主義について	犯罪学が誕生した経緯について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）	3	犯罪生物学の展開	初期の犯罪学理論のうち、人類学や生物学を基調としたものについて	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）	4	犯罪社会学の展開①	初期の犯罪社会学のうち、文化伝達の理論に基づくものについて	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）	5	犯罪社会学の展開②	初期の犯罪社会学のうち、社会構造論に基づくものについて	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）	6	犯罪学の新しい動向①	ラベリング理論について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）	7	犯罪学の新しい動向②	コントロール理論、環境犯罪学について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）	8	各種犯罪の分析①	交通犯罪について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）	9	各種犯罪の分析②	薬物犯罪について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）	10	各種犯罪の分析③	精神障害者による犯罪について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）	11	各種犯罪の分析④	高齢者による犯罪について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）	12	各種犯罪の分析⑤	性犯罪について①	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）	13	各種犯罪の分析⑥	性犯罪について②	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）	14	各種犯罪の分析⑦	ストーカー犯罪について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）	15	まとめ	重要論点の再解説	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）
	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																													
	1	ガイダンス	授業の内容および進め方に関する説明、文献・参考書の紹介	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）																																																													
	2	古典派犯罪学と実証主義について	犯罪学が誕生した経緯について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）																																																													
	3	犯罪生物学の展開	初期の犯罪学理論のうち、人類学や生物学を基調としたものについて	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）																																																													
	4	犯罪社会学の展開①	初期の犯罪社会学のうち、文化伝達の理論に基づくものについて	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）																																																													
	5	犯罪社会学の展開②	初期の犯罪社会学のうち、社会構造論に基づくものについて	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）																																																													
	6	犯罪学の新しい動向①	ラベリング理論について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）																																																													
	7	犯罪学の新しい動向②	コントロール理論、環境犯罪学について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）																																																													
	8	各種犯罪の分析①	交通犯罪について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）																																																													
	9	各種犯罪の分析②	薬物犯罪について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）																																																													
	10	各種犯罪の分析③	精神障害者による犯罪について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）																																																													
	11	各種犯罪の分析④	高齢者による犯罪について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）																																																													
	12	各種犯罪の分析⑤	性犯罪について①	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）																																																													
	13	各種犯罪の分析⑥	性犯罪について②	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）																																																													
	14	各種犯罪の分析⑦	ストーカー犯罪について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）																																																													
15	まとめ	重要論点の再解説	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）																																																														
関連科目	刑事法に関連するすべての科目																																																																
教科書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																																																													
	1																																																																
	2																																																																
3																																																																	
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>刑事政策（第3版）</td><td>川出敏裕・金光旭</td><td>成文堂</td></tr><tr><td>2</td><td>ビギナーズ刑事政策（第3版補訂第2版）</td><td>守山正・安部哲夫</td><td>成文堂</td></tr><tr><td>3</td><td>犯罪白書（各年度版）</td><td>法務総合研究所編</td><td>法務省</td></tr></table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	刑事政策（第3版）	川出敏裕・金光旭	成文堂	2	ビギナーズ刑事政策（第3版補訂第2版）	守山正・安部哲夫	成文堂	3	犯罪白書（各年度版）	法務総合研究所編	法務省																																																
	番号	書籍名	著者名	出版社名																																																													
	1	刑事政策（第3版）	川出敏裕・金光旭	成文堂																																																													
	2	ビギナーズ刑事政策（第3版補訂第2版）	守山正・安部哲夫	成文堂																																																													
3	犯罪白書（各年度版）	法務総合研究所編	法務省																																																														
評価方法（基準）	定期試験（80%）、小テスト（20%）																																																																
学生へのメッセージ																																																																	
担当者の研究室等	11号館9階 島田准教授室																																																																
備考																																																																	

科目名	刑事政策Ⅱ（犯罪対策論）	科目名（英文）	Criminal Policy II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	島田 良一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2034a0		

授業概要・目的	本授業では、犯罪者処遇に関する法制度や刑罰の意義・機能などについて、学説、実務の動向などを踏まえながら解説する。																																																																		
到達目標	本授業を通じて学生には、刑事政策のうち、犯罪者処遇に関する法制度や刑罰の意義・機能などに関する基本的な知識を修得することが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	授業担当者作成にかかるレジュメに基づいて授業を進めていくが、各回の授業テーマに応じて、視聴覚教材等も使用する予定である。 なお、授業期間中に、社会の注目を集めるような事件・裁判があった場合、授業の内容を一部変更することもあるので、その点だけ留意されたい。																																																																		
科目学習の効果（資格）	資格試験等には直接役には立たないが、将来、法曹三者や検察事務官、裁判所事務官、家庭裁判所調査官、刑務官、法務教官保護観察官、警察官などを目指している学生には有益な内容であると考えられる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ガイダンス</td><td>授業の内容および進め方に関する説明、文献・参考書の紹介</td><td>配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>司法的処遇について①</td><td>捜査段階（警察）における犯罪者処遇について</td><td>配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>司法的処遇について②</td><td>捜査段階（検察）における犯罪者処遇について</td><td>配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>司法的処遇について③</td><td>裁判段階における犯罪者処遇について</td><td>配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>刑罰について①</td><td>総論・自由刑について</td><td>配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>刑罰について②</td><td>財産刑について</td><td>配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>刑罰について③</td><td>死刑について①</td><td>配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>刑罰について④</td><td>死刑について②</td><td>配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>施設内処遇について①</td><td>刑務所における処遇について</td><td>配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>施設内処遇について②</td><td>刑務所における就労支援の取組みについて・総論</td><td>配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>施設内処遇について③</td><td>刑務所における就労支援の取組みについて・各論</td><td>配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>社会内処遇について①</td><td>保護観察、更生緊急保護などについて</td><td>配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>社会内処遇について②</td><td>社会内における就労支援の取組みについて</td><td>配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>犯罪被害者について</td><td>犯罪被害者法制や犯罪被害者に対する支援制度について</td><td>配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ</td><td>重要論点の再解説</td><td>配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の内容および進め方に関する説明、文献・参考書の紹介	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）	2	司法的処遇について①	捜査段階（警察）における犯罪者処遇について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）	3	司法的処遇について②	捜査段階（検察）における犯罪者処遇について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）	4	司法的処遇について③	裁判段階における犯罪者処遇について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）	5	刑罰について①	総論・自由刑について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）	6	刑罰について②	財産刑について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）	7	刑罰について③	死刑について①	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）	8	刑罰について④	死刑について②	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）	9	施設内処遇について①	刑務所における処遇について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）	10	施設内処遇について②	刑務所における就労支援の取組みについて・総論	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）	11	施設内処遇について③	刑務所における就労支援の取組みについて・各論	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）	12	社会内処遇について①	保護観察、更生緊急保護などについて	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）	13	社会内処遇について②	社会内における就労支援の取組みについて	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）	14	犯罪被害者について	犯罪被害者法制や犯罪被害者に対する支援制度について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）	15	まとめ	重要論点の再解説	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の内容および進め方に関する説明、文献・参考書の紹介	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）																																																																
2	司法的処遇について①	捜査段階（警察）における犯罪者処遇について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）																																																																
3	司法的処遇について②	捜査段階（検察）における犯罪者処遇について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）																																																																
4	司法的処遇について③	裁判段階における犯罪者処遇について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）																																																																
5	刑罰について①	総論・自由刑について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）																																																																
6	刑罰について②	財産刑について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）																																																																
7	刑罰について③	死刑について①	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）																																																																
8	刑罰について④	死刑について②	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）																																																																
9	施設内処遇について①	刑務所における処遇について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）																																																																
10	施設内処遇について②	刑務所における就労支援の取組みについて・総論	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）																																																																
11	施設内処遇について③	刑務所における就労支援の取組みについて・各論	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）																																																																
12	社会内処遇について①	保護観察、更生緊急保護などについて	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）																																																																
13	社会内処遇について②	社会内における就労支援の取組みについて	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）																																																																
14	犯罪被害者について	犯罪被害者法制や犯罪被害者に対する支援制度について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）																																																																
15	まとめ	重要論点の再解説	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約1時間）																																																																
関連科目	刑事法に関連するすべての科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>刑事政策（第3版）</td><td>川出敏裕・金光旭</td><td>成文堂</td></tr> <tr> <td>2</td><td>ビギナーズ刑事政策（第3版補訂第2版）</td><td>守山正・安部哲夫</td><td>成文堂</td></tr> <tr> <td>3</td><td>犯罪白書（各年度版）</td><td>法務総合研究所編</td><td>法務省</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	刑事政策（第3版）	川出敏裕・金光旭	成文堂	2	ビギナーズ刑事政策（第3版補訂第2版）	守山正・安部哲夫	成文堂	3	犯罪白書（各年度版）	法務総合研究所編	法務省																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	刑事政策（第3版）	川出敏裕・金光旭	成文堂																																																																
2	ビギナーズ刑事政策（第3版補訂第2版）	守山正・安部哲夫	成文堂																																																																
3	犯罪白書（各年度版）	法務総合研究所編	法務省																																																																
評価方法（基準）	定期試験（80%）、小テスト（20%）																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	11 号館 9 階 島田准教授室																																																																		
備考																																																																			

科目名	民法ⅠA（総則①）	科目名（英文）	Civil LawⅠA
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	城内 明
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1035a0		

授業概要・目的	民法総則は、民法（特に財産法）を学ぶ上での基本です。 本講義は、民法総則を学ぶことにより、民法の思考を体得することを目的とします。
到達目標	この授業を通じて学生には、民法総則の基本を正確に理解することが期待されます。
授業方法と留意点	この授業では、Teams 上にアップしたレジュメを用いて、授業を進めます。レジュメを印刷して、授業に参加してください。授業では、講義とあわせ、レジュメの穴埋めや、問題演習等も行います。六法も授業内で利用しますので、必ず、冊子体の六法(ポケット六法等)を持ってきてください。
科目学習の効果（資格）	公務員試験(地方上級・国家公務員一般職等)のほか、宅建・行政書士・司法書士・司法試験等の各種資格試験、法科大学院(ロースクール)入試等に必須。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・民法の勉強の仕方・民法総論(1)	ガイダンス・民法の勉強の仕方・民法典の構造を学ぶ	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	2	民法総論(2)	契約とは何か・意思自治の原則・契約は守られなければならない・契約自由の原則とその限界	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	3	民法総論(3)	契約の成立・意思表示の構造・意思表示の効力発生時期	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	4	意思表示の瑕疵(1)、無効と取消し	意思表示の瑕疵総説・無効と取消し	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	5	意思表示の瑕疵(2)	心裡留保・虚偽表示(1)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	6	意思表示の瑕疵(3)	虚偽表示(2) (94 条 2 項の類推適用)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	7	意思表示の瑕疵(4)	錯誤	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	8	意思表示の瑕疵(5)	詐欺・強迫・消費者取消権	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	9	中間試験	中間試験	第 1 回～第 8 回の内容を復習し、中間試験に臨むこと。
	10	法律行為の有効要件(1)	確定可能性、強行法規、公序良俗①	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	11	法律行為の有効要件(2)	公序良俗②、事例問題対策①	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	12	法律行為の有効要件(3)	公序良俗③、事例問題対策②	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	13	私権行使の自由とその限界(1)	公共の福祉、信義則	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	14	私権行使の自由とその限界(2)、時効制度(1)	権利濫用の禁止、時効総論、消滅時効①	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	15	時効制度(2)	消滅時効②、事例問題対策③	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
関連科目	法学概論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民法 1 総則（有斐閣ストゥディア）	山本敬三	有斐閣

	2	法学講義民法：総則（第3版）	奥田昌道	勁草書房
	3	民法判例百選Ⅰ 総則・物権〔第9版〕	潮見佳男	有斐閣
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民法講義1(第7版)	近江幸治	成文堂
	2	民法概論1 民法総則〔第2版〕	山野目章夫	有斐閣
	3			
評価方法 （基準）	中間試験（授業内試験（50点））・期末試験（定期試験（50点））を実施し、その合計点で成績評価します（100％）。			
学生への メッセージ	民法総則は、民法（特に財産法）を学ぶ上での基本です。 2年次以降に債権法・物権法（・および相続法）を学ぶ予定のある人、公務員試験・資格試験・法科大学院入試等、民法が受験科目となっている試験を受験予定の人（受験する可能性のある人）は、必ず受講して下さい。なお、2年次以降に開講される法律学特修特別講義に参加を希望する学生は、本講義の履修が必要です。			
担当者の 研究室等	11号館10階 城内教授室			
備考	中間試験は、採点后、法学部事務室にて返却します。必ず受け取ってください。 教科書は、指定の①「民法1 総則（有斐閣ストゥディア）」あるいは②「法学講義民法総則〔第三版〕」のいずれかと、「判例百選」の2冊の購入をお勧めします。①②共に初学者向けのテキストですが、①の方がより易しく、②の方がより詳しいです。なお、①②の代わりに、参考書に掲げたテキストを購入しても構いません。			

科目名	民法ⅠA（総則①）	科目名（英文）	Civil LawⅠA
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	KK1K2
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1035a0		

授業概要・目的	法律とは、社会において生じる問題を解決するために使われるものです。そのような法律も、いくつかの形で分類がなされます。そのような分類の中で、私人といわれる、一般の人たちの間の問題等を規律するものの総称が民事法と呼ばれるものであり、その中心となる法律が民法です。民法では特に財産と家族の問題が規定されています。 本講義では、上記のような民法の全体像を総則と呼ばれる部分を中心として把握する予定である。
到達目標	この講義を通じて、学生には民事法と呼ばれる私人間に問題について適用される法律の概観を確認し、今後の民事に関する法律科目を勉強するための概要を把握できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義に関連する、レジュメまたは資料を配布する予定である。 講義は対面方式の教室で行う。 法律科目であるので、六法（書籍の一種）が必要となる。 ※二つのクラスに分かれているため、自分がどちらのクラスに属するかは必ず事前に確認すること。
科目学習の効果（資格）	社会生活の基本法である民法の学習方法を知ることができ、民事法（民法、民事訴訟法、破産法等）が出題科目となっている各種資格試験の基礎となる知識を習得できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	はじめに	法学部がどのようなものであり、法律関係の講義がどのような問題を扱うのかなどの、概要部分を扱う予定です。	新聞などから、目次も含め、教科書から興味を持てる部分を是非見つけてください。予復習 90 分が目安です。
	2	民事法とは	民事法の内容および手続法との関係などを扱う予定です。	自分の周辺でどのような「法的問題」があるのかを検討してみてください。予復習 90 分が目安です。
	3	法律内容と民法	民事法と民法との関係、民法の構造を把握する予定です。	1 回目の内容から、自分の周りに存在する財産に関連する問題を自分なりに検討して下さい。予復習 90 分が目安です。
	4	民法と契約という制度	契約という制度を通して、社会における法律関係を確認していく予定です。	現実の生活の中で、どのような契約をしているのかなどを確認して下さい。予復習 90 分が目安です。
	5	人という存在	契約をすることができるのは誰なのか、また単独では契約ができない人がいるのかなどを確認する予定です。	これまでの経験から、法的に自分が置かれている立場を理解し、親の同意が必要となった契約を確認して下さい。予復習 90 分が目安です。
	6	所有権を通しての物権①	人が物を所持すること、すなわち支配することを、法律はどのように考えているのかを見ていく予定です。	他人が自分の物を返さないという経験がこれまでありましたか？この法的意味を確認して下さい。予復習 90 分が目安です。
	7	所有権を通しての物権②	物権がどのような問題について規律されるのかを確認する予定です。	物を所有する以外に、人と物との関係にどのようなものがあるのかを検討すること。予復習 90 分が目安です。
	8	金融担保一般	民法典に存在する担保について確認をする予定です。	お金の貸し借りの構造を法的に分析すること。予復習 90 分が目安です。
	9	不法行為	他人に損害を与えてしまい、賠償をしなければならないことを、法的に見ていきます。	交通事故や約束違反によって生じた損害は、賠償により回復することができるのかについて、検討すること。予復習 90 分が目安です。
	10	親族法	家族関係などを確認する。	自分の周りの人たちの家族関係を、法的視点で整理すること。予復習 90 分が目安です。
	11	民事手続①	実体法との違いを確認する。	実体法と訴訟法の条文を比べ、その役割の違いを見つけること。講義中の課題を再確認のこと。予復習 90 分が目安です。
	12	民事手続②	権利実現の手順などを確認する。	裁判がどのような流れで実施されているのかを確認すること。教科書の該当部分を確認すること。予復習 90 分が目安です。
	13	民事手続③	手続にも様々なものがあることを確認する。	勝訴したのちに、実際に権利がどのように実現されるのかを、裁判所 HP ページおよび、教科書の該当部分を確認すること。講義中の課題を再確認のこと。予復習 90 分が目安です。
	14	相続法	人の死後の財産関係を簡単に扱う予定です。	人の死後に起こりうる問題等を確認すること。予復習 90 分が目安です。
	15	全体の復習	民事法の構造の再確認	全体の内容を確認すること。予復習 90 分が目安です。

関連科目	憲法、商法、会社法など、法律に関連する科目。
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	Teams を使った小テストを行う（70%～80%：講義状況により変化する）。 講義内での小テスト（20～30%：講義状況により変化する）。 自宅で teams 上のテストを回答することは可能であるが、あくまで出席者が採点対象である。また、いかなる理由があれ講義に来ていない者は「欠席者」として扱うことから、その旨を理解のうえ、受講すること。
----------	---

	具体的には、初回等で確認すること。
学生への メッセージ	民事法は日常生活に関する規範である。したがって、民事法を学習することは、日常生活を法的観点から検討することでもある。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階 大川准教授室
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の 3 つから成り立っています。それぞれにつき、90 分を確保して学習をする必要があります。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。事前・事後学習内容について、講義で出された課題、指摘部分及び確認テスト内容については、各対応時の講義で確認・解説を行います。 近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。 19

科目名	民法ⅠB（総則②）	科目名（英文）	Civil Law I B
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	城内 明
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1036a0		

授業概要・目的	民法総則は、民法（特に財産法）を学ぶ上での基本です。 本講義は、民法総則を学ぶことにより、民法の思考を体得することを目的とします。
到達目標	この授業を通じて学生には、民法総則の基本を正確に理解することが期待されます。
授業方法と留意点	この授業では、Teams 上にアップしたレジュメを用いて、授業を進めます。レジュメを印刷して、授業に参加してください。授業では、講義とあわせ、レジュメの穴埋めや、問題演習等も行います。六法も授業内で利用しますので、必ず、冊子体の六法(ポケット六法等)を持ってきてください。本授業は、民法Ⅰa(総則①)を受講していることを前提とします。民法Ⅰa(総則①)を受講していない学生は、該当範囲を独習しておいてください。
科目学習の効果（資格）	公務員試験(地方上級・国家公務員一般職等)のほか、宅建・行政書士・司法書士・司法試験等の各種資格試験、法科大学院(ロースクール)入試等に必須。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・人(1)	ガイダンス、権利能力の始期・条件	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	2	人(2)	権利能力の終期	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	3	人(3)	意思能力・制限行為能力①(総説)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	4	人(4)	制限行為能力②(制限行為能力者制度総説・制限行為能力者の相手方の保護)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	5	人(5)	制限行為能力③(未成年者)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	6	人(6)	制限行為能力④(成年後見制度①)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	7	人(7)	制限行為能力⑤(成年後見制度②)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	8	中間試験	中間試験	第 1 回～第 8 回の内容を復習し、中間試験に臨むこと。
	9	代理(1)	代理総説・代理権①	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	10	代理(2)	代理権②／代理行為	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	11	代理(3)	無権代理総説、無権代理の相手方の保護	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	12	代理(4)	無権代理と相続、事例問題対策①	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	13	代理(5)	表見代理①、事例問題対策②	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	14	代理(6)	表見代理② 事例問題対策③	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
	15	人(8)、物	法人、物	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
関連科目	法学概論、民法Ⅰa(総則①)			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	<table><tr><td>1</td><td>民法1 総則（有斐閣ストゥディア）</td><td>山本敬三</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>2</td><td>法学講義民法：総則（第3版）</td><td>奥田昌道</td><td>勁草書房</td></tr><tr><td>3</td><td>民法判例百選Ⅰ 総則・物権〔第9版〕</td><td>潮見佳男</td><td>有斐閣</td></tr></table>				1	民法1 総則（有斐閣ストゥディア）	山本敬三	有斐閣	2	法学講義民法：総則（第3版）	奥田昌道	勁草書房	3	民法判例百選Ⅰ 総則・物権〔第9版〕	潮見佳男	有斐閣				
1	民法1 総則（有斐閣ストゥディア）	山本敬三	有斐閣																	
2	法学講義民法：総則（第3版）	奥田昌道	勁草書房																	
3	民法判例百選Ⅰ 総則・物権〔第9版〕	潮見佳男	有斐閣																	
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>民法講義1(第7版)</td><td>近江幸治</td><td>成文堂</td></tr><tr><td>2</td><td>民法概論1 民法総則〔第2版〕</td><td>山野目章夫</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	民法講義1(第7版)	近江幸治	成文堂	2	民法概論1 民法総則〔第2版〕	山野目章夫	有斐閣	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	民法講義1(第7版)	近江幸治	成文堂																	
2	民法概論1 民法総則〔第2版〕	山野目章夫	有斐閣																	
3																				
評価方法 （基準）	中間試験(授業内試験(50点))・期末試験(定期試験(50点))を実施し、その合計点で成績評価します(100%)。																			
学生への メッセージ	民法総則は、民法（特に財産法）を学ぶ上での基本です。 2年次以降に債権法・物権法（・および相続法）を学ぶ予定のある人、公務員試験・資格試験・法科大学院入試等、民法が受験科目となっている試験を受験予定の人(受験する可能性のある人)は、必ず受講して下さい。なお、2年次以降に開講される法律学特修特別講義に参加を希望する学生は、本講義の履修が必要です。																			
担当者の 研究室等	11号館10階 城内教授室																			
備考	中間試験は、採点后、法学部事務室にて返却します。必ず受け取ってください。 教科書は、指定の①「民法1 総則（有斐閣ストゥディア）」あるいは②「法学講義民法総則〔第三版〕」のいずれかと、「判例百選」の2冊の購入をお勧めします。①②共に初学者向けのテキストですが、①の方がより易しく、②の方がより詳しいです。なお、①②の代わりに、参考書に掲げたテキストを購入しても構いません。																			

科目名	民法ⅡA（物権）	科目名（英文）	Civil Law II A
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	家本 真実
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2037a0		

授業概要・目的	物権は、物を支配する権利です。たとえば、土地を所有していれば、その土地に対して所有権という物権を持っていることになり、その土地を自由に使用したり、処分したりすることができます。物権法は、民法の中でも、こうした物権に関するルールを定めた法律です。本講義では、担保物権を除く物権法の全体像を理解することを目的とします。より理解を深めていただくために、できる限り身近な事例を挙げるとともに、条文に対する解釈や、学説、判例について紹介していきたいと考えています。
到達目標	この講義を通じて、学生の皆さんには、担保物権を除く物権法の基礎をしっかりと理解し、民法における物に対する権利の考え方について全体像を把握できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	要点を記したレジュメを配布し、それに沿って解説をおこなうといったかたちで講義をおこないます。積極的にノートを取って講義内容を理解しようという姿勢で講義に臨んでいただかなければ、単位の取得は難しいとお考えください。六法を参照していただくことも多いので、書籍またはオンラインで参照できるものを必ずご用意ください。教科書は入手していただくことをお勧めします。
科目学習の効果（資格）	各種資格試験においては、物権法を含む民法の理解が必須となることがあります。ただし、本講義では各種資格試験の対策まではおこないません。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	はじめに 物権法概説	講義のガイダンス 物権法の全体像（物権とは何か、民法における物権法の位置づけ）	講義終了後、次の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。（2 時間）
	2	物権変動（1）	物権変動の基本的理論	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。（1.5 時間） 講義終了後、次の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。（2.5 時間）
	3	物権変動（2）	不動産の物権変動における公示と登記制度	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。（1.5 時間） 講義終了後、次の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。（2.5 時間）
	4	物権変動（3）	不動産の物権変動における「第三者」	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。（1.5 時間） 講義終了後、次の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。（2.5 時間）
	5	物権変動（4）	不動産の物権変動における「取消しと登記」	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。（1.5 時間） 講義終了後、次の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。（2.5 時間）
	6	物権変動（5）	不動産の物権変動における「取得時効と登記」	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。（1.5 時間） 講義終了後、次の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。（2.5 時間）
	7	物権変動（6）	登記の効力	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。（1.5 時間） 講義終了後、次の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。（2.5 時間）
	8	物権変動（7）	動産の物権変動における公示と即時取得	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。（1.5 時間） 講義終了後、次の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。（2.5 時間）
	9	占有権（1）	占有の取得、移転、消滅	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。（1.5 時間） 講義終了後、次の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。（2.5 時間）
	10	占有権（2）	占有の効力	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。（1.5 時間） 講義終了後、次の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。（2.5 時間）
	11	所有権（1）	所有権の基本的理論、所有権の取得	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。（1.5 時間） 講義終了後、次の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。（2.5 時間）
	12	所有権（2）	所有権に基づく物権的請求権	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。（1.5 時間） 講義終了後、次の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。（2.5 時間）
	13	所有権（3）	共同所有	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。（1.5 時間） 講義終了後、次の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。（2.5 時間）
	14	所有権（4）	建物の区分所有	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。（1.5 時間） 講義終了後、次の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。（2.5 時間）
	15	用益物権 おわりに	地上権、永小作権、地役権、入会権 講義のまとめと補足	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。全講義を通して疑問や不明点がないか確認したうえで講義に臨むこと。（3 時間）

				講義終了後、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(3 時間)
関連科目	民法総則、債権法、契約法、担保物権法など民法系科目全般。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民法の基礎 2－物権（第 3 版）	佐久間 毅	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	六法		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義内で課す課題（確認テスト、ペーパーなど）への取り組みを 30%程度、学期末試験の成績を 70%程度の割合で、最終的な評価をおこないます。			
学生への メッセージ	講義中は私語を慎んでください。講義内容は、講義の進行具合に応じて変更する場合があります。			
担当者の 研究室等	11 号館 9 階 家本准教授室			
備考	2023 年度 88 名登録 期末試験受験者合格率 58.1% (74 名中 43 名) (不受験率 15.9% (14 名)) A12.2% B14.9% C9.5% D21.6%、合格者の平均 76.7 点			

科目名	民法ⅡB（担保物権）	科目名（英文）	Civil Law II B
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 敦
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3038a0		

授業概要・目的	担保物権に関する知識の習得とその果たす役割についての理解を深めることを目的とする。まず、前提として、登記簿の見方、對抗要件とは何か、民事執行の基本などにつき一通りの理解が得られるようにする。また、担保とは、債権、特に金銭債権の回収を確実にする方策のことであり、債権が確実に弁済されることは、債権者にとって重要なことである。さらに、市場原理による経済社会にあつては、企業は新たな事業展開を迫られ、常に、資金の確保を必要とする。金融を得るには担保の提供が必須であるので、担保に関する知識は極めて重要である。
到達目標	この授業を通じて、学生には、担保物権を中心とする担保につき一通りの知識を習得し、担保が、現実の取引において、どのような場面でどのような役割を果たしているのか、注意すべき事柄は何かについて簡単な説明ができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	- 各回の講義に関する詳細並びに関連するレジュメ又は資料は、Teams を使って該当講義分の各チャンネルに掲示するので、各講義前に必ず見るようにすること。 - 授業には、プリントアウトした上記レジュメ等（授業では適宜メモを取る）と六法（ポケット六法等、最新の令和 6 年版を推奨する）を必ず持参すること。講義はレジュメに基づいて行うが、十分な理解のためには、レジュメ及び教科書による事前学習並びに授業を踏まえた事後学習が不可欠である。それぞれ 2 時間を充ててほしい。事前学習及び事後学習に当たっても六法を適宜参照すること。
科目学習の効果（資格）	理解が進めば担保物権のみならず、財産法全体にも興味を持て、ひいては、民法全般に関する応用力が養われ、民法を試験科目とする各種資格試験に対応できる。併せて、金融についての知識も得られるので、不動産関係あるいは金融関係の仕事に就くことを望む者にとっては、必須の領域であるといえよう。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス、不動産についての基礎知識	- 授業の進め方、受講上の注意 - 不動産について	【事前学習】 レジュメを読む。 【事後学習】 授業を踏まえ、重要事項を確認する。（各 2 時間）
	2	不動産登記	不動産登記に関する基礎知識	【事前学習】 レジュメを読む。 【事後学習】 授業を踏まえ、重要事項を確認する。（各 2 時間）
	3	對抗要件等	- 物権総論 - 對抗要件	【事前授業】 レジュメを読む。 【事後学習】 授業を踏まえ、重要事項を確認し、授業 1 ～ 3 回に関する小テストに回答する。（各 2 時間）
	4	民事執行の基本	- 民事執行とは - 強制競売と担保権実行	【事前学習】 レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】 授業を踏まえ、重要事項を確認する。（各 2 時間）
	5	金銭債権の実行、担保とは	- 金銭債権について - 物的担保と人的担保	【事前学習】 レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】 授業を踏まえ、重要事項を確認し、授業 4、5 回に関する小テストに回答する。（各 2 時間）
	6	担保法概論	- 債権者平等の原則と物的担保、担保物権 - 担保物権の種類 - 担保物権の効力・性質	【事前学習】 レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】 授業を踏まえ、重要事項を確認する。（各 2 時間）
	7	抵当権総論、抵当権の設定（抵当権 1）	- 抵当権とは - 抵当権の設定	【事前学習】 レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】 授業を踏まえ、重要事項を確認し、授業 6、7 回に関する小テストに回答する。（各 2 時間）
	8	抵当権の効力、物上代位（抵当権 2）	- 抵当権の効力 - 抵当権の物上代位	【事前学習】 レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】 授業を踏まえ、重要事項を確認する。（各 2 時間）
	9	抵当目的物の利用権、法定地上権（抵当権 3）	- 抵当権設定者の使用収益権 - 法定地上権	【事前学習】 レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】 授業を踏まえ、重要事項を確認し、授業 8、9 回に関する小テストに回答する。（各 2 時間）
	10	抵当権の残りの部分（抵当権 4）	- 抵当権者と第三取得者の利害調整 - 抵当権に関するその他の事項	【事前学習】 レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】 授業を踏まえ、重要事項を確認する。（各 2 時間）
	11	根抵当権（抵当権 5）	根抵当権	【事前学習】 レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】 授業を踏まえ、重要事項を確認し、授業 10、11 回に関する小テストに回答する。（各 2 時間）
	12	質権	質権の意義、効力など	【事前学習】 レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】 授業を踏まえ、重要事項を確認する。（各 2 時間）
	13	留置権・先取特権	- 留置権 - 先取特権	【事前学習】 レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】 授業を踏まえ、重要事項を確認し、授業 15 回の授業内容に関して回答する（小テスト扱い）。（各 2 時間）
	14	非典型担保	- 非典型担保（民法の条文にない担保物権）の意義・必要性 - 仮登記担保、譲渡担保、所有権留保	【事前学習】 レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】 授業を踏まえ、重要事項を確認し、授業 12 ～ 14 回に関する小テストに回答する。（各 2 時間）
	15	これまでの授業の振り返り	アンケートの希望が多かった項目を中心に授業全般を振り返る	【事前学習】 レジュメを読む。 【事後学習】 授業内容を確認し、これまでの授業の感想などに関する小テストに回答する。（各 2 時間）
関連科目	民法ⅠA、B（総則）、Ⅱ（物権）、ⅢA（債権総論）、民事執行・保全法			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民法3 担保物権 第3版	平野裕之ほか	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義後における Teams 上での課題(小テスト 80%)及び授業を聞いて関心を持った論点ないし判例に関する解説や感想等(題材自由選択のコメント 20%)により評価する。提出に関する詳細は、別途 Teams で伝えることもあるので、注意すること。			
学生への メッセージ	取引社会で重要な意義を有している担保や担保物権の概略を学ぶことは、仕事の上で役に立つだけでなく、自宅を購入したりする際等、社会生活を営む上で必須です。法律の学習は講義内容を理解することが第一です。担保物権は、条文が多く、判例も多いため、難しい面もありますが、本講義は、あくまでもレジュメによって基本を押さえていくことを中心に考えています。したがって、授業では、必ずプリントアウトしたレジュメを持参し、適宜メモをしてください。教科書すべてについて言及するものではありませんが、興味を持つ分野を探し、自分から問題意識を持って参加してください。			
担当者の 研究室等	11号館10階 田中教授室			
備考	民法ⅠA、B(総則)、ⅡA(物権)を学習しておくことが望ましい。学生の受講態度、理解度等によっては、授業の方法、順序、内容を変更することがある。			

科目名	民法ⅢA（債権総論①）	科目名（英文）	Civil Law III A
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2039a0		

授業概要・目的	民法典における財産法には、総則・物権・債権の三つ編があります。 その中で、物権とは人と物との関係を扱う部分であり、債権とは人と人との関係を扱う部分です。 さらに、債権法の部分は大きく分けて、総論部分と各論部分に分かれます。本講義ではその総論部分を扱います。
到達目標	この授業を通じて学生には、債権法の内容を全体的に把握し日常的な取引で生じる法的問題等を考察できる知識を涵養することを目的とします。 具体的には、取引で生じる債権とはいかなる内容のもので、いかなる性質を有しているのか、合意（契約）により生じた債権が約束通りに履行されない場合にはどのような問題が生じるのか、これらの債権を確保する行為は許されるのか、それらの債権を売却するなどして有効活用することはできないのか、という点を見ていく予定です。 これにより、本講義では、社会における取引の意義を把握できるようにし、かつ、自分の判断で問題を処理するための基本的知識の獲得をすることが期待されます。
授業方法と留意点	講義で使用するレジュメは Teams でデータ配信するため、個人での印刷が必要である。情報処理室または自宅で印刷をすること。ただし、PC 等を講義で使用することは可能であることから、データ上で書き込み等をする場合は印刷は不要である（第 1 回目のみ配布）。 講義は対面方式の教室で行う。出席する予定のない者は採点対象とならないことに注意すること。 なお、Teams に動画を後日アップロードする予定であるが、これはあくまで復習や欠席者用であり、録画の品質等は担保できない。講義で内容を確認すること。 法律科目であるの
科目学習の効果（資格）	各種資格試験においては、債権法を含む民法の理解が必須となります。公務員試験等、民法科目が出題される場合や、銀行取引などにおいても重要となる知識を債権法は含んでいます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	債権法概論	講義のガイダンス 前・後期 30 回で使う内容の確認 債権各論との住み分け状況の確認	総則および債権各論部分を見直すこと。 債権総論の教科書で全体確認をすること それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること 意思表示部分の予習を行っておくこと。
	2	債権総論と各論	債権の全体像および契約法との関係で重要となる制度の確認	総務契約において生じうる問題状況の整理を行うこと それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
	3	債権の目的	様々な債権の性質と法制度	各契約により生み出される債権債務の内容を確認しておくこと。 各債権の特徴を押さえたうえで、そこから生じうる問題点と法制度を整理すること それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	4	債権の基本的効力	債権があることで認められる各効力 履行の強制	手続法の概要を確認しておくこと。 履行を強制的に実現させる形、およびそれらがどのような場面で用いられるかを整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	5	債務不履行責任 1	債務不履行による損害賠償請求の要件	不法行為制度と債務不履行制度の違いを整理しておくこと。 債務不履行による損害賠償請求が認められるための要件を不法行為制度と対比しながら整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	6	債務不履行責任 2	損害の意義	不法行為制度と債務不履行制度における損害概念の相違を整理しておくこと。 判例における損害概念を整理すること それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	7	債務不履行責任 3	受領遅滞	履行遅滞の意義を整理しておくこと。 債務不履行制度と受領遅滞制度との違いを整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	8	債務不履行責任 4	賠償を調整する制度の確認	債権各論で問題となる危険負担制度を整理しておくこと。 過失相殺の意義を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	9	責任財産保全制度 1	債権者代位権	担保法の概要を復習しておくこと。 責任財産の意義および債権の効力の部分を復習すること それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	10	責任財産保全制度 2	債権者代位権の行使	代位権の要件を整理しておくこと。 相殺の意義を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	11	責任財産保全制度 3	債権者代位権の転用	登記制度および賃貸借契約の内容を整理しておくこと。 転用が問題となる判例の内容を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	12	責任財産保全制度 4	詐害行為取消権	債権者代位権の内容を復習しておくこと。 責任財産の意義および債権の効力の部分を復習すること それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	13	責任財産保全制度 5	詐害行為取消権の行使	詐害行為取消権の要件を整理しておくこと。 相殺の意義を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること

	14	責任財産保全制度 6	詐害行為取消権の意義	詐害行為取消権の法的性質を整理しておくこと。 詐害行為取消権の問題点を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること																
	15	全体復習	前期の講義内容の総括	全体内容を復習すること。 90 分を確保して学習をすること																
関連科目	契約法、不法行為法、民法総則など、民法系科目全般																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>民法4 債権総論</td><td>山本敬三監修</td><td>有斐閣ストゥディア</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	民法4 債権総論	山本敬三監修	有斐閣ストゥディア	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	民法4 債権総論	山本敬三監修	有斐閣ストゥディア																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	Teams を使った小テストを行う（70%～80%：講義状況により変化する）。 講義内での小テスト（20～30%：講義状況により変化する）。 自宅で teams 上のテストを回答することは可能であるが、あくまで出席者が採点対象である。また、いかなる理由があれ講義に来ていない者は「欠席者」として扱うことから、その旨を理解のうえ、受講すること。 具体的には、初回等で確認すること。																			
学生への メッセージ	法律学にもかなり慣れたことだと思いますが、不十分だと思われる方も、復習をしつつ取り組んでいけば十分に理解ができますし、興味も持っていけるはずです。 講義の動画はアップロード（講義終了時まで掲載）を行います。欠席時に、オンライン上での小テスト等には各自で対応してください。 小テストの解答期間は、日曜日の 23 時 59 分までを予定し、講義後 5 日間ほどの猶予期間を設定しています。なお、大学は対面講義が原則であることから、それ以外の欠席事由は成績評価にあたっては何らの正当性をもたないということを理解しておいてください。																			
担当者の 研究室等	11 号館 9 階 大川准教授室																			
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の 3 つから成り立っています。それぞれにつき、90 分を確保して学習をする必要があります。 予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。事前・事後学習内容について、講義で出された課題及び指摘部分の内容については、各対応時の講義で確認・解説を行います。 受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。																			

科目名	民法ⅢB（債権総論②）	科目名（英文）	Civil Law III B
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2040a0		

授業概要・目的	民法典における財産法には、総則・物権・債権の三つ編があります。 その中で、物権とは人と物との関係を扱う部分であり、債権とは人と人との関係を扱う部分です。 さらに、債権法の部分は大きく分けて、総論部分と各論部分に分かれます。本講義ではその総論部分を扱います。
到達目標	この授業を通じて学生には、債権法の内容を全体的に把握し日常的な取引で生じる法的問題等を考察できる知識を涵養することを目的とします。 具体的には、取引で生じる債権とはいかなる内容のもので、いかなる性質を有しているのか、合意（契約）により生じた債権が約束通りに履行されない場合にはどのような問題が生じるのか、これらの債権を確保する行為は許されるのか、それらの債権を売却するなどして有効活用することはできないのか、という点を見ていく予定です。 これにより、本講義では、社会における取引の意義を把握できるようにし、かつ、自分の判断で問題を処理するための基本的知識の獲得をすることが期待されます。
授業方法と留意点	講義で使用することは可能であることから、データ上で書き込み等をする場合は印刷は不要である（第1回目のみ配布）。 講義は対面方式の教室で行う。出席する予定のない者は採点対象とならないことに注意すること。 なお、Teams に動画を後日アップロードする予定であるが、これはあくまで復習や欠席者用であり、録画の品質等は担保できない。講義で内容を確認すること。 法律科目であるので、六法（書籍の一種）が必要となる。予復習状況は備考欄も確認すること。予復習については、備考欄も確認すること。
科目学習の効果（資格）	各種資格試験においては、債権法を含む民法の理解が必須となります。公務員試験等、民法科目が出題される場合や、銀行取引などにおいても重要となる知識を債権法は含んでいます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	債権総論前期の整理	講義のガイダンス 前期の復習 予復習については、備考欄も確認すること。	前期内容の全体を確認しておくこと。 法学概論における講義内容と対比して債権各論との関係で不明確な部分を確認すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	2	多数当事者の債権債務関係 1	当事者が多数となる場面の確認 分割債権債務	売買契約の内容を確認しておくこと。 法人制度との違いを理解し、多数者関係との違いを整理しておくこと。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	3	多数当事者の債権債務関係 2	連帯債務 1	教科書の債権の消滅原因部分を確認しておくこと。 絶対的・相対的効力事由の意義とそれらの違いを制度と共に整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	4	多数当事者の債権債務関係 3	連帯債務 2	教科書の債権の消滅原因部分を確認しておくこと。 相殺との関係で生じる事象および不真正連帯債務の制度との違いを整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	5	多数当事者の債権債務関係 4	不可分債権債務 連帯債権	連帯債務の全体像を確認しておくこと。 不可分債務と連帯債務の違いを整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	6	保証債務 1	保証契約の意義	担保法の概要を確認しておくこと。 連帯債務と保証債務との違いを整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	7	保証債務 2	連帯保証 複数の保証人	通常保証制度の内容を確認しておくこと。 分別の利益制度を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	8	債権譲渡 1	債権譲渡の意義	物権における対抗要件制度を復習しておくこと。 譲渡の制限の全体像を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	9	債権譲渡 2	債権譲渡の対抗要件	債権譲渡の制度を確認しておくこと。 債権譲渡の対抗要件制度における各用語と制度の意義を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	10	債務引受	免責的債務引受 併存的債務引受 履行引受	債権譲渡の意義を確認しておくこと。 債権譲渡と債務引受の意義の違いと要件の違いを整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	11	債権の消滅 1	弁済 1	債権の発生原因を確認しておくこと。 弁済において問題となる事象を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	12	債権の消滅 2	弁済 2 相殺 1	弁済の意義を連帯債務の部分を含め確認しておくこと。 相殺の意義および行使方法を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	13	債権の消滅 3	相殺 2	相殺の要件（相殺適状）を確認しておくこと。 相殺と他の制度との関連状況を整理しておくこと。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	14	債権の消滅 4	相殺 3 その他の制度	相殺の全体像を確認しておくこと。 債権の消滅原因となる各制度の特徴を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	15	全体の復習	前・後期の全体復習	前期の内容を含め整理しておくこと。 講義で取り上げた要点をまとめること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること

関連科目	契約法、不法行為法、民法総則など、民法系科目全般																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	Teamsを使った小テストを行う（70％～80％：講義状況により変化する）。 講義内での小テスト（20～30％：講義状況により変化する）。 自宅で teams 上のテストを回答することは可能であるが、あくまで出席者が採点対象である。また、いかなる理由があれ講義に来ていない者は「欠席者」として扱うことから、その旨を理解のうえ、受講すること。 具体的には、初回等で確認すること。																			
学生への メッセージ	法学学にもかなり慣れたことだと思いますが、不十分だと思われる方も、復習をしつつ取り組んでいけば十分に理解ができますし、興味も持っていけるはずです。 講義の動画はアップロード（講義終了時まで掲載）を行います。欠席時に、オンライン上での小テスト等には各自で対応してください。 小テストの解答期間は、日曜日の 23 時 59 分までを予定し、講義後 5 日間ほどの猶予期間を設定しています。なお、大学は対面講義が原則であることから、それ以外の欠席事由は成績評価にあたっては何らの正当性をもたないということを理解しておいてください。																			
担当者の 研究室等	11 号館 9 階 大川准教授室																			
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の 3 つから成り立っています。それぞれにつき、90 分を確保して学習をする必要があります。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。事前・事後学習内容について、講義で出された課題及び指摘部分の内容については、各対応時の講義で確認・解説を行います。 近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。 小テストや課題テスト																			

科目名	民法ⅣA（債権各論①）	科目名（英文）	Civil Law IV A
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2041a0		

授業概要・目的	民法典における財産法には、総則・物権・債権の三つがあります。 その中で、物権とは人と物との関係を扱う部分であり、債権とは人と人との関係を扱う部分です。 債権法の部分は大きく分けて、総論部分と各論部分に分かれます。本講義では各論部分を扱います。特に、契約を中心に確認する予定です。
到達目標	この授業を通じて学生には、債権法の内容を全体的に把握し日常的な取引で生じる法的問題等を考察できる知識を涵養する事を目的としています。 具体的には、日常的にどのような取引がなされているのか、それらの契約にはどのようなものがあるのか、それらの契約がどのような性質を含んでいるのかを確認します。 これにより、本講義では、社会における取引の意義を把握できるようにし、かつ、自分の判断で問題を処理するための基本的知識の獲得することが期待されます。
授業方法と留意点	講義で使用することは可能であることから、データ上で書き込み等をする場合は印刷は不要である（第1回目のみ配布）。 講義は対面方式の教室で行う。出席する予定のない者は採点対象とならないことに注意すること。 なお、Teams に動画を後日アップロードする予定であるが、これはあくまで復習や欠席者用であり、録画の品質等は担保できない。講義で内容を確認すること。 法律科目であるので、六法（書籍の一種）が必要となる。予復習状況は備考欄も確認すること。 予復習については、備考欄も確認すること。
科目学習の効果（資格）	各種資格試験においては、債権法を含む民法の理解が必須となります。公務員試験等、民法科目が出題される場合や、銀行取引などにおいても重要となる知識を債権法は含んでいます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	債権各論の全体像 予復習については、備考欄も確認すること。	民法総則の内容を確認しておくこと。 教科書の目次から債権各論の全体像を確認・整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	2	契約の意義	契約の意義 債権の意義 契約の成立	民法総則における意思表示制度を確認しておくこと。 契約が成立した場合の効力を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	3	債権の発生原因	契約 事務管理 不当利得 不法行為	債権の意義を確認しておくこと。 各制度の要件を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	4	契約の種類性質・法的性質	各契約の特徴とその性質	売買契約の内容を確認しておくこと。 契約の性質を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	5	特殊な契約の成立	定型約款	契約が成立する形および契約自由の原則を確認しておくこと。 約款が組み入れられる形を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	6	契約の効力 1	総務契約における牽連性 原始的不能 同時履行の抗弁	無効と取消し制度の内容を確認しておくこと。 債務不履行制度の概要を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	7	契約の効力 2	危険負担 第三者のためにする契約	債務不履行制度の概要を確認しておくこと。 債務不履行制度との違いから危険負担の制度を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	8	解除 1	解除制度	総務契約の意義を確認しておくこと。 債務不履行制度と解除との関係を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	9	解除 2	解除の効果と第三者	解除制度を確認しておくこと。 取り消しと第三者との関係と違いを整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	10	贈与契約	贈与の制度	債権の発生原因を確認しておくこと。 無償契約の特徴を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	11	売買契約 1	売買の意義 売買の一方の予約 手付	契約の成立の内容を確認しておくこと。 解除制度と手付との関係を整理すること それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	12	売買契約 2	売買と契約不適合責任	債務不履行制度を確認しておくこと。 契約不適合とされる事象とそれに対応する制度との関係を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	13	売買契約 3 交換契約	担保責任としての売主の責任 交換契約の概要	契約不適合責任の内容を確認しておくこと。 財産移転型契約の全体を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	14	消費貸借契約	消費貸借契約の意義	金銭の貸し借りの状況および利息債権について確認しておくこと。 消費貸借契約の特徴を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	15	全体のまとめ	全体の復習	前期の全体を復習し、契約法の特徴を確認・整理すること。 90 分を確保して学習をすること
関連科目	債権総論、不法行為法、民法総則など、民法系科目全般			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Teams を使った小テストを行う（70%～80%：講義状況により変化する）。 講義内での小テスト（20～30%：講義状況により変化する）。 自宅で teams 上のテストを回答することは可能であるが、あくまで出席者が採点対象である。また、いかなる理由があれ講義に来ていない者は「欠席者」として扱うことから、その旨を理解のうえ、受講すること。 具体的には、初回等で確認すること。			
学生への メッセージ	法学にもかなり慣れたことだと思いますが、不十分だと思われる方も、復習をしつつ取り組んでいけば十分に理解ができますし、興味も持っていけるはずです。 講義の動画はアップロード（講義終了時まで掲載）を行います。欠席時に、オンライン上での小テスト等には各自で対応してください。 小テストの解答期間は、日曜日の 23 時 59 分までを予定し、講義後 5 日間ほどの猶予期間を設定しています。なお、大学は対面講義が原則であることから、それ以外の欠席事由は成績評価にあたっては何らの正当性をもたないということを理解しておいてください。			
担当者の 研究室等	11 号館 9 階 大川准教授室			
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の 3 つから成り立っています。それぞれにつき、90 分を確保して学習をする必要があります。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。事前・事後学習内容について、講義で出された課題及び指摘部分の内容については、各対応時の講義で確認・解説を行います。 近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。 小テストや課題テス			

科目名	民法IVB（債権各論②）	科目名（英文）	Civil Law IV B
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2042a0		

授業概要・目的	民法典における財産法には、総則・物権・債権の三つがあります。 その中で、物権とは人と物との関係を扱う部分であり、債権とは人と人との関係を扱う部分です。 債権法の部分は大きく分けて、総論部分と各論部分に分かれます。本講義では各論部分を扱います。特に、契約を中心に確認する予定です。
到達目標	この授業を通じて学生には、債権法の内容を全体的に把握し日常的な取引で生じる法的問題等を考察できる知識を涵養する事を目的としています。 具体的には、日常的にどのような取引がなされているのか、それらの契約にはどのようなものがあるのか、それらの契約がどのような性質を含んでいるのかを確認します。 これにより、本講義では、社会における取引の意義を把握できるようにし、かつ、自分の判断で問題を処理するための基本的知識の獲得することが期待されます。
授業方法と留意点	講義で使用することは可能であることから、データ上で書き込み等をする場合は印刷は不要である（第1回目のみ配布）。 講義は対面方式の教室で行う。出席する予定のない者は採点対象とならないことに注意すること。 なお、Teamsに動画を後日アップロードする予定であるが、これはあくまで復習や出席者用であり、録画の品質等は担保できない。講義で内容を確認すること。 法律科目であるので、六法（書籍の一種）が必要となる。予復習状況は備考欄も確認すること。
科目学習の効果（資格）	各種資格試験においては、債権法を含む民法の理解が必須となります。公務員試験等、民法科目が出題される場合や、銀行取引などにおいても重要な知識を債権法は含んでいます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	前期の内容の確認および契約法の全体像を整理 予復習については、備考欄も確認すること。	前期の全体を確認しておくこと。 契約の法的性質を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	2	使用貸借契約	使用貸借の内容	消費貸借の意義を確認しておくこと。 使用貸借の特徴を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	3	賃貸借契約 1	賃貸借契約の内容	双務契約の意義および使用貸借契約の内容を確認しておくこと。 賃貸借契約における権利義務内容を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	4	賃貸借契約 2	賃借権の無断譲渡・転貸 賃貸人の地位の留保 賃貸借契約の終了	継続的契約の事情を確認しておくこと。 賃貸借契約関係が移転する状況を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	5	賃貸借契約 3	借地借家法 1 借地関係	民法上の賃貸借契約の内容を確認しておくこと。 民法と借地借家法での内容の違いを整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	6	賃貸借契約 2	借地借家法 2 借家関係	借地借家法の内容を確認しておくこと。 借地借家法の特別法としての意義と民法との違いを整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	7	雇用契約	雇用契約の内容	役務提供契約の内容を確認しておくこと。 民法と労働法の内容の違いを整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	8	請負契約 1	請負契約の内容	雇用契約の内容を確認しておくこと。 売買との違いを整理し、制作物供給契約の形も整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	9	請負契約 2	請負における契約不適合問題・危険負担問題	売買契約における契約不適合責任を確認しておくこと。 請負と売買で不適合責任として異なる点を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	10	委任契約 1	委任における権利義務	役務提供契約の全体像を確認しておくこと。 委任における特殊性を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	11	委任契約 2	医療問題	債務不履行制度、不法行為制度を確認しておくこと。 医療過誤問題を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	12	寄託契約	寄託契約の内容	賃貸借契約の内容を確認しておくこと。 賃貸借契約との違いを整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	13	その他の契約	組合契約 終身定期金契約	法人制度を確認しておくこと。 契約全体を整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	14	事務管理・不当利得	事務管理の概要 不当利得の概要	債権の発生原因を確認しておくこと。 不法行為制度との違いを整理すること。 それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること
	15	全体のまとめ	前後期のすべての内容を確認する。	全体の復習を行うこと。 90 分を確保して学習をすること
関連科目	債権総論、不法行為法、民法総則など、民法系科目全般			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1																			
	2																			
	3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3						
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	Teams を使った小テストを行う（70%～80%：講義状況により変化する）。 講義内での小テスト（20～30%：講義状況により変化する）。 自宅で teams 上のテストを回答することは可能であるが、あくまで出席者が採点対象である。また、いかなる理由があれ講義に来ていない者は「欠席者」として扱うことから、その旨を理解のうえ、受講すること。 具体的には、初回等で確認すること。																			
学生への メッセージ	法学部にもかなり慣れたことだと思いますが、不十分だと思われる方も、復習をしつつ取り組んでいけば十分に理解ができますし、興味も持っていけるはずです。 講義の動画はアップロード（講義終了時まで掲載）を行います。欠席時に、オンライン上での小テスト等には各自で対応してください。 小テストの解答期間は、日曜日の 23 時 59 分までを予定し、講義後 5 日間ほどの猶予期間を設定しています。なお、大学は対面講義が原則であることから、それ以外の欠席事由は成績評価にあたっては何らの正当性をもたないということを理解しておいてください。																			
担当者の 研究室等	11 号館 9 階 大川准教授室																			
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の 3 つから成り立っています。それぞれにつき、90 分を確保して学習をする必要があります。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。事前・事後学習内容について、講義で出された課題及び指摘部分の内容については、各対応時の講義で確認・解説を行います。 近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。 小テストや課題テスト																			

科目名	民法IVC（不法行為）	科目名（英文）	Civil Law IV C
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	城内 明
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3043a0		

授業概要・目的	不法行為法は、709 条というたった 1 条の条文で、交通事故、公害、医療過誤、被害事件といった様々な現代的諸問題を解決してきました。その面白さをわかってもらえるような講義にしたいと思っています。
到達目標	この授業を通じて学生には、現代社会における不法行為法の意義について理解できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	授業は、Teams 上にアップしたレジュメを用いて行います。各自印刷して、授業に臨んでください。
科目学習の効果（資格）	各種資格試験、および今後の市民生活において不可欠です。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・不法行為法総説	ガイダンス、不法行為とは、不法行為の判断場面、不法行為法の基本原理（過失責任主義の意義とその限界）、過失責任主義以外の帰責原理、無過失責任・中間責任	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと（最低 10 分）。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容は次回質問すること（最低 10 分）。
	2	故意・過失(1)	不法行為法の目的と機能、故意/過失要件の意義、過失の概念・故意の概念、過失の判断構造①	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと（最低 10 分）。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容は次回質問すること（最低 10 分）。
	3	故意・過失(2)	過失の判断構造②、前提とされる行為者の能力、責任能力、責任無能力者の監督義務者の責任	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと（最低 10 分）。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容は次回質問すること（最低 10 分）。
	4	権利侵害・違法性(1)	桃中軒雲衛門事件、大学湯事件、権利侵害から違法性へ、権利侵害要件の再生	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと（最低 10 分）。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容は次回質問すること（最低 10 分）。
	5	権利侵害・違法性(2)	権利の目録(人格権と財産権)①	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと（最低 10 分）。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容は次回質問すること（最低 10 分）。
	6	権利侵害・違法性(3)	権利の目録(人格権と財産権)②、違法性阻却事由	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと（最低 10 分）。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容は次回質問すること（最低 10 分）。
	7	因果関係(1)	相当因果関係説とその批判、事実的因果関係の判断枠組、事実的因果関係の立証（高度の蓋然性、立証困難の緩和）	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと（最低 10 分）。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容は次回質問すること（最低 10 分）。
	8	因果関係(2)、共同不法行為	賠償範囲の因果関係、719 条 1 項前段・後段の共同不法行為の成立要件・共同不法行為の効果	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと（最低 10 分）。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容は次回質問すること（最低 10 分）。
	9	不法行為被害者の救済方法、損害の把握	金銭賠償の原則、一時金賠償・定期金賠償、損害の種類、差額説・個別積み上げ方式による損害把握、差額説の修正	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと（最低 10 分）。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容は次回質問すること（最低 10 分）。
	10	損害額の算定方法(1)	慰謝料の算定に係る問題・積極損害に係る問題・逸失利益算定方法(総論)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと（最低 10 分）。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容は次回質問すること（最低 10 分）。
	11	損害額の算定方法(2)	逸失利益算定方法に係る諸問題	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと（最低 10 分）。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容は次回質問すること（最低 10 分）。
	12	賠償額の調整(1)	損益相殺・過失相殺・被害者側の過失	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと（最低 10 分）。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容は次回質問すること（最低 10 分）。
	13	賠償額の調整(2)・期間制限	過失相殺規定の類推適用（素因減額）・消滅時効	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと（最低 10 分）。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容は次回質問すること（最低 10 分）。
	14	特殊の不法行為（1）	物の危険の実現に基づく責任	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと（最低 10 分）。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容は次回質問すること（最低 10 分）。
	15	特殊の不法行為（2）	他人の不法行為に基づく責任	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと（最低 10 分）。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容はチャット等で質問すること（最低 10 分）。
関連科目	民法総則、債権総論、債権各論等、民法科目全般。			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	不法行為法 第6版	吉村良一	有斐閣
	2	不法行為法 -- 民法を学ぶ 第2版	窪田充見	有斐閣
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	期末試験を実施。基礎的内容の理解(60%)、発展的内容の理解(40%)を総合評価します。			
学生への メッセージ	不法行為法は、判例・学説により大きく発展し、現在も、なお発展を続けている現在進行形の法領域です。この面白さを理解したい学生の参加を期待します。			
担当者の 研究室等	11号館10階 城内教授室			
備考	レジュメは事前に Teams 上で配布します。自分でプリントアウトして持参して下さい。教室では配布しませんので、ご注意ください。 教科書は、指定テキストのいずれかを購入することをお勧めします。			

科目名	民法VA（親族）	科目名（英文）	Civil Law VA
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 敦
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3044a0		

授業概要・目的	・民法典の第4編「親族」を中心に講義を行う。具体的には、夫婦、親子関係などの身分関係について、その権利と義務の視点から、基本的な検討を行う。親族関係は、社会生活を送るうえで避けては通れない、人との関係であり、日常で感じる家族などの人間関係が法的にどのようなものであるのかの把握も行う。 ・親族法については、令和4年12月に重要な法改正があり、令和6年4月から施行される。授業では、この点についても紹介を行っていきたい。 ・授業担当者は、大阪高裁・地裁、東京地裁などの裁判官として39年間勤務し、また、広島家庭裁判所長を経験するなど、財産法や家族法に関する民事訴訟、家事手続等に数多く携わってきた。この授業では、法理論のみならず、判例や実務経験を踏まえ、実践的な講義を行いたい。																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、法律の中でも最も身近な分野であるといえる家族法に関する基礎的な法的知識を自分のものにするとともに、親子、夫婦関係等、家族の在り方を自らが考える契機とすることが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	各回の講義に関する詳細並びに関連するレジュメ又は資料は、Teamsを使って該当講義分の各チャンネルに掲示するので、各講義前に必ず見るようにすること。 授業に当たっては、プリントアウトした上記レジュメ等と六法（ポケット六法等、最新の親族法改正が盛り込まれた令和6年版を推奨する）を持参し、指示があった際には参照すること。レジュメには適宜メモをすることを勧める。講義はレジュメに基づいて行うが、十分な理解のためには、レジュメ及び教科書による事前学習並びに授業を踏まえた事後学習が不可欠である。それぞれ2時間を充てて																																																																		
科目学習の効果（資格）	日常生活において生じる、身分関係に関する問題の理解に止まらず、資格試験などにおける民法科目の理解にも役立つ。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ガイダンス、家族法概論</td><td>・ガイダンス ・家族法の概略、意義、身分行為など</td><td>【事前学習】教科書及びレジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>家族紛争の解決方法等</td><td>・氏名、戸籍 ・家族紛争の解決手続</td><td>【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>婚姻の成立と不成立</td><td>・婚姻の成立 ・婚姻の無効、取消し</td><td>【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、1～3回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>婚姻の効力</td><td>・婚姻の効力 ・婚姻の身分的効果</td><td>【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>夫婦間の財産関係</td><td>・夫婦財産制 ・日常家事債務</td><td>【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、4、5回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>離婚とは、離婚手続①</td><td>・離婚制度 ・協議離婚 ・調停離婚</td><td>【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>離婚手続②、DV防止法</td><td>・裁判離婚 ・有責配偶者の離婚請求 ・DV防止法</td><td>【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、6、7回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>離婚に伴う財産関係</td><td>・離婚給付 ・財産分与</td><td>【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>離婚と子の福祉</td><td>親権、面会交流</td><td>【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、8、9回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>親子関係①</td><td>・親子関係 ・嫡出制度</td><td>【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>親子関係②</td><td>・認知制度 ・準正</td><td>【事前学習】教科書及びレジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>親子関係③</td><td>養子制度</td><td>【事前学習】教科書及びレジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、10～12回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>法定後見</td><td>・後見 ・保佐 ・補助</td><td>【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、15回授業で取り上げる項目に関するアンケート（小テスト扱い）に回答する。 (各2時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>任意後見、扶養</td><td>・任意後見 ・扶養</td><td>【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、13、14回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>これまでの授業の振り返り</td><td>アンケートで希望の多かった項目を中心に授業全般を振り返る</td><td>【事前学習】これまでの授業全体の内容を確認する。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、これまでの授業に関する感想等（小テスト扱い）を回答する。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス、家族法概論	・ガイダンス ・家族法の概略、意義、身分行為など	【事前学習】教科書及びレジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)	2	家族紛争の解決方法等	・氏名、戸籍 ・家族紛争の解決手続	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)	3	婚姻の成立と不成立	・婚姻の成立 ・婚姻の無効、取消し	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、1～3回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)	4	婚姻の効力	・婚姻の効力 ・婚姻の身分的効果	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)	5	夫婦間の財産関係	・夫婦財産制 ・日常家事債務	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、4、5回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)	6	離婚とは、離婚手続①	・離婚制度 ・協議離婚 ・調停離婚	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)	7	離婚手続②、DV防止法	・裁判離婚 ・有責配偶者の離婚請求 ・DV防止法	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、6、7回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)	8	離婚に伴う財産関係	・離婚給付 ・財産分与	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)	9	離婚と子の福祉	親権、面会交流	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、8、9回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)	10	親子関係①	・親子関係 ・嫡出制度	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)	11	親子関係②	・認知制度 ・準正	【事前学習】教科書及びレジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)	12	親子関係③	養子制度	【事前学習】教科書及びレジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、10～12回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)	13	法定後見	・後見 ・保佐 ・補助	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、15回授業で取り上げる項目に関するアンケート（小テスト扱い）に回答する。 (各2時間)	14	任意後見、扶養	・任意後見 ・扶養	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、13、14回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)	15	これまでの授業の振り返り	アンケートで希望の多かった項目を中心に授業全般を振り返る	【事前学習】これまでの授業全体の内容を確認する。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、これまでの授業に関する感想等（小テスト扱い）を回答する。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス、家族法概論	・ガイダンス ・家族法の概略、意義、身分行為など	【事前学習】教科書及びレジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)																																																																
2	家族紛争の解決方法等	・氏名、戸籍 ・家族紛争の解決手続	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)																																																																
3	婚姻の成立と不成立	・婚姻の成立 ・婚姻の無効、取消し	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、1～3回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)																																																																
4	婚姻の効力	・婚姻の効力 ・婚姻の身分的効果	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)																																																																
5	夫婦間の財産関係	・夫婦財産制 ・日常家事債務	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、4、5回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)																																																																
6	離婚とは、離婚手続①	・離婚制度 ・協議離婚 ・調停離婚	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)																																																																
7	離婚手続②、DV防止法	・裁判離婚 ・有責配偶者の離婚請求 ・DV防止法	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、6、7回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)																																																																
8	離婚に伴う財産関係	・離婚給付 ・財産分与	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)																																																																
9	離婚と子の福祉	親権、面会交流	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、8、9回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)																																																																
10	親子関係①	・親子関係 ・嫡出制度	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)																																																																
11	親子関係②	・認知制度 ・準正	【事前学習】教科書及びレジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)																																																																
12	親子関係③	養子制度	【事前学習】教科書及びレジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、10～12回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)																																																																
13	法定後見	・後見 ・保佐 ・補助	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、15回授業で取り上げる項目に関するアンケート（小テスト扱い）に回答する。 (各2時間)																																																																
14	任意後見、扶養	・任意後見 ・扶養	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、13、14回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)																																																																
15	これまでの授業の振り返り	アンケートで希望の多かった項目を中心に授業全般を振り返る	【事前学習】これまでの授業全体の内容を確認する。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、これまでの授業に関する感想等（小テスト扱い）を回答する。																																																																

				(各 2 時間)
関連科目	民法に関連する講義全般。 特に、民法ⅤＢ（相続）、ⅠＡ、Ｂ（総則）。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民法 7 親族・相続 第 7 版	高橋朋子ほか	有斐閣アルマ
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義後における Teams 上での課題(小テスト 80%)及び授業を聞いて関心を持った論点ないし判例に関する解説や感想等(題材自由選択のコメント 20%)により評価する。提出に関する詳細は、別途 Teams で伝えることもあるので、注意すること。			
学生への メッセージ	親族法は、身近な法律であるだけに、まずは、判例・通説の立場について正確な知識を持つておくことが重要です。また、最近も重要な法改正もあるなど、家族の在り方にも対応しています。日頃から関心と興味を持って授業に臨んで下さい。授業には、必ずプリントアウトとしたレジュメを持参し、適宜メモをとって下さい。			
担当者の 研究室等	11 号館 10 階 田中教授室			
備考	学生の理解度、受講態度等によっては、授業の方法、順序、内容を変更することがある。			

科目名	民法VB（相続）	科目名（英文）	Civil Law VB
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 敦
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3045a0		

授業概要・目的	・民法第5編の「相続」を講義する。具体的には、法定相続の仕組みと遺言について、その内容を明らかにする。親族関係を前提として、一定の相続人が被相続人の財産上の権利義務を承継する相続制度を検討することを通して、身分関係法上の財産権移転の構造を理解することが目標となる。相続法は、近年重要な改正が行われたが、この改正法の内容についても学修する。 ・授業担当者は、大阪高裁、大阪地裁、東京地裁などの裁判官として39年間勤務し、また、広島家庭裁判所長を経験するなど、財産法や家族法に関する民事訴訟等の判決や家事調停・審判に数多く携わってきた。この授業では、法理論のみならず、実務経験を踏まえた講義を行ってきたい。
到達目標	この授業を通じて、学生には、日常生活で起こることがある相続に関し、民法はどのような規定を置いているのか、相続に関する手続はどうなっているのか、有効な遺言を作るにはどのような点に留意しなければならないかなどの点につき、正確かつ実践的な知識を習得するとともに、具体的な法定相続分や遺産分割の計算方法について説明できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	・各回の講義に関するレジュメ又は資料は、Teamsで授業時間前に掲示するので、各講義前に必ず見るようにすること。 ・講義には、プリントアウトした上記レジュメ等と六法（ポケット六法等、最新の令和6年版を推奨する）を必ず持参し、参照すること。講義はレジュメに基づいて行うが、十分な理解のためには、レジュメ及び教科書による事前学習並びに授業を踏まえた事後学習が不可欠である。それぞれ2時間を充ててほしい。事前学習及び事後学習に当たっても六法を適宜参照すること。 ・相続法は、親族法の知識が前提となっている場面が少
科目学習の効果（資格）	日常生活において生じる相続制度の理解に止まらず、資格試験などにおける民法科目の理解にも役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス、相続法概論	・授業の進め方、受講上の注意 ・相続法の基本	【事前学習】教科書第7章を読む。 【事後学習】授業内容を確認する。 (各2時間)
	2	相続人と相続分①	相続人の範囲と順位	【事前学習】教科書第8章1を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、1、2回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)
	3	相続人と相続分②	・代襲相続 ・相続分	【事前学習】教科書第8章2及び3を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)
	4	相続人と相続分③	・相続欠格 ・相続廃除 ・相続回復請求権	【事前学習】教科書第8章4～6を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、3、4回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)
	5	相続の効力①	相続の一般的效果	【事前学習】教科書第9章1を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)
	6	相続の効力②	・相続と登記 ・祭祀財産等の承継	【事前学習】教科書第9章2～4を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、5、6回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)
	7	相続の効力③	・遺産共有 ・遺産の管理 ・相続分の譲渡、取戻し	【事前学習】教科書第9章5～7を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)
	8	相続の効力④	遺産分割	【事前学習】教科書第9章8を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、7、8回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)
	9	相続の承認・放棄	・単純承認、限定承認 ・相続放棄	【事前学習】教科書第10章を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)
	10	財産分離、相続人の不存在	・財産分離 ・相続人の不存在 ・特別縁故者	【事前学習】教科書第11章・第12章を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認するとともに、9、10回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)
	11	遺言①	・遺言の意義 ・遺言の方式	【事前学習】教科書第13章1、2を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 (各2時間)
	12	遺言②	遺言の効力	【事前学習】教科書第13章3を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、11、12回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)
	13	遺言③	・遺言による財産処分 ・遺言の執行	【事前学習】教科書第13章4、5を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、15回授業で取り上げる項目に関する小テスト（アンケート）に回答する。 (各2時間間)
	14	遺留分	・遺留分とは ・遺留分の確定 ・遺留分侵害額の請求	【事前学習】教科書第14章を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、13、14回授業に関する小テストに回答する。 (各2時間)
	15	これまでの授業の振り返り	アンケートで希望の多かった項目を中心に相続法全般を振り返る	【事前学習】これまでの授業内容を振り返る。 【事後学習】授業内容を踏まえ、これまでの授業の

				感想等に関する小テストに回答する。 (各2時間)
関連科目	民法に関連する講義全般。 特に、民法ⅤA（親族）、民法ⅠA、B（総則）			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民法7 親族・相続 第7版	高橋朋子ほか	有斐閣アルマ
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義後における Teams 上での小テスト（課題等）の点数で評価する（100%）。詳細は、別途 Teams で伝えるので、注意すること。			
学生への メッセージ	相続法に対する理解を通して、相続が持つ意義を再確認してください。また、相続法は、難しい問題点も多い科目ですから、まずは条文、レジュメを参照しつつ、判例・通説の立場に立って、基本を押さえてください。			
担当者の 研究室等	11号館10階 田中教授室			
備考	学生の理解度、受講態度等によっては、授業の方法、順序、内容を変更することがある。			

科目名	消費者法	科目名 (英文)	Consumer Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	城内 明
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2046a0		

授業概要・目的	本講義は、消費者問題の本質について理解を深めること、被害の発生を防ぎ、被害者の救済を図るかについての実践的な知識を身につけることを目的とします。
到達目標	この授業を通じて学生には、消費者問題の本質について理解を深め、被害の発生を防ぎ、被害者の救済を図るかについての実践的な知識を身につけることが期待されます。
授業方法と留意点	本講義は、Teams 上にアップしたレジュメを利用して実施します。レジュメは配布しませんので、各自プリントアウトしてご持参ください。
科目学習の効果 (資格)	消費生活専門相談員、消費生活アドバイザー、消費生活コンサルタント、その他、今後、市民生活を送る上で不可欠。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・消費者法概説	消費者法とは何か	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
	2	消費者契約法(1)	消費者契約法概説	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
	3	消費者契約法(2)	誤認・困惑類型における取消し(1)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
	4	消費者契約法(3)	誤認・困惑類型における取消し(2)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
	5	消費者契約法(4)	誤認・困惑類型における取消し(3)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
	6	消費者契約法(5)	不当約款規制(1)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
	7	消費者契約法(6)	不当約款規制(2)・消費者団体訴訟	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
	8	特定商取引に関する法律(1)	訪問販売(1)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
	9	特定商取引に関する法律(2)	訪問販売(2)・電話勧誘販売・訪問購入	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
	10	特定商取引に関する法律(3)	連鎖販売取引	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
	11	特定商取引に関する法律(4)	通信販売・ネガティブオプション	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
	12	特定商取引に関する法律(5)	特定継続的役務提供・業務提供誘引販売取引	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
	13	消費者信用取引	販売信用取引・消費者金融取引	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
	14	商品安全と法(1)	商品安全に係る法制度概説	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
	15	商品安全と法(2)	製造物責任法	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
関連科目	民事法関連科目全般			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基本講義 消費者法（第5版）	中田邦博ほか	日本評論社
	2	消費者法	大澤彩	商事法務
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	消費者法(有斐閣ストゥディア)	宮下修一ほか	有斐閣
	2			
	3			
評価方法 (基準)	期末試験を実施します。基礎的内容の理解(60%)、基礎知識を応用する能力(40%)を総合評価します。			
学生への メッセージ	悪徳業者は、いつ何時、あなたに襲いかかってくるかわかりません。降りかかった火の粉を払いのける術を身につけ、自分自身、家族・友人、そして社会を守ってください。			
担当者の 研究室等	11 号館 10 階 城内教授室			
備考	教科書は、指定教科書のいずれかを購入してください。指定教科書が難しすぎる場合は、参考書指定のテキストをお使いください。			

科目名	民事訴訟法Ⅰ（裁判の流れ）	科目名（英文）	Civil ProcedureⅠ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	萩原 佐織
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3047a0		

授業概要・目的	民法等により認められた権利が害され、私人間に紛争が生じた場合、その紛争解決手段として用いられるのが民事訴訟手続である。紛争の対象として取り扱うのが民法上の権利であるため、民法全般の復習・発展に役立つ。また、「実体法である民法」と「手続法である民事訴訟法」を含めた『民事法』としての総合的理解を図り、それらの知識を深めることを、目標とする。多様な紛争関係者を前提として適正・迅速といった対立する目的を実現しなければならないため、多面的な思考を養うことにも資する。
到達目標	この講義を通じ学生が、民事法において、実体法である民法、そして手続法である民事訴訟法、民事保全・執行法、倒産法が、それぞれどのような役割を担っているかを正確に理解し、民事法の全体像やそれぞれの機能の仕方を理解することが期待される。 そのうえで、裁判所の種類や各裁判所の役割・機能をはじめ、民事裁判全体の流れを掴み、民事裁判の仕組みや果たす役割について理解することも期待される。
授業方法と留意点	【事前準備・事前学習】 ①毎回 Teams の講義日付チャンネルに各回の講義内容・参照資料や動画等が記載されているので、それを参照して各自で予習すること ②講義は、事前に Teams 上にアップされているレジュメ（約 10 頁：より具体的に理解するため「判例教室」としての判例を含む）をプリントアウトして持参し、六法を用いて行う。分かり易いようにレジュメはカラーにしてあるが、白黒で印刷しても構わない。毎回、レジュメでは、主要箇所が括弧弧にされているので、事前学習としてレジュメ・教科書等の該当箇所や関連判例を読み、そ
科目学習の効果（資格）	・紛争解決手段である民事訴訟手続のしくみが理解できるようになる。 ・大学院ならびに法科大学院等への進学、裁判所職員（事務官・書記官）、司法書士、法検スタンダードコースなどの受験に対応できる知識・応用力を養われる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	・ガイダンス ・民事訴訟法の概要 ・民事訴訟法と他の法律（憲法、民法、民事保全・執行法、倒産法）との関係	・授業の進め方、受講上の注意、評価方法等について ・裁判を受ける権利 ・訴訟と非訟	【事前学習】①毎回 Teams の講義日付チャンネルに各回の講義内容・参照資料や動画等が記載されているので、それを参照して各自で予習すること（以下同様）、②Teams からレジュメをダウンロード・プリントアウトして読む。予めプリントアウトしたレジュメを講義に持参すること（以下同様）、③教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配付資料・クイズ等の復習 （事前事後学習に要する時間 各2時間、以下同様）
	2	・裁判	・訴訟に勝てばどうなるのか ・訴訟には、どれだけの時間と費用がかかるか ・裁判にあたる人たち（裁判官、弁護士） ・紛争処理の方策（ADR、調停、仲裁）	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Teams の講義日付チャンネルにある Forms クイズに回答し送信すること（以下同様）、④判例：レジュメ末尾にある「判例教室」の事案を読み争点・相関関係等を理解すること（以下同様）、⑤教科書 第1編 第2章、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題を行い提出（以下同様）、③講義で学んだ判例解説を判例百選等で読み込む（以下同様） （各2時間）
	3	・裁判所Ⅰ	・裁判所の種類 ・最高裁判所 ・高等裁判所	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、⑥裁判所の種類・構造・所在地、各裁判所の役割について調べる、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③講義内等でなされた前回小テスト・課題のフィードバックに基づく復習（以下同様）、④判例解説、（各2時間）
	4	・裁判所Ⅱ	・地方裁判所 ・家庭裁判所 ・簡易裁判所	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、（各2時間）
	5	・上訴	・特別の不服申立て ・控訴 ・上告 ・抗告	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、（各2時間）
	6	・管轄（審理・判決はどの裁判所ですか？）	・事物管轄と土地管轄 ・合意管轄と応訴管轄 ・移送	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、

				(各 2 時間)																
	7	・ 訴えの種類	・ 給付の訴え、確認の訴え、形成の訴え ・ 訴えの併合、訴えの変更、反訴	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各 2 時間)																
	8	・ 当事者（訴える人、訴えられる人とは？）	・ 誰が当事者になれるか？（権利能力、当事者能力） ・ 誰が当事者になるのが正しいか？（当事者適格、選定当事者）	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各 2 時間)																
	9	・ 訴訟代理	・ 訴訟代理とは？ ・ 代理権の範囲	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各 2 時間)																
	10	・ 民事訴訟の基本原則 ・ 事実認定	・ 処分権主義 ・ 弁論主義 ・ 自由心証主義	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各 2 時間)																
	11	・ 訴訟審理の進め方	・ 訴えの提起から判決まで ・ 口頭弁論はどのように実地されるか？ ・ 争点および証拠の整理	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各 2 時間)																
	12	・ 事実認定と証拠	・ 証拠はなぜ必要なのか？ ・ 自由心証主義 ・ 証拠の種類	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各 2 時間)																
	13	・ 判決の成立と効力	・ 既判力 ・ 執行力 ・ 形成力	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各 2 時間)																
	14	・ 再審	・ 再審の訴え～確定判決を動かす方法～ ・ 再審訴訟の手続	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各 2 時間)																
15	・ まとめ&復習	・ 講義全体のまとめと復習	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各 2 時間)																	
関連科目	民法全般、民事保全・執行法、民事訴訟法、倒産法																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>有斐閣ストゥディア 民事訴訟法 [第 3 版]</td><td>安西・安達・村上・畑</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	有斐閣ストゥディア 民事訴訟法 [第 3 版]	安西・安達・村上・畑	有斐閣	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																
	1	有斐閣ストゥディア 民事訴訟法 [第 3 版]	安西・安達・村上・畑	有斐閣																
	2																			
3																				
参考書																				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民事訴訟法 判例百選〔第5版〕	高橋・高田・畑編	有斐閣
	2			
	3			
評価方法 (基準)	1回につき約10点(慣れるまでは前半・後半で約5点ずつ)のForms小テストを約10回、講義後にTeams上にて課す。 期末試験は行わない。 講義内容(グループワーク)に基づき、小テストに代え、記述式課題等を課す場合がある。 また、講義への積極的な姿勢による加点や、講義中の態度による減点を考慮する。 なお事前学習を目的とするFormsクイズ等への回答に成績評価の対象となる課題点がつくことがありますので、全員必ず回答するようにしてください。詳細は講義にて。			
学生への メッセージ	講義中における私語・携帯等の使用については、他の学生の迷惑になるので、厳しく対処します。六法は講義で常に使用するので、必ず持参すること。民事訴訟法を学ぶことで、既に学んだ民事法全般の知識をリフレッシュかつ深めてください。			
担当者の 研究室等	11号館9階 萩原准教授室			
備考				

科目名	民事訴訟法Ⅱ（判決の効力）	科目名（英文）	Civil Procedure II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	萩原 佐織
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3048a0		

授業概要・目的	民法等により認められた権利が害され、私人間に紛争が生じた場合、その紛争解決手段として用いられるのが民事訴訟手続である。当該講義は、紛争解決手段としての民事訴訟手続につき、前期の民事訴訟法で学んだ知識をもとに、それらを発展・応用する能力を培うことを目的とする。 紛争の対象として取り扱うのが民法上の権利であるため、民法全般の復習・発展に役立つ。 また、「実体法である民法」と「手続法である民事訴訟法」を含めた『民事法』としての総合的理解を図り、それらの知識を深めることを、目的とする。			
到達目標	前期の民事訴訟法では、民事法の中における民事訴訟法が果たす役割や民事裁判の全体的な流れについて学んだ。そこでは、当事者（原告・被告）がともに単数（1 人）であることを前提としていたが、本講義を通じて学生には、当事者の一方または双方が複数人である多数当事者訴訟についても学び、例えば新聞等でもよく耳にする団体訴訟等についてその仕組みと機能について理解を深めることが期待される。 また、判決の効力、証明責任や証拠提出命令、家庭紛争（家事審判・調停・人事訴訟）など、前期の民事訴訟法では触れられなかったテーマについても掘り下げ、それぞれの手続が、どのような機能と役割を担っているのか、実際の事案に即して考察し、民事訴訟手続に関する理解を深めることが記載される。			
授業方法と留意点	【事前準備・事前学習】 ①毎回 Teams の講義日付チャネルに各回の講義内容・参照資料や動画等が記載されているので、それを参照して各自で予習すること ②講義は、事前に Teams 上にアップされているレジュメ（約 10 頁：より具体的に理解するため「判例教室」としての判例を含む）をプリントアウトし、六法を用いて行う。 分かり易いようにレジュメはカラーにしてあるが、白黒で印刷しても構わない。 毎回、レジュメでは、主要箇所が括弧空けにされているので、事前学習としてレジュメ・教科書等の該当箇所や関連判例を読み			
科目学習の効果（資格）	・紛争解決手段である民事訴訟手続のしくみが理解できるようになる。 ・大学院ならびに法科大学院等への進学、裁判所職員（事務官・書記官）、司法書士、法検スタンダードコースなどの受験に対応できる知識・応用力を養う。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	・ガイダンス ・現在の裁判	- 授業の進め方、受講上の注意、評価方法等について - 現在の裁判における状況 - 時事問題	【事前学習】①毎回 Teams の講義日付チャネルに各回の講義内容・参照資料や動画等が記載されているので、それを参照して各自で予習すること（以下同様）、②Teams からレジュメをダウンロード・プリントアウトして読む。予めプリントアウトしたレジュメを講義に持参すること（以下同様）、③教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配付資料・クイズ等の復習 （事前事後学習に要する時間 各2時間、以下同様）
	2	・民事訴訟の基本原則 ・訴訟の終了	- 当事者の処分権主義 - 弁論主義 - 訴えの取下げ - 請求の放棄/認諾 - 訴訟上の和解	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Teams の講義日付チャネルにある Forms クイズに回答し送信すること（以下同様）、④判例：レジュメ末尾にある「判例教室」の事案を読み争点・相関関係等を理解すること（以下同様）、⑤教科書 第1編 第2章、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題を行い提出（以下同様）、③講義内等でなされるフィードバックに基づく前回小テスト・課題の復習（以下同様）、④講義で学んだ判例解説を判例百選等で読み込
	3	証拠Ⅰ ・自由心証主義 ・文書提出命令	- 自由心証主義とは？ - 文書提出命令	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、（各2時間）
	4	証拠Ⅱ ・立証困難の克服 ・証明がつかないときはどうなるのか？	- 相当な損害額の認定 - 証明責任とは何か？ - 証明責任の分配 - 証明責任の転換	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、（各2時間）
	5	判決Ⅰ ・判決の効力とは？	- 既判力とは？ - 既判力の作用	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、（各2時間）

	6	判決Ⅱ ・どの時点を基準にするか？	・基準時 ・既判力の時的限界	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)
	7	判決Ⅲ ・判決の効力は何に対して及ぶか？	・訴訟物による限界 ・既判力の客観的範囲 ・相殺の抗弁 ・争点効	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)
	8	判決Ⅳ ・判決の効力は誰に対して及ぶか？	・既判力の及ぶ人の範囲 ・既判力の主観的範囲 ・口頭弁論終了後の承継人 ・反射効	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)
	9	判決Ⅴ ・一部請求 ・一部判決	・全部請求と一部請求 ・一部請求判決と残部請求 ・全部判決と一部判決 ・後遺症との関係(標準事後の事情変更)	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)
	10	複数請求訴訟 ・訴訟物論と請求権競合	・単純併合 ・予備的/選択的併合 ・訴えの変更 ・反訴 ・中間確認の訴え	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)
	11	複数当事者訴訟Ⅰ ・当事者の交替 ・訴訟承継	・当然承継 ・参加承継/引受承継 ・任意的当事者変更	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)
	12	複数当事者訴訟Ⅱ ・当事者が多数となる訴訟	・通常共同訴訟 ・必要的共同訴訟 ・主観的追加的/予備的併合 ・同時審判申出訴訟	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)
	13	複数当事者訴訟Ⅲ ・当事者以外が関与する訴訟	・補助参加 ・訴訟告知	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)
	14	複数当事者訴訟Ⅳ ・第三者による当事者としての訴訟参加	・独立当事者参加	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)
	15	まとめ	・復習 ・時事問題 ・最新のテーマ/判例	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)
関連科目	民法全般、民事訴訟法、民事保全・執行法、倒産法、国際私法、国際取引法			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	有斐閣ストゥディア 民事訴訟法〔第3版〕	安西・安達・村上・畑	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民事訴訟法 判例百選〔第5版〕	高橋・高田・畑編	有斐閣
	2			
	3			
評価方法 (基準)	1回につき約10点(慣れるまでは前半・後半で約5点ずつ)のForms小テストを約10回、講義後にTeams上にて課す。 期末試験は行わない。 講義内容に基づき、小テストに代え、記述式課題等を課す場合がある。			
学生への メッセージ	紛争解決手段である民事訴訟手続を学ぶことで、既に学んだ民法全般の知識をリフレッシュさせてください。			
担当者の 研究室等	11号館9階 萩原准教授室			
備考				

科目名	民事執行・保全法	科目名（英文）	Civil Execution and Provisional Remedies
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	萩原 佐織
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3049a0		

授業概要・目的	民法等により認められた権利が害され、私人間に紛争が生じた場合、その紛争解決手段として用いられるのが民事訴訟手続、いわゆる民事裁判である。ただ、訴訟で勝訴しても、相手が応じない等の理由で、紛争が解決しない場合がある。その際の、究極の紛争解決手段が、民事保全執行手続である。当該講義では、民事保全執行手続の基礎を学ぶとともに、民法や民事訴訟法等で学んだ知識を発展・応用する能力を培うことを目的とする。紛争の対象として取り扱うのが民法上の権利であるため、民法全般の復習や応用ができ、また「実体法である民法」と「手続法である民事訴訟法・民事保全執行法」を含めた『民事法』としての総合的理解を図ることができる。
到達目標	民法と比べると、民事執行法・民事保全法には、それほど馴染みがないかもしれない。でも、民法の知識だけで、お金を貸した相手が返してくれない場合や、約束したはずの養育費が支払われない場合など、債務者が任意に支払ってくれない場合にどうやってその支払いを促すことができるのか、理解するのは難しい。 この授業を通じて学生には、将来、自分が債権者として債務者から金銭を回収したい場合はもちろん、逆に自分が債務者として金銭の支払いを促される場合においても、どのような仕組みで、どのような過程や手続を経て、その執行が強制的になされるのかを理解できるようになることが期待される。それらの知識は、転ばぬ先の杖として、経済的に自立した大人になるために必要な知識であると考ええる。
授業方法と留意点	【事前準備・事前学習】 ①毎回 Teams の講義日付チャネルに各回の講義内容・参照資料や動画等が記載されているので、それを参照して各自で予習すること ②講義は、事前に Teams 上にアップされているレジュメ（約 10 頁：より具体的に理解するため「判例教室」としての判例を含む）をプリントアウトして持参し、六法を用いて行う。分かり易いようにレジュメはカラーにしてあるが、白黒で印刷しても構わない。毎回、レジュメでは、主要個所が括弧空けにされているので、事前学習としてレジュメ・教科書等の該当箇所や関連判例を読み、そ
科目学習の効果（資格）	・民事保全執行手続のしくみを理解し、民事紛争解決手段の一端を知ることができる。 ・大学院ならびに法科大学院等への進学、裁判所職員（事務官・書記官）、司法書士などの受験に対応できる知識・応用力を養う。

授業計画				
		回数	授業テーマ	内容・方法 等
	1		① ガイダンス ② 民事執行法の概観	① 授業方法・評価方法等の説明 ② 他の法分野との関係 ③ 判決手続と執行手続 ④ 民事執行の沿革等
	2		① 執行手続の種類・態様 ② 執行手続の主体	① 強制執行の意義と種類 ② 執行当事者 ③ 執行機関
	3		民事保全法Ⅰ	① 民事保全法の概説 ② 民事保全命令手続
	4		民事保全法Ⅱ	① 不服申立手続 ② 保全執行
	5		強制執行手続の開始	① 強制執行手続の要件 ② 債務名義とその種類
	6		強制執行手続の進行	① 執行の対象 ② 財産開示手続 ③ 執行手続の終了

				(各2時間)
	7	執行関係訴訟	① 請求異議の訴え ② 執行文付与に関する訴訟 ③ 第三者異議の訴え	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 第2章3節、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)
	8	非金銭執行の実現	① 物の引渡し・明渡しの強制執行 ② 作為・不作為の強制執行 ③ 意思 j 表示の強制執行	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 第3章2節、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)
	9	非金銭執行の実例	① 子の引渡しと執行 ② 面会交流権と執行	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤民法上の面会交流権の予習・復習、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)
	10	動産執行	① 動産執行の意義 ② 差押え・換価・満足	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 第3章1節4項、⑥民法上の動産の概念の復習、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)
	11	不動産執行 I	① 強制競売の開始 ② 売却の準備・条件・効果	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 第3章1節2項、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)
	12	不動産執行 II	① 債権者の満足 ② 強制管理	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 第3章1節2項、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)
	13	債権およびその他の財産権に対する強制執行	① 金銭債権に対する強制執行 ② 少額訴訟債権執行 ③ 船舶・動産等の引渡請求権に対する強制執行	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 第3章1節5項、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)
	14	担保権の実行としての競売等	① 担保権実行制度の意義 ② 担保不動産競売 ③ 担保不動産収益執行 ④ 動産競売	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 第4章、②レジュメ、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)
	15	まとめ&復習	① 全てのまとめ&復習	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 第4章、②レジュメ、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、(各2時間)
関連科目	民法全般、民事訴訟法、民事訴訟法応用講義、倒産法			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎から分かる民事執行法・民事保全法〔第3版〕	和田吉弘	弘文堂
	2			
	3			
参考書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民事執行・保全 判例百選〔第3版〕	上原・長谷部・山本編	有斐閣
	2	実践 民事執行法 民事保全法〔第3版〕	平野哲朗	日本評論社
	3			
評価方法 (基準)	1回につき約10点(慣れるまでは前半・後半で約5点ずつ)のForms小テストを約10回、講義後にTeams上にて課す。 期末試験は行わない。 講義内容(グループワーク)に基づき、小テストに代え、記述式課題等を課す場合がある。 また、講義への積極的な姿勢による加点や、講義中の態度による減点を考慮する。 なお事前学習を目的とするFormsクイズ等への回答に成績評価の対象となる課題点がつくことがありますので、全員必ず回答するようにしてください。詳細は講義にて。			
学生への メッセージ	講義中における私語・携帯等の使用については、他の学生の迷惑になるので、厳しく対処します。六法は講義で常に使用するので、必ず持参すること。民事保全執行手続を学ぶことで、既に学んだ民事法全般の知識をリフレッシュさせてください。			
担当者の 研究室等	11号館9階 萩原准教授室			
備考				

科目名	国際私法	科目名（英文）	Private International Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	片岡 雅世
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3051a0		

授業概要・目的	この講義では、国際結婚や国際契約などのように複数の国と関連を有する私人（個人や企業等）間の法律関係について、いずれの国の法が適用されるか（狭義の国際私法）、またいずれの国（特に、日本）の裁判所で争うことができるか（国際民事手続法）といった問題（広義の国際私法）を検討するにあたって基礎となる国際私法の総論部分を中心に扱います。本講義を通じて、国際私法に関する基本的な知識を習得してもらいます。
到達目標	（１）国際私法の基本的な考え方について理解することができる。 （２）国際私法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。 （３）身近な国際私法問題について多角的な視野から分析することができる。
授業方法と留意点	原則として、講義形式で実施します。事前に Moodle または Teams を通じてレジュメ（穴埋め形式）および資料を配布しますので、授業時にはこれら資料類および教科書ならびに六法を忘れずに持参してください。また、複数回課題を出題します。課題は ICT ツールを利用した出題・提出の予定ですが、授業時に出題・提出の可能性もあります。
科目学習の効果（資格）	将来、行政書士や公務員等になりたい人、その他外国人と関わる仕事に就きたい人は、本授業で学ぶ内容や考え方の一部を活かすことができるでしょう。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンスー国際私法って何？	この授業の進め方や受講に当たっての注意点など、国際私法の意義・必要性	事前に配布資料に目を通し、教科書（1～14 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	2	国際私法とは何か（１）ー適用すべき法ってどうやって決まる？	準拠法、準拠法決定・適用の 4 つのプロセス	事前に配布資料に目を通し、教科書（18～29 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	3	国際私法とは何か（２）ー「国際私法」という名の法律は見当たりませんか？	国際私法の法源・特徴	事前に配布資料に目を通し、教科書（14～17 頁、29～34 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	4	法律関係の性質決定ーどの規定が使われる？	法性決定、単位法律関係	事前に配布資料に目を通し、教科書（35～62 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	5	連結点の確定（１）ー連結点って何？	連結点、連結方法、連結政策	事前に配布資料に目を通し、教科書（63～90 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	6	連結点の確定（２）ー国籍ってどうやって決まるの？	本国法、国籍、住所、常居所	事前に配布資料に目を通し、教科書（91～116 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	7	準拠法の特定（１）ーアメリカ法を適用するって？	地域的不統一法、人的不統一法	事前に配布資料に目を通し、教科書（117～126 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	8	準拠法の特定（２）ー結局、日本法になるの？	反致、判決の国際的調和	事前に配布資料に目を通し、教科書（126～140 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	9	準拠法の適用（１）ー「暗闇への跳躍」っていったもねえ？	国際私法上の公序、「緊急脱出装置」	事前に配布資料に目を通し、教科書（150～164 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	10	準拠法の適用（２）ーいくら調べてもわからない場合は？	外国法の性質、外国法不明	事前に配布資料に目を通し、参考書等を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	11	国際民事手続法（１）ー日本	国際裁判管轄、国内土地管轄との相違、	事前に配布資料に目を通し、教科書（169～193 頁）

		で裁判できる？	国際民事手続法の法源	を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約2時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約2時間が目安）。	
	12	国際民事手続法（2）－どんな場合に日本で裁判できるの？	国際裁判管轄、民事訴訟法、管轄原因、特別の事情	事前に配布資料に目を通し、教科書（194～218 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約2時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約2時間が目安）。	
	13	まとめ－準拠法選択と国際裁判管轄ってどういう関係？	これまでの講義のまとめ、国際裁判管轄と準拠法選択の相違	事前に配布資料に目を通し、教科書（169～183 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約2時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約2時間が目安）。	
	14	具体例（1）－国際結婚って大変？	これまでの講義のまとめ、国際家族法	事前に配布資料に目を通し、教科書（249～274 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約2時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約2時間が目安）。	
	15	具体例（2）－インターネットで外国製品を買ったけど？	これまでの講義のまとめ、国際財産法	事前に配布資料に目を通し、教科書（275～298 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約2時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約2時間が目安）。	
関連科目	国際家族法、国際財産法、国際取引法のほか、民事法分野の各科目（民法や消費者法など）。				
教科書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	ブレップ国際私法		神前 禎	弘文堂
	2				
	3				
参考書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	国際私法		多田望ほか	有斐閣
	2	国際私法〔第3版〕		中西康ほか	有斐閣
	3	国際関係私法入門〔第4版補訂〕		松岡博編	有斐閣
評価方法（基準）	定期試験（60%）、課題（40%）				
学生へのメッセージ					
担当者の研究室等					
備考	第1回目の講義で授業の進め方や成績評価の方法などについて詳しい説明を行うので、受講を考えている人は可能な限り出席してください。				

科目名	国際家族法	科目名（英文）	International Family Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	片岡 雅世
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3052a0		

授業概要・目的	この講義では、複数の国と関連を有する私人間の法律関係について、主としていずれの国の法が適用されるべきかといったことを決定する国際私法のうち、「国際家族法」について勉強します。具体的には、例えば、20 歳の日本人男性は 16 歳のブラジル人女性と結婚することができるか、離婚が認められていないフィリピンでフィリピン人と結婚した日本人は離婚することができるか、日本人夫婦の依頼を受けたインド人女性が代理出産によって生んだ子の法律上の父母は誰になるのか、といったことについて考えます。また、例えば、日本の裁判所はこのような問題について審理することができるかといった手続的な問題についても検討します。これらを通じて、国際家族法に関する基本的な知識を習得してもらいます。
到達目標	(1) 国際私法に関する基本的な考え方を理解することができる。 (2) 国際家族法における法的問題について理解し、論理的に説明することができる。 (3) 身近な国際家族法問題について多角的な視野から分析することができる。
授業方法と留意点	原則として、講義形式で実施します。事前に Moodle または Teams を通じてレジュメ（穴埋め形式）および資料を配布しますので、授業時にはこれら資料類および教科書ならびに六法を忘れずに持参してください。また、複数回課題を出題します。課題は ICT ツールを利用した出題・提出の予定ですが、授業時に出題・提出の可能性もあります。
科目学習の効果（資格）	将来、行政書士や公務員等になりたい人、その他外国人を関わる仕事に就きたい人は、本授業で学ぶ内容や考え方の一部を活かすことができるでしょう。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンスー何が問題？	この授業の進め方や受講に当たっての注意点など	事前に配布資料に目を通し、教科書（2～13 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	2	国際私法とはー準拠法ってどうやって決まるの？	国際私法総論、準拠法、準拠法決定・適用の 4 つのプロセス	事前に配布資料に目を通し、教科書（15～71 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	3	国際家族法の基本理念ー何に気をつけないといけない？	国際私法上の两性平等、子の福祉、各国法の相違	事前に配布資料に目を通し、教科書（172～176 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	4	婚姻（1）ー私、第 3 夫人になれますか？	婚姻の実質的成立要件、婚姻の形式的成立要件（方式）	事前に配布資料に目を通し、教科書（177～186 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	5	婚姻（2）ー一緒に住まないといけませんか？	婚姻の身分的効力、婚姻の財産的効力（夫婦財産制）	事前に配布資料に目を通し、教科書（187～195 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	6	離婚ー「離婚届」を出せばいいですよね？	離婚方法、離婚の効果、離婚に伴う効果、離婚の方式	事前に配布資料に目を通し、教科書（195～203 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	7	親子（1）ーこの子の親は誰ですか？	実親子関係の成立、嫡出親子関係、非嫡出親子関係、準正	事前に配布資料に目を通し、教科書（2～13 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	8	親子（2）ー血がつながってなくても親子になれますか？	養子縁組、養親子関係の成立・方法・効力・方式、セーフガード条項	事前に配布資料に目を通し、教科書（214～223 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	9	親子（3）ー親子であることの意味は？	親子間の法律関係、親族関係の諸問題	事前に配布資料に目を通し、教科書（223～240 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	10	相続ー何を相続する？	相続の準拠法、適用範囲	事前に配布資料に目を通し、教科書（241～249 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の

				事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約2時間が目安）。																
	11	遺言－録音・録画による遺言 ってできますか？	遺言の成立・効力、遺言の方式の準拠法 に関する法律	事前に配布資料に目を通し、教科書（249～254 頁） を読んで分からない用語等を確認してから授業を 受けること（約2時間が目安）。授業終了後は、改 めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の 事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約2時 間が目安）。																
	12	国際家事事件（1）－何が問 題？	国際裁判管轄、外国判決の承認・執行、 財産事件との相違	事前に配布資料に目を通し、教科書（255～326 頁） を読んで分からない用語等を確認してから授業を 受けること（約2時間が目安）。授業終了後は、改 めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の 事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約2時 間が目安）。																
	13	国際家事事件（2）－日本で 離婚の訴えはできる？	人事訴訟事件、国際裁判管轄、人事訴訟 法	事前に配布資料に目を通し、教科書（326～337 頁） を読んで分からない用語等を確認してから授業を 受けること（約2時間が目安）。授業終了後は、改 めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の 事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約2時 間が目安）。																
	14	国際家事事件（3）－日本で 養子縁組の判断はできます か？	家事審判事件、国際裁判管轄、家事事件 手続法	事前に配布資料に目を通し、教科書（337～348 頁） を読んで分からない用語等を確認してから授業を 受けること（約2時間が目安）。授業終了後は、改 めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の 事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約2時 間が目安）。																
	15	国際家事事件（4）－子の奪 い合いは許しません？	子奪取条約、実施法、子の返還	事前に配布資料に目を通し、教科書（348～355 頁） を読んで分からない用語等を確認してから授業を 受けること（約2時間が目安）。授業終了後は、改 めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の 事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約2時 間が目安）。																
関連科目	国際私法、国際財産法、国際取引法のほか、民事法分野の各科目（特に、民法）。																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>国際関係私法入門〔第4版補訂〕</td><td>松岡博編</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	国際関係私法入門〔第4版補訂〕	松岡博編	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	国際関係私法入門〔第4版補訂〕	松岡博編	有斐閣																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>国際私法</td><td>多田望ほか</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>2</td><td>国際私法〔第3版〕</td><td>中西康ほか</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>3</td><td>国際私法判例百選〔第3版〕</td><td>道垣内正人ほか編</td><td>有斐閣</td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	国際私法	多田望ほか	有斐閣	2	国際私法〔第3版〕	中西康ほか	有斐閣	3	国際私法判例百選〔第3版〕	道垣内正人ほか編	有斐閣
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	国際私法	多田望ほか	有斐閣																	
2	国際私法〔第3版〕	中西康ほか	有斐閣																	
3	国際私法判例百選〔第3版〕	道垣内正人ほか編	有斐閣																	
評価方法 （基準）	定期試験（60%）、課題（40%）																			
学生への メッセージ																				
担当者の 研究室等																				
備考	・第1回目の講義で授業の進め方や成績評価の方法などについて詳しい説明を行うので、受講を考えている人は可能な限り出席してください。 ・本講義は、「国際私法」の講義を受講済みであることを前提に進めます（単位取得は要件ではない）。未履修者は、教科書や参考書等で関連部分 を読んだ上で、本講義を受講するようにしてください。																			

科目名	国際財産法	科目名 (英文)	International Property Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	片岡 雅世
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3053a0		

授業概要・目的	この講義では、複数の国と関連を有する私人（個人や企業等）間の法律関係について、主としていずれの国の法が適用されるべきかといったことを決定する国際私法のうち、「国際財産法」について勉強します。具体的には、例えば、外国の事業者との間で締結した消費者契約の不成立を主張したい場合、日本で購入した外国製品の欠陥が原因で負傷した場合、日本で購入した自動車が外国で盗難された車だった場合などについて、いずれの国の法によって判断されるべきか考えます。また、例えば、日本の裁判所はこのような問題について審理することができるかといった手続的な問題についても検討します。これらを通じて、国際財産法に関する基本的な知識を習得してもらいます。
到達目標	(1) 国際私法に関する基本的な考え方について理解することができる。 (2) 国際財産法における法的問題について理解し、論理的に説明することができる。 (3) 身近な国際財産法問題について多角的な視野から分析することができる。
授業方法と留意点	原則として、講義形式で実施します。事前に Moodle または Teams を通じてレジュメ（穴埋め形式）および資料を配布しますので、授業時にはこれら資料類および教科書ならびに六法を忘れずに持参してください。また、複数回課題を出題します。課題は ICT ツールを利用した出題・提出の予定ですが、授業時に出題・提出の可能性もあります。
科目学習の効果（資格）	将来、外国人や外国企業と関わる仕事に就きたい人は、本授業で学ぶ内容や考え方の一部を活かすことができるでしょう。

授業計画				
		回数	授業テーマ	内容・方法 等
				事前・事後学習課題
	1		ガイダンスー何が問題？	この授業の進め方や受講に当たっての注意点など
				事前に配布資料に目を通し、教科書（2～13 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	2		国際私法とはー準拠法ってどうやって決まるの？	国際私法総論、準拠法、準拠法決定・適用の 4 つのプロセス
				事前に配布資料に目を通し、教科書（15～71 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	3		人ー成年年齢って国によって違うよね？	自然人に関する国際私法上の問題、行為能力、法人に関する国際私法上の問題、法人の従属法
				事前に配布資料に目を通し、教科書（72～92 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	4		契約（1）ー好きな法が選べるって本当？	一般の契約、当事者自治の原則
				事前に配布資料に目を通し、教科書（93～99 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	5		契約（2）ー準拠法の合意ができなかった場合は？	一般の契約、客観的連結、最密接関係地法、特格的給付の理論
				事前に配布資料に目を通し、教科書（99～107 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	6		契約（3）ー海外旅行で注意すべきことは？	消費者契約、労働契約、国際私法上の弱者保護
				事前に配布資料に目を通し、教科書（107～116 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	7		不法行為（1）ー外国人をケガさせてしまったら？	一般の不法行為、結果発生地法、加害行為地法
				事前に配布資料に目を通し、教科書（122～129 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	8		不法行為（2）ー外国製品の欠陥が原因でケガをしたら？	生産物責任、名誉・信用毀損
				事前に配布資料に目を通し、教科書（129～135 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	9		不法行為（3）ー不法行為の準拠法は合意できない？	回避条項、当事者自治、日本法の累積適用、事務管理、不当利得
				事前に配布資料に目を通し、教科書（135～146 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約 2 時間が目安）。
	10		物権ー外国で盗難された自動車を買ってしまったら？	物権の準拠法、物権変動、知的財産
				事前に配布資料に目を通し、教科書（159～171 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約 2 時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の

				事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約2時間が目安）。																
	11	国際民事手続法（１）－何が問題？	国際裁判管轄、国際訴訟競合、外国判決の承認・執行	事前に配布資料に目を通し、教科書（255～259 頁、288～307 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約2時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約2時間が目安）。																
	12	国際民事手続法（２）－外国国家を相手に訴えられる？	裁判権、国際裁判管轄の決定基準・法源、2 段階の判断枠組み	事前に配布資料に目を通し、教科書（259～263 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約2時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約2時間が目安）。																
	13	国際民事手続法（３）－どういふ場合に日本で裁判できる？	国際裁判管轄、管轄原因、特別の事情	事前に配布資料に目を通し、教科書（263～288 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約2時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約2時間が目安）。																
	14	国際民事手続法（４）－外国の裁判所で勝訴判決を得ましたが？	外国判決の承認・執行	事前に配布資料に目を通し、教科書（308～323 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約2時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約2時間が目安）。																
	15	国際民事手続法（５）－裁判以外の方法はありませんか？	国際商事仲裁	事前に配布資料に目を通し、教科書（356～368 頁）を読んで分からない用語等を確認してから授業を受けること（約2時間が目安）。授業終了後は、改めて配布資料等で内容の確認を行い、配布資料内の事例問題や課題等に積極的に取り組むこと（約2時間が目安）。																
関連科目	国際私法、国際家族法、国際取引法のほか、民事法分野の各科目（民法や消費者法など）および商法分野・社会法分野の各科目。																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>国際関係私法入門〔第4版補訂〕</td><td>松岡博編</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	国際関係私法入門〔第4版補訂〕	松岡博編	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	国際関係私法入門〔第4版補訂〕	松岡博編	有斐閣																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>国際私法</td><td>多田望ほか</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>2</td><td>国際私法〔第3版〕</td><td>中西康ほか</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>3</td><td>国際私法判例百選〔第3版〕</td><td>道垣内正人ほか編</td><td>有斐閣</td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	国際私法	多田望ほか	有斐閣	2	国際私法〔第3版〕	中西康ほか	有斐閣	3	国際私法判例百選〔第3版〕	道垣内正人ほか編	有斐閣
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	国際私法	多田望ほか	有斐閣																	
2	国際私法〔第3版〕	中西康ほか	有斐閣																	
3	国際私法判例百選〔第3版〕	道垣内正人ほか編	有斐閣																	
評価方法（基準）	定期試験（60％）、課題（40％）																			
学生へのメッセージ																				
担当者の研究室等																				
備考	・第1回目の講義で授業の進め方や成績評価の方法などについて詳しい説明を行うので、受講を考えている人は可能な限り出席してください。 ・本講義は、「国際私法」の講義を受講済みであることを前提に進めます（単位取得は要件ではない）。未履修者は、教科書や参考書等で関連部分を読んだうえで、本講義を受講するようにしてください。																			

科目名	商法Ⅰ（総則・商行為）	科目名（英文）	Commercial LawⅠ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	仲宗根 京子
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2054a0		

授業概要・目的	この講義では、広く商法に関する法制度・法規制について学習することを目的としています。具体的に扱う内容は、商法総則および商行為となります。																																																																		
到達目標	この講義の目標は、法律で定められた制度を理解できるようにすることに加え、個別の法的問題点に対して論理的に検討できるようになることです。																																																																		
授業方法と留意点	講義内容に合わせてレジュメをTeamsで配布するので、レジュメをもとに重要事項などをメモしながら内容を理解してください。毎回の講義後にグループで練習問題を解いてもらい、答え合わせをします。事後学習として間違えた部分はしっかりと復習してください。質問等は練習問題にある質問欄に記入してください。次回の講義で質問にはお答えします。																																																																		
科目学習の効果（資格）	様々な営業に関わる法律の1つである「商法」について基礎知識および法的問題点を知ることができます。																																																																		
授業計画	<table> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション</td><td>講義の進め方、商法の概要</td><td>六法で商法に何が書かれているか見ておく（1時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>商法の法源</td><td>商事制定法、商慣習法、約款、法適用の順序</td><td>商慣習法や約款とは何か調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>商人</td><td>商人の意義、擬制商人、商人資格の得喪</td><td>商人に関する条文を見ておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>営業の譲渡</td><td>営業譲渡に関するルール</td><td>営業譲渡に関する条文を見ておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>商号①</td><td>商号の意義、選定、商号権</td><td>商号に関する条文を見ておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>商号②</td><td>名板貸し</td><td>名板貸しに関する条文を見ておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>商業登記</td><td>登記事項、手続、公示、法的効力</td><td>登記について調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>確認試験（中間）</td><td>第2回～第7回の講義の復習として試験を実施する。</td><td>第2回～第7回の講義内容を復習する（2時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>商行為の意義・種類</td><td>絶対的商行為、営業的商行為、附属的商行為</td><td>501条～503条について調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>商行為の通則</td><td>商行為一般に関する特則</td><td>504条～516条について調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>商事売買・交互計算</td><td>商事売買に関する特則、交互計算契約</td><td>524条～528条、交互計算契約について調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>運送営業</td><td>運送営業に関するルール</td><td>570条～594条について見ておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>場屋営業</td><td>場屋営業に関するルール</td><td>場屋営業とは何か調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>支配人</td><td>支配人に関するルール</td><td>支配人とは何か調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>確認試験（期末）</td><td>第9回～第14回の講義の復習として試験を実施する。</td><td>第9回～第14回の講義内容を復習する（2時間）</td></tr> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	講義の進め方、商法の概要	六法で商法に何が書かれているか見ておく（1時間）	2	商法の法源	商事制定法、商慣習法、約款、法適用の順序	商慣習法や約款とは何か調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）	3	商人	商人の意義、擬制商人、商人資格の得喪	商人に関する条文を見ておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）	4	営業の譲渡	営業譲渡に関するルール	営業譲渡に関する条文を見ておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）	5	商号①	商号の意義、選定、商号権	商号に関する条文を見ておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）	6	商号②	名板貸し	名板貸しに関する条文を見ておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）	7	商業登記	登記事項、手続、公示、法的効力	登記について調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）	8	確認試験（中間）	第2回～第7回の講義の復習として試験を実施する。	第2回～第7回の講義内容を復習する（2時間）	9	商行為の意義・種類	絶対的商行為、営業的商行為、附属的商行為	501条～503条について調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）	10	商行為の通則	商行為一般に関する特則	504条～516条について調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）	11	商事売買・交互計算	商事売買に関する特則、交互計算契約	524条～528条、交互計算契約について調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）	12	運送営業	運送営業に関するルール	570条～594条について見ておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）	13	場屋営業	場屋営業に関するルール	場屋営業とは何か調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）	14	支配人	支配人に関するルール	支配人とは何か調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）	15	確認試験（期末）	第9回～第14回の講義の復習として試験を実施する。	第9回～第14回の講義内容を復習する（2時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	講義の進め方、商法の概要	六法で商法に何が書かれているか見ておく（1時間）																																																																
2	商法の法源	商事制定法、商慣習法、約款、法適用の順序	商慣習法や約款とは何か調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）																																																																
3	商人	商人の意義、擬制商人、商人資格の得喪	商人に関する条文を見ておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）																																																																
4	営業の譲渡	営業譲渡に関するルール	営業譲渡に関する条文を見ておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）																																																																
5	商号①	商号の意義、選定、商号権	商号に関する条文を見ておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）																																																																
6	商号②	名板貸し	名板貸しに関する条文を見ておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）																																																																
7	商業登記	登記事項、手続、公示、法的効力	登記について調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）																																																																
8	確認試験（中間）	第2回～第7回の講義の復習として試験を実施する。	第2回～第7回の講義内容を復習する（2時間）																																																																
9	商行為の意義・種類	絶対的商行為、営業的商行為、附属的商行為	501条～503条について調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）																																																																
10	商行為の通則	商行為一般に関する特則	504条～516条について調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）																																																																
11	商事売買・交互計算	商事売買に関する特則、交互計算契約	524条～528条、交互計算契約について調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）																																																																
12	運送営業	運送営業に関するルール	570条～594条について見ておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）																																																																
13	場屋営業	場屋営業に関するルール	場屋営業とは何か調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）																																																																
14	支配人	支配人に関するルール	支配人とは何か調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）																																																																
15	確認試験（期末）	第9回～第14回の講義の復習として試験を実施する。	第9回～第14回の講義内容を復習する（2時間）																																																																
関連科目	民法、会社法																																																																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td>商法総則・商行為法 基礎と展開（第3版）</td><td>末永敏和</td><td>中央経済社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	商法総則・商行為法 基礎と展開（第3版）	末永敏和	中央経済社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	商法総則・商行為法 基礎と展開（第3版）	末永敏和	中央経済社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	確認試験2回分（中間50％、期末50％）で評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	第1回で講義の進め方を説明するので、説明を聴いた上で受講してください。																																																																		
担当者の研究室等	11号館9階																																																																		
備考	練習問題および質問は講義終了後に回収をして、次回に返却します。 確認試験を実施後、解答はTeamsに掲載するので、自己採点を行って復習してください。																																																																		

科目名	商法ⅡA（会社①）	科目名（英文）	Commercial Law II A
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	仲宗根 京子
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2055a0		

授業概要・目的	この講義では、「会社法」で定められている法制度・法規制について学習することを目的としています。経済社会において会社という存在が活動するなかで、どのようにして組織されていて、またどのようにして活動しているのか、法的な観点から学びます。会社経営の要にもなるコーポレートガバナンスに対する法規定を中心に、経営者である取締役の法的責任についても言及します。
到達目標	この講義の目標は、会社法で定められた制度を理解できるようにすることに加え、会社法に関する法的問題点を理解して検討できるようになることです。
授業方法と留意点	講義内容に合わせてレジュメを配布するので、レジュメをもとに重要事項などをメモしながら内容を理解してください。毎回の講義終了後にグループで練習問題を解いて答え合わせをしてもらい、事後学習として特に間違えた部分についてはしっかり復習をしておきましょう。質問等は練習問題にある質問欄に記入してもらえれば、次の講義でお答えします。
科目学習の効果（資格）	企業法務や会社経営に関する法律知識を身に着けることができます。関連する資格として、ビジネス実務法務検定、法学検定（中級）、行政書士、司法書士などがあります。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	講義の進め方、会社法の概要	六法などで会社法に何が書かれているのか見ておく（1 時間）
	2	会社のしくみ・法人格	会社の種類、社員の責任、法人格否認の法理	会社の種類を調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	3	株主①	株主の権利	株主にはどのような権利があるのか考えてみる（1 時間） 練習問題トの復習を行う（1 時間）
	4	株主②	株主平等の原則、株主名簿	株主平等の原則について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	5	株式制度	株式の内容、種類株式	種類株式について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	6	機関設計①	機関の設置強制に関するルール	会社法 327 条、328 条、402 条を学習しておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	7	機関設計②	指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社、社外取締役	指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社、社外取締役について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	8	確認試験（中間）	第2回～第7回の内容について復習としての確認試験を実施する。	第2回～第7回の講義内容を復習する（2 時間）
	9	株主総会①	招集権者、招集手続、決議権の代理行使	株主総会の開催方法を調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	10	株主総会②	決議要件、説明責任、決議の瑕疵に関する訴訟、利益供与	決議要件に関する条文を見ておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	11	取締役	取締役の選任・資格・終任、表見代表取締役	取締役に関する条文をすべて見ておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	12	取締役の義務	善管注意義務、忠実義務、競業禁止義務、利益相反取引規制	取締役の義務に関する条文を見ておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	13	役員等の会社に対する責任	任務懈怠責任、責任免除・軽減制度	任務懈怠責任、責任免除・軽減制度について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	14	第三者に対する責任、株主代表訴訟	第三者に対する責任の概要と要件、株主代表訴訟に関するルール	株主代表訴訟について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	15	確認試験（期末）	第9回～第14回の内容について復習としての確認試験を実施する。	第9回～第14回の講義内容を復習する（2 時間）

関連科目	民法、金融商品取引法
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎から学べる会社法（第5版）	近藤光男ほか	弘文堂
	2			
	3			

評価方法（基準）	確認試験 2 回分（中間 50%、期末 50%）で評価します。
----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	1 回目に講義の進め方を説明しますので、それを聴いた上で受講してください。
-----------	---------------------------------------

担当者の研究室等	11 号館 10 階
----------	------------

備考	練習問題は評価に含まれませんが、毎回の授業で回収して次回に返却するかたちとします。 確認試験の解答は実施後に Teams に掲載しますので、自己採点をしてください。
----	---

科目名	商法ⅡB（会社②）	科目名（英文）	Commercial Law II B
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	仲宗根 京子
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2056a0		

授業概要・目的	この講義では、「会社法」で定められている法制度・法規制について学習することを目的としています。経済社会において会社という存在が活動するなかで、どのようにして組織されていて、またどのようにして活動しているのか、法的な観点から学びます。前期科目である商法ⅡA（会社①）及び会社法とセットになる科目です。内容としては、会社の設立やファイナンスが中心となります。
到達目標	この講義の目標は、会社法で定められた制度を理解できるようにすることに加え、会社法に関する法的問題点を理解して検討できるようになることです。
授業方法と留意点	講義内容に合わせてレジュメを配布するので、レジュメをもとに重要事項などをメモしながら内容を理解してください。毎回の講義終了後にグループで練習問題を解いて答え合わせをしてもらい、事後学習として特に間違えた部分についてはしっかり復習をしておきましょう。質問等は質問票に記入してもらえれば、次回の講義でお答えします。
科目学習の効果（資格）	企業法務や会社経営に関する法律知識を身に着けることができます。関連する資格として、ビジネス実務法務検定、法学検定（中級）、行政書士、司法書士などがあります。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	講義の進め方、会社法の概要	六法などで会社法に何が書かれているのか見ておく（1 時間）
	2	株式①	株式の譲渡	株式について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	3	株式②	株式の併合・分割・無償割当て、単元株式制度	株式の大きさを変更する方法について調べておく（1 時間） 練習問題トの復習を行う（1 時間）
	4	株式③	自己株式の取得	自己株式について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	5	計算	企業会計の意義、資本制度、剰余金の配当	資本について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	6	資金調達①	新株発行	募集株式の発行に関する条文を調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	7	資金調達②	新株予約権、社債	新株予約権と社債について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	8	確認試験（中間）	第2回～第7回の内容について復習としての確認試験を実施する。	第2回～第7回の講義内容を復習する（2 時間）
	9	設立①	設立手続、定款の作成	設立に関する条文を調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	10	設立②	出資の履行、設立時の機関	設立時の機関について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	11	設立③	設立登記、設立の瑕疵、設立関与者の責任	会社に登記について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	12	組織再編①	総論、事業譲渡	事業譲渡に関する条文を見ておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	13	組織再編②	合併、会社分割	合併と会社分割について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	14	組織再編③	株式交換、株式移転、株式交付	株式交換、株式移転、株式交付について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
	15	確認試験（期末）	第9回～第14回の内容について復習としての確認試験を実施する。	第9回～第14回の講義内容を復習する（2 時間）

関連科目	商法ⅡA（会社①）、会社法、民法、金融商品取引法
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎から学べる会社法（第5版）	近藤光男ほか	弘文堂
	2			
	3			

評価方法（基準）	確認試験を2回実施し、中間（50％）および期末（50％）で評価します。
学生へのメッセージ	1 回目に講義の進め方を説明しますので、その説明を聴いた上で受講してください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階
備考	練習問題は評価に含まれませんが、グループで管理して試験前に復習をしておきましょう。

科目名	商法Ⅲ（保険）	科目名（英文）	Commercial Law III
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	本多 康作
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3057a0		

授業概要・目的	保険制度とは、同種の危険にさらされた多数の経済主体を1つの団体とみて、それに属する経済主体がそれぞれ金銭を拠出することにより共同的備蓄を形成し、現実が必要が発生した主体がそこから保険金の支払いを受ける方法で需要を満たす制度である。具体的には、損害保険契約、生命保険契約および傷害疾病保険契約についての法制度を講義する。
到達目標	この授業を通じて学生は、保険法の全体構造を理解し、かつ基礎的知識を修得することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICT ツールとして Microsoft 社の teams を用いる。 ・課題提示や資料配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 ・最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を必ず持参すること。
科目学習の効果（資格）	保険会社に就職する者にとっては、必須の講義である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業ルールの説明と、保険システム	最初に、本授業の受講ルールについて理解する。そのうえで、保険システムの目的と機能、保険法について学ぶ。	事前に教科書2ページ～28ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書2ページ～28ページを読むこと（2時間）。
	2	保険監督法	総説、保険業規制の内容、保険募集規制について学ぶ。	事前に教科書29ページ～48ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書29ページ～48ページを読むこと（2時間）。
	3	損害保険契約総論（1）	損害保険契約総説、損害保険契約の意義・特徴、損害保険契約の種類、片面強行規定の特徴について学ぶ。	事前に教科書50ページ～58ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書50ページ～58ページを読むこと（2時間）。
	4	損害保険契約総論（2）	保険契約の成立、告知義務について学ぶ。	事前に教科書59ページ～69ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書59ページ～69ページを読むこと（2時間）。
	5	損害保険契約総論（3）	損害保険契約における保険事故、保険期間、保険料について学ぶ。	事前に教科書70ページ～75ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書70ページ～75ページを読むこと（2時間）。
	6	損害保険契約総論（4）	損害保険契約の構造、保険金額と保険価額、重複保険について学ぶ。	事前に教科書76ページ～100ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書76ページ～100ページを読むこと（2時間）。
	7	損害保険契約総論（5）	損害保険契約の成立の効果について学ぶ。	事前に教科書101ページ～119ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書101ページ～119ページを読むこと（2時間）。
	8	損害保険契約総論（6）	損害保険の給付について学ぶ。	事前に教科書120ページ～145ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書120ページ～145ページを読むこと（2時間）。
	9	損害保険契約総論（7）	損害保険契約の終了について学ぶ。	事前に教科書146ページ～156ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書146ページ～156ページを読むこと（2時間）。
	10	損害保険契約総論（8）	損害保険契約の処分について学ぶ。	事前に教科書157ページ～161ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書157ページ～161ページを読むこと（2時間）。
	11	損害保険契約総論（9）	保険担保について学ぶ。	事前に教科書162ページ～171ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書162ページ～171ページを読むこと（2時間）。
	12	損害保険契約各論	火災保険、責任保険、自動車保険、運送保険、海上保険、再保険について学ぶ。	事前に教科書174ページ～221ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書174ページ～221ページを読むこと（2時間）。
	13	生命保険契約（1）	総説、生命保険契約の成立について学ぶ。	事前に教科書224ページ～242ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書224ページ～242ページを読むこと（2時間）。
	14	生命保険契約（2）	生命保険契約の効力、生命保険契約に基づく給付・終了、生命保険債権の処分と差押えについて学ぶ。	事前に教科書243ページ～266ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書224ページ～242ページを読むこと（2時間）。
	15	傷害疾病保険契約	総説、保険給付の要件、傷害疾病定額保険をめぐる問題について学ぶ。	事前に教科書268ページ～283ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書268ページ～283ページを読むこと（2時間）。

				こと（2時間）。
関連科目	民法、商法総論、会社法、経済法など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	レクチャー新保険法(最新版)	今井薫・岡田豊基・梅津昭彦	法律文化社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft forms から課題を配信し、その回答内容を合算して評価対象とする（課題の得点 100%）。			
学生への メッセージ	私語は認めない。私語をはじめ、授業態度が悪い場合は、単位を認定しない。このような本授業を履修する際の注意事項を含む授業ルールは、初回の授業で説明する。			
担当者の 研究室等	本多研究室（11 号館 9 階）			
備考				

科目名	商法Ⅳ（有価証券）	科目名（英文）	Commercial Law IV
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	仲宗根 京子
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3058a0		

授業概要・目的	この講義では、「手形法」および「小切手法」で定められている法制度・法規制について学習することを目的としている。企業や商人の決済手段の一つとして手形や小切手を利用されており、実際の利用方法や法規制に関する基礎知識を学ぶとともに、手形や小切手に関するトラブル事例などを検討していく。
到達目標	この講義を通じて学生には、手形法・小切手法で定められた制度を理解できるようにすることに加え、手形・小切手に関する法的問題点に対して論理的に対処できるようになることを期待しています。
授業方法と留意点	講義内容に合わせてレジュメを配布するので、レジュメをもとに重要事項などをメモしながら内容を理解してほしい。事後学習として小テストで間違えたところを中心に復習をしておくこと。
科目学習の効果（資格）	企業法務、特に金融の分野や一般的なビジネス上の決済方法として必要な基礎知識を身に付けることができます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	講義の進め方、手形・小切手の役割	手形・小切手がどこで使われているのか調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
	2	手形・小切手の種類・しくみ・譲渡	手形・小切手の利害関係者と基本構造	約束手形・為替小切手・小切手の違いを調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
	3	手形・小切手の支払義務・担保責任	手形・小切手に関する義務の発生、担保責任、遡求	手形・小切手の遡求について調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
	4	手形・小切手の支払実務・法的性質	手形・小切手の決済実務、法的性質	手形交換所や当座勘定契約について調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
	5	手形要件・小切手要件	手形・小切手の記載事項	手形・小切手に何を書くべきか調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
	6	白地手形・白地小切手	白地手形・白地小切手の意義、法的問題	手形・小切手の白地について調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
	7	無権代理・偽造	手形や小切手における無権代理や偽造の問題	無権代理と偽造について調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
	8	確認試験①	第 2 回～第 7 回の内容で復習としての確認試験を実施	第 2 回～第 7 回の講義内容を復習する（2 時間）
	9	裏書①	裏書の方式・法的効力	裏書について調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
	10	裏書②	裏書の連続、特殊な裏書	裏書の連続について調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
	11	手形抗弁①	物的抗弁、人的抗弁	手形抗弁について調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
	12	手形抗弁②	融通手形、書合手形、戻裏書、後者の抗弁	融通手形や書合手形について調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
	13	手形抗弁③・善意取得	二重無権の抗弁、無権利の抗弁、善意取得	善意取得について復習する（予習：1 時間、復習 2 時間）
	14	手形行為論	交付欠缺について事例検討	交付欠缺を調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
	15	確認試験②	第 9 回～第 14 回の内容で復習としての確認試験を実施	第 9 回～第 14 回の講義内容を復習する（2 時間）

関連科目	民法、会社法			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	商法Ⅲ－手形・小切手	大塚龍児・林靖・福瀧博之	有斐閣
	2			
	3			

評価方法（基準）	中間テスト（50％）期末テスト（50％）で評価いたします。
学生へのメッセージ	第 1 回目に講義の進め方を説明するので必ず聴いた上で受講すること。
担当者の研究室等	11 号館 9 階
備考	

科目名	経済法	科目名（英文）	Economic Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	本多 康作
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3060a0		

授業概要・目的	独占禁止法は、企業活動を規制することにより、公正かつ自由な競争を促進し、一般消費者の利益を確保するとともに、国民経済の民主的で健全な発達を促進することを目的とするものである。独占禁止法の理解には、法律の条文を直接、読み、また判決および審決における具体的な事例の検討が不可欠である。																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生は、独占禁止法の基本的知識と応用力を取得することができるようになることが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICT ツールとして Microsoft 社の teams を用いる。 ・課題提示や資料配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 ・最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を必ず持参すること。																																																																		
科目学習の効果（資格）	企業に就職する者にとっては、独占禁止法の知識は有用な知識であり、また公務員にとっても、談合という不当な取引制限に対する知識の修得は職務上、重要である。独占禁止法の知識と応用力の修得により、会社や社会に対して大きく貢献できる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>授業ルールと、競争政策の見取り図と競争の目的</td><td>本授業の授業ルールを説明したうえで、競争政策の見取り図と競争の目的について学ぶ。</td><td>事前に教科書 pp. 1. ～22. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp 1. ～22 を読むこと（2 時間）。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>独禁法の規制内容</td><td>独禁法の規制内容について学ぶ。</td><td>事前に教科書 pp. 22. ～35. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 22～35. を読むこと（2 時間）。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>企業結合（1）</td><td>企業結合の概要と、合併と株式保有等の規制（1）、特に市場効果要件について学ぶ。</td><td>事前に教科書 pp. 37～50. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 37. ～50. を読むこと（2 時間）。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>企業結合（2）</td><td>合併と株式保有等の規制（2）、特に市場効果の判定について学ぶ。</td><td>事前に教科書 pp. 50～83. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 50～83. を読むこと（2 時間）。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>企業結合（3）</td><td>手続とエンフォースメント等について学ぶ。</td><td>事前に教科書 pp. 84 ～90. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. . 84～90. を読むこと（2 時間）。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>不当な取引制限（1）</td><td>不当な取引制限の概要と、カルテルと関連規定等について学ぶ。</td><td>事前に教科書 pp. 91 ～96. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 91～96. を読むこと（2 時間）。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>不当な取引制限（2）</td><td>不当な取引制限の禁止について学ぶ。</td><td>事前に教科書 pp. 97～133. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 97～133. を読むこと（2 時間）。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>不当な取引制限（3）</td><td>違反行為に対する制裁について学ぶ。</td><td>事前に教科書 pp134. ～143. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 134～143. を読むこと（2 時間）。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>私的独占（1）</td><td>私的独占の概要と、行為の要件について学ぶ。</td><td>事前に教科書 pp. 145～160. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 145～160. を読むこと（2 時間）。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>私的独占（2）</td><td>効果の要件と、違反行為に対する制裁について学ぶ。</td><td>事前に教科書 pp. 160～173. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 160～173. を読むこと（2 時間）。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>不公正な取引方法（1）</td><td>不公正な取引方法の概要と、取引拒絶・差別的取扱いについて学ぶ。</td><td>事前に教科書 pp. 175～193. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 1 75～193. を読むこと（2 時間）。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>不公正な取引方法（2）</td><td>不当対価と、不当な顧客誘引・取引の強制について学ぶ。</td><td>事前に教科書 pp. 193～232. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 193～232. を読むこと（2 時間）。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>不公正な取引方法（3）</td><td>抱き合わせ販売等、事業活動の不当拘束（1）、特に排他条件付取引、そして事業活動の不当拘束（2）、特に再販売価格の拘束について学ぶ。</td><td>事前に教科書 pp. 232～268. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 232～268. を読むこと（2 時間）。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>不公正な取引方法（4）</td><td>事業活動の不当拘束（3）、特に拘束条件付取引と、取引上の地位の不当利用、そして競争者の事業活動の不当妨害について学ぶ。</td><td>事前に教科書 pp. 269～293. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 269～293. を読むこと（2 時間）。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>事業者団体の活動</td><td>事業者団体規制の目的と意義、事業者団体の概念、事業者団体の禁止行為、事業者団体の自主規制、そして違反行為への制裁について学ぶ。</td><td>事前に教科書 pp. 295～312. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 295～312. を読むこと（2 時間）。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業ルールと、競争政策の見取り図と競争の目的	本授業の授業ルールを説明したうえで、競争政策の見取り図と競争の目的について学ぶ。	事前に教科書 pp. 1. ～22. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp 1. ～22 を読むこと（2 時間）。	2	独禁法の規制内容	独禁法の規制内容について学ぶ。	事前に教科書 pp. 22. ～35. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 22～35. を読むこと（2 時間）。	3	企業結合（1）	企業結合の概要と、合併と株式保有等の規制（1）、特に市場効果要件について学ぶ。	事前に教科書 pp. 37～50. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 37. ～50. を読むこと（2 時間）。	4	企業結合（2）	合併と株式保有等の規制（2）、特に市場効果の判定について学ぶ。	事前に教科書 pp. 50～83. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 50～83. を読むこと（2 時間）。	5	企業結合（3）	手続とエンフォースメント等について学ぶ。	事前に教科書 pp. 84 ～90. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. . 84～90. を読むこと（2 時間）。	6	不当な取引制限（1）	不当な取引制限の概要と、カルテルと関連規定等について学ぶ。	事前に教科書 pp. 91 ～96. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 91～96. を読むこと（2 時間）。	7	不当な取引制限（2）	不当な取引制限の禁止について学ぶ。	事前に教科書 pp. 97～133. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 97～133. を読むこと（2 時間）。	8	不当な取引制限（3）	違反行為に対する制裁について学ぶ。	事前に教科書 pp134. ～143. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 134～143. を読むこと（2 時間）。	9	私的独占（1）	私的独占の概要と、行為の要件について学ぶ。	事前に教科書 pp. 145～160. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 145～160. を読むこと（2 時間）。	10	私的独占（2）	効果の要件と、違反行為に対する制裁について学ぶ。	事前に教科書 pp. 160～173. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 160～173. を読むこと（2 時間）。	11	不公正な取引方法（1）	不公正な取引方法の概要と、取引拒絶・差別的取扱いについて学ぶ。	事前に教科書 pp. 175～193. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 1 75～193. を読むこと（2 時間）。	12	不公正な取引方法（2）	不当対価と、不当な顧客誘引・取引の強制について学ぶ。	事前に教科書 pp. 193～232. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 193～232. を読むこと（2 時間）。	13	不公正な取引方法（3）	抱き合わせ販売等、事業活動の不当拘束（1）、特に排他条件付取引、そして事業活動の不当拘束（2）、特に再販売価格の拘束について学ぶ。	事前に教科書 pp. 232～268. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 232～268. を読むこと（2 時間）。	14	不公正な取引方法（4）	事業活動の不当拘束（3）、特に拘束条件付取引と、取引上の地位の不当利用、そして競争者の事業活動の不当妨害について学ぶ。	事前に教科書 pp. 269～293. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 269～293. を読むこと（2 時間）。	15	事業者団体の活動	事業者団体規制の目的と意義、事業者団体の概念、事業者団体の禁止行為、事業者団体の自主規制、そして違反行為への制裁について学ぶ。	事前に教科書 pp. 295～312. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 295～312. を読むこと（2 時間）。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業ルールと、競争政策の見取り図と競争の目的	本授業の授業ルールを説明したうえで、競争政策の見取り図と競争の目的について学ぶ。	事前に教科書 pp. 1. ～22. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp 1. ～22 を読むこと（2 時間）。																																																																
2	独禁法の規制内容	独禁法の規制内容について学ぶ。	事前に教科書 pp. 22. ～35. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 22～35. を読むこと（2 時間）。																																																																
3	企業結合（1）	企業結合の概要と、合併と株式保有等の規制（1）、特に市場効果要件について学ぶ。	事前に教科書 pp. 37～50. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 37. ～50. を読むこと（2 時間）。																																																																
4	企業結合（2）	合併と株式保有等の規制（2）、特に市場効果の判定について学ぶ。	事前に教科書 pp. 50～83. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 50～83. を読むこと（2 時間）。																																																																
5	企業結合（3）	手続とエンフォースメント等について学ぶ。	事前に教科書 pp. 84 ～90. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. . 84～90. を読むこと（2 時間）。																																																																
6	不当な取引制限（1）	不当な取引制限の概要と、カルテルと関連規定等について学ぶ。	事前に教科書 pp. 91 ～96. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 91～96. を読むこと（2 時間）。																																																																
7	不当な取引制限（2）	不当な取引制限の禁止について学ぶ。	事前に教科書 pp. 97～133. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 97～133. を読むこと（2 時間）。																																																																
8	不当な取引制限（3）	違反行為に対する制裁について学ぶ。	事前に教科書 pp134. ～143. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 134～143. を読むこと（2 時間）。																																																																
9	私的独占（1）	私的独占の概要と、行為の要件について学ぶ。	事前に教科書 pp. 145～160. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 145～160. を読むこと（2 時間）。																																																																
10	私的独占（2）	効果の要件と、違反行為に対する制裁について学ぶ。	事前に教科書 pp. 160～173. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 160～173. を読むこと（2 時間）。																																																																
11	不公正な取引方法（1）	不公正な取引方法の概要と、取引拒絶・差別的取扱いについて学ぶ。	事前に教科書 pp. 175～193. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 1 75～193. を読むこと（2 時間）。																																																																
12	不公正な取引方法（2）	不当対価と、不当な顧客誘引・取引の強制について学ぶ。	事前に教科書 pp. 193～232. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 193～232. を読むこと（2 時間）。																																																																
13	不公正な取引方法（3）	抱き合わせ販売等、事業活動の不当拘束（1）、特に排他条件付取引、そして事業活動の不当拘束（2）、特に再販売価格の拘束について学ぶ。	事前に教科書 pp. 232～268. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 232～268. を読むこと（2 時間）。																																																																
14	不公正な取引方法（4）	事業活動の不当拘束（3）、特に拘束条件付取引と、取引上の地位の不当利用、そして競争者の事業活動の不当妨害について学ぶ。	事前に教科書 pp. 269～293. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 269～293. を読むこと（2 時間）。																																																																
15	事業者団体の活動	事業者団体規制の目的と意義、事業者団体の概念、事業者団体の禁止行為、事業者団体の自主規制、そして違反行為への制裁について学ぶ。	事前に教科書 pp. 295～312. を読むこと（2 時間）。 事後に教科書 pp. 295～312. を読むこと（2 時間）。																																																																
関連科目	会社法、行政法																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ベーシック経済法（最新版）</td><td>川濱昇その他 3 名</td><td>有斐閣</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ベーシック経済法（最新版）	川濱昇その他 3 名	有斐閣	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	ベーシック経済法（最新版）	川濱昇その他 3 名	有斐閣																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>経済法判例・審決百選（最新版）</td><td>厚谷襄児・稗貫俊文編</td><td>有斐閣</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	経済法判例・審決百選（最新版）	厚谷襄児・稗貫俊文編	有斐閣	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	経済法判例・審決百選（最新版）	厚谷襄児・稗貫俊文編	有斐閣																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft forms から課題を配信し、その回答内容を合算して評価対象とする（課題の得点 100%）。																																																																		
学生へのメッセージ	私語は認めない。私語をはじめ、授業態度が悪い場合は、単位を認定しない。このような本授業を履修する際の注意事項を含む授業ルールは、初回の授業で説明する。																																																																		
担当者の研究室等	本多研究室（11 号館 9 階）																																																																		

備考	
----	--

科目名	労働法Ⅰ（労働保護）	科目名（英文）	Labor LawⅠ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	寺山 洋一
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2063a0		

授業概要・目的	雇用・労働関係の法律については、大別して、 ① 労働者の保護を主眼とする個別的な労働関係の法律 ② 労働組合が主体となる集団的な労使関係の法律 ③ 労働市場に関する法律 に分けることができます。 本講義では、上記①を取り扱います。 法学の基礎知識を土台として、労働契約法（解雇、雇止め等）、労働基準法（賃金、労働時間等）などの雇用・労働関係の法律について、代表的な最高裁判決を紹介しつつ、立法政策的な観点も含め、説明を行います。
到達目標	個別的な労働関係の法律に関する基本的な知見や知識、実務の在り方を理解した上で、就職に向けて、また、就職（起業）後において、実際に起きている雇用・労働関係をめぐる諸問題について、法的視点から考察できる能力を身につけることを目標とします。
授業方法と留意点	初回（第1回）のガイダンスでは授業の進め方を説明します。履修を希望される方は、必ず出席してください。 ガイダンスの内容に従って、基本的に、出席した授業ごとに持ち点が積み上がる方式となります。 毎回の授業中において、リアクションペーパー（RP、記述式）やブチテスト（PT、レベルチェック）が行われます。 履修者自ら主体的に習得すべき情報が多い授業ですので、日頃から着実にたゆまず取り組んでください。 座席指定や私語の禁止、無断欠席による単位不認定などの決まり事があります。履修に際して、特にご注
科目学習の効果（資格）	労働基準監督官試験などの公務員試験や、社会保険労務士の資格取得のためにも、有益な内容となります。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	雇用・労働関係の法律の座標～ガイダンス～	- 憲法との関連 - 雇用契約の当事者 - 法的責任の在り方	番号1の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	2	多様な働き方に応じた法制	- 雇用契約 - 請負契約 - 委任契約 - 業務委託契約	番号1の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	3	非正規雇用労働者	- 契約社員 - パート社員 - 派遣労働者等	番号1の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	4	募集・採用	- 募集・採用 - インターンシップ - 内定	番号1の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	5	就労の開始	- 雇用契約書 - 労働条件通知書 - 試用期間	番号1の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	6	解雇	- 整理解雇・解雇 - 退職勧奨・希望退職	番号1の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	7	その他の離職	- 雇止め - 定年退職・自主退職 - 倒産	番号1の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	8	コンプライアンス	- 就業規則・服務規律 - 労働条件の不利益変更 - 懲戒処分	番号1の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	9	賃金	- 賃金の構成 - 賃金の支払いの5原則 - 賞与・休業手当	番号1の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	10	割増賃金	- 割増率 - 算定基礎から除外される手当 - 最低賃金	番号1の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	11	労働時間	- 法定労働時間 - フレックスタイム制 - みなし労働時間	番号1の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	12	時間外労働	- 残業 36協定 - 上限規制	番号1の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	13	休憩・休日・年次有給休暇	- 休憩 - 休日・休息 - 年次有給休暇	番号1の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	14	現場の労働安全衛生	- 安全衛生管理体制 - 労働災害	番号1の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。（計2時間）
	15	締めくくり考查と総括	既習した知識や知見が定着しているかを評定するために実施	講義内容の振り返り、教科書や例題等の総ざらいを行う。（2時間）

関連科目	日本国憲法		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	【電子】 人事労務関係法 令和6年度版	テラボ
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	【電子】 振り返り例題 労働法 令和6年度版	テラボ

	2	【電子】 移りゆく雇用・労働六法 令和6年度版	テラボ	斉家書房
	3			
評価方法 (基準)	原則として、授業への取組姿勢（RPやPTを含む。）〔80％〕により、成績を判断します。 併せて、終盤に、締めくくり考査〔20％〕を実施し、授業への取組姿勢を総合的に考慮して評価します。 コロナウイルス感染症対策等の特別な事情により、上記内容の割合を変更することがあります。 なお、講義の内容が、その当日のRPやPTに必ずしも出題されるわけではありません。			
学生への メッセージ	初回のガイダンス及びTeamsを通じて、授業に必要な情報をお伝えします。ガイダンス時に、教科書等の購入方法を説明します。 毎回の講義では、レジュメを使用せず、各自が購入した教科書を使用します。 基本的に、講義で重要な基礎的事項を説明し、その後、自ら進んで教科書や参考書を通じて関係条文や裁判例などを学んでいただき、PTで、自主的に習得した法的知識のレベルチェックを行うという流れとなります。 RPやPTの内容は、おおむね教科書や参考書から出題され、事前・事後の学修として2時間程度を要します。 終盤に行われる締めくくり考査は、公務員試験や資格試験の水準に合わせるようにしています。			
担当者の 研究室等	11号館9階 寺山教授室			
備考	第1回の講義時、教科書及び参考書の購入・利用について説明します。 講義中、電子書籍の教科書や参考書を参照することがありますので、各自、PC・スマートフォン等の電子機器を持ち込んでも差し支えありません。 なお、必要に応じて、ゲストスピーカーを招聘する場合があります。 講義では、民法（債権法）の特別法である労働契約法、強行法規としての労働基準法その他の雇用・労働関係の法律という幅広い範囲を扱うとともに、関連条項も多岐にわたります。 履修に当たって、法律の条項や裁判例の読み方をひと通り学習して			

	なお、講義の内容が、その当日の RP や PT に必ずしも出題されるわけではありません。
学生への メッセージ	初回のガイダンス及び Teams を通じて、授業に必要な情報をお伝えします。ガイダンス時に、教科書等の購入方法を説明します。 毎回の講義では、レジュメを使用せず、各自が購入した教科書を使用します。 基本的に、講義で重要な基礎的事項を説明し、その後、自ら進んで教科書や参考書を通じて関係条文や裁判例などを学んでいただき、PT で、主体的に習得した法的知識のレベルチェックを行うという流れとなります。 RP や PT の内容は、おおむね教科書や参考書から出題され、事前・事後の学修として 2 時間程度を要します。 終盤に行われる締めくくり考査は、公務員試験や資格試験の水準に合わせるようにしています。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階 寺山教授室
備考	受講に当たっては、労働協約の効力や、労働協約と労働契約・就業規則・労使協定との差異、チェック・オフと賃金の支払い 5 原則との関係など、「労働保護法」に関する基礎的な知識や知見を土台とします。 「労働保護法」の内容をひと通り習得しておくことにより、効果的かつ効率的に学びが深まります。 なお、必要に応じて、ゲストスピーカーを招聘する場合があります。

科目名	国際法Ⅰ（総論）	科目名（英文）	International LawⅠ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥谷部 瑛
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1066a0		

授業概要・目的	この科目は、グローバル時代において益々その重要性を増している国際法について、総論的知識を体系的に整理して身につけることを目的とします。国際法は、国内法とは相当に異なる基本構造をもっているため、新たな気持ちで授業に臨んでもらえればと思います。																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、 (1) 国際法の性質や特徴について、第三者に分かりやすく説明できる、 (2) 国際法に関連する、教職関係の試験問題や、各種資格試験で出題される問題に解答する手がかりを得ることができる、 (3) 国際法に関するニュースに触れたときに、その内容を専門的な視点から理解し、第三者に分かりやすく説明できる、 ようになることが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	この授業は、毎回、レジュメを配布して実施します。																																																																		
科目学習の効果（資格）	国際機関やNGOなど国際性豊かな職種を希望する学生はもちろんのこと、国家公務員をはじめとする各種公務員の教養試験や教員資格取得および大学院・法科大学院進学にも役立つ。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>・イントロダクション ・国際法の基本構造</td><td>・授業計画の説明、参考文献紹介 ・国際社会と国内社会の構造上の違い、 国際法の歴史的展開、現代国際法の特徴</td><td>シラバスの講義概要に目を通しておくこと。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>国際法の基礎</td><td>国際法の実在形式、国家責任とその解除方法</td><td>事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間</td></tr> <tr> <td>3</td><td>国際法の法源</td><td>慣習国際法とは？ 慣習法の成立要件</td><td>事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間</td></tr> <tr> <td>4</td><td>条約の締結手続と条約の無効・終了</td><td>条約とは？ 条約の定義、分類、条約の締結手続、条約の無効・終了</td><td>事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間</td></tr> <tr> <td>5</td><td>条約の留保</td><td>留保についての論争。条約法条約、留保の効果</td><td>事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間</td></tr> <tr> <td>6</td><td>国際法主体（1）—国</td><td>国際法主体の構成要素、国家平等</td><td>事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間</td></tr> <tr> <td>7</td><td>国際法主体（2）—国際組織</td><td>国際組織の発展、国連とそのファミリー、国連の表決手続</td><td>事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間</td></tr> <tr> <td>8</td><td>国際法主体（3）—国際連合</td><td>国連の国際法上の機能、国連の法人格と権限、</td><td>事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間</td></tr> <tr> <td>9</td><td>国際法主体（4）—人</td><td>国際人権法の歴史、人権の法典化、さまざまな人権条約、人権条約の国際的実施</td><td>事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間</td></tr> <tr> <td>10</td><td>国際法主体（5）—外国人</td><td>国籍、外国人の出入国、外交的保護</td><td>事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各1時間</td></tr> <tr> <td>11</td><td>国際環境法</td><td>国際環境法の歴史、国際環境規制の特徴、環境に関する国際法の諸原則</td><td>事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各1時間</td></tr> <tr> <td>12</td><td>地球温暖化と国際法</td><td>地球温暖化防止への国際社会の取り組み、気候変動枠組条約、京都議定書、パリ協定</td><td>事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各1時間</td></tr> <tr> <td>13</td><td>ロシアのウクライナ軍事侵攻と国際法（1）</td><td>武力不行使原則とその例外、自衛権</td><td>事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各1時間</td></tr> <tr> <td>14</td><td>ロシアのウクライナ軍事侵攻と国際法（2）</td><td>国連の集団安全保障、国際連盟との比較、国連のロシアに対する対応</td><td>事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各1時間</td></tr> <tr> <td>15</td><td>学期のまとめ</td><td>全体の総括</td><td>事前：これまでのレジュメの総点検を行っておく。 2時間</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	・イントロダクション ・国際法の基本構造	・授業計画の説明、参考文献紹介 ・国際社会と国内社会の構造上の違い、 国際法の歴史的展開、現代国際法の特徴	シラバスの講義概要に目を通しておくこと。	2	国際法の基礎	国際法の実在形式、国家責任とその解除方法	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間	3	国際法の法源	慣習国際法とは？ 慣習法の成立要件	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間	4	条約の締結手続と条約の無効・終了	条約とは？ 条約の定義、分類、条約の締結手続、条約の無効・終了	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間	5	条約の留保	留保についての論争。条約法条約、留保の効果	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間	6	国際法主体（1）—国	国際法主体の構成要素、国家平等	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間	7	国際法主体（2）—国際組織	国際組織の発展、国連とそのファミリー、国連の表決手続	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間	8	国際法主体（3）—国際連合	国連の国際法上の機能、国連の法人格と権限、	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間	9	国際法主体（4）—人	国際人権法の歴史、人権の法典化、さまざまな人権条約、人権条約の国際的実施	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間	10	国際法主体（5）—外国人	国籍、外国人の出入国、外交的保護	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各1時間	11	国際環境法	国際環境法の歴史、国際環境規制の特徴、環境に関する国際法の諸原則	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各1時間	12	地球温暖化と国際法	地球温暖化防止への国際社会の取り組み、気候変動枠組条約、京都議定書、パリ協定	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各1時間	13	ロシアのウクライナ軍事侵攻と国際法（1）	武力不行使原則とその例外、自衛権	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各1時間	14	ロシアのウクライナ軍事侵攻と国際法（2）	国連の集団安全保障、国際連盟との比較、国連のロシアに対する対応	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各1時間	15	学期のまとめ	全体の総括	事前：これまでのレジュメの総点検を行っておく。 2時間
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	・イントロダクション ・国際法の基本構造	・授業計画の説明、参考文献紹介 ・国際社会と国内社会の構造上の違い、 国際法の歴史的展開、現代国際法の特徴	シラバスの講義概要に目を通しておくこと。																																																																
2	国際法の基礎	国際法の実在形式、国家責任とその解除方法	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間																																																																
3	国際法の法源	慣習国際法とは？ 慣習法の成立要件	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間																																																																
4	条約の締結手続と条約の無効・終了	条約とは？ 条約の定義、分類、条約の締結手続、条約の無効・終了	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間																																																																
5	条約の留保	留保についての論争。条約法条約、留保の効果	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間																																																																
6	国際法主体（1）—国	国際法主体の構成要素、国家平等	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間																																																																
7	国際法主体（2）—国際組織	国際組織の発展、国連とそのファミリー、国連の表決手続	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間																																																																
8	国際法主体（3）—国際連合	国連の国際法上の機能、国連の法人格と権限、	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間																																																																
9	国際法主体（4）—人	国際人権法の歴史、人権の法典化、さまざまな人権条約、人権条約の国際的実施	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各1時間																																																																
10	国際法主体（5）—外国人	国籍、外国人の出入国、外交的保護	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各1時間																																																																
11	国際環境法	国際環境法の歴史、国際環境規制の特徴、環境に関する国際法の諸原則	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各1時間																																																																
12	地球温暖化と国際法	地球温暖化防止への国際社会の取り組み、気候変動枠組条約、京都議定書、パリ協定	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各1時間																																																																
13	ロシアのウクライナ軍事侵攻と国際法（1）	武力不行使原則とその例外、自衛権	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各1時間																																																																
14	ロシアのウクライナ軍事侵攻と国際法（2）	国連の集団安全保障、国際連盟との比較、国連のロシアに対する対応	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各1時間																																																																
15	学期のまとめ	全体の総括	事前：これまでのレジュメの総点検を行っておく。 2時間																																																																
関連科目	国際組織法、国際人権法																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ビジュアルテキスト国際法〔第2版〕</td><td>加藤信行ほか編</td><td>有斐閣</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ビジュアルテキスト国際法〔第2版〕	加藤信行ほか編	有斐閣	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	ビジュアルテキスト国際法〔第2版〕	加藤信行ほか編	有斐閣																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法	中間レポート（50％）及び期末試験（50％）の合計により評価する。																																																																		

(基準)	
学生への メッセージ	国際法は国内法とはその構造を相当に異にするので、戸惑うことも多いかと思いますが、毎回の授業を理解しようと努力すれば、きっと皆さんも国際法の面白さに気が付くはずです。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階 鳥谷部研究室
備考	

科目名	国際法Ⅱ（各論）	科目名（英文）	International Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鳥谷部 瑛
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2067a0		

授業概要・目的	この科目は、グローバル時代において益々その重要性を増している国際法について、各論の知識を体系的に整理して身につけることを目的とします。国際法は、国内法とは相当に異なる基本構造をもっているため、新たな気持ちで授業に臨んでもらえればと思います。				
到達目標	この授業を通じて学生には、 (1) 国際法の各論分野の性質や特徴について、第三者に分かりやすく説明できる、 (2) 国際法に関連する、教職関係の試験問題や、各種資格試験で出題される問題に解答する手がかりを得ることができる、 (3) 国際法に関するニュースに触れたときに、その内容を専門的な視点から理解し、第三者に分かりやすく説明できる、 ようになることが期待される。				
授業方法と留意点	この授業は、毎回、レジュメを配布して実施する。				
科目学習の効果（資格）	国際機関やNGOなど国際性豊かな職種を希望する学生はもちろんのこと、国家公務員をはじめとする各種公務員の教養試験や教員資格取得および大学院・法科大学院進学にも役立つ。				
授業計画		回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
		1	イントロダクション 国際法の基本構造	・ 授業計画の説明、参考文献紹介 ・ 国際社会と国内社会の構造上の違い、 国際法の歴史的展開、現代国際法の特徴	シラバスの講義概要に目を通しておくこと。
		2	国際社会で守るルール	国際法の法的拘束力、国際法の存在形式、 国際法の効力、国際法上の責任	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を復習。 各 1 時間
		3	国家の誕生と消滅 国家管轄権	国とは何か、国の始まりと終わり、国家 管轄権、国家免除	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を復習。 各 1 時間
		4	外交・領事関係法	外交関係と領事関係、外交特権免除と領 事特権免除、その他の国家機関の特権免 除	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を復習。 各 1 時間
		5	領土問題	国の領域と領域主権、領域権原と領土紛 争、日本の領土問題	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を復習。 各 1 時間
		6	・ 特殊地域 ・ 宇宙	・ 国際河川と国際運河、南極と北極 ・ 宇宙条約と宇宙関連 4 条約	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を復習。 各 1 時間
		7	海洋法（1）	海洋法の歴史と海洋の区分、内水・領海 と接続水域、国際海峡と群島水域、排他 的経済水域と大陸棚	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を復習。 各 1 時間
		8	海洋法（2）	公海の秩序と公海漁業、海域の境界画 定、深海底とその資源	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を復習。 各 1 時間
		9	国際犯罪	国際犯罪の概念、国による処罰、国際的 な刑事裁判所、犯罪人の引渡し	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を復習。 各 1 時間
		10	紛争の平和的解決（1）	国際裁判、国際裁判以外の紛争解決	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を確認。 各 1 時間
		11	紛争の平和的解決（2）	国際司法裁判所の制度と手続、国連海洋 法条約上の紛争解決制度	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を確認。 各 1 時間
		12	安全保障（1）	戦争・武力行使の違法化、武力不行使原 則とその例外、自衛権、集団安全保障	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を確認。 各 1 時間
		13	安全保障（2）	国連平和維持活動 PKO	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を確認。 各 1 時間
		14	武力紛争法・軍縮法	敵対行為の規制と犠牲者の保護、大量破 壊兵器、通常兵器	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を確認。 各 1 時間
		15	学期のまとめ	全体の総括	事前：これまでのレジュメの総点検を行っておく。 2 時間
関連科目	国際法Ⅰ（総論）、国際組織法、国際人権法				
教科書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1			
		2			
		3			
参考書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1	『ビジュアルテキスト国際法〔第2版〕』	加藤信行ほか編	有斐閣
		2			
		3			
評価方法	中間レポート（50％）と、期末試験（50％）の合計により評価する。				

(基準)	
学生への メッセージ	国際法は国内法とはその構造を相当に異にするので、戸惑うことも多いかと思いますが、毎回の授業を理解しようと努力すれば、きっと皆さんも国際法の面白さに気が付くはずです。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階 鳥谷部研究室
備考	

科目名	国際機構法	科目名（英文）	International Organizations
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鳥谷部 瑛
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3069a0		

授業概要・目的	現代国際社会において、国際連合をはじめとする国際組織は、国家と並ぶ重要な地位を占めるようになっていきます。この科目では、そうした国際組織の設立および活動内容について、国際法の基礎知識を修得することを目的とします。																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、 (1) 国際組織の活動を、国際法の理論や実践と結び付けて理解することができる、 (2) 国際組織に関する時事ニュースについて、国際法の基礎知識を手がかりに読み解く素養を身につける、 (3) 公務員試験や教職の試験に出題される国際組織に関する問題が解ける、 ようになることが期待されます。																																																																		
授業方法と留意点	本科目は、基本的に毎回配布するレジュメに沿って授業を行います。																																																																		
科目学習の効果（資格）	国際法の基礎知識の修得だけでなく、各種資格試験対策にも役立ちます。																																																																		
授業計画	<table> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション</td><td>授業計画の説明、参考文献紹介</td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td>国際組織の歴史</td><td>国際組織の意義、国際組織の誕生の背景、現代の国際組織</td><td>事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間</td></tr> <tr> <td>3</td><td>国際組織の概念</td><td>国際組織の分類、国際組織の組織化と国際組織の発展</td><td>事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間</td></tr> <tr> <td>4</td><td>国際組織の機関と権限</td><td>主要機関と補助機関、司法機関</td><td>事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間</td></tr> <tr> <td>5</td><td>国際組織の地位</td><td>国際組織の法主体性（法人格）</td><td>事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間</td></tr> <tr> <td>6</td><td>国際組織の権限と責任</td><td>条約締結権、特権免除、施政権、国際請求の提起、国際裁判所における当事者能力</td><td>事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間</td></tr> <tr> <td>7</td><td>国際組織と加盟国</td><td>加盟・代表権、国家・政府承認、権利停止・除名・脱退</td><td>事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間</td></tr> <tr> <td>8</td><td>国際組織と NGO（民間団体）</td><td>・ NGO の定義とその役割、国連経済社会理事会と NGO の協力関係、NGO の活動 ・ 中間テストの実施</td><td>事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間</td></tr> <tr> <td>9</td><td>国際組織の意思決定</td><td>全会一致制、多数決制、加重表決制、拒否権、コンセンサス</td><td>事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間</td></tr> <tr> <td>10</td><td>紛争処理</td><td>国家間紛争の処理、国際組織内の法的問題の処理、国際犯罪処罰のための司法機関</td><td>事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間</td></tr> <tr> <td>11</td><td>国連と安全保障</td><td>集団安全保障</td><td>事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間</td></tr> <tr> <td>12</td><td>平和維持活動（PKO）</td><td>伝統的 PKO、新しい形の PKO、PKO の活動形態</td><td>事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間</td></tr> <tr> <td>13</td><td>軍備縮小および軍備管理に関する国際組織</td><td>軍縮の意義、軍縮条約、軍備管理条約</td><td>事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間</td></tr> <tr> <td>14</td><td>国際連合と日本</td><td>戦後の日本と国連、国連加盟後の日本外交</td><td>事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間</td></tr> <tr> <td>15</td><td>学期のまとめ</td><td>全体の総括</td><td>これまでのすべてのレジメの復習と質問を準備しておくこと。 2 時間</td></tr> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業計画の説明、参考文献紹介		2	国際組織の歴史	国際組織の意義、国際組織の誕生の背景、現代の国際組織	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間	3	国際組織の概念	国際組織の分類、国際組織の組織化と国際組織の発展	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間	4	国際組織の機関と権限	主要機関と補助機関、司法機関	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間	5	国際組織の地位	国際組織の法主体性（法人格）	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間	6	国際組織の権限と責任	条約締結権、特権免除、施政権、国際請求の提起、国際裁判所における当事者能力	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間	7	国際組織と加盟国	加盟・代表権、国家・政府承認、権利停止・除名・脱退	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間	8	国際組織と NGO（民間団体）	・ NGO の定義とその役割、国連経済社会理事会と NGO の協力関係、NGO の活動 ・ 中間テストの実施	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間	9	国際組織の意思決定	全会一致制、多数決制、加重表決制、拒否権、コンセンサス	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間	10	紛争処理	国家間紛争の処理、国際組織内の法的問題の処理、国際犯罪処罰のための司法機関	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間	11	国連と安全保障	集団安全保障	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間	12	平和維持活動（PKO）	伝統的 PKO、新しい形の PKO、PKO の活動形態	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間	13	軍備縮小および軍備管理に関する国際組織	軍縮の意義、軍縮条約、軍備管理条約	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間	14	国際連合と日本	戦後の日本と国連、国連加盟後の日本外交	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間	15	学期のまとめ	全体の総括	これまでのすべてのレジメの復習と質問を準備しておくこと。 2 時間
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業計画の説明、参考文献紹介																																																																	
2	国際組織の歴史	国際組織の意義、国際組織の誕生の背景、現代の国際組織	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間																																																																
3	国際組織の概念	国際組織の分類、国際組織の組織化と国際組織の発展	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間																																																																
4	国際組織の機関と権限	主要機関と補助機関、司法機関	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間																																																																
5	国際組織の地位	国際組織の法主体性（法人格）	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間																																																																
6	国際組織の権限と責任	条約締結権、特権免除、施政権、国際請求の提起、国際裁判所における当事者能力	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間																																																																
7	国際組織と加盟国	加盟・代表権、国家・政府承認、権利停止・除名・脱退	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間																																																																
8	国際組織と NGO（民間団体）	・ NGO の定義とその役割、国連経済社会理事会と NGO の協力関係、NGO の活動 ・ 中間テストの実施	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間																																																																
9	国際組織の意思決定	全会一致制、多数決制、加重表決制、拒否権、コンセンサス	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間																																																																
10	紛争処理	国家間紛争の処理、国際組織内の法的問題の処理、国際犯罪処罰のための司法機関	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間																																																																
11	国連と安全保障	集団安全保障	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間																																																																
12	平和維持活動（PKO）	伝統的 PKO、新しい形の PKO、PKO の活動形態	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間																																																																
13	軍備縮小および軍備管理に関する国際組織	軍縮の意義、軍縮条約、軍備管理条約	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間																																																																
14	国際連合と日本	戦後の日本と国連、国連加盟後の日本外交	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各 1 時間																																																																
15	学期のまとめ	全体の総括	これまでのすべてのレジメの復習と質問を準備しておくこと。 2 時間																																																																
関連科目	国際社会と法、国際法の基礎理論、国際人権法																																																																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	中間レポート（50％）と、期末試験（50％）の合計により評価する。																																																																		

学生への メッセージ	皆さんが生活する上で、国家という存在を身近に感じる機会は少ないと思われます。まして、国際組織という存在はなおさら縁遠く感じることでしょう。しかし、新聞やニュースの国際面を見てみてください。頻繁に国際組織が登場しています。現代社会はグローバル化の時代です。世界には100を超える国際組織が活動しています。日本も多くの国際組織に加盟しています。国際組織の活動が私たちの生活に間接的に影響を及ぼす場合が少なくありません。国際組織の活動を通して、国際法のダイナミズムに触れてみましょう。
担当者の 研究室等	11号館10階 鳥谷部研究室
備考	

科目名	日本の政治	科目名 (英文)	Japanese Politics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1070a0		

授業概要・目的	この講義では、いまの政治・政策の大きな課題を取り上げ、テレビのニュース番組に関心を持って見られるようになることを目的とする。選挙で投票するにあたって、政治家や政党の訴えに対して自分の意見が持てるようになってほしいと考える。
到達目標	この講義を通じて学生には、週 1～2 回でもテレビのニュース番組を見て、「この問題、いまそうなっているのか」と思えるよう、前提となる知識を身につけることが期待される。そして、その問題について自分の意見を持てるようにする。
授業方法と留意点	ひとつの時事のテーマを講義 2 回で扱う。時事を扱うため、夏までの情勢を見たあとに授業計画を確定する。講義では、簡単なレジュメを配布し、ニュース映像や新聞記事を多用する。毎回、知識の確認や自分の意見を書く課題（オンラインフォーム）を課す。受講者とのやりとりを心がける。
科目学習の効果（資格）	公務員試験では、教養科目でも社会科学や政治の時事の知識が問われる。民間企業の採用試験でも、一般常識として、政治の仕組みの基礎や時事が問われる。職業社会人と会話をするうえで、政治や政策の話題についていく最低限の知識は不可欠である。この講義では、こういった知識や常識を身につける出発点を提供したい。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	いまの政治・政策の大きな課題に目をとおしてみる。	講義で扱う時事について、学生とやりとりをしながら、いまの政治・政策の大きな課題の概要を確認する。	講義で勧めるニュース番組を通して見てみる（約 1 時間）。
	2	日本の内閣はなぜ長続きしなかった？（1）	第二次安倍内閣以前、内閣が約 1 年しかもたなかった理由を探る。衆議院と参議院の「ねじれ」現象、内閣支持率の動き、無党派層の性格を解説する。	配布した新聞記事を読む。なぜ短命内閣となっていたのか自分の意見を整理して書く（約 1 時間）。
	3	日本の内閣はなぜ長続きしなかった？（2）	第二次安倍内閣以前、内閣が約 1 年しかもたなかった理由を探る。衆議院と参議院の「ねじれ」現象、内閣支持率の動き、無党派層の性格を解説する。	配布した新聞記事を読む。なぜ短命内閣となっていたのか自分の意見を整理して書く（約 1 時間）。
	4	安保法制、どう考える？（1）	2015 年、議論が紛糾した安保法制に考えるにあたって、自衛隊の創設から冷戦以降の自衛隊の役割の拡大の歴史を説明し、国際政治の文脈を意識してもらう。	配布した新聞記事を読む。自衛隊の役割の拡大に関する自分の意見を整理して書く（約 1 時間）。
	5	安保法制、どう考える？（2）	2015 年、議論が紛糾した安保法制に考えるにあたって、自衛隊の創設から冷戦以降の自衛隊の役割の拡大の歴史を説明し、国際政治の文脈を意識してもらう。	配布した新聞記事を読む。自衛隊の役割の拡大に関する自分の意見を整理して書く（約 1 時間）。
	6	消費税を上げるのに賛成？（1）	2019 年 10 月に 10%へ増税された消費税を扱う。日本の借金残高や、借金が増えてきた経緯を説明し、消費税導入と増税の背景を理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。消費税増税に賛成するか、反対するか、自分の意見を整理して書く（約 1 時間）。
	7	消費税を上げるのに賛成？（2）	2019 年 10 月に 10%へ増税された消費税を扱う。日本の借金残高や、借金が増えてきた経緯を説明し、消費税導入と増税の背景を理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。消費税増税に賛成するか、反対するか、自分の意見を整理して書く（約 1 時間）。
	8	尖閣諸島・竹島にこだわる？（1）	近年、日中間、日韓間で争いの種となっている領土問題を取り上げる。歴史の経緯を簡単に整理したうえで、国有化、大統領の上陸などをめぐって、どのような言い争いの構図になっているか説明する。	配布した新聞記事を読む。尖閣諸島・竹島問題に関する自分の意見を整理して書く（約 1 時間）。
	9	尖閣諸島・竹島にこだわる？（2）	近年、日中間、日韓間で争いの種となっている領土問題を取り上げる。歴史の経緯を簡単に整理したうえで、国有化、大統領の上陸などをめぐって、どのような言い争いの構図になっているか説明する。	配布した新聞記事を読む。尖閣諸島・竹島問題に関する自分の意見を整理して書く（約 1 時間）。
	10	日本は TPP のなかでいかに経済を持続的に発展させていくべきかと思う？（1）	原則、関税を撤廃する TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）をめぐる動向や議論を説明する。輸出国である日本にとってのメリット、食品の安全や小規模農業への影響の懸念など、TPP と生活の結びつきを理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。日本が TPP に参加すべきかどうか、自分の意見を整理して書く（約 1 時間）。
	11	日本は TPP のなかでいかに経済を持続的に発展させていくべきかと思う？（2）	原則、関税を撤廃する TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）をめぐる動向や議論を説明する。輸出国である日本にとってのメリット、食品の安全や小規模農業への影響の懸念など、TPP と生活の結びつきを理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。日本が TPP に参加すべきかどうか、自分の意見を整理して書く（約 1 時間）。
	12	原発存続に賛成する？反対する？（1）	特に東日本大震災後、存続・廃止をめぐる議論が行われている原発の問題を扱う。原発の仕組みやリスクを説明したうえで、日本における原発開発の背景と、原発をめぐる資金の流れの意味を考えてもらう。	配布した新聞記事を読む。原発を維持すべきか、廃止すべきか、自分の意見を整理して書く（約 1 時間）。
	13	原発存続に賛成する？反対する？（2）	特に東日本大震災後、存続・廃止をめぐる議論が行われている原発の問題を扱う。原発の仕組みやリスクを説明した	配布した新聞記事を読む。原発を維持すべきか、廃止すべきか、自分の意見を整理して書く（約 1 時間）。

			うえて、日本における原発開発の背景と、原発をめぐる資金の流れの意味を考えてもらう。	
	14	大阪都構想をどう見る？ (1)	地元大阪の政治動向を説明する。特に、既得権益の打破、有権者が決める政治を訴えて勢力を得た維新と、その主張の核となった大阪都構想について解説する。	配布した新聞記事を読む。大阪都構想に対する自分の意見を整理して書く（約1時間）。
	15	大阪都構想をどう見る？ (2)	地元大阪の政治動向を説明する。特に、既得権益の打破、有権者が決める政治を訴えて勢力を得た維新と、その主張の核となった大阪都構想について解説する。	配布した新聞記事を読む。大阪都構想に対する自分の意見を整理して書く（約1時間）。
関連科目	「政治」「政策」「行政」「地方自治」と名のつく講義につながる基礎科目である。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	期末課題(70%)、講義毎回の課題(30%)の合計によって評価する。			
学生への メッセージ	どんな仕事に就いても、政治や政策の問題は避けられません。領土をめぐる中国や韓国との争いが厳しくなったり、国の借金が増え円高になり輸出に不利になったりすれば、よい製品も売れなくなります。加えて、電力の安定的な確保は、生活と仕事の最も基礎にある問題です。自分と家族を守るために、毎日の政治・政策のニュースに関心が持てるようになってほしいと考えて、講義をしていきます。			
担当者の 研究室等	11号館9階 中沼教授室			
備考	講義毎回の課題正解の提示などはTeamsを通じて行う。 23年度 期末課題提出者中合格率94%（登録者では84%） A8% B25% C36% D25% 平均75点 327人登録			

科目名	日本政治史	科目名 (英文)	History of Japanese Politics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2071a0		

授業概要・目的	現代の日本の政治に参加するさい、今までの日本の政治の歴史や政策、また日本の政治が扱ってきた問題などを知っておくことは非常に有益です。なぜなら、それらに基づいて皆さんは自分をとりまく政治問題や政治情勢、望ましい政策や選択肢について考え、意思決定することができるからです。 この授業では、有権者である学生の皆さんに日本の政治の歴史についての基本的な知識を与えることが目的です。近代日本政治史ということで明治以降の日本の政治史が対象になりますが、より皆さんの生活に関係が深い戦後の日本政治史を中心に授業していきます。
到達目標	この授業を通じて学生の皆さんは、日本の政治の仕組み・歴史について基本的な知識・教養を獲得することが期待されます。またそうした知識・教養に基づき、実際の政治活動において①正しい政治的配分や法とは何かを思考することができ、②支持すべきより正しい政治的アクターや政策・法を判断することができ、③投票など政治活動を通じて自分の政治的意見を正しく表現することができることが期待されます。
授業方法と留意点	レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーにある政治問題について自問自答・議論した上で自分の意見を論理的に書いてもらったり、小テストに答えてもらったりすることもあります。
科目学習の効果 (資格)	公務員試験や就職活動において、日本政治史の知識・教養が一般常識として問われる場合があります。また一主権者として実際に政治活動するときには、そうした知識・教養について知っておく必要があります。そうした状況に上手に対応するために、日本の政治史について正しい知識・教養を獲得し、個々の具体的な政策・法のメリット・デメリットを正しく判断し、最終的に自分の意見を政治活動を通じて正しく表現することができます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション～「近代」とは何か？	イントロダクションとして、講義の内容と「近代(modern)」とは何を意味するのかについて授業します。	事前学習：今まで勉強してきた歴史の教科書などを再読し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める (30 分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30 分)。
	2	戦前日本の政治史①～明治・大正の政党の活動と大日本帝国憲法	政党史を中心に大正デモクラシーまでの政治史を概観し、大日本帝国憲法の政治的な重要箇所について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第二回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30 分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30 分)。
	3	戦前日本の政治史②～軍部の台頭	映像資料を見ながら、日本が日中戦争・太平洋戦争へと向かっていった原因の一つである軍部を考えます。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第三回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30 分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30 分)。
	4	戦前日本の政治史③～満州国の設立	映像資料を見ながら、なぜ日本がワシントン体制から脱して満州国設立へと向かって行ってしまったのかを考えます。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第四回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30 分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30 分)。
	5	戦後日本の政治史①～GHQ による日本の初期占領政策	GHQ の日本占領政策と連立政権について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第五回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30 分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30 分)。
	6	戦後日本の政治史②～インフレ対策と逆コース	冷戦の激化にともない、GHQ の日本占領政策が転換していった過程について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第六回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30 分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30 分)。
	7	戦後日本の政治史③～日本の独立と吉田茂の退場	サンフランシスコ平和条約締結周辺の経過と吉田保守本流の外交方針について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第七回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30 分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30 分)。
	8	戦後日本の政治史④～新日米安保条約と安保闘争	岸内閣を中心に、新日米安保条約の改定が望まれた理由や安保闘争の経過について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第八回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30 分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30 分)。
	9	戦後日本の政治史⑤～沖縄返還問題と非核三原則	佐藤内閣を中心に、当時の沖縄返還をめぐる諸問題について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第九回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30 分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30 分)。
	10	戦後日本の政治史⑥～派閥の強化と田中派の隆盛	自民党の派閥政治の特徴と田中派が勢力を拡大していく過程について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第十回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30 分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30 分)。
	11	戦後日本の政治史⑦～田中派から竹下派への禅譲	田中派から竹下派へと自民党の権力が移行していった 80 年代の自民党政治について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第十一回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30 分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30 分)。
	12	戦後日本の政治史⑧～政治	55 年体制が崩壊し、細川連立内閣が成	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第十

		改革と 55 年体制の崩壊	立した 90 年代の政治史を授業します。	二回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30 分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30 分)。																
	13	戦後日本の政治史⑨～小泉内閣から民主党内閣へ	小泉内閣の外交や郵政民営化法案を中心に授業します。	事前学習: 事前配布したレジュメの該当箇所 (第十三回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30 分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30 分)。																
	14	戦後日本の政治史⑩～安倍内閣の諸政策	国家の自衛権とは何かを解説しながら、安倍内閣における集団的自衛権の行使の閣議決定の内容について授業します。	事前学習: 事前配布したレジュメの該当箇所 (第十四回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30 分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30 分)。																
	15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	事前学習: 来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく (30 分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30 分)。試験に向けて教科書やノート、レジュメを読み直す (時間の許す限り)。																
関連科目	中学・高校の日本史、世界史など。大学の日本の政治、政治学原論など。																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>近代日本政治史</td><td>坂野潤治</td><td>岩波書店</td></tr><tr><td>2</td><td>現代日本政治史</td><td>廣澤孝之</td><td>晃洋書房</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	近代日本政治史	坂野潤治	岩波書店	2	現代日本政治史	廣澤孝之	晃洋書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	近代日本政治史	坂野潤治	岩波書店																	
2	現代日本政治史	廣澤孝之	晃洋書房																	
3																				
評価方法 (基準)	レポート (50%) と授業中ないし授業後に行う小テスト (50%) で評価します。																			
学生への メッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、現代の日本の政治についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。																			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館 10 階 和田研究室																			
備考																				

科目名	政治学原論	科目名 (英文)	Political Science
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1072a0		

授業概要・目的	政治学の応用科目としては、行政学、政治思想、地方自治、国際関係などがあります。そうした応用科目を理解する前提として、政治学の基本的な知識・教養を修得している必要があります。また私たちが一市民・一有権者として正しい政治的選択を行うためには、政治の仕組みや歴史について基本的な知識・教養をあらかじめ知っておくことが必要不可欠です。 したがって政治学原論（Principles of Political Science）であるこの授業では、政治学の基本的な諸原理（Principles）にあたる内容を授業します。授業は、ABD（アクティブ・ブック・ダイアログ）、グループワーク、プレゼンテーションなど反転授業で行いますので、事前学習が必要不可欠です。
到達目標	この授業を通じて学生の皆さんは、政治・政治学の基本的な知識・教養を獲得することができます。そうした知識・教養に基づいて、皆さんは行政学や政治思想、地方自治、国際関係といった応用的な政治学をより正確に学ぶことができます。 また ABD で知的能力を、グループワークで社会・対人関係力を、PBL のプレゼンテーションで自己制御能力・実践的能力を向上させることができます。
授業方法と留意点	反転授業で行います。教科書を買う余裕がない人、事前学習を行う余裕がない人は、受講を避けてください。 教科書を買わない人、授業の進め方に不満がある人は、受講を取り消していただきます。 また反転授業というこの授業の特徴に鑑みて、学生の受講人数を制限する場合があります。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や法学基礎検定、就職活動において政治の知識・教養が一般常識として問われる場合がありますので、そうした点で役立つでしょう。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクションー政治とは何か？	イントロダクションとして、本講義の内容と政治ー国家の必要性について授業します。	事前学習：教科書を購入し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する（30 分）。
	2	民主政治の起源①	教科書の第一章に基づき、民主制や自由主義について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第一章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	3	民主政治の起源②	教科書の第一章に基づき、民主制や自由主義について授業します。	事前学習：授業中に配布した課題を読み、インターネットや図書館などから知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	4	民主政治の変容①	教科書の第二章に基づき、現代の大規模デモクラシーや全体主義について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第二章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	5	民主政治の変容②	教科書の第二章に基づき、現代の大規模デモクラシーや全体主義について授業します。	事前学習：授業中に配布した課題を読み、インターネットや図書館などから知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	6	福祉と政治①	教科書の第三章に基づき、福祉国家や新自由主義について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第三章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	7	福祉と政治②	教科書の第三章に基づき、福祉国家や新自由主義について授業します。	事前学習：授業中に配布した課題を読み、インターネットや図書館などから知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	8	民主政治のさまざまな仕組み、議会と政党①	教科書の第四章と第六章に基づき、議院内閣制や国会、政党について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第四章・第六章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	9	民主政治のさまざまな仕組み、議会と政党②	教科書の第四章と第六章に基づき、議院内閣制や国会、政党について授業します。	事前学習：授業中に配布した課題を読み、インターネットや図書館などから知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	10	選挙①	教科書の第五章に基づき、選挙制度や投票行動について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第五章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	11	選挙②	教科書の第五章に基づき、選挙制度や投票行動について授業します。	事前学習：授業中に配布した課題を読み、インターネットや図書館などから知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	12	世論とマスメディア①	教科書の第八章に基づき、世論やマスメディアについて授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第八章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知

				識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。																
	13	世論とマスメディア②	教科書の第八章に基づき、世論やマスメディアについて授業します。	事前学習：授業中に配布した課題を読み、インターネットや図書館などから知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。																
	14	民主政治の現在①	教科書の第十一章に基づき、政治参加やジェンダーについて授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第十一章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。																
	15	民主政治の現在②	教科書の第十一章に基づき、政治参加やジェンダーについて授業します。	事前学習：授業中に配布した課題を読み、インターネットや図書館などから知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。																
関連科目	中学・高校の公民、日本史など。大学の日本の政治など。																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>政治学（第2版）</td><td>川出良枝・谷口将紀編</td><td>東京大学出版会</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	政治学（第2版）	川出良枝・谷口将紀編	東京大学出版会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	政治学（第2版）	川出良枝・谷口将紀編	東京大学出版会																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 （基準）	授業中に行う小テスト（50%）、授業でのプレゼンテーション（50%）で評価します。																			
学生への メッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、政治・政治学についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。																			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館 10 階 和田研究室																			
備考																				

科目名	比較政治	科目名（英文）	Comparative Politics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森 康一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	JDJ2074a0		

授業概要・目的	「比較政治」とは、複数の国家間で政治のあり方を比較した上で、そこから普遍的な理論を導き出すことを目指す学問領域である。 すなわち、社会構造や歴史と政治の関係、文化などは各国で違いがあるが、そういった相違を超えた政治の本質を探究するものである。 具体的には、政治体制・選挙制度・政党・利益集団・政治文化・中央政府と地方政府の関係などに焦点をあて、これらが国によってどう違うか比較し、その違いがどういう結果を各国にもたらしているかを学ぶ。 それによって、客観的に認識可能な要素を抽出していく。																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、日本や主要国の政治体制・選挙制度・政党・利益集団といった政治学の重要な項目について比較しながら理解するとともに、そのことを通じて、現代日本における課題や今後に向けての展望を持つことが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	プリントと板書により講義形式で授業を進めます。自分のまとめノートを作るつもりで、よく講義を聞いて下さい。 また、小テストはMoodle より行うので、受講する学生はMoodle の当授業コース『【後期水曜 3 限・法学部】比較政治（担当：森康一）』を検索の上、登録しておいて下さい。 自己登録キー：1206																																																																		
科目学習の効果（資格）	公務員試験や就職活動において、政治学で扱う内容が一般教養として問われる。 諸外国の政治制度も重要である。 また、有権者として政治参加する際には、選挙制度等の情報について知っておくことが必要である。 この授業によって、上記に関して必要な基本的な知識を得られる。																																																																		
授業計画	<table> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> <tr> <td>1</td><td>講義の目的と内容・成績評価について</td><td>講義の内容全体について</td><td>新聞の政治・国際面を読む習慣をつける</td></tr> <tr> <td>2</td><td>近代議会制と執政制度</td><td>議会制度と統治形態の分類について</td><td>大統領制と議院内閣制の違いについて調べておく（約 1 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>選挙制度</td><td>選挙制度の分類とその特徴について</td><td>小選挙区制と比例代表制の違いについて調べておく（約 1 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>各国の政治制度・選挙制度①</td><td>日本の政治制度・選挙制度について（1）</td><td>日本の三権分立システムについて調べておく（約 1 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>各国の政治制度・選挙制度②</td><td>日本の政治制度・選挙制度について（2）</td><td>「小選挙区比例代表制」とはどういうものかについて調べておく（約 1 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>各国の政治制度・選挙制度③</td><td>アメリカとイギリスの政治制度・選挙制度について</td><td>アメリカの大統領制とイギリスの議院内閣制について調べておく（約 1 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>各国の政治制度・選挙制度④</td><td>フランスとドイツの政治制度・選挙制度について政党および政党制の分類と、各国の政党制について</td><td>フランスの半大統領制とドイツのワイマール期の政治状況について調べておく（約 1 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>政党</td><td>政党および政党制の分類と、各国の政党制について</td><td>政党システムとは何か？について調べておく（約 1 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>利益集団</td><td>日米欧における利益集団のあり方の比較について</td><td>ネオ・コーポラティズムについて調べておく（約 1 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>民主主義体制</td><td>民主主義体制をめぐる諸議論について</td><td>多極共存型民主主義について調べておく（約 1 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>非民主主義体制</td><td>非民主主義体制をめぐる諸議論について</td><td>権威主義体制について調べておく（約 1 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>民主化</td><td>非民主主義体制から民主主義体制への体制転換について</td><td>東欧の体制転換について調べておく（約 1 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>政治文化</td><td>政治文化をめぐる各国の比較について</td><td>市民文化とは何か調べておく（約 1 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>中央・地方関係</td><td>中央政府と地方自治体の関係をめぐる各国の比較について</td><td>日本の地方分権一括法について調べておく（約 1 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ</td><td>講義のまとめと、試験について</td><td>レジュメ・ノートを整理し、試験に向けての準備をする（約 4 時間）</td></tr> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	講義の目的と内容・成績評価について	講義の内容全体について	新聞の政治・国際面を読む習慣をつける	2	近代議会制と執政制度	議会制度と統治形態の分類について	大統領制と議院内閣制の違いについて調べておく（約 1 時間）	3	選挙制度	選挙制度の分類とその特徴について	小選挙区制と比例代表制の違いについて調べておく（約 1 時間）	4	各国の政治制度・選挙制度①	日本の政治制度・選挙制度について（1）	日本の三権分立システムについて調べておく（約 1 時間）	5	各国の政治制度・選挙制度②	日本の政治制度・選挙制度について（2）	「小選挙区比例代表制」とはどういうものかについて調べておく（約 1 時間）	6	各国の政治制度・選挙制度③	アメリカとイギリスの政治制度・選挙制度について	アメリカの大統領制とイギリスの議院内閣制について調べておく（約 1 時間）	7	各国の政治制度・選挙制度④	フランスとドイツの政治制度・選挙制度について政党および政党制の分類と、各国の政党制について	フランスの半大統領制とドイツのワイマール期の政治状況について調べておく（約 1 時間）	8	政党	政党および政党制の分類と、各国の政党制について	政党システムとは何か？について調べておく（約 1 時間）	9	利益集団	日米欧における利益集団のあり方の比較について	ネオ・コーポラティズムについて調べておく（約 1 時間）	10	民主主義体制	民主主義体制をめぐる諸議論について	多極共存型民主主義について調べておく（約 1 時間）	11	非民主主義体制	非民主主義体制をめぐる諸議論について	権威主義体制について調べておく（約 1 時間）	12	民主化	非民主主義体制から民主主義体制への体制転換について	東欧の体制転換について調べておく（約 1 時間）	13	政治文化	政治文化をめぐる各国の比較について	市民文化とは何か調べておく（約 1 時間）	14	中央・地方関係	中央政府と地方自治体の関係をめぐる各国の比較について	日本の地方分権一括法について調べておく（約 1 時間）	15	まとめ	講義のまとめと、試験について	レジュメ・ノートを整理し、試験に向けての準備をする（約 4 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	講義の目的と内容・成績評価について	講義の内容全体について	新聞の政治・国際面を読む習慣をつける																																																																
2	近代議会制と執政制度	議会制度と統治形態の分類について	大統領制と議院内閣制の違いについて調べておく（約 1 時間）																																																																
3	選挙制度	選挙制度の分類とその特徴について	小選挙区制と比例代表制の違いについて調べておく（約 1 時間）																																																																
4	各国の政治制度・選挙制度①	日本の政治制度・選挙制度について（1）	日本の三権分立システムについて調べておく（約 1 時間）																																																																
5	各国の政治制度・選挙制度②	日本の政治制度・選挙制度について（2）	「小選挙区比例代表制」とはどういうものかについて調べておく（約 1 時間）																																																																
6	各国の政治制度・選挙制度③	アメリカとイギリスの政治制度・選挙制度について	アメリカの大統領制とイギリスの議院内閣制について調べておく（約 1 時間）																																																																
7	各国の政治制度・選挙制度④	フランスとドイツの政治制度・選挙制度について政党および政党制の分類と、各国の政党制について	フランスの半大統領制とドイツのワイマール期の政治状況について調べておく（約 1 時間）																																																																
8	政党	政党および政党制の分類と、各国の政党制について	政党システムとは何か？について調べておく（約 1 時間）																																																																
9	利益集団	日米欧における利益集団のあり方の比較について	ネオ・コーポラティズムについて調べておく（約 1 時間）																																																																
10	民主主義体制	民主主義体制をめぐる諸議論について	多極共存型民主主義について調べておく（約 1 時間）																																																																
11	非民主主義体制	非民主主義体制をめぐる諸議論について	権威主義体制について調べておく（約 1 時間）																																																																
12	民主化	非民主主義体制から民主主義体制への体制転換について	東欧の体制転換について調べておく（約 1 時間）																																																																
13	政治文化	政治文化をめぐる各国の比較について	市民文化とは何か調べておく（約 1 時間）																																																																
14	中央・地方関係	中央政府と地方自治体の関係をめぐる各国の比較について	日本の地方分権一括法について調べておく（約 1 時間）																																																																
15	まとめ	講義のまとめと、試験について	レジュメ・ノートを整理し、試験に向けての準備をする（約 4 時間）																																																																
関連科目	日本の政治・世界の政治・政治過程論																																																																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td>比較政治制度論</td><td>建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史</td><td>有斐閣</td></tr> <tr> <td>2</td><td>比較政治の考え方</td><td>久保慶一・末近浩太・高橋百合子</td><td>有斐閣</td></tr> <tr> <td>3</td><td>比較政治制度論</td><td>田口富久治・中谷義和</td><td>法律文化社</td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	比較政治制度論	建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史	有斐閣	2	比較政治の考え方	久保慶一・末近浩太・高橋百合子	有斐閣	3	比較政治制度論	田口富久治・中谷義和	法律文化社																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	比較政治制度論	建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史	有斐閣																																																																
2	比較政治の考え方	久保慶一・末近浩太・高橋百合子	有斐閣																																																																
3	比較政治制度論	田口富久治・中谷義和	法律文化社																																																																
評価方法（基準）	・原則として、「公欠を除く欠席が 5 回以内」の学生のみを成績評価の対象とします。 ・成績評価は ○平常点 20%：小テスト×2 回（第 6 回・第 11 回の授業日に Moodle から実施。当該日の任意の時間に受験可能。各回 10 点満点） ○期末試験 80%：論述式。5 問出題し、そのうち 2 問を選択してもらいます。各問 40 点満点。 の合計点によって評価を行います。 ・期末試験において持ち込みは認めません。																																																																		
学生へのメッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、世界で起きていることに関心を持ってください。 そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようにしてください。																																																																		
担当者の	11 号館 5 階 法学部資料室（法学部非常勤講師室）																																																																		

研究室等	
備考	

科目名	世界の政治	科目名 (英文)	World Politics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森 康一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1075a0		

授業概要・目的	この講義では、第二次世界大戦後から現在までの国際関係についてとりあげる。前半では米ソを中心とする冷戦時代の国際政治を説明し、後半では冷戦後の国際関係と個別的な時事問題を考える。歴史をふまえた上で、現在の国際政治を理解する土台を作ることを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、第二次世界大戦後の国際政治の流れを理解し、現在の国際関係を考える基礎となる知識を身につけることが期待される。
授業方法と留意点	プリントと板書により講義形式で授業を進めます。自分のまとめノートを作るつもりで、よく講義を聞いて下さい。 また、小テストは Moodle より行うので、受講する学生は Moodle の当授業コース「【後期水曜 2 限・法学部】世界の政治・世界の政治と社会 (担当: 森康一)」を検索の上、登録しておいて下さい。他学部開講の同名講義と間違えないように登録すること。 自己登録キー: 1206
科目学習の効果 (資格)	公務員試験や就職時に、日本と世界の関わりという点で国際情勢について問われる場面は多い。この授業によって、現在の国際情勢を理解するうえで必要な知識を習得することができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	講義の目的と内容・成績評価について	講義の内容全体について	高校世界史の教科書などで、冷戦期の国際政治の流れについて一通り読んでおく (約 2 時間)
	2	冷戦時代の国際関係 (1)	ヤルタ体制および冷戦初期の国際政治について	冷戦初期の国際情勢について調べておく (約 30 分) レジュメ (第 2 回) を見直しておく (約 1 時間)
	3	冷戦時代の国際関係 (2)	第三世界の台頭、ヨーロッパ統合の理想と現実について	「アジア・アフリカ会議」、「非同盟諸国首脳会議」について調べておく (約 30 分) レジュメ (第 3 回) を見直しておく (約 1 時間)
	4	冷戦時代の国際関係 (3)	多極化とデタントについて	「キューバ危機」について調べておく (約 30 分) レジュメ (第 4 回) を見直しておく (約 1 時間)
	5	冷戦時代の国際関係 (4)	「新冷戦」と冷戦の終焉について	ゴルバチョフについて調べておく (約 30 分) レジュメ (第 5 回) を見直しておく (約 1 時間)
	6	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ (1)	冷戦終結後の国際政治全般について	「文明の衝突」について調べておく (約 30 分) レジュメ (第 6 回) を見直しておく (約 1 時間)
	7	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ (2)	ヨーロッパを中心とした冷戦終結後の国際政治について	ユーゴスラヴィアの成り立ちについて調べておく (約 30 分) レジュメ (第 7 回) を見直しておく (約 1 時間)
	8	グローバルな問題群	核・食料・環境問題について	「核抑止」について調べておく (約 30 分) レジュメ (第 8 回) を見直しておく (約 1 時間)
	9	同時テロと「イラク戦争」後の世界秩序	「9. 11」以後の国際政治について	「9. 11 テロ」について調べておく (約 30 分) レジュメ (第 9 回) を見直しておく (約 1 時間)
	10	米ロの核軍縮	核問題をめぐる米ロ関係について	オバマ大統領の「ブラハ演説 (2009)」について調べておく (約 30 分) レジュメ (第 10 回) を見直しておく (約 1 時間)
	11	米中関係のゆくえ	アメリカと中国の外交関係について	「ヴェトナム戦争」について調べておく (約 30 分) レジュメ (第 11 回) を見直しておく (約 1 時間)
	12	中東問題のゆくえ	中東問題の経緯と「中東和平」の展望について	イスラエルの成り立ちについて調べておく (約 30 分) レジュメ (第 12 回) を見直しておく (約 1 時間)
	13	緊迫する朝鮮半島情勢	韓国・北朝鮮をめぐる国際関係について	「朝鮮戦争」について調べておく (約 30 分) レジュメ (第 13 回) を見直しておく (約 1 時間)
	14	日本の安全保障	現在の日本がかかえる国際問題について	日本の領土問題について調べておく (約 30 分) レジュメ (第 14 回) を見直しておく (約 1 時間)
	15	まとめ	講義のまとめと試験について	講義全体を振り返り、期末試験の準備をする

関連科目	国際関係論、国際関係史
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際政治	藤原帰一	日本放送出版協会
	2	国際政治学をつかむ	村田晃嗣・君塚直隆他	有斐閣
	3	国際紛争	ジョゼフ・S・ナイ・ジュニア (田中明彦訳)	有斐閣

評価方法 (基準)	・原則として、「欠欠を除く欠席が 5 回以内」の学生のみを成績評価の対象とします。 ・成績評価は ○平常点 20% : 小テスト×2 回 (第 6 回・第 11 回の授業日に Moodle から実施。当該日の任意の時間に受験可能。各回 10 点満点) ○期末試験 80% : 論述式。5 問出題し、そのうち 2 問を選択してもらいます。各問 40 点満点。 の合計点によって評価を行います。 ・期末試験において持ち込みは認めません。
学生へのメッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、世界で起っていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようにしてください。

担当者の 研究室等	11 号館 5 階 法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	

科目名	公共政策論	科目名（英文）	Public Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	増田 知也
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2080a0		

授業概要・目的	公共政策とは、公共的な問題を解決するための方策と具体的手段の体系を意味する。社会の中には多種多様な問題が存在するが、その中でも社会が取り組むべきと考えられる公共的な問題に対応するのが公共政策である。この授業では、公共政策がなぜ必要とされるか、公共政策はどのようなプロセスで作られ、決定され、実施され、評価されるか、社会の中の様々な主体が公共政策においてどのような役割を果たしているか、公共政策をめぐる論点にはどのようなものがあるか、などの点について学ぶ。
到達目標	この授業を通じて学生には、公共政策に関する重要な概念や理論について説明することができ、社会における問題を発見・分析することができ、公共政策をめぐる主要な課題について自分の意見を述べるができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	毎回冒頭に、前回の小テストの解説と質問への応答を行う。 その後、穴埋め式のレジュメを配布し、スライドを提示しながら解説を行う。 授業後、オンラインで小テストを実施してもらう。

科目学習の 効果（資格）	
-----------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	公共政策とは何か	公共政策という言葉の意味と、公共政策学の特徴について学ぶ。	事前：参考書による予習（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）
	2	市場の失敗と政府の失敗	公共政策の必要性と、公共財について学ぶ。	事前：参考書による予習（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）
	3	政策過程	問題発見から政策実施、政策評価に至るプロセスについて学ぶ。	事前：参考書による予習（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）
	4	アジェンダ設定	アジェンダ（課題）設定の理論について学ぶ。	事前：参考書による予習（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）
	5	政策問題の構造化	問題構造化の手法について学ぶ。	事前：参考書による予習（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）
	6	公共政策の手段	政策手段の種類や考え方について学ぶ。	事前：参考書による予習（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）
	7	規範的判断	公共政策における価値観の問題について学ぶ。	事前：参考書による予習（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）
	8	政策決定と合理性	合理的意思決定の試みと限界について学ぶ。	事前：参考書による予習（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）
	9	政策決定と利益	政策決定過程における利益の調整について学ぶ。	事前：参考書による予習（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）
	10	政策決定と制度	政策決定過程に制度が及ぼす影響について学ぶ。	事前：参考書による予習（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）
	11	政策決定とアイデア	政策決定においてアイデア（理念）が果たす役割について学ぶ。	事前：参考書による予習（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）
	12	公共政策の実施	政策実施の位置づけと実態について学ぶ。	事前：参考書による予習（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）
	13	公共政策の評価	政策評価の方法と評価方法をめぐる議論について学ぶ。	事前：参考書による予習（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）
	14	公共政策管理のシステム	ガバナンスの考え方について学ぶ。	事前：参考書による予習（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）
	15	公共政策の展望	授業全体を振り返り、公共政策の今後のあり方を展望する。	事前：参考書による予習（2 時間） 事後：小テストの内容について復習する（2 時間）

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門・公共政策学	秋吉貴雄	中央公論新社
	2	公共政策学の基礎	秋吉 貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉	有斐閣
	3			

評価方法（基準）	小テスト 50%、期末レポート 50%
----------	---------------------

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等備考	11 号館 10 階 増田講師室
------------	------------------

科目名	地域政策論	科目名 (英文)	Regional Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	増田 知也
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2083a0		

授業概要・目的	協働とは、行政・企業・NPO などが、共通の目的に向かって対等の立場で協力して活動することを意味する。行政だけが公共を担うという従来の考え方から、さまざまな主体がネットワーク化されることで公共を担っていくという考え方への変化が起こっている。この授業では、協働の担い手となる人（地域公共人材）に着目しながら、どのようにして協働型社会を形成すれば良いかを様々な面から検討する。
到達目標	この授業を通じて学生には、協働概念を理解するのに必要な概念について説明することができ、文献の要点をまとめ、分かりやすく発表することができ、地域の問題を自分の問題として考え、意見を持つことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	ABD（Active Book Dialogue）の手法を用いて、グループごとに分担して文献を要約し、発表し合う。 その後、穴埋め式のレジュメを配布し、解説を行う。 授業後に小テストを実施し、次の回の冒頭に解説と質問への回答を行う。
科目学習の効果（資格）	住民としての行政との向き合い方、自治体職員としての住民との向き合い方を学ぶことができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	地域における人の力	協働における人材の重要性について、基本となる考え方を学ぶ。	事前:『地域公共人材をつくる』序章を読む（2 時間） 事後:小テストの内容について復習する（2 時間）
	2	協働型社会の理論	協働型社会についての理論を学ぶ。	事前:『地域公共人材をつくる』第 1 章を読む（2 時間） 事後:小テストの内容について復習する（2 時間）
	3	地域公共人材の意味	京都府における地域公共人材育成の事例から、協働のための人材育成の意味を考察する。	事前:『地域公共人材をつくる』第 2 章を読む（2 時間） 事後:小テストの内容について復習する（2 時間）
	4	協働と地域公共人材	協働のための人材育成において、大学が果たす役割を考察する。	事前:『地域公共人材をつくる』第 3 章を読む（2 時間） 事後:小テストの内容について復習する（2 時間）
	5	もやい直しと協働	熊本県水俣市を事例に、行政と市民が担うべき役割について考察する。	事前:『地域公共人材をつくる』第 4 章と第 7 章を読む（2 時間） 事後:小テストの内容について復習する（2 時間）
	6	協働の担い手としての子どもたち	滋賀県米原市を事例に、子どもの権利と社会参加について学ぶ。熊本県水川町宮原を事例に、子どもたちや大学生が地域活動を担うことの意味を考察する。	事前:『地域公共人材をつくる』第 5 章と第 6 章を読む（2 時間） 事後:小テストの内容について復習する（2 時間）
	7	NPO と協働	兵庫県芦屋市と愛知県田原市を事例に、NPO が人材育成に果たす役割について考察する。	事前:『地域公共人材をつくる』第 8 章と第 9 章を読む（2 時間） 事後:小テストの内容について復習する（2 時間）
	8	市民と企業、市民と議会の協働	京都府京都市を事例に、ソーシャルビジネスの可能性について考察する。北海道登別市を事例に、市民と議会の協働の可能性について考察する。	事前:『地域公共人材をつくる』第 10 章と第 13 章を読む（2 時間） 事後:小テストの内容について復習する（2 時間）
	9	住民運動と市民活動	奈良県葛城市を事例に、住民と行政の対立を協働へと発展させる方法について考察する。広島県福山市鞆町を事例に、市民活動が果たす役割について考察する。	事前:『地域公共人材をつくる』第 11 章と第 12 章を読む（2 時間） 事後:小テストの内容について復習する（2 時間）
	10	協働と地域公共人材の展望	京都府丹波・丹後地域を事例に、協働の担い手となる地域リーダーの育成方法について考察する。授業全体を振り返りつつ、今後の協働と人材育成のあり方を展望する。	事前:『地域公共人材をつくる』第 14 章と終章を読む（2 時間） 事後:小テストの内容について復習する（2 時間）
	11	住民の権利と責任	憲法や地方自治法における住民の位置づけについて学ぶ。	事前:『地方自治と民主主義』第 6 章を読む（2 時間） 事後:小テストの内容について復習する（2 時間）
	12	住民意識の変化と自治行政	住民の受益者化について学ぶ。	事前:『地方自治と民主主義』第 7 章を読む（2 時間） 事後:小テストの内容について復習する（2 時間）
	13	住民運動の衝撃	住民運動の特色について学ぶ。	事前:『地方自治と民主主義』第 8 章を読む（2 時間） 事後:小テストの内容について復習する（2 時間）
	14	住民参加への取り組み	住民参加の意義と課題について学ぶ。	事前:『地方自治と民主主義』第 9 章を読む（2 時間） 事後:小テストの内容について復習する（2 時間）
	15	対立から協働へ	行政と住民の対立関係を協働関係に変えるための方法について考察する。	事前:論文「行政広報は『お知らせ』以上のものになれるか?」を読む（2 時間） 事後:小テストの内容について復習する（2 時間）

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地域公共人材をつくる	今川晃・梅原豊	法律文化社
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テスト 50%、期末レポート 50%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	11 号館 10 階 増田准教授室
備考	

科目名	地域政策研究 I	科目名 (英文)	Studies of Regional Policy I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	増田 知也
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3085a0		

授業概要・目的	この授業は、「住民自治」をキーワードに、地域政策を実践的に学ぶための科目です。地方自治の現場における様々な事例を取り上げ、関連する知識と共に、常に住民を主体に考えるという視点を身につけてもらいたいと思います。
到達目標	この授業を通じて学生には、地域政策における重要用語の意味を説明することができ、住民自治の視点から地域政策を分析することができ、地域政策についての自分の意見を持ち、他者と討議することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	ABD (Active Book Dialogue) の手法を用いて、グループごとに分担して文献を要約し、発表し合う。 その後、穴埋め式のレジュメを配布し、解説を行う。 授業後に小テストを実施し、次の回の冒頭に解説と質問への回答を行う。
科目学習の効果 (資格)	将来公務員を目指す学生が地域政策の課題や重要概念について学ぶことができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	地方自治に未来はあるか	内容:民主主義国家における地方自治の役割を学ぶ 方法:「授業方法と留意点」を参照	事前:『地方自治と民主主義』第 1 章を読む (2 時間) 事後:確認テストの内容について復習する (2 時間)
	2	日本国憲法と地方自治	内容:日本国憲法における地方自治の位置づけを学ぶ 方法:「授業方法と留意点」を参照	事前:『地方自治と民主主義』第 2 章を読む (2 時間) 事後:確認テストの内容について復習する (2 時間)
	3	望まれる地方公務員像	内容:地方公務員制度の課題について学ぶ 方法:「授業方法と留意点」を参照	事前:『地方自治と民主主義』第 23 章を読む (2 時間) 事後:確認テストの内容について復習する (2 時間)
	4	地方自治に未来をあらしめるために	内容:地方自治の課題について学ぶ 方法:「授業方法と留意点」を参照	事前:『地方自治と民主主義』第 24 章を読む (2 時間) 事後:確認テストの内容について復習する (2 時間)
	5	私たちと地方自治	内容:地方自治の分析視点を学ぶ 方法:「授業方法と留意点」を参照	事前:『地方自治を問いなおす』序章を読む (2 時間) 事後:確認テストの内容について復習する (2 時間)
	6	地方自治とコミュニティ・ソリューション	内容:コミュニティによる問題解決の手法を学ぶ 方法:「授業方法と留意点」を参照	事前:『地方自治を問いなおす』第 1 章を読む (2 時間) 事後:確認テストの内容について復習する (2 時間)
	7	迷惑施設問題と手続き的公正	内容:迷惑施設問題について学ぶ 方法:「授業方法と留意点」を参照	事前:『地方自治を問いなおす』第 2 章を読む (2 時間) 事後:確認テストの内容について復習する (2 時間)
	8	グローバル化社会における地方自治	内容:グローバル化の地方自治への影響について学ぶ 方法:「授業方法と留意点」を参照	事前:『地方自治を問いなおす』第 3 章を読む (2 時間) 事後:確認テストの内容について復習する (2 時間)
	9	行政現場における政策形成過程と施策形成過程	内容:政策形成過程について学ぶ 方法:「授業方法と留意点」を参照	事前:『地方自治を問いなおす』第 4 章を読む (2 時間) 事後:確認テストの内容について復習する (2 時間)
	10	自治体行政と協働	内容:自治体組織における協働の課題について学ぶ 方法:「授業方法と留意点」を参照	事前:『地方自治を問いなおす』第 5 章を読む (2 時間) 事後:確認テストの内容について復習する (2 時間)
	11	地域住民協議会の運営と展望	内容:地域自治組織の運営上の課題について学ぶ 方法:「授業方法と留意点」を参照	事前:『地方自治を問いなおす』第 6 章を読む (2 時間) 事後:確認テストの内容について復習する (2 時間)
	12	住民自治と地域活動	内容:地域活動の課題について学ぶ 方法:「授業方法と留意点」を参照	事前:『地方自治を問いなおす』第 7 章を読む (2 時間) 事後:確認テストの内容について復習する (2 時間)
	13	住民自治を支える公民館運営	内容:地方自治における公民館の役割について学ぶ 方法:「授業方法と留意点」を参照	事前:『地方自治を問いなおす』第 8 章を読む (2 時間) 事後:確認テストの内容について復習する (2 時間)
	14	住民自治と行政相談委員	内容:行政相談委員が地方自治に与える影響について学ぶ 方法:「授業方法と留意点」を参照	事前:『地方自治を問いなおす』第 9 章を読む (2 時間) 事後:確認テストの内容について復習する (2 時間)
	15	地方自治を問いなおす	内容:これからの地方自治を展望する方法:「授業方法と留意点」を参照	事前:『地方自治を問いなおす』終章を読む (2 時間) 事後:確認テストの内容について復習する (2 時間)

関連科目				
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地方自治を問いなおす：住民自治の実践がひらく新地平	今川晃	法律文化社
	2	地方自治と民主主義	佐藤竺	大蔵省印刷局
	3			
評価方法 (基準)	小テスト 50%、期末レポート 50%			
学生への				

メッセージ	
担当者の 研究室等	11 号館 10 階 増田准教授室
備考	

科目名	地域政策研究Ⅱ	科目名（英文）	Studies of Regional Policy Ⅱ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3086a0		

授業概要・目的	2023 年度まで「地域防犯政策」として開講されていた科目である。 長い間、「犯罪を減らすのは警察の仕事」、「犯人を捕まえれば犯罪は減る」というのが当然と思われてきた。しかし、1990 年代後半から犯罪の認知件数が急増すると、「市民を守るのは警察」、「検挙が最大の防犯」という考え方に対する疑問が出てきた。かわりに、「行政・警察・住民一体でまちを守る」、「犯罪が起きにくいまちづくりを」と言われるようになる。このように犯罪発生の問題をまちづくりの課題としてとらえ、犯罪抑止を目的として打ち出されてきた施策・事業の集まりを「地域防犯政策」と呼びたい。本講義では、地域防犯政策の展開を具体的な事例に照らして説明する。
到達目標	この講義を通じて、学生には次のことが期待される。①犯罪が増える背景には、ふつうはよいものと考えられる規制緩和、国際化、情報化という社会の動向があることを理解する。②犯罪に対する政策が、捜査・検挙と更生という事後の視点から、抑止と教育という事前の視点に重点を移している理由を考える。③自治体（特に市町村）が防犯に予算と人を投入する意義と、地域住民がボランティアで防犯に取り組む意味を知る。
授業方法と留意点	個別の政策に関する勉強なので教えるレベルは高くなる。加えて、「なぜ犯罪が増えたのか」、「どうすれば犯罪が減るのか」という問いには、明確なひとつの答えがあるわけではないので、自分の頭で考えることが大事になる。
科目学習の効果（資格）	公務員試験の課題式論文の対策に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	犯罪の種類と数え方	罪種と手口の関係、刑法犯における窃盗の数の比重、発生件数・認知件数・検挙件数・暗数といった基礎を学ぶ。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約1時間）
	2	警察の組織	公安委員会と警察本部、警察庁と警察本部、階級と専務といった組織の特徴を考える。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約1時間）
	3	刑事と生活安全との関係	刑事と生活安全の考え方の違いと協力関係を探る。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約1時間）
	4	犯罪の原因と対策	犯罪原因論と犯罪機会論を具体例を踏まえて見る。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約1時間）
	5	犯罪の増加とその背景	平成14年をピークとした犯罪増について、窃盗増加の比重と、その社会的背景を検討する。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約1時間）
	6	犯罪の減少とその背景	平成15年以降の犯罪減について、窃盗減少の比重と、その社会的背景を検討する。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約1時間）
	7	乗り物盗	自動車盗・オートバイ盗・自転車盗について、数値・加害者視点・防犯対策で考える。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約1時間）
	8	車上ねらい・部品ねらい	車上ねらい・部品ねらいについて、数値・加害者視点・防犯対策で考える。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約1時間）
	9	ひったくり・路上強盗	ひったくり・路上強盗について、数値・加害者視点・防犯対策で考える。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約1時間）
	10	性犯罪	強制性交等・強制わいせつ・公然わいせつ・迷惑行為防止条例違反について、数値・加害者視点・防犯対策で考える。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約1時間）
	11	住宅侵入盗	空き巣・忍び込み・居空き・住宅侵入強盗について、数値・加害者視点・防犯対策で考える。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約1時間）
	12	特殊詐欺	特殊詐欺について、数値・加害者視点・防犯対策で考える。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約1時間）
	13	防犯カメラ	捜査検挙の不可欠な手段となった防犯カメラについて、数値や経緯、課題を検討する。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約1時間）
	14	防犯ボランティア	平成の治安悪化とともに各地に広がった防犯ボランティアについて、数値や経緯、課題を検討する。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約1時間）
15	まとめ	これまでのまとめをとおして、日本の地域防犯政策の特徴と今後の課題を考える。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約1時間）	

関連科目	本講義の入門編として、教養特別講義「身近な犯罪から自分、家族、まちを守る」がある。
------	---

教科書																				
	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				

参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	講義時に課すペーパーの累積点（30％）と、期末課題の点数（70％）の合計で評価を行う。
----------	---

学生への	「学」（がく）というより、近年と現在の動向を考える講義なので、問題意識を持って講義に臨んでほしいです。自治体職員（公務員）や警察官
------	---

メッセージ	志望の学生にとっては、将来の仕事を考える機会にもなると思います。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階 中沼教授室
備考	講義毎回の課題正解は Teams で公開します。 22 年度 期末課題提出者中合格率 95%（登録者では 86%） A11% B 44% C 31% D 9% 平均 79 点 103 人登録 *23 年度の数値は集計中につき初回に示す。

科目名	スポーツ法学	科目名（英文）	Sports Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2087a0		

授業概要・目的	スポーツに関する法令を学ぶとともに、関連する判例や諸問題を検討することを通して、スポーツ法学についての理解を深める。また、法学に関する体系的な理解の一助とする。																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、法とスポーツ活動との様々な接点を理解できるようになることが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	教科書『スポーツ法へのファーストステップ』を用いて授業を行います。授業中に提示した課題を解決するため、および事前・事後の学習のために ICT ツールを活用していただく場合もあります。対面による授業を原則とします。																																																																		
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者資格取得のための科目でもある。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>スポーツと法（１）</td><td>スポーツの概念、特性</td><td>スポーツの概念や特徴についてまとめる。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>スポーツと法（２）</td><td>スポーツ基本法の制定（スポーツの自治とガバナンス・コンプライアンス）</td><td>関連資料に目を通すこと</td></tr> <tr> <td>3</td><td>スポーツと法（３）</td><td>スポーツ活動と関連法令</td><td>関連資料に目を通すこと。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>スポーツに親しむ権利（１）</td><td>スポーツへのアクセス</td><td>関連資料に目を通すこと。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>スポーツに親しむ権利（２）</td><td>スポーツ権論・習熟度の確認</td><td>前回の講義と関連づけてまとめる。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>スポーツと教育</td><td>学校スポーツ、社会スポーツ（生涯スポーツ）の展開と関連法令</td><td>関連資料に目を通すこと。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>スポーツに関する紛争</td><td>スポーツ仲裁制度</td><td>関連資料に目を通すこと。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>スポーツ振興と法、これまでの講義のまとめ</td><td>スポーツの振興に関する法令、および習熟度確認</td><td>これまでの講義を体系的にまとめること。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>スポーツと国籍</td><td>スポーツへの参加と国籍</td><td>配布資料に目を通すこと。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>スポーツと社会的平等</td><td>スポーツとジェンダー・習熟度の確認</td><td>関連資料に目を通すこと。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>スポーツ事故と責任（１）</td><td>スポーツ活動中（学校での活動を含む）の事故と法（民法、刑法、国家賠償法）</td><td>民法、刑法および国家賠償法の関連条項の整理。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>スポーツ事故と責任（２）</td><td>スポーツ活動中の事故と当事者・指導者の法的責任①</td><td>配布資料に目を通すこと。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>スポーツ事故と責任（３）</td><td>スポーツ活動中の事故と指導者・当事者の法的責任②</td><td>前回の講義と関連づけてまとめる。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>スポーツ事故と責任（４）</td><td>フランスにけるスポーツ事故と法的責任</td><td>スポーツ事故の発生と法的責任の発生に関してまとめる</td></tr> <tr> <td>15</td><td>講義の総括と習熟度検査</td><td>講義の総括と習熟度確認試験</td><td>講義全体を体系的に整理する。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	スポーツと法（１）	スポーツの概念、特性	スポーツの概念や特徴についてまとめる。	2	スポーツと法（２）	スポーツ基本法の制定（スポーツの自治とガバナンス・コンプライアンス）	関連資料に目を通すこと	3	スポーツと法（３）	スポーツ活動と関連法令	関連資料に目を通すこと。	4	スポーツに親しむ権利（１）	スポーツへのアクセス	関連資料に目を通すこと。	5	スポーツに親しむ権利（２）	スポーツ権論・習熟度の確認	前回の講義と関連づけてまとめる。	6	スポーツと教育	学校スポーツ、社会スポーツ（生涯スポーツ）の展開と関連法令	関連資料に目を通すこと。	7	スポーツに関する紛争	スポーツ仲裁制度	関連資料に目を通すこと。	8	スポーツ振興と法、これまでの講義のまとめ	スポーツの振興に関する法令、および習熟度確認	これまでの講義を体系的にまとめること。	9	スポーツと国籍	スポーツへの参加と国籍	配布資料に目を通すこと。	10	スポーツと社会的平等	スポーツとジェンダー・習熟度の確認	関連資料に目を通すこと。	11	スポーツ事故と責任（１）	スポーツ活動中（学校での活動を含む）の事故と法（民法、刑法、国家賠償法）	民法、刑法および国家賠償法の関連条項の整理。	12	スポーツ事故と責任（２）	スポーツ活動中の事故と当事者・指導者の法的責任①	配布資料に目を通すこと。	13	スポーツ事故と責任（３）	スポーツ活動中の事故と指導者・当事者の法的責任②	前回の講義と関連づけてまとめる。	14	スポーツ事故と責任（４）	フランスにけるスポーツ事故と法的責任	スポーツ事故の発生と法的責任の発生に関してまとめる	15	講義の総括と習熟度検査	講義の総括と習熟度確認試験	講義全体を体系的に整理する。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	スポーツと法（１）	スポーツの概念、特性	スポーツの概念や特徴についてまとめる。																																																																
2	スポーツと法（２）	スポーツ基本法の制定（スポーツの自治とガバナンス・コンプライアンス）	関連資料に目を通すこと																																																																
3	スポーツと法（３）	スポーツ活動と関連法令	関連資料に目を通すこと。																																																																
4	スポーツに親しむ権利（１）	スポーツへのアクセス	関連資料に目を通すこと。																																																																
5	スポーツに親しむ権利（２）	スポーツ権論・習熟度の確認	前回の講義と関連づけてまとめる。																																																																
6	スポーツと教育	学校スポーツ、社会スポーツ（生涯スポーツ）の展開と関連法令	関連資料に目を通すこと。																																																																
7	スポーツに関する紛争	スポーツ仲裁制度	関連資料に目を通すこと。																																																																
8	スポーツ振興と法、これまでの講義のまとめ	スポーツの振興に関する法令、および習熟度確認	これまでの講義を体系的にまとめること。																																																																
9	スポーツと国籍	スポーツへの参加と国籍	配布資料に目を通すこと。																																																																
10	スポーツと社会的平等	スポーツとジェンダー・習熟度の確認	関連資料に目を通すこと。																																																																
11	スポーツ事故と責任（１）	スポーツ活動中（学校での活動を含む）の事故と法（民法、刑法、国家賠償法）	民法、刑法および国家賠償法の関連条項の整理。																																																																
12	スポーツ事故と責任（２）	スポーツ活動中の事故と当事者・指導者の法的責任①	配布資料に目を通すこと。																																																																
13	スポーツ事故と責任（３）	スポーツ活動中の事故と指導者・当事者の法的責任②	前回の講義と関連づけてまとめる。																																																																
14	スポーツ事故と責任（４）	フランスにけるスポーツ事故と法的責任	スポーツ事故の発生と法的責任の発生に関してまとめる																																																																
15	講義の総括と習熟度検査	講義の総括と習熟度確認試験	講義全体を体系的に整理する。																																																																
関連科目	スポーツ政策論等																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>スポーツ法へのファーストステップ</td><td>石堂典秀</td><td>法律文化社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	スポーツ法へのファーストステップ	石堂典秀	法律文化社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	スポーツ法へのファーストステップ	石堂典秀	法律文化社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>リファレンスブック</td><td></td><td>日本スポーツ協会</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	リファレンスブック		日本スポーツ協会	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	リファレンスブック		日本スポーツ協会																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	授業に参加する姿勢（３０％）、授業中に出される課題への回答・試験の結果（７０％）をもって評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	意欲的に講義に参加してください。																																																																		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 石井教授室																																																																		
備考	各回に 1 時間程度、すなわち半期 15 時間程度を目安に、講義の内容について事前・事後の学習を行ってください。 課題や習熟度試験については次の回の授業で解説する。 20 年度 合格率 93.2% （不受験率 0%） A29.5% B31.8% C20.5% D11.4% 平均 77 点 44 人登録																																																																		

科目名	法律学特修特別講義 I	科目名 (英文)	Special Lecture on Positive Law I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 敦, 城内 明, 笛木 淳
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2094a0		

授業概要・目的	本気で公務員試験（国家公務員一般職、地方上級）や法科大学院（ロースクール）入試、司法試験予備試験等をを目指す学生を対象に、目的達成のために不可欠な真の実力を養うことを目的として、問題演習等を行う。
到達目標	この授業を通じて学生には、公務員試験（国家公務員一般職、地方上級）や法科大学院（ロースクール）入試、司法試験予備試験等に合格するための、正しい学習方法を習得することが期待される。
授業方法と留意点	授業は、3人の専任教員（田中・笛木・城内）及びゲスト講師（北口先生）によるオムニバス方式で実施。授業範囲は、憲法・民法の既修範囲とし、具体的には、憲法（基本的人権）、憲法（統治機構）、民法総則、物権法を扱う。
科目学習の効果（資格）	公務員試験（国家公務員一般職、地方上級）や法科大学院（ロースクール）入試、司法試験予備試験等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	資格試験 合格への道（1）	摂南大学法学部の卒業生である講師が法科大学院、司法試験に合格するまでのプロセスなどの経験、計画や戦略の立て方を話し、資格試験合格への道を具体的に意識できるようにする。	授業を進めながら検討する。
	2	資格試験 合格への道（2）	摂南大学法学部の卒業生である講師が法科大学院、司法試験に合格するまでのプロセスなどの経験、計画や戦略の立て方を話し、資格試験合格への道を具体的に意識できるようにする。	授業を進めながら検討する。
	3	民法 1（授業開始に当たって、行為能力）	ガイダンス・行為能力	事前学習：手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、事前配布する「今週の問題」を解く（2 時間）。 事後学習：授業内容を復習の上、確認小テストを受験する（2 時間）。
	4	民法 2（意思表示の瑕疵（1））	意思表示の瑕疵（1）	事前学習：手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、事前配布する「今週の問題」を解く（2 時間）。 事後学習：授業内容を復習の上、確認小テストを受験する（2 時間）。
	5	民法 3（意思表示の瑕疵（2））	意思表示の瑕疵（2）	事前学習：手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、事前配布する「今週の問題」を解く（2 時間）。 事後学習：授業内容を復習の上、確認小テストを受験する（2 時間）。
	6	民法 4（代理その 1）	代理（表見代理を除く）	事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジюмеにより、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（2 時間）。 事後学習：レジюмеを再読して知識を確認した上で、課題を解く（2 時間）。
	7	民法 5（代理その 2）	表見代理	事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジюмеにより、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（2 時間）。 事後学習：レジюмеを再読して知識を確認した上で、課題を解く（2 時間）。
	8	民法 6（物権総論）	物権とは、物権と債権との違い、物上請求権とは	事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジюмеにより、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（2 時間）。 事後学習：レジюмеを再読して知識を確認した上で、課題を解く（2 時間）。
	9	民法 7（不動産物権変動）	民法 176 条、177 条に関する諸問題	事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジюмеにより、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（2 時間）。 事後学習：レジюмеを再読して知識を確認した上で、課題を解く（2 時間）。
	10	民法 8（動産物権変動）	即時取得、占有に関する諸問題	事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジюмеにより、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（2 時間）。 事後学習：レジюмеを再読して知識を確認した上で、課題を解く（2 時間）。
	11	憲法の論述式答案の書き方入門（0）（総論）	論述式答案の書き方、勉強方法、予習方法の説明	(ア) 事前学習：法学学習に関する事前配布資料に目を通す（2 時間） (イ) 事後学習：配布課題（4 時間）
	12	憲法論述式答案の書き方入門（1）（職業選択の自由の事例）	薬局距離制限判決をモデルにした事例演習	(ア) 事前学習：職業の自由に関する資料に目を通し、課題に取り組む（2 時間） (イ) 事後学習：授業中に取り組んだ演習課題の復習・答案の再作成（4 時間）
	13	論述式討案の書き方入門（2）（プライバシー権の事例）	写真撮影等の可否が問題となる裁判例をモデルとした事例演習	(ア) 事前学習：プライバシー権に関する資料に目を通し、課題に取り組む（2 時間） (イ) 事後学習：授業中に取り組んだ演習課題の復習・答案の再作成（4 時間）
	14	論述式討案の書き方入門（3）（集会の自由の事例）	泉佐野市民会館事件判決／上尾市福祉会館事件判決をモデルとした事例演習	(ア) 事前学習：集会の自由に関する資料に目を通し、課題に取り組む（2 時間）

				(イ) 事後学習: 授業中に取り組んだ演習課題の復習・答案の再作成 (4 時間) (ア) 事前学習: 思想・良心の自由に関する資料に目を通し、課題に取り組む (2 時間) (イ) 事後学習: 授業中に取り組んだ演習課題の復習・答案の再作成 (4 時間)
15	論述式討案の書き方入門 (4) (思想良心の自由の事例)	日の丸・君が代事件判決をモデルにした事例演習		
関連科目	憲法Ⅰ (人権総論)、憲法Ⅱ (人権各論)、憲法Ⅲ (統治機構)、民法Ⅰ A (総則)、民法Ⅰ B (総則)、民法Ⅱ A (物権法)			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	具体的な評価方法は、各担当教員により異なるため、各教員の初回授業時に確認すること。			
学生への メッセージ	本講義は、高い目標を本気で目指す学生のための特別講義です。目標が高い分、学生に対する要求も厳しくなりますが、司法試験に合格した経験を有する3名の選任教員が、実務家・研究者としての経験を踏まえて行う質の高い講義は、予備校の授業とは一線を画するものと確信しています。本気の学生の受講を期待します。			
担当者の 研究室等	1 1 号館 1 0 階 田中教授室 1 1 号館 1 0 階 城内教授室 1 1 号館 9 階 笛木講師室			
備考	本講義は、選抜制であり、3 0 名を上限とする。選抜テスト (試験範囲は、憲法 (基本的人権)、憲法 (統治機構)、民法総則) で基準点に満たない者の受講は認めない。また。憲法・民法の該当年次までの基本科目 (憲法 (基本的人権)、憲法 (統治機構)、民法Ⅰ A (総則①)、民法Ⅰ B (総則②)) については、履修が必要であり、以上の科目について、単位取得ないし履修登録をしていない者の受講は認めない。選抜テストの日程は Teams 上で告知するので、受講を希望する者は、必ず受験すること (やむを得ない理由で受験できない場合は、担当教員ま			

科目名	法学特修特別講義Ⅱ	科目名（英文）	Special Lecture on Positive Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	城内 明・笛木 淳
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2095a0		

授業概要・目的	この授業では、本気で公務員試験（国家公務員一般職、地方上級）や法科大学院（ロースクール）入試、司法試験予備試験等を目指す学生を対象に、目的達成のために不可欠な真の実力を養うことを目的として、問題演習等を行う。
到達目標	この授業を通じて学生には、公務員試験（国家公務員一般職、地方上級）や法科大学院（ロースクール）入試、司法試験予備試験等に合格するための、正しい学習方法を習得することが期待される。
授業方法と留意点	授業は、2 人の専任教員（笛木講師・城内教授）によるオムニバス方式で実施。授業範囲は、憲法・民法の既修範囲とし、具体的には、憲法（基本的人権）、憲法（統治機構）、債権各論、債権総論を扱う。学生には、公務員試験（国家公務員一般職、地方上級）や法科大学院（ロースクール）入試、司法試験予備試験等に合格するための、正しい学習方法を習得することが期待される。
科目学習の効果（資格）	公務員試験（国家公務員一般職、地方上級）や法科大学院（ロースクール）入試、司法試験予備試験等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	憲法論述式討案の書き方入門（５）（政教分離原則の事例）	津地鎮祭事件判決をモデルにした事例演習	（ア） 事前学習：信教の自由／政教分離原則に関する資料に目を通し、課題に取り組む（2 時間） （イ） 事後学習：授業中に取り組んだ演習課題の復習・答案の再作成（4 時間）
	2	憲法論述式討案の書き方入門（６）（公務員の政治活動の事例）	堀越事件判決／世田谷事件判決をモデルにした事例演習	（ア） 事前学習：公務員の政治活動に関する資料に目を通し、課題に取り組む（2 時間） （イ） 事後学習：授業中に取り組んだ演習課題の復習・答案の再作成（4 時間）
	3	憲法論述式討案の書き方入門（７）（財産権と損失補償の事例）	損失補償の要否が問題となった裁判例をモデルにした事例演習	（ア） 事前学習：財産権と損失補償に関する資料に目を通し、課題に取り組む（2 時間） （イ） 事後学習：授業中に取り組んだ演習課題の復習・答案の再作成（4 時間）
	4	憲法論述式討案の書き方入門（８）（「法律上の争訟」性）	「法律上の争訟」性が問題となった判例をモデルにした事例演習	（ア） 事前学習：司法権に関する資料に目を通し、課題に取り組む（2 時間） （イ） 事後学習：授業中に取り組んだ演習課題の復習・答案の再作成（4 時間）
	5	憲法論述式討案の書き方入門（９）（議院内閣制）	議院内閣制の問題に関する論述演習	（ア） 事前学習：議院内閣制に関する資料に目を通し、課題に取り組む（2 時間） （イ） 事後学習：授業中に取り組んだ演習課題の復習・答案の再作成（4 時間）
	6	民法 1 契約の成立・契約の効力	契約の成立、同時履行の抗弁権、危険負担、第三者のためにする契約	（ア） 事前学習：手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、事前配布する「今週の問題」を解く（2 時間）。 （イ） 事後学習：授業内容を復習の上、確認小テストを受験する（2 時間）。
	7	民法 2 契約の解除	解除権の発生と消滅、契約解除の効果	（ア） 事前学習：手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、事前配布する「今週の問題」を解く（2 時間）。 （イ） 事後学習：授業内容を復習の上、確認小テストを受験する（2 時間）。
	8	民法 3 売買、贈与、交換	売買、売主の責任（契約不適合責任）	（ア） 事前学習：手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、事前配布する「今週の問題」を解く（2 時間）。 （イ） 事後学習：授業内容を復習の上、確認小テストを受験する（2 時間）。
	9	民法 4 賃貸借、使用貸借、消費貸借	賃貸借、使用貸借、消費貸借	（ア） 事前学習：手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、事前配布する「今週の問題」を解く（2 時間）。 （イ） 事後学習：授業内容を復習の上、確認小テストを受験する（2 時間）。
	10	民法 5 請負・委任	請負、委任	（ア） 事前学習：手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、事前配布する「今週の問題」を解く（2 時間）。 （イ） 事後学習：授業内容を復習の上、確認小テストを受験する（2 時間）。
	11	民法 6 債務者の責任財産の保全	債務者の責任財産保全制度総論、債権者代位権、詐害行為取消権	（ア） 事前学習：手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、事前配布する「今週の問題」を解く（2 時間）。 （イ） 事後学習：授業内容を復習の上、確認小テストを受験する（2 時間）。
	12	民法 7 多数当事者の債権関係 (1)	多数当事者の債権関係総論、連帯債務を中心に	（ア） 事前学習：手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、事前配布する「今週の問題」を解く（2 時間）。 （イ） 事後学習：授業内容を復習の上、確認小テストを受験する（2 時間）。
	13	民法 8 多数当事者の債権関係 (2)	保証債務を中心に	（ア） 事前学習：手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、事前配布する「今週の問題」を解く（2 時間）。 （イ） 事後学習：授業内容を復習の上、確認小テストを受験する（2 時間）。
	14	民法 9 債権譲渡 (1)	債権譲渡総論、譲渡制限付債権の譲渡	（ア） 事前学習：手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、事前配布する「今週の問題」

				を解く (2 時間)。 (イ) 事後学習：授業内容を復習の上、確認小テストを受験する (2 時間)。																
	15	民法 1 0 債権譲渡 (2)・債務引受	債権譲渡の対抗要件、債務引受	(ア) 事前学習：手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、事前配布する「今週の問題」を解く (2 時間)。 (イ) 事後学習：授業内容を復習の上、確認小テストを受験する (2 時間)。																
関連科目	憲法Ⅰ (人権総論)、憲法Ⅱ (人権各論)、憲法Ⅲ (統治機構)、民法ⅠA (総則①)、民法ⅠB (総則②)、民法ⅡA (物権)、民法ⅢA (債権総論①)、民法ⅢB (債権総論②)、民法ⅣA (債権各論①)、民法ⅣB (債権各論②)																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	事前課題又は小テスト 6 0 %、授業に取り組む姿勢 4 0 %とする。なお、具体的な評価方法は、各担当教員により異なるため、各教員の初回授業時に確認すること。																			
学生へのメッセージ	本講義は、高い目標を本気で目指す学生のための特別講義です。目標が高い分、学生に対する要求も厳しくなりますが、3 名の専任教員が、実務家・研究者としての経験を踏まえて行う質の高い講義は、予備校の授業とは一線を画するものと確信しています。本気の学生の受講を期待します。																			
担当者の研究室等	1 1 号館 1 0 階 城内教授室 1 1 号館 9 階 笛木講師室																			
備考	本講義は、選抜制であり、3 0 名を上限とする。後期から参加する学生については、選抜テスト (試験範囲は、憲法Ⅰ (人権総論)、憲法Ⅱ (人権各論)、憲法Ⅲ (統治機構)、民法ⅠA (総則)、民法ⅠB (総則)、民法ⅡA (物権)、民法ⅢA (債権総論①)、民法ⅣA (債権総論①)) を実施し、基準点に満たない者の受講は認めない。また。憲法・民法の該当年次までの基本科目については、履修が必要である。選抜テストの日程は Teams 上で告知するので、受講を希望する者は、必ず受験すること (やむを得ない理由で受験できない場合は、担当教員主																			

科目名	法律学特修特別講義Ⅲ	科目名（英文）	Special Lecture on Positive Law III
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小野 晃正・田中 敦・笛木 淳
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎、DP3◎、DP4◎、DP5◎、DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3096a0		

授業概要・目的	本気で公務員試験（国家公務員一般職、地方上級）や法科大学院（ロースクール）入試、司法試験予備試験等をを目指す学生を対象に、目的達成のために不可欠な真の実力を養うことを目的として、問題演習等を行う。
到達目標	この授業を通じて学生には、公務員試験（国家公務員一般職、地方上級）や法科大学院（ロースクール）入試、司法試験予備試験等に合格するための、正しい学習方法を習得することが期待される。
授業方法と留意点	授業は、3人の専任教員（小野・田中・笛木）によるオムニバス方式で実施。授業範囲は、憲法・民法・刑法の既修範囲とし、具体的には、憲法（基本的人権）、憲法（統治機構）、担保物権法、刑法総論、刑法各論を扱う。
科目学習の効果（資格）	公務員試験（国家公務員一般職、地方上級）や法科大学院（ロースクール）入試、司法試験予備試験等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	憲法 1 論述式答案の書き方入門 (10)（財産権と損失補償の事例）	損失補償の要否が問題となった裁判例をモデルにした事例演習	(ア) 事前学習：法学学習に関する事前配布資料に目を通す（2時間） (イ) 事後学習：配布課題（4時間）
	2	憲法 1 論述式討案の書き方入門 (11)（議院内閣制）	議院内閣制に関する短文事例による演習	(ア) 事前学習：法学学習に関する事前配布資料に目を通す（2時間） (イ) 事後学習：配布課題（4時間）
	3	担保物権 1 担保物権総論 関連する法制度について	・担保物権について ・関連する法制度（民事執行）	事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジюмеにより、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（2時間）。 事後学習：レジюмеを再読して知識を確認した上で、課題を解く（2時間）。
	4	担保物権 2 抵当権者からみた抵当権の効力	・抵当権の物上代位 ・抵当物件の占有者に対する明渡請求	事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジюмеにより、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（2時間）。 事後学習：レジюмеを再読して知識を確認した上で、課題を解く（2時間）。
	5	担保物権 3 担保物件の所有者、利用者からみた抵当権の効力	・建物使用者の引渡猶予制度（旧短期賃借権の解説を含む） ・抵当権消滅請求（旧滌除の解説を含む） ・法定地上権	事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジюмеにより、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（2時間）。 事後学習：レジюмеを再読して知識を確認した上で、課題を解く（2時間）。
	6	刑法 1	ガイダンス	事前学習：手持ちの教科書により、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（2時間）。 事後学習：資料を再読して知識を確認すること（2時間）。
	7	刑法 2	因果関係	事前学習：手持ちの教科書により、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（2時間）。 事後学習：資料を再読して知識を確認すること（2時間）。
	8	刑法 3	不作為犯	事前学習：手持ちの教科書により、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（2時間）。 事後学習：資料を再読して知識を確認すること（2時間）。
	9	刑法 4	事実の錯誤	事前学習：手持ちの教科書により、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（2時間）。 事後学習：資料を再読して知識を確認すること（2時間）。
	10	刑法 5	違法性阻却事由 1	事前学習：手持ちの教科書により、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（2時間）。 事後学習：資料を再読して知識を確認すること（2時間）。
	11	刑法 6	違法性阻却事由 2	事前学習：手持ちの教科書により、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（2時間）。 事後学習：資料を再読して知識を確認すること（2時間）。
	12	刑法 7	責任阻却事由 1	事前学習：手持ちの教科書により、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（2時間）。 事後学習：資料を再読して知識を確認すること（2時間）。
	13	刑法 8	責任阻却事由 2	事前学習：手持ちの教科書により、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（2時間）。 事後学習：資料を再読して知識を確認すること（2時間）。
	14	刑法 9	共犯 1	事前学習：手持ちの教科書により、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（2時間）。 事後学習：資料を再読して知識を確認すること（2時間）。
	15	刑法 10	共犯 2	事前学習：手持ちの教科書により、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（2時間）。 事後学習：資料を再読して知識を確認すること（2時間）。

関連科目	憲法Ⅰ（人権総論）、憲法Ⅱ（人権各論）、憲法Ⅲ（統治機構）、民法ⅠＡ（総則①）、民法ⅠＢ（総則②）、民法ⅡＡ（物権法）、刑法ⅠＡ（総論①）、刑法ⅠＢ（総論②）																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>各担当者の指示による</td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各担当者の指示による			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	各担当者の指示による																			
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>各担当者の指示による</td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各担当者の指示による			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	各担当者の指示による																			
2																				
3																				
評価方法 （基準）	具体的な評価方法は、各担当教員により異なるため、各教員の初回授業時に確認すること。																			
学生への メッセージ	本講義は、高い目標を本気で目指す学生のための特別講義です。目標が高い分、学生に対する要求も厳しくなりますが、司法試験に合格した経験を有する３名の選任教員が、実務家・研究者としての経験を踏まえて行う質の高い講義は、予備校の授業とは一線を画するものと確信しています。本気の学生の受講を期待します。																			
担当者の 研究室等	1 1号館 10階 小野教授室 1 1号館 10階 田中教授室 1 1号館 9階 笛木講師室																			
備考	本講義は、選抜制であり、３０名を上限とし、原則として法律学特修特別講義Ⅰ・Ⅱないし実定法特別講義Ⅰ・Ⅱを履修していることが前提である。 履修していないものには、選抜テストを行う。試験範囲は、憲法、民法（担保物権法）、刑法（総論・各論）である。基準点に満たない者の受講は認めない。また、憲法・民法・刑法の該当年次までの関連科目について、単位取得ないし履修登録をしていない者の受講は認めない。選抜テストの日程はTeam s上で告知するので、受講を希望する者は、必ず受験すること（やむを得ない理由で受験できない場合は																			

科目名	心理学	科目名 (英文)	Psychology
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	越川 陽介
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1302a1		

授業概要・目的	心理学という言葉を知ると、雑誌やインターネット上でできる自分の性格がわかる心理テストや、人の心を読めるマインドリーディングなどを想像する人も多いと思います。しかしながら、実際これは心理学の全てではありません。学問としての心理学は、知覚や記憶のメカニズム、学習理論やコミュニケーション法など、多岐にわたっています。本講義では、娯楽としての「楽しい」心理学はほとんど登場しませんが、授業を通して、私たちがどのように物事をとらえて感じているのかを理解し、他者を理解する上で役立つ考え方やコミュニケーション法を身につけ、自己理解や他者理解、良好な人間関係の形成に活かす知識を身につけることを目的としています。一般教養として学ぶことで、一人の人間としてより深みの持った人への成長の機会となると考えられます。																																																																		
到達目標	この講義を通じて学生には自分自身がどのように物事をとらえているのかを知ることに加えて、他者がどのように物事をとらえているのかを推察しようとする意識を身につけること、さらには自分と他者との物事の捉え方の違いを受け入れ、他者に共感的に寄り添える力を高めて、よりよい人間関係を形成できる力を身につけることが期待されます。																																																																		
授業方法と留意点	本授業は講義形式の授業を行う。各授業においてテーマを設定しており、そのテーマについてパワーポイントによる講義資料を用いて授業を行います。また、授業の最後にはその日の授業内容の定着度を測る小テストを行います。授業時には事前配布した授業スライドを印刷、持参し、いつでも内容を確認することが望ましいです。毎回授業の感想や質問を受け付け、その回答を次の授業の冒頭で共有し、学習内容の定着を図ります。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	自己理解と他者理解、現在と今後の人間関係の形成に活かすことができる。																																																																		
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr><tr><td>1</td><td>心理学とは？ 講義内容と定期試験の説明</td><td>本講義では、心理学とはどのようなものなのかを概観し、日常生活でどのように活かされているのかについて学ぶ。</td><td>心理学で、興味の持った分野を見つけて、調べて整理しておくことが望ましい(1時間)。</td></tr><tr><td>2</td><td>感覚と知覚について</td><td>本講義では、知覚の種類や機能について解説し、私たちが日常生活でどのように物事を捉えているのかについて学ぶ。</td><td>五感とは何かを調べて、自分と他人でどのように感じ方が異なるのかを考えておくことが望ましい(2時間)。</td></tr><tr><td>3</td><td>記憶について</td><td>本講義では、記憶の仕組みや記憶に関する疾患について学ぶ。</td><td>記憶について調べ、整理しておくことが望ましい(1時間)。</td></tr><tr><td>4</td><td>わたしたちと発達について：総論編</td><td>本講義では、生涯における発達について発達理論を中心に概観を学ぶ。</td><td>発達理論について調べ、整理しておくことが望ましい(2時間)。</td></tr><tr><td>5</td><td>わたしたちと発達について：認知編</td><td>本講義では、認知的な発達について学ぶ。</td><td>認知的な発達について調べ、整理しておくことが望ましい(2時間)。</td></tr><tr><td>6</td><td>わたしたちと発達について：対人関係編</td><td>本講義では、対人関係の形成に関する発達について学ぶ。</td><td>対人関係の構築の仕方について調べ、整理しておくことが望ましい(2時間)。</td></tr><tr><td>7</td><td>わたしたちと発達について：自己理解編</td><td>本講義では、自己を理解していく発達の過程について学ぶ。</td><td>アイデンティティについて調べ、整理しておくことが望ましい(2時間)。</td></tr><tr><td>8</td><td>学習理論、子育て、人の伸ばし方について</td><td>本講義では、人や動物がどのように学習し行動を形成するのか、子どもや他人をどのように伸ばせばいいのかを学ぶ。</td><td>学習理論について調べ、整理しておくことが望ましい(2時間)。</td></tr><tr><td>9</td><td>自尊心 (自信) について</td><td>本講義では、生きていくうえで重要な自尊心 (自信) について学ぶ。</td><td>自尊心について調べ、整理しておくことが望ましい(2時間)。</td></tr><tr><td>10</td><td>性格について</td><td>本講義では、人の性格がどのように形成されるのかについて学ぶ。</td><td>性格について調べ、整理しておくことが望ましい(2時間)。</td></tr><tr><td>11</td><td>社会的認知、集団の心理について</td><td>本講義では、社会的認知や集団における心理や行動について学ぶ。</td><td>集団の心理について調べ、整理しておくことが望ましい(2時間)。</td></tr><tr><td>12</td><td>感情と欲求、ストレスマネジメントについて</td><td>本講義では、感情の種類や機能、人間の欲求、ストレスマネジメントについて学ぶ。</td><td>ストレスマネジメントについて調べ、整理しておくことが望ましい(2時間)。</td></tr><tr><td>13</td><td>コミュニケーション、傾聴、共感について</td><td>本講義では、コミュニケーションで大切な傾聴 (話の聴き方) や共感について学ぶ。</td><td>傾聴や共感について調べ、整理しておくことが望ましい(2時間)。</td></tr><tr><td>14</td><td>コミュニケーション、日常生活に役立つ心理学について</td><td>本講義では、よりよい頼み方や断り方、謝り方などについて学ぶ。</td><td>アサーション、という言葉について調べ、整理しておくことが望ましい(2時間)。</td></tr><tr><td>15</td><td>講義全体のまとめ</td><td>本講義では、これまでの全講義のまとめを行い、要点を振り返り、講義内容の定着を図る。</td><td>全講義のプリントを復習しておくことが望ましい(3時間)。</td></tr></table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	心理学とは？ 講義内容と定期試験の説明	本講義では、心理学とはどのようなものなのかを概観し、日常生活でどのように活かされているのかについて学ぶ。	心理学で、興味の持った分野を見つけて、調べて整理しておくことが望ましい(1時間)。	2	感覚と知覚について	本講義では、知覚の種類や機能について解説し、私たちが日常生活でどのように物事を捉えているのかについて学ぶ。	五感とは何かを調べて、自分と他人でどのように感じ方が異なるのかを考えておくことが望ましい(2時間)。	3	記憶について	本講義では、記憶の仕組みや記憶に関する疾患について学ぶ。	記憶について調べ、整理しておくことが望ましい(1時間)。	4	わたしたちと発達について：総論編	本講義では、生涯における発達について発達理論を中心に概観を学ぶ。	発達理論について調べ、整理しておくことが望ましい(2時間)。	5	わたしたちと発達について：認知編	本講義では、認知的な発達について学ぶ。	認知的な発達について調べ、整理しておくことが望ましい(2時間)。	6	わたしたちと発達について：対人関係編	本講義では、対人関係の形成に関する発達について学ぶ。	対人関係の構築の仕方について調べ、整理しておくことが望ましい(2時間)。	7	わたしたちと発達について：自己理解編	本講義では、自己を理解していく発達の過程について学ぶ。	アイデンティティについて調べ、整理しておくことが望ましい(2時間)。	8	学習理論、子育て、人の伸ばし方について	本講義では、人や動物がどのように学習し行動を形成するのか、子どもや他人をどのように伸ばせばいいのかを学ぶ。	学習理論について調べ、整理しておくことが望ましい(2時間)。	9	自尊心 (自信) について	本講義では、生きていくうえで重要な自尊心 (自信) について学ぶ。	自尊心について調べ、整理しておくことが望ましい(2時間)。	10	性格について	本講義では、人の性格がどのように形成されるのかについて学ぶ。	性格について調べ、整理しておくことが望ましい(2時間)。	11	社会的認知、集団の心理について	本講義では、社会的認知や集団における心理や行動について学ぶ。	集団の心理について調べ、整理しておくことが望ましい(2時間)。	12	感情と欲求、ストレスマネジメントについて	本講義では、感情の種類や機能、人間の欲求、ストレスマネジメントについて学ぶ。	ストレスマネジメントについて調べ、整理しておくことが望ましい(2時間)。	13	コミュニケーション、傾聴、共感について	本講義では、コミュニケーションで大切な傾聴 (話の聴き方) や共感について学ぶ。	傾聴や共感について調べ、整理しておくことが望ましい(2時間)。	14	コミュニケーション、日常生活に役立つ心理学について	本講義では、よりよい頼み方や断り方、謝り方などについて学ぶ。	アサーション、という言葉について調べ、整理しておくことが望ましい(2時間)。	15	講義全体のまとめ	本講義では、これまでの全講義のまとめを行い、要点を振り返り、講義内容の定着を図る。	全講義のプリントを復習しておくことが望ましい(3時間)。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	心理学とは？ 講義内容と定期試験の説明	本講義では、心理学とはどのようなものなのかを概観し、日常生活でどのように活かされているのかについて学ぶ。	心理学で、興味の持った分野を見つけて、調べて整理しておくことが望ましい(1時間)。																																																																
2	感覚と知覚について	本講義では、知覚の種類や機能について解説し、私たちが日常生活でどのように物事を捉えているのかについて学ぶ。	五感とは何かを調べて、自分と他人でどのように感じ方が異なるのかを考えておくことが望ましい(2時間)。																																																																
3	記憶について	本講義では、記憶の仕組みや記憶に関する疾患について学ぶ。	記憶について調べ、整理しておくことが望ましい(1時間)。																																																																
4	わたしたちと発達について：総論編	本講義では、生涯における発達について発達理論を中心に概観を学ぶ。	発達理論について調べ、整理しておくことが望ましい(2時間)。																																																																
5	わたしたちと発達について：認知編	本講義では、認知的な発達について学ぶ。	認知的な発達について調べ、整理しておくことが望ましい(2時間)。																																																																
6	わたしたちと発達について：対人関係編	本講義では、対人関係の形成に関する発達について学ぶ。	対人関係の構築の仕方について調べ、整理しておくことが望ましい(2時間)。																																																																
7	わたしたちと発達について：自己理解編	本講義では、自己を理解していく発達の過程について学ぶ。	アイデンティティについて調べ、整理しておくことが望ましい(2時間)。																																																																
8	学習理論、子育て、人の伸ばし方について	本講義では、人や動物がどのように学習し行動を形成するのか、子どもや他人をどのように伸ばせばいいのかを学ぶ。	学習理論について調べ、整理しておくことが望ましい(2時間)。																																																																
9	自尊心 (自信) について	本講義では、生きていくうえで重要な自尊心 (自信) について学ぶ。	自尊心について調べ、整理しておくことが望ましい(2時間)。																																																																
10	性格について	本講義では、人の性格がどのように形成されるのかについて学ぶ。	性格について調べ、整理しておくことが望ましい(2時間)。																																																																
11	社会的認知、集団の心理について	本講義では、社会的認知や集団における心理や行動について学ぶ。	集団の心理について調べ、整理しておくことが望ましい(2時間)。																																																																
12	感情と欲求、ストレスマネジメントについて	本講義では、感情の種類や機能、人間の欲求、ストレスマネジメントについて学ぶ。	ストレスマネジメントについて調べ、整理しておくことが望ましい(2時間)。																																																																
13	コミュニケーション、傾聴、共感について	本講義では、コミュニケーションで大切な傾聴 (話の聴き方) や共感について学ぶ。	傾聴や共感について調べ、整理しておくことが望ましい(2時間)。																																																																
14	コミュニケーション、日常生活に役立つ心理学について	本講義では、よりよい頼み方や断り方、謝り方などについて学ぶ。	アサーション、という言葉について調べ、整理しておくことが望ましい(2時間)。																																																																
15	講義全体のまとめ	本講義では、これまでの全講義のまとめを行い、要点を振り返り、講義内容の定着を図る。	全講義のプリントを復習しておくことが望ましい(3時間)。																																																																
関連科目	臨床心理学、発達心理学、コミュニケーション学																																																																		
教科書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	まとめテスト (第 15 回時実施) 40%、毎回の小テスト 30%、授業態度としての授業への応答状況 30%の配分で総合的に評価を行う。出席が 11 回以上の者が成績評価の対象となります。																																																																		
学生へのメッセージ	心理学は、自己理解や他者理解を中心として、日常生活を営む上においても役立つ学問で、知れば知るほど自分の世界が広がるものです。本講義を通して、今後生きていく上で、一つでも役立つ知識や経験を得られることができればよいと思います。																																																																		
担当者の研究室等	11 号館 6 階 経営学部非常勤講師室																																																																		

備考	・講義時間外における質問は、講義前後の非常勤講師室、講義後の教室で時間の許す限りとします（メールでも可）。 ・事前事後学習に、毎回 30 分以上かけると、定期試験の点数も取りやすくなります。 ・小テストは全ての問題が満点になるまで回答できる様に設定する予定です。満点を目指す中でその回の授業を復習できる様にしています。
----	---

科目名	哲学	科目名（英文）	Philosophy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	貫井 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1303a1		

授業概要・目的	この授業では、西洋哲学史上の代表的な哲学者の思想を概観する。その際に、歴史上の著名な哲学者が、どのような倫理的・道徳的主張を行ったかということ、彼らが世界をどのようなものとして捉えたかということと合わせて考える。これら二つのことは、西田幾多郎が『善の研究』の冒頭で述べるように、以下のように連関しているからである。「世界はこのようなもの、人生はこのようなものという哲学的世界観および人生観と、人間はかくせねばならぬ、かかるところに安心せねばならぬという道德宗教の実践的要求とは密接の關係を持っている」。「われわれは何をなすべきか、どこに安心すべきかの問題を論じる前に、まず天地人生の真相はいかなるものであるか、真の实在とはいかなるものなるかを明らかにせねばならぬ」。 哲学が自分自身で森に分け入って探索することであるとすれば、哲学史はそのような探索の先人の記録である。哲学史を学ぶことは、自分自身で探索することとは異なるかもしれない。しかし、それらの知は自分自身で探索する際の豊かな道標となるはずである。																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、授業で扱う西洋哲学史上の人物の思想について、 ① 時代背景 ② 考えの要点 ③ 与えた影響 の3点を理解できるようになることが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	Teams を使用して、該当テキストを読み進めます（毎回、ある程度の読書量があります）。定期的に Google Form 等を利用して、授業内容に関する小テストに答えてもらいます。																																																																		
科目学習の効果（資格）	西洋哲学史における代表的な議論の幾つかを学ぶことによって、ものごとに対する多義的な見方を身に着け、複雑な現実を単純化せずに捉えられるようになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>授業全体の概要</td><td>予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：読書課題（哲学、倫理学の古典からの抜粋であることが多い）を読むこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>古代ギリシアの哲学（1）</td><td>ソクラテス以前の哲学者</td><td>1 に同じ</td></tr> <tr> <td>3</td><td>古代ギリシアの哲学（2）</td><td>ソクラテス、プラトン</td><td>1 に同じ</td></tr> <tr> <td>4</td><td>古代ギリシアの哲学（3）</td><td>アリストテレス</td><td>1 に同じ</td></tr> <tr> <td>5</td><td>キリスト教と哲学（1）</td><td>パウロ、アウグスティヌス</td><td>1 に同じ</td></tr> <tr> <td>6</td><td>キリスト教と哲学（2）</td><td>トマス・アキナス</td><td>1 に同じ</td></tr> <tr> <td>7</td><td>近代の哲学（1）</td><td>デカルト</td><td>1 に同じ</td></tr> <tr> <td>8</td><td>近代の哲学（2）</td><td>ヒューム</td><td>1 に同じ</td></tr> <tr> <td>9</td><td>ドイツ観念論の哲学（1）</td><td>カント</td><td>1 に同じ</td></tr> <tr> <td>10</td><td>ドイツ観念論の哲学（2）</td><td>ヘーゲル</td><td>1 に同じ</td></tr> <tr> <td>11</td><td>現代の哲学（1）</td><td>ニーチェ</td><td>1 に同じ</td></tr> <tr> <td>12</td><td>現代の哲学（2）</td><td>ウィトゲンシュタイン</td><td>1 に同じ</td></tr> <tr> <td>13</td><td>現代の哲学（3）</td><td>フッサール、ハイデガー</td><td>1 に同じ</td></tr> <tr> <td>14</td><td>現代の哲学（4）</td><td>デリダ、ドゥルーズ</td><td>1 に同じ</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ</td><td>授業全体の振り返り</td><td>1 に同じ</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業全体の概要	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：読書課題（哲学、倫理学の古典からの抜粋であることが多い）を読むこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）	2	古代ギリシアの哲学（1）	ソクラテス以前の哲学者	1 に同じ	3	古代ギリシアの哲学（2）	ソクラテス、プラトン	1 に同じ	4	古代ギリシアの哲学（3）	アリストテレス	1 に同じ	5	キリスト教と哲学（1）	パウロ、アウグスティヌス	1 に同じ	6	キリスト教と哲学（2）	トマス・アキナス	1 に同じ	7	近代の哲学（1）	デカルト	1 に同じ	8	近代の哲学（2）	ヒューム	1 に同じ	9	ドイツ観念論の哲学（1）	カント	1 に同じ	10	ドイツ観念論の哲学（2）	ヘーゲル	1 に同じ	11	現代の哲学（1）	ニーチェ	1 に同じ	12	現代の哲学（2）	ウィトゲンシュタイン	1 に同じ	13	現代の哲学（3）	フッサール、ハイデガー	1 に同じ	14	現代の哲学（4）	デリダ、ドゥルーズ	1 に同じ	15	まとめ	授業全体の振り返り	1 に同じ
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業全体の概要	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：読書課題（哲学、倫理学の古典からの抜粋であることが多い）を読むこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）																																																																
2	古代ギリシアの哲学（1）	ソクラテス以前の哲学者	1 に同じ																																																																
3	古代ギリシアの哲学（2）	ソクラテス、プラトン	1 に同じ																																																																
4	古代ギリシアの哲学（3）	アリストテレス	1 に同じ																																																																
5	キリスト教と哲学（1）	パウロ、アウグスティヌス	1 に同じ																																																																
6	キリスト教と哲学（2）	トマス・アキナス	1 に同じ																																																																
7	近代の哲学（1）	デカルト	1 に同じ																																																																
8	近代の哲学（2）	ヒューム	1 に同じ																																																																
9	ドイツ観念論の哲学（1）	カント	1 に同じ																																																																
10	ドイツ観念論の哲学（2）	ヘーゲル	1 に同じ																																																																
11	現代の哲学（1）	ニーチェ	1 に同じ																																																																
12	現代の哲学（2）	ウィトゲンシュタイン	1 に同じ																																																																
13	現代の哲学（3）	フッサール、ハイデガー	1 に同じ																																																																
14	現代の哲学（4）	デリダ、ドゥルーズ	1 に同じ																																																																
15	まとめ	授業全体の振り返り	1 に同じ																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>物語 哲学の歴史 自分と世界を考えるために</td><td>伊藤邦武</td><td>中公新書</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	物語 哲学の歴史 自分と世界を考えるために	伊藤邦武	中公新書	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	物語 哲学の歴史 自分と世界を考えるために	伊藤邦武	中公新書																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>A New History of Western Philosophy</td><td>Anthony Kenny</td><td>Oxford University Press</td></tr> <tr> <td>2</td><td>哲学 原典資料集</td><td>山本巍ほか</td><td>東京大学出版会</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	A New History of Western Philosophy	Anthony Kenny	Oxford University Press	2	哲学 原典資料集	山本巍ほか	東京大学出版会	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	A New History of Western Philosophy	Anthony Kenny	Oxford University Press																																																																
2	哲学 原典資料集	山本巍ほか	東京大学出版会																																																																
3																																																																			
評価方法（基準）	小テスト（100%）																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	課題の正答はメールを通じて返却する。 授業では以上のテーマを順次扱う予定ですが、進行状況によっては、内容や順番が変更される可能性があります。																																																																		

科目名	倫理学	科目名 (英文)	Ethics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	貫井 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1304a1		

授業概要・目的	「他の人のためと思ってやっていることも、実際のところは自分のためでしかないのでは?」「自分よりも困っている人が世界中にいと知っ ていながら、彼らに寄付せずに自分の買いたいものを買うのは非情なことだろうか?」「価値観は人や文化によって異なり、そこに優劣はないと したら、他人にアドバイスしたり批判することは失礼なことだろうか?」 このようなことは、別に倫理学者や哲学者でなくとも、誰もがふとしたときに考えたことがある (人によっては常に考えている) ことではな いと思います。本授業ではこのような身近なテーマから出発し、現代社会の諸問題 (中絶、安楽死、同性愛、動物の権利、文化相対主義、人種差 別、ジェンダー等) に関してどのような倫理学、哲学、宗教上の主張が存在するかを学びます。また、それらと対照することで自分自身の常識を 自覚し、再検討することが目的です。
到達目標	授業で扱う現代社会の諸テーマ (中絶、安楽死、同性愛、動物の権利、文化相対主義、ジェンダー、宗教と道德の関係、非利己性、寄付の義務等) について、『現実をみつめる道德哲学—安楽死からフェミニズムまで』(ジェームズ・レイチェルズ著、古牧徳生・次田憲和訳、晃洋書房) の議論 を参考に、倫理的な視点を身に着ける。
授業方法と 留意点	Teams を使用して、講義原稿と課題読書を配布します (毎回、ある程度の読書量があります)。定期的に Google Form 等を利用して、授業内容に 関する小問題に答えてもらいます。
科目学習の 効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、道德と はどういうことか (第 1 章) (1)	「道德」の定義、哲学との関係	予習: なし 復習: 読書課題 (哲学、倫理学の古典からの抜粋で あることが多い) を読むこと
	2	道德とはどういうことか (第 1 章) (2)	道德は定義できるか、道德の最小概念、 回復の見込みのない乳児の権利	予習: 配布資料を読むこと 復習: 読書課題 (哲学、倫理学の古典からの抜粋で あることが多い) を読むこと
	3	文化的相対主義 (第 2 章)	異なる文化はいかにして道德規範を持 つのか、文化的相対主義を本気で受け止 めるとどうなるか、文化的相対主義から 何を学ぶことができるか	2 に同じ
	4	道德は宗教に基づくか (第 4 章)	道德と宗教の関係、道德は神の命令か、 キリスト教と中絶の問題	2 に同じ
	5	心理学的利己主義 (第 5 章)、 倫理的利己主義 (第 6 章)	人間は非利己的であることはできるか、 「どんなことも結局自分のためでしか ない」という主張は本当か 飢餓救済に寄付する義務はあるのか、 「何が人のためになるかは難しい」「自 分のためになることだけをやるべきで ある」という主張は本当か	2 に同じ
	6	功利主義者のアプローチ (第 7 章)	功利主義、幸福計算、安楽死、動物の権 利の問題、ベンサム、ミル	2 に同じ
	7	功利主義をめぐる議論 (第 8 章)	功利主義への批判的な議論の紹介	2 に同じ
	8	絶対的道德規則はあるのか (第 9 章)	カントの倫理学、定言命法、仮言命法	2 に同じ
	9	カントと人格の尊重 (第 10 章)	カントの倫理学、「目的の国」、刑罰の理 論における応報主義	2 に同じ
	10	社会契約の思想 (第 11 章)	ホッブズの社会契約説、囚人のジレン マ、市民的不服従についての問題	2 に同じ
	11	社会契約の思想 (第 11 章) (2)	ホッブズの社会契約説、囚人のジレン マ、市民的不服従についての問題	2 に同じ
	12	フェミニズムと気づかひの 倫理 (第 12 章)、徳の倫理 (第 13 章)	コールバーク、ギリガン、女と男は倫理 についての考えが違うか アリストテレスの徳倫理、様々な徳	2 に同じ
	13	AI は人間に代わることがで きるか (1)	ハイデガーの後期思想	2 に同じ
	14	AI は人間に代わることがで きるか (2)	ハイデガーの後期思想	2 に同じ
	15	満足のいく道德説とはいか なるものか (第 14 章)	ローティ、マイケル・サンデル、思い上 がりのない道德、道德共同体、正義と公 正	2 に同じ

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新版 現実をみつめる道德哲学	ジェームズ・レイチェルズ著、次 田憲和訳	晃洋書房
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	倫理学入門 アリストテレスから生殖技術、AI まで	品川哲彦	中公新書
	2	現実をみつめる道德哲学	ジェームズ・レイチェルズ著、古 牧徳生・次田憲和訳	晃洋書房
	3			

評価方法 (基準)	定期的な小テスト：100% (Google Form によって提出)
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	非常勤講師控室
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応します。非常勤講師室等における対応可能時間についての相談や、授業に関連する相談等がある場合は、メールでお問い合わせください。 授業では以上のテーマを順次扱う予定ですが、進行状況によっては、内容や順番が変更される可能性があります。

科目名	日本史概説	科目名（英文）	History of Japan
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本 康司
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1305a1		

授業概要・目的	歴史学とは、過去の諸事象を研究する学問である。物事を長期的な視野からみるという姿勢を持つことや、現在とは異なる政治・社会・文化等を知ることは、現代社会を見つめ直す際に重要な手段となる。 そのなかで、本授業では、日本の歴史の基本的な流れを理解することを目的とする。 古代から近現代まで、毎回テーマを設定し、講義を行う。 随時、最新の研究成果を紹介するとともに、歴史学の手法や考え方についても紹介する。		
到達目標	本授業を通じて日本の歴史に関する正しい知識を得るとともに、歴史学的な考え方について理解できるようになることを目標とする（DP1）。		
授業方法と留意点	授業ごとにプリントを配付する。		
科目学習の効果（資格）			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等 事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	本授業の進め方や評価方法、歴史学を学ぶ意義について説明します。 シラバスを一読しておくこと（所要時間 20 分）。
	2	古代 1：古代国家の形成	農耕社会の成立から、ヤマト政権の誕生、律令国家の形成までを学びます。 予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
	3	古代 2：摂関政治から院政へ	摂関政治や院政について学びます。また、仏教や新たな文化の発達についても説明します。 予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
	4	古代 3：武士の登場	武士の誕生と貴族社会の関係について学びます。 予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
	5	中世 1：武家政権の成立と展開	武家政権である平氏政権や鎌倉幕府について学びます。特に、鎌倉幕府の成立過程について説明を加えます。 予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
	6	中世 2：元寇から南北朝内乱へ	鎌倉幕府の制度や承久の乱、元寇について学び、鎌倉幕府滅亡の要因について考えます。 予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
	7	中世 3：室町幕府の成立と展開	室町幕府の成立や、南北朝の動乱について学びます。 予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
	8	中世 4：戦国時代へ	戦国大名の登場から天下統一までの動向を学びます。 予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
	9	近世 1：江戸幕府の成立と展開	江戸幕府の成立過程や制度、对外政策について学びます。 予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
	10	近世 2：江戸幕府の動揺	幕藩体制や江戸幕府の諸政策・改革について学びます。また、江戸時代の村についても説明をします。 予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
	11	近世 3：江戸幕府の終焉	倒幕運動の広まりや、江戸幕府の对外政策・開港について学びます。 予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
	12	近現代 1：明治政府の成立と近代国家への歩み	明治政府の諸政策を学び、近代国家への歩みについて考えます。 予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
	13	近現代 2：日清・日露戦争と日本	日清・日露戦争や国際関係、当時の日本政治について学びます。 予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
	14	近現代 3：第二次世界大戦	第二次世界大戦と日本の関わりについて学びます。 予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
	15	近現代 4：戦後日本と現代社会	敗戦後の復興と現代社会への繋がりについて学びます。 予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
関連科目			
教科書			

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業ごとのコメントペーパー 30% 期末試験 70% コメントペーパーでは、授業の内容を理解しているかを評価する。 期末試験では、授業全体を通じて日本の歴史の流れを理解したかを評価する。			
学生への メッセージ	積極的に学ぶ意欲を持つ学生の受講を希望します。 わからないことがあれば、放置せず、自分で調べたり、質問をする癖をつけましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	世界史概説	科目名（英文）	History of the World
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加来 奈奈
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1306a1		

授業概要・目的	本講義では、ヨーロッパの歴史を通じて、過去と現在の変化や諸地域における差異を検討し、現代世界の成り立ちを知るとともに、歴史を通じて現代社会の諸問題に対する批判的なまなざしを涵養することを目指す。そのために、ヨーロッパ史の基礎的な知識を習得し、時代や地域の特徴と、現代社会の形成の過程を理解することを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、ヨーロッパの歴史の重要な特徴を理解し、説明できるようになり、それを活かして現代社会の問題について能動的に考えることができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	毎回パワーポイントにもとづいて授業を進め、適宜、資料を配布する。また、授業中の配布資料やレジュメは授業前に Teams から各自ダウンロードする（Teams のコードなどの詳細は、初回の授業の際に伝える）
科目学習の効果（資格）	歴史学に関する基本的な知識を獲得するとともに、現代社会を歴史的視点から読み解く力を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	学問としての歴史学について	（事前）西洋の古代、中世、近世、近代、現代という時代がいつかを調べてくる。
	2	中世ヨーロッパ	中世ヨーロッパの社会	（事前）中世ヨーロッパのイメージを書きだす。 （事後）中世の身分と宗教について整理する。
	3	中世ヨーロッパ	中世ヨーロッパの王権	（事前）15 世紀までのフランス王とイングランド王について調べてくる。 （事後）中世英仏の年表を作って、これまでのことを整理する。
	4	近世とは	・近世の特徴 ・ハプスブルク家 ・地域の反応	（事前）ハプスブルク家について調べてくる。 （事後）近世の特徴を整理する。
	5	宗教改革	・ルターの登場 ・プロテスタントの広がり ・対抗宗教改革	（事前）カトリックとプロテスタントの違いを調べる。 （事後）二つの違いを整理する。
	6	宗派対立	・ネーデルラントを事例とした宗派対立の様相	（事前）ルーベンスについて調べてくる。 （事後）ヨーロッパの宗派対立と地域の特徴を整理する。
	7	イングランドの宗教改革	・テューダー朝の成立 ・ヘンリ 8 世の改革	（事前）ヘンリ 8 世について調べてくる。 （事後）イングランドの国教会について整理する。
	8	エリザベス 1 世と国際関係	・エリザベス 1 世の統治	（事前）エリザベス 1 世について調べてくる。 （事後）17 世紀ごろのヨーロッパの各国の勢力範囲について整理する。
	9	啓蒙時代	・啓蒙思想 ・啓蒙専制君主	（事前）啓蒙という言葉調べてくる。
	10	啓蒙改革（1）	マリア・テレジアの改革	（事前）マリア・テレジアについて調べる。 （事後）啓蒙改革の特徴をまとめる。
	11	啓蒙改革（2）	ヨーゼフ 2 世の改革	（事前）ヨーゼフ 2 世について調べてくる。 （事後）啓蒙改革の結果について考察する。
	12	1 9 世紀のヨーロッパ	・フランス革命と共和政 ・国民国家 ・1 8 4 8 年革命	（事前）ライシテという言葉調べてくる。（事後）スカーフ問題について考える。
	13	ナショナリズムとハプスブルク	・アウスグライヒ ・民族	（事前）この時代の民族とは何かを考えてくる。（事後）東欧諸国の現在の国境を確認する。
	14	第一次世界大戦	・戦争の展開 ・戦争と女性 ・戦争と民族	（事前）第一次世界大戦の流れについて確認する。 （事後）第一次世界大戦を通して起きたヨーロッパ社会の変化について考える。
	15	総括	・講義全体のまとめ ・現在のヨーロッパの諸問題	（事前）全授業内容を復習しておく。 （事後）歴史を通して、現在の社会を検討する。

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学で学ぶ西洋史 [古代・中世]	服部良久ほか	ミネルヴァ書房
	2	大学で学ぶ西洋史 [近現代]	小山哲ほか	ミネルヴァ書房
	3	ハプスブルク史研究入門	大津留厚ほか	昭和堂

評価方法（基準）	授業中の課題（コメントシートもしくは forms でのコメント）、期末テスト（70％）で評価する。
学生へのメッセージ	高校までの「歴史」は、過去の出来事・事件の年号や偉人の名前を暗記する科目だと思われがちです。しかし、大学で研究する「歴史学」は、歴史の史料や事象を通じて、その背景や理由を多角的に考えることが重要です。ヨーロッパの様々な時代や地域の特徴を学び、その違いや類似性を考察することを通して、現代社会の多様性を理解するための視点を提供できればと思います。
担当者の研究室等	7 号館 4 階加来研究室
備考	事前、事後学習に要する総時間は約 60 時間である。

科目名	社会学	科目名 (英文)	Sociology
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	野々村 元希
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JS01309a1		

授業概要・目的	われわれの生きる社会は、どのようなしくみによって成り立っているのか。そこにはどのような問題があり、それはなぜ生じているのか。本授業では、社会学の立場からこうした問いに取り組んでいく。 まず、社会学の研究の対象、ならびにそれを取り扱うためのデータ収集・解析の手法について解説する。その上で、家族、労働、教育、階層、医療、福祉といった諸テーマに関する社会学の理論的・実証的知見を紹介し、現代社会の動向を多角的にとらえることを試みる。																																																																
到達目標	受講生は社会的な発想とデータの解釈にもとづき、現代社会のさまざまな社会現象・社会問題について、一歩深い水準から考察できるようになることが期待される。																																																																
授業方法と留意点	講義形式の授業を行う。授業は教員の作成した配布資料にもとづいて進められる。																																																																
科目学習の効果 (資格)	日々の個人的な経験を、社会構造やその歴史的変化との関連において把握する能力を身につけることができる。																																																																
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr><tr><td>1</td><td>イントロダクション</td><td>講義への導入</td><td>授業の流れについて理解する。</td></tr><tr><td>2</td><td>社会学とは何か</td><td>社会学の研究の枠組みと関心</td><td>レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。</td></tr><tr><td>3</td><td>社会学と社会調査</td><td>計量分析の手法</td><td>レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。</td></tr><tr><td>4</td><td>自己の社会学 (1)</td><td>社会化</td><td>レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。</td></tr><tr><td>5</td><td>自己の社会学 (2)</td><td>意識と無意識</td><td>レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。</td></tr><tr><td>6</td><td>家族・労働の社会学 (1)</td><td>近代家族</td><td>レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。</td></tr><tr><td>7</td><td>家族・労働の社会学 (2)</td><td>結婚、少子化</td><td>レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。</td></tr><tr><td>8</td><td>家族・労働の社会学 (3)</td><td>共働き家族</td><td>レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。</td></tr><tr><td>9</td><td>教育・階層の社会学 (1)</td><td>コンピテンシー教育</td><td>レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。</td></tr><tr><td>10</td><td>教育・階層の社会学 (2)</td><td>学歴</td><td>レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。</td></tr><tr><td>11</td><td>医療・福祉の社会学 (1)</td><td>医療化</td><td>レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。</td></tr><tr><td>12</td><td>医療・福祉の社会学 (2)</td><td>健康と権力</td><td>レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。</td></tr><tr><td>13</td><td>医療・福祉の社会学 (3)</td><td>福祉国家</td><td>レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。</td></tr><tr><td>14</td><td>政治・経済の社会学</td><td>新自由主義</td><td>レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。</td></tr><tr><td>15</td><td>総括</td><td>講義のまとめ</td><td>授業全体を振り返る。</td></tr></table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	講義への導入	授業の流れについて理解する。	2	社会学とは何か	社会学の研究の枠組みと関心	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。	3	社会学と社会調査	計量分析の手法	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。	4	自己の社会学 (1)	社会化	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。	5	自己の社会学 (2)	意識と無意識	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。	6	家族・労働の社会学 (1)	近代家族	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。	7	家族・労働の社会学 (2)	結婚、少子化	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。	8	家族・労働の社会学 (3)	共働き家族	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。	9	教育・階層の社会学 (1)	コンピテンシー教育	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。	10	教育・階層の社会学 (2)	学歴	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。	11	医療・福祉の社会学 (1)	医療化	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。	12	医療・福祉の社会学 (2)	健康と権力	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。	13	医療・福祉の社会学 (3)	福祉国家	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。	14	政治・経済の社会学	新自由主義	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。	15	総括	講義のまとめ	授業全体を振り返る。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	イントロダクション	講義への導入	授業の流れについて理解する。																																																														
2	社会学とは何か	社会学の研究の枠組みと関心	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。																																																														
3	社会学と社会調査	計量分析の手法	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。																																																														
4	自己の社会学 (1)	社会化	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。																																																														
5	自己の社会学 (2)	意識と無意識	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。																																																														
6	家族・労働の社会学 (1)	近代家族	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。																																																														
7	家族・労働の社会学 (2)	結婚、少子化	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。																																																														
8	家族・労働の社会学 (3)	共働き家族	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。																																																														
9	教育・階層の社会学 (1)	コンピテンシー教育	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。																																																														
10	教育・階層の社会学 (2)	学歴	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。																																																														
11	医療・福祉の社会学 (1)	医療化	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。																																																														
12	医療・福祉の社会学 (2)	健康と権力	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。																																																														
13	医療・福祉の社会学 (3)	福祉国家	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。																																																														
14	政治・経済の社会学	新自由主義	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。																																																														
15	総括	講義のまとめ	授業全体を振り返る。																																																														
関連科目	社会学Ⅱ																																																																
教科書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>基礎社会学講義——社会的分析の基本枠組</td><td>小林久高</td><td>学文社</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	基礎社会学講義——社会的分析の基本枠組	小林久高	学文社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1	基礎社会学講義——社会的分析の基本枠組	小林久高	学文社																																																														
2																																																																	
3																																																																	
評価方法 (基準)	コメント (10%) : 授業内容に関するコメントを授業後に求める。 期末試験 (90%) : 授業内容に関する筆記試験を行う。																																																																
学生へのメッセージ	授業内容に興味があり、「これは楽しめそうだ」という人はぜひ参加してください。 なお各テーマについて、意識調査にもとづく計量データの分析にもとづいた解説を行います。統計学に関する知識の習得に積極的であることが望ましいです。																																																																
担当者の研究室等																																																																	
備考	教員のメールアドレスは下記の通り。 motoki.nonomura@edu.setsunan.ac.jp																																																																

科目名	経済学概説	科目名 (英文)	Introduction to Economics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村瀬 憲昭
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JS01310a1		

授業概要・目的	本授業では、教養として身につけておくべき経済活動の仕組みの基礎について学び、身近な生活や国・地域で生じている様々な経済問題を理解する基礎的能力を身につけることを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、国・地域で生じている様々な経済問題に関心を持ち、身近な生活と経済の関係について理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業中に配布した資料に基づき、経済学の基礎や時事経済問題を解説する。 また、授業中に理解度を確認するための小テスト（5回程度）を行う。
科目学習の効果（資格）	社会人として身につけておくべき基礎的な経済学の知識を得ることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション 需要と供給	経済学を学ぶ目的や経済学の概要、ミクロ経済学の基本である需要・供給分析について解説する。	授業の復習（1時間）
	2	需要曲線と消費者行動 費用の構造と供給行動	需要曲線と消費者の行動について解説する。 供給曲線と、供給行動について解説する。	参考資料を用いた事前学習（1時間） 授業の復習（1時間）
	3	市場取引と資源配分	市場と価格メカニズム、資源配分のゆがみ、市場競争と経済発展について解説する。	参考資料を用いた事前学習（1時間） 授業の復習（1時間）
	4	独占と競争の理論	独占の理論、完全競争と独占的競争について解説する。	参考資料を用いた事前学習（1時間） 授業の復習（1時間）
	5	市場の失敗	市場の失敗の例として、外部効果、公共財、費用通減産業について解説する。	参考資料を用いた事前学習（1時間） 授業の復習（1時間）
	6	不確実性と不完全情報の世界	不確実性と経済現象、情報の不完全性とその対応について解説する。	参考資料を用いた事前学習（1時間） 授業の復習（1時間）
	7	ゲームの理論入門	ゲームの理論について解説する。	参考資料を用いた事前学習（1時間） 授業の復習（1時間）
	8	経済をマクロからとらえる	マクロ経済学と国内総生産、マクロ経済における需要と供給について解説する。	参考資料を用いた事前学習（1時間） 授業の復習（1時間）
	9	有効需要と乗数メカニズム	マクロで見た需要、需要の決定とマクロ経済の均衡について解説する。	参考資料を用いた事前学習（1時間） 授業の復習（1時間）
	10	貨幣の機能	貨幣の定義と機能、マネーストックのメカニズム、貨幣供給と物価について解説する。	参考資料を用いた事前学習（1時間） 授業の復習（1時間）
	11	マクロ経済政策	財政政策と金融政策について解説する。	参考資料を用いた事前学習（1時間） 授業の復習（1時間）
	12	インフレ・デフレと失業	インフレーション、デフレーション、失業が発生する要因について解説する。	参考資料を用いた事前学習（1時間） 授業の復習（1時間）
	13	高齢社会の財政運営	高齢化のもとでの財政運営について解説する。	参考資料を用いた事前学習（1時間） 授業の復習（1時間）
	14	経済成長と経済発展	経済成長のメカニズム、資本蓄積と経済成長について解説する。	参考資料を用いた事前学習（1時間） 授業の復習（1時間）
	15	国際経済学	為替レートと貿易、投資との関係など、国際経済学の基礎について解説する。	参考資料を用いた事前学習（1時間） 授業の復習（1時間）

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門経済学（第4版）	伊藤 元重	日本評論社
	2	教養としての経済学	一橋大学経済学部 編	有斐閣
	3			

評価方法（基準）	期末試験 70%、小テスト 30%の割合で評価する。
----------	----------------------------

学生へのメッセージ	新聞記事を読み、身近な経済に関する話題に関心を持つようにしてください。
-----------	-------------------------------------

担当者の研究室等	1 号館 7 階 村瀬研究室（経済学部）
----------	----------------------

備考	
----	--

科目名	経営学概説	科目名 (英文)	Introduction to Management
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	洪 性奉
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JS01311a1		

授業概要・目的	この授業は、経営学を初めて学ぶ学生を対象に、経営戦略論、多国籍企業論、異文化経営、国際マーケティングなど、主なトピックスを取り上げ、その基礎知識の習得とともに、現代企業経営の課題を発見し、解決方法を模索する力を身につけることを目指す。さらに、受講生の国際性の涵養および実社会への応用を期待する。 受講生は、単なる基礎理論の習得だけではなく、疑問を持つことが非常に大切であることを認識し「あなたならどう考えるか」「あなたが経営者となったらどうアクションをとるか」などの実践的な経営感覚と課題解決能力が身につける。																																																																		
到達目標	・企業経営における諸理論の知識が身につく（DP2）。 ・経営者の視点から企業や業界の競争環境が正しく理解できる。 ・受講生は経営学に興味を持ち、自ら発見した問題又はその解決へのプロセス、基本フレームワークが有効に活用できる（DP3）。																																																																		
授業方法と留意点	・講義資料（レジュメ、ワークシート）は教室で配布する。各講義資料はMoodle から事前入手可能。 ・講義の後にはワークシートを作成・提出し、次回にフィードバックを行う。 ・本授業は、講義中心であるが、質疑応答など学生同士のグループディスカッションが多いため受講生の積極的な授業参加を重視する。																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>講義の進め方、成績評価、注意点などについて説明する。</td><td>事前：シラバスと講義資料を事前に読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>企業の本質</td><td>企業が存在する理由としてローナルド・コースの企業の本質と取引コストについて学ぶ。</td><td>事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>企業を取り巻く外部環境</td><td>PEST および PESTEL モデルを使いマクロ環境分析について理解する。</td><td>事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>バリューチェーンの分析と再構築</td><td>企業の事業活動における価値連鎖を正しく理解し、近年、さまざまなビジネスモデルとバリューチェーンについて学ぶ。</td><td>事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>業界が儲かるかを分析する</td><td>業界の収益性に影響を与える要因を探し、その業界の収益性を分析するフレームワークについて、事例を使い演習を行う。</td><td>事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>自動車メーカーが共存できる理由</td><td>状況に応じて、自社が取るべき戦略の方向性を定めるフレームワークについて、M・E. ポーターの 3 つの基本戦略を使い考察する。</td><td>事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>ブルーオーシャン戦略とフレームワーク</td><td>事業の差別化と低コスト化は両立できるかについて、ブルーオーシャン戦略のアクションマトリックスを使い実践的考察を目指す。</td><td>事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>商業が生産を規定するシステム</td><td>大量仕入れ（生産）・大量販売など、国際分業の生産体制について、事例を使い考察する。</td><td>事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>下請け企業の新たな道</td><td>世界的ファウンドリー企業 TSMC を事例に半導体産業について考察する。</td><td>事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>国際ビジネスにおける半導体産業</td><td>半 導 体 産 業 に お け る フ ァ ブ レ ス（fabless）、ファウンドリー（foundry）について理解する。</td><td>事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>まわり道の方が効率が良い</td><td>ロジスティクス（調達や物流）業界におけるさまざまな競争戦略について考察する。</td><td>事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>身近なグローバル化</td><td>国際ビジネスと競争、市場のグローバル化、生産のグローバル化について理解する。</td><td>事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>多国籍企業の参入形態</td><td>多国籍企業の参入形態と市場参入決定プロセスに影響を与える要因について考察する。</td><td>事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>シリコンバレー企業と成長戦略</td><td>近年、シリコンバレーの新たな事業形態および成長戦略について事例を取り上げ考察する。</td><td>事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>講義のまとめ</td><td>学習内容のまとめと補足。</td><td>事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）</td></tr> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	講義の進め方、成績評価、注意点などについて説明する。	事前：シラバスと講義資料を事前に読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）	2	企業の本質	企業が存在する理由としてローナルド・コースの企業の本質と取引コストについて学ぶ。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）	3	企業を取り巻く外部環境	PEST および PESTEL モデルを使いマクロ環境分析について理解する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）	4	バリューチェーンの分析と再構築	企業の事業活動における価値連鎖を正しく理解し、近年、さまざまなビジネスモデルとバリューチェーンについて学ぶ。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）	5	業界が儲かるかを分析する	業界の収益性に影響を与える要因を探し、その業界の収益性を分析するフレームワークについて、事例を使い演習を行う。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）	6	自動車メーカーが共存できる理由	状況に応じて、自社が取るべき戦略の方向性を定めるフレームワークについて、M・E. ポーターの 3 つの基本戦略を使い考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）	7	ブルーオーシャン戦略とフレームワーク	事業の差別化と低コスト化は両立できるかについて、ブルーオーシャン戦略のアクションマトリックスを使い実践的考察を目指す。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）	8	商業が生産を規定するシステム	大量仕入れ（生産）・大量販売など、国際分業の生産体制について、事例を使い考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）	9	下請け企業の新たな道	世界的ファウンドリー企業 TSMC を事例に半導体産業について考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）	10	国際ビジネスにおける半導体産業	半 導 体 産 業 に お け る フ ァ ブ レ ス（fabless）、ファウンドリー（foundry）について理解する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）	11	まわり道の方が効率が良い	ロジスティクス（調達や物流）業界におけるさまざまな競争戦略について考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）	12	身近なグローバル化	国際ビジネスと競争、市場のグローバル化、生産のグローバル化について理解する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）	13	多国籍企業の参入形態	多国籍企業の参入形態と市場参入決定プロセスに影響を与える要因について考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）	14	シリコンバレー企業と成長戦略	近年、シリコンバレーの新たな事業形態および成長戦略について事例を取り上げ考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）	15	講義のまとめ	学習内容のまとめと補足。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	講義の進め方、成績評価、注意点などについて説明する。	事前：シラバスと講義資料を事前に読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）																																																																
2	企業の本質	企業が存在する理由としてローナルド・コースの企業の本質と取引コストについて学ぶ。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）																																																																
3	企業を取り巻く外部環境	PEST および PESTEL モデルを使いマクロ環境分析について理解する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）																																																																
4	バリューチェーンの分析と再構築	企業の事業活動における価値連鎖を正しく理解し、近年、さまざまなビジネスモデルとバリューチェーンについて学ぶ。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）																																																																
5	業界が儲かるかを分析する	業界の収益性に影響を与える要因を探し、その業界の収益性を分析するフレームワークについて、事例を使い演習を行う。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）																																																																
6	自動車メーカーが共存できる理由	状況に応じて、自社が取るべき戦略の方向性を定めるフレームワークについて、M・E. ポーターの 3 つの基本戦略を使い考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）																																																																
7	ブルーオーシャン戦略とフレームワーク	事業の差別化と低コスト化は両立できるかについて、ブルーオーシャン戦略のアクションマトリックスを使い実践的考察を目指す。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）																																																																
8	商業が生産を規定するシステム	大量仕入れ（生産）・大量販売など、国際分業の生産体制について、事例を使い考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）																																																																
9	下請け企業の新たな道	世界的ファウンドリー企業 TSMC を事例に半導体産業について考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）																																																																
10	国際ビジネスにおける半導体産業	半 導 体 産 業 に お け る フ ァ ブ レ ス（fabless）、ファウンドリー（foundry）について理解する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）																																																																
11	まわり道の方が効率が良い	ロジスティクス（調達や物流）業界におけるさまざまな競争戦略について考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）																																																																
12	身近なグローバル化	国際ビジネスと競争、市場のグローバル化、生産のグローバル化について理解する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）																																																																
13	多国籍企業の参入形態	多国籍企業の参入形態と市場参入決定プロセスに影響を与える要因について考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）																																																																
14	シリコンバレー企業と成長戦略	近年、シリコンバレーの新たな事業形態および成長戦略について事例を取り上げ考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）																																																																
15	講義のまとめ	学習内容のまとめと補足。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）																																																																
関連科目	競争戦略論、経営戦略論、グローバル経営論																																																																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書																																																																			

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	戦略経営論—競争力とグローバリゼーション	マイケル A. ヒット、ロバート E. ホスキソン、R. デュエーン・アイ ルランド	センゲージラーニング
	2	競争の戦略	マイケル・E. ポーター	ダイヤモンド社
	3	国際ビジネス 1—グローバル化と国による違い—	チャールズ・W・L・ヒル	楽工社
評価方法 (基準)	・成績評価の方法：中間レポート 30%、期末レポート 40%、ワークシート 30%で評価する。 ・評価基準：授業で設定した課題への到達度を総合的に評価する。 ・中間レポートと期末レポートは授業内容への理解度をはかる。執筆要領に従うこと。詳細は、受講生の理解度に応じて授業中に提示する。 ・その他、ワークシートの提出および積極的な発表やクラスへの貢献度を重視する。			
学生への メッセージ	・授業の進行状況および受講生の理解度に応じて内容が変更する場合がある。 ・授業に関する質問は、授業の後やメールで対応する。メールアドレスは講義資料に記載する。			
担当者の 研究室等	洪 研究室（相談時は事前に連絡ください）			
備考				

科目名	情報リテラシー	科目名 (英文)	Information Literacy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	678910
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	寺内 睦博
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JMA1315a1		

授業概要・目的	大学生活で要求される情報リテラシー能力（文書作成、表計算、プレゼンテーション）の修得、社会人としての情報モラルの修得および自分と自分が所属する組織を守る情報セキュリティに関する理解を目的とする。				
到達目標	現代社会における情報モラルと情報セキュリティの必要性を認識し、対応力を身につける。 Word で見栄えの良い文書を作成できる、データ活用のしやすい表計算シートを作成できる、ターゲットとなる聴衆を意識したスライドを作成できる、課題に対してオフィスアプリケーションを利用するシーンを想定できるようになること。				
授業方法と留意点	「情報のモラルとセキュリティ」について具体的な事例を用いた学習により知識を獲得する。 情報処理演習室にて演習形式で授業を行う。 なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。				
科目学習の効果（資格）	MOS(Microsoft Office Specialist)資格（民間資格）や情報処理関連資格の基礎的技能や知識が得られる。				
授業計画		回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1		【オリエンテーション】 大学生としての情報倫理 摂南大学の ICT 環境 インターネットの利用	モラルとセキュリティに関する質問 OneDrive の使い方 Moodle への登録 出欠管理システム ポータルサイト メールシステム インターネット検索 タイピング練習	事前：情報モラルとセキュリティのテキストに目を通す(30 分) 事後：事後課題の完成(30 分)
	2		Windows 基本操作 【Word】 Word の初歩	個人情報の適切な取り扱い 用語解説 IME の使い方 文書を作成する 文書内を移動する	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	3		【Word】 文書の作成と管理 表の作成、文書の編集	デジタル時代の著作権(1) 文書の書式を設定する 文書のオプションとカスタマイズ 文字列や段落の挿入と書式設定 文字列や段落の並び替えとグループ化	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	4		【Word】 グラフィック要素の挿入と編集	デジタル時代の著作権(2) グラフィック要素を挿入する グラフィック要素を書式設定する 図形・数式の挿入・編集	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	5		【Word】 アウトラインと長文作成	ネット社会に潜む危険と対策(1) アウトラインの設定・編集 長文作成のための機能	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	6		【Word】 レイアウトの変更とセクション設定 段組みを使った文書作成	ネット社会に潜む危険と対策(2) 文書のレイアウトとセクション 段組みを使った文書	事前：文書作成機能の復習(1 時間)
	7		【PowerPoint】 スライドの作成	メールによるコミュニケーション スライドの作成 グラフィック要素の挿入と書式設定 アニメーションの設定 スライドの切り替え	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	8		【PowerPoint】 プレゼンテーション演習	発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前：発表練習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	9		【Excel】 Excel の概要 基礎スキル	Web によるコミュニケーション(1) セルへの入力、シートの編集、計算とセル参照、基本関数	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	10		【Excel】 グラフの作成と設定	Web によるコミュニケーション(2) グラフの種類とパーツ グラフを作成する グラフを書式設定する	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	11		【Excel】 表の視覚化と詳細設定	Web によるコミュニケーション(3) 条件付き書式の設定と修正 スパークラインの設定 表の詳細設定	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	12		【Excel】 関数の利用	モバイル機器の活用と管理 さまざまな関数を利用する	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	13		【Excel】 データ集計とピボットテーブル	情報モラルとセキュリティ ピボットテーブルの利用	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	14		【Excel】 データベースとしての使い方 Excel の表・グラフの利用	データベースとしての表の操作 Excel の表やグラフを Word で利用する	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	15		【Excel】 マクロ：操作の自動化	情報モラルとセキュリティのまとめ マクロの記録と編集、再利用	事前：今までの諸機能の復習(1 時間)
関連科目	応用情報処理				

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	30 時間アカデミック Office2019	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版
	2	〈改訂 4 版〉情報モラル & 情報セキュリティ	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	演習課題(60%)、プレゼンやタイピング等の操作スキル(40%) を総合して評価する。			
学生への メッセージ	とにかく使ってください。「考えるより慣れろ」です。 疑問を放置しないこと。何でも質問してください。			
担当者の 研究室等	寺内准教授室（寝屋川：1 1 号館 1 0 階研究室）			
備考	授業時間外に質問したい場合は、メールあるいは Microsoft Teams のこの授業のチームの質問チャネル、または Teams チャットで質問してください。			

科目名	情報リテラシー	科目名 (英文)	Information Literacy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	1112131415
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	新居 英志
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JMA1315a1		

授業概要・目的	大学生活で要求される情報リテラシー能力（文書作成、表計算、プレゼンテーション）の修得、社会人としての情報モラルの修得および自分と自分が所属する組織を守る情報セキュリティに関する理解を目的とする。				
到達目標	現代社会における情報モラルと情報セキュリティの必要性を認識し、対応力を身につける。 Word で見栄えの良い文書を作成できる、データ活用のしやすい表計算シートを作成できる、ターゲットとなる聴衆を意識したスライドを作成できる、課題に対してオフィスアプリケーションを利用するシーンを想定できるようになること。				
授業方法と留意点	「情報のモラルとセキュリティ」について具体的な事例を用いた学習により知識を獲得する。 情報処理演習室にて演習形式で授業を行う。 なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。				
科目学習の効果（資格）	MOS(Microsoft Office Specialist)資格（民間資格）や情報処理関連資格の基礎的技能や知識が得られる。				
授業計画		回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1		【オリエンテーション】 大学生としての情報倫理 摂南大学の ICT 環境 インターネットの利用	モラルとセキュリティに関する質問 OneDrive の使い方 Moodle への登録 出欠管理システム ポータルサイト メールシステム インターネット検索 タイピング練習	事前：情報モラルとセキュリティのテキストに目を通す(30 分) 事後：事後課題の完成(30 分)
	2		Windows 基本操作 【Word】 Word の初歩	個人情報の適切な取り扱い 用語解説 IME の使い方 文書を作成する 文書内を移動する	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	3		【Word】 文書の作成と管理 表の作成、文書の編集	デジタル時代の著作権(1) 文書の書式を設定する 文書のオプションとカスタマイズ 文字列や段落の挿入と書式設定 文字列や段落の並び替えとグループ化	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	4		【Word】 グラフィック要素の挿入と編集	デジタル時代の著作権(2) グラフィック要素を挿入する グラフィック要素を書式設定する 図形・数式の挿入・編集	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	5		【Word】 アウトラインと長文作成	ネット社会に潜む危険と対策(1) アウトラインの設定・編集 長文作成のための機能	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	6		【Word】 レイアウトの変更とセクション設定 段組みを使った文書作成	ネット社会に潜む危険と対策(2) 文書のレイアウトとセクション 段組みを使った文書	事前：文書作成機能の復習(1 時間)
	7		【PowerPoint】 スライドの作成	メールによるコミュニケーション スライドの作成 グラフィック要素の挿入と書式設定 アニメーションの設定 スライドの切り替え	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	8		【PowerPoint】 プレゼンテーション演習	発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前：発表練習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	9		【Excel】 Excel の概要 基礎スキル	Web によるコミュニケーション(1) セルへの入力、シートの編集、計算とセル参照、基本関数	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	10		【Excel】 グラフの作成と設定	Web によるコミュニケーション(2) グラフの種類とパーツ グラフを作成する グラフを書式設定する	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	11		【Excel】 表の視覚化と詳細設定	Web によるコミュニケーション(3) 条件付き書式の設定と修正 スパークラインの設定 表の詳細設定	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	12		【Excel】 関数の利用	モバイル機器の活用と管理 さまざまな関数を利用する	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	13		【Excel】 データ集計とピボットテーブル	情報モラルとセキュリティ ピボットテーブルの利用	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	14		【Excel】 データベースとしての使い方 Excel の表・グラフの利用	データベースとしての表の操作 Excel の表やグラフを Word で利用する	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	15		【Excel】 マクロ：操作の自動化	情報モラルとセキュリティのまとめ マクロの記録と編集、再利用	事前：今までの諸機能の復習(1 時間)
関連科目	応用情報処理				

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	30 時間アカデミック Office2019	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版
	2	<改訂 4 版>情報モラル & 情報セキュリティ	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	演習課題 (60%)、プレゼンやタイピング等の操作スキル (40%) を総合して評価する。			
学生への メッセージ	疑問点は放置せずに次回授業日までに解消するようにしてください。毎週の理解の積み重ねが重要です。			
担当者の 研究室等	新居研究室 (7 号館 5 階)			
備考				

科目名	情報リテラシー	科目名 (英文)	Information Literacy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	12345
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	石原 恭子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JMA1315a1		

授業概要・目的	大学生活で要求される情報リテラシー能力（文書作成、表計算、プレゼンテーション）の修得、社会人としての情報モラルの修得および自分と自分が所属する組織を守る情報セキュリティに関する理解を目的とする。
到達目標	現代社会における情報モラルと情報セキュリティの必要性を認識し、対応力を身につける。 Word で見栄えの良い文書を作成できる、データ活用のしやすい表計算シートを作成できる、ターゲットとなる聴衆を意識したスライドを作成できる、課題に対してオフィスアプリケーションを利用するシーンを想定できるようになること。
授業方法と留意点	「情報のモラルとセキュリティ」について具体的な事例を用いた学習により知識を獲得する。 情報処理演習室にて演習形式で授業を行う。 なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果（資格）	MOS(Microsoft Office Specialist)資格（民間資格）や情報処理関連資格の基礎的技能や知識が得られる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	【オリエンテーション】 大学生としての情報倫理 摂南大学の ICT 環境 インターネットの利用	モラルとセキュリティに関する質問 OneDrive の使い方 Moodle への登録 出欠管理システム ポータルサイト メールシステム インターネット検索 タイピング練習	事前：情報モラルとセキュリティのテキストに目を通す(30 分) 事後：事後課題の完成(30 分)
	2	Windows 基本操作 【Word】 Word の初歩	個人情報の適切な取り扱い 用語解説 IME の使い方 文書を作成する 文書内を移動する	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	3	【Word】 文書の作成と管理 表の作成、文書の編集	デジタル時代の著作権(1) 文書の書式を設定する 文書のオプションとカスタマイズ 文字列や段落の挿入と書式設定 文字列や段落の並び替えとグループ化	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	4	【Word】 グラフィック要素の挿入と編集	デジタル時代の著作権(2) グラフィック要素を挿入する グラフィック要素を書式設定する 図形・数式の挿入・編集	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	5	【Word】 アウトラインと長文作成	ネット社会に潜む危険と対策(1) アウトラインの設定・編集 長文作成のための機能	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	6	【Word】 レイアウトの変更とセクション設定 段組みを使った文書作成	ネット社会に潜む危険と対策(2) 文書のレイアウトとセクション 段組みを使った文書	事前：文書作成機能の復習(1 時間)
	7	【PowerPoint】 スライドの作成	メールによるコミュニケーション スライドの作成 グラフィック要素の挿入と書式設定 アニメーションの設定 スライドの切り替え	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	8	【PowerPoint】 プレゼンテーション演習	発表者ツールの設定 相互発表 ループリック評価	事前：発表練習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	9	【Excel】 Excel の概要 基礎スキル	Web によるコミュニケーション(1) セルへの入力、シートの編集、計算とセル参照、基本関数	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	10	【Excel】 グラフの作成と設定	Web によるコミュニケーション(2) グラフの種類とパーツ グラフを作成する グラフを書式設定する	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	11	【Excel】 表の視覚化と詳細設定	Web によるコミュニケーション(3) 条件付き書式の設定と修正 スパークラインの設定 表の詳細設定	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	12	【Excel】 関数の利用	モバイル機器の活用と管理 さまざまな関数を利用する	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	13	【Excel】 データ集計とピボットテーブル	情報モラルとセキュリティ ピボットテーブルの利用	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	14	【Excel】 データベースとしての使い方 Excel の表・グラフの利用	データベースとしての表の操作 Excel の表やグラフを Word で利用する	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	15	【Excel】 マクロ：操作の自動化	情報モラルとセキュリティのまとめ マクロの記録と編集、再利用	事前：今までの諸機能の復習(1 時間)
関連科目	応用情報処理			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	30 時間アカデミック Office2019	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版
	2	<改訂 4 版>情報モラル & 情報セキュリティ	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	演習課題 (60%)、プレゼンやタイピング等の操作スキル(40%) を総合して評価する。			
学生への メッセージ	情報リテラシー能力を習得し、大学生活に活かしましょう。 現代社会に必須の情報モラルとセキュリティに関する理解を深めましょう。 疑問点は放置せず、積極的に質問することで速やかに解消しましょう。			
担当者の 研究室等	経営学部非常勤講師室 (11 号館 6 階) (授業曜日・時限のみ)			
備考				

科目名	情報リテラシー	科目名 (英文)	Information Literacy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	16K1K2
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	坂口 紫
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JMA1315a1		

授業概要・目的	大学生活で要求される情報リテラシー能力（文書作成、表計算、プレゼンテーション）の修得、社会人としての情報モラルの修得および自分と自分が所属する組織を守る情報セキュリティに関する理解を目的とする。				
到達目標	現代社会における情報モラルと情報セキュリティの必要性を認識し、対応力を身につける。 Word で見栄えの良い文書を作成できる、データ活用のしやすい表計算シートを作成できる、ターゲットとなる聴衆を意識したスライドを作成できる、課題に対してオフィスアプリケーションを利用するシーンを想定できるようになること。				
授業方法と留意点	「情報のモラルとセキュリティ」について具体的な事例を用いた学習により知識を獲得する。 情報処理演習室にて演習形式で授業を行う。 なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。				
科目学習の効果（資格）	MOS(Microsoft Office Specialist)資格（民間資格）や情報処理関連資格の基礎的技能や知識が得られる。				
授業計画		回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1		【オリエンテーション】 大学生としての情報倫理 摂南大学の ICT 環境 インターネットの利用	モラルとセキュリティに関する質問 OneDrive の使い方 Moodle への登録 出欠管理システム ポータルサイト メールシステム インターネット検索 タイピング練習	事前：情報モラルとセキュリティのテキストに目を通す(30 分) 事後：事後課題の完成(30 分)
	2		Windows 基本操作 【Word】 Word の初歩	個人情報の適切な取り扱い 用語解説 IME の使い方 文書を作成する 文書内を移動する	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	3		【Word】 文書の作成と管理 表の作成、文書の編集	デジタル時代の著作権(1) 文書の書式を設定する 文書のオプションとカスタマイズ 文字列や段落の挿入と書式設定 文字列や段落の並び替えとグループ化	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	4		【Word】 グラフィック要素の挿入と編集	デジタル時代の著作権(2) グラフィック要素を挿入する グラフィック要素を書式設定する 図形・数式の挿入・編集	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	5		【Word】 アウトラインと長文作成	ネット社会に潜む危険と対策(1) アウトラインの設定・編集 長文作成のための機能	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	6		【Word】 レイアウトの変更とセクション設定 段組みを使った文書作成	ネット社会に潜む危険と対策(2) 文書のレイアウトとセクション 段組みを使った文書	事前：文書作成機能の復習(1 時間)
	7		【PowerPoint】 スライドの作成	メールによるコミュニケーション スライドの作成 グラフィック要素の挿入と書式設定 アニメーションの設定 スライドの切り替え	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	8		【PowerPoint】 プレゼンテーション演習	発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前：発表練習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	9		【Excel】 Excel の概要 基礎スキル	Web によるコミュニケーション(1) セルへの入力、シートの編集、計算とセル参照、基本関数	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	10		【Excel】 グラフの作成と設定	Web によるコミュニケーション(2) グラフの種類とパーツ グラフを作成する グラフを書式設定する	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	11		【Excel】 表の視覚化と詳細設定	Web によるコミュニケーション(3) 条件付き書式の設定と修正 スパークラインの設定 表の詳細設定	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	12		【Excel】 関数の利用	モバイル機器の活用と管理 さまざまな関数を利用する	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	13		【Excel】 データ集計とピボットテーブル	情報モラルとセキュリティ ピボットテーブルの利用	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	14		【Excel】 データベースとしての使い方 Excel の表・グラフの利用	データベースとしての表の操作 Excel の表やグラフを Word で利用する	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：事後課題の完成・提出(30 分)
	15		【Excel】 マクロ：操作の自動化	情報モラルとセキュリティのまとめ マクロの記録と編集、再利用	事前：今までの諸機能の復習(1 時間)
関連科目	応用情報処理				

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	30 時間アカデミック Office2019	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版
	2	〈改訂 4 版〉情報モラル & 情報セキュリティ	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	演習課題 (60%)、プレゼンやタイピング等の操作スキル(40%) を総合して評価します。 詳細は初回授業時に説明しますので、欠席しないようにしましょう。			
学生への メッセージ	PC の基本操作を学習します。多人数の一斉授業であり個別対応は難しいため、PC 操作に自信がない方は必ず事前に予習を行ってください。 個別の連絡や質問対応は、主に Teams のチャット機能を利用できます。積極的に利用してください。 (スマートフォンに Teams アプリをインストールしておきましょう)			
担当者の 研究室等	非常勤講師のため、研究室はありません。 連絡・質問は、Teams のチャットを利用してください。			
備考	大学の PC 教室をはじめ、教科書の解説はすべて Windows (OS) 対応となります。Mac (OS) には対応していませんので、自宅学習用の PC が Mac の方は、教科書通りの操作ではうまくいかないことがあります。その場合は自己責任で対処方法を調べてください。(講師は Mac 環境への個別対応は行いません)			

科目名	データサイエンス基礎	科目名 (英文)	Basic Data Science
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	78910112
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期集中	授業担当者	寺内 睦博
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JMA1316a1		

授業概要・目的	「数理・データサイエンス・AI」は現代の「読み・書き・そろばん」であり、デジタル社会において学ぶべき教養である。本講義ではその基礎として、データ分析の歴史、背景や現状について知り、データの種類・解析方法や AI に必要な技術、その応用例などを様々な事例を通して学び理解する。また、エクセルを用いて実際にデータを処理し、その活用方法を身に付けることを目的とする。
到達目標	データの種類や処理の目的を理解できると共に、データサイエンス・AI の基本的な使い方、およびその際に注意すべきことを理解できるようになること。
授業方法と留意点	本講義はオンデマンド形式の講義です。毎週、動画の視聴とレポート提出、演習課題提出、確認テストが必須ですので、計画的にこなしてください。
科目学習の効果 (資格)	「データサイエンティスト検定 リテラシーレベル」や「基本情報処理技術者」の資格取得に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス データサイエンスとは	・大学のシステム (moodle, Teams, メール, OneDrive) の利用方法について ・本講義の受講方法, 注意点など ・データサイエンス, AI とは	事後: 動画視聴, 課題レポート・演習課題の提出, 確認テスト
	2	社会で起きている変化(1)	・日本企業の国際競争力低下 ・情報通信メディアの普及 ・DX (デジタル・トランスフォーメーション) ・演習「Excel の基本的な操作(1)」	事前: 動画視聴, 演習課題 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	3	社会で起きている変化(2)	・デジタル社会の提言 ・Society5.0 ・演習「Excel の基本的な操作(2)」	事前: 動画視聴, 演習課題 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	4	社会で活用されているデータ(1)	・データの種類 ・1 次データ, 2 次データ, メタデータ ・オープンデータ ・演習「時系列データの可視化(1)」	事前: 動画視聴, 演習課題 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	5	社会で活用されているデータ(2)	・構造化データ, 非構造化データ ・テキストデータ, 画像・音声データ ・アノテーション ・演習「時系列データの可視化(2)」	事前: 動画視聴, 演習課題 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	6	データ・AI の活用領域	・データサイエンスの活用事例 ・研究開発, マーケティング, 品質管理におけるデータ分析 ・演習「平均の算出とその可視化」	事前: 動画視聴, 演習課題 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	7	データ・AI 利活用のための技術(1)	・データの一次分析と可視化 ・言語処理, 画像処理, 音声処理技術について ・演習「標準偏差の算出とその可視化」	事前: 動画視聴, 演習課題 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	8	データ・AI 利活用のための技術(2)	・データ解析 (予測, グルーピングパターン発見, 最適化) ・特化型 AI と汎用 AI ・自動機械学習 ・演習「大量のデータを扱う方法(1)」	事前: 動画視聴, 演習課題 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	9	データ・AI 利活用の現場(1)	・データサイエンスのサイクル ・製造業のデータ・AI 活用 ・演習「大量のデータを扱う方法(2)」	事前: 動画視聴, 演習課題 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	10	データ・AI 利活用の現場(2)	・小売業のデータ・AI 活用 ・サービス業のデータ・AI 活用 ・公共・インフラのデータ・AI 活用 ・演習「基本統計量の算出と箱ひげ図(1)」	事前: 動画視聴, 演習課題 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	11	データ・AI 利活用の現場(3)	・データ・AI 活用による新しいビジネス領域 ・演習「基本統計量の算出と箱ひげ図(2)」	事前: 動画視聴, 演習課題 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	12	データ・AI 利活用の最新動向	・AI などを活用した新しいビジネス ・AI 最新技術の活用例 ・演習「度数分布表とヒストグラムの作成」	事前: 動画視聴, 演習課題 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	13	データ・AI を扱う上での留意事項(1)	・ELSI とは何か ・データの倫理 ・個人情報とプライバシー ・演習「散布図の作成と相関係数の算出」	事前: 動画視聴, 演習課題 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	14	データ・AI を扱う上での留意事項(2)	・バイアス ・社会的合意の形成に向けて ・演習「定性データの扱い方とクロス集計」	事前: 動画視聴, 演習課題 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	15	データを守る上での留意事項	・情報セキュリティとは ・情報セキュリティ脅威に関する事例 ・データの守り方 ・演習「総合演習」	事前: 動画視聴, 演習課題 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施

関連科目	情報リテラシー			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	AI データサイエンスリテラシー入門	吉岡剛志他	技術評論社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	オンデマンド視聴の達成率：40% 課題レポート：20% 演習課題：20% 確認テスト：20%			
学生への メッセージ	昨今のデジタル社会において必須であるデータの扱い方について学ぶことができます。オンデマンド講義のため、計画的な動画視聴が必要です。 疑問点は放置せず積極的に質問することで速やかに解消してください。			
担当者の 研究室等	寺内准教授室（11 号館 10 階）			
備考				

科目名	データサイエンス基礎	科目名 (英文)	Basic Data Science
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	13141516K1K2
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期集中	授業担当者	新居 英志
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JMA1316a1		

授業概要・目的	「数理・データサイエンス・AI」は現代の「読み・書き・そろばん」であり、デジタル社会において学ぶべき教養である。本講義ではその基礎として、データ分析の歴史、背景や現状について知り、データの種類・解析方法や AI に必要な技術、その応用例などを様々な事例を通して学び理解する。また、エクセルを用いて実際にデータを処理し、その活用方法を身に付けることを目的とする。
到達目標	データの種類や処理の目的を理解できると共に、データサイエンス・AI の基本的な使い方、およびその際に注意すべきことを理解できるようになること。
授業方法と留意点	本講義はオンデマンド形式の講義です。毎週、動画の視聴とレポート提出、演習課題提出、確認テストが必須ですので、計画的にこなしてください。
科目学習の効果 (資格)	「データサイエンティスト検定 リテラシーレベル」や「基本情報処理技術者」の資格取得に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス データサイエンスとは	- 大学のシステム (moodle, Teams, メール, OneDrive) の利用方法について - 本講義の受講方法, 注意点など - データサイエンス, AI とは	事後: 動画視聴, 課題レポート・演習課題の提出, 確認テスト
	2	社会で起きている変化(1)	- 日本企業の国際競争力低下 - 情報通信メディアの普及 - DX (デジタル・トランスフォーメーション) - 演習「Excel の基本的な操作(1)」	事前: 動画視聴, 演習課題 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	3	社会で起きている変化(2)	- デジタル社会の提言 - Society5.0 - 演習「Excel の基本的な操作(2)」	事前: 動画視聴, 演習課題 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	4	社会で活用されているデータ(1)	- データの種類 1 次データ, 2 次データ, メタデータ - オープンデータ - 演習「時系列データの可視化(1)」	事前: 動画視聴, 演習課題 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	5	社会で活用されているデータ(2)	- 構造化データ, 非構造化データ - テキストデータ, 画像・音声データ - アノテーション - 演習「時系列データの可視化(2)」	事前: 動画視聴, 演習課題 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	6	データ・AI の活用領域	- データサイエンスの活用事例 - 研究開発, マーケティング, 品質管理におけるデータ分析 - 演習「平均の算出とその可視化」	事前: 動画視聴, 演習課題 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	7	データ・AI 利活用のための技術(1)	- データの一次分析と可視化 - 言語処理, 画像処理, 音声処理技術について - 演習「標準偏差の算出とその可視化」	事前: 動画視聴, 演習課題 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	8	データ・AI 利活用のための技術(2)	- データ解析 (予測, グルーピングパターン発見, 最適化) - 特化型 AI と汎用 AI - 自動機械学習 - 演習「大量のデータを扱う方法(1)」	事前: 動画視聴, 演習課題 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	9	データ・AI 利活用の現場(1)	- データサイエンスのサイクル - 製造業のデータ・AI 活用 - 演習「大量のデータを扱う方法(2)」	事前: 動画視聴, 演習課題 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	10	データ・AI 利活用の現場(2)	- 小売業のデータ・AI 活用 - サービス業のデータ・AI 活用 - 公共・インフラのデータ・AI 活用 - 演習「基本統計量の算出と箱ひげ図(1)」	事前: 動画視聴, 演習課題 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	11	データ・AI 利活用の現場(3)	- データ・AI 活用による新しいビジネス領域 - 演習「基本統計量の算出と箱ひげ図(2)」	事前: 動画視聴, 演習課題 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	12	データ・AI 利活用の最新動向	- AI などを活用した新しいビジネス - AI 最新技術の活用例 - 演習「度数分布表とヒストグラムの作成」	事前: 動画視聴, 演習課題 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	13	データ・AI を扱う上での留意事項(1)	- ELSI とは何か - データの倫理 - 個人情報とプライバシー - 演習「散布図の作成と相関係数の算出」	事前: 動画視聴, 演習課題 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	14	データ・AI を扱う上での留意事項(2)	- バイアス - 社会的合意の形成に向けて - 演習「定性データの扱い方とクロス集計」	事前: 動画視聴, 演習課題 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	15	データを守る上での留意事項	- 情報セキュリティとは - 情報セキュリティ脅威に関する事例 - データの守り方 - 演習「総合演習」	事前: 動画視聴, 演習課題 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施

関連科目	情報リテラシー			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	AI データサイエンスリテラシー入門	吉岡剛志他	技術評論社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	オンデマンド視聴の達成率：40% 課題レポート：20% 演習課題：20% 確認テスト：20%			
学生への メッセージ	昨今のデジタル社会において必須であるデータの扱い方について学ぶことができます。オンデマンド講義のため、計画的な動画視聴が必要です。 疑問点は放置せず積極的に質問することで速やかに解消してください。			
担当者の 研究室等	新居研究室（7号館5階）			
備考				

科目名	データサイエンス基礎	科目名 (英文)	Basic Data Science
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	123456
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期集中	授業担当者	米本 涼
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JMA1316a1		

授業概要・目的	「数理・データサイエンス・AI」は現代の「読み・書き・そろばん」であり、デジタル社会において学ぶべき教養である。本講義ではその基礎として、データ分析の歴史、背景や現状について知り、データの種類・解析方法や AI に必要な技術、その応用例などを様々な事例を通して学び理解する。また、エクセルを用いて実際にデータを処理し、その活用方法を身に付けることを目的とする。
到達目標	データの種類や処理の目的を理解できると共に、データサイエンス・AI の基本的な使い方、およびその際に注意すべきことを理解できるようになること。
授業方法と留意点	本講義はオンデマンド形式の講義です。毎週、動画の視聴とレポート提出、演習課題提出、確認テストが必須ですので、計画的にこなしてください。
科目学習の効果 (資格)	「データサイエンティスト検定 リテラシーレベル」や「基本情報処理技術者」の資格取得に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス データサイエンスとは	- 大学のシステム (moodle, Teams, メール, OneDrive) の利用方法について - 本講義の受講方法, 注意点など - データサイエンス, AI とは	事後: 動画視聴, 課題レポート・演習課題の提出, 確認テスト
	2	社会で起きている変化(1)	- 日本企業の国際競争力低下 - 情報通信メディアの普及 - DX (デジタル・トランスフォーメーション) - 演習「Excel の基本的な操作(1)」	事前: 動画視聴, 演習課題 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	3	社会で起きている変化(2)	- デジタル社会の提言 - Society5.0 - 演習「Excel の基本的な操作(2)」	事前: 動画視聴, 演習課題 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	4	社会で活用されているデータ(1)	- データの種類 1 次データ, 2 次データ, メタデータ - オープンデータ - 演習「時系列データの可視化(1)」	事前: 動画視聴, 演習課題 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	5	社会で活用されているデータ(2)	- 構造化データ, 非構造化データ - テキストデータ, 画像・音声データ - アノテーション - 演習「時系列データの可視化(2)」	事前: 動画視聴, 演習課題 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	6	データ・AI の活用領域	- データサイエンスの活用事例 - 研究開発, マーケティング, 品質管理におけるデータ分析 - 演習「平均の算出とその可視化」	事前: 動画視聴, 演習課題 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	7	データ・AI 利活用のための技術(1)	- データの一次分析と可視化 - 言語処理, 画像処理, 音声処理技術について - 演習「標準偏差の算出とその可視化」	事前: 動画視聴, 演習課題 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	8	データ・AI 利活用のための技術(2)	- データ解析 (予測, グルーピングパターン発見, 最適化) - 特化型 AI と汎用 AI - 自動機械学習 - 演習「大量のデータを扱う方法(1)」	事前: 動画視聴, 演習課題 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	9	データ・AI 利活用の現場(1)	- データサイエンスのサイクル - 製造業のデータ・AI 活用 - 演習「大量のデータを扱う方法(2)」	事前: 動画視聴, 演習課題 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	10	データ・AI 利活用の現場(2)	- 小売業のデータ・AI 活用 - サービス業のデータ・AI 活用 - 公共・インフラのデータ・AI 活用 - 演習「基本統計量の算出と箱ひげ図(1)」	事前: 動画視聴, 演習課題 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	11	データ・AI 利活用の現場(3)	- データ・AI 活用による新しいビジネス領域 - 演習「基本統計量の算出と箱ひげ図(2)」	事前: 動画視聴, 演習課題 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	12	データ・AI 利活用の最新動向	- AI などを活用した新しいビジネス - AI 最新技術の活用例 - 演習「度数分布表とヒストグラムの作成」	事前: 動画視聴, 演習課題 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	13	データ・AI を扱う上での留意事項(1)	- ELSI とは何か - データの倫理 - 個人情報とプライバシー - 演習「散布図の作成と相関係数の算出」	事前: 動画視聴, 演習課題 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	14	データ・AI を扱う上での留意事項(2)	- バイアス - 社会的合意の形成に向けて - 演習「定性データの扱い方とクロス集計」	事前: 動画視聴, 演習課題 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施
	15	データを守る上での留意事項	- 情報セキュリティとは - 情報セキュリティ脅威に関する事例 - データの守り方 - 演習「総合演習」	事前: 動画視聴, 演習課題 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施

関連科目	情報リテラシー			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	AI データサイエンスリテラシー入門	吉岡剛志他	技術評論社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	オンデマンド視聴の達成率：40% 課題レポート：20% 演習課題：20% 確認テスト：20%			
学生への メッセージ	昨今のデジタル社会において必須であるデータの扱い方について学ぶことができます。オンデマンド講義のため、計画的な動画視聴が必要です。 疑問点は放置せず積極的に質問することで速やかに解消してください。			
担当者の 研究室等	米本研究室（7号館5階）			
備考				

科目名	数学基礎	科目名（英文）	Basic Mathematics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	181114
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	津村 忠
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1318a1		

授業概要・目的	本科目の目的は、学生同士または学生と教員で「(数学の) わからない」を共有し、他者と協働して問題を解決することです。 授業では、問題を解くだけでなく、他者と協働で解説を作成する（わかりやすく作り替える）機会を設けます。 文系・理系、数学の得意不得意に関わらず、他者と協働でわかりやすい解説を模索することで、新たな視点で知識を再確認できるとともに、自身の理解を深めていくことが期待されます。
到達目標	この授業を通じて ・基礎的な数学的知識、数的能力、論理的思考力を身につける ・自身の知識を他者に分かりやすく伝える力を身につける（または向上させる）ことができる。
授業方法と留意点	プリントを用いた講義・演習が中心。また、授業の進捗に合わせて適宜グループワークを実施する。 基本的な授業の流れ：①「基本事項の確認・補足・解説」→②「演習問題に取り組む」→③「グループワーク」
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学的素養を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 確認テスト	・授業概要の説明 ・確認テストの実施	事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	2	方程式（1）	・文章の数式化（1） ・等式の基本法則 ・方程式の導き方、解き方、応用	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	3	方程式（2）	・文章の数式化（2） ・連立方程式の導き方、解き方、応用	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	4	割合と比（1）	・割合（1） ・売買損益	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	5	割合と比（2）	・割合（2） ・濃度、応用問題	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	6	速さと速度（1）	・速さ（1） ・速さと時間	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	7	速さと速度（2）	・速さ（2） ・応用問題	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	8	中間試験	・中間試験の実施 ・グループワーク課題のフィードバック	事前学習：第 7 回までの授業で取り組んだ問題を解き直すこと（1 時間） 事後学習：中間試験のふりかえり
	9	場合の数と確率（1）	・数え上げの原則 ・並べ方、選び方 ・順列、組合せ	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	10	場合の数と確率（2）	・さまざまな確率 ・確率の計算	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	11	集合	・集合とベン図 ・集合と表	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	12	推論（1）	・定量的順序関係 ・定性的順序関係	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	13	推論（2）	・対応関係 ・位置関係	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	14	総復習	・復習、補足	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	15	最終試験	・最終試験の実施 ・グループワーク課題のフィードバック	事前学習：第 1 4 回までの授業で取り組んだ問題を解き直すこと（1 時間） 事後学習：最終試験のふりかえり

関連科目	数的能力開発 I																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																
	1																			
	2																			
	3																			
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																
	1																			
	2																			
	3																			
評価方法 (基準)	「演習・課題 5 0 %」と「中間・最終試験 5 0 %」の合計によって評価する。																			
学生への メッセージ	数学については各自さまざまな思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加してください。どのような些細なことでも構いませんので、遠慮することなくいつでも質問してください。授業時間内で理解できなかった場合は、「ラーニングセンター（学習セッション）」を積極的に利用して、授業内容をしっかり理解していくようにしてください。																			
担当者の 研究室等	ラーニングセンター（2 号館 2 階）																			
備考																				

科目名	数学基礎	科目名（英文）	Basic Mathematics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	251215
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1318a1		

授業概要・目的	本科目の目的は、学生同士または学生と教員で「(数学の) 分からない」を共有し、他者と協働して問題を解決することです。 授業では、問題を解くだけでなく、他者と協働で解説を作成する（分かりやすく作り替える）機会を設けます。 文系理系、数学の得意不得意に関わらず、他者と協働で分かりやすい解説を模索することで、新たな視点で知識を再確認できるとともに、自身の理解を深めていくことが期待されます。
到達目標	この授業を通じて ・基礎的な数学的知識、数的能力、論理的思考力を身につける ・自身の知識を他者に分かりやすく伝える力を身につける（または向上させる）ことができる。
授業方法と留意点	プリントを用いた講義・演習が中心。また、授業の進捗に合わせて適宜グループワークを実施する。 基本的な授業の流れ：①「基本事項の確認・補足・解説」→②「演習問題に取り組む」→③「グループワーク」
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学的素養を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 確認テスト	・授業概要の説明 ・確認テストの実施	事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	2	方程式（1）	・文章の数式化（1） ・等式の基本法則 ・方程式の導き方、解き方、応用	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	3	方程式（2）	・文章の数式化（2） ・連立方程式の導き方、解き方、応用	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	4	割合と比（1）	・割合（1） ・売買損益	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	5	割合と比（2）	・割合（2） ・濃度、応用問題	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	6	速さと速度（1）	・速さ（1） ・速さと時間	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	7	速さと速度（2）	・速さ（2） ・応用問題	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	8	中間試験	・中間試験の実施 ・グループワーク課題のフィードバック	事前学習：第 7 回までの授業で取り組んだ問題を解き直すこと（1 時間） 事後学習：中間試験のふりかえり
	9	場合の数と確率（1）	・数え上げの原則 ・並べ方、選び方 ・順列、組合せ	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	10	場合の数と確率（2）	・さまざまな確率 ・確率の計算	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	11	集合	・集合とベン図 ・集合と表	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	12	推論（1）	・定量的順序関係 ・定性的順序関係	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	13	推論（2）	・対応関係 ・位置関係	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	14	総復習	・復習、補足	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	15	最終試験	・最終試験の実施 ・グループワーク課題のフィードバック	事前学習：第 1 4 回までの授業で取り組んだ問題を解き直すこと（1 時間） 事後学習：最終試験のふりかえり

関連科目	数的能力開発 I																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																
	1																			
	2																			
	3																			
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																
	1																			
	2																			
	3																			
評価方法 (基準)	「演習・課題 5 0 %」と「中間・最終試験 5 0 %」の合計によって評価する。																			
学生への メッセージ	数学については各自さまざまな思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加してください。どのような些細なことでも構いませんので、遠慮することなくいつでも質問してください。授業時間内で理解できなかった場合は、「ラーニングセンター（学習ステーション）」を積極的に利用して、授業内容をしっかり理解していくようにしてください。																			
担当者の 研究室等	ラーニングセンター（2 号館 2 階）																			
備考																				

科目名	数学基礎	科目名（英文）	Basic Mathematics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	36916
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森 亜貴
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1318a1		

授業概要・目的	本科目の目的は、学生同士または学生と教員で「(数学の) 分からない」を共有し、他者と協働して問題を解決することです。授業では、問題を解くだけでなく、他者と協働で解説を作成する（分かりやすく作り替える）機会を設けます。文系理系、数学の得意不得意に関わらず、他者と協働で分かりやすい解説を模索することで、新たな視点で知識を再確認できるとともに、自身の理解を深めていくことが期待されます。
到達目標	この授業を通じて ・基礎的な数学的知識、数的能力、論理的思考力を身につける ・自身の知識を他者に分かりやすく伝える力を身につける（または向上させる）ことができる。
授業方法と留意点	プリントを用いた講義・演習が中心。また、授業の進捗に合わせて適宜グループワークを実施する。 基本的な授業の流れ：①「基本事項の確認・補足・解説」→②「演習問題に取り組む」→③「グループワーク」
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学的素養を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 確認テスト	・授業概要の説明 ・確認テストの実施	事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	2	方程式（1）	・文章の数式化（1） ・等式の基本法則 ・方程式の導き方、解き方、応用	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	3	方程式（2）	・文章の数式化（2） ・連立方程式の導き方、解き方、応用	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	4	割合と比（1）	・割合（1） ・売買損益	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	5	割合と比（2）	・割合（2） ・濃度、応用問題	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	6	速さと速度（1）	・速さ（1） ・速さと時間	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	7	速さと速度（2）	・速さ（2） ・応用問題	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	8	中間試験	・中間試験の実施 ・グループワーク課題のフィードバック	事前学習：第 7 回までの授業で取り組んだ問題を解き直すこと（1 時間） 事後学習：中間試験のふりかえり
	9	場合の数と確率（1）	・数え上げの原則 ・並べ方、選び方 ・順列、組合せ	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	10	場合の数と確率（2）	・さまざまな確率 ・確率の計算	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	11	集合	・集合とベン図 ・集合と表	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	12	推論（1）	・定量的順序関係 ・定性的順序関係	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	13	推論（2）	・対応関係 ・位置関係	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	14	総復習	・復習、補足	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	15	最終試験	・最終試験の実施 ・グループワーク課題のフィードバック	事前学習：第 1 4 回までの授業で取り組んだ問題を解き直すこと（1 時間） 事後学習：最終試験のふりかえり

関連科目	数的能力開発 I																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																
	1																			
	2																			
	3																			
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																
	1																			
	2																			
	3																			
評価方法 (基準)	「演習・課題 5 0 %」と「中間・最終試験 5 0 %」の合計によって評価する。																			
学生への メッセージ	数学については各自さまざまな思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加してください。どのような些細なことでも構いませんので、遠慮することなくいつでも質問してください。授業時間内で理解できなかった場合は、「ラーニングセンター（学習セッション）」を積極的に利用して、授業内容をしっかり理解していくようにしてください。																			
担当者の 研究室等	ラーニングセンター（2 号館 2 階）																			
備考																				

科目名	数学基礎	科目名（英文）	Basic Mathematics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	471013
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西脇 純一
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1318a1		

授業概要・目的	本科目の目的は、学生同士または学生と教員で「(数学の) 分からない」を共有し、他者と協働して問題を解決することです。授業では、問題を解くだけでなく、他者と協働で解説を作成する（分かりやすく作り替える）機会を設けます。文系理系、数学の得意不得意に関わらず、他者と協働で分かりやすい解説を模索することで、新たな視点で知識を再確認できるとともに、自身の理解を深めていくことが期待されます。
到達目標	この授業を通じて ・基礎的な数学的知識、数的能力、論理的思考力を身につける ・自身の知識を他者に分かりやすく伝える力を身につける（または向上させる）ことができる。
授業方法と留意点	プリントを用いた講義・演習が中心。また、授業の進捗に合わせて適宜グループワークを実施する。 基本的な授業の流れ：①「基本事項の確認・補足・解説」→②「演習問題に取り組む」→③「グループワーク」
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学的素養を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 確認テスト	・授業概要の説明 ・確認テストの実施	事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	2	方程式（1）	・文章の数式化（1） ・等式の基本法則 ・方程式の導き方、解き方、応用	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	3	方程式（2）	・文章の数式化（2） ・連立方程式の導き方、解き方、応用	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	4	割合と比（1）	・割合（1） ・売買損益	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	5	割合と比（2）	・割合（2） ・濃度、応用問題	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	6	速さと速度（1）	・速さ（1） ・速さと時間	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	7	速さと速度（2）	・速さ（2） ・応用問題	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	8	中間試験	・中間試験の実施 ・グループワーク課題のフィードバック	事前学習：第 7 回までの授業で取り組んだ問題を解き直すこと（1 時間） 事後学習：中間試験のふりかえり
	9	場合の数と確率（1）	・数え上げの原則 ・並べ方、選び方 ・順列、組合せ	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	10	場合の数と確率（2）	・さまざまな確率 ・確率の計算	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	11	集合	・集合とベン図 ・集合と表	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	12	推論（1）	・定量的順序関係 ・定性的順序関係	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	13	推論（2）	・対応関係 ・位置関係	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	14	総復習	・復習、補足	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	15	最終試験	・最終試験の実施 ・グループワーク課題のフィードバック	事前学習：第 1 4 回までの授業で取り組んだ問題を解き直すこと（1 時間） 事後学習：最終試験のふりかえり

関連科目	数的能力開発Ⅰ			
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	「演習・課題５０％」と「中間・最終試験５０％」の合計によって評価する。			
学生への メッセージ	数学については各自さまざまな思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加してください。どのような些細なことでも構いませんので、遠慮することなくいつでも質問してください。授業時間内で理解できなかった場合は、「ラーニングセンター（学習セッション）」を積極的に利用して、授業内容をしっかり理解していくようにしてください。			
担当者の 研究室等	ラーニングセンター（２号館２階）			
備考				

科目名	数学基礎	科目名（英文）	Basic Mathematics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	K1K2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	黒木 和雄
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1318a1		

授業概要・目的	本科目の目的は、学生同士または学生と教員で「(数学の) 分からない」を共有し、他者と協働して問題を解決することです。 授業では、問題を解くだけでなく、他者と協働で解説を作成する（分かりやすく作り替える）機会を設けます。 文系理系、数学の得意不得意に関わらず、他者と協働で分かりやすい解説を模索することで、新たな視点で知識を再確認できるとともに、自身の理解を深めていくことが期待されます。
到達目標	この授業を通じて ・基礎的な数学的知識、数的能力、論理的思考力を身につける ・自身の知識を他者に分かりやすく伝える力を身につける（または向上させる）ことができる。
授業方法と留意点	プリントを用いた講義・演習が中心。また、授業の進捗に合わせて適宜グループワークを実施する。 基本的な授業の流れ：①「基本事項の確認・補足・解説」→②「演習問題に取り組む」→③「グループワーク」
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学的素養を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 確認テスト	・授業概要の説明 ・確認テストの実施	事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	2	方程式（1）	・文章の数式化（1） ・等式の基本法則 ・方程式の導き方、解き方、応用	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	3	方程式（2）	・文章の数式化（2） ・連立方程式の導き方、解き方、応用	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	4	割合と比（1）	・割合（1） ・売買損益	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	5	割合と比（2）	・割合（2） ・濃度、応用問題	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	6	速さと速度（1）	・速さ（1） ・速さと時間	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	7	速さと速度（2）	・速さ（2） ・応用問題	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	8	中間試験	・中間試験の実施 ・グループワーク課題のフィードバック	事前学習：第 7 回までの授業で取り組んだ問題を解き直すこと（1 時間） 事後学習：中間試験のふりかえり
	9	場合の数と確率（1）	・数え上げの原則 ・並べ方、選び方 ・順列、組合せ	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	10	場合の数と確率（2）	・さまざまな確率 ・確率の計算	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	11	集合	・集合とベン図 ・集合と表	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	12	推論（1）	・定量的順序関係 ・定性的順序関係	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	13	推論（2）	・対応関係 ・位置関係	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	14	総復習	・復習、補足	事前学習：Moodle による予習課題（15 分） 事後学習：Moodle による復習課題（45 分）
	15	最終試験	・最終試験の実施 ・グループワーク課題のフィードバック	事前学習：第 1 4 回までの授業で取り組んだ問題を解き直すこと（1 時間） 事後学習：最終試験のふりかえり

関連科目	数的能力開発 I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	「演習・課題 5 0 %」と「中間・最終試験 5 0 %」の合計によって評価する。			
学生への メッセージ	数学については各自さまざまな思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加してください。どのような些細なことでも構いませんので、遠慮することなくいつでも質問してください。授業時間内で理解できなかった場合は、「ラーニングセンター（学習ステーション）」を積極的に利用して、授業内容をしっかり理解していくようにしてください。			
担当者の 研究室等	ラーニングセンター（2 号館 2 階）			
備考				

科目名	英語基礎	科目名 (英文)	Basic English
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	12
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	柏原 郁子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1319c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・ABAX LMS についての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS の登録方法について確認すること (0.5 時間)
	2	Theme 1 Places Part A Yakushima	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story 4. Summary 5. Words 6. Critical Reading	事前学習: Theme 1 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	3	Theme 1 Places Part A Yakushima	7. Critical Thinking 8. Learning Language Patterns 9. Second Reading 10. Output	事前学習: Theme 1 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	4	Theme 1 Places Part B Tioman Island, Malaysia	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story 4. Summary	事前学習: Theme 1 Part B の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	5	Theme 2 Culture Part A Intercultural Differences	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story	事前学習: Theme 2 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	6	Theme 2 Culture Part B Cultural Similarities	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story 4. Summary	事前学習: Theme 2 Part B の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	7	Theme 3 Seasons Part A The Rainy Season	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story 4. Summary 5. Words 6. Critical Reading 7. Critical Thinking	事前学習: Theme 3 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	8	Theme 3 Seasons Part B Autumn Colors	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story 4. Summary	事前学習: Theme 3 Part B の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	9	Theme 4 Cities Part A Megacities	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story	事前学習: Theme 4 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	10	Theme 4 Cities Part B Megacities: Problems	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story 4. Summary	事前学習: Theme 4 Part B の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	11	Theme 5 Travel Part A Tourism: Advantages	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story	事前学習: Theme 5 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	12	Theme 5 Travel Part B Tourism: Disadvantages	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story 4. Summary	事前学習: Theme 5 Part B の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	13	Theme 6 Food Part A Hot Pot	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story	事前学習: Theme 6 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	14	Theme 6 Food Part B East Asian Food	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story 4. Summary	事前学習: Theme 6 Part B の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習: Theme 1 から 6 までの内容を総復習すること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)

				と (0.5 時間)
関連科目	英語実践			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Asian Issues 1	Alastair Graham-Marr	Abax
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ	授業内でさまざまな ICT 英語教材を紹介していきますので、これからも英語を自律的に学べる自分にあった教材を見つけて下さい。授業では精読、速読を繰り返しながら、英語を読む力をつけていきましょう。			
担当者の 研究室等	7 号館 4 階 (柏原研究室)			
備考				

科目名	英語基礎	科目名 (英文)	Basic English
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	34
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	西谷 継治
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1319c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・ABAX LMS についての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS の登録方法について確認すること (0.5 時間)
	2	Theme 1 Places Part A Yakushima	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story 4. Summary 5. Words 6. Critical Reading	事前学習: Theme 1 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	3	Theme 1 Places Part A Yakushima	7. Critical Thinking 8. Learning Language Patterns 9. Second Reading 10. Output	事前学習: Theme 1 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	4	Theme 1 Places Part B Tioman Island, Malaysia	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story 4. Summary	事前学習: Theme 1 Part B の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	5	Theme 2 Culture Part A Intercultural Differences	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story	事前学習: Theme 2 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	6	Theme 2 Culture Part B Cultural Similarities	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story 4. Summary	事前学習: Theme 2 Part B の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	7	Theme 3 Seasons Part A The Rainy Season	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story 4. Summary 5. Words 6. Critical Reading 7. Critical Thinking	事前学習: Theme 3 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	8	Theme 3 Seasons Part B Autumn Colors	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story 4. Summary	事前学習: Theme 3 Part B の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	9	Theme 4 Cities Part A Megacities	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story	事前学習: Theme 4 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	10	Theme 4 Cities Part B Megacities: Problems	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story 4. Summary	事前学習: Theme 4 Part B の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	11	Theme 5 Travel Part A Tourism: Advantages	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story	事前学習: Theme 5 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	12	Theme 5 Travel Part B Tourism: Disadvantages	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story 4. Summary	事前学習: Theme 5 Part B の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	13	Theme 6 Food Part A Hot Pot	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story	事前学習: Theme 6 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	14	Theme 6 Food Part B East Asian Food	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story 4. Summary	事前学習: Theme 6 Part B の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習: Theme 1 から 6 までの内容を総復習すること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)

				と (0.5 時間)
関連科目	英語実践			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Asian Issues 1	Alastair Graham-Marr	Abax
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)			
備考				

科目名	英語基礎	科目名 (英文)	Basic English
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	56
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	高山 蒼馬
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1319c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にアクセスし登録をすること (0.5 時間)
	2	Unit 1 People	Reading 1 & Reading 2	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	3	Unit 2 Climate	Reading 1	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	4	Unit 2 Climate	Reading 2 & Watch and Listen	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	5	Unit 3 Lifestyle	Reading 1	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	6	Unit 3 Lifestyle	Reading 2	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	7	Unit 4 Places	Reading 1	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	8	Unit 4 Places	Reading 2	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	9	Unit 5 JOBS	Reading 1	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	10	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 1	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	11	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 2 / Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	12	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 1	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	13	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 2	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	14	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 1	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習: Unit 1-8 まで復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)

関連科目	英語実践			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語基礎	科目名 (英文)	Basic English
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	78
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ブルース ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1319c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にアクセスし登録をすること (0.5 時間)
	2	Unit 1 People	Reading 1 & Reading 2	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	3	Unit 2 Climate	Reading 1	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	4	Unit 2 Climate	Reading 2 & Watch and Listen	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	5	Unit 3 Lifestyle	Reading 1	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	6	Unit 3 Lifestyle	Reading 2	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	7	Unit 4 Places	Reading 1	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	8	Unit 4 Places	Reading 2	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	9	Unit 5 JOBS	Reading 1	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	10	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 1	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	11	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 2 / Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	12	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 1	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	13	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 2	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	14	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 1	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習: Unit 1-8 まで復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)

関連科目	英語実践			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語基礎	科目名 (英文)	Basic English
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	910
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	俣野 裕美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1319c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にアクセスし登録をすること (0.5 時間)
	2	Unit 1 People	Reading 1 & Reading 2	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	3	Unit 2 Climate	Reading 1	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	4	Unit 2 Climate	Reading 2 & Watch and Listen	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	5	Unit 3 Lifestyle	Reading 1	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	6	Unit 3 Lifestyle	Reading 2	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	7	Unit 4 Places	Reading 1	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	8	Unit 4 Places	Reading 2	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	9	Unit 5 JOBS	Reading 1	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	10	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 1	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	11	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 2 / Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	12	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 1	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	13	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 2	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	14	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 1	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習: Unit 1~8 まで復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)

関連科目	英語実践			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ	・英語ができるようになると、自分の世界が広がります。多少の失敗は気にせず、前向きにトライし続けましょう。 ・英語力の向上には反復学習が欠かせません。一度解いた問題であっても、何度も解き直してみましょう。			
	・授業に関係のない行為は以下のような扱いをします。成績の低下だけでなく、単位の取得にも影響を及ぼします。 ①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。 ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。 ③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。 (原則として欠席をレポートの提出でカバーすることはできない。) ①から③が続く場合、単位を認めません。			
担当者の 研究室等	・半年間、一緒に楽しく勉強したいと思います。マナーを守り、将来のために少しでも多くのことを学んでくれることを願っています。			
備考	7号館2階（非常勤講師室）			

科目名	英語基礎	科目名 (英文)	Basic English
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	1112
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	王 玲玲
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1319c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にアクセスし登録をすること (0.5 時間)
	2	Unit 1 People	Reading 1 & Reading 2	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	3	Unit 2 Climate	Reading 1	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	4	Unit 2 Climate	Reading 2 & Watch and Listen	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	5	Unit 3 Lifestyle	Reading 1	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	6	Unit 3 Lifestyle	Reading 2	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	7	Unit 4 Places	Reading 1	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	8	Unit 4 Places	Reading 2	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	9	Unit 5 JOBS	Reading 1	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	10	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 1	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	11	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 2 / Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	12	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 1	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	13	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 2	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	14	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 1	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習: Unit 1-8 まで復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)

関連科目	英語実践			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考	授業時間外での質問等はメールにて対応する。			

科目名	英語基礎	科目名 (英文)	Basic English
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	1314
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大江 麻里子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1319c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にアクセスし登録をすること (0.5 時間)
	2	Unit 1 People	Reading 1 & Reading 2	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	3	Unit 2 Climate	Reading 1	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	4	Unit 2 Climate	Reading 2 & Watch and Listen	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	5	Unit 3 Lifestyle	Reading 1	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	6	Unit 3 Lifestyle	Reading 2	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	7	Unit 4 Places	Reading 1	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	8	Unit 4 Places	Reading 2	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	9	Unit 5 JOBS	Reading 1	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	10	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 1	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	11	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 2 / Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	12	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 1	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	13	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 2	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	14	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 1	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習: Unit 8 まで復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)

関連科目	英語実践			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ	英語の習得には、地道な努力が必要です。授業に積極的に参加してください。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語基礎	科目名 (英文)	Basic English
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	1516
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	北口 未来
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1319c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にアクセスし登録をすること (0.5 時間)
	2	Unit 1 People	Reading 1 & Reading 2	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	3	Unit 2 Climate	Reading 1	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	4	Unit 2 Climate	Reading 2 & Watch and Listen	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	5	Unit 3 Lifestyle	Reading 1	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	6	Unit 3 Lifestyle	Reading 2	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	7	Unit 4 Places	Reading 1	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	8	Unit 4 Places	Reading 2	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	9	Unit 5 JOBS	Reading 1	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	10	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 1	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	11	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 2 / Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	12	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 1	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	13	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 2	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	14	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 1	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習: Unit 1-8 まで復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)

関連科目	英語実践			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ	自分の意見を平易な英語で伝えられるようになることを目標とし、英語に関する基礎的な理解を確認しながら授業を進めていきます。 その手段として、授業内での発表や小テストを行います。予習復習を前提とした授業になりますが、授業外で準備すべき点は、その都度伝えます。 詳細は初回オリエンテーションで説明しますので、必ず出席するようにしてください。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語基礎	科目名 (英文)	Basic English
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	K1K2
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦 茂寿
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1319c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にアクセスし登録をすること (0.5 時間)
	2	Unit 1 People	Reading 1 & Reading 2	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	3	Unit 2 Climate	Reading 1	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	4	Unit 2 Climate	Reading 2 & Watch and Listen	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	5	Unit 3 Lifestyle	Reading 1	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	6	Unit 3 Lifestyle	Reading 2	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	7	Unit 4 Places	Reading 1	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	8	Unit 4 Places	Reading 2	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	9	Unit 5 JOBS	Reading 1	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	10	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 1	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	11	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 2 / Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	12	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 1	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	13	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 2	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	14	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 1	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習: Unit 1~8 まで復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)

関連科目	英語実践			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！ 進度によりシラバス記載の授業内容は変わることがあります。			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語実践	科目名 (英文)	Practical English
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	12
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期集中	授業担当者	柏原 郁子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1320c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型のオンデマンド演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用い、オンデマンドによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) CEFR-J [A1. 3] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	オンデマンド演習型の授業を行うので、自律的英語学習演習に積極的に参加、課題に取り組み、提出等行う姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了提出をすること。所定の演習課題を指示通りに行わない場合、原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 1 Meeting New People	オンデマンド授業の説明 Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading /Writing/Challenge Yourself	事前学習：本科目のシラバスを読むこと。 Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 1 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	2	Unit 2 School Life	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 2 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	3	Unit 3 Seeing a Doctor	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 3 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	4	Unit 4 Expressing Yourself	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 4 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	5	Unit 5 Getting Around	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 5 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	6	Unit 6 Talking about the Time	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 6 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	7	Review 1	Unit 1 から Unit 6 の Review	事前学習：Unit 1-6 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：Review 1 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	8	Unit 7 Eating Out	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 7 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	9	Unit 8 At the Supermarket	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 8 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	10	Unit 9 Hobbies	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 9 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	11	Unit 10 Shop till You Drop	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 10 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	12	Unit 11 Going on Vacation	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 11 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	13	Unit 12 Sports	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 12 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	14	Review 2	Unit 7 から Unit 12 の Review	事前学習：Unit 7-12 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：Review 2 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1-12 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：前期学習した全ての項目を総復習すること（0.5 時間）

関連科目	英語基礎			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期末に行う到達度確認テスト・オンデマンド演習への参加度・課題への取り組み・課題提出 - 100%			
学生への メッセージ	対面の授業ではありませんが、ICT 教材を通して、皆さんの英語学習をサポートそしてコーチングを行います。テキストに沿って課題をこなしながら、英語力を確実なものにしていきましょう。学内外で課題に取り組めますので、課題提出の期限を守りながら、自律的英語学習法を身につけ、4年間を通して英語学習に自律的に取り組めるようになって欲しいと願っています。			
担当者の 研究室等	7 号館 4 階（柏原研究室）			
備考	この授業は大学での対面授業を行わず、オンデマンド授業を実施するため、指定された期日を守り演習及び演習課題の提出を行う限り、受講時間また場所は大学内外を問わない。			

科目名	英語実践	科目名 (英文)	Practical English
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	34
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期集中	授業担当者	池田 景子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1320c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型のオンデマンド演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用い、オンデマンドによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) CEFR-J [A1. 3] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	オンデマンド演習型の授業を行うので、自律的英語学習演習に積極的に参加、課題に取り組み、提出等行う姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了提出をすること。所定の演習課題を指示通りに行わない場合、原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 1 Meeting New People	オンデマンド授業の説明 Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading /Writing/Challenge Yourself	事前学習：本科目のシラバスを読むこと。 Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 1 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	2	Unit 2 School Life	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 2 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	3	Unit 3 Seeing a Doctor	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 3 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	4	Unit 4 Expressing Yourself	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 4 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	5	Unit 5 Getting Around	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 5 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	6	Unit 6 Talking about the Time	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 6 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	7	Review 1	Unit 1 から Unit 6 の Review	事前学習：Unit 1-6 の内容を復習してくること (0.5 時間) 事後学習：Review 1 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	8	Unit 7 Eating Out	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 7 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	9	Unit 8 At the Supermarket	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 8 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	10	Unit 9 Hobbies	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 9 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	11	Unit 10 Shop till You Drop	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 10 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	12	Unit 11 Going on Vacation	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 11 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	13	Unit 12 Sports	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 12 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	14	Review 2	Unit 7 から Unit 12 の Review	事前学習：Unit 7-12 の内容を復習してくること (0.5 時間) 事後学習：Review 2 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1-12 の内容を復習してくること (0.5 時間) 事後学習：前期学習した全ての項目を総復習すること (0.5 時間)

関連科目	英語基礎			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期末に行う到達度確認テスト・オンデマンド演習への参加度・課題への取り組み・課題提出 - 100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館4階 池田研究室			
備考	この授業は大学での対面授業を行わず、オンデマンド授業を実施するため、指定された期日を守り演習及び演習課題の提出を行う限り、受講時間また場所は大学内外を問わない。			

科目名	英語実践	科目名 (英文)	Practical English
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	56
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期集中	授業担当者	菅沼 友規
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1320c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型のオンデマンド演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用い、オンデマンドによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) CEFR-J [A1. 3] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	オンデマンド演習型の授業を行うので、自律的英語学習演習に積極的に参加、課題に取り組み、提出等行う姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了提出をすること。所定の演習課題を指示通りに行わない場合、原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 1 Meeting New People	オンデマンド授業の説明 Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading /Writing/Challenge Yourself	事前学習：本科目のシラバスを読むこと。 Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 1 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	2	Unit 2 School Life	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 2 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	3	Unit 3 Seeing a Doctor	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 3 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	4	Unit 4 Expressing Yourself	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 4 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	5	Unit 5 Getting Around	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 5 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	6	Unit 6 Talking about the Time	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 6 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	7	Review 1	Unit 1 から Unit 6 の Review	事前学習：Unit 1-6 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：Review 1 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	8	Unit 7 Eating Out	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 7 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	9	Unit 8 At the Supermarket	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 8 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	10	Unit 9 Hobbies	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 9 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	11	Unit 10 Shop till You Drop	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 10 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	12	Unit 11 Going on Vacation	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 11 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	13	Unit 12 Sports	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 12 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	14	Review 2	Unit 7 から Unit 12 の Review	事前学習：Unit 7-12 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：Review 2 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1-12 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：前期学習した全ての項目を総復習すること（0.5 時間）

関連科目	英語基礎			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期末に行う到達度確認テスト・オンデマンド演習への参加度・課題への取り組み・課題提出 - 100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考	この授業は大学での対面授業を行わず、オンデマンド授業を実施するため、指定された期日を守り演習及び演習課題の提出を行う限り、受講時間また場所は大学内外を問わない。			

科目名	英語実践	科目名 (英文)	Practical English
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	78
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期集中	授業担当者	ブルース ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1320c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型のオンデマンド演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用い、オンデマンドによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) CEFR-J [A1. 3] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	オンデマンド演習型の授業を行うので、自律的英語学習演習に積極的に参加、課題に取り組み、提出等行う姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了提出をすること。所定の演習課題を指示通りに行わない場合、原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 1 Meeting New People	オンデマンド授業の説明 Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading /Writing/Challenge Yourself	事前学習：本科目のシラバスを読むこと。 Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 1 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	2	Unit 2 School Life	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 2 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	3	Unit 3 Seeing a Doctor	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 3 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	4	Unit 4 Expressing Yourself	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 4 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	5	Unit 5 Getting Around	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 5 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	6	Unit 6 Talking about the Time	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 6 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	7	Review 1	Unit 1 から Unit 6 の Review	事前学習：Unit 1-6 の内容を復習してくること (0.5 時間) 事後学習：Review 1 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	8	Unit 7 Eating Out	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 7 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	9	Unit 8 At the Supermarket	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 8 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	10	Unit 9 Hobbies	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 9 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	11	Unit 10 Shop till You Drop	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 10 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	12	Unit 11 Going on Vacation	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 11 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	13	Unit 12 Sports	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 12 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	14	Review 2	Unit 7 から Unit 12 の Review	事前学習：Unit 7-12 の内容を復習してくること (0.5 時間) 事後学習：Review 2 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1-12 の内容を復習してくること (0.5 時間) 事後学習：前期学習した全ての項目を総復習すること (0.5 時間)

関連科目	英語基礎			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期末に行う到達度確認テスト・オンデマンド演習への参加度・課題への取り組み・課題提出 - 100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考	この授業は大学での対面授業を行わず、オンデマンド授業を実施するため、指定された期日を守り演習及び演習課題の提出を行う限り、受講時間また場所は大学内外を問わない。			

科目名	英語実践	科目名 (英文)	Practical English
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	910
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期集中	授業担当者	俣野 裕美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1320c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型のオンデマンド演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用い、オンデマンドによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) CEFR-J [A1. 3] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	オンデマンド演習型の授業を行うので、自律的英語学習演習に積極的に参加、課題に取り組み、提出等行う姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了提出をすること。所定の演習課題を指示通りに行わない場合、原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 1 Meeting New People	オンデマンド授業の説明 Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading /Writing/Challenge Yourself	事前学習：本科目のシラバスを読むこと。 Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 1 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	2	Unit 2 School Life	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 2 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	3	Unit 3 Seeing a Doctor	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 3 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	4	Unit 4 Expressing Yourself	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 4 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	5	Unit 5 Getting Around	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 5 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	6	Unit 6 Talking about the Time	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 6 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	7	Review 1	Unit 1 から Unit 6 の Review	事前学習：Unit 1~6 の内容を復習してくること (0.5 時間) 事後学習：Review 1 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	8	Unit 7 Eating Out	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 7 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	9	Unit 8 At the Supermarket	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 8 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	10	Unit 9 Hobbies	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 9 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	11	Unit 10 Shop till You Drop	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 10 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	12	Unit 11 Going on Vacation	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 11 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	13	Unit 12 Sports	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 12 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	14	Review 2	Unit 7 から Unit 12 の Review	事前学習：Unit 7~12 の内容を復習してくること (0.5 時間) 事後学習：Review 2 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1~12 の内容を復習してくること (0.5 時間) 事後学習：前期学習した全ての項目を総復習すること (0.5 時間)

関連科目	英語基礎																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>Live Escalate Book 1: Base Camp</td><td>角山照彦</td><td>成美堂</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	学期末に行う到達度確認テスト・オンデマンド演習への参加度・課題への取り組み・課題提出 100%																			
学生への メッセージ	・英語ができるようになると、自分の世界が広がります。多少の失敗は気にせず、前向きにトライし続けましょう。 ・英語力の向上には反復学習が欠かせません。一度解いた問題であっても、何度も解き直してみましょう。 ・授業に関係のない行為は以下のような扱いをします。成績の低下だけでなく、単位の取得にも影響を及ぼします。 ①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。 ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。 ③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。 (原則として欠席をレポートの提出でカバーすることはできない。) ①から③が続く場合、単位を認めません。 ・半年間、一緒に楽しく勉強したいと思います。マナーを守り、将来のために少しでも多くのことを学んでくれることを願っています。																			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																			
備考	この授業は大学での対面授業を行わず、オンデマンド授業を実施するため、指定された期日を守り演習及び演習課題の提出を行う限り、受講時間また場所は大学内外を問わない。																			

科目名	英語実践	科目名 (英文)	Practical English
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	1112
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期集中	授業担当者	ブー・オミット・サジヤット
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1320c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型のオンデマンド演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用い、オンデマンドによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) CEFR-J [A1. 3] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	オンデマンド演習型の授業を行うので、自律的英語学習演習に積極的に参加、課題に取り組み、提出等行う姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了提出をすること。所定の演習課題を指示通りに行わない場合、原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 1 Meeting New People	オンデマンド授業の説明 Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading /Writing/Challenge Yourself	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。 Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 1 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	2	Unit 2 School Life	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 2 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	3	Unit 3 Seeing a Doctor	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 3 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	4	Unit 4 Expressing Yourself	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 4 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	5	Unit 5 Getting Around	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 5 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	6	Unit 6 Talking about the Time	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 6 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	7	Review 1	Unit 1 から Unit 6 の Review	事前学習：Unit 1 から 6 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：Review 1 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	8	Unit 7 Eating Out	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 7 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	9	Unit 8 At the Supermarket	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 8 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	10	Unit 9 Hobbies	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 9 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	11	Unit 10 Shop till You Drop	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 10 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	12	Unit 11 Going on Vacation	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 11 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	13	Unit 12 Sports	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 12 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	14	Review 2	Unit 7 から Unit 12 の Review	事前学習：Unit 7 から 12 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：Review 2 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から 12 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：前期学習した全ての項目を総復習すること（0.5 時間）

関連科目	英語基礎			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期末に行う到達度確認テスト・オンデマンド演習への参加度・課題への取り組み・課題提出 100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	教員室1 (2号館2階)			
備考	この授業は大学での対面授業を行わず、オンデマンド授業を実施するため、指定された期日を守り演習及び演習課題の提出を行う限り、受講時間 また場所は大学内外を問わない。			

科目名	英語実践	科目名 (英文)	Practical English
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	1314
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期集中	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1320c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型のオンデマンド演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用い、オンデマンドによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) CEFR-J [A1. 3] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	オンデマンド演習型の授業を行うので、自律的英語学習演習に積極的に参加、課題に取り組み、提出等行う姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了提出をすること。所定の演習課題を指示通りに行わない場合、原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 1 Meeting New People	オンデマンド授業の説明 Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading /Writing/Challenge Yourself	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。 Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 1 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	2	Unit 2 School Life	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 2 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	3	Unit 3 Seeing a Doctor	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 3 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	4	Unit 4 Expressing Yourself	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 4 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	5	Unit 5 Getting Around	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 5 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	6	Unit 6 Talking about the Time	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 6 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	7	Review 1	Unit 1 から Unit 6 の Review	事前学習：Unit 1-6 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：Review 1 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	8	Unit 7 Eating Out	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 7 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	9	Unit 8 At the Supermarket	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 8 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	10	Unit 9 Hobbies	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 9 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	11	Unit 10 Shop till You Drop	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 10 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	12	Unit 11 Going on Vacation	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 11 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	13	Unit 12 Sports	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 12 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	14	Review 2	Unit 7 から Unit 12 の Review	事前学習：Unit 7 -12 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：Review 2 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1- 12 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：前期学習した全ての項目を総復習すること（0.5 時間）

関連科目	英語基礎			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期末に行う到達度確認テスト・オンデマンド演習への参加度・課題への取り組み・課題提出 = 100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考	この授業は大学での対面授業を行わず、オンデマンド授業を実施するため、指定された期日を守り演習及び演習課題の提出を行う限り、受講時間 また場所は大学内外を問わない。			

科目名	英語実践	科目名 (英文)	Practical English
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	1516
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期集中	授業担当者	大井 良友
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1320c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型のオンデマンド演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用い、オンデマンドによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) CEFR-J [A1. 3] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	オンデマンド演習型の授業を行うので、自律的英語学習演習に積極的に参加、課題に取り組み、提出等行う姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了提出をすること。所定の演習課題を指示通りに行わない場合、原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 1 Meeting New People	オンデマンド授業の説明 Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading /Writing/Challenge Yourself	事前学習：本科目のシラバスを読むこと。 Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 1 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	2	Unit 2 School Life	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 2 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	3	Unit 3 Seeing a Doctor	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 3 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	4	Unit 4 Expressing Yourself	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 4 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	5	Unit 5 Getting Around	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 5 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	6	Unit 6 Talking about the Time	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 6 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	7	Review 1	Unit 1 から Unit 6 の Review	事前学習：Unit 1-6 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：Review 1 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	8	Unit 7 Eating Out	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 7 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	9	Unit 8 At the Supermarket	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 8 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	10	Unit 9 Hobbies	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 9 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	11	Unit 10 Shop till You Drop	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 10 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	12	Unit 11 Going on Vacation	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 11 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	13	Unit 12 Sports	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Unit 12 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	14	Review 2	Unit 7 から Unit 12 の Review	事前学習：Unit 7-12 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：Review 2 の内容を復習し課題を提出すること（0.5 時間）
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1-12 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：前期学習した全ての項目を総復習すること（0.5 時間）

関連科目	英語基礎			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期末に行う到達度確認テスト・オンデマンド演習への参加度・課題への取り組み・課題提出...100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考	この授業は大学での対面授業を行わず、オンデマンド授業を実施するため、指定された期日を守り演習及び演習課題の提出を行う限り、受講時間また場所は大学内外を問わない。			

科目名	英語実践	科目名 (英文)	Practical English
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	K1K2
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期集中	授業担当者	松浦 茂寿
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1320c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型のオンデマンド演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用い、オンデマンドによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) CEFR-J [A1. 3] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	オンデマンド演習型の授業を行うので、自律的英語学習演習に積極的に参加、課題に取り組み、提出等行う姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了提出をすること。所定の演習課題を指示通りに行わない場合、原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 1 Meeting New People	オンデマンド授業の説明 Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading /Writing/Challenge Yourself	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。 Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 1 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	2	Unit 2 School Life	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 2 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	3	Unit 3 Seeing a Doctor	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 3 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	4	Unit 4 Expressing Yourself	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 4 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	5	Unit 5 Getting Around	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 5 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	6	Unit 6 Talking about the Time	Warm-up/Conversation/Grammar/ Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 6 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	7	Review 1	Unit 1 から Unit 6 の Review	事前学習：Unit 1～6 の内容を復習してくること (0.5 時間) 事後学習：Review 1 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	8	Unit 7 Eating Out	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 7 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	9	Unit 8 At the Supermarket	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 8 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	10	Unit 9 Hobbies	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 9 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	11	Unit 10 Shop till You Drop	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 10 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	12	Unit 11 Going on Vacation	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 11 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	13	Unit 12 Sports	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Unit 12 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	14	Review 2	Unit 7 から Unit 12 の Review	事前学習：Unit 7～12 の内容を復習してくること (0.5 時間) 事後学習：Review 2 の内容を復習し課題を提出すること (0.5 時間)
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1～12 の内容を復習してくること (0.5 時間) 事後学習：前期学習した全ての項目を総復習すること (0.5 時間)

関連科目	英語基礎			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期末に行う到達度確認テスト・オンデマンド演習への参加度・課題への取り組み・課題提出 100%			
学生への メッセージ	進度によりシラバス記載の授業内容は変わることがあります。出来るだけ課題はためないようにしましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考	この授業は大学での対面授業を行わず、オンデマンド授業を実施するため、指定された期日を守り演習及び演習課題の提出を行う限り、受講時間また場所は大学内外を問わない。			

科目名	英語コミュニケーションⅠ	科目名（英文）	
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次		クラス	1
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	高山 蒼馬
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1321c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。（0.5 時間）
	2	Unit 1 Nice to meet you!	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	3	Unit 1 Nice to meet you!	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	4	Unit 2 What do you do?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	5	Unit 2 What do you do?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	6	Unit 3 Do you like noodles?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	Vocabulary / Conversation / Language Practice
	7	Unit 3 Do you like noodles?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	8	BONUS Unit 1-3	Video: Volcano Adventure Reading: CITY NEWS	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	9	Unit 4 How often do you exercise?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	10	Unit 4 How often do you exercise?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	11	Unit 5 I'm listening to music.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	12	Unit 5 I'm listening to music.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	13	Unit 6 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	14	Unit 6 Where were you yesterday?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）

関連科目	英語コミュニケーションⅡ		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online	Ken Wilson
			出版社名
			Oxford University Press

		Practice Level 1		
	2			
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語コミュニケーションⅠ	科目名（英文）	English Communication I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	土田 智佳子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1321c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。（0.5 時間）
	2	Unit 1 Nice to meet you!	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	3	Unit 1 Nice to meet you!	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	4	Unit 2 What do you do?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	5	Unit 2 What do you do?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	6	Unit 3 Do you like noodles?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	Vocabulary / Conversation / Language Practice
	7	Unit 3 Do you like noodles?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	8	BONUS Unit 1-3	Video: Volcano Adventure Reading: CITY NEWS	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	9	Unit 4 How often do you exercise?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	10	Unit 4 How often do you exercise?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	11	Unit 5 I'm listening to music.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	12	Unit 5 I'm listening to music.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	13	Unit 6 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	14	Unit 6 Where were you yesterday?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）

関連科目	英語コミュニケーションⅡ		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online	Ken Wilson
			出版社名
			Oxford University Press

		Practice Level 1		
	2			
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ	皆さんが社会に旅立つ頃には世界はさらに多様化が進み、海外で働くことや英語を話す同僚と仕事をする機会が増えるでしょう。 このクラスでは4技能全てをバランス良く学び、より実践的で役立つ英語を身に付けることを目標としています。			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語コミュニケーションⅠ	科目名（英文）	English Communication I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	3
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー（DP）	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1321c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。（0.5 時間）
	2	Unit 1 Nice to meet you!	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	3	Unit 1 Nice to meet you!	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	4	Unit 2 What do you do?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	5	Unit 2 What do you do?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	6	Unit 3 Do you like noodles?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	Vocabulary / Conversation / Language Practice
	7	Unit 3 Do you like noodles?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	8	BONUS Unit 1-3	Video: Volcano Adventure Reading: CITY NEWS	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	9	Unit 4 How often do you exercise?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	10	Unit 4 How often do you exercise?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	11	Unit 5 I'm listening to music.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	12	Unit 5 I'm listening to music.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	13	Unit 6 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	14	Unit 6 Where were you yesterday?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）

関連科目	英語コミュニケーションⅡ		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online	Ken Wilson
			出版社名
			Oxford University Press

		Practice Level 1		
	2			
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語コミュニケーションⅠ	科目名（英文）	English Communication I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	4
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	高橋 章夫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1321c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。（0.5 時間）
	2	Unit 1 Nice to meet you!	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	3	Unit 1 Nice to meet you!	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	4	Unit 2 What do you do?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	5	Unit 2 What do you do?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	6	Unit 3 Do you like noodles?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	Vocabulary / Conversation / Language Practice
	7	Unit 3 Do you like noodles?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	8	BONUS Unit 1～3	Video: Volcano Adventure Reading: CITY NEWS	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	9	Unit 4 How often do you exercise?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	10	Unit 4 How often do you exercise?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	11	Unit 5 I'm listening to music.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	12	Unit 5 I'm listening to music.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	13	Unit 6 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	14	Unit 6 Where were you yesterday?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習してくる。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）

関連科目	英語コミュニケーションⅡ		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online	Ken Wilson
			出版社名
			Oxford University Press

		Practice Level 1		
	2			
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語コミュニケーションⅠ	科目名（英文）	English Communication I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	5
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田村 康子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1321c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読むこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。（0.5 時間）
	2	Unit 1 I'm a student.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	3	Unit 1 I'm a student.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	4	Unit 2 What's your phone number?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	5	Unit 2 What's your phone number?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	6	Unit 3 That's my wallet!	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	7	Unit 3 That's my wallet!	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	8	BONUS Unit 1-3	Video: The Sloth Calendar Reading: Famous Names, Great Jobs	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	9	Unit 4 Do you like K-pop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	10	Unit 4 Do you like K-pop?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	11	Unit 5 What do you do for fun?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	12	Unit 5 What do you do for fun?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	13	Unit 6 Can you speak Chinese?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	14	Unit 6 Can you speak Chinese?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
関連科目	英語コミュニケーションⅡ			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ	毎回の授業に必ず出席するとともに、予習・復習を必ず行ってください。			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語コミュニケーションⅠ	科目名（英文）	English Communication I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	6
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	フリッツ ミキ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1321c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読むこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。（0.5 時間）
	2	Unit 1 I'm a student.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	3	Unit 1 I'm a student.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	4	Unit 2 What's your phone number?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	5	Unit 2 What's your phone number?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	6	Unit 3 That's my wallet!	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	7	Unit 3 That's my wallet!	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	8	BONUS Unit 1～3	Video: The Sloth Calendar Reading: Famous Names, Great Jobs	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	9	Unit 4 Do you like K-pop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	10	Unit 4 Do you like K-pop?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	11	Unit 5 What do you do for fun?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	12	Unit 5 What do you do for fun?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	13	Unit 6 Can you speak Chinese?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	14	Unit 6 Can you speak Chinese?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
関連科目	英語コミュニケーションⅡ			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ	英語を使って会話をする楽しさを知ってもらえれば嬉しいです。 自然な英語の習得をサポートします。			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語コミュニケーションⅠ	科目名（英文）	English Communication I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	7
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	藤田 萌々子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1321c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読むこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。（0.5 時間）
	2	Unit 1 I'm a student.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	3	Unit 1 I'm a student.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	4	Unit 2 What's your phone number?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	5	Unit 2 What's your phone number?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	6	Unit 3 That's my wallet!	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	7	Unit 3 That's my wallet!	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	8	BONUS Unit 1-3	Video: The Sloth Calendar Reading: Famous Names, Great Jobs	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	9	Unit 4 Do you like K-pop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	10	Unit 4 Do you like K-pop?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	11	Unit 5 What do you do for fun?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	12	Unit 5 What do you do for fun?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	13	Unit 6 Can you speak Chinese?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	14	Unit 6 Can you speak Chinese?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
関連科目	英語コミュニケーションⅡ			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ	英語は、例えばアメリカやイギリスなど、英語圏の国だけで使うものではありません。アルバイト先で英語で話しかけられることもあれば、英語圏外の国を旅行したときに、現地の人と英語でやり取りをすることもあります。そんな時に役立つ、使える英語と一緒に学びましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語コミュニケーションⅠ	科目名（英文）	English Communication I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	8
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	長井 絵美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1321c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読むこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。（0.5 時間）
	2	Unit 1 I'm a student.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	3	Unit 1 I'm a student.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	4	Unit 2 What's your phone number?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	5	Unit 2 What's your phone number?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	6	Unit 3 That's my wallet!	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	7	Unit 3 That's my wallet!	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	8	BONUS Unit 1-3	Video: The Sloth Calendar Reading: Famous Names, Great Jobs	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	9	Unit 4 Do you like K-pop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	10	Unit 4 Do you like K-pop?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	11	Unit 5 What do you do for fun?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	12	Unit 5 What do you do for fun?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	13	Unit 6 Can you speak Chinese?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	14	Unit 6 Can you speak Chinese?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
関連科目	英語コミュニケーションⅡ			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語コミュニケーションⅠ	科目名（英文）	English Communication I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	9
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	谷川 明代
ディプロマポリシー（DP）	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1321c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読むこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。（0.5 時間）
	2	Unit 1 I'm a student.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	3	Unit 1 I'm a student.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	4	Unit 2 What's your phone number?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	5	Unit 2 What's your phone number?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	6	Unit 3 That's my wallet!	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	7	Unit 3 That's my wallet!	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	8	BONUS Unit 1~3	Video: The Sloth Calendar Reading: Famous Names, Great Jobs	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	9	Unit 4 Do you like K-pop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	10	Unit 4 Do you like K-pop?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	11	Unit 5 What do you do for fun?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	12	Unit 5 What do you do for fun?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	13	Unit 6 Can you speak Chinese?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	14	Unit 6 Can you speak Chinese?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
関連科目	英語コミュニケーションⅡ			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ	ペアやグループワークを通してコミュニケーションの楽しさを実感してください。			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語コミュニケーションⅠ	科目名（英文）	English Communication I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	10
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	西原 菜月
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1321c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読むこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。（0.5 時間）
	2	Unit 1 I'm a student.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	3	Unit 1 I'm a student.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	4	Unit 2 What's your phone number?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	5	Unit 2 What's your phone number?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	6	Unit 3 That's my wallet!	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	7	Unit 3 That's my wallet!	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	8	BONUS Unit 1-3	Video: The Sloth Calendar Reading: Famous Names, Great Jobs	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	9	Unit 4 Do you like K-pop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	10	Unit 4 Do you like K-pop?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	11	Unit 5 What do you do for fun?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	12	Unit 5 What do you do for fun?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	13	Unit 6 Can you speak Chinese?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	14	Unit 6 Can you speak Chinese?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
関連科目	英語コミュニケーションⅡ			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語コミュニケーションⅠ	科目名（英文）	English Communication I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	11
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	菌頭 彰子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1321c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読むこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。（0.5 時間）
	2	Unit 1 I'm a student.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	3	Unit 1 I'm a student.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	4	Unit 2 What's your phone number?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	5	Unit 2 What's your phone number?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	6	Unit 3 That's my wallet!	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	7	Unit 3 That's my wallet!	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	8	BONUS Unit 1-3	Video: The Sloth Calendar Reading: Famous Names, Great Jobs	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	9	Unit 4 Do you like K-pop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	10	Unit 4 Do you like K-pop?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	11	Unit 5 What do you do for fun?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	12	Unit 5 What do you do for fun?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	13	Unit 6 Can you speak Chinese?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	14	Unit 6 Can you speak Chinese?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
関連科目	英語コミュニケーションⅡ			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語コミュニケーションⅠ	科目名（英文）	English Communication I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	12
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	杉山 未菜実
ディプロマポリシー（DP）	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1321c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読むこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。（0.5 時間）
	2	Unit 1 I'm a student.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	3	Unit 1 I'm a student.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	4	Unit 2 What's your phone number?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	5	Unit 2 What's your phone number?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	6	Unit 3 That's my wallet!	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	7	Unit 3 That's my wallet!	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	8	BONUS Unit 1～3	Video: The Sloth Calendar Reading: Famous Names, Great Jobs	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	9	Unit 4 Do you like K-pop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	10	Unit 4 Do you like K-pop?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	11	Unit 5 What do you do for fun?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	12	Unit 5 What do you do for fun?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	13	Unit 6 Can you speak Chinese?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	14	Unit 6 Can you speak Chinese?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
関連科目	英語コミュニケーションⅡ			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語コミュニケーションⅠ	科目名（英文）	English Communication I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	13
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	高橋 侑里
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1321c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読むこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。（0.5 時間）
	2	Unit 1 I'm a student.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	3	Unit 1 I'm a student.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	4	Unit 2 What's your phone number?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	5	Unit 2 What's your phone number?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	6	Unit 3 That's my wallet!	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	7	Unit 3 That's my wallet!	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	8	BONUS Unit 1-3	Video: The Sloth Calendar Reading: Famous Names, Great Jobs	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	9	Unit 4 Do you like K-pop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	10	Unit 4 Do you like K-pop?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	11	Unit 5 What do you do for fun?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	12	Unit 5 What do you do for fun?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	13	Unit 6 Can you speak Chinese?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	14	Unit 6 Can you speak Chinese?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
関連科目	英語コミュニケーションⅡ			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, read up on lessons, and do their homework will get the most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考				

科目名	英語コミュニケーションⅠ	科目名（英文）	English Communication I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	14
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	鷲尾 渉
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1321c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読むこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。（0.5 時間）
	2	Unit 1 I'm a student.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	3	Unit 1 I'm a student.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	4	Unit 2 What's your phone number?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	5	Unit 2 What's your phone number?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	6	Unit 3 That's my wallet!	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	7	Unit 3 That's my wallet!	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	8	BONUS Unit 1-3	Video: The Sloth Calendar Reading: Famous Names, Great Jobs	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	9	Unit 4 Do you like K-pop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	10	Unit 4 Do you like K-pop?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	11	Unit 5 What do you do for fun?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	12	Unit 5 What do you do for fun?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	13	Unit 6 Can you speak Chinese?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	14	Unit 6 Can you speak Chinese?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
関連科目	英語コミュニケーションⅡ			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語コミュニケーションⅠ	科目名（英文）	English Communication I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	15
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦 茂寿
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1321c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読むこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。（0.5 時間）
	2	Unit 1 I'm a student.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	3	Unit 1 I'm a student.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	4	Unit 2 What's your phone number?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	5	Unit 2 What's your phone number?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	6	Unit 3 That's my wallet!	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	7	Unit 3 That's my wallet!	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	8	BONUS Unit 1～3	Video: The Sloth Calendar Reading: Famous Names, Great Jobs	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	9	Unit 4 Do you like K-pop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	10	Unit 4 Do you like K-pop?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	11	Unit 5 What do you do for fun?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	12	Unit 5 What do you do for fun?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	13	Unit 6 Can you speak Chinese?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	14	Unit 6 Can you speak Chinese?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
関連科目	英語コミュニケーションⅡ			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！ 進度によりシラバス記載の授業内容は変わることがあります。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語コミュニケーションⅠ	科目名（英文）	English Communication I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	16
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1321c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読むこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。（0.5 時間）
	2	Unit 1 I'm a student.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	3	Unit 1 I'm a student.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	4	Unit 2 What's your phone number?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	5	Unit 2 What's your phone number?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	6	Unit 3 That's my wallet!	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	7	Unit 3 That's my wallet!	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	8	BONUS Unit 1-3	Video: The Sloth Calendar Reading: Famous Names, Great Jobs	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	9	Unit 4 Do you like K-pop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	10	Unit 4 Do you like K-pop?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	11	Unit 5 What do you do for fun?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	12	Unit 5 What do you do for fun?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	13	Unit 6 Can you speak Chinese?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	14	Unit 6 Can you speak Chinese?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習しておくこと。（0.5 時間） 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。（0.5 時間）
関連科目	英語コミュニケーションⅡ			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ	沢山聴いて沢山しゃべりましょう。 語彙やまとまった表現は事前に調べノートしておくこと。 リスニング箇所は、何度も聴いて予習をしておくこと。			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語コミュニケーションⅡ	科目名 (英文)	English Communication II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	菅沼 友規
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1322c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読むこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5 時間)
	2	Unit 7 Which one is cheaper?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 7 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	3	Unit 7 Which one is cheaper?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 7 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	4	Unit 8 They're very friendly.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 8 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	5	Unit 8 They're very friendly.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 8 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	6	Unit 9 You can visit the zoo.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 9 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	7	Unit 9 You can visit the zoo.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 9 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	8	BONUS Unit 7 - 9	Video: Second-hand or Tradition Reading: English Chat	事前学習：Unit 7 から 9 までの内容を復習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	9	Unit 10 Is there a coffee shop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 10 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	10	Unit 10 Is there a coffee shop?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 10 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	11	Unit 11 I had a good time.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 11 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	12	Unit 11 I had a good time.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 11 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	13	Unit 12 I'm going to go by car.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 12 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	14	Unit 12 I'm going to go by car.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 12 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
関連科目	英語コミュニケーションⅠ			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Level 1	Ken Wilson	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語コミュニケーションⅡ	科目名 (英文)	English Communication II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	土田 智佳子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1322c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読むこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5 時間)
	2	Unit 7 Which one is cheaper?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	3	Unit 7 Which one is cheaper?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	4	Unit 8 They're very friendly.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	5	Unit 8 They're very friendly.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	6	Unit 9 You can visit the zoo.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	7	Unit 9 You can visit the zoo.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	8	BONUS Unit 7-9	Video: Second-hand or Tradition Reading: English Chat	事前学習：Unit 7 から 9 までの内容を復習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	9	Unit 10 Is there a coffee shop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	10	Unit 10 Is there a coffee shop?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	11	Unit 11 I had a good time.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	12	Unit 11 I had a good time.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	13	Unit 12 I'm going to go by car.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	14	Unit 12 I'm going to go by car.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
関連科目	英語コミュニケーションⅠ			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Level 1	Ken Wilson	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語コミュニケーションⅡ	科目名 (英文)	English Communication II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	3
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1322c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読むこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5 時間)
	2	Unit 7 Which one is cheaper?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 7 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	3	Unit 7 Which one is cheaper?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 7 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	4	Unit 8 They're very friendly.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 8 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	5	Unit 8 They're very friendly.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 8 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	6	Unit 9 You can visit the zoo.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 9 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	7	Unit 9 You can visit the zoo.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 9 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	8	BONUS Unit 7 - 9	Video: Second-hand or Tradition Reading: English Chat	事前学習：Unit 7 から 9 までの内容を復習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	9	Unit 10 Is there a coffee shop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 10 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	10	Unit 10 Is there a coffee shop?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 10 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	11	Unit 11 I had a good time.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 11 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	12	Unit 11 I had a good time.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 11 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	13	Unit 12 I'm going to go by car.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 12 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	14	Unit 12 I'm going to go by car.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 12 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
関連科目	英語コミュニケーションⅠ			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Level 1	Ken Wilson	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語コミュニケーションⅡ	科目名 (英文)	English Communication II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	4
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	高橋 章夫
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1322c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読むこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5 時間)
	2	Unit 7 Which one is cheaper?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 7 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	3	Unit 7 Which one is cheaper?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 7 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	4	Unit 8 They're very friendly.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 8 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	5	Unit 8 They're very friendly.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 8 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	6	Unit 9 You can visit the zoo.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 9 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	7	Unit 9 You can visit the zoo.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 9 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	8	BONUS Unit 7 ～ 9	Video: Second-hand or Tradition Reading: English Chat	事前学習：Unit 7 から 9 までの内容を復習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	9	Unit 10 Is there a coffee shop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 10 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	10	Unit 10 Is there a coffee shop?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 10 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	11	Unit 11 I had a good time.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 11 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	12	Unit 11 I had a good time.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 11 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	13	Unit 12 I'm going to go by car.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 12 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	14	Unit 12 I'm going to go by car.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 12 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
関連科目	英語コミュニケーションⅠ			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Level 1	Ken Wilson	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語コミュニケーションⅡ	科目名 (英文)	English Communication II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	5
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田村 康子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1322c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読むこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5 時間)
	2	Unit 7 What's she wearing?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 7 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	3	Unit 7 What's she wearing?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 7 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	4	Unit 8 Are there any chairs?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 8 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	5	Unit 8 Are there any chairs?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 8 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	6	Unit 9 The bank is on the corner.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 9 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	7	Unit 9 The bank is on the corner.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 9 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	8	BONUS Unit 7-9	Video: The Jack Sparrow House	事前学習：Unit 7 から 9 までの内容を復習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	9	Unit 10 Do we have any coffee?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 10 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	10	Unit 10 Do we have any coffee?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 10 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	11	Unit 11 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 11 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	12	Unit 11 Where were you yesterday?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 11 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	13	Unit 12 What did you do last weekend?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 12 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	14	Unit 12 What did you do last weekend?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 12 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
関連科目	英語コミュニケーションⅠ			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ	毎回の授業に必ず出席するとともに、予習・復習を必ず行ってください。			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語コミュニケーションⅡ	科目名 (英文)	English Communication II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	6
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	フリッツ ミキ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1322c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読むこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5 時間)
	2	Unit 7 What's she wearing?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 7 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	3	Unit 7 What's she wearing?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 7 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	4	Unit 8 Are there any chairs?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 8 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	5	Unit 8 Are there any chairs?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 8 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	6	Unit 9 The bank is on the corner.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 9 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	7	Unit 9 The bank is on the corner.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 9 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	8	BONUS Unit 7～9	Video: The Jack Sparrow House	事前学習：Unit 7 から 9 までの内容を復習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	9	Unit 10 Do we have any coffee?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 10 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	10	Unit 10 Do we have any coffee?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 10 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	11	Unit 11 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 11 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	12	Unit 11 Where were you yesterday?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 11 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	13	Unit 12 What did you do last weekend?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 12 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	14	Unit 12 What did you do last weekend?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 12 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
関連科目	英語コミュニケーションⅠ			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ	英語を使って会話をする楽しさを知ってもらえれば嬉しいです。 自然な英語の習得をサポートします。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語コミュニケーションⅡ	科目名 (英文)	English Communication II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	7
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	藤田 萌々子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1322c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読むこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5 時間)
	2	Unit 7 What's she wearing?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 7 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	3	Unit 7 What's she wearing?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 7 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	4	Unit 8 Are there any chairs?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 8 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	5	Unit 8 Are there any chairs?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 8 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	6	Unit 9 The bank is on the corner.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 9 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	7	Unit 9 The bank is on the corner.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 9 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	8	BONUS Unit 7-9	Video: The Jack Sparrow House	事前学習：Unit 7 から 9 までの内容を復習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	9	Unit 10 Do we have any coffee?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 10 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	10	Unit 10 Do we have any coffee?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 10 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	11	Unit 11 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 11 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	12	Unit 11 Where were you yesterday?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 11 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	13	Unit 12 What did you do last weekend?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 12 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	14	Unit 12 What did you do last weekend?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 12 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
関連科目	英語コミュニケーションⅠ			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ	英語はアメリカやイギリスなど、英語圏の国だけで使うものではありません。アルバイト先で英語で話しかけられることもあれば、英語圏外の国を旅行したときに、現地の人と英語でやり取りをすることもあります。そんな時に役立つ、使える英語を一緒に学びましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語コミュニケーションⅡ	科目名 (英文)	English Communication II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	8
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	長井 絵美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1322c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5 時間)
	2	Unit 7 What's she wearing?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	3	Unit 7 What's she wearing?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	4	Unit 8 Are there any chairs?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	5	Unit 8 Are there any chairs?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	6	Unit 9 The bank is on the corner.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	7	Unit 9 The bank is on the corner.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	8	BONUS Unit 7-9	Video: The Jack Sparrow House	事前学習：Unit 7 から 9 までの内容を復習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	9	Unit 10 Do we have any coffee?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	10	Unit 10 Do we have any coffee?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	11	Unit 11 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	12	Unit 11 Where were you yesterday?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	13	Unit 12 What did you do last weekend?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	14	Unit 12 What did you do last weekend?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
関連科目	英語コミュニケーションⅠ			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語コミュニケーションⅡ	科目名 (英文)	English Communication II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	9
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	谷川 明代
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1322c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読むこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5 時間)
	2	Unit 7 What's she wearing?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 7 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	3	Unit 7 What's she wearing?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 7 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	4	Unit 8 Are there any chairs?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 8 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	5	Unit 8 Are there any chairs?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 8 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	6	Unit 9 The bank is on the corner.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 9 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	7	Unit 9 The bank is on the corner.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 9 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	8	BONUS Unit 7~9	Video: The Jack Sparrow House	事前学習：Unit 7 から 9 までの内容を復習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	9	Unit 10 Do we have any coffee?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 10 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	10	Unit 10 Do we have any coffee?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 10 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	11	Unit 11 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 11 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	12	Unit 11 Where were you yesterday?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 11 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	13	Unit 12 What did you do last weekend?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 12 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	14	Unit 12 What did you do last weekend?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 12 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
関連科目	英語コミュニケーションⅠ			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ	ペアやグループワークを通して、コミュニケーションの楽しさを実感してください。			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語コミュニケーションⅡ	科目名 (英文)	English Communication II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	10
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	西原 菜月
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1322c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読むこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5 時間)
	2	Unit 7 What's she wearing?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 7 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	3	Unit 7 What's she wearing?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 7 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	4	Unit 8 Are there any chairs?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 8 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	5	Unit 8 Are there any chairs?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 8 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	6	Unit 9 The bank is on the corner.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 9 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	7	Unit 9 The bank is on the corner.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 9 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	8	BONUS Unit 7-9	Video: The Jack Sparrow House	事前学習：Unit 7 から 9 までの内容を復習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	9	Unit 10 Do we have any coffee?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 10 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	10	Unit 10 Do we have any coffee?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 10 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	11	Unit 11 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 11 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	12	Unit 11 Where were you yesterday?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 11 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	13	Unit 12 What did you do last weekend?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 12 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	14	Unit 12 What did you do last weekend?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 12 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
関連科目	英語コミュニケーションⅠ			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語コミュニケーションⅡ	科目名 (英文)	English Communication II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	11
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	藺頭 彰子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1322c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読むこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5 時間)
	2	Unit 7 What's she wearing?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 7 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	3	Unit 7 What's she wearing?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 7 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	4	Unit 8 Are there any chairs?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 8 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	5	Unit 8 Are there any chairs?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 8 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	6	Unit 9 The bank is on the corner.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 9 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	7	Unit 9 The bank is on the corner.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 9 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	8	BONUS Unit 7-9	Video: The Jack Sparrow House	事前学習：Unit 7 から 9 までの内容を復習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	9	Unit 10 Do we have any coffee?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 10 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	10	Unit 10 Do we have any coffee?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 10 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	11	Unit 11 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 11 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	12	Unit 11 Where were you yesterday?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 11 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	13	Unit 12 What did you do last weekend?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 12 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	14	Unit 12 What did you do last weekend?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 12 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
関連科目	英語コミュニケーションⅠ			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語コミュニケーションⅡ	科目名 (英文)	English Communication II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	12
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	杉山 未菜実
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1322c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読むこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5 時間)
	2	Unit 7 What's she wearing?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 7 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	3	Unit 7 What's she wearing?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 7 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	4	Unit 8 Are there any chairs?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 8 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	5	Unit 8 Are there any chairs?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 8 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	6	Unit 9 The bank is on the corner.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 9 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	7	Unit 9 The bank is on the corner.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 9 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	8	BONUS Unit 7～9	Video: The Jack Sparrow House	事前学習：Unit 7 から 9 までの内容を復習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	9	Unit 10 Do we have any coffee?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 10 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	10	Unit 10 Do we have any coffee?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 10 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	11	Unit 11 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 11 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	12	Unit 11 Where were you yesterday?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 11 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	13	Unit 12 What did you do last weekend?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 12 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	14	Unit 12 What did you do last weekend?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 12 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
関連科目	英語コミュニケーションⅠ			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語コミュニケーションⅡ	科目名 (英文)	English Communication II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	13
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	高橋 侑里
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1322c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読むこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5 時間)
	2	Unit 7 What's she wearing?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 7 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	3	Unit 7 What's she wearing?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 7 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	4	Unit 8 Are there any chairs?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 8 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	5	Unit 8 Are there any chairs?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 8 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	6	Unit 9 The bank is on the corner.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 9 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	7	Unit 9 The bank is on the corner.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 9 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	8	BONUS Unit 7～9	Video: The Jack Sparrow House	事前学習：Unit 7 から 9 までの内容を復習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	9	Unit 10 Do we have any coffee?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 10 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	10	Unit 10 Do we have any coffee?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 10 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	11	Unit 11 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 11 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	12	Unit 11 Where were you yesterday?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 11 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	13	Unit 12 What did you do last weekend?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 12 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	14	Unit 12 What did you do last weekend?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 12 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
関連科目	英語コミュニケーションⅠ			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語コミュニケーションⅡ	科目名 (英文)	English Communication II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	14
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	鷲尾 渉
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1322c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読むこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5 時間)
	2	Unit 7 What's she wearing?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 7 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	3	Unit 7 What's she wearing?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 7 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	4	Unit 8 Are there any chairs?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 8 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	5	Unit 8 Are there any chairs?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 8 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	6	Unit 9 The bank is on the corner.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 9 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	7	Unit 9 The bank is on the corner.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 9 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	8	BONUS Unit 7-9	Video: The Jack Sparrow House	事前学習：Unit 7 から 9 までの内容を復習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	9	Unit 10 Do we have any coffee?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 10 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	10	Unit 10 Do we have any coffee?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 10 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	11	Unit 11 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 11 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	12	Unit 11 Where were you yesterday?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 11 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	13	Unit 12 What did you do last weekend?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 12 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	14	Unit 12 What did you do last weekend?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 12 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
関連科目	英語コミュニケーションⅠ			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語コミュニケーションⅡ	科目名 (英文)	English Communication II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	15
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦 茂寿
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1322c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読むこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5 時間)
	2	Unit 7 What's she wearing?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	3	Unit 7 What's she wearing?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	4	Unit 8 Are there any chairs?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	5	Unit 8 Are there any chairs?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	6	Unit 9 The bank is on the corner.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	7	Unit 9 The bank is on the corner.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	8	BONUS Unit 7～9	Video: The Jack Sparrow House	事前学習：Unit 7 から 9 までの内容を復習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	9	Unit 10 Do we have any coffee?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	10	Unit 10 Do we have any coffee?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	11	Unit 11 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	12	Unit 11 Where were you yesterday?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	13	Unit 12 What did you do last weekend?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	14	Unit 12 What did you do last weekend?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
関連科目	英語コミュニケーションⅠ			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！ 進度によりシラバス記載の授業内容は変わることがあります。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語コミュニケーションⅡ	科目名 (英文)	English Communication II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	16
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1322c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読むこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5 時間)
	2	Unit 7 What's she wearing?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 7 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	3	Unit 7 What's she wearing?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 7 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	4	Unit 8 Are there any chairs?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 8 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	5	Unit 8 Are there any chairs?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 8 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	6	Unit 9 The bank is on the corner.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 9 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	7	Unit 9 The bank is on the corner.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 9 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	8	BONUS Unit 7-9	Video: The Jack Sparrow House	事前学習：Unit 7 から 9 までの内容を復習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	9	Unit 10 Do we have any coffee?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 10 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	10	Unit 10 Do we have any coffee?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 10 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	11	Unit 11 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 11 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	12	Unit 11 Where were you yesterday?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 11 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	13	Unit 12 What did you do last weekend?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 12 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	14	Unit 12 What did you do last weekend?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 12 の内容を予習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習しておくこと。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
関連科目	英語コミュニケーションⅠ			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ	英語を沢山聴いて、沢山しゃべりましょう。 語彙やまとまった表現は事前に調べノートしておくこと。 リスニング箇所は、何度も聴いて予習をしておくこと。			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	日本語基礎	科目名（英文）	Basic Japanese
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	678910
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	筒井 大祐
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JJA1327a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くようになることが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。本講義は、文章作成を一方的に講義するのではなく、受講者が実際に文章を書きながら、文章作成を習得することを目指す。そのため、講義内に練習問題や課題の作成を課す。																																																																		
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>導入・講義の進め方について</td><td>授業の目的、進め方の説明</td><td>1 時間の事前事後学習を目安とする。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>わかりやすい文章とは何か</td><td>わかりやすい文章とは何かを考える</td><td>1 時間の事前事後学習を目安とする。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>文章の書き方 1</td><td>レポート・論文の基本事項を確認する</td><td>1 時間の事前事後学習を目安とする。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>文章の書き方 2</td><td>わかりやすい文章の書き方を学ぶ</td><td>1 時間の事前事後学習を目安とする。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>事実と意見</td><td>事実と意見、説明文の書き方</td><td>1 時間の事前事後学習を目安とする。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>【課題 1】意見文</td><td>意見文を書く</td><td>1 時間の事前事後学習を目安とする。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>段落</td><td>レポートなどの文章構成を学ぶ</td><td>1 時間の事前事後学習を目安とする。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>文章を引用方法（直接引用）</td><td>文章を引用する（直接引用）</td><td>1 時間の事前事後学習を目安とする。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>文章の引用方法（間節引用・要約）</td><td>文章を引用する（間節引用） 要約</td><td>1 時間の事前事後学習を目安とする。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>課題 1 のフィードバック</td><td>意見を書く：フィードバック</td><td>1 時間の事前事後学習を目安とする。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>【課題 2】のレポートの構成を考える</td><td>問題提起 テーマに関する資料を集める</td><td>1 時間の事前事後学習を目安とする。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>【課題 2】資料を引用し、意見を書く</td><td>問題提起を行ったうえで、資料を引用して意見を書く</td><td>1 時間の事前事後学習を目安とする。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>【課題 3】のテーマ説明</td><td>【課題 3】のレポートのテーマの説明、構成を考える</td><td>1 時間の事前事後学習を目安とする。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>【課題 3】の作成</td><td>論説文を書く</td><td>レポートを作成する</td></tr> <tr> <td>15</td><td>文章作成に関するまとめ</td><td>これまでの文章作成に関して、まとめを行う</td><td>これまでの復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入・講義の進め方について	授業の目的、進め方の説明	1 時間の事前事後学習を目安とする。	2	わかりやすい文章とは何か	わかりやすい文章とは何かを考える	1 時間の事前事後学習を目安とする。	3	文章の書き方 1	レポート・論文の基本事項を確認する	1 時間の事前事後学習を目安とする。	4	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする。	5	事実と意見	事実と意見、説明文の書き方	1 時間の事前事後学習を目安とする。	6	【課題 1】意見文	意見文を書く	1 時間の事前事後学習を目安とする。	7	段落	レポートなどの文章構成を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする。	8	文章を引用方法（直接引用）	文章を引用する（直接引用）	1 時間の事前事後学習を目安とする。	9	文章の引用方法（間節引用・要約）	文章を引用する（間節引用） 要約	1 時間の事前事後学習を目安とする。	10	課題 1 のフィードバック	意見を書く：フィードバック	1 時間の事前事後学習を目安とする。	11	【課題 2】のレポートの構成を考える	問題提起 テーマに関する資料を集める	1 時間の事前事後学習を目安とする。	12	【課題 2】資料を引用し、意見を書く	問題提起を行ったうえで、資料を引用して意見を書く	1 時間の事前事後学習を目安とする。	13	【課題 3】のテーマ説明	【課題 3】のレポートのテーマの説明、構成を考える	1 時間の事前事後学習を目安とする。	14	【課題 3】の作成	論説文を書く	レポートを作成する	15	文章作成に関するまとめ	これまでの文章作成に関して、まとめを行う	これまでの復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入・講義の進め方について	授業の目的、進め方の説明	1 時間の事前事後学習を目安とする。																																																																
2	わかりやすい文章とは何か	わかりやすい文章とは何かを考える	1 時間の事前事後学習を目安とする。																																																																
3	文章の書き方 1	レポート・論文の基本事項を確認する	1 時間の事前事後学習を目安とする。																																																																
4	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする。																																																																
5	事実と意見	事実と意見、説明文の書き方	1 時間の事前事後学習を目安とする。																																																																
6	【課題 1】意見文	意見文を書く	1 時間の事前事後学習を目安とする。																																																																
7	段落	レポートなどの文章構成を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする。																																																																
8	文章を引用方法（直接引用）	文章を引用する（直接引用）	1 時間の事前事後学習を目安とする。																																																																
9	文章の引用方法（間節引用・要約）	文章を引用する（間節引用） 要約	1 時間の事前事後学習を目安とする。																																																																
10	課題 1 のフィードバック	意見を書く：フィードバック	1 時間の事前事後学習を目安とする。																																																																
11	【課題 2】のレポートの構成を考える	問題提起 テーマに関する資料を集める	1 時間の事前事後学習を目安とする。																																																																
12	【課題 2】資料を引用し、意見を書く	問題提起を行ったうえで、資料を引用して意見を書く	1 時間の事前事後学習を目安とする。																																																																
13	【課題 3】のテーマ説明	【課題 3】のレポートのテーマの説明、構成を考える	1 時間の事前事後学習を目安とする。																																																																
14	【課題 3】の作成	論説文を書く	レポートを作成する																																																																
15	文章作成に関するまとめ	これまでの文章作成に関して、まとめを行う	これまでの復習																																																																
関連科目	すべての授業の日本語による課題作成																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>大学生の日本語文章表現</td><td>摂南大学教育イノベーションセンター編</td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編		2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編																																																																	
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	課題 2 回（20%×2）、レポート（30%）、授業に取り組む姿勢・小テストなど（30%）により評価する。 提出が必須の課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。																																																																		
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語（話し言葉）と、レポートなどで書く日本語（書き言葉）は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、文章表現の方法を勉強していきましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考																																																																			

科目名	日本語基礎	科目名（英文）	Basic Japanese
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	1112131415
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	南谷 静香
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JJA1327a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。 課題およびレポートについて、未提出のものがある場合は単位の取得を認めない。課題日に欠席した場合は、後日必ず欠席届を提出すること。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文書作成に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 授業の内容、進め方について メールの書き方について 「はじめに」 文章で伝えるということについて	講義	教科書 p. 1～6 を復習する（一時間程度）
	2	「文章の書き方」 レポート・論文の基本事項 わかりやすい文章の書き方	講義	教科書 p. 7～12 を復習する（一時間程度）
	3	「事実と意見」 事実と意見の書き分け 説明文とは何か	講義	教科書 p. 13～17 および配布プリントを復習する（一時間程度）
	4	【課題①】 ある事物について、論理的に説明する	課題の作成・提出	教科書 p. 1～18 を復習する（一時間程度）
	5	「構成」 レポートなどの文章の構成を学ぶ	講義	教科書 p. 19～22 を復習する（一時間程度）
	6	「要約」 要旨の要約の作成方法を知る	講義	教科書 p. 23～26 および配布プリントを復習する（一時間程度）
	7	フィードバック 課題①の返却と反省 「要約」 要約文の作成	フィードバックと実践（要約文の作成）	教科書 p. 1～26 および配布プリントを復習する。返却された課題を見直す。（一時間程度）
	8	「文章を引用する」 文章を引用する意方法を学ぶ	講義	教科書 p. 27～31 および配布プリントを復習する（一時間程度）
	9	「図表を引用する」 図表を引用する方法を学ぶ	講義	教科書 p. 32～37 および配布プリントを復習する（一時間程度）
	10	「意見を述べる」 引用をふまえた考察に基づいて意見を述べる	講義	教科書 p. 38～39 および配布プリントを復習する（一時間程度）
	11	【課題②】 資料を引用して意見を述べる	課題の作成・提出	教科書 p. 32～39 を復習する（一時間程度）
	12	資料検索の方法について 小テストの復習テスト	復習テスト	返却した小テストの内容を復習してテストに臨む（一時間程度）
	13	フィードバック 課題②の返却と反省	フィードバック	教科書 p. 32～39 を復習する。返却された課題を見直す。（一時間程度）
	14	【レポート】 これまでの講義の内容を踏まえて論説文を書く	レポートの作成・提出	教科書 p. 1～39 を復習する（一時間程度）
	15	フィードバック レポートの反省点	フィードバック	教科書 p. 1～39 を復習する（一時間程度）

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	課題 2 回（20％×2）、レポート（30％）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30％）により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
----------	--

学生への メッセージ	口語表現と文章表現の違いを理解し、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルを身につけてください。 論理的な文章を書く能力は、学生生活でのレポートや論文はもちろんのこと、社会人になってからも必要なものです。積極的に課題に取り組み、実践的な能力を身につけるよう努めましょう。
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	前もって教科書の該当箇所をしっかりと読んでから講義にのぞむこと。 返却された小テストはしっかりと復習すること。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。遠隔授業になった場合は、学内メールもしくは Teams にて対応。

科目名	日本語基礎	科目名（英文）	Basic Japanese
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	12345
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	澤野 加奈
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JJA1327a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する力」を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。(DP1)
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
	2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
	4	【課題 1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	これまでの復習 1 時間の事前事後学習を目安とする
	5	構成・要約	レポートなどの文章構成・要約を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
	6	フィードバック	課題 1 のフィードバック	1 時間の事前事後学習を目安とする 課題 1 のフィードバック
	7	文章を引用する	文章引用の方法を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
	8	文章の引用を練習する	文章を引用を練習する	1 時間の事前事後学習を目安とする
	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
	10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
	11	【課題 2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習 1 時間の事前事後学習を目安とする
	12	レポートの書き方 1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	1 時間の事前事後学習を目安とする
	13	フィードバック	課題 2 のフィードバック	課題 2 を見直す 1 時間の事前事後学習を目安とする
	14	【 レポート 】	レポートを提出する	レポートを作成する 1 時間の事前事後学習を目安とする
	15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	1 時間の事前事後学習を目安とする 小テストの復習

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	課題 2 回（20%×2）、レポート（30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	事前・事後学習の総時間の目安は、1 5 時間。 提出課題については、個別にフィードバックをする。

科目名	日本語基礎	科目名（英文）	Basic Japanese
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	16K1K2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	南谷 静香
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JJA1327a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。 課題およびレポートについて、未提出のものがある場合は単位の取得を認めない。課題日に欠席した場合は、後日必ず欠席届を提出すること。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文書作成に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 授業の内容、進め方について メールの書き方について 「はじめに」 文章で伝えるということについて	講義	教科書 p. 1～6 を復習する（一時間程度）
	2	「文章の書き方」 レポート・論文の基本事項 わかりやすい文章の書き方	講義	教科書 p. 7～12 を復習する（一時間程度）
	3	「事実と意見」 事実と意見の書き分け 説明文とは何か	講義	教科書 p. 13～17 および配布プリントを復習する（一時間程度）
	4	【課題①】 ある事物について、論理的に説明する	課題の作成・提出	教科書 p. 1～18 を復習する（一時間程度）
	5	「構成」 レポートなどの文章の構成を学ぶ	講義	教科書 p. 19～22 を復習する（一時間程度）
	6	「要約」 要旨の要約の作成方法を知る	講義	教科書 p. 23～26 および配布プリントを復習する（一時間程度）
	7	フィードバック 課題①の返却と反省 「要約」 要約文の作成	フィードバックと実践（要約文の作成）	教科書 p. 1～26 および配布プリントを復習する。返却された課題を見直す。（一時間程度）
	8	「文章を引用する」 文章を引用する意方法を学ぶ	講義	教科書 p. 27～31 および配布プリントを復習する（一時間程度）
	9	「図表を引用する」 図表を引用する方法を学ぶ	講義	教科書 p. 32～37 および配布プリントを復習する（一時間程度）
	10	「意見を述べる」 引用をふまえた考察に基づいて意見を述べる	講義	教科書 p. 38～39 および配布プリントを復習する（一時間程度）
	11	【課題②】 資料を引用して意見を述べる	課題の作成・提出	教科書 p. 32～39 を復習する（一時間程度）
	12	資料検索の方法について 小テストの復習テスト	復習テスト	返却した小テストの内容を復習してテストに臨む（一時間程度）
	13	フィードバック 課題②の返却と反省	フィードバック	教科書 p. 32～39 を復習する。返却された課題を見直す。（一時間程度）
	14	【レポート】 これまでの講義の内容を踏まえて論説文を書く	レポートの作成・提出	教科書 p. 1～39 を復習する（一時間程度）
	15	フィードバック レポートの反省点	フィードバック	教科書 p. 1～39 を復習する（一時間程度）

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	課題 2 回（20％×2）、レポート（30％）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30％）により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
----------	--

学生への メッセージ	口語表現と文章表現の違いを理解し、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルを身につけてください。 論理的な文章を書く能力は、学生生活でのレポートや論文はもちろんのこと、社会人になってからも必要なものです。積極的に課題に取り組み、実践的な能力を身につけるよう努めましょう。
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	前もって教科書の該当箇所をしっかりと読んでから講義にのぞむこと。 返却された小テストはしっかりと復習すること。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。遠隔授業になった場合は、学内メールもしくは Teams にて対応。

科目名	日本語表現	科目名（英文）	Japanese Expression
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	12345
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	澤野 加奈
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JJA1328a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活に必要な文章力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い、まとめた内容を整理して、論理的に表現することができる。（DP1）
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワークや文章作成等の課題に取り組む。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 レポートの書き方（1）	授業の目的、進め方の説明 レポートの基本的ルール・構成の復習	1 時間の事前事後学習を目安とする。
	2	レポートの書き方（2）	資料引用の復習（文章の引用） 考察・意見の述べ方を確認する	1 時間の事前事後学習を目安とする。
	3	レポートの書き方（3）	資料引用の復習（図表の引用）	1 時間の事前事後学習を目安とする。
	4	【課題 1】レポート	資料を引用して意見を述べる文章を書く	1 時間の事前事後学習を目安とする。
	5	課題 1 のフィードバック ディスカッションの準備	課題 1 のフィードバック ディスカッション資料の要約や問題点の整理を行う。	ディスカッションの準備。 1 時間の事前事後学習を目安とする。
	6	ディスカッション（1）	グループ分けをしてディスカッションを行う	ディスカッションの準備。 1 時間の事前事後学習を目安とする。
	7	ディスカッション（2）	グループでディスカッションを行う	ディスカッションの準備。 1 時間の事前事後学習を目安とする。
	8	課題 2 中間報告文	ディスカッションした内容を報告文にまとめる。	報告文の準備。 1 時間の事前事後学習を目安とする。
	9	フィードバック レジュメの作成	報告文のフィードバック レジュメの作成を行なう	1 時間の事前事後学習を目安とする。
	10	リハーサル	グループごとにリハーサルを行う	1 時間の事前事後学習を目安とする。
	11	プレゼンテーション（1）	グループ単位でプレゼンテーションを行う	1 時間の事前事後学習を目安とする。
	12	プレゼンテーション（2）	グループ単位でプレゼンテーションを行う	1 時間の事前事後学習を目安とする。
	13	課題 3 報告文	発表内容を報告文にまとめる	1 時間の事前事後学習を目安とする。
	14	課題 3 のフィードバック メールの書き方	課題 3 のフィードバック メールの書き方の練習	1 時間の事前事後学習を目安とする。
	15	【復習テスト】	小テストの復習テスト	1 時間の事前事後学習を目安とする。小テストの復習

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	課題 3 回（20%、20%、30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により総合的に評価する。課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語（話し言葉）と、レポートなどで書く日本語（書き言葉）は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語（話し言葉、書き言葉）と向き合ってください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回 1 時間程度はかけること。 フィードバックは、授業内で行う。

科目名	日本語表現	科目名（英文）	Japanese Expression
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	16K1K2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	南谷 静香
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JJA1328a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を取得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活で必要な表現力を身につける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人が理解し納得できる文章をどう書くか、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワークや文章作成等の課題に取り組む。 課題未提出、プレゼンテーション不参加の場合は単位の取得を認めない。課題日やプレゼンテーション担当日に欠席する場合は必ず欠席届を提出すること。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 この授業について メールの書き方 レポートの書き方（1）要点確認	授業の目的、進め方の説明 レポートの書き方のポイントを確認する	教科書を全文読んでおく。 1時間の事前事後学習を目安とする。
	2	レポートの書き方（2）	レポートの基本的ルールを確認する	教科書「はじめに」～「第6回 要約」までをしっかりと読む。 1時間の事前事後学習を目安とする。
	3	レポートの書き方（3）	資料の引用の仕方について学ぶ	教科書「第7回 文章を引用する」「第8回 図表を引用する」をしっかりと読む。 1時間の事前事後学習を目安とする。
	4	【課題1】レポート	資料を引用して意見を述べる文章を書く	教科書全文を読み返す。 1時間の事前事後学習を目安とする。
	5	ディスカッション・プレゼンテーションについて	ディスカッションの方法やプレゼンテーションについて学ぶ	配布したレジュメを精読すること。 1時間の事前事後学習を目安とする。
	6	【課題1】フィードバック	課題1のフィードバック	返却されたレポートを読み返し、復習する。 1時間の事前事後学習を目安とする。
	7	【ディスカッション1】	グループごとにテーマを設定し、ディスカッションを行う。	ディスカッションの準備。資料集め。 1時間の事前事後学習を目安とする。
	8	【ディスカッション2】 【プレゼンテーション準備1】	グループごとにディスカッションを行い、それに基づきプレゼンテーションの準備を進める。	ディスカッションの準備。資料集め。 1時間の事前事後学習を目安とする。
	9	【課題2】ディスカッションの報告	ディスカッションの経過を箇条書きや文章でまとめる。	レポートの書き方を復習する。 1時間の事前事後学習を目安とする。
	10	【プレゼンテーション準備2】	プレゼンテーションに向けてレジュメやスライドの準備をおこなう	プレゼンテーションに向けてレジュメ等を仕上げ、準備を整える。 1時間の事前事後学習を目安とする。
	11	【プレゼンテーション1】	グループごとにプレゼンテーションを行う	他のグループの発表資料を分析する。 1時間の事前事後学習を目安とする。
	12	【プレゼンテーション2】	グループごとにプレゼンテーションを行う	他のグループの発表資料を分析する。 1時間の事前事後学習を目安とする。
	13	【プレゼンテーション3】	グループごとにプレゼンテーションを行う	他のグループの発表資料を分析する。 1時間の事前事後学習を目安とする。
	14	【課題3】レポート	プレゼンテーションの内容をもとにレポートを書く	レポートの書き方の復習。 1時間の事前事後学習を目安とする。
	15	課題3のフィードバック 【復習テスト】	課題3のフィードバック 小テストの復習テスト	レポートの書き方の復習 小テストの復習

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	課題3回（20%、20%、30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により評価する。課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
----------	---

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語（話し言葉）と、レポートなどで書く日本語（書き言葉）は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語（話し言葉、書き言葉）と向き合ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	日本語表現	科目名 (英文)	Japanese Expression
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	678910
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	筒井 大祐
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JJA1328a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人が理解し納得できる文章をどう書くか、などについて実践的に取り組む。																																																																		
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。																																																																		
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。課題未提出の場合は、単位の取得が認められないので注意すること、プレゼンテーションに不参加の場合も単位の取得を認めない。グループワークが中心の講義なので、意欲的に参加すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>導入</td><td>授業の目的、進め方の説明</td><td>1時間の事前事後学習を目安とする。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>敬語表現</td><td>敬語の種類と用法を学ぶ</td><td>敬語の復習、1時間の事前事後学習を目安とする。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>グループワーク 1</td><td>グループワークの進め方、テーマの説明、ディスカッションの前に個人の意見をまとめる</td><td>グループワークのテーマについて考える。1時間の事前事後学習を目安とする。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>グループワーク 1 の続き</td><td>テーマに関して、グループでディスカッションをする</td><td>ディスカッションを振り返る。1時間の事前事後学習を目安とする。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>グループワーク 1 の続き</td><td>テーマに関して、グループでディスカッションをする</td><td>ディスカッションを振り返る。1時間の事前事後学習を目安とする。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>グループワーク 1 の続き 課題 1</td><td>グループワーク 1 に関するレポート作成</td><td>ディスカッションを振り返る。1時間の事前事後学習を目安とする。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>グループワーク 2</td><td>テーマの説明、ディスカッションの前に個人の意見をまとめる</td><td>ディスカッションの準備テーマの下調べ。1時間の事前事後学習を目安とする。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>グループワーク 2</td><td>グループでテーマに関してディスカッションする、ディスカッションの内容をまとめる</td><td>プレゼンテーション資料の準備。1時間の事前事後学習を目安とする。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>グループワーク 2 グループごとのプレゼンテーション</td><td>グループでディスカッションの内容をプレゼンテーションする</td><td>グループワーク、ディスカッションを振り返る。1時間の事前事後学習を目安とする。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>グループワーク 2 課題 2</td><td>グループワーク 2 に関するレポート作成</td><td>グループワーク、ディスカッションを振り返る。1時間の事前事後学習を目安とする。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>グループワーク 3</td><td>テーマの説明、ディスカッションの前に個人の意見をまとめる</td><td>発表の準備。1時間の事前事後学習を目安とする。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>グループワーク 3</td><td>グループでテーマに関してディスカッションする、ディスカッションの内容をまとめる</td><td>発表の準備と反省。1時間の事前事後学習を目安とする。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>グループワーク 3</td><td>資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う。</td><td>発表の準備と反省。1時間の事前事後学習を目安とする。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>グループワーク 3 課題 3</td><td>グループワーク 3 に関するレポート作成</td><td>グループワーク、ディスカッションを振り返る。1時間の事前事後学習を目安とする。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>課題フィードバック まとめ</td><td>課題フィードバック</td><td>グループワーク、ディスカッションを振り返る。1時間の事前事後学習を目安とする。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入	授業の目的、進め方の説明	1時間の事前事後学習を目安とする。	2	敬語表現	敬語の種類と用法を学ぶ	敬語の復習、1時間の事前事後学習を目安とする。	3	グループワーク 1	グループワークの進め方、テーマの説明、ディスカッションの前に個人の意見をまとめる	グループワークのテーマについて考える。1時間の事前事後学習を目安とする。	4	グループワーク 1 の続き	テーマに関して、グループでディスカッションをする	ディスカッションを振り返る。1時間の事前事後学習を目安とする。	5	グループワーク 1 の続き	テーマに関して、グループでディスカッションをする	ディスカッションを振り返る。1時間の事前事後学習を目安とする。	6	グループワーク 1 の続き 課題 1	グループワーク 1 に関するレポート作成	ディスカッションを振り返る。1時間の事前事後学習を目安とする。	7	グループワーク 2	テーマの説明、ディスカッションの前に個人の意見をまとめる	ディスカッションの準備テーマの下調べ。1時間の事前事後学習を目安とする。	8	グループワーク 2	グループでテーマに関してディスカッションする、ディスカッションの内容をまとめる	プレゼンテーション資料の準備。1時間の事前事後学習を目安とする。	9	グループワーク 2 グループごとのプレゼンテーション	グループでディスカッションの内容をプレゼンテーションする	グループワーク、ディスカッションを振り返る。1時間の事前事後学習を目安とする。	10	グループワーク 2 課題 2	グループワーク 2 に関するレポート作成	グループワーク、ディスカッションを振り返る。1時間の事前事後学習を目安とする。	11	グループワーク 3	テーマの説明、ディスカッションの前に個人の意見をまとめる	発表の準備。1時間の事前事後学習を目安とする。	12	グループワーク 3	グループでテーマに関してディスカッションする、ディスカッションの内容をまとめる	発表の準備と反省。1時間の事前事後学習を目安とする。	13	グループワーク 3	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う。	発表の準備と反省。1時間の事前事後学習を目安とする。	14	グループワーク 3 課題 3	グループワーク 3 に関するレポート作成	グループワーク、ディスカッションを振り返る。1時間の事前事後学習を目安とする。	15	課題フィードバック まとめ	課題フィードバック	グループワーク、ディスカッションを振り返る。1時間の事前事後学習を目安とする。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入	授業の目的、進め方の説明	1時間の事前事後学習を目安とする。																																																																
2	敬語表現	敬語の種類と用法を学ぶ	敬語の復習、1時間の事前事後学習を目安とする。																																																																
3	グループワーク 1	グループワークの進め方、テーマの説明、ディスカッションの前に個人の意見をまとめる	グループワークのテーマについて考える。1時間の事前事後学習を目安とする。																																																																
4	グループワーク 1 の続き	テーマに関して、グループでディスカッションをする	ディスカッションを振り返る。1時間の事前事後学習を目安とする。																																																																
5	グループワーク 1 の続き	テーマに関して、グループでディスカッションをする	ディスカッションを振り返る。1時間の事前事後学習を目安とする。																																																																
6	グループワーク 1 の続き 課題 1	グループワーク 1 に関するレポート作成	ディスカッションを振り返る。1時間の事前事後学習を目安とする。																																																																
7	グループワーク 2	テーマの説明、ディスカッションの前に個人の意見をまとめる	ディスカッションの準備テーマの下調べ。1時間の事前事後学習を目安とする。																																																																
8	グループワーク 2	グループでテーマに関してディスカッションする、ディスカッションの内容をまとめる	プレゼンテーション資料の準備。1時間の事前事後学習を目安とする。																																																																
9	グループワーク 2 グループごとのプレゼンテーション	グループでディスカッションの内容をプレゼンテーションする	グループワーク、ディスカッションを振り返る。1時間の事前事後学習を目安とする。																																																																
10	グループワーク 2 課題 2	グループワーク 2 に関するレポート作成	グループワーク、ディスカッションを振り返る。1時間の事前事後学習を目安とする。																																																																
11	グループワーク 3	テーマの説明、ディスカッションの前に個人の意見をまとめる	発表の準備。1時間の事前事後学習を目安とする。																																																																
12	グループワーク 3	グループでテーマに関してディスカッションする、ディスカッションの内容をまとめる	発表の準備と反省。1時間の事前事後学習を目安とする。																																																																
13	グループワーク 3	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う。	発表の準備と反省。1時間の事前事後学習を目安とする。																																																																
14	グループワーク 3 課題 3	グループワーク 3 に関するレポート作成	グループワーク、ディスカッションを振り返る。1時間の事前事後学習を目安とする。																																																																
15	課題フィードバック まとめ	課題フィードバック	グループワーク、ディスカッションを振り返る。1時間の事前事後学習を目安とする。																																																																
関連科目	すべての授業の日本語による課題作成																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>大学生の日本語文章表現</td><td>摂南大学教育イノベーションセンター編</td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編		2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編																																																																	
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	課題 (20%、20%、30%)、授業への取り組み姿勢・小テスト・復習テスト (30%) により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。やむを得ない場合を除いて、プレゼンテーションに不参加の場合も単位の取得を認めない。																																																																		
学生へのメッセージ	グループワークが中心の講義となるので、主体的に受講する事。無断欠席はグループメンバーにも迷惑をかけることに留意しておくこと。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。																																																																		

科目名	日本語表現	科目名（英文）	Japanese Expression
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	1112131415
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	南谷 静香
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JJA1328a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を取得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活で必要な表現力を身につける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人が理解し納得できる文章をどう書くか、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワークや文章作成等の課題に取り組む。 課題未提出、プレゼンテーション不参加の場合は単位の取得を認めない。課題日やプレゼンテーション担当日に欠席する場合は必ず欠席届を提出すること。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 この授業について メールの書き方 レポートの書き方（1）要点確認	授業の目的、進め方の説明 レポートの書き方のポイントを確認する	教科書を全文読んでおく。 1時間の事前事後学習を目安とする。
	2	レポートの書き方（2）	レポートの基本的ルールを確認する	教科書「はじめに」～「第6回 要約」までをしっかりと読む。 1時間の事前事後学習を目安とする。
	3	レポートの書き方（3）	資料の引用の仕方について学ぶ	教科書「第7回 文章を引用する」「第8回 図表を引用する」をしっかりと読む。 1時間の事前事後学習を目安とする。
	4	【課題1】レポート	資料を引用して意見を述べる文章を書く	教科書全文を読み返す。 1時間の事前事後学習を目安とする。
	5	ディスカッション・プレゼンテーションについて	ディスカッションの方法やプレゼンテーションについて学ぶ	配布したレジュメを精読すること。 1時間の事前事後学習を目安とする。
	6	【課題1】フィードバック	課題1のフィードバック	返却されたレポートを読み返し、復習する。 1時間の事前事後学習を目安とする。
	7	【ディスカッション1】	グループごとにテーマを設定し、ディスカッションを行う。	ディスカッションの準備。資料集め。 1時間の事前事後学習を目安とする。
	8	【ディスカッション2】 【プレゼンテーション準備1】	グループごとにディスカッションを行い、それに基づきプレゼンテーションの準備を進める。	ディスカッションの準備。資料集め。 1時間の事前事後学習を目安とする。
	9	【課題2】ディスカッションの報告	ディスカッションの経過を箇条書きや文章でまとめる。	レポートの書き方を復習する。 1時間の事前事後学習を目安とする。
	10	【プレゼンテーション準備2】	プレゼンテーションに向けてレジュメやスライドの準備をおこなう	プレゼンテーションに向けてレジュメ等をしあげ、準備を整える。 1時間の事前事後学習を目安とする。
	11	【プレゼンテーション1】	グループごとにプレゼンテーションを行う	他のグループの発表資料を分析する。 1時間の事前事後学習を目安とする。
	12	【プレゼンテーション2】	グループごとにプレゼンテーションを行う	他のグループの発表資料を分析する。 1時間の事前事後学習を目安とする。
	13	【プレゼンテーション3】	グループごとにプレゼンテーションを行う	他のグループの発表資料を分析する。 1時間の事前事後学習を目安とする。
	14	【課題3】レポート	プレゼンテーションの内容をもとにレポートを書く	レポートの書き方の復習。 1時間の事前事後学習を目安とする。
	15	課題3のフィードバック 【復習テスト】	課題3のフィードバック 小テストの復習テスト	レポートの書き方の復習 小テストの復習

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	課題3回（20%、20%、30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により評価する。課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語（話し言葉）と、レポートなどで書く日本語（書き言葉）は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語（話し言葉、書き言葉）と向き合ってください。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	

科目名	北河内のまちづくりと行政	科目名（英文）	Community Development and Administration for Kita-kawachi
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	増田 知也, 小林 基
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JL01345a1		

授業概要・目的	摂南大学と大学が立地する「北河内」に焦点をあて、この地域の市町村の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」から、地方自治体の現状と課題をグループディスカッションを行いながら学び、地域との関わり方を考える。 授業では、自らが問題意識や疑問をもちながら地域の現状を分析し、多くの疑問点（質問）をだすこと。さらに疑問点（質問）に優先順位をつけ、それに基づいた学修・調査・研究を行うことのトレーニングを行う。 またグループワークで互いに議論しながら、ひとつの方向性を見出す大切さを経験する。 この授業は授業担当者として、北河内7市の「行政実務者」が担当する。
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、まちづくりを知り、地域に対する愛着を醸成し、社会の一員として地域とのかかわりの大切さを認識する。さらに地域おける課題を発見し解決できる能力に必要な「考える力、判断する力、表現する力」を身につける。
授業方法と留意点	北河内地域の市町村の行政実務者をを学外講師とするオムニバス講義である。授業は、土曜日に集中的に実施し、毎回の授業で「自己学習・グループ学習」「質疑」「グループワーク・成果物のプレゼンテーション」を行う。
科目学習の効果（資格）	ソーシャルイノベーション副専攻の必須科目である。「北河内を知る」を通じて、地域の課題を発見して解決する能力を身につけることに努力する。さらに、外部講師の方々と交流を深め、地域貢献活動に参画し、自ら考え行動することで、生涯にわたり学習する基盤が培われる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 1 限	授業の進め方、成績評価方法 グループワークの進め方等を学ぶ チームをつくり、相互理解を深める。	事前課題：北河内地域の概要について調べる（1 時間） 事後課題：授業の進め方について確認する（1 時間）
	2	北河内地域に関する質疑 2 限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2 時間）
	3	グループワーク・プレゼンテーション 3 限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（2 時間）
	4	北河内地域に関する質疑 1 限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2 時間）
	5	北河内地域に関する質疑 2 限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2 時間）
	6	グループワーク・プレゼンテーション 3 限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（2 時間）
	7	北河内地域に関する質疑 1 限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2 時間）
	8	北河内地域に関する質疑 2 限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2 時間）
	9	グループワーク・プレゼンテーション 3 限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（2 時間）
	10	北河内地域に関する質疑 1 限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2 時間）
	11	北河内地域に関する質疑 2 限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2 時間）
	12	グループワーク・プレゼンテーション 3 限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（2 時間）
	13	ワークショップ 1 限	ワークショップにより、より深い学びを行う	事前課題：学習成果を振り返り、北河内地域の特徴や課題についてまとめる（2 時間）
	14	ワークショップ 2 限	ワークショップにより、より深い学びを行う	事前課題：学習成果を振り返り、北河内地域の特徴や課題についてまとめる（2 時間）
	15	ワークショップ 3 限	ワークショップにより、より深い学びを行う	事後課題：授業で学んだことを復習する（2 時間）

関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書			

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	個人課題の評価 (40%)、グループごとのルーブリック評価 (30%)、グループワークの成果物 (30%) グループワークを行うため、毎回の出席が前提となります。			
学生への メッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみませんか？			
担当者の 研究室等	増田知也 (法学部・法律学科) 寝屋川キャンパス 11 号館 10 階			
備考	学外講師のご都合により、授業計画の内容や実施日、順序等を変更すること、学外の方が聴講すること、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。ご了解下さい。			

科目名	キャリアデザイン基礎	科目名 (英文)	Basic Career Planning
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武、加野 佑弥、津村 忠、橋本 朗子、山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1349a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 ようになることが期待される。 なお、講義は担当講師の人材業界および教育業界での業務経験を活かした内容も含まれる。 SDGs. 4-4 SDGs. 8-6																																																																		
到達目標	1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。																																																																		
授業方法と留意点	講義には積極的な態度で受講すること。 なお、学籍番号により担当教員が異なるため、各自自身の担当教員・クラスを確認すること。 また、教員により課題の提出方法が異なるので注意すること。 課題については授業内にフィードバックする。 ※2023 年度以前の入学生は再履修クラスで受講すること																																																																		
科目学習の効果 (資格)	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ようこそ、摂南大学へ</td><td> ・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か？何故必要なのか？ ・公と私について考える </td><td> ・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(事前：0.5 時間) </td></tr> <tr> <td>2</td><td>さあ始めよう！大学生活を</td><td> ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・学ぶためのスキルを身につける </td><td> ・大学で学ぶ意味について考えること(事前：0.5 時間) </td></tr> <tr> <td>3</td><td>社会化と大学-摂南大学を知る-</td><td> ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・社会化について考える </td><td> ・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること(0.5 時間) ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(事後：0.5 時間) ・大学生活での目標を考えること(0.5 時間) </td></tr> <tr> <td>4</td><td>自己効力感を高めよう</td><td> ・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション </td><td> ・設定された個人ワークに取り組むこと(事後：2 時間) </td></tr> <tr> <td>5</td><td>SDGs について考えよう グループ課題の設定</td><td> ・SDGs に対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える </td><td> ・SDGs とは何かについて予習をしておくこと(事前：0/5 時間) ・グループで課題に取り組むこと(2 時間) </td></tr> <tr> <td>6</td><td>社会は君を待っている</td><td> ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える </td><td> ・社会で求められる人材について考えること(事後：0.5 時間) </td></tr> <tr> <td>7</td><td>社会の仕組み①</td><td> ・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える </td><td> ・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(事後：0.5 時間) </td></tr> <tr> <td>8</td><td>社会の仕組み②</td><td> ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション </td><td> ・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(事後：0.5 時間) </td></tr> <tr> <td>9</td><td>自分づくり①</td><td> ・自分の良いところを 20 個挙げる ・ペアワーク </td><td> ・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(事前：0.5 時間) </td></tr> <tr> <td>10</td><td>自分づくり②</td><td> ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学 4 年間の目標設定 </td><td> ・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(事後：0.5 時間) </td></tr> <tr> <td>11</td><td>スケジューリング術</td><td> ・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる </td><td> ・社会人基礎力を実践する方法を考えること(事後：0.5 時間) </td></tr> <tr> <td>12</td><td>ビブリオバトル</td><td> ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する </td><td> ・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(事前：1 時間) </td></tr> <tr> <td>13</td><td>グループ課題の発表会</td><td>グループ課題の発表会</td><td> ・プレゼンテーションの準備をすること(事前：0.5 時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5 時間) </td></tr> <tr> <td>14</td><td>グループ課題の発表会</td><td>・グループごとのプレゼンテーション</td><td> ・プレゼンテーションの準備をすること(0.5 時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5 時間) </td></tr> <tr> <td>15</td><td>講義のおさらい</td><td> ・講義 4 で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り </td><td> ・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(0.5 時間) ・期末レポートを作成すること(1.5 時間) </td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か？何故必要なのか？ ・公と私について考える	・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(事前：0.5 時間)	2	さあ始めよう！大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・学ぶためのスキルを身につける	・大学で学ぶ意味について考えること(事前：0.5 時間)	3	社会化と大学-摂南大学を知る-	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・社会化について考える	・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること(0.5 時間) ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(事後：0.5 時間) ・大学生活での目標を考えること(0.5 時間)	4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・設定された個人ワークに取り組むこと(事後：2 時間)	5	SDGs について考えよう グループ課題の設定	・SDGs に対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える	・SDGs とは何かについて予習をしておくこと(事前：0/5 時間) ・グループで課題に取り組むこと(2 時間)	6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・社会で求められる人材について考えること(事後：0.5 時間)	7	社会の仕組み①	・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(事後：0.5 時間)	8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(事後：0.5 時間)	9	自分づくり①	・自分の良いところを 20 個挙げる ・ペアワーク	・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(事前：0.5 時間)	10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学 4 年間の目標設定	・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(事後：0.5 時間)	11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・社会人基礎力を実践する方法を考えること(事後：0.5 時間)	12	ビブリオバトル	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(事前：1 時間)	13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・プレゼンテーションの準備をすること(事前：0.5 時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5 時間)	14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をすること(0.5 時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5 時間)	15	講義のおさらい	・講義 4 で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り	・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(0.5 時間) ・期末レポートを作成すること(1.5 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か？何故必要なのか？ ・公と私について考える	・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(事前：0.5 時間)																																																																
2	さあ始めよう！大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・学ぶためのスキルを身につける	・大学で学ぶ意味について考えること(事前：0.5 時間)																																																																
3	社会化と大学-摂南大学を知る-	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・社会化について考える	・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること(0.5 時間) ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(事後：0.5 時間) ・大学生活での目標を考えること(0.5 時間)																																																																
4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・設定された個人ワークに取り組むこと(事後：2 時間)																																																																
5	SDGs について考えよう グループ課題の設定	・SDGs に対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える	・SDGs とは何かについて予習をしておくこと(事前：0/5 時間) ・グループで課題に取り組むこと(2 時間)																																																																
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・社会で求められる人材について考えること(事後：0.5 時間)																																																																
7	社会の仕組み①	・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(事後：0.5 時間)																																																																
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(事後：0.5 時間)																																																																
9	自分づくり①	・自分の良いところを 20 個挙げる ・ペアワーク	・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(事前：0.5 時間)																																																																
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学 4 年間の目標設定	・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(事後：0.5 時間)																																																																
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・社会人基礎力を実践する方法を考えること(事後：0.5 時間)																																																																
12	ビブリオバトル	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(事前：1 時間)																																																																
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・プレゼンテーションの準備をすること(事前：0.5 時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5 時間)																																																																
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をすること(0.5 時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5 時間)																																																																
15	講義のおさらい	・講義 4 で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り	・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(0.5 時間) ・期末レポートを作成すること(1.5 時間)																																																																
関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップ																																																																		

	エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点 (30%)、グループ課題 (20%)、最終レポート (50%) で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	水野 武 (7号館3階) 加野 佑弥 (7号館5階) 津村 忠 橋本 朗子 山岡 亮太			
備考	必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 なお、課題の提出方法は教員により異なるので各教員の指示に従うこと。			

科目名	大学教養基礎Ⅱ	科目名（英文）	Liberal Arts Basics II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JKY1356a1		

授業概要・目的	摂南大学のなかでもとくに文系学科における学びについて、対話、グループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニング手法を用いて理解を深める。大学教養基礎Ⅱでは、経営学部、農学部（食農ビジネス学科）、現代社会学部における学びを取り上げる。この講義を通じて履修者は、摂南大学における学修方法を体得するとともに、学修者自身の関心事を明確にすることが期待される。
到達目標	①摂南大学、経営学部、農学部（食農ビジネス学科）、現代社会学部における学びの概要を理解し、その特徴を説明することができる。 ②アクティブ・ラーニング手法の体験を通じて、摂南大学における主体的な学びの手法を理解し、実践することができる。 ③自らの学術的な関心事を口頭および文章を用いて表現することができる。
授業方法と留意点	PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、グループでの対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどのアクティブ・ラーニング手法を積極的に取り入れた授業を実施する。受講生には、それらに主体的に参画することを求める。
科目学習の効果（資格）	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方についての説明、グループの決定、本講義における学びの方法について対話的に考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 本講義における学びの方法を復習する
	2	経営学部における学びについて（オンデマンド）	経営学部教員による学部および講義担当者の専門領域を中心とした学部における学びについての紹介	【事前】 経営学部について調べる 【事後】 講義内容のポイント、自身の関心事を整理し、事前学修シートを作成する
	3	農学部（食農ビジネス学科）における学びについて（オンデマンド）	農学部（食農ビジネス学科）教員による学部および講義担当者の専門領域を中心とした学部における学びについての紹介	【事前】 農学部（食農ビジネス学科）について調べる 【事後】 講義内容のポイント、自身の関心事を整理し、事前学修シートを作成する
	4	現代社会学部における学びについて（オンデマンド）	現代社会学部教員による学部および講義担当者の専門領域を中心とした学部における学びについての紹介	【事前】 現代社会学部について調べる 【事後】 講義内容のポイント、自身の関心事を整理し、事前学修シートを作成する
	5	経営学部における学びについてグループで考える①	教員からの話題提供（問いかけ）とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】 オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】 調査および対話内容の整理
	6	経営学部における学びについてグループで考える②	教員からの話題提供（問いかけ）とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】 オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】 調査および対話内容の整理
	7	農学部（食農ビジネス学科）における学びについてグループで考える①	教員からの話題提供（問いかけ）とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】 オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】 調査および対話内容の整理
	8	農学部（食農ビジネス学科）における学びについてグループで考える②	教員からの話題提供（問いかけ）とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】 オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】 調査および対話内容の整理
	9	現代社会学部における学びについてグループで考える①	教員からの話題提供（問いかけ）とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】 オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】 調査および対話内容の整理
	10	現代社会学部における学びについてグループで考える②	教員からの話題提供（問いかけ）とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】 オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】 調査および対話内容の整理
	11	プレゼンテーションに向けたポスター作成	グループとして学びのテーマを1つ選定し、発表用のポスターを作成する	【事前】 ポスター作成に向けた準備 【事後】 ポスター発表会に向けた準備
	12	ポスター発表会、ふりかえり①	グループごとに選定したテーマについて発表、教室全体で対話を行い、ここまでの授業のふりかえりを行う	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
	13	ポスター発表会、ふりかえり②	グループごとに選定したテーマについて発表、教室全体で対話を行い、ここまでの授業のふりかえりを行う	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
	14	学びレポートの作成（オンデマンド）	グループで取り上げたテーマのなかからさらに学術的関心事を絞り込み、文献等を用いてレポートを作成する	【事前】 レポート作成に向けた情報収集 【事後】 レポート記載内容のふりかえり
	15	レポートに対するフィードバック（オンデマンド）	受講生から提出された学びレポートを踏まえた総括的講義	【事前】 各学部における学びの内容の復習 【事後】 授業全体のふりかえり

関連科目	大学教養基礎Ⅰ			
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	グループワークおよびポスター発表会への参画度合い（ピア評価；15%）、グループで作成するポスター（25%）のほか、個人で作成する事前学修シート（30%）、学びレポート（20%）、ふりかえりシート（10%）の内容を総合的に評価し、60%以上を合格とする。評価にあたっては、成果			

	物の内容に加えて、ルーブリック表などを用いた担当教員による評価、プロジェクトメンバーによるピア評価を積極的に取り入れる。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	【寝屋川キャンパス】 3号館3階 上野山研究室 2号館2階 ラーニングセンター
備考	・本講義ではオンデマンド授業と対面授業を実施します。対面授業は、2024年9月3日（火）、4日（水）の1限～5限に開講し、履修者はこの対面授業にすべての時間、出席することが必須となります。 ・講義の性質上、履修者は、ファシリテーターとしての基礎的な素養を身につけていることが期待されます。 ・本講義では授業準備やふりかえりなど、事前事後学修に60時間程度取り組んでいただきます。

科目名	北河内を知る	科目名 (英文)	Introduction to Kita-kawachi Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	増田 知也, 小林 基
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : A ○, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, P 科 : DP8 △, J 科 : DP1 ◎, DP6 ◎, DP7 ◎, W 科 : DP1 ◎, DP7 ◎, N 科 : DP1 ◎N : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TL01453a1, L 科 : LL01355a1, D 科・S 科 : IL01362a1, P 科 : YL01418a2, J 科 : JL01364a1, W 科 : WL01343a1, N 科 : NL01344a1		

授業概要・目的	摂南大学と大学が立地する「北河内」に焦点をあて、この地域の市町村の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」から、地方自治体の現状と課題をグループディスカッションを行いながら学び、地域との関わり方を考える。 授業では、自らが問題意識や疑問をもちながら地域の現状を分析し、多くの疑問点（質問）をだすこと。さらに疑問点（質問）に優先順位をつけ、それに基づいた学修・調査・研究を行うことのトレーニングを行う。 またグループワークで互いに議論しながら、ひとつの方向性を見出す大切さを経験する。 この授業は授業担当者として、北河内7市の「行政実務者」が担当する。
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、まちづくりを知り、地域に対する愛着を醸成し、社会の一員として地域とのかかわりの大切さを認識する。 さらに地域における課題を発見し解決できる能力に必要な「考える力、判断する力、表現する力」を身につける。
授業方法と留意点	北河内地域の市町村の行政実務者をを学外講師とするオムニバス講義である。授業は、土曜日に集中的に実施し、毎回の授業で「自己学習・グループ学習」「質疑」「グループワーク・成果物のプレゼンテーション」を行う。
科目学習の効果（資格）	ソーシャルイノベーション副専攻の必須科目である。「北河内を知る」を通じて、地域の課題を発見して解決する能力を身につけることに努力する。さらに、外部講師の方々と交流を深め、地域貢献活動に参画し、自ら考え行動することで、生涯にわたり学習する基盤が培われる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 1 限	授業の進め方、成績評価方法 グループワークの進め方等を学ぶ チームをつくり、相互理解を深める。	事前課題：北河内地域の概要について調べる（1 時間） 事後課題：授業の進め方について確認する（1 時間）
	2	北河内地域に関する質疑 2 限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2 時間）
	3	グループワーク・プレゼンテーション 3 限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（2 時間）
	4	北河内地域に関する質疑 1 限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2 時間）
	5	北河内地域に関する質疑 2 限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2 時間）
	6	グループワーク・プレゼンテーション 3 限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（2 時間）
	7	北河内地域に関する質疑 1 限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2 時間）
	8	北河内地域に関する質疑 2 限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2 時間）
	9	グループワーク・プレゼンテーション 3 限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（2 時間）
	10	北河内地域に関する質疑 1 限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2 時間）
	11	北河内地域に関する質疑 2 限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2 時間）
	12	グループワーク・プレゼンテーション 3 限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（2 時間）
	13	ワークショップ 1 限	ワークショップにより、より深い学びを行う	事前課題：学習成果を振り返り、北河内地域の特徴や課題についてまとめる（2 時間）
	14	ワークショップ 2 限	ワークショップにより、より深い学びを行う	事前課題：学習成果を振り返り、北河内地域の特徴や課題についてまとめる（2 時間）
	15	ワークショップ 3 限	ワークショップにより、より深い学びを行う	事後課題：授業で学んだことを復習する（2 時間）

関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻科目
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	個人課題の評価 (40%)、グループごとのルーブリック評価 (30%)、グループワークの成果物 (30%) グループワークを行うため、毎回の出席が前提となります。			
学生への メッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみませんか？			
担当者の 研究室等	増田知也（法学部・法律学科） 寝屋川キャンパス 11号館10階			
備考	学外講師のご都合により、授業計画の内容や実施日、順序等を変更すること、学外の方が聴講すること、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。ご了解下さい。			

科目名	ソーシャル・イノベーション実務総論	科目名 (英文)	Social Innovation Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	V 科：Ⅱ◎, R 科：A◎, A 科：A◎, M 科：A1○, E 科：A○, C 科：Ⅱ◎, L 科：DP2◎, D 科：DP1◎, S 科：DP1◎, P 科：DP8△, J 科：DP1◎, DP6◎, DP7◎, W 科：DP1◎, DP7◎, N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TL01454a1, L 科：LL01356a1, D 科・S 科：IL01363a1, P 科：YL01419a2, J 科：JL01365a1, W 科：WL01344a1, N 科：NL01345a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、以下の4点のようになることが期待される。 1) ICT 部門が急速な発展を遂げているビジネス社会にあって、ビジネスパーソン自身のあり方も大きく変わってきていることを理解する。 2) ライフスタイルの変化は、単にキャリアパスを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性を意識せざるを得ないことと、Well-being を理解する。 3) グローバル社会において必要とされるビジネス実務ならびにビジネス実務能力とは何かを学ぶ。 4) 変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、社会に貢献し、革新を起こすクリエイティビティを発揮する自らの職業観を確立する。 なお、講義は担当講師の民間企業、自治体、NPO 法人での業務及び高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。 SDGs-8, 9																																																		
到達目標	1) ビジネスに必要なビジネス実務能力を理解し、計画的に身につける必要性を学ぶ。 2) 社会に貢献するためのビジネスという概念から、「異世代・異文化（多様性）を主体的に理解する力」、「地域社会の課題を主体的に発見する力」、「主体的に課題を解決し、新しい価値を生み出す力」（3つの力）を理解できる。 3) Well-being を理解し、実践するよう努める。																																																		
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。 また、座学の後、グループワークを通して課題を議論し、もしくは事前に与えた課題に関してのプレゼンテーションを行うこともある。																																																		
科目学習の効果（資格）	最終的に、初歩的なビジネスプランを立てることができる。																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。 ・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。 ・自己紹介後、グループ形成をする。</td><td>・事前学修：自己紹介の原案を考えること（2時間） ・事後学修：「ビジネスのイメージは？」というテーマでルールを守って自由に書くこと（2時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>ビジネスの定義</td><td>・ビジネスとは何かを考察する。 ・イノベーションが繰り返し唱えられる理由について考察する。</td><td>・事前学修：テキストの指定箇所を熟読し、ノートにまとめること（2時間） ・事後学修：ソーシャルイノベーションカンパニーの実例を調べる（2時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>組織の種類 ー 営利組織と非営利組織ー</td><td>・阪神淡路大震災後、急速に進化したNPO 組織について考える。 ・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。</td><td>・事前学修：NPO について調べること（2時間） ・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成すること（2時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>ビジネス環境をとらえる①ー経済のグローバル化と高度情報化ー</td><td>・グローバル化の明暗について考察する。</td><td>・事前学修：グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集めること（2時間） ・事後学修：日本のグローバル化に関する小レポートを作成すること（2時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>ビジネス環境をとらえる②ー地球環境問題と少子高齢社会ー</td><td>・地球環境問題とジェンダーエンパワーメント指数について考察する。</td><td>・事前学修：ジェンダーエンパワーメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめること（2時間） ・事後学修：地球市民として考えたことをまとめること（2時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>ビジネス現場をとらえるーオフィスからワークプレイスへー</td><td>・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。</td><td>・事前学修：将来の働き方をイメージし、まとめること（2時間） ・事後学修：グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成すること（2時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>ビジネス実務能力</td><td>・「働くために必要な能力とは」、というテーマで考える。</td><td>・事前学習：働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身につけるかを自身の優先順位、番号をつけた 個条書きにすること（2時間） ・事後学修：・自分に必要な「ビジネス実務能力」をノートにまとめること（2時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>ビジネス実務の基本①ー仕事の進め方ー</td><td>・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。 ・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。</td><td>・事前学修：働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身につけるかをまとめること。問題プリント①を解くこと（2時間） ・事後学修：自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめること。問題プリント②を解くこと（2時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>ビジネス実務の基本②ービジネスと諸活動ー</td><td>・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。</td><td>・事前学修：CSR について調べ、まとめること（2時間） ・事後学修：一企業の CSR を選び、レポートを作成すること（2時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>ビジネス実務の基本③ービジネスと経営資源ー</td><td>・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。</td><td>・事前学修：男女共同参画社会に関して調べ、まとめること（2時間） ・事後学修：・人的資源としてのヒト、あなたの目標を書いてみる（2時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>自己実現とキャリアプランニング ーセルフマネジメントと自己啓発ー</td><td>・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。 ・社会の中における自己を位置づける。</td><td>・事前学修：・テキストの指定箇所（pp. 164-174）を熟読し、ノートにまとめること（2時間） ・事後学修：再度自己振り返りシートを作成し直し、職業を通した自己意識をレポートにまとめる。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。 ・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。 ・自己紹介後、グループ形成をする。	・事前学修：自己紹介の原案を考えること（2時間） ・事後学修：「ビジネスのイメージは？」というテーマでルールを守って自由に書くこと（2時間）	2	ビジネスの定義	・ビジネスとは何かを考察する。 ・イノベーションが繰り返し唱えられる理由について考察する。	・事前学修：テキストの指定箇所を熟読し、ノートにまとめること（2時間） ・事後学修：ソーシャルイノベーションカンパニーの実例を調べる（2時間）	3	組織の種類 ー 営利組織と非営利組織ー	・阪神淡路大震災後、急速に進化したNPO 組織について考える。 ・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。	・事前学修：NPO について調べること（2時間） ・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成すること（2時間）	4	ビジネス環境をとらえる①ー経済のグローバル化と高度情報化ー	・グローバル化の明暗について考察する。	・事前学修：グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集めること（2時間） ・事後学修：日本のグローバル化に関する小レポートを作成すること（2時間）	5	ビジネス環境をとらえる②ー地球環境問題と少子高齢社会ー	・地球環境問題とジェンダーエンパワーメント指数について考察する。	・事前学修：ジェンダーエンパワーメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめること（2時間） ・事後学修：地球市民として考えたことをまとめること（2時間）	6	ビジネス現場をとらえるーオフィスからワークプレイスへー	・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。	・事前学修：将来の働き方をイメージし、まとめること（2時間） ・事後学修：グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成すること（2時間）	7	ビジネス実務能力	・「働くために必要な能力とは」、というテーマで考える。	・事前学習：働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身につけるかを自身の優先順位、番号をつけた 個条書きにすること（2時間） ・事後学修：・自分に必要な「ビジネス実務能力」をノートにまとめること（2時間）	8	ビジネス実務の基本①ー仕事の進め方ー	・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。 ・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。	・事前学修：働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身につけるかをまとめること。問題プリント①を解くこと（2時間） ・事後学修：自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめること。問題プリント②を解くこと（2時間）	9	ビジネス実務の基本②ービジネスと諸活動ー	・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。	・事前学修：CSR について調べ、まとめること（2時間） ・事後学修：一企業の CSR を選び、レポートを作成すること（2時間）	10	ビジネス実務の基本③ービジネスと経営資源ー	・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。	・事前学修：男女共同参画社会に関して調べ、まとめること（2時間） ・事後学修：・人的資源としてのヒト、あなたの目標を書いてみる（2時間）	11	自己実現とキャリアプランニング ーセルフマネジメントと自己啓発ー	・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。 ・社会の中における自己を位置づける。	・事前学修：・テキストの指定箇所（pp. 164-174）を熟読し、ノートにまとめること（2時間） ・事後学修：再度自己振り返りシートを作成し直し、職業を通した自己意識をレポートにまとめる。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																
1	オリエンテーション	・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。 ・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。 ・自己紹介後、グループ形成をする。	・事前学修：自己紹介の原案を考えること（2時間） ・事後学修：「ビジネスのイメージは？」というテーマでルールを守って自由に書くこと（2時間）																																																
2	ビジネスの定義	・ビジネスとは何かを考察する。 ・イノベーションが繰り返し唱えられる理由について考察する。	・事前学修：テキストの指定箇所を熟読し、ノートにまとめること（2時間） ・事後学修：ソーシャルイノベーションカンパニーの実例を調べる（2時間）																																																
3	組織の種類 ー 営利組織と非営利組織ー	・阪神淡路大震災後、急速に進化したNPO 組織について考える。 ・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。	・事前学修：NPO について調べること（2時間） ・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成すること（2時間）																																																
4	ビジネス環境をとらえる①ー経済のグローバル化と高度情報化ー	・グローバル化の明暗について考察する。	・事前学修：グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集めること（2時間） ・事後学修：日本のグローバル化に関する小レポートを作成すること（2時間）																																																
5	ビジネス環境をとらえる②ー地球環境問題と少子高齢社会ー	・地球環境問題とジェンダーエンパワーメント指数について考察する。	・事前学修：ジェンダーエンパワーメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめること（2時間） ・事後学修：地球市民として考えたことをまとめること（2時間）																																																
6	ビジネス現場をとらえるーオフィスからワークプレイスへー	・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。	・事前学修：将来の働き方をイメージし、まとめること（2時間） ・事後学修：グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成すること（2時間）																																																
7	ビジネス実務能力	・「働くために必要な能力とは」、というテーマで考える。	・事前学習：働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身につけるかを自身の優先順位、番号をつけた 個条書きにすること（2時間） ・事後学修：・自分に必要な「ビジネス実務能力」をノートにまとめること（2時間）																																																
8	ビジネス実務の基本①ー仕事の進め方ー	・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。 ・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。	・事前学修：働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身につけるかをまとめること。問題プリント①を解くこと（2時間） ・事後学修：自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめること。問題プリント②を解くこと（2時間）																																																
9	ビジネス実務の基本②ービジネスと諸活動ー	・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。	・事前学修：CSR について調べ、まとめること（2時間） ・事後学修：一企業の CSR を選び、レポートを作成すること（2時間）																																																
10	ビジネス実務の基本③ービジネスと経営資源ー	・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。	・事前学修：男女共同参画社会に関して調べ、まとめること（2時間） ・事後学修：・人的資源としてのヒト、あなたの目標を書いてみる（2時間）																																																
11	自己実現とキャリアプランニング ーセルフマネジメントと自己啓発ー	・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。 ・社会の中における自己を位置づける。	・事前学修：・テキストの指定箇所（pp. 164-174）を熟読し、ノートにまとめること（2時間） ・事後学修：再度自己振り返りシートを作成し直し、職業を通した自己意識をレポートにまとめる。																																																

	12	ビジネス実務の基本④ービジネスと PDCA サイクル/マーケティング活動とコストパフォーマンスー	・PDCA サイクルを理解する。 ・マーケティングとコストの関係について理解する。	と（2時間） ・事前学修：業界内の2社のCMを比較し、その特徴をノートにまとめること（2時間） ・事後学修：次回のグループワークのために、3つのNPOの資料（スライド12～13）をしっかりと読み込むこと（2時間）
	13	ビジネスプラン①ー起業への意識と「寄付の教室」ー	・寄付行為の意味を考える。	・事前学修：寄付の意味を考え、まとめること（2時間） ・事後学修：寄付行為を行う基準を考えること（2時間）
	14	ビジネスプラン②ープレゼンテーション	・作成したビジネスプランに基づいて発表する。	・事前学修：各自がテーマを見つけ、企画書を作成し、発表練習すること（2時間） ・事後学修：ビジネスプランの再考をする（2時間）
	15	ビジネスプラン②ープレゼンテーション発表と授業の総まとめ	・イノベーションの意味を再考する。 ・VUCAの時代において、新たなビジネスの創出について考える。	・事前学修：この授業の学びをまとめること（2時間） ・事後学修を：新たな発見をすること（2時間）
	関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ビジネス実務総論	全国大学実務教育協会	紀伊国屋書店
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	20歳のときに知っておきたかったこと	ティナ・シーリグ	阪急コミュニケーションズ
	2	イノベーションと企業家精神	P.F. ドラッカー	ダイヤモンド社
	3	「デザイン思考」を超えるデザイン思考	DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部	ダイヤモンド社
評価方法 (基準)	・グループワーク（30%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（40%）を総合的に評価する。 ・毎回、座学ののち、グループワークとプレゼンを繰り返す予定であるので、準備を怠ることがないように注意する。			
学生への メッセージ	私たちが生きている社会を「ビジネス」という視点で見つめなおしたとき、異なったものが見えてきます。私たちの生活を豊かにしてくれる企業等のビジネス組織へただ何となく参加するのではなく、その実態を理解し、自ら参画することを選びませんか。さまざまな組織ではさまざまな働き方がありますが、基本はビジネス実務能力が求められています。それを理解したうえで、従来の社会の上に新しい視点を作り上げていきましょう。			
担当者の 研究室等	石井研究室（寝屋川キャンパス、7号館5階）			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。 学生のワークの進捗状況により、内容が前後することもある。			

科目名	社会科・地歴科教育法 I	科目名 (英文)	Geography and History Education Method I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 曜次
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	社会科教育の意義や目的、課題について、歴史的な経緯をふまえて理解する。そのうえで、中学校社会科で扱う地理的分野・歴史的分野の授業を行うために必要な知識・授業構成方法・教育方法を学び、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。 模擬授業について、参加者全員で討議・批評を行うことを通して、授業者が自ら授業を改善していくための基礎的な力量を身に付ける。
到達目標	・学習指導要領に示されている社会科の目標や内容を理解する。 ・情報通信技術の活用も含めて、適切な教材や教育方法、評価方法を考え、それを指導案として表現し、中学校における具体的な授業場面を想定ながら授業を行うことができる。 ・授業の実施と振り返りや共同的に行われる授業研究を通して、授業改善に取り組むことができる。
授業方法と留意点	模擬授業やグループ・ワーク、討論を多く行うので、とくに積極的な発言及び講義参加姿勢が望まれる。 『中学校学習指導要領(平成 29 年告示) 解説 社会編』『中学校学習指導要領(平成 29 年告示) 解説 社会編』は購入もしくは文部科学省 HP よりダウンロードし、手元ですぐに確認できるようにしておくこと。 中学生のときの社会科教科書・資料集・地図帳やノートをなるべく手元に置いておくこと。 教科書は指定しない。必要な資料については授業ごとに Teams 上で共有する。
科目学習の効果 (資格)	中学校教員免許 (社会科) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法について 社会科で育てたい資質・能力について	事前に既修の「教師論」「教育原理」を復習しておく (3 時間)。事後学習については授業終了時に指示する (1 時間)。
	2	よい授業とはどんな授業か	江戸末期以降から現代までの教育制度の変遷について学ぶ。	事前にこれまで自分が経験した社会科の授業についてまとめておく (1 時間)。事後に興味をもった構成要素に関連する実践資料を読む (3 時間)
	3	社会科教育の歴史 (1)	戦後の学力観の変化と指導要領改訂の変遷を学ぶ。	事前に指示された資料を読み、発問を考えておく (3 時間)。事後については授業終了時に指示する (1 時間)。
	4	社会科教育の歴史 (2)	地理・歴史科学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前に社会科学習指導要領の変遷について調べ、まとめておく (2 時間)。事後については授業終了時に指示する (1 時間)。
	5	歴史的分野の授業とその構成方法	地理・歴史科学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前に「学習指導要領 解説」を熟読しておく (1 時間)。事後に、学習指導案例を自ら探して検討する (2 時間)。
	6	地理的分野の授業とその構成方法	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	事前に「学習指導要領 解説」を通読しておく (1 時間)。事後に、学習指導案例を自ら探して検討する (2 時間)。
	7	社会科の評価方法	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	事前に定期テスト問題や入試問題についての情報を集めつつ、社会科・地歴科におけるテストについて振り返っておく (1 時間)。事後、興味を持った実践について調べる (2 時間)。
	8	模擬授業 (1)	歴史的分野「原始・古代の日本と世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む (2 時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する (6 時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う (2 時間)。
	9	模擬授業 (2)	歴史的分野「中世の日本と世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む (2 時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する (6 時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う (2 時間)。
	10	模擬授業 (3)	歴史的分野「近世の世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む (2 時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する (6 時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う (2 時間)。
	11	模擬授業 (4)	歴史的分野「近世の日本」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む (2 時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する (6 時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う (2 時間)。
	12	模擬授業 (5)	地理的分野「日本の地域構成」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む (2 時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する (6 時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う (2 時間)。
	13	模擬授業 (6)	地理的分野「九州地方／中国・四国地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む (2 時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する (6 時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う (2 時間)。
	14	模擬授業 (7)	地理的分野「近畿地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む (2 時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する (6 時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う (2 時間)。
	15	模擬授業 (8)	地理的分野「中部地方／関東地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む (2 時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する (6 時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う (2 時間)。

				り返りを行う（2 時間）。
関連科目	社会科教育法Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領(平成 29 年告示)	文部科学省	東山書房
	2	中学校学習指導要領(平成 29 年告示) 解説 社会編	文部科学省	東洋館出版社
	3			
評価方法 (基準)	成果物としての指導案（50%）とコメントカードなどの授業内で指示する提出課題（50%）で評価を行う。 提出されたコメントカードの記述に対しては、次回授業内でコメントもしくはプリントにてフィードバックを行う。 出席回数が 2/3 以上の者を評価の対象とする。			
学生への メッセージ	皆さんのお手本になるような優れた授業が先人たちによって開発されてたくさんあるということと、一方で絶対に優れた授業というものはない ということを知ってもらいたいと思っています。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考				

科目名	社会科・地歴科教育法Ⅱ	科目名（英文）	Geography and History Education Method II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 曜次
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	中学校社会科で扱う地理的分野・歴史的分野の授業を行うために必要な知識・授業構成方法・教育方法を学び、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。 模擬授業について、参加者全員で討議・批評を行うことを通して、授業者が自ら授業を改善していくための基礎的な力量を身に付ける。
到達目標	・学習指導要領に示されている社会科の目標や内容を理解する。 ・カリキュラム・マネジメントの観点から社会科の学習を捉えることができる。 ・情報通信技術の活用も含めて、適切な教材や教育方法、評価方法を考え、それを指導案として表現し、中学校における具体的な授業場面を想定ながら授業を行うことができる。 ・授業の実施と振り返りや共同的に行われる授業研究を通して、授業改善に取り組むことができる。
授業方法と留意点	模擬授業やグループ・ワーク、討論を多く行うので、とくに積極的な発言及び講義参加姿勢が望まれる。 『中学校学習指導要領(平成 29 年告示) 解説 社会編』『中学校学習指導要領(平成 29 年告示) 解説 社会編』は購入もしくは文部科学省 HP よりダウンロードし、手元ですぐに確認できるようにしておくこと。 中学生のときの社会科教科書・資料集・地図帳やノートをなるべく手元に置いておくこと。 教科書は指定しない。必要な資料については授業ごとに Teams 上で共有する。
科目学習の効果（資格）	中学校教員免許（社会科） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目区分：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法について 社会科の特性を生かした教材・教具、発問の検討	事前に社会科教育法Ⅰの第7回目までの学習内容を復習しておく（2 時間）。事後学習については授業終了時に指示する（1 時間）。
	2	授業実践検討	優れた授業を言語化する	事前にこれまで自分が経験した授業についてまとめておく（1 時間）。事後課題については授業内で指示する（1 時間）。
	3	概念中心カリキュラム	国際バカロレアの教育方法の検討	事前課題なし。事後課題については授業内で指示する（2 時間）。
	4	教科横断的な学びのあり方	他教科や総合的な学習の時間との連携	事前に「カリキュラム・マネジメント」と「教科横断的な学び」について調べておく（2 時間）。事後課題については授業内で指示する（1 時間）。
	5	模擬授業(1)	地理的分野「東北地方／北海道地方」の 模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
	6	模擬授業(2)	地理的分野「アジア／アフリカ」の模擬 授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
	7	模擬授業(3)	地理的分野「ヨーロッパ」の模擬授業の 実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
	8	模擬授業(4)	地理的分野「北アメリカ」の模擬授業の 実施と検討	全員が当該分野の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
	9	模擬授業(5)	地理的分野「南アメリカ／オセアニア」 の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
	10	模擬授業(6)	歴史的分野「近代の世界」の模擬授業の 実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
	11	模擬授業(7)	歴史的分野「近代の日本」の模擬授業の 実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
	12	模擬授業(8)	歴史的分野「現代の世界」の模擬授業の 実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
	13	模擬授業(9)	歴史的分野「現代の日本」の模擬授業の 実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
	14	模擬授業(10)	歴史的分野「文化史」の模擬授業の実施 と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
	15	授業の振り返り	補足的事項の解説及び授業全体の振り返り	事後、各自において本授業全体の振り返りを行う（4 時間）。

関連科目	社会科教育法 I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領(平成 29 年告示)』	文部科学省	東山書房
	2	中学校学習指導要領(平成 29 年告示) 解説 社会編	文部科学省	東洋館出版社
	3			
評価方法 (基準)	成果物としての指導案 (50%) とコメントカードなどの授業内で指示する提出課題 (50%) で評価を行う。 提出されたコメントカードの記述に対しては、次回授業内でコメントもしくはプリントにてフィードバックを行う。 出席回数が 2/3 以上の者を評価の対象とする。			
学生への メッセージ	自ら教材を見つけることで、社会科の授業の可能性の広がりや面白さを共有できたらと思っています。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考				

科目名	社会科・公民科教育法Ⅰ	科目名（英文）	Civic Education MethodⅠ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 曜次
ディプロマポリシー（DP）			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、中学社会科、高校公民科の学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな授業方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、可能な方法・範囲での模擬授業の実践を行い、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるようにしていきます。まずは「教育実習」で生徒を失望させないきちんとした授業ができるよう、知識と意欲、そして責任をもって授業に参加してください。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 （１）中学社会科（地理、歴史、公民分野）、高校公民科の教師として必要な「知識」「技術・スキル」を確実に身につける。 （２）中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。 （３）社会科・公民科の授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」をするための力をつける。
授業方法と留意点	まず本授業では社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲・方法で履修者全員に模擬授業を行ってもらおうよう「実践的な授業」を目指します。模擬授業の実践では、授業準備、指導案の作成、教材研究は必ず行ってもらいます。本講義では教師としての自覚もあわせて養成するため、授業への積極的な参加、そして各々の模擬授業の準備やそのふりかえりに積極的に取り組んでください。
科目学習の効果（資格）	中学校１種「社会」、高校１種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科・公民科教育の課題について考えてくること。 ※それぞれの学習指導要領の総則部分を読んでおく。
	2	中学校指導要領（社会）、高校指導要領（公民）にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手及びダウンロードした学習指導要領（中学：社会科、高校：公民科）の事前読了。 ※指導要領の要約
	3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（１）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※前時の事前授業まとめと配布資料の要約
	4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（２）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
	5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（３）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
	6	教育方法と技術（１）：ミニ模擬授業案作成	板書の方法・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター（パワーポイントやインターネット）を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業のミニ模擬授業案の作成	新聞記事の検索、及びミニ模擬授業案の作成
	7	教育方法と技術（２）：ミニ模擬授業案作成案作成	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取りれたミニ模擬授業案を作成する。	ディベート準備。ミニ模擬授業案の作成
	8	学習指導案の書き方（１）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（１）：各自が作成した学習指導案をもとに、作成のヒントを説明する。	学習指導案の作成。
	9	学習指導案の書き方（２）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（２）：各自が作成した学習指導案をもとに、作成する上での留意点について説明する。	学習指導案の作成。
	10	模擬授業（１）	模擬授業の実践と指導（１）	模擬授業の準備。
	11	模擬授業（２）	模擬授業の実践と指導（２）	模擬授業の準備。
	12	模擬授業（３）	模擬授業の実践と指導（３）	模擬授業の準備。
	13	模擬授業（４）	模擬授業の実践と指導（４）	模擬授業の準備。
	14	成績評価の方法、及び社会科試験の作成について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。また、定期試験作成についても学ぶ。	※事前配布資料の要約、及び、定期試験問題作成のシュミレーションを行う（事前課題）。
	15	総括－社会科、公民科の指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	各自、社会科教師としての自分の課題について考え、まとめてくること。

関連科目	社会科・公民科教育法Ⅰ、社会科・公民科教育法Ⅱは「Ⅰ→Ⅱ」と連続して受講することが望ましい。			
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版
	2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文教出版
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
評価方法 (基準)	事前学習課題の提出（30％）、模擬授業（50％）、各種課題（20％）等により、総合的に評価する。			
学生への メッセージ	中学社会科学習指導要領（最新年度版）を第一回目の授業開始までに購入あるいは文部科学省ホームページよりダウンロードし印刷しておくこと。これがないと授業参加や事前学習課題等に取り組むことができません。購入方法については書店、オンライン書店等を利用してください。購入についての質問等はメールアドレスまで。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 事前・事後学習総時間数はおおよそ60時間程度とする。			

科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ	科目名（英文）	Civic Education Method II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 曜次
ディプロマポリシー（DP）			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に参加型の授業法を取り入れて、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評しあう機会をもうけます。また、近年、選挙年齢が 18 歳に引き下げられたことによる子どもたちへの政治教育（主権者教育）の重要性が改めて問われています。とりわけ公民科では政治や経済問題を取り扱うことが多く、子どもたちに政治の主体として意識を涵養するための教育（市民性教育、シティズンシップ教育）をどのように実践できるのかについても考えていきます。具体的には政府が作成した政治教育副教材の分析や学校現場での実践例の分析などを行います。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 （１）中学社会科（地理、歴史、公民分野）、高校公民科の教師として必要な「知識」を確実に身につける。 （２）中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。 （３）授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」の力をつける。 （４）政治教育、市民性教育（シティズンシップ教育）についての理解を深め、指導案を作成し、授業実践ができるようになる。
授業方法と留意点	まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲で履修者全員に模擬授業を実践してもらうような「実践型・参加型の授業」を目指します。また模擬授業の実践では、それぞれの模擬授業終了後は必ず全員で意見交換を行い、授業内容に対する問題点と課題点を整理します。ここでのコメント力を鍛えることも重要な目標です。指示した授業準備は必ず行ってください。教師としての自覚もあわせて養成するため、遅刻・無断欠席については厳しく対応します。
科目学習の効果（資格）	中学校 1 種「社会」、高校 1 種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科教育の課題について考えてくること。
	2	中学校指導要領（社会）、高校指導要領（公民）にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領（中学：社会科、高校：公民科）の事前読了。 ※指導要領の要約
	3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（１）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
	4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（２）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
	5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（３）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
	6	教育方法と技術（１）：ミニ模擬授業	板書・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター（パワーポイントやインターネット）を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業をミニ模擬授業で実演する。	新聞記事の検索。
	7	教育方法と技術（２）：ミニ模擬授業	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取りれたミニ模擬授業を実演する。	ディベート準備。
	8	学習指導案の書き方（１）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（１）：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
	9	学習指導案の書き方（２）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（２）：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
	10	模擬授業（１）	模擬授業の実践と指導（１）	模擬授業の準備。
	11	模擬授業（２）	模擬授業の実践と指導（２）	模擬授業の準備。
	12	政治教育（市民性教育）（１）	政治教育副教材の分析	各自、政治教育副教材を分担し、担当箇所を要約する。
	13	政治教育（市民性教育）（２）	実践事例分析	政治教育実践例についてまとめ、発表。
	14	成績評価の方法、及び試験問題の作成について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。また、定期試験問題作成について学ぶ。	※事前配布資料の要約、及び定期試験問題作成（事前課題）
	15	総括—社会科・公民科の指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	社会科教師としての自分の課題について考えてくること。

関連科目	原則として社会科・公民科教育法Ⅰを既に履修していること。		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省
	2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省
	3		
			出版社名
			日本文教出版
			日本文教出版

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題・レポート（30％）、模擬授業（50％）、平常点：授業への貢献度等（20％）。 出席については全体の80％以上の出席（15回中12回以上）が必須。 出席率が80％に満たない者は成績評価の対象外となる場合があります。			
学生への メッセージ	本講義は学生の皆さんの主体的な授業への関与が求められます。一般的な講義に見られるような、教員が一方的に授業を進めていくスタイルではありません。学生の皆さんが授業をつくっていくことになります。ですので、宿題やレポート作成など、授業運営に欠かせない作業を怠ると自分自身はもちろんのこと、周囲に多大な迷惑がかかります。毎時間予習・復習を怠ることなく、責任と意欲を持って講義に出席して下さい。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 中学社会科、高校公民科の学習指導要領の入手方法については改めて説明します（前期社会科公民科教育法Ⅰで購入済みの者は購入の必要なし）。 事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。			

科目名	道德教育の研究	科目名 (英文)	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この授業では、中学校において「特別の教科 道德」（以下、道德科）の授業を行うために必要な基本的な知識を習得した上で、生徒の実態や教材の特性に応じた適切な指導法を選択して学習指導案を作成できるようになることを目的としています。 授業担当者は小学校での約 15 年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	受講者が、道德教育の必要性や歴史、現状と課題等についての基本的な知識を身に付け、中学校の道德科の様々な指導法の特徴と課題について理解し、適切な発問を構成し、学習指導案を作成できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	本授業は道德科の授業づくりについて実践的に学ぶ内容のため対面で行います。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して道德教育や道德科の授業についての学びを進めていきます。また、後半には、学習指導案作成等の演習や受講者のみなさんによる模擬授業等を適宜取り入れます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、道德科の授業づくりについて多面的・多角的に考えることができる
科目学習の効果（資格）	中学校教諭 1 種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道德、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：道德の理論及び指導法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス： 道德科の授業について考える	・現在、我が国においてどのような道德教育が行われているかを確認する。 ・正しさを決める 4 つのアプローチについて概観する。	（事前）自身が学校教育においてが受けてきた道德教育がどのようなものであったかを思い出しておく。 （事後）テキスト 2. の P. 8～17 を精読しておく。
	2	日本の道德教育の歴史	・明治から現在に至るまでの我が国の道德教育の歴史を概観する。 ・道德教育に存在する信念対立について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 6～12 を精読しておく。 （事後）日本の道德教育の歴史や信念対立について整理しておく。
	3	よい道德教育とは何か	・よい道德教育について、生徒の道德性の発達や教師の職能成長という観点から考える。	（事前）テキスト 1. の P. 12～25 を精読しておく。 （事後）道德科の授業や道德教育の方法と生徒の道德性の発達、教師自身の成長との関係について整理しておく。
	4	道德の授業の多様な指導方法の特徴	・道德科の授業のねらいに基づく 8 類型について概観し、多様な指導方法の特徴について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 26～35 及びテキスト 2. の P. 26～29 を精読しておく。 （事後）道德科の授業のねらいに基づく 8 類型について整理しておく。
	5	道德の授業の発問の構成法	・「特別の教科 道德」の目標や内容について確認し、ねらいに基づく発問の構成法について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 36～48 及びテキスト 2. の P. 30～33 を精読しておく。 （事後）ねらいに基づく発問の構成法について整理しておく。
	6	道德の授業の学習指導案の作成法	・「特別の教科 道德」のねらいに沿った授業を計画的に進めるための学習指導案の作成方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 49～58 及びテキスト 2. の P. 34～37 を精読しておく。 （事後）道德科の授業の学習指導案の作成方法について整理しておく。
	7	道德の授業の評価	・「特別の教科 道德」における評価の内容や方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 59～68 及びテキスト 2. の P. 38～41 を精読しておく。 （事後）道德科の授業の評価の内容や方法について整理しておく。
	8	各授業類型のねらいと発問の特徴	・教材の特性を踏まえた教材分析の方法について概観し、授業類型のそれぞれのねらいと特徴について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 71～85 及びテキスト 2. の P. 42～45 を精読しておく。 （事後）教材分析の方法や授業構成について度整理しておく。
	9	教材分析の視点	・教材に描かれている人物や事象等を図式化することで道徳的な問題を明確化する教材分析の方法について概観する。	（事前）テキスト 1. の P. 86～95 及びテキスト 2. の P. 46～49 を精読しておく。 （事後）教材分析の方法について整理するとともに、自身が選択した教材について分析しておく。
	10	発問分析による授業づくりの視点	・発問の特徴について概観し、発問分析に基づく授業改善の方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 96～106 及びテキスト 2. の P. 50～53 を精読しておく。 （事後）問題解決的な学習や発問分析に基づく授業改善の方法について整理しておく。
	11	授業づくりの実践①： いじめを扱った教材の授業実践	・いじめを扱った教材を使用する道德科の授業動画を視聴し、授業づくりの実践について学ぶ。	（事前）テキスト 1. の P. 107～130 及びテキスト 2. の P. 54～57 を精読しておく。 （事後）授業づくりの実践について整理しておく。
	12	授業づくりの実践②： SNS 上のトラブルを扱った教材の授業実践	・SNS 上のトラブルを扱った教材の授業動画を視聴し、授業づくりの実践について学ぶ。	（事前）テキスト 1. の P. 131～152 及びテキスト 2. の P. 58～61 を精読しておく。 （事後）授業づくりの実践について整理しておく。
	13	学習指導案の作成	・これまでの学修をふまえ、第 9 回で選択し教材分析した教材を用いた道德科の授業について、学習指導案を作成する。	（事前）テキスト 2. の P. 62～65 を精読しておく。 （事後）模擬授業と事後検討会の準備をしておく。
	14	模擬授業と事後検討会①	・模擬授業を行い、授業改善のための事後検討会を行う。	（事前）テキスト 2. の P. 66～69 を精読しておく。 （事後）模擬授業と事後検討会の準備をしておく。
	15	模擬授業と事後検討会② まとめ： 道德科の授業について再び考える	・模擬授業を行い、授業改善のための検討を行う。 ・道德科の授業づくりについてまとめる。	（事前）模擬授業と事後検討会の準備をしておく。 （事後）「よい道德科の授業」について考えをまとめる。

関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	道徳科 初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰 編著	大学教育出版
	2	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	教育出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	廣済堂あかつき
	2	『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版
	3			
評価方法 （基準）	毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート（One Page Portfolio シート）の記述内容や授業中の学修の様子（60%）、作成した道徳科学習指導案や模擬授業の内容（40%）等をもとに、総合的に評価します。 また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。			
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク、模擬授業等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	7 号館 4 階（谷口研究室）			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。			

科目名	特別活動の理論と方法	科目名（英文）	Theories and Methods for Special Activities
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦 正典
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	特別活動の理論と指導法については、学校における様々な構成・場面での集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい学級生活・学校生活の実現を目指す特別活動の意義、目標及び内容を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。 総合的な学習（探求）の時間の理論と指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を探究的な学びの過程を通して行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方について考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画の作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。																																																																		
到達目標	1 教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。 2 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。 3 合意形成に向けた学級での話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。 4 総合的な学習（探求）の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成することの重要性について理解している。 5 主体的・対話的で深い学びを実現する総合的な学習（探求）の時間の単元計画を作成することの重要性、探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立て、児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解している。																																																																		
授業方法と留意点	講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見だし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立って、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。																																																																		
科目学習の効果（資格）	教職科目 特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法は、 教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。																																																																		
授業計画	<table> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション・特別活動及び総合的な学習（探求）の時間の意義と課題</td><td>学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量</td><td>特別活動テキスト第1章、講義資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をする（2時間）。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>特別活動の目標・内容・方法</td><td>教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動</td><td>特別活動テキスト第2章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習する（2時間）。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>学級活動・ホームルーム活動1</td><td>学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり 個人ワーク：学級活動の年間計画の作成</td><td>特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>学級活動・ホームルーム活動2</td><td>学級活動の実際と合意形成 グループワーク：学級開きと年間計画の作成</td><td>特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>生徒会活動・児童会活動</td><td>生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。 学級経営に役立つワーク</td><td>特別活動テキスト第3章第2節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をするをする（2時間）。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>学校行事</td><td>学校行事の歴史・種類・内容・観点 グループワーク：学校行事の思い出</td><td>特別活動テキスト第3章第3節を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>特別活動の指導計画の作成にあたっての配慮事項</td><td>グループに分かれ、担当の箇所についてまとめ、プレゼンをする。（ABDによる）</td><td>教科書第4章第1節を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>特別活動の内容の取扱いについての配慮事項</td><td>グループに分かれ、担当の箇所についてまとめ、プレゼンをする。（ABDによる）</td><td>教科書第4章第2節を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>特別活動の歴史</td><td>学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、時代背景のとの関係 個別ワーク：戦後の特別活動の歴史をまとめる</td><td>講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>外国における特別活動 特別活動の指導を担当する教師</td><td>諸外国ではどのような特別活動が行われているか理解する。 個別ワーク：特別活動を指導する教師に必要な力</td><td>特別活動テキスト第4章第4節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>総合的な学習（探求）の時間の目標・内容・原理</td><td>総合的な学習（探求）の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 グループワーク：総合的な学習の思い出</td><td>総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>総合的な学習（探求）の時間の指導計画</td><td>全体計画、年間計画、単元計画の作成 学校現場で役立つワーク1</td><td>総合的な学習の時間のテキスト第5章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>探究的な学習の過程について</td><td>生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び 学校現場で役立つワーク2</td><td>総合的な学習の時間のテキスト第2・7章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>総合的な学習（探求）の時間の評価</td><td>カリキュラムマネジメントの考え方による全体計画、年間計画、単元計画の評価、生徒の学習状況の評価 学校現場で役立つワーク3</td><td>総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>補足とまとめ／最終レポートについて</td><td>補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。 個別ワーク：総合的な学習の時間を指導する教師に必要な力</td><td>・第1回目から14回目までの配布資料に目を通して全体を復習しておく。 ・課題に沿ったレポートを作成する。</td></tr> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション・特別活動及び総合的な学習（探求）の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第1章、講義資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をする（2時間）。	2	特別活動の目標・内容・方法	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動	特別活動テキスト第2章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習する（2時間）。	3	学級活動・ホームルーム活動1	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり 個人ワーク：学級活動の年間計画の作成	特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。	4	学級活動・ホームルーム活動2	学級活動の実際と合意形成 グループワーク：学級開きと年間計画の作成	特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。	5	生徒会活動・児童会活動	生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。 学級経営に役立つワーク	特別活動テキスト第3章第2節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をするをする（2時間）。	6	学校行事	学校行事の歴史・種類・内容・観点 グループワーク：学校行事の思い出	特別活動テキスト第3章第3節を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。	7	特別活動の指導計画の作成にあたっての配慮事項	グループに分かれ、担当の箇所についてまとめ、プレゼンをする。（ABDによる）	教科書第4章第1節を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。	8	特別活動の内容の取扱いについての配慮事項	グループに分かれ、担当の箇所についてまとめ、プレゼンをする。（ABDによる）	教科書第4章第2節を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。	9	特別活動の歴史	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、時代背景のとの関係 個別ワーク：戦後の特別活動の歴史をまとめる	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。	10	外国における特別活動 特別活動の指導を担当する教師	諸外国ではどのような特別活動が行われているか理解する。 個別ワーク：特別活動を指導する教師に必要な力	特別活動テキスト第4章第4節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。	11	総合的な学習（探求）の時間の目標・内容・原理	総合的な学習（探求）の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 グループワーク：総合的な学習の思い出	総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。	12	総合的な学習（探求）の時間の指導計画	全体計画、年間計画、単元計画の作成 学校現場で役立つワーク1	総合的な学習の時間のテキスト第5章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。	13	探究的な学習の過程について	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び 学校現場で役立つワーク2	総合的な学習の時間のテキスト第2・7章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。	14	総合的な学習（探求）の時間の評価	カリキュラムマネジメントの考え方による全体計画、年間計画、単元計画の評価、生徒の学習状況の評価 学校現場で役立つワーク3	総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。	15	補足とまとめ／最終レポートについて	補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。 個別ワーク：総合的な学習の時間を指導する教師に必要な力	・第1回目から14回目までの配布資料に目を通して全体を復習しておく。 ・課題に沿ったレポートを作成する。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション・特別活動及び総合的な学習（探求）の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第1章、講義資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をする（2時間）。																																																																
2	特別活動の目標・内容・方法	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動	特別活動テキスト第2章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習する（2時間）。																																																																
3	学級活動・ホームルーム活動1	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり 個人ワーク：学級活動の年間計画の作成	特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。																																																																
4	学級活動・ホームルーム活動2	学級活動の実際と合意形成 グループワーク：学級開きと年間計画の作成	特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。																																																																
5	生徒会活動・児童会活動	生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。 学級経営に役立つワーク	特別活動テキスト第3章第2節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をするをする（2時間）。																																																																
6	学校行事	学校行事の歴史・種類・内容・観点 グループワーク：学校行事の思い出	特別活動テキスト第3章第3節を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。																																																																
7	特別活動の指導計画の作成にあたっての配慮事項	グループに分かれ、担当の箇所についてまとめ、プレゼンをする。（ABDによる）	教科書第4章第1節を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。																																																																
8	特別活動の内容の取扱いについての配慮事項	グループに分かれ、担当の箇所についてまとめ、プレゼンをする。（ABDによる）	教科書第4章第2節を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。																																																																
9	特別活動の歴史	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、時代背景のとの関係 個別ワーク：戦後の特別活動の歴史をまとめる	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。																																																																
10	外国における特別活動 特別活動の指導を担当する教師	諸外国ではどのような特別活動が行われているか理解する。 個別ワーク：特別活動を指導する教師に必要な力	特別活動テキスト第4章第4節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。																																																																
11	総合的な学習（探求）の時間の目標・内容・原理	総合的な学習（探求）の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 グループワーク：総合的な学習の思い出	総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。																																																																
12	総合的な学習（探求）の時間の指導計画	全体計画、年間計画、単元計画の作成 学校現場で役立つワーク1	総合的な学習の時間のテキスト第5章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。																																																																
13	探究的な学習の過程について	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び 学校現場で役立つワーク2	総合的な学習の時間のテキスト第2・7章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。																																																																
14	総合的な学習（探求）の時間の評価	カリキュラムマネジメントの考え方による全体計画、年間計画、単元計画の評価、生徒の学習状況の評価 学校現場で役立つワーク3	総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。																																																																
15	補足とまとめ／最終レポートについて	補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。 個別ワーク：総合的な学習の時間を指導する教師に必要な力	・第1回目から14回目までの配布資料に目を通して全体を復習しておく。 ・課題に沿ったレポートを作成する。																																																																
関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したことと関連づけるとともに、教育方法論、生徒指導論、道徳教育論、教育																																																																		

	社会学などの学習につなげることが大切である。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説 特別活動編 平成29年告示	文部科学省	東山書房
	2	中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 平成29年告示	文部科学省	東山書房
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領解説 特別活動編 平成29年告示	文部科学省	東京書籍
	2	高等学校学習指導要領 総合的な探求の時間編 平成29年告示	文部科学省	学校図書
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加状況及び課題 (40%)、中間レポート (30%)、最終レポート (30%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	学級はもとも「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだと言われる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス7号館3F松浦研究室			
備考	授業外学習総時間を60時間とする。			

科目名	教育社会学	科目名 (英文)	Sociology of Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	非正規生	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	竹中 祐二
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	生物としてのヒトが社会の一員としての人間になる過程を理解する上で欠くことのできない、極めて重要な概念が「社会化」であるが、E. デュルケムは方法的社会化・系統的社会化作用として教育を位置付けている。人間にとって、「社会化としての教育」が本質的なものである一方、「制度としての教育」は、時代や文化による影響を色濃く受けるものでもある。この授業では、教育というものの、そもそも、あるいは今、「あるべき姿」というものについて、社会との関わりから捉え直すことを目的とする。
到達目標	①「近代化」との関わりから、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。 ②時代や文化を超えて普遍的である特徴を押さえて、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。 ③今日の特徴を押さえて、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。 ④教育制度の歴史的変遷や、今日の学校と地域社会や関係機関との連携を踏まえつつ、教育に関わる主体の役割や特徴を、文章によって説明することができる。
授業方法と留意点	・本授業では指定している教科書を購入手、事前に講義で扱うテーマに該当する部分（章）を読み、内容を理解した上で授業に臨んで下さい（教科書に記載のない事項の場合、別途資料を配付します）。 ・授業では、教科書（および配付資料）に記載のない事柄についての追加説明や、記載のある事柄を掘り下げる説明を行います。 ・授業後には、教科書に記載している問題を中心に、復習課題を配信します。 ・各回授業の初めに、復習課題と前回授業に対する振り返り・質疑応答を行います。 ・いずれかの回で、（予告した上で）収録済講義動画を
科目学習の効果（資格）	（1）高等学校教諭1種免許状 （2）中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	制度としての教育①	教育内容や教育方法の変遷を学び、それらが社会と深く関わっていることについて学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。（1時間） 事後課題：配信する復習課題に回答する。（1.5時間） 授業内で気になった点について追加学習をする。（1.5時間）
	2	制度としての教育②	階層再生産のメカニズムといった、近代化の所産と教育のあり方について学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。（1時間） 事後課題：配信する復習課題に回答する。（1.5時間） 授業内で気になった点について追加学習をする。（1.5時間）
	3	制度としての教育③	主に義務教育課程について、その概要について学ぶと共に、教育をめぐる平等について学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。（1時間） 事後課題：配信する復習課題に回答する。（1.5時間） 授業内で気になった点について追加学習をする。（1.5時間）
	4	制度としての教育④	高校ならびに大学への進学率上昇と、その背後に潜む諸問題について学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。（1時間） 事後課題：配信する復習課題に回答する。（1.5時間） 授業内で気になった点について追加学習をする。（1.5時間）
	5	社会における教育者の意義①	重要な他者／一般化された他者としての教育者の役割、あるいはそのオルタナティブについて学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。（1時間） 事後課題：配信する復習課題に回答する。（1.5時間） 授業内で気になった点について追加学習をする。（1.5時間）
	6	社会における教育者の意義②	今日の子どもの権利をめぐる諸議論に関わって教育が果たすべき役割について考察すると共に、非対称的な関係が構造的にもたらす教育の逆機能についても学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。（1時間） 事後課題：配信する復習課題に回答する。（1.5時間） 授業内で気になった点について追加学習をする。（1.5時間）
	7	社会における教育者の意義③	子どもにとっての学校が持つ意味を踏まえながら、教師と子どもの関係および学校現場における両者の相互作用について学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。（1時間） 事後課題：配信する復習課題に回答する。（1.5時間） 授業内で気になった点について追加学習をする。（1.5時間）
	8	日本における教育環境の変遷①	学校現場への理解から、非行・不登校・いじめ問題について学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。（1時間） 事後課題：配信する復習課題に回答する。（1.5時間） 授業内で気になった点について追加学習をする。（1.5時間）
	9	日本における教育環境の変	トラッキングやメリトクラシーの問題	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読

		遷②		から、日本におけるキャリア教育について学習する。	み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1 時間) 事後課題: 配信する復習課題に回答する。(1.5 時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5 時間)																
	10	日本における教育環境の変遷③		特別活動や部活動の検討を通して、教師と子どもそれぞれが今日置かれている教育環境について学習する。	事前課題: 教科書 (および配付資料) の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1 時間) 事後課題: 配信する復習課題に回答する。(1.5 時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5 時間)																
	11	日本における教育環境の変遷④		今日的な課題のうち、マイノリティ教育に対する教育の意義や実践例について考察する。	事前課題: 教科書 (および配付資料) の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1 時間) 事後課題: 配信する復習課題に回答する。(1.5 時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5 時間)																
	12	日本における教育環境の変遷⑤		今日的な課題のうち、ジェンダー教育に対する教育の意義や実践例について考察する。	事前課題: 教科書 (および配付資料) の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1 時間) 事後課題: 配信する復習課題に回答する。(1.5 時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5 時間)																
	13	学級経営における多機関連携①		「チーム学校」論の概要について学び、子どもが安全・安心に学ぶことのできる権利を多角的に保障することの意義と方向性、それらが提起されてきた今日の社会背景について学ぶ。	事前課題: 配付資料を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1 時間) 事後課題: 配信する復習課題に回答する。(1.5 時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5 時間)																
	14	学級経営における多機関連携②		スクールソーシャルワーク実践を軸とする「チーム学校」論の視点から、「登下校の見守り活動」等の具体例を通して、子どもの安全・安心を制度的に保障することの意義やポイントについて学ぶと共に、主体である子ども自身の関わり方について学ぶ。	事前課題: 配付資料を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1 時間) 事後課題: 配信する復習課題に回答する。(1.5 時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5 時間)																
	15	総括		本科目を通じて学習した内容について振り返り、専門職をはじめとするそれぞれの立場から社会の中で教育を達成することの意義について再考し、理解を深める。	事前課題: 配付資料を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1 時間) 事後課題: 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5 時間) 期末課題に備えて、先行研究渉猟やデータ収集等の追加学習をする。(1.5 時間)																
関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習Ⅰ」「教職実践演習」「各教科教育法」																				
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>現場で使える教育社会学</td><td>中村高康・松岡亮二</td><td>ミネルヴァ書房</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>					番号	書籍名	著者名	出版社名	1	現場で使える教育社会学	中村高康・松岡亮二	ミネルヴァ書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																		
1	現場で使える教育社会学	中村高康・松岡亮二	ミネルヴァ書房																		
2																					
3																					
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>現代教育社会学</td><td>岩井八郎・近藤博之</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>2</td><td>新・教育の社会学</td><td>荻谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>3</td><td>これからの教育社会学</td><td>相澤真一・伊佐夏実・内田良・徳永智子</td><td>有斐閣</td></tr></table>					番号	書籍名	著者名	出版社名	1	現代教育社会学	岩井八郎・近藤博之	有斐閣	2	新・教育の社会学	荻谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗	有斐閣	3	これからの教育社会学	相澤真一・伊佐夏実・内田良・徳永智子	有斐閣
番号	書籍名	著者名	出版社名																		
1	現代教育社会学	岩井八郎・近藤博之	有斐閣																		
2	新・教育の社会学	荻谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗	有斐閣																		
3	これからの教育社会学	相澤真一・伊佐夏実・内田良・徳永智子	有斐閣																		
評価方法 (基準)	授業後課題 (45%)・期末レポート課題 (55%) ※試験は実施しない予定ではあるが状況により変更する場合がある。																				
学生へのメッセージ																					
担当者の研究室等備考	3 号館 3 階・竹中研究室																				

科目名	教育心理学	科目名 (英文)	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学校での教育活動において教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、さまざまな形で援助していくためにはどうすればよいのか。それを考えていくにあたって必要な基礎的な知識を身につけ、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになることを目標とする。
到達目標	① 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につける。 ② 各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。 ③ 教育心理学の基本的な考え方、基礎的な知識を得ることができる。 ④ 日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができる。
授業方法と留意点	講義中心で行う。事前に資料を moodle 上で配付するので、各自入手しておくこと。 必要に応じて、簡易実験やグループディスカッション等を行う。
科目学習の効果 (資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育の基礎的理解に関する科目」10 単位のうち 2 単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	発達と教育と心理学と	教育に対して心理学ができること、発達と教育	テキスト第 0 章 1・第 8 章、配付資料による本時の予習と復習
	2	こどもの発達 1	乳幼児期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第 9 章、配付資料による本時の予習と復習
	3	こどもの発達 2	児童期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第 10 章・第 11 章、配付資料による本時の予習と復習
	4	こどもの発達 3	青年期①.....運動発達・言語発達・認知発達	テキスト第 10 章・第 11 章・第 12 章、配付資料による本時の予習と復習
	5	こどもの発達 4	青年期②.....社会性の発達	テキスト第 10 章・第 11 章・第 12 章、配付資料による本時の予習と復習
	6	学習を支える認知機能 1	思考.....人間の思考の特徴、メタ認知の機能と発達	テキスト第 7 章 1、配付資料による本時の予習と復習
	7	学習を支える認知機能 2	言語.....言語の機能、言語理解・言語産出とその発達	テキスト第 11 章、配付資料による本時の予習と復習
	8	学習を支える認知機能 3	記憶.....記憶のメカニズムと発達	テキスト第 4 章・第 5 章、配付資料による本時の予習と復習
	9	こどもの学び 1	さまざまな学習①.....学習とは何か、主な学習理論の概観、条件づけ	テキスト第 1 章、配付資料による本時の予習と復習
	10	こどもの学び 2	さまざまな学習②.....観察学習、自己制御学習	テキスト第 1 章・第 6 章、配付資料による本時の予習と復習
	11	学習を支える動機づけ 1	意欲とは何か.....動機づけ過程、動機づけ理論	テキスト第 2 章・第 3 章、配付資料による本時の予習と復習
	12	学習を支える動機づけ 2	さまざまな意欲.....外発的動機づけ・内発的動機づけ、その他の視点、意欲の発達	テキスト第 2 章・第 3 章、配付資料による本時の予習と復習
	13	学習を支える動機づけ 3	意欲を育む.....こどもの発達と意欲、意欲を育む教育のあり方、学習と評価	テキスト第 2 章・第 3 章、配付資料による本時の予習と復習
	14	学校における人間関係	教師-生徒の関係、生徒-生徒の関係、教師-教師の関係、集団としての学級	テキスト第 0 章 2・第 10 章、配付資料による本時の予習と復習
	15	個に応じた教育	個人差の理解と教育.....A T I、学習方略	テキスト第 0 章 3・第 6 章・第 7 章 2、配付資料による本時の予習と復習

関連科目	教職課程におけるすべての科目
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	絶対役立つ教育心理学—実践の理論、理論を实践—	藤田哲也 (編著)	ミネルヴァ書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テスト 30%, 期末試験 70%
-----------	--------------------

学生へのメッセージ	これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 3 階 (吉田研究室)
----------	------------------

備考	Teams コード 火曜 5 限: o3hr1s8 木曜 1 限: 9oex0u1 木曜 5 限: j4uz0u4 金曜 5 限: 8h3rwzd
----	---

	Moodle コース名と登録キー
	火曜 5 限：2024 教育心理学（火 5） あるいは 24 教心（火 5） 2024EPTUE5
	木曜 1 限：2024 教育心理学（木 1） あるいは 24 教心（木 1） 2024EPTHU1
	木曜 5 限：2024 教育心理学（木 5） あるいは 24 教心（木 5） 2024EPTHU5
	金曜 5 限：2024 教育心理学（

科目名	特別支援教育論	科目名（英文）	Studies of Special Needs Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦 正典
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	通常の学級にも在籍している発達障害や知的障害をはじめとする様々な障害者等により特別な支援を必要とする子ども達が授業において学習活動に参加している。学実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身につけていけるよう、子どもの学習上または生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の職員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。
到達目標	①インクルーシブ教育システムにおける特別支援教育に関する理念や仕組みについて理解する。 ②視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱・発達障害を含むさまざまな障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について理解する。 ③発達障害や知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする児童・生徒の心身の発達、心理的特性、障害の場合はその特性について理解する。 ④個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成する意義と方法について理解する。 ⑤管理職・特別支援教育コーディネーターをはじめとするチーム学校、関係諸機関や家庭、保護者と連携しながら支援体制を構築することの必要性について理解する。 ⑥貧困・LGBTなどの理由により、特別の支援を必要とする子供たちに対する支援方法について理解する。 ⑦ICTの活用により、障害の疑似体験をしたり、支援に役立つ学習アプリを実際に操作したりする。
授業方法と留意点	1 授業は対面式で行う。状況によってはオンラインで行うこともありうる。ICT ツールはTeamsを使用する。 2 講義資料等は「ファイル」に各授業回別のフォルダをつくり、そこに掲載する。プリントアウトするなどして各自で管理すること。 3 Teamsで「課題」の提出を求めるので遅滞なく提出すること。
科目学習の効果（資格）	教職科目 特別支援教育論は、教員免許（小学校・中学校・高等学校）取得上必修科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	特別支援教育を学ぶ意義と本授業のガイダンス	・なぜ特別支援教育学を学ばなければならないか理解する。・グループ学習のやり方について説明を聞き、グループ分けを行う。	・授業計画及び教科書第1章を読み、今後の学習について見通しを持つ（2時間）・グループでの役割に応じて4回目授業での発表準備を進める（2時間）
	2	特別支援教育の歴史と現行制度について	・特殊教育・特別支援教育の歴史の概要を知る。 ・特別支援教育を支える仕組みについて理解する。 ・ICFモデル・特別支援教育への転換について知る。	・教科書第2章をよく読み、質問をまとめておく。（2時間）・グループでの役割に応じて4回目の授業での発表準備を進める（2時間）
	3	支援システムの構築と法的整備	・校内支援システムの構築や他職種等の連携を知り、チーム学校について理解する。	・教科書第3章をよく読み、質問をまとめておく。（2時間）・ペアでの役割に応じて、4回目の授業での発表の資料をA4一枚程度(両面可)にまとめる。（2時間）
	4	視覚障害・聴覚障害について	・視覚障害・聴覚障害の概要・必要な支援・教育について教えあう。 ・見え方紹介アプリの活用	・教科書第11章をよく読むとともに、自分の担当部分をペアに説明する準備を行う。（2時間）・講義やペア学習、教科書を元に学習内容をまとめる。（2時間）
	5	肢体不自由・病弱・身体虚弱・重度重複について	・肢体不自由・病弱・身体虚弱・重度重複の概要・必要な支援・教育について理解する。	・教科書第10章をよく読み、疑問点をまとめておく。（2時間）・グループでの役割に応じて、7回目の授業での発表資料をA4二枚以内（両面可）にまとめる。（2時間）
	6	情緒障害・言語障害について	・情緒障害・言語障害の概要及びタイプ、指導・支援方法等について学ぶ。	・教科書第8章をよく読み、疑問点をまとめておく。（2時間）・講義や教科書を元に学習内容をまとめる（2時間）
	7	知的障害・発達障害について（1）	・知的障害・発達障害についてグループで発表を行い、質疑応答をする。・障害別に担当者が集まり、お互いの内容を補完し、疑問点を解決する。	・教科書6・7・9章などを参考に自分の担当部分についてよく伝わるようにまとめておく。担当以外の部分についても教科書を読んで概要を理解しておく。（2時間）授業で学んだことを整理し、発表資料を訂正しておく。（2時間）
	8	知的障害・発達障害について（2）	・資料をもとにグループ発表を行う。代表者にまとめの発表をしてもらい、感想をまとめる。 ・学習支援アプリの操作・体験	・自分の発表部分について、よく伝わるように練習をしておく。教科書を読んで概要を理解しておく。（2時間）授業で学んだことを整理し、教科書を再読する。（2時間）
	9	LGBT等特別な教育的支援が必要な子どもの理解と指導・支援	・学習困難・ギフテッド・LGBT・不登校・いじめなど教育的支援が必要な児童ついて学び、学級での支援の方法について理解する。	・教科書第12章をよく読み、疑問点をまとめておく。（2時間）・講義や教科書を元に学習内容をまとめる（2時間）
	10	個別の指導計画と個別の教育支援計画	・合理的配慮と個別の支援計画・個別の指導計画について理解し、実際に個別の指導計画を作成してみる。	・教科書第5章をよく読み、疑問点をまとめておく。（2時間）・講義や教科書を元に学習内容をまとめる（2時間）
	11	通常学級での特別支援教育（小・中学校）	・授業のユニバーサルデザインで目指すものとユニバーサルデザインの概要について理解する。 ・通級指導の概要を理解する	・第2回の授業内容について教科書やノートで復習しておく（2時間）・講義や教科書を元に学習内容をまとめる（2時間）
	12	通常学級での特別支援教育（高等学校）	・通級指導の概要を理解する ・京都府や大阪府にある高等学校で行われている先進的な特別支援教育について理解する。	・京都府や大阪府にある高等学校で行われている先進的な特別支援教育についてネット等で調べる（2時間）・講義を元に学習内容をまとめる（2時間）
	13	保護者との連携・専門機関・地域との連携	・特別な教育的支援を必要とする子どもや親を支える専門機関の種類と役割を理解する ・地域での生活を送るうえでの支援と課題を理解する。	・教科書第13章・14章をよく読み、疑問点をまとめておく。（2時間）・教科書と講義を元に学習内容をまとめる（2時間）

	14	早期支援と就労支援	・早期発見システムについて学び、早期支援について考える。 ・進路支援・就労支援の実際を知り、問題点を明らかにする。	・教科書第15・第16章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・講義や教科書を元に学習内容をまとめる(2時間)																
	15	発達障害等に対する指導技法　まとめ	・特別支援教育学の講義全体を見直し、課題と解決方法について、自分なりの考えを持つ。	・配布した資料に目を通しておく。今まで学習した内容を教科書やノートで振り返る。(2時間) ・今までの学修をふりかえる(2時間)・当日出題される課題に取り組み、提出する。																
関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、教師論、教育心理学、特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法、教育方法論、教育課程論、教育社会学、教育相談での学習内容と関連させて理解を深めることが大切である。																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>はじめての特別支援教育　教職を目指す大学生のために</td><td>柘植雅義他</td><td>有斐閣アルマ</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	はじめての特別支援教育　教職を目指す大学生のために	柘植雅義他	有斐閣アルマ	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	はじめての特別支援教育　教職を目指す大学生のために	柘植雅義他	有斐閣アルマ																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>やさしく学ぶ教職課程特別支援教育</td><td>是永かな子他</td><td>学文社</td></tr><tr><td>2</td><td>特別支援学校幼稚園部教育要領小学校・中学部学習指導要領　平成29年4月告示</td><td>文部科学省</td><td>海文堂出版</td></tr><tr><td>3</td><td>中学校学習指導要領（平成29年告示）総則編</td><td>文部科学省</td><td>海文堂出版</td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	やさしく学ぶ教職課程特別支援教育	是永かな子他	学文社	2	特別支援学校幼稚園部教育要領小学校・中学部学習指導要領　平成29年4月告示	文部科学省	海文堂出版	3	中学校学習指導要領（平成29年告示）総則編	文部科学省	海文堂出版
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	やさしく学ぶ教職課程特別支援教育	是永かな子他	学文社																	
2	特別支援学校幼稚園部教育要領小学校・中学部学習指導要領　平成29年4月告示	文部科学省	海文堂出版																	
3	中学校学習指導要領（平成29年告示）総則編	文部科学省	海文堂出版																	
評価方法（基準）	授業への参加状況【課題等】（40%）、中間レポート（30%）、最終レポート（30%）を総合的に評価する。																			
学生へのメッセージ	本科目を受講することで、障害のある児童生徒をはじめ、特別な支援を必要とする児童生徒への理解が進み、1人ひとりの教育ニーズに応じた教育が展開できるようになってほしい。																			
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス7号館3階松浦研究室																			
備考	授業外総学習時間を60時間とする。																			

科目名	教育課程論	科目名 (英文)	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鎌田 祥輝
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育課程（カリキュラム）は、「子どもたちの成長と発達に必要な文化を組織した、全体的な計画とそれに基づく実践と評価を統合した営み」とされる。カリキュラムは、学習指導要領や教科書に示された教育内容を組織したものであるのみならず、子どもたちが実際に獲得した内容を含む概念である。そのため、子どもたちの学習経験を見取り、学習改善を行うために教育評価も欠かせない。本講義では、学習指導要領の変遷についての知識を修得するのみならず、カリキュラム編成を行う上で基盤となる原理や方法を理解することを求める。これらの理解を踏まえ、各自が取得を目指す免許教科の単元計画を構想できるようになることを目指す。
到達目標	(1) 教育課程やカリキュラムをめぐる基礎的な知識を修得している。 (2) カリキュラム編成の基本原則・編成方法を踏まえ、関連する他の教科・領域・学年の系統性を意識したカリキュラム編成を行うことができる。
授業方法と留意点	(1) 配布資料を中心に進める講義形式を基本とする。例外的に、各自が作成したカリキュラム編成レポートを持ち寄り、相互批評を行うグループワークを実施する回がある。その際には事前の準備が求められる。 (2) 期末課題の準備として、各自が取得を目指す免許教科の教科書を少なくとも 1 冊は入手すること（栄養教諭の場合は、関連する教科の教科書に目を通すこと）。 (3) 現行学習指導要領（本文・解説）は文部科学省 HP からダウンロードすること。 (4) 授業資料は印刷して配布するほか、オンライン上で共有する。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション:教育課程・カリキュラムとは何か	教育課程（カリキュラム）とは何かを理解するとともに、カリキュラムをめぐる論点を概観する。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間）
	2	教育評価とは何か	教育評価の歴史を概観し、評定（成績づけ）とは異なる教育評価の意義を学ぶ。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間）
	3	教育評価と教育目標	カリキュラム編成の要となる教育目標にまつわる論点を概観する。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間）
	4	学力評価の方法論	学力を把握するための様々な方法について学ぶ。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間）
	5	現行学習指導要領の特質をふまえたカリキュラム編成の方法	現行学習指導要領の特徴、および、今求められているカリキュラムのあり方とその編成の方法を学ぶ。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間）
	6	カリキュラム編成原理 1：経験主義	経験主義カリキュラムの思想と実例を扱い、経験主義の特徴と課題を考察する。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間）
	7	カリキュラム編成原理 2：系統主義	系統主義カリキュラムの思想と実例を扱い、系統主義の特徴と課題を考察する。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間）
	8	日本における学習指導要領の歴史 1	本講義の前半で学習したカリキュラム編成原理と結びつけながら、戦後～1980 年代の学習指導要領の歴史と特徴を概観する。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間）
	9	日本における学習指導要領の歴史 2	本講義の前半で学習したカリキュラム編成原理と結びつけながら、1990 年代～現在の学習指導要領の歴史と特徴を概観する。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間）
	10	教育課程の思想と構造: 領域論、履修原理	教育課程を領域化する際に問われる問題、教育課程の履修原理に関する問題を学ぶ。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間）
	11	カリキュラム編成レポートの相互批評会	各自が作成したカリキュラム編成レポートを持ち寄り、相互批評を行おう。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間） カリキュラム編成レポートを作成する（20 時間）
	12	総合的な学習（探究）の時間のカリキュラム	領域としての「総合的な学習（探究）の時間」の意義とカリキュラムの事例を紹介する。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間）
	13	カリキュラム・マネジメントの意義と評価	カリキュラム・マネジメントの意義や重要性を確認する。カリキュラム評価の基礎的な考え方を概観する。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間）
	14	カリキュラム・マネジメントの具体例: 同和・人権教育	同和・人権教育や外国につながる子どもたちへの取り組みを取り上げ、現前の問題に取り組む学校のカリキュラムを学ぶ。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間） カリキュラム編成レポートを改稿し提出する（10 時間）
	15	総括: 教育課程をめぐる論点	教育課程をめぐる論点をあらためて取り上げ、講義全体の振り返りをおこなう。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間） 定期試験に向けた準備をする（15 時間）

関連科目	同時期開講の教育方法論と密接にリンクしている。教育課程論では一単元のカリキュラム編成を、教育方法論ではその単元に含まれる一時間の授業の指導案作成を求める。
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい時代の教育課程（第5版）	田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵	有斐閣
	2	新しい教育評価入門（増補版）	西岡加名恵・石井英真・田中耕治編	有斐閣
	3	新訂学習指導要領は国民形成の設計書	水原克敏・高田文子・遠藤宏美・八木美保子	東北大学出版会
評価方法 （基準）	(1) 期末試験（50%）：教育課程にまつわる基礎的知識の修得を問う。 (2) 授業内課題：カリキュラム編成レポート（50%）：各自が選んだ単元のカリキュラム編成を行う。現在求められるカリキュラムの在り方を踏まえているかどうか、教育目標と評価課題の妥当性、相互批評で出された意見を踏まえた改善を規準として評価する。 評価基準（ループリック）の詳細は講義内で提示する。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館3階 鎌田研究室			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。 授業計画に記載している授業テーマは、授業の進捗状況や学生の関心に応じて変更することがある。			

科目名	道徳教育論	科目名（英文）	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この授業では、中学校において「特別の教科 道徳」（以下、道徳科）の授業を行うために必要な基本的な知識を習得した上で、生徒の実態や教材の特性に応じた適切な指導法を選択して学習指導案を作成できるようになることを目的としています。 授業担当者は小学校での約 15 年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	受講者が、道徳教育の必要性や歴史、現状と課題等についての基本的な知識を身に付け、中学校の道徳科の様々な指導法の特徴と課題について理解し、適切な発問を構成し、学習指導案を作成できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	本授業は道徳科の授業づくりについて実践的に学ぶ内容のため対面で行います。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して道徳教育や道徳科の授業についての学びを進めていきます。また、後半には、学習指導案作成等の演習や受講者のみなさんによる模擬授業等を適宜取り入れます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、道徳科の授業づくりについて多面的・多角的に考えることができる
科目学習の効果（資格）	中学校教諭 1 種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：道徳の理論及び指導法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス：道徳科の授業について考える	・現在、我が国においてどのような道徳教育が行われているかを確認する。 ・正しさを決める 4 つのアプローチについて概観する。	（事前）自身が学校教育においてが受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出しておく。 （事後）テキスト 2. の P. 8～17 を精読しておく。
	2	日本の道徳教育の歴史	・明治から現在に至るまでの我が国の道徳教育の歴史を概観する。 ・道徳教育に存在する信念対立について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 6～12 を精読しておく。 （事後）日本の道徳教育の歴史や信念対立について整理しておく。
	3	よい道徳教育とは何か	・よい道徳教育について、生徒の道徳性の発達や教師の職能成長という観点から考える。	（事前）テキスト 1. の P. 12～25 を精読しておく。 （事後）道徳科の授業や道徳教育の方法と生徒の道徳性の発達、教師自身の成長との関係について整理しておく。
	4	道徳の授業の多様な指導方法の特徴	・道徳科の授業のねらいに基づく 8 類型について概観し、多様な指導方法の特徴について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 26～35 及びテキスト 2. の P. 26～29 を精読しておく。 （事後）道徳科の授業のねらいに基づく 8 類型について整理しておく。
	5	道徳の授業の発問の構成法	・「特別の教科 道徳」の目標や内容について確認し、ねらいに基づく発問の構成法について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 36～48 及びテキスト 2. の P. 30～33 を精読しておく。 （事後）ねらいに基づく発問の構成法について整理しておく。
	6	道徳の授業の学習指導案の作成法	・「特別の教科 道徳」のねらいに沿った授業を計画的に進めるための学習指導案の作成方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 49～58 及びテキスト 2. の P. 34～37 を精読しておく。 （事後）道徳科の授業の学習指導案の作成方法について整理しておく。
	7	道徳の授業の評価	・「特別の教科 道徳」における評価の内容や方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 59～68 及びテキスト 2. の P. 38～41 を精読しておく。 （事後）道徳科の授業の評価の内容や方法について整理しておく。
	8	各授業類型のねらいと発問の特徴	・教材の特性を踏まえた教材分析の方法について概観し、授業類型のそれぞれのねらいと特徴について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 71～85 及びテキスト 2. の P. 42～45 を精読しておく。 （事後）教材分析の方法や授業構成について度整理しておく。
	9	教材分析の視点	・教材に描かれている人物や事象等を図式化することで道徳的な問題を明確化する教材分析の方法について概観する。	（事前）テキスト 1. の P. 86～95 及びテキスト 2. の P. 46～49 を精読しておく。 （事後）教材分析の方法について整理するとともに、自身が選択した教材について分析しておく。
	10	発問分析による授業づくりの視点	・発問の特徴について概観し、発問分析に基づく授業改善の方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 96～106 及びテキスト 2. の P. 50～53 を精読しておく。 （事後）問題解決的な学習や発問分析に基づく授業改善の方法について整理しておく。
	11	授業づくりの実践①：いじめを扱った教材の授業実践	・いじめを扱った教材を使用する道徳科の授業動画を視聴し、授業づくりの実践について学ぶ。	（事前）テキスト 1. の P. 107～130 及びテキスト 2. の P. 54～57 を精読しておく。 （事後）授業づくりの実践について整理しておく。
	12	授業づくりの実践②：SNS 上のトラブルを扱った教材の授業実践	・SNS 上のトラブルを扱った教材の授業動画を視聴し、授業づくりの実践について学ぶ。	（事前）テキスト 1. の P. 131～152 及びテキスト 2. の P. 58～61 を精読しておく。 （事後）授業づくりの実践について整理しておく。
	13	学習指導案の作成	・これまでの学修をふまえ、第 9 回で選択し教材分析した教材を用いた道徳科の授業について、学習指導案を作成する。	（事前）テキスト 2. の P. 62～65 を精読しておく。 （事後）模擬授業と事後検討会の準備をしておく。
	14	模擬授業と事後検討会①	・模擬授業を行い、授業改善のための事後検討会を行う。	（事前）テキスト 2. の P. 66～69 を精読しておく。 （事後）模擬授業と事後検討会の準備をしておく。
	15	模擬授業と事後検討会② まとめ：道徳科の授業について再び考える	・模擬授業を行い、授業改善のための検討を行う。 ・道徳科の授業づくりについてまとめる。	（事前）模擬授業と事後検討会の準備をしておく。 （事後）「よい道徳科の授業」について考えをまとめる。

関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	道徳科 初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰 編著	大学教育出版
	2	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	教育出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	廣済堂あかつき
	2	『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版
	3			
評価方法 （基準）	毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート（One Page Portfolio シート）の記述内容や授業中の学修の様子（60%）、作成した道徳科学習指導案や模擬授業の内容（40%）等をもとに、総合的に評価します。 また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。			
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク、模擬授業等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	7 号館 4 階（谷口研究室）			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。			

科目名	特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法	科目名（英文）	Methodolgy of Special Activities and Integrated Studies
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦 正典
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	特別活動の理論と指導法については、学校における様々な構成・場面での集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい学級生活・学校生活の実現を目指す特別活動の意義、目標及び内容を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。 総合的な学習（探究）の時間の理論と指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を探究的な学びの過程を通して行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方について考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画の作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。			
到達目標	1 教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。 2 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。 3 合意形成に向けた学級での話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。 4 総合的な学習（探究）の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成することの重要性について理解している。 5 主体的・対話的で深い学びを実現する総合的な学習（探究）の時間の単元計画を作成することの重要性、探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立て、児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解している。			
授業方法と留意点	講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見だし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立って、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。			
科目学習の効果（資格）	教職科目 特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法は、 教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。			
授業計画				
	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション・特別活動及び総合的な学習（探究）の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第1章、講義資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をする（2時間）。
	2	特別活動の目標・内容・方法	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動	特別活動テキスト第2章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習する（2時間）。
	3	学級活動・ホームルーム活動1	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり 個人ワーク：学級活動の年間計画の作成	特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
	4	学級活動・ホームルーム活動2	学級活動の実際と合意形成 グループワーク：学級開きと年間計画の作成	特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
	5	生徒会活動・児童会活動	生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。 学級経営に役立つワーク	特別活動テキスト第3章第2節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をするをする（2時間）。
	6	学校行事	学校行事の歴史・種類・内容・観点 グループワーク：学校行事の思い出	特別活動テキスト第3章第3節を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
	7	特別活動の指導計画の作成にあたっての配慮事項	グループに分かれ、担当の箇所についてまとめ、プレゼンをする。（ABDによる）	教科書第4章第1節を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
	8	特別活動の内容の取扱いについての配慮事項	グループに分かれ、担当の箇所についてまとめ、プレゼンをする。（ABDによる）	教科書第4章第2節を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
	9	特別活動の歴史	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、時代背景のとの関係 個別ワーク：戦後の特別活動の歴史をまとめる	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
	10	外国における特別活動 特別活動の指導を担当する教師	諸外国ではどのような特別活動が行われているか理解する。 個別ワーク：特別活動を指導する教師に必要な力	特別活動テキスト第4章第4節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
	11	総合的な学習（探究）の時間の目標・内容・原理	総合的な学習（探究）の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 グループワーク：総合的な学習の思い出	総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
	12	総合的な学習（探究）の時間の指導計画	全体計画、年間計画、単元計画の作成 学校現場で役立つワーク1	総合的な学習の時間のテキスト第5章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
	13	探究的な学習の過程について	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び 学校現場で役立つワーク2	総合的な学習の時間のテキスト第2・7章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
	14	総合的な学習（探究）の時間の評価	カリキュラムマネジメントの考え方による全体計画、年間計画、単元計画の評価、生徒の学習状況の評価 学校現場で役立つワーク3	総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
15	補足とまとめ／最終レポートについて	補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。 個別ワーク：総合的な学習の時間を指導する教師に必要な力	・第1回目から14回目までの配布資料に目を通して全体を復習しておく。 ・課題に沿ったレポートを作成する。	
関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したことと関連づけるとともに、教育方法論、生徒指導論、道徳教育論、教育			

	社会学などの学習につなげることが大切である。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説 特別活動編 平成29年告示	文部科学省	東山書房
	2	中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 平成29年告示	文部科学省	東山書房
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領解説 特別活動編 平成29年告示	文部科学省	東京書籍
	2	高等学校学習指導要領 総合的な探求の時間編 平成29年告示	文部科学省	学校図書
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加状況及び課題 (40%)、中間レポート (30%)、最終レポート (30%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	学級はもとも「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだと言われる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス7号館3F松浦研究室			
備考	授業外学習総時間を60時間とする。			

科目名	教育方法論	科目名（英文）	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鎌田 祥輝
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育方法の基礎的な知識・技術を修得し、今求められる教育・学びのあり方を踏まえた授業をデザインし、実践できるようになることを目的とする。受講生には学習指導案を作成するとともに、10 分間の模擬授業の実施を求める。模擬授業の相互批評を体験することで、模擬授業による効果的なリフレクションの方法を学ぶ。これにより今後、受講生が自主的・主体的に授業を構想・実践し省察することを通して、教師として授業の力量を高めていけるようになることを目指す。
到達目標	(1) 教育方法の基礎的な知識・技術を修得している。 (2) 今求められる教育・学びのあり方を踏まえ、授業をデザインし、実践することができる。 (3) 模擬授業で起きた出来事をもとに省察し、授業を改善することができる。
授業方法と留意点	(1) 講義は対面で実施する。 (2) 前半は講義を中心とするが、受講生に発言を求めることがある。また、模擬授業検討会のあり方や授業観察の方法論を、授業記録・授業映像を用いて実践しながら学ぶ。後半は、受講生全員に学習指導案の作成と 10 分間の模擬授業の実施を求める。模擬授業は教師役として実施するだけでなく、生徒役として授業を受けて疑問や感想を出し、振り返ることも大切である。 (3) 授業資料は印刷して配布するほか、オンライン上で共有する。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育の方法及び技術術（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション:授業とは何か	授業という営みの本質や、教師として授業の力量を高める方法論を概観する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間）
	2	今求められる教育・学びの在り方とは	社会の変化や教育政策の動向などを踏まえ、これからの社会を担う子どもたちに求められる学力や授業・学びのあり方を概観する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間）
	3	教育目標の明確化と教育評価	教育目標を明確化する意味、目標に対応させた評価を指導や学習に活かす方法を学ぶ。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間）
	4	教材研究の方法論	教材研究とは何か、すぐれた教材とはどのようなものかを、実例を通して学ぶ。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間）
	5	学習のための空間作り	教室空間のデザインや ICT 活用を含む学習ソールの活用など、学習のための空間作りについて概観する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間）
	6	技とテクノロジーの活用	板書、ノート指導、情報機器活用といった指導技術や、情報活用能力育成を志向する指導のあり方について学ぶ。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間）
	7	学習指導案の意義と指導案作成	学習指導案を作成する意義や授業の構想力を高める指導案のあり方を学ぶ。また、指導案作成を書く際のポイントを紹介する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間） 模擬授業に向けて指導案作成と授業の練習を行う（10 時間）
	8	模擬授業・検討会のあり方	授業で起きた出来事をもとに省察し、授業づくりの考え方を学ぶような模擬授業検討会のあり方を学び、実際に体験する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間） 模擬授業に向けて指導案作成と授業の練習を行う（10 時間）
	9	授業観察の方法と授業をみる視点	授業観察の際、授業をどのような視点で検討すれば良いか、またどのような記録を残せばよいかを学ぶ。授業ビデオを用いて授業記録をとる練習を行う。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間） 模擬授業に向けて指導案作成と授業の練習を行う（10 時間）
	10	模擬授業・検討会：教育目標・評価に着目して	模擬授業とリフレクションを実施する。特に目標と評価の対応に着目した振り返りを行う。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間）
	11	模擬授業・検討会：教材に着目して	模擬授業とリフレクションを実施する。特に教材の活用（デジタル教材を含む）に着目した振り返りを行う。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間）
	12	模擬授業・検討会：学習空間に着目して	模擬授業とリフレクションを実施する。特に学習のための空間作りに着目した振り返りを行う。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間）
	13	模擬授業・検討会：技とテクノロジーの活用に着目して	模擬授業とリフレクションを実施する。特に指導技術や ICT 活用に着目した振り返りを行う。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間）
	14	実践記録と力量形成	実践記録を読むこと・書くことを通して、教師として授業の力量を高めるための方法を学ぶ。実践記録を読み、考察する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間）
	15	総括:教師としての力量形成	教師として授業の力量を高める方法論を、これまでの講義を振り返りながら総括する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間） 模擬授業の振り返りを踏まえて指導案を改稿する（15 時間）

関連科目	同時期開講の教育課程論と密接にリンクしている。教育課程論では 1 単元のカリキュラム編成を、教育方法論ではその単元に含まれる一時間の授業の指導案作成を求める。		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		出版社名

	2			
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	授業づくりの深め方	石井英真	ミネルヴァ書房
	2	授業づくりの考え方	渡辺貴裕	くろしお出版
	3	時代を拓いた教師たち	田中耕治編著	日本標準
評価方法 (基準)	(1) 模擬授業（学習指導案作成を含む）(50%)：学習指導案作成、および10 分間の模擬授業を実施する。 (2) コメントカード・小課題（20%）：講義・模擬授業・検討会の振り返りを毎回の講義後に記入する。 (3) 授業内課題（30%）：模擬授業でうけた意見をもとに、学習指導案を改稿し提出する。 ※評価基準・規準（ルーブリック）は講義内で提示する。			
学生への メッセージ	授業のお知らせは Teams を通して連絡します。必ず Teams に登録してください。			
担当者の 研究室等	7 号館 3 階(鎌田研究室)			
備考	事前・事後学習総時間を 60 時間とする。 受講生の人数により、模擬授業・検討会の実施日が増減する可能性がある。			

科目名	生徒指導論（進路指導を含む）	科目名（英文）	Studies of Guidance and Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西村 晃一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	昨今、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化し続けている。いじめ・暴力行為・不登校・中途退学・自殺など多岐にわたり、課題が山積している。本講義では、生徒指導および進路指導について理解を深める。理論と実践の往還を重視し、具体的な事象を取り上げながら授業を展開することで、生徒指導の諸課題に対応し、進路指導を通したキャリア教育の実現に寄与する。
到達目標	本講義を通して、生徒指導および進路指導の意義を理解する。児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題について研鑽を重ね、学校現場の問題点について主体的に考える素養を養う。また、進路指導では広くキャリア発達の視点から学び、将来教員になった際、子どもたちの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる力を培うことを目標とする。
授業方法と留意点	授業は対面形式で行う。PowerPoint を用いながら授業を展開し、毎時間課題を提示する。また、Teams のファイルより、各資料を共有する。本講義は、アクティブ・ラーニングを採用しているため、ディスカッションや KJ 法、ロールプレイを通して理論と実践の往還を目指す。加えて、授業では教科書を使用するため、毎時間持参すること。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導及びキャリア教育の理論及び方法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 生徒指導の基礎	・生徒指導の定義と目的 ・生徒指導の構造（2軸3類4層構造） ・チーム支援による組織的対応	教科書 P. 1 2～3 8 学習課題：子どもの権利条約
	2	生徒指導と教育課程	・児童生徒の発達を支える教育課程 ・教科、道徳科、総合的な学習（探求）の時間、特別活動の各領域と生徒指導との関連	教科書 P. 3 9～6 7 学習課題：探求学習の 4 STEP
	3	チーム学校による生徒指導体制	・チーム学校における学校組織と生徒指導体制 ・生徒指導と教育相談が一体となったチーム支援	教科書 P. 6 8～1 1 8 学習課題：チーム学校
	4	個別の課題に対する生徒指導：いじめ	・いじめ防止対策推進法 ・いじめに関する生徒指導の重層的支援構造 ・関係機関等との連携体制	教科書 P. 1 1 9～1 4 0 学習課題：いじめの定義と関係法規
	5	個別の課題に対する生徒指導：暴力行為	・暴力行為に対する対応指針 ・暴力行為に関する生徒指導の重層的支援構造 ・関係機関等との連携体制	教科書 P. 1 4 1～1 5 2 学習課題：暴力行為の定義
	6	個別の課題に対する生徒指導：少年非行	・少年法と児童福祉法 ・少年非行の基本的な対応 ・喫煙、飲酒、薬物乱用 ・特定少年	教科書 P. 1 5 3～1 7 0 学習課題：犯罪白書
	7	個別の課題に対する生徒指導：児童虐待	・児童福祉法、児童虐待の防止に関する法律 ・学校の体制 ・虐待対応に対するアセスメント	教科書 P. 1 7 1～1 8 8 学習課題：児童虐待の定義と虐待事例
	8	個別の課題に対する生徒指導：自殺	・自殺対策基本法 ・自殺防止のための学校の組織体制と計画 ・関係機関との連携に基づく自殺予防の体制	教科書 P. 1 8 9～2 0 8 学習課題：自殺の動向
	9	個別の課題に対する生徒指導：中途退学、インターネットに関わる問題	・中途退学の関係法規と基本方針 ・インターネット問題への組織的取組 ・各課題に対する重層的支援構造	教科書 P. 2 0 9～2 2 0、P. 2 4 0～2 5 4 学習課題：インターネットトラブル
	10	個別の課題に対する生徒指導：不登校	・不登校に関する関係法規と基本方針 ・不登校対応に求められる学校の組織的体制と計画 ・関係機関との連携体制	教科書 P. 2 2 1～2 3 9 学習課題：不登校の定義、教育機会確保法
	11	個別の課題に対する生徒指導：多様な背景を持つ児童生徒	・性に関する課題 ・発達障害に関する課題 ・支援を要する家庭状況 ・外国人児童生徒	教科書 P. 2 5 5～2 8 9 学習課題：性的マイノリティ
	12	進路指導とキャリア教育	・キャリア教育とは何か ・進路指導とキャリア教育の歴史的背景	キャリア教育の手引き（配布資料） 学習課題：4 領域 8 能力
	13	進路指導：キャリア教育を通して育成すべき「4 領域 8 能力」	・4 領域 8 能力 ・基礎的、汎用的能力	キャリア教育の手引き（配布資料） 学習課題：キャリア教育
	14	進路指導：中学校・高等学校における実践	・中学校におけるキャリア発達 ・高等学校におけるキャリア発達 ・校種間連携	キャリア教育の手引き（配布資料） 学習課題：生徒指導と進路指導
	15	生徒指導と進路指導	・生徒指導の諸課題 ・進路指導とキャリア教育の結び付き ・総括	学習課題：第 1～1 4 回で最も関心のあるトピックを 1 つ挙げて論述
関連科目	「教育の基礎的理解に関する科目」全般に関連する。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	生徒指導提要	文部科学省	東洋館出版社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）	文部科学省	
	2	高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）	文部科学省	
	3	生徒指導提要	文部科学省	
評価方法 （基準）	期末試験 60%，毎時間の課題・レポート 40%とする。			
学生への メッセージ	生徒指導とは、児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動のことである。ゆえに、学生自身が自発的・主体的に学び、豊かな人間性を養う必要がある。本講義では、双方向の学習を取り入れている。積極的な参加を期待している。			
担当者の 研究室等	7 号館 3 階 西村研究室			
備考	本講義は、複数の曜日時限が設けられている。必ず、自身が履修登録をしている曜日時限の Teams コードに登録すること。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度である。			

科目名	教育相談（カウンセリングの基礎を含む）	科目名（英文）	School Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育相談は、幼児児童生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児児童生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。 特に、学校における教育相談に焦点を当て、教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために、教育相談のもつ今日的な意義を解説し、カウンセリングの基礎知識及びその実践的な手法を紹介する。併せて生徒理解と“問題”への対応について、実践的な取り組み方を考える。																																																																		
到達目標	① 幼児児童生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。 ② 教育相談の基本的な考え方、カウンセリングの基礎、生徒理解と「問題」への対応についての知識を得ることができる。 ③ その上で、生徒を支援するための具体的な方法について考えることができる。																																																																		
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせで行う。講義の資料は、事前に Moodle で配付するので、各自入手しておくこと。演習は、グループごとに取り組んだ課題について発表するものとする。																																																																		
科目学習の効果（資格）	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」4 単位のうち 2 単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法																																																																		
授業計画	<table> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> <tr> <td>1</td><td>教育相談とは何か</td><td>教育相談の意義，教師としての立場，カウンセリングマインド</td><td>テキスト第 1 講，配付資料を用いた予習・復習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>カウンセリングの基礎</td><td>カウンセリングの基本的な考え方，カウンセリングの技法</td><td>テキスト第 2 講・第 3 講，配付資料を用いた予習・復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>チームビルディング</td><td>グループワーク（アイスブレイク含む）</td><td>検討したいテーマについてよく考えておく グループ発表の準備</td></tr> <tr> <td>4</td><td>教育相談の体制</td><td>教育相談の構造，チーム支援の意義，チームの作り方</td><td>テキスト第 1 講・第 10 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備</td></tr> <tr> <td>5</td><td>教育相談の実際 1</td><td>チーム支援のプロセス，アセスメント</td><td>テキスト第 1 講・第 10 講・第 11 講・第 12 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備</td></tr> <tr> <td>6</td><td>教育相談の実際 2</td><td>チーム支援の実際</td><td>テキスト第 1 講・第 10 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備</td></tr> <tr> <td>7</td><td>パーソナリティ理解</td><td>パーソナリティを理解するために，パーソナリティ理解をゆがめるもの</td><td>テキスト第 11 講・第 12 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備</td></tr> <tr> <td>8</td><td>“問題”の理解と対応 1</td><td>“問題”とは何か，その原因・背景と対応，適応過程</td><td>テキスト第 9 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備</td></tr> <tr> <td>9</td><td>“問題”の理解と対応 2</td><td>ストレス，欲求不満，葛藤</td><td>テキスト第 9 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備</td></tr> <tr> <td>10</td><td>心の発達と危機</td><td>認知の発達、自己意識の発達、道徳性の発達、仲間関係の発達</td><td>テキスト第 9 講，配付資料を用いた予習・復習 教育心理学の復習 グループ発表の準備</td></tr> <tr> <td>11</td><td>学校における諸課題とその対応①</td><td>不登校.....その理解と対応（グループ発表）</td><td>テキスト第 5 講，配付資料を用いた予習・復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>学校における諸課題とその対応②</td><td>いじめ.....その理解と対応（グループ発表）</td><td>テキスト第 4 講，配付資料を用いた予習・復習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>学校における諸課題とその対応③</td><td>授業崩壊・学級崩壊.....その理解と対応（グループ発表）</td><td>配付資料を用いた予習・復習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>学校における諸課題とその対応④</td><td>反社会的行動.....その理解と対応（グループ発表）</td><td>テキスト第 7 講，配付資料を用いた予習・復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>これからの教育相談</td><td>新たな課題，教師のメンタルヘルス，さらなる連携</td><td>テキスト第 13 講・第 15 講，配付資料を用いた予習・復習</td></tr> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	教育相談とは何か	教育相談の意義，教師としての立場，カウンセリングマインド	テキスト第 1 講，配付資料を用いた予習・復習	2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方，カウンセリングの技法	テキスト第 2 講・第 3 講，配付資料を用いた予習・復習	3	チームビルディング	グループワーク（アイスブレイク含む）	検討したいテーマについてよく考えておく グループ発表の準備	4	教育相談の体制	教育相談の構造，チーム支援の意義，チームの作り方	テキスト第 1 講・第 10 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備	5	教育相談の実際 1	チーム支援のプロセス，アセスメント	テキスト第 1 講・第 10 講・第 11 講・第 12 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備	6	教育相談の実際 2	チーム支援の実際	テキスト第 1 講・第 10 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備	7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために，パーソナリティ理解をゆがめるもの	テキスト第 11 講・第 12 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備	8	“問題”の理解と対応 1	“問題”とは何か，その原因・背景と対応，適応過程	テキスト第 9 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備	9	“問題”の理解と対応 2	ストレス，欲求不満，葛藤	テキスト第 9 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備	10	心の発達と危機	認知の発達、自己意識の発達、道徳性の発達、仲間関係の発達	テキスト第 9 講，配付資料を用いた予習・復習 教育心理学の復習 グループ発表の準備	11	学校における諸課題とその対応①	不登校.....その理解と対応（グループ発表）	テキスト第 5 講，配付資料を用いた予習・復習	12	学校における諸課題とその対応②	いじめ.....その理解と対応（グループ発表）	テキスト第 4 講，配付資料を用いた予習・復習	13	学校における諸課題とその対応③	授業崩壊・学級崩壊.....その理解と対応（グループ発表）	配付資料を用いた予習・復習	14	学校における諸課題とその対応④	反社会的行動.....その理解と対応（グループ発表）	テキスト第 7 講，配付資料を用いた予習・復習	15	これからの教育相談	新たな課題，教師のメンタルヘルス，さらなる連携	テキスト第 13 講・第 15 講，配付資料を用いた予習・復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	教育相談とは何か	教育相談の意義，教師としての立場，カウンセリングマインド	テキスト第 1 講，配付資料を用いた予習・復習																																																																
2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方，カウンセリングの技法	テキスト第 2 講・第 3 講，配付資料を用いた予習・復習																																																																
3	チームビルディング	グループワーク（アイスブレイク含む）	検討したいテーマについてよく考えておく グループ発表の準備																																																																
4	教育相談の体制	教育相談の構造，チーム支援の意義，チームの作り方	テキスト第 1 講・第 10 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備																																																																
5	教育相談の実際 1	チーム支援のプロセス，アセスメント	テキスト第 1 講・第 10 講・第 11 講・第 12 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備																																																																
6	教育相談の実際 2	チーム支援の実際	テキスト第 1 講・第 10 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備																																																																
7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために，パーソナリティ理解をゆがめるもの	テキスト第 11 講・第 12 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備																																																																
8	“問題”の理解と対応 1	“問題”とは何か，その原因・背景と対応，適応過程	テキスト第 9 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備																																																																
9	“問題”の理解と対応 2	ストレス，欲求不満，葛藤	テキスト第 9 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備																																																																
10	心の発達と危機	認知の発達、自己意識の発達、道徳性の発達、仲間関係の発達	テキスト第 9 講，配付資料を用いた予習・復習 教育心理学の復習 グループ発表の準備																																																																
11	学校における諸課題とその対応①	不登校.....その理解と対応（グループ発表）	テキスト第 5 講，配付資料を用いた予習・復習																																																																
12	学校における諸課題とその対応②	いじめ.....その理解と対応（グループ発表）	テキスト第 4 講，配付資料を用いた予習・復習																																																																
13	学校における諸課題とその対応③	授業崩壊・学級崩壊.....その理解と対応（グループ発表）	配付資料を用いた予習・復習																																																																
14	学校における諸課題とその対応④	反社会的行動.....その理解と対応（グループ発表）	テキスト第 7 講，配付資料を用いた予習・復習																																																																
15	これからの教育相談	新たな課題，教師のメンタルヘルス，さらなる連携	テキスト第 13 講・第 15 講，配付資料を用いた予習・復習																																																																
関連科目	教職課程の科目全般																																																																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td>よくわかる！ 教職エクササイズ3 教育相談 [第 2 版]</td><td>森田健宏・吉田佐治子（編著）</td><td>ミネルヴァ書房</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	よくわかる！ 教職エクササイズ3 教育相談 [第 2 版]	森田健宏・吉田佐治子（編著）	ミネルヴァ書房	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	よくわかる！ 教職エクササイズ3 教育相談 [第 2 版]	森田健宏・吉田佐治子（編著）	ミネルヴァ書房																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	グループ発表 50%，期末試験 50%																																																																		
学生へのメッセージ	これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。																																																																		

担当者の 研究室等	7号館3階（吉田研究室）
備考	グループ発表について、他の受講者からの評価をまとめたものを次回授業時に配付します。 グループ内ではピア評価を行います。 事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。 Teams コード 月曜2限：xfdeIyw 火曜2限：mi255ww 木曜1限：irmdqxv 木曜4限：ui2p7a7 Moodle コース名と登録キー 月曜2限：2024 教育相談（月2）あるいは 24 教育相談（月2） 2024ECMON2 火曜2限：2024 教育相談（火2）あるいは 24 教育相談

科目名	社会科教育法Ⅰ【地歴分野】	科目名（英文）	Social Studies Teaching MethodsⅠ (Geography and History)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 曜次
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	社会科教育の意義や目的、課題について、歴史的な経緯をふまえて理解する。そのうえで、中学校社会科で扱う地理的分野・歴史的分野の授業を行うために必要な知識・授業構成方法・教育方法を学び、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。 模擬授業について、参加者全員で討議・批評を行うことを通して、授業者が自ら授業を改善していくための基礎的な力量を身に付ける。
到達目標	・学習指導要領に示されている社会科の目標や内容を理解する。 ・情報通信技術の活用も含めて、適切な教材や教育方法、評価方法を考え、それを指導案として表現し、中学校における具体的な授業場面を想定しながら授業を行うことができる。 ・授業の実施と振り返りや共同的に行われる授業研究を通して、授業改善に取り組むことができる。
授業方法と留意点	模擬授業やグループ・ワーク、討論を多く行うので、とくに積極的な発言及び講義参加姿勢が望まれる。 『中学校学習指導要領(平成 29 年告示) 解説 社会編』『中学校学習指導要領(平成 29 年告示) 解説 社会編』は購入もしくは文部科学省 HP よりダウンロードし、手元ですぐに確認できるようにしておくこと。 中学生のときの社会科教科書・資料集・地図帳やノートをなるべく手元に置いておくこと。 教科書は指定しない。必要な資料については授業ごとに Teams 上で共有する。
科目学習の効果（資格）	中学校教員免許（社会科） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法について 社会科で育てたい資質・能力について	事前に既修の「教師論」「教育原理」を復習しておく（3 時間）。事後学習については授業終了時に指示する（1 時間）。
	2	よい授業とはどんな授業か	江戸末期以降から現代までの教育制度の変遷について学ぶ。	事前にこれまで自分が経験した社会科の授業についてまとめておく（1 時間）。事後に興味をもった構成要素に関連する実践資料を読む（3 時間）
	3	社会科教育の歴史(1)	戦後の学力観の変化と指導要領改訂の変遷を学ぶ。	事前に指示された資料を読み、発問を考えておく（3 時間）。事後については授業終了時に指示する（1 時間）。
	4	社会科教育の歴史(2)	地理・歴史科学学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前に社会科学習指導要領の変遷について調べ、まとめておく（2 時間）。事後については授業終了時に指示する（1 時間）。
	5	歴史的分野の授業とその構成方法	地理・歴史科学学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前に「学習指導要領 解説」を熟読しておく（1 時間）。 事後に、学習指導案例を自ら探して検討する（2 時間）。
	6	地理的分野の授業とその構成方法	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	事前に「学習指導要領 解説」を通読しておく（1 時間）。 事後に、学習指導案例を自ら探して検討する（2 時間）。
	7	社会科の評価方法	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	事前に定期テスト問題や入試問題についての情報を集めつつ、社会科・地歴科におけるテストについて振り返っておく（1 時間）。 事後、興味を持った実践について調べる（2 時間）。
	8	模擬授業(1)	歴史的分野「原始・古代の日本と世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
	9	模擬授業(2)	歴史的分野「中世の日本と世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
	10	模擬授業(3)	歴史的分野「近世の世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
	11	模擬授業(4)	歴史的分野「近世の日本」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
	12	模擬授業(5)	地理的分野「日本の地域構成」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
	13	模擬授業(6)	地理的分野「九州地方／中国・四国地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
	14	模擬授業(7)	地理的分野「近畿地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
	15	模擬授業(8)	地理的分野「中部地方／関東地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作

				成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
関連科目	社会科教育法Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領(平成 29 年告示)	文部科学省	東山書房
	2	中学校学習指導要領(平成 29 年告示) 解説 社会編	文部科学省	東洋館出版社
	3			
評価方法 (基準)	成果物としての指導案（50%）とコメントカードなどの授業内で指示する提出課題（50%）で評価を行う。 提出されたコメントカードの記述に対しては、次回授業内でコメントもしくはプリントにてフィードバックを行う。 出席回数が 2/3 以上の者を評価の対象とする。			
学生への メッセージ	皆さんのお手本になるような優れた授業が先人たちによって開発されてたくさんあるということと、一方で絶対に優れた授業というものはない ということを知ってもらいたいと思っています。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考				

科目名	社会科教育法Ⅱ【地歴分野】	科目名（英文）	Social Studies Teaching Methods II (Geography and History)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 曜次
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	中学校社会科で扱う地理的分野・歴史的分野の授業を行うために必要な知識・授業構成方法・教育方法を学び、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。 模擬授業について、参加者全員で討議・批評を行うことを通して、授業者が自ら授業を改善していくための基礎的な力量を身に付ける。
到達目標	・学習指導要領に示されている社会科の目標や内容を理解する。 ・カリキュラム・マネジメントの観点から社会科の学習を捉えることができる。 ・情報通信技術の活用も含めて、適切な教材や教育方法、評価方法を考え、それを指導案として表現し、中学校における具体的な授業場面を想定ながら授業を行うことができる。 ・授業の実施と振り返りや共同的に行われる授業研究を通して、授業改善に取り組むことができる。
授業方法と留意点	模擬授業やグループ・ワーク、討論を多く行うので、とくに積極的な発言及び講義参加姿勢が望まれる。 『中学校学習指導要領(平成 29 年告示) 解説 社会編』『中学校学習指導要領(平成 29 年告示) 解説 社会編』は購入もしくは文部科学省 HP よりダウンロードし、手元ですぐに確認できるようにしておくこと。 中学生のときの社会科教科書・資料集・地図帳やノートをなるべく手元に置いておくこと。 教科書は指定しない。必要な資料については授業ごとに Teams 上で共有する。
科目学習の効果（資格）	中学校教員免許（社会科） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目区分：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法について 社会科の特性を生かした教材・教具、発問の検討	事前に社会科教育法Ⅰの第7回目までの学習内容を復習しておく（2時間）。事後学習については授業終了時に指示する（1時間）。
	2	授業実践検討	優れた授業を言語化する	事前にこれまで自分が経験した授業についてまとめておく（1時間）。事後課題については授業内で指示する（1時間）。
	3	概念中心カリキュラム	国際バカロレアの教育方法の検討	事前課題なし。事後課題については授業内で指示する（2時間）。
	4	教科横断的な学びのあり方	他教科や総合的な学習の時間との連携	事前に「カリキュラム・マネジメント」と「教科横断的な学び」について調べておく（2時間）。事後課題については授業内で指示する（1時間）。
	5	模擬授業(1)	地理的分野「東北地方／北海道地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2時間）。
	6	模擬授業(2)	地理的分野「アジア／アフリカ」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2時間）。
	7	模擬授業(3)	地理的分野「ヨーロッパ」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2時間）。
	8	模擬授業(4)	地理的分野「北アメリカ」の模擬授業の実施と検討	全員が当該分野の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2時間）。
	9	模擬授業(5)	地理的分野「南アメリカ／オセアニア」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2時間）。
	10	模擬授業(6)	歴史的分野「近代の世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2時間）。
	11	模擬授業(7)	歴史的分野「近代の日本」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2時間）。
	12	模擬授業(8)	歴史的分野「現代の世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2時間）。
	13	模擬授業(9)	歴史的分野「現代の日本」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2時間）。
	14	模擬授業(10)	歴史的分野「文化史」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2時間）。
	15	授業の振り返り	補足的事項の解説及び授業全体の振り返り	事後、各自において本授業全体の振り返りを行う（4時間）。

関連科目	社会科教育法 I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領(平成 29 年告示)』	文部科学省	東山書房
	2	中学校学習指導要領(平成 29 年告示) 解説 社会編	文部科学省	東洋館出版社
	3			
評価方法 (基準)	成果物としての指導案（50%）とコメントカードなどの授業内で指示する提出課題（50%）で評価を行う。 提出されたコメントカードの記述に対しては、次回授業内でコメントもしくはプリントにてフィードバックを行う。 出席回数が 2/3 以上の者を評価の対象とする。			
学生への メッセージ	自ら教材を見つけることで、社会科の授業の可能性の広がりや面白さを共有できたらと思っています。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考				

科目名	社会科教育法Ⅲ【公民分野】	科目名（英文）	Social Studies Teaching Methods III (Civics)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 曜次
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、中学社会科、高校公民科の学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな授業方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、可能な方法・範囲での模擬授業の実践を行い、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるようにしていきます。まずは「教育実習」で生徒を失望させないきちんとした授業ができるよう、知識と意欲、そして責任をもって授業に参加してください。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 （１）中学社会科（地理、歴史、公民分野）、高校公民科の教師として必要な「知識」「技術・スキル」を確実に身につける。 （２）中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。 （３）社会科・公民科の授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」をするための力をつける。
授業方法と留意点	まず本授業では社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲・方法で履修者全員に模擬授業を行ってもらよう「実践的な授業」を目指します。模擬授業の実践では、授業準備、指導案の作成、教材研究は必ず行ってもらいます。本講義では教師としての自覚もあわせて養成するため、授業への積極的な参加、そして各々の模擬授業の準備やそのふりかえりに積極的に取り組んでください。
科目学習の効果（資格）	中学校１種「社会」、高校１種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科・公民科教育の課題について考えてくること。 ※それぞれの学習指導要領の総則部分を読んでおく。
	2	中学校指導要領（社会）、高校指導要領（公民）にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手及びダウンロードした学習指導要領（中学：社会科、高校：公民科）の事前読了。 ※指導要領の要約
	3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（１）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※前時の事前授業まとめと配布資料の要約
	4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（２）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
	5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（３）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
	6	教育方法と技術（１）：ミニ模擬授業案作成	板書の方法・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター（パワーポイントやインターネット）を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業のミニ模擬授業案の作成	新聞記事の検索、及びミニ模擬授業案の作成
	7	教育方法と技術（２）：ミニ模擬授業案作成案作成	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取りれたミニ模擬授業案を作成する。	ディベート準備。ミニ模擬授業案の作成
	8	学習指導案の書き方（１）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（１）：各自が作成した学習指導案をもとに、作成のヒントを説明する。	学習指導案の作成。
	9	学習指導案の書き方（２）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（２）：各自が作成した学習指導案をもとに、作成する上での留意点について説明する。	学習指導案の作成。
	10	模擬授業（１）	模擬授業の実践と指導（１）	模擬授業の準備。
	11	模擬授業（２）	模擬授業の実践と指導（２）	模擬授業の準備。
	12	模擬授業（３）	模擬授業の実践と指導（３）	模擬授業の準備。
	13	模擬授業（４）	模擬授業の実践と指導（４）	模擬授業の準備。
	14	成績評価の方法、及び社会科試験の作成について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。また、定期試験作成についても学ぶ。	※事前配布資料の要約、及び、定期試験問題作成のシュミレーションを行う（事前課題）。
	15	総括－社会科、公民科の指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	各自、社会科教師としての自分の課題について考え、まとめてくること。

関連科目	社会科・公民科教育法Ⅰ、社会科・公民科教育法Ⅱは「Ⅰ→Ⅱ」と連続して受講することが望ましい。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版
	2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文教出版
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
評価方法 (基準)	事前学習課題の提出 (30%)、模擬授業 (50%)、各種課題 (20%) 等により、総合的に評価する。			
学生への メッセージ	中学社会科学習指導要領(最新年度版)を第一回目の授業開始までに購入あるいは文部科学省ホームページよりダウンロードし印刷しておくこと。これがないと授業参加や事前学習課題等に取り組むことができません。購入方法については書店、オンライン書店等を利用してください。購入についての質問等はメールアドレスまで。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 事前・事後学習総時間数はおおよそ 60 時間程度とする。			

科目名	社会科教育法Ⅳ【公民分野】	科目名（英文）	Social Studies Teaching Methods IV (Civics)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 曜次
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に参加型の授業法を取り入れて、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評しあう機会をもうけます。また、近年、選挙年齢が 18 歳に引き下げられたことによる子どもたちへの政治教育（主権者教育）の重要性が改めて問われています。とりわけ公民科では政治や経済問題を取り扱うことが多く、子どもたちに政治の主体として意識を涵養するための教育（市民性教育、シティズンシップ教育）をどのように実践できるのかについても考えていきます。具体的には政府が作成した政治教育副教材の分析や学校現場での実践例の分析などを行います。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 （１）中学社会科（地理、歴史、公民分野）、高校公民科の教師として必要な「知識」を確実に身につける。 （２）中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。 （３）授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」の力をつける。 （４）政治教育、市民性教育（シティズンシップ教育）についての理解を深め、指導案を作成し、授業実践ができるようになる。
授業方法と留意点	まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲で履修者全員に模擬授業を実践してもらうような「実践型・参加型の授業」を目指します。また模擬授業の実践では、それぞれの模擬授業終了後は必ず全員で意見交換を行い、授業内容に対する問題点と課題点を整理します。ここでのコメント力を鍛えることも重要な目標です。指示した授業準備は必ず行ってください。教師としての自覚もあわせて養成するため、遅刻・無断欠席については厳しく対応します。
科目学習の効果（資格）	中学校 1 種「社会」、高校 1 種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科教育の課題について考えてくること。
	2	中学校指導要領（社会）、高校指導要領（公民）にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領（中学：社会科、高校：公民科）の事前読了。 ※指導要領の要約
	3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（１）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
	4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（２）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
	5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（３）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
	6	教育方法と技術（１）：ミニ模擬授業	板書・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター（パワーポイントやインターネット）を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業をミニ模擬授業で実演する。	新聞記事の検索。
	7	教育方法と技術（２）：ミニ模擬授業	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取りれたミニ模擬授業を実演する。	ディベート準備。
	8	学習指導案の書き方（１）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（１）：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
	9	学習指導案の書き方（２）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（２）：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
	10	模擬授業（１）	模擬授業の実践と指導（１）	模擬授業の準備。
	11	模擬授業（２）	模擬授業の実践と指導（２）	模擬授業の準備。
	12	政治教育（市民性教育）（１）	政治教育副教材の分析	各自、政治教育副教材を分担し、担当箇所を要約する。
	13	政治教育（市民性教育）（２）	実践事例分析	政治教育実践例についてまとめ、発表。
	14	成績評価の方法、及び試験問題の作成について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。また、定期試験問題作成について学ぶ。	※事前配布資料の要約、及び定期試験問題作成（事前課題）
	15	総括—社会科・公民科の指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	社会科教師としての自分の課題について考えてくること。

関連科目	原則として社会科・公民科教育法Ⅰを既に履修していること。		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省
	2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省
	3		
			出版社名
			日本文教出版
			日本文教出版

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題・レポート（30％）、模擬授業（50％）、平常点：授業への貢献度等（20％）。 出席については全体の80％以上の出席（15回中12回以上）が必須。 出席率が80％に満たない者は成績評価の対象外となる場合があります。			
学生への メッセージ	本講義は学生の皆さんの主体的な授業への関与が求められます。一般的な講義に見られるような、教員が一方的に授業を進めていくスタイルではありません。学生の皆さんが授業をつくっていくことになります。ですので、宿題やレポート作成など、授業運営に欠かせない作業を怠ると自分自身はもちろんのこと、周囲に多大な迷惑がかかります。毎時間予習・復習を怠ることなく、責任と意欲を持って講義に出席して下さい。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 中学社会科、高校公民科の学習指導要領の入手方法については改めて説明します（前期社会科公民科教育法Ⅰで購入済みの者は購入の必要なし）。 事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。			

科目名	職業指導 I	科目名 (英文)	Vocational Guidance I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化と職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。 講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で意見を出し合ってください。
科目学習の効果（資格）	商業科における職業指導の基礎知識が身に付きます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・授業概要の説明、職業の定義、職業指導の概念整理	事前学習：本科目のシラバスを熟読すること（1 時間） 事後学習：年間の学びの計画を立てること（3 時間）
	2	職業指導の基礎理論	・職業指導における基本的な考え方、手法	事前学習：職業指導及びキャリアの基礎理論について調べておくこと（2 時間） 事後学習：職業指導に関する資料を熟読すること（2 時間）
	3	職業指導の歴史①	・アメリカ・ヨーロッパを中心に職業指導の経緯を知る	事前学習：欧米の職業指導に関して調査すること（3 時間） 事後学習：講義の内容を振り返ること（1 時間）
	4	日本の産業構造の変化	・日本の産業、雇用事情の変化を知る	事前学習：日本の産業の変遷について市調しておくこと（3 時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（1 時間）
	5	職業指導の歴史②	・日本の戦後の教育改革について	事前学習：日本の戦後の教育改革について調べておくこと（2 時間） 事後学習：配布資料を熟読し、講義内容を振り返ること（2 時間）
	6	日本型雇用と職業指導	・日本における雇用システムの変容と職業指導の関わり	事前学習：日本型雇用について発表資料を作成すること（3 時間） 事後学習：発表及びディスカッションの内容を振り返ること（1 時間）
	7	新規高卒就職システム	・新規高卒労働市場の変容と現状	事前学習：高卒労働市場に関して調べておくこと（2 時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（2 時間）
	8	高等学校における職業指導	・各種学校における職業指導の在り方について	事前学習：高校の職業指導の事例について調査・発表資料を作成すること（3 時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（1 時間）
	9	「労働すること」を考える	・仕事をするものの意義を考える	事前学習：仕事をする意味について意見をまとめておくこと（2 時間） 事後学習：自らの労働観について考えること（2 時間）
	10	職業指導の領域	・学校、家庭、地域コミュニティ、公的機関等職業指導がなされる「場」について考える	事前学習：職業指導領域に関する資料を事前に熟読すること（2 時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（2 時間）
	11	キャリア教育の基礎理論①	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	事前学習：自己について考えておくこと（2 時間） 事後学習：キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること（2 時間）
	12	キャリア教育の基礎理論②	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	事前学習：児童・生徒の発達について考えてくこと（3 時間） 事後学習：キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること（1 時間）。
	13	授業内容立案	・高校生向けの職業指導・キャリア教育に関する授業内容を立案する	事前学習：高校でのキャリア供養行くの事例について調べておくこと（1 時間） 事後学習：模擬授業の準備をすること（3 時間）
	14	模擬授業	・講義 13 で立案した内容で模擬授業を実施	事前学習：模擬授業の準備をすること（2 時間） 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること（2 時間）
	15	講義の振り返り	・講義の振り返り、最終レポートの提出	事前学習：前期のレポートを作成すること（3 時間） 事後学習：講義全体を振り返ること（1 時間）

関連科目	教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。また「特別活動論」にも近接します。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
評価方法 (基準)	講義内での課題、提出物、レポート、授業への積極的参加、レポートの提出状況およびその内容、報告や討議の内容も加味して、成績を判定します。 平常点(30%)、(授業課題 20%)、期末レポート(50%) また、前期最終時にレポートを実施します。			
学生への メッセージ	「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。 特に後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。 なお、講義は科目担当者の人材業界での業務経験・及び起業経験を元にしたお話も交えて進行します。			
担当者の 研究室等	水野講師室（7号館3階）			
備考				

科目名	職業指導Ⅱ	科目名（英文）	Vocational Guidance II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化とそれが職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身に付けます。
到達目標	職業教育の理論、面談する際の技法への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。 講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で話し合いを行って頂きます。 尚、遅刻等は厳禁です。
科目学習の効果（資格）	商業科における職業指導の基礎知識が身に付く

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・授業概要の説明	事前学習：本科目のシラバスを再度熟読すること（1時間）。 事後学習：後期の学習計画を立てること（3時間）
	2	商業教育と職業指導	・商業高校における職業指導の事例を知る	事前学習：商業高校の職業指導事例に関する調査すること（2時間）。 事後学習：講義の内容を振り返ること（2時間）
	3	工業教育と職業指導	・工業高校における職業指導の事例を知る	事前学習：工業高校の職業指導事例に関する調査すること（2時間）。 事後学習：講義の内容を振り返ること（2時間）
	4	普通科高校と職業指導	・普通科高校における職業指導について	事前学習：普通科高校の職業指導事例に関する調査すること（2時間）。 事後学習：講義の内容を振り返ること（2時間）
	5	フリーター・ニートについて	グループ（またはペア）でフリーター・ニート対策を考える	事前学習：フリーター・ニート問題に関して調査し、ディスカッションできるよう準備すること（2時間）。 事後学習：講義内容を振り返ること（2時間）
	6	職業指導・キャリア教育の実例	・地方も含めた職業指導の事例紹介	事前学習：発表の準備をすること（2時間）。 事後学習：他者及び自らの発表の内容を振り返ること（2時間）
	7	キャリアデザインとは何か	キャリアデザインとは何かを考える	事前学習：自らの人生の節目について考えること（2時間）。 事後学習：講義内容を振り返ること（2時間）
	8	高校生の就業力について 職業適性とは何か	・新規高卒者に求められる基本的な能力 ・職業適性、アセスメントについて	事前学習：大卒と高卒の就職システムの違いについて調査すること（2時間）。 事後学習：自らの適性の活かし方考えること（2時間）。
	9	人権教育としての職業指導	・職業指導の国際基準、ハンディキャップがある生徒への職業指導	事前学習：ILOの提唱する「人間らしい働き方」について調査すること（2時間）。 事後学習：配布資料を精読すること（2時間）
	10	未来の働き方を考える	・日本の課題、それにより想像される未来における働き方を考える	事前学習：AIによる仕事の代替可能性について調査すること（2時間）。 事後学習：講義内容を振り返ること（2時間）
	11	就業力向上企画を立案①	高校生の就業力向上のための企画・授業を考える	事前学習：発表の準備をすること（3時間）。 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること（1時間）
	12	就業力向上計画立案②	1 1 回目で考えた内容を発表する	事前学習：発表の準備をすること（3時間）。 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること（1時間）
	13	キャリアカウンセリング理論①	自己概念・環境との相互作用・学習理論からのアプローチ	事前学習：キャリアカウンセリングとは何かについて調べておくこと（2時間）。 事後学習：講義の内容について振り返ること（1時間）
	14	キャリアカウンセリング理論②	カウンセリングマインドについて	事前学習：キャリアカウンセリングとは何かについて調べておくこと（1時間）。 事後学習：講義の内容について振り返ること（2時間）
	15	まとめ/講義の振り返り	提出物の確認、授業内容に関する質疑応答	事前学習：期末レポートを作成すること（4時間）。 事後学習：講義全体を振り返ること（2時間）

関連科目	教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。「特別活動論」にも近接します。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
評価方法 (基準)	レポートを実施します。その他、授業への積極的参加、その他課題の提出状況およびその内容、報告や討議の内容も加味して、成績を判定します。			
学生への メッセージ	平常点(20%)、調査・プレゼンテーション課題(30%)、期末レポート(50%) 「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。 後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。 なお、講義では担当者の実務経験にもとづいて議論を進めることもあります。			
担当者の 研究室等	水野講師室（7号館3階）			
備考				

科目名	教師論	科目名（英文）	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようにになっているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分はどのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション（LTD；Learning Through Discussion）等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 教職への道	科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等 についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	本科目のシラバスの熟読
	2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
	3	教師教育と教職の専門性（1）	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
	4	教師教育と教職の専門性（2）	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
	5	教師教育と教職の専門性（3）	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
	6	教師教育と教職の専門性（4）	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
	7	文獻・映像に基づく教師像の探究（1）	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
	8	文獻・映像に基づく教師像の探究（2）	「不良教師」と「熱血教師」（文獻・映像に基づく教師像の探究） レポートに基づくグループワーク	「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
	9	文獻・映像に基づく教師像の探究（3）	「人間教師」と「プロ教師」（文獻・映像に基づく教師像の探究） レポートに基づくグループワーク	「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
	10	文獻・映像に基づく教師像の探究（4）	教師としての資質能力のあり方	教師に求められる資質能力についての議論に関する配布資料
	11	教員の役割・職務（1）	学校・教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
	12	教員の役割・職務（2）	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
	13	教員の役割・職務（3）	学校内外の連携の視点からみた教員の役割・職務（チーム学校運営への対応を含む）	「チーム学校」の考え方と学校運営の実践に関する配布資料
	14	教員の役割・職務（4）	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障	教員の任用・服務等に関する配布資料
	15	教員の役割・職務（5）	教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト	教員の勤務実態とメンタルヘルスに関する配布資料

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー10%。定期試験を受験しなかった場合は評価不能（評定なし）とします。
----------	--

学生へのメッセージ	教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることになります。教養とともに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。 遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。
-----------	---

担当者の 研究室等	朝日研究室；寝屋川キャンパス 7 号館 3 階
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。

科目名	教育経営論	科目名（英文）	Studies of Educational Administration
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目では、現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識、および学校や教育行政の組織構造・機能・関係に関する基礎的知識を身につけ、経営の観点から理解するとともに、そこに内在する課題を理解します。そのために、公教育システムに関してなじみの深い事象を参照し、その原理や構造・機能、それに関する政策や法制度、理論や論争、実態や課題を検討していきます。
到達目標	私たちにとってはあたりまえで意識することもないような、学校教育を中心とした公教育システムのあり方について視野が広がり、理解が深まります。例えば「学校では何を学ぶのか」「学校ではどのように教えられるのか」という内容・方法的な事柄についても、さまざまな制度やその運用によって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がり理解できるようになります。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション（LTD；Learning Through Discussion）等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をすることがあります。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 公教育とは	授業概要、方法としての LTD について説明 教育における「公」と「私」 公教育の成立・展開	シラバス、テキスト第 1 章を読んでくる。
	2	教育権の構造	「教育をする権利」「教育を受ける権利」 「学習する権利」	テキスト第 6 章を読んでくる。
	3	教育を受ける権利の保障	教育権論争について簡単なグループワーク 公教育の制度原理	教育権についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
	4	学校体系のしくみ	段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者	テキスト第 4 章を読んでくる。
	5	学校体系の現代的課題	「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク 選別・分離と接続・統合	教育の制度原理についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
	6	教育条件整備の法制度と新しい動向	「選抜・選別」について簡単なグループワーク 公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか	学校の機能に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
	7	中央教育行政の組織構造	各省庁・審議会	テキスト第 8 章を読んでくる。
	8	地方教育行政の組織構造	教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき 首長部局と教育委員会	テキスト第 9 章を読んでくる。
	9	中央・地方教育行政の関係構造	教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク 監督行政と指導行政 教育行政関係の新しい動向	教育委員会制度の動向に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
	10	指導行政と教育内容行政	学習指導要領、研究指定・研究開発、教科書行政	テキスト第 11 章を読んでくる。
	11	教育課程経営	学力低下論争をめぐる簡単なグループワーク カリキュラムマネジメント 学力論争と教育評価論	学力低下論争に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第 15 章を読んでくる。
	12	人事行政と教職員管理	教職員の資格・身分・サービス管理、教育労働管理	テキスト第 10 章を読んでくる。
	13	学校の組織管理と組織編制	教職員配置、学校・学級の「適正規模」「適正配置」 学校評議員制度、学校運営協議会制度	テキスト第 16 章、第 19 章を読んでくる。
	14	学校経営の組織構造	学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク 学校の組織特性、学校経営の組織と過程（学校と地域との連携含む）	学校統廃合に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第 14 章を読んでくる。
	15	学校の安全管理と安全教育	安全管理の領域 安全教育の方法	テキスト第 18 章を読んでくる。

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公教育経営概説 （改訂版）	堀内孜	学術図書出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
評価方法 (基準)	定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー10%。定期試験を受験しなかった場合は評価をしません。			
学生への メッセージ	教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。			
担当者の 研究室等	朝日研究室；寝屋川キャンパス 7 号館 3 階			
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあります。リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。			

科目名	教育実習 I	科目名 (英文)	Teaching Practice I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日 素明, 鎌田 祥輝, 谷口 雄一, 西村 晃一, 松浦 正典, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	3 年次前期終了後にクラス編成が行われる。クラスごと各担当者が指導する。(1) 教育実習の実際についての情報を提供する。それらに基づき、受講者は、演習や実習を行う。(2) 教育実習校における実習に必要な教育実践の基本を理解して、教科指導、学級・ホームルーム経営、生徒指導等の実際について有効な指導計画を立案し、効果的な指導をできるようにする。(3) 教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに、教育実習生としての基本的心がまえについて理解を深める。																																																																		
到達目標	教育実習の目的や意義、内容等を理解し、教育実習へ向けての十分な準備ができるようになる。そのことにより、自信をもって教育実習に臨めるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	講義（体験報告を含む）、演習（文献購読、発表、討議を含む）、実習（指導案作成、模擬授業を含む）を行う。対面授業を基本とする。実習生として主体的・能動的な姿勢・態度で参加すること。																																																																		
科目学習の効果（資格）	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育実習」5 単位あるいは3 単位のうち「教育実習に係る事前及び事後指導」1 単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】教育実践に関する科目 各科目に含めることが必要な事項：教育実習（教育実習に係る事前及び事後指導）																																																																		
授業計画	<table> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> <tr> <td>1</td><td>教育実習の意義、教育実習への準備と心がまえ等</td><td>教育実習の意義と目的、実習の形態と内容について 事前準備の必要性、教育実習の心がまえと教育実習の基本となる事項について</td><td>授業時に指示する</td></tr> <tr> <td>2</td><td>実習中の勤務の要領</td><td>学校の日、一週間の流れ、学校の組織と運営の概要について</td><td>授業時に指示する</td></tr> <tr> <td>3</td><td>授業の方法と技術</td><td>授業のスタイルとスキル、教材研究、学習評価の観点について</td><td>授業時に指示する</td></tr> <tr> <td>4</td><td>授業の記録と評価</td><td>授業研究の意義、授業分析の方法、授業評価について</td><td>授業時に指示する</td></tr> <tr> <td>5</td><td>生徒理解・生徒指導と学級・ホームルーム経営</td><td>生徒理解・生徒指導の方法、個別指導・集団指導、学級・ホームルームの指導について</td><td>授業時に指示する</td></tr> <tr> <td>6</td><td>学校における人権教育</td><td>人権教育の現状と課題について、学校保健と安全指導について</td><td>授業時に指示する</td></tr> <tr> <td>7</td><td>特別支援教育の現状と課題</td><td>障がいの種類と配慮事項、障がい児理解と交流教育について</td><td>授業時に指示する</td></tr> <tr> <td>8</td><td>指導案の作成（1）</td><td>授業の準備と配慮事項、学習指導案の書き方、教科指導の学習指導案、板書計画の作成</td><td>授業時に指示する</td></tr> <tr> <td>9</td><td>指導案の作成（2）</td><td>学級（ホームルーム）活動等の指導案について</td><td>授業時に指示する</td></tr> <tr> <td>10</td><td>模擬授業（1）</td><td>作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換</td><td>授業時に指示する</td></tr> <tr> <td>11</td><td>模擬授業（2）</td><td>作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換</td><td>授業時に指示する</td></tr> <tr> <td>12</td><td>模擬授業（3）</td><td>作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換</td><td>授業時に指示する</td></tr> <tr> <td>13</td><td>模擬授業（4）</td><td>作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換</td><td>授業時に指示する</td></tr> <tr> <td>14</td><td>教育実習の実際（1）</td><td>教職フォーラムへの出席、教育実習体験発表の聴講と討議</td><td>授業時に指示する</td></tr> <tr> <td>15</td><td>教育実習の実際（2）</td><td>教育実習総括講義への出席、教育実習の課題テーマについて討議</td><td>授業時に指示する</td></tr> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	教育実習の意義、教育実習への準備と心がまえ等	教育実習の意義と目的、実習の形態と内容について 事前準備の必要性、教育実習の心がまえと教育実習の基本となる事項について	授業時に指示する	2	実習中の勤務の要領	学校の日、一週間の流れ、学校の組織と運営の概要について	授業時に指示する	3	授業の方法と技術	授業のスタイルとスキル、教材研究、学習評価の観点について	授業時に指示する	4	授業の記録と評価	授業研究の意義、授業分析の方法、授業評価について	授業時に指示する	5	生徒理解・生徒指導と学級・ホームルーム経営	生徒理解・生徒指導の方法、個別指導・集団指導、学級・ホームルームの指導について	授業時に指示する	6	学校における人権教育	人権教育の現状と課題について、学校保健と安全指導について	授業時に指示する	7	特別支援教育の現状と課題	障がいの種類と配慮事項、障がい児理解と交流教育について	授業時に指示する	8	指導案の作成（1）	授業の準備と配慮事項、学習指導案の書き方、教科指導の学習指導案、板書計画の作成	授業時に指示する	9	指導案の作成（2）	学級（ホームルーム）活動等の指導案について	授業時に指示する	10	模擬授業（1）	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する	11	模擬授業（2）	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する	12	模擬授業（3）	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する	13	模擬授業（4）	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する	14	教育実習の実際（1）	教職フォーラムへの出席、教育実習体験発表の聴講と討議	授業時に指示する	15	教育実習の実際（2）	教育実習総括講義への出席、教育実習の課題テーマについて討議	授業時に指示する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	教育実習の意義、教育実習への準備と心がまえ等	教育実習の意義と目的、実習の形態と内容について 事前準備の必要性、教育実習の心がまえと教育実習の基本となる事項について	授業時に指示する																																																																
2	実習中の勤務の要領	学校の日、一週間の流れ、学校の組織と運営の概要について	授業時に指示する																																																																
3	授業の方法と技術	授業のスタイルとスキル、教材研究、学習評価の観点について	授業時に指示する																																																																
4	授業の記録と評価	授業研究の意義、授業分析の方法、授業評価について	授業時に指示する																																																																
5	生徒理解・生徒指導と学級・ホームルーム経営	生徒理解・生徒指導の方法、個別指導・集団指導、学級・ホームルームの指導について	授業時に指示する																																																																
6	学校における人権教育	人権教育の現状と課題について、学校保健と安全指導について	授業時に指示する																																																																
7	特別支援教育の現状と課題	障がいの種類と配慮事項、障がい児理解と交流教育について	授業時に指示する																																																																
8	指導案の作成（1）	授業の準備と配慮事項、学習指導案の書き方、教科指導の学習指導案、板書計画の作成	授業時に指示する																																																																
9	指導案の作成（2）	学級（ホームルーム）活動等の指導案について	授業時に指示する																																																																
10	模擬授業（1）	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する																																																																
11	模擬授業（2）	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する																																																																
12	模擬授業（3）	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する																																																																
13	模擬授業（4）	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する																																																																
14	教育実習の実際（1）	教職フォーラムへの出席、教育実習体験発表の聴講と討議	授業時に指示する																																																																
15	教育実習の実際（2）	教育実習総括講義への出席、教育実習の課題テーマについて討議	授業時に指示する																																																																
関連科目	教職課程で学んだ全科目																																																																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td>『新編 教育実習の常識』</td><td>教育実習を考える会</td><td>蒼丘書林</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『新編 教育実習の常識』	教育実習を考える会	蒼丘書林	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	『新編 教育実習の常識』	教育実習を考える会	蒼丘書林																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	授業における積極性・貢献度（30%）、模擬授業（40%）、提出物（30%）によって総合的に評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	教育実習はこれまで学んできたことの総まとめです。よい実習ができるよう、十分に準備してください。																																																																		
担当者の研究室等	鎌田研究室・吉田研究室：寝屋川キャンパス 7 号館 3 階																																																																		
備考	教職フォーラム（10 月最終土曜日）、教育実習総括講義（11 月最終土曜日）には必ず出席すること。 ポータルシステムを通して連絡・呼出、資料配布、課題提示・提出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を必ずすること。 担当者により、授業の具体的な内容・方法が若干異なる場合がある。																																																																		

事前・事後学習総時間はおおよそ 30 時間程度となる。

科目名	教職実践演習（中・高）	科目名（英文）	Practicum in Prospective Teachers
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口 雄一, 朝日 素明, 鎌田 祥輝, 西村 晃一, 松浦 正典, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	○教育実習を終え、各自の問題点を明確化しながら今後の自らの実践課題をグループワーク等を通して再認識し、教員としての適性や ICT の活用など実践的な力量について確認する。 ○中学・高校での現場体験学習をもとに、現職・元教員、教育委員会指導主事等と研究交流し、生徒理解を通して生徒指導・進路指導ができることを確認する。 ○教科に関する科目の担当者や科目の指導主事・現職教員と連携協議し、専門科目・教職科目の学習を深め、授業実践ができることを確認する。 ○教員としての適性や力量、特に「授業を創造する意欲と能力」「対人関係能力と社会性・協調性」「使命感・責任感」「学校教育活動におけるリーダーシップ」等を有していることを確認する。
到達目標	免許教科に関する学習、中学校での学習、今日的な教育問題に関する学習など、様々な学習を通して自身の課題を見つめ直し、教員としての適性や力量について確認することができる。
授業方法と留意点	○教職課程の専任教員 6 名による全体指導と、各専任教員ごとのグループ学習を中心に進める。1 グループは 10 名程度。さらに、長年の実践経験を有する教員から実践を通して見えてくる学校現場の諸課題を知り、自己の実習経験と重ねるなかで、新たな課題を探り、かつ全体でも共有していく。 ○教科に関する科目の本学の担当者や近隣市の指導主事および現職教員と連絡協議し、教科指導・生徒指導・進路指導等ができることを確認していく。
科目学習の効果（資格）	○教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目（教職実践演習を除く）の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するものである。 ○教職課程の必修科目。免許資格取得と同時に即学校現場で生かせる実践力を身に付けることが求められる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	「教職実践演習」の全体ガイダンス	・本講義の目的、内容方法についての確認。 ・受講者各自の教育実習後の課題についての確認。 ・2 回目以降に行われるグループ学習の各課題の確認。	教育実習ノートの点検と再確認
	2	いじめの現状	問題行動のなかから特に「いじめ」を取り上げ、その多様性、メカニズム、深刻さを理解する。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	（事前）配布資料の熟読、小レポートの提出
	3	いじめ問題への取り組み	日常の些細な出来事がどのように「いじめ」に発展するのか、教師がいじめを見抜くのはどうして困難なのかを考える。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	（事前）配布資料の熟読、小レポートの提出
	4	「よい授業」を探究する:「わかる授業」と「たのしい授業」	「わかる授業」と「たのしい授業」をめぐる歴史的な論争を紐解きながら、「よい授業」のあり方を探究する。	（事前）「よい授業」のイメージを考えておく。 （事後）小課題を課す。
	5	学習指導案を読み解く	・教師の主體的な授業構想が記されている学習指導案を複数取り上げ、授業の風景や教師のねらいを読み解く。 ・現在一般に使用されている学習指導案の形式の特徴や課題を理解し、授業づくりに関わる知見を深める。	（事前）配付資料を読んでおく。 （事後）小課題を課す。
	6	学校の危機管理（１）：学校管理下の事件・事故	学校管理下における事件・事故発生時の初期対応や事後対応等について文部科学省が運営する学校安全ポータルサイトなどを活用しながらグループで考えることを通して、教員としての学校安全に関する資質・能力を高める。	（事前）学校管理下の事件・事故に関する配布資料を読んでくる。 （事後）ミニレポートを課す。
	7	学校の危機管理（２）：災害	災害発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることや、国土交通省が運営する「ハザードマップポータルサイト」を活用し、居住地や勤務予定地域の災害リスクを調べることを通して、教員としての学校安全に関する資質・能力を高める。	（事前）災害発生時の学校の対応に関する配布資料を読んでくる。 （事後）ミニレポートを課す。
	8	学校における行動問題支援（理論編）	学校生活で生徒が起こす行動問題支援のための基礎理論となる「応用行動分析」の基礎を学ぶ。	（事前）学校生活で生徒が起こす行動問題について具体的にどのようなものがあるかまとめておく。 （事後）教育実習等で気になった生徒の行動問題について「応用行動分析」の立場から自分なりに分析する。
	9	学校における行動問題支援（実践編）	持ち寄ったレポートを基にそれぞれの事例について、事例検討会を行う。	（事前）教育実習等で気になった生徒の行動問題について「応用行動分析」の立場から自分なりに分析したことをレポートにまとめる。 （事後）2 回の学修内容について、配布資料をもとに振り返る。
	10	カウンセリングマインドと生徒対応	カウンセリングの技法を生徒への対応、保護者への対応に応用する。	（事前）カウンセリングマインドについての復習。 中学生あるいはその親のもつ“悩み”を 3 つあげる。

				(事後) 小レポート
	11	「自分」を知る	教育職における「自己を知る」ことの重要性を知り、そのための一方法としてのエゴグラム作成を行う。	(事前) 「自分」について考える。 (事後) 小レポート
	12	生徒指導: 生徒理解と学級運営	・生徒指導の定義と目的をふまえ、生徒理解と学級運営について学ぶ。 ・実際にあった事例を参考に実践的なワークショップ型演習を行い、理解を深める。	(事前) 配布資料を熟読する。 (事後) 小レポートの提出
	13	進路指導: 保護者対応とキャリア教育	・キャリア教育の必要性と意義をふまえ、学校と家庭・地域との連携方法について学ぶ。 ・実際にあった事例を参考に実践的なワークショップ型演習を行い、理解を深める。	(事前) 配布資料を熟読する。 (事後) 小レポートの提出
	14	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)	近隣市の教育委員会との連携協力のもとに、中学校現場をグループごとに参観し、生徒指導・進路指導上の実践課題を知る。	中学校における集団づくりと個別指導(生徒指導・進路指導のあり方)についてレポートにまとめる
	15	免許教科における実践上の課題	免許教科ごとに分かれ、その科目の実践上の課題について、教科教育法担当教員が指導する。その上で、研究交流する。	免許教科における実践上の課題について整理する。
関連科目	全ての教職課程必修科目、取得予定免許状に関わる各教科ごとの必修科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	グループ学習が中心となり、各回の授業担当教員から課題を出します。課題の内容や授業に臨む姿勢などを各授業担当教員が評価します(87.5%(12.5%×7名))。また、最終レポートを提出してもらい、グループの担当教員が評価します(12.5%)。これらを合計し、最終的な評価とします。			
学生への メッセージ	教育実習を終えた時点で各自が自らの実習を省察してください。その中で、問題点を見出し、課題を自ら設定し、この科目を軸にしながら、全体講義やグループワークを通して課題克服を目指しながら、さらなる実践的力を身に付けていきましょう。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス7号館3階(朝日、鎌田、西村、松浦、吉田) 寝屋川キャンパス7号館4階(谷口)			
備考	事前・事後総学習時間は、60時間程度である。			

科目名	地域連携教育活動Ⅰ	科目名（英文）	Communitiy-Based Education Support ActivitiesⅠ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子、朝日 素明、鎌田 祥輝、谷口 雄一、西村 晃一、松浦 正典
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	大学近隣の学校で、年間を通じて授業補助、学習支援、学校行事、課外活動等幅広く体験し、自己の適性を把握する機会をもち、人間的成長や社会意識の向上、教員としての愛情と使命感を深めることを目指す。																																																																		
到達目標	① 実際の教育現場を知る。 ② 自身の能力や適性を考え課題を自覚する。 ③ 社会的倫理観を確立する ④ 相手に合わせたコミュニケーションがとれる。 ⑤ ものごとを多面的に考察できる。																																																																		
授業方法と留意点	本科目はサービ斯拉ーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。 活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・部活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ、年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。 原則として、はじめて「地域連携教育活動Ⅰ」を履修する学生を対象とする。																																																																		
科目学習の効果（資格）	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは、教員免許状を取得するのに大いに資する。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>事前指導 1</td><td>活動についての心構え、活動内容の確認、活動計画作成準備。</td><td>学外での活動に際し、活動内容や活動計画の内容を考える。(3時間程度)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>事前指導 2</td><td>学校という教育現場、現在の児童・生徒について。マナーの確認。</td><td>教育現場や児童、生徒への対応やマナーについて調べてくる。(3時間程度)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>事前指導 3</td><td>「守秘義務」についての確認。</td><td>守秘義務とは何かを調べてくる。(3時間程度)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>活動準備</td><td>受け入れ校と協議し、活動計画を作成する。</td><td>受入先との協議を行い、活動計画の素案を考えてくる。(3時間程度)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>活動 1～25</td><td>受け入れ校にて活動（日誌・活動時間票の提出）</td><td>各種活動の事前準備および活動後の報告書（日誌等）の作成</td></tr> <tr> <td>6</td><td>活動報告会</td><td>学外での活動をまとめ、報告会で発表する。</td><td>事前：報告会での発表準備(3時間程度)</td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	事前指導 1	活動についての心構え、活動内容の確認、活動計画作成準備。	学外での活動に際し、活動内容や活動計画の内容を考える。(3時間程度)	2	事前指導 2	学校という教育現場、現在の児童・生徒について。マナーの確認。	教育現場や児童、生徒への対応やマナーについて調べてくる。(3時間程度)	3	事前指導 3	「守秘義務」についての確認。	守秘義務とは何かを調べてくる。(3時間程度)	4	活動準備	受け入れ校と協議し、活動計画を作成する。	受入先との協議を行い、活動計画の素案を考えてくる。(3時間程度)	5	活動 1～25	受け入れ校にて活動（日誌・活動時間票の提出）	各種活動の事前準備および活動後の報告書（日誌等）の作成	6	活動報告会	学外での活動をまとめ、報告会で発表する。	事前：報告会での発表準備(3時間程度)	7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	事前指導 1	活動についての心構え、活動内容の確認、活動計画作成準備。	学外での活動に際し、活動内容や活動計画の内容を考える。(3時間程度)																																																																
2	事前指導 2	学校という教育現場、現在の児童・生徒について。マナーの確認。	教育現場や児童、生徒への対応やマナーについて調べてくる。(3時間程度)																																																																
3	事前指導 3	「守秘義務」についての確認。	守秘義務とは何かを調べてくる。(3時間程度)																																																																
4	活動準備	受け入れ校と協議し、活動計画を作成する。	受入先との協議を行い、活動計画の素案を考えてくる。(3時間程度)																																																																
5	活動 1～25	受け入れ校にて活動（日誌・活動時間票の提出）	各種活動の事前準備および活動後の報告書（日誌等）の作成																																																																
6	活動報告会	学外での活動をまとめ、報告会で発表する。	事前：報告会での発表準備(3時間程度)																																																																
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	すべての科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、評価する。なお、評価割合はそれぞれ20%である。																																																																		
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																																																																		
担当者の研究室等	7号館3階（朝日研究室）、7号館3階（鎌田研究室）、7号館4階（谷口研究室）、7号館3階（西村研究室）、7号館3階（松浦研究室）、7号館3階（吉田研究室）																																																																		
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等にかかなりの時間を要します。1回の活動に対して、それぞれ1、2時間は必要です。																																																																		

科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名（英文）	Community-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子、朝日 素明、鎌田 祥輝、谷口 雄一、西村 晃一、松浦 正典
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「地域連携教育活動Ⅰ」と異なる、あるいは同じ大学近隣の学校で、年間を通じて授業補助、学習支援、学校行事、課外活動等幅広く体験し、自己の適性を把握する機会をもち、人間的成長や社会意識の向上、教員としての愛情と使命感を深めることを目指す。																																																																		
到達目標	① 「地域連携教育活動Ⅰ」を受け、その体験をもとにさらに学びを深める。 ② 実際の教育現場を知る。 ③ 自身の能力や適性を考え課題を自覚する。 ④ 社会的倫理観を確立する ⑤ 相手に合わせたコミュニケーションがとれる。 ⑥ ものごとを多面的に考察できる。																																																																		
授業方法と留意点	本科目はサービスマニエールの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。 活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ、年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週 1 回 90 分行う。 原則として、「地域連携教育活動Ⅰ」を履修した学生を対象とする。																																																																		
科目学習の効果（資格）	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは、教員免許状を取得するのに大いに資する。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>事前指導 1</td><td>活動についての心構え、活動内容の確認、活動計画作成準備。</td><td>学外での活動に際し、活動内容や活動計画の内容を考える。(3 時間程度)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>事前指導 2</td><td>学校という教育現場、現在の児童・生徒について。マナーの確認。</td><td>教育現場や児童、生徒への対応やマナーについて調べてくる。(3 時間程度)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>事前指導 3</td><td>「守秘義務」についての確認。</td><td>守秘義務とは何かを調べてくる。(3 時間程度)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>活動準備</td><td>受け入れ校と協議し、活動計画を作成する。</td><td>受入先との協議を行い、活動計画の素案を考えてくる。(3 時間程度)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>活動 1～25</td><td>受け入れ校にて活動（日誌・活動時間票の提出）</td><td>各種活動の事前準備および活動後の報告書（日誌等）の作成</td></tr> <tr> <td>6</td><td>活動報告会</td><td>学外での活動をまとめ、報告会で発表する。</td><td>事前：報告会での発表準備 (3 時間程度)</td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	事前指導 1	活動についての心構え、活動内容の確認、活動計画作成準備。	学外での活動に際し、活動内容や活動計画の内容を考える。(3 時間程度)	2	事前指導 2	学校という教育現場、現在の児童・生徒について。マナーの確認。	教育現場や児童、生徒への対応やマナーについて調べてくる。(3 時間程度)	3	事前指導 3	「守秘義務」についての確認。	守秘義務とは何かを調べてくる。(3 時間程度)	4	活動準備	受け入れ校と協議し、活動計画を作成する。	受入先との協議を行い、活動計画の素案を考えてくる。(3 時間程度)	5	活動 1～25	受け入れ校にて活動（日誌・活動時間票の提出）	各種活動の事前準備および活動後の報告書（日誌等）の作成	6	活動報告会	学外での活動をまとめ、報告会で発表する。	事前：報告会での発表準備 (3 時間程度)	7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	事前指導 1	活動についての心構え、活動内容の確認、活動計画作成準備。	学外での活動に際し、活動内容や活動計画の内容を考える。(3 時間程度)																																																																
2	事前指導 2	学校という教育現場、現在の児童・生徒について。マナーの確認。	教育現場や児童、生徒への対応やマナーについて調べてくる。(3 時間程度)																																																																
3	事前指導 3	「守秘義務」についての確認。	守秘義務とは何かを調べてくる。(3 時間程度)																																																																
4	活動準備	受け入れ校と協議し、活動計画を作成する。	受入先との協議を行い、活動計画の素案を考えてくる。(3 時間程度)																																																																
5	活動 1～25	受け入れ校にて活動（日誌・活動時間票の提出）	各種活動の事前準備および活動後の報告書（日誌等）の作成																																																																
6	活動報告会	学外での活動をまとめ、報告会で発表する。	事前：報告会での発表準備 (3 時間程度)																																																																
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	すべての科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、活動報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、評価する。なお、評価割合はそれぞれ 20%である。																																																																		
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階（朝日研究室）、7 号館 3 階（鎌田研究室）、7 号館 4 階（谷口研究室）、7 号館 3 階（西村研究室）、7 号館 3 階（松浦研究室）、7 号館 3 階（吉田研究室）																																																																		
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等かなりの時間を要します。1 回の活動に対して、それぞれ 1、2 時間は必要です。																																																																		

科目名	職業指導 I	科目名 (英文)	Vocational Guidance I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	眞鍋 政明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	高校における職業教育や進路指導の全容を理解することがねらいである。 現代日本の産業構造と雇用状況、教育における職業指導の意義、若者を取りまく諸問題、高校における就職指導の実際、キャリア教育と職業指導などのテーマを、講義、グループ討論、意見発表など多様な学習形態で学ぶ。高校の進路指導をする上で欠かせない内容であるとともに、自らの進路決定をする上で必要な内容も多々含まれる授業である。
到達目標	①キャリア教育（職業指導・進路指導）の目的と方法について理解できる。 ②職業教育の理論、職業指導に必要な実践的な技法が理解できる。 ③社会の変化と生徒の社会的・職業的自立に求められる資質・能力を正しく説明できる。
授業方法と留意点	高校生のキャリア指導、進路指導、職業教育の実際について、授業者の体験にもとづく具体的・実践的な授業を行う予定である。 毎回の授業では、教科書を中心とした説明に加え、グループ討論、意見発表などを取り入れるとともに、レポートを課し代表的な事例を中心に内容をフィードバックするので、各自の考えと比較し、改めて考える機会として欲しい。
科目学習の効果（資格）	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業ガイダンス	自己紹介および授業の目標や意義について（説明・グループワーク等）	事前：これまで自分が受けてきた職業指導、進路指導、キャリア教育について整理する。（2 時間） 事後：配布資料等を確認する（2 時間）
	2	教員免許についてガイダンス	高等学校農業教員免許取得の意義について（説明・グループワーク等）	事前：学習指導要領総則においてキャリア指導や職業指導に係る箇所を調べる（2 時間） 事後：自らの職業についての考えをまとめる（2 時間）
	3	職業教育・進路指導の歴史の変遷①	日本における職業指導の歴史の変遷について（説明・グループワーク等）	事前：日本の職業指導の歴史の変遷について調べる（2 時間） 事後：提示するテーマについてレポートを作成する（2 時間）
	4	職業教育・進路指導の歴史の変遷②	日本における進路指導の歴史の変遷について（説明・グループワーク等）	事前：日本の進路指導の歴史の編成について調べる（2 時間） 事後：提示するテーマについてレポートを作成する（2 時間）
	5	キャリア教育の歴史の変遷	日本におけるキャリア教育の歴史の変遷について（説明・グループワーク等）	事前：日本のキャリア教育の歴史の変遷について調べる（2 時間） 事後：提示するテーマについてレポートを作成する（2 時間）
	6	進路指導の意義と機能	進路指導の意義と機能について（説明・グループワーク等）	事前：進路指導の意義と機能について調べる（2 時間） 事後：提示するテーマについてレポートを作成する（2 時間）
	7	進路指導の組織体制と方法	進路指導の組織体制と方法について（説明・グループワーク等）	事前：進路指導の組織体制と方法について調べる（2 時間） 事後：提示するテーマについてレポートを作成する（2 時間）
	8	キャリア教育の意義と機能	キャリア教育の意義と機能について（説明・グループワーク等）	事前：キャリア教育の意義と機能について調べる（2 時間） 事後：提示するテーマについてレポートを作成する（2 時間）
	9	キャリア教育を充実させるための方策	キャリア教育を充実させるための方策について（説明・グループワーク等）	事前：キャリア教育を充実させるための方策について調べる（2 時間） 事後：提示するテーマについてレポートを作成する（2 時間）
	10	キャリア教育の今後の方向性	キャリア教育の今後の方向性について（説明・グループワーク等）	事前：キャリア教育の今後の方向性について調べる（2 時間） 事後：提示するテーマについてレポートを作成する（2 時間）
	11	キャリア教育の現状	全国調査からみるキャリア教育の現状について（説明・グループワーク等）	事前：キャリア教育の現状について調べる（2 時間） 事後：提示するテーマについてレポートを作成する（2 時間）
	12	大学におけるキャリア教育	大学におけるキャリア教育について（説明・グループワーク等）	事前：大学におけるキャリア教育について調べる（2 時間） 事後：提示するテーマについてレポートを作成する（2 時間）
	13	コンテンツを活用してのワークショップ	「対立する意見をどうまとめていくか？」（説明・グループワーク等）	事前：STEAM 教育について調べる（2 時間） 事後：提示するテーマについてレポートを作成する（2 時間）
	14	職業教育の現状①	大阪府産業教育フェアを視察し、職業系の専門高校の現状について知る（学外実習）	事前：府内の職業系専門高校について調べる（2 時間） 事後：視察後の感想等についてレポートを作成する（2 時間）
	15	職業教育の現状②	大阪府産業教育フェアを視察し、職業系の専門高校の現状について知る（学外実習）	事前：府内の職業系専門高校について調べる（2 時間） 事後：視察後の感想等についてレポートを作成する（2 時間）
関連科目				

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	進路指導・キャリア教育論	望月由紀	学事出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回のレポート(50%)、グループ討論・発表(20%)、期末課題(30%)			
学生への メッセージ	職業指導の視点から、教員という職業を理解するとともに、自己の成長につなげて欲しい。			
担当者の 研究室等	5号館1階			
備考				

科目名	職業指導Ⅱ	科目名（英文）	Vocational Guidance II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	眞鍋 政明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	農業科教員として職業指導（キャリア形成・進路指導）に関する実践的な知識を得ることがねらいである。 高校（特に農業高校）を取り巻く社会の変化と生徒に求められる資質・能力について理解し、職業指導（キャリア形成・進路指導）の実践について講義、グループ討論、意見発表など多様な学習形態で学び、職業指導（キャリア形成・進路指導）に果たす教師の役割について考察する。
到達目標	①職業指導に関する基本的な概念や用語、役割や意義について正しく説明できる。 ②生徒理解に基づくキャリアガイダンス等の素養を身につけ簡単な指導計画の立案ができる。 ③キャリア教育に関わる実践上の課題について理解し教師としての主体的な基礎づくりができる。
授業方法と留意点	高校生のキャリア指導、特に農業高校生の進路指導の実践について、授業者の体験にもとづく具体的・実践的な授業を行う予定である。毎回の授業では、グループ討論、意見発表などを取り入れるとともに、レポートを課し代表的な事例を中心に内容をフィードバックするので、各自の考えと比較し、改めて考える機会として欲しい。
科目学習の効果（資格）	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業ガイダンス	授業の目標や意義、PBLについて（説明・グループワーク等）	事前：PBL 学習導入のメリットについて調べる（2 時間） 事後：提示するテーマについてレポートを作成する（2 時間）
	2	職業指導を踏まえた教育課程の編成	学習指導要領に基づく教育課程と評価の在り方について（説明・グループワーク等）	事前：学習指導要領のねらいについて調べる（2 時間） 事後：提示するテーマについてレポートを作成する（2 時間）
	3	職業教育の魅力化①	文部科学省における産業教育振興策について①（説明・グループワーク等）	事前：産業教育や専門高校の現状について調べる（2 時間） 事後：提示するテーマについてレポートを作成する（2 時間）
	4	職業教育の魅力化②	文部科学省における産業教育振興策について②（説明・グループワーク等）	事前：産業教育や専門高校の課題について調べる（2 時間） 事後：提示するテーマについてレポートを作成する（2 時間）
	5	農業教育の持つ教育力①	課題研究・学校農業クラブ活動等の果たす役割について①（説明・グループワーク等）	事前：課題研究について調べる（2 時間） 事後：提示するテーマについてレポートを作成する（2 時間）
	6	農業教育の持つ教育力②	課題研究・学校農業クラブ活動等の果たす役割について②（説明・グループワーク等）	事前：学校農業クラブ活動について調べる（2 時間） 事後：提示するテーマについてレポートを作成する（2 時間）
	7	農業教育の持つ教育力③	実際に農業高校を視察し、農業教育・職業指導の成果について学ぶ①（学外実習）	事前：視察する高校の学校像について調べる（2 時間） 事後：提示するテーマについてレポートを作成する（2 時間）
	8	農業教育の持つ教育力④	実際に農業高校を視察し、農業教育・職業指導の成果について学ぶ②（学外実習）	事前：視察する高校の学校像について調べる（2 時間） 事後：提示するテーマについてレポートを作成する（2 時間）
	9	農業教育における職業的活動①	知的財産教育、GAP、HACCP の導入による職業的活動の充実について①（説明・グループワーク等）	事前：知的財産教育について調べる（2 時間） 事後：提示するテーマについてレポートを作成する（2 時間）
	10	農業教育における職業的活動②	知的財産教育、GAP、HACCP の導入による職業的活動の充実について②（説明・グループワーク等）	事前：GAP、HACCP について調べる（2 時間） 事後：提示するテーマについてレポートを作成する（2 時間）
	11	高等学校における進路指導の実際①	人権教育に基づく就職・進学に向けた指導について①（説明・グループワーク等）	事前：高校生の就職における現状について調べる（2 時間） 事後：提示するテーマについてレポートを作成する（2 時間）
	12	高等学校における進路指導の実際②	人権教育に基づく就職・進学に向けた指導について②（説明・グループワーク等）	事前：高校生の就職指導における課題について調べる（2 時間） 事後：提示するテーマについてレポートを作成する（2 時間）
	13	雇用と労働の在り方を探る①	ソーシャルビジネスの創出について①（説明・グループワーク等）	事前：社会起業家について調べる（2 時間） 事後：提示するテーマについてレポートを作成する（2 時間）
	14	雇用と労働の在り方を探る②	ソーシャルビジネスの創出について②（説明・グループワーク等）	事前：ソーシャルビジネスプランについて考える（2 時間） 事後：提示するテーマについてレポートを作成する（2 時間）
	15	まとめ	半期の授業についてまとめる（説明・グループワーク等）	事前：後期の授業全般について振り返る（2 時間） 事後：提示するテーマについてレポートを作成する（2 時間）

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	<table><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				3			
3								
参考書								
	番号	書籍名	著者名	出版社名				
	1							
	2							
	3							
評価方法 (基準)	毎回のレポート(50%)、グループ討論・発表(20%)、期末課題(30%)							
学生への メッセージ	職業指導の視点から、教員という職業を理解するとともに、自己の成長につなげて欲しい。							
担当者の 研究室等								
備考								

科目名	教育原理	科目名 (英文)	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語ることができます。しかし、「教育とは一体何だろう？」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないのでしょうか。 この授業では、「教育とは一体何だろう？」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。 これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。 授業担当者は小学校での約 15 年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を「受ける」立場からではなく、生徒と一緒に「創る」立場からの能動的な学びを期待します。
到達目標	教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。
授業方法と留意点	本授業は「教育とは何か？」という本質的な問いについて受講者のみなさん一人一人が考え、自身の教育観を再構築していけるようにします。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話やグループワークなどを通して教育についての学びを進めていきます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、教育について多面的・多角的に考えることができるように配慮します。
科目学習の効果 (資格)	(1) 高等学校教諭 1 種免許状 (2) 中学校教諭 1 種免許状 の取得 (3) 学芸員資格 の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス： 教育について考える	本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。	(事前) テキスト P. 3 を精読しておく。 (事後) 「教育とは一体何だろう」という問いについて自分の考えをまとめておく。
	2	教育の基礎理論①： 教育の必要性	なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。	(事前) テキスト P. 59～63 を精読しておく。 (事後) 教育の必要性について自分の考えを整理しておく。
	3	教育の基礎理論②： 教育の目的	前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。	(事前) テキスト P. 59～63 を精読しておく。 (事後) 教育の目的について自分の考えを整理しておく。
	4	教育の基礎理論③： 子どもの発見	「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。	(事前) テキスト P. 76～85 を精読しておく。 (事後) 子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。
	5	教育の基礎理論④： 教師とは何か	教師という職業や、その教育的役割について考える。	(事前) テキスト P. 69～73 を精読しておく。 (事後) 教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。
	6	教育の基礎理論⑤： 近代の学校の誕生	近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。	(事前) テキスト P. 93～97 を精読しておく。 (事後) 近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。
	7	教育の基礎理論⑥： 家庭と教育	家庭において子どもはどう扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。	(事前) テキスト P. 86～90 を精読しておく。 (事後) 家庭における教育について整理しておく。
	8	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ その 1	「教育とは何か」について、コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの教育思想から考察する。	(事前) コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの人物像について調べる。 (事後) 4 名の教育思想について整理しておく。
	9	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ その 2	前回取り上げた教育思想家 4 名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	(事前) 第 8 回で取り上げた 4 名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物 1 名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 (事後) 授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
	10	西洋の教育思想②：フレーベル・デュイ・モンテッソーリ その 1	「教育とは何か」について、フレーベル・デュイ・モンテッソーリの教育思想から考察する。	(事前) フレーベル・デュイ・モンテッソーリの人物像について調べる。 (事後) 3 名の教育思想について整理しておく。
	11	西洋の教育思想②：フレーベル・デュイ・モンテッソーリ その 2	前回取り上げた教育思想家 4 名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	(事前) 第 10 回で取り上げた 3 名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物 1 名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 (事後) 授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
	12	現代の教育理論： 20 世紀の教育理論	20 世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P. 29～32 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。
	13	現在の教育課題①： 学力問題	現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P. 50～54 を精読しておく。 (事後) 学力問題について整理しておく。
	14	現在の教育課題②： 生涯学習の思想	現在の教育課題の一つである生涯学習について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P. 147～151 を精読しておく。 (事後) 生涯学習の思想について整理しておく。
	15	まとめ： 今後の教育について考える	教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。	(事前) テキスト P. 169～178 を精読しておく。 (事後) 「どのような教員になりたいのか」について自分の考えをまとめる。

関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみるのが大切です。		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	哲学する教育原理	伊藤潔志 編著
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）	文部科学省
	2	高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）	文部科学省
	3	哲学する学校経営	伊藤潔志 編著
評価方法 （基準）	毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート（One Page Portfolio シート）の内容や授業中の学習の様子（60%）や学期末試験の結果（40%）等をもとに総合的に評価します。 また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。		
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。		
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 7 号館 4 階（谷口研究室）		
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。		

科目名	教育における情報通信技術の活用	科目名（英文）	ICT for Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本 はる美
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育現場における情報通信技術の活用について、その歴史的経緯と今後のあり方について理解し、情報モラルと情報活用能力を活用した指導方法、評価方法などについて学修することで、担当教員に必要となる基礎的知識や資質を養う。また、情報通信技術を用いて模擬授業を行い、授業を展開できる能力を身につけることを目指す。																																																																		
到達目標	教育現場における情報通信技術の活用と意義を理解し、教員に求められる幅広い知識を身につけるとともに、情報通信技術を活用した教育指導技術の向上を図る。また、授業研究、教材設計、指導計画の作成を通して、授業での情報通信技術の活用や授業準備、学習評価などで必要となる技能について身につける。さらに、ディスカッションや模擬授業などを通して実践的な指導方法を修得する。																																																																		
授業方法と留意点	授業研究、教材設計、指導計画の作成を通して、授業での情報通信技術の活用や授業準備、学習評価などで必要となる技能について身につける。さらに、ディスカッションや模擬授業などを通して実践的な指導方法を修得する。																																																																		
科目学習の効果（資格）	【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：情報通信技術を活用した教育の理論及び方法																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション</td><td>情報通信技術の歴史的経緯 教育現場における情報通信技術の活用のあり方</td><td>事前：情報通信技術とは何かを調べる（120 分） 事後：これまでに受けた授業で情報通信技術を使った例と簡単な説明を考える（120 分）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>教育分野で情報通信技術を活用するための意義と役割</td><td>デジタル教材や遠隔授業などの活用事例の紹介 情報セキュリティとデータの活用、校務の活用への推進</td><td>事前：情報通信技術を活用した授業事例のメリットと課題を書き出す（120 分） 事後：デジタル教材や遠隔授業についてまとめる（120 分）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>情報セキュリティ、情報モラル、情報活用能力</td><td>ICT 環境と情報セキュリティ 情報モラルの教育 オフィスソフトの活用</td><td>事前：大学の ICT 環境と教育ツールについてまとめる（120 分） 事後：授業で出された課題の取り組み（120 分）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>ICT 環境の整備と教育データの活用</td><td>学習者の多様性に対応するためのツールや機能の活用 教育データ等を使った指導や学習評価への活用</td><td>事前：アクセシビリティについて調べる（120 分） 事後：授業で出された課題の取り組み（120 分）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>デジタル教材と遠隔授業の研究</td><td>情報通信技術を活用した教材と指導法の作成 遠隔授業への活用</td><td>事前：デジタル教材の内容を計画する（120 分） 事後：作成したデジタル教材の修正をする（120 分）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>デジタル教材の研究（グループ）</td><td>情報通信技術を活用した教材と指導法の検討</td><td>事前：指導法を作成する（120 分） 事後：作成した指導法の見直しをする（120 分）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>模擬授業（グループ）</td><td>情報通信技術を活用した指導の実践</td><td>事前：模擬授業の練習をする（120 分） 事後：模擬授業を振り返る（120 分）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>模擬授業の振り返り</td><td>情報通信技術を活用した教材と模擬授業の評価</td><td>事前：模擬授業の課題を考える（120 分） 事後：模擬授業の振り返りと課題（120 分）</td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	情報通信技術の歴史的経緯 教育現場における情報通信技術の活用のあり方	事前：情報通信技術とは何かを調べる（120 分） 事後：これまでに受けた授業で情報通信技術を使った例と簡単な説明を考える（120 分）	2	教育分野で情報通信技術を活用するための意義と役割	デジタル教材や遠隔授業などの活用事例の紹介 情報セキュリティとデータの活用、校務の活用への推進	事前：情報通信技術を活用した授業事例のメリットと課題を書き出す（120 分） 事後：デジタル教材や遠隔授業についてまとめる（120 分）	3	情報セキュリティ、情報モラル、情報活用能力	ICT 環境と情報セキュリティ 情報モラルの教育 オフィスソフトの活用	事前：大学の ICT 環境と教育ツールについてまとめる（120 分） 事後：授業で出された課題の取り組み（120 分）	4	ICT 環境の整備と教育データの活用	学習者の多様性に対応するためのツールや機能の活用 教育データ等を使った指導や学習評価への活用	事前：アクセシビリティについて調べる（120 分） 事後：授業で出された課題の取り組み（120 分）	5	デジタル教材と遠隔授業の研究	情報通信技術を活用した教材と指導法の作成 遠隔授業への活用	事前：デジタル教材の内容を計画する（120 分） 事後：作成したデジタル教材の修正をする（120 分）	6	デジタル教材の研究（グループ）	情報通信技術を活用した教材と指導法の検討	事前：指導法を作成する（120 分） 事後：作成した指導法の見直しをする（120 分）	7	模擬授業（グループ）	情報通信技術を活用した指導の実践	事前：模擬授業の練習をする（120 分） 事後：模擬授業を振り返る（120 分）	8	模擬授業の振り返り	情報通信技術を活用した教材と模擬授業の評価	事前：模擬授業の課題を考える（120 分） 事後：模擬授業の振り返りと課題（120 分）	9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	情報通信技術の歴史的経緯 教育現場における情報通信技術の活用のあり方	事前：情報通信技術とは何かを調べる（120 分） 事後：これまでに受けた授業で情報通信技術を使った例と簡単な説明を考える（120 分）																																																																
2	教育分野で情報通信技術を活用するための意義と役割	デジタル教材や遠隔授業などの活用事例の紹介 情報セキュリティとデータの活用、校務の活用への推進	事前：情報通信技術を活用した授業事例のメリットと課題を書き出す（120 分） 事後：デジタル教材や遠隔授業についてまとめる（120 分）																																																																
3	情報セキュリティ、情報モラル、情報活用能力	ICT 環境と情報セキュリティ 情報モラルの教育 オフィスソフトの活用	事前：大学の ICT 環境と教育ツールについてまとめる（120 分） 事後：授業で出された課題の取り組み（120 分）																																																																
4	ICT 環境の整備と教育データの活用	学習者の多様性に対応するためのツールや機能の活用 教育データ等を使った指導や学習評価への活用	事前：アクセシビリティについて調べる（120 分） 事後：授業で出された課題の取り組み（120 分）																																																																
5	デジタル教材と遠隔授業の研究	情報通信技術を活用した教材と指導法の作成 遠隔授業への活用	事前：デジタル教材の内容を計画する（120 分） 事後：作成したデジタル教材の修正をする（120 分）																																																																
6	デジタル教材の研究（グループ）	情報通信技術を活用した教材と指導法の検討	事前：指導法を作成する（120 分） 事後：作成した指導法の見直しをする（120 分）																																																																
7	模擬授業（グループ）	情報通信技術を活用した指導の実践	事前：模擬授業の練習をする（120 分） 事後：模擬授業を振り返る（120 分）																																																																
8	模擬授業の振り返り	情報通信技術を活用した教材と模擬授業の評価	事前：模擬授業の課題を考える（120 分） 事後：模擬授業の振り返りと課題（120 分）																																																																
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	情報リテラシー科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>改訂 4 版 情報モラル&情報セキュリティ</td><td>㈱富士通ラーニングメディア</td><td>FOM 出版</td></tr> <tr> <td>2</td><td>ICT 活用指導力アップ 教育の情報化 教員になるための情報教育入門</td><td>梅田恭子他</td><td>実教出版</td></tr> <tr> <td>3</td><td>ICT 活用の理論と実践 DX 時代の教師をめざして</td><td>稲垣忠・佐藤和紀</td><td>北大路書房</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	改訂 4 版 情報モラル&情報セキュリティ	㈱富士通ラーニングメディア	FOM 出版	2	ICT 活用指導力アップ 教育の情報化 教員になるための情報教育入門	梅田恭子他	実教出版	3	ICT 活用の理論と実践 DX 時代の教師をめざして	稲垣忠・佐藤和紀	北大路書房																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	改訂 4 版 情報モラル&情報セキュリティ	㈱富士通ラーニングメディア	FOM 出版																																																																
2	ICT 活用指導力アップ 教育の情報化 教員になるための情報教育入門	梅田恭子他	実教出版																																																																
3	ICT 活用の理論と実践 DX 時代の教師をめざして	稲垣忠・佐藤和紀	北大路書房																																																																
評価方法（基準）	授業中の課題とレポート（60%）、授業中に作成した教材と模擬授業の教材と発表（40%）をもとに総合して評価する																																																																		
学生へのメッセージ	各自の IT スキルを使って教育にどれだけ活用するかが重要ですので、主体的に学習に取り組んでください。																																																																		
担当者の研究室等備考	11 号館 8 階 橋本研究室																																																																		

科目名	教育における情報通信技術の活用	科目名（英文）	ICT for Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	橋本 はる美
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育現場における情報通信技術の活用について、その歴史的経緯と今後のあり方について理解し、情報モラルと情報活用能力を活用した指導方法、評価方法などについて学修することで、担当教員に必要となる基礎的知識や資質を養う。また、情報通信技術を用いて模擬授業を行い、授業を展開できる能力を身につけることを目指す。
到達目標	教育現場における情報通信技術の活用と意義を理解し、教員に求められる幅広い知識を身につけるとともに、情報通信技術を活用した教育指導技術の向上を図る。また、授業研究、教材設計、指導計画の作成を通して、授業での情報通信技術の活用や授業準備、学習評価などで必要となる技能について身につける。さらに、ディスカッションや模擬授業などを通して実践的な指導方法を修得する。
授業方法と留意点	授業研究、教材設計、指導計画の作成を通して、授業での情報通信技術の活用や授業準備、学習評価などで必要となる技能について身につける。さらに、ディスカッションや模擬授業などを通して実践的な指導方法を修得する。
科目学習の効果（資格）	【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：情報通信技術を活用した教育の理論及び方法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	情報通信技術の歴史的経緯 教育現場における情報通信技術の活用のあり方	事前：情報通信技術とは何かを調べる（120 分） 事後：これまでに受けた授業で情報通信技術を使った例と簡単な説明を考える（120 分）
	2	教育分野で情報通信技術を活用するための意義と役割	デジタル教材や遠隔授業などの活用事例の紹介 情報セキュリティとデータの活用、校務の活用への推進	事前：情報通信技術を活用した授業事例のメリットと課題を書き出す（120 分） 事後：デジタル教材や遠隔授業についてまとめる（120 分）
	3	情報セキュリティ、情報モラル、情報活用能力	ICT 環境と情報セキュリティ 情報モラルの教育 オフィスソフトの活用	事前：大学の ICT 環境と教育ツールについてまとめる（120 分） 事後：授業で出された課題の取り組み（120 分）
	4	ICT 環境の整備と教育データの活用	学習者の多様性に対応するためのツールや機能の活用 教育データ等を使った指導や学習評価への活用	事前：アクセシビリティについて調べる（120 分） 事後：授業で出された課題の取り組み（120 分）
	5	デジタル教材と遠隔授業の研究	情報通信技術を活用した教材と指導法の作成 遠隔授業への活用	事前：デジタル教材の内容を計画する（120 分） 事後：作成したデジタル教材の修正をする（120 分）
	6	デジタル教材の研究（グループ）	情報通信技術を活用した教材と指導法の検討	事前：指導法を作成する（120 分） 事後：作成した指導法の見直しをする（120 分）
	7	模擬授業（グループ）	情報通信技術を活用した指導の実践	事前：模擬授業の練習をする（120 分） 事後：模擬授業を振り返る（120 分）
	8	模擬授業の振り返り	情報通信技術を活用した教材と模擬授業の評価	事前：模擬授業の課題を考える（120 分） 事後：模擬授業の振り返りと課題（120 分）
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			

関連科目	情報リテラシー科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	改訂 4 版 情報モラル&情報セキュリティ	㈱富士通ラーニングメディア	FOM 出版
	2	ICT 活用指導力アップ 教育の情報化 教員になるための情報教育入門	梅田恭子他	実教出版
	3	ICT 活用の理論と実践 DX 時代の教師をめざして	稲垣忠・佐藤和紀	北大路書房

評価方法（基準）	授業中の課題とレポート（60%）、授業中に作成した教材と模擬授業の教材と発表（40%）をもとに総合して評価する
----------	---

学生へのメッセージ	各自の IT スキルを使って教育にどれだけ活用するかが重要ですので、主体的に学習に取り組んでください。
-----------	---

担当者の研究室等備考	11 号館 8 階 橋本研究室
------------	-----------------

科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名 (英文)	Neighborhood Crime Prevention
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ◎, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, J 科 : JT01361a1～JT01365a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト（青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー）で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応：理工学部 [II]
到達目標	この授業を通じて学生には、自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようになることが期待される。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよい。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視野、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。
科目学習の効果（資格）	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守るようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか？	昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どういう理由でねらわれているのか探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約 1 時間）
	2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか？	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。1 件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の数え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約 1 時間）
	3	犯罪はなぜ起こるのか？どうやって減らすのか？	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すきがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約 1 時間）
	4	大阪の治安はどのくらい悪いのか？どのように防犯対策を進めているのか？	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト 1 を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約 1 時間）
	5	街頭犯罪——ひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約 1 時間）
	6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最近の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約 1 時間）
	7	性犯罪——街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約 1 時間）
	8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約 1 時間）
	9	ストーカー、DV（配偶者からの暴力）	ストーカーや DV は、個人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まづさが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約 1 時間）
	10	詐欺——高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約 1 時間）
	11	サイバー犯罪——子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでの ID、パスワード盗難など、身近なサイバー犯罪を取り上げる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約 1 時間）

	12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販売の実態、取締の方法を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青パト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	15	まとめ	全体のまとめを通じて、身近な犯罪を未然に防ぐには何が必要か結論を探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
関連科目	法学部「刑事政策」「経済刑法」「地域防犯政策」			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	期末課題(70%)、講義毎回の確認ペーパー(30%)の合計によって評価する。			
学生への メッセージ	勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できるところからでよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえと思う。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館 9 階 中沼研究室			
備考	講義毎回の課題正解の提示などは Teams を通じて行う。			

科目名	マーケティングと歴史	科目名 (英文)	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, J 科 : JT01361a1～JT01365a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。
到達目標	マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	講義形式、出席率 80%以上を成績評価の対象とする。
科目学習の効果 (資格)	マーケティングの発想で社会を見る眼が養えます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングに関連する内容を読みましよう。(所要時間 1 時間)
	2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1 時間)
	3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、価格政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1 時間)
	4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通チャネル政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1 時間)
	5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、販売促進政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1 時間)
	6	マーケティングの S T P アプローチ	市場細分化について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、S T P アプローチに関連する内容を読みましよう。(所要時間 1 時間)
	7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1 時間)
	8	マーケティングの歴史的研究と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的研究と三井越後屋の商法について説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、三井越後屋に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1 時間)
	9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、呉服商の流通機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1 時間)
	10	越後屋の仕入機構 (1)	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1 時間)
	11	越後屋の仕入機構 (2)	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1 時間)
	12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、いとう松坂屋・大丸屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1 時間)
	13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店化に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1 時間)
	14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店業態に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1 時間)
	15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングと歴史の総復習をしておきましょう。(所要時間 1 時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大規模呉服商の流通革新と進化ー三井越後屋における商品仕入れ体制の変遷ー	武居 奈緒子	千倉書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	史料が語る三井のあゆみ	三井文庫編	吉川弘文館
	2	消費行動 新版	武居 奈緒子	晃洋書房
	3			

評価方法	期末レポート (80%)、中間レポート (20%)
------	---------------------------

(基準)	
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館 8 階 武居教授室
備考	

科目名	教養刑事法	科目名 (英文)	Introduction to Criminal Law
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, J 科 : JT01361a1～JT01365a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	・全国的にみて大学生活を通じて学生による犯罪現象が散見される。 ・たとえば、保護責任者遺棄致死事案（サークル仲間の酩酊学生放置）、あるいは、未成年者誘拐や児童福祉法違反（SNS 上での出会い）、職業安定法違反（バイトでの風俗あっせん）、ストーカー行為規制法違反（25 通程度のメッセージ送信）、偽造と詐欺（定期券改ざん・闇バイトを通じた各種犯罪への関与）、偽計業務妨害（カンニング・飲食店備品に対する悪戯・バズリを狙う悪質動画作成）の事案など枚挙にいとまがない。 ・これらの犯罪は、おそらく大学生当人は犯罪だと思って実行したものでないであろう。しかし、こうした犯罪知識を身につけておかねば知らぬぬ間に罪人とされ、実名報道により学生本人の将来の芽を摘み取ることになりかねない。 ・他方、これらの犯罪の被害者になりかねない学生も相当数いるであろう。犯罪被害者になったとき、迅速な対処法が被害を軽減するが、こうした知識を身につける機会が全学生にあまりない。 本講座では、「転ばぬ先の杖」として学生時代に身につけておくべき犯罪とその被害対処法を提供し、全学生に安全な学生生活と社会人となった後も有用な刑事法教育を提供することを目的とする。																																																														
到達目標	この授業を通じて学生には、 ・刑法の謙抑性、罪刑法定主義、犯罪の成立要件および刑罰制度について説明できる ・薬物犯罪をはじめとする学生にとくに身近な犯罪現象の内容について説明できる ・犯罪被害者となった場合の対処方法について説明できる ようになることが期待される。																																																														
授業方法と留意点	・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICT ツールとして Microsoft 社の teams を用いる。 ・課題提示や資料配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 ・近時、刑事法の改正が相次いでいるので、最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を																																																														
科目学習の効果（資格）	・身近な刑事法の問題を理解できる																																																														
授業計画	<table> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> <tr> <td>1</td><td>ガイダンス 刑法とは何か</td><td> ・授業の進め方と文献紹介 ・刑法の意義 ・刑法の機能 ・刑法学とは何か </td><td> 事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> <tr> <td>2</td><td>刑法の基礎</td><td> ・古典学派と近代学派 ・わが国の刑法思想 ・刑罰の正当化根拠（なぜ国家による死刑をはじめとする刑罰執行は正当化されるのか） </td><td> 事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> <tr> <td>3</td><td>刑法の解釈</td><td> ・罪刑法定主義 ・刑法の法源 ・刑法の解釈 </td><td> 事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> <tr> <td>4</td><td>犯罪の基本概念</td><td> ・犯罪の成立要件 </td><td> 事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> <tr> <td>5</td><td>薬物犯罪</td><td> ・覚せい剤取締法 ・大麻取締法 ・向精神薬取締法 </td><td> 事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> <tr> <td>6</td><td>カンニング行為と偽計業務妨害</td><td> ・阪大入試問題漏洩事件 ・明治大学替え玉入試事件 ・京大 2 次試験問題ヤフー知恵袋漏洩事件 ・大学入試共通テスト問題漏洩事件 </td><td> 事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> <tr> <td>7</td><td>飲み会と保護責任者遺棄罪</td><td> ・飲み会において生じうる犯罪現象 </td><td> 事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> <tr> <td>8</td><td>定期券の偽造と詐欺罪</td><td> ・有価証券偽造罪と詐欺罪の関係 </td><td> 事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> <tr> <td>9</td><td>ストーカー行為規制法</td><td> ・ストーカーにならないために ・ストーカーの被害者にならないために </td><td> 事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> <tr> <td>10</td><td>DV とデート DV</td><td> ・DV の類型 </td><td> 事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> <tr> <td>11</td><td>性犯罪、家出と未成年者誘拐罪および児童福祉法違反</td><td> ・各種性犯罪 ・家出と各種誘拐罪 </td><td> 事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> <tr> <td>12</td><td>少年犯罪と「特定少年」制度の発足</td><td> ・少年法の厳罰化 ・20 歳未満の実名報道 </td><td> 事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> <tr> <td>13</td><td>犯罪被害者救済①</td><td> ・告訴と被害届 ・証拠保全の重要性 </td><td> 事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> <tr> <td>14</td><td>犯罪被害者救済②</td><td> ・被害者に対する種々の救済制度 ・被害者の実名報道と被害者バッシング問題 </td><td> 事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス 刑法とは何か	・授業の進め方と文献紹介 ・刑法の意義 ・刑法の機能 ・刑法学とは何か	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	2	刑法の基礎	・古典学派と近代学派 ・わが国の刑法思想 ・刑罰の正当化根拠（なぜ国家による死刑をはじめとする刑罰執行は正当化されるのか）	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	3	刑法の解釈	・罪刑法定主義 ・刑法の法源 ・刑法の解釈	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	4	犯罪の基本概念	・犯罪の成立要件	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	5	薬物犯罪	・覚せい剤取締法 ・大麻取締法 ・向精神薬取締法	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	6	カンニング行為と偽計業務妨害	・阪大入試問題漏洩事件 ・明治大学替え玉入試事件 ・京大 2 次試験問題ヤフー知恵袋漏洩事件 ・大学入試共通テスト問題漏洩事件	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	7	飲み会と保護責任者遺棄罪	・飲み会において生じうる犯罪現象	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	8	定期券の偽造と詐欺罪	・有価証券偽造罪と詐欺罪の関係	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	9	ストーカー行為規制法	・ストーカーにならないために ・ストーカーの被害者にならないために	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	10	DV とデート DV	・DV の類型	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	11	性犯罪、家出と未成年者誘拐罪および児童福祉法違反	・各種性犯罪 ・家出と各種誘拐罪	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	12	少年犯罪と「特定少年」制度の発足	・少年法の厳罰化 ・20 歳未満の実名報道	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	13	犯罪被害者救済①	・告訴と被害届 ・証拠保全の重要性	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	14	犯罪被害者救済②	・被害者に対する種々の救済制度 ・被害者の実名報道と被害者バッシング問題	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																												
1	ガイダンス 刑法とは何か	・授業の進め方と文献紹介 ・刑法の意義 ・刑法の機能 ・刑法学とは何か	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																												
2	刑法の基礎	・古典学派と近代学派 ・わが国の刑法思想 ・刑罰の正当化根拠（なぜ国家による死刑をはじめとする刑罰執行は正当化されるのか）	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																												
3	刑法の解釈	・罪刑法定主義 ・刑法の法源 ・刑法の解釈	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																												
4	犯罪の基本概念	・犯罪の成立要件	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																												
5	薬物犯罪	・覚せい剤取締法 ・大麻取締法 ・向精神薬取締法	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																												
6	カンニング行為と偽計業務妨害	・阪大入試問題漏洩事件 ・明治大学替え玉入試事件 ・京大 2 次試験問題ヤフー知恵袋漏洩事件 ・大学入試共通テスト問題漏洩事件	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																												
7	飲み会と保護責任者遺棄罪	・飲み会において生じうる犯罪現象	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																												
8	定期券の偽造と詐欺罪	・有価証券偽造罪と詐欺罪の関係	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																												
9	ストーカー行為規制法	・ストーカーにならないために ・ストーカーの被害者にならないために	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																												
10	DV とデート DV	・DV の類型	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																												
11	性犯罪、家出と未成年者誘拐罪および児童福祉法違反	・各種性犯罪 ・家出と各種誘拐罪	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																												
12	少年犯罪と「特定少年」制度の発足	・少年法の厳罰化 ・20 歳未満の実名報道	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																												
13	犯罪被害者救済①	・告訴と被害届 ・証拠保全の重要性	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																												
14	犯罪被害者救済②	・被害者に対する種々の救済制度 ・被害者の実名報道と被害者バッシング問題	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																												

	15	まとめ	これまでの講義内容の総復習	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
関連科目	刑事法概論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門刑事法（第8版）	三井誠	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	開講時に各種判例・補助教材を紹介する		
	2			
	3			
評価方法 （基準）	・形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft forms から課題を配信する。各回の課題の得点を合算して評価対象とする（講義の理解度 5%＋課題の得点 95%）。定期試験は実施しない。			
学生への メッセージ	・法律学の学習は予習よりも問題演習を中心とした復習が効果的です。 ・刑事事件に関心なる人はぜひ受講してください。 ・新聞、テレビ、ラジオ、ネットなど媒体は問いませんが、刑法に関する面白いネタがたくさん落ちていきますので、なるべくニュースに接するようにしましょう。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館 10 階 小野教授室			
備考	本講義は、オンデマンド動画配信による授業を数回程度行うことがあります。 オンデマンド動画配信による授業の際には、事前に teams の授業チャネルで告知するとともに、teams アプリより通知をします。			

科目名	現代韓国論	科目名 (英文)	Contemporary Korean Society
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ◎, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, J 科 : JT01361a1～JT01365a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	日本社会に生きる者にとって、似通っているようで異なる、また異なっているようで似通っている、そんな存在である韓国。本授業では、日韓関係の変遷を手がかりとし、現代の韓国社会における変化を中長期的な視点から理解することを目指す。
到達目標	本授業を通じて、現代韓国社会についての理解を深めていく。具体的には、次の各項目を目標とする。 ・韓国現代史について、とりわけポスト冷戦時代の日韓関係史を軸として、概観できるようになる。 ・ポスト「バブル経済」時代における日本社会についての理解を踏まえて、ポスト「民主化」の時代における韓国社会についての理解を深める。
授業方法と留意点	1. 韓国現代史の基礎的事実関係を踏まえつつ、基本的には教科書に基づいて授業を進める。 2. 授業は、①講義、②Moodle を通じたレジュメの配信および課題等の提出、という 2 つの手段を適宜組み合わせで行なう。 3. 授業進捗の調整によって、授業の進行スケジュールに変更が生じる可能性がある。 4. 本授業に関するフィードバックは、必要に応じて授業内で行なうこととする。
科目学習の効果 (資格)	韓国現代史および現代の日韓関係に関する基礎的な理解

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の目指すところ、テキストの内容について概説する。 (「まえがき」「プロローグ」についてはここで取り上げる。)	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
	2	第 I 部 相互信頼から相互不信へ	第 1 章 盧泰愚来日と天皇訪韓構想 (1)	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	3	第 I 部 相互信頼から相互不信へ	第 1 章 盧泰愚来日と天皇訪韓構想 (2)	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	4	第 I 部 相互信頼から相互不信へ	第 2 章 慰安婦問題の展開 (1)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	5	第 I 部 相互信頼から相互不信へ	第 2 章 慰安婦問題の展開 (2)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	6	第 I 部 相互信頼から相互不信へ	第 3 章 村山談話と靖国問題 (1)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	7	第 I 部 相互信頼から相互不信へ	第 3 章 村山談話と靖国問題 (2)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	8	第 I 部 相互信頼から相互不信へ	第 4 章 「小春日和」の時代 (1)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	9	第 II 部 対立激化への展開	第 4 章 「小春日和」の時代 (2) 第 5 章 領土問題の相克と定着化 (1)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	10	第 II 部 対立激化への展開	第 5 章 領土問題の相克と定着化 (2) 第 6 章 民主党政権と李明博政権 (1)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	11	第 II 部 対立激化への展開	第 6 章 民主党政権と李明博政権 (2)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	12	第 II 部 対立激化への展開	第 7 章 外交争点としての「慰安婦」問題 (1)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	13	第 II 部 対立激化への展開	第 7 章 外交争点としての「慰安婦」問題 (2)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	14	第 II 部 対立激化への展開	第 8 章 文在寅政権の転換	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	15	「平成時代の日韓関係」から何が見えるのか	韓国現代史と現代韓国社会 (講義のまとめと補遺)	[事前学習] 提示する資料を読んでおくこと (目安時間: 60 分) [事後学習] 提示した資料を参照しながら、テキス

				トを読み返しておくこと（目安時間：60分）
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	平成時代の日韓関係―楽観から悲観への三〇年―	木村幹・田中悟・金容民〔編著〕	ミネルヴァ書房
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	韓国愛憎	木村幹	中公新書
	2	日韓歴史認識問題とは何か	木村幹	ミネルヴァ書房
	3			
評価方法 （基準）	定期試験は実施せず、授業内で提示する課題に対する提出物に基づく総合評価（100%）を実施する。 （課題の提示および提出は、Moodle を通じて行なう。）			
学生への メッセージ	韓国語の能力は不要です。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 7号館4階 田中研究室			
備考	・授業のスケジュール・進行形式については、出席者の状況によって調整する可能性もある。 ・なお、2019年度まで開講していた「現代韓国事情」を履修し、単位を取得済みの者は、本講義を履修することはできない。			

科目名	役立つ金融知力	科目名 (英文)	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大西 史一
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, J 科 : JT01361a1～JT01365a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	自分が歩みたい人生の実現を、人生 100 年にも迫り長期化する老後を、お金の面から支えるには、早くから長期的な資産形成に取り組み、単に「貯める（貯蓄）」だけではなく、貯めたお金を上手に「殖やす（投資）」ことが必要です。また、投資は「自己責任」が原則であり、取引にかかわるリスクやトラブルから自己防衛するための知識も重要です。 早ければ社会人になってすぐ、自分で自分の年金（確定拠出年金）の運用を始めなければなりません。何で、どのように運用するか...決められますか？ 若年層の長期的資産形成を促すため、NISA 制度も改正されるなど政府の取り組みも本格化しています。経済的に自立し、将来の夢の実現のためにも、金融に関する知識や情報を正しく理解し、各自の生活設計に合う適切な取引を選択、実践するスキルや判断力（＝金融リテラシー）を若いうちから身につけておくことが必要です。 本講義では、社会人としても知っておくべき金融・経済に関する理解を深めるとともに、資産形成のために必要な基礎知識の習得を目指します。				
到達目標	ライフステージの重要な意思決定の場面で、的確な行動やより良い判断へと導くリテラシーを養うことを目標に、金融やその背景となる経済知識について、基礎的な内容から実務の入口までをわかりやすく解説します。 具体的には ①金融や市場のさまざまな働きを知り、社会や自分との関わりについて理解を深めることができる ②金融リテラシーを習得し、自ら主体的に判断し活用していく能力が身につく ③自己のライフプランに基づく資金計画を作成し、課題を発見して適切な解決策を考えることができる 以上を到達目標とします。				
授業方法と留意点	基本的に対面による講義形式で授業を進めます。各回のテーマ毎にレジュメを配布します。 授業では、重要と思われるところを積極的に聴き取りメモをとり、「なぜ」と自分の頭で考える訓練をしてください。 また、日頃から、経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。 なお課題への参加や提出物は期限を厳守してください。				
科目学習の効果（資格）	日々、刻々と変わるマーケットを理解し、中長期の経済トレンドを理解することができるようになります。 金融商品の基礎知識を取得することにより、少なからず将来の資産形成に役立つことでしょう。 また、ファイナンシャルプランナー資格（民間資格）や、ファイナンシャル・プランニング技能士（国家資格）の資格取得にも役立ちます。				
授業計画		回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
		1	ガイダンス／金融知力リテラシーの必要性	講義内容と成績評価等について説明した後、これからの時代、「金融リテラシー（知力）」を身につけなければならない必要性について説明します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
		2	金融・経済の基礎①	是非とも知っておいていただきたい金融と経済の基本について説明します。また、マーケットの視点で注目度の高い経済統計などの話もします。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
		3	金融・経済の基礎②	物価と金利の関係や、金融政策や財政政策など経済と金融のかかわり、そして世界経済・日本経済の実情とその将来を解説します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
		4	ライフプランニング①	ライフプラン上の夢や希望をかなえるには、お金の問題が常に関わります。人生に不可欠な「三大資金」を理解し、ライフプラン実現のために必要な資金計画の大切さを解説します。	自分の夢、今後の人生における最優先課題を考えてみる。
		5	ライフプランニング②	ライフイベント表・キャッシュフロー表作成の重要性を解説し、具体的な作成手順を説明します	課題①として、大学卒業後のライフイベントを設定し、キャッシュフロー表を作成してもらいます。 （注）課題内容を変更する可能性もあります。
		6	金融商品の基礎／貯蓄型商品	金融商品の特性について説明した後、預貯金などの貯蓄型商品の種類、特徴とリスク、金利について解説します。	課題②として、授業テーマに先行して、株式投資ゲームの参加要項について案内します。
		7	リスクとリターン	投資は利益（リターン）をあげることを目的とする行為ですが、必ずリスクを伴います。このリスクとリターンの関係や、リスクの低減手法、いわゆるリスクマネジメントについて解説します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
		8	株式の基礎①	株式投資の魅力とリスクについて説明します。また、実際の取引の仕組みや、株式投資を行う際に留意点などについて解説します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
		9	株式の基礎②	株価の要因について説明します。また、株価のファンダメンタルズ分析手法や、株価チャート、テクニカル分析の基礎についても紹介します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
		10	債券の基礎①	債券とは何かから始め、多岐にわたる種類や特徴・リスクを説明します。また、利回りや”格付け”についても学びます。	財務省のHPで20年度予算の概要を確認
		11	債券の基礎②	債券の利率と利回り、債券価格と金利の関係について学びます。合わせて、現在のわが国の財政構造などの時事問題を理解してもらいます。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
		12	投資信託について	皆さんにとって最も身近になる金融商品です。投資信託の仕組みや特長、メリットとリスク、効率的な商品選択を紹介しします。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
	13	外為市場・外貨建て商品につ	外国為替市場の仕組みや取引について	日経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持	

		いて	解説した後、代表的な外貨建て商品をリスクも併せて紹介します。	って頂きたい。																
	14	証券化商・デリバティブ／セーフティネット	派生商品の概要について紹介します。そのあと、預金者および投資家を保護するための法令等について説明します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。																
	15	講義のまとめ	これまでの講義を振り返り、ポイントを整理します。定期試験対策としての位置づけでもあります。	必ずレジュメを復習し、理解できるようにしてください。																
関連科目	民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学 など																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>金融経済と資産運用の基礎</td><td>日興リサーチセンター</td><td>ブイツーソリューション</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	金融経済と資産運用の基礎	日興リサーチセンター	ブイツーソリューション	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	金融経済と資産運用の基礎	日興リサーチセンター	ブイツーソリューション																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	定期試験　：　60％ 課題①　キャッシュフロー表の作成　：　25％ 課題②　株式投資ゲームの参加　　：　10％ 講義への取り組み姿勢　：　5％ (注) 履修学生が多大の場合、課題①　キャッシュフロー表の作成を、他の課題に変更する可能性があります。																			
学生への メッセージ	長年の実務経験をベースに、より実践的かつ現実的な話を、体験談も踏まえて分かりやすくお伝えしたいと思っています。 皆さんのこれからの時代は、金融・経済の知識、そして金融商品の知識があるのとないのとでは、将来の人生設計が大きく変わる可能性があります。是非、資産形成について一緒に学んでいきましょう。 なお、授業計画は変更される場合があります																			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 3号館1階（教務課） 寝屋川キャンパス 7号館2階（非常勤講師室）																			
備考	オフィスアワー　：　授業の前後に対応します。 その他、質問等は　メールもしくはMoodleのメッセージを利用してください。 この講義は、SMB C日興証券グループによる「寄附講座」です。																			

科目名	SDGs で読み解く淀川流域	科目名 (英文)	The Yodo-gawa river region and SDGs
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石田 裕子、赤澤 春彦、朝田 康禎、郭 進、加嶋 章博、久保 貞也、小林 健治、後藤 和子、鳥谷部 壤、中塚 華奈、増田 知也、八木 紀一郎
ディプロマポリシー (DP)	V 科：Ⅱ◎, R 科：A◎, A 科：A◎, M 科：A1○, E 科：B△, C 科：Ⅱ◎, L 科：DP2◎, D 科：DP1◎, S 科：DP1◎, J 科：DP1◎, W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1, L 科：LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1, J 科：JT01361a1～JT01365a1, W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	この科目は、琵琶湖の源流域から大阪湾までの淀川流域に着目し、人々の多様な暮らしや経済・文化・環境等について、SDGs の視点から学びを深め、淀川流域の多様性と持続可能な発展を考える教養科目です。本科目は、今、多くの企業からも注目を集めている SDGs について、淀川流域を素材としながら、グローバルに考え行動するという社会人・企業人として必要な教養を身に付けることを目的とします。																																																																		
到達目標	(1) 大阪をはじめとする関西地域の暮らしと密接な関わりを持つ淀川流域について、いかなる社会的課題が存在するかを、第三者に分かりやすく説明できる。 (2) SDGs について理解を深め、上記 (1) の社会的課題について、SDGs との関連性を説明できる。 (3) 地域のニーズや社会的課題を発見し、本講義で得られた知見を基に、その解決策を検討することができる。																																																																		
授業方法と留意点	この授業では、摂南大学の近傍を流れる「淀川」の社会・歴史・文化・経済・環境等について、SDGs (2030 年までの世界の目標) との関連性を意識しながら、学部の垣根を越えて、地域の課題を学びます。 毎回の授業は、基本的に教科書に沿って行われます。なお、理解促進のために、必要に応じて、レジュメあるいは補足資料を配布します。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の知識が身につく、それを基に地域の社会的課題について討議できる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ガイダンスー淀川流域のいま・過去・未来とSDGs</td><td>科目全体のガイダンス (担当: 朝田康禎)</td><td>事前: 教科書[序章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認</td></tr> <tr> <td>2</td><td>巨椋池遊水地化構想による淀川流域の治水と環境保全</td><td>将来の淀川流域の洪水対策としてできることは何か? [関連 SDGs 13・6] (担当: 石田裕子)</td><td>事前: 教科書[第1章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認</td></tr> <tr> <td>3</td><td>淀川左岸地域を中心とした水辺整備と流域連携活動</td><td>水辺を楽しく利用するためにはどうすればいいか? [関連 SDGs 9・17] (担当: 石田裕子)</td><td>事前: 教科書[第2章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認</td></tr> <tr> <td>4</td><td>淀川流域の洪水対策</td><td>淀川上流に新たなダムは必要なのか? [関連 SDGs 7・16] (担当: 鳥谷部壤)</td><td>事前: 教科書[第4章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認</td></tr> <tr> <td>5</td><td>些細なことでも豊かになる淀川流域の生活</td><td>なぜ人は水辺に集まるのか? [関連 SDG 15] (担当: 小林健治)</td><td>事前: 教科書[第7章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認</td></tr> <tr> <td>6</td><td>淀川水系にみる文化と観光の経済学</td><td>文化と経済の相乗効果とは? [関連 SDGs 3・12] (担当: 後藤和子)</td><td>事前: 教科書[第6章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認</td></tr> <tr> <td>7</td><td>地域資源としての淀川の記憶</td><td>淀川の風景遺産とは何だろう? [関連 SDG 11] (担当: 加嶋章博)</td><td>事前: 教科書[第8章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認</td></tr> <tr> <td>8</td><td>淀川流域の名所化と文化遺産</td><td>淀川流域の文化遺産をいかに活用すべきか? [関連 SDG 11] (担当: 赤澤春彦)</td><td>事前: 教科書[第9章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認</td></tr> <tr> <td>9</td><td>淀川流域での学生活動</td><td>学生の活動が地域に与える影響とはなにか? [関連 SDGs 1・4・11] (担当: 久保貞也)</td><td>事前: 教科書[コラム③p. 154]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認</td></tr> <tr> <td>10</td><td>所得格差と教育問題</td><td>淀川の左岸と右岸とでどう違う? [関連 SDGs 1・4・11] (担当: 八木紀一郎)</td><td>事前: 教科書[第11章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認</td></tr> <tr> <td>11</td><td>都市農業の歴史的遺産と公益的機能</td><td>淀川流域の都市農業の特徴とは? [関連 SDG 2] (担当: 中塚華奈)</td><td>事前: 教科書[第10章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認</td></tr> <tr> <td>12</td><td>人口移動や通勤流動でみる地域経済</td><td>淀川は人の流れや経済にどのような影響を与えるのか? [関連 SDG 5] (担当: 朝田康禎)</td><td>事前: 教科書[第12章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認</td></tr> <tr> <td>13</td><td>産業連関分析</td><td>淀川流域における3市 (門真市・寝屋川市・枚方市) の経済・産業構造はどう違うのか? [関連 SDGs 8・9] (担当: 郭進)</td><td>事前: 教科書[第13章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認</td></tr> <tr> <td>14</td><td>住民が主役の広報戦略</td><td>淀川流域の魅力を発信するにはどうすればいいか? [関連 SDG 17] (担当: 増田知也)</td><td>事前: 教科書[第14章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認</td></tr> <tr> <td>15</td><td>プラスチックごみの発生源抑制対策</td><td>大阪湾はお魚よりもプラスチックごみのほうが多いって本当? [関連 SDGs 14・12] (担当: 鳥谷部壤)</td><td>事前: 教科書[第15章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の総復習・レポート課題に取り組む</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンスー淀川流域のいま・過去・未来とSDGs	科目全体のガイダンス (担当: 朝田康禎)	事前: 教科書[序章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認	2	巨椋池遊水地化構想による淀川流域の治水と環境保全	将来の淀川流域の洪水対策としてできることは何か? [関連 SDGs 13・6] (担当: 石田裕子)	事前: 教科書[第1章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認	3	淀川左岸地域を中心とした水辺整備と流域連携活動	水辺を楽しく利用するためにはどうすればいいか? [関連 SDGs 9・17] (担当: 石田裕子)	事前: 教科書[第2章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認	4	淀川流域の洪水対策	淀川上流に新たなダムは必要なのか? [関連 SDGs 7・16] (担当: 鳥谷部壤)	事前: 教科書[第4章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認	5	些細なことでも豊かになる淀川流域の生活	なぜ人は水辺に集まるのか? [関連 SDG 15] (担当: 小林健治)	事前: 教科書[第7章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認	6	淀川水系にみる文化と観光の経済学	文化と経済の相乗効果とは? [関連 SDGs 3・12] (担当: 後藤和子)	事前: 教科書[第6章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認	7	地域資源としての淀川の記憶	淀川の風景遺産とは何だろう? [関連 SDG 11] (担当: 加嶋章博)	事前: 教科書[第8章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認	8	淀川流域の名所化と文化遺産	淀川流域の文化遺産をいかに活用すべきか? [関連 SDG 11] (担当: 赤澤春彦)	事前: 教科書[第9章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認	9	淀川流域での学生活動	学生の活動が地域に与える影響とはなにか? [関連 SDGs 1・4・11] (担当: 久保貞也)	事前: 教科書[コラム③p. 154]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認	10	所得格差と教育問題	淀川の左岸と右岸とでどう違う? [関連 SDGs 1・4・11] (担当: 八木紀一郎)	事前: 教科書[第11章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認	11	都市農業の歴史的遺産と公益的機能	淀川流域の都市農業の特徴とは? [関連 SDG 2] (担当: 中塚華奈)	事前: 教科書[第10章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認	12	人口移動や通勤流動でみる地域経済	淀川は人の流れや経済にどのような影響を与えるのか? [関連 SDG 5] (担当: 朝田康禎)	事前: 教科書[第12章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認	13	産業連関分析	淀川流域における3市 (門真市・寝屋川市・枚方市) の経済・産業構造はどう違うのか? [関連 SDGs 8・9] (担当: 郭進)	事前: 教科書[第13章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認	14	住民が主役の広報戦略	淀川流域の魅力を発信するにはどうすればいいか? [関連 SDG 17] (担当: 増田知也)	事前: 教科書[第14章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認	15	プラスチックごみの発生源抑制対策	大阪湾はお魚よりもプラスチックごみのほうが多いって本当? [関連 SDGs 14・12] (担当: 鳥谷部壤)	事前: 教科書[第15章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の総復習・レポート課題に取り組む
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンスー淀川流域のいま・過去・未来とSDGs	科目全体のガイダンス (担当: 朝田康禎)	事前: 教科書[序章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認																																																																
2	巨椋池遊水地化構想による淀川流域の治水と環境保全	将来の淀川流域の洪水対策としてできることは何か? [関連 SDGs 13・6] (担当: 石田裕子)	事前: 教科書[第1章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認																																																																
3	淀川左岸地域を中心とした水辺整備と流域連携活動	水辺を楽しく利用するためにはどうすればいいか? [関連 SDGs 9・17] (担当: 石田裕子)	事前: 教科書[第2章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認																																																																
4	淀川流域の洪水対策	淀川上流に新たなダムは必要なのか? [関連 SDGs 7・16] (担当: 鳥谷部壤)	事前: 教科書[第4章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認																																																																
5	些細なことでも豊かになる淀川流域の生活	なぜ人は水辺に集まるのか? [関連 SDG 15] (担当: 小林健治)	事前: 教科書[第7章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認																																																																
6	淀川水系にみる文化と観光の経済学	文化と経済の相乗効果とは? [関連 SDGs 3・12] (担当: 後藤和子)	事前: 教科書[第6章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認																																																																
7	地域資源としての淀川の記憶	淀川の風景遺産とは何だろう? [関連 SDG 11] (担当: 加嶋章博)	事前: 教科書[第8章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認																																																																
8	淀川流域の名所化と文化遺産	淀川流域の文化遺産をいかに活用すべきか? [関連 SDG 11] (担当: 赤澤春彦)	事前: 教科書[第9章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認																																																																
9	淀川流域での学生活動	学生の活動が地域に与える影響とはなにか? [関連 SDGs 1・4・11] (担当: 久保貞也)	事前: 教科書[コラム③p. 154]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認																																																																
10	所得格差と教育問題	淀川の左岸と右岸とでどう違う? [関連 SDGs 1・4・11] (担当: 八木紀一郎)	事前: 教科書[第11章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認																																																																
11	都市農業の歴史的遺産と公益的機能	淀川流域の都市農業の特徴とは? [関連 SDG 2] (担当: 中塚華奈)	事前: 教科書[第10章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認																																																																
12	人口移動や通勤流動でみる地域経済	淀川は人の流れや経済にどのような影響を与えるのか? [関連 SDG 5] (担当: 朝田康禎)	事前: 教科書[第12章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認																																																																
13	産業連関分析	淀川流域における3市 (門真市・寝屋川市・枚方市) の経済・産業構造はどう違うのか? [関連 SDGs 8・9] (担当: 郭進)	事前: 教科書[第13章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認																																																																
14	住民が主役の広報戦略	淀川流域の魅力を発信するにはどうすればいいか? [関連 SDG 17] (担当: 増田知也)	事前: 教科書[第14章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認																																																																
15	プラスチックごみの発生源抑制対策	大阪湾はお魚よりもプラスチックごみのほうが多いって本当? [関連 SDGs 14・12] (担当: 鳥谷部壤)	事前: 教科書[第15章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の総復習・レポート課題に取り組む																																																																
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>SDGs で読み解く淀川流域 近畿の水源地から地球の未来を考えよう</td><td>後藤和子・鳥谷部壤 編著</td><td>昭和堂</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	SDGs で読み解く淀川流域 近畿の水源地から地球の未来を考えよう	後藤和子・鳥谷部壤 編著	昭和堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	SDGs で読み解く淀川流域 近畿の水源地から地球の未来を考えよう	後藤和子・鳥谷部壤 編著	昭和堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	第2回目～15回目までの授業内で実施される理解度確認 (クイズ or 簡単な小レポートなど) (いずれも5点満点、14回分で計70点) と、期末のレポート (30点) の合計100点満点で評価する。なお、期末のレポートは、最終回の授業時に各担当教員によって提示される課題一覧の中から、																																																																		

	いずれか1つを選択し、A4で2枚程度のレポート作成に取り組む。
学生への メッセージ	今、企業や地方自治体からも注目を集め、全世界で取り組んでいるSDGsについて、身近な地域を素材と一緒に考えましょう。就活や社会人となっても、この経験はきっと役に立つはず。他学部の教員から、多様な視点を学べるのも魅力です。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 1号館3階 都市環境工学科 石田研究室 寝屋川キャンパス 1号館7階 経済学部 後藤研究室、郭研究室、朝田研究室
備考	SDGsの17の目標とその内容は次の通り。SDG1（貧困をなくそう）、SDG2（飢餓をゼロに）、SDG3（すべての人に健康と福祉を）、SDG4（質の高い教育をみんなに）、SDG5（ジェンダー平等を実現しよう）、SDG6（安全な水とトイレを世界中に）、SDG7（エネルギーをみんなにそしてクリーンに）、SDG8（働きがいも経済成長も）、SDG9（産業と技術革新の基盤をつくろう）、SDG10（人や国の不平等をなくそう）、SDG11（住み続けられるまちづくりを）、SDG12（つくる責任 つかう責任）、SDG13

科目名	データサイエンス実践	科目名 (英文)	Practical Data Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久保 貞也, 朝田 康禎, 植杉 大, 片田 喜章, 橋本 はる美, 牧野 幸志
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, J 科 : JT01361a1～JT01365a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	これからの社会では実務のさまざまな場面でデータを適切に扱い、分析するデータサイエンスのスキルが重視される。データサイエンスのスキルはどの分野でも重要視されている「情報を扱う力」であり、すべての学生が対象となる。 ビジネスの現場では顧客情報の分析による、商品開発やサービスの提案などにおける意思決定プロセスなどでも大きな力を発揮する。これからの進路を決めたり、日常の行動で判断にも役立つものとなる。 本科目では理系・文系に関わらず大学生から社会人において役立つデータ収集と分析スキルを基礎から学べる状況を作り、さらに AI を含む実践的な応用についても多方面の事例を通じてわかりやすく学ぶ。
到達目標	この講義の到達目標は以下の通りである。 (1) 現代社会でのデータサイエンスの重要性と限界を説明できる (2) データサイエンスのために必要な EXCEL 等汎用ソフトの基礎的な操作法を身に付けている (3) インターンシップや卒業研究レベルのデータ分析の手順が設計できる
授業方法と留意点	本科目ではすべての学部学生が興味を持てるように、心理学、経済学、工学、教育学などの多方面の教員によるオムニバス形式で講義、演習を行う。実際に PC を操作してデータ収集、データ分析を行うため、毎回の出席が必要である。
科目学習の効果 (資格)	社会で役立つ実践的なデータ処理能力、AI を活用する力、卒業研究、調査報告書作成、分析ソフトウェアの操作

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	データサイエンスが必要とされる理由 (オリエンテーション)	開講にあたってのポイント説明、受講生の期待調査、 Society 5.0 時代のデータの価値について S 科 久保教授	事前の学修進展度 学修ノートの作成
	2	データ活用の最新事例	データサイエンスを学ぶためのハード、ソフト両面の説明、AI を前提とした社会のあり方 S 科 久保教授	データサイエンスの事例を調べる 学修ノートの作成
	3	データ分析の準備	Excel によるデータ整理、基本統計量からわかる事柄 S 科 牧野准教授	Excel の操作に関する復習 学修ノートの作成
	4	Excel でできるデータ分析	ピボットテーブルの有効活用 S 科 橋本准教授	Excel の操作に関する復習 学修ノートの作成
	5	Excel でできる統計分析	データの関係がわかる関数 S 科 橋本准教授	Excel の操作に関する復習 学修ノートの作成
	6	オープンデータの収集と活用	RESAS (地域経済分析システム) によるオープンデータの分析 W 科 植杉教授	RESAS の操作 学修ノートの作成
	7	Excel で行える高度な分析	Excel によるオープンデータの研究活動への活用方法 W 科 朝田准教授	オープンデータの事例を調べる 学修ノートの作成
	8	商品企画につながる分析実習	統計分析ソフトウェア (SPSS) によるデータ整理 S 科 牧野准教授	統計学に関する予習・復習 学修ノートの作成
	9	優良顧客を見つける方法	SPSS による統計分析の実習 S 科 牧野准教授	学修ノートの作成
	10	データから相性を評価する	ビジネスデータ分析の実際 S 科 牧野准教授	学修ノートの作成
	11	スマホでできるアンケート調査	GoogleForms の便利な使い方 S 科 牧野准教授	GoogleForms について調べる 学修ノートの作成
	12	研究につながるデータ分析	実践的な分析手法の活用 S 科 牧野准教授	学修ノートの作成
	13	ロボティクスで利用されるデータ	ロボットを動かすデータ処理 E 科 片田准教授	学修ノートの作成
	14	広告効果のデータ分析	FileMaker Pro によるフィールドワークノートづくり S 科 久保教授	FileMaker の事例について調べる 学修ノートの作成
	15	データサイエンスの知識を今後に活かす	スモールグループディスカッション (ELSI、データの活用、人間中心の新しい社会) S 科 久保教授	ELSI について調べる 学修ノートの整理 事後の学修進展度

関連科目	データサイエンス展開
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業での課題 70%、事前事後の学修進捗度(アンケート) 15%、学修ノート 15%、以上を総合して 60%以上を合格とする。なお、無断欠席が 20%以上の場合は成績評価の対象外とするので注意すること。
学生への メッセージ	商品企画や心理テスト、世論調査などわたしたちの普段の生活でデータは分析され、活用されています。みなさんが「自分の専門」プラス「データサイエンス」の力をつけると大きな可能性が拓けます。日常生活から研究活動、ビジネスの現場でも活用できるデータサイエンスを総合大学ならではの環境で学びましょう。 授業への遅刻は実習参加の妨げになるため十分注意してください。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 11号館7階 久保教授室、牧野准教授室、11号館8階 橋本准教授室、1号館7階 植杉教授室、朝田准教授室、1号館4階 片田准教授室
備考	

科目名	ジェンダーとダイバーシティ	科目名 (英文)	Gender and Diversity
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ◎, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, J 科 : JT01361a1～JT01365a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、以下の 4 点を理解することが期待される。 1) グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れていることを知り、ジェンダー視点で俯瞰する。 2) 「境界線」も一つの視野では理解できないことから、ジェンダーの基本的理解はもちろん、主な思潮を通して社会を読む。 3) さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ (多様性) を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。 4) 日常生活やビジネスの場面でのコミュニケーションの必要性を理解し、アサーティブコミュニケーションの理論を知る。 SDGs-5
到達目標	ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス理論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって、さまざまな社会現象に対しての発言に活かすことを目標とする。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。
科目学習の効果 (資格)	ダイバーシティマネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・ダイバーシティの世界へようこそ ・政策提言へ向けて	・事前学修: ダイバーシティに関して、調べること (1 時間) ・事後学修: 身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成すること (3 時間)
	2	ダイバーシティと境界線	・ウチとソトの感覚	・事前学修: 私たちの周りにある伝統や習慣について箇条書きにしておくこと (2 時間) ・事後学修: SDGs # 5 がなぜ日本に問われているのか、その理由について、具体的数字を入れてレポートを書くこと (2 時間)
	3	ジェンダー視点	・フェミニズム×女性学+男性学=人間学 ・ジェンダーギャップ指数 ・シモース・ド・ボーボワール ・性別役割分業観	・事前学修: フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べること (2 時間) ・事後学修: 日本が抱える問題 について、具体的数字を入れてレポートを書くこと (2 時間)
	4	日本の近代化	・大正期の白樺派と女権拡張運動 ・明治の落とし物 ・第 5 次男女共同参画基本計画	・事前学修: 明治・大正・昭和の歴史年表を作成すること (2 時間) ・事後学修: 第五次男女共同参画基本計画を読み、興味関心をもった項目についてレポートを書くこと (2 時間)
	5	国際統計比較	・ジェンダーギャップ、ジェンダーエンパワーメント指数などのデータから日本をみる	・事前学修: 国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考えること (2 時間) ・事後学修: 国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成すること (2 時間)
	6	性役割の形成①	・性役割と発達段階における「刷り込み」 ・性自認 ・GID と SOGI と人権	・事前学修: 性役割を理解し、幼児期から振り返ること (2 時間) ・事後学修: テキスト P40～52 と、授業を受けて理解できたことなどをまとめたレポートを作成 (2 時間)
	7	性役割の形成②	・性自認と家族 ・親役割 ・性的指向	・事前学修: ハラスメントの事例の一つ探し、具体的内容をレポートする 準備をすること (2 時間) ・事後学修: 結婚と母性信仰に関して、レポートを作成 (2 時間)
	8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	・6 名の女性に関するグループワークとプレゼン ・セクシュアリティ	・事前学修: 6 名の女性に関するプレゼン (2 時間) ・事後学修: 6 名の女性から学んだことのレポート作成 (2 時間)
	9	ワークライフバランスとビジネス組織	・ジェンダーマネジメント ・働き方改革	・事前学修: 日本と世界を比較しながら、女性労働について考えること (2 時間) ・事後学修: M 字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成すること (2 時間)
	10	アサーティブコミュニケーション①	・アサーティブとは何か ・世界中でアサーティブネスが用いられる理由	・事前学修: アサーティブネスについて調べること (2 時間) ・事後学修: アサーティブネススキルを用いて問題解決事例を考える (2 時間)
	11	アサーティブコミュニケーション②	・スキルの必要性を理解し、身に付けることを試みる	・事前学修: アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考えること (2 時間) ・事後学修: ワークシート#11 (2 時間)
	12	リプロダクティブ・ヘルス&ライツ	・リプロの正しい意味を理解する ・リプロの歴史と現状の課題を確認する ・DV、デート DV について現状を理解する	・事前学修: リプロの意味と現状を調べる (2 時間) ・事後学修: ワークシート#12 (2 時間)
	13	DV とデート DV	・企業比較から政策提言へ	・事前学修: DV とデート DV に関してレポートを作成 (2 時間) ・事後学修: ワークシート#13 (2 時間)

	14	プレゼンテーション	・政策提言プレゼンテーション ・自由討議	・事前学修：事例研究した内容をプレゼンテーションできるよう練習すること（2時間） ・事後学修各プレゼンテーションについての報告書作成（2時間）
	15	まとめ	・まとめ	・事前学修：まとめのワークシート（2時間） ・事後学修：ダイバーシティ・マネジメントが必要である理由について述べられるようまとめること（2時間）
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社
	2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房
	3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書
評価方法 (基準)	グループワーク（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	みなさんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論、そしてダイバーシティにあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。社会的弱者と呼ばれる私たちの身近な事例を通して、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。			
担当者の 研究室等	石井研究室（寝屋川キャンパス、7号館5階）			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。 受講生のワークの進捗状況や社会現象の発生に応じて内容が前後することもある。			

科目名	データサイエンス展開	科目名 (英文)	Data Science Applications
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	諏訪 晴彦・石井 三恵・伊藤 譲・後藤 一章・瀬川 智広・横山 喬之・米本 涼
ディプロマポリシー (DP)	V 科：Ⅱ◎, R 科：A◎, A 科：A◎, M 科：A1○, E 科：B△, C 科：Ⅱ◎, L 科：DP2◎, D 科：DP1◎, S 科：DP1◎, J 科：DP1◎, W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1, L 科：LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1, J 科：JT01361a1～JT01365a1, W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	IT・インターネットの利用が日常化し人とのつながりが増えるとともに、デジタル情報やデータの影響を受ける場面が飛躍的に増加している。今後のデジタル駆動社会においては情報化・デジタル化の特徴を理解した上で、生活を豊かにしていく「データリテラシー」を身に付けていることが必要となっている。 本科目では、政策、衣食住、ものづくり、イベント広告、まちづくりの広範な分野における数理・データサイエンス・AI とデジタル技術の実践例を通じて、これらが社会や産業、日常生活の基盤になりつつあることを学ぶ。また、高度情報社会において、データを駆使し諸問題を解決する、また価値を創造する人材の素養を涵養する。
到達目標	(1) 数理・データサイエンス・AI が、Society5.0（データ駆動型社会）やインダストリー4.0の基盤となっていること、それが自らの生活と密接に結びつくことを理解し説明できる。 (2) 数理・データサイエンス・AI が対象とする「データの活用領域」は広範にわたり「社会で活用されているデータ」が社会や日常生活の課題解決に不可欠であることを理解し説明できる。 (3) 数理・データサイエンス・AI は様々な適用領域の知見と組み合わせることにより、価値創出するものであることを理解し説明できる。 (4) 数理・データサイエンス・AI は万能ではなく、その活用への留意事項（個人情報、データ倫理、AI 社会原則等）や、情報のセキュリティ・漏洩などデータを守る上での留意事項の重要性を理解し説明できる。
授業方法と留意点	・産官学のさまざまな分野の講師によるオムニバス形式である（12 回分）。 （外部から講師を招聘するため、日程やテーマが変更となることがある。） ・事前学習として、関連動画を視聴（もしくは資料を精読）し興味や関心、講師への質問をレポートとしてまとめる。 ・事後学修では授業で理解したことをまとめ、到達目標の(1)から(4)の達成度を自己分析・評価する。 ・事前事後学習のレポートはすべて ICT ツールを利用する。
科目学習の効果（資格）	・AI・データサイエンスの実際を様々な分野の実務家や研究者から学ぶことで、視野を広め、今後の自身のキャリア形成や就職活動に役立てることができる。 ・数理・データサイエンス・AI の関連資格への興味を拡大することができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	大学人としてのデータサイエンス	本講義の目的と概要 オリエンテーション グループワークの概説	事後学修：レポート（1 時間）
	2	データ駆動社会	・ Society5.0 概論 ・ オープンデータ活用 ・ デジタルトランスフォーメーション (DX)	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1 時間） 事後学修：レポート（1 時間）
	3	サイバーセキュリティ	サイバー攻撃と防御の最前線、データ駆動や AI による最先端のセキュリティ技術を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1 時間） 事後学修：レポート（1 時間）
	4	食サービス×データサイエンス	食品産業におけるデータ分析やデータサイエンスの利活用を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1 時間） 事後学修：レポート（1 時間）
	5	ものづくり×データサイエンス	ものづくりの設計や製造現場におけるデータサイエンスや AI 技術の利活用を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1 時間） 事後学修：レポート（1 時間）
	6	イベント×データサイエンス	イベント企画におけるデジタル技術の利活用を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1 時間） 事後学修：レポート（1 時間）
	7	数理・データサイエンス・AIを知る	・ 数理・データサイエンス・AI のメリット・デメリットをグループワークで学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1 時間） 事後学修：レポート（1 時間）
	8	広告×データサイエンス	広告業界における SNS マーケティングなどデジタル技術・データサイエンスの利活用を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1 時間） 事後学修：レポート（1 時間）
	9	言語×データサイエンス	言語とデータ化、テキストマイニングの仕組みと技術を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1 時間） 事後学修：レポート（1 時間）
	10	まちづくり×データサイエンス	地方創生など新たなまちづくりにおけるデータ分析の利活用を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1 時間） 事後学修：レポート（1 時間）
	11	ヘルスケア×データサイエンス	医薬品開発やヘルスケアにおけるデータサイエンスの利活用を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1 時間） 事後学修：レポート（1 時間）
	12	スポーツ×データサイエンス	選手のコンディションや戦況分析などスポーツ科学におけるデータ分析の利活用を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1 時間） 事後学修：レポート（1 時間）
	13	衣料×データサイエンス	顧客のニーズに即応する衣料品開発と製造におけるデータサイエンスの利活用を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1 時間） 事後学修：レポート（1 時間）
	14	政策×データサイエンス	サイバー空間における大規模人口シミュレーション技術を用いた選挙や年金などの制度設計を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1 時間） 事後学修：レポート（1 時間）
	15	社会人としてのデータサイエンス	社会人として身につけておくべき DX 思考、情報倫理、協働姿勢などをグループワークで学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1 時間） 事後学修：レポート（1 時間）
関連科目	情報系科目すべて			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	事前学習およびグループワーク課題 30%、事後課題レポート 70%で評価する。			
学生への メッセージ	社会で注目されている AI・データサイエンス活用の最前線で活躍している講師陣から学んでください。社会に対する視野を広げることができ、就職活動においても選択肢を増やすことになり有利です。			
担当者の 研究室等	【寝屋川キャンパス】1号館 4F 諏訪教授室、7号館 3F 石井教授室、1号館 3F 伊藤教授室			
備考	米本研究室（7号館5階）			

科目名	コンピュータビジョン入門	科目名 (英文)	Introduction to Computer Vision
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺内 睦博・新居 英志
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, J 科 : JT01361a1～JT01365a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	われわれの視覚機能をコンピュータを使って実現する分野がコンピュータビジョンである。外界から入力される画像や映像から物体認識をしたり、状況を理解させたりすることをプログラムで実現するものである。このためにプログラミングの基礎から始めて、各種の画像処理の手法をプログラム作成を通じて学ぶ。さらに機械学習の初歩的な課題に取り組み、その仕組みを知ることを目的とする。
到達目標	プログラミングの基礎スキルを獲得し、それに基づいて各種の画像処理手法や機械学習の仕組みを学び、自分でプログラミングする素養を身につけること。
授業方法と留意点	毎回、パソコンを使用してプログラムを作成します。初歩的なプログラムの作成から始めて、徐々にステップアップします。欠席した場合には自分でフォローアップしないといけないのでご注意ください。
科目学習の効果 (資格)	基本的なプログラムの作成を通してプログラミングを学び、基本情報処理試験の基礎技能を養います。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション : コンピュータビジョンとは python ことはじめ	授業概要 画像処理と OpenCV python プログラミングの方法	自分でコンピュータビジョンについて調べる。 課題の完成
	2	python 入門 (1)	演算とリスト	授業内容の予習 課題の完成
	3	python 入門 (2)	制御構造と論理演算	授業内容の予習 課題の完成
	4	python 入門 (3)	関数	授業内容の予習 課題の完成
	5	python 入門 (4)	その他	授業内容の予習 課題の完成
	6	OpenCV プラグラミング (1)	画像入力装置と静止画・動画フォーマット デジタル画像と配列	授業内容の予習 課題の完成
	7	OpenCV プラグラミング (2)	色空間 濃淡変換	授業内容の予習 課題の完成
	8	OpenCV プラグラミング (3)	フィルタ処理	授業内容の予習 課題の完成
	9	OpenCV プラグラミング (4)	2 値画像処理	授業内容の予習 課題の完成
	10	OpenCV プラグラミング (5)	複数画像の利用	授業内容の予習 課題の完成
	11	OpenCV プラグラミング (6)	幾何学変換	授業内容の予習 課題の完成
	12	OpenCV プラグラミング (7)	距離画像処理	授業内容の予習 課題の完成
	13	OpenCV プラグラミング (8)	特徴抽出と機械学習	授業内容の予習 課題の完成
	14	機械学習プログラミング (1)	ディープラーニング	授業内容の予習 課題の完成
	15	機械学習プログラミング (2)	最終プロジェクト	授業内容の予習 課題の完成

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	OpenCV による画像処理入門 (改訂第 3 版)	小枝、上田、中村	講談社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内課題 (60%)、プロジェクト課題 (40%)
-----------	----------------------------

学生へのメッセージ	われわれの視覚情報処理を知ることは、脳のしくみを知ることにつながります。プログラミングは創造的な活動のひとつです。文系理系に関わらず、興味のある人の参加を待っています。
-----------	--

担当者の研究室等	寺内研究室 (寝屋川キャンパス、1 1 号館 1 0 階)、新居研究室 (寝屋川キャンパス、7 号館 5 階)
----------	---

備考	
----	--

科目名	SDGs に学ぶ世界の課題	科目名 (英文)	Learning Global Issues from SDGs
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤 譲, 大川 謙蔵, 大塚 正人, 尾山 廣, 佐藤 大作, 白鳥 武, 村瀬 憲昭
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, J 科 : JT01361a1～JT01365a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	この科目は、学部の枠を越えた教養応用科目で、大学教養入門・実践のステップアップの講座としての位置づけられています。 科目のテーマである SDGs（持続可能な開発目標）とは、国連が定めた 2030 年までに達成を目指す 17 の目標で、わが国でもビジネス界のキーワードのひとつになっています。 つまり、この科目は SDGs の全体像を主体的に学ぶ、本格的なアクティブラーニング型教養科目です。反転学習により獲得した基礎知識をグループワーク、ABD と振り返りにより生きた知識として定着させます。さらに、法学、経済学、環境工学、建築学、農学のその分野の第一人者の講義・問題提起から討議を深め、獲得した知識を生きた教養として身に付けることができます。このような流れを通じて、大学生として必要な、SDGs を理解するための教養（特に、社会、経済、環境等）を身につけ、その知識をもとに考え、自分の意見を持ち、討議ができるようになります。
到達目標	(1) 世界の目標 SDGs (2030 年までの世界の目標) について学び、説明と討議をすることができる。 (2) 現代世界の課題について知り、SDGs との関係の説明をすることができる。 (3) 課題に対して、自ら主体的に取り組むことができる。 (4) 自分やチームの考えが効果的に伝わるプレゼンテーションをすることができる。
授業方法と留意点	ABD 読書法と様々な ICT ツールを活用するなど、アクティブラーニングの手法を駆使します。授業開始時には、事前学習における知識の定着を確認するため、ICT ツールによるクイズ、ミニプレゼンを行い、中盤から後半部で各テーマをとりあげます。学生は解説時にはメモをとり、グループワークにより課題に取り組みます。授業の最後には、振り返りシートに授業のふりかえりをまとめます。また、授業資料の管理状態も評価対象です。
科目学習の効果 (資格)	社会課題を議論するための教養として SDGs（2030 年までの世界の目標）を知る。自分たちが未来を創る主体であると感じられるようになる。ABD による SDGs の主体的学び、各分野における第一人者によるテーマの解説、多様なメンバーとの討論により、自分の考えを持ち、討論ができるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、授業の進め方	事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る CHAP 1 を協働でサマリ作成体験 リレープレゼン 振り返りシート	事後 : CHAP 1 を復習して、復習シートを作成する
	2	SDGs とは何か①	理解度確認テスト CHAP2 リレープレゼン、対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 : CHAP2 を学び、ABD サマリを作成する
	3	SDGs とは何か②	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 : Moodle に掲載の資料を読み、ABD サマリを作成しておくこと
	4	SDGs とは何か③	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 : Moodle に掲載の資料を読み、ABD サマリを作成しておくこと
	5	気候変動に関する諸問題 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1 : 目標 13 を学び、ABD サマリを作成する 事前 2 : 下記動画を視聴し、関連する話題に関して説明できるようになっておくこと。 ・気候変動とは https://www.youtube.com/watch?v=WVLDtd5nviw
	6	気候変動に関する諸問題 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1 : 目標 14, 15 を学び、ABD サマリを作成する 事前 2 : 下記動画を視聴し、関連する話題に関して説明できるようになっておくこと。 ・気候変動の対策 https://www.youtube.com/watch?v=dTF9YoQPzJE
	7	日本の食文化 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前 1 : 目標 2, 3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2 : 日本の食文化 1 の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。
	8	日本の食文化 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1 : CHAP3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2 : 日本の食文化 2 の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。 事後 : 第 1 回レポート
	9	地球共生デザインを考える I : 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える～その 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1 : 16, 10 (特に 10.2, 10.3)、5 (特に 5.1, 5.2)、6 (特に 6.3, 6.6)、11 (11.1, 11.2) の ABD サマリを作成する。 事前 2 : 【資料 S】で相関図の導き方を学び、【地球共生デザイン予習課題書 A-カナダ】の動画、資料複数から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、相関図にまとめてみる。その上で阻害問題を解決するプロジェクト提案を考えて PPT1 枚にまとめること。
	10	地球共生デザインを考える II : 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える～その 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1 : 目標 : 16, 10 (特に 10.2, 10.3)、4 (特に 4.5, 4.7)、6 (特に 6.3, 6.6)、11 (11.1, 11.2) の ADB サマリを作成する 事前 2 : 前回も使った【資料 S】で相関図の導き方を学び、【地球共生デザイン予習課題書 B-日本のアイヌ】の動画、資料複数から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、相関図にまと

				めてみる。その上で阻害問題を解決するプロジェクト提案を考えて PPT1 枚にまとめること。																
	11	日本の国際貢献と法整備支援 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1：目標 6、9、13 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2：以下の Web 記事を読み、法制度と法整備の必要性について、の概要を把握しておくこと。 https://www.moj.go.jp/housouken/houso_lta_lta.html																
	12	日本の国際貢献と法整備支援 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前 1：目標 16、11、10 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2：以下の Web 記事の初めの段落と第三の「私見」を読み、当時の社会状況を理解しておくこと。 https://www.moj.go.jp/content/001311759.pdf																
	13	持続可能な企業経営と ESG 投資 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前：CHAP4 を学び、ABD サマリを作成する。																
	14	持続可能な企業経営と ESG 投資 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前：CHAP5 を学び、ABD サマリを作成する。																
	15	成果発表	理解度確認テスト 全体を通しての学びの整理、共有、 プレゼンテーション、振り返り 事後アンケート	事前：SDGs1-17 の復習 事後：第 2 回レポート																
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>「SDGs の考え方と取り組みが、これ一冊でしっかりわかる教科書」(1680 円＋税)</td><td>バウンド</td><td>技術評論社</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「SDGs の考え方と取り組みが、これ一冊でしっかりわかる教科書」(1680 円＋税)	バウンド	技術評論社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	「SDGs の考え方と取り組みが、これ一冊でしっかりわかる教科書」(1680 円＋税)	バウンド	技術評論社																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	・理解度確認クイズ（個人：10%） ・事前・事後学習課題・ABD サマリ（個人：15%） ・取組み姿勢（チーム：20%） ・成果発表・プレゼンテーション 1 回（チーム：10%） ・振り返りシート（個人：20%）、・レポート 2 回（個人：20%）、・授業資料管理（個人：5%） ※以上の合計で 60%以上の学生を合格とする。また、出席率 80%未満は成績評価の対象としない。期末試験は実施しない。																			
学生への メッセージ	授業では、摂南大学のすべての学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生として SDGs 実現のために必要な幅広い教養，コミュニケーション力，ファシリテーション力，学習方法が身に付き，さらに学部，学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。																			
担当者の 研究室等	【枚方キャンパス】大塚教授（薬学部 1 号館 5F） 【寝屋川キャンパス】村瀬准教授（1 号館 7F）、伊藤教授（1 号館 3F）、尾山教授（理工学部 1 号館 9F）、白鳥准教授（1 2 号館 7 階）、佐藤准教授（1 号館 3F）、大川准教授（11 号館 9F）																			
備考	この科目はアクティブラーニング入学式～キックオフセミナー～大学教養入門～大学教養実践からつながる科目で，教養を身につけながら学習法を修得することを目指しています。期末試験はないので，毎回の提出物と授業中の取り組み姿勢が重要です。																			

科目名	まちづくり入門	科目名 (英文)	introduction to Urban Planning
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	熊谷 樹一郎, 池内 淳子, 伊藤 譲, 稲地 秀介, 上野山 裕士, 加嶋 章博, 久保 貞也, 中塚 華奈, 野長瀬 裕二, 野村 佳子, 増田 知也
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ◎, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, J 科 : JT01361a1～JT01365a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	これからの社会において「まち」の役割は重要になっている。まちを発展・維持していくために行政、団体、民間企業などさまざまな主体が計画を立て、課題を克服する活動が続けている。さらに今後は市民、学生が新たな担い手として期待されている。本講義では文理それぞれの観点から講演者を招き実践的な活動について知るとともに、大学の幅広い学術的知見を活用して摂南大学生が貢献するまちづくりの在り方を学び、検討を行う。																																																																		
到達目標	(1) まちづくりの課題を多面的に理解できる (2) 大学生が行えるまちづくりの可能性と限界を理解する (3) 主体性と責任を持ってまちづくりに参加する知識と意識を持っている																																																																		
授業方法と留意点	本授業ではまちづくりに関係する多才な講師によって構成される。行政経験者、民間での実務経験、コンサルティング経験者、および、市民活動の主催や支援、社会貢献の実行者などがそれぞれの専門的知見から「まちづくりとはなにか」を講義する。毎回の授業に予習と復習のための主体的な学びを設定する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	学生として大学の知識、技術を総動員して地域問題解決に当たる姿勢を理解する。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>大学がまちづくりに関わる意義 国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (1)</td><td>オリエンテーション 都市計画とまちづくり 理工学部都市環境工学科 熊谷教授</td><td>事前：シラバスを読み、自分にとっての学修ポイントを検討する 事後：授業担当者から指示する</td></tr> <tr> <td>2</td><td>国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (2)</td><td>交通とまちづくり 京阪ホールディングス枚方市駅周辺開発室 部長 大浅田 寛 氏 他</td><td>授業担当者から指示する</td></tr> <tr> <td>3</td><td>国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (3)</td><td>都心とまちづくり 大阪公立大学大学院工学研究科都市系専攻 嘉名 光市 教授</td><td>授業担当者から指示する</td></tr> <tr> <td>4</td><td>国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (4)</td><td>グループ発表 理工学部都市環境工学科 熊谷教授</td><td>授業担当者から指示する</td></tr> <tr> <td>5</td><td>民間団体が関わるまちづくり (1)</td><td>産業とまちづくり 経済学部 野長瀬教授</td><td>授業担当者から指示する</td></tr> <tr> <td>6</td><td>民間団体が関わるまちづくり (2)</td><td>商業とまちづくり 経営学部 久保准教授</td><td>授業担当者から指示する</td></tr> <tr> <td>7</td><td>民間団体が関わるまちづくり (3)</td><td>空き家とまちづくり 理工学部住環境デザイン学科 稲地准教授</td><td>授業担当者から指示する</td></tr> <tr> <td>8</td><td>民間団体が関わるまちづくり (4)</td><td>観光とまちづくり 経済学部 野村教授</td><td>授業担当者から指示する</td></tr> <tr> <td>9</td><td>民間団体が関わるまちづくり (5)</td><td>グループ発表 理工学部都市環境工学科 熊谷教授</td><td>授業担当者から指示する</td></tr> <tr> <td>10</td><td>市民 (大学生) が関わるまちづくり (1)</td><td>まちづくりの担い手としての市民 法学部 増田講師</td><td>授業担当者から指示する</td></tr> <tr> <td>11</td><td>市民 (大学生) が関わるまちづくり (2)</td><td>福祉とまちづくり 現代社会学部 上野山講師</td><td>授業担当者から指示する</td></tr> <tr> <td>12</td><td>市民 (大学生) が関わるまちづくり (3)</td><td>都市農業とまちづくり 農学部 中塚准教授</td><td>授業担当者から指示する</td></tr> <tr> <td>13</td><td>市民 (大学生) が関わるまちづくり (4)</td><td>歴史・文化とまちづくり 理工学部建築学科 加嶋教授</td><td>授業担当者から指示する</td></tr> <tr> <td>14</td><td>市民 (大学生) が関わるまちづくり (5)</td><td>防災とまちづくり 理工学部建築学科 池内教授</td><td>授業担当者から指示する</td></tr> <tr> <td>15</td><td>大学生がまちづくりで担う役割</td><td>グループ発表 C 科 熊谷教授</td><td>事前：これまでの講義の振り返り 事後：振り返りレポート</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	大学がまちづくりに関わる意義 国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (1)	オリエンテーション 都市計画とまちづくり 理工学部都市環境工学科 熊谷教授	事前：シラバスを読み、自分にとっての学修ポイントを検討する 事後：授業担当者から指示する	2	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (2)	交通とまちづくり 京阪ホールディングス枚方市駅周辺開発室 部長 大浅田 寛 氏 他	授業担当者から指示する	3	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (3)	都心とまちづくり 大阪公立大学大学院工学研究科都市系専攻 嘉名 光市 教授	授業担当者から指示する	4	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (4)	グループ発表 理工学部都市環境工学科 熊谷教授	授業担当者から指示する	5	民間団体が関わるまちづくり (1)	産業とまちづくり 経済学部 野長瀬教授	授業担当者から指示する	6	民間団体が関わるまちづくり (2)	商業とまちづくり 経営学部 久保准教授	授業担当者から指示する	7	民間団体が関わるまちづくり (3)	空き家とまちづくり 理工学部住環境デザイン学科 稲地准教授	授業担当者から指示する	8	民間団体が関わるまちづくり (4)	観光とまちづくり 経済学部 野村教授	授業担当者から指示する	9	民間団体が関わるまちづくり (5)	グループ発表 理工学部都市環境工学科 熊谷教授	授業担当者から指示する	10	市民 (大学生) が関わるまちづくり (1)	まちづくりの担い手としての市民 法学部 増田講師	授業担当者から指示する	11	市民 (大学生) が関わるまちづくり (2)	福祉とまちづくり 現代社会学部 上野山講師	授業担当者から指示する	12	市民 (大学生) が関わるまちづくり (3)	都市農業とまちづくり 農学部 中塚准教授	授業担当者から指示する	13	市民 (大学生) が関わるまちづくり (4)	歴史・文化とまちづくり 理工学部建築学科 加嶋教授	授業担当者から指示する	14	市民 (大学生) が関わるまちづくり (5)	防災とまちづくり 理工学部建築学科 池内教授	授業担当者から指示する	15	大学生がまちづくりで担う役割	グループ発表 C 科 熊谷教授	事前：これまでの講義の振り返り 事後：振り返りレポート
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	大学がまちづくりに関わる意義 国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (1)	オリエンテーション 都市計画とまちづくり 理工学部都市環境工学科 熊谷教授	事前：シラバスを読み、自分にとっての学修ポイントを検討する 事後：授業担当者から指示する																																																																
2	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (2)	交通とまちづくり 京阪ホールディングス枚方市駅周辺開発室 部長 大浅田 寛 氏 他	授業担当者から指示する																																																																
3	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (3)	都心とまちづくり 大阪公立大学大学院工学研究科都市系専攻 嘉名 光市 教授	授業担当者から指示する																																																																
4	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (4)	グループ発表 理工学部都市環境工学科 熊谷教授	授業担当者から指示する																																																																
5	民間団体が関わるまちづくり (1)	産業とまちづくり 経済学部 野長瀬教授	授業担当者から指示する																																																																
6	民間団体が関わるまちづくり (2)	商業とまちづくり 経営学部 久保准教授	授業担当者から指示する																																																																
7	民間団体が関わるまちづくり (3)	空き家とまちづくり 理工学部住環境デザイン学科 稲地准教授	授業担当者から指示する																																																																
8	民間団体が関わるまちづくり (4)	観光とまちづくり 経済学部 野村教授	授業担当者から指示する																																																																
9	民間団体が関わるまちづくり (5)	グループ発表 理工学部都市環境工学科 熊谷教授	授業担当者から指示する																																																																
10	市民 (大学生) が関わるまちづくり (1)	まちづくりの担い手としての市民 法学部 増田講師	授業担当者から指示する																																																																
11	市民 (大学生) が関わるまちづくり (2)	福祉とまちづくり 現代社会学部 上野山講師	授業担当者から指示する																																																																
12	市民 (大学生) が関わるまちづくり (3)	都市農業とまちづくり 農学部 中塚准教授	授業担当者から指示する																																																																
13	市民 (大学生) が関わるまちづくり (4)	歴史・文化とまちづくり 理工学部建築学科 加嶋教授	授業担当者から指示する																																																																
14	市民 (大学生) が関わるまちづくり (5)	防災とまちづくり 理工学部建築学科 池内教授	授業担当者から指示する																																																																
15	大学生がまちづくりで担う役割	グループ発表 C 科 熊谷教授	事前：これまでの講義の振り返り 事後：振り返りレポート																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	原則として、各回の事後レポートがすべて提出されていることも評価の前提となります。グループワークを通じた発表を含む授業中の課題 (60%)、事後レポートの採点結果 (40%) とした上で、総合評価されます。																																																																		
学生へのメッセージ	ソーシャル・イノベーションを成立させるためには広い視野と深い洞察が必要となります。受講生による総合大学の社会貢献活動が実践的なものになるように多面的に学修してください。																																																																		
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス・1 号館 4 階 熊谷教授室																																																																		

備考	
----	--

科目名	グローバル・シチズンシップ海外実習（入門）	科目名（英文）	Overseas Study for Global Citizenship(Introductory)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎, R 科：A◎, A 科：A◎, M 科：A1○, E 科：B△, C 科：Ⅱ◎, L 科：DP2◎, D 科：DP1◎, S 科：DP1◎, J 科：DP1◎, W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1, L 科：LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1, J 科：JT01361a1～JT01365a1, W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の必修科目の一つである。GCMP は、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン（地球市民）の育成を目指す副専攻である。GCMP は、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)目標 4.7 「2030 年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得するようにする」に資するものである。 本科目の受講生は、グローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのいずれかに参加する。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シティズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この授業で得られた反省点を帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習（応用）での学びに生かすことが期待される。 なお、本科目は単独で履修することもできるが、主としてグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の履修者を想定し、GCMP の必修科目「グローバル・シチズンシップ海外実習（入門）」と「海外語学研修」は目標や学習内容を共有する。																																																																		
到達目標	・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。 ・派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 ・派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を自身の言葉で説明できる。 ・事前・事後授業等を含めた訓練により、外国語運用能力を向上させる。派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。 TOEIC（英語の場合）の得点アップなど、客観的指標での成果も得る。 ・英語力または現地言語の能力が不十分、現地事情の理解が不十分などの理由で、「理想とするレベルでの相互理解や信頼関係の構築には至らなかった」という挫折体験も得る。挫折体験と、その体験を帰国後の学びに生かすための計画を自身の言葉で説明できる。 ※以上に加え、各派遣先に特化した到達目標を設定する場合がある。																																																																		
授業方法と留意点	・事前授業、現地派遣、事後授業の 3 つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5 限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合（アルバイト、旅行等）による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 ・グローバル・シチズンシップ副専攻課																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>事前授業①</td><td>留学に向けての動機付け</td><td>なし</td></tr> <tr><td>2</td><td>事前授業②</td><td>参加者間で仲間意識を作る</td><td>レポート提出</td></tr> <tr><td>3</td><td>現地実習</td><td>詳細は説明会、事前授業時に提示</td><td>現地講師の指示により</td></tr> <tr><td>4</td><td>事後授業</td><td>留学での学びのふりかえり</td><td>レポート提出</td></tr> <tr><td>5</td><td>成果報告会</td><td>留学での成果を披露</td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	事前授業①	留学に向けての動機付け	なし	2	事前授業②	参加者間で仲間意識を作る	レポート提出	3	現地実習	詳細は説明会、事前授業時に提示	現地講師の指示により	4	事後授業	留学での学びのふりかえり	レポート提出	5	成果報告会	留学での成果を披露		6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	事前授業①	留学に向けての動機付け	なし																																																																
2	事前授業②	参加者間で仲間意識を作る	レポート提出																																																																
3	現地実習	詳細は説明会、事前授業時に提示	現地講師の指示により																																																																
4	事後授業	留学での学びのふりかえり	レポート提出																																																																
5	成果報告会	留学での成果を披露																																																																	
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	グローバル・シチズンシップ論（入門）、グローバル・シチズンシップ論（応用）、グローバル・シチズンシップ海外実習（応用）、Topics in Global Citizenship（EMI）、摂南大学 PBL プロジェクトⅠなど																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	事前授業評価 30％（規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合） 現地活動評価 40％（現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合） 事後授業評価 30％（成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価）																																																																		
学生へのメッセージ	参加した学生は多くのことを得て帰国しています。ある程度まとまった期間海外に行けるのは今のうちかもしれません。新しいチャレンジとして、この機会をぜひ活用してください。																																																																		
担当者の研究室等	鎌田講師室（寝屋川キャンパス 2 号館 2 階）																																																																		

備考	
----	--

科目名	Topics in Global Citizenship (EMI)	科目名 (英文)	Topics in Global Citizenship (EMI)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	ブー・オミット・サッ・ヤト
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ◎, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科 : R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, J 科 : JT01361a1～JT01365a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	This course is compulsory for those who are taking the Global Citizenship Minor Program. The main goal of this course is for students to understand the necessary knowledge, skills, and attitudes to become a global citizen. Students are expected to have learned basic concepts of global citizenship in グローバル・シチズンシップ論（入門）. This course discusses several specific topics on SDGs, human rights and equality, war and peace, politics and citizenship, economic justice, global environment, and cultural rights. Students will also be empowered and encouraged to take on the responsibilities of global citizenship. Through a problem posing approach, students will be challenged to rethink about dominant ideologies and how they contradict with the ideas of global citizenship. Additionally, there will be opportunities to engage in discussions with students in a foreign country, which will allow students to learn perspectives from those who have with different cultural values. This course will also be using collaborative online international learning (COIL) to learn together with students in different countries.			
到達目標	1. Increase intercultural communicative competency with opportunities to communicate across cultures. 2. Increase knowledge of both historical and recent global events. 3. Acquire necessary skills and behaviors to become a global citizen. 4. Acquire proper attitude to become responsible to the global environment. 5. Improve problem solving ability to tackle global issues. 6. Improve ability to communicate about serious issues using English.			
授業方法と留意点	This course will be taught entirely in English, and the reading materials will also be in English. Students are often required to research for information to expand their knowledge, so that discussions in class will be more informative and in depth. The c			
科目学習の効果（資格）				
授業計画				
	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Course introduction.	Introduction to course outline and materials	
	2	Global citizenship and Sustainable Development Goals (SDGs)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of global citizenship
	3	Global citizenship and Sustainable Development Goals (SDGs)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of SDGs
	4	Human rights and equality	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of human rights
	5	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work, Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
	6	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work, Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
	7	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
	8	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
	9	Politics and the role of citizens	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of citizens participating in politics 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
10	Economic justice	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of economic justice	

				3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
	11	Global environment	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of local environmental issues
	12	Collaboration with Australian and Indonesian students (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
	13	Collaboration with Australian and Indonesian students (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
	14	Collaboration with Australian and Indonesian students (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
	15	Collaboration with Australian and Indonesian students (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
関連科目	グローバル・シチズンシップ論（入門）			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Global Citizenship: Engage in the Politics of a Changing World 【※注意 この教科書は大学のブックセンターで取扱いません。担当教員の指示する方法で購入して下さい。不明の時は教員まで連絡して下さい】	Julie Knutson	Nomad Press
	2			
	3			
評価方法（基準）	Attendance and participation: 30% Completion of assignments: 30% Presentations: 40%			
学生へのメッセージ	Students are encouraged to use English in the classroom to share your ideas with each other. We will be doing online exchanges with students in different countries in this course. This will be an interesting collaboration, so let's look forward to learning together. If you are not confident in your English skills, I will support you so please do not worry.			
担当者の研究室等	教員室 1（2号館2階）			
備考				

科目名	グローバル・シチズンシップ海外実習（応用）	科目名（英文）	Overseas Study for Global Citizenship (Advanced)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー (DP)	V 科：Ⅱ◎, R 科：A◎, A 科：A◎, M 科：A1○, E 科：B△, C 科：Ⅱ◎, L 科：DP2◎, D 科：DP1◎, S 科：DP1◎, J 科：DP1◎, W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科：R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1, L 科：LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1, J 科：JT01361a1～JT01365a1, W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程 (GCMP) の必修科目の一つである。GCMP は、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン（地球市民）の育成を目指す副専攻である。GCMP は、国連が定める持続可能な開発目標 (SDGs) 目標 4.7 「2030 年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得するようにする」に資するものである。 本科目を履修する学生は「グローバル・シチズンシップ海外実習（入門）」または同等の科目を履修済でなければならない。履修者は、グローバル教育センターが主催する海外派遣プログラムのいずれかに参加し、これまでの副専攻および各学部での学びを生かした応用レベルの活動を行う。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シチズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この科目での学びを GCMP の集大成とする成果報告を行い、各学部での卒業研究や進路決定に活用することが期待される。 なお、事前に承認された活動（例：協定校への長期留学を利用した社会貢献プロジェクト）の成果報告をもって本科目の単位を認定する場合がある。			
到達目標	・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有し、当該の派遣プログラムの主題となる社会課題との関連を説明できる。 ・当該の派遣プログラムの主題となる社会課題について、課題の概要と解決への取り組みを実体験に基づいて説明できる。また、日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 ・派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通を行い、相互理解と信頼関係を築く。 ・異なる言語、文化が混在するチームで課題に取り組み、必要に応じてリーダーシップをとる経験を得る。 ・副専攻履修の開始時から継続的な訓練を行って身につけた外国語運用能力をさらに向上させる。帰国後の TOEIC（英語の場合）の得点アップなど、客観的指標での成果も得る。 ・挫折や失敗の経験も含めた成果を、副専攻を新たに履修する後輩学生への助言として還元し、自身の卒業研究や進路決定に生かす。 ※以上に加え、各派遣先に特化した到達目標を設定する場合がある。			
授業方法と留意点	・事前授業、現地派遣、事後授業の 3 つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5 限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合（アルバイト、旅行等）による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 ・年度末にあたる 2～3 月に現地派遣さ			
科目学習の効果（資格）				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会～事前授業～現地派遣～事後授業のサイクルが、年間 2 回実施される。（ ）内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の 2～3 月になる場合のスケジュールである。 ・募集説明会：4 月中旬（9 月下旬～10 月上旬） ・事前授業 10 回：6 月中下旬～7 月下旬（11 月～2 月） ・現地派遣：2 週間程度 8 月中旬～9 月上旬（2 月中下旬～3 月下旬） ・事後授業 5 回（成果報告会含む）：9 月～10 月中旬（3 月～4 月下旬） 【注意】新型コロナウイルス拡大の	派遣先では、安全と健康を最優先しつつ、団体行動、ルール順守が求められる。応用レベルに相応しい成果報告につなげられるよう、積極的に行動し、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。	事前授業では、応用レベルの参加者に相応しい「地球市民」概念の理解、派遣先の社会事情と課題について自ら学び準備をする姿勢が求められる。SDGs 関連のワークショップ、グローバル教育センターが提供する語学トレーニングのプログラムにおいてもリーダーシップをとることが期待される。 事後授業では、現地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとっての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書（レポート）および小グループ
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
関連科目				

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	事前授業評価 30%	(規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合)		
	現地活動評価 40%	(現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合)		
	事後授業評価 30%	(成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)		
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	鎌田講師室 (寝屋川キャンパス 2 号館 2 階)			
備考				

科目名	大学教養基礎Ⅱ	科目名（英文）	
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	上野山 裕士、森 亜貴
ディプロマポリシー（DP）	V 科：Ⅱ◎, R 科：A◎, A 科：A◎, M 科：A1○, E 科：B△, C 科：Ⅱ◎, L 科：DP2◎, D 科：DP1◎, S 科：DP1◎, J 科：DP1◎, W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科：R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1, L 科：LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1, J 科：JT01361a1～JT01365a1, W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	摂南大学のなかでもとくに文系学科における学びについて、対話、グループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニング手法を用いて理解を深める。大学教養基礎Ⅱでは、経営学部、農学部（食農ビジネス学科）、現代社会学部における学びを取り上げる。この講義を通じて履修者は、摂南大学における学修方法を体得するとともに、学修者自身の関心事を明確にすることが期待される。
到達目標	①摂南大学、経営学部、農学部（食農ビジネス学科）、現代社会学部における学びの概要を理解し、その特徴を説明することができる。 ②アクティブ・ラーニング手法の体験を通じて、摂南大学における主体的な学びの手法を理解し、実践することができる。 ③自らの学術的な関心事を口頭および文章を用いて表現することができる。
授業方法と留意点	PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、グループでの対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどのアクティブ・ラーニング手法を積極的に取り入れた授業を実施する。受講生には、それらに主体的に参画することを求める。

科目学習の 効果（資格）	
-----------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方についての説明、グループの決定、本講義における学びの方法について対話的に考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 本講義における学びの方法を復習する
	2	経営学部における学びについて（オンデマンド）	経営学部教員による学部および講義担当者の専門領域を中心とした学部における学びについての紹介	【事前】 経営学部について調べる 【事後】 講義内容のポイント、自身の関心事を整理し、事前学修シートを作成する
	3	農学部（食農ビジネス学科）における学びについて（オンデマンド）	農学部（食農ビジネス学科）教員による学部および講義担当者の専門領域を中心とした学部における学びについての紹介	【事前】 農学部（食農ビジネス学科）について調べる 【事後】 講義内容のポイント、自身の関心事を整理し、事前学修シートを作成する
	4	現代社会学部における学びについて（オンデマンド）	現代社会学部教員による学部および講義担当者の専門領域を中心とした学部における学びについての紹介	【事前】 現代社会学部について調べる 【事後】 講義内容のポイント、自身の関心事を整理し、事前学修シートを作成する
	5	経営学部における学びについてグループで考える①	教員からの話題提供（問いかけ）とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】 オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】 調査および対話内容の整理
	6	経営学部における学びについてグループで考える②	教員からの話題提供（問いかけ）とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】 オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】 調査および対話内容の整理
	7	農学部（食農ビジネス学科）における学びについてグループで考える①	教員からの話題提供（問いかけ）とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】 オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】 調査および対話内容の整理
	8	農学部（食農ビジネス学科）における学びについてグループで考える②	教員からの話題提供（問いかけ）とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】 オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】 調査および対話内容の整理
	9	現代社会学部における学びについてグループで考える①	教員からの話題提供（問いかけ）とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】 オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】 調査および対話内容の整理
	10	現代社会学部における学びについてグループで考える②	教員からの話題提供（問いかけ）とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】 オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】 調査および対話内容の整理
	11	プレゼンテーションに向けたポスター作成	グループとして学びのテーマを1つ選定し、発表用のポスターを作成する	【事前】 ポスター作成に向けた準備 【事後】 ポスター発表会に向けた準備
	12	ポスター発表会、ふりかえり①	グループごとに選定したテーマについて発表、教室全体で対話を行い、ここまでの授業のふりかえりを行う	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
	13	ポスター発表会、ふりかえり②	グループごとに選定したテーマについて発表、教室全体で対話を行い、ここまでの授業のふりかえりを行う	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
	14	学びレポートの作成（オンデマンド）	グループで取り上げたテーマのなかからさらに学術的関心事を絞り込み、文献等を用いてレポートを作成する	【事前】 レポート作成に向けた情報収集 【事後】 レポート記載内容のふりかえり
	15	レポートに対するフィードバック（オンデマンド）	受講生から提出された学びレポートを踏まえた総括的講義	【事前】 各学部における学びの内容の復習 【事後】 授業全体のふりかえり

関連科目	大学教養基礎Ⅰ
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法	グループワークおよびポスター発表会への参画度合い（ピア評価；15%）、グループで作成するポスター（25%）のほか、個人で作成する事前学
------	---

(基準)	修シート (30%)、学びレポート (20%)、ふりかえりシート (10%) の内容を総合的に評価し、60%以上を合格とする。評価にあたっては、成果物の内容に加えて、ルーブリック表などを用いた担当教員による評価、プロジェクトメンバーによるピア評価を積極的に取り入れる。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	【寝屋川キャンパス】 3号館3階 上野山研究室 2号館2階 ラーニングセンター
備考	・本講義ではオンデマンド授業と対面授業を実施します。対面授業は、2024年9月3日(火)、4日(水)の1限～5限に開講し、履修者はこの対面授業にすべての時間、出席することが必須となります。 ・講義の性質上、履修者は、ファシリテーターとしての基礎的な素養を身につけていることが期待されます。 ・本講義では授業準備やふりかえりなど、事前事後学修に60時間程度取り組んでいただきます。

科目名	ポジティブ行動支援の基礎・基本	科目名（英文）	Basic of Positive Behavior Support
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松浦 正典
ディプロマポリシー (DP)	V 科：Ⅱ◎, R 科：A◎, A 科：A◎, M 科：A1○, E 科：B△, C 科：Ⅱ◎, L 科：DP2◎, D 科：DP1◎, S 科：DP1◎, J 科：DP1◎, W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科：R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1, L 科：LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1, J 科：JT01361a1～JT01365a1, W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	平成 28 年 6 月に「発達障害者支援法」が一部改正され、「発達障害者の支援は社会的障壁の除去に資すること」を旨として行われなければならないこととされた。言うまでもなく周りの人間の意識こそが一番の障壁となる。この学修を通して、発達障害のある人やその周辺の人たちの困っている状況を理解し、適切な支援・配慮ができるようになることでその障壁を少しでも取り除く原動力になろう。そのためにはまず知ることが大切だ。教職課程を履修している学生だけでなく、興味・関心のあるすべての学生の参加を待っている。																																																																		
到達目標	①ポジティブ行動支援の概要と実践事例を理解する ②応用行動分析理論の考え方を理解し、実際の生活に生かす ③発達障害のある人やその周辺の人たちの困っている状況を理解し、適切な支援・配慮について学ぶ ④「友達や家族の良い行動」に着目し、適切な支援・配慮ができるようになる ⑤「自分自身の良い行動」に着目し、自己有能感・自己有用感を培う																																																																		
授業方法と留意点	①授業は対面式で行う。ICT ツールは Teams を使用する ②グループワークを取り入れるので積極的に自分の経験や意見を発表すること ③教科書は特に指定しないが、参考図書は随時紹介する。積極的に活用すること。																																																																		
科目学習の 効果（資格）																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ポジティブな行動支援を学ぶ意義と本授業のガイダンス</td><td>ポジティブ行動支援を学ぶ意義を理解する 授業の進め方や評価方法等について知る</td><td>事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>ポジティブな行動支援とは</td><td>ポジティブな支援とネガティブな支援の違いについて、実際に学校現場等で行われている指導の事例を基に理解する</td><td>事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>ポジティブな人間関係づくり</td><td>同じ場で学ぶ学生同士でできるポジティブ行動支援を考え、演習を行う</td><td>事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>応用行動分析の基礎 1</td><td>ポジティブ行動支援の基礎となる応用行動分析の考え方を理解する</td><td>事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>応用行動分析の基礎 2</td><td>事例を基に、応用行動分析の理論をもとにその支援方法を考える</td><td>事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>コミュニケーションが苦手な でこだわりの強い生徒への ポジティブ行動支援 1</td><td>事例を基に、主に自閉スペクトラム症の生徒について知り、そのポジティブ行動支援を考える</td><td>事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>コミュニケーションが苦手な でこだわりの強い生徒への ポジティブ行動支援 2</td><td>事例を基に、主に自閉スペクトラム症の生徒について知り、そのポジティブ行動支援を考える</td><td>事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>落ち着きがなかったり、不注意で失敗することが多かったりする生徒へのポジティブ行動支援</td><td>事例を基に、主に ADHD の生徒について知り、そのポジティブ行動支援を考える</td><td>事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>傷付きやすい人へのポジティブ行動支援</td><td>事例を基に、主にいわゆる「繊細さん」について知り、そのポジティブ行動支援を考える</td><td>事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>保護者と良い関係が結べなかったと思う人へのポジティブ行動支援 1</td><td>事例を基に、主に愛着障害の人について知り、そのポジティブ行動支援を考える</td><td>事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>保護者と良い関係が結べなかったと思う人へのポジティブ行動支援 2</td><td>事例を基に、主に愛着障害の人について知り、そのポジティブ行動支援を考える</td><td>事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>大人の発達障害へのポジティブ行動支援 1</td><td>事例を基に、大人の発達障害について知り、そのポジティブ行動支援を考える</td><td>事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>大人の発達障害へのポジティブ行動支援 2</td><td>事例を基に、大人の発達障害について知り、そのポジティブ行動支援を考える</td><td>事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>障害を持つ子の保護者とポジティブ行動支援</td><td>障害を持つ子の保護者の話を聴き、自分にできそうなポジティブ行動支援を考える</td><td>事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ</td><td>この講義全体を振り返り、自分にできるポジティブ行動支援を考える</td><td>事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ポジティブな行動支援を学ぶ意義と本授業のガイダンス	ポジティブ行動支援を学ぶ意義を理解する 授業の進め方や評価方法等について知る	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）	2	ポジティブな行動支援とは	ポジティブな支援とネガティブな支援の違いについて、実際に学校現場等で行われている指導の事例を基に理解する	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）	3	ポジティブな人間関係づくり	同じ場で学ぶ学生同士でできるポジティブ行動支援を考え、演習を行う	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）	4	応用行動分析の基礎 1	ポジティブ行動支援の基礎となる応用行動分析の考え方を理解する	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）	5	応用行動分析の基礎 2	事例を基に、応用行動分析の理論をもとにその支援方法を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）	6	コミュニケーションが苦手な でこだわりの強い生徒への ポジティブ行動支援 1	事例を基に、主に自閉スペクトラム症の生徒について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）	7	コミュニケーションが苦手な でこだわりの強い生徒への ポジティブ行動支援 2	事例を基に、主に自閉スペクトラム症の生徒について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）	8	落ち着きがなかったり、不注意で失敗することが多かったりする生徒へのポジティブ行動支援	事例を基に、主に ADHD の生徒について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）	9	傷付きやすい人へのポジティブ行動支援	事例を基に、主にいわゆる「繊細さん」について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）	10	保護者と良い関係が結べなかったと思う人へのポジティブ行動支援 1	事例を基に、主に愛着障害の人について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）	11	保護者と良い関係が結べなかったと思う人へのポジティブ行動支援 2	事例を基に、主に愛着障害の人について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）	12	大人の発達障害へのポジティブ行動支援 1	事例を基に、大人の発達障害について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）	13	大人の発達障害へのポジティブ行動支援 2	事例を基に、大人の発達障害について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）	14	障害を持つ子の保護者とポジティブ行動支援	障害を持つ子の保護者の話を聴き、自分にできそうなポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）	15	まとめ	この講義全体を振り返り、自分にできるポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ポジティブな行動支援を学ぶ意義と本授業のガイダンス	ポジティブ行動支援を学ぶ意義を理解する 授業の進め方や評価方法等について知る	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）																																																																
2	ポジティブな行動支援とは	ポジティブな支援とネガティブな支援の違いについて、実際に学校現場等で行われている指導の事例を基に理解する	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）																																																																
3	ポジティブな人間関係づくり	同じ場で学ぶ学生同士でできるポジティブ行動支援を考え、演習を行う	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）																																																																
4	応用行動分析の基礎 1	ポジティブ行動支援の基礎となる応用行動分析の考え方を理解する	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）																																																																
5	応用行動分析の基礎 2	事例を基に、応用行動分析の理論をもとにその支援方法を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）																																																																
6	コミュニケーションが苦手な でこだわりの強い生徒への ポジティブ行動支援 1	事例を基に、主に自閉スペクトラム症の生徒について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）																																																																
7	コミュニケーションが苦手な でこだわりの強い生徒への ポジティブ行動支援 2	事例を基に、主に自閉スペクトラム症の生徒について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）																																																																
8	落ち着きがなかったり、不注意で失敗することが多かったりする生徒へのポジティブ行動支援	事例を基に、主に ADHD の生徒について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）																																																																
9	傷付きやすい人へのポジティブ行動支援	事例を基に、主にいわゆる「繊細さん」について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）																																																																
10	保護者と良い関係が結べなかったと思う人へのポジティブ行動支援 1	事例を基に、主に愛着障害の人について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）																																																																
11	保護者と良い関係が結べなかったと思う人へのポジティブ行動支援 2	事例を基に、主に愛着障害の人について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）																																																																
12	大人の発達障害へのポジティブ行動支援 1	事例を基に、大人の発達障害について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）																																																																
13	大人の発達障害へのポジティブ行動支援 2	事例を基に、大人の発達障害について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）																																																																
14	障害を持つ子の保護者とポジティブ行動支援	障害を持つ子の保護者の話を聴き、自分にできそうなポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）																																																																
15	まとめ	この講義全体を振り返り、自分にできるポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る（2 時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（2 時間）																																																																
関連科目	心理を扱った科目及び教職科目全般と関連を持つ。ただしこれらの予備知識は必要としない。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書																																																																			

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめてのポジティブ行動支援	松山康成	明治図書
	2	保護者と先生のための応用行動分析入門ハンドブック	三田地真実他	金剛出版
	3			
評価方法 (基準)	授業の出席・積極的参加 60% レポート40%			
学生への メッセージ	本講座を履修し、一緒に学修することで、実際の生活に役立つ知識・技能を身につけ、「共に幸せになる幸せ」を実感しましょう。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス7号館3階 松浦研究室			
備考				

科目名	人間関係論（ファシリテータートレーニング）	科目名（英文）	Human Relations Approach (Facilitator Training)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー (DP)	V 科：Ⅱ◎, R 科：A◎, A 科：A◎, M 科：A1○, E 科：B△, C 科：Ⅱ◎, L 科：DP2◎, D 科：DP1◎, S 科：DP1◎, J 科：DP1◎, W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科：R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1, L 科：LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1, J 科：JT01361a～JT01365a1, W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	「ラボラトリー方式の体験学習」という人間関係に関わる実習（グループ活動）を行い、その体験から自分自身と他者との関り、人間関係の持ち方、自分自身について気づき、学ぶ授業です。実習後はその体験をふりかえり、次の学びにどう生かすかを考え、次の実習に生かしていきます。体験から得た学びに関する理論に関する講義（小講義）もあります。																																																																		
到達目標	・体験を通し、自分自身の人間関係の持ち方、他者への関わり方、自分自身について気づく ・体験から気づいた点を生かし、グループ関係をよりよく保つための働きかけができる																																																																		
授業方法と留意点	実習（グループ活動）とそのふりかえり、ディスカッション、講義 体験（実習）からの学びが中心ですので、出席と参加度を重視します																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション 体験学習の体験</td><td>授業についての説明 体験学習についての説明 ミニ実習</td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td>体験学習①</td><td>情報誌を使った実習とふりかえり</td><td>授業での学びをまとめる</td></tr> <tr> <td>3</td><td>体験学習のサイクル</td><td>講義</td><td>この授業での自身の目標を決める 学んだことをまとめる</td></tr> <tr> <td>4</td><td>体験学習②</td><td>コミュニケーションに関する実習</td><td>体験での学びをまとめる</td></tr> <tr> <td>5</td><td>コミュニケーションについて</td><td>講義</td><td>学んだことをまとめる</td></tr> <tr> <td>6</td><td>体験学習③</td><td>「聴く」実習</td><td>体験での学びをまとめる</td></tr> <tr> <td>7</td><td>ジョハリの窓とフィードバックについて</td><td>講義</td><td>学んだことをまとめる</td></tr> <tr> <td>8</td><td>体験学習④</td><td>コンセンサス実習① （正解のある課題）</td><td>体験での学びをまとめる</td></tr> <tr> <td>9</td><td>グループにおける合意形成について</td><td>講義</td><td>学んだことをまとめる</td></tr> <tr> <td>10</td><td>体験学習⑤</td><td>コンセンサス実習② （正解のない課題）</td><td>体験での学びをまとめる</td></tr> <tr> <td>11</td><td>体験学習⑥</td><td>POPO（グループを観察する）</td><td>体験での学びをまとめる</td></tr> <tr> <td>12</td><td>ファシリテーション、リーダーシップについて</td><td>講義</td><td>学んだことをまとめる</td></tr> <tr> <td>13</td><td>体験学習⑦</td><td>活動的な実習</td><td>体験での学びをまとめる</td></tr> <tr> <td>14</td><td>ふりかえり</td><td>これまでの授業で学んだことをグループごとにふりかえる</td><td>ミニレポート</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ</td><td>授業全体のまとめ、ふりかえり 今後はどう生かすか</td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 体験学習の体験	授業についての説明 体験学習についての説明 ミニ実習		2	体験学習①	情報誌を使った実習とふりかえり	授業での学びをまとめる	3	体験学習のサイクル	講義	この授業での自身の目標を決める 学んだことをまとめる	4	体験学習②	コミュニケーションに関する実習	体験での学びをまとめる	5	コミュニケーションについて	講義	学んだことをまとめる	6	体験学習③	「聴く」実習	体験での学びをまとめる	7	ジョハリの窓とフィードバックについて	講義	学んだことをまとめる	8	体験学習④	コンセンサス実習① （正解のある課題）	体験での学びをまとめる	9	グループにおける合意形成について	講義	学んだことをまとめる	10	体験学習⑤	コンセンサス実習② （正解のない課題）	体験での学びをまとめる	11	体験学習⑥	POPO（グループを観察する）	体験での学びをまとめる	12	ファシリテーション、リーダーシップについて	講義	学んだことをまとめる	13	体験学習⑦	活動的な実習	体験での学びをまとめる	14	ふりかえり	これまでの授業で学んだことをグループごとにふりかえる	ミニレポート	15	まとめ	授業全体のまとめ、ふりかえり 今後はどう生かすか	
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 体験学習の体験	授業についての説明 体験学習についての説明 ミニ実習																																																																	
2	体験学習①	情報誌を使った実習とふりかえり	授業での学びをまとめる																																																																
3	体験学習のサイクル	講義	この授業での自身の目標を決める 学んだことをまとめる																																																																
4	体験学習②	コミュニケーションに関する実習	体験での学びをまとめる																																																																
5	コミュニケーションについて	講義	学んだことをまとめる																																																																
6	体験学習③	「聴く」実習	体験での学びをまとめる																																																																
7	ジョハリの窓とフィードバックについて	講義	学んだことをまとめる																																																																
8	体験学習④	コンセンサス実習① （正解のある課題）	体験での学びをまとめる																																																																
9	グループにおける合意形成について	講義	学んだことをまとめる																																																																
10	体験学習⑤	コンセンサス実習② （正解のない課題）	体験での学びをまとめる																																																																
11	体験学習⑥	POPO（グループを観察する）	体験での学びをまとめる																																																																
12	ファシリテーション、リーダーシップについて	講義	学んだことをまとめる																																																																
13	体験学習⑦	活動的な実習	体験での学びをまとめる																																																																
14	ふりかえり	これまでの授業で学んだことをグループごとにふりかえる	ミニレポート																																																																
15	まとめ	授業全体のまとめ、ふりかえり 今後はどう生かすか																																																																	
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>人間関係トレーニング</td><td>津村俊充・山口真人編</td><td>ナカニシヤ出版</td></tr> <tr> <td>2</td><td>プロセスエデュケーション</td><td>津村俊充</td><td>金子書房</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	人間関係トレーニング	津村俊充・山口真人編	ナカニシヤ出版	2	プロセスエデュケーション	津村俊充	金子書房	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	人間関係トレーニング	津村俊充・山口真人編	ナカニシヤ出版																																																																
2	プロセスエデュケーション	津村俊充	金子書房																																																																
3																																																																			
評価方法（基準）	実習参加態度（30%）、課題（20%）、期末レポート（50%）																																																																		
学生へのメッセージ	さまざまな活動を通し、自分自身について、これからの生き方について考えるきっかけになる授業だと思います。自ら学び、学び方を学ぶ授業です。いつもと違う自分を試してみたい、何かチャレンジしてみたいという人にはおすすめです。																																																																		
担当者の研究室等	教員室2（寝屋川キャンパス2号館2階）																																																																		
備考																																																																			

科目名	大学教養入門	科目名 (英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	坂口 有芸, 加野 佑弥, 中澤 芽衣, 松本 恭幸
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ◎, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TKY1458a1, L 科 : LKY1360a1, D 科・S 科 : IKY1367a1, J 科 : JKY1357a1, W 科 : WKY1348a1		

授業概要・目的	本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です。本科目の目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。授業では教養の入門書を用いて ABD（アクティブ・ブック・ダイアログ）読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身につけることを目指します。
到達目標	(1) 大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。 (2) ABD による読書法を身につけている。 (3) チームワーク能力を身につけ、対話を通じた協働学習をすることができる。 (4) SDGs と UNAI について基礎的な知識を身につけている。 (5) 読書が好きで、意義を理解して読書習慣を身につけている。 (6) コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。 (7) 自主的、計画的に学ぶ学習習慣を身につけている。
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術を修得します。教養の入門書として一般書を教材として、ABD（アクティブ・ブック・ダイアログ）読書法や ICT ツールを活用して、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を一方的に伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることが特徴です。したがって、諸君が積極的に参加することが大切です。
科目学習の効果（資格）	大学生に必要な教養の基礎知識、ABD 法等のアクティブ・ラーニングによる協働学習の方法、自主学習の習慣などが身につく。 学習における ICT ツールの活用方法を知ることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 『おとなの教養』序章 私たちはどこから来て、何処へ行くのか	アイスブレイク 事前アンケート 本科目で、どのような力が身につくのか 「教養とは何か?」、理解度確認クイズ、振り返り ABD の体験	事前学習 : 『おとなの教養』 序章を読む (1.5 時間以上)
	2	教養入門 : 第一章 宗教	教科書の紹介、概要 チーム作り、授業の約束事 ABD による学習の進め方の説明 ABD 法に挑戦「第一章 宗教」 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習 : 教科書 第一章を読む (1.5 時間以上)
	3	教養入門 : 第三章 人類の旅路	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習 : 教科書 第三章を読む (1.5 時間以上)
	4	教養入門 : 第四章 人間と病気	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習 : 教科書 第四章を読み事前学習シートを作成する (1.5 時間以上)
	5	教養入門 : 第五章 経済	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習 : 教科書 第五章を読み事前学習シートを作成する (1.5 時間以上)
	6	教養入門 : 中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	事前学習 : 中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案 (1 時間以上) 事後学習 : 第 1 回レポート (0.5 時間以上)
	7	世界を知る教養 : 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGs の概要 SDG s とは何か 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習 : SDGs とは何か、指定した資料を調べる (1.5 時間以上)
	8	世界を知る教養 : 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDG s を考える ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習 : SDG s とは何か、図書館、ネット等で調べる。自分の意見を持つ。 (1.5 時間以上)
	9	世界を知る教養 : 国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習 : UNAI とは何かを調べる (1.0 時間以上) 事後学習 : 第 2 回レポート (0.5 時間以上)
	10	自分を知る教養 : 岸見著『アドラー性格を変える心理学』序章 「性格は変わらない」は本当か? 第一章 虚栄心・嫉妬・憎しみ	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習 : 『アドラー性格を変える心理学』序章・第一章を読み事前学習シートを作成する (1.5 時間以上)
	11	自分を知る教養 : 第二章 控え目・不安・臆病	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習 : 教科書 第二章を読み事前学習シートを作成する (1.5 時間以上)
	12	自分を知る教養 : 第三章 快活・かたくな・気分屋	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習 : 教科書 第三章を読み事前学習シートを作成する (1.5 時間以上)
	13	自分を知る教養 : 第四章 怒り・悲しみ・羞恥心	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習 : 教科書 第四章を読み事前学習シートを作成する (1.5 時間以上)
	14	自分を知る教養 : 中間成果発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	事前学習 : 中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案 (1 時間以上) 事後学習 : 第 3 回レポート

				(0.5 時間以上)
	15	大学教養入門：まとめ	グループワーク「教養とは何か？」 事後アンケート	事前学習：中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案 (1.5 時間以上)
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版
	2	アドラー性格を変える心理学	岸見一郎	NHK 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	・授業への取り組み・ディスカッション 15% ・プレゼン相互評価・グループポスター 15% ・レポート 15% ・振り返りシート・個人ポスター・メモ 20% ・クイズ 15% ・事前学習シート 15% ・ファイリング 5% 以上の評価点の合計で 60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、原則として出席率 80%以上の学生を合格者の対象とする。			
学生への メッセージ	この科目は摂南大学独自の教養科目です。授業では、すべての学部 of 学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。			
担当者の 研究室等	【寝屋川キャンパス】 坂口有芸（7 号館 5F）、加野 佑弥（7 号館 5F）、中澤芽衣（3 号館 3F）、松本恭幸（3 号館 3F）			
備考	この科目は、入学式～キックオフセミナーからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を身につけることを目指しています。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけることもできます。			

科目名	大学教養実践	科目名 (英文)	Practical Learning of Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	新居 英志, 加野 佑弥, 坂口 有芸, 森 亜貴, 米本 涼
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TKY1458a1, L 科 : LKY1360a1, D 科・S 科 : IKY1367a1, J 科 : JKY1369a1, W 科 : WKY1348a1		

授業概要・目的	この科目は、チームで協働して読書を行い、プレゼンテーションと対話を通じて、学びを深める形式で学ぶ学部の枠を越えた教養実践科目です。前期開講の大学教養入門のステップアップの講座としての位置づけです。 本科目の目的は、大学生として必要な教養として、文学、社会学や経済学の入門的知識を身につけ、その知識をもとに協働学習により社会課題の解決を体験します。そして、知識としての教養を実社会での実践にむすびつけることを目指します。																																																														
到達目標	(1) 大学生として必要な教養レベルを身につけ、実践的に討議することができている。 (2) ABD による読書法の基礎 (要約, プレゼンテーション, 対話) を身に付けている。 (3) 自分が知りたいと思うことのテーマ設定ができる。 (4) チームワーク能力やリーダーシップを身に付けている。 (5) わかりやすいプレゼンテーションを行うことができる。 (6) テーマにそった対話 (感想, 質疑応答) を行うことができる。 (7) 自主学習の習慣を身に付けている。																																																														
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。大学生として必要な教養を身につけ、身につけた教養, 知識をもとに、社会課題の解決策を協働学習により検討します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。																																																														
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の知識が身につき、それを元に社会課題について討議できる。ABD や QFT 等の協働学習の方法が身につく。																																																														
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ガイダンス 私たちはいま、どこにいるのか？</td><td>アイスブレイク 事前アンケート 授業のルール 解説 (教科書、ABD とは) 協働学習 (p. 18-47 : 要約, プレゼン, 対話), 振り返りシート</td><td>『おとなの教養 2』序章を読み, 事前学習シートを作成する。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>私たちはいま、どこにいるのか？ : 第一章「AI とビッグデータ」</td><td>チーム分け, 役割分担, 確認試験 解説 (振り返りシート) 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習 (要約, プレゼン, 対話) 振り返りシート</td><td>教科書第一章を読み, 事前学習シートを作成する。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>私たちはいま、どこにいるのか？ : 第二章「キャッシュレス社会と仮想通貨」</td><td>解説 (事前学習シート), 確認試験 協働学習 (要約, プレゼン, 対話) 振り返りシート</td><td>教科書第二章を読み, 事前学習シートを作成する。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>私たちはいま、どこにいるのか？ : 第三章「想像の共同体」</td><td>解説 (事前学習シート), 確認試験 協働学習 (要約, プレゼン, 対話) 投票と表彰, 振り返りシート</td><td>教科書第三章を読み, 事前学習シートを作成する。 ポスター・プレゼンの準備を行う (2 時間程度)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>私たちはいま、どこにいるのか？ 中間発表 1 回目, 振り返り</td><td>ポスター作成 発表・質疑応答, 評価 振り返りシート</td><td>教科書第四章～第六章を読み, 事前学習シートを作成する。 事後学習 : 第 1 回レポート</td></tr> <tr> <td>6</td><td>説明力を鍛えるヒント : 第一章「間違いだらけの数学観」</td><td>解説, 確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習 (要約・プレゼン・対話) 振り返りシート</td><td>『数学的思考法』第一章を読み, 事前学習シートを作成する。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>説明力を鍛えるヒント : 第二章「試行錯誤という思考法」</td><td>QFT (質問づくり) 協働学習 (要約・プレゼン・対話) 振り返りシート</td><td>教科書第二章を読み, 事前学習シートを作成する。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>説明力を鍛えるヒント : 第三章「数学的思考のヒント」</td><td>解説, 確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習 (要約・プレゼン・対話) 振り返りシート</td><td>教科書第三章を読み, 事前学習シートを作成する。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>説明力を鍛えるヒント : 第四章「論理的な説明の鍵」</td><td>解説, 確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習 (要約・プレゼン・対話) 振り返りシート</td><td>教科書第四章を読み, 事前学習シートを作成する。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>説明力を鍛えるヒント 中間発表 2 回目, 振り返り</td><td>ポスター作成 発表・質疑応答, 評価 振り返りシート</td><td>ポスター・プレゼンの準備を行う (2 時間程度) 事後学習 : 第 2 回レポート</td></tr> <tr> <td>11</td><td>教養として文学作品に触れる : 『星の王子さま』</td><td>解説, 確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習 (要約, プレゼン, 対話) 振り返りシート</td><td>『星の王子さま』1~10 章を読み, 事前学習シート (要約, 感想) を作成する (2 時間程度)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>教養として文学作品に触れる : 『星の王子さま』</td><td>解説, 確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習 (要約, プレゼン, 対話) 振り返りシート</td><td>教科書 11~20 章を読み, 事前学習シートを作成する</td></tr> <tr> <td>13</td><td>教養として文学作品に触れる : 『星の王子さま』</td><td>解説, 確認試験 協働学習 (要約, プレゼン, 対話) 振り返りシート</td><td>教科書 21~27 章を読み, 事前学習シートを作成する</td></tr> <tr> <td>14</td><td>教養として文学作品に触れる : 『星の王子さま』</td><td>解説, 確認試験 協働学習 (要約, プレゼン, 対話)</td><td>教科書あとがきを読み, 事前学習シートを作成する</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス 私たちはいま、どこにいるのか？	アイスブレイク 事前アンケート 授業のルール 解説 (教科書、ABD とは) 協働学習 (p. 18-47 : 要約, プレゼン, 対話), 振り返りシート	『おとなの教養 2』序章を読み, 事前学習シートを作成する。	2	私たちはいま、どこにいるのか？ : 第一章「AI とビッグデータ」	チーム分け, 役割分担, 確認試験 解説 (振り返りシート) 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習 (要約, プレゼン, 対話) 振り返りシート	教科書第一章を読み, 事前学習シートを作成する。	3	私たちはいま、どこにいるのか？ : 第二章「キャッシュレス社会と仮想通貨」	解説 (事前学習シート), 確認試験 協働学習 (要約, プレゼン, 対話) 振り返りシート	教科書第二章を読み, 事前学習シートを作成する。	4	私たちはいま、どこにいるのか？ : 第三章「想像の共同体」	解説 (事前学習シート), 確認試験 協働学習 (要約, プレゼン, 対話) 投票と表彰, 振り返りシート	教科書第三章を読み, 事前学習シートを作成する。 ポスター・プレゼンの準備を行う (2 時間程度)	5	私たちはいま、どこにいるのか？ 中間発表 1 回目, 振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答, 評価 振り返りシート	教科書第四章～第六章を読み, 事前学習シートを作成する。 事後学習 : 第 1 回レポート	6	説明力を鍛えるヒント : 第一章「間違いだらけの数学観」	解説, 確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習 (要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	『数学的思考法』第一章を読み, 事前学習シートを作成する。	7	説明力を鍛えるヒント : 第二章「試行錯誤という思考法」	QFT (質問づくり) 協働学習 (要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書第二章を読み, 事前学習シートを作成する。	8	説明力を鍛えるヒント : 第三章「数学的思考のヒント」	解説, 確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習 (要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書第三章を読み, 事前学習シートを作成する。	9	説明力を鍛えるヒント : 第四章「論理的な説明の鍵」	解説, 確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習 (要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書第四章を読み, 事前学習シートを作成する。	10	説明力を鍛えるヒント 中間発表 2 回目, 振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答, 評価 振り返りシート	ポスター・プレゼンの準備を行う (2 時間程度) 事後学習 : 第 2 回レポート	11	教養として文学作品に触れる : 『星の王子さま』	解説, 確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習 (要約, プレゼン, 対話) 振り返りシート	『星の王子さま』1~10 章を読み, 事前学習シート (要約, 感想) を作成する (2 時間程度)	12	教養として文学作品に触れる : 『星の王子さま』	解説, 確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習 (要約, プレゼン, 対話) 振り返りシート	教科書 11~20 章を読み, 事前学習シートを作成する	13	教養として文学作品に触れる : 『星の王子さま』	解説, 確認試験 協働学習 (要約, プレゼン, 対話) 振り返りシート	教科書 21~27 章を読み, 事前学習シートを作成する	14	教養として文学作品に触れる : 『星の王子さま』	解説, 確認試験 協働学習 (要約, プレゼン, 対話)	教科書あとがきを読み, 事前学習シートを作成する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																												
1	ガイダンス 私たちはいま、どこにいるのか？	アイスブレイク 事前アンケート 授業のルール 解説 (教科書、ABD とは) 協働学習 (p. 18-47 : 要約, プレゼン, 対話), 振り返りシート	『おとなの教養 2』序章を読み, 事前学習シートを作成する。																																																												
2	私たちはいま、どこにいるのか？ : 第一章「AI とビッグデータ」	チーム分け, 役割分担, 確認試験 解説 (振り返りシート) 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習 (要約, プレゼン, 対話) 振り返りシート	教科書第一章を読み, 事前学習シートを作成する。																																																												
3	私たちはいま、どこにいるのか？ : 第二章「キャッシュレス社会と仮想通貨」	解説 (事前学習シート), 確認試験 協働学習 (要約, プレゼン, 対話) 振り返りシート	教科書第二章を読み, 事前学習シートを作成する。																																																												
4	私たちはいま、どこにいるのか？ : 第三章「想像の共同体」	解説 (事前学習シート), 確認試験 協働学習 (要約, プレゼン, 対話) 投票と表彰, 振り返りシート	教科書第三章を読み, 事前学習シートを作成する。 ポスター・プレゼンの準備を行う (2 時間程度)																																																												
5	私たちはいま、どこにいるのか？ 中間発表 1 回目, 振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答, 評価 振り返りシート	教科書第四章～第六章を読み, 事前学習シートを作成する。 事後学習 : 第 1 回レポート																																																												
6	説明力を鍛えるヒント : 第一章「間違いだらけの数学観」	解説, 確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習 (要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	『数学的思考法』第一章を読み, 事前学習シートを作成する。																																																												
7	説明力を鍛えるヒント : 第二章「試行錯誤という思考法」	QFT (質問づくり) 協働学習 (要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書第二章を読み, 事前学習シートを作成する。																																																												
8	説明力を鍛えるヒント : 第三章「数学的思考のヒント」	解説, 確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習 (要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書第三章を読み, 事前学習シートを作成する。																																																												
9	説明力を鍛えるヒント : 第四章「論理的な説明の鍵」	解説, 確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習 (要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書第四章を読み, 事前学習シートを作成する。																																																												
10	説明力を鍛えるヒント 中間発表 2 回目, 振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答, 評価 振り返りシート	ポスター・プレゼンの準備を行う (2 時間程度) 事後学習 : 第 2 回レポート																																																												
11	教養として文学作品に触れる : 『星の王子さま』	解説, 確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習 (要約, プレゼン, 対話) 振り返りシート	『星の王子さま』1~10 章を読み, 事前学習シート (要約, 感想) を作成する (2 時間程度)																																																												
12	教養として文学作品に触れる : 『星の王子さま』	解説, 確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習 (要約, プレゼン, 対話) 振り返りシート	教科書 11~20 章を読み, 事前学習シートを作成する																																																												
13	教養として文学作品に触れる : 『星の王子さま』	解説, 確認試験 協働学習 (要約, プレゼン, 対話) 振り返りシート	教科書 21~27 章を読み, 事前学習シートを作成する																																																												
14	教養として文学作品に触れる : 『星の王子さま』	解説, 確認試験 協働学習 (要約, プレゼン, 対話)	教科書あとがきを読み, 事前学習シートを作成する																																																												

			QFT（中間発表のテーマ出し） 振り返りシート	
	15	教養として文学作品に触れる：中間発表3回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート 事後アンケート	ポスター・プレゼンの準備を行う（2時間程度） 事後学習：第3回レポート
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	おとなの教養2	池上彰	NHK出版
	2	星の王子さま	サン＝テグジュペリ	新潮文庫
	3	数学的思考法—説明力を鍛えるヒント	芳沢 光雄	講談社現代新書
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	・授業への取り組み 15% ・プレゼン 15% ・レポート 20% ・振り返りシート 15% ・クイズ 15% ・事前学習シート 15% ・ファイリング 5% 以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。			
学生への メッセージ	この授業では、すべての学部 of 学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎、コミュニケーション力、ファシリテーション力、と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。			
担当者の 研究室等	【寝屋川キャンパス】 坂口有芸(7号館5F)，新居英志(7号館5F)，森亜貴(2号館2F ラーニングセンター)、加野佑弥（7号館5階）、米本研究室（7号館5階）			
備考	この科目は前期の大学教養入門と同じスタイルの教養を学びながら学習法を身につけることを期待した科目です。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけてください。この授業は原則的に対面で実施します。やむを得ず、遠隔授業やハイブリッドで実施する場合も顔が見えることを出席の条件とします。			

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Practical Math for Employment Exams
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	V 科：Ⅱ◎, R 科：A◎, A 科：A◎, M 科：A1○, E 科：B△, C 科：Ⅱ◎, L 科：DP2◎, D 科：DP1◎, S 科：DP1◎, J 科：DP1◎, W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科：R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1, L 科：LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1, J 科：JT01374a1～JT01378a1, W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	社会人に必要とされる基礎学力の修得を目指し総合的に学習します。基礎学力の中でも数的能力・言語能力は社会人として仕事をする上で必須のもので、早めに取り組むことを推奨します。この授業では、数的能力・言語能力を幅広く扱いますが、特に日常生活・仕事での活用頻度が高く、かつ採用試験での高いハードルとなる「数的能力の強化」をメインに取り組みます。 講師は広告・出版業界や教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういった経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達すること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	基礎数学をメインに学習します。授業は実践形式で、様々な問題にチャレンジした上で解説を聞き理解を深めます。特に苦手な学生は予習・復習を確実にを行い、疑問を残さないよう心がけてください。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力を獲得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
	2	数的思考①	割合の活用① 方程式立式・割合計算の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	3	数的思考②	割合の活用② 濃度算・仕事算・損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	4	数的思考③	速度算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	5	数的思考④	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	6	数的思考⑤	場合の数と確率①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	7	数的思考⑥	場合の数と確率②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
	9	資料解釈①	言語理解 (文章読解) 表・資料の読み取り① 基礎問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	10	資料解釈②	表・資料の読み取り② 応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	11	資料解釈③	表・資料の読み取り③ 実践問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	12	論理推論①	命題・順序・位置関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	13	論理推論②	金銭問題・内訳・平均・対応関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	14	論理推論③	濃度と密度・複数選択・整数問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発、数的能力開発
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テスト (30%)、中間テスト (20%)、期末テスト (40%)、SmartSPI (10%)
学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。 また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得して行ってください。
担当者の研究室等備考	寝屋川キャンパス 7 号館 3 階 全学教育機構

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Practical Math for Employment Exams
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村 忠
ディプロマポリシー (DP)	V 科：Ⅱ◎, R 科：A◎, A 科：A◎, M 科：A1○, E 科：B△, C 科：Ⅱ◎, L 科：DP2◎, D 科：DP1◎, S 科：DP1◎, J 科：DP1◎, W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科：R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1, L 科：LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1, J 科：JT01374a1～JT01378a1, W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	社会人に必要とされる基礎学力の修得を目指し総合的に学習します。基礎学力の中でも数的能力・言語能力は社会人として仕事をする上で必須のもので、早めに取り組むことを推奨します。この授業では、数的能力・言語能力を幅広く扱いますが、特に日常生活・仕事での活用頻度が高く、かつ採用試験での高いハードルとなる「数的能力の強化」をメインに取り組みます。 講師は広告・出版業界や教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達すること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	基礎数学をメインに学習します。授業は実践形式で、様々な問題にチャレンジした上で解説を聴講し理解を深めます。採用試験（SPI や玉手箱等の総合適性検査）対応力をつけるために、予習・復習を確実にに行い疑問を残さないよう心がけてください。
科目学習の効果（資格）	社会で必要とされる数的能力・言語能力を獲得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
	2	数的思考①	割合の活用① 方程式立式・割合計算の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	3	数的思考②	割合の活用② 濃度算・仕事算・損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	4	数的思考③	速度算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	5	数的思考④	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	6	数的思考⑤	場合の数と確率①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	7	数的思考⑥	場合の数と確率②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
	9	資料解釈①	言語理解（文章読解） 表・資料の読み取り① 基礎問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	10	資料解釈②	表・資料の読み取り② 応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	11	資料解釈③	表・資料の読み取り③ 実践問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	12	論理推論①	命題・順序・位置関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	13	論理推論②	金銭問題・内訳・平均・対応関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	14	論理推論③	濃度と密度・複数選択・整数問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発、数的能力開発
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	小テスト（30%）、中間テスト（20%）、期末テスト（40%）、SmartSPI（10%）
----------	---

学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。 また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得して行ってください。
-----------	---

担当者の研究室等備考	寝屋川キャンパス 7 号館 3 階 全学教育機構
------------	--------------------------

科目名	インターンシップ	科目名 (英文)	Internship
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵, 加野 佑弥
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA3347a1		

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に社会における仕事の役割、仕事の成果、仕事に対する責任と充実感を肌で感じることである。			
到達目標	インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性について主体的に考えることができる。講義での学び、経験を通じて、職業観を涵養し、それを他者に伝えることができる。			
授業方法と留意点	「事前学修→インターンシップ実習→事後学修」という流れで実施するので、必ず日程を確認しておくこと。 実習中は、大学の代表、そして実習先の一員としての意識を持って参加すること。 事前学修・事後学修はすべてスーツ着用のこと。 受講態度や規則等を著しく逸脱し、注意しても改善が見られない場合は、実習参加を許可しない場合もあることを理解しておく。 Covid-19の影響により、実習が中止になることもある。			
科目学習の効果（資格）	就職活動や将来を考えるうえでの貴重な出会いや気づきを得ることができる。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	直前学修① 6月22日（土） 3限 目（予定）	・インターンシップの心構え ・今後のスケジュールの確認 ＊スーツ着用のこと	・事前学習：社会人を意識したスーツ着用し、身だしなみを自分なりに整えてくること（1時間）
	2	直前学修② 6月22日（土） 4限 目（予定）	・報告書の書き方、注意点/マナー ・身だしなみの最終確認 ・グループワークとプレゼンテーション	・事前学習：マナーについて考えること（0.5時間） ・事後学修：講義の内容を振り返ること（0.5時間）
	3	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上（原則）	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること（1.5時間）
	4	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上（原則）	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること（1.5時間）
	5	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上（原則）	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること（1.5時間）
	6	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上（原則）	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること（1.5時間）
	7	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上（原則）	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること（1.5時間）
	8	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上（原則）	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること（1.5時間）
	9	体験報告書の作成・提出・指導	・報告書提出/ゼミ教員 ・インターンシップ担当教員における報告書のチェックと指導 （担当教員への提出と教務課へ電子データを提出）	・事後学修：事前学修②の通りに報告書を作成するが、提出前に必ず推敲を行い、提出期限を厳守すること（2時間）
	10	事後学修① 9月14日（土） 3限 目（予定）	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修：個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること（1.5時間）
	11	事後学修② 9月14日（土） 4限 目（予定）	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修：個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること（1.5時間）
	12	事後学修③ 9月28日（土） 3限 目（予定）	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習：代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること（1.5時間） ・事後学修：聴講者は他者の発表を振り返ること（1.5時間）
	13	事後学修④ 9月28日（土） 4限 目（予定）	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修：代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること（1.5時間） ・事後学修：聴講者は他者の発表を振り返ること（1.5時間）
	14	事後学修⑤ 10月5日（土） 3限 目（予定）	・インターンシップを振り返る （実習記録簿の提出）	・事前学習：実習記録簿を見直してくること（1時間）
	15	事後学修⑥ 10月5日（土） 4限 目（予定）	・インターンシップを振り返る	・事後学修：インターンシップの講義の全体を振り返ること（1時間）
	16			
	17			
	18			

	19			
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
関連科目	インターンシップ I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	企業による報告書 (20%)、体験報告書など提出物 (40%)、発表を含む授業態度 (投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、グループワークの参加姿勢など) (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	石井研究室 (7号館5階) 加野研究室 (7号館5階)			
備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布する。 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示する。			
	なお、振り返りの課題 (体験報告書、報告プレゼンテーションのためのスライド作成など) は3時間以上かけて仕上げること。 事前事後学修に出席する際は、必ずスーツを着用すること。			

科目名	法律学特修特別講義Ⅳ	科目名 (英文)	Special Lecture on Positive Law IV
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	島田 良一、田中 敦、仲宗根 京子、笛木 淳
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ4097a0		

授業概要・目的	本気で公務員試験（国家公務員一般職、地方上級）や法科大学院（ロースクール）入試、司法試験予備試験等を目指す学生を対象に、目的達成のために不可欠な真の実力を養うことを目的として、問題演習等を行う。
到達目標	この授業を通じて学生には、公務員試験（国家公務員一般職、地方上級）や法科大学院（ロースクール）入試、司法試験予備試験等に合格するための、正しい学習方法を習得することが期待される。
授業方法と留意点	授業は、4 人の専任教員（島田・田中・仲宗根・笛木）によるオムニバス方式で実施。授業範囲は、刑事法、民法、商法・会社法、行政法の既修範囲とする。 月曜と火曜で授業担当者が以下のように異なるので注意。 月曜：第 1 回～第 9 回笛木担当，第 10 回～第 16 回島田担当。 火曜：第 1 回～第 9 回田中担当，第 10 回～第 15 回仲宗根担当。
科目学習の効果（資格）	公務員試験（国家公務員一般職、地方上級）や法科大学院（ロースクール）入試、司法試験予備試験等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	【月曜 5 限】第 1 回 行政法論述式答案の書き方入門 取消訴訟の処分性 概念の通知・行政行為の附款	リーディングケースをモデルとした短文事例演習。	・事前学習：事前配布資料に目を通しワークシートを解く（2 時間） ・事後学習：課題の取り組み（4 時間）
	2	【月曜 5 限】第 2 回 行政法論述式答案の書き方入門 取消訴訟の原告適格	リーディングケースをモデルとした短文事例演習。	・事前学習：事前配布資料に目を通しワークシートを解く（2 時間） ・事後学習：課題の取り組み（4 時間）
	3	【月曜 5 限】第 3 回 行政法論述式答案の書き方入門 法律による行政の原理	リーディングケースをモデルとした短文事例演習。	・事前学習：事前配布資料に目を通しワークシートを解く（2 時間） ・事後学習：課題の取り組み（4 時間）
	4	【月曜 5 限】第 4 回 行政法論述式答案の書き方入門 行政立法	リーディングケースをモデルとした短文事例演習。	・事前学習：事前配布資料に目を通しワークシートを解く（2 時間） ・事後学習：課題の取り組み（4 時間）
	5	【月曜 5 限】第 5 回 行政法論述式答案の書き方入門 行政処分と行政裁量	リーディングケースをモデルとした短文事例演習。	・事前学習：事前配布資料に目を通しワークシートを解く（2 時間） ・事後学習：課題の取り組み（4 時間）
	6	【月曜 5 限】第 6 回 行政法論述式答案の書き方入門 行政処分と撤回	リーディングケースをモデルとした短文事例演習。	・事前学習：事前配布資料に目を通しワークシートを解く（2 時間） ・事後学習：課題の取り組み（4 時間）
	7	【月曜 5 限】第 7 回 行政法論述式答案の書き方入門 行政手続（1）：告知聴聞	リーディングケースをモデルとした短文事例演習。	・事前学習：事前配布資料に目を通しワークシートを解く（2 時間） ・事後学習：課題の取り組み（4 時間）
	8	【月曜 5 限】第 8 回 行政法論述式答案の書き方入門 行政手続（2）：理由提示	リーディングケースをモデルとした短文事例演習。	・事前学習：事前配布資料に目を通しワークシートを解く（2 時間） ・事後学習：課題の取り組み（4 時間）
	9	【月曜 5 限】第 9 回 行政法論述式答案の書き方入門 行政指導	リーディングケースをモデルとした短文事例演習。	・事前学習：事前配布資料に目を通しワークシートを解く（2 時間） ・事後学習：課題の取り組み（4 時間）
	10	【月曜 5 限】第 10 回 ガイダンス・刑事手続の概要	授業の進め方、受講上の注意、文献の紹介等について	事前学習：手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、授業に臨む（2 時間）。 事後学習：課題の取り組み（2 時間）。
	11	【月曜 5 限】第 11 回 刑事訴訟法の重要論点①	強制処分・任意処分に関する諸問題	事前学習：手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、授業に臨む（2 時間）。 事後学習：課題の取り組み（2 時間）。
	12	【月曜 5 限】第 12 回 刑事訴訟法の重要論点②	被疑者取調べに関する諸問題	事前学習：手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、授業に臨む（2 時間）。 事後学習：課題の取り組み（2 時間）。
	13	【月曜 5 限】第 13 回 刑事訴訟法の重要論点③	被疑者の身柄拘束に関する諸問題	事前学習：手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、授業に臨む（2 時間）。 事後学習：課題の取り組み（2 時間）。
	14	【月曜 5 限】第 14 回 刑事訴訟法の重要論点④	訴因・訴因変更に関する諸問題	事前学習：手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、授業に臨む（2 時間）。 事後学習：課題の取り組み（2 時間）。
	15	【月曜 5 限】第 15 回 刑事訴訟法の重要論点⑤	証拠法に関する諸問題	事前学習：手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、授業に臨む（2 時間）。 事後学習：課題の取り組み（2 時間）。
	16	【火曜 5 限】第 1 回	・授業の進め方、受講上の注意	事前学習：手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ

		ガイダンス、民事訴訟法の概要、他の法律(民法、民事保全・執行法、倒産法)との関係	・民事訴訟法について ・関連する法律について	め学習の上、授業に臨む(2時間)。 事後学習:授業内容を復習の上、小テストがある場合には、これを受験する(2時間)。
	17	【火曜5限】第2回 裁判、裁判に携わる人、紛争解決の方策	・裁判について(不服申立手続を含む) ・裁判官、弁護士、検察官について ・紛争解決の方策	事前学習:手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、授業に臨む(2時間)。 事後学習:授業内容を復習の上、小テストがある場合には、これを受験する(2時間)。
	18	【火曜5限】第3回 裁判所	裁判所の種類	事前学習:手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、授業に臨む(2時間)。 事後学習:授業内容を復習の上、小テストがある場合には、これを受験する(2時間)。
	19	【火曜5限】第4回 訴えの種類	・給付、確認、形成の訴え ・訴えの併合、訴えの変更 ・反訴	事前学習:手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、授業に臨む(2時間)。 事後学習:授業内容を復習の上、小テストがある場合には、これを受験する(2時間)。
	20	【火曜5限】第5回 ・民事訴訟の基本原則 ・事実認定	・処分権主義 ・弁論主義 ・自由心証主義	事前学習:手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、授業に臨む(2時間)。 事後学習:授業内容を復習の上、小テストがある場合には、これを受験する(2時間)。
	21	【火曜5限】第6回 民事訴訟の審理	・訴えの提起から判決に至るまでの具体的な手続 ・口頭弁論 ・争点・証拠の整理、証拠調べ ・和解 ・判決	事前学習:手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、授業に臨む(2時間)。 事後学習:授業内容を復習の上、小テストがある場合には、これを受験する(2時間)。
	22	【火曜5限】第7回 事実認定と証拠	・証拠の必要性 ・証拠の種類 ・自由心証主義	事前学習:手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、授業に臨む(2時間)。 事後学習:授業内容を復習の上、小テストがある場合には、これを受験する(2時間)。
	23	【火曜5限】第8回 判決の成立と効力	・既判力 ・執行力 ・形成力	事前学習:手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、授業に臨む(2時間)。 事後学習:授業内容を復習の上、小テストがある場合には、これを受験する(2時間)。
	24	【火曜曜5限】第9回 まとめと復習	講義全体のまとめと復習	事前学習:手持ちの教科書でテーマについてあらかじめ学習の上、授業に臨む(2時間)。 事後学習:授業内容を復習の上、小テストがある場合には、これを受験する(2時間)。
	25	【火曜曜5限】第10回 ・ガイダンス ・商事法の全体像	・授業の進め方、受講上の注意 ・商人概念と商法・会社法について ・商事に関する様々な法律について	事前学習:教科書および配布資料を学習の上、授業に臨む(2時間) ・事後学習:課題の取り組み(4時間)
	26	【火曜曜5限】第11回 ・商法総則(会社法総則)について ・商行為法について	・商法および会社法に共通する総則的規律について ・商行為法の主要な規律について	事前学習:教科書および配布資料を学習の上、授業に臨む(2時間) ・事後学習:課題の取り組み(4時間)
	27	【火曜曜5限】第12回 ・会社総論 ・株式会社法(1)	・様々な会社について ・株式会社の特質について (株式制度・所有と経営の制度上の分離・設立について)	事前学習:教科書および配布資料を学習の上、授業に臨む(2時間) ・事後学習:課題の取り組み(4時間)
	28	【火曜曜5限】第13回 ・株式会社法(2)	・株式会社のコーポレートガバナンスと・機関設計について ・資金調達について ・企業再編について	事前学習:教科書および配布資料を学習の上、授業に臨む(2時間) ・事後学習:課題の取り組み(4時間)
	29	【火曜曜5限】第14回 ・有価証券法について ・金融商品取引法について	・手形小切手の仕組みと法的規律について ・金融商品取引法の主要なルールについて	事前学習:教科書および配布資料を学習の上、授業に臨む(2時間) ・事後学習:課題の取り組み(4時間)
	30	【火曜曜5限】第15回 まとめと復習	商事法全体のまとめと到達度の確認	事前学習:教科書および配布資料を学習の上、授業に臨む(2時間) ・事後学習:課題の取り組み(4時間)
関連科目		行政法Ⅰ・行政法Ⅱ、民事訴訟法、民事保全・執行法、会社法		
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)		具体的な評価方法は、各担当教員により異なるため、各教員の初回授業時に確認すること。		
学生へのメッセージ		本講義は、高い目標を本気で目指す学生のための特別講義です。目標が高い分、学生に対する要求も厳しくなりますが、司法試験に合格した経験を有する教員を含む専任教員が、実務家・研究者としての経験を踏まえて行う質の高い講義は、予備校の授業とは一線を画するものと確信しています。本気の学生の受講を期待します。		
担当者の		11号館10階 田中教授室		

研究室等	1 1 号館 9 階 島田准教授室 1 1 号館 9 階 仲宗根教授室 1 1 号館 9 階 笛木講師室
備考	本講義は選抜制であり、30名を上限とし、原則として法律学特修特別講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅲないし実定法特別講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修していることが前提である。これらを履修していないものには、選抜テストを行う。試験範囲は、行政法、刑事訴訟法、民事訴訟法、会社法である。基準点に満たない者の受講は認めない。また、憲法・民法・刑法の該当年次までの関連科目について、単位取得ないし履修登録をしていない者の受講は認めない。選抜テストの日程はT e a m s上で告知するので、受講を希望する者は、必ず受験すること（やむを得ない理由で受験できない場合は、担当教員まで相談すること）。

科目名	職業指導	科目名 (英文)	Vocational Guidance
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化と職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論、面談する際の技法への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。 講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で話し合いを行って頂きます。 尚、遅刻等は厳禁です。
科目学習の効果 (資格)	工業科における職業指導に関する基礎知識が身に付く

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・ 授業概要の説明、職業の定義、職業指導の概念整理	事前学習: 本科目のシラバスを熟読すること (1 時間)。 事後学習: 年間の学びの計画を立てること (3 時間)
	2	職業指導の基礎理論	・ 職業指導における基本的な考え方、手法	事前学習: 職業指導及びキャリアの基礎理論について調べておくこと (2 時間) 事後学習: 職業指導に関する資料を熟読すること (2 時間)。
	3	職業指導の歴史①	・ アメリカ・ヨーロッパを中心に職業指導の経緯を知る	事前学習: 欧米の職業指導に関して調査すること (3 時間)。 事後学習: 講義の内容を振り返ること (1 時間)
	4	日本の産業構造の変化	・ 日本の産業、雇用事情の変化を知る	事前学習: 日本の産業の変遷について市調べておくこと (3 時間)。 事後学習: 講義内容を振り返ること (1 時間)
	5	職業指導の歴史②	・ 日本の戦後の教育改革について	事前学習: 日本の戦後の教育改革について調べておくこと (2 時間)。 事後学習: 配布資料を熟読し、講義内容を振り返ること (2 時間)
	6	日本型雇用と職業指導	・ 日本における雇用システムの変容と職業指導の関わり	事前学習: 日本型雇用について発表資料を作成すること (3 時間)。 事後学習: 発表及びディスカッションの内容を振り返ること (1 時間)
	7	新規高卒就職システム	・ 新規高卒労働市場の変容と現状	事前学習: 高卒労働市場に関して調べておくこと (2 時間)。 事後学習: 講義内容を振り返ること (2 時間)
	8	高等学校における職業指導	・ 各種学校における職業指導の在り方について	事前学習: 高校の職業指導の事例について調査・発表資料を作成すること (3 時間) 事後学習: 講義内容を振り返ること (1 時間)
	9	「労働すること」を考える	・ 仕事をするものの意義を考える	事前学習: 仕事をする意味について意見をまとめておくこと (2 時間) 事後学習: 自らの労働観について考えること (2 時間)。
	10	職業指導の領域	・ 学校、家庭、地域コミュニティ、公的機関等職業指導がなされる「場」について考える	事前学習: 職業指導領域に関する資料を事前に熟読すること (2 時間)。 事後学習: 講義内容を振り返ること (2 時間)
	11	キャリア教育の基礎理論①	・ キャリアデザインにおける基礎理論を知る	事前学習: 自己について考えておくこと (2 時間) 事後学習: キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること (2 時間)。
	12	キャリア教育の基礎理論②	・ キャリアデザインにおける基礎理論を知る	事前学習: 児童・生徒の発達について考えておくこと (3 時間) 事後学習: キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること (1 時間)。
	13	授業内容立案	・ 高校生向けの職業指導・キャリア教育に関する授業内容を立案する	事前学習: 高校でのキャリア教育の事例について調べておくこと (1 時間) 事後学習: 模擬授業の準備をすること (3 時間)。
	14	模擬授業①	・ 講義 13 で立案した内容で模擬授業を実施	事前学習: 模擬授業の準備をすること (2 時間)。 事後学習: 他者及び自らの発表内容を振り返ること (2 時間)
	15	講義の振り返り	・ 講義の振り返り、前期の中間レポートの提出	事前学習: 前期のレポートを作成すること (3 時間)。 事後学習: 講義全体を振り返ること (1 時間)
	16	オリエンテーション	・ 後期授業概要の説明	事前学習: 本科目のシラバスを再度熟読すること (1 時間)。 事後学習: 後期の学習計画を立てること (3 時間)
	17	商業教育と職業指導	・ 商業高校における職業指導について	事前学習: 商業高校の職業指導事例に関して調査すること (2 時間)。 事後学習: 講義の内容を振り返ること (2 時間)
	18	工業教育と職業指導	・ 工業高校における職業指導について	事前学習: 工業高校の職業指導事例に関して調査すること (2 時間)。 事後学習: 講義の内容を振り返ること (2 時間)
	19	普通科高校と職業指導	・ 普通科高校における職業指導について	事前学習: 普通科高校の職業指導事例に関して調査すること (2 時間)。 事後学習: 講義の内容を振り返ること (2 時間)

	20	フリーターとニートについて	・グループ（またはペア）でフリーター・ニート対策を考える	事前学習：フリーター・ニート問題に関して調査し、ディスカッションできるよう準備すること（2時間）。 事後学習：講義内容を振り返ること（2時間）
	21	職業指導・キャリア教育の実例	・地方も含めた職業指導の事例紹介	事前学習：発表の準備をすること（2時間）。 事後学習：他者及び自らの発表の内容を振り返ること（2時間）
	22	キャリアデザインとは何か	・キャリアデザインとは何かを考える	事前学習：自らの人生の節目について考えること（2時間）。 事前学習：講義内容を振り返ること（2時間）
	23	高校生の就業力について 職業適性とは何か	・新規高卒者が求められる就業力について ・職業適性、各種アセスメントについて	事前学習：大卒と高卒の就職システムの違いについて調査すること（2時間） 事後学習：自らの適性の活かし方を考えること（2時間）。
	24	人権教育としての職業指導	・職業指導の国際基準、ハンディキャップがある生徒への職業指導	事前学習：ILOの提唱する「人間らしい働き方」について調査すること（2時間） 事後学習：配布資料を精読すること（2時間）。
	25	未来の働き方を考える	・日本の課題、それにより想像される未来における働き方を考える	事前学習：AIによる仕事の代替可能性について調査すること（2時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（2時間）。
	26	就業力向上企画を立案①	・高校生の就業力向上のための企画・授業を考える	事前学習：発表の準備をすること（3時間）。 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること（1時間）
	27	就業力向上企画を立案②	・26回目で考えた内容を発表する	事前学習：発表の準備をすること（3時間）。 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること（1時間）
	28	キャリアカウンセリング理論①	・自己概念・環境との相互作用・学習理論からのアプローチ	事前学習：キャリアカウンセリングとは何かについて調べておくこと（2時間） 事後学習：講義の内容について振り返ること（1時間）
	29	キャリアカウンセリング理論②	・カウンセリングマインドを知る	事前学習：キャリアカウンセリングとは何かについて調べておくこと（1時間） 事後学習：講義の内容について振り返ること（2時間）
	30	まとめ/講義の振り返り	・提出物の確認、授業内容に関する質疑応答	事前学習：期末レポートを作成すること（4時間）。 事後学習：講義全体を振り返ること（2時間）
関連科目	教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。また「特別活動論」にも近接します。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	講義内での課題、提出物、レポート、授業への積極的参加、レポートの提出状況およびその内容も加味して、成績を判定します。 平常点(30%)、授業課題(10%)、中間レポート(30%)、期末レポート(30%)			
学生への メッセージ	「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。特に後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。 なお、講義は担当者の人材業界での業務・及び起業経験に基づいたお話も交えて進行します。			
担当者の 研究室等	水野講師室（7号館3階）			
備考				

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	片岡 雅世
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	法学基礎演習 I・II の目的は、主として3つあります。(1) 法学部における勉学のためのガイダンスを行うこと、(2) 法学部生として身につけるべき基本的能力を引き出して訓練するとともに、これからの法学部生活を送るにあたって学習意欲を高めること、(3) 有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 (1) ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方 (特に法学部生として必要な使い方)、⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 (2) 法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の4年間の意欲的に過ごせば、皆さんも必ずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。例えば、①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、②皆さんが興味を持っている事柄について議論する、③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、④ディベートを行うなどです。皆さんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できる限り、希望に沿うよう努力します。 (3) 学生生活支援とは、皆さんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、皆さんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言も行います。例えば、①公務員試験対策、②税理士や裁判所職員などの法律専門職、③就職への心構え、④大学院進学、⑤海外留学など、早い段階から準備をした方がよい事柄について相談に乗り、適切なアドバイスを与えます。 以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生の皆さんに親身に接する中で、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後4年間にわたって実りある法学部生活を送ってもらうための道筋を示すことを目指しています。																		
到達目標	(1) 法を学ぶうえで必要となるさまざまなアカデミック・スキルの基礎を身につける。 (2) 自分の考えを他者に的確に伝え、また他者の考えを正確に理解することで、コミュニケーション能力を身につける。 (3) 大学 (法学部) で学ぶ意味を明確に理解することで各自の目標を設定でき、それに向けて計画的に取り組む力を身につける。 (4) 自らの進路等を考え、自主的・積極的に行動することができるようになる。																		
授業方法と留意点	主として演習形式で実施しますが、必要に応じて教員からレクチャー (講義) をすることもあります。また、法学基礎演習 I ではグループワークも多く取り入れる予定です。その他、必要な資料等については授業時に適宜指示します。場合によっては、Teams を利用して資料等を共有したり、課題を出題・提出する可能性もあります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業テーマ：受講生と相談しながら決定していきます。 内容・方法：学部共通の図書館利用指導、研究倫理及び環境についての教育、『First Year Study Guide』を使った指導、法情報の調査・収集方法の指導、六法の使い方、読み方、法律文書の作成方法の指導を中心に行います。 事前・事後学習課題：配布資料などがある場合には事前に目を通して、分からない用語等を確認してから受講すること (各回約2時間が目安)。授業終了後は、授業で学んだことを振り返り、授業内容について理解を深めること (各回約2時間が目安)。																		
関連科目	法学部の専門科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	課題・レポート (40%) および議論への積極的な参加態度 (60%) を総合的に評価します。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考	遅刻、欠席をしないこと。やむを得ない場合には、メールなどで必ず担当者へ連絡すること。																		

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary SeminarⅠ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	仲宗根 京子
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として3つあります。（1）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（2）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（3）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （1）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要なノウハウを学びます。																		
到達目標	この授業を通じて学生には、学生生活に慣れてもらうことで、大学生として学習を進めるにあたっての不安を解消し、さらに、法学部生に必要な基礎的能力を身につけることを期待します。																		
授業方法と留意点	皆さんでディスカッションしながら疑問点を解決していきます。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・授業テーマ 大学生・法学部生に必要なものは何か ・授業内容 学生生活で必要となってくる知識やノウハウを身につける。具体的には、レポートの書き方、図書館の利用、パソコンの利用といったすべての授業に必要なことを学ぶ。さらに、法学部生として、六法の使い方・読み方を学んだり、裁判傍聴などで裁判実務を学んだり、法的な素養も養ってもらふ。 ・事前学習および事後学習 事後的な復習を行い、疑問点は早めに解決して分からないことをそのままにしないように心掛けること。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	演習での参加態度として、プレゼンテーションの内容（40%）やディスカッションでの発言（30%）などを判断材料にして、どれほど演習の時間を自分で有意義なものにしているか（30%）を評価します。																		
学生へのメッセージ	最初は誰もが不安に思い、分からないことの方が多いと思います。まずは大学生活に慣れるように、そして法学部生として大学で学ぶ上で必要なスキルを身につけましょう。																		
担当者の研究室等	11号館10階																		
備考	事前・事後学習課題とそれに要する時間はそれぞれ1時間30分を目安とする。 課題の解説は次の回の授業で行う。																		

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	團野 正浩
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	法学基礎演習の目的は、主として3つあります。(1) 法学部における勉学のためのガイダンスを行うこと、(2) 法学部生として身につけるべき基本的能力を引き出して訓練するとともに、これからの法学部生活を送るに当たって学習意欲を高めること、(3) 有意義な学生生活を送れるように様々な支援をすることです。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、次の目標を達成することが期待されます。 ①法学部における学習の基本や法律的なものの考え方を理解すること ②大学生活になじむこと ③大学4年間を計画的に過ごすための基礎を固めること																		
授業方法と留意点	演習は参加重視ですので毎回必ず出席してください。法学基礎演習に限らず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。当ゼミ独自のテーマでは、皆さんのプレゼンテーションの後に質疑応答の時間を設けます。皆さんが主役ですので積極的に発言してください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本学共通教材の「first year study guide」を使用して大学生活を送るうえで知っておくべきことを学ぶほか、当ゼミ独自では、「社会で起きていることに関心を持つ」というテーマで、世論を二分しているような種々の社会問題について考えます。 授業計画に応じたテーマにつき、事前・事後の学習を行い、理解を深めることが重要です。																		
関連科目	憲法、民法など																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	平常点 (50%)、レポートの内容 (20 点) 及び課題発表 (30%) によって評価します。平常点は、ゼミでの積極的な発言と参加状況、レポートの提出状況を重視します。																		
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法が分からないときには、気軽に相談してください。また、グループで学習する演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となります。良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。																		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 團野研究室																		
備考	課題発表は、質疑応答の後に、良かった点、改善・工夫を要する点などにつきコメントします。レポートについても適宜講評を行います。重要なことは自ら学習する姿勢を身に着けることです。したがって、授業計画に応じたテーマにつき、事前・事後の学習を少なくとも毎回各2時間程度行うように心掛けて下さい。																		

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	河原 匡見
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	法学基礎演習 I ・ I I の目的は、主として3つあります。(1) 法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2) 法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、(3) 有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 (1) ガイダンスでは、図書館の利用方法、六法や法学参考文献の利用のしかた、法学専門講義の履修についての心構え、パソコンの使い方(とくに法学部生として必要な使い方)、その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 (2) 法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の4年間で意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、みなさんが関心をもっていることについて議論する、法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、ディベートをおこなう、裁判所見学など学外研修を実施するなどです。みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。 (3) 学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、公務員試験対策、税理士や裁判所職員などの法律専門職、就職への心構え、大学院進学、海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。 以上のように、今後4年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、大学生としての勉強のしかたや日々の過ごしかなどを学んで、安全で有意義な大学生活を送れるようになることと、2年次後期から履修が始まる「専門演習」に備えて演習形式の学習法に慣れることが期待される。																		
授業方法と留意点	「対面方式」で実施します。新入生共通教材の「フレッシュマンズ・スタディガイド」を使った指導と、法律の理解の前提になる社会問題への関心の醸成を進めていきます。また、法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時メールなどで受け付けますので、気軽に相談してください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	詳細は、第1回目の演習で説明しますが、概ねIでは、大学での学業生活に慣れることを主眼に据えていきます。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	平常点(学習姿勢70%および課題提出30%)により評価します。																		
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、クラス担任のようなものです。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 河原教授室																		
備考	課題レポートは、その課題内容により、提出した次の回に講評を加えることがあります。事前事後学習を重視して、各2時間程度行ってください。																		

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary SeminarⅠ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 敦
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	・本演習及び後期の法学基礎演習Ⅱを通じ、通年で共通する授業内容としては、(1) 法学部における勉学のためのガイダンスを行うこと、(2) 法学部生として身に付けるべき基本的能力を引き出して訓練するとともに、これからの法学部生活を送るに当たって学習意欲を高めること、(3) 有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすること、の3つを考えている。 ・本演習では、まずは大学生活に親しんでもらうという観点から、学生の希望も聞きつつ授業を行ってきたい。特に本演習では、合同授業も含め、導入的に、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④その他、学生生活に必要な事項について学ぶ。																		
到達目標	この授業を通じて学生には、大学生としての生活に慣れ、自発的に学ぶ姿勢を身に付けるとともに、人前で自分の意見を述べる発表力を付けることが期待される。																		
授業方法と留意点	・授業に出席して議論に積極的に参加することを重視する。無断欠席・無断遅刻は慎んでほしい。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡をいただきたい。 ・本演習の授業内容に限らず、学生生活全般にわたる質問や疑問であっても、随時受け付けるので、気軽に相談してほしい。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・授業概要で示した演習の目的を踏まえ、具体的に次のような授業内容を予定している。なお、このほか、随時学内施設の案内や合同での講義など、1年共通の合同授業が行われることもある。 (1) については、FIRST YEAR STUDY GUIDE を用いて説明を行ったりする。 (2) については、適宜講義を行うほか、資格サポートセンターの担当者からの説明も行う。 (3) については、学生からの希望なども踏まえ、適宜行っていきたい。 ・学習は、授業の外、事前学習と事後学習を行う。授業内容によっても異なるが、各2時間は行ってほしい。どのような学習をするかについては、Teams や授業の際に指示する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業における態度（・勉学の姿勢（遅刻せずきちんと出席しているか、授業内容をきちんと聞いているか、議論に真面目かつ積極的に参加しているか、事前事後の学習をして授業に対応できているか。60%）及び、Teams 上での小テストや課題（40%）で評価する。欠席・遅刻が多かったり、授業態度が良好でない場合には、別途レポートを課することがある。																		
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートを切ってください。																		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 田中教授室																		
備考	学生の理解度、授業態度等によっては、授業の方法、順序、内容を変更することがある。																		

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	演習（ゼミ）は大学独特の勉強の形式で、教員と少人数の学生の間で議論（ディスカッション）をしたり、発表（プレゼンテーション）をしたりする。法学基礎演習では、卒業まで4年間続く演習の形式でこういった努力が必要か、課題に取り組みながら学ぶ。		
到達目標	この演習を通じて学生には、①課題について自分の考えをまとめて、発言する、②他の学生の考えを聴いて、メモをとる、③そのメモをもとに質問をしたり、意見を述べたりすることが期待される。		
授業方法と留意点	課題について下調べをして、自分の考えをまとめ、他の学生との間で議論を行う（ディスカッション）。同様に、発表を行う（プレゼンテーション）。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	学生間で話し合う、発表しあう課題は、自分の地元の特色といった身近な事柄から、政治・経済・社会の時事に関することまで広く扱う。事前の下調べが不可欠である。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	演習時限の全出席を前提とする。課題の下調べ(30%)、発表(40%)、議論への貢献度(30%)の合計によって評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	11 号館 9 階 中沼教授室		
備考	課題の下調べに各回1時間ほどが必要になる。 発表の質疑応答や議論の記録をとり、学生に共有する。		

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浮田 徹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	法学部生としての基礎的な能力を養います。またそれだけでなく、大学生として、将来の社会人として生きていけるような基礎力を身につけるきっかけを創り出します。			
到達目標	この演習を通じて学生は、大学生としての基礎的なコミュニケーション能力、文献検索能力、プレゼンテーション能力を培います。また、4年間の大学生活のスタート地点の講義として、また卒業後の人生も含めた過ごし方の基礎を作って行けるようになることが期待されます。			
授業方法と留意点	演習形式で行います。個人での作業だけでなくグループワークも行いますのでコミュニケーション能力を高める必要があります。プレゼンテーションも行ってもらいます。。基本的にはレポートで替えられるものではありませんので毎回の出席が前提です。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	まず ・自分が何を考えているのか ・自分は何を話しているのか ・他人が何を意図しているのか ・他人が何を伝えようとしているのか を実感出来るよう、具体的なコミュニケーション、文章理解、報告などを実践します。 具体的には開講時、そして講義の途中に決めていく部分も多くなります。			
関連科目	法学部開講科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	出席を前提として、当日演習中に作成する課題(60%)、事後の課題(40%)で評価します。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	11号館9階 浮田准教授室			
備考	事前学習としては、演習時に使用する素材に関する文献を読むことになります(30分)、事後学習としては当日の演習に関する課題を課すのでその作成を行います(60分)。			

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary SeminarⅠ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として3つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （２）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間で意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、②みなさんが関心をもっていることについて議論する、③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、④ディベートをおこなう、⑤裁判所見学など学外研修を実施するなどです。みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそよう努力します。 （３）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、①公務員試験対策、②税理士や裁判所職員などの法律専門職、③就職への心構え、④大学院進学、⑤海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後４年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。																		
到達目標	この授業を通じて学生には、法学・政治学・法政策学を今後学んでいく上で必要と思われる基本的素養を修得することが期待される。																		
授業方法と留意点	I First year study guide を用いるが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するため、および事前・事後の学習のために ICT ツールを活用していただく場合もあります。対面による授業を原則とします。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業テーマ：決められたテーマについて報告、ディスカッションを行う予定ですが、詳細は受講生と相談しながら決めていきたいと思います。 内容・方法：演習（決められたテーマについて報告、ディスカッションを行う） 事前・事後学習課題：必要に応じてその都度指示する																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	平常点（授業に参加する態度 30％、課題 50％、プレゼンテーション 20％）により評価します。欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課す場合もあります。																		
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでください。 法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。																		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 石井教授室																		
備考	各回に 1 時間程度、すなわち半期で 15 時間程度を目安に、事前・事後の学習を行ってください。 課題の解説については、次の回の授業で行う。																		

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary SeminarⅠ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	島田 良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として3つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （２）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間で意欲的にすごせば、みなさんもちろんそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、②みなさんが関心をもっていることがらについて議論する、③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、④ディベートをおこなうなどです。みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。 （３）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、①公務員試験対策、②税理士や裁判所職員などの法律専門職、③就職への心構え、④大学院進学、⑤海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後４年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。																		
到達目標	この授業を通じて学生には、法学を学んでいく上で必要と思われる基本的素養を修得することが期待されます。																		
授業方法と留意点	受講生にはグループワークの形でプレゼンテーションやディベートなどに積極的・主体的に取り組んでもらうことになります。したがって、遅刻・無断欠席は厳禁です。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	上述したように、この授業ではプレゼンテーションやディベートなどを通して学生に主体的に授業に取り組んでもらいます。したがって、事前・事後学習についても、その準備やその後の振り返りにそれぞれ 30 分程度は要することになるかと思われます。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	ディベートやプレゼンテーションなどの内容（50%）、ディベートやプレゼンテーションなどにおける発言・取り組みの姿勢・態度（50%）。ただし、欠席・遅刻が多い場合には単位不認定となる場合があるのでくれぐれも注意してください。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11 号館 9 階 島田准教授室																		
備考																			

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	家本 真実
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	これから法学部で4年間を過ごすことになる学生の皆さんにとって必要な知識と能力の基礎作りをするのが、このゼミの目的です。たとえば、社会で起きている出来事について、それが一体どういうことなのか、なぜその出来事が起きているのか、また問題があるのならどのような解決が考えられるか、といったことを考えていただくことは、法や政治を学ぶにあたって重要なことです。そして様々なことについて自ら考える力は、これから皆さんが社会人として生活するにあたって必須であり、役立つことです。 したがってこのゼミでは、自分で情報を調べたり、ゼミの他の学生と話し合ったりして、物事を理解するための方法と、理解することの重要性を学んでいただきたいと思います。																		
到達目標	このゼミを通じて、学生の皆さんには、様々なツールを使って、自らの力で物事を理解することができるようになることが期待されます。																		
授業方法と留意点	教員から講義をおこなう部分と、ゼミ生の皆さんが自ら考え、議論したり作業するといった活動をしていただく部分とが混在することになります。ゼミ生の皆さんが個別に作業したり、またはグループで議論したり作業する時間のほうが、割合としては多くなります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	時事問題や最近話題になった法的問題や判決、法律を扱ったドラマや映画を題材として取り上げる予定です。 ゼミ中におこなう活動や議論の準備として、事前に読んでくるべき資料をお渡ししたり、課題を課したりすることがありますので、各自（またはグループで）、ゼミ前後にいくらか時間を費やしていただく必要があります。																		
関連科目	法学基礎演習 II																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	ゼミ中の受講姿勢や活動の内容（80%）、提出された課題（20%）を評価の対象としますので、出席はすべての回について必須です。無断遅刻・欠席は即、単位が取れなくなるものとお考えください。																		
学生へのメッセージ	とにかくゼミには毎回出席していただくこと、これが第一です。																		
担当者の研究室等	11 号館 9 階 家本准教授室																		
備考	事前・事後学習に要する総時間数の目安：60 時間																		

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	城内 明
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	本演習では、受講生が選択したテーマにつき、ディベートを行います。 本演習は、グループワークの中で、議論のあり方を学び、興味関心あるテーマに取り組む中で、調査研究の手法(図書館の使い方、文献検索の方法等)を体得し、研究倫理の基礎(引用・参考文献の示し方)及びプレゼンテーションの手法を学ぶことを目的とします。		
到達目標	この授業を通じて学生には、法学部生として学べき基本的な倫理・知識・手法を身に付けることを期待します。		
授業方法と留意点	基本的にグループワークとなります。 グループに分かれての作業が中心となりますので、遅刻・欠席のないよう、くれぐれも注意して下さい。どうしても遅刻・欠席せざるを得ない場合は、教員及びグループの仲間への連絡を忘れないようにして下さい。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本演習では、初回に決定したディベートテーマについて、2回のディベート大会を開催します。 2グループに分かれ、それぞれ所定の立場から、ディベートテーマに係る調査・研究し、ディベート大会に備えてください。 事前事後の学習課題については、適宜指示します。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	報告内容(40%)およびグループでの作業への貢献度、発言内容等(60%)を総合評価します。 なお、遅刻・欠席が多い学生については、特別に課題を課すこともありますのでご注意ください。		
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 城内准教授室		
備考	本演習のために、計 20 時間程度の事前・事後学習時間が必要となります。		

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary SeminarⅠ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として3つあります。 （１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと （２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること （３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、 ①図書館の利用方法 ②六法や法学参考文献の利用のしかた ③法学専門講義の履修についての心構え ④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方） ⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （２）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間で意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。 たとえば、 ①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める ②みなさんが関心をもっていることがらについて議論する ③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する ④ディベートをおこなう などです。 みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。 （３）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応することです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。 たとえば、 ①公務員試験対策 ②税理士や裁判所職員などの法律専門職 ③就職への心構え ④大学院進学 ⑤海外留学 など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。 以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後４年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、 「・図書館を通じて法学の文献を取捨選択できる ・判例データベースを用いて判例を検索できる」 ようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	・演習（ゼミ）形式（反転授業）で行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答を行う。 ・法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	法的な問題について、プレゼンテーションやディベートなどを行う。																		
関連科目	専門科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>※開講時に指示する。</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	※開講時に指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	※開講時に指示する。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>※開講時に指示する。</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	※開講時に指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	※開講時に指示する。																		
2																			
3																			
評価方法（基準）	・ディスカッションへの参加度（50％）と貢献度（50％）によって評価する。																		
学生へのメッセージ	・学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。 ・また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。 ・どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 小野教授室																		
備考	・事後学習として、演習で扱った内容についてノートにまとめるなど、毎回2時間以上の復習に取り組むこと。 ・レポート課題に対するフィードバックは翌週の授業内で行う。																		

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	萩原 佐織
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	法学基礎演習 I のおもな授業内容として、 (1) 法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、 (2) 法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、 (3) 有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることの 3 点を上げることができます。 個々の細かな知識を覚えることも大事ですが、むしろこの演習ではこれから学習していく法律学の全体像を大まかにとらえ、2 年次以降の専門的な学習に対応できる基礎力を養うことが重要になります。																		
到達目標	大学生活が始まったばかりで多々不安な点があるかと思いますが、この演習を通じて学生には、そうした不安をいち早く払拭し、法律学の勉強に専念できる体制を整えることが期待される。																		
授業方法と留意点	演習では、課題はもちろんのこと、出席して行う演習内活動（平常点）も重視します。無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、原則として、事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。演習では、図書館利用案内等、法学部共通のプログラムのほか、数名で構成するグループによる判例研究等のプレゼンテーション並びにその準備としてのグループワーク、その題材に基づくディベートやディスカッションを中心にを行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期は大学生活に慣れることを目標に、みんなで大学生の基本的スキルを身につけたいと思います。大学生活が始まったばかりで、色々な分からないことや不安なことがあるかと思いますが、それらの不安を払拭してサポートすることを念頭に置いています。また、大学内に友人や知人が未だ少ない時期だと思います。そのため、ゼミ生同士がお互いを知り、今後 4 年間学生生活をともにする仲間を見つけられるように、自己紹介や、互いにコミュニケーションが図れるような機会を多く設ける予定です。 演習の具体的な内容としては、パワーポイントを用いた自己紹介、パワーポイント・ワードの使い方やレポートの書き方の講義、大学生活についてのアドバイス、簡単な法律に関する課題・レポートや発表を予定しています。また、図書館で文献を探したり、オンラインジャーナルやオンライン判例検索を用いた判例・論文等の入手方法についても学び、実際に入手した資料を用いてグループワークや発表を行います。 予習事項は、毎回その都度指定しますが、各自の発表に備えて Word やパワーポイント資料を作成したり、設定テーマに関連する文献を図書館やオンラインジャーナル等で調べて読み込んでおくこと、発表準備を行うこと等が挙げられます。 また、復習事項は、ゼミ内に教員より個別に指導された内容、例えば、発表資料の修正、文献の追加検索や入手です。Teams 上で提出し返却された課題については、そこに示されたフィードバックの指示に従って復習を行って下さい。 事前・事後学習の時間は、それぞれ 2 時間、プレゼンテーション前は 3 時間を想定しています。																		
関連科目	法学部の専門科目のすべてにかかわります。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	演習内におけるプレゼンテーション準備やディベート・ディスカッション等の平常点（60%）、プレゼンテーションやレポート・課題（40%）で評価します。また、欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。																		
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。																		
担当者の研究室等	11 号館 9 階 萩原准教授室																		
備考	判例研究等のプレゼンテーションの際には、準備段階から、Word や Power Point の使い方、論文・判例等の各種文献検索や判例研究の仕方を含め、適時、演習内において指導する。 また、プレゼンテーション終了後は、その場でそのフィードバックを行い、次のプレゼンテーションに還元できるように努める。																		

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	法学部生としての基礎的な能力を養います。またそれだけでなく、大学生として、将来の社会人として生きていけるような基礎力を身につけるきっかけを創り出します。		
到達目標	この演習を通じて学生には、大学生としての基礎的なコミュニケーション能力、文献検索能力、プレゼンテーション能力を付けることが期待されます。 また、4 年間の大学生活のスタート地点の講義として、また卒業後の人生も含めた過ごし方の基礎を作ってもらいます。		
授業方法と留意点	演習形式で行います。基本的にはレポートで替えられるものではありませんので毎回の出席が前提です。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	まず ・自分が何を考えているのか ・自分は何を話しているのか ・他人が何を意図しているのか ・他人が何を伝えようとしているのか を実感出来るよう、具体的なコミュニケーション、文章理解、報告などを実践します。 具体的には開講時、そして講義の途中に決めていく部分も多くなります。		
関連科目	法学部開講科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	ゼミへの取り組み方から、教員により評価をいたします。具体的には、課題に対する対応・提出内容（40 点）、ゼミでの発言等の積極性（40 点）、自らのアピール（20 点）の予定です。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	11 号館 9 階 大川准教授室		
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の 3 つから成り立っています。 予習内容としては、演習で与えられる課題を個人で準備を行う必要があります。その準備を 90 分を基準として行う必要があります。 復習として、課題に対し、中間報告及び最終報告の内容を正確に押さえる必要があります。その為に 90 分を基準として行う必要があります。 学生主体の演習を目指しています。各実施状況については各自の報告時及びメールで確認します。 演習での縦の人間関係も重視しております。コンパなどで、就活などの情報も先輩から後輩へと伝えていくこと		

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松島 裕一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	法学基礎演習 I・II のおもな授業内容として、(1) 法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2) 法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、(3) 有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることの 3 点を上げることができます。 個々の細かな知識を覚えることも大事ですが、むしろこの演習ではこれから学習していく法律学の全体像を大まかにとらえ、2 年次以降の専門的な学習に対応できる基礎力を養うことが重要になります。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、法律学の勉強に専念できる体制を整え、一刻も早く大学生活に慣れることが期待される。																		
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期は大学生活に慣れることを目標に、みんなで大学生の基本的スキルを身につけたいと思います。時おり簡単な課題を出しますので、それを提出してください。具体的には毎年パワーポイントを用いた報告会を行っていますので、今年も皆さんにもそれに取り組んでもらうことになるとと思います（あるいは、文献講読になるかもしれません）。 なお、パワポ、レジュメ作成などの事前の課題の取り組みに 60 分程度、またゼミで学習したことの振り返りに 60 分程度が必要となります。グループワークやディスカッションを行いますので、無断欠席・遅刻は他のゼミ生の迷惑になります。その点は注意してください。																		
関連科目	法学部の専門科目のすべてにかかわります。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	毎回の出席を当然の前提とし、ゼミ中での発言 (ディスカッション・ディベート)、レポートなどの提出物、レジュメ・報告の出来などを総合的に判断して成績評価を行います (100%)。欠席・遅刻が多い場合には、単位取得を認めないこともあります。																		
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。																		
担当者の研究室等	11 号館 9 階 松島准教授室																		
備考	何かしら書籍を購入してもらうことになるかもしれませんので、そのつもりでゼミに臨んでください。																		

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	増田 知也
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	この授業では、法学部で勉強する上で必要な、基礎的な知識・技能を身につけることを目指す。法学・政治学に関わるテーマを設定し、グループごとに情報収集、発表、議論を行う。適切な情報の入手方法、分かりやすい発表資料の作り方、建設的な議論の仕方について学ぶ。																		
到達目標	この授業を通じて学生には、多様な情報を基に自分の意見を形成し、他者との議論を通じて一段階上の結論を導くことができるようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	グループワークを中心に授業を進行する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. ガイダンス 大学生活について、授業の進め方、情報機器の使い方、情報の入手方法などについてガイダンスを行う。 2. テーマの設定 法学・政治学に関わるテーマをいくつか提示し、グループごとに取り組むテーマを選択する。 3. 情報収集 図書館、インターネットなどを駆使して、テーマについての情報を集め、グループとしての結論を出す。 4. プレゼンテーション グループごとに成果を発表し、質問や意見を出し合い、更に理解を深める。 事前・事後学習課題 グループで選んだテーマについての情報収集を行う (4 時間)																		
関連科目																			
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	到達目標の達成度 60% 、グループ活動への貢献 20%、積極的発言 10%、プレゼンテーション 10%																		
学生へのメッセージ	大学では、高校までとは勉強の仕方が 180 度変わります。正解のない問題に取り組む難しさと楽しさを感じてもらえればと思います。																		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 増田講師室																		
備考																			

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary SeminarⅠ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	一般的に大学生の教養とされている文献の読解能力や論理的思考力・判断力・表現力の基礎を身につけることが目的です。学生の皆さん一人一人が、自分が興味を持っている問題について主体的に考え、議論し、問題解決への糸口をつかめるような主体的・対話的で深いアクティブ・ラーニングの場を提供します。 また授業の受け方やレポートの書き方など、大学生活を送る上で必要な事柄についても授業します。																		
到達目標	この授業を通じて学生は、大学生の教養として必要な書物・新聞記事・評論などを読んで基本的な知識・技能を獲得するとともに、その要点やメリット・デメリットをまとめ、望ましい解決策について他者と討議し、他者に対してそれを明確に発表するという論理的思考力・判断力・表現力を育成することが期待されます。 またグループディスカッション・プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通じて主体的・対話的で深い学びを行うなかで、学習や仕事に対する意欲や積極的な人間性を育み、社会において良好で協調性のある人間関係を構築する																		
授業方法と留意点	ABD（Active Book Dialogue，アクティブ・ブック・ダイアログ）というアクティブ・ラーニングの方法を用いて、政治問題に関する文献の読解・グループディスカッション・プレゼンテーションを毎回全員が行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・授業テーマ・内容 教養文献の読解や議論、発表を通じて、その内容を正確に理解し、他者と討議してその内容を吟味し、他者にわかるようにその内容・解決策を発表することによって、基本的な日本語読解能力と論理的思考力・判断力・表現力を修得することができます。 ・授業方法 学生の皆さんの興味・関心を考慮しながら、教養文献をその場で毎回輪読・議論・発表する ABD（Active Book Dialogue，アクティブ・ブック・ダイアログ）というアクティブ・ラーニングの方法を用います。短い時間で日本語の文章を読み、その要点を的確に理解することは、就職試験や公務員試験の「文章読解」で求められる能力でもあり、社会人になった後のマニュアル・資料の読解にも必ず必要な能力です。またグループディスカッションやプレゼンテーションは、仕事で問題が発生したときにその原因を的確に把握し、他者と望ましい解決策を討議し、最善と判断した改善策を他者に論理的に説得するためにも必要な能力です。 ・事前、事後学習課題 事前学習...その場で教養文献を読んでもらうので、必要ありません。 事後学習...文献全体をもう一度読み直し、内容を理解しておくこと（60分～90分程度）。																		
関連科目	法学基礎演習Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業でのグループディスカッション（50％）とプレゼンテーション（50％）で評価します。																		
学生へのメッセージ	大学生活に慣れるべく、毎回出席してください。またさまざまな分野の教養文献を読み、自分の興味・関心を広げていってください。																		
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館 10 階 和田研究室																		
備考	グループディスカッションでは教員も適宜参加し、助言を与えます。プレゼンテーションでは毎回その内容について全員に助言と短評を与えます。																		

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary SeminarⅠ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	本多 康作
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として3つあります。 （１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと （２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること （３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、 ①図書館の利用方法 ②六法や法学参考文献の利用のしかた ③法学専門講義の履修についての心構え ④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方） ⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （２）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間で意欲的にすごせば、みなさんもちろんそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。 たとえば、 ①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める ②みなさんが関心をもっていることがらについて議論する ③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する ④ディベートをおこなう などです。 みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。 （３）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。 たとえば、 ①公務員試験対策 ②税理士や裁判所職員などの法律専門職 ③就職への心構え ④大学院進学 ⑤海外留学 など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。 以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後４年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、 ・図書館を通じて法学の文献を取捨選択できる ・判例データベースを用いて判例を検索できる ようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	・演習（ゼミ）形式（反転授業）で行う。 ・教員から的一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答を行う。 ・法学基礎演習にかかわらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	法的な問題について、プレゼンテーションやディベートなどを行う。																		
関連科目	専門科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>※開講時に指示する。</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	※開講時に指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	※開講時に指示する。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>※開講時に指示する。</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	※開講時に指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	※開講時に指示する。																		
2																			
3																			
評価方法（基準）	・ディスカッションへの参加度（50％）と貢献度（50％）によって評価する。																		
学生へのメッセージ	・学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。 ・また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。 ・どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。																		
担当者の研究室等	本多研究室（11 号館 9 階）																		
備考	・事後学習として、演習で扱った内容についてノートにまとめるなど、毎回２時間以上の復習に取り組むこと。 ・レポート課題に対するフィードバックは翌週の授業内で行う。																		

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary SeminarⅠ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	寺山 洋一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	本法学基礎演習Ⅰでは、大学生としての学業生活に慣れ親しむことを主眼に置いています。 その目的は、次のとおり、主に3つあります。 ① 法学部における修学のためのガイダンス（Guidance）を行うこと。 ② 法学部の学生としての基本的な能力を引き出すとともに、向学心を養いつつ、基礎的なスキル（Skill）を高めること。 ③ 大学生としての実りある諸活動を支援し、推し進めること。 法学基礎演習Ⅰは、少人数教育の強みを活かし、担当教員が、それぞれの受講者の将来の抱負に寄り添いつつ、実りある学業生活のための道筋を示すことを目指しています。																		
到達目標	法学基礎演習Ⅰを通じ、これからの法学の学修に向けて、基本的な素養や基礎的なスキルを修得することが期待されます。																		
授業方法と留意点	当初は、新入生共通の教材「First Year Study Guide」を用いるとともに、社会的に重要視される問題や主要な課題への関心の醸成を進めます。 その後、ゼミ（演習）形式で、グループワークや全体討議などに主体的に取り組むことになります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1 ガイダンスでは、主に、次の事柄を行います。 ① 図書館の利用方法 ② 六法全書や法学参考文献などの利用の仕方 ③ 法学専門講義の履修に当たっての心構え ④ パソコンの使い方（特に法学部の学生として必要な使い方） ⑤ その他として、学業生活をめぐる助言・指導を行います。 2 法学部の学生として身に付けるべき基本的な素養とは、「読む・書く・聴く・話す」という、ロジカルな「思考力」及び「表現力」です。 こうした素養を身に付けるための第一歩として、例えば、 ① ニュース記事を通じて、現代社会に関する情報を入手すること、 ② 法学や政治学への関心を高めるような文献や資料を読み込むこと、 ③ 受講者が関心や疑問を抱えている社会的な事象について対話を進めること など、受講者の励みとなるものを想定しています。 また、法律を読む際の基礎的なスキルとして、法律用語などについても解説します。 3 受講者の実りある諸活動の支援・推進として、次のような事柄について相談に応じます。 ① （国家・地方）公務員、裁判所職員、国会職員などの役割や働き方 ② 国家資格などの法律専門職の役割や働き方 ③ 就職に際しての心構え ④ 大学院への進学、海外への留学 また、将来の抱負に有益となる助言なども行います。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>法律をスラスラ読むための6つの秘訣 令和6年度版</td><td>テラボ</td><td>齊家書房</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	法律をスラスラ読むための6つの秘訣 令和6年度版	テラボ	齊家書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	法律をスラスラ読むための6つの秘訣 令和6年度版	テラボ	齊家書房																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	主体的に参画する意欲・姿勢を重視します。 毎回の出席を前提として、おおむね、調べもの等への取組姿勢やグループにおける傾聴・発言内容（35%）、全体討議における傾聴、発言内容（35%）、テーマごとのレポート（30%）を、総合的に判断して評価を行います。 欠席・遅刻する場合には、事前に担当教員に連絡を取ってください。 無断の欠席・遅刻に対しては厳正に対処し、場合に応じて、単位を認めないことがあり得ます。																		
学生へのメッセージ	1年次の法学基礎演習Ⅰは、大学生になって初めての大切な出会いの場となります。 まずは、爽やかな挨拶などの声掛けから始め、お互いの信頼関係を築いていきましょう。																		
担当者の研究室等	11号館9階 寺山教授室																		
備考	授業中、追加的な調べもの、レポート作成の準備を行うことがあります。 各自、PC・スマートフォン等の電子機器を持ち込んでも差し支えありません。 授業前の下調べに2時間程度を、授業後の振り返りに2時間程度を要します。																		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary SeminarⅡ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	片岡 雅世
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として3つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスを行うこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力を引き出して訓練するとともに、これからの法学部生活を送るにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（特に法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （２）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間の意欲的に過ごせば、皆さんも必ずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。例えば、①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、②皆さんが関心を持っている事柄について議論する、③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、④ディベートを行うなどです。皆さんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できる限り、希望に沿うよう努力します。 （３）学生生活支援とは、皆さんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するというものです。また、皆さんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言も行います。例えば、①公務員試験対策、②税理士や裁判所職員などの法律専門職、③就職への心構え、④大学院進学、⑤海外留学など、早い段階から準備をした方がよい事柄について相談に乗り、適切なアドバイスを与えます。 以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生の皆さんに親身に接する中で、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後４年間にわたって実りある法学部生活を送ってもらうための道筋を示すことを目指しています。 このうち、法学基礎演習Ⅱでは、前期の法学基礎演習Ⅰで学んだことを基礎として、２年次以降の法学部での学びに必要なアカデミック・スキルを実践を通じて身につけてもらいます。																		
到達目標	（１）法を学ぶうえで必要となるさまざまなアカデミック・スキルの基礎を身につける。 （２）自分の考えを他者に的確に伝え、また他者の考えを正確に理解することで、コミュニケーション能力を身につける。 （３）大学（法学部）で学ぶ意味を明確に理解することで各自の目標を設定でき、それに向けて計画的に取り組む力を身につける。 （４）自らの進路等を考え、自主的・積極的に行動することができるようになる。																		
授業方法と留意点	主として演習形式で実施しますが、必要に応じて教員からレクチャー（講義）をすることもあります。また、法学基礎演習Ⅱでは、グループワークのほか個別発表なども取り入れる予定です。その他、必要な資料等については授業時に適宜紹介します。場合によっては、Teams を利用して資料等を共有したり、課題を出題・提出する可能性があります。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	授業テーマ：受講生と相談しながら決定していきます。 内容・方法：ラーニングセンターの見学などの学部合同授業、ディベート（またはロールプレイング）や ICT を利用した個別発表（プレゼンテーション）、判例研究の手法の指導などを中心に行います。 事前・事後学習課題：配布資料などがある場合には事前目を通して、分からない用語等を確認してから受講するほか、必要に応じて発表準備などを積極的に行うこと（各回約２時間が目安）。授業終了後は、授業で学んだことを振り返り、授業時に行われた質問等に対する回答を準備するとともに、改めて配布資料等に目を通して授業内容について理解を深めること（各回約２時間が目安）。																		
関連科目	法学部の専門科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	課題・レポート（40%）および議論への積極的な参加態度（60%）を総合的に評価します。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考	遅刻、欠席をしないこと。やむをえない場合には、メールなどで必ず担当者へ連絡すること。																		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary SeminarⅡ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	仲宗根 京子
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として3つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要なノウハウを学びます。																		
到達目標	この授業を通じて学生には、大学生として学習するうえで必要となる基礎的能力を身につけることが期待されます。																		
授業方法と留意点	ゼミ生の皆さんが行う報告をもとにして問題点を掘り下げていきます。題材は、裁判例やニュースなどを中心に、なるべくゼミ生の皆さんが興味関心のあるものにします。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・授業のテーマ 新聞記事やニュースを法律の視点で眺める ・授業内容および方法 新聞記事やニュースなどから法律が絡んでくるものを見つけ出すことから始める。そして、実際に関連する法律は何か検討する中で、法律知識も身につけていく。また、裁判傍聴などを行うことで実際に法律問題がどのように解決され、裁判がどのように進められているかを学ぶ機会も作りたい。その他に具体的な内容はできる限りゼミ生の皆さんの意見を取り入れて実施する予定である。 ・事前学習および事後学習 報告をするにあたって事前準備はしっかりと行い、報告資料の作成を行ってもらう。また、復習としてレポート課題に取り組んでもらうこともある。																		
関連科目	法学関連科目、社会科学全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	演習での参加態度として、プレゼンテーションの内容（40%）やディスカッションでの発言（30%）などを判断材料にして、どれほど演習の時間を自分で有意義なものにしているか（30%）といった点を評価します。																		
学生へのメッセージ	大学生活にも慣れてくる頃だと思いますが、改めて自分なりに目標を見つけて頑張ってください。																		
担当者の研究室等	11 号館 10 階																		
備考																			

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary SeminarⅡ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	團野 正浩
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	法学基礎演習の目的は、主として3つあります。（1）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（2）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活を送るに当たって学習意欲を高めること、（3）有意義な学生生活を送れるよう様々な支援をすることです。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、次の目標を達成することが期待されます。 ①法学部における学習の基本や法律的なものの考え方を理解すること。 ②大学生活になじむこと。 ③大学4年間を計画的に過ごすための基礎を固めること。																		
授業方法と留意点	演習は、参加重視です。毎回必ず参加して、無断不参加・無断遅刻は慎んでください。やむをえず不参加・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習に限らず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。当ゼミ独自のテーマでは、皆さんのプレゼンテーションの後に質疑応答やディスカッションの時間を設けます。皆さんが主役ですので積極的に発言してください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	憲法制定の沿革、法令用語の読み方、法令解釈の仕方、裁判制度などを学びます。 また、当ゼミは「自分の言葉で説明してみよう」を中心テーマとして掲げ、皆さんに効果的なプレゼンテーションをするにはどうしたらよいのかを考えてもらいます。資料は提供しますが、一方的なお話ではなく、他のゼミ生を参加させるように工夫してください。授業計画に応じたテーマにつき、事前・事後の学習を行い、理解を深めることが重要です。 なお、法学部の統一プログラムがある場合には、授業の中で実施します。																		
関連科目	憲法、民法など																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	平常点（50%）、レポート内容及び課題発表（50%）によって評価します。平常点は、ゼミでの積極的な発言、出席状況とレポート提出状況を重視します。																		
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、皆さんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法が分からないときには、気軽に相談してください。また、グループで学習する演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な友人となります。良好な関係を築いてください。																		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 團野研究室																		
備考	課題発表は、質疑応答の後に、良かった点、改善・工夫を要する点などにつきコメントします。レポートについても適宜講評を行います。重要なことは自ら学習する姿勢を身に着けることです。したがって、授業計画に応じたテーマにつき、事前・事後の学習を少なくとも毎回各2時間程度行うように心掛けて下さい。																		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary SeminarⅡ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	河原 匡見
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	法学基礎演習の目的は、主として3つあります。(1) 法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2) 法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、(3) 有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 (1) ガイダンスでは、図書館の利用方法、六法や法学参考文献の利用のしかた、法学専門講義の履修についての心構え、パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 (2) 法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の4年間を意欲的にすごせば、みなさんもちろんそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、みなさんが関心をもっていることについて議論する、法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、ディベートをおこなう、裁判所見学など学外研修を実施するなどです。みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。 (3) 学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、公務員試験対策、税理士や裁判所職員などの法律専門職、就職への心構え、大学院進学、海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。 以上のように、今後4年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、大学生としての勉強のしかたや日々の過ごしかなどを学んで、安全で有意義な大学生活を送れるようになることと、2年次後期から履修が始まる「専門演習」に備えて演習形式の学習法に慣れることが期待される。																		
授業方法と留意点	「対面式」で実施します。演習は、少人数教育の強みを生かすもので出席してディスカッションに参加することが重要です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	詳細は、第1回目の演習で説明しますが、概ねⅡでは、法学部の演習形式による学習に慣れることを主眼に据えていきます。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	平常点（ディスカッションへの参加などの学習姿勢70％および課題提出30％）により評価します。なお、欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。																		
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、クラス担任のようなものです。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 河原教授室																		
備考	課題レポートは、報告してもらった後で講評します。 特に事後学習を重視して、各授業時間ごとに2時間程度の見直しをしてください。																		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary SeminarⅡ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 敦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	・本演習及び前期における法学基礎演習Ⅰを通じ、通年で共通する授業内容としては、（１）法学部における勉学のためのガイダンスを行うこと、（２）法学部生として身に付けるべき基本的能力を引き出して訓練するとともに、これからの法学部生活を送るに当たって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすること、の３つを考えている。 ・本演習は、法学基礎演習Ⅰの成果を踏まえ、さらに法律に関する基礎知識及び法的な考え方を習得するために、法学の学習をより深めていきたいと考える。																		
到達目標	この授業を通じて学生には、授業の目的欄に記載したとおり、法学部学生として身に付けておくべき基本的な姿勢を習得するとともに、次年度からの専門演習に備え、①判例を調査し、判示事項や判決内容などの持つ意味を理解できるようになること、②法的観点を見出して、自分の見解を述べ、他のゼミ生の意見を聞いて議論ができるようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	・授業に出席して議論に積極的に参加することを重視する。無断欠席は慎んでほしい。やむをえず欠席するときには、できるだけ事前に教員まで連絡をいただきたい。授業に際しては、必ず六法（ポケット六法等。最新の令和６年版を推奨する。）を手元に用意しておくこと。 ・本演習の授業内容に限らず、学生生活全般にわたる質問や疑問であっても、随時受け付けるので、気軽に相談してほしい。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ】 ・法学基礎演習Ⅰと同じく、自分の意見の発表力を高めることを内容とするが、発表等の際には、条文等を音読させたうえ、内容を確認することも行う。これは、法律に慣れるとともに、文章の理解能力を高めるためのものである。 ・１５回の授業は、共通授業を除いて、大きく分けて次のように行うことを考えている。 ①第１回は、導入及び授業についての要望を聞く。その後要望等を踏まえ、本演習に必要な基本事項の説明や適宜の話題に関する講義等を行う。 ②前半では、法学検定の基礎編（法律一般）の問題を回答してもらう（６回程度）。問題は、Teams によって事前に送付する。単なる正解の確認にとどまらず、なぜそのように考えるのかや、これに関連する分野、問題についても講義を行ったり、学生との、又は学生同士での議論を行ったりする。 ③後半では、法律をめぐる問題あるいは時の判例を中心に、議論を行っていききたい。模擬法廷も使用したい。 【事前・事後学習課題】 本演習では、事前学習及び事後学習に各２時間を充てることが求められる。事前学習は、事前に指示することもあるが、指示の有無にかかわらず、当日の授業を踏まえ、自ら考えて行うことも必要である。法学検定の問題については、授業できちんと回答できるように予習を行っておくこと。事後学習は、当日の授業の復習のほか、教員から指示を受けた事項の学習や課題を提出することもある。 【六法の準備】 事前・事後の学習に当っては六法を参照し、指示した授業には、六法を持参すること。六法は、ポケット六法等を準備すること（最新版の令和６年版を推奨する）。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業における態度（遅刻せずきちんと出席しているか、議論に積極的に参加しているか、事前事後の学習をして授業に対応できているか。６０％）及び、Teams 上での小テストや課題（４０％）で評価する。欠席・遅刻が多かったり、授業態度が良好でない場合には、別途レポートを課することがある。																		
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任なので、学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となることと思います。良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活を送ってください。																		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 田中教授室																		
備考	学生の理解度、授業の進行によっては、授業の方法、順序、内容を変更することがある。																		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary SeminarⅡ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	演習（ゼミ）は大学独特の勉強の形式で、教員と少人数の学生の間で議論（ディスカッション）をしたり、発表（プレゼンテーション）をしたりする。法学基礎演習では、卒業まで4年間続く演習の形式でこういった努力が必要か、課題に取り組みながら学ぶ。		
到達目標	この演習を通じて学生には、①課題について自分の考えをまとめて、発言する、②他の学生の考えを聴いて、メモをとる、③そのメモをもとに質問をしたり、意見を述べたりすることが期待される。		
授業方法と留意点	課題について下調べをして、自分の考えをまとめ、他の学生との間で議論を行う（ディスカッション）。同様に、発表を行う（プレゼンテーション）。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	学生間で話し合う、発表しあう課題は、自分の小中高校生時代の経験といった身近な事柄から、政治・経済・社会の時事に関することまで広く扱う。事前の下調べが不可欠である。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	演習時限の全出席を前提とする。課題の下調べ(30%)、発表(40%)、議論への貢献度(30%)の合計によって評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	11 号館 9 階 中沼教授室		
備考	課題の下調べに各回1時間ほどが必要になる。 発表の質疑応答や議論の記録をとり、学生に共有する。		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary SeminarⅡ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浮田 徹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	前期に引き続き、法学部生としての基礎的な能力を養います。またそれだけでなく、大学生として、将来の社会人として生きていけるような基礎力を身につけるきっかけを創り出します。																		
到達目標	この講義を通じて学生には、前期に引き続き大学生としての基礎的なコミュニケーション能力、文献検索能力、プレゼンテーション能力を培い、4年間の大学生活のスタート地点の講義として、また卒業後の人生も含めた過ごし方の基礎を作れるようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	演習形式で行います。基本的にはレポートで替えられるものではありませんので毎回の出席が前提です。個別の学習だけでなくグループワークを用いて行いますのでコミュニケーション能力が必要となります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	まず ・自分が何を考えているのか ・自分は何を話しているのか ・他人が何を意図しているのか ・他人が何を伝えようとしているのか を実感出来るよう、具体的なコミュニケーション、文章理解、報告などを実践します。具体的には開講時、そして講義の途中に決めていく部分も多くなります。																		
関連科目	法学部開講科目																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	出席を前提として、当日演習中に作成する課題(60%)、事後の課題(40%)で評価します。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11 号館 9 階 浮田准教授室																		
備考	事前学習としては、演習時に使用する素材に関する文献を読むことになります（30 分）、事後学習としては当日の演習に関する課題を課すのでその作成を行います(60 分)。																		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary SeminarⅡ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として3つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （２）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間で意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、②みなさんが関心をもっていることについて議論する、③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、④ディベートをおこなう、⑤裁判所見学など学外研修を実施するなどです。みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。 （３）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応することです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、①公務員試験対策、②税理士や裁判所職員などの法律専門職、③就職への心構え、④大学院進学、⑤海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後４年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。																		
到達目標	この授業を通じて学生には、法学・政治学・法政策学を学んでいく上で必要と思われる基本的素養を修得することが期待される。																		
授業方法と留意点	First year study guideを用いるが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するため、および事前・事後の学習のためにICTツールを活用していただく場合もあります。対面による授業を原則とします。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業テーマ：決められたテーマについて報告、ディスカッションを行う予定ですが、詳細は受講生と相談しながら決めていきたいと思います。 内容・方法：演習（決められたテーマについて報告、ディスカッションを行う） 事前・事後学習課題：必要に応じてその都度指示する																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	平常点（授業に参加する態度 30％、課題 50％、プレゼンテーション 20％）により評価します。欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課す場合もあります。																		
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでください。 法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。																		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 石井教授室																		
備考	各回に 1 時間程度、すなわち半期で 15 時間程度を目安に、事前・事後の学習を行ってください。 課題の解説は次の回の授業で行う。																		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary SeminarⅡ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	島田 良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として3つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （２）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間で意欲的にすごせば、みなさんもちろんそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、②みなさんが関心をもっていることについて議論する、③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、④ディベートをおこなうなどです。みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。 （３）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、①公務員試験対策、②税理士や裁判所職員などの法律専門職、③就職への心構え、④大学院進学、⑤海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後４年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。																		
到達目標	この授業を通じて学生には、法学を学んでいく上で必要と思われる基本的素養を修得することが期待されます。																		
授業方法と留意点	受講生にはグループワークの形でプレゼンテーションやディベートなどに積極的・主体的に取り組んでもらうことになります。したがって、遅刻・無断欠席は厳禁です。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	上述したように、この授業ではプレゼンテーションやディベートなどを通して学生に主体的に授業に取り組んでもらいます。したがって、事前・事後学習についても、授業テーマによって若干異なることになりますが、プレゼンテーションの場合であってもディベートの場合であっても、その準備やその後の振り返りにそれぞれ30分程度は要することになるかと思われます。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	ディベートやプレゼンテーションなどの内容（50%）、ディベートやプレゼンテーションなどにおける発言・取り組みの姿勢・態度（50%）。ただし、欠席・遅刻が多い場合には単位不認定となる場合があるのでくれぐれも注意してください。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	11 号館 9 階 島田准教授室																		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary SeminarⅡ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	家本 真実
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	これから法学部で4年間を過ごすことになる学生の皆さんにとって必要な知識と能力の基礎作りをするのが、このゼミの目的です。たとえば、社会で起きている出来事について、それが一体どういうことなのか、なぜその出来事が起きているのか、また問題があるのならどのような解決が考えられるか、といったことを考えていただくことは、法学、政治学を学ぶにあたって重要なことです。そして様々なことについて自ら考える力は、これから皆さんが社会人として生活するにあたって必須であり、役立つことです。 したがってこのゼミでは、法学基礎演習Ⅰに引き続き、自分で情報を調べたり、ゼミの他の学生と話し合ったりして、物事を理解するための方法と、理解することの重要性を学ぶとともに、それらを他の人に伝えることを学んでいただきたいと思います。																		
到達目標	このゼミを通じて、学生の皆さんには、様々なツールを使って、自らの力で物事を理解することができるようになることが期待されます。																		
授業方法と留意点	教員から講義をおこなう部分と、ゼミ生の皆さんが自ら考え、議論したり作業するといった活動をしていただく部分とが混在することになります。ゼミ生の皆さんが個別に作業したり、またはグループで議論したり作業する時間のほうが、割合としては多くなります。 なお、後期のゼミの実施方法等については、こちらから皆さんにメールをお送りして、また前期から使用しているMoodleを使用して、詳細についてお知らせしますので、そちらをご確認ください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期の法学基礎演習Ⅰに引き続き、時事問題や判決、法律を扱ったドラマや映画を題材として取り上げる予定ですが、前期に比べて、1つのことをより掘り下げて理解する能力を身につけていただくことに重きを置くことを考えています。 ゼミ中におこなう活動や議論の準備として、事前に読んでくるべき資料をお渡ししたり、課題を課したりすることがありますので、各自またはグループで、ゼミ前後にいくらか時間を費やしていただく必要があります。																		
関連科目	法学基礎演習Ⅰ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	ゼミ中の受講姿勢や活動の内容（80%）、提出された課題（20%）を評価の対象とします。																		
学生へのメッセージ	とにかくゼミには毎回出席していただくこと、これが第一です。																		
担当者の研究室等	11号館9階 家本准教授室																		
備考	事前・事後学習に要する総時間数の目安：60時間																		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary SeminarⅡ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	城内 明
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	本演習では、受講生が選択したテーマにつき、ディベートを行います。 本演習は、グループワークの中で、議論のあり方を学び、興味関心あるテーマに取り組む中で、調査研究の手法(図書館の使い方、文献検索の方法等)を体得し、研究倫理の基礎(引用・参照文献の示し方)及びプレゼンテーションの手法を学ぶことを目的とします。		
到達目標	この授業を通じて学生には、法学部生として学ぶべき基本的な倫理・知識・手法を身に付けることを期待します。		
授業方法と留意点	基本的にグループワークとなります。 グループに分かれての作業が中心となりますので、遅刻・欠席のないよう、くれぐれも注意して下さい。どうしても遅刻・欠席せざるを得ない場合は、教員及びグループの仲間への連絡を忘れないようにして下さい。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本演習では、初回に決定したディベートテーマについて、2回のディベート大会を開催します。 2グループに分かれ、それぞれ所定の立場から、ディベートテーマに係る調査・研究し、ディベート大会に備えてください。 事前事後の学習課題については、適宜指示します。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	報告内容（40%）およびグループでの作業への貢献度、発言内容等(60%)を総合評価します。 なお、遅刻・欠席が多い学生については、特別に課題を課すこともありますのでご注意ください。		
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 城内准教授室		
備考	本演習のために、計 20 時間程度の事前・事後学習時間が必要となります。		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary SeminarⅡ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として3つあります。 （１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと （２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること （３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、 ①図書館の利用方法 ②六法や法学参考文献の利用のしかた ③法学専門講義の履修についての心構え ④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方） ⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （２）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間で意欲的にすごせば、みなさんもちろんそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。 たとえば、 ①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める ②みなさんが関心をもっていることがらについて議論する ③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する ④ディベートをおこなう などです。 みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。 （３）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。 たとえば、 ①公務員試験対策 ②税理士や裁判所職員などの法律専門職 ③就職への心構え ④大学院進学 ⑤海外留学 など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。 以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後４年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、 「・図書館を通じて法学の文献を取捨選択できる ・判例データベースを用いて判例を検索できる」 ようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	・演習（ゼミ）形式（反転授業）で行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答を行う。 ・法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	法的な問題について、プレゼンテーションやディベートなどを行う。																		
関連科目	専門科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>※開講時に指示する。</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	※開講時に指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	※開講時に指示する。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>※開講時に指示する。</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	※開講時に指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	※開講時に指示する。																		
2																			
3																			
評価方法（基準）	・ディスカッションへの参加度（50％）と貢献度（50％）によって評価する。																		
学生へのメッセージ	・学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。 ・また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。 ・どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。																		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 小野教授室																		
備考	・事後学習として、演習で扱った内容についてノートにまとめるなど、毎回２時間以上の復習に取り組むこと。 ・レポート課題に対するフィードバックは翌週の授業内で行う。																		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	萩原 佐織
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅱのおもな授業内容として、 (1) 法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、 (2) 法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、 (3) 有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることの3点を上げることができます。 個々の細かな知識を覚えることも大事ですが、むしろこの演習ではこれから学習していく法律学の全体像を大まかにとらえ、2 年次以降の専門的な学習に対応できる基礎力を養うことが重要になります。																		
到達目標	法学基礎演習Ⅰでは「大学生」としての基本スキルを身に着けることが目標でしたが、この法学基礎演習Ⅱを通じて学生には、「法学部生」としての基本スキルを身に着けることが期待されます。具体的に、学生には、法令や判例の調べ方、法律文献の引用の仕方などを習得することが期待されます。																		
授業方法と留意点	演習では課題はもちろんのこと、出席して行う演習内活動（平常点）も重視します。無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、原則として、事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。演習では、大阪地方裁判所における裁判所見学、学習支援センター見学、SMART-SPI 説明会等の法学部共通プログラムのほか、数名で構成するグループによる判例研究等のプレゼンテーション及びその準備であるグループワーク																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	後期は、より詳細なレポートの書き方やプレゼンの仕方（レジュメやパワーポイントの作り方など）を、みんなで身につけていきます。裁判所見学やスマート SPI の講習会等も予定されています。裁判所見学で得た知識・感想のレポートやプレゼンテーション、そしてグループでの発表など課題をいくつか出しますので、みんなで協力しながら頑張りましょう。 演習の具体的な内容としては、Word や Power Point を用いた法律に関する時事問題、判例やテーマ研究の発表、Word/Power Point の使い方やレポートの書き方の講習、大学生活についてのアドバイス、簡単な法律に関する課題・レポート等を予定しています。また、図書館で文献を探したり、オンラインジャーナルやオンライン判例検索を用いた判例・論文等の入手方法についても学び、実際に入手した資料を用いてグループワーク、グループ発表又は個人発表を行います。また、後期においては、模擬法廷を利用した模擬裁判等も予定しています。 予習事項は、毎回その都度指定しますが、各自の発表に備えて Word や Power Point 資料を作成したり、設定テーマに関連する文献を調べて読み込んでおくこと、発表準備を行うこと等が挙げられます。 また、復習事項は、ゼミ内で教員より個別に指導された内容、例えば、発表資料の修正、文献の追加検索・入手及びその読込みです。Teams 上で提出し返却された課題については、そこに示されたフィードバックの指示に従って復習を行って下さい。 事前・事後学習の時間は、それぞれ 2 時間、プレゼンテーション前は 3 時間を想定しています。																		
関連科目	法学部の専門科目のすべてにかかわります。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	演習内におけるプレゼンテーション準備やディベート・ディスカッション等の平常点（60%）、プレゼンテーションやレポート（40%）で評価します。また、欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。																		
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。																		
担当者の研究室等	11 号館 9 階 萩原准教授室																		
備考	判例研究等のプレゼンテーションの際には、準備段階から、Word や Power Point の使い方、論文・判例等の各種文献検索や判例研究の仕方を含め、適時、演習内において指導する。 また、プレゼンテーション終了後は、その場でそのフィードバックを行い、次のプレゼンテーションに還元できるように努める。																		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary SeminarⅡ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	前期に引き続き、法学部生としての基礎的な能力を養います。またそれだけでなく、大学生として、将来の社会人として生きていけるような基礎力を身につけるきっかけを創り出します。		
到達目標	前期に引き続き、この演習を通じて学生には、大学生としての基礎的なコミュニケーション能力、文献検索能力、プレゼンテーション能力を付けることが期待されます。 また、4年間の大学生活のスタート地点の講義として、また卒業後の人生も含めた過ごし方の基礎を作ってもらいます。		
授業方法と留意点	演習形式で行います。基本的にはレポートで替えられるものではありませんので毎回の出席が前提です。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	まず ・自分が何を考えているのか ・自分は何を話しているのか ・他人が何を意図しているのか ・他人が何を伝えようとしているのか を実感出来るよう、具体的なコミュニケーション、文章理解、報告などを実践します。 具体的には開講時、そして講義の途中に決めていく部分も多くなります。		
関連科目	法学部開講科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	成績は、ゼミにおける各学生の、ゼミへの取り組み（30%）、得られた知識に基づく報告（30%）、得られた知見に基づく対応・行動（30%）、個人的PR（10%）の観点から、判断を行う。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	11 号館 9 階 大川准教授室		
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の3つから成り立っています。 予習内容としては、演習で与えられる課題を個人で準備を行う必要があります。その準備を90分を基準として行う必要があります。 復習として、課題に対し、中間報告及び最終報告の内容を正確に押さえる必要があります。その為に90分を基準として行う必要があります。 学生主体の演習を目指しています。各実施状況については各自の報告時及びメールで確認します。 演習での縦の人間関係も重視しております。コンパなどで、就活などの情報も先輩から後輩へと伝えていくこと		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary SeminarⅡ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松島 裕一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱのおもな授業内容として、（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることの３点を上げることができます。 個々の細かな知識を覚えることも大事ですが、むしろこの演習ではこれから学習していく法律学の全体像を大まかにとらえ、２年次以降の専門的な学習に対応できる基礎力を養うことが重要になります。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、「法学部生」としての基本スキルを身に着けることが期待される。具体的には、法令や判例の調べ方、法律文献の引用の仕方などを習得することがこの演習の目標です。																		
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	後期はおもに次の二つの活動を行う予定です。いずれも事前・事後の学習が必要となります。 ①裁判所見学に向けて、裁判所の仕組みや判例の読み方などをみんなで学習します。また、裁判所見学終了後にレポート課題を出しますので、そのための基本的な知識（基本的なレポートの書き方や参考文献の探し方など）を習得します（ただし、ここ数年はコロナ禍のため、裁判所見学が実施できていません）。 ②法学や政治学に関係する文学作品や新書などを全員で購読します。具体的には該当箇所をグループで報告してもらい（あるいは、個人でのハッピーになるかもしれません）、それに基づいてディスカッションを行います。課題図書は全員で話し合って決める予定ですが、必ず１冊読み終えることを目標とします。 なお、パワポ、レジュメ作成などの事前の課題の取り組みに 60 分程度、またゼミで学習したことの振り返りに 60 分程度が必要となります。グループワークやディスカッションを行う予定ですので、無断欠席・遅刻は他のゼミ生の迷惑になります。その点は注意してください。																		
関連科目	法学部のすべての科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	毎回の出席を当然の前提とし、ゼミ中での発言（ディスカッション・ディベート）、レポートなどの提出物、レジュメ・報告の出来などを総合的に判断して成績評価を行います（100%）。欠席・遅刻が多い場合には、単位取得を認めないこともあります。																		
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。																		
担当者の研究室等	11 号館 9 階 松島准教授室																		
備考	何かしら書籍を購入してもらうことになるかもしれませんので、そのつもりでゼミに臨んでください。																		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary SeminarⅡ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	増田 知也
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	この授業では、法学部で勉強する上で必要な、基礎的な知識・技能を身につけることを目指す。法学基礎演習Ⅰで学んだことを基盤に、批判的読書の方法と、優れたレポートの作成法を学ぶ。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、文献を活用しながら、自分の考えを自分の言葉で、論理的な文章にまとめることができるようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	講義と実習を組み合わせる授業を進行する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. レポート作成法概論 優れたレポートを作成するための文献調査の方法と、論理的な文章の書き方について学ぶ。 2. 文献調査 個別に設定したテーマに関連する文献を読み、文献調査メモを作成する。 3. プレゼンテーション 文献の要約と疑問点を発表し、議論を行う。 4. レポート作成 これまで学んだことを生かして、実際にレポートを作成する。 事前・事後学習課題 選んだテーマについての情報収集を行う（4時間）																		
関連科目																			
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	レポート 60％、実習課題 20％、積極的発言 10％、プレゼンテーション 10％																		
学生へのメッセージ	参考文献を引き写すだけでは良いレポートになりません。情報を上手く消化して、自分の言葉で表現する力を身につけてほしいと思います。																		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 増田講師室																		
備考																			

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary SeminarⅡ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	一般的に大学生の教養とされている文献の読解能力や論理的思考力・判断力・表現力の基礎を身につけることが目的です。学生の皆さん一人一人が、自分が興味を持っている問題について主体的に考え、議論し、問題解決への糸口をつかめるような主体的・対話的で深いアクティブ・ラーニングの場を提供します。 また授業の受け方やレポートの書き方など、大学生活を送る上で必要な事柄についても授業します。																		
到達目標	この授業を通じて学生は、大学生の教養として必要な書物・新聞記事・評論などを読んで基本的な知識・技能を獲得するとともに、その要点やメリット・デメリットをまとめ、望ましい解決策について他者と討議し、他者に対してそれを明確に発表するという論理的思考力・判断力・表現力を育成することが期待されます。 またグループディスカッション・プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通じて主体的・対話的で深い学びを行うなかで、学習や仕事に対する意欲や積極的な人間性を育み、社会において良好で協調性のある人間関係を構築する																		
授業方法と留意点	ABD（Active Book Dialogue, アクティブ・ブック・ダイアログ）というアクティブ・ラーニングの方法を用いて、教養文献の読解・グループディスカッション・プレゼンテーションを毎回全員が行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・授業テーマ・内容 教養文献の読解や議論、発表を通じて、その内容を正確に理解し、他者と討議してその内容を吟味し、他者にわかるようにその内容・解決策を発表することによって、基本的な日本語読解能力と論理的思考力・判断力・表現力を修得することができます。 ・授業方法 学生の皆さんの興味・関心を考慮しながら、教養文献をその場で毎回輪読・議論・発表する ABD（Active Book Dialogue, アクティブ・ブック・ダイアログ）というアクティブ・ラーニングの方法を用います。短い時間で日本語の文章を読み、その要点を的確に理解することは、就職試験や公務員試験の「文章読解」で求められる能力でもあり、社会人になった後のマニュアル・資料の読解にも必ず必要な能力です。またグループディスカッションやプレゼンテーションは、仕事で問題が発生したときにその原因を的確に把握し、望ましい解決策について他者と討議し、最善と判断した改善策を他者に論理的に説得するためにも必要な能力です。 ・事前、事後学習課題 事前学習...その場で教養文献を読んでもらうので、必要ありません。 事後学習...文献全体をもう一度読み直し、内容を理解しておくこと（60 分～90 分程度）。																		
関連科目	法学基礎演習Ⅰ、ブレ専門演習																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業でのグループディスカッション（50％）とプレゼンテーション（50％）で評価します。																		
学生へのメッセージ	大学生活に慣れるべく、毎回出席してください。またさまざまな分野の教養文献を読み、自分の興味・関心を広げていってください。																		
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館 10 階 和田研究室																		
備考	グループディスカッションでは教員も適宜参加し、助言を与えます。プレゼンテーションでは毎回その内容について全員に助言と短評を与えます。																		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary SeminarⅡ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	本多 康作
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として3つあります。 （１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと （２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること （３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、 ①図書館の利用方法 ②六法や法学参考文献の利用のしかた ③法学専門講義の履修についての心構え ④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方） ⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （２）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間で意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。 たとえば、 ①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める ②みなさんが関心をもっていることがらについて議論する ③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する ④ディベートをおこなう などです。 みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそよう努力します。 （３）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。 たとえば、 ①公務員試験対策 ②税理士や裁判所職員などの法律専門職 ③就職への心構え ④大学院進学 ⑤海外留学 など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。 以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後４年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、 ・図書館を通じて法学の文献を取捨選択できる ・判例データベースを用いて判例を検索できる ようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	・演習（ゼミ）形式（反転授業）で行う。 ・教員から的一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答を行う。 ・法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	法的な問題について、プレゼンテーションやディベートなどを行う。																		
関連科目	専門科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>※開講時に指示する。</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	※開講時に指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	※開講時に指示する。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>※開講時に指示する。</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	※開講時に指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	※開講時に指示する。																		
2																			
3																			
評価方法（基準）	・ディスカッションへの参加度（50％）と貢献度（50％）によって評価する。																		
学生へのメッセージ	・学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。 ・また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。 ・どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。																		
担当者の研究室等	本多研究室（11 号館 9 階）																		
備考	・事後学習として、演習で扱った内容についてノートにまとめるなど、毎回２時間以上の復習に取り組むこと。 ・レポート課題に対するフィードバックは翌週の授業内で行う。																		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	寺山 洋一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	本法学基礎演習Ⅱでは、法学部のゼミ（演習）形式に慣れ親しむことを主眼に置いています。 その目的は、法学基礎演習Ⅰに引き続き、次のとおり、主に2つあります。 ① 法学部の学生としての基本的な能力を引き出すとともに、向学心を養いつつ、基礎的なスキル（Skill）を高めること。 ② 大学生としての実りある諸活動を支援し、推し進めること。 法学基礎演習Ⅱは、少人数教育の強みを活かし、担当教員が、それぞれの受講者の将来の抱負に寄り添いつつ、実りある学業生活のための道筋を示すことを目指しています。																		
到達目標	法学基礎演習Ⅱを通じ、これからの法学の学修に向けて、基本的な素養や基礎的なスキルを修得することが期待されます。																		
授業方法と留意点	法学基礎演習Ⅱでは、法学基礎演習Ⅰを踏まえ、ゼミ（演習）形式で、グループワークや全体討議などに主体的に取り組むことになります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1 法学部の学生として身に付けるべき基本的な素養とは、「読む・書く・聴く・話す」という、ロジカルな「思考力」及び「表現力」です。 こうした素養を身に付けるための第一歩として、例えば、 ① ニュース記事を通じて、現代社会に関する最新の情報を入手すること、 ② 法学や政治学への関心を高めるような文献や資料を読み込むこと、 ③ 受講者が関心や疑問を抱いている社会的な事象について対話を進めること など、受講者の励みとなるものを想定しています。 また、法律を読む際の基礎的なスキルとして、法律用語などについても解説します。 2 受講者の実りある諸活動の支援・推進として、次のような事柄について相談に応じます。 ① 国家・地方公務員、裁判所職員、国会職員などの役割や働き方 ② 国家資格などの法律専門職の役割や働き方 ③ 就職に際しての心構え ④ 大学院への進学、海外への留学 また、将来の抱負に有益となる助言なども行います。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>【電子】法律が面白くなる切り札5選 令和6年度版</td><td>テラボ</td><td>齊家書房</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	【電子】法律が面白くなる切り札5選 令和6年度版	テラボ	齊家書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	【電子】法律が面白くなる切り札5選 令和6年度版	テラボ	齊家書房																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	主体的に参画する意欲・姿勢を重視します。 毎回の出席を前提として、おおむね、調べもの等への取組姿勢やグループにおける傾聴・発言内容（35%）、全体討議における傾聴、発言内容（35%）、テーマごとのレポート（30%）を、総合的に判断して評価を行います。 欠席・遅刻する場合には、事前に担当教員に連絡を取ってください。 無断の欠席・遅刻に対しては厳正に対処し、場合に応じて、単位を認めないことがあります。																		
学生へのメッセージ	1年次の法学基礎演習Ⅰ及びⅡは、大学生になって初めての大切な出会いの場となります。まずは、清々しい雑談などから始め、お互いの信頼関係を築いていきましょう。																		
担当者の研究室等	11号館9階 寺山教授室																		
備考	授業中、追加的な調べもの、レポート作成の準備を行うことがあります。 各自、PC・スマートフォン等の電子機器を持ち込んでも差し支えありません。 授業前の下調べに2時間程度を、授業後の振り返り及びレポートの準備に2時間程度を要します。																		

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	片岡 雅世
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	この授業では、個人または企業が国境を越えて活動する際に考えるべき法的問題を検討するにあたって必要となる基礎知識を身につけてもらいます。また、「専門演習 I・II」および「卒業研究」を受講するにあたって必要となるさまざまなアカデミック・スキルを身につけることも目的としています。なお、具体的に取り上げるテーマについては、受講生と相談して決定します。																		
到達目標	(1) 私法を中心に法に関する基礎知識を身につけ、多様な法的問題に応用することができる。 (2) 国境を越えて生ずる私法問題について、幅広い知識をもとに自らの力で考えることができるようになる。 (3) 法に関する文章を読む力・理解する力・まとめる力、調査する力、報告する力、議論する力を身につける。																		
授業方法と留意点	グループ活動を中心に、さまざまな資料（例：新聞記事、テキスト、論文、判決文など）と方法（例：ロールプレイング、ディベート、判例研究など）を用いて、意見を出し合ったり、まとめてもらったりする予定です。必要に応じて、教員からレクチャー（講義）をすることもあります。なお、受講に当たっては、事前に配布する資料や六法を忘れずに持参してください。また、授業時に発表準備等を行ってもらうことがあるので、できるだけ各自の PC を持参するようにしてください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	第 1 回：ガイダンス（授業の方針・進め方・内容等の相談・決定） 第 2 回～第 7 回：ディベートに向けた準備・本番 第 8 回：中間総括 第 9 回～第 14 回：ロールプレイングに向けた準備・本番 第 15 回：総括 毎回、授業で適宜紹介する資料等に目を通し、必要に応じてデータベース等を用いて発表等の準備を十分に行ってから受講すること（各回約 3 時間が目安）。授業終了後は、出された質問等に対する回答を準備するとともに、改めて配布資料等に目を通して授業内容について理解を深めること（各回約 1 時間が目安）。																		
関連科目	国際私法、国際家族法、国際財産法、国際取引法のほか、基礎法学分野・民事法分野・商事法分野・社会法分野における各科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>リーガル・リサーチ&レポート〔第 2 版〕</td><td>田高寛貴ほか</td><td>有斐閣</td></tr> <tr> <td>2</td><td>法学部ゼミガイドブック〔改訂版〕</td><td>西南法学基礎教育研究会編</td><td>法律文化社</td></tr> <tr> <td>3</td><td>国際関係私法入門〔第 4 版補訂〕</td><td>松岡博編</td><td>有斐閣</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	リーガル・リサーチ&レポート〔第 2 版〕	田高寛貴ほか	有斐閣	2	法学部ゼミガイドブック〔改訂版〕	西南法学基礎教育研究会編	法律文化社	3	国際関係私法入門〔第 4 版補訂〕	松岡博編	有斐閣
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	リーガル・リサーチ&レポート〔第 2 版〕	田高寛貴ほか	有斐閣																
2	法学部ゼミガイドブック〔改訂版〕	西南法学基礎教育研究会編	法律文化社																
3	国際関係私法入門〔第 4 版補訂〕	松岡博編	有斐閣																
評価方法（基準）	課題・レポート（50%）および議論への積極的な参加態度（50%）を総合的に評価します。																		
学生へのメッセージ	法律だけでなく、さまざまなことに興味・関心を持ち、ゼミ内での議論に参加することはもちろん、その他ゼミ運営に対しても積極的な参加・協力を望みます。また、無断欠席および無断遅刻はしないようにしてください。																		
担当者の研究室等																			
備考	第 1 回目の講義で授業の進め方や成績評価の方法などについて詳しい説明を行うので、受講を考えている人は可能な限り出席してください。																		

科目名	ブレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	仲宗根 京子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	法律学の基礎的な知識を深めつつ、判例の探し方や読み方といった法学部生に必要なスキルを向上させていくことを目的とします。																		
到達目標	この授業を通じて学生には、判例を通して法律がどのように使われていくのか、また実際に生じている法律問題を正しく理解し、法的な判断ができるようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	まずは一緒に判例の探し方や読み方を身につけ、次に自分の力で判例を調べてプレゼンテーションを行います。報告に対する質疑応答など自由に発言してもらうことで理解を深めます。 授業テーマ「判例から法律を学ぶ」 ・ゼミ内容 ゼミ生が興味関心のある法律分野の判例を自分で選んでもらいます。とは言え、まだ自分の中で興味のあるものが何か、よく分からない方が多いでしょう。様々な法律に触れることで自分の関心が向くものを探るのもいいと思います。 ・授業方法 判例についてプレゼンテーションを行い、質疑応答など自由に発言してもらいます。 ・指導方法 ゼミ生の皆さんが行う報告をもとにして問題点を掘り下げていきます。題材は、ゼミ生の皆さんが興味関心のある裁判例とします。 ・事前事後学習 プレゼンテーションの準備など必要に応じて予習は行ってください。ただ判例を読むだけでなく、内容を分かりやすく説明できるようにしましょう。																		
関連科目																			
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	プレゼンテーションの内容（40%）、ディスカッションでの発言（40%）、どれほど演習の時間を自分で有意義なものにしているか（20%）という点を評価します。																		
学生へのメッセージ	演習の時間を自分にとって意味のあるものになしてください。																		
担当者の研究室等	11 号館 10 階																		
備考																			

科目名	ブレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	團野 正浩
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	私たちの社会生活や経済活動が税とどのように関係しているのかを学習します。 税は税法という観点からだけではなく、国家財政のようなマクロの世界から企業の経営や投資の判断などのミクロの世界まで、多種多様な世界に関係しています。税を通して社会を見てみましょう。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、次の目標を達成することが期待されます。 ①日常生活と税とのつながりを理解できるようになること ②租税法の基本的考え方に慣れること ③法令解釈・適用の基本を理解すること																		
授業方法と留意点	事前に教科書（租税法の入門書）の指定箇所を読んできた上で、全員でディスカッションします。 プレゼンテーションやディスカッションの能力は、大学での勉強だけでなく、就職活動や社会に出た後でも有用なので、そのための留意点やコツについてゼミの中で教員が説明して、全員で実践したいと思います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1 ゼミのテーマ このゼミのテーマは「税を通じて社会や経済を学ぶ」ということです。税法の基本的な事項を学ぶとともに、税が社会や経済に及ぼしている事例（裁判例等）を題材にして議論をします。 2 授業内容 イ プレゼンテーションやディスカッション 教員がプレゼンテーションやディスカッションのコツについて説明した上で、ゼミ全般を通じて、学生全員で様々なテーマについてプレゼンテーションやディスカッションをする機会を設けます。 ロ 事前学習（約2時間） 教科書（初回授業で指定する予定）の該当章を読んで「事前準備課題」の検討をして、自分の解答案や意見をまとめておいてください。 ハ 授業当日 「事前準備課題」をベースに、学生の解答案の比較、教員の解説、テーマに関するディスカッションなどを行います。 ニ 事後学習（約2時間） 今後の学習につなげるために、授業内容についてノートの整理をしておいてください。 3 レポート 授業への取組と内容の理解度を確認するため、期末に簡単なレポートの提出を求める予定です。 * 教科書については、初回授業で指定をする予定です。																		
関連科目	租税法、財政学、憲法、行政法																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td>租税判例六法</td><td>中里実他</td><td>有斐閣</td></tr> <tr> <td>2</td><td>図解 租税法ノート</td><td>八ツ尾順一</td><td>清文社</td></tr> <tr> <td>3</td><td>ブレップ租税法</td><td>佐藤英明</td><td>弘文堂</td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	租税判例六法	中里実他	有斐閣	2	図解 租税法ノート	八ツ尾順一	清文社	3	ブレップ租税法	佐藤英明	弘文堂
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	租税判例六法	中里実他	有斐閣																
2	図解 租税法ノート	八ツ尾順一	清文社																
3	ブレップ租税法	佐藤英明	弘文堂																
評価方法（基準）	平常点（50%）、課題発表の内容（30%）、及びレポート内容（20%）の合計で評価します。なお、ゼミでの積極的発言、ディスカッションへの貢献、レポートの提出状況は平常点に反映させます。																		
学生へのメッセージ	租税法は社会人となってからも役に立つ実学の代表格です。税の世界に興味を持って頂きたいと思います。																		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 團野研究室																		
備考	授業計画に応じたテーマにつき、事前・事後の学習を少なくとも毎回各2時間程度行うように心掛けて下さい。専門演習Ⅰ・Ⅱとは異なり、税と社会との関りに関心を持って頂くことが目的ですので、ゼミで取り上げた内容以外も幅広く学習して下さい。																		

科目名	ブレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	河原 匡見
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	2 年後期から始まる専門演習での学習にスムーズに入っていけるように指導します。すなわち、法学基礎演習Ⅰが大学生としての勉学のために、そして法学基礎演習Ⅱが法学部教育のために、それぞれにスムーズに入っていけるよう設置された科目であるのに対して、ブレ専門演習は、専門演習での学習に向けてのいわば助走的な内容のゼミとなります。		
到達目標	この演習を通じて学生には、専門演習での学習に向けて、社会科学の演習で必要となる社会情報の取得や演習スタイルの学習のための準備の仕方そして15 名以下程度の少人数の中での報告形式に慣れることが期待されます。		
授業方法と留意点	学生による報告が主体の形式で行います。「対面方式」によるゼミを実施します。具体的には、課題を出して、それに対してレポートの提出によって報告してもらうというスタイルが基本です。課題については、すでに募集要項の中で示した当ゼミの趣旨に沿った内容になります。各自で、学習・調査し、それをレポートで報告してもらいます。なお、授業時間以外での活動は特に予定していませんが、報告（レポート作成）のための時間は各自必要となります。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	この演習では、社会科学分野の専門学習を念頭に置いたテーマを設定します。特に、国内外の政治・社会問題の動きをみる眼を養うための、すなわち国の内外でいかなる問題が起き、いかなる課題に直面しているか、そしてそれにどう向き合っていくかを考察していきます。演習での報告テーマについては、主に教員からジャンルやイシューについて提示していきますが、演習参加者の希望なども取り入れたいと思います。報告に際しては、事前の学習が必要なのは言うまでもありませんが、事後についても演習で得られたコメントや質問を参考に、さらに報告内容をブラッシュアップしてもらいたいと思っています。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	学習への参加姿勢50％および課題報告の内容50％により評価します。		
学生へのメッセージ	国内外の政治や社会の動き（時事問題）に関心がある人に向いているゼミです。		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 河原教授室		
備考	事前・事後学習は、各授業時間ごとに1 時間程度行ってください。但し、発表前の場合は、発表の準備に必要な時間でさらに上乘せが必要です。		

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 敦
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	・専門演習の準備として、民法の基本的な事項一般について理解することを目的とする。具体的には、民法を通観する教科書を用いて、民法及びこれに関連する法律について学習する。、もっとも、このうち1回は、グループワークとして、学生に模擬法廷で発表をしてもらうことを考えている。 ・その他、学生からの意見も聞きつつ、適宜民事法に関する講義等も行う。																		
到達目標	この授業を通じて学生には、民法全般について学び、民法とはどのような法律であるのかという法の趣旨を理解し、後期の専門演習で民事に関する法律を勉強するに当たって必要となる基礎知識を習得できるようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	・上記グループワーク以外には、基本的には教科書に基づいて講義をする。事前にT e a m sを通じて送付するレジュメや資料は、必ず事前に十分に検討しておくこと。 ・授業には、上記資料（レジュメはプリントアウトして授業中、適宜メモをされたい）等や六法（ポケット六法等、親族法改正が盛り込まれた最新の令和6年版を推奨する）を必ず持参すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・民法は、全体の構造を知れば部分が理解できるし、部分がわかれば全体像も見えてくるといわれているので、まず全体を知ることが重要である。この授業では、教科書を通読することを中心に、民法全般（総則、物権、債権、親族、相続）について一通りの知識を習得する。 ・授業の中間辺りでは、特定の分野について、それまでに教員が行った講義に準じた発表を、グループに分かれて行ってもらおう。 ・授業を充実したものにするためには、十分な事前学習及び事後学習が求められる。事前学習及び事後学習には、それぞれ2時間を充てるものとする。 ・授業スケジュールの詳細、課題の提出、その他授業で必要な事項については、授業又はTeamsにおいて事前に伝える。																		
関連科目	民法の各専門科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>民事法入門 第8版補訂版</td><td>野村豊弘</td><td>有斐閣</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	民事法入門 第8版補訂版	野村豊弘	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	民事法入門 第8版補訂版	野村豊弘	有斐閣																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業における態度（遅刻せずきちんと出席しているか、授業に資料等を持参しているか、議論に積極的に参加しているか、事前事後の学習をして授業に対応できているか。60%）及び、Teams 上での小テストや課題（40%）で評価する。欠席・遅刻が多かったり、授業態度が良好でない場合には、別途レポートを課することがある。																		
学生へのメッセージ	授業の範囲は民法一般と広いですが、レジュメ及び教科書を参考に、自分で学ぶ姿勢が何より大事です。事前学習と事後学習は、きちんと行ってください。民法すべてを学習した達成感は、何物にも代えがたいものとなることでしょう。																		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 田中教授室																		
備考	学生の理解度、授業態度いかんによっては、授業の方法、順序、内容を変更することがある。																		

科目名	ブレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中 沼 丈 晃
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	家庭・学校・地域に関わる身近な社会問題について、「自分が当事者だったらどう思うのか、どうするのか」という視点を大事にして、演習生全員で真剣に議論をする。		
到達目標	この演習を通じて学生には、①「自分が当事者だったらどう思うのか、どうするのか」という感情移入の姿勢を身につけ、②「人それぞれ」では済ませず、価値観が異なる人と「どう折り合いをつけるのか」考えて議論できるようになることが期待される。		
授業方法と留意点	まちづくりや企業研修などで使われる「ワークショップ」の手法を体験してもらえるように進める。演習生みんなで意見を出し、作業をし、議論をするので、能動的な参加が求められる。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	多くの人が関わる、少なくとも身近で見聞きする社会問題を取り上げて議論をする。ひとつのテーマを4回ほどで検討し、議論し、演習としての結論を出すのに、みんなで努力する。テーマは演習生と相談して決めるが、家庭では「家事・育児・介護の男女間負担差」「夫婦別姓」「不妊治療」、学校では「学級崩壊」「いじめ」「部活動」、地域では「子どもの深夜徘徊」「性犯罪の防止」「ゴミ屋敷や空き家の問題」などを考えている。議論のための下調べなどの準備が必須になる。		
関連科目	専門演習、卒業研究。		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	演習時限の全出席を前提とする。ワークショップへの貢献度(50%)、ワークショップの成果物(50%)の合計によって評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	11 号館 9 階 中沼教授室		
備考	ワークショップの下調べに各回 1 時間ほどが必要になる。 議論の推移と結果を整理して全員で共有する。		

科目名	プレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浮田 徹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	専門演習に入る前の導入となります。しかし専門演習に継続するわけではないので15回で一つの区切りとなるような内容となります。		
到達目標	この講義を通じて学生には、とにかく、議論における発言するという力を身につけられるようになることが期待される。		
授業方法と留意点	出席は前提です。ディベートの中での発言が必須です。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	ビデオ、文献などをきっかけとして議論してもらいます。 文献は事前に渡すことになりますので読んできてもらいます。 発言の振り返りもしてもらいます。		
関連科目	法学部開講科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	出席を前提として、発言回数・内容 (60%)、振り返りペーパー (40%) で評価します。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	11 号館 9 階 浮田准教授室		
備考	事前学習としては、演習時に使用する素材に関する文献を読むことになります (30 分)、事後学習としては当日の演習に関する課題を課すのでその作成を行います (60 分)。		

科目名	ブレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	「ブレ専門演習」は、2 年次後期からはじまる「専門演習Ⅰ」、3 年次の「専門演習Ⅱ」、および 4 年次の「卒業研究」につながる演習である。したがって、この分野についての興味を高め、2 年半かけて深く学ぶための準備を行うことが本演習の目的である。		
到達目標	この授業を通じて学生には、スポーツ活動に関する諸問題を検討し関連する知見を身につけることが期待される。		
授業方法と留意点	教科書は特に用いないが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するため、および事前・事後の学習のために ICT ツールを活用していただく場合もあります。対面による授業を原則とします。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・授業テーマ：「スポーツ活動を多面的に学ぶ」 ・方法と内容：スポーツに関係する資料輪読、レポートの作成、作成したレポートのプレゼンテーション、およびディスカッションを行う。 ・授業の都度指示する課題に対する予習と復習		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業への参加を前提とし、各回の取り組み (与えられた課題の完成度 50%、プレゼンテーションの内容 20%、ディスカッションでの発言 30%) で評価する。		
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでください。		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 石井教授室		
備考	各回に 1 時間程度、すなわち半期で 15 時間程度を目安に、事前・事後の学習を行ってください。		

科目名	プレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	島田 良一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	新聞やテレビ、インターネットなどから得られる刑事事件に関する記事や専門文献、判例などを使いながら、刑事法（刑法・刑事訴訟法・刑事政策・少年法）についての理解を深めていく。		
到達目標	この演習を通じて学生には、刑事法に関する基礎的な知識を修得するとともに、議論やプレゼンテーションをする力を身につけることが期待される。		
授業方法と留意点	主にグループワークの形でプレゼンテーションやディベートなどを行う。 なお、遅刻・無断欠席は厳禁とする。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	オーソドックスなところでいえば、例えば、毎回担当者を決め、レジュメやPowerPoint を使って各々興味のあるテーマについてプレゼンテーションをしてもらい、その後、全体で討議をするといったかたちになるが、なにしろ半期 15 コマしかないことから、なにをどのようにやっていくかは受講生と相談して決めていく予定である。 したがって、事前・事後学習についても、授業テーマによって若干異なることになるが、プレゼンテーションの場合であってもディベートの場合であっても、その準備やその後の振り返りにそれぞれ 30 分程度は要することになると思われる。		
関連科目	刑事訴訟法Ⅰ・Ⅱ、刑事政策Ⅰ・Ⅱ、少年法、刑法総論、刑法各論など		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	ディベートやプレゼンテーションなどの内容 (50%)、ディベートやプレゼンテーションなどにおける発言・取り組みの姿勢・態度 (50%)。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	11 号館 9 階 島田准教授室		
備考			

科目名	ブレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	家本 真実
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	私たちは普段、様々な事柄に対して自分なりの意見をもっています。こうした意見は、他の人と類似のものとなることもあれば、正反対と言ってもいいものになることもあります。そもそも1つのことに対して多種多様な意見が存在することや、自分のものを含むそれらの意見がどのような過程を経て形成されるのかを、特別に意識することはあまりないと思います。しかし、ちょっとした意見の食い違いが大きな問題に発展するということが往々にして起こります。したがって、自分の意見がいったいどんなふう to 他人に受け取られるのか、また他の人の意見の趣旨がどのようなものなのかを理解する、または理解するよう努めることは重要です。 そこで、このゼミでは、特定のトピックについて調べるなどして自分の意見がある程度固めたうえで、ゼミ生の皆さんで話し合うことを通じて、ご自分の意見をもつための材料を収集する術を学んだり、ご自分の意見を見つめ直したりすることの重要性に気付いていただきたいと思います。																		
到達目標	このゼミを通じて、学生の皆さんには、ご自分の意見を形成してそれをよりの確に表現し、他の人の意見を理解するための基礎体力を得ることが期待されます。																		
授業方法と留意点	教員から講義をおこなう部分と、ゼミ生の皆さんが自ら考え、議論したり作業するといった活動をしていただく部分が混在することになりますが、ゼミ生の皆さんが個別に作業したり、またはグループで議論したり作業する時間のほうが、割合としては多くなります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	あることについて自分の意見を形づくるためには、そもそもその対象となる事柄についてある程度の知識を得る必要があります。したがって、学生の皆さんには、一定のテーマについて調べていただいたり、それについて発表していただいたりして、ご自分の意見をもつ過程をしっかりと感じていただくことにしたいと考えています。 ゼミ中におこなう活動や議論の準備として、事前に読んでくるべき資料をお渡ししたり、課題を課すことがありますので、各自、ゼミ前後にいくらか時間を費やしていただく必要があります。																		
関連科目																			
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	ゼミ中の受講姿勢や議論の内容（80%）、課題・提出物（20%）を評価の対象とします。																		
学生へのメッセージ	このゼミで、向上心をもって、自ら行動する力をつけていただくきっかけにしていいただければと思います。																		
担当者の研究室等	11 号館 9 階 家本准教授室																		
備考	事前・事後学習の総時間数の目安：60 時間																		

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	城内 明
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	「民法を深く学ぼう ― 法的議論への招待―」 法律討論会を実施します(2回)。		
到達目標	本授業の受講生には、民法的なセンスを身に付け、問題解決能力及びプレゼンテーション能力を向上させることが期待されます。		
授業方法と留意点	法律討論会は、3～4名のグループに分かれて競うこととなります。準備も、グループ毎の作業となりますので、無断欠席等は絶対にしないようにして下さい。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	法律討論会では、3～4名のグループ毎に、設問にどう答えるかを検討し、10分で読める長さの文章(立論)を書き上げます(事前の学習課題)。討論会当日は、各グループが用意した立論を10分の持ち時間で読み上げ、直後に、この立論に対する質疑を同じく10分間行います。審査員(城内)が立論の論理性・質問に対する回答の的確性・立論及び質疑に臨む態度等を総合評価し、グループ毎の順位を決めます。この他、良い質問については質問賞(個人賞)もあります。討論会翌週には全員で検討会を開きます。他のグループが何を考えて立論したのか等、疑問をぶつけあいましょう(事後の学習課題)。		
関連科目	民法・消費者法		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	準備作業への貢献度(60%)と、討論会当日の活躍(40%)を総合評価します(100%)。		
学生へのメッセージ	法律討論会は、本気になって取り組みれば、さまざまな成果を得られます。何より楽しいです!!一緒にがんばりましょう!!		
担当者の研究室等備考	11号館10階 城内教授室		

科目名	ブレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	・指導方針 1 このブレ専門演習は、2 年次後期の「専門演習Ⅰ」、3 年次の「専門演習Ⅱ」、そして 4 年次の「卒業研究」にかかる導入教育として位置づけられています。 2 そこで、本演習では 1 年次において刑事法概論の講義で習得した基本事項のうち、参加者各自が興味や関心を抱いた個別テーマに関する裁判例（判例）や学説を調べて報告してもらいます。 3 もっとも、こうした報告作業は、少なくとも法学系の論述問題でまともな答案を書くことができない人にはなかなか難しいのも事実です。そのため、この演習では、発表の前提ともいえる、刑事法に関する論述問題の答案作成方法も学習します。 4 また、発表に際し、どのようにして判例や文献を調べればよいのかというリーガル・リサーチの手法も本格的に学習する予定です。図書館や法学データベースの使用方法も適宜指導します。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、 ・刑法の論点を抽出できる ・論点に対する判例や裁判例を調査できる ・論点に対する学説を調査できる ・論点に対して私見を展開できる ようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	・演習（ゼミ）形式（反転授業）で行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答を行う。 ・法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。 ・刑法の論点に関して個別にプレゼンテーションを行った上で、参加者全員でディベートを行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・ゼミ内容 この演習では、刑法（罪刑法定主義、刑法総論〈全犯罪共通の成立要件の検討〉、刑法各論〈各種個別犯罪〔殺人・強盗・放火等〕の成立要件論〉）、および、刑事学・犯罪学（犯罪原因論、受刑者と出所者の処遇問題、死刑を含めた刑罰の有効性と正当性、犯罪被害者救済策）を主な検討対象とします。 ・授業内容 刑事法に関する事例問題（論述式）の答案作成方法 刑事法領域の裁判例や学説の研究調査方法（リーガル・リサーチ） 個別テーマの報告 ・授業時間以外での活動 学生の希望があれば、刑務所や少年院などの施設訪問を長期休暇時に行うことがあります。																		
関連科目	刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>※開講時に指示する</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	※開講時に指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	※開講時に指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>刑法の争点（第 3 版）</td><td>西田＝山口＝佐伯ほか</td><td>有斐閣</td></tr> <tr> <td>2</td><td>判例プラクティス刑法Ⅰ（第 2 版）</td><td>成瀬＝安田ほか</td><td>信山社</td></tr> <tr> <td>3</td><td>判例プラクティス刑法Ⅱ</td><td>成瀬＝安田ほか</td><td>信山社</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	刑法の争点（第 3 版）	西田＝山口＝佐伯ほか	有斐閣	2	判例プラクティス刑法Ⅰ（第 2 版）	成瀬＝安田ほか	信山社	3	判例プラクティス刑法Ⅱ	成瀬＝安田ほか	信山社
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	刑法の争点（第 3 版）	西田＝山口＝佐伯ほか	有斐閣																
2	判例プラクティス刑法Ⅰ（第 2 版）	成瀬＝安田ほか	信山社																
3	判例プラクティス刑法Ⅱ	成瀬＝安田ほか	信山社																
評価方法（基準）	評価方法 プレゼンテーション（50%）とディベートへの参加度（50%）によって評価する。 以下の点をとくに重視します。 ①発表時に問題提起を適切にしているか（発表姿勢）。 ②提起した問題に関連する判例や先行研究（学説）を十分に、かつ、主体的に調査しているか（主体的学習）。 ③異説に配慮しつつ、自らの考察を適切かつ説得力をもって展開できているか（論理性）。																		
学生へのメッセージ	日常の犯罪報道などに興味のある学生はふるってご参加ください。																		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 小野教授室																		
備考	事前学習として、演習テーマの予習に毎回 2 時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、演習テーマの内容についてノートにまとめるなど、毎回 2 時間以上の復習に取り組むこと。																		

科目名	ブレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	萩原 佐織
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	当該民事法ゼミでは、例えば民法等の実体法に基づき発生する権利につき紛争が生じ、裁判所等で解決されるべき場合に、その方法や当事者が従うべきルール等につき、具体的な事案や判例をもとに追求することを最終目標としています。ただし、2 年次の段階では民事訴訟等が未履修ですので、まずは民法等の復習ならびに発展問題を取り扱い、私人の権利、ならびに私人間の権利の衝突・紛争の態様につき学んでもらいたいと思います。																
到達目標	ブレ専門演習では、法律全般について広く学んだ基礎演習とは異なり、民事法にフォーカスして、より具体的に学んでいきます。この演習を通じて学生には、研究テーマの設定、判例研究・判例発表の方法等を、しっかり身に付けることが期待されます。また、これからともに過ごすゼミ仲間とより良い関係が築けるよう、最初は、グループ発表とし、スポーツ交流等も交え、良い雰囲気のゼミ作りをまずは目指したいと考えています。 後半は、2・3 名でのグループ発表や個人発表を行い、社会科学系の学問における発表の仕方を身に付けるとともに、人前																
授業方法と留意点	【授業内容】 前半は、ゼミでの発表の仕方（論文・判例・その他の資料等の見つけ方、配布資料の作成方法等）につき指導を行う。後半は、2, 3 人のグループでの研究発表を予定。なお、発表毎に質疑応答を行うので、他のグループの研究発表時にも、積極的な参加姿勢を要する。1 学期内に、各グループとも、2, 3 回程研究発表を行う機会を有するが、発表毎に構成員を変更し、ゼミ生同士が、より多くのコミュニケーションを、それぞれのメンバーととることができるように考慮している。そこから研究発表にも、より良い知の化学反応が生じること																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業は、民事事件に関する判例等の研究発表を中心として行う。学期初めに、各グループの発表日時を決めるので、各グループは、構成員同士で話し合って発表テーマを決定し、発表に備え、事前に準備すること。事前準備においては、研究対象となる判例や論文等の資料を探し読み込むこと（インプット）はもちろん、どのように発表すれば他人により分かり易く伝えることができるのか、その発表内容や方法（アウトプット）についても熟慮すること。 発表形式は、次の 2 つの方法のいずれかのうち、そのテーマに適したものをを用いて行う： 1. 資料作成技能重視型： 発表時には、研究内容を、板書やパワーポイント等を用いて説明するとともに、配布資料を配布すること。配布資料は、①研究対象となる事案・争点・判例や学説の流れ・解説等を記載したものと、②研究対象となる事案の判決（判旨・判決理由）を記載したもの、の 2 点を別個に用意する。まず、発表者が、配布資料①に基づき、事案・争点等の説明を行った後、ゼミ全体でディスカッションし、その後、配布資料②を用いて、当該事案の判決につき、再度論議を行う。 2. コミュニケーション技能重視型： 3 人でグループを組み、各自原告・被告・裁判官役の立場に立ち、主に判決全文を用いて、それぞれの主張を述べ合い、裁判を体現する。当事者役は各審級の判決全文から自己の主張を練り、裁判官役は両当事者の見解を聞いたうえで、判決文や判例解説等を基に、それらに対する事実認定や法的外見解を述べる。1 審から、上訴を含め、確定判決まで、裁判の一連の流れを再現する。ただし、その結論については、必ずしも使用した素材と同一になる必要はなく、各当事者役の主張内容や裁判官役の判断次第で、当人が妥当と考える結論が導き出されれば良い。模擬法廷を利用して模擬裁判を行う。 予習事項は、毎回その都度指定しますが、各自の発表に備えて Word/Power Point 資料や配布レジュメを作成したり、設定テーマに関連する文献を調べて熟読しておくこと、発表準備を行うこと等が挙げられます。 また、復習事項は、ゼミ内で教員より個別に指導された内容、例えば、発表資料の修正、文献の追加検索・入手やその読込みです。Teams 上で提出し返却された課題については、そこに示されたフィードバックの指示に従って復習を行って下さい。 事前・事後学習の時間は、それぞれ 2 時間、プレゼンテーション前は 3 時間を想定しています。																
関連科目	民事法全般																
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>よくわかる民事裁判ー平凡吉訴訟日記 [第 4 版]</td><td>山本和彦</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	よくわかる民事裁判ー平凡吉訴訟日記 [第 4 版]	山本和彦	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	よくわかる民事裁判ー平凡吉訴訟日記 [第 4 版]	山本和彦	有斐閣														
2																	
3																	
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	演習内におけるプレゼンテーション準備やディベート・ディスカッション等の平常点 (60%)、プレゼンテーションやレポート・課題 (40%) で評価します。ゼミへの参加意欲ならびにその体現、自身の研究発表への取組み方ならびにその成果、そして他のゼミ生の発表における質疑応答等を、総合的に判断して評価する。欠席・遅刻が多い場合には、レポート課題等を課します。レポート課題等の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。																
学生へのメッセージ	最初は、グループ発表で、ゼミでの発表方法やディスカッションの仕方等に慣れていってもらえればと思います。皆が気軽に話し合えるような良い雰囲気のゼミになれるといいですね。																
担当者の研究室等	11 号館 9 階 萩原准教授室																
備考	判例研究等のプレゼンテーションの際には、準備段階から、Word や Power Point の使い方、論文・判例等の各種文献検索や判例研究の仕方を含め、適時、演習内において指導する。 また、プレゼンテーション終了後は、その場でそのフィードバックを行い、次回のプレゼンテーションに還元できるように努める。																

科目名	プレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	本演習では、ゼミ生全員で最低限での法の意味、とりわけ民法の意味・制度について把握できるようになることを目的としている。そのために、ゼミ生全員の協力の下で、どのような社会的問題が存在し、法律がどのような対応をしているのかを理解していく。社会状況を知ることにより、自分が社会においてどのような立場に立ち、またどのようなことをすべきかなど、多くの点を考える糸口を得られると考えている。		
到達目標	この演習を通じて学生には、ディベートなどを駆使して、人前で話すための技術や留意点を体感し、人に伝えるための方法を身につけ、その後一つの判例を使って全員でじっくりその内容を読み込み、その内容を理解できるようになることが期待される。		
授業方法と留意点	2 年前期の予定としては、①学生によるテーマセッティングに基づくディベートにより、プレゼンテーション能力の涵養、②判例を具体的に読み、法制度を具体的に理解していくことを予定している。ただし、あくまで予定であり、話し合いなどで変更はありうる。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	3 年次で、①グループによる判例報告、②個人の判例報告を予定しているため、その前提となる知識及び経験を涵養する予定である。ただし、あくまで予定であり、話し合いなどで変更はありうる。また、3 年次で他大学との法的問題に対する合宿討論会を行う予定である。この場において、他大学のゼミの前においてプレゼンテーションを行い、その内容についての議論を行い、場合により反論を行う技術が求められる。ゼミではこれらの内容を涵養するよう指導を行う。判例の入手方法、レジュメの作成方法などについては、適宜指摘をしていく。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	成績は、演習で出される課題に対して、情報等を準備しているかどうか及びそのためのグループ活動に積極的に参加しているかどうか (30%)、並びに、その課題の報告等に対して、どのような役割を演じているのか及び質疑応答等において積極的に対応しているかどうか (70%)、で判断を行う。		
学生へのメッセージ	学生主体のゼミを目指しています。		
担当者の研究室等	11 号館 9 階 大川准教授室		
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の 3 つから成り立っています。予習内容としては、演習で与えられる課題をグループとして演習外でも準備を行う必要があります。その準備を 90 分を基準として行う必要があります。復習として、課題に対する報告内容に対して、教員より応用的課題を与えるので、それに対して 90 分を基準として行う必要があります。		

科目名	ブレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松島 裕一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	ブレゼミでは法律学全般にかかわる初歩的な事項を学習していきます。具体的には、皆さんが興味をもちそうな文庫や新書などを選んで、それを全員で講読する予定です。また、ゼミで習得した知識を用いてディベートを実施するつもりです。																		
到達目標	このゼミを通じて学生には、次の2つのことが期待されます。第一に、法学部生としての教養を習得すること。第二に、報告を通じてレジュメやパワーポイントの作り方、ネットを利用した資料収集の方法、ディスカッションやディベートの仕方を身につけること。																		
授業方法と留意点	文献講読を基調にしつつ、必要に応じてニュースや判例を調べてもらい、それに基づいてみんなでディスカッションを行います。必要に応じて教員（松島）がゼミの内容を補足するために講義やDVD鑑賞を行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	事前の予習（課題図書の熟読など）を前提にして、ゼミでは報告とディベートを行うつもりです。どの文献を取り上げるかは、皆さんの希望を取り入れて決定したいと思います。 まず事前の活動として、課題図書の該当箇所を読んできてもらいます。また必要に応じて、レジュメなどの作成が必要となります（これらの事前学習に60分以上）。また、ゼミ終了後に学習した内容を振り返ってください（事後学習60分以上）。このゼミ全体の活動を通じて、ゼミ生の皆さんには「本を読む」習慣を身に付けてほしいと思います。																		
関連科目	法哲学総論、法哲学各論、西洋法思想史、日本法思想史																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	毎回の出席を前提として、課題への取り組みやゼミ中での発言（ディスカッション・ディベートなど）を総合的に判断して成績評価を行います（100%）。なお、無断欠席・遅刻が度重なる場合は単位取得を認めないので、十分に注意してください。																		
学生へのメッセージ	ゼミは学習の場であるとともに、教員と学生および学生相互の交流の場であるとも思っています。学生の希望があれば、さまざまなゼミの行事（コンパや合宿など）も実施する予定ですので、積極的に参加してほしいと思います。																		
担当者の研究室等	11 号館 9 階 松島准教授室																		
備考	課題図書は未定ですが、何かしら購入してもらうことになるので、そのつもりでゼミに臨んでください。																		

科目名	ブレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	増田 知也
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	「自治体政策への提言」をテーマとする。特定の社会問題に対する政策立案という体験を通して、地方自治についての理解を深め、調査・研究方法の基礎を身につけてもらう。4～5 人程度のグループを作り、政策提言をしてもらう。取り上げるテーマはグループごとに決定する。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、社会問題を認識し、原因を分析した上で、適切な政策を立案し、それを分かりやすく人に伝えることができることが期待される。																		
授業方法と留意点	グループワークを中心に授業を進行する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. 問題発見 取り上げるテーマを見つけるため、報道や雑誌・書籍などを頼りに、社会問題を見つける。社会問題について、その背景と現状を明らかにする。 2. 問題分析 取り上げたテーマについて、問題発生の原因を明らかにする。その際、文献調査を行った上で、現地調査やインタビュー調査を実施する。 3. 政策立案 原因を踏まえた上で、その解決のための政策を立案する。複数の案を立てた上で、メリット・デメリットを比較し、最適な政策パッケージを提案する。 4. 政策提言 立案した政策をプレゼンテーションする。 事前・事後学習課題 グループで選んだテーマについての情報収集を行う（4 時間）																		
関連科目																			
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td>自治体政策への提言：学生参加の意義と現実</td><td>今川晃</td><td>北樹出版</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	自治体政策への提言：学生参加の意義と現実	今川晃	北樹出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	自治体政策への提言：学生参加の意義と現実	今川晃	北樹出版																
2																			
3																			
評価方法（基準）	グループワークへの貢献 60%、プレゼンテーション 40%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11 号館 10 階 増田講師室																		
備考																			

科目名	ブレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	専門演習Ⅰでどの領域に進んでもいいように、政治問題・社会問題に関する文献の読解能力や論理的思考力・判断力・表現力の基礎を身につけることが目的です。学生の皆さん一人一人が、自分が興味を持っている政治問題・社会問題について主体的に考え、議論し、問題解決への糸口をつかめるような主体的・対話的で深いアクティブ・ラーニングの場を提供します。																		
到達目標	この授業を通じて学生は、政治問題・社会問題に関する書物・新聞記事・評論などを読んで基本的な知識・技能を獲得するとともに、その要点やメリット・デメリットをまとめ、望ましい解決策について他者と討議し、他者に対してそれを明確に発表するという論理的思考力・判断力・表現力を育成することが期待されます。 またグループディスカッション・プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通じて主体的・対話的で深い学びを行うなかで、学習や仕事に対する意欲や積極的な人間性を育み、社会において良好で協調性のある人間関係を構築す																		
授業方法と留意点	ABD（Active Book Dialogue, アクティブ・ブック・ダイアログ）というアクティブ・ラーニングの方法を用いて、教養文献の読解・グループディスカッション・プレゼンテーションを毎回全員が行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・授業テーマ・内容 政治問題・社会問題に関する文献の読解や議論、発表を通じて、その内容を正確に理解し、他者と討議して望ましい解決策を判断し、他者にわかるようにその内容・解決策を発表することによって、基本的な日本語読解能力と論理的思考力・判断力・表現力を修得することができます。 どの学問領域に進んでもいいように学問的基礎を固め、自分が関心のある問題の領域を定めることができますようにします。 ・授業方法 学生の皆さんの興味・関心・卒業論文のテーマを考慮しながら、政治問題・社会問題についての文献をその場で毎回輪読・議論・発表する ABD（Active Book Dialogue, アクティブ・ブック・ダイアログ）というアクティブ・ラーニングの方法を用います。短い時間で日本語の文章を読み、その要点を的確に理解することは、就職試験や公務員試験の「文章読解」で求められる能力でもあり、社会人になった後のマニュアル・資料の読解にも必ず必要な能力です。またグループディスカッションやプレゼンテーションは、仕事で問題が発生したときにその原因を的確に把握し、他者と望ましい解決策を討議し、最善と判断した改善策を他者に論理的に説得するためにも必要な能力です。 ・事前、事後学習課題 事前学習...その場で政治問題に関する文献を読んでもらうので、必要ありません。 事後学習...文献全体をもう一度読み直し、内容を理解しておくこと（60分～90分程度）。																		
関連科目	法学基礎演習Ⅱ、専門演習Ⅰ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業でのグループディスカッション（50％）とプレゼンテーション（50％）で評価します。																		
学生へのメッセージ	この時期に自分が関心のある学問領域を定めてどの専門演習に進みたいかを決定し、その領域に関する参考文献の読解や資料・データの収集を自主的に行うようにしてください。																		
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館 10 階 和田研究室																		
備考	グループディスカッションでは教員も適宜参加し、助言を与えます。プレゼンテーションでは毎回その内容について全員に助言と短評を与えます。																		

科目名	ブレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	本多 康作
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	このブレ専門演習は、2 年次後期の「専門演習Ⅰ」、3 年次の「専門演習Ⅱ」、そして 4 年次の「卒業研究」にかかる導入教育として位置づけられています。そこで本演習では、「専門演習」に入る前に、言葉と法をキーワードに、古典的なテキスト（本の一部や論文）を輪読し、テキストを読むという行為について改めて考えてみたいと思います。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、テキストを読むという行為について反省し、改めて考えるようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	テキストを輪読します。授業の最初に、テキストの担当箇所（担当頁）を決め、毎回、複数名の方に担当箇所について資料を作成したうえで報告ないし説明してもらいます。担当者の説明の後に、参加者からの質問に担当者に回答してもらい、テキストへの理解を深めていきたいと思っています。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	法学のテキストに限らず、言葉や法に関係する古典的なテキストを参加者全員で輪読していきます。実際に読むテキストは、いくつかの候補を私が示したうえで、参加者と相談し決めたいと思います。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>※開講時に指示する</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	※開講時に指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	※開講時に指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	平常点（出席、ゼミへの参加態度）と、担当回のパフォーマンスで評価します。担当回のパフォーマンスとは、担当箇所の資料作成とそれに基づく報告、報告に対する参加者からの質問への回答の仕方です。なお担当回の無断欠席は大幅な減点となります。注意してください。																		
学生へのメッセージ	古典的なテキストと一緒に読んでみようという方を歓迎します。																		
担当者の研究室等	本多研究室（11 号館 9 階）																		
備考	事前学習として、演習テーマの予習に毎回 2 時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、演習テーマの内容についてノートにまとめるなど、毎回 2 時間以上の復習に取り組むこと。																		

科目名	ブレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	寺山 洋一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	本ブレ専門演習では、「働く」に主眼を置いています。 現代が直面する、「働く」をめぐる諸課題について、ゼミ生が幾つかのグループに分かれた上で、それぞれ、ICT ツールを用いて調べ、他者と話し合いながら、考え抜く力を養います。 ブレ専門演習は、専門演習（後期）に向けた助走的な内容（contents）となりますが、専門演習に直に（directly）接続するものではなく、ブレ専門演習としての手応えを感じられるよう配慮します。																			
到達目標	就職に向けて、また、就職（起業）後において、「働く」に関する種々の課題に直面した場合、自らの調査などを通じて、ある程度の着想を得た上で、他者の意見にも耳を傾けつつ、さらに自らの立ち位置や道筋を練り上げられるようになることが期待されます。																			
授業方法と留意点	「働く」に関する諸課題について、1 テーマごとに、各グループで1～2回、ゼミ生全体で2～3回かけて重層的に議論を深めます。 その後、各々、自らの立場と所見をレポート（A4）に取りまとめます。 以上を、2～3セットほど繰り返します。																			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマごとに、幾つかのグループ（経営者、従業員、法制度など）に分かれて、テーマに関する現状、課題及び対応策について、ICT ツール等を用いて調べます。 グループ内で押し並べて検討した後、他のグループも交えて全体で討議しながら、自らの立場と所見を考えます。 大括りのテーマ群（関連性のある幾つかのテーマを束ねた柱建て）として、次のような事柄が考えられます。 1 少子高齢化と今後の雇用の方向 2 非正規雇用 3 問題を抱える従業員への対応 4 職場環境 5 仕事と生活の調和 6 自立した働き方 雇用・労働関係の法律等について、適時、教員から補足説明をするとともに、各自のレポート作成に際して助言を行います。 グループ内での調べものや打合せ、全体討議が主体となる授業です。																			
関連科目																				
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>【電子】 人事労務関係法 令和6年度版</td><td>テラボ</td><td>齊家書房</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	【電子】 人事労務関係法 令和6年度版	テラボ	齊家書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	【電子】 人事労務関係法 令和6年度版	テラボ	齊家書房																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>【電子】 移りゆく雇用・労働六法 令和6年度版</td><td>テラボ</td><td>齊家書房</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	【電子】 移りゆく雇用・労働六法 令和6年度版	テラボ	齊家書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	【電子】 移りゆく雇用・労働六法 令和6年度版	テラボ	齊家書房																	
2																				
3																				
評価方法（基準）	主体的に参画する意欲・姿勢を重視します。 調べもの等への取組姿勢やグループにおける傾聴・発言内容（50％）、全体討議における傾聴、発言内容（20％）、テーマごとのレポート（30％）を、総合的に判断して評価を行います。 各自が主体的に参画するゼミであり、お互いの信頼関係を損ねることとなる、無断の欠席・遅刻に対しては厳正に対処します。																			
学生へのメッセージ	ブレ専門演習は、ゼミ生と教員との「学びの場」であるとともに、ゼミ生同士の「信頼関係の礎」で成り立っています。 むやみに私見にこだわらず、他者の意見を傾聴し、立場が異なってもお互いに励まし応援する姿勢が求められます。 ブレ専門演習を、ムリ・ムダ・ムラのない良質な機会として育みましょう。																			
担当者の研究室等	11号館9階 寺山教授室																			
備考	授業中、追加的な調べもの、レポート作成の準備を行うことがあります。 各自、PC・スマートフォン等の電子機器を持ち込んでも差し支えありません。 授業前の下調べに2時間程度を、授業後の振り返り及びレポート作成の準備に2時間程度を要します。																			

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	SeminarⅠ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	河原 匡見
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	私たちは日頃、さまざまなメディアを通じて氾濫する情報の中で生活しており、必要な情報を取捨選択し、かつそれを正しく読み取っていくことが求められています。そういう『みる眼』を養っていくことを目的とした演習です。特に、新聞あるいはテレビから発信される情報との“大人のつきあい方”を模索していきます。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、国内外の情報に積極的に接していくとともに、マスメディアなどによって氾濫するさまざまな情報を的確に読み取り、自分にとって必要な情報を取捨選択できるようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	「対面式」で実施します。学生によるプレゼンテーションおよびそれに対するディスカッションを行います。毎回欠かさず出席することが求められます。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	政治や社会の動きをみる眼を養うことがテーマです。マスメディアのもつ特性やその発信するさまざまな情報についての基本的な視点を、実際の素材を用いながら学び考えていきます。3年生の専門演習Ⅱでの学習を進めていくための必須となる社会情報の基礎分析力を養います。なお、演習の中で適宜、予習あるいは復習の課題を提示します。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	演習での勉学姿勢、特にディスカッションへの参加など（50％）、およびプレゼンテーションによる発表の内容（50％）により評価します。																		
学生へのメッセージ	演習では、積極的な参加が必要です。演習は、みなさんが、生来の資質を伸ばしたり、未知の可能性を見出したりするための、いわば知的な『共同訓練の場』といえます。ですから、演習に対しては、しっかりとした勉学の目的と意志をもって参加するようにしてください。演習によってどのような知識や思考方法が身に付くか、どのような新たな才能や可能性を見いだせるか、その成果は、みなさんの演習に対する積極さ如何に大きく関わってきます。																		
担当者の研究室等	11号館10階 河原教授室																		
備考	事前・事後学習は、各授業時間ごとに1時間程度行ってください。但し、発表前の場合は、発表の準備に必要な時間をさらに上乗せすることが必要となります。																		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 敦
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	・本演習は、民法をはじめとする民事法の基礎的知識を確認し、深めることを目的とするものである。民事法は、財産と家族という我々の日常生活に関する一連の法であって、現実の生活と密接に関係している。本演習では、今後引き続いて行われる専門演習Ⅱ、卒業研究の導入として、民事法の基礎的知識を習得することを目標とする。 ・授業担当者は、大阪高裁・地裁、東京地裁等の裁判官として約39年間勤務し、また、広島家庭裁判所長を経験するなど、財産法や家族法に関する民事事件、家事事件に数多く携わってきた。授業では、法理論にとどまらず、実務経験を踏まえた話もしていきたい。																		
到達目標	この授業を通じて学生には、3年次以降に自主的な学習をするために必要となる、民事法に関する基礎的な知識や、専門演習Ⅱにおける発表準備、発表、議論に関する基本的なやり方等を習得することが期待される。																		
授業方法と留意点	・民事上の権利の発生・消滅に関する法（実体法）を中心に、基礎的事項と全体像を確認した上、重要な法律問題について検討・討論する。民事法は、財産と家族という日常的・現実的なことを扱う法であるため、現実の生活と関連づけて法律問題を検討することが重要である。 ・授業には、上記資料等や六法（ポケット六法等、近時重要な法改正が続いているので、最新の令和6年版を推奨する。）を必ず持参すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・授業の前半は、ガイダンス等の後、約6回にわたり、法学検定基礎問題（民法）の問題抜粋の解答をしてもらう。ここでは、単に正解を出すだけに止まらず、民法の知識を確認すべく、学生との質疑応答や必要な講義も行いたい。 ・後半では、様子をみた上で、法律に関する問題についてグループで議論をしたり、判例百選等から選んだ判例を検討したり、模擬法廷を使用したりする授業も考えている。 ・本演習では、各授業につき各2時間の事前及び事後の学習が求められる。事前学習は、上記問題の回答のための準備、教員から示された課題の検討など、事後学習は、当日の授業の復習とともに、教員から指摘された事項などについても検討すること等が考えられるが、各人が、その内容を自ら見出すことが求められる。授業や Teams によって適宜知らせることもあるので、注意すること。																		
関連科目	民事法一般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業における態度（遅刻せずきちんと出席しているか、議論に積極的に参加しているか、事前事後の学習をして授業に対応できているか。50%）及び、Teams 上での小テストや課題（50%）で評価する。欠席・遅刻が多かったり、授業態度が良好でない場合には、別途レポートを課することがある。																		
学生へのメッセージ	本演習は、今後卒業までの2年半継続し、今後の大学生活で大きな位置を占めるものとなるであろう専門演習の最初の授業です。専門演習の重要性を理解して積極的に課題に取り組み、議論や質問をしつつ、気軽に話し合えるようなゼミにしていきたいと思います。																		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 田中教授室																		
備考	学生の理解度、授業の進行等いかんによっては、授業の方法、内容を変更することがある。																		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	卒業研究につながる演習の最初の段階である。地域活動に参加して、現場を観察する。関係者の方に聞き取り調査をする。自分たちの行っている活動を学外の方に説明する。読書で知識を得て、それをまとめる。この4つの力をバランスよく養っていきたい。		
到達目標	この演習を通じて学生には、①地域活動に参加して、協力して行動し、観察・聴き取り記録をとれるようになること、②活動の内容・目標・課題を説明できるようになること、③読書を通じて知識を整理できるようになることが期待される。		
授業方法と留意点	地域活動に参加しての参与観察、聞き取り調査（ともにフィールドワーク）、学外の方への活動報告（プレゼンテーション）、仲間との活動の企画と振り返り（ディスカッション）が特徴の演習である。さまざまな立場、価値観の人たちとの交流を楽しんでほしい。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	演習で扱う分野は、地域防犯、自治会の地域活動、小学校と地域との関係、地域での児童福祉・青少年健全育成の4つである。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	演習時限の全出席を前提とする。活動記録(40%)、企画・振り返りへの貢献度(20%)、読書ノート(40%)の合計によって評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	11 号館 9 階 中沼教授室		
備考	記録簿への記入、ノート整理などで各回1～2時間ほどが必要になる。定期的に記録簿とノートの提出を求め、点検する。個人面談をして、地域活動参加の意志確認をし、参加の感想や今後の希望も聴く。それに対して助言を行う。		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浮田 徹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	卒業研究につながる法学部の演習科目を行っていくにあたっての基礎的な力を身につけることを目的とします。		
到達目標	この講義を通じて学生には、問題発見・レジュメ作成・報告に関する基礎的な力を身につけられるようになることが期待されます。		
授業方法と留意点	個々人の力にある程度の差があることを前提としつつすべてのメンバーが基礎力を身につけていく経験を積んでいける機会を得られるようにするため、原則として出席して積極的に参加することが必要です。 報告はグループで行いますので、グループワークが基本となります。報告ではプレゼンテーション能力を培います。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマを決めていく段階から自主性を重んじますので開講後決定します。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	参加を前提として、報告に対する取り組みと現場でのプレゼンテーション (60%)、ふり返りのペーパー (40%) で評価します		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	11 号館 9 階 浮田准教授室		
備考	事前学習としては、報告者は事前の準備 (4 時間程度)、それ以外は報告者から提示される文献を読む (30 分)、事後学習としては当日の報告に関する課題を課すのでその作成を行います (60 分)。		

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	SeminarⅠ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	「専門演習Ⅰ」は、3年次の「専門演習Ⅱ」と、4年次の「卒業研究」につながる演習であり、専門分野を2年半かけて深く学ぶための準備を行うためにある。したがって、この準備を完了することが専門演習Ⅰの目的である。		
到達目標	この授業を通じて学生には、スポーツ活動を多面的（主に法学・政治学・法政策学）に学び関連する知見を身につけることが期待される。		
授業方法と留意点	必要に応じて資料を配布する。教科書を用いる場合もある。授業中に提示した課題を解決するため、および事前・事後の学習のために ICT ツールを活用していただく場合があります。対面による授業を原則とします。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・授業テーマ：「スポーツ活動を多面的に学ぶ」 ・方法と内容：スポーツに関する資料輪読、レポートの作成、作成したレポートのプレゼンテーション、およびディスカッションを行う。 ・授業の都度指示する課題に対する予習と復習		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	授業への参加を前提とし、各回の取り組み（与えられた課題の完成度 50%、プレゼンテーションの内容 20%、ディスカッションでの発言 30%）で評価する。		
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでください。		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 石井教授室		
備考	各回に 1 時間程度、すなわち半期で 15 時間程度を目安に、事前・事後の学習を行ってください。		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	島田 良一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	刑事法（刑法・刑事訴訟法・刑事政策・少年法）をめぐる諸問題について、受講者の報告をもとに全体で討議する。		
到達目標	この演習を通じて学生には、刑事法に関する十分な知識を修得することが期待される。		
授業方法と留意点	主にグループワークの形でプレゼンテーションやディベートなどを行う。 なお、遅刻・無断欠席は厳禁とする。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	専門文献、資料、判例、報道記事などを素材に刑事手続に関する基礎的な知識を習得するとともに、毎回、報告者を設定し、その報告テーマについて議論を行うほか、状況に応じてディベート等も行いたいと考える。 事前の学習課題としては、議論の準備など（資料の読み込み、レジュメの作成など）。 事後の学習課題としては、議論において教員や他のゼミ生に指摘された点の確認など。 事前、事後学習ともに1～2時間/日を要する。		
関連科目	刑事訴訟法Ⅰ・Ⅱ、刑事政策Ⅰ・Ⅱ、少年法、刑法総論、刑法各論など		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	プレゼンテーションなどの内容（50%）、プレゼンテーションなどにおける発言・取り組みの姿勢・態度（50%）。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等備考	11 号館 9 階 島田准教授室		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	家本 真実
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	日頃、意識して「議論する」ということはあまりないかもしれませんが、日常生活において他の人と意見が異なることは多々あると思います。そのようなときに、話し合いによって自分の意見を相手方に理解してもらい、また相手方の意見を理解すること、つまり相手方と「議論する」ことによって、お互いにとって納得できる合意を得ることが可能になります。そうして何らかの合意を得ることが必要な場面には、友人や家族などとの生活においてだけでなく、将来的には仕事をするうえでも遭遇することになります。そこでこのゼミでは、「議論する」ことに焦点を当てて、どうやって議論をしていくのか、相手に自分の意見を理解してもらうためにはどう話すべきなのか、また相手の意見を理解することがどれだけ重要なのか、といったことを少しずつ学んでいきたいと思います。 3 年次におこなう模擬裁判においても議論をすることがメインとなりますので、専門演習 I はその準備期間という位置付けでもあります。																		
到達目標	このゼミを通じて、学生の皆さんには、議論を通して、他人の考えを理解し、問題がある場合にはどのような解決を見出すことができるかを考えることができるようになることが期待されます。																		
授業方法と留意点	毎回、2-3 人 1 グループを報告者として、一定のテーマについて基礎となる報告をおこなっていただきます。そのうえで、全員で、このテーマについて議論をしていただきます。したがって、報告者は、議論をおこなうことができるようなテーマを選択し、それについて基礎的な情報を提供することを目的としてレジュメを準備していただくとともに、報告当日の議論において司会を務めていただきます。 報告を聞く側の皆さんには、他人事のように報告を聞くのではなく、積極的に議論に参加するという姿勢をもって臨んでいただきたいと思います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	初回から数回は、報告にあたって必要な準備の方法などについて学びます。その後、各々の報告に移っていききたいと思います。皆さんが気楽に話せる内容を報告のテーマとしていただいて、とにかく自分の意見を口に出す、また自分の意見を他の人に理解してもらえるように話す、という練習をしていただきたいと思います。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	ゼミでの報告における準備や司会進行の様子、議論への参加の姿勢 (80%)、課題・提出物 (20%) を評価の対象とします。																		
学生へのメッセージ	議論をすることによって、お互いの考え方を知り、理解しあうことにつながると思いますので、こうした活動を通じて、学生間での交流を深めてもらいたいと考えています。また、皆さんからゼミの内容についての提案があれば、できる限り取り入れていきたいと考えています。																		
担当者の研究室等	11 号館 9 階 家本准教授室																		
備考	事前・事後学習の総時間数の目安：60 時間																		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	城内 明
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	民法を深く学ぶ ―法律討論会への挑戦― 2年後期は、12 月にオンライン開催される「4 大学学生法律討論会」に参加します。 まずは、法律討論会の準備の仕方を学び、11 月半ばからは、4 大学学生法律討論会の準備作業を行います。																		
到達目標	この授業を通じて学生には、民法を深く学ぶと共に、論理的に考え、仲間とディスカッションする力を身に付けることが期待されます。																		
授業方法と留意点	前半は、3～4 名のグループで、法律討論会の準備の仕方を学びます(グループワーク)。 後半は、7～8 名のグループで、4 大学学生法律討論会の準備を行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前半は、ワークシートに基づき、グループワークを行います。グループ内で積極的にコミュニケーションをとり、発言する癖をつけておいてください。後半は、4 大学学生法律討論会に向けた準備作業となります。討論会当日までに、立論を完成させ、質疑応答の準備を終わらせなければならないという責任を自覚し、課題に自主的に取り組んでください。																		
関連科目	民法Ⅰa(総則①)、民法Ⅰb(総則②)、民法Ⅱa(物権法)、民法Ⅲa(債権総論①)、民法Ⅲb (債権総論②)、民法Ⅳa (債権各論①)、民法Ⅳb (債権各論②)																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	4 大学学生法律討論会での活躍 (40%) のほか、ゼミに臨む態度 (60%) を総合評価します。																		
学生へのメッセージ	ゼミの仲間は、一生の仲間です。「自分さえ良ければ」ではなく、皆で高めあい「学問」しましょう。																		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 城内教授室																		
備考	報告準備等の事前学習の所要時間は 20 時間程度を想定しています。 グループワークが主となりますので、遅刻・欠席は、グループの仲間の迷惑になることをご理解ください。無断欠席は論外です。厳しく対処しますので、ご注意ください。																		

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	SeminarⅠ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	・指導方針 1 この専門演習Ⅰは、3年次の「専門演習Ⅱ」、そして4年次の「卒業研究」にかかる導入教育として位置づけられています。 2 そこで、本演習では1年次において刑事法概論の講義で習得した基本事項のうち、参加者各自が興味や関心を抱いた個別テーマに関する裁判例（判例）や学説を調べて報告してもらいます。 3 もっとも、こうした報告作業は、少なくとも法学系の論述問題でまともな答案を書くことができない人にはなかなか難しいのも事実です。そのため、この演習では、発表の前提ともいえる、刑事法に関する論述問題の答案作成方法も学習します。 4 また、発表に際し、どのようにして判例や文献を調べればよいのかというリーガル・リサーチの手法も本格的に学習する予定です。図書館や法学データベースの使用方法も適宜指導します。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、 「・刑法の論点を抽出できる ・論点に対する判例や裁判例を調査できる ・論点に対する学説を調査できる ・論点に対して私見を展開できる」 ようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	・演習（ゼミ）形式（反転授業）で行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答を行う。 ・法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。 ・刑法の論点に関して個別にプレゼンテーションを行った上で、参加者全員でディベートを行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・ゼミ内容 この演習では、刑法（罪刑法定主義、刑法総論〈全犯罪共通の成立要件の検討〉、刑法各論〈各種個別犯罪〔殺人・強盗・放火等〕の成立要件論〉）、および、刑事学・犯罪学（犯罪原因論、受刑者と出所者の処遇問題、死刑を含めた刑罰の有効性と正当性、犯罪被害者救済策）を主な検討対象とします。 ・授業内容 刑事法に関する事例問題（論述式）の答案作成方法 刑事法領域の裁判例や学説の研究調査方法（リーガル・リサーチ） 個別テーマの報告																		
関連科目	刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td>※開講時に指示する</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	※開講時に指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	※開講時に指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td>刑法の争点（第3版）</td><td>西田＝山口＝佐伯</td><td>有斐閣</td></tr> <tr> <td>2</td><td>判例プラクティス刑法Ⅰ（第2版）</td><td>成瀬＝安田</td><td>信山社</td></tr> <tr> <td>3</td><td>判例プラクティス刑法Ⅱ</td><td>成瀬＝安田</td><td>信山社</td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	刑法の争点（第3版）	西田＝山口＝佐伯	有斐閣	2	判例プラクティス刑法Ⅰ（第2版）	成瀬＝安田	信山社	3	判例プラクティス刑法Ⅱ	成瀬＝安田	信山社
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	刑法の争点（第3版）	西田＝山口＝佐伯	有斐閣																
2	判例プラクティス刑法Ⅰ（第2版）	成瀬＝安田	信山社																
3	判例プラクティス刑法Ⅱ	成瀬＝安田	信山社																
評価方法（基準）	評価方法 プレゼンテーション（50％）とディベートへの参加度（50％）によって評価する。 以下の点をとくに重視します。 ①発表時に問題提起を適切にしているか（発表姿勢）。 ②提起した問題に関連する判例や先行研究（学説）を十分に、かつ、主体的に調査しているか（主体的学習）。 ③異説に配慮しつつ、自らの考察を適切かつ説得力をもって展開できているか（論理性）。																		
学生へのメッセージ	日常の犯罪報道などに興味のある学生はふるってご参加ください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 小野教授室																		
備考	事前学習として、演習テーマの予習に毎回2時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、演習テーマの内容についてノートにまとめるなど、毎回2時間以上の復習に取り組むこと。																		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	萩原 佐織
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	当該民事法ゼミでは、例えば民法等の実体法に基づき発生する権利につき紛争が生じ、裁判所等で解決されるべき場合に、その方法や当事者が従うべきルール等につき、具体的な事案や判例をもとに追求することを最終目標としています。ただし、2 年次の段階では民事訴訟等が未履修ですので、まずは民法等の復習ならびに発展問題を取り扱い、私人の権利、ならびに私人間の権利の衝突・紛争の態様につき学んでもらいたいと思います。																		
到達目標	専門演習 I では、民事法にフォーカスして、より具体的に学んでいきます。この演習を通じて学生には、これから 2 年半続くゼミの出発点として、研究テーマの設定、判例研究・判例発表の方法等を、しっかり身に付けることが期待される。また、これから 2 年半をともに過ごすゼミ仲間とより良い関係が築けるよう、最初は、グループ発表とし、スポーツ交流等も交え、良い雰囲気 of ゼミ作りをまずは目指したいと考えています。 後半は、2・3 名でのグループ発表や個人発表を行い、社会科学系の学問における発表の仕方を身に付けるとともに、人前で発																		
授業方法と留意点	【授業内容】 前半は、ゼミでの発表の仕方（論文・判例・その他の資料等の見つけ方、配布資料の作成方法等）につき指導を行う。後半は、2, 3 人のグループでの研究発表を予定。なお、発表毎に質疑応答を行うので、他のグループの研究発表時にも、積極的な参加姿勢を要する。1 学期内に、各グループとも、3 回程研究発表を行う機会を有するが、発表毎に構成員を変更し、ゼミ生同士が、より多くのコミュニケーションを、それぞれのメンバーととることができるように考慮している。そこから研究発表にも、より良い知の化学反応が生じることを期待																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業は、民事事件に関する判例等の研究発表を中心として行う。学期初めに、各グループの発表日時を決めるので、各グループは、構成員同士で話し合っ発表テーマを決定し、発表に備え、事前に準備すること。事前準備においては、研究対象となる判例や論文等の資料を探し読み込むこと（インプット）はもちろん、どのように発表すれば他人により分かり易く伝えることができるのか、その発表内容や方法（アウトプット）についても熟慮すること。 発表形式は、次の 2 つの方法のいずれかのうち、そのテーマに適したものをを用いて行う： 1. 資料作成技能重視型： 発表時には、研究内容を、板書やパワーポイント等を用いて説明するとともに、配布資料を配布すること。配布資料は、①研究対象となる事案・争点・判例や学説の流れ・解説等を記載したものと、②研究対象となる事案の判決（判旨・判決理由）を記載したもの、の 2 点を別個に用意する。まず、発表者が、配布資料①に基づき、事案・争点等の説明を行った後、ゼミ全体でディスカッションし、その後、配布資料②を用いて、当該事案の判決につき、再度論議を行う。 2. コミュニケーション技能重視型： 3 人でグループを組み、各自原告・被告・裁判官役の立場に立ち、主に判決全文を用いて、それぞれの主張を述べ合い、裁判を体現する。当事者役は各審級の判決全文から自己の主張を練り、裁判官役は両当事者の見解を聞いたうえで、判決文や判例解説等を基に、それらに対する事実認定や法学的見解を述べる。1 審から、上訴を含め、確定判決まで、裁判の一連の流れを再現する。ただし、その結論については、必ずしも使用した素材と同一になる必要はなく、各当事者役の主張内容や裁判官役の判断次第で、当人が妥当と考える結論が導き出されれば良い。模擬法廷を利用した模擬裁判を予定している。 予習事項は、毎回その都度指定しますが、各自の発表に備えてパワーポイント資料を作成したり、設定テーマに関連する文献を調べて熟読しておくこと、発表準備を行うこと等が挙げられます。 また、復習事項は、ゼミ内で教員より個別に指導された内容、例えば、発表資料の修正、文献の追加検索や入手です。Teams 上で提出し返却された課題については、そこに示されたフィードバックの指示に従って復習を行って下さい。 事前・事後学習の時間は、それぞれ 2 時間を想定しています。ただし、発表前は、個人やグループの進捗状況により、ゼミ時間外に個別で又はグループで集まって準備をすることもあり得ます。その場合、事前学習時間は、通常より長くなる可能性があります。																		
関連科目	民法法全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>よくわかる民事裁判－平凡吉訴訟日記【第 4 版】</td><td>山本和彦</td><td>有斐閣</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	よくわかる民事裁判－平凡吉訴訟日記【第 4 版】	山本和彦	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	よくわかる民事裁判－平凡吉訴訟日記【第 4 版】	山本和彦	有斐閣																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	演習内におけるプレゼンテーション準備やディベート・ディスカッション等の平常点（60%）、プレゼンテーションやレポート（40%）で評価します。ゼミへの参加意欲ならびにその体現、自身の研究発表への取組み方ならびにその成果、そして他のゼミ生の発表における質疑応答等を、総合的に判断して評価する。欠席・遅刻が多い場合には、レポート課題等を課します。レポート課題等の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。																		
学生へのメッセージ	最初は、グループ発表で、ゼミでの発表方法やディスカッションの仕方等に慣れていってもらえればと思います。このメンバーで卒業までの 2 年半を過ごすことになるので、皆が気軽に話し合えるような良い雰囲気のゼミになれるといいですね。																		
担当者の研究室等	11 号館 9 階 萩原准教授室																		
備考	判例研究等のプレゼンテーションの際には、準備段階から、Word や Power Point の使い方、論文・判例等の各種文献検索や判例研究の仕方を含め、適時、演習内において指導する。 また、プレゼンテーション終了後は、その場でそのフィードバックを行い、次回のプレゼンテーションに還元できるように努める。																		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	本演習では、ゼミ生全員で最低限での法の意味、とりわけ民法の意味・制度について把握できるようになることを目的としている。そのために、ゼミ生全員の協力の下で、どのような社会的問題が存在し、法律がどのような対応をしているのかを理解していく。社会状況を知ることにより、自分が社会においてどのような立場に立ち、またどのようなことをすべきかなど、多くの点を考える糸口を得られると考えている。																		
到達目標	本演習を通じて、学生にはディベートなどを駆使して、人前で話すための技術や留意点を体感し、人に伝えるための方法を身につけ、その後に一つの判例を使って全員でじっくりその内容を読み込むようになることが期待される。ただし、学生の目標等に合わせて、柔軟に対応する予定である。																		
授業方法と留意点	2年後期の予定としては、①学生によるテーマ設定に基づくディベートにより、プレゼンテーション能力の涵養、②判例を具体的に読み、法制度を具体的に理解していくことを予定している。ただし、あくまで予定であり、話し合いなどで変更はありうる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	3年次で、①グループによる判例報告、②個人の判例報告を予定しているため、その前提となる知識及び経験を涵養する予定である。ただし、あくまで予定であり、話し合いなどで変更はありうる。また、3年次で他大学との法的問題に対する合宿討論会を行う予定である。この場において、他大学のゼミの前においてプレゼンテーションを行い、その内容についての議論を行い、場合により反論を行う技術が求められる。ゼミではこれらの内容を涵養するよう指導を行う。判例の入手方法、レジュメの作成方法などについては、適宜指摘をしていく。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	成績は、学期末に教員が用紙を渡すので、各ゼミ生が自己採点を行う。採点を行うに当たり、その評価に見合う事実、経験、結果等を自己で示す必要がある。すなわち、自分で自分を客観的に評価する能力が必要とされる。その自己評価書を元に評価を行う。評価項目は、ゼミへの取り組み (20%)、得られた知識 (20%)、得られた経験 (20%)、今後の課題 (20%)、個人的 PR (20%) をもとに判断を行う。																		
学生へのメッセージ	学生主体のゼミを目指しています。																		
担当者の研究室等	11 号館 9 階 大川准教授室																		
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の 3 つから成り立っています。予習内容としては、演習で与えられる課題を個人で準備を行う必要があります。その準備を 90 分を基準として行う必要があります。復習として、課題に対し、中間報告及び最終報告の内容を正確に押さえる必要があります。その為に 90 分を基準として行う必要があります。学生主体の演習を目指しています。各実施状況については各自の報告時及びメールで確認します。演習での縦の人間関係も重視しております。コンパなどで、就活などの情報も先輩から後輩へと伝えていくこと																		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松島 裕一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	専門演習 I では法哲学・法思想史の基本的な事項を学習していきます。具体的には法哲学・法思想史の入門書ないしそれに類するものを全員で講読する予定です。また、ゼミで習得した知識を用いてディベートを実施するつもりです。																		
到達目標	このゼミを通じて学生には、次の 2 つのことが期待されます。第一に、法哲学・法思想史の基礎知識を習得すること。第二に、報告を通じてレジュメやパワーポイントの作り方、ネットを利用した資料収集の方法、ディスカッションやディベートの仕方を身につけること。																		
授業方法と留意点	文献講読を基調にしつつ、必要に応じてニュースや判例を調べてもらい、それに基づいてみんなでディスカッションを行います。必要に応じて教員（松島）がゼミの内容を補足するために講義や DVD 鑑賞を行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	事前の予習（課題図書の熟読など）を前提にして、ゼミでは報告とディベートを行うつもりです。どの文献を取り上げるかは、皆さんの希望を取り入れて決定したいと思います。 まず事前の活動として、課題図書の該当箇所を読んできてもらいます。必要に応じて、レジュメなどの作成が必要となります（これらの事前学習に 60 分以上）。また、ゼミ終了後に学習した内容を振り返ってください（事後学習 60 分以上）。このゼミ全体の活動を通じて、「本を読む」習慣を身に付けてほしいと思います。																		
関連科目	法哲学総論、法哲学各論、西洋法思想史、日本法思想史																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	毎回の出席を前提として、課題への取り組みやゼミ中での発言（ディスカッション・ディベートなど）を総合的に判断して成績評価を行います（課題への取り組み 50%、ゼミでの発言など 50%）。なお無断欠席・遅刻が度重なる場合は単位取得を認めないので、十分に注意してください。																		
学生へのメッセージ	専門演習は学習の場であるとともに、教員と学生および学生相互の交流の場であるとも思っています。学生の希望があれば、さまざまなゼミの行事（コンパや合宿など）も実施する予定ですので、積極的に参加してほしいと思います。																		
担当者の研究室等	11 号館 9 階 松島准教授室																		
備考	課題図書は未定ですが、何かしら購入してもらうことになるので、そのつもりでゼミに臨んでください。																		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	増田 知也
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	「地域における問題発見」をテーマとする。5 人程度のグループを作り、特定の地域における問題を自分たちで発見することを目指す。調査方法としては、文献調査、フィールド調査、インタビュー調査を組み合わせで行う。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、地域における問題を発見し、調査によってその原因を明確にし、調査結果を分かりやすく人に伝えることができるようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	Active Book Dialogue による文献講読と、グループワークによる政策立案を組み合わせで実施する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. 文献講読 文献の内容を分担してまとめ、発表し、議論を行う。 2. 事例の選定 調査の利便性も考慮しつつ、対象となる地域を選定する。 3. 事例研究 リサーチ・クエスチョンを立て、文献調査、フィールド調査、インタビュー調査によって結論を導く。 4. プレゼンテーション 研究成果を発表し、意見交換をすることで理解を深める。 事前・事後学習課題 グループで選んだテーマについての情報収集（4 時間）																		
関連科目																			
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	グループワークへの貢献 60％、プレゼンテーション 40％																		
学生へのメッセージ	楽しく深く学べるゼミにしたいと思います。																		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 増田講師室																		
備考																			

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	SeminarⅠ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	専門演習Ⅱに備えるべく、政治問題に関する文献の読解能力や論理的思考力・判断力・表現力の基礎を身につけることが目的です。学生の皆さん一人一人が、自分が興味を持っている政治問題について主体的に考え、議論し、問題解決への糸口をつかめるような主体的・対話的で深いアクティブ・ラーニングの場を提供します。																		
到達目標	この授業を通じて学生は、政治問題に関する書物・新聞記事・評論などを読んで基本的な政治的知識・技能を獲得するとともに、その要点やメリット・デメリットをまとめ、望ましい解決策について他者と討議し、他者に対してそれを明確に発表するという論理的思考力・判断力・表現力を育成することが期待されます。 またグループディスカッション・プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通じて主体的・対話的で深い学びを行うなかで、学習や仕事に対する意欲や積極的な人間性を育み、社会において良好で協調性のある人間関係を構築する仕																		
授業方法と留意点	ABD（Active Book Dialogue, アクティブ・ブック・ダイアログ）というアクティブ・ラーニングの方法を用いて、政治問題に関する文献の読解・グループディスカッション・プレゼンテーションを毎回全員が行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・授業テーマ・内容 政治問題に関する文献の読解や議論、発表を通じて、その内容を正確に理解し、他者と討議して望ましい解決策を判断し、他者にわかるようにその内容・解決策を発表することによって、基本的な日本語読解能力と論理的思考力・判断力・表現力を修得することができます。 卒業論文が作成できるように学問的基礎を固め、自分が関心のある政治問題の領域・テーマを定めることができます。 ・授業方法 学生の皆さんの興味・関心・卒業論文のテーマを考慮しながら、政治問題についての文献をその場で毎回輪読・議論・発表する ABD（Active Book Dialogue, アクティブ・ブック・ダイアログ）というアクティブ・ラーニングの方法を用います。短い時間で日本語の文章を読み、その要点を的確に理解することは、就職試験や公務員試験の「文章読解」で求められる能力でもあり、社会人になった後のマニュアル・資料の読解にも必ず必要な能力です。またグループディスカッションやプレゼンテーションは、仕事で問題が発生したときにその原因を的確に把握し、他者と望ましい解決策を討議し、最善と判断した改善策を他者に論理的に説得するためにも必要な能力です。 ・事前、事後学習課題 事前学習...その場で政治問題に関する文献を読んでもらうので、必要ありません。 事後学習...文献全体をもう一度読み直し、内容を理解しておくこと（60分～90分程度）。																		
関連科目	ブレ専門演習、専門演習Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業でのグループディスカッション（50%）とプレゼンテーション（50%）で評価します。																		
学生へのメッセージ	就職活動が始まると卒業論文の作成に時間を取ることができなくなってしまう。この時期に卒業論文の領域・テーマを定め、参考文献の読解や資料・データの収集を自主的に行うようにしてください。																		
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 11号館 10階 和田研究室																		
備考	グループディスカッションでは教員も適宜参加し、助言を与えます。プレゼンテーションでは毎回その内容について全員に助言と短評を与えます。																		

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	SeminarⅠ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	本多 康作
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎、DP3◎、DP4◎、DP5◎、DP6◎、DP7◎、DP8◎、DP9◎、DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	・指導方針 1、この専門演習Ⅰは、3年次の「専門演習Ⅱ」、そして4年次の「卒業研究」にかかる導入教育として位置づけられています。 2、そこで、本演習では「独占禁止法」、「保険法」、「会社法」の講義で習得した基本事項、あるいは「法学一般（特に基礎法学）」の基本事項から、参加者各自が興味や関心を抱いた個別テーマに関する裁判例（判例）や学説を調べて報告してもらいます。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、 ・独占禁止法や保険法等の論点を抽出できる ・論点に対する判例や裁判例を調査できる ・論点に対する学説を調査できる ・論点に対して私見を展開できる ようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	・演習（ゼミ）形式（反転授業）で行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答を行う。 ・法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。 ・独占禁止法や保険法等の論点に関して個別にプレゼンテーションを行った上で、参加者全員でディベートを行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	・ゼミ内容 この演習では、独占禁止法、保険法、会社法、法学一般（特に基礎法学の論点）を主な検討対象とします。 ・授業内容 経済法領域の裁判例や学説の研究調査方法（リーガル・リサーチ） 個別テーマの報告																		
関連科目	独占禁止法、保険法、会社法など																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>※開講時に指示する</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	※開講時に指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	※開講時に指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	評価方法は、プレゼンテーション（50％）とディベートへの参加度（50％）によって評価します。 なお、以下の点をとくに重視します。 ①発表時に問題提起を適切にしているか（発表姿勢）。 ②提起した問題に関連する判例や先行研究（学説）を十分に、かつ、主体的に調査しているか（主体的学習）。 ③異説に配慮しつつ、自らの考察を適切かつ説得力をもって展開できているか（論理性）。																		
学生へのメッセージ	法制度と市場システムなど、法現象と経済現象との関係に興味のある学生はふるってご参加ください。																		
担当者の研究室等	本多研究室（11号館9階）																		
備考	事前学習として、演習テーマの予習に毎回2時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、演習テーマの内容についてノートにまとめるなど、毎回2時間以上の復習に取り組むこと。																		

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	SeminarⅠ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	寺山 洋一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	新規立法や報道記事、裁判例、文献などを通じ、主に、雇用・社会保障に関する法律の基礎的な理解を踏まえた上で、各自、関心を抱くテーマについて論究を深めるのが、この演習（ゼミ）の趣旨です。 立法的な知識・知見の習得をベースとする本ゼミでは、専門演習Ⅰから専門演習Ⅱの序盤にかけて、基礎的な立法技術をスキルアップします。 専門演習Ⅰは、3年次の専門演習Ⅱ、4年次の卒業研究につながり、立法に関する専門分野を深く学ぶための助走（running-up）の期間となります。専門演習Ⅱの中盤から、各人が身に着けた立法スキルを活用して、いろいろな法律の立法的変遷やその背景となる立法事情、立法過程に迫ってゆくことになります。 本ゼミでは、グループごとの検討を通じて傾聴などのコミュニケーション技法を学び、「世のため、人のため」に尽力できる人物の育成を目指します。																		
到達目標	学生には、最近の様々な立法事象について、その立法の背景事情、立法過程、立法政策などの分野について、立法に関する基礎的な知見を基に、自ら主体的に調査を進めるとともに、分析・検討できるようになることが期待されます。																		
授業方法と留意点	教科書の内容に沿って、立法過程、立法政策、立法技術等について学びます。 各グループごとに、得意な分野を決めて、立法に関する知見を深めます。 e-Gov や衆議院 website などの検索に慣れてもらうため、パソコン実習の機会を設けます。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	最近の立法に関する幾つかの事象について、立法的な調査、分析を進めます。 具体的には、立法過程、立法政策、立法技術などの視点を交えて、グループごとに検討を行います。 グループ内で押し並べて検討した後、他のグループも交えて全体で討議しながら、立法に関する総合的な知見を養います。 最近の立法に関する幾つかの事象として、次のような事柄が想定されます。 ① フリーランス新法 「特定受託事業者に係る取引の適正化等に関する法律」（令和5年法律第25号） 第211回通常国会において、閣法として成立し、令和5年5月12日に公布されました。 ② LGBT 法 「性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律」（令和5年法律第68号） 第211回通常国会において、衆法として成立し、令和5年6月23日に公布されました。 ニュース等で見聞きする内容ですが、こうした日常的な法事象を、立法過程、立法政策、立法技術的に調査・分析ができるようになることが大切です。 ゼミの序盤では、立法に関する基礎的な内容を学び、その上で、グループごとに検討を進めることになります。 事前・事後の学習に、それぞれ2時間程度を要します。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>【電子】法律をスラスラ読むための6つの秘訣 令和6年度版</td><td>テラボ</td><td>齊家書房</td></tr> <tr> <td>2</td><td>【電子】プライマリー実習 立法学 令和6年度</td><td>テラボ</td><td>齊家書房</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	【電子】法律をスラスラ読むための6つの秘訣 令和6年度版	テラボ	齊家書房	2	【電子】プライマリー実習 立法学 令和6年度	テラボ	齊家書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	【電子】法律をスラスラ読むための6つの秘訣 令和6年度版	テラボ	齊家書房																
2	【電子】プライマリー実習 立法学 令和6年度	テラボ	齊家書房																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	主体的に参画する意欲・姿勢を重視します。 調べもの等への取組姿勢やグループにおける傾聴・発言内容（50%）、全体討議における傾聴・発言内容（20%）、テーマごとのレポート（30%）を総合的に評価します。 各自が主体的に参画するゼミであり、お互いの信頼関係を損ねることとなる、無断の欠席・遅刻に対しては、厳正に対処します。																		
学生へのメッセージ	専門演習Ⅰは、ゼミ生と教員との「学びの場」であるとともに、ゼミ生同士の「信頼関係の礎」で成り立っています。 むやみに私見にこだわらず、他者の意見・感想を傾聴し、立場が異なってもお互いに励まし応援する姿勢が求められます。 専門演習を、ムリ・ムダ・ムラのない良質な機会として育てましょう。																		
担当者の研究室等	11号館9階 寺山教授室																		
備考	授業中、追加的な調べもの、レポート作成の準備を行うことがあります。 各自、PC・スマートフォン等の電子機器を持ち込んでも差し支えありません。 授業前の下調べに2時間程度を、授業後の振り返り及びレポート作成の準備に2時間程度を要します。																		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	片岡 雅世
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	この授業では、個人または企業が国境を越えて活動する際に考えるべき法的問題を検討します。具体的には、「国際結婚がうまくいかなかったら?」「外国の通販サイトで買った商品が届かなかったら?」「外国製品を使用中にけがをしたら?」「外国で働くことになったら?」「外国人に訴えられたら?」などが挙げられますが、実際にどのようなテーマを扱うかは受講生と相談して決定します。本授業を通じて、国際私法および国際取引法に関する基礎的な知識を身につけてもらうほか、法学研究を進めるうえで必要となるさまざまなアカデミック・スキルを身につけてもらいます。																		
到達目標	(1) 国際私法および国際取引法に関する基礎知識を身につける。 (2) 現在および今後生じうる国際私法／国際取引法問題について、多角的な観点から理解することができる。 (3) 法に関する文章を読む力・理解する力・まとめる力、調査する力、報告する力、議論する力を身につける。																		
授業方法と留意点	グループ活動を中心に、さまざまな資料（例：新聞記事、テキスト、論文、判決文など）を用いて報告してもらい、みんなで意見を出し合ったり、まとめてもらったりする予定です。必要に応じて、教員からレクチャー（講義）をすることもあります。最終的に、個人での発表およびレポート作成をしてもらいます。なお、受講に当たっては、事前に配布する資料や六法を忘れずに持参してください。また、授業時に発表準備等を行ってもらうことがあるので、できるだけ各自の PC を持参するようにしてください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	第 1 回：ガイダンス（授業の方針・進め方・内容等の相談・決定） 第 2 回～第 4 回：アカデミック・スキルの確認 第 5 回～第 9 回：グループワーク（テーマ研究） 第 10 回～第 11 回：ロールプレイング 第 12 回～第 14 回：個別発表 第 15 回：総括 毎回、授業で適宜紹介する資料等に目を通し、必要に応じてデータベース等を用いて発表等の準備を十分に行ってから受講すること（各回約 3 時間が目安）。授業終了後は、出された質問等に対する回答を準備するとともに、改めて配布資料等に目を通して授業内容について理解を深めること（各回約 1 時間が目安）。																		
関連科目	国際私法、国際家族法、国際財産法、国際取引法のほか、民事法分野・商事法分野・社会法分野における各科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>リーガル・リサーチ&レポート〔第 2 版〕</td><td>田高寛貴ほか</td><td>有斐閣</td></tr> <tr> <td>2</td><td>国際関係私法入門〔第 4 版補訂〕</td><td>松岡博編</td><td>有斐閣</td></tr> <tr> <td>3</td><td>国際私法判例百選〔第 3 版〕</td><td>道垣内正人ほか編</td><td>有斐閣</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	リーガル・リサーチ&レポート〔第 2 版〕	田高寛貴ほか	有斐閣	2	国際関係私法入門〔第 4 版補訂〕	松岡博編	有斐閣	3	国際私法判例百選〔第 3 版〕	道垣内正人ほか編	有斐閣
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	リーガル・リサーチ&レポート〔第 2 版〕	田高寛貴ほか	有斐閣																
2	国際関係私法入門〔第 4 版補訂〕	松岡博編	有斐閣																
3	国際私法判例百選〔第 3 版〕	道垣内正人ほか編	有斐閣																
評価方法（基準）	課題・レポート（50%）および議論への積極的な参加態度（50%）を総合的に評価します。																		
学生へのメッセージ	法律だけでなく、さまざまなことに興味・関心を持ち、ゼミ内での議論に参加することはもちろん、その他ゼミ運営に対しても積極的な参加・協力を望みます。また、無断欠席および無断遅刻はしないようにしてください。																		
担当者の研究室等																			
備考	第 1 回目の講義で授業の進め方や成績評価の方法などについて詳しい説明を行うので、受講を考えている人は可能な限り出席してください。																		

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	SeminarⅠ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	團野 正浩
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎、DP3◎、DP4◎、DP5◎、DP6◎、DP7◎、DP8◎、DP9◎、DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	税は社会や経済に様々な形で影響しています。租税法を学ぶことで、社会のしくみを深く理解することができます。 この専門演習Ⅰでは、租税法の理解を深めるとともに、租税法研究の中心である裁判例を研究するために必要な知識を習得することを目的とします。 租税法にかかる裁判例の読み方や分析方法を学んだ上で、主要な裁判例について検討します。 ここで学習した知識やノウハウは専門演習Ⅱでも使い、さらに発展させて卒業研究（卒業論文作成）につなげていきます。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、次の目標を達成することが期待されます。 ① 租税法に関する裁判例を読んで、その内容を把握することができる。 ② 裁判例で示された法令解釈や事実認定の方法について、関係する資料を参照した上で、その意義や問題点を論じることができる。 ③ 裁判例の分析を通じて気づいた点をレジュメや文章にまとめて、他者に平易な表現で説明することができる。																		
授業方法と留意点	示されたテーマについて、報告者が事前に調査等を行った上で発表を行い、その内容について全員で検討を行います。 また、担当教員が必要に応じて、発展的な課題に取り組むように促す場合もあります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1 ゼミのテーマ このゼミのテーマは「税を通じて社会や経済を学ぶ」ことです。裁判例の読み方や分析方法を学んだ上で、税に関わる裁判例を分析・検討します。 2 授業内容 イ プレゼンテーションやディスカッション 授業全体を通じて、プレゼンテーションやディスカッションの機会を多く設けます。 ロ 事前学習（約2時間） 報告予定者は、教員が事前に指定した課題に対して関連する裁判例を読んで、レジュメをまとめます。 報告者予定者以外の人には、教科書の関連部分を読んで、疑問点などを整理しておきます。 ハ 授業当日 報告者によるプレゼンテーションを聞いた上で、テーマに関する質疑応答やディスカッションなどを行います。 ニ 事後学習（約2時間） 今後の学習につなげるために、授業内容についてノートの整理をしておく。																		
関連科目	憲法、民法、商法、行政法など																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>租税判例百選</td><td>中里実他</td><td>有斐閣</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	租税判例百選	中里実他	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	租税判例百選	中里実他	有斐閣																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>租税法判例六法</td><td>中里実他</td><td>有斐閣</td></tr> <tr> <td>2</td><td>図解 租税法ノート</td><td>八ツ尾順一</td><td>清文社</td></tr> <tr> <td>3</td><td>租税法</td><td>金子宏</td><td>弘文堂</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	租税法判例六法	中里実他	有斐閣	2	図解 租税法ノート	八ツ尾順一	清文社	3	租税法	金子宏	弘文堂
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	租税法判例六法	中里実他	有斐閣																
2	図解 租税法ノート	八ツ尾順一	清文社																
3	租税法	金子宏	弘文堂																
評価方法（基準）	授業への参加態度（60％）、報告の内容（40％）の割合で、取組姿勢、理解力、分析力、プレゼンテーション力、ディスカッション力を評価します。																		
学生へのメッセージ	租税法は社会人となってからも役に立つ実学の代表格です。裁判例の研究を通じて税の実務にも触れることで、社会で活躍している人たちと問題意識を共有することができるなど皆さんにとってもメリットが大きいと思います。																		
担当者の研究室等	11号館10階 團野研究室																		
備考	専門演習Ⅰは、自分の専門分野として、最終的に卒業論文にまでつながっていく授業です。授業の予習復習を確実に行うようお願いします。																		

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	SeminarⅡ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	河原 匡見
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	専門演習Ⅱでは、国の内外の社会において現実には生じている動きをきちんと把握し分析し、それをより深く理解できるようにトレーニングを進めていきます。特に、本演習では、社会における「紛争」や「論争」などを題材としていきたいと思います。また、学問に直接関係することだけでなく、広く学生生活全般に関すること、あるいは一般社会の問題についても議論し合っていければと思います。		
到達目標	この演習を通じて学生には、個人あるいはグループで、特に関心のある問題について、資料を収集し分析するなどの検討を行い、それを他人の前で口頭で発表できるようになることと、その検討内容を決められた形式・分量に則してレポート化して、期限までにまとめあげることができるようになることが期待される。		
授業方法と留意点	「対面式」で実施します。学生による課題報告（プレゼンテーション）およびそれに対するディスカッションを対面式で行います。毎回欠かさず出席することが求められます。具体的には、課題を出して、それに対してレポートの提出によって報告してもらうというスタイルが基本です。課題については、すでに募集要項の中で示した当ゼミの趣旨に沿った内容になります。各自で、学習・調査し、それをレポートで報告してもらいます。なお、授業時間以外での活動は特に予定していませんが、報告（レポート作成）のための時間は各自必要となります。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	専門演習Ⅱでは、国の内外の社会におけるさまざまな政治的社会的諸現象が実際にどのように発生し、どのような状態にあるのか、きちんと把握するとともに、より深く理解していく上での分析能力の養成を目指していきます。特に、前期は国際社会や国内社会のさまざまな局面やレベルにおける「紛争」や「対立」あるいは「論争」を題材としていきたいと思います。前期の前半は主に、世界各地の「紛争」についての理解を深めることに重点をおきます。前期の後半は、日々動きの激しい国内外の諸問題を題材とし、それを把握するトレーニングに重点をおきたいと思います。後期は、夏季休暇中に各自で作成した課題レポートを個別発表して、それに関するディスカッションを行っていき、各問題に対する理解と考察を深めていきます。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	学習への参加姿勢に対する評価（５０％）および課題レポートの内容に対する評価（５０％）の合計により評価します。		
学生へのメッセージ	専門演習Ⅱは、２年後期の専門演習Ⅰで培った情報の基礎分析力がベースとなる演習活動です。そしてそれは、みなさんが、生来の資質を伸ばしたり、未知の可能性を見出したりするための、いわば知的な『共同訓練の場』です。ですから、演習に対しては、しっかりとした勉学の目的と意志をもって参加するようにしてください。演習によってどのような知識や思考方法が身に付くか、どのような新たな才能や可能性を見い出せるか、それは、演習に対する積極さ如何に大きく関わってきます。		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 河原教授室		
備考	事前・事後学習は、各授業時間ごとに１時間程度行ってください。但し、発表前の場合は、発表の準備に必要な時間をさらに上乘せすることが必要となります。		

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田中 敦
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	・専門演習Ⅰで学んだことを踏まえ、不法行為、契約、担保物権、民事執行等の民事法を中心とする判例を学習することによって、民事法等についての知識を確実なものとする。実社会において必要な知識を深めるだけでなく、発表準備等を通じ、宅建、司法書士等の資格取得に対応する法的基礎も得るようにする。 ・学生は、本演習を通じて自らが研究の対象としたいテーマを見つけていくことになる。 ・教員は、学生のテーマ探しや発表の準備に関しては、適宜助言を行っていきたい。		
到達目標	この授業を通じて学生には、自らが選んだ民事法に関する特定の課題や裁判例について必要な調査を行い、これをまとめてレジュメ等を作成し、これを教員や学生の前で発表できるようになること、実社会でも役に立つ一定の法的知識及び法的なものの考え方を身に付けること及び、民事法の分野では宅建試験に合格できる程度の水準に達するようになることが期待される。		
授業方法と留意点	・裁判例や文献を調査・検討して、その中で判例を中心に、各自が関心を有する題材・課題を探し出し、レポートの作成と授業での発表等を通じて、卒業研究に繋がる準備を進めていく。前期・後期においてそれぞれ最低1回は報告を担当してもらうことを考えている。前期は2名1組ないし1名で、後期は1名で報告をしてもらう。学生は、このゼミを通じて、将来卒業研究において研究対象としたいと考えるテーマを見つけていくことになる。 ・教員は、学生のテーマ探し及び発表の準備に当たり、適宜助言を行っていきたい。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・発表者は、基礎的文獻、判例百選等から選んだ題材について、レジュメ等を作成し、事前に配布の上、授業において発表を行う。事前学習では、発表者に限らず各自が題材、レジュメについて事前の検討を行い、当日は、発表者の発表や教員からの指摘を契機に、さらに討論を重ねていく。こうした学習によって、ゼミ生全員が法的な思考に磨きをかけていくことを目指す。 ・この演習では、各授業につき各2時間の事前及び事後の学習が求められる。事前学習は、発表者から事前に提出されたレジュメ等を検討し、疑問点等を見つけておくこと、事後学習は、当日の授業の復習とともに、授業で教員から指摘された事項などについても検討すること。 ・授業には、上記資料等や六法（ポケット六法等、最新の令和6年版を推奨する）を必ず持参すること。		
関連科目	民事法全般		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	授業における態度（きちんとレジュメを提出して発表したか、遅刻せずきちんと出席しているか、議論に積極的に参加しているか、事前事後の学習をして授業に対応できているか。60％）及び、Teams 上での小テストや課題（40％）で評価する。欠席・遅刻が多かったり、授業態度が良好でない場合には、別途レポートを課することがある。		
学生へのメッセージ	これから専門演習が本格化します。授業内容を踏まえ、自分が関心を有するテーマ、ゼミ内で議論をしたいと思うテーマ、そして、自分が研究するテーマを探してください。そのための助言もいたします。専門演習Ⅰを通じ、ゼミ生同士の交流も深まったことと思います。引き続き、ゼミ内での親睦を図っていきましょう。		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 田中教授室		
備考	学生の理解度、授業の進行いかんによっては、授業の方法、内容を変更することがある。		

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	SeminarⅡ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	卒業研究につながる演習の第二段階である。地域活動に参加して、現場を観察する。関係者の方に聞き取り調査をする。自分たちの行っている活動を学外の方に説明する。読書で知識を得て、それをまとめる。この4つの力をバランスよく養っていきたい。		
到達目標	この演習を通じて学生には、①地域活動に参加して、協力して行動し、観察・聴き取り記録をとれるようになること、②活動の内容・目標・課題を説明できるようになること、③読書を通じて知識を整理できるようになることが期待される。		
授業方法と留意点	地域活動に参加しての参与観察、聞き取り調査（ともにフィールドワーク）、学外の方への活動報告（プレゼンテーション）、仲間との活動の企画と振り返り（ディスカッション）が特徴の演習である。さまざまな立場、価値観の人たちとの交流を楽しんでほしい。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	演習で扱う分野は、地域防犯、自治会の地域活動、小学校と地域との関係、地域での児童福祉・青少年健全育成の4つである。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	演習時限の全出席を前提とする。活動記録(30%)、企画・振り返りへの貢献度(40%)、読書ノート(30%)の合計によって評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	11号館9階 中沼教授室		
備考	記録簿への記入、ノート整理などで各回1～2時間ほどが必要になる。定期的に記録簿とノートの提出を求め、点検する。個人面談をして、地域活動参加の意志確認をし、参加の感想や今後の希望も聴く。それに対して助言を行う。		

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	SeminarⅡ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	浮田 徹
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	卒業研究につながる法学部の演習科目を行っていくにあたっての基礎的な力を身につけることを目的とします。		
到達目標	この講義を通じて学生には、問題発見・レジュメ作成・報告に関する基礎的な力を身につけられるようになることが期待されます。		
授業方法と留意点	個々人の力にある程度の差があることを前提としつつすべてのメンバーが基礎力を身につけていく経験を積んでいける機会を得られるようにするため、原則として出席して積極的に参加することが必要です。 報告はグループで行いますので、グループワークが基本となります。報告ではプレゼンテーション能力を培います。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマを決めていく段階から自主性を重んじますので開講後決定します。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	参加を前提として、報告に対する取り組みと現場でのプレゼンテーション（60%）、ふり返りのペーパー（40%）で評価します		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	11 号館 9 階 浮田准教授室		
備考	事前学習としては、報告者は事前の準備（4 時間程度）、それ以外は報告者から提示される文献を読む（30 分）、事後学習としては当日の報告に関する課題を課すのでその作成を行います(60 分)。		

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	SeminarⅡ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	スポーツ活動を多面的な学問領域（主に、法学・政治学・法政策学）から検討し、知見の獲得を図る。卒業研究題目の決定と、必要な資料・文献の収集および予備調査への導入を図る。		
到達目標	この授業を通じて学生には、次年に作成する卒業研究の題目決定と、作成を遂行するための基本的な能力を養うことが期待される。		
授業方法と留意点	専門演習Ⅰの授業において行った報告を更に掘り下げるとともに、卒業研究における各自のテーマを決定する。また、論文作成に必要な資料・文献の収集を行うとともに、必要であれば予備調査を実施する。各自が能動的に取り組むことが必要となります。授業中に提示した課題を解決するため、および事前・事後の学習のために ICT ツールを活用していただく場合もあります。対面による授業を原則とします。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	授業テーマ：スポーツ活動を多面的な学問領域（主に、法学・政治学・法政策学）から検討し、知見の獲得を図る。 授業内容：専門演習Ⅰの授業で行った報告を更に掘り下げるとともに、卒業研究における各自のテーマを決定する。また、論文作成に必要な資料・文献の収集を行うとともに、必要であれば予備調査を実施する。 事前事後学習課題：授業中に指示した課題の実行		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	各回の取り組み（30%）、与えられた課題の完成度（70%）をもとに評価する。		
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んで下さい。		
担当者の研究室等	11号館10階 石井教授室		
備考	各回に1時間程度、すなわち通年で30時間程度を目安に、事前・事後の学習を行ってください。		

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	SeminarⅡ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	島田 良一
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	刑事法（刑法・刑事訴訟法・刑事政策・少年法）をめぐる諸問題について、受講者の報告をもとに全体で討議する。		
到達目標	この演習を通じて学生には、刑事法に関する十分な知識を修得することが期待される。		
授業方法と留意点	主に、グループワークの形でプレゼンテーションやディベートなどを行う。 なお、遅刻・無断欠席は厳禁とする。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	専門文献、資料、判例、報道記事などを素材に刑事手続に関する基礎的な知識を習得するとともに、毎回、報告者を設定し、その報告テーマについて議論を行う（対面方式・オンライン方式）。 事前の学習課題としては、議論の準備など（資料の読み込み、レジュメの作成など）。 事後の学習課題としては、議論において教員や他のゼミ生に指摘された点の確認など。 事前、事後学習ともに1～2時間／日を要する。		
関連科目	刑事法に関連するすべての科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	全体討議・報告等における発言・態度等（100％）		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等備考	11号館9階 島田准教授室		

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	SeminarⅡ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	家本 真実
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎、DP3◎、DP4◎、DP5◎、DP6◎、DP7◎、DP8◎、DP9◎、DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	法は、社会における最低限のルール・道徳であるといわれます。この演習では、現在、社会で起きている問題や議論されている事柄を通して、現行の法律がどのようなものであるか、そしてどうあるべきかを考えることによって、法に対する知識をより広い視野をもって深めていく機会にしていきたいと思います。 前期は、報告者グループがおこなう何らかの法的・政治的問題や課題についての報告を基に、皆で議論していただきます。単に個人的な考え方や意見を述べるだけでなく、根拠を示しながら、どのように問題を捉えるべきなのかを議論する力をつけていきたいと思います。後期においては、前期で培った議論・説得する力を存分に発揮しつつ、法を実践的に学ぶために、模擬裁判をおこなっていただく予定です。																		
到達目標	このゼミを通じて、学生の皆さんには、議論や模擬裁判を通して、他人の考えを理解し、問題がある場合にはどのような解決を見出すことができるかを考えることができるようになることが期待されます。																		
授業方法と留意点	前期はおもに、2-3 人を 1 グループとする報告者に議論の基礎となる報告をしていただいたうえで、皆さんで議論していただくというかたちをとります。報告者は、報告前に集まって、共同でレジュメを作成し、報告や議論の進行について考えてください。そのうえで、報告の数日前までにその概要を担当教員に知らせてください。報告者以外の方々には、積極的に議論に参加されることを望みます。こうして議論をおこなうことによって、違う意見を持つ人々をどう説得するか、またどう折り合いをつけるのかを学ぶことにもなるでしょう。 後期は、模擬裁判																		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	前期は、グループでの報告と、それを基にした議論をおこなっていただきたいと思います。1 人につき、2-3 回、報告をする機会があると思いますが、そのうち少なくとも 1 度は、民事事件の判例を報告のテーマとしていただき、当事者双方の主張、そしてそれらに対する裁判所の判断について検討・議論していただきたいと思います。2 度目以降の報告については、民事事件に限らず、法律や政治に関連のある事柄について報告していただくというふうにしていきたいと思います。 後期は 4 年生とともに、模擬裁判をおこなっていただきます。刑事裁判手続きや裁判員制度に関して学んだうえで、模擬裁判で題材とする事案の検討をおこない、検察チームや弁護チームの弁論や尋問を作成するという作業と模擬裁判の実施が、後期のゼミの大半を占めることになります。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	ゼミでの報告における準備や司会進行の様子、議論への参加の姿勢（80%）、課題・提出物（20%）を評価の対象とします。																		
学生へのメッセージ	ともに議論をし、模擬裁判をおこなうことによって、お互いの考え方を知り、理解しあうことにつながると思います。こうした活動を通じて、学生間で交流を深めてもらえれば、と考えています。また、皆さんからゼミの内容についての提案があれば、できる限り取り入れていきたいと考えています。																		
担当者の研究室等	11 号館 9 階 家本准教授室																		
備考	事前・事後学習の総時間数の目安：120 時間																		

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	SeminarⅡ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	城内 明
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	本演習では、受講生の法的問題解決能力の向上を目的として、今、社会で問題となっている、民法・消費者法にかかわる判例の検討を行います。夏には日本大学・神戸学院大学・摂南大学の3大学4ゼミで行うインカレ法律討論会、12月には神戸学院大学で開催される法律討論会にも参加します。		
到達目標	この授業を通じて学生には、民法の基本的知識の理解を確実にすることを期待します。		
授業方法と留意点	前期前半は、まず、民法・消費者法の重要判例を採り上げ、判例研究を行います。前期後半からは、インカレ法律討論会の準備を行います。後期前半は、2回目の判例研究を行います。後記後半からは、神戸学院大学法学部主催の法律討論会に向けて準備を行います。本演習は民法の基礎知識を前提とします。民法科目は履修しておいてください。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	判例研究は、3～4名で一判決を担当し、180分をかけて報告します。180分を有意義に活用できるよう、十分な準備をして臨んで下さい(8時間程度)。法律討論会の準備作業は学生の自主性に委ねられます。最低限、期日までに立論原稿を書き上げ、質疑応答の準備を終える責任を、ゼミ員全員が負っていることを自覚し、課題に自主的に取り組んでください。		
関連科目	民法科目全般		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
			出版社名
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
			出版社名
評価方法（基準）	授業時の態度(50%)、討論会に臨む姿勢(50%)を総合評価します(100%)。		
学生へのメッセージ	ゼミは皆で作るものです。徹底的に学び、議論し、思いっきり遊んで、良いゼミをつくっていきましょう。		
担当者の研究室等	11号館10階 城内教授室		
備考	自分がチームの一員であることを自覚し、責任をもって行動するようにして下さい。		

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	SeminarⅡ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎、DP3◎、DP4◎、DP5◎、DP6◎、DP7◎、DP8◎、DP9◎、DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	・指導方針 1 この専門演習Ⅱは、2年次後期の「専門演習Ⅰ」にひきつづき、4年次の「卒業研究」にかかる導入教育として位置づけられています。 2 そこで、本演習では1年次において刑事法概論の講義で習得した基本事項のうち、参加者各自が興味や関心を抱いた個別テーマに関する裁判例（判例）や学説を調べて報告してもらいます。 3 もっとも、こうした報告作業は、少なくとも法学系の論述問題でまともな答案を書くことができない人にはなかなか難しいのも事実です。そのため、この演習では、発表の前提ともいえる、刑事法に関する論述問題の答案作成方法も学習します。 4 また、発表に際し、どのようにして判例や文献を調べればよいのかというリーガル・リサーチの手法も本格的に学習する予定です。図書館や法学データベースの使用方法も適宜指導します。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、 「・刑法の論点を抽出できる ・論点に対する判例や裁判例を調査できる ・論点に対する学説を調査できる ・論点に対して私見を展開できる」 ようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	・演習（ゼミ）形式（反転授業）で行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答を行う。 ・法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。 ・刑法の論点に関して個別にプレゼンテーションを行った上で、参加者全員でディベートを行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・ゼミ内容 この演習では、刑法（罪刑法定主義、刑法総論〈全犯罪共通の成立要件の検討〉、刑法各論〈各種個別犯罪〔殺人・強盗・放火等〕の成立要件論〉）、および、刑事学・犯罪学（犯罪原因論、受刑者と出所者の処遇問題、死刑を含めた刑罰の有効性と正当性、犯罪被害者救済策）を主な検討対象とします。 ・授業内容 刑事法に関する事例問題（論述式）の答案作成方法 刑事法領域の裁判例や学説の研究調査方法（リーガル・リサーチ） 個別テーマの報告																		
関連科目	刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策																		
教科書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>※開講時に指示する</td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	※開講時に指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	※開講時に指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>刑法の争点（第3版）</td><td>西田＝山口＝佐伯</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>2</td><td>判例プラクティス刑法Ⅰ（第2版）</td><td>成瀬＝安田</td><td>信山社</td></tr><tr><td>3</td><td>判例プラクティス刑法Ⅱ</td><td>成瀬＝安田</td><td>信山社</td></tr></table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	刑法の争点（第3版）	西田＝山口＝佐伯	有斐閣	2	判例プラクティス刑法Ⅰ（第2版）	成瀬＝安田	信山社	3	判例プラクティス刑法Ⅱ	成瀬＝安田	信山社
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	刑法の争点（第3版）	西田＝山口＝佐伯	有斐閣																
2	判例プラクティス刑法Ⅰ（第2版）	成瀬＝安田	信山社																
3	判例プラクティス刑法Ⅱ	成瀬＝安田	信山社																
評価方法（基準）	評価方法 プレゼンテーション（50％）とディベートへの参加度（50％）によって評価する。 以下の点をとくに重視します。 ①発表時に問題提起を適切にしているか（発表姿勢）。 ②提起した問題に関連する判例や先行研究（学説）を十分に、かつ、主体的に調査しているか（主体的学習）。 ③異説に配慮しつつ、自らの考察を適切かつ説得力をもって展開できているか（論理性）。																		
学生へのメッセージ	日常の犯罪報道などに興味のある学生はふるってご参加ください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 小野教授室																		
備考	事前学習として、演習テーマの予習に毎回2時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、演習テーマの内容についてノートにまとめるなど、毎回2時間以上の復習に取り組むこと。																		

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	萩原 佐織
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	当該民事法ゼミでは、例えば民法等の実体法に基づき発生する権利につき紛争が生じ、裁判所等で解決されるべき場合に、その方法や当事者が従うべきルール等につき、具体的な事案や判例をもとに追求することを最終目標としています。それゆえ、既に民法が良く理解できている方は、民法で学んだことを裁判という場にシフトさせ、より深く発展的に学び、他方、民法をまだ良く理解できていないという方は、裁判という角度から、もう一度民法を見つめ直す機会に利用して下さい。皆さんのご希望があれば民法・民事訴訟法以外に、民事執行・保全法や倒産法を研究対象とすることも可能です。																		
到達目標	この授業を通じて学生には、前期は、2 年次より更に内容的に専門的かつ興味深い研究テーマを探索するための手法や思考方法を身に付けるため、2 年次とは異なり個人発表を中心とする。また、研究テーマに関するディスカッションをより活発化させ、他人と議論することで自分の研究テーマをより掘り下げて考えることができるようし、かつ、自分の意見を、自分とは意見の異なる相手にも論理的に説明するスキルを磨くようになることが期待される。 この授業を通じて学生には、後期は、個人の判例研究発表の傍ら、卒業研究で取り組みたいと思う																		
授業方法と留意点	【授業内容】 3 年次は、2 年次とは異なり、基本的には個人発表と質疑応答が中心となり、内容もより深いものとなります。発表では、自分が特に興味を有するテーマを取り上げることから、回を重ねるごとにその分野における知識が集積され、卒業研究で取り扱いたいと思う課題・問題意識に繋がることと思います。レポート課題等の提出及び各演習の事前・事後学習等に Teams を利用するので、演習前後に必ずチェックするようにしてください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業は、民事事件に関する判例等の研究発表を中心として行う。学期初めに、各グループの発表日時を決めるので、各グループは、構成員同士で話し合って発表テーマを決定し、発表に備え、事前に準備すること。事前準備においては、研究対象となる判例や論文等の資料を探し読み込むこと（インプット）はもちろん、どのように発表すれば他人により分かり易く伝えることができるのか、その発表内容や方法（アウトプット）についても熟慮すること。 発表形式は、次の 2 つの方法のいずれかのうち、そのテーマに適したものをを用いて行う： 1. 資料作成技能重視型： 発表時には、研究内容を、板書やパワーポイント等を用いて説明するとともに、配布資料を配布すること。配布資料は、①研究対象となる事案・争点・判例や学説の流れ・解説等を記載したもの、②研究対象となる事案の判決（判旨・判決理由）を記載したもの、の 2 点を別個に用意する。まず、発表者が、配布資料①に基づき、事案・争点等の説明を行った後、ゼミ全体でディスカッションし、その後、配布資料②を用いて、当該事案の判決につき、再度論議を行う。 2. コミュニケーション技能重視型： 3 人でグループを組み、各自原告・被告・裁判官役の立場に立ち、主に判決全文を用いて、それぞれの主張を述べ合い、裁判を体現する。当事者役は各審級の判決全文から自己の主張を練り、裁判官役は両当事者の見解を聞いたうえで、判決文や判例解説等を基に、それらに対する事実認定や法的見解を述べる。1 審から、上訴を含め、確定判決まで、裁判の一連の流れを再現する。ただし、その結論については、必ずしも使用した素材と同一になる必要はなく、各当事者役の主張内容や裁判官役の判断次第で、当人が妥当と考える結論が導き出されれば良い。 予習事項は、毎回その都度指定しますが、各自の発表に備えてパワーポイント資料を作成したり、設定テーマに関連する文献を調べて熟読しておくこと、発表準備を行うこと等が挙げられます。 また、復習事項は、ゼミ内で教員より個別に指導された内容、例えば、発表資料の修正、文献の追加検索・入手やその読み込みです。Teams 上で提出し返却された課題については、そこに示されたフィードバックの指示に従って復習を行って下さい。 事前・事後学習の時間は、それぞれ 2 時間を想定しています。ただし、発表前は、個人やグループの進捗状況により、ゼミ時間外に個別で又はグループで集まって準備をすることもあり得ます。その場合、事前学習時間は、通常より長くなる可能性があります。																		
関連科目	民事法全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	演習内におけるプレゼンテーション準備やディベート・ディスカッション等の平常点 (60%)、プレゼンテーションやレポート・課題 (40%) で評価します。ゼミへの参加意欲ならびにその体現、自身の研究発表への取り組み方ならびにその成果、そして他のゼミ生の発表における質疑応答等を、総合的に判断して評価する。欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。																		
学生へのメッセージ	3 年次の専門演習は、2 年半に及ぶゼミの中でも一番充実して学べる時期ですので、将来のために、この時間を有意義に活かしてください。また、普段の友達との輪とはまた少し違うゼミ仲間から得られるものも多いと思いますので、全員が声をかけ合えられるような和気あいあいとしたゼミになってくれればと思います。																		
担当者の研究室等	11 号館 9 階 萩原准教授室																		
備考	判例研究等のプレゼンテーションの際には、準備段階から、Word や Power Point の使い方、論文・判例等の各種文献検索や判例研究の仕方を含め、適時、演習内において指導する。 また、プレゼンテーション終了後は、その場でそのフィードバックを行い、次回のプレゼンテーションに還元できるように努める。																		

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	SeminarⅡ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	本演習では卒業までに、ゼミ生全員で少なくとも民法の制度については詳細に把握できることを目的としている。そのために、ゼミ生全員の協力の下で、どのような社会的問題が存在し、法律がどのような対応をしているのかを把握していく。社会状況を知ることにより、自分が社会においてどのような立場に立ち、またどのようなことをすべきかなど、多くの点を考える糸口を得られると考えている。																		
到達目標	この授業を通じて学生には、3年次には、2年次に引き続き、判例を各班で分担して全員の前で報告することを予定している。そのためには、班での役割分担、各自に割り当てられた課題への対応が必要となる。それらの課題の割り振り方、課題への対応の方法を身にくようになることが期待される。 具体的には、判例から問題点（論点）を班で確認および抽出できること、それを報告するために必要となる知識をいかに得るかということ、個人での資料収集等の仕方、ならびにそれを文章化してレジュメ等にまとめるための技術を得るようになることが期待され																		
授業方法と留意点	3年次では、①グループによる判例報告、②個人の判例報告を予定している。ただし、あくまで予定であり、話し合いなどで変更はありうる。また、他大学との法的問題に対する合宿討論会を行う予定である。この場において、他大学のゼミの前においてプレゼンテーションを行い、その内容についての議論を行い、場合により反論を行う技術が求められる。ゼミではこれらの内容を涵養するよう指導を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマは、教員の方で最新の判例等をいくつか提示し、学生により取捨選択をしてもらう予定である。グループ活動では、各班で意見をまとめ、それを全員の前で報告する必要がある。その為に、ゼミにおいても準備期間を設けるほか、ゼミ外の時間においても、各自で自ら準備期間等を設ける必要がある。 なお、判例の入手方法、レジュメの作成方法などについては、適宜指摘をしていく。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	成績は、学期末に教員が用紙を渡すので、各ゼミ生が自己採点を行う。採点を行うに当たり、その評価に見合う事実、経験、結果等を自己で示す必要がある。すなわち、自分で自分を客観的に評価する能力が必要とされる。その自己評価書を元に評価を行う。 評価項目は、ゼミへの取り組み（20%）、得られた知識（20%）、得られた経験（20%）、今後の課題（20%）、個人的PR（20%）をもとに判断を行う。																		
学生へのメッセージ	学生主体のゼミを目指している。 そのため、新ゼミ生自体（次の年度のゼミ生）の獲得もゼミ生自身で行い、そのためのガイダンス等において自ら本ゼミの説明を行う必要がある。それにより、縦の人間関係も形成され、就活などの情報も先輩から後輩へと伝えていくことができると考えている																		
担当者の研究室等	11号館9階 大川准教授室																		
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の3つから成り立っています。 予習内容としては、演習で与えられる課題を個人で準備を行う必要があります。その準備を90分を基準として行う必要があります。 復習として、課題に対し、中間報告及び最終報告の内容を正確に押さえる必要があります。その為に90分を基準として行う必要があります。 学生主体の演習を目指しています。各実施状況については各自の報告時及びメールで確認します。 演習での縦の人間関係も重視しております。コンパなどで、就活などの情報も先輩から後輩へと伝えていくこと																		

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	SeminarⅡ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	松島 裕一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	専門演習Ⅰに引き続き、この専門演習Ⅱでも法哲学・法思想史の専門的な事項を学習していきます。具体的には法哲学・法思想史の専門書ないしそれに類するものを全員で講読する予定です。また、ゼミで習得した知識を用いてディベートを実施するつもりです。																		
到達目標	このゼミを通じて学生には、次の2つのことが期待されます。第一に、法哲学・法思想史の専門知識を習得すること。第二に、報告を通じてレジュメやパワーポイントの作り方、ネットを利用した資料収集の方法、ディスカッションやディベートの仕方を身につけること。																		
授業方法と留意点	文献講読を基調にしつつ、必要に応じてニュースや判例を調べてもらい、それに基づいてみんなでディスカッションを行います。必要に応じて教員（松島）がゼミの内容を補足するために講義やDVD鑑賞を行います。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	事前の予習（課題図書の読解など）を前提にして、ゼミでは報告とディベートを行うつもりです。どの文献を取り上げるかは、皆さんの希望を取り入れて決定したいと思います。 まず事前の活動として、課題図書の該当箇所を読んできてもらいます。必要に応じて、レジュメなどの作成が必要となります（これらの事前学習に60分以上）。また、ゼミ終了後に学習した内容を振り返ってください（事後学習60分以上）。 さらに後期のゼミでは次年度の卒業研究を見据え、自分の興味をもったテーマにかんして文献調査を行ってもらいます（あるいは、全体で共通のテーマを決めて、卒論執筆の準備作業に取り組んでもらうかもしれません）。																		
関連科目	法哲学総論、法哲学各論、西洋法思想史、日本法思想史																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	毎回の出席を前提として、課題への取り組みやゼミ中での発言（ディスカッション・ディベートなど）を総合的に判断して成績評価を行います（100%）。なお、無断欠席・遅刻が度重なる場合は単位取得を認めないので、十分に注意してください。																		
学生へのメッセージ	専門演習は学習の場であるとともに、教員と学生および学生相互の交流の場であるとも思っています。学生の希望があれば、さまざまなゼミの行事（コンパや合宿など）も実施する予定ですので、積極的に参加してほしいと思います。																		
担当者の研究室等	11 号館 9 階 松島准教授室																		
備考	課題図書は未定ですが、何かしら購入してもらうことになるので、そのつもりでゼミに臨んでください。																		

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	SeminarⅡ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	増田 知也
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	3つのグループに分かれて、文献講読とグループワークを隔週で行います。 ファシリテーション班：ファシリテーション技法を学びつつ、グループワークのファシリテーターとして活動する 政策提言班：政策立案の方法を学びつつ、政策立案コンテストにチャレンジする 広報班：広報理論を学びつつ、ゼミの情報発信を担う																		
到達目標	この演習を通じて学生には、地域における問題の本質をつかみ、不特定多数の読み手に興味を持ってもらえるような形で表現することができるようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	文献講読とグループワークを隔週で交互に行います。基本はグループごとに進行し、各回の最後に進捗報告、最終回の授業で成果発表を行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. 文献講読 文献の内容を分担してまとめ、発表し、議論を行う。 2. ファシリテーション班の活動 他の2つのグループの活動を支援し、活発な議論を促す。 3. 政策提言班の活動 政策立案コンテストでの受賞を目指し、質の高い政策提言を行う。 4. 広報班の活動 ゼミの活動を学内外に発信し、多様な人々とのコミュニケーションを促進する。 事前・事後学習課題 グループで選んだテーマについての情報収集（4時間）																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	グループワークへの貢献 60％、プレゼンテーション 40％																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館10階 増田講師室																		
備考																			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	SeminarⅡ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	卒業研究に備えるべく、政治問題に関する文献の読解能力や論理的思考力・判断力・表現力の基礎を身につけることが目的です。学生の皆さん一人一人が、自分が興味を持っている政治問題について主体的に考え、議論し、問題解決への糸口をつかめるような主体的・対話的で深いアクティブ・ラーニングの場を提供します。 また卒業論文の書き方や資料収集の仕方についても授業します。																		
到達目標	この授業を通じて学生は、政治問題に関する書物・新聞記事・評論などを読んで基本的な政治的知識・技能を獲得するとともに、その要点やメリット・デメリットをまとめ、望ましい解決策について他者と討議し、他者に対してそれを明確に発表するという論理的思考力・判断力・表現力を育成することが期待されます。 またグループディスカッション・プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通じて主体的・対話的で深い学びを行うなかで、学習や仕事に対する意欲や積極的な人間性を育み、社会において良好で協調性のある人間関係を構築する仕																		
授業方法と留意点	ABD（Active Book Dialogue，アクティブ・ブック・ダイアログ）というアクティブ・ラーニングの方法を用いて、政治問題に関する文献の読解・グループディスカッション・プレゼンテーションを毎回全員が行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・授業テーマ・内容 政治問題に関する文献の読解や議論、発表を通じて、その問題の内容を正確に理解し、他者と討議して望ましい解決策を判断し、他者にわかるようにその内容・解決策を発表することによって、基本的な日本語読解能力と論理的思考力・判断力・表現力を修得することができます。卒業論文が作成できるように学問的基礎を固め、自分が関心のある政治問題の領域を定めることができますようにします。 ・授業方法 ①前半 学生の皆さんの興味・関心・卒業論文のテーマを考慮しながら、政治問題についての文献をその場で毎回輪読・議論・発表する ABD（Active Book Dialogue，アクティブ・ブック・ダイアログ）というアクティブ・ラーニングの方法を用います。短い時間で日本語の文章を読み、その要点を的確に理解することは、就職試験や公務員試験の「文章読解」で求められる能力でもあり、社会人になった後のマニュアル・資料の読解にも必ず必要な能力です。またグループディスカッションやプレゼンテーションは、仕事で問題が発生したときにその原因を的確に把握し、他者と望ましい解決策を討議し、最善と判断した改善策を他者に論理的に説得するためにも必要な能力です。 ②後半 自分の卒業論文のテーマを定め、その目次・内容・結論について全員が発表し、それを吟味・討議する時間を取ることにします。自主的な参考文献の読解や資料・データの収集が求められます。 ・事前、事後学習課題 事前学習...その場で政治問題に関する文献を読んでもらうので、必要ありません。 事後学習...文献全体をもう一度読み直し、内容を理解しておくこと（60 分～90 分程度）。																		
関連科目	専門演習Ⅰ、卒業研究																		
教科書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業でのグループディスカッション（50％）とプレゼンテーション（50％）で評価します。																		
学生へのメッセージ	就職活動が始まると卒業論文の作成に時間を取ることができなくなってしまうです。この時期に卒業論文のテーマを明確に定め、参考文献の読解や資料・データの収集を自主的に行うようにしてください。																		
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館 10 階 和田研究室																		
備考	グループディスカッションでは教員も適宜参加し、助言を与えます。プレゼンテーションではその内容について全員に助言と短評を与えます。また学生の皆さんの卒業論文のテーマについては教員も極力調査し、その参考文献を読破し、助言を与えます。																		

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	SeminarⅡ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	萩原 守
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	この授業は、翌年度に提出される予定の卒業論文のテーマを幅広く探っていくための演習である。そのため、参加学生各自が、自分の問題関心に応じて、論文・書籍・判例・ウェブページ等を読んできて、全員の前で口頭発表を行う。テーマが決められない学生がおれば、参考用に教員が提示したアジアや日本の法制史等に関する日本語の概説書の中から自分で選んで読み、それを要約・発表するという形で学んでもらう。授業の目的は、法学の学習範囲を特定の狭いテーマのみに限定して考えることなく、より幅広い知識や問題関心を養うことである。その上で卒業論文のテーマを獲得することが最終的な目的である。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、法学を幅広く理解できるようになることが期待される。すなわち、社会と法との関わり等について、より幅広い問題関心を持てるようになることが求められる。そしてその結果、卒業論文のテーマを獲得することが到達目標となる。																		
授業方法と留意点	最初の数回を除いて、演習形式で授業を進める。参加者各自が論文・書籍・判例・ウェブページ等を選んで読解・要約・発表し、全員で議論を行う。各自の担当回数は臨機応変でいきたい。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	法学に関する問題関心の絞り込み。各自の問題関心に応じて、交代で論文・書籍・判例・ウェブページ等を読解・要約し、全員の前で口頭発表する。そして全員で質疑応答を繰り返す過程で、各自の卒業論文のテーマを少しずつ絞り込んでいく。そのために、発表準備と発表後の再調査を繰り返す必要がある。																		
関連科目	日本法制史、東洋法制史、法と社会、比較法史																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td>中国環境ハンドブック 2005-2006 年版</td><td>中国環境問題研究会</td><td>蒼々社</td></tr> <tr> <td>2</td><td>台湾女性史入門</td><td>台湾女性史入門編纂委員会</td><td>人文書院</td></tr> <tr> <td>3</td><td>体感するモンゴル現代史</td><td>萩原守</td><td>南船北馬舎</td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中国環境ハンドブック 2005-2006 年版	中国環境問題研究会	蒼々社	2	台湾女性史入門	台湾女性史入門編纂委員会	人文書院	3	体感するモンゴル現代史	萩原守	南船北馬舎
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	中国環境ハンドブック 2005-2006 年版	中国環境問題研究会	蒼々社																
2	台湾女性史入門	台湾女性史入門編纂委員会	人文書院																
3	体感するモンゴル現代史	萩原守	南船北馬舎																
評価方法（基準）	口頭発表と質疑応答への参加度等から総合的に判断するが、演習科目なので、当然出席がその全ての前提条件となる。																		
学生へのメッセージ	あまり難しく考えすぎることなく、幅広く法と社会の理解にチャレンジしてほしい。																		
担当者の研究室等	11 号館の 10 階にある萩原研究室																		
備考																			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	SeminarⅡ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	本多 康作
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	・指導方針 1、この専門演習Ⅱは、4年次の「卒業研究」にかかる導入教育として位置づけられています。 2、そこで、本演習では「独占禁止法」、「保険法」、「会社法」の講義で習得した基本事項、あるいは「法学一般（特に基礎法学）」の基本事項から、参加者各自が興味や関心を抱いた個別テーマに関する裁判例（判例）や学説を調べて報告してもらいます。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、 ・独占禁止法や保険法等の論点を抽出できる ・論点に対する判例や裁判例を調査できる ・論点に対する学説を調査できる ・論点に対して私見を展開できる ようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	・演習（ゼミ）形式（反転授業）で行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答を行う。 ・法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。 ・独占禁止法や保険法等の論点に関して個別にプレゼンテーションを行った上で、参加者全員でディベートを行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・ゼミ内容 この演習では、独占禁止法、保険法、会社法、法学一般（特に基礎法学の論点）を主な検討対象とします。 ・授業内容 経済法領域の裁判例や学説の研究調査方法（リーガル・リサーチ） 個別テーマの報告																		
関連科目	独占禁止法、保険法など																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>※開講時に指示する</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	※開講時に指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	※開講時に指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	評価方法は、プレゼンテーション（50％）とディベートへの参加度（50％）によって評価します。 なお、以下の点をとくに重視します。 ①発表時に問題提起を適切にしているか（発表姿勢）。 ②提起した問題に関連する判例や先行研究（学説）を十分に、かつ、主体的に調査しているか（主体的学習）。 ③異説に配慮しつつ、自らの考察を適切かつ説得力をもって展開できているか（論理性）。																		
学生へのメッセージ	法制度と市場システムなど、法現象と経済現象との関係に興味のある学生はふるってご参加ください。																		
担当者の研究室等	本多研究室（11号館9階）																		
備考	事前学習として、演習テーマの予習に毎回2時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、演習テーマの内容についてノートにまとめるなど、毎回2時間以上の復習に取り組むこと。																		

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	SeminarⅡ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	寺山 洋一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	本専門演習Ⅱでは、未来志向の「多様性（Diversity）のある働き方」に主眼を置いています。 通常、「多様な働き方」というフレーズを耳にしますと、「働く＝雇用」という考え方を前提として、現行のテレワーク（Telework、Remote Work）やフレックスタイム制、短時間正社員などが思い起こされます。 しかし、この専門演習Ⅱでは、このような雇用関係に基づいた手狭な「多様」ではなく、より裾野の広い、未来を見据えた「多様性」に視線を動かします。 具体的には、雇用契約のみならず、兼業・副業、アウトソーシング（Outsourcing）、フリーランス（Freelance）、小規模事業主なども含めた、「多様性」のある働き方を扱います。 専門演習Ⅱは、4年次の卒業研究につながり、立法に関する専門分野を深く学ぶための期間となります。																		
到達目標	就職に向けて、また、就職（起業）後において、「働き方」に関する迷いや悩みに直面した場合、自らの調査などを通じて、ある程度の着想を得た上で、他者の意見にも耳を傾けつつ、さらに自らの立ち位置や道筋を練り上げられるようになることが期待されます。																		
授業方法と留意点	未来に向けた「多様性のある働き方」に関する諸課題について、各グループで 1～2 回、ゼミ生全体で 2～3 回かけて重層的に議論を深めます。 その後、各々、自らの立場と所見をレポート（A4）に取りまとめます。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	未来に向けた「多様性のある働き方」に関するテーマごとに、そのテーマに関する現状、課題及び対応策について、ICT ツール等を用いて調べます。 グループ内で押し並べて検討した後、他のグループも交えて全体で討議しながら、自らの立場と所見を考えます。 大括りのテーマ群（関連性のある幾つかのテーマを束ねた柱建て）として、次のような事柄が考えられます。 ① AI（Artificial Intelligence）や ICT（Information and Communication Technology）の進展と、これからの働き方 ② 少子高齢化・人口減少社会における働き方 ③ 社会環境（暮らし方、住宅事情等）の変化と働き方 ④ アウトソーシング（Outsourcing） ⑤ フリーランス（Freelance） 殊に④については、第 2 1 1 回通常国会において、閣法である「特定受託事業者に係る取引の適正化等に関する法律」〔フリーランス新法〕（令和 5 年法律第 2 5 号）が成立し、令和 5 年 5 月 1 2 日に公布されました。 グループ内での調べものや意見交換、全体討議（中間発表・最終発表）が主体となります。 関連する法律等について、適時、教員から補足説明をするとともに、各自のレポート作成に際して助言を行います。																		
関連科目	労働保護法、労働組合法																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>【電子】 人事労務関係法 令和 6 年度版</td><td>テラボ</td><td>齊家書房</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	【電子】 人事労務関係法 令和 6 年度版	テラボ	齊家書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	【電子】 人事労務関係法 令和 6 年度版	テラボ	齊家書房																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>【電子】 移りゆく雇用・労働六法 令和 6 年度版</td><td>テラボ</td><td>齊家書房</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	【電子】 移りゆく雇用・労働六法 令和 6 年度版	テラボ	齊家書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	【電子】 移りゆく雇用・労働六法 令和 6 年度版	テラボ	齊家書房																
2																			
3																			
評価方法（基準）	主体的に参画する意欲・姿勢を重視します。 調べもの等への取組姿勢やグループにおける傾聴・発言内容（5 0 %）、全体討議における傾聴、発言内容（2 0 %）、テーマごとのレポート（3 0 %）を総合的に評価します。 各自が主体的に参画するゼミであり、お互いの信頼関係を損ねることとなる、無断の欠席・遅刻に対しては、厳正に対処します。																		
学生へのメッセージ	専門演習Ⅱは、ゼミ生と教員との「学びの場」であるとともに、ゼミ生同士の「信頼関係の礎」で成り立っています。 むやみに私見にこだわらず、他者の意見・感想を傾聴し、立場が異なってもお互いに励まし応援する姿勢が求められます。 専門演習Ⅱを、ムリ・ムダ・ムラのない良質な機会として育てましょう。																		
担当者の研究室等	11 号館 9 階 寺山教授室																		
備考	授業中、追加的な調べもの、レポート作成の準備を行うことがあります。 各自、PC・スマートフォン等の電子機器を持ち込んでも差し支えありません。 授業前の下調べに 2 時間程度を、授業後の振り返り及びレポート作成の準備に 2 時間程度を要します。																		

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	片岡 雅世
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	国際私法を中心として、国際取引法・国籍法を含めた分野の諸問題を具体化して論文を完成させることが目的となります。卒業研究は、3 年次終了時に提出を求めたテーマを卒業研究論文として完成させることを目指しますが、具体的に検討した結果、さらに興味を持って探求したいと考える別のテーマを見出すことは妨げません。就職後に仕事で必要な知識に関するテーマに変更することも可能です。																		
到達目標	学生には、この演習を通じて国際私法、国籍法、国際取引法の分野から各自が選んだテーマを論文として完成させたとき、その論文がその分野において「基本的な水準」に達していることを説明できるようになることが期待されます。																		
授業方法と留意点	各自の卒業研究テーマについて現時点での分野及びテーマの確認を行い、その後、各自の年間計画の提出を求めます。学内での個別指導となりますが、対面授業ができない状況のときは、「Teams」及び「WebFolder」を利用することにしますが、その場合は、Portal を通じて全員に周知します。 文献資料の蒐集や論文作成についての注意点は、テーマごとの指導として日時等を指定した個別指導になりますので、そのために各自の年間計画を作成してください。論文構成については、適宜、プレゼンテーションなどによる報告を求めること																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. 3 年次最後のレポートで提出したテーマについて、卒業研究論文としてどのように具体化すべきかを検討することから始めます。検討結果によってはテーマの変更も可能ですが、明確な理由を示す必要があります。 2. 決定したテーマについて、まず、必要な文献や判例を調査し、その蒐集と読解を通して論文の構成や目次をレポートとして提出することを求めます。論文の目次、その他具体的な論文構成は、遅くとも 10 月中旬までに提出すること。 3. 検討・修正を加えた後に下書きを作成し、その報告を適宜受けながら訂正を加えて論文の完成を目指します。 下書きの完成時期は、12 月下旬とします。 4. 論文提出期間に入った 1 月の段階で最終稿を提出し、最後の推敲を経てその確認後、教務課への提出を許可します。 事前事後の学習は、卒業研究の進捗に合わせてその都度具体的に指示しますが、少なくとも 2 時間以上のテーマについての熟考と資料の熟読そして見直しが必要です。																		
関連科目	国際私法総論・各論、国際取引法																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>特に、指定しない。</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	特に、指定しない。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	特に、指定しない。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>適宜、紹介します。</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	適宜、紹介します。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	適宜、紹介します。																		
2																			
3																			
評価方法（基準）	卒業研究論文について、そのテーマと論述方法の関係及びその理解度を中心に、作成過程と下書きなどの原稿及び完成した論文を総合して評価します。この評価については、10 項目について基準を定めた「ループリック評価表」を用います。																		
学生へのメッセージ	就活と卒業研究を両立するために、必ず達成できる年間計画を立てて下さい。																		
担当者の研究室等																			
備考	論文の下書き原稿などについては「WebFolder」を使って指導することもあります。																		

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	河原 匡見
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	卒業研究においては、大学生活の、さらには小学校以来現在に至るまでの、いわば学生生活の最後の総まとめとしての卒業研究を、一定水準以上の内容を伴って完成できるよう指導していきたいと思います。また、学間に直接関係することだけでなく、広く学生生活全般に関すること、あるいは一般社会の問題についても議論し合っていければと思います。		
到達目標	この演習を通じて学生には、各自関心のあるテーマについて、資料を収集し分析を行うなど研究を進めて、定められた期限までに決められた形式・分量に則してまとめ上げ提出できるようになることが期待されます。		
授業方法と留意点	「対面式」で原則実施しますが、就職活動などの関係で出席のタイミングが合わない人に対しては、当分の間「Teams を用いたオンライン方式」も併用します。前期は個人指導を主体として、論文の枠組み検討と資料収集の作業状況の確認を並行して行い、夏期休暇前には、草稿の作成に入れるように指導していきます。そして、後期には、みなさんの論文作成の進行状況にもよりますが、可能であれば各自の草稿を基に、演習参加者全体でディスカッションを行う集団指導を中心に進めていきたいと考えています。また、12 月頃に開催される、法学部の「卒業		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本演習の目的は、定められた期限までに、一定の水準以上の卒業研究を確実に完成させることです。長い論文を作成する作業は、喩えて言うならば、一步一步頂を目指して歩みを進めていく『登山』の如きものでしょう。したがって、実質的には約 10 ヶ月間の指導によって、上記の目的を達成するために、幾つかの研究の進展段階（提出課題）を設定し、それを一つ一つ達成することによって順々に論文を完成させていくという指導方法をとります。各自、卒業研究のテーマを絞り、考究していくためには、常に積極的に関心のある問題に関する情報および資料・文献を収集しその読解に努めることが要求されます。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	卒業研究演習での論文作成指導状況（20%）および提出された論文（卒業研究）の内容（80%）に基づいて評価します。なお、論文の内容の評価については、ゼミで策定したルーブリック表に基づいて行います。また、法学部主催の「卒業研究発表会」にて報告した場合には、その分を加味して評価します。		
学生へのメッセージ	4 年生は、就職活動などの進路決定にともなう作業もあります。研究論文は、就活後に始めるのではなく、早めに着手する（書き始める）ことが肝要です。両者を並行して進めていきましょう。		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 河原教授室		
備考	この演習では卒業研究を進めるための事前・事後学習が必要です。目安は総時間数で 60 時間です。もちろん選んだテーマ次第でそれ以上の場合もあります。卒業研究の作成は、これまでの勉学の集大成というだけでなく、みなさんがこれからの人生のさまざまな局面において、どれだけ自信をもって諸事に臨んでいけるかの可能性を示唆してくれるものです。納得のいく内容のものを仕上げるよう頑張りましょう。		

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	鳥谷部 穰
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	法学部の国際法ゼミ修了者として備えておくべき素養を養うことを目的とします。		
到達目標	この授業を通して学生は、法学部の卒業研究として十分な水準の論文を完成させることができることが期待されます。		
授業方法と留意点	ゼミの進め方としては、基本的には、グループワークを通じ、ディスカッションを積み重ねることで、自身が設定したテーマを深化させていきます。研究の進ちょくを定期的に教員に報告してもらい、研究をより良くするために、適宜、必要な助言やアドバイスをを行います。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	国際法に関連する諸問題を調べ、討論し、論文にまとめてもらいます。 具体的な予定としては、10 月下旬までに全員が卒業論文をひと通り書き終えます。11 月中に卒業論文発表会の準備に取り組みます。12 月に予定される卒業論文発表会で発表を行います。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	完成した卒業論文の内容によって評価します。卒業研究の評価はゼミで策定したループリック表に基づいて行います。 評価項目：卒業論文の内容（70%）、卒業論文への取組の態度（30%）		
学生へのメッセージ	論文を書くことは、人生と同じで、楽しみと苦労の連続です。新たな発見に喜びを感じる瞬間があれば、壁にぶつかって立ち行かなくなることもあります。そうしたとき、仲間からのアドバイスが道を開くきっかけを提供してくれるかもしれません。		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 鳥谷部研究室		
備考	事前学習として、資料の読解とそのまとめなど、毎回 2 時間以上の予習に取り組んでください。 事後学習として、論文の加筆・修正に毎回 2 時間以上の復習に取り組んでください。		

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	卒業研究の題目を決定し、関連する資料・文献を収集し、必要に応じて調査を実施することによって、卒業研究を完成させる。修得した法学・政治学・法政策学の知識を文字で的確に表現するための一助とする。		
到達目標	この授業を通じて学生には、自ら決定した卒業研究のテーマについて、これまでに修得した法学・政治学・法政策学の知識を文字で的確に表現するとともに、将来社会人として自ら考え行動することができる能力を養うことが期待される。		
授業方法と留意点	各自が決定した題目に沿って、卒業研究を推敲し、完成させる。能動的に活動するよう、留意してください。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	授業テーマ：卒業研究の完成。 内容・方法：各自が決定した題目に沿って、卒業研究を推敲し、完成させる。卒業研究の完成に必要な資料を収集し、整理する。 学習課題：卒業研究の完成に向けての資料収集、論文の推敲、およびその完成等についてその都度指示する。公開での卒業研究発表会を行う予定である。		
関連科目	専門演習		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	卒業研究の内容（70％）と取り組む姿勢（30％）をもとに評価する。なお、卒業論文はゼミで策定したルーブリックにより評価する。		
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでください。		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 石井教授室		
備考	各回に 1 時間程度、自身の設定したテーマに沿って、事前・事後の学習を行ってください。		

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	1 年半の演習の蓄積に基礎を置く研究である。分野を絞って読書や記事を読みながら課題を明確にし、地域活動を通じての参与観察、聞き取り調査で得られた知見に基づいて結論を出せるように研究を進める。		
到達目標	この研究を通じて学生には、①ぼんやりとした自分の問題意識を他人と議論できる課題にする、②地域活動に参加して、その課題の視点で現場を見て、話を聴く、③現場での知見を蓄積する、④他人と議論をして、知見から自分が言いたいことを文章にすることが期待される。		
授業方法と留意点	書籍・記事からの情報収集、参与観察と聞き取り調査（ともにフィールドワーク）、研究室内での定期報告（プレゼンテーション）、仲間との活動の企画と振り返り（ディスカッション）を、他人に見える形で記録に残し蓄積する。継続的でこまめな作業が必要になる。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	研究で扱う分野は、地域防犯、自治会の地域活動、小学校と地域との関係、地域での児童福祉・青少年健全育成の 4 つである。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	研究時限の全出席を前提とする。定期報告(30%)と、卒業論文(50%)、卒業研究発表(20%)の合計によって評価する。評価は研究室で策定したルーブリック表に基づいて行う予定。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	11 号館 9 階 中沼教授室		
備考	情報収集、観察・聞き取り調査記録、定期報告の準備で各回 1～3 時間ほどが必要になる。 個人面談をして、地域活動参加の意志確認をし、参加の感想や今後の希望も聴く。それに対して助言を行う。 卒業研究発表に対しては、担当教員のみならず、地域活動の世話役や行政実務家からも意見をいただく。		

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	浮田 徹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	法学部憲法ゼミ修了者として備えておくべき素養を培います。法学部の卒業研究として十分な水準の論文を完成させるとともに、他のゼミ生との共同作業が中心となりますので、コミュニケーション能力も求められます。																		
到達目標	この授業を通じて学生は、問題発見・分析・文献検索についての能力、論文作成についても法学部修了者として不足のない力を身につけられるようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	個別もしくはグループ単位で卒業研究を進めます。基本はグループワークを通じ、ディスカッションを重ねることでテーマを深化させていくため、積極的な参加が必須です。卒業研究報告会に限らず定期的な報告会も行うため、プレゼンテーション能力を磨くことも必要となります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	憲法に関連する諸問題を調べ、討論し、論文にまとめる。 テーマ自体は該当年度のはじめに決定します。 設定されたテーマにつき、グループでより詳細なテーマを決定して進めていきます。 論文を完成後、公開の発表会を行います。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	「卒業研究の評価はゼミで策定したルーブリック表に基づいて行う」																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11 号館 9 階 浮田准教授室																		
備考	卒業研究は講義以外の時間に作成する割合が多くなります。最低限事前（2 時間）、事後（2 時間）程度は必要になります。 卒業論文は公開の発表会を行います。																		

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	島田 良一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	刑事法をめぐる諸問題について研究・考察を行い、その内容に関する卒業論文を作成する。		
到達目標	この卒業研究を通じて学生には、とりわけ刑事法に関して、法学部で学んだ者としてふさわしいレベルの知識・思考力・表現力を修得することが期待される。 (12 月初旬に法学部全体での卒業研究報告会が予定されているので、そこでの報告に堪えうるような論文の作成を目指す)。		
授業方法と留意点	3 年次までの専門演習において設定した各自の卒論テーマについて、ディスカッションやプレゼンテーションなども行いながら、さらに掘り下げて研究・考察を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業論文作成指導を行う。 事前学習としては、文献・資料等の読み込み・要約（1 時間／日） 事後学習としては、卒業論文提出後にゼミで卒業論文の検討会を行う予定（2～3 時間程度）		
関連科目	刑事法に関連するすべての科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
			出版社名
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
			出版社名
評価方法（基準）	卒業論文の出来によって評価する（ゼミで策定したルーブリックにより評価する：内容・構成力 50%、文章力 30%、資料収集の程度 20%）。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	11 号館 9 階 島田准教授室		
備考			

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	家本 真実
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	法は、社会における最低限のルール・道徳であるといわれます。この演習では、現在、社会で起きている問題を通して、現行の法律がどのようなものであるか、そしてどうあるべきかを考えることによって、法に対する知識をより広い視野をもって深めていく機会にしたいと思います。 卒業研究においては、とくに裁判員制度に焦点をあてて、裁判員制度がいったいどういう制度なのか、市民が司法に参加する意義などを調査したうえで、後期中に模擬裁判をおこない、模擬裁判での経験から、一般の市民が司法に参加するにあたってどのような課題が問題点があるのかを探るというかたちでより深く法の世界を探索していただきたいと思います。																			
到達目標	この卒業研究を通じて、学生の皆さんには、履修している学生同士の議論や模擬裁判の実施を通して、他人の考えを理解し、問題がある場合にはどのような解決を見出すことができるかを考えることができるようになることが期待されます。																			
授業方法と留意点	卒業論文作成の指導をおこないます。資料の収集、論文の書き方などを学んだうえで、グループで議論しながら各自の分担を考えていただき、各自の担当部分について個別指導をおこないます。また、模擬裁判の実施にあたって、チームで議論しながら主張を練り上げ、書面を作成していただきます。																			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期中はおもに、卒業論文作成のベースとなる知識を得るために、裁判員制度や市民の司法参加に関して調査をおこなっていただきます。2-3 人で 1 つのテーマを担当し、毎回事前に担当するテーマについて調査をおこない、報告のうえ、各回終了後に適宜再調査をおこない、卒業論文の基盤をつくりあげていただきます（事前・事後学習として毎週 3～4 時間程度）。 後期は 3 年生とともに模擬裁判をおこなっていただくとともに、卒業論文を仕上げたうえで、その成果を発表していただきます。模擬裁判に関しては、事案の検討をおこない、検察チームや弁護チームの弁論や尋問を作成し、添削を受けて訂正するという作業をおこなっていただきます。また、同時に、卒業論文を執筆し、添削を受けて訂正する作業を継続しておこなっていただきます。																			
関連科目																				
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法（基準）	おもに、模擬裁判に対する取り組み（50％）と、卒業研究に対して取り組む姿勢や卒業論文の審査結果（50％）により評価します。 なお、評価はゼミで策定したルーブリック表に基づいておこないます。																			
学生へのメッセージ	ともに議論をし、模擬裁判において様々な役割を担うことによって、他人の考え方を知り、理解しあうことにつながると 생각합니다。こうした活動を通じて、学生間で交流を深めていただきたいと思います。また皆さんからゼミの内容についての提案があれば、できる限り取り入れていきたいと考えています。																			
担当者の研究室等	11 号館 9 階 家本准教授室																			
備考	事前・事後学習の総時間数の目安：60 時間																			

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	城内 明
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	法学部に学んだ集大成として、質の高い卒業研究の完成を目標とします。研究内容は、学部主催の卒研報告会、ないし 3 年城内ゼミ学生を対象としたゼミ内報告会のいずれかで報告してもらいます。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、法学部に学んだ集大成として、質の高い卒業研究を完成することが期待されます。																		
授業方法と留意点	研究テーマは、3 年時の演習で担当した判例等を参考に、自由に選択していただいて構いません。テーマに基づき、個別に課題を与え、完成まで個人指導し、12 月第 1 週までの論文完成を目指します。受講生は、就職活動に忙しい時期であっても、メール・LINE 等で、最低週 1 回の連絡を欠かさないようにして下さい。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業論文の作成指導。 論文指導は、指導前の十分な準備、指導に従って行う適切な作業があつて、はじめて有効なものとなります。 十分な事前学習・事後学習を心がけて下さい。所要時間として、週に 90 分、年間で 60 時間程度が目安となります。ただし、論文は、自分が納得いくまで考え抜くことに意義があります。特に、最終段階(11 月半ば～12 月頭)では、論文に集中する時間が必要となりますので、予定の調整をお願いします。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>新たな法学の基礎教育</td><td>福沢一吉</td><td>弘文堂</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新たな法学の基礎教育	福沢一吉	弘文堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新たな法学の基礎教育	福沢一吉	弘文堂																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	論文の内容(50%)、論文に臨む態度(50%)により評価する。 卒業研究の評価はゼミで策定したルーブリック表に基づいて行う。																		
学生へのメッセージ	4 年間の集大成です。良い論文を仕上げましょう。																		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 城内教授室																		
備考	教員との連絡は欠かさないようにして下さい。 なお、論文を書くにあたっては、論理的な文章を書く必要があります。教科書欄に指定した本(「新たな法学の基礎教育」)は、論理的な文章を書くための基本を分かりやすく説明したもので、参考になると思います。																		

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	法学部ディプロマポリシーに基づき、刑事法学（主として、刑法総論、刑法各論、および、刑事政策）に関する争点を履修者各自の興味に応じて取り上げ、これに関する判例および学説を主体的に研究・調査したうえで、自らの考察を展開する一方で、多様な見解に配慮しつつ、説得力ある論文（卒業論文）の作成することを目的とする。 ＊なお、12 月から 2 月の間に開催される予定である法学部主催の卒業研究発表会で卒業研究の成果を口頭で質疑を交えつつ報告してもらうことも目的としている。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、法学士を得るのにふさわしい研究水準の公開報告を遂行したうえで、最終的に研究論文を完成できるようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	専門演習において設定した各自の卒論テーマについてさらに掘り下げて研究する。 ・構成員の進路状況を鑑み、本授業は各人個別に行うこともある。 ・教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答を行う。 ・法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業論文の作成に必要な判例検索や文献リサーチの方法および社会科学系論文の作成方法に関する指導を個別に行う。																		
関連科目	法学概論、刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、少年法、刑事政策など																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>刑法の争点</td><td>西田典之＝山口厚＝佐伯仁志</td><td>有斐閣</td></tr> <tr> <td>2</td><td>判例プラクティス刑法Ⅰ（第2版）</td><td>成瀬幸典＝安田拓人ほか</td><td>信山社</td></tr> <tr> <td>3</td><td>判例プラクティス刑法Ⅱ</td><td>成瀬幸典＝安田拓人ほか</td><td>信山社</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	刑法の争点	西田典之＝山口厚＝佐伯仁志	有斐閣	2	判例プラクティス刑法Ⅰ（第2版）	成瀬幸典＝安田拓人ほか	信山社	3	判例プラクティス刑法Ⅱ	成瀬幸典＝安田拓人ほか	信山社
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	刑法の争点	西田典之＝山口厚＝佐伯仁志	有斐閣																
2	判例プラクティス刑法Ⅰ（第2版）	成瀬幸典＝安田拓人ほか	信山社																
3	判例プラクティス刑法Ⅱ	成瀬幸典＝安田拓人ほか	信山社																
評価方法（基準）	卒業論文の採点は、以下の①から⑤まで項目について、ルーブリック評価【到達度評価＝A（よくできている）、B（平凡）、C（あまりできていない）】を用いて行う。 ①問題提起を適切にしているか（配点 20%） ②提起した問題に関連する判例や先行研究（学説）を十分に、かつ、主体的に調査しているか（配点 20%） ③異説に配慮しつつ、自らの考察を適切かつ説得力をもって展開できているか（配点 20%） ④自説の見解がどこまで妥当性をもつかについて、射程を考えて規範や結論を導いているか（配点 20%）																		
学生へのメッセージ	法学系の論文は、指導教員とのコミュニケーションを取りつつ作成するのが一般です。いつでも遠慮無く作成についてご相談ください。学生の手が届きにくい代表的な和書文献およびドイツ語文献を研究室に備えていますので、必要な方は声を掛けてください。																		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 小野教授室																		
備考	事前学習として、判例や学説調査など、毎回 2 時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、論文の修正に毎回 2 時間以上の復習に取り組むこと。																		

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	萩原 佐織
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	当該民事法ゼミでは、例えば民法等の実体法に基づき発生する権利につき争いが生じ、裁判所で解決されるべき場合に、その方法や当事者が従うべきルール等につき、具体的な事案や判例をもとに追求します。それゆえ、既に民法が良く理解できている方は、民法で学んだことを裁判という場にシフトさせ、より深く発展的に学び、他方、民法をまだ良く理解できていないという方は、裁判という角度から、もう一度民法を見つめ直す機会に利用して下さい。皆さんのご希望があれば民法や民事訴訟法以外に、民事保全執行法や倒産法をテーマにすることも可能です。																			
到達目標	初めての論文執筆となるため、この演習を通じて学生には、論文構成、章立て、脚注の付け方、文献目録の作成方法等、社会科学系の論文の書き方につき学び、また、それに対応する Word の各機能の使い方を習得することが期待される。 後半は、この演習を通じて学生には、実際に各研究テーマに従った卒業研究論文を執筆していくうえで、深い思考力・探求力・問題解決能力を養うことが期待される。																			
授業方法と留意点	【授業内容】 前期は、卒業論文の書き方（論文構成、判例・参考文献等の探し方、Word の機能の使い方、目次・脚注・参考文献目録の作成方法等）につき指導を行った後、それぞれの内容に従い、個別に指導する。後期は、個別指導の傍ら、互いの進捗状況を参考にしたり、また執筆者の考えを明確化させ、かつ内容を深化させるために、中間発表ならびに最終報告会（法学部全体の卒論発表会をも含む）を行う予定。卒業論文に関する課題の提出及び事前・事後学習等に Teams を利用するので、必ずチェックするようにしてください。演習時間内にち																			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期は、下記 2 つを支柱とする； 1 つ目は、①卒業研究論文の書き方や、②Word 機能の使い方等、卒業研究執筆にあたり、基本的な事項の指導。2 つ目は、研究テーマの確定、ならびに論文の大まかな構成の作成、につき指導すること。但し、これまでのゼミにおいて、既に研究テーマが確定していたり、十分な判例や参考文献等を収集済みの学生に対しては、個別に、具体的な論文執筆指導を行う。 後期は、各自の執筆の進捗状況に差があるため、個別具体的な論文執筆指導を中心とする。指導方法としては、その週に執筆した部分につき事前に Teams に提出した上で、各自 5 分程度発表し、その後、質疑応答・フィードバック等を行う。また、互いの進捗状況を参考にしたり、執筆者の考えを明確化させ、かつ内容を深化させるため、法学部卒業研究発表会等にて中間発表を行う。 なお、法学部卒業研究発表会における代表者以外の全員が、12 月・1 月における専門演習 II、専門演習 I、法学基礎演習 II 又は個別に設けた日時において、各自卒業研究の発表及び質疑応答を行う予定。 進捗予定としては、おおよそ 11 月中旬の一通り執筆を終えた段階で、本文全体を提出し、11 月後半は中間発表に向けた Power Point 資料の作成、12 月は表紙・目次・参考文献目録の作成、1 月は校正を中心とする。 予習事項としては、設定テーマに関連する文献を調べ、それらの文献を入手し、読み込んでおくこと。後期は、その上で、得られた情報や知識をもとに、卒業研究の執筆や発表準備を進めること。 復習事項としては、ゼミ内で指摘された事由につき、更なる文献の検索・入手やその読込み、内容の修正等を行うこと。Teams 上で提出し返却された課題については、そこに示されたフィードバックの指示に従って復習を行うこと。 事前・事後学習に要する時間は、卒業研究の進捗状況に基づき、演習時又は Teams 上において、個別に指導する。 原則として、テーマ選択、文献収集、執筆等に関し、事前・事後学習は、各 2 時間を予定する。																			
関連科目	民法全般、民事訴訟法、民事保全執行法、倒産法等																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3						
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3						
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法（基準）	卒業研究への取り組み方等の平常点（20%）、提出された論文（50%）、並びに研究発表会等における発表及び発表資料（パワーポイント等）（30%）を総合的に審査し評価します。なお、卒業研究の評価はゼミで策定したルーブリック表に基づいて行うものとします。																			
学生へのメッセージ	初めて書く論文ですので、最初は戸惑うかもしれませんが、例年、ゼミ生同士が相談または助け合い、その過程において、友情を深めているような気がします。また、それぞれ提出し終えたときの達成感で輝く顔が印象的です。学生最後の年ですので、有意義な実り多き 1 年にしてください。																			
担当者の研究室等	11 号館 9 階 萩原准教授室																			
備考	卒業研究の成果を公表する場として、12 月における法学部卒業研究発表会で、ゼミ代表者が発表する他、12 月・1 月における専門演習 II、専門演習 I、法学基礎演習 II 又は個別に設けた日時において、代表者を除く他の全てのゼミ生が各自卒業研究の発表及び質疑応答を行う予定。発表形式は、原則として、Power Point にて行うこととする。 なお、卒業研究執筆時においては、演習時又は Teams 上の課題として、個別的に各卒業研究及びその進捗状況をチェックし、フィードバックを行うものとする。各章ごとに、各自、演習内で各 5 分																			

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	本演習では卒業までに、ゼミ生全員で少なくとも民法の制度について詳細に把握できることを目的としている。そのために、ゼミ生全員の協力の下で、どのような社会的問題が存在し、法律がどのような対応をしているのかを把握していく。社会状況を知ることにより、自分が社会においてどのような立場に立ち、またどのようなことをすべきかなど、多くの点を考える糸口を得られると考えている。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、2 年次・3 年次演習で得られた知識・経験を駆使し、個人で問題を設定し、卒業論文を作成する。そのためには、これまで全員で行ってきた作業を個人で担当することとなる。中間報告として、各自の問題に対する視点の報告（レジュメや発表方法など）を行い、最終的に論文に仕上げ、文章表現の難しさを知ること、そして、法的問題を個人で分析し自己の考えを述べることを通じて、社会問題全体に対しても、感想ではなく、知識や情報を獲得しそれを駆使して自己の意見を述べられるようにすることが期待される。																		
授業方法と留意点	卒業論文を作成するために、各自でテーマを決定する必要がある。そのテーマについて、適宜演習で報告を行い、他のゼミ生との議論を行う予定である。その為の報告準備等も行う必要がある。各自のテーマについて、他のゼミ生の意見を反映させることも求められる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業論文のテーマをいかに設定するか、その内容を定期的にいかに報告するか（中間報告）、それを文章化するに当たり、いかに読み手（この場合は教員）を説得させるか、および、それを論文にいかにかまとめるか、それらについて各自で試行錯誤することが必要となる。 卒業研究ゼミでは、その論文の作成に関するルールから始まり、その内容や問題提起の方法を全員で確認し、そして、文章化することを予定している。 その際に、全学への公開講座として、研究内容を3年生と4年生との合同講座で発表を行い、ゼミ以外の先生や学生からの意見を聞きつつ、客観的に研究の意義を確認する。これは、全ゼミについて共通の事である。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	成績は、演習で出される課題に対して、個人で指定された資料等を使用して正確に準備できているかどうか（10%）、並びに、その課題である卒論の完成内容で判断を行う（90%）。 具体的には、卒業研究の評価はゼミで策定したルーブリック表に基づいて行う。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11 号館 9 階 大川准教授室																		
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の3つから成り立っています。 予習内容としては、演習で与えられる課題を個人で準備を行う必要があります。その準備を90分を基準として行う必要があります。 復習として、課題に対し、中間報告及び最終報告の内容を正確に押さえる必要があります。その為に90分を基準として行う必要があります。 学生主体の演習を目指しています。各実施状況については各自の報告時及びメールで確認します。 演習での縦の人間関係も重視しております。コンパなどで、就活などの情報も先輩から後輩へと伝えていくこと																		

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	松島 裕一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	前年度に決定したテーマに基づいて、実際に卒業論文を執筆してもらいます。前年度の専門演習 II で真面目に課題に取り組んでいればそれほど困難はないと思いますが、いざ卒論を書き始めてみると苦勞の連続かもしれません。自分なりに四苦八苦しながら卒業論文を書き上げることがこの卒業研究の目的です。																		
到達目標	このゼミを通じて学生には、次の2つのことが期待されます。第一に、自分の興味関心に基づいたオリジナルの論文を執筆できるようになること。第二に、卒業論文の執筆作業を通じて、図書館やネットを利用した資料収集の方法、参考文献の参照指示方法などを身につけること。																		
授業方法と留意点	対面での実施を予定しています。毎回個別に課題を課しますので、その課題に真摯に取り組み、卒業論文を書き上げてください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各人が決定したテーマにしたがって資料収集を行い、実際に卒業論文執筆の作業を進めてもらいます。各人の進捗状況に応じて個別に指示を出します。 具体的な予定としては10月下旬頃までに全員が卒論をひと通り書き終え、11月中に卒業論文発表会の準備に取り組みます（各人の卒論の要点をバワポにまとめる）。そして12月（予定）の卒業論文発表会本番に臨みます。																		
関連科目	法哲学総論、法哲学各論、法思想史																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	卒業研究の評価はゼミで策定したルーブリック表に基づいて行います（100%）。具体的には卒業論文完成に至るまでの取り組み（教員の指示に従い資料や判例などが調査できているか、途中経過をしっかりと説明できるか等）や、卒業論文の出来（脚注や形式は指示に従っているか、論文に独自性があるか等）を重視します。																		
学生へのメッセージ	みんなで笑って卒業できるように頑張りましょう！ 教員（松島）も精いっぱい努力しますので、学生の皆さんも頑張ってください。																		
担当者の研究室等	11 号 9 階 松島准教授室																		
備考	教員の指示に従い、各回、決められた分量の文章を事前に執筆してもらいます（この事前学習に60分以上）。また、事後に文章の訂正や追加の資料収集を行なってもらいます（この事後学習に60分以上）。																		

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	増田 知也
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	法学部での学び、そしてゼミでの学びの集大成として、卒業研究を行い、論文にまとめます。																			
到達目標	研究とは、未知の事柄について問い（リサーチ・クエスチョン）を立て、データを集め、分析し、結果を解釈し、出た答えを報告するという一連の過程です。どうしても「論文を書く」ということだけに注目してしまいがちですが、研究成果が出なくては論文は書けない、ということとは重要です。計画的に研究を進めていきましょう。																			
授業方法と留意点	各自で研究を進めつつ、定期的に報告し、意見交換をする																			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【研究テーマ】 地方自治や地域政策に関連するテーマを各自で設定する																			
	【スケジュール】 4月 研究計画書を元に面談し、研究テーマを確定する 5月 文献調査を行う 6月 文献調査の結果を元に「先行研究のレビュー」を執筆 7月 データ収集と分析の方法を検討する 夏期休暇：フィールドワークなどにより、データ収集を行う 9月 集めたデータを分析し、「結果」を執筆 10月 結果を出すに至った「対象と方法」を執筆 11月 結果を解釈し、「結論」を執筆 12月 「背景と問い」「課題と展望」を執筆し、論文を完成させる																			
	【論文の構成】 背景と問い なぜ問う必要があるのか？ 何を問うのか？ 先行研究のレビュー 現時点でどこまで答えが出ているのか？（理論や仮説） 対象と方法 何を研究対象としたのか？（データや事例の詳細） どのような方法で研究したのか？（データ収集・分析の方法） 結果 データ分析によって得られたものは何か？（客観的） 結論 結果を元に問いに対してどのような答えを導くことができるか？（主観的） 課題と展望 明らかにできなかったこと、更に研究すべきことは何か？																			
	【事前・事後学習課題】 各自調査・執筆を進めた上で、週ごとに研究ノートを作成する（4時間程度）																			
関連科目																				
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法（基準）	卒業研究の評価はゼミで策定したルーブリック表に基づいて行う。																			
	論文としての基本的ルールを守ること 40％ 問いと方法と答えの妥当性 20％ オリジナリティ 20％ 学術的意義 10％ 社会的意義 10％																			
学生へのメッセージ																				
担当者の研究室等備考	11 号館 10 階 増田講師室																			
備考																				

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	卒業論文を完成すべく、政治問題に関する文献の読解能力や論理的思考力・判断力・表現力を身につけることが目的です。学生の皆さん一人一人が、自分の卒業論文のテーマについて主体的に考え、議論し、問題解決への糸口をつかめるような主体的・対話的で深いアクティブ・ラーニングの場を提供します。 また卒業論文の内容や書き方については個別に指導していきます。																		
到達目標	この授業を通じて学生は、自分の卒業論文のテーマに関する書物・新聞記事・評論などを読んで知識・技能を獲得するとともに、その要点やメリット・デメリットをまとめ、望ましい解決策について他者と討議し、他者に対してそれを明確に発表するという論理的思考力・判断力・表現力を育成することが期待されます。 またグループディスカッション・プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通じて主体的・対話的で深い学びを行うなかで、学習や仕事に対する意欲や積極的な人間性を育み、社会において良好で協調性のある人間関係を構築する仕																		
授業方法と留意点	各自が自分の卒業論文のテーマに関する文献の収集・読解を行い、卒業論文のディスカッション・プレゼンテーションを行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・授業テーマ・内容 自分の卒業論文のテーマに関する文献の収集・読解・議論・発表を通じて、その問題の内容を正確に理解し、他者と討議して望ましい解決策を判断し、他者にわかるようにその内容・解決策を発表することによって、基本的な日本語読解能力と論理的思考力・判断力・表現力を修得することができます。 卒業論文が作成できるように実際に資料収集・読解・執筆・グループディスカッション・プレゼンテーションを行います。 ・授業方法 各自が自分の卒業論文のテーマに関する文献を収集・読解・要約し、卒業論文の一部を執筆する時間をとります。教員は、学生の皆さん一人一人のテーマに沿いつつ、個別指導の形式で助言・評価をしていきます。 また卒業論文の進捗状況・内容について全員が適宜プレゼンテーションを行い、ディスカッションを通じてより整合性・妥当性のある卒業論文を完成させていきます。 ・事前、事後学習課題 事前学習...授業で自分が行う資料収集・読解・執筆について各自が主体的にその計画を立てておくこと（週 7 時間程度）。 事後学習...卒業論文の執筆を自宅でも計画的に進めておくこと（週 14 時間程度）。																		
関連科目	専門演習Ⅱ																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業でのプレゼンテーションと卒業論文で評価します。 卒業研究の評価は、ゼミで策定したルーブリック表に基づいて行います。																		
学生へのメッセージ	就職活動で忙しいでしょうが、卒業論文の制作も継続的に行ってください。自分の卒業論文のテーマに関する参考文献の読解や資料・データの収集を自主的に行うようにしてください。 メールで随時卒論を送ってください。																		
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館 10 階 和田研究室																		
備考	卒業論文の制作では教員も積極的に参加し、助言を与えます。プレゼンテーションではその内容について全員に助言と短評を与えます。 また学生の皆さんの卒業論文のテーマについては教員も極力調査し、その参考文献を読破し、助言を与えます。																		

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	笛木 淳
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	公法（憲法，行政法，地方自治法）における様々な課題から1つのテーマを選択し，関連文献・判例を読みこなし，自ら立てた問いに対して説得的な答えを提示することにより，卒業研究・卒業論文を完成させる。			
	完成した研究を，パワーポイントスライドにまとめて，分かりやすくプレゼンテーションを行う。			
到達目標	学生には，次の3点を達成することが期待される。			
	（1）テーマに関連する文献・裁判例の調査・収集を網羅的に行うことができる。			
	（2）既往の研究をもとに問いを立て，様々な資料を整理したうえで，論理的に構成・論証を行うことで問いへの説得的な回答の提示を行うことができる。			
	（3）完成させた研究のポイントのスライド資料等にまとめ，他者に分かりやすくプレゼンテーションできる。			
授業方法と留意点	・専門演習 II までに設定・深掘りしてきた各自のテーマについて，さらなる調査・議論を行う。			
	・他の学生及び教員の前での定期的な報告，ディスカッション，指導を行う。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・前期： 判例・学説の資料収集方法，論文の構成，目次・脚注等の作成方法を，各学生のテーマに応じて個別に指導する。			
	・後期 卒業論文の添削，パワーポイントスライドによるプレゼン資料作成の指導等を行う。			
	年末に行われる卒業研究報告会に向けて，ゼミ内でプレゼンのコンペを実施し，各自の研究・プレゼン能力を磨いていく。			
関連科目	憲法，行政法総論，行政法各論，地方自治法			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法（基準）	卒業論文の内容（テーマ設定の明確性，文献収集の適切性，構成の論理性／論証の説得性など）。詳細はゼミでルーブリック表を作成し，これに基づいて行う。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	11 号館 9 階笛木講師室			
備考				

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	田中 敦
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	専門演習Ⅰ、Ⅱにおける発表の経験、実績を踏まえ、各自が選択した研究テーマに関し、卒業論文を作成、提出する。																		
到達目標	この演習を通じて学生は、自らが選択したテーマについて1年間を通じて研究し、その成果を卒業論文として作成、提出する過程において、大学を卒業して実社会に出たときに求められる企画、調査・分析、文章作成の能力を習得することが期待される。																		
授業方法と留意点	1年間を通じて卒業論文作成のための準備を行う。就職活動が並行して行われるという事情に照らし、基本的には個別指導が中心となるが、一定の間隔で、適宜全員が参加するゼミ形式による中間報告、討論を行う。通年とはいえ、執筆や教員とのやりとりに使える時間は意外に短い。計画的な進捗に努めてほしい。 なお、自己の卒業論文の完成に集中すべきことはいふまでもないが、他のゼミ生の取り組みに対しても、適宜の助言や意見交換、討論等を積極的に行ってほしい。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各自が選択決定した研究テーマについて、それぞれの進捗状況に応じ、卒業論文を完成させるための個別指導が中心になる。とはいえ、互いの進捗状況や共通する課題や問題などについて、情報を交換したり相談し合ったりするために、一堂に集まる機会も必要と考えられる。そのため、適宜、ゼミ形式での授業を行う。また、中間発表や卒業論文発表会も行う。 授業の前には、授業でいかなる指導を受けるか、教員に確認する事項や疑問点などを事前に準備する事前学習と、授業で受けた指導内容などを改めて確認して論文に反映させる事後学習とが必要である。 具体的な授業の進め方については、第一回授業において学生からの意見も聴いた上で決定したい。																		
関連科目	民法法全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	卒業論文の評価は、ゼミで策定したルーブリック表に基づいて行う評価（70％）、演習における姿勢（討論への参加状況、参加の姿勢等 20％）及び課題（10％）を総合して行う。																		
学生へのメッセージ	卒業論文の作成は、就職活動と並行して行われるため、大変かと思いますが、1年はあっという間に過ぎてしまうというのが実感です。早め早めに準備作業を行ってください。論文作成作業で得られたものは、社会に出てからも必ず役に立つことと思います。また、特定のテーマを掘り下げて論文を完成させたという達成感は、何物にも代えがたいものになることでしょう。																		
担当者の研究室等	11号館10階 田中教授室																		
備考	授業の機会を有効に活用するためには、授業日前後を通じ、十分な事前事後の学修が必要です。それぞれ2時間を目安として行ってください。																		

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	仲宗根 京子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	卒業論文の作成に向けて必要なスキルや知識を習得し、卒業論文の完成を目指すことを目的とします。																		
到達目標	各自の論文テーマに関する専門的な参考文献を自分で検索することができ、参考文献をもとにして適切に論文を執筆することができるようにします。																		
授業方法と留意点	各自で設定した卒論のテーマに従って参考文献の収集を行い、卒論の執筆作業を行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・授業テーマ 卒業論文の執筆 ・内容及び方法 数回の期限を設定して、論文執筆を進めていきます。期限ごとに教員が内容をチェックして修正等を促します。すべてのゼミ生がある程度執筆できた時点で中間報告として、ゼミ内で報告会を実施し、必要な修正を行う。また、卒論報告会へ参加することで他の学生や教員からの質問を受けることで論文の精度を確認する。 ・事前事後学習課題 事前に卒論に必要な参考文献を調査検討を行ってもらい、教員のチェックに基づいて事後的に追加調査を行ってもらいます。																		
関連科目	専門演習Ⅱ、法律科目全般																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	卒業研究の評価はゼミで策定したルーブリック表に基づいて行う。 内訳として、演習内における締切りの遵守（10％）、規定に従った論文の作成（20％）、著作権への適切な対処（40％）、私見の論理構成（20％）、参考文献の量（10％）によって評価する。																		
学生へのメッセージ	自分で設定したテーマについて深く追求し、期限を守って適切な論文を執筆しましょう。																		
担当者の研究室等	11 号館 10 階																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	寺山 洋一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	法学部ディプロマポリシーに基づき、雇用・労働及び社会保障に関する法律並びに法学一般に関する諸問題について、履修者各自の関心に沿って卒業研究のテーマを設けた上で、それに関する判例・学説の調査や立法的な情報収集を通じ、自らの考察を展開するとともに、多角的な立場に配慮しつつ、説得力ある卒業論文を作成することを目的とします。 併せて、12月頃に開催される法学部主催の卒業研究発表会において、卒業研究の成果について、口頭で質疑を交えつつ報告することを目的とします。																		
到達目標	この演習を通じ、ゼミ生には、法学士を得るにふさわしい研究水準の公開報告を行った上で、最終的に研究論文を完成できるようになることが期待されます。																		
授業方法と留意点	専門演習で念頭に置いた各自の研究テーマについて、さらに掘り下げて研究します。 各自の研究テーマを深掘りするため、個別の質疑応答やグループでの打合せ、全体討議などを行います。 ゼミ生それぞれの進路状況を踏まえて、個別に論文指導を行うことがあります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業論文の作成に際し、必要な判例検索、文献リサーチ及び立法的な情報収集の方法並びに社会科学系論文の作成方法について、個別に指導を行います。																		
関連科目	労働保護法、労働組合法、社会保障法など																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>開講時に説明します</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	開講時に説明します			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	開講時に説明します																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>開講時に説明します</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	開講時に説明します			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	開講時に説明します																		
2																			
3																			
評価方法（基準）	卒業研究について、各自のテーマと論述方法との関係及びその理解度を中心に、その作成への取組姿勢及び下書き等の原稿（50%）並びに完成した論文（50%）を併せて評価します。 殊に、後者の卒業論文に対する評価については、以下の①から⑤まで項目について、ルーブリック評価【到達度評価＝A（よくできている）、B（平凡）、C（あまりできていない）】を用いて行います。 ① 問題提起を適切にしているか（20%） ② 提起した問題に関連する判例、先行研究（学説）及び立法的な経緯を十分に、かつ、主体的に調査してい																		
学生へのメッセージ	法学系の論文の作成に当たっては、担当教員とのコミュニケーションを図りつつ行うのが標準的です。 随時、遠慮なく相談してください。																		
担当者の研究室等	11 号館 9 階 寺山教授室																		
備考	事前学習として、判例・学説の調査や立法的な情報取集など、毎回2時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、論文原稿の草稿及び修文などについて、毎回2時間以上の復習に取り組むこと。																		

科目名	海外語学研修	科目名 (英文)	Overseas Language Training
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	ブーロミット サツィヤト
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎, DP8△		
科目ナンバリング	JEN2333c1		

授業概要・目的	本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程 (GCMP) の必修科目の一つである。GCMP は、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン（地球市民）の育成を目指す副専攻である。GCMP は、国連が定める持続可能な開発目標 (SDGs) 目標 4.7 「2030 年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得するようにする」に資するものである。 本科目の受講生は、グローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのいずれかに参加する。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シティズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この授業で得られた反省点を帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習（応用）での学びに生かすことが期待される。 なお、本科目は単独で履修することもできるが、主としてグローバル・シチズンシップ副専攻課程 (GCMP) の履修者を想定し、GCMP の必修科目「グローバル・シチズンシップ海外実習（入門）」と「海外語学研修」は目標や学習内容を共有する。																			
到達目標	・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。 ・派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 ・派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。 ・事前・事後授業等を含めた訓練により、外国語運用能力を向上させる。派遣先の人々と、英語、																			
授業方法と留意点	・事前授業、現地派遣、事後授業の 3 つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5 限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合（アルバイト、旅行等）による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 ・グローバル・シチズンシップ副専攻課																			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会～事前授業～現地派遣～事後授業のサイクルが、年間 2 回実施される。（ ）内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の 2～3 月になる場合のスケジュールである。 ・募集説明会：4 月中旬 （9 月下旬～10 月上旬） ・事前授業 10 回：6 月中下旬～7 月下旬 （11 月～2 月） ・現地派遣：2 週間程度 8 月中旬～9 月上中旬 （2 月中下旬～3 月下旬） ・事後授業 5 回（成果報告会含む）：9 月～10 月中旬 （3 月～4 月下旬） 【注意】新型コロナウイルス拡大の影響により、海外に渡航できない場合は、オンラインプログラムでの実施になる予定です。詳細は随時ポータルサイトで連絡します。 本科目を受講する学生は、まずグローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのうちいずれかに参加申し込みをしなくてはならない。各派遣プログラムは日程、実習内容、参加費用などいずれも異なる。また、所属学部によっては選択できないプログラムもある。また、年度末の 2～3 月に現地派遣されるプログラムの場合は、単位認定の年度は翌年度となる。募集説明会に出席し、不明の点があれば問い合わせ、早めに計画を立てることが重要である。 事前授業では、「地球市民」の概念を理解し、派遣先の社会事情と課題について自ら情報収集をして問いをたて、現地での実習から最大限の成果を得られるよう準備する。国連が定める持続可能な開発目標 (SDGs) についてのワークショップ等を行う。語学力をはじめ、現地で必要となる技能について、自主的な訓練計画を立て、実行する。英語力に関しては、グローバル教育センターが提供する英語ワークショップである ECW (English Conversation Workshop)、学習支援センターでの英語チュータリング、ATR-CALL の英語 e-learning サービスなど、学内の学習資源を積極的に利用する。 派遣先では安全と健康が最優先であり、団体行動、ルール順守が求められる。そのいっぽうで、指示された行動をただ遂行するにとどまてはいけない。成功体験や挫折体験は自分の能力の限界に挑戦しなければ得られない。現地の事情について一つでも多くのことを知り、現地の人と一人でも多く知り合い、少しでも深く互いに理解し合えるように行動する。成果報告につなげられるよう、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。何らかの資料が手に入れば整理して持ち帰る。 事後授業では、現地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとっての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書（レポート）および小グループでの成果報告プレゼンテーションを作成する。第三者にとって興味深く、分かりやすい成果報告を目指す。																			
関連科目	グローバル・シチズンシップ論（入門）、グローバル・シチズンシップ論（応用）、グローバル・シチズンシップ海外実習（応用）、Topics in Global Citizenship (EMI)、摂南大学 PBL プロジェクト I など																			
教科書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法（基準）	事前授業評価 30％（規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合） 現地活動評価 4 0％（現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合） 事後授業評価 3 0％（成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価）																			
学生へのメッセージ	在学中に一度は海外に行きましよう。いけるなら二度行きましよう。二度行けるなら、グローバル・シチズンシップ副専攻の入門、応用の実習で二度行きましよう。																			

担当者の 研究室等	各海外派遣プログラムに関する相談、グローバル・シチズンシップ副専攻プログラム全体に関する相談は 3 号館 1 階グローバル教育センター まで 教員室 1（2 号館 2 階）
備考	

科目名	地域学入門	科目名（英文）	Introduction to Regional Studies
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JL01344a1		

授業概要・目的	地域に関わるさまざまな視点を学び、それについて他者と対話することを通じて、受講生一人ひとりがこれから地域とどのように向き合い、どのように行動していくかを考えていきます。 本講義は、対話、グループワーク、プレゼンテーションを積極的に取り入れながら進めます。																		
到達目標	・地域のことを学ぶ意義を理解する。 ・地域が抱えるさまざまな課題を把握する。 ・グループ内で相互理解を図りながら活動できる。 ・グループにおける自分の役割を理解しながら活動できる。 ・地域の担い手としての自覚を持ち、自身と地域との今後の関わり方を具体的に描くことができる。																		
授業方法と留意点	グループでの対話や発表、レポートの作成といったグループワークが中心の授業です。 グループワークで学習を進めますので、グループのメンバーに迷惑がかからないよう責任のある行動をしてください。 講義は基本的に土曜日に不定期開催します。なお、講義の日程は変更となる場合があります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	講義は基本的に土曜日に不定期開催します。なお、講義の日程は変更となる場合があります。 < 4月6日（土）1～3限> 第1回 「地域と私」への取り組み方；オリエンテーション 授業の進め方／ひとこと自己紹介 第2回 地域との関わり方 ～『調査されるという迷惑』を読む～ グループディスカッション／教室内での共有 第3回 地域のいまとその担い手 地域福祉の視点から概説／グループディスカッション／教室内での共有 < 4月20日（土）1～3限> 第4回 インタビューにチャレンジ ～聴く、掘り下げる、まとめる～ グループづくり／グループ内での相互インタビュー／インタビューで聴いた内容をメモする 第5回 質的データの分析にチャレンジ メモの内容を整理する／分析する 第6回 「身近な地域の課題解決・魅力磨き」をグループ、教室でシェアしよう 「身近な地域の課題解決・魅力磨き」について教室内プレゼンテーション&ディスカッション < 5月18日（土）1, 2限> 第7回 地域に関するテーマを選定しよう 『『地域』に関する文献の整理』についてのグループ内プレゼンテーション／グループで取り組むテーマの決定／グループワークの実施スケジュールの検討 第8回 グループワークについてシェアしよう グループワークテーマの教室内での共有・対話 < 6月1日（土）1, 2限> 第9回 グループワークの中間報告会 第10回 グループワークに「具体的な地域」の視点を盛り込もう 「地域福祉」の実践事例から考える／選定したテーマを「具体的な地域」から考える < 6月15日（土）1, 2限> 第11回 グループワークに「担い手」の視点を盛り込もう テーマごとに「登場人物」を考える 第12回 大学生は地域のためになにができるかを考えよう 地域と学生の協働的実践について概説／地域の担い手としての大学生の可能性／地域の担い手としての大学生の強みと弱みについて考える 個人ワーク／グループディスカッション／教室内での共有 < 6月29日（土）1～3限> 第13回 最終報告会① 第14回 最終報告会② 第15回 講義のふりかえり 本科目の受講にあたっては、講義準備および復習として事前、事後学習を各回2時間程度、合計60時間取り組んでいただきます。																		
関連科目	ソーシャル・イノベーション副専攻科目群																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	学びレポート（個人ワーク）30% 「身近な地域の課題解決・魅力磨き」「『地域』に関する文献の整理」成果物（個人ワーク）20% 学びのグループワークレポート 30% 最終報告会でのプレゼンテーション 20%（ルーブリック評価）																		

	なお、60%で合格とする。
学生への メッセージ	地域で起きていることを自分ごとにしていくための基礎を形成する授業です。また、副専攻科目を履修していくうえでの、基本的な学びができる科目でもあります。基本をしっかり身につけ、さらに学びを深めるためにも、主体的な学びの姿勢を期待します。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス3号館3階 上野山研究室
備考	

科目名	地域と私	科目名 (英文)	Introduction to Regional Science
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	V 科: II ◎, R 科: A ◎, A 科: A ◎, M 科: A1o, E 科: Ao, C 科: II ◎, L 科: DP2◎, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP8△, J 科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科: TL01452a1, L 科: LL01354a1, D 科・S 科: IL01361a1, P 科: YL01417a2, J 科: JL01363a1, W 科: WL01342a1, N 科: NL01343a1		

授業概要・目的	地域に関わるさまざまな視点を学び、それについて他者と対話することを通じて、受講生一人ひとりがこれから地域とどのように向き合い、どのように行動していくかを考えていきます。 本講義は、対話、グループワーク、プレゼンテーションを積極的に取り入れながら進めます。																		
到達目標	・地域のことを学ぶ意義を理解する。 ・地域が抱えるさまざまな課題を把握する。 ・グループ内で相互理解を図りながら活動できる。 ・グループにおける自分の役割を理解しながら活動できる。 ・地域の担い手としての自覚を持ち、自身と地域との今後の関わり方を具体的に描くことができる。																		
授業方法と留意点	グループでの対話や発表、レポートの作成といったグループワークが中心の授業です。 グループワークで学習を進めますので、グループのメンバーに迷惑がかからないよう責任のある行動をしてください。 講義は基本的に土曜日に不定期開催します。なお、講義の日程は変更となる場合があります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	＜4月6日（土）1～3限＞ 第1回 「地域と私」への取り組み方；オリエンテーション 授業の進め方／ひとこと自己紹介 第2回 地域との関わり方 ～『調査されるという迷惑』を読む～ グループディスカッション／教室内での共有 第3回 地域のいまとその担い手 地域福祉の視点から概説／グループディスカッション／教室内での共有 ＜4月20日（土）1～3限＞ 第4回 インタビューにチャレンジ ～聴く、掘り下げる、まとめる～ グループづくり／グループ内での相互インタビュー／インタビューで聴いた内容をメモする 第5回 質的データの分析にチャレンジ メモの内容を整理する／分析する 第6回 「身近な地域の課題解決・魅力磨き」をグループ、教室でシェアしよう 「身近な地域の課題解決・魅力磨き」について教室内プレゼンテーション&ディスカッション ＜5月18日（土）1, 2限＞ 第7回 地域に関するテーマを選定しよう 『『地域』に関する文献の整理』についてのグループ内プレゼンテーション／グループで取り組むテーマの決定／グループワークの実施スケジュールの検討 第8回 グループワークについてシェアしよう グループワークテーマの教室内での共有・対話 ＜6月1日（土）1, 2限＞ 第9回 グループワークの中間報告会 第10回 グループワークに「具体的な地域」の視点を盛り込もう 「地域福祉」の実践事例から考える／選定したテーマを「具体的な地域」から考える ＜6月15日（土）1, 2限＞ 第11回 グループワークに「担い手」の視点を盛り込もう テーマごとに「登場人物」を考える 第12回 大学生は地域のためになにができるかを考えよう 地域と学生の協働的实践について概説／地域の担い手としての大学生の可能性／地域の担い手としての大学生の強みと弱みについて考える 個人ワーク／グループディスカッション／教室内での共有 ＜6月29日（土）1～3限＞ 第13回 最終報告会① 第14回 最終報告会② 第15回 講義のふりかえり 本科目の受講にあたっては、講義準備および復習として事前、事後学習を各回2時間程度、合計60時間取り組んでいただきます。																		
関連科目	ソーシャル・イノベーション副専攻科目群																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	学びレポート（個人ワーク）30％ 「身近な地域の課題解決・魅力磨き」「『地域』に関する文献の整理」成果物（個人ワーク）20％																		

	学びのグループワークレポート 30% 最終報告会でのプレゼンテーション 20%（ルーブリック評価） なお、60%で合格とする。
学生への メッセージ	地域で起きていることを自分ごとにしていくための基礎を形成する授業です。また、副専攻科目を履修していくうえでの、基本的な学びができる科目でもあります。基本をしっかり身につけ、さらに学びを深めるためにも、主体的な学びの姿勢を期待します。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 3 号館 3 階 上野山研究室
備考	

科目名	地域貢献実践演習	科目名 (英文)	Practical Training for Social Innovation
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ◎, E 科 : A ◎, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, DP5 △, DP6 △, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, P 科 : DP8 △, J 科 : DP1 ◎, DP6 ◎, DP7 ◎, W 科 : DP1 ◎, DP7 ◎, N 科 : DP1 ◎N : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TL03457a1, L 科 : LL03366a1, D 科・S 科 : IL03366a1, P 科 : YL03422a2, J 科 : JL03368a1, W 科 : WL0347a1, N 科 : NL03348a1		

授業概要・目的	この科目はソーシャル・イノベーション副専攻過程における実践科目です。4 月・5 月の半ばまではこれまでの講義やフィールドワークで見つけた学びを総合的に活かして、地域の課題により深く関与し、課題の解決を導くための計画策定から、実施、検証に至るまでを主体的に学ぶための準備を行います。5 月後半（予定）からは連携先ご担当者様と密に連携しながら、課題の抽出、要因の理解、活動計画の立案を行い、課題解決・低減に向けて実践を行います。現地で実践と振り返りを繰り返しながら、当初立てた目標達成に向けた知識と技術の向上と責任ある行動を続けられる姿勢の確立を目的とします。 SDGs 全般																		
到達目標	①これまで学んだ理論を実践に結びつけて、考察し行動することができる。 ②課題派遣から解決までの PDCA サイクルを回すことができる ③チームで活動することができる ④チーム内での役割を理解し協調的な行動ができる。 ⑤連携先の多様性、独自性などを理解した上で、解決策を提示することができる。																		
授業方法と留意点	4 月・5 月までは座学とディスカッションを行うため、講義内で課題が出ることもある。 また前期の途中より各連携先のフィールドに赴き、活動を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. オリエンテーション/副専攻修了者のイメージ、受講方法 ：4 月 12 日（金）5 限 ※ 2 回目以降の講義の日時は初回の講義で決定する。なお開講曜日は金曜日 5 限を予定しているが履修学生の時間割次第で変更になることもある。 2. チームビルディングワーク 3. 連携先様に登壇いただき、連携先様の課題に関する話題提供 4. 連携先様のお話を踏まえ、調べたこと、今後取り組みたいこと等に関するプレゼンテーション 5. 以降は 現地に赴き、実践を繰り返す。 ※概ね 3 週間に一回、全員で集合し途中経過の報告会を行う。日時には担当教員の指示に従うこと。 ※12 月末（日時未定）に成果報告会を行う																		
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程関連科目																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	課題提出物 30% 活動の取り組み状況 50% 最終報告等 20%																		
学生へのメッセージ	副専攻で学修した成果を実践活動で発揮しつつ、更に成長できるように主体的に取り組んでくんでほしい。																		
担当者の研究室等	水野武（寝屋川キャンパス 7 号館 3 階）																		
備考																			

科目名	教育実習Ⅱ	科目名（英文）	Teaching Practice II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明, 鎌田 祥輝, 谷口 雄一, 西村 晃一, 松浦 正典, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「教育実習Ⅱ」では、教育実習校において10日間以上（80時間以上）の実習を行う。（1）教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。（2）事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。（3）教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。（4）事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。																		
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。																		
授業方法と留意点	（1）教育実習校での実習を中心に行う。（2）大学での事前指導・事後指導は「教育実習Ⅲ」と合同で行う。（3）事前指導・事後指導の受講（出席および課題等提出）は教育実習実施要件である。要件を充足しない場合は実習中止または単位不認定となることに留意すること。（4）事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や教職課程年間行事予定表に従うこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1 教育実習特別個別指導（4月） 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じる。 2 教育実習事前指導（4月第3・第4土曜日午後；詳細は教職課程年間行事予定表を参照） 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出 3 教育実習個別指導（4月～7月） 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること（必要な者のみ）。 4 前期教育実習開始（5月～7月） 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 5 後期教育実習開始（8月～11月） 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 6 教育実習事後指導（7月～11月） 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。 7 教職フォーラム（教育実習体験発表会）（10月第3土曜日午後；詳細は教職課程年間行事予定表を参照） 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。 8 教育実習総括講義（11月最終土曜日午前；詳細は教職課程年間行事予定表を参照） 教育実習のまとめとして、その成果を確認し、講評を行う。 総括講義に出席後、総括レポートを作成、提出する。 「教育実習記録」を提出する。																		
関連科目	教職関連科目全般																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td>新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項</td><td>教育実習を考える会</td><td>蒼丘書林</td></tr> <tr> <td>2</td><td>学習指導要領解説</td><td>文部科学省</td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林	2	学習指導要領解説	文部科学省		3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林																
2	学習指導要領解説	文部科学省																	
3																			
評価方法（基準）	事前指導ならびに事後指導への積極的参加（体験発表およびその準備を含む）（15%）、実習校における実習成績（60%）、事前指導・事後指導における課題等提出物（教育実習記録を含む）（25%）による総合評価を行う。なお、事前指導・事後指導の受講（出席および課題等提出）は教育実習実施要件であり、これを充足しなければ教育実習中止または単位不認定となることに留意すること。																		
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。																		
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス7号館3階（松浦研究室、朝日研究室、西村研究室、吉田研究室、鎌田研究室） 寝屋川キャンパス7号館4階（谷口研究室）																		
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前指導および事後指導における事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。																		

科目名	教育実習Ⅲ	科目名（英文）	Teaching Practice III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4 年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明, 鎌田 祥輝, 谷口 雄一, 西村 晃一, 松浦 正典, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「教育実習Ⅲ」では、教育実習校において 15 日間以上（120 時間以上）の実習を行う。（１）教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。（２）事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。（３）教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。（４）事後指導では、教育実習体験発表及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。																		
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。																		
授業方法と留意点	（１）教育実習校での実習を中心に行う。（２）大学での事前指導・事後指導は「教育実習Ⅱ」と合同で行う。（３）事前指導・事後指導の受講（出席および課題等提出）は教育実習実施要件である。要件を充足しない場合は実習中止または単位不認定となることに留意すること。（４）事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や教職課程年間行事予定表に従うこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1 教育実習特別個別指導（４月） 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じること。 2 教育実習事前指導（４月第３・第４土曜日午後；詳細は教職課程年間行事予定表を参照） 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出 3 教育実習個別指導（４月～７月） 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること（必要な者のみ）。 4 前期教育実習開始（５月～７月） 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 5 後期教育実習開始（８月～１１月） 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 6 教育実習事後指導（７月～１１月） 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。 7 教職フォーラム（教育実習体験発表会）（１０月第３土曜日午後；詳細は教職課程年間行事予定表を参照） 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。 8 教育実習総括講義（１１月最終土曜日午前；詳細は教職課程年間行事予定表を参照） 教育実習のまとめとして、その成果を確認し、講評を行う。 総括講義に出席後、総括レポートを作成、提出する。 「教育実習記録」を提出する。																		
関連科目	教職関連科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須 6 6 項</td><td>教育実習を考える会</td><td>蒼丘書林</td></tr> <tr> <td>2</td><td>学習指導要領解説</td><td>文部科学省</td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須 6 6 項	教育実習を考える会	蒼丘書林	2	学習指導要領解説	文部科学省		3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須 6 6 項	教育実習を考える会	蒼丘書林																
2	学習指導要領解説	文部科学省																	
3																			
評価方法（基準）	事前指導ならびに事後指導への積極的参加（体験発表およびその準備を含む）（15%）、実習校における実習成績（60%）、事前指導・事後指導における課題等提出物（教育実習記録を含む）（25%）による総合評価を行う。なお、事前指導・事後指導の受講（出席および課題等提出）は教育実習実施要件であり、これを充足しなければ教育実習中止または単位不認定となることに留意すること。																		
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。																		
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 7 号館 3 階（松浦研究室、朝日研究室、西村研究室、吉田研究室、鎌田研究室） 寝屋川キャンパス 7 号館 4 階（谷口研究室）																		
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前指導および事後指導における事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。																		

科目名	地域実習	科目名 (英文)	Introductory Training for Regional Study
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	朝田 康禎・古矢 篤史
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ◎, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科: TT01461a1～TT01465a1, L 科: LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科: IT01371a1～IT01375a1, J 科: JT01361a～JT01365a1, W 科: WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	地域での課題を発見し、それを解決できる力を養うには、まず「地域」というものを体験を通じ理解することから始まります。本科目は、ソーシャルイノベーション副専攻課程 1 年次の必修科目で、主としてフィールドワークを中心に授業を実施します。また、本科目は 2 年次の「摂南大学 PBL プロジェクト」、3 年次の「地域貢献実践演習」等の基礎となる科目として位置づけしています。地域の人々とのコミュニケーションや協働を通じて、目標の設定から達成までの過程を体験学習により学び、地域での課題等について理解を図ります。																		
到達目標	①地域での実態を理解する。 ②チームで働く意義を理解する。 ③役割行動のあり方について理解する。 ④地域の方々とのコミュニケーションができるようになる。																		
授業方法と留意点	教室での授業とグループワーク、フィールドワークです。通年授業なので毎週、教室で授業があるのではなく、詳しいスケジュールは第 1 回授業で案内します。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【重要】第 1 回授業は前期の班決めなどをしますので、必ず出席してください。もし、出席できない時は必ず事前に Teams のチャット機能で担当教員に連絡してください。また、授業の性質上、授業開始後、2～3 回たってから参加するということもできません。その場合は履修辞退となります。授業開始後、欠席が続いたままの場合は単位認定できませんので、必ず初回から出席してください。 【授業内容】 1 チーム 10 名以内のチームを作り、地域での活動に取り組みます。 1. 年間計画を作成する。 2. 役割を決める。 3. 地域等で活動を行う。 4. 活動報告をまとめ、ふりかえる。 5. スケジュール管理をする。 6. 課題があれば、チームで話し合い解決に導く。 上記の 1～6 の活動を通じて自分たちの計画を自ら評価したり改善したりしながら、当初に設定した目標を達成できるよう、チームで協力して計画を実行していきます。第 1 回授業はで詳しい内容やスケジュールを説明し、受講者がどの取組内容に参加するかなどを決定します。この授業の実習先は寝屋川市の社会教育施設を予定しています。社会教育施設とは図書館、博物館、体育館、ホールなど市民なら誰でも学習にいくことのできる公的施設の事です。このような施設に実習にいくことによって市民が社会教育に参加する意義や運営の課題などを学んでいきます。 【前期】 開講時間はいずれも 6 時間目です。通年授業なので毎週教室で授業があるのではなく、前期は 2 週間に 1 回程度です。実習や実習先挨拶以外の日は学内教室での授業です。具体的日には調整中ですので、第 1 回授業で案内します。 第 1 回「ガイダンス（授業概要の説明）」 第 2 回「寝屋川市の現状を考える (1)」 第 3 回「寝屋川市の現状を考える (2)」 第 4 回「寝屋川市まちあるき」(学外) 第 5 回「社会教育とは (1)」 第 6 回「社会教育とは (2)」 第 7 回「まちあるき報告会」 第 8 回「実習先挨拶」(学外) 第 9 回「実習先挨拶の結果報告とそのふりかえり」 第 10 回～第 18 回 「実習」(学外) (主に夏季休暇中に行います) 【後期】 後期の詳しい日程・発表方法等は改めてお知らせします。 第 19 回「実習ふりかえり (1)」 第 20 回「実習ふりかえり (2)」 第 21 回「全体報告会」																		
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	提出物 (20%)、活動への参画の程度 (40%)、最終報告プレゼンテーション (20%)、最終レポート (20%)																		
学生へのメッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみましょう！																		
担当者の研究室等	朝田研究室 (寝屋川キャンパス、1 号館 7 階)																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	村瀬 憲昭, 下元 一輝
ディプロマポリシー (DP)	V 科：Ⅱ◎, R 科：A◎, A 科：A◎, M 科：A1○, E 科：B△, C 科：Ⅱ◎, L 科：DP2◎, D 科：DP1◎, S 科：DP1◎, J 科：DP1◎, W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1, L 科：LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1, J 科：JT01374a～JT01378a1, W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	市役所（町役場）の職員、自治会の役職者、市民（町民）などの組織・活動グループと学生が協力してプロジェクトを進める経験を通じて、学生の社会人基礎力や人間力の向上を図る。プロジェクトの企画・運営においては、担当教員の指導の下で、必要な情報の収集方法や関係者との連絡調整方法、プロジェクトを円滑に進めるための「段取り」を習得する。 ①調査：地域の現状や課題を調べ、プロジェクトの実現可能性を探る。 ②企画：プロジェクトの企画案を作成し、実現可能性、コスト、実施期間、有効性などに関する評価を行う。 ③関連する団体に企画案をプレゼンテーションし、必要に応じて修正した上で、詳細な実施計画を作成する。 ④実施：実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中で実施状況を関係機関に報告し計画の修正を行う。 ⑤結果報告：プロジェクトの終了時に関係機関に実施結果を報告し、次年度以降のプロジェクトの実施について話し合う。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	基本的には対面授業とするが、オンライン授業になった場合は、ICT ツールを活用した遠隔授業とする。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	社会人として必要な「主体性・実行力・課題発見力・発言力」を連携先との協働作業によって実践的に学ぶ。仕事全体をひとつひとつの細かいタスクに分割し、そこで必要な時間をゴール（締切日）から逆算することで、これらのタスクをいつ行うべきなのかを明確にし、仕事を前倒してやる習慣を身につける。 具体的には①仕事の全体像を把握し各タスクに分割する、②優先順位を付けて作業手順を決定する、③分担したタスクを各グループが責任を持って行い、自分たちで評価・改善ができるようにする。また、各グループでの活動を通じて、グループをまとめる役割とサポートスタッフとしての役割の重要性を体感する。 活動対象の地方自治体： 大阪府寝屋川市、交野市、和歌山県すさみ町 SDG s ゴール：4・11・17																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	参加態度 40%、企画力 20%、コミュニケーション能力 20%、発表能力 20%で評価する。																		
学生へのメッセージ	仲間と協力して活動を進めていく中で、互いに率直に意見を出し合い、次の活動に向けて積極的に改善に取り組むことを期待しています。																		
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 1 号館 7 階 村瀬研究室																		
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	村瀬 憲昭, 下元 一輝
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎, R科：A◎, A科：A◎, M科：A1○, E科：B△, C科：Ⅱ◎, L科：DP2◎, D科：DP1◎, S科：DP1◎, J科：DP1◎, W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1, L科：LT01366a1～LT01370a1, D科・S科：IT01371a1～IT01375a1, J科：JT01374a～JT01378a1, W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	市役所（町役場）の職員、自治会の役職者、市民（町民）などの組織・活動グループと学生が協力してプロジェクトを進める経験を通じて、学生の社会人基礎力や人間力の向上を図る。プロジェクトの企画・運営においては、担当教員の指導の下で、必要な情報の収集方法や関係者との連絡調整方法、プロジェクトを円滑に進めるための「段取り」を習得する。 ①調査：地域の現状や課題を調べ、プロジェクトの実現可能性を探る。 ②企画：プロジェクトの企画案を作成し、実現可能性、コスト、実施期間、有効性などに関する評価を行う。 ③関連する団体に企画案をプレゼンテーションし、必要に応じて修正した上で、詳細な実施計画を作成する。 ④実施：実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中で実施状況を関係機関に報告し計画の修正を行う。 ⑤結果報告：プロジェクトの終了時に関係機関に実施結果を報告し、次年度以降のプロジェクトの実施について話し合う。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	基本的には対面授業とするが、オンライン授業になった場合は、ICT ツールを活用した遠隔授業とする。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	社会人として必要な「主体性・実行力・課題発見力・発言力」を連携先との協働作業によって実践的に学ぶ。仕事全体をひとつひとつの細かいタスクに分割し、そこで必要な時間をゴール（締切日）から逆算することで、これらのタスクをいつ行うべきなのかを明確にし、仕事を前倒してやる習慣を身につける。 具体的には①仕事の全体像を把握し各タスクに分割する、②優先順位を付けて作業手順を決定する、③分担したタスクを各グループが責任を持って行い、自分たちで評価・改善ができるようにする。また、各グループでの活動を通じて、グループをまとめる役割とサポートスタッフとしての役割の重要性を体感する。 活動対象の地方自治体： 大阪府寝屋川市、交野市、和歌山県すさみ町 SDGs ゴール：4・11・17																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	参加態度 40%、企画力 20%、コミュニケーション能力 20%、発表能力 20%で評価する。																		
学生へのメッセージ	仲間と協力して活動を進めていく中で、互いに率直に意見を出し合い、次の活動に向けて積極的に改善に取り組むことを期待しています。																		
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 1号館7階 村瀬研究室																		
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー (DP)	V 科：Ⅱ◎, R 科：A◎, A 科：A◎, M 科：A1○, E 科：B△, C 科：Ⅱ◎, L 科：DP2◎, D 科：DP1◎, S 科：DP1◎, J 科：DP1◎, W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1, L 科：LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1, J 科：JT01374a～1JT01378a1, W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	授業概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。 目的：寝屋川市自然体験学習室の活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 地域の子どもたちの環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での環境保全活動や水辺再生の現場を題材に学習・調査を進める。プロジェクト																		
授業方法と留意点	連携内容・方法：自然体験学習室では、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や淀川愛好会に所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。 留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト 内容： - 寝屋川市自然体験学習室における環境学習支援 - 点野水辺再生地区を中心とした水辺再生学習の実施 - 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 - 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 - 環境保全活動（天然アユ復活、木津川での伝統工法を用いた環境改善）の学習 - いい川・いい川づくりワークショップ等での発表 方法：授業のうち半分（月1回）は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を得得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。 他の半分（月1回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。 学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト（6月）、近畿水環境交流会（8月）、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。 授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。																		
関連科目	事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポート課題を課す。 自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C科） 科学技術教養C 教養特別講義「SDGsで読み解く淀川流域」																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。（60％） 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。（40％）																		
学生へのメッセージ	子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。																		
担当者の研究室等備考	寝屋川キャンパス 1号館3階 石田研究室																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー（DP）	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：B△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	授業概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。 目的：寝屋川市自然体験学習室の活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 地域の子どもたちの環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での環境保全活動や水辺再生の現場を題材に学習・調査を進める。プロジェクト																		
授業方法と留意点	連携内容・方法：自然体験学習室では、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や淀川愛好会に所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。 留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト 内容： 1. 寝屋川市自然体験学習室における環境学習支援 2. 点野水辺再生地区を中心とした水辺再生学習の実施 3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 5. 環境保全活動（天然アユ復活、木津川での伝統工法を用いた環境改善）の学習 6. いい川・いい川づくりワークショップ等での発表 方法：授業のうち半分（月1回）は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を得得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。 他の半分（月1回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。 学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト（6月）、近畿水環境交流会（8月）、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。 授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。																		
関連科目	事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポート課題を課す。 自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C科） 科学技術教養C 教養特別講義「SDGsで読み解く淀川流域」																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。（60%） 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。（40%）																		
学生へのメッセージ	子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。																		
担当者の研究室等備考	寝屋川キャンパス 1号館3階 石田研究室																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅠ	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 美保・大塚 正人
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎, R科：A◎, A科：A◎, M科：A1○, E科：B△, C科：Ⅱ◎, L科：DP2◎, D科：DP1◎, S科：DP1◎, J科：DP1◎, W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1, L科：LT01366a1～LT01370a1, D科・S科：IT01371a1～IT01375a1, J科：JT01374a1～JT01378a1, W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	食品ロスは世界でも課題になっていることですが、日本の食品ロス量は世界的に見ても多く、世界の食糧支援量よりも多いという現状があります。食品ロスは環境、貧困、経済等さまざまな分野の課題とも関連するものであり、食という日ごろ身近に行う行動とも関わりのあるもので、一人一人が意識をもって行動する必要がある課題です。その課題解決（食品ロス削減）に向けた取り組みを考え、実践し、多くの人にシェアする活動を行います。																		
到達目標	【PBLプロジェクト共通目標】 参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 【本プロジェクト目標】 ・食品ロスの現状と関連する課題を理解する。 ・食品ロス削減に向けた活動を提案し、実施することができる。 ・プロジェクトに関わる多様な人々と対話し、相手の意見を尊重しながら、自身の考えを構築し、説明し、一定の合意形成を図ることができる。																		
授業方法と留意点	グループでの活動が中心となり、外部機関とも連携し、活動を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【内容】 ・食品ロスについて ・調査活動 ・イベント参加 ・小冊子等作成 【方法】 ・食品ロスについて：講義+演習形式 ・その他の内容：グループ活動 【事後学習】 受講生には活動日誌を配布する。ミーティングおよび各活動後に話し合いや活動の内容、感想、反省点を記録すること。プロジェクト終了時に最終レポートを提出してもらう。レポートはプロジェクトを通して学んだこと、自身が貢献できた点、不足していた点を振り返るものとする。																		
関連科目	グローバル・シチズンシップ論（入門）、グローバルシチズンシップ論（応用）																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	各活動への貢献度 60%、活動日誌・最終レポート 40%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	鎌田講師室（寝屋川キャンパス 2号館 2階）																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅡ	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 美保・大塚 正人
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：B△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	食品ロスは世界でも課題になっていることですが、日本の食品ロス量は世界的に見ても多く、世界の食糧支援量よりも多いという現状があります。食品ロスは環境、貧困、経済等さまざまな分野の課題とも関連するものであり、食という日ごろ身近に行う行動とも関わりのあるもので、一人一人が意識をもって行動する必要がある課題です。その課題解決（食品ロス削減）に向けた取り組みを考え、実践し、多くの人にシェアする活動を行います。																		
到達目標	【PBLプロジェクト共通目標】 参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 【本プロジェクト目標】 ・食品ロスの現状と関連する課題を理解する。 ・食品ロス削減に向けた活動を提案し、実施することができる。 ・プロジェクトに関わる多様な人々と対話し、相手の意見を尊重しながら、自身の考えを構築し、説明し、一定の合意形成を図ることができる。																		
授業方法と留意点	グループでの活動が中心となり、外部機関とも連携し、活動を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【内容】 ・食品ロスについて ・調査活動 ・イベント参加 ・小冊子等作成 【方法】 ・食品ロスについて：講義+演習形式 ・その他の内容：グループ活動 【事後学習】 受講生には活動日誌を配布する。ミーティングおよび各活動後に話し合いや活動の内容、感想、反省点を記録すること。プロジェクト終了時に最終レポートを提出してもらう。レポートはプロジェクトを通して学んだこと、自身が貢献できた点、不足していた点を振り返るものとする。																		
関連科目	グローバル・シチズンシップ論（入門）、グローバルシチズンシップ論（応用）																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	各活動への貢献度 60%、活動日誌・最終レポート 40%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	鎌田講師室（寝屋川キャンパス 2号館 2階）																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	朝田 康禎・古矢 篤史
ディプロマポリシー (DP)	V 科：Ⅱ◎, R 科：A◎, A 科：A◎, M 科：A1○, E 科：B△, C 科：Ⅱ◎, L 科：DP2◎, D 科：DP1◎, S 科：DP1◎, J 科：DP1◎, W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1, L 科：LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1, J 科：JT01374a～JT01378a1, W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	プロジェクト名：キッズイベントイベントを創ろう！ 【概要】 寝屋川市の地域交流センターであるアルカスホールの自主事業を企画から実施まで担当する。2024 年度は小学生を対象としたイベントを企画し、協力組織スタッフのご指導のもと企画から出演者との交渉・経理・準備・実施・事後処理までを行う。 【目的】 アルカスホールでは、毎年自主事業としてさまざまなイベントを企画・運営している。学生の発想・感覚を活かしたものにしたいとのことから、企画段階から学生の参画が求められている。指定管理者が行う自主事業運営に興味をもつ学生と現場スタッフが協働で事業を企画し、運営を行うことにより、企業がもつノウハウを学生が学ぶとともに、学生などの若い世代が参加できる自主事業を実現する。																		
到達目標	【PBL プロジェクト到達目標（共通）】 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 上記に加えて、本プロジェクトでは以下のことも到達目標とする。 1. 市民のニーズを把握した上で自由な発想に基づき、新しい音楽イベントを企画・運営する。 2. 十分な準備を行った上でイベントを成功に導く。 3. イベント後の処理を適切に行う。																		
授業方法と留意点	連携先や学生同士など、人と関わりながら学ぶことが中心となる。積極的に関わるのが求められる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業計画】 4 月 ご挨拶 5 月 企画会議 6 月 自主事業内容の決定および出演交渉 7 月 中間報告会 寝屋川市に報告、寝屋川市広報に記事掲載依頼 8 月 チラシのデザイン作業 9 月 チラシの印刷・配付およびチケット作成 10 月 ポスターセッション チケット発売開始 11 月 打ち合わせ（出演者、舞台スタッフ、学生関係者） 12 月 最終報告会 準備および本番 この他に「基礎講座」全 9 回を受講すること これらの活動を通じて、以下のことを身につける。 1. イベントがどのように企画・運営されているのか、体験的に知る。 2. 企画したイベントが実行されるまでのスケジュール管理を身につける。 3. 連携先・出演者との交渉をする中で、社会人として必要なマナーを身につける。 4. メンバー及び連携先とのディスカッションを通じて、「質の高い意思決定」ができるようになる。 5. 他のイベント等に応用可能な一般的な知識を得る。																		
関連科目	すべての科目																		
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	普段のグループワークへの参加状況・貢献度（50%）、フィールドワーク当日の参加状況・貢献度（30%）、発表会における評価（20%）を総合して判断する。																		
学生へのメッセージ	みなさまが一からイベントを創り上げていくプロジェクトです。イベントの成功はみなさまにかかっています。主体的に取り組んでくださることを望みます。																		
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 1 号館 7 階（朝田）																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	朝田 康禎・古矢 篤史
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：B△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

	プロジェクト名：キッズイベントイベントを創ろう！																											
授業概要・目的	【概要】 寝屋川市の地域交流センターであるアルカスホールの自主事業を企画から実施まで担当する。2024年度は小学生を対象としたイベントを企画し、協力組織スタッフのご指導のもと企画から出演者との交渉・経理・準備・実施・事後処理までを行う。 【目的】 アルカスホールでは、毎年自主事業としてさまざまなイベントを企画・運営している。学生の発想・感覚を活かしたものにしたいとのことから、企画段階から学生の参画が求められている。指定管理者が行う自主事業運営に興味をもつ学生と現場スタッフが協働で事業を企画し、運営を行うことにより、企業がもつノウハウを学生が学ぶとともに、学生などの若い世代が参加できる自主事業を実現する。																											
到達目標	【PBLプロジェクト到達目標（共通）】 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 上記に加えて、本プロジェクトでは以下のことも到達目標とする。 １．市民のニーズを把握した上で自由な発想に基づき、新しい音楽イベントを企画・運営する。 ２．十分な準備を行った上でイベントを成功に導く。 ３．イベント後の処理を適切に行う。																											
授業方法と留意点	連携先や学生同士など、人と関わりながら学ぶことが中心となる。積極的に関わることが求められる。																											
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業計画】 <table><tr><td>4月</td><td>ご挨拶</td></tr><tr><td>5月</td><td>企画会議</td></tr><tr><td>6月</td><td>自主事業内容の決定および出演交渉</td></tr><tr><td>7月</td><td>中間報告会</td></tr><tr><td></td><td>寝屋川市に報告、寝屋川市広報に記事掲載依頼</td></tr><tr><td>8月</td><td>チラシのデザイン作業</td></tr><tr><td>9月</td><td>チラシの印刷・配付およびチケット作成</td></tr><tr><td>10月</td><td>ポスターセッション</td></tr><tr><td></td><td>チケット発売開始</td></tr><tr><td>11月</td><td>打ち合わせ（出演者、舞台スタッフ、学生関係者）</td></tr><tr><td>12月</td><td>最終報告会</td></tr><tr><td></td><td>準備および本番</td></tr></table> この他に「基礎講座」全9回を受講すること これらの活動を通じて、以下のことを身につける。 １．イベントがどのように企画・運営されているのか、体験的に知る。 ２．企画したイベントが実行されるまでのスケジュール管理を身につける。 ３．連携先・出演者との交渉をする中で、社会人として必要なマナーを身につける。 ４．メンバー及び連携先とのディスカッションを通じて、「質の高い意思決定」ができるようになる。 ５．他のイベント等に応用可能な一般的な知識を得る。				4月	ご挨拶	5月	企画会議	6月	自主事業内容の決定および出演交渉	7月	中間報告会		寝屋川市に報告、寝屋川市広報に記事掲載依頼	8月	チラシのデザイン作業	9月	チラシの印刷・配付およびチケット作成	10月	ポスターセッション		チケット発売開始	11月	打ち合わせ（出演者、舞台スタッフ、学生関係者）	12月	最終報告会		準備および本番
4月	ご挨拶																											
5月	企画会議																											
6月	自主事業内容の決定および出演交渉																											
7月	中間報告会																											
	寝屋川市に報告、寝屋川市広報に記事掲載依頼																											
8月	チラシのデザイン作業																											
9月	チラシの印刷・配付およびチケット作成																											
10月	ポスターセッション																											
	チケット発売開始																											
11月	打ち合わせ（出演者、舞台スタッフ、学生関係者）																											
12月	最終報告会																											
	準備および本番																											
関連科目	すべての科目																											
教科書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3											
番号	書籍名	著者名	出版社名																									
1																												
2																												
3																												
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3											
番号	書籍名	著者名	出版社名																									
1																												
2																												
3																												
評価方法（基準）	普段のグループワークへの参加状況・貢献度（50%）、フィールドワーク当日の参加状況・貢献度（30%）、発表会における評価（20%）を総合して判断する。																											
学生へのメッセージ	みなさまが一からイベントを創り上げていくプロジェクトです。イベントの成功はみなさまにかかっています。主体的に取り組んでくださることを望みます。																											
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス1号館7階（朝田）																											
備考																												

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	増田 知也, 工藤 隆則, 長田 武
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ◎, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, J 科 : JT01374a1～JT01378a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	寝屋川市では自治会加入率の低下と自治会の担い手不足に悩んでおり、とりわけ若年層の加入率上昇に向けた対策や、役職者の負担の軽減が必要となっている。本プロジェクトでは、寝屋川市内の自治会において、自治会活動を周知する手段として LINE 公式アカウント等の活用を支援する。 学生が中心となって説明会の企画を立案し、円滑に説明会を運営し、参加して良かったと思ってもらえる説明会にするとともに、LINE 公式アカウントの試験運用を通じて、地域への理解を深めるとともに、関係者との円滑なコミュニケーションを図ることを目指す。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	定期的に会議を開催し、プロジェクトの進捗や課題について確認しながら、プロジェクトの目的達成を目指す。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	4 月 オリエンテーション 5 月 寝屋川市・自治会との打ち合わせ 6～8 月 説明会準備 9 月 説明会実施 10～12 月 LINE 公式アカウントの試験運用 説明会では、参加者との座談会形式で LINE 公式アカウントの活用方法について学んでもらう。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	主体性 25% 協調性 25% 課題発見・解決力 25% プロジェクトへの貢献 25%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館 10 階 増田研究室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	増田 知也, 工藤 隆則, 長田 武
ディプロマポリシー (DP)	V 科：Ⅱ◎, R 科：A◎, A 科：A◎, M 科：A1○, E 科：B△, C 科：Ⅱ◎, L 科：DP2◎, D 科：DP1◎, S 科：DP1◎, J 科：DP1◎, W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1, L 科：LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1, J 科：JT01374a～JT01378a1, W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	寝屋川市では自治会加入率の低下と自治会の担い手不足に悩んでおり、とりわけ若年層の加入率上昇に向けた対策や、役職者の負担の軽減が必要となっている。本プロジェクトでは、寝屋川市内の自治会において、自治会活動を周知する手段として LINE 公式アカウント等の活用を支援する。 学生が中心となって説明会の企画を立案し、円滑に説明会を運営し、参加して良かったと思ってもらえる説明会にするとともに、LINE 公式アカウントの試験運用を通じて、地域への理解を深めるとともに、関係者との円滑なコミュニケーションを図ることを目指す。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	定期的に会議を開催し、プロジェクトの進捗や課題について確認しながら、プロジェクトの目的達成を目指す。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	4 月 オリエンテーション 5 月 寝屋川市・自治会との打ち合わせ 6～8 月 説明会準備 9 月 説明会実施 10～12 月 LINE 公式アカウントの試験運用 説明会では、参加者との座談会形式で LINE 公式アカウントの活用方法について学んでもらう。																		
関連科目																			
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	主体性 25% 協調性 25% 課題発見・解決力 25% プロジェクトへの貢献 25%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館 10 階 増田研究室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	小林 基, 中塚 華奈, 藤原 崇
ディプロマポリシー (DP)	V 科：Ⅱ◎, R 科：A◎, A 科：A◎, M 科：A1○, E 科：B△, C 科：Ⅱ◎, L 科：DP2◎, D 科：DP1◎, S 科：DP1◎, J 科：DP1◎, W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科：R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1, L 科：LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1, J 科：JT01374a～JT01378a1, W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	枚方市東部地域は、大都市圏内の近郊住宅地に隣接しながらも、美しい農地や里山景観を残している。一方、高齢化と人口減少による地域衰退も危惧され、地域を活性化する必要があるという認識が生じている。 このプロジェクトでは、今後の当該地域の社会経済の持続的な発展に資することを目指し、2025 年日本国際博覧会（「大阪・関西万博」）および「ひらかた万博」の時期に合わせて当該地域の魅力を発信するため、以下の二点を目的として設定する。 （１）枚方市東部地域における多様な地域資源を探索し、フィールドワークと実体験を通じてその魅力を自分なりに再発見し、表現する。 （２）当該地域の魅力を国内の他地域の人々および海外からの来訪者に向けて発信するために妥当な方策を提案する。
到達目標	（１）主体的に課題を設定し調査から報告までに至る計画を立て、実行する姿勢・能力を身に付ける。 （２）チームワークに必要な能力（リーダーシップ／フォロワーシップ、スケジューリング／リスケジューリング、メンバーや教員、協力先との調整能力等）を身に付ける。 （３）現地での体験・観察・聞き取りを通じて、自らの言葉で地域の魅力を発見し、表現（報告）することができる。 （４）現地の課題や条件および現地の人々が積み上げてきた成果を踏まえ、具体性・実現可能性のある企画を提案できる。 （５）
授業方法と留意点	本授業は、おおまかに（１）学内での事前準備、（２）フィールドワーク、（３）成果の共有および企画提案、（４）成果発表の準備、（５）成果発表の五つのフェーズによって構成される。前期・後期と一連のサイクルを繰り返すことにより報告・提案内容をブラッシュアップしてゆく。 （１）事前準備 [学内] グループごとにテーマ設定、現地に関する情報（ウェブサイト・文献等）の収集、フィールドワークの計画立案、協力者へのアポ取り等を実施する。教員から情報提供が行われる場合もあるが、基本的に学生主体で
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業テーマごとの実施回数や日程については、進度や現地との交渉などを勘案し、柔軟かつ臨機応変に決定する。 【前期】 （１）オリエンテーション 授業の概要説明や自己紹介・アイスブレイク、グループ分け等を行う。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。 （２）テーマ設定、フィールドワークの準備 グループごとの課題設定とフィールドワークの準備にとりかかる。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。 （３）フィールドワーク（インタビュー、散策、各種活動への参加等） フィールドワークを実施する。事前・事後学習：現地についての情報収集、メンバー間・現地とのスケジュールの共有、成果についてのメモ作成 （４）成果の共有 フィールドワークの成果を共有し、整理しておく。成果を踏まえ、提案についてのアイデアをまとめる。事前・事後学習：成果についてのメモ作成、検討したい提案についてのアイデアを各自考えておく。 （５）発表資料作成 グループごとに提案内容を検討し発表資料を作成する。事前・事後学習：発表のリハーサル （６）中間発表会 グループごとに成果を報告する。事前・事後学習：発表のリハーサル、聴衆からのフィードバックをまとめる。 【夏季休暇期間～後期】 （１）フィールドワークの準備

	グループごとの課題の調整とフィールドワークの準備にとりかかる。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。 (2) フィールドワーク フィールドワークを実施する。事前・事後学習：現地についての情報収集、メンバー間・現地とのスケジュールの共有、成果についてのメモ作成 (3) 提案のブラッシュアップと発表資料作成 成果を踏まえ、提案についてのアイデアを改良する。事前・事後学習：成果についてのメモ作成、提案の改善についてを各自検討しておく。 (4) 学内での発表会 グループごとに成果を報告する。事前・事後学習：発表のリハーサル、聴衆からのフィードバックをまとめる。																		
関連科目																			
教科書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	(1) グループワークへの貢献度 (40%)：フィールドワーク、ディスカッション、成果物の制作から発表に至るプロセスへの積極的な参加。 (2) 成果報告・企画・制作物の完成度 (60%)：テーマ設定と報告・提案内容および方法の妥当性、具体性、実現可能性、調査の精度、表現の工夫・巧みさ、オリジナリティ。																		
学生への メッセージ	本授業は履修生が主体となり、自らプロジェクトを動かす気持ちで積極的に参加・貢献することに期待している。教員はサポートに徹し、履修生の希望にできる限り答えたいと考えている。																		
担当者の 研究室等	・寝屋川キャンパス：7号館5階 小林研究室 ・枚方キャンパス：8号館3階 中塚研究室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	小林 基, 中塚 華奈, 藤原 崇
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎, R 科：A◎, A 科：A◎, M 科：A1○, E 科：B△, C 科：Ⅱ◎, L 科：DP2◎, D 科：DP1◎, S 科：DP1◎, J 科：DP1◎, W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科：R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1, L 科：LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1, J 科：JT01374a～JT01378a1, W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	枚方市東部地域は、大都市圏内の近郊住宅地に隣接しながらも、美しい農地や里山景観を残している。一方、高齢化と人口減少による地域衰退も危惧され、地域を活性化する必要があるという認識が生じている。 このプロジェクトでは、今後の当該地域の社会経済の持続的な発展に資することを目指し、2025 年日本国際博覧会（「大阪・関西万博」）および「ひらかた万博」の時期に合わせて当該地域の魅力を発信するため、以下の二点を目的として設定する。 （１）枚方市東部地域における多様な地域資源を探索し、フィールドワークと実体験を通じてその魅力を自分なりに再発見し、表現する。 （２）当該地域の魅力を国内の他地域の人々および海外からの来訪者に向けて発信するために妥当な方策を提案する。
到達目標	（１）主体的に課題を設定し調査から報告までに至る計画を立て、実行する姿勢・能力を身に付ける。 （２）チームワークに必要な能力（リーダーシップ／フォロワーシップ、スケジューリング／リスケジューリング、メンバーや教員、協力先との調整能力等）を身に付ける。 （３）現地での体験・観察・聞き取りを通じて、自らの言葉で地域の魅力を発見し、表現（報告）することができる。 （４）現地の課題や条件および現地の人々が積み上げてきた成果を踏まえ、具体性・実現可能性のある企画を提案できる。 （５）
授業方法と留意点	本授業は、おおまかに（１）学内での事前準備、（２）フィールドワーク、（３）成果の共有および企画提案、（４）成果発表の準備、（５）成果発表の五つのフェーズによって構成される。前期・後期と一連のサイクルを繰り返すことにより報告・提案内容をブラッシュアップしてゆく。 （１）事前準備 [学内] グループごとにテーマ設定、現地に関する情報（ウェブサイト・文献等）の収集、フィールドワークの計画立案、協力者へのアポ取り等を実施する。教員から情報提供が行われる場合もあるが、基本的に学生主体で
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業テーマごとの実施回数や日程については、進度や現地との交渉などを勘案し、柔軟かつ臨機応変に決定する。 【前期】 （１）オリエンテーション 授業の概要説明や自己紹介・アイスブレイク、グループ分け等を行う。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。 （２）テーマ設定、フィールドワークの準備 グループごとの課題設定とフィールドワークの準備にとりかかる。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。 （３）フィールドワーク（インタビュー、散策、各種活動への参加等） フィールドワークを実施する。事前・事後学習：現地についての情報収集、メンバー間・現地とのスケジュールの共有、成果についてのメモ作成 （４）成果の共有 フィールドワークの成果を共有し、整理しておく。成果を踏まえ、提案についてのアイデアをまとめる。事前・事後学習：成果についてのメモ作成、検討したい提案についてのアイデアを各自考えておく。 （５）発表資料作成 グループごとに提案内容を検討し発表資料を作成する。事前・事後学習：発表のリハーサル （６）中間発表会 グループごとに成果を報告する。事前・事後学習：発表のリハーサル、聴衆からのフィードバックをまとめる。 【夏季休暇期間～後期】 （１）フィールドワークの準備

	グループごとの課題の調整とフィールドワークの準備にとりかかる。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。 (2) フィールドワーク フィールドワークを実施する。事前・事後学習：現地についての情報収集、メンバー間・現地とのスケジュールの共有、成果についてのメモ作成 (3) 提案のブラッシュアップと発表資料作成 成果を踏まえ、提案についてのアイデアを改良する。事前・事後学習：成果についてのメモ作成、提案の改善についてを各自検討しておく。 (4) 学内での発表会 グループごとに成果を報告する。事前・事後学習：発表のリハーサル、聴衆からのフィードバックをまとめる。																		
関連科目																			
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	(1) グループワークへの貢献度 (40%)：フィールドワーク、ディスカッション、成果物の制作から発表に至るプロセスへの積極的な参加。 (2) 成果報告・企画・制作物の完成度 (60%)：テーマ設定と報告・提案内容および方法の妥当性、具体性、実現可能性、調査の精度、表現の工夫・巧みさ、オリジナリティ。																		
学生への メッセージ	本授業は履修生が主体となり、自らプロジェクトを動かす気持ちで積極的に参加・貢献することに期待している。教員はサポートに徹し、履修生の希望にできる限り答えたいと考えている。																		
担当者の 研究室等	・寝屋川キャンパス：7号館5階 小林研究室 ・枚方キャンパス：8号館3階 中塚研究室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)	V 科：Ⅱ◎, R 科：A◎, A 科：A◎, M 科：A1○, E 科：B△, C 科：Ⅱ◎, L 科：DP2◎, D 科：DP1◎, S 科：DP1◎, J 科：DP1◎, W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1, L 科：LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1, J 科：JT01374a～JT01378a1, W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	「門真市子ども LOBBY」は、子どもたちの日常に寄り添う居場所になることを目的とする施設である。本プロジェクトは、施設を利用する子どもたち及び不登校児童に対して、大学生は何かできるのかについて考え、支援の実践を行うプロジェクトである。 活動内容は参加できる曜日・時間帯に子どもたちと一緒に遊び、学習を行うための居場所を作ること、イベントの準備やお手伝いを行うことである。 門真市子ども LOBBY を利用する子どもには、彼ら彼女らの日常に寄り添い一緒に遊ぶ、考える、学ぶことをしてくれる大人・大学生が必要であり、大学生の皆さんには活動を通して、子どもたちにとって「お手本＝ロールモデル」となることが期待される。																		
到達目標	■PBL プロジェクト到達目標(共通) 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけると共に、新しい価値の想像を目指す。 ■「子どもの居場所で大学生ができることを考える」プロジェクトの到達目標 ・貧困問題への理解等、社会状況の理解できる ・メンバーおよび子どもたちと相互受容できる関係を築く ・子どもたちの非認知能力の向上に務める ・子どもたちに喜んでもらえ																		
授業方法と留意点	現地での活動を必ず内省すること。 能動的に参加すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	4 月：連携先さまとの顔合わせ 5 月：門真市の子どもたちの現状および子ども政策について学ぶ(仮)、活動にあたっての諸研修 6 月・7 月：子ども lobby での子ども支援活動 7 月：中間報告（PBL 基礎講座内でここまでの活動を振り返る） 8 月・9 月：子ども lobby での子ども支援活動 10 月：子ども lobby でのハロウィンイベントの企画立案と実施(仮) 11 月：子ども lobby での子ども支援活動 12 月：クリスマスイベントの企画立案と実施(仮)、最終報告会																		
関連科目	地域貢献実践演習など副専攻科目。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	日々の活動 40%, アセスメントの受検 10%, 中間報告 20%, 最終報告 30%																		
学生へのメッセージ	地域に貢献できるようにメンバー全員で知恵を絞って進めていきましょう。																		
担当者の研究室等	水野講師室（寝屋川キャンパス 7 号館 3 階）																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎, R科：A◎, A科：A◎, M科：A1○, E科：B△, C科：Ⅱ◎, L科：DP2◎, D科：DP1◎, S科：DP1◎, J科：DP1◎, W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1, L科：LT01366a1～LT01370a1, D科・S科：IT01371a1～IT01375a1, J科：JT01374a～JT01378a1, W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	「門真市子ども LOBBY」は、子どもたちの日常に寄り添う居場所になることを目的とする施設である。本プロジェクトは、施設を利用する子どもたち及び不登校児童に対して、大学生は何かできるのかについて考え、支援の実践を行うプロジェクトである。 活動内容は参加できる曜日・時間帯に子どもたちと一緒に遊び、学習を行うための居場所を作ること、イベントの準備やお手伝いを行うことである。 門真市子ども LOBBY を利用する子どもには、彼ら彼女らの日常に寄り添い一緒に遊ぶ、考える、学ぶことをしてくれる大人・大学生が必要であり、大学生の皆さんには活動を通して、子どもたちにとって「お手本＝ロールモデル」となることが期待される。																		
到達目標	■PBL プロジェクト到達目標(共通) 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけると共に、新しい価値の想像を目指す。 ■「子どもの居場所で大学生ができることを考える」プロジェクトの到達目標 ・貧困問題への理解等、社会状況の理解できる ・メンバーおよび子どもたちと相互受容できる関係を築く ・子どもたちの非認知能力の向上に務める ・子どもたちに喜んでもらえ																		
授業方法と留意点	現地での活動を必ず内省すること。 能動的に参加すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	4月：連携先さまとの顔合わせ 5月：門真市の子どもたちの現状および子ども政策について学ぶ(仮)、活動にあたっての諸研修 6月・7月：子ども lobby での子ども支援活動 7月：中間報告（PBL 基礎講座内でここまでの活動を振り返る） 8月・9月：子ども lobby での子ども支援活動 10月：子ども lobby でのハロウィンイベントの企画立案と実施(仮) 11月：子ども lobby での子ども支援活動 12月：クリスマスイベントの企画立案と実施(仮)、最終報告会																		
関連科目	地域貢献実践演習など副専攻科目。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	日々の活動 40%, アセスメントの受検 10%, 中間報告 20%, 最終報告 30%																		
学生へのメッセージ	地域に貢献できるようにメンバー全員で知恵を絞って進めていきましょう。																		
担当者の研究室等	水野講師室（寝屋川キャンパス7号館3階）																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田中 樹
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎, R 科：A◎, A 科：A◎, M 科：A1○, E 科：B△, C 科：Ⅱ◎, L 科：DP2◎, D 科：DP1◎, S 科：DP1◎, J 科：DP1◎, W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1, L 科：LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1, J 科：JT01374a1～JT01378a1, W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	「甲津原援農活動プロジェクト」 滋賀県米原市北部の姉川上流域に位置する甲津原地区を活動地域として、援農活動を通じて過疎・高齢化が進む地域社会の実態、直面する問題、土地管理の技法、地域資源（山の恵み）の豊かさ、人びととのコミュニケーションを学ぶ。地域貢献の余地や関わりのあり方を考える前段階としての現場感覚や感性を磨く。 甲津原での学外活動（援農活動）は、4 回（各回 1 泊 2 日）を予定。 目的は以下の通り： （1）過疎・高齢化が進む山間地域の実態を知る （2）潜在的な地域資源や在来知を発掘し利活用する取り組みを発想する （3）地域社会の人びとの暮らしの活性化とどれと連動する教育活動の実践事例を提案する																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	この授業は座学（基礎講座）とフィールドワーク（学外活動）、成果発信（討論、成果品の作成、発表）から構成される。フィールドワーク（学外活動）は、土曜日と日曜日の 1 泊 2 日で行われる。地域社会の人びとと協働する機会が多いため、礼節と敬意のある身だしなみや振る舞いが求められる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1 基礎講座①：オリエンテーション／事前学習：シラバスの理解 2 基礎講座②：「執事のダンドリ手帳」から段取りの基本を学ぶ／事後学習：リアクションペーパーの作成 3 基礎講座③：情報発信力を磨く／事後学習：リアクションペーパーの作成 4～8 学外活動①：甲津原地区での援農活動（田植え、獣害対策用電気柵の設置、つけもの加工部での手伝い／1 泊 2 日） 9 基礎講座④：会議を回せ！ーファシリテーションについて考える①ー／事後学習：リアクションペーパーの作成 10 基礎講座⑤：会議を回せ！ーファシリテーションについて考える②ー／事後学習：リアクションペーパーの作成 11～14 学外活動②：甲津原地区での援農活動（梅の実の収穫、梅干しの漬け込み／1 泊 2 日） 15 基礎講座⑥：活動内容をシェアしよう！／事後学習：リアクションペーパーの作成 16～19 学外活動③：甲津原地区での援農活動（獣害対策用電気柵の設置、山菜採り／1 泊 2 日） 20 基礎講座⑦：オーディエンスを惹きつけろ！ーポスターセッションの教室ー／事後学習：リアクションペーパーの作成 21～22 中間発表会の準備、中間発表 23～26 学外活動④：甲津原地区での援農活動（獣害対策用電気柵の撤収り／1 泊 2 日） 27 基礎講座⑨：プレゼンの教室／事後学習：リアクションペーパーの作成 28～30 最終報告会（PBL 科目報告会での発表）／事後学習：最終報告書の作成																		
関連科目																			
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業ごとのリアクションペーパー（70％）と活動報告書（30％）で評価し、60％以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ	この科目は、教育・研究（野外調査）・社会实践のすべての要素を含む包括的な取り組みです。既存の知識を教わるという受け身な姿勢ではなく、地域社会の自然環境や生業、人びとからさまざまなことを能動的に学び取ってください。若い感性に裏打ちされる柔らかな発想とそこから派生する地域活性化への具体案を形作ることを期待します。																		
担当者の研究室等	枚方キャンパス 8 号館（農学部棟）・環境農学研究室（213 号室）																		
備考	フィールドワークでは、野外活動に適した服装（長靴、軍手、長袖シャツ、帽子など）を準備すること。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田中 樹
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎, R 科：A◎, A 科：A◎, M 科：A1○, E 科：B△, C 科：Ⅱ◎, L 科：DP2◎, D 科：DP1◎, S 科：DP1◎, J 科：DP1◎, W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1, L 科：LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1, J 科：JT01374a1～JT01378a1, W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	「甲津原援農活動プロジェクト」 滋賀県米原市北部の姉川上流域に位置する甲津原地区を活動地域として、援農活動を通じて過疎・高齢化が進む地域社会の実態、直面する問題、土地管理の技法、地域資源（山の恵み）の豊かさ、人びととのコミュニケーションを学ぶ。地域貢献の余地や関わりのあり方を考える前段階としての現場感覚や感性を磨く。 甲津原での学外活動（援農活動）は、4 回（各回 1 泊 2 日）を予定。 目的は以下の通り： (1) 過疎・高齢化が進む山間地域の実態を知る (2) 潜在的な地域資源や在来知を発掘し利活用する取り組みを発想する (3) 地域社会の人びとの暮らしの活性化とどれと連動する教育活動の実践事例を提案する																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	この授業は座学（基礎講座）とフィールドワーク（学外活動）、成果発信（討論、成果品の作成、発表）から構成される。フィールドワーク（学外活動）は、土曜日と日曜日の 1 泊 2 日で行われる。地域社会の人びとと協働する機会が多いため、礼節と敬意のある身だしなみや振る舞いが求められる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1 基礎講座①：オリエンテーション／事前学習：シラバスの理解 2 基礎講座②：「執事のダンドリ手帳」から段取りの基本を学ぶ／事後学習：リアクションペーパーの作成 3 基礎講座③：情報発信力を磨く／事後学習：リアクションペーパーの作成 4～8 学外活動①：甲津原地区での援農活動（田植え、獣害対策用電気柵の設置、つけもの加工部での手伝い／1 泊 2 日） 9 基礎講座④：会議を回せ！ーファシリテーションについて考える①ー／事後学習：リアクションペーパーの作成 10 基礎講座⑤：会議を回せ！ーファシリテーションについて考える②ー／事後学習：リアクションペーパーの作成 11～14 学外活動②：甲津原地区での援農活動（梅の実の収穫、梅干しの漬け込み／1 泊 2 日） 15 基礎講座⑥：活動内容をシェアしよう！／事後学習：リアクションペーパーの作成 16～19 学外活動③：甲津原地区での援農活動（獣害対策用電気柵の設置、山菜採り／1 泊 2 日） 20 基礎講座⑦：オーディエンスを惹きつけろ！ーポスターセッションの教室ー／事後学習：リアクションペーパーの作成 21～22 中間発表会の準備、中間発表 23～26 学外活動④：甲津原地区での援農活動（獣害対策用電気柵の撤収／1 泊 2 日） 27 基礎講座⑧：プレゼンの教室／事後学習：リアクションペーパーの作成 28～30 最終報告会（PBL 科目報告会での発表）／事後学習：最終報告書の作成																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業ごとのリアクションペーパー（70%）と活動報告書（30%）で評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ	この科目は、教育・研究（野外調査）・社会实践のすべての要素を含む包括的な取り組みです。既存の知識を教わるという受け身な姿勢ではなく、地域社会の自然環境や生業、人びとからさまざまなことを能動的に学び取ってください。若い感性に裏打ちされる柔らかな発想とそこから派生する地域活性化への具体案を形作ることを期待します。																		
担当者の研究室等	枚方キャンパス 8 号館（農学部棟）・環境農学研究室（213 号室）																		
備考	フィールドワークでは、野外活動に適した服装（長靴、軍手、長袖シャツ、帽子など）を準備すること。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	大谷 侑也, 小林 基
ディプロマポリシー (DP)	V 科：Ⅱ◎, R 科：A◎, A 科：A◎, M 科：A1○, E 科：B△, C 科：Ⅱ◎, L 科：DP2◎, D 科：DP1◎, S 科：DP1◎, W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1, L 科：LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1, J 科：JT01374a～1JT01378a1, W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	本 PBL プロジェクトの舞台は沖縄県の伊良部島である。伊良部島は宮古島（本島）の北西に約 4km ほど離れた場所に位置し、いわば孤立した島であった。そのため橋が架かる（架橋化）以前の島民はフェリーで買い物や学校に行く必要があり、出産や急病の際にはヘリコプターで本島の病院に搬送されることもあった。その後、2015 年に本島と伊良部島とを結ぶ「伊良部大橋」が完成し、車やバスで本島での買い出しや通院が可能となり島民の生活は大きく改善されたと言える。 一方、島民の話の中では、橋の完成により観光客や犯罪が増加し、また島民間でのふれあいの場が喪失している、といった負の側面の声も聞かれている。したがって架橋化により島民の生活インフラへのアクセスは改善されたが、種々の問題が顕在化しており、それらの解決が喫緊の課題となっている。今回の PBL プロジェクトでは島民と対面・オンラインでコミュニケーションをとり、架橋化により地域で表面化している課題を把握した上でその課題解決策を考案する。そして実際に伊良部島でフィールドワークを行い、解決策を地域に実装し、島の課題解決の一端を担えるプロジェクトを目指す。																		
到達目標	本 PBL プロジェクトでの到達目標は以下の通りである。 ① 地域の人々とコミュニケーションを取り、何が課題となっているかを把握できる。 ② 地域の施策の良い面と悪い面を理解し、物事をさまざまな角度から評価できる。 ③ 地域のニーズを踏まえた上で、適切な課題解決策を提示できる。 ④ 「島」の文化や環境を理解し、それらを自らの言葉で他者に伝えることができる。 ⑤ 普段とは異なる環境に住む人々を理解し、地域に溶け込むことができる。 以上を到達目標とし、学内での活動や実際の現場でのフィールドワークを																		
授業方法と留意点	学生間や教員と議論をしながら地域の課題解決策を考案していく。オンラインで現地の島民とコミュニケーションをとる。 また夏季には実際に現地でフィールドワークを行い、考案したアイデアを現地に実装する予定である。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本 PBL では「島」が持つ地域課題を学びながら、その解決策を学生・教員・島民との議論の中で提案していく。 そのため普通の授業とは違い学生には積極的な議論への参加が求められる。また授業では実際に沖縄県伊良部島でフィールドワークを行うが、島民と共にアイデア出し・作業を行うためその場においても積極的な参加姿勢が求められる。 本 PBL プロジェクトの大きな行程は以下の通りである。 4 月 キックオフミーティング、自己紹介、伊良部島の基礎知識習得。 5 月 連携先とのオンラインミーティングによる地域の現状の課題把握、ディスカッション（学生・教員は対面）。 6 月 課題解決策の考案、アイデア出し 7 月 中間報告会 アイディアの具体化、作業 8 月 アイディアの具体化、作業 9 月 伊良部島でのフィールドワーク 10 月 フィールドワークの詳細と成果のまとめ作業 11 月 活動の自己評価、良かった点と悪かった点の洗い出し、最終報告回準備 12 月 最終報告回準備・プレゼン練習 1 月 連携先とのオンラインによる成果報告会（学生・教員は対面） 2 月 まとめ作業（報告書の作成） 3 月 まとめ作業（報告書の作成）、解散ミーティング																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	プロジェクトへの参加姿勢（70%）、プロジェクトの成果物（30%）																		
学生へのメッセージ	繰り返しになりますがPBLプロジェクトは通常の授業とは異なり、学生・教員・地域の人々と対話をしながら進めていくものになります。履修者・教員はひとつの「チーム」となって活動していきます。とはいえ単なる「作業」や「仕事」ではありませんので、楽しみながら地域の課題解決を目指していこうと思います。夏の伊良部島フィールドワークをめざして頑張ってください！																		
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス7号館5階（大谷研究室）																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	大谷 侑也, 小林 基
ディプロマポリシー (DP)	V 科：Ⅱ◎, R 科：A◎, A 科：A◎, M 科：A1○, E 科：B△, C 科：Ⅱ◎, L 科：DP2◎, D 科：DP1◎, S 科：DP1◎, W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1, L 科：LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1, J 科：JT01374a～1JT01378a1, W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	本 PBL プロジェクトの舞台は沖縄県の伊良部島である。伊良部島は宮古島（本島）の北西に約 4km ほど離れた場所に位置し、いわば孤立した島であった。そのため橋が架かる（架橋化）以前の島民はフェリーで買い物や学校に行く必要があり、出産や急病の際にはヘリコプターで本島の病院に搬送されることもあった。その後、2015 年に本島と伊良部島とを結ぶ「伊良部大橋」が完成し、車やバスで本島での買い出しや通院が可能となり島民の生活は大きく改善されたと言える。 一方、島民の話の中では、橋の完成により観光客や犯罪が増加し、また島民間でのふれあいの場が喪失している、といった負の側面の声も聞かれている。したがって架橋化により島民の生活インフラへのアクセスは改善されたが、種々の問題が顕在化しており、それらの解決が喫緊の課題となっている。今回の PBL プロジェクトでは島民と対面・オンラインでコミュニケーションをとり、架橋化により地域で表面化している課題を把握した上でその課題解決策を考案する。そして実際に伊良部島でフィールドワークを行い、解決策を地域に実装し、島の課題解決の一端を担えるプロジェクトを目指す。																		
到達目標	本 PBL プロジェクトでの到達目標は以下の通りである。 ① 地域の人々とコミュニケーションを取り、何が課題となっているかを把握できる。 ② 地域の施策の良い面と悪い面を理解し、物事をさまざまな角度から評価できる。 ③ 地域のニーズを踏まえた上で、適切な課題解決策を提示できる。 ④ 「島」の文化や環境を理解し、それらを自らの言葉で他者に伝えることができる。 ⑤ 普段とは異なる環境に住む人々を理解し、地域に溶け込むことができる。 以上を到達目標とし、学内での活動や実際の現場でのフィールドワークを																		
授業方法と留意点	学生間や教員と議論をしながら地域の課題解決策を考案していく。オンラインで現地の島民とコミュニケーションをとる。 また夏季には実際に現地でフィールドワークを行い、考案したアイデアを現地に実装する予定である。																		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	本 PBL では「島」が持つ地域課題を学びながら、その解決策を学生・教員・島民との議論の中で提案していく。 そのため普通の授業とは違い学生には積極的な議論への参加が求められる。また授業では実際に沖縄県伊良部島でフィールドワークを行うが、島民と共にアイデア出し・作業を行うためその場においても積極的な参加姿勢が求められる。 本 PBL プロジェクトの大きな行程は以下の通りである。 4 月 キックオフミーティング、自己紹介、伊良部島の基礎知識習得。 5 月 連携先とのオンラインミーティングによる地域の現状の課題把握、ディスカッション（学生・教員は対面）。 6 月 課題解決策の考案、アイデア出し 7 月 中間報告会 アイディアの具体化、作業 8 月 アイディアの具体化、作業 9 月 伊良部島でのフィールドワーク 10 月 フィールドワークの詳細と成果のまとめ作業 11 月 活動の自己評価、良かった点と悪かった点の洗い出し、最終報告回準備 12 月 最終報告回準備・プレゼン練習 1 月 連携先とのオンラインによる成果報告会（学生・教員は対面） 2 月 まとめ作業（報告書の作成） 3 月 まとめ作業（報告書の作成）、解散ミーティング																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	プロジェクトへの参加姿勢（70%）、プロジェクトの成果物（30%）																		
学生へのメッセージ	繰り返しになりますが PBL プロジェクトは通常の授業とは異なり、学生・教員・地域の人々と対話をしながら進めていくものになります。履修者・教員はひとつの「チーム」となって活動していきます。とはいえ単なる「作業」や「仕事」ではありませんので、楽しみながら地域の課題解決を目指していこうと思います。夏の伊良部島フィールドワークをめざして頑張ってください！																		
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 7 号館 5 階（大谷研究室）																		
備考																			